

∴ 令和5年度地域観光資源の中国語解説整備支援事業 実施地域一覧

地域 番号	カテゴリ	都道府県	地域協議会名	英語解説文 作成年度	英語事例集 対応番号
001	文化財 (8地域)	青森県	縄文遺跡群世界遺産事務局	令和2年度	001
002		長野県	松本市	令和4年度	003
003		福井県	小浜市・若狭町日本遺産活用推進協議会	令和4年度	002
004		石川県	いしかわ工芸・文化財デジタルコンテンツ推進協議会	令和4年度	001
005		愛知県	名古屋鉄道株式会社	令和4年度	005
006		兵庫県	日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」推進協議会	平成30年度	26
007		兵庫県	書寫山圓教寺観光振興協議会	令和2年度	015
008		島根県	石見銀山多言語解説協議会	令和元年度	027

地域番号	001	協議会名	縄文遺跡群世界遺産事務局
------	-----	------	--------------

解説文一覧

NO.	スポット名 (タイトル)	中国語文字数	想定媒体
001-001	三内丸山遺跡 (世界遺産・国特別史跡)	1230	WEB
001-002	大湯環状列石 (世界遺産・国特別史跡)	1075	WEB
001-003	大船遺跡 (世界遺産)	1135	WEB
001-004	垣ノ島遺跡 (世界遺産)	1205	WEB
001-005	キウス周堤墓群 (世界遺産)	995	WEB
001-006	北黄金貝塚 (世界遺産)	1120	WEB
001-007	入江貝塚 (世界遺産)	770	WEB
001-008	高砂貝塚 (世界遺産)	585	WEB
001-009	小牧野遺跡 (世界遺産)	495	WEB
001-010	大森勝山遺跡 (世界遺産)	775	WEB
001-011	是川石器時代遺跡 (世界遺産)	1485	WEB
001-012	田小屋野貝塚 (世界遺産)	810	WEB
001-013	亀ヶ岡石器時代遺跡 (世界遺産)	740	WEB
001-014	大平山元遺跡 (世界遺産)	835	WEB
001-015	二ツ森貝塚 (世界遺産)	575	WEB
001-016	御所野遺跡 (世界遺産)	945	WEB
001-017	伊勢堂岱遺跡 (世界遺産)	995	WEB
001-018	鷺ノ木遺跡	550	WEB
001-019	長七谷地貝塚	550	WEB
001-020	世界遺産 北海道・北東北の縄文遺跡群	425	WEB

【タイトル】 三内丸山遺跡（世界遺産・国特別史跡）

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

三内丸山遗址

世界遗产·国家特别史迹

在位于青森县境内的三内丸山遗址上，保留了大量见证史前人类聚落生活与社会面貌的遗存，其中包括半地穴式房屋、大型建筑残留的地基、含大量陶器的人工土丘“填土”、墓葬区和用于制陶的粘土开采坑。这里是日本迄今发现的最大的绳文时代（公元前 13,000 年-前 400 年）人类聚落遗址之一，也是日本仅有的 4 处绳文时代的国家特别史迹之一。考古调查显示，在公元前 3900 年～前 2200 年的上千年间，这里曾经存在一处大型聚落。

聚落的发展

食物来源与自然环境，是影响绳文时代聚落规模和形态的重要因素。在最后一次冰川时期结束时，出于采集和狩猎的需要，开始出现了季节性的人类聚落点。随着气温升高，食物越来越丰富，聚落也渐渐趋于稳定。公元前 5000 年～前 2000 年期间，聚落规模明显扩大，在公元前 3000 年前后出现了一些如三内丸山这样的大型聚落。但公元前 2000 年～前 400 年，气候转凉，聚落规模重新开始缩小。

大小各异的半地穴式房屋遗存

三内丸山大型聚落的确切人口数量很难估算，但遗址调查显示，当时可能已经达到数百人。到目前为止，遗址内已发现 500 余处半地穴式房屋的地基，其中，有些“住房”长度甚至达到了 32 米。许多半地穴式房屋已修复并对外开放，来访者可入内参观。考古学者认为，较大的建筑有可能是当时的公共区域、工场和冬季的公共起居空间。

墓葬区

现场考察显示，成人和孩童的墓地似乎是分开的。在聚落的几条道路沿线出土了大约 500 座土坑墓，根据尺寸判断，这些应当都是成人墓，婴幼儿和低龄儿童的尸身被安放在甕棺（甕，同“瓮”）中下葬，北侧人工土丘“填土”附近发现了 500 多个这样的陶器。遗址内共有 3 处填土，均出土了大量陶器残片。

贸易和工艺品

从三内丸山遗址的出土文物可以看出，此处聚落很可能与日本其他地区存在贸易往来。遗址出土了玉、琥珀、黑曜石制品，以及用沥青粘合的工具等。本地并没有可用于制作这

类器具的原材料，它们的产地可能远至 500 公里以外。除了玉珠、琥珀饰品、黑曜石石镞以外，还发现了半成品和未经加工的原材料，由此可以推测，这个时期本地已出现了掌握原材料加工技艺的工匠。

三内丸山遗址中心

三内丸山遗址中心主要由绳文时游馆和三内丸山遗址两大部分组成，只需购买绳文时游馆的门票，即可参观馆内常设展和遗址。绳文时游馆既是遗址的入口，也是一座通过展示出土文物介绍本地史前聚落生活的博物馆。馆内设施齐全、展品丰富多彩，比如：一面高约 6 米、镶嵌着 5120 件陶器残片的“绳文大墙”；多个以绳文为主题（比如被称为“土偶”的陶偶）的体验工房；可以看到考古学家修复陶器的展厅。此外还有一个纪念品商店和一间餐厅。全馆及馆内设施均提供英文资讯，部分设施提供中文信息。

相关遗址

“世界遗产·日本北部绳文遗迹群”之中有好几处都位于青森县境内。其中，小牧野遗址【链接】位于青森市，距三内丸山遗址仅数公里之遥；是川石器时代遗址【链接】位于八户，遗址内有一座博物馆，主要展出绳文时代末期的精巧陶器和漆器。

<繁体字>

三内丸山遗址

世界遺產·國家特別史跡

青森縣境內的三內丸山遺址，是日本迄今發現的最大的繩文時代（西元前 13,000 年-前 400 年）人類聚落遺址之一，也是日本僅有的 4 處繩文時代的國家指定特別史跡之一。該遺址保留了大量見證史前人類聚落生活與社會面貌的遺存，包括豎穴式房屋、大型建築殘留的地基、含有大量陶器的人工土丘「填土」、墓葬區，以及用於製陶的黏土開採坑。考古調查顯示，在西元前 3900 年～前 2200 年的上千年間，這裡曾經存在一處大型聚落。

聚落的發展

食物來源與自然環境，是影響繩文時代聚落規模和形態的重要因素。在最後一次冰河時期結束時，由於採集和狩獵的需要，開始出現了季節性的人類聚落點。隨著氣溫升高，食物越來越豐富，聚落也漸漸趨於穩定。西元前 5000 年～前 2000 年期間，聚落規模明顯擴大，在西元前 3000 年前後出現了如三內丸山這樣的大型聚落。直至西元前 2000 年～前 400 年，由於氣候轉涼，聚落規模重新開始縮小。

大小各異的豎穴房屋遺存

學界對於三內丸山大型聚落的確切人口數量尚無共識。遺址調查顯示，當時居住人口可能已經達到數百人。到目前為止，遺址內已發現 500 餘處豎穴房屋的地基，其中有的

「住房」長度甚至達到了32公尺。考古學者認為，這類大型建築可能是當時的公共區域、作坊或冬季的公共起居空間。如今許多豎穴房屋已修復並對外開放，遊客可入內一探究竟。

墓葬區

三內丸山遺址的考古證據顯示，當時成人和孩童是分別埋葬在不同的墓地的。如在聚落的數條道路沿線出土了大約 500 座土坑墓，根據尺寸判斷，這些應當都是成人墓。而嬰幼兒和稚齡兒童的屍身則被安放在甕棺中，埋葬在人工土丘「填土」內。據考古發現，在北側填土附近發現了 500 多個這樣的甕棺。遺址內共有 3 處填土，均出土了大量陶器殘片。

貿易和工藝品

從三內丸山遺址中，發現了包含玉、琥珀、黑曜石製品，以及用瀝青粘合的工具等在內的文物，其原材料產地可能遠至 500 公里之外，由此表明，該聚落很可能與日本其他地區存在貿易往來。此外，除了玉珠、琥珀飾品、黑曜石石鏃等成品外，還發現了半成品和未經加工的原材料，可以推測，這個時期當地已出現了掌握原材料加工技藝的工匠。

三內丸山遺址中心

三內丸山遺址中心主要由繩文時遊館和三內丸山遺址兩大部分組成，只需購買繩文時遊館的門票，即可參觀館內常設展和遺址。繩文時遊館既是遺址的入口，也是一座展示當地史前聚落生活的博物館。館內設施齊全、展品豐富多彩，例如一面高約 6 公尺、鑲嵌著 5120 件陶器殘片的「繩文大牆」；多個以繩文為主題（例如被稱為「土偶」的陶偶）的體驗作坊；可以看到考古學家修復陶器的展廳；一個紀念品商店和一間餐廳。全館及館內設施均提供英文資訊，部分設施提供中文資訊。

相關遺址

除了三內丸山遺址之外，「世界遺產·日本北部繩文遺跡群」尚有數處都位於青森縣境內。其中，小牧野遺址【連結】位於青森市，距三內丸山遺址僅數公里之遙；是川石器時代遺址【連結】位於八戶，遺址內有一座博物館，主要展出繩文時代末期的精巧陶器和漆器。

<日本語仮訳>

三内丸山遺跡

世界遺産・国特別史跡

青森の三内丸山遺跡の豎穴建物や大型建造物の土台、大量の土器を含んだ盛り土、墓域、陶器を作るための粘土採掘坑の跡は、先史時代の生活と社会の様子を物語っています。三内丸山遺跡は、今日までに発見されている縄文時代（紀元前 13,000 年～紀元前 400 年）の居住跡の中でも最大のものひとつであり、また、僅か 4 例しかない縄文時代の国の特別史跡の一つでもあります。考古学的調査から、紀元前 3900 から 2200 年の 1,000 年以上の間に、ここには大きな集落

が存在していたことが明らかになっています。

集落の発展

縄文時代を通して、集落の規模と形態は、食料源や環境的要因によって変化してきました。集落は、最後の氷期の終わりに採食や狩猟のための季節的な拠点として始まりました。気温が上がり食料が豊富になるにつれ、集落は定着していきました。集落の規模は、紀元前 5000 年から紀元前 2000 年の間にかなり大きくなり、紀元前 3000 年頃には三内丸山遺跡のような大きな集落ができました。紀元前 2000 年から紀元前 400 年にかけて、気候は冷涼になり、集落の規模は小さくなっていきました。

大小の竪穴建物跡

三内丸山の集落にどのくらいの人が住んでいたのかは判断が難しいところですが、遺跡の調査から、数百人規模に達していた可能性があるとされています。これまでに 500 を超える竪穴建物の基礎が見つかっており、その中には長さ 32m に及ぶ「住居」の基礎もありました。これらの竪穴建物の多くが復元され、中に入って見学できるようになっています。考古学者たちは、大型の建物は集会所、作業場、冬季の共同居住場所として機能していたのではと考えています。

墓域

調査によれば、大人の墓地と子どもの墓地は分けられていたようです。集落内を通るいくつかの道に沿って、500 ほどの土坑墓が見つかっています。土坑墓の大きさから、これらは大人の墓だったと考えられます。乳幼児は、甕棺に入れて埋葬されていました。北側の盛土の近くでは、500 を超える甕棺が埋められているのが見つかっています。この盛土は、大量の土器片が埋まっていた 3 つある人工の盛土の 1 つである。

交易と工芸品

三内丸山遺跡で出土した品々は、日本の他の地域と交易があったことを示しています。これらの出土品には、ヒスイ、琥珀および黒曜石でできたものやアスファルトで接着された道具などがあります。これらの品々を作るための材料は、この地域では手に入らず、500km ほど離れた地域から調達されたと考えられます。ヒスイ玉、琥珀の装飾品、黒曜石でできた槍の穂先、さらに未加工の材料や未完成品が出土しています。こういった発見から、材料を加工する技能を持った職人がいたことが分かります。

三内丸山遺跡センター

三内丸山遺跡センターは大きく縄文時遊館と三内丸山遺跡の二つのエリアに分けられています。縄文時遊館への入場券を購入すると、常設展と遺跡を観光することができます。縄文時遊館は三内丸山遺跡への入口であり、出土品を通して、この集落での暮らしを紹介する博物館になっています。ここには、5,120 個の土器片が埋め込まれた高さ 6m の「縄文ビッグウォール」、土偶づくりをはじめとする縄文をテーマにしたワークショップ、考古学者たちが土器の復元を行う様子を見られるギャラリーがあります。敷地内には、ギフトショップとカフェテリアもあります。縄文時遊館や併設の施設では、英語と一部

中国語による情報も提供されています。

関連遺跡

「世界遺産 北海道・北東北の縄文遺跡群」のいくつかは青森県内にあります。小牧野遺跡 [リンク] は青森市にあり、三内丸山遺跡から数 km しか離れていません。八戸の是川石器時代遺跡 [リンク] には博物館があり、縄文時代末期の精巧な土器や漆器を展示しています。

【タイトル】大湯環状列石（世界遺産・国特別史跡）

【想定媒体】WEB

<簡体字>

大汤环状列石

世界遗产·国家特别史迹

大汤环状列石位于秋田县鹿角市，包括“万座环状列石”和“野中堂环状列石”两个大型石阵，共由 8000 多块石头组成。遗址的历史可以上溯至公元前 2000 年前后，从石块的排列方式可以看出，当时人们对于太阳运动已经有了一定了解。不难推测，打造这样的石阵需要精心规划并付出巨大的努力。遗址内的博物馆提供有关环状列石的详细介绍，并展出遗址出土的陶器、祭祀用品和其他文物。大汤环状列石遗址是日本仅有的 4 处绳文时代（公元前 13,000 年-前 400 年）的国家指定特别史迹之一。

环状列石的特征

这两个环状列石的石阵都呈内外两圈同心圆状，每个圆圈均由许多小石块组成的石组构成。两个石阵中心皆有一些石头呈放射状排列在一块立石周围，形似日晷。每到夏至，连接两块立石的中心线刚好与日落的方位一致。考古学家在调查中发现了列石下方的土坑墓，由此推测这里的每个石组都代表了一处坟墓。

万座环状列石

万座环状列石直径约 52 米，是两组环状列石中较大的一处，由大约 6500 块石头组成，现已辨明的石组超过 100 个。

野中堂环状列石

野中堂环状列石直径约 44 米，由近 2000 块石头组成，石组超过 60 个，距万座环状列石仅 100 米左右。

考古发现

两处环状列石的外圈附近均发现了四柱或六柱的立柱式建筑的地基，同时还出土了可能用于祭祀的礼器。鉴于地基的特征和附近出土的大量祭祀用品，考古学家相信，这些立柱式建筑并非住宅，而是专门用来祭祀的场所。通过万座环状列石周围的几处建筑物，来访者可以想象 4000 年前环状列石的模样。

环状列石的建造

据考古学家推测，这些环状列石历经了 200 年以上才最终建成。其中最重的石块超过 200 公斤，很可能是人们借助简陋的工具，从远至 4 公里外的河边运来的。

绿色石块

大汤环状列石遗址里的许多石块都带有绿色光泽，它们来自遗址以东数公里开外的诸助山。据推测，这些特殊的石块应该是顺着诸助山山麓旁的安久谷川而下，流入了最靠近考古遗址的大汤川。目前尚不清楚为何这种石块在环状列石的建造中格外受到青睐，但它们似乎具有某种特别的意义。

大汤环状列石馆

大汤环状列石馆内主要展出在此处遗址出土的数百件陶器、土偶（陶偶）、土版和石器。其中，陶器有用于收纳死者尸身的大型甕棺（甕，同“瓮”），也有装饰精美的碗、壶等器物。石器大多为小件器物，比如剑、碗及扁平的三角形土版等。所有出土文物均带有装饰，可能是祭祀用品。

相关遗址

日本北部其他拥有环状列石的大型史前遗址还有伊势堂岱遗址【[链接](#)】（秋田县）、鹫之木遗址【[链接](#)】（北海道）、小牧野遗址【[链接](#)】（青森县）、大森胜山遗址【[链接](#)】（青森县）。

<繁体字>

大湯環狀列石

世界遺產·國家特別史跡

大湯環狀列石位於秋田縣鹿角市，是日本僅有的 4 處繩文時代（西元前 13,000 年-前 400 年）的國家指定特別史跡之一，包括「萬座環狀列石」和「野中堂環狀列石」兩個大型石陣，共由 8000 多塊石頭組成。遺址的歷史可以上溯至西元前 2000 年前後，從石塊的排列方式可以看出，當時人們對於太陽移動軌跡已經有了一定的瞭解。不難推測，打造這樣的石陣需要精心規劃並耗費巨大的人力成本。遺址內的博物館提供環狀列石的詳細介紹，並展出遺址出土的陶器、祭祀用品和其他文物。

環狀列石的特徵

這兩個環狀列石的石陣都呈內外兩圈同心圓狀，每個圈均由許多小石塊組成的石組構成。兩個石陣中心皆有一些石頭呈放射狀排列在一塊立石周圍，形似日晷。每到夏至，連接兩塊立石的中心線剛好與日落的方位一致。考古學家在調查中發現了列石下的土坑墓，推測這裡的每個石組都代表了一處墳墓。

萬座環狀列石

萬座環狀列石直徑約 52 公尺，是兩組環狀列石中較大的一處，由大約 6500 塊石頭組成，現已辨明的石組超過 100 個。

野中堂環狀列石

野中堂環狀列石直徑約 44 公尺，由近 2000 塊石頭組成，石組超過 60 個，距萬座環狀列石僅 100 公尺左右。

考古發現

兩處環狀列石的外圈附近均發現了四柱或六柱的立柱式建築的地基，同時，出土了可能用於祭祀的禮器。鑒於地基的特徵和附近出土的大量祭祀用品，考古學家相信這些立柱式建築並非住宅，而是祭祀場所。遊客可以透過萬座環狀列石周圍的幾處建築物，想像環狀列石在 4000 年前的模樣。

環狀列石的建造

據考古學家推測，這些環狀列石歷經了 200 年以上才建成。其中最重的石塊甚至超過 200 公斤，推測很可能是當時的人們借助簡陋的工具，從遠至 4 公里外的河邊運來的。

綠色石塊

大湯環狀列石遺址裡帶有綠色光澤的石塊，推測來自遺址以東數公里外的諸助山，它們順著諸助山山麓旁的安久谷川而下，流入了最靠近考古遺址的大湯川。考古人員相信這些具有綠色光澤的石塊可能具有某種特別的意義，但為何這種石塊在環狀列石的建造中格外受到青睞，目前尚不清楚。

大湯環狀列石館

大湯環狀列石館內展出在此處遺址出土的數百件陶器、土偶（陶偶）、土版和石器。其中，出土的陶器有用於收納死者屍身的大型甕棺，也有裝飾精美的碗、壺等器物。石器大多為小件器物，比如劍、碗及扁平的三角形土版等。所有出土文物均帶有裝飾，通常被認為是祭祀用品。

相關遺址

日本北部其他擁有環狀列石的大型史前遺址還有伊勢堂岱遺址【連結】（秋田縣）、鷲之木遺址【連結】（北海道）、小牧野遺址【連結】（青森縣）、大森勝山遺址【連結】（青森縣）。

<日本語仮訳>

大湯環状列石

世界遺産・国特別史跡

この遺跡は秋田県鹿角市にあり、8000 個を超える石が 2 つの大きな環状に配置されており、それ

それ「万座環状列石」と「野中堂環状列石」と命名されています。これらの環状列石は紀元前 2000 年頃のものであり、その配置から、太陽の動きが把握されていたと考えられます。その構築には、多大な努力と綿密な計画が必要だったことでしょう。構内の博物館では、環状列石に関する情報を紹介しており、この遺跡で出土した土器や儀式に使う品々を展示しています。大湯環状列石は全国でも僅か 4 例しかない縄文時代（紀元前 13,000 年～紀元前 400 年）の特別史跡の一つです。

環状列石の特徴

2 つの環状列石は内側の環と外側の環から構成されており、これらの環は小さく配置された石からできています。各環状列石の環の中には、立てられた状態の 1 つの石を中心に、放射状に石が並べられています。これらの放射状の配石は、日時計と類似しており、夏至には、配石の中心点を結んだ 1 本の線が日没方向と一致することが指摘されています。考古学的調査では、配置された石の下に土坑墓が発見されており、考古学者たちはそれぞれが墓の位置を示していると考えています。

万座環状列石

2 つの環状列石のうちの大きい方は万座環状列石と呼ばれており、直径は 52m あります。約 6500 個の石が使われており、100 を超える配石の存在が明らかにされています。

野中堂環状列石

野中堂環状列石は、直径は 44m あり、約 2000 個の石と 60 を超える配石で構成されています。万座環状列石から 100m ほどのところに位置します。

考古学上の発見

環状列石の外側の環の周りから、4 本柱と 6 本柱の建物の基礎が発掘され、儀式に使われたと思われる道具類も見つかりました。基礎の特徴と付近で発見された大量の祭祀具から、考古学者たちはこの建物は住居ではなく、儀式用の建物だったと考えています。万座環状列石周辺のいくつかの建物からは、この環状列石の 4000 年前の姿を想像することができます。

環状列石の構築

考古学者たちは、この環状列石の構築には 200 年以上かかったと推定しています。最も重い石は 200kg 以上もあります。石は、最大 4km 離れた川から、単純な道具のみを使って運ばれてきたのでしょう。

緑色の石

大湯環状列石で使われている石の多くは緑がかっており、これは大湯環状列石から東へ数キロ離れた場所にある諸助山で産出された特殊な石です。諸助山の麓を流れる安久谷川から、遺跡発掘現場に最も近い大湯川を下って移動してきたものと考えられます。この特定の石が、なぜ環状列石の建設で重宝されていたのかは不明ですが、何らかの特別な意味があったものと思われる。

大湯ストーンサークル館

発掘された数百個の土器・土偶・土版・石器は、大湯ストーンサークル館に展示されています。土器には、人骨を納めるのに使われた大きな甕のような器や、精巧な装飾が施された鉢・壺などがあります。石器のほとんどは小型で、剣、鉢、平らな三角形の土版といった形状のものです。すべての出土品には装飾が施されており、儀式に使われたものだと考えられています。

関連遺跡

北日本の大規模な先史遺跡には、他に伊勢堂岱 [\[リンク\]](#)（秋田）、鷲ノ木 [\[リンク\]](#)（北海道）、小牧野 [\[リンク\]](#)（青森）および大森勝山 [\[リンク\]](#)（青森）の環状列石などがあります。

【タイトル】大船遺跡（世界遺産）

【想定媒体】WEB

<簡体字>

大船遗址

世界遗产

在位于北海道南部函馆的大船遗址，人们发现了大规模的史前聚落（约公元前 3200 年）。考古学家们在这里找到了 100 多处半地穴式房屋的地基遗存、土坑墓、储物坑和人工土丘“填土”，从填土中出土了大量陶器、石器工具和动物骨骸。种种发现显示，人类在这处遗址持续定居了大约 1000 年。

得天独厚的地理位置

大船遗址位于大船川河岸面朝太平洋的台地上。遗址中出土了碳化的栗子，以及海狗、金枪鱼、三文鱼、鲸鱼、鹿等鱼和动物的骨头。由此推测，本地聚落的居民可能曾在海中捕鱼、沿海岸线狩猎、于森林中采集食材。

大船遗址的半地穴式房屋

此处聚落的居民住在半地穴式房屋中。所谓半地穴式房屋，就是在地面上向下挖出部分空间、用木棍支撑房顶、屋内不设分隔的房屋式样。考古学者已经确定了房屋的外边界和木棍插入地面留下的坑洞。大船遗址已发现近 120 个半地穴式房屋的地基遗存。许多地基有重叠迹象，由此可知，当时在老房屋地基上修建新房屋的现象十分普遍。

大船遗址中最大的半地穴式房屋长度近 10 米，地下部分的深度超过 2 米，而其他遗址发现的同类房屋通常达不到这样的长度和深度。几处最大的地基保留了发掘时的状态，来访者可以直观感受此处遗址内半地穴式房屋的规模。

不寻常的发现

考古学者在一座半地穴式房屋的地下发现了一个小坑，坑底土壤发黑。土壤分析显示，内含生物成分可能是胎盘。考古学者推测，把胎盘埋进土里应该是某种仪式，因为在过去，为了保佑新生儿健康成长，日本曾有将胎盘埋在家门口的风俗。

史前文物的宝库

遗址内发现了一个长约 80 米、宽约 10 米的大型填土。此处填土中出土了大量陶器、石器工具、动物骨骸和鹿角制作的缝衣针等文物。此外，人们还在填土内找到了土坑墓以及点火燃烧的痕迹。由此看来，此处填土可能既是祭祀场所，也是存放工具的储物空间。

陶器的设计与特征

大船遗址出土的陶器显示，人类在这处聚落持续生活了近千年。这些陶器皆为平底圆筒形，但纹样和设计存在明显差异。考古学家可以借助出土陶器的器型和设计对史前遗址进行断代，并判断聚落的定居时长。早期容器装饰元素较少，口沿样式简单；后期器具则出现了典型性口沿和贴花装饰等特征。从大船遗址出土文物的设计上可以清晰地看到这些变化，由此可以推断，此处聚落长期都有人类居住。

函馆市绳文文化交流中心

大船遗址出土的文物于函馆市绳文文化交流中心【链接】展出，中心与垣之岛遗址【链接】比邻。本地多处考古遗址的出土文物均收藏于此，其中包括被指定为国宝的中空土偶（陶偶）。交流中心距大船遗址约 5 分钟车程。

相关遗址

现已发现的其他大规模聚落遗址还有三内丸山遗址【链接】（青森县）和御所野遗址【链接】（岩手县）。三内丸山遗址是日本最大的绳文时代（公元前 13,000 年-前 400 年）遗址之一。

<繁体字>

大船遗址

世界遺產

北海道南部函館的大船遗址中发现了大规模史前聚落（约西元前 3200 年）。遗址在考古发掘中出土了 100 多处竖穴房屋的地基遗存、土坑墓、储物坑和人工土丘「填土」，从填土中发现了大量陶器、石制工具和动物骨骸。出土证据显示，史前人类在这处遗址持续定居了大约 1000 年。

得天獨厚的地理位置

大船遗址位于大船川河岸面朝太平洋的台地上。遗址出土了碳化的栗子，以及海狗、鲑鱼、鲑鱼、鲸鱼、鹿等鱼和动物的骨头。可以推测，当时聚落的居民曾利用此处丰富的天然资源在海中捕鱼，沿著海岸线狩猎，以及在森林中采集食材。

大船遗址的竖穴房屋

考古证据显示，大船遗址聚落的居民住在竖穴房屋中。这种房屋的特点是，从地面向下挖掘居住空间，不设间隔，并用木棍支撑房顶。考古学者已经确定了房屋的外缘和木棍插入地面留下的坑洞。大船遗址发现了近 120 个竖穴房屋的地基遗存，许多地基有重叠迹象，由此可知，在老房屋地基上修建新房屋现象十分普遍。

大船遺址中最大的豎穴房屋長度近 10 公尺，地下部分的深度超過 2 公尺，其他遺址發現的同類房屋則沒有這樣的規模。幾處最大的地基保留了發掘時的狀態，遊客可以直接感受遺址內豎穴房屋的規模。

不尋常的發現

考古學者在一座豎穴房屋的地下發現了一個小坑，坑底土壤發黑。分析顯示，土壤內含生物成分可能是胎盤。考古學者推測，把胎盤埋進土裡應該是某種儀式，因為在過去，為了保佑新生兒健康成長，日本曾有將胎盤埋在家門口的風俗。

史前文物的寶庫

遺址內發現了一個長約 80 公尺、寬約 10 公尺的大型填土。從這處填土中出土了大量陶器、石製工具、動物骨骸和鹿角製作的縫衣針等文物。此外，填土內還發現了土坑墓以及點火燃燒的痕跡。由此看來，這處填土可能既是祭祀場所，也是存放工具的儲物空間。

陶器的設計與特徵

大船遺址出土的陶器顯示，史前人類在這處聚落持續生活了近千年。這些陶器皆為平底圓筒形，但紋樣和設計則有明顯的風格差異。考古學家可以借助出土陶器的器型和設計對史前遺址進行定年斷代，並判斷聚落的定居時間長短。早期容器裝飾元素較少，口沿樣式簡單；後期器具則出現了典型性口沿和貼花裝飾等特徵。從大船遺址出土文物的設計上可以清晰地看到這些變化，由此推斷，這處聚落長期都有人類居住。

函館市繩文文化交流中心

展出大船遺址出土文物的函館市繩文文化交流中心【連結】，位於垣之島遺址【連結】的附近。當地多處考古遺址的出土文物均收藏於交流中心，其中包括被指定為國寶的中空土偶（陶偶）。交流中心距大船遺址約 5 分鐘車程。

相關遺址

現已發現的其他大規模聚落遺址還有三內丸山遺址【連結】（青森縣）和御所野遺址【連結】（岩手縣）。三內丸山遺址是日本最大的繩文時代（西元前 13,000 年-前 400 年）遺址之一。

<日本語仮訳>

大船遺跡

世界遺産

北海道南部の函館にある大船遺跡では、大規模な集落の跡（紀元前 3200 年頃）が出土しています。考古学的調査により、100 を超える豎穴建物跡の基礎、墓、貯蔵穴や大量の土器・石器・動物の骨を含む盛土が発掘されました。これらの発見から、この遺跡にはほぼ 1,000 年にわたって人が住み続けたことが分かっています。

好立地

大船遺跡は、大船川に沿って広がる、太平洋に面した台地上に位置しています。この遺跡では、炭化した栗やオットセイ・マグロ・サケ・クジラ・シカの骨が見つかっています。この遺跡の集落の人々は、海で魚を獲り、海岸沿いで狩りをし、森で食料を採集していたのでしょう。

大船遺跡の竪穴建物跡

この遺跡の住人たちは、竪穴建物で暮らしていました。竪穴建物とは、木の柱に支えられた建造物で、その中は、地面を掘った仕切りのない居住空間になっていました。考古学者は、竪穴の外縁と柱を支える穴の位置を特定しています。大船遺跡では、これまでに 120 近くの竪穴建物の基礎が発見されています。その多くは重複しており、新しい建物が古い建物があった場所に建てられたことを示しています。

この遺跡で発見された竪穴の中には、深さが 2m を超え、縦横の長さは 10m 近いものがあります。他のほとんどの遺跡では、これほど縦横が長くなく、深くもない竪穴が一般的です。最も大きな基礎のいくつかは、発掘された状態で保存されており、この遺跡にあった建物の規模を感じることができます。

珍しい発見

ある建物の地面の下に、底に黒ずんだ土のある小さな穴があるのを考古学者が見つかりました。土壌を分析した結果、胎盤のものと考えられる生物由来物質が確認されています。胎盤を埋めるという行為は、何らかの祭祀的意味を持っていたのではと考古学者たちは推測しています。かつての日本の文化には、新生児の健やかな成長を願って、その胎盤を家の玄関に埋める慣習がありました。

遺物の宝庫

この遺跡では、長さ約 80m、幅は 10m ある大規模な盛土が発見されています。この盛土からは、大量の土器、石器、動物の骨、またシカの角から作られた縫針などの遺物が出土しました。この盛土の中では土坑墓も見つかり、火が燃やされた跡も確認されています。この盛土は、祭祀の場として、また道具の保管場所として機能していたと考えられます。

土器の意匠と特徴

大船遺跡で出土した土器は、この遺跡に 1,000 年近く人が住み続けていたことを示しています。ここで発掘された土器は底の平らな円筒形で、模様や意匠はかなり多様です。考古学者たちは、土器の形やデザインから、日本の先史遺跡の年代を特定することができます。また、各遺跡にどのくらいの期間、人が住んでいたのかも把握できます。大船遺跡で発掘された土器のデザインには、明らかな変化が見られます。より古い時代の土器の装飾はあまり手が込んでおらず、縁はシンプルですが、後期の土器は、縁が様式化され、飾りが施されているのが特徴です。これは、大船遺跡に長い間にわたって人が住んでいたことを示しています。

函館市縄文文化交流センター

大船遺跡からの出土品は、垣ノ島遺跡 [\[リンク\]](#) の隣にある函館市縄文文化交流センター [\[リンク\]](#) に展示されています。このセンターでは、国宝である中空土偶など、この地域にあるいくつかの遺跡からの出土品を展示しています。このセンターは、大船遺跡から車で 5 分のところにあります。

関連遺跡

大規模な集落は、他に三内丸山遺跡 [\[リンク\]](#)（青森）や御所野遺跡 [\[リンク\]](#)（岩手）で発見されています。三内丸山遺跡は、日本最大級の縄文遺跡です。

【タイトル】 垣ノ島遺跡

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**垣之岛遗址****世界遗产**

垣之岛遗址位于北海道南部的函馆市，历史可以追溯到公元前 7000 年。考古调查组在这里发现了土坑墓和半地穴式房屋的遗存，以及跨度超过 6000 年的史前文物。这些发现让我们得以一窥史前时代日本的生活，并提供了有关当时社会、文化及精神世界发展的证据。函馆市绳文文化交流中心【链接】紧邻遗址，馆内展示遗址出土的文物，并全面介绍史前时代的日本。

葬礼与墓葬风俗的发展

丧葬仪式与墓葬风俗在绳文时代（公元前 13,000 年-前 400 年）出现了长足的发展。自公元前 7000 年左右开始，人类聚落里便出现了与居住区分离的特定墓葬区。在垣之岛遗址，人们也发现了各自独立的居住区和墓葬区。此遗址中最早的土坑墓大约可追溯至公元前 5000 年～前 4500 年之间。

罕见的陪葬品

垣之岛遗址的土坑墓中出土了丰富的陪葬品，其中有不少印有脚印的“土版”。这些土版大都出自公元前 5000 年～前 4500 年之间，形状、大小不一，但全都带有绳纹（日语写作“縄文”）图案，均为单足或双足印。脚印介于 6～18 厘米之间，很可能来自儿童。有的土版背面还印有手掌印。

U 型填土

遗址至今保存着一个大型的“U”字形人工土丘，这是日本最大的填土遗存之一，历史可追溯至公元前 3000 年左右，可能历时数百年才最终建成。整个土丘长 190 余米，宽 120 米，最高点达 2 米。

填土内发现了大量陶器、石器和动物骨骼碎片。此外，部分区域的土壤和一些物品有烧焦迹象，显示这里曾经生过火。考古学家在其一角发现了一条坑道，应该通往 U 型填土的中心区。填土中心区有一个小冢，从中发现了石棒、石剑等祭祀用品。人们推测这里应该是举行葬礼等各种仪式和献祭的场所。

陶器

垣之島遺址出土了大量陶器。最早期的多為尖底容器，表面裝飾着使用貝殼壓出的紋樣。之後的時期，逐漸出現了裝飾華麗、帶壺嘴的漆衣注水陶器，以及樣式複雜的香炉狀鏤空器具。這些手工制品顯示，當時的陶工已經熟練掌握了先進的制陶工藝，在設計上也達到了相當高的水平。

函館市繩文文化交流中心

函館市繩文文化交流中心【[鏈接](#)】展出來自垣之島遺址、大船遺址【[鏈接](#)】及本地其他考古遺址出土的文物。其中，最珍貴的文物是“中空土偶”，一名本地農婦在自家菜地裡耕作時發現了它。這個土偶（陶偶）設計繁複細緻、表面拋光、紋樣精細，且保存狀態完好，因此受到考古學家和艺术史學家的高度推崇。它被指定為國寶，曾在東京國立博物館、大英博物館、史密森學會博物館等世界頂級博物館展出。

除了展覽之外，中心還設有一處體驗工房，參觀者可以在這裡體驗編織、制陶和其他史前手工技藝。中心收取小額門票費用，並提供英文信息。

相關遺址

大船遺址【[鏈接](#)】距垣之島遺址約10分鐘車程，此處發現了大規模聚落遺址，可以看到大型半地穴式房屋的地基遺存。此外，北海道還有幾處繩文時代的遺址：擁有大型貝冢的入江貝冢遺址【[鏈接](#)】和北黃金貝冢【[鏈接](#)】，以及位於札幌附近的キウス(kiusu)周堤墓群遺址【[鏈接](#)】。

<繁體字>

垣之島遺址

世界遺產

垣之島遺址位於北海道南部的函館市，歷史可以追溯到西元前7000年。考古發掘出土了土坑墓、豎穴房屋遺存，以及時間跨度超過6000年的史前文物。這些發現讓我們得以一窺史前時代日本的生活，並提供了有關當時社會、文化及精神世界發展的實例。函館市繩文文化交流中心【[連結](#)】緊鄰遺址，館內展示遺址出土的文物，全面介紹史前時代的日本。

葬禮與墓葬風俗的發展

喪葬儀式與墓葬風俗在繩文時代（西元前13,000年-前400年）出現了顯著的發展。自西元前7000年開始，人類聚落裡出現了與居住區分離的特定墓葬區。在垣之島遺址，考古學家也發現了各自獨立的居住區和墓葬區。此遺址中最早一批土坑墓約建於西元前5000年～前4500年之間。

罕見的陪葬品

垣之島遺址的土坑墓中出土了豐富的陪葬品，其中有不少印有腳印的「土版」。這些土版大都製作於西元前5000～前4500年之間，形狀、大小不一，但全都帶有繩紋（日語

寫作「繩文」) 圖案, 均為單足或雙足印。腳印介於 6~18 公分之間, 很可能是兒童的腳印。有的土版背面還有手掌印。

U型填土

遺址至今保存著一個大型的「U」字形人工土丘, 這是日本最大的填土遺存之一, 歷史可追溯至西元前 3000 年, 據推測該填土可能歷時數百年才建成。整個土丘超過 190 公尺長, 寬 120 公尺, 最高點達 2 公尺。

填土內發現了大量陶器、石器和動物骨骼碎片。此外, 部分區域的土壤和一些物品有燒焦跡象, 顯示這裡曾經生過火。考古學家在一處角落裡發現一條坑通道, 或許通往 U 型填土中心區。填土中心區有一個小土丘, 挖掘發現了石棒、石劍等祭祀用品。考古學家認為, 這裡應該是舉行祭祀和葬禮等各種儀式的場所。

陶器

垣之島遺址出土了大量陶器。最早期的多為尖底容器, 表面裝飾著使用貝殼壓出的紋樣。之後的時期則漸漸出現了如裝飾華麗、帶壺嘴的漆衣注水陶器和樣式複雜的香爐狀鏤空器具。這些手工製品顯示, 當時的陶工已經熟練掌握了先進的製陶工藝, 在設計上也達到了相當高的水準。

函館市繩文文化交流中心

函館市繩文文化交流中心【連結】展出來自垣之島遺址、大船遺址【連結】及本地其他考古遺址出土的文物。其中, 最珍貴的文物是本地一位農婦在農地耕作時發現的「中空土偶」。這個土偶(陶偶)設計繁複細緻、表面拋光、紋樣精細, 且保存狀態完好, 因此受到考古學家和藝術史學家的高度推崇, 被指定為國寶, 曾在東京國立博物館、大英博物館、史密森學會博物館等世界頂級博物館展出。

除了展覽之外, 中心還設有一處體驗作坊, 遊客可以在這裡體驗編織、製陶和其他史前手工技藝。中心收取小額門票費用, 並提供英文資訊。

相關遺址

大船遺址【連結】距垣之島遺址約 10 分鐘車程, 此處發現了大規模聚落遺址, 可以看到大型豎穴房屋的地基遺存。此外, 北海道還有幾處繩文時代的遺址: 擁有大型貝塚的入江貝塚遺址【連結】和北黃金貝塚【連結】, 以及位於札幌附近的キウス(kiusu)周堤墓群遺址【連結】。

<日本語仮訳>

垣ノ島遺跡

世界遺産

北海道南部の函館にある垣ノ島遺跡は、紀元前 7000 年頃に遡る遺跡です。発掘調査により、土坑墓や竪穴建物の跡、先史時代の 6000 年を超える期間にわたる遺物が見つかりました。これらの発見は、先史時代の日本の暮らしを知る手掛かりとなり、社会的・文化的・精神的な発展の証拠となっています。この遺跡に隣接する函館市縄文文化交流センター [\[リンク\]](#) では、垣ノ島遺跡からの出土品を展示しており、先史時代の日本について総合的な紹介を行っています。

葬儀と埋葬の慣習の発達

葬儀と埋葬の慣習は、縄文時代（紀元前 13,000 年～紀元前 400 年）の間に大きく発達しました。集落では、紀元前 7000 年頃より、居住地から離れたところに墓地を配置するようになりました。垣ノ島遺跡では、居住地と墓地が別々に見つかっています。この遺跡で発見された最古の土坑墓は、紀元前 5000 年～4500 年のものです。

珍しい副葬品

垣ノ島遺跡の土坑墓には、足形のある土版など、幅広い副葬品が納められています。紀元前 5000 年～4500 年頃の形と大きさはさまざまですが、すべてに縄の文様があり、片足もしくは両足の足形が施されています。足形は 6～18cm で、おそらく子どものものでしょう。逆の面に手形がつけられている土版もあります。

U 字型の盛土

この遺跡には、大きな U 字型の盛土が残っており、国内最大級の盛土遺構である。この盛土は紀元前 3000 年頃まで遡ります。おそらく、数百年をかけて築かれたのでしょう。長さは 190m を超え、幅は 120m あります。高さは、一番高いところで 2m に達します。

この盛土には大量の土器、石器、動物の骨の破片が含まれています。この盛土の土壌や出土品には焦げた物質の跡があり、ここで火が燃やされた可能性を示唆しています。考古学者たちは、盛土の角のひとつに、地面に掘られた溝を発見しました。これは U 字型の中央部分に至る道であると考えられています。さらに、U 字型の盛土の中央部分に、石棒・剣などの祭祀の道具を含む小さな塚を見つけました。この盛土では、葬儀などの儀式が行われ、供物が捧げられていたと考えられています。

土器

垣ノ島遺跡では、さまざまな種類の土器が発見されています。最も初期の土器は底が尖っており、土に貝殻を押しつけた模様があります。さらに時代が進むと、凝った装飾の漆塗りの注口土器や、多くの穴がある香炉のような形の複雑に作られた土器が現れます。これらの製作物は、デザインの感覚が非常に発達していたことや、高度な焼き物の技術に通じていたことを示しています。

函館市縄文文化交流センター

函館市縄文文化交流センター [\[リンク\]](#) には、垣ノ島遺跡、大船遺跡 [\[リンク\]](#)、およびこの地域の他の遺跡からの出土品が展示されています。最も高く評価されている出土品は、「中空土偶」です。この土偶は、野菜畑を耕していた女性によって発見され、複雑なデザインや光沢のある仕上げ、細

かな模様、および保存状態が優れていることで、考古学者や美術史家から称賛されています。この土偶は日本の国宝として指定されており、東京国立博物館、大英博物館、スミソニアン博物館など世界中の一流博物館で展示されてきました。

函館市縄文文化交流センターには、展示に加えて体験メニューもあり、織物や土器製作など、先史時代のものづくりに挑戦することができます。センターへの入館には少額の料金が必要です。情報は英語でも提供されています。

関連遺跡

大船遺跡 [\[リンク\]](#) は、垣ノ島遺跡から車で 10 分のところにあります。この遺跡では大規模な集落の跡が発見されており、大規模な竪穴建物の基礎が見られます。北海道の他の遺跡には、大型の貝塚が発見された入江貝塚 [\[リンク\]](#) や北黄金貝塚 [\[リンク\]](#)、札幌の近くにあるキウス周堤墓群 [\[リンク\]](#) があります。

【タイトル】キウス周堤墓群（世界遺産）

【想定媒体】WEB

<簡体字>

キウス(Kiusu)周堤墓群

世界遺産

“キウス(Kiusu)”通常被认为是源自阿依努语“Ki-Ushi”（茅草、丛生之地），而“周堤”则是围绕墓地建造的土堤。キウス(Kiusu)周堤墓群的历史可以追溯到公元前 1200 年前后，属于绳文时代（公元前 13,000 年-前 400 年）后期遗存，墓群遗址位于北海道札幌东南方千岁市郊外的一片森林内。这些墓地外径介于 30~83 米之间，排列方式显然经过了精心规划。此处遗址证明，早在史前时代，日本北部的聚落就已经形成了复杂的丧葬风俗。

一条道路蜿蜒穿过遗址的墓群，途中有几段沿着周堤而行。墓群遗址出土的文物收藏于千岁市埋藏文化财中心【[链接](#)】内，中心同时展出周边其他考古遗址出土的物品。

大型周堤

在北海道的部分地区，尤其是キウス(Kiusu)周堤墓群所在区域，已经发现了多处被挖空的大型圆坑，四周环绕着厚度和高度均可达数米的土堤。考古调查显示，它们很可能是多个聚落的公共墓地。2 号周堤墓是墓群中规模最大的墓地之一，外径约 73 米，深逾 4 米，周堤基部厚度超过了 20 米。据考古学家估算，需要 25 个人花费大约 4 个月，才能修建这样一座周堤墓。

墓群共包含 9 座周堤墓，其中 7 座比邻而建，共用部分周堤。周堤墓之间有道路连通，周堤较低矮的部分很可能是通往各墓葬区的入口。

考古发现

在 20 世纪 60 年代的一场大规模的考古调查和对部分区域的发掘工作中，人们在周堤墓内和周堤外围发现了多处土坑墓。考察 1 号周堤墓时，发现了地下 60 厘米处的 5 个土坑墓，其中一个配有一块立石，应是墓碑。周堤墓内外发现的其他土坑墓中则出土了土偶残片（陶偶残片，可能用于祭祀仪式）、环状列石、赭红颜料痕迹，以及一根有着复杂雕刻纹饰的抛光石棒，后者可能是祭祀用具。

了解キウス(Kiusu)周堤墓群的规模和当年的修筑细节，具有特别的意义。周堤墓以及鷺之木【[链接](#)】（北海道）、大汤【[链接](#)】（秋田县）、伊势堂岱【[链接](#)】（秋田县）、小牧野【[链接](#)】（青森县）、大森胜山【[链接](#)】（青森县）的环状列石等各处遗址都显示，自公元前 2000 年前后开始，复杂的丧葬方式和仪式便日趋重要。

出土文物展示

在千岁市埋葬文化財中心【[链接](#)】可以看到来自キウス(Kiusu)周堤墓群和周边其他遗址的出土文物，展品涉及绳文时代生活的方方面面，包括饮食、陶器、精细石器、丧葬风俗等。中心距墓群约 10 分钟车程，免费开放，部分信息提供中文简、繁体及英文版本。

<繁体字>

キウス (Kiusu) 周堤墓群

世界遺產

「キウス (Kiusu)」通常被認為是源自阿依努語「Ki-Ushi」（茅草叢生之地），而「周堤」則是圍繞墓地建造的土堤。キウス (Kiusu) 周堤墓群的歷史可以追溯到西元前 1200 年，屬於繩文時代（西元前 13,000 年-前 400 年）後期遺存，墓群遺址位於北海道札幌東南方千歲市郊外的一片森林內。這些墓地直徑介於 30~83 公尺之間，排列方式顯然經過了精心規劃。這處遺址證明，早在史前時代，日本北部的聚落就已經發展出了複雜的喪葬風俗。

一條道路蜿蜒穿過遺址的墓群，途中有幾段沿著周堤而行。墓群遺址出土的文物收藏於千歲市埋藏文化財中心【[連結](#)】內，中心同時展出周邊其他考古遺址出土的物品。

大型周堤

在北海道的部分地區，尤其是キウス (Kiusu) 周堤墓群所在區域，已經發現了多處被挖空的大型圓坑，四周環繞著厚度和高度均可達數公尺的土堤。考古調查顯示，它們很可能是多個聚落的公共墓地。2 號周堤墓是墓群中規模最大的墓地之一，直徑約 73 公尺，深逾 4 公尺，周堤基部厚度超過了 20 公尺。據考古學家估算，需要 25 個人耗時大約 4 個月，才能修建這樣一座周堤墓。

墓群共包含 9 座周堤墓，其中 7 座比鄰而建，共用部分周堤。周堤墓之間有道路連通，周堤較低矮的部分很可能是通往各墓葬區的入口。

考古發現

在 1960 年代的一場大規模考古調查和對部分區域的發掘工作中，人們在周堤墓內和周堤周邊發現了多處土坑墓。考察 1 號周堤墓時發現了地下 60 公分處的 5 個土坑墓，其中一個配有一塊推測是墓碑的立石。周堤墓內外發現的其他土坑墓中則出土了土偶殘片（陶偶殘片，可能用於祭祀儀式）、環狀列石、赭紅顏料痕跡，以及一根具有複雜雕刻紋飾的拋光石棒，後者推測可能是祭祀用具。

了解キウス (Kiusu) 周堤墓群的規模和當時的修建細節，具有特別的意義。周堤墓連同鷲之木【[連結](#)】（北海道）、大湯【[連結](#)】（秋田縣）、伊勢堂岱【[連結](#)】（秋田縣）、小牧野【[連結](#)】（青森縣）、大森勝山【[連結](#)】（青森縣）的環狀列石等各處遺址都顯示，自西元前 2000 年前後開始，複雜的喪葬方法和儀式便日趨重要。

出土文物展示

在千歳市埋葬文化財中心【[連結](#)】可以看到來自キウス（Kiusu）周堤墓群和周邊其他遺址的出土文物，展品涵蓋繩文時代生活的各種面向，包含飲食、陶器、精細石器、喪葬風俗等。中心距墓群約 10 分鐘車程，免費開放，部分資訊提供中文簡、繁體及英文版本。

<日本語仮訳>

キウス周堤墓群

世界遺産

キウス周堤墓群の「キウス」は、アイヌ語の「キ・ウシ」（カヤ・群生するところ）という意味が由来と考えられます。「周堤」は墓の周辺に造られた「土堤」のこと。キウス周堤墓群（紀元前約 1,200 年）は縄文時代（紀元前 13,000 年～紀元前 400 年）後半に遡るもので、札幌の南東方向に位置する千歳市郊外の森林地に位置しています。大きさは外径 30～83 メートルで、その配置は、かなりの計画が行われたうえで配置されたことを示唆しています。周堤は、先史時代の北部日本の集落における複雑な埋葬習慣を証明するものです。

周堤墓のまわりや一部の土手沿いに、遺跡へと続く小道が通っています。この周堤墓群と付近の遺跡からの出土品は、千歳市埋蔵文化財センター [[リンク](#)] に展示されています。

大規模な周堤

北海道の一部、特にキウス周堤墓群が位置するこの地域では、地面を大きく円形に掘り、それを幅と高さが数メートルの土手で囲むということが行われていました。考古学的調査の結果、これらが複数の共同体の共同墓地として機能していた可能性があることが分かりました。キウス周堤墓群の中で最大級の 2 号周堤墓の外径は 73m あります。この周堤墓は、高さ 4m を超え、基部の厚みは 20m を超える土手で囲まれています。この周堤墓の建設にあたり、25 人がおよそ 4 か月を費やしたと考古学者は推測しています。

9 基のキウス周堤墓のうち 7 基はまとまった場所にあり、その一部は土手を共有しています。各周堤墓の間には小道があります。土手は一部低くなっており、個々の墓地への入口だった可能性を示しています。

考古学上の発見

大規模な調査と部分的な発掘が 1960 年代に始まり、周堤墓群の中と土手の外周には土坑墓があることが明らかになりました。1 号周堤墓の調査中に、地下 60cm のところに 5 つの土坑墓が見つかり、うち 1 つには立石があったことから、墓標と考えられています。その他の周堤墓周辺と中にあった穴には、祭祀に使われていたと考えられる土偶の破片、円形の組石、赤い顔料の痕跡、複雑な彫刻が施された儀式用と思われる磨製石棒が見つかりました。

キウス周堤墓群の規模と、それを完成させるために必要だった作業は、特別な意義を持っています。このような周堤墓や、鷲ノ木 [[リンク](#)]（北海道）、大湯 [[リンク](#)]（秋田）、伊勢堂岱 [[リンク](#)]（秋田）、小牧野 [[リンク](#)]（青森）、および大森勝山 [[リンク](#)]（青森）の環状列石といった

遺跡から、紀元前 2,000 年頃から複雑な埋葬方法や葬儀の重要性が顕著になっていったことが分かります。

展示されている出土品

キウス周堤墓群や近くの他の遺跡から出土した、食生活、土器、石細工、埋葬習慣といった縄文時代の暮らしのさまざまな側面を物語る品々は、千歳市埋蔵文化センター [\[リンク\]](#) に展示されています。このセンターは、キウス周堤墓群から車で 10 分のところにあります。入館は無料です。情報の一部は中国語（簡体字・繁体字）と英語でも提供されています。

【タイトル】北黄金貝塚（世界遺産）

【想定媒体】WEB

<簡体字>

北黄金贝冢

世界遗产

北黄金贝冢位于北海道的伊达市、一片面朝内浦湾的山坡上，距海岸仅数百米，其历史可追溯至公元前 5000 年～前 3500 年左右。考古学家在这里发现了大型贝冢、多具人体遗骸以及丰富的出土文物，这些文物证实了本地在史前就已经开始举办繁复的祭祀活动。遗址入口处有一座博物馆，馆内提供展览和包括中文（简、繁体）、英文在内的多语言版本说明信息。

来自贝冢的发现

北黄金贝冢遗址内现已发现 5 处贝冢，从贝冢中出土了蛤蜊、牡蛎、海胆的外壳，以及鱼骨、海狗骨、鲸骨和其他动物骨骼。贝冢内部及下方都发现了土坑墓，显示出这些贝冢有可能是与祭祀仪式有关的重要场所。其中一处贝冢出土了 14 具被隆重埋葬的人体骨骼，以及使用鲸骨和鹿角雕刻的装饰性勺状祭祀工具。而在另一处贝冢，鹿的头盖骨被刻意摆放成了特定的图案。

贝冢与海岸线

贝冢曾经十分靠近海岸，不过在大约 1500 年的漫长时间里，由于气候逐渐转凉，海平面下降，导致海岸线后退，贝冢的位置也随之慢慢移至山坡。最古老的贝冢位于海拔最高处，其他贝冢则依建造年代顺序相继下移。

饮食结构与谋生方式

对遗址出土的人类遗骸的研究显示，这些人体骨骼中含有大量来自鱼类和其它海产品的蛋白质，且这里出土的牙齿并无因大量咀嚼坚果而产生的龋齿迹象，因此在北黄金贝冢居民的饮食结构中，鱼类占比高于肉类，坚果的摄入量则相对较少。

由此可以推测，捕鱼可能是这处聚落最主要的谋生方式。遗址多处出土了石制渔网坠子、鹿角制作的鱼钩和鱼叉头等工具。

用于祭祀的石器

遗址所在丘陵的一处山脚泉眼边出土了大量石器。该区域依然保留着发掘时的状态，埋在地里的磨石、石盘等石器清晰可见。在这些器物中，许多似乎都是被刻意打破或刮擦、

损坏的。考古学家认为，破坏和丢弃石器是一种仪式，对于北黄金贝冢的居民来说具有特别的象征意义。目前还不清楚这样做的原因，但有考古学家推测，这可能是为了表达感激之情，也许是对工具本身或是对这眼泉水的感恩，感谢它们对聚落生活的贡献。

北黄金贝冢信息中心

北黄金贝冢信息中心内主要展示此处遗址出土的各类文物，包括一处贝冢的真实横截面，横截面上用日、英双语标明了土里骨骼和贝壳的种类。其他展品还有使用鹿角、鹿骨雕刻的装饰品；石簇、鹿角制作的鱼叉头等捕猎工具；包括多个鞍形石盘在内的磨石等。其中，磨石放置于体验区内，可随意拿起细看。中心免费开放，下载“Pocket Curator” APP，即可获取包括中文简、繁体在内的多语言信息。

相关遗址

入江贝冢【[链接](#)】和高砂贝冢【[链接](#)】距北黄金贝冢约 30 分钟车程。大船遗址【[链接](#)】和垣之岛遗址【[链接](#)】是位于内浦湾对岸的大型遗址，函馆市绳文文化交流中心【[链接](#)】展出这两处遗址出土的文物，并综合介绍了史前时代日本北部地区的聚落生活。

<繁体字>

北黄金贝冢

世界遺產

北黄金贝冢位于北海道的伊達市、一个面朝内浦湾的山坡上，距海岸仅数百公尺，历史可追溯至西元前 5000 年～前 3500 年左右。考古学家在这里发现了大型贝冢、多具人骨遗骸以及丰富的文物，这些出土文物证实了当地在史前就已有繁复的祭祀活动。遗址入口处有一座博物馆，馆内提供展览和包括中文（简、繁体）、英文在内的多种语言版本资讯。

来自贝冢的发现

北黄金贝冢遗址内现已发现 5 处贝冢，从贝冢中出土了蛤蜊、牡蛎、海胆的外壳，以及鱼骨、海狗骨、鲸骨和其他动物骨骼。贝冢内部及下方都发现了土坑墓，显示出这些贝冢有可能是与祭祀仪式有关的重要场所。其中一处贝冢出土了 14 具被隆重埋葬的人骨遗骸，以及使用鲸骨和鹿角雕刻的装饰性勺状祭祀工具。而在另一处贝冢，鹿的头盖骨被刻意摆放成了特定的图案。

贝冢与海岸线

过去贝冢曾经十分靠近海岸，不过在 1500 年的漫长时间里，由于气候逐渐转凉，海平面下降，导致海岸线后退，贝冢的位置也随之慢慢移至山坡。目前最古老的贝冢位于海拔最高处，其他贝冢则依建造年代顺序相继下移。

饮食结构与谋生方式

遺址出土の人類遺骸顯示，這些人體骨骼含有大量來自魚類和其它海產品的蛋白質，且這裡出土的牙齒並沒有大量咀嚼堅果產生的齶齒跡象，因此可以推斷，在北黃金貝塚居民的飲食結構中，魚類攝入高於肉類，且相對較少食用堅果。

同時還可以推測，捕魚可能是該聚落最主要的謀生方式。遺址多處出土的石製漁網墜子、鹿角製作的魚鉤和魚叉頭等工具或可以作為佐證。

用於祭祀的石器

遺址所在丘陵山腳下的一處泉眼邊出土了大量石器。該區域依然保留著發掘時的狀態，埋在地裡的磨石、石盤等石器清晰可見。在這些器物中，許多似乎都是被刻意打破或刮擦、損壞。考古學家認為，破壞和丟棄石器是一種儀式，對於北黃金貝塚的居民來說具有特別的象徵意義。目前還不清楚這樣做的原因，但有考古學家推測，這可能是為了表達感激之情，也許是對工具本身或是對這眼泉水的感恩，感謝它們對聚落生活作出的貢獻。

北黃金貝塚資訊中心

北黃金貝塚資訊中心內陳列著這處遺址出土的各類文物，包括一處貝塚的真實橫截面，橫截面上以日、英雙語標明了土裡骨骼和貝殼的種類。其他展品還有使用鹿角、鹿骨雕刻的裝飾品；石簇、鹿角製作的魚叉頭等捕獵工具；包括多個鞍形石盤在內的磨石等。其中，磨石放置於體驗區內，遊客可隨意拿起細看。中心免費開放。下載「Pocket Curator」APP，即可獲取包括中文簡、繁體在內的多種語言版本資訊。

相關遺址

入江貝塚【[連結](#)】和高砂貝塚【[連結](#)】距北黃金貝塚約 30 分鐘車程。大船遺址【[連結](#)】和垣之島遺址【[連結](#)】是位於內浦灣對岸的大型遺址，函館市繩文文化交流中心【[連結](#)】展出這兩處遺址出土的文物，並綜合介紹了史前時代日本北部地方的聚落生活。

<日本語仮訳>

北黄金貝塚

世界遺産

北黄金貝塚は、北海道伊達市のある海岸から数百メートル離れた、内浦湾に面した丘陵上に位置する紀元前 5000～3500 年頃の遺跡です。考古学者たちは、大規模な貝塚、数体の人骨、複雑な祭祀が行われていたことを裏づけるさまざまな遺物を発掘してきました。この遺跡の入口には博物館があり、中国語（簡体字・繁体字）、英語を含めた多言語で情報が提供され展示が行われています。

貝塚からみつかったもの

北黄金貝塚では、5 つの貝塚が発見されています。これらの貝塚には、アサリ・カキ・ウニの殻や、魚・オットセイ・クジラ・シカなどの動物の骨が含まれています。貝塚の中や下から土坑墓が発見された

ことは、貝塚が祭祀上重要な場所だったことを示唆しています。貝塚の1つからは、儀式的に埋葬された人骨が14体と、クジラの骨やシカの角を彫った飾りのあるスプーン状の祭用品が出土しました。別の貝塚からは、意図的に並べられたシカの頭蓋骨が発見されています。

貝塚と海岸線

貝塚は海岸の近くに作られましたが、約1500年の間に気候が寒冷になって海面が下がり、海岸線が遠ざかり、貝塚の位置は丘の中腹に移動しました。一番古い貝塚が最も高いところにあり、その他の貝塚は造られた年代順に低い場所に位置しています。

食料と生活

出土した人骨の研究から、北黄金貝塚の住人たちは肉より主に魚を食べ、木の実を食べる量は比較的多くはなかったことが分かっています。骨には、魚や他の海洋生物に由来する蛋白質が多く含まれています。虫歯は木の実が多く食べられていたことを示しますが、この遺跡で見つかった歯には虫歯は全くありません。

おそらく、漁労が主な生業だったのでしょう。貝塚の随所で、石でできた網につける重りや、鹿の角でできた釣り針や銚頭といった道具が見つかっています。

祭祀に関する石器の出土

丘のふもとにある泉の近くでは、大量の石器が発見されています。このエリアは発掘当時のまま残されており、すり石や石皿などの石器がはっきり見えるように土に埋まっています。これらの多くは、意図的に壊されたり、削られたり、傷つけられたりしたようです。これらは遺跡の住人たちにとって象徴的な意味を持つ儀礼的な方法で破壊し、廃棄された、と考古学者たちは考えています。なぜ道具類がこういった方法で捨てられたのかは分かっていませんが、道具そのものや、集落での暮らしを支えた水に対する感謝の表現だったのではと推測する考古学者もいます。

北黄金貝塚情報センター

北黄金貝塚情報センターは、この遺跡からの出土品と、貝塚の1つの実際の断面を展示しています。この断面に見える骨と貝殻の種類が、英語と日本語で表示されています。このセンターで展示されている出土品には、鹿の角や骨を彫った装飾品、石鏃や鹿の角でできた銚頭といった狩猟の道具、および鞍形の石皿を含むすり石などがあります。すり石は体験コーナーに展示されており、自由に手にとって見ることができます。このセンターへの入場は無料です。「ポケット学芸員」というアプリをダウンロードすれば、中国語（簡体字・繁体字）を含めた多言語でも利用できます。

関連遺跡

入江貝塚 [\[リンク\]](#) と高砂貝塚 [\[リンク\]](#) は、北黄金貝塚から車で30分です。大船遺跡 [\[リンク\]](#) と垣ノ島遺跡 [\[リンク\]](#) は、内浦湾の反対側にある大規模な遺跡です。函館市縄文文化交流センター [\[リンク\]](#) では、これら2つの遺跡からの出土品を展示しており、北日本における先史時代の暮らしの全体像を紹介しています。

【タイトル】入江貝塚（世界遺産）

【想定媒体】WEB

<簡体字>

入江贝冢

世界遗产

入江贝冢是一处由废弃贝壳以及鱼类和动物骨头堆积而成的大型沿海贝冢遗址。这些贝冢很可能是在几百年间逐渐形成的，最上层部分的年代可追溯至大约公元前 2000 年。此外，遗址内还发现了大量墓葬和半地穴式房屋遗存。

此处考古遗址面向公众开放，主要展品有混杂着泥土、贝壳和骨头的大型贝冢横截面，以及一个半地穴式房屋的立体实景模型等。从入江贝冢，可以步行前往高砂贝冢【链接】和入江·高砂贝冢馆【链接】。

海洋与贝冢

公元前 8000 年～前 5000 年间，气候变暖，海平面上升，过去的狩猎和采集觅食区变成了浅湾，捕鱼和贝类采集技法日趋高超。日本北部的史前聚落居民，越来越依赖于这种生活方式，食谱中出现了大量的海产品，紧邻聚落的贝冢也就此形成。

贝冢为考古学家了解史前人类饮食结构的变迁以及与环境要素的关系提供了宝贵的材料。文蛤(*Meretrix lusoria*)和牡蛎的壳出现在较下层，花蛤(*Venerupis philippinarum*)壳则出现在较上层，由此可以推测出海水温度和海平面高度的变化。入江贝冢旁的聚落居民以捕鱼和狩猎为生，一般来说，肉类和鱼类的食用量高于贝类。

遗址公园的入口处有一个巨大的贝冢横截面，高度和长度都达数米，可以看到其中的各类贝壳和骨头残骸。与贝壳相比，海狗、海豚、鹿、鱼类及其他的动物骨头数量更多。

渔具与贸易

入江贝冢出土的鱼钩种类繁多，可见当时渔具制造已经十分发达。其中，大型组合式鱼钩的出现表明，远海捕鱼在当时也已普及。此外，遗址内还发现了一些使用非北海道本地原材料制作的物品，如野猪獠牙饰品，它们被视为本地与本州岛存在海上贸易往来的证据。

入江贝冢遗址的出土文物在入江·高砂贝冢馆【链接】内展出。入馆需购买门票，部分基本信息提供英文说明。下载“Pocket Curator” APP，即可获取包括中文简、繁体在内的多语言信息。

<繁体字>

入江貝塚

世界遺產

入江貝塚靠海，是一處由廢棄貝殼以及魚類和動物骨頭堆積而成的大型貝塚遺址。這些貝塚很可能是經過了數世紀而逐漸形成的，最上層部分的年代可追溯至大約西元前 2000 年。此外，遺址內還發現了大量墓葬和豎穴式房屋遺存。

這處考古遺址對大眾開放，展品中包括混雜著泥土、貝殼和骨頭的大型貝塚橫截面，以及一個豎穴式房屋的立體實景模型。從入江貝塚，可以步行前往高砂貝塚【[連結](#)】和入江·高砂貝塚館【[連結](#)】。

海洋與貝塚

西元前 8000 年～前 5000 年間，氣候變暖，海平面上升，過去的狩獵和採集覓食區變成了淺灣。日本北部的史前聚落居民，越來越依賴捕魚和貝類採集維生，在食譜中出現了大量的海產，緊鄰聚落的貝塚也就此形成。

貝塚為考古學家瞭解史前人類的飲食結構變化以及與環境要素的關係提供了寶貴的材料。文蛤（*Meretrix lusoria*）和牡蠣的殼出現在較下層，花蛤（*Venerupis philippinarum*）殼則出現在較上層，由此可以推測出海水溫度和海平面高度的變化。入江貝塚旁的聚落居民以捕魚和狩獵為生，通常肉類和魚類的食用量高於貝類。

遺址公園的入口處有一個巨大的貝塚橫截面，高度和長度達數公尺，可以看到其中的各類貝殼和骨頭殘骸。與貝殼相比，海狗、海豚、鹿、魚類及其他的動物骨頭數量更多。

漁具與貿易

入江貝塚出土的魚鉤種類繁多，可見當時製作漁具的技法已經十分發達。其中，大型組合式魚鉤的出現表明，遠海捕魚在當時也已普及。此外，遺址內還發現了一些使用非北海道當地原材料製作的物品，如野豬獠牙飾品，被視為北海道地區與本州存在海上貿易往來的證據。

入江貝塚遺址的出土文物在入江·高砂貝塚館【[連結](#)】內展出。入館需購買門票，部分基本資訊提供英文說明。下載「Pocket Curator」APP，即可獲取包括中文簡、繁體在內的多種語言版本資訊。

<日本語仮訳>

入江貝塚

世界遺產

入江貝塚は、捨てられた貝殻や魚や動物の骨が堆積した大きな貝塚のある海岸沿いの遺跡です。入江貝塚は恐らく数百年にわたって形成されたものであり、最上層は紀元前約 2,000 年にまで遡ります。また、多くの墓や竪穴建物跡も見つかっています。

この遺跡は一般に公開されています。展示物には、貝塚の土、貝殻、骨をそのまま残した巨大な横断面や、竪穴建物の立体模型などがあります。この遺跡は、高砂貝塚 [\[リンク\]](#) や入江・高砂貝塚館 [\[リンク\]](#) から徒歩圏にあります。

海と貝塚

気候の温暖化（紀元前 8,000 年～紀元前 5,000 年）に伴って海面が上昇し、主な狩猟や採集の場所が入江の浅瀬に取って代わられたことで、魚を取ったり貝を集めたりする方法が発展してきました。先史時代の北部日本の集落は、このような生活手段にますます依存するようになり、大量の魚介類が消費されるようになりました。その結果、貝塚が集落の傍に形成されたのです。

考古学者にとって貝塚は、食生活が時とともに、また環境要因に応じてどう変わったのかを研究する上で恰好の材料でした。下層にあるハマグリ（学名：Meretrix lusoria）やカキ、上層にあるアサリ（学名：Venerupis philippinarum）は、水温と海水面の変化を示しています。入江貝塚の集落の居住者たちは、漁労と狩猟の両方で食料を得ており、貝類よりも肉と魚を食べるのが一般的でした。

公園の入口には、貝塚の大きな断面があります。この断面は縦横数メートルで、さまざまな骨や貝殻を見ることができます。オットセイ、イルカ、シカおよびその他の魚や動物の骨が、貝殻よりも多く見られます。

漁具と交易

入江貝塚で発掘された多種多様な釣り針は、漁具がどのように発達してきたかを示しています。また、より大型の組み合わせ針は、外洋での釣りが一般的だったことを示しています。この遺跡では、北海道産でない材料を使ったイノシシの牙の装飾具などが見つかっています。これらは、本州との海上交易があったことを裏付ける証拠だと考えられています。

入江貝塚からの出土品は、入江・高砂貝塚館 [\[リンク\]](#) で展示されています。同館は入館料が必要です。基本情報の一部は英語で提供されています。「ポケット学芸員」というアプリをダウンロードすれば、中国語（簡体字・繁体字）を含めた多言語でも利用できます。

【タイトル】 高砂貝塚（世界遺産）

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

高砂贝冢

世界遗产

高砂贝冢（约公元前 900 年）是一处大型墓葬遗址，它应该是周边聚落的公共墓地。在考古调研和对部分区域的发掘中，发现了数处贝冢和一个由众多土坑墓构成的墓葬区。遗址面向公众开放，场内有标记指明贝冢和土坑墓的位置。遗址相关信息可至入江·高砂贝冢馆【链接】获取。

复杂葬礼的证据

高砂贝塚遗址有力证实了绳文时代（公元前 13,000 年-前 400 年）后期的丧葬风俗已日趋复杂。这里的土坑墓形状大体相同，亡者也都被摆成同样姿势——双臂、双腿呈一定角度弯曲，头部大都朝向西北方。大部分墓坑中都发现了陶器、石器和其他陪葬品。墓葬区内还有一组环状列石，并出土了几个土偶（陶偶）和一个装满赭红颜料的罐子。多处墓地遗存都发现了赭红颜料的残留物，由此推测，在亡者下葬前，人们可能会先将赭红粉末撒在尸体上。

保存完好的遗骸

日本土壤偏酸性，因此，史前土坑墓中少有人类遗骸留存。然而，高砂贝冢却出土了许多保存完好的人类骨架。在这里，死者通常被埋葬在贝冢内的土坑中，可能是大量动物骨骼和贝壳生成的碳酸钙有助于保存人骨。

了解更多信息

高砂贝冢遗址的出土文物中，还有鹿角制作的鱼叉头和其他渔具，这些文物均陈列于入江·高砂贝冢馆【链接】。馆内同时展出不远处入江贝冢【链接】的文物。入馆需购买门票，部分基本信息提供英文版本。下载“Pocket Curator” APP，即可获取包括中文简、繁体在内的多语言信息。

<繁体字>

高砂貝塚

世界遺產

高砂貝塚（約西元前 900 年）は一處大型墓葬遺址，它應該是周邊聚落的公共墓地。在考古調研和對部分區域的發掘中，發現了數處貝塚和一個由眾多土坑墓構成的墓葬區。遺址向大眾開放，場內有標記指明貝塚和土坑墓的位置。遺址相關資訊可至入江·高砂貝塚館【連結】獲取。

複雜葬禮的證據

高砂貝塚遺址有力證實了繩文時代（西元前 13,000 年-前 400 年）後期的喪葬風俗已日趨複雜。這裡的土坑墓形狀大體相同，死者也都被擺成同樣姿勢——雙臂、雙腿呈一定角度彎曲，頭朝向西北方。大部分墓坑中都發現了陶器、石器和其他陪葬品。墓葬區內還有一組環狀列石，並出土了幾個土偶（陶偶）和一個裝滿赭紅顏料的罐子。鑒於多處墓地遺存都發現了赭紅顏料的殘留物，推測在亡者下葬前，當時的人們會先將赭紅粉末撒在屍體上。

保存完好的遺骸

日本土壤偏酸性，因此，史前土坑墓中少有人類遺骸留存。然而，高砂貝塚卻出土了許多保存完好的人類骨架。在這裡，死者通常被埋葬在貝塚內的土坑中，可能是大量動物骨骸和貝殼生成的碳酸鈣有助於保存人骨。

瞭解更多資訊

高砂貝塚遺址的出土文物中，還有鹿角製作的魚叉頭和其他漁具，這些文物均陳列於入江·高砂貝塚館【連結】。館內同時展出不遠處入江貝塚【連結】的文物。入館需購買門票，部分基本資訊提供英文版本。下載「Pocket Curator」APP，即可獲取包括中文簡、繁體在內的多種語言版本資訊。

<日本語仮訳>

高砂貝塚

世界遺産

高砂貝塚（紀元前約 900 年）は、付近の集落の墓地として機能していたと考えられている大型の墓地遺跡です。考古学的調査および部分的な発掘調査により、いくつかの貝塚と多くの土坑墓がある墓域の存在が明らかになりました。この遺跡は公開されており、貝塚と土坑墓の場所が表示されています。この遺跡に関する情報は、入江・高砂貝塚館 [リンク] で入手できます。

複雑な葬禮の痕跡

この遺跡は、縄文時代（紀元前 13,000 年～紀元前 400 年）の後期に、埋葬の儀式がますます複雑化していたことを裏づけるものです。土坑墓の形状はどれも似ており、死者の手足は一定の角度で曲げられ、ほとんどの頭部は北西の方角に向けられた状態で、ほぼ全く同じ姿勢で埋葬されていました。ほとんどの土坑墓から土器や石器、他の副葬品が見つかりました。また墓域では、環状の組

石も見つかっています。その中には土偶数個と、赤い顔料で満たされた壺が入っていました。赤い顔料の痕跡は複数の墓で見つかり、葬礼に用いられていたことを示しています。埋葬前に、赤い顔料の粉を亡骸に撒いていた可能性があります。

保存状態の良い遺骨

日本の土壌は酸性であることから、先史時代の土坑墓では人骨はほとんど見つかりません。にもかかわらず、高砂貝塚では、多くの人骨がそのまま発見されています。ここでは、死者は貝塚の中の穴に埋葬されていました。貝塚の大量の骨や貝殻からの炭酸カルシウムが、骨の保存に役立ったと考えられています。

多くを見て多くを学ぶ

高砂貝塚では、鹿の角から作った銚先や漁具など、他にも遺物が発掘されています。これらは、近々の入江貝塚 [\[リンク\]](#) で見つかった品々とともに、入江・高砂貝塚館 [\[リンク\]](#) に展示されています。同館は入館料が必要です。基本情報の一部は英語で提供されています。「ポケット学芸員」というアプリをダウンロードすれば、中国語（簡体字・繁体字）を含めた多言語でも利用できます。

【タイトル】小牧野遺跡（世界遺產）

【想定媒体】WEB

<簡体字>

小牧野遺址

世界遺產

在青森县的小牧野遗址，数千块石头组成的同心圆铺陈在人工平整过的台地上。这处环状列石直径约 55 米，由 3 个完整的圆环和 1 个部分圆环组成，其历史可以追溯到大约公元前 2000 年，是日本北部大型史前遗址之一。经考古调查，这里发现了土坑墓、半地穴式房屋遗存和各类祭祀用品。

在多处观景点皆可近距离观看这处环状列石。一条小路通往列石中心，来访者可置身石阵中，观察石块及其排布方式，或者登上南面的小丘，俯瞰环状列石全貌。遗址入口处的“小牧野之森·橡子之家”附近有一处观景台，可远眺陆奥湾、青森平原和八甲田山西麓的风光。

青森市小牧野遗址保护中心 绳文学舍·小牧野馆

“青森市小牧野遗址保护中心 绳文学舍·小牧野馆”距小牧野遗址 1.5 公里，提供遗址相关信息。馆内介绍小牧野遗址出土的部分文物，以及绳文时代（公元前 13,000 年-前 400 年）的聚落生活概况。中心也提供中文简、繁体和英文小册子，还为孩子们设计了体验项目。中心免费开放。

相关遗址

日本北部其他环状列石大型史前遗址还有：大森胜山【[链接](#)】（青森县）、伊势堂岱【[链接](#)】（秋田县）、大汤遗址【[链接](#)】（秋田县）和鷲之木遗址【[链接](#)】（北海道）。

<繁体字>

小牧野遺址

世界遺產

在青森縣的小牧野遺址，數千塊石頭組成的同心圓鋪陳在人工平整過的台地上。這處環狀列石直徑約 55 公尺，由 3 個完整的圓環和 1 個部分圓環組成，其歷史可以追溯至約西元前 2000 年，是日本北部大型史前遺址之一。經考古調查在這裡發現了土坑墓、豎穴式房屋遺存和各類祭祀用品。

遊客可以在多處觀景點近距離觀看這處環狀列石的不同面貌。走入一條通往列石中心的小路，即可置身陣中，觀察石塊及其排布方式；或者登上南面的小丘，俯瞰環狀列石全貌。遺址入口處「小牧野之森・椽子之家」附近有一座觀景台，可以遠眺陸奥灣、青森平原和八甲田山西麓的風光。

青森市小牧野遺址保護中心 縄文學舎・小牧野館

「青森市小牧野遺址保護中心 縄文學舎・小牧野館」距小牧野遺址 1.5 公里，提供遺址相關資訊。館內介紹小牧野遺址出土的部分文物，以及縄文時代（西元前 13,000-前 400 年）的聚落生活概況。中心也提供中文簡、繁體和英文簡介，還為孩子們設計了體驗專案。中心免費開放。

相關遺址

日本北部其他環狀列石大型史前遺址還有：大森勝山【[連結](#)】（青森縣）、伊勢堂岱【[連結](#)】（秋田縣）、大湯遺址【[連結](#)】（秋田縣）和鷲之木遺址【[連結](#)】（北海道）。

<日本語仮訳>

小牧野遺跡

世界遺産

意図的に平らにされた高台に数千個の石が同心円状に並べられている小牧野遺跡は、青森にあります。3つの完全な環と1つの部分的な環が、直径55mの環状列石を形作っています。この環状列石は、紀元前2000年頃のものであり、北日本の大規模な先史遺跡の1つです。考古学的調査により、土坑墓、竪穴建物跡および儀式に使われた品々が発掘されました。

環状列石は、さまざまな地点から間近に見ることができます。中心に至る道では、石とその配置を詳しく見ることができます。また、南側には高台があり、環状列石を上から見下ろすことができます。遺跡の入口にある「小牧野の森・どんぐりの家」の近くには、陸奥湾、青森平野および八甲田山西麓を望む展望所があります。

青森県小牧野遺跡保護センター 縄文の学び舎・小牧野館

小牧野遺跡に関する情報は、遺跡から1.5km離れた「縄文の学び舎・小牧野館」で入手できます。縄文時代（紀元前13,000～紀元前400年）の暮らしの概要が展示され、小牧野遺跡からの出土品の一部が紹介されています。情報は英語、中国語（簡体字・繁体字）パンフレットでも提供され、子どものための体験型の展示もあります。入館は無料です。

関連遺跡

北日本の大規模な先史遺跡には、他に大森勝山 [[リンク](#)]（青森）、伊勢堂岱 [[リンク](#)]（秋田）、大湯 [[リンク](#)]（秋田）および鷲ノ木 [[リンク](#)]（北海道）の環状列石などがあります。

【タイトル】大森勝山遺跡（世界遺産）

【想定媒体】WEB

<簡体字>

大森勝山遺址

世界遺産

在青森县弘前市的大森勝山遺址上，有一处由 1000 多块石头排成 77 个石组的环状列石，其历史可以追溯到公元前 1000 年前后。考古发掘调研结果显示，它是已知绳文时代（公元前 13,000 年-前 400 年）晚期唯一的一例环状列石。大森勝山环状列石位于岩木山脚下的一处台地上，岩木山及周边区域位处津轻国定公园内，来访者在考古遺址便可欣赏公园美景。

前往遺址

有两条林间步道通往遺址，一条是台阶路，一条是平缓的无障碍坡道。步道穿越于栗树和其他果树之间，数千年前，或许就是这些树木养育了生活在此地的史前人类。两条步道都通往一处可眺望岩木山风光的林间开阔地。

环状列石位于一座人工小丘的空地中央，站在石圈中心可以清晰地看到岩木山。

岩木山和环状列石的位置

岩木山是一座成层火山，外形与富士山相似，左右对称，山势平缓。岩木山是本地人敬奉的神山，山顶建有一座神社。冬至当天，在夕阳西沉至山顶时，正好与环状列石连成一线。由此或可推测，对于生活在此地的史前人类而言，岩木山有着独特的意义。

环状列石与信仰场所

遺址各处均出土了石棒、圆盘状石器和土偶（陶偶）等物品，这些发现与其他遺址祭祀场所一致，从考古学角度可以判断，此处环状列石也是与信仰有关的场所。

半地穴式房屋的遗存

在一大片平地的最深处，人们发现了一处大型圆形半地穴式房屋遗存，直径长达 13 米左右。鉴于规模，且整个遺址内发现的房屋遗存仅此一处，考古学家推断这里应该是举办祭祀仪式的聚落中心。

出土文物及相关遺址

弘前市立裾野地区体育文化交流中心【链接】距遗址约 10 分钟车程，中心大厅内陈列着大森胜山遗址一带出土的文物。此外，另有部分文物以及其他遗址的出土文物收藏于弘前市立博物馆【链接】。

日本北部其他曾举行祭祀活动的遗址还有：小牧野遗址【链接】（青森县）、伊势堂岱遗址【链接】（秋田县）和大汤环状列石【链接】（秋田县）。

<繁体字>

大森勝山遺址

世界遺產

在位於青森縣弘前市的大森勝山遺址上，有一處由 1000 多塊石頭排成 77 個石組的環狀列石，其歷史可以追溯到西元前 1000 年前後。據考古發掘結果顯示，它是已知繩文時代（西元前 13,000 年-前 400 年）晚期唯一的一例環狀列石。大森勝山環狀列石位於岩木山腳下的一處台地上，而岩木山及周邊區域均位處津輕國定公園內，遊客在考古遺址也可欣賞公園美景。

前往遺址

有兩條林間步道通往遺址，一條是台階路，一條是平緩的無障礙坡道。步道穿越於栗樹和其他果樹，數千年前，或許就是這些樹木養育了生活在此地的史前人類。兩條步道均通往一處可眺望岩木山風光的林間空地。

環狀列石位於人工小丘的空地中央，站在石圈中心可以清晰地看到岩木山。

岩木山和環狀列石的位置

岩木山是一座成層火山，外形與富士山相似，左右對稱，山勢平緩。岩木山是當地人敬奉的神山，山頂建有一座神社。冬至當天，在夕陽西沉至山頂時，正好與環狀列石連成一線。由此或可推測，對於生活在此地的史前人類而言，岩木山有著獨特的意義。

環狀列石與信仰場所

遺址各處均出土了石棒、圓盤狀石器和土偶（陶偶）等物品，這些發現與其他遺址祭祀場所一致，從考古學角度可以判斷，這處環狀列石也是與信仰有關的場所。

豎穴式房屋的遺存

在遺址的最深處，發掘了一處大型圓形豎穴式房屋遺存，直徑長達 13 公尺。鑒於規模，且在遺址內發現的房屋遺存僅此一處，考古學家推斷，這裡應該是舉辦祭祀儀式的聚落中心。

出土文物及相關遺址

弘前市立裾野地区体育文化交流中心【連結】距遺址約10分車程、中心大廳内陳列著大森勝山遺址一帯出土の文物。此外、另有部分文物以及其他遺址的出土文物收藏於弘前市立博物館【連結】。

日本北部其他曾舉行祭祀的遺址還有：小牧野遺址【連結】（青森縣）、伊勢堂岱遺址【連結】（秋田縣）和大湯環狀列石【連結】（秋田縣）。

<日本語仮訳>

大森勝山遺跡

世界遺産

青森県弘前市にある大森勝山遺跡では、1000を超える石で77基の組石を配置し、環状列石を形成しています。この環状列石は紀元前1000年頃のもので、発掘調査により内容が判明した縄文時代（紀元前13,000～紀元前400年）晩期の環状列石の唯一の事例です。この環状列石は岩木山のふもとの高台に位置しています。岩木山とその周辺地域は津軽国定公園の一部となっており、この遺跡から美しい眺めを楽しむことができます。

行き方

この遺跡には、森の中の歩道（階段あり）でも、なだらかなバリアフリーの道でも行くことができます。森の中の歩道は、クリの木やその他の果樹の中を抜けていきます。こういった木々が、この地域に定住した先史時代の人々に食料を提供したのでしょう。いずれの道も、岩木山を望む開けた場所に出ます。

環状列石は、人工的に作られた盛土の上にある空き地の中心にあります。環状列石の中心からは、岩木山をはっきり見ることができます。

岩木山と環状列石の位置

岩木山は、富士山に似た形の成層火山です。両斜面はなだらかで、左右対称です。岩木山は地元で信仰の対象となっており、その頂上には神社があります。冬至には、岩木山の頂上に日が沈み、ちょうど環状列石と一直線に並びます。これは、この地域に暮らしていた先史時代の人々にとって岩木山が特別な意味を持っていたことを示しています。

信仰の場としての環状列石

祭祀が行われていた他の遺跡で見つかったものと一致する考古学的発見が示しているのは、この環状列石が信仰の場だった、ということです。この遺跡の随所で、石の棒、円盤状の石、土偶が発掘されています。

竪穴建物の痕跡

この開けた土地の一番奥では、円形の竪穴建物（直径 13m）があった痕跡が発見されています。その大きさと、これがこの遺跡で発見された唯一の竪穴建物であることから、考古学者たちは、この建物は祭祀が行われる集落の中心として機能していたと考えています。

出土品と関連遺跡

大森勝山遺跡周辺で発見された出土品は、この遺跡から車で 10 分の弘前市裾野地区体育文化交流センター [\[リンク\]](#) のロビーに展示されています。また、この地域の他の遺跡からの出土品とともに、弘前市立博物館 [\[リンク\]](#) にも一部展示されています。

北日本で祭祀が行われていた他の遺跡には、小牧野遺跡 [\[リンク\]](#)（青森）、伊勢堂岱遺跡 [\[リンク\]](#)（秋田）、大湯環状列石 [\[リンク\]](#)（秋田）などがあります。

【タイトル】 是川石器時代遺跡（世界遺産）

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

是川石器时代遗址

世界遗产

是川石器时代遗址位于新井田川岸边的一处台地上，是青森县南部八门市三处相邻考古遗址的总称。三处遗址分别为中居遗址（公元前 1000 年-前 300 年）、堀田遗址（公元前 3000 年-前 2000 年）和一王寺遗址（公元前 4000 年-前 2000 年）。考古调查从这些遗址中发现了土坑墓、储藏坑、半地穴式房屋等遗存，以及大量漆器。八门市埋藏文化财中心·是川绳文馆以主题展的形式展示遗址出土文物，介绍日本北部史前聚落的生活与手工技艺。

中居遗址

中居遗址出现在绳文时代（公元前 13,000 年-前 400 年）末期，人们在此生活了约 700 年。遗址中心的高台上发现了一组日晷状的石组，这里被认为是祭祀场所。在高台的东、西两面，已确认多处土坑墓；南、北两侧则是低湿地带，湿地内出土了大量的石器、木器、陶器、漆器，以及核桃壳、栗子壳等。此外，在高台的北缘还发现了半地穴式房屋遗存。

中居遗址——植物和聚落生活

通过对遗址现存植物种子、土内花粉分析，以及对木器、漆器等调查研究，考古学家基本把握了当年这处聚落周围生长的植物种类和史前居民对它们的利用方法。核桃树与马栗树为聚落提供了食物和修建半地穴式房屋、制作木质物品所需的木料；漆树的树汁用来精炼大漆；西南卫矛木质地柔韧，适合制弓。有证据显示，聚落居民已经对周边土地有意识地加以维护管理，以确保植物持续生长。

中居遗址——陶器和漆器

在中居遗址的发掘过程中出土了许多装饰精美的陶器和精致的漆器。从这些文物中可以看出，当时的聚落居民已经熟练掌握制陶和漆器工艺，并拥有高度发达的设计水准。因为这些陶器出土于青森县北部地区的龟冈石器时代遗址，故被叫做“龟冈式”。龟冈式陶器体现了绳文时代末期日本北部特有的美学风格，在诸如东京国立博物馆、大英博物馆、大都会艺术博物馆等的许多世界顶级博物馆中都有收藏。

八戸市埋藏文化財中心·是川繩文館，主要展出中居遺址和位於附近新井田川對岸的風張 1 號遺址（公元前 2000 年-前 1000 年）的出土文物。館內藏品包含數百件國家指定重要文化財產，此外還有一尊被指定為國寶的坐姿合掌實心土偶（陶偶）。

堀田遺址

堀田遺址比中居遺址早了 2000 年左右。除了陶器之外，考古學家還在這裡發現了數處可能是用於存放堅果的儲藏坑，以及半地穴式房屋遺存。遺址出土的陶器均為闊口、錐底，裝飾紋樣誇張醒目，但沒有中居遺址出土器物的精美複雜。八戸市博物館內展出了部分堀田遺址陶器。

一王寺遺址

一王寺遺址是三個遺址中最大、最古老的一處，它比中居遺址早大約 3000 年。考古學家在這裡發現了半地穴式房屋遺存和大量陶器。埋在地下的陶器殘片層最厚處可達 1.5 米。這些土層內埋着魚骨、動物骨骸，以及用動物的骨頭和角制成的魚鈎和梳子等器具。一王寺遺址出土的陶器器型瘦高，呈圓筒形，表面飾有繩紋（日語寫作“繩文”），但裝飾的複雜程度不如堀田遺址和中居遺址出土的陶器。八戸市博物館內展出大量一王寺遺址的出土文物。

八戸市埋藏文化財中心·是川繩文館

八戸市埋藏文化財中心·是川繩文館展出多件精美的“龜岡式”陶器。展品中還包括陶器、土偶、珠串、裝飾品，以及上過漆的弓、籃子等工具。放映廳內播放介紹日本史前生活的影片。此外，這裡還有手工藝體驗工房和紀念品商店。館內提供英文信息，現場下載“Pocket Curator” APP 可獲取包括中文簡、繁體在內的多語言信息。

相關遺址

“世界遺產·日本北部繩文遺跡群”之中有好幾處都位於青森縣境內：龜岡石器時代遺址【[鏈接](#)】、小牧野遺址【[鏈接](#)】、三內丸山遺址【[鏈接](#)】、二森貝冢【[鏈接](#)】。附近的岩手縣內還有御所野遺址【[鏈接](#)】，可與是川石器時代遺址一併參觀。

<繁體字>

是川石器時代遺址

世界遺產

是川石器時代遺址位於新井田川岸邊的台地上，是青森縣南部八戸市三處相鄰考古遺址的總稱。這三處遺址分別為中居遺址（西元前 1000 年-前 300 年）、堀田遺址（西元前 3000 年-前 2000 年）和一王寺遺址（西元前 4000 年-前 2000 年）。考古調查從這些遺址中

發現了土坑墓、儲藏坑、豎穴式房屋等遺存，以及大量漆器。八戶市埋藏文化財中心·是川繩文館以主題展的形式展示遺址出土文物，介紹日本北部史前聚落的生活與手工技藝。

中居遺址

中居遺址是繩文時代（西元前 13,000 年-前 400 年）末期的遺址，人們在此生活了約 700 年之久。遺址中心的高台上發現了一組日晷狀的石組，據推測是祭祀場所。在高台的東、西兩面，已確認多處土坑墓；南、北兩側則是低濕地帶，濕地內出土了大量的石器、木器、陶器、漆器，以及核桃殼、栗子殼等。此外，在高台的北緣還發現了豎穴式房屋遺存。

中居遺址——植物和聚落生活

透過對遺址現存植物種子、土內花粉分析，以及對木器、漆器等的調查研究，考古學家基本把握了當年這處聚落周圍生長的植物種類以及史前居民對這些自然資源的利用方法。核桃樹與馬栗樹為聚落提供了食物和修建豎穴式房屋、製作木質物品所需的木料；漆樹的樹汁用來精煉大漆；西南衛矛木質地柔韌，正適合製作弓。有證據顯示，聚落居民已經有意識地維護管理周邊土地以維持地力，確保植物持續生長。

中居遺址——陶器和漆器

在中居遺址的發掘過程中出土了許多裝飾精美的陶器和精緻的漆器，顯示當時的聚落居民已經熟練掌握製陶和漆器工藝，並擁有高度發達的設計水準。因為這些陶器出土自青森縣北部地方的龜岡石器時代遺址，故被稱為「龜岡式」。龜岡式陶器體現了繩文時代末期日本北部特有的美學風格，諸如東京國立博物館、大英博物館、大都會藝術博物館等的許多世界頂級博物館都有收藏。

八戶市埋藏文化財中心·是川繩文館，主要展出中居遺址和位於附近新井田川對岸的風張 1 號遺址（西元前 2000 年-前 1000 年）的出土文物。館內藏品包含數百件國家指定重要文化財產，更有一尊被指定為國寶的坐姿合掌實心土偶（陶偶）。

堀田遺址

堀田遺址比中居遺址存續年代早了 2000 年左右。除了陶器之外，考古學家還在這裡發現了數處可能是用於存放堅果的儲藏坑，以及豎穴式房屋遺存。遺址出土的陶器均為闊口、錐底，裝飾紋樣誇張醒目，但不如中居遺址出土器物精緻複雜。在八戶市博物館內可一睹部分堀田遺址陶器的風采。

一王寺遺址

一王寺遺址是三個遺址中最大、最古老的一處，它比中居遺址年代早了大約 3000 年。考古學家在這裡發現了豎穴式房屋遺存和大量陶器。埋在地下的陶器殘片層最厚處可達 1.5 公尺。這些土層內埋著魚骨、動物骨骸，以及用動物的骨頭和角製成的魚鉤和梳子等器具。一王寺遺址出土的陶器器型瘦高，呈圓筒形，表面飾有繩紋（日語寫作「繩文」），

但裝飾的複雜程度不如堀田遺址和中居遺址出土的陶器。八戸市博物館內展出大量一王寺遺址的出土文物。

八戸市埋藏文化財中心・是川繩文館

八戸市埋藏文化財中心・是川繩文館展出多件精美的龜岡式陶器。展品中還包括陶器、土偶、珠串、裝飾品，以及上過漆的弓、籃子等工具。展間內播放介紹日本史前生活的影片。此外，這裡還有手工藝體驗作坊和紀念品商店。館內提供英文資訊，現場下載「Pocket Curator」APP 可獲取包括中文簡、繁體在內的多種語言版本資訊。

相關遺址

「世界遺產・日本北部繩文遺跡群」之中有好幾處都位於青森縣境內：龜岡石器時代遺址【[連結](#)】、小牧野遺址【[連結](#)】、三内丸山遺址【[連結](#)】、二森貝塚【[連結](#)】。附近的岩手縣內還有禦所野遺址【[連結](#)】，可與是川石器時代遺址一併參觀。

<日本語仮訳>

是川石器時代遺跡

世界遺産

是川石器時代遺跡は、新井田川の近くの台地上に位置しており、青森県南部の八戸にある3つの隣接する遺跡の総称です。この遺跡は、中居遺跡（紀元前1000年～紀元前300年）、堀田遺跡（紀元前3000年～紀元前2000年）、一王寺遺跡（紀元前4000年～紀元前2000年）から構成されています。これらの遺跡の調査によって、土坑墓、貯蔵穴、土器、竪穴建物の跡および大量の漆器が発掘されました。出土品は、八戸市埋藏文化財センター是川繩文館でテーマ別に展示されており、北日本の先史時代の暮らしや技術が紹介されています。

中居遺跡

中居遺跡には、縄文時代（紀元前13,000年～紀元前400年）晩期に、700年間にわたって人が暮らしていました。この遺跡の中心には高台があり、日時計のような配石が見つっています。この場所は、祭祀の場として機能していたと考えられます。この高台の東と西では、多くの土坑墓が確認されており、高台の南と北には低湿地帯があります。この湿地帯からは、石器、木器、土器、漆器、さらにクルミの殻やクリの皮が見つっています。高台の北端では、竪穴建物の跡が発見されています。

中居遺跡の植物と暮らし

考古学者たちは、遺跡に残された種子の研究や土壌の花粉の分析、木器や漆器の調査を行いました。その結果、この集落に生育していた植物が明らかになり、それらがどのように使われていたのかが解明されました。クルミの木やトチノキの木は食料に、そして竪穴建物や木製品の材料になっていました。漆の木から樹液を取り、それを精製して漆が作られました。柔軟性のあるマユミの木は、弓の材料

になっていました。集落の住人は、これらの植物を使い続けられるよう、この遺跡周辺の土地を管理していたことも分かっています。

中居遺跡の土器と漆器

中居遺跡の発掘により、精巧な装飾の土器や手の込んだ漆器が数多く出土しました。これら遺物は、土器と漆器の高度な技術に通じていたことを示すものであり、デザインのセンスが非常に発達していたことが分かります。これらは「亀ヶ岡式」と呼ばれ、北部日本の縄文時代晩期の美学的特徴となっています。「亀ヶ岡」という言葉は、青森県北部の亀ヶ岡石器時代遺跡で発見された土器に由来します。東京国立博物館、大英博物館、メトロポリタン美術館など、世界の代表的な博物館・美術館の多くが、亀ヶ岡式土器を所蔵しています。

八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館では、主に中居遺跡と、近くの新井田川の対岸にある風張 1 遺跡（紀元前 2,000～1,000 年）から出土した土器を展示しています。所蔵品には、数百点の重要文化財と、国宝に指定されている座った姿の合掌土偶が含まれています。

堀田遺跡

堀田遺跡は、中居遺跡より 2,000 年ほど前の遺跡です。考古学者たちはここで土器、木の実を貯蔵していたと考えられるいくつかの穴および竪穴建物の跡を発掘しました。見つかった土器の多くは口が広く、底に向かって先細になっています。装飾的で、通常大胆な模様が施されていますが、中居遺跡から出土した、より後期の土器のような出来栄や複雑さは見られません。この遺跡から出土した土器の一部は、八戸市博物館に展示されています。

一王寺遺跡

一王寺遺跡は、3 つの遺跡の中で最も古く、最も大きな遺跡です。この遺跡は、中居遺跡より 3,000 年ほど前のものです。考古学者たちは、この遺跡から、竪穴建物の跡や大量の土器を発見しました。最も厚いところで 1.5m に達する土器片の層が、地中に埋まった状態で発見されています。これらの層には、魚や動物の骨、また骨や角から作られた釣り針・櫛などの道具も含まれていました。この遺跡から出土した土器は、長い円筒形をしています。これらの土器には縄の文様があるものの、堀田遺跡や中居遺跡から出土した土器よりも装飾性は低くなっています。八戸市博物館では、一王寺遺跡からの出土品を多数展示しています。

八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館

亀ヶ岡式土器の優れた例の多くは、八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館に展示されています。出土品には、土器、土偶、ビーズ、装飾品および漆を塗った弓や籠といった道具などがあります。シアターでは、先史時代の日本の暮らしを紹介するビデオを上映しています。また、工芸体験ができ、土産物を販売するショップもあります。情報は英語で提供されており、「ポケット学芸員」というアプリを使えば、中国語（簡体字・繁体字）を含めた多言語でも利用できます。このアプリは、現地でダウンロードできます。

関連遺跡

「世界遺産 北海道・北東北の縄文遺跡群」のうち、亀ヶ岡石器時代遺跡 [\[リンク\]](#)、小牧野遺跡 [\[リンク\]](#)、三内丸山遺跡 [\[リンク\]](#) およびニツ森貝塚[\[リンク\]](#)を含む複数の遺跡は、青森県にあります。近くの岩手県にある御所野遺跡 [\[リンク\]](#) にも、是川石器時代遺跡と併せて立ち寄ると良いでしょう。

【タイトル】 田小屋野貝塚（世界遺産）

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

田小屋野贝冢

世界遗产

青森县的田小屋野贝冢位于一处可俯瞰津轻平原的内陆台地上，距日本海数公里之遥。从出土的陶器残片和人类遗骸判定，此处遗址的历史可以追溯到公元前 4000 年～前 2000 年之间。考古调查已在这里发现了贝冢、贝壳手环、鲸骨打磨的工具，以及半地穴式房屋遗存。

贝冢

典型的贝冢大多由丢弃的贝壳和动物骨骸堆积而成，它们常见于近海聚落的遗址、靠近海岸线的一侧。贝冢能够帮助我们了解史前人们的饮食习惯、谋生方式，以及沿海自然环境在 1 万年里发生的变化。

田小屋野贝冢的考古发现

田小屋野贝冢几乎完全由日本蚶(*Corbicula japonica*)壳构成。显然，这种贝类是当时此处遗址聚落居民的重要食物来源。日本蚶生活在半咸水环境中，该事实表明，在史前人类居住在此处时，田小屋野贝冢应该面向一个海岸潟湖（潟，音同“细”），而这个潟湖很可能就是如今位于数公里开外的十三湖，史前它可能向南一直延伸到了田小屋野贝冢。

人类遗骸

在田小屋野贝冢的一处半地穴式房屋遗存里，发现了一具埋葬于贝壳层中的人类遗骸。调查研究和放射性碳元素测定结果判定，该骨骸是一位成年女性，生活在大约 6000 年前。

贝壳手环与商业贸易

在田小屋野贝冢的出土文物中，有一类使用津轻半岛西海岸的贝壳制成的手环。人们在这里发现了未经加工的贝壳原料、加工程度不一的半成品，以及成品手环，可见贝壳手环应该是本地产品。鉴于北海道南部多处遗址出土了同样的贝壳手环，而在田小屋野贝冢也发掘出了来自北海道的黑曜石工具，由此可以推测，当年的田小屋野贝冢居民可能用手环与北海道南部地区的聚落进行贸易。

出土文物及相关遗址

田小屋野貝冢的出土文物在位于津轻市的绳文住居展示资料馆和木造龟冈考古资料室展出。在这里还能看到来自龟冈石器时代遗址【链接】和附近其他几处遗址的文物。龟冈石器时代遗址距田小屋野貝冢约 5 分钟步程。此外，青森县内另有三内丸山遗址【链接】、小牧野遗址【链接】和大平山元遗址【链接】等。

<繁体字>

田小屋野貝塚

世界遺產

青森縣的田小屋野貝塚位於一處可俯瞰津輕平原的內陸台地上，距日本海數公里之遙。從出土的陶器殘片和人類遺骸判定，這處遺址的歷史可以追溯到西元前 4000 年～前 2000 年之間。目前考古調查出土的文物有貝塚、貝殼手環、鯨骨打磨的工具，以及豎穴式房屋遺存。

貝塚

典型的貝塚大多由丟棄的貝殼和動物骨骸堆積而成，它們常見於近海聚落的遺址、靠近海岸線的一側。貝塚具有相當高的研究價值，能幫助今日的考古學家瞭解史前人們的飲食習慣、謀生方式，以及沿海的自然環境在 1 萬年裡發生的變化。

田小屋野貝塚的考古發現

田小屋野貝塚幾乎完全由日本蜆（*Corbicula japonica*）殼構成，可見日本蜆是當時這處遺址聚落居民的重要食物來源。日本蜆生活在半鹹水環境中，該事實表明，史前人類居住在此處時，田小屋野貝塚應該面向一個海岸潟湖（潟，音同「細」），而這個潟湖很可能就是如今位於數公里開外的十三湖，據推測史前它可能向南一直延伸到了田小屋野貝塚。

人類遺骸

在田小屋野貝塚的一處豎穴式房屋遺存裡，出土了一具埋葬於貝殼層中的人類遺骸。調查研究和放射性碳元素測定結果判定，該骨骸是一位成年女性，生活在大約 6000 年前。

貝殼手環與商業貿易

在田小屋野貝塚的出土文物中，有一類是使用津輕半島西海岸的貝殼製成的手環。人們在這裡發現了未經加工的貝殼原料、加工程度不一的半成品，以及成品手環，可見貝殼手環是本地製品。鑒於北海道南部多處遺址出土了同樣的貝殼手環，而在田小屋野貝塚則發現了來自北海道的黑曜石工具，考古學家進一步推斷，當年的田小屋野貝塚居民可能是以貝殼手環與北海道南部地區的聚落進行貿易。

出土文物及相關遺址

田小屋野貝塚的出土文物在位於津輕市的繩文住居展示資料館和木造龜岡考古資料室展出。在這裡還能看到來自龜岡石器時代遺址【連結】和附近其他幾處遺址的文物。龜岡

石器時代遺址距田小屋野貝塚約 5 分鐘歩程。此外、青森縣内另有三内丸山遺址【連結】、小牧野遺址【連結】和大平山元遺址【連結】等。

<日本語仮訳>

田小屋野貝塚

世界遺産

青森の田小屋野貝塚は、日本海から数 km 内陸に入った、津軽平野を見下ろす台地に位置しています。ここで発見された土器片と人骨から、この遺跡は紀元前 4000～2000 年頃のものと考えられます。考古学的調査により、貝塚、貝殻から作られた腕輪、クジラの骨から作られた道具、および竪穴建物跡が発掘されました。

貝塚

典型的な貝塚は、捨てられた貝殻や動物の骨からできています。貝塚は通常、海岸に面していたと思われる遺跡の海側で見つかります。貝塚から、先史時代の人々の食習慣や生活手段が見えてきます。また、過去 1 万年の間に海岸の環境がどう変わってきたのかを示しています。

田小屋野貝塚の貝塚からの発見

田小屋野貝塚の各貝塚は、ほぼヤマトシジミ（学名：Corbicula japonica）の貝殻だけでできています。このことが示すのは、この遺跡に住んでいた人々にとってヤマトシジミが重要な食料源だったということです。ヤマトシジミは汽水域に生息するため、田小屋野貝塚に人が住んでいた時期の田小屋野貝塚は、潟湖に面していたことが分かります。数 km 離れた場所にある潟湖の十三湖が、かつては田小屋野貝塚まで南に広がっていたと考えられます。

人骨

田小屋野貝塚の竪穴住居跡では、貝層に埋まった人骨が見つかっています。調査により、人骨は成人女性のものであることが分かりました。放射性炭素年代測定法の結果、この女性はおよそ 6,000 年前に生きていたことが判明しました。

貝殻の腕輪と交易

田小屋野貝塚で出土したもののうち、津軽半島の西海岸沿いで見つかった貝殻から作られたバングルのような腕輪があります。田小屋野貝塚では、未加工の貝殻や、様々な製作段階の腕輪が発見されており、腕輪がここで製作されていたことが分かります。田小屋野貝塚の住人は腕輪を使って、北海道南部の集落と交易を行っていたのでしょう。北海道南部の遺跡では、腕輪の完成品が複数発掘されており、田小屋野貝塚では北海道産の黒曜石の道具が見つかっています。

出土品と関連遺跡

田小屋野貝塚からの出土品は、つがる市の縄文住居展示資料館と、木造亀ヶ岡考古資料室に展示されています。亀ヶ岡石器時代遺跡 [\[リンク\]](#) と、近隣の他の遺跡からの出土品も展示されています。亀ヶ岡石器時代遺跡は、田小屋野貝塚から徒歩 5 分の距離にあります。青森県内のその他の遺跡には、三内丸山遺跡 [\[リンク\]](#)、小牧野遺跡 [\[リンク\]](#)、および大平山元遺跡 [\[リンク\]](#) などがあります。

【タイトル】 亀ヶ岡石器時代遺跡（世界遺産）

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

龟冈石器时代遗址

世界遗产

在龟冈石器时代遗址（约公元前 1000 年）的考古发掘中，出土了一些绳文时代（公元前 13,000 年-前 400 年）最知名的陶器。这些文物表明，当时的人们已经掌握了先进的制陶工艺，设计水平也高度发达。因这处遗址出土的陶器而诞生的“龟冈式”一词，更是代表了绳文时代晚期日本北部的一种陶器风格，诸如东京国立博物馆、大英博物馆、美国纽约大都会艺术博物馆等许多世界顶级的博物馆都收藏了龟冈式陶器。

艺术与精神世界

考古发掘在这里发现了大量土坑墓和祭祀用的陶器。此外，土坑墓和遗址各处也出土了种类丰富的手工制品，包括烧制的陶器、抛光的玉珠、漆器、植物纤维编织品，以及仿佛戴着巨大遮光眼镜、佩有精美头部装饰的中空土偶（陶偶）——被指定为国家重要文化财产的“遮光器土偶”。从这类富于装饰性的供奉品和陪葬品可以看出，绳文时代晚期的日本已经进化到了一个拥有繁杂的祭奠仪式和成熟精神世界的社会。

多聚落共享的墓葬地

在公元前 1500 年～前 400 年之间，墓地渐渐被迁移到居住区域外，同时也从祭祀场所中独立出来，成为多个聚落共用的区域。与此前的大型聚落（公元前 3000 年-前 2000 年）相比，这个时期的聚落规模越来越小，也更趋分散，墓地也因此逐步发展为共用的模式。龟冈石器时代遗址被认为是多个聚落共享的墓地，也是绳文时代晚期独立墓地的典范。

相关遗址

龟冈石器时代遗址内设有说明板，还有一个大型遮光器土偶像。田小屋野贝冢【[链接](#)】就在附近，步行 5 分钟即可抵达。津轻市的绳文住居展示资料馆【[链接](#)】和木造龟冈考古资料室【[链接](#)】内陈列着来自龟冈石器时代遗址和本地其他绳文时代遗址的出土文物。在更远一些的八户市，八户市埋藏文化财中心·是川绳文馆【[链接](#)】主要展出是川石器时代遗址出土的龟冈式陶器。

<繁体字>

龜岡石器時代遺址

世界遺産

龜岡石器時代遺址（約西元前 1000 年）出土了一些繩文時代（西元前 13,000 年-前 400 年）最知名的陶器，這些文物顯示了當時的先民已經掌握先進的製陶工藝，設計也頗具水準。因這處遺址出土的陶器而誕生的「龜岡式」一詞，更代表了繩文時代晚期日本北部的一種陶器風格，諸如東京國立博物館、大英博物館、美國紐約大都會藝術博物館等許多世界頂級的博物館都收藏了龜岡式陶器。

藝術與精神世界

龜岡石器時代遺址的考古發掘出土了大量土坑墓和祭祀用的陶器。此外，土坑墓和遺址各處也發現了種類豐富的手工製品，包括燒製的陶器、拋光的玉珠、漆器、植物纖維編織品，以及仿佛戴著巨大遮光眼鏡和精美頭部裝飾的中空土偶（陶偶）——被指定為國家重要文化財的「遮光器土偶」。從這類富於裝飾性的供奉品和陪葬品推測，繩文時代晚期的日本已經進化到了一個擁有繁雜的祭奠儀式和成熟精神世界的社會。

多聚落共用的墓葬地

在西元前 1500 年～前 400 年之間，墓地漸漸被遷移到居住區域外，同時也從祭祀場所中獨立出來，成為多個聚落共用的區域。與此前的大型聚落（西元前 3000 年-前 2000 年）相比，這個時期的聚落規模越來越小，也更趨分散，墓地也因此逐步發展為共用的模式。龜岡石器時代遺址被認為是多個聚落共用的墓地，也是繩文時代晚期獨立墓地的典型代表。

相關遺址

龜岡石器時代遺址內設有解說告示牌，還有一個大型遮光器土偶像。田小屋野貝塚【[連結](#)】在附近步行 5 分鐘即可抵達。津輕市的繩文住居展示資料館【[連結](#)】和木造龜岡考古資料室【[連結](#)】內陳列著來自龜岡石器時代遺址和當地其他繩文時代遺址的出土文物。在稍遠的八戶市，八戶市埋藏文化財中心・是川繩文館【[連結](#)】主要展出是川石器時代遺址出土的龜岡式陶器。

<日本語仮訳>

亀ヶ岡石器時代遺跡

世界遺産

亀ヶ岡石器時代遺跡（紀元前約 1,000 年）の発掘調査では、縄文時代（紀元前 13,000 年～紀元前 400 年）の最も有名な土器が発見されました。これらの出土品から、当時の人々が高度な土器の製作技術に通じ、デザインのセンスが非常に発達していたことがわかります。この遺跡で発見された陶器が由来の「亀ヶ岡式」とは、北部日本で縄文時代後半に作られた陶器を指す言葉です。東京国立博物館、大英博物館、メトロポリタン美術館など、世界の代表的な博物館・美術館の多くが、亀ヶ岡式土器を所蔵しています。

芸術と精神性

発掘調査の結果、土坑墓や祭祀用の土器が集中して見つかりました。焼けた土器、光沢のあるヒスイ玉、漆器、食物繊維で編んだ品、精巧な頭飾りを付けた眼鏡をかけているような大きな目を持つ中空土偶「遮光器土偶」など、土坑墓や遺跡の随所から多種多様な遺物が見つっています。「遮光器土偶」は国の重要文化財に指定されました。このような装飾品が供物や副葬品として埋められていたことは、縄文晩期の社会が、複雑な祭祀を行う発達した精神世界を持つ進化した社会であったことを示唆しています。

複数の集落の共同墓地

紀元前 1,500 年～紀元前 400 年、墓地はそれぞれの集落の外に作られ、複数の集落で共有されるようになりました。またその場所は、祭祀の場とは分けられるようになりました。かつての拠点集落（紀元前 3,000 年～紀元前 2,000 年）と比べて規模が小さく分散型になるにつれて、そのような発展を遂げたのです。亀ヶ岡石器時代遺跡は複数の集落が共同で使用していたと考えられており、縄文時代末期の独立型墓地の例となっています。

関連遺跡

亀ヶ岡石器時代遺跡には、複数の案内板と、大きな「遮光器土偶」の像があります。近くの田小屋野貝塚 [\[リンク\]](#) は、歩いて 5 分の距離です。つがる市の縄文住居展示資料館 [\[リンク\]](#) と、木造亀ヶ岡考古資料室 [\[リンク\]](#) には、亀ヶ岡石器時代遺跡およびこの地域にある他の縄文遺跡からの出土品が展示されています。かなり離れた八戸には、八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 [\[リンク\]](#) があり、是川石器時代遺跡で発見された亀ヶ岡式土器が展示されています。

【タイトル】大平山元遺跡（世界遺産）

【想定媒体】WEB

<簡体字>

大平山元遺址

世界遺產

此处位于青森县北部津轻半岛的史前遗址，除了石器，还出土了日本最古老的陶器。这些文物展示了史前日本北部人类生活在旧石器时代末期的变化，以及绳文时代（公元前13,000年-前400年）初期的定居情况。

出土石器及其启示

大平山元遗址出土的石器包含石斧、刀状刃具、剥动物皮或削木用的刮刀，以及很可能是用于捕猎的尖锐器具。石器的形状各异，大小不一，既有较大、较基础的常规工具，也不乏一些更具备技术含量的工具，例如捕猎鹿等行动迅敏的动物时使用的精巧刃具和箭簇。

大多数石器都使用板岩制作，原材料应该在本地河岸即可获取。对于出土石器的分析显示，石器加工工艺多样，其中也有与北海道及日本中部（关东地区）史前遗址相关的地方性工艺。从石器和工艺多元化上即可看出，本地聚落在当时已经与其他地区或聚落交流频繁。

陶器与生活形态的转变

大平山元遗址出土的陶器残片是世界上已知最古老的同类文物之一。在几片被认为是属于同一器具的陶片上，人们发现了已经碳化的残留物。碳元素测定结果显示，它们大致出自公元前13,000年，比欧洲和近东（地中海东部沿岸）地区使用陶器的时间早了数千年。

顾名思义，绳文时代的“绳文”（绳状纹路）二字描述的便是这一时期陶器的特征。然而，在大平山元遗址发现的陶器残片上却没有任何纹饰。这类陶器很可能只是单纯用于烹饪等基本功能。陶器不易运输，它的出现与人类定居生活关系密切。大平山元遗址的陶片是绳文时代最早期的产物，这意味着当时日本的史前人类已经开始走向定居式的生活。

出土文物展示

大平山元遗址出土的陶器残片和石器均收藏于外滨町大山故乡资料馆【[链接](#)】内。资料馆的前身是一所小学，与遗址隔路相望。资料馆免费开放，部分基本信息提供英文版本。

相关遗址

津轻半岛上有龟冈石器时代遗址【[链接](#)】、田小屋野贝冢【[链接](#)】等多处史前遗址，前者出土了日本绳文时代最精美的陶器。参观以上遗址及日本北部其他遗址，可以了解更多有关绳文时代的信息及各大史前聚落的发展变迁情况。

<繁体字>

大平山元遗址

世界遺產

大平山遗址是位於青森縣北部津輕半島的史前遗址，這裡出土了石器和日本最古老的陶器。透過這些文物可以瞭解到，舊石器時代末期日本北部史前人類生活的變遷，以及繩文時代（西元前 13,000 年-前 400 年）早期定居型態的萌芽與發展。

出土石器及其啟示

大平山元遗址出土的石器包含石斧、刀狀刃具、剝動物皮或削木用的刮刀，以及很可能是用於捕獵的尖銳器具。石器的形狀各異，大小不一，既有比較大型的常見工具，也不乏一些更具備技術含量的工具，例如捕獵鹿等行動迅敏的動物時使用的精巧刃具和箭簇。

大多數石器都使用板岩製作，製作材料應該在當地河岸即可取得。透過對出土石器的分析顯示，當時加工石器的工藝來源多樣，不僅有北海道當地的技法，也有與日本中部（關東地區）史前遗址相關的地方性工藝。從石器和工藝的多元化上透露出，該聚落在當時已經與其他地區交流頻繁。

陶器與生活形態的轉變

大平山元遗址出土的陶器殘片是世界上已知最古老的同類文物之一。在幾片被認為是屬於同一器具的陶片上，發現了碳化的殘留物。經碳元素測定結果顯示，這些陶片大致製作於自西元前 13,000 年，比歐洲和近東（地中海東部沿岸）地區使用陶器的時間早了數千年。

繩文時代的「繩文」（繩狀紋路）便說明了這一時期陶器的特徵。然而，在大平山元遗址發現的陶器殘片上卻沒有任何紋飾。這類陶器很可能只是單純用於烹飪等實用功能。由於陶器不易運輸，因此它與人類定居生活方式關係密切。大平山元遗址的陶片是繩文時代最早期的陶器，這標誌著當時日本的史前人類已經開始走向定居式的生活。

出土文物展示

大平山元遗址出土的陶器殘片和石器均收藏於外濱町大山故鄉資料館【[連結](#)】內。資料館的前身是一所小學，與遗址隔路相望。資料館免費開放，部分基本資訊提供英文版本。

相關遗址

津軽半島上有龜岡石器時代遺址【[連結](#)】、田小屋野貝塚【[連結](#)】等多處史前遺址，前者出土了日本繩文時代最精美的陶器。參觀以上遺址及日本北部其他遺址，可以瞭解更多有關繩文時代的資訊及各大史前聚落的發展變遷情況。

<日本語仮訳>

大平山元遺跡

世界遺産

青森県北部の津軽半島にあるこの先史時代の遺跡では、石器に加えて、日本最古の土器が出土しました。ここで発掘された遺物は、先史時代の北日本の人々の暮らしが旧石器時代の終わりにどう変化し、縄文時代（紀元前 13,000 年～紀元前 400 年）の幕開けとともにどのように定住化していったのかを示しています。

石器が私たちに教えてくれること

大平山元遺跡で出土した石器には、斧、ナイフのような刃物、動物の皮を剥いたり木を細工したりするための搔器、狩猟に使われたと思われる先の尖った石器などがあります。これらの石器は、より大型で初歩的な道具から、シカなどの動きが速い動物を狩る目的で作られた、技術的により洗練された刃物や矢じりまで、形も大きさもさまざまです。

道具のほとんどは粘板岩から作られています。粘板岩は、近くの川で入手できたと考えられます。道具を分析したところ、北海道や中部日本（関東）の先史時代の遺跡と関連性を持つ地域色のある技術など、多様な石造技術が用いられていたことが分かりました。石器や技法の多様性は、他の地域や集落とかなりの交流があったことを示唆しています。

土器、および新しい生活様式への移行

大平山元遺跡で見つかった土器片は、世界で最も古い時期のもので、同一の土器のものとされる少量の土器片には、炭化残留物があることが分かりました。これらの土器片の炭素年代測定を行ったところ、紀元前 13,000 年という結果が出ています。これは、欧州や近東で土器が使われる数千年前です。

「縄文時代」という名は、この時代の典型的な土器の特徴である「縄文様」に由来します。しかし、大平山元遺跡で見つかった土器片には文様がありません。元々この土器は調理など、純粋に実用的な機能を果たしていたと考えられます。土器は容易には運搬できないため、土器の出土は、より定住型の暮らしに移行したことを示しています。大平山元遺跡から出土した土器片は、縄文時代のごく初期のもので、この時期から、日本の先史時代の人々はより定住型の生活を営み始めました。

出土品が見られる場所

土器片や石器は、外ヶ浜町大山ふるさと資料館 [[リンク](#)] に展示されています。この資料館は、大平山元遺跡から道路をはさんで向かい側にあり、以前は小学校だった建物です。入館は無料です。基本情報の一部は英語で提供されています。

関連遺跡

津軽半島には、亀ヶ岡石器時代遺跡 [\[リンク\]](#) や田小屋野貝塚 [\[リンク\]](#) など、多くの先史時代の遺跡があります。亀ヶ岡石器時代遺跡では、最も精巧な縄文土器が出土しています。縄文時代について、またこれらの遺跡や北日本の他の遺跡で見られる先史時代の集落の発展について、さらに詳しく見ていきましょう。

【タイトル】 二ツ森貝塚（世界遺産）

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

二森贝冢

世界遗产

在位于青森县小川原湖以西几公里开外的二森贝冢遗址上，分布着好几处公元前 3500 年～前 2000 年的史前人类聚落。二森贝冢是青森县已知最大规模的贝冢，遗址内现已发现近 150 处半地穴式房屋遗存和几处贝冢。遗址现场复原了两处半地穴式房屋，并在相距不远的二森贝冢馆【链接】展出包括鹿角装饰品在内的各类出土文物。

各聚落的规模与布局

停车场附近的观景台可俯瞰遗址全貌，还有一幅图文并茂的地图详细描绘了其中一个聚落的布局。二森贝冢的聚落整体规模较大，不但有墓地、食物储藏坑和贝冢，还特意划分出了堆放废弃陶器、石器及其他物品的专用区域。

环境变化的证据

大约在公元前 3900 年，二森贝冢的下方应该是一个大海湾。千百年过去，海平面下降，海岸线渐渐后退，海湾变成了一个半咸水湖——小川原湖。这种环境变迁可以从贝冢的贝壳类型和分布上窥见一斑，贝冢的下层主要由牡蛎、文蛤及其他海洋贝类的壳组成，上层则出现了日本蚬等半咸水贝类的壳。

觅食活动

除了贝壳之外，贝冢里还有鱼类、天鹅、鸭类、鹿和野猪的骨头，可见打猎、捕鱼和捡拾贝类一样，都是本地聚落居民的日常觅食活动。此外，从不少用来储存栗子的食物储藏坑可以推断，他们也会到树林里采集果实。

相关遗址

日本北部目前已发现的其他聚落遗址还有三内丸山遗址【链接】（青森县）、御所野遗址【链接】（岩手县）、大船遗址【链接】（北海道）等。

<繁体字>

二森貝塚

世界遺產

在位於青森縣小川原湖以西數公里外的二森貝塚遺址上，分布著數處西元前 3500 年～前 2000 年的史前人類聚落。二森貝塚是青森縣已知最大規模的貝塚，遺址內現已發現近 150 處豎穴式房屋遺存和幾處貝塚。遺址現場復原了兩處豎穴式房屋，並在相距不遠的二森貝塚館【連結】展出包括鹿角裝飾品在內的各類出土文物。

各聚落的規模與布局

遊客可以前往停車場附近的觀景台俯瞰遺址全貌，那裡還有一幅圖文並茂的地圖詳細描繪了其中一個聚落的布局。二森貝塚的聚落整體規模頗大，不僅有墓地、食物儲藏坑和貝塚，還特意劃分出了堆放廢棄陶器、石器及其他物品的專用區域。

環境變遷的證據

西元前 3900 年，二森貝塚下方可能是一個大海灣。千百年過去，由於海平面下降，海岸線漸漸後退，海灣變成了一個半鹹水湖——今日的小川原湖。如此環境變遷可以從貝塚的貝殼類型和分布上窺見一斑——下層主要由牡蠣、文蛤及其他海洋貝類的殼組成，上層則出現了日本蜆等半鹹水貝類的殼。

覓食活動

除了貝殼之外，貝塚裡還有魚類、天鵝、鴨類、鹿和野豬的骨頭，可見打獵、捕魚和貝類採集一樣，都是當地聚落居民的日常覓食活動。此外，從不少用來儲存栗子的食物儲藏坑可以推斷，他們也會到樹林裡採集果實。

相關遺址

日本北部目前已發現的其他聚落遺址還有三內丸山遺址【連結】（青森縣）、御所野遺址【連結】（岩手縣）、大船遺址【連結】（北海道）等。

<日本語仮訳>

二ツ森貝塚

世界遺産

青森県小川原湖から数キロ西にある二ツ森貝塚には、紀元前 3,500 年～紀元前 2,000 年にかけて、複数の集落が存在していました。この遺跡は青森県最大規模的貝塚であり、随所、150 近くの豎穴建物跡と、複数の貝塚が見つかりました。2 棟の豎穴建物が復元されており、シカの角から作られた装飾具などの出土品は、近くの二ツ森貝塚館 [リンク] に展示されています。

集落の規模と配置

駐車場付近の展望台からは貝塚を見渡すことができ、地図にはひとつの集落の配置が図解で説明されています。二ツ森貝塚の集落は規模が大きく、墓地、集めた食料を貯蔵する穴、貝塚、さらに土器や石器などの道具を廃棄する場所がありました。

環境が変化した証拠

紀元前 3,900 年頃、ニツ森貝塚は、大きな湾を見下ろす位置にあったと考えられます。何世紀もかけて、海面が下がって海岸線が遠ざかり、湾は汽水湖である小川原湖になりました。これらの環境の変化は、貝塚の中の貝殻の種類と分布に見ることができます。下層には、カキ、ハマグリ、および海に住むその他の貝の殻が含まれています。一方、上層には、ヤマトシジミなど、汽水域に生息する貝の殻が含まれています。

自給自足活動

また、貝塚には、魚、ハクチョウ、カモ、シカ、イノシシの骨も含まれています。これは、この集落の住人は貝類の採集と同時に、狩猟や漁労も行ってたことを示しています。クリを保存するのに使われることの多い貯蔵穴があり、森でも食料の採集を行っていたことを示唆しています。

関連遺跡

北日本で見つかったその他の集落跡には、三内丸山遺跡 [\[リンク\]](#)（青森）、御所野遺跡 [\[リンク\]](#)（岩手）、および大船遺跡 [\[リンク\]](#)（北海道）があります。

【タイトル】 御所野遺跡（世界遺産）

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

御所野遗址

世界遗址

位于岩手县北部的御所野遗址是一处大型聚落，其历史最早可追溯至大约公元前 2500 年。考古学家在遗址内找到了 800 多处半地穴式房屋的遗存。遗址上现设有步道和一座博物馆。

大型聚落

御所野遗址非常有助于人们了解绳文时代（公元前 13,000 年-前 400 年）大型聚落的布局规划。这类聚落大多出现在公元前 3000 年～前 2000 年之间，通常由围绕着中心墓葬区分布的一些特定功能区组成。

考古调查显示，御所野遗址的半地穴式房屋集中在聚落的东、西及中部。遗址正中央是墓葬区，用几堆石组标记了位置。紧邻墓葬区的是一座人工土丘“填土”，出土了大量装饰性的陶器和石器。这类器物的装饰性意味着填土及周围区域很可能是举办祭祀仪式的场所。

自然环境

考古遗址位于一片广阔的台地上，四周森林环绕。进入遗址需要穿过一座悬空的弧形廊桥，桥下是溪流蜿蜒的狭窄山谷。遗址内种植着核桃树、栗树、马栗树和漆树，都是当年聚落周围曾经生长的树木。树旁说明板上介绍了它们当年的用途：漆树汁被收集起来提炼大漆，装饰陶器；坚果类的树木则提供食物、建筑木料和烧火的木柴。

遗址内设有步道通往各处。

半地穴式房屋

遗址内复原了几处半地穴式房屋。通常认为，这种房屋应该是茅葺屋顶，但从御所野遗址焚烧残留物的分析看来，这里部分房屋却是泥土屋顶。

绳文时代的半地穴式房屋大小不一，但通常都会使用 4 根或 6 根立柱来支撑，立柱直接插入椭圆形穴居的地面，屋檐则一直盖到坑穴，仿佛一座遮蔽性很好的掩体。屋内通常有一个火坑，有的还会有类似阁楼的储物空间。

御所野绳文博物馆

御所野绳文博物馆展出御所野遗址和附近其他绳文遗址的出土文物。其中，“发现被烧毁的房屋”展区详细介绍了御所野遗址发掘工作以及绳文半地穴式房屋构造等细节。在展厅的玻璃地板下，是一处 4200 年前的半地穴式房屋的焚烧残迹。“御所野绳文世界”展厅内主要陈列遗址出土的陶器和石器，并使用光雕投影技术介绍史前御所野聚落的生活。二楼还有第三个展厅，主要展出装饰性极强的“龟冈式”陶器。

博物馆提供英文介绍，并开设绳文主题的编织、陶器制作、饰品加工等体验工房。博物馆收取少许入场费。

相关遗址

已知的同时期聚落遗址，还有大船遗址【[链接](#)】（北海道）和日本最大绳文时代考古遗址之一的三内丸山遗址【[链接](#)】（青森县）。

<繁体字>

御所野遗址

世界遗址

位於岩手縣北部的御所野遺址是一處大型聚落，其歷史最早可追溯至大約西元前 2500 年。這座遺址出土了 800 多處豎穴式房屋遺存，在現存遺址上又修建了步道和一座博物館，供來訪遊客參觀體驗。

大型聚落

御所野遺址對於人們瞭解繩文時代（西元前 13,000 年-前 400 年）大型聚落的布局意義重大。這類大型聚落大多出現在西元前 3000 年～前 2000 年之間，通常由圍繞著中心墓葬區分布的一些特定功能區組成。

考古調查顯示，御所野遺址的豎穴式房屋集中在聚落的東、西及中部。遺址正中央是墓葬區，用幾堆石組標註位置。緊鄰墓葬區的是一座人工土丘「填土」，出土了大量裝飾性的陶器和石器。這類裝飾性器物意味著填土及周圍區域很可能是祭祀儀式的場所。

自然環境

考古遺址位於台地上，四周森林環繞。進入遺址需穿過一座懸空的弧形廊橋，橋下是溪流蜿蜒的狹窄山谷。遺址內種植著核桃樹、栗樹、馬栗樹和漆樹，均為過去繩文時代聚落周圍曾經生長的樹木，遊客可從樹旁解說告示牌認識當時這些樹種的用途：漆樹汁可以提煉大漆，裝飾陶器；堅果類的樹木則提供食物、建築木料和燒火的木柴。

遺址內設有步道通往各處。

豎穴式房屋

遺址內復原了幾處豎穴式房屋。通常認為，豎穴式房屋應該是茅葺屋頂，但從御所野遺址焚燒殘留物的分析顯示，這裡部分房屋卻是泥土屋頂。

縄文時代の竪穴式房屋大小不一，但通常都會使用 4 根或 6 根立柱支撐，立柱直接插入橢圓形穴居的地面，屋簷則一直蓋到坑穴，仿佛一座遮蔽性很好的地堡。屋內通常有一個火坑，有些還會有類似閣樓的儲物空間。

御所野縄文博物館

御所野縄文博物館展出御所野遺址和附近其他縄文遺址的出土文物。其中，「發現被燒毀的房屋」展區詳細介紹了御所野遺址發掘工作及縄文竪穴式房屋構造等細節。在展廳的玻璃地板下，是一處 4200 年前的竪穴式房屋的焚燒殘跡。「御所野縄文世界」展廳內主要陳列遺址出土的陶器和石器，並使用光雕投影技術介紹史前御所野聚落的生活。二樓的第三個展廳，主要展出裝飾性極強的「龜岡式」陶器。

博物館提供英文介紹，並設有縄文主題的編織、陶器製作、飾品加工等體驗作坊。進入博物館須購買門票。

相關遺址

同時期已挖掘的聚落遺址，還有大船遺址【連結】（北海道）和日本最大縄文時代考古遺址之一的三内丸山遺址【連結】（青森縣）。

<日本語仮訳>

御所野遺跡

世界遺産

岩手県北部にある御所野遺跡は、紀元前 2500 年頃から大規模な集落があった場所です。考古学者たちは、遺跡の髓所から、800 を超える竪穴建物跡を発掘してきました。遺跡には、遊歩道と博物館が整備されています。

大規模な集落

御所野遺跡は、大規模な縄文時代（紀元前 1,3000 年～紀元前 400 年）の集落の構成を理解するうえで重要です。この種の集落は、紀元前 3000 年から 2000 年にかけて一般的なものでした。集落の中心には墓域があり、その周りに特定の機能を持つ区域が配置されていました。

御所野遺跡の考古学的調査により、竪穴建物跡は集落の東部、中部、と西部に集中していることが明らかになりました。中央部には、いくつかの配石によって場所が示されている墓地がありました。墓地のそばには盛土があり、大量の装飾土器や石器が出土しています。出土品の装飾性から、盛土周辺の区域は祭祀が行われる場所と考えられます。

自然環境

この遺跡は広い高台にあり、森に囲まれています。遺跡へは、屋根のある吊り橋を通過して入場します。この吊り橋は蛇行する小川の流れる狭い谷を渡るようにかかっています。地表には、クルミ、クリ、トチノキ、漆といった、人が住んでいた頃に生えていたと思われる樹木が植えられています。近くに、木々がど

のように利用されていたかを説明した掲示板が設置されています。ウルシの木からは樹液を採り、精製して漆にします。漆は、土器を装飾するために使われていました。堅果のなる木は食料、建築用の木材、薪となっていました。

遺跡内をめぐる歩道があります。

竪穴建物

遺跡内では、いくつかの竪穴建物が復元されています。竪穴建物の屋根は茅葺のようなものだったと一般には考えられていますが、御所野遺跡で建物の焼跡を調べたところ、土を詰めた屋根もあったことが判明しました。

縄文時代の竪穴建物の大きさはさまざまですが、楕円形の竪穴の地面に直接差し込まれた 4～6本の構造柱で支えられているのが一般的です。庇が竪穴の上縁まで伸びており、しっかりと守られたシェルターのような住居です。内部には炉床があり、倉庫として使う屋根裏部屋のような空間を備えた建物もあったと考えられています。

御所野縄文博物館

御所野縄文博物館では、御所野遺跡やその他の近隣の縄文遺跡からの出土品が展示されています。「焼けた住居の発見」という展示室では、御所野遺跡での発掘作業と縄文時代の竪穴建物跡の構造に関する調査について、詳しく説明されています。展示室の床はガラス張りになっており、その下に 4200 年前の竪穴建物の焼跡が見えます。「御所野縄文ワールド」という展示室では、発掘された土器や石器が展示されています。また、プロジェクションマッピングを使って、御所野集落における先史時代の暮らしが紹介されています。2 階の第 3 展示室では、装飾性の高い亀ヶ岡式土器が紹介されています。

この博物館は英語でも情報を提供しており、縄文時代を体験できる工房（編物・土器・装飾品作りなど）が設けられています。博物館の観覧には若干の入館料が必要です。

関連遺跡

同時代の集落は、他に日本最大級の縄文遺跡である三内丸山遺跡 [\[リンク\]](#)（青森）や、大船遺跡 [\[リンク\]](#)（北海道）でも見つかっています。

【タイトル】伊勢堂岱遺跡（世界遺産）

【想定媒体】WEB

<簡体字>

伊勢堂岱遗址

世界遗产

位于秋田县北部的伊勢堂岱遗址是日本已知唯一一处拥有 4 个环状列石石阵的遗址，石阵所用石头 4000 余块，其历史可以追溯至大约公元前 2000 年。有证据显示，这些环状列石是历时 200 多年才建成的祭祀场所，周围出土了大量陶器，包括式样、设计丰富多样的土偶（陶偶）。

石块的出处

这几个环状列石的石阵位于一处能远望白神山地的台地上。此处遗址所用石块种类多样，均取自米代川、小猿部川等本地河川。考古学家认为，这些石头中最远的可能取自 5 公里外。

土地平整

对环状列石的考古调查显示，在铺设石块之前，这里的土地可能用石头或木头制的简单工具进行过挖掘和平整。

环状列石周围的建筑

人们在环状列石的外围发现了立柱式房屋遗存，其用途暂不明确，但看来不像是居所。从出土文物推测，此处遗存可能是周边地区各聚落的公共祭祀场所。

也有观点认为，这些房屋或许是停灵和准备葬礼的地方，环状列石周边发现的土坑墓为这一推测提供了佐证。由于土壤偏酸性，墓穴内并未发现人类遗骸，但很多墓中出土了土偶和陪葬品。部分环状列石周围保留了一些裸露的立柱坑洞。目前洞中立着柱子，便于来访者直观感受这些建筑的规模。

土偶

伊勢堂岱遗址总计出土了 200 多个形象鲜明、表情生动的人形土偶。它们风格各异，式样不同，有扁平的“板状土偶”，也有空心的“中空土偶”。一些设计简单、外形抽象的土偶连肢体都没有仔细勾勒；而精美繁复的土偶，则有着细致的纹样和明显的曲线，身体各部位都刻画得十分清晰。许多土偶被刻意打碎，这可能是一种仪式性的行为，比如用于祈祷。

伊勢堂岱繩文館

伊勢堂岱繩文館【[链接](#)】位于遗址入口处，通过展示遗址出土文物，介绍伊勢堂岱遗址与环状列石的概况。展柜布光明亮，清晰呈现出土偶以及其他陶器的个体特征和精细之处。大型展品配有发掘现场的照片，并使用日、英双语介绍考古调研的成果。

馆内设有体验工房，参观者可以在这里亲手制作各种装饰品和陶器（需预约）。纪念品商店出售多款 T 恤和土偶主题的纪念品。进入展区需支付少许入场费，但纪念品商店和前厅免费开放。前厅内播放环状列石的介绍短片，短片有包括英文在内的多语言版本可选。

相关遗址

日本北部其他拥有大型环状列石的史前遗址还有：[キウス\(Kiusu\)周堤墓群](#)【[链接](#)】（北海道）、[大汤环状列石](#)【[链接](#)】（秋田县）、[鷲之木遗址](#)【[链接](#)】（北海道）、[小牧野遗址](#)【[链接](#)】（青森县）和[大森胜山遗址](#)【[链接](#)】（青森县）。

<繁体字>

伊勢堂岱遗址

世界遺產

秋田縣北部的伊勢堂岱遗址是日本已知唯一一處擁有 4 個環狀列石石陣的遗址，由 4000 餘塊石頭排列而成，其歷史可以追溯至大約西元前 2000 年。有證據顯示，這些環狀列石是歷時超過 200 年才建成的祭祀場所，周圍出土了大量陶器，包括式樣、設計豐富多樣的土偶（陶偶）。

石塊的出處

伊勢堂岱遗址環狀列石的石陣位於一處可以遠望白神山地的台地上。此處遗址所用石塊種類多樣，均取自米代川、小猿部川等當地河川。考古學家推測，這些石頭中最遠的可能取自 5 公里外。

土地平整

對環狀列石的考古調查顯示，在鋪設石塊之前，土地可能以石頭或木頭製成的簡單工具挖掘和平整。

環狀列石周圍的建築

環狀列石周邊發現的立柱式房屋遺存，其用途暫不明確，但估計非人類居所。從出土文物推測，這處遺存可能是周邊地區各聚落的公共祭祀場所。

也有觀點指出，這些房屋或許是停靈和準備葬禮的地方，而環狀列石周邊發現的土坑墓似乎證實了這一推測。由於土壤偏酸性，墓穴內並未發現人類遺骸，但很多墓中出土了

土偶和陪葬品。部分環狀列石周圍保留了一些裸露的立柱坑洞，目前洞中立著柱子，便於遊客直觀感受這些建築的規模。

土偶

伊勢堂岱遺址總計出土了 200 多個形象鮮明、表情生動的人形土偶。它們風格各異，式樣不同，有扁平的「板狀土偶」，也有空心的「中空土偶」。一些設計簡單、外形抽象的土偶連肢體都沒有仔細勾勒；而製作精美的土偶，則有著細緻的紋樣和明顯的曲線，身體各部位都刻畫得十分清晰。遺址出土還發現被刻意打碎的土偶，推測這可能是一種儀式性的行為，例如用於祈禱儀式等。

伊勢堂岱繩文館

伊勢堂岱繩文館【連結】位於遺址入口，藉由展示遺址出土文物，介紹伊勢堂岱遺址與環狀列石的概況。展櫃打燈明亮，清晰呈現出土偶以及其他陶器的特徵和精緻之處。大型展品旁配有發掘現場的照片，並使用日、英雙語介紹考古研究的成果。

館內設有體驗作坊，遊客可以製作各種裝飾品和陶器（需預約）。紀念品商店販售多款 T-shirts 和土偶主題的紀念品。進入展區需購買門票，但紀念品商店和前廳免費開放。前廳內播放環狀列石的介紹影片，有多種不同語言版本包括英文可選擇。

相關遺址

日本北部其他大型環狀列石的史前遺址還有：[キウス（Kiusu）周堤墓群【連結】](#)（北海道）、[大湯環狀列石【連結】](#)（秋田縣）、[鷲之木遺址【連結】](#)（北海道）、[小牧野遺址【連結】](#)（青森縣）和 [大森勝山遺址【連結】](#)（青森縣）。

<日本語仮訳>

伊勢堂岱遺跡

世界遺産

秋田県北部に位置し、日本国内で発見された唯一の 4 つの環状列石を持つ遺跡「伊勢堂岱遺跡」では、4,000 を超える石が環状列石を形作っています（紀元前 2000 年頃）。これらの環状列石は 200 年にわたって構築され、祭祀の場として使われていたことを示唆する証拠が見つっています。環状列石の周辺では、幅広い様式とデザインの土偶など、大量の土器が出土しています。

石の調達

環状列石は、白神山地を望む高台の上にあります。環状列石は、米代川や小猿部川など、この地域の川から集められた多種多様な石でできています。これらの石は最大で 5km の距離を運ばれてきた可能性があると考えられています。

土地の整備

環状列石の調査により、石が配置される前に土地が整備されたことが判明しています。土地を掘って平らにする作業は、石や木だけで作られた単純な道具によって行われたのでしょう。

環状列石周辺の建物

環状列石の外縁周辺には、柱で支えられた建造物の跡が見つっています。この建造物が何に使われていたかは不明ですが、住居ではなかったと考えられます。出土品から、周辺地域で共有されていた祭祀の場だった可能性が示唆されています。

これらの建造物は、遺体を埋葬する準備に使われていたのかもしれない、と示唆する説もあります。環状列石周辺で土坑墓が見つっていることは、この説と整合します。土壌が酸性のため、墓に人骨は残っていません。しかし、土偶や副葬品は多くの墓で見つっています。一部の環状列石の周辺では、柱を立てるための穴が残されており、建造物の規模が感じられるよう、柱が立てられています。

土偶

伊勢堂岱遺跡では、人間の形をした、独特で表情豊かな土偶が 200 体以上見つっています。これらの土偶は、板状土偶から中空土偶まで、様式と意匠に幅があります。より単純な姿の土偶は、はっきりした手足のない抽象的な形をしています。一方、より手の込んだ土偶は、細かな模様や強調された曲線を特徴としており、身体各部の見分けがつかます。多くは、祭祀における表現として、意図的に壊されています。祈りの表現として壊されたのかもしれませんが。

伊勢堂岱遺跡縄文館

遺跡の入口にある伊勢堂岱遺跡縄文館 [\[リンク\]](#) では、この遺跡の出土品の展示を通して、史跡と環状列石の概要を紹介しています。明るい照明のガラスケースにより、土偶やその他の土器の表情や複雑さがはっきり分かります。また、発掘作業の写真を含む大きな展示品には、考古学的調査による発見について英語と日本語で記されています。

伊勢堂岱遺跡縄文館は工芸体験を行っており、装飾品や土器を作ることができます（要予約）。T シャツや、土偶をテーマにしたお土産など、幅広い品を販売するミュージアムショップがあります。展示室への入室には若干の料金が必要ですが、ミュージアムショップとロビーは無料です。ロビーでは、環状列石に関する短い動画が上映されています。この動画は、英語などいくつかの言語で観ることができます。

関連遺跡

北日本の大規模な先史遺跡には、他にキウス周堤墓群 [\[リンク\]](#)（北海道）や、大湯環状列石 [\[リンク\]](#)（秋田）、鷲ノ木遺跡 [\[リンク\]](#)（北海道）、小牧野遺跡 [\[リンク\]](#)（青森）、大森勝山遺跡 [\[リンク\]](#)（青森）などの大型環状列石があります。

【タイトル】 鷺ノ木遺跡

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**鷺之木遗址**

在位于北海道南部森町の鷺之木遗址，有一处北海道内已知最大规模的环状列石石阵，其外径达 37 米左右。石阵的历史可以追溯到公元前 2000 年，与青森、秋田两县发现的同时期遗址十分相似。考古学家认为，日本东北北部与北海道南部的环状列石，正是两地文化交流的证明。

环状列石的构成

此处环状列石由外围的双重石圈和中心的一个椭圆形石组构成，共使用了 602 块石头。许多石块都被嵌入地内，或是竖立，或是以各种角度朝向环状列石中心。这些石块很可能采自约 1 公里开外的桂川河口。环状列石附近还发现了土坑墓以及小型铎形土制品等文物。

环状列石的保护

此处环状列石遗址位于一座小山丘上，直到 2003 年建造高速公路时才被发现。本地社区为此发起保护环状列石活动，中止了原本推平山头的计划，取而代之的是在山下挖一条隧道，并在施工中尽力避免环状列石的石块或埋着石块的土层移动错位。施工全程都实时监测山体震动情况，部分隧道挖掘作业只能在不借助电动工具和机械的情况下完成。如今的鷺之木环状列石成功地留在了原址，高速公路则于它的下方穿过。

参观环状列石

由于地理位置特殊，此处考古遗址并不对外开放，只有参加森町遗址发掘调查事务所组织的参观活动才能前往。事务所内也有从环状列石和鷺之木遗址出土的文物展出。展室免费开放，仅提供日文信息。

<繁体字>**鷺之木遺址**

在位於北海道南部森町の鷺之木遺址上，有一處北海道內已知最大的環狀列石石陣，其直徑達 37 公尺。石陣的歷史可以追溯到西元前 2000 年，與青森、秋田兩縣發現的同時期遺址十分相似。考古學家認為，日本東北北部與北海道南部的環狀列石，正是兩地文化交流的證明。

環状列石の構成

這處環状列石由周邊的雙重石圈和中心的一個橢圓形石組構成。組成列石的 602 塊石頭中，有許多被嵌入地內，或是豎立，或是以各種角度指向環状列石中心。這些石塊很可能來自約 1 公里外的桂川河口。環状列石附近還發現了土坑墓以及小型鐸形土製品等文物。

環状列石の保護

這處環状列石遺址位於一座小山丘上，直到西元 2003 年修建高速公路時才被發現。當地社區隨即發起保護環状列石活動，中止了原本夷平山頭的計畫，取而代之的是在山下挖一條隧道，並在施工中盡力避免環状列石的石塊或埋著石塊的土層移動錯位。施工全程即時監測山體震動情況，部分隧道挖掘作業只能在不借助電動工具和機械的情況下完成。如今的鷺之木環状列石成功地留在了原址，高速公路則從它的下方穿過。

參觀環状列石

由於地理位置特殊，這處考古遺址並不對外開放，只能參加森町遺址發掘調查事務所舉辦的行程進入參觀。事務所內也有從環状列石和鷺之木遺址出土的文物展出。展室免費開放，但僅提供日文資訊。

<日本語仮訳>

鷺ノ木遺跡

北海道南部の森町にある鷺ノ木遺跡は、外径が約 37 メートルある、道内で最大の環状列石です。紀元前 2000 年頃に作られたもので、青森や秋田で発見された同時期の環状列石と類似しています。北東北と北海道南部の環状列石は、これら 2 つの地域で文化が共有されていた証拠だと考古学者たちは考えています。

環状列石の構成

この環状列石は、外側に 2 つの環があり、中心には楕円形の配石があります。環状列石を構成する 602 個の石の多くは地面に埋め込まれており、直立していたり、さまざまな角度で内側を向いていたりします。これらの石は、約 1km 離れている桂川の河口から集められたと考えられます。環状列石の近くでは、土坑墓や釣鐘型の小さな土製品などが見つかっています。

環状列石の保存

丘の上にあるこの環状列石は 2003 年、高速道路の建設工事に先立って発見されました。地域で環状列石を保存する活動が行われ、この丘を整地する計画は中止されました。代わりにトンネルが建設され、石や石が埋まっている地層を動かさないよう細心の注意が払われました。振動は常に監視され、トンネル工事の一部は電動工具や機械を使わずに行う必要がありました。環状列石は本来の場所にそのまま残り、現在はその下に高速道路が通っています。

環状列石への訪問

この遺跡は、所在地の関係上、一般公開はされていません。この遺跡は、森町遺跡発掘調査事務所が実施する見学会でのみ訪問できます。この事務所は、環状列石と遺跡からの出土品に関する展示も行っています。この事務所の展示室は入館無料です。情報は日本語でのみ提供されています。

【タイトル】長七谷地貝塚

【想定媒体】WEB

<簡体字>**长七谷地贝冢**

长七谷地贝冢，是日本北部已知最古老的贝冢之一，其历史大致可追溯到公元前 6000 年。这一发现为研究早期沿海聚落的饮食结构、生活方式，乃至史前日本生活和环境因素间的关联提供了线索。

海平面与海岸线

此处遗址位于一处俯瞰五户川泛洪平原的台地上，距海岸线数公里远。但在 8000 年前，长七谷地贝冢下方或许就是一个海湾。最后一次冰川时期于 10,000 多年前结束，气温开始缓慢上升，海平面逐渐升高，海岸线向内陆推进，从而形成了无数浅海湾和大片的潮汐滩涂，十分适合捕鱼和采贝。

饮食结构和生活方式

这里出土的渔具种类繁多，比如骨头和鹿角制作的组合鱼钩、鱼叉头、石制的渔网坠子等，证明本地曾孕育出了丰富的渔业文化。在贝冢的勘察研究中，发现了大约 30 种贝的外壳和近 20 种鱼的骨头，还出土了鸟类和哺乳动物的骨骸。

八门市博物馆

八门市博物馆【链接】内展出长七谷地贝冢出土的文物，并介绍八户自史前到现代的历史。入馆参观需支付少量入场费。馆内提供部分英文版信息。下载“Pocket Curator” APP，即可获取包括中文简、繁体在内的多语言信息。

相关遗址

日本北部其他已知的贝冢遗址还有：北黄金贝冢【链接】（北海道）、入江贝冢【链接】（北海道）、高砂贝冢【链接】（北海道）、田小屋野贝冢【链接】（青森县）、二森贝冢【链接】（青森县）。

<繁体字>**長七谷地貝塚**

長七谷地貝塚，是日本北部已知最古老的貝塚之一，其歷史大致可追溯到西元前 6000 年。貝塚的發現為研究早期沿海聚落的飲食結構、生活方式，乃至史前日本生活和環境因素間的關聯提供了幫助。

海平面與海岸線

這處遺址位於一處俯瞰五戶川泛洪平原的台地上，距海岸線數公里遠。但在 8000 年前，長七谷地貝塚下方或許就是一個海灣。最後一次冰河時期於距今 10,000 多年前結束，氣溫開始緩慢上升，海平面逐漸升高，海岸線向內陸推進，從而形成了無數淺海灣和大片的潮汐灘塗，適合捕魚和採貝。

飲食結構和生活方式

這裡出土的漁具種類繁多，例如骨頭和鹿角製作的組合魚鉤、魚叉頭、石製的漁網墜子等，證明當地曾孕育出了豐富的漁業文化。考古調查還發現了大約 30 種貝的外殼和近 20 種魚的骨頭，以及鳥類和哺乳動物的骨骸。

八戶市博物館

八戶市博物館【連結】內展出長七谷地貝塚出土的文物，並介紹八戶自史前到現代的歷史。入館參觀需購買門票。館內提供部分英文版資訊。下載「Pocket Curator」APP，即可獲取包括中文簡、繁體在內的多種語言版本資訊。

相關遺址

日本北部其他已知的貝塚遺址還有：北黃金貝塚【連結】（北海道）、入江貝塚【連結】（北海道）、高砂貝塚【連結】（北海道）、田小屋野貝塚【連結】（青森縣）、二森貝塚【連結】（青森縣）。

<日本語仮訳>

長七谷地貝塚

長七谷地貝塚は、北日本で知られている貝塚の中では最古のもの1つです（紀元前6000年頃）。この発見は、沿岸地域の初期の集落における食習慣や生活、さらに先史時代の日本の暮らしを形作った環境要因を知る手がかりとなりました。

海面と海岸線

この遺跡は、五戸川の氾濫原を見下ろす台地にあり、海岸からは数 km 離れています。8,000 年前には長七谷地貝塚は湾を見下ろす位置にあったと考えられます。1 万年以上に最後の氷期が終わると、気温が徐々に上がって海面が上がり、海岸線が内陸を浸食しました。これにより、漁業や貝の採集に理想的な浅い湾と広い干潟ができました。

食習慣と生活

この遺跡では多種多様な漁具が発見されており、豊かな漁労文化が形成されていたことを示しています。これらの漁具には、骨と角を使った組み合わせ式釣り針、銚先、漁網につける石錘などがあります。貝塚の調査では、約 30 種類の貝の殻と 20 種類近くの魚の骨が見つかりました。鳥と哺乳類の骨も確認されています。

八戸市博物館

長七谷地貝塚からの出土品は、八戸市博物館 [\[リンク\]](#) に展示されています。展示では、先史時代から近代までの八戸の歴史が紹介されています。少額の入館料がかかります。情報の一部は英語でも提供されています。「ポケット学芸員」というアプリをダウンロードすれば、中国語（簡体字・繁体字）を含めた多言語でも利用できます。

関連遺跡

北日本で発見されたその他の貝塚には、北黄金貝塚 [\[リンク\]](#)（北海道）、入江貝塚 [\[リンク\]](#)（北海道）、高砂貝塚 [\[リンク\]](#)（北海道）、田小屋野貝塚 [\[リンク\]](#)（青森）、およびニツ森貝塚 [\[リンク\]](#)（青森）などがあります。

【タイトル】世界遺産 北海道・北東北の縄文遺跡群

【想定媒体】WEB

<簡体字>

世界遺産・日本北部縄文遺跡群

2021年，“日本北部縄文遺跡群”被列入联合国教科文组织(UNESCO)世界遗产名录。这些遗址已有上万年历史，讲述着日本史前人类自陶器使用之初，到定居生活方式萌芽、发展、成熟的漫长岁月里的故事。从漆器手环、玉珠、表情鲜明生动的土偶（陶偶），到风格迥异的华美陶器，遗迹群的出土文物不仅表现出精巧复杂的设计感，也证明了不同地区聚落之间的贸易往来。每处遗址的每一次新发现，都让今天的人们离日本北部史前人类生活更近一步。

遗迹群由位于日本北部（东北北部和北海道）的17处考古遗址组成，还有两处与之相关的遗址也被列入其中。这些遗址有的濒海，有的临河，有的居于山丘之上，不同的自然环境造就了不同的布局与景致。大多数遗址均可自由参观，其中许多遗址上还设有博物馆，展示出土文物，介绍绳文时代（公元前13,000年-前400年）的史前人类生活。无论从最古老的大平山元遗址开始参观，还是先观赏环状列石石阵，都将为您带来一段美妙的穿越时空之旅。

<繁体字>

世界遺產・日本北部繩文遺跡群

西元2021年，「日本北部繩文遺跡群」被列入聯合國教科文組織（UNESCO）世界遺產名錄。這些具有上萬年歷史的遺址，講述著日本史前人類自陶器使用之初到定居生活方式萌芽、發展和成熟的故事。從漆器手環、玉珠、表情鮮明生動的土偶（陶偶），到風格迥異的陶器，遺跡群的出土文物不僅表現出精巧複雜的設計感，也證明了不同地區聚落之間的貿易往來。每處遺址的每一次新發現，都讓今天的人們離日本北部史前人類生活更近一步。

遺跡群由位於日本北部（東北北部和北海道）的17處考古遺址組成，還有兩處與之相關的遺址也被列入其中。這些遺址有的瀕海，有的臨河，有的居於山丘之上，不同的自然環境造就了不同的布局與景致。大多數遺址均可自由參觀，其中許多遺址上還設有博物館，展示出土文物，介紹繩文時代（西元前13,000年-前400年）的史前人類生活。無論從最古老的大平山元遺址開始參觀，還是先觀賞環狀列石石陣，都將為您帶來一段美妙的穿越時空之旅。

<日本語仮訳>

世界遺産 北海道・北東北の縄文遺跡群

2021年、「北海道・北東北の縄文遺跡群」がユネスコの世界文化遺産に登録されました。これらの遺跡は、1万年に及ぶ歴史があり、土器使用の黎明期から、定住の開始・発展・成熟まで、日本の先史時代の人々の物語を語ってくれます。漆塗りの腕輪、ヒスイ玉、表情豊かな土偶、様々な形式の精巧な土器など、遺跡からの出土品は、洗練されたデザインセンスを示し、集落間で交易が行われていたことの裏付けとなっています。各遺跡からは新しい発見が生まれ、現代を生きる人々を先史時代の北日本で暮らしに一步近づけさせます。

「北海道・北東北の縄文遺跡群」を構成するのは17の遺跡であり、さらに2つの遺跡が関連遺跡とみなされています。これらの遺跡は、海岸、川の近くおよび丘の上に位置しており、周辺の多様な自然環境によって異なる様式が生まれました。ほとんどの遺跡は自由に見学することができ、また多くの遺跡には、縄文時代（紀元前13,000年～紀元前400年）の暮らしを紹介し出土品を展示する施設が併設されています。最も古い大平山元遺跡からでも、いずれかの環状列石からでも、どんな順番で回っても、時空を超えた素晴らしいひと時を過ごすことができます。

解説文一覧

NO.	スポット名 (タイトル)	中国語文字数	想定媒体
002-001	1 階廊下：武者走	345	看板
002-002	城の防御：石落	225	看板
002-003	土台支持柱	275	看板
002-004	城の防御：狭間	310	看板
002-005	鯰瓦	365	看板
002-006	城の基礎の構造	400	看板
002-007	大天守の壁	420	看板
002-008	懸魚：破風板装飾	385	看板
002-009	カラクリ、銃床、銃身：火縄銃の製作	1080	看板
002-010	大口徑火器と騎兵用火器	940	看板
002-011	日本各地での鉄砲生産	1670	看板
002-012	雑兵物語：足軽のためのハウツーガイド	905	看板
002-013	歴史に残る鉄砲戦：島原の乱	385	看板
002-014	ステータスのシンボルとしての銃砲	325	看板
002-015	食器類および食物などの出土品	435	看板
002-016	歴史に残る鉄砲戦：大坂の陣	520	看板
002-017	牛つなぎ石	670	WEB
002-018	二の丸御殿の発掘調査	1250	看板
002-019	弾薬製造の職務の分担	560	看板
002-020	歴史に残る鉄砲戦：長篠の戦い	420	看板
002-021	オランダ海軍のカノン砲	325	看板
002-022	古銭	320	看板
002-023	タバコの煙管と碁石	395	看板
002-024	硯	240	看板
002-025	二の丸御殿のレイアウト	335	看板
002-026	瓦	505	看板
002-027	指火式から雷管式へ：発射装置の変遷	1080	看板
002-028	前装式から後装式へ	330	看板
002-029	松本城鉄砲蔵・赤羽コレクション	535	看板
002-030	様々な火器の種類を知るための入門編	500	看板
002-031	鉄砲と権力闘争	735	看板
002-032	火縄銃の仕組み	480	看板
002-033	火縄銃の発射	455	看板
002-034	銃手の装備	390	看板
002-035	松本城の守護神	435	看板
002-036	市川量造の懇願書	445	看板

002-037	辰巳附櫓	325	看板
002-038	携帯用容器	305	看板
002-039	火縄	280	看板
002-040	花頭窓	195	看板
002-041	様々な変り弾	235	看板
002-042	爆弾	290	看板
002-043	銃手の道具 1	210	看板
002-044	銃手の道具 2	270	看板
002-045	月見櫓	485	看板
002-046	明治時代（1868-1912）の松本城	530	看板
002-047	松本の宇宙ツツジ	435	看板
002-048	二頭の馬をめぐる清正の選択	430	看板
002-049	城の功労者たちの肖像	515	看板
002-050	小笠原公の牡丹	470	看板
002-051	松本城と城下町	585	看板
002-052	歴史ある松本城	620	看板
002-053	太鼓門	865	看板
002-054	想像上の二の丸御殿	700	看板
002-055	二の丸御殿土蔵	410	看板
002-056	国宝 旧開智学校校舎	495	看板
002-057	西総堀の土塁	640	看板
002-058	土塁の構築	755	看板
002-059	武家屋敷の礎石	380	看板
002-060	明治時代の土塁	600	看板
002-061	旧開智学校校舎の成り立ち	1020	看板
002-062	国宝 旧開智学校校舎	1020	WEB
002-063	旧開智学校校舎へようこそ	1920	パンフ
002-064	ガラス	175	QR
002-065	丸太柱	345	QR
002-066	木彫りの棧唐戸	310	QR
002-067	紙天井	220	QR
002-068	正面玄関	650	QR
002-069	八角塔屋	200	QR
002-070	旧開智学校校舎の擬洋風建築	1110	QR
002-071	乾小天守	400	看板
002-072	松本城の歴史と保存について	580	看板
002-073	松本藩の年表	700	看板
002-074	城下町の地図	355	看板
002-075	松本藩の6つの藩主家	1570	看板
002-076	桔木構造の屋根	240	看板
002-077	近世日本の鉄砲	670	看板

002-078	平からくり：基本的な火縄銃の構造	200	看板
002-079	内からくり：内蔵タイプの火縄銃の構造	210	看板
002-080	外記からくり：2つのシアを持つ火縄銃の構造	220	看板
002-081	強化された窓	155	看板
002-082	隠し銃	315	看板
002-083	松本藩戊辰出兵記念碑	935	看板
002-084	松本藩主の家紋	430	看板
002-085	大天守の各階	940	看板
002-086	大手門	465	看板
002-087	おもてなし隊	1045	QR
002-088	松本城へようこそ	420	パンフ
002-089	日本の城とは？	415	パンフ
002-090	戦と平和の城	235	パンフ
002-091	1階と2階	260	パンフ
002-092	3階と4階	235	パンフ
002-093	5階と6階	145	パンフ
002-094	本丸御殿跡・二の丸御跡	370	パンフ
002-095	一般情報	900	WEB
002-096	松本城の四季	600	WEB
002-097	ボランティアガイドのご案内	650	WEB
002-098	松本城についてとマップ	405	WEB
002-099	松本城のレイアウト	1450	WEB
002-100	天守台	615	WEB
002-101	大天守 1階	980	WEB
002-102	大天守 2階	1250	WEB
002-103	大天守 3階、4階と5階	765	WEB
002-104	大天守 6階	830	WEB
002-105	乾小天守	725	WEB
002-106	渡櫓、辰巳附櫓と月見櫓	1210	WEB
002-107	黒門と太鼓門	1120	WEB
002-108	本丸御殿跡と二の丸御殿跡	1010	WEB
002-109	その他の見どころ (1)	600	WEB
002-110	その他の見どころ (2)	605	WEB
002-111	その他の見どころ (3)	410	WEB
002-112	その他の見どころ (4)	470	WEB
002-113	松本城の歴史：松本城築城以前	1535	WEB
002-114	松本城の歴史： 松本城の築城と江戸時代の松本城	2545	WEB
002-115	松本城の歴史：明治時代の変化	1220	WEB
002-116	松本城の歴史：明治時代から現代まで	1315	WEB
002-117	松本城伝説	300	WEB

002-118	梁をのばした匠	400	WEB
002-119	袖留橋の別れ	535	WEB
002-120	松姫の悲劇	735	WEB
002-121	傾いた城伝説	455	WEB
002-122	国宝の保存	2170	WEB
002-123	地元住民の支援	1235	WEB
002-124	松本城を後世に残すために	1475	WEB
002-125	松本城の収蔵品	2850	WEB
002-126	渡櫓	320	看板

【タイトル】1 階廊下：武者走

【想定媒体】看板

<簡体字>

一楼走廊：武者走

天守是建于日本城郭中心的多层塔楼，具有防守和指挥功能，同时象征着城主的权威。松本城的大天守现已被指定为国宝。大天守的一楼走廊也称为“武者走”（武士走廊），整条走廊空间充足，可以让士兵在应战时行动自如。天守西侧和南侧面对护城河，遭遇进攻的可能性最大，为了容纳更多守军，这两侧走廊更为宽大。此外，为了给手持长弓及火绳枪的士兵在头顶上方留有更多空间，走廊地面比中间的榻榻米区域低 50 厘米左右。

走廊的墙壁略微向内侧鼓起，但这个特征并非有意为之。在建造天守台地基时，所有石块都只经过简单切割，很难严丝合缝地垂直拼合，从而导致地基侧面略微向内弯曲。受其影响，天守的墙面便也产生了同样的弯曲。因此，大天守的一楼和二楼虽看起来都是方形结构，但实际建筑四角中有两个角的角度都略小于 90 度。

<繁体字>

一楼走廊：武者走

天守是具有防守和指挥功能的多层塔楼，建于日本城郭中心，象征城主的权威。松本城的大天守现被指定为国宝。大天守的一楼走廊也称为“武者走”（武士走廊）。走廊十分宽敞，这是为了士兵在作战时能有充分的行动空间。西侧和南侧因面对护城河，遭遇进攻的可能性最大，为了容纳更多守军，这两侧的走廊也更宽敞。此外，为了给持有长弓及火绳枪的士兵头留有更多空间，走廊地面比中间的榻榻米区域低 50 公分左右。

走廊的墙壁略微向内侧隆起，但这个特征并非有意为之，而是因为建造天守台地基时，使用的石块都只经过简单切割，很难严丝合缝地垂直拼合，从而导致地基侧面略微向内弯曲。受其影响，天守的墙面便也产生了同样的弯曲。因此，大天守的一楼和二楼虽看起来都是方形结构，但实际建筑四角中有两个角的角度都略小于 90 度。

<日本語仮訳>

1 階廊下：武者走

天守とは、城郭の中枢部に建てられた多層の櫓建築で、防戦と指揮という軍事機能に加えて、城主の権威の象徴でもある。松本城の大天守は国宝に指定されている。大天守の 1 階には「武者走」

と呼ばれる広い廊下があり、襲撃時に城内の兵士が動きやすいように十分な広さが確保されている。堀に面した西側と南側の通路は、城を防衛する兵士をより多く収容するためにやや広がっているが、これはこの方角から攻められる可能性が最も高いためである。廊下は、周囲の畳敷きのエリアよりも 50 センチほど下に沈んでいるが、これは長い弓や火縄銃を持った兵士のために頭上に空間を設けるためである。

廊下の壁は内側に向かってやや膨らんでいる。これは城の天守台の基礎に起因する意図せず生じた特徴である。石垣の基礎が切り出しの石でできているため、完全な直角に組み上げるのが難しい。そのため、大天守の基礎の側面はわずかに内側に曲がっている。この曲線が天守の壁にも影響しており、壁は基礎と同じ曲がり方で立ち上げられていた。天守の 1 階と 2 階は正方形に見えるが、4 つの角のうち 2 つは 90 度以下の角度で接している。

【タイトル】 城の防御：石落

【想定媒体】 看板

<簡体字>

城防工事：石落

这些地板上的开口被称为“石落”，用来攻击到达天守台下的敌人。为避免有人或东西从开口处掉落，石落上日常都覆盖着木板，在城郭遇袭时可将它移开。

为弥补防线的盲点和死角，石落通常都开在天守四角，但松本城在墙角线中段也设有石落。这或许是因为松本城的天守台坡度较缓，仅为 57°，如遇强敌，就有被攀爬的可能，在中段区域设置石落便可零死角防御。

石落原本为向下投掷石块而设，但松本城的这些开口却都相当狭窄，似乎是用于射箭或火绳枪射击。

<繁体字>

城防工事：石落

這些地板上的開口被稱為「石落」，用來攻擊到達天守台下的敵人。為避免有人或東西從開口處掉落，石落上日常都覆蓋著木板，在城郭遇到攻擊時可將它移開。

石落大多開在天守四角，可彌補防線的盲點和死角，但松本城在角與角的中間也設有石落。或許這是因為松本城的天守台坡度較緩，只有 57°，如遇強敵，就有被攀爬的可能。在中段區域設置石落，便能做到零死角防禦。

石落原本是為了向下投擲石塊而設，但松本城的這些開口卻都相當狹窄，似乎是用於射箭或火繩槍射擊。

<日本語仮訳>

城の防御：石落

天守台の下に到達した敵を攻撃するために、床に開けた穴のことを「石落」という。石落しには人や物が落ちないように木の板が張られているが、襲撃された際にはこれを取り外すことが可能である。

石落は、天守の防御の死角となる角に設けられるのが一般的だが、松本城では角と角の間点にも開口部が設けられている。天守台は約 57°と比較的緩やかな傾斜になっており、強敵ならこれを登ることも可能であったと考えられる。中間点にも石落を設けることによって、死角のない防御が可能になったのである。

石落という名称は兵士が石を落すために使用したことを意味するが、開口部はかなり狭く、そのような使い方はしなかったと思われる。もし松本城が攻撃されたなら、弓や火縄銃のために石落しを有効活用したことだろう。

【タイトル】土台支持柱

【想定媒体】看板

<簡体字>

地基支柱

松本城矗立于女鸟羽川和薄川之间的复合冲积扇上。由于土层松软潮湿，修建城郭十分困难，因此，当年工匠们采用了一系列极富创造力的建筑技术，成功避免了天守（建于城郭中心的多层塔楼）在建成后渐渐下沉的情况。为了从内部加固天守地基，人们在地基内增加了一套粗壮的木架作为支柱。

这套木架先用 16 根长 5 米、直径 36.6~39.3 厘米的铁杉木排列成 4×4 的网格状，再以横梁连接而成。将其埋入天守台中加固后，地基可以均匀承受天守近 1000 吨的重量。

16 根铁杉木柱在 20 世纪 50 年代城郭的一次大规模修复工程中出土，这里展出了其中一根。在那次修复工程中，木柱被更加坚固耐久的钢筋混凝土柱子替代。

<繁体字>

地基支柱

松本城矗立於女鳥羽川和薄川之間的複合沖積扇上。由於土層鬆軟潮濕，修建城郭十分困難，因此當年工匠們採用了一系列極富創造力的建築技術，成功避免了天守（建於城郭中心的多層塔樓）在建成後漸漸下沉的情況。為了從內部加固天守地基，人們在地基內增加了一套粗壯的木架作為支柱。

這套木架先用 16 根長 5 公尺、直徑 36.6~39.3 公分的鐵杉木排列成 4×4 的方形網狀，再以橫樑連接後埋入天守台中。加固後的地基可以均勻承受天守近 1000 噸的重量。

16 根鐵杉木柱在 1950 年代城郭的一次大規模修復工程中出土，這裡展出了其中一根。在那次修復工程中，木柱被鋼筋混凝土柱替代，更加堅固耐久。

<日本語仮訳>

土台支持柱

松本城は、女鳥羽川と薄川が形成した複合扇状地に建つ。軟弱な湿地帯であるため、城の建設は困難であったが、天守（城郭の中枢部に建てられた多層の櫓建築）が徐々に沈んでいくのを防ぐために革新的な建築技術が用いられている。まず、城の基礎を内部で補強するために、厚い木製の足場が追加された。

長さ5メートル、直径36.3～39.3センチの榑の丸太16本を、4×4の碁盤の目状に配置して、そして柱と柱の間を梁で組んだ構造物を天守台の中に埋め込んだ。この補強された土台が、1,000トン近い大天守の重量を均等に支えているのである。

この16本の榑の丸太は、1950年代の大修理で出土したもので、そのうちの1本がここに展示されている。この大修理では、木製の柱を鉄筋コンクリートに替え、耐久性と安全性を向上させた。

【タイトル】 城の防御：狭間

【想定媒体】 看板

<簡体字>

城防工事：狭間

大天守牆面上這些四方形開口被稱為「狹間」（箭窗），用於向進攻的敵人射箭或用火繩槍射擊。這種窗口在城門、土塀（白灰泥牆）等防禦工事中都能見到。狹間有圓形或三角形等不同樣式，平時多用木板遮擋以防風避雨。

城郭中心的多層塔樓「大天守」、位於大天守西北方的「乾小天守」和簷廊「渡櫓」均被指定為國寶，三處古建築總共設有 110 個狹間。通常四方形狹間供長筒火繩槍使用，縱長形狹間則用於射箭。其中，四方形狹間大多位於牆體較低處，火槍手應該是或蹲或跪著射擊。

狹間至城郭最內側的護城河「內堀」邊緣的距離大約為 60 公尺，這也是當年火繩槍的最大有效射程。從四方形狹間的數量和分布可以看出，在松本城建造的 16 世紀晚期，熱兵器戰爭已經成為主流。

<繁体字>

城防工事：狹間

大天守牆面上這些四方形開口被稱為「狹間」（箭窗），用於向進攻的敵人射箭或用火繩槍射擊。這種窗口在城門、土塀（白灰泥牆）等防禦工事中都能見到。狹間有圓形或三角形等不同樣式，平時多用木板遮擋以防風避雨。

城郭中心的多層塔樓「大天守」、位於大天守西北方的「乾小天守」和簷廊「渡櫓」均被指定為國寶，三處古建築總共設有 110 個狹間。通常四方形狹間供長筒火繩槍使用，縱長形狹間則用於射箭。其中，四方形狹間大多位於牆體較低處，火槍手應該是或蹲或跪著射擊。

狹間至城郭最內側的護城河「內堀」邊緣的距離大約為 60 公尺，這也是當年火繩槍的最大有效射程。從四方形狹間的數量和分布可以看出，在松本城建造的 16 世紀晚期，熱兵器戰爭已經成為主流。

<日本語仮訳>

城の防御：狭間

大天守の壁にある四角形の穴は「狭間」と呼ばれ、攻撃してくる敵に矢を放ったり、火縄銃を撃ったりすることができるようになっていた。狭間は、門や土塀などの防御構造にも組み込まれ、円形や三角形にすることもできた。平時は、雨風を防ぐために木製の蓋をすることが多かった。

城郭の中枢部に建てられた多層の櫓建築である大天守、大天守の北西に位置する乾小天守、廊下のような渡櫓はいずれも国宝に指定されており、この3つの古い建築物には、合計110個の狭間がある。四角形の狭間は長銃身の火縄銃用に設計され、より縦長の四角形の狭間は弓を使う兵士用に設計された。四角形の狭間は低い位置につくられた。砲手がしゃがんだり、膝をついたりした姿勢で射撃していたことを窺わせる。

狭間から城一番内側の「内堀」の端までの距離は約60メートルで、これは当時の火縄銃の有効射程ができる距離でもある。正方形の狭間の配置と数は、松本城が築かれた16世紀後半には、鉄砲戦が主流であったことを物語っている。

【タイトル】鯨瓦

【想定媒体】看板

<簡体字>**鯨瓦**

日本许多天守的屋脊两端都装饰着虎头鱼身的鸱尾，这是一种想象中的生物，称为“鯨”。在民间传说中，万一发生火灾，鯨能从口中喷水灭火，保护房屋免受火患。有研究认为，鯨瓦是在镰仓时代(1185-1333)随唐朝寺院建筑样式从中国传入日本的。

鯨瓦的前身可能是古代宫殿和寺院屋顶上具有相同防火神力的屋脊瓦。和常见于神社的守护狛犬（日本石狮）相似，鯨也常常雌雄成对出现。雄鯨张口，雌鯨闭口，据说分别对应“a”和“n”两个发音。在佛教和源自印度的其他宗教中，这两个音代表着万事万物的起始与终结，意义深远。

这里展出的鯨瓦原本位于大天守的屋顶，在 20 世纪 50 年代的大整修期间拆下。雄鯨高 127 厘米，原位于屋顶南端；雌鯨高 124 厘米，原位于屋顶北端。根据两根应该是在同时期替换的“鯨真木”（支撑瓦片的木柱）上的铭文推测，这对鯨瓦很可能制作于 1843 年。

<繁体字>**鯨瓦**

日本許多天守的屋脊兩端都裝飾著虎頭魚身的鸚尾，這是一種想像中的神獸「鯨」。在民間傳說中，萬一發生火災，鯨能從口中噴水滅火，保護房屋免受火患。有研究認為，鯨瓦在鎌倉時代（1185-1333）隨唐朝寺院建築樣式從中國傳入日本。

鯨瓦的前身可能是古代宮殿和寺院屋頂上具有相同防火神力的屋脊瓦。和常見於神社的守護狛犬（日本石獅）相似，鯨也常常雌雄成對出現。雄鯨張口、雌鯨閉口，據說分別對應「a」和「n」兩個發音。在佛教和源自印度的其他宗教中，這兩個音代表著萬事萬物的起始與終結，意義深遠。

這裡展出的鯨瓦來自大天守的屋頂，雄鯨高 127 公分，原位於屋頂南端；雌鯨高 124 公分，原位於屋頂北端，是 1950 年代的大整修期間拆下來的。根據兩根應該是同時期替換的「鯨真木」（支撐瓦片的木柱）上的銘文推測，這對鯨瓦很可能製作於 1843 年。

<日本語仮訳>**鯨瓦**

多くの城の屋根は、「鯨」という動物をかたどった鴟尾で飾られている。これは虎の頭と魚の体を持つ想像上の生き物で、火事になると口から水を吐き出して火を消し、建物を火災から守ってくれるという言い伝えがある。鯨は鎌倉時代（1185-1333）に唐様寺院建築様式とともに中国から伝来したものと考えられます。

鯨は、古代の宮廷や寺院にあった火除けの守り神をかたどった瓦が発展したと言われている。神社の狛犬と同じように、鯨は雌雄一対で登場することが多い。雄の開いた口と雌の閉じた口は、「ア」と「ン」の音を表していると言われている。この 2 つの音は万物の始まりと終わりを意味し、仏教やその他のインドから伝わる宗教において深い意味を持っている。

ここに展示されている鯨の鴟尾は、1950年代の大天守の修理の際に屋根から取り外されたものである。高さ 127cm の雄は棟の南端に、124cm の雌は北端に置かれていた。瓦を支える 2 本の「鯨真木」に刻まれた銘文と同時期に取り替えられたとすると、この鯨は 1843 年に作られた可能性がある。

【タイトル】城の基礎の構造

【想定媒体】看板

<簡体字>

城郭地基的结构

松本城的天守台使用从附近山上开采的毛胚岩石砌成。这种将用凿子简单加工后的岩石堆积组合的建筑方式在 16 世纪下半叶很常见，被称为“毛面砌法”。用这种方法堆砌的石墙当然不如使用精加工石块来得精致，但它胜在省时省力，且石块间的缝隙还可以排出雨水，从而保护天守下部免遭水浸腐坏。为进一步加固地基，天守台的四角还采用“算木砌法”，交错嵌入了长方形的条石。

松本城位于一片复合冲积扇河洲上，这意味着大天守面临着地基慢慢下沉、最终坍塌的风险。因此，在建城之初工匠便采用了内支撑结构来加固天守台，以防止其下沉。首先，在计划堆砌石垣的地基上，按照 50 厘米的间隔铺设 3 米长的原木，随后在其上方架设两根木材，方向与原木垂直，如此形成的“木枕”便可承托起墙基大石。整个结构又形同木筏，可均匀分散大天守的重量。

此外，还有两排木桩被垂直打入距离地基约 5 米远的护城河底。据推测，这是为了进一步稳固泥土，防止这片区域的土地移动或滑坡。

<繁体字>

城郭地基的結構

松本城的天守台是用從附近山上開採的粗岩所砌。這種將用鑿子簡單加工後的岩石堆積組合的建築方式在 16 世紀下半葉很常見，被稱為「毛面砌法」。用這種方法加工的石牆當然不如使用精切石塊來得精緻，但既省時又省力，且石塊間的縫隙還可以排出雨水，從而保護城郭下部免遭水浸腐壞。為進一步加固地基，天守台四角還採用「算木砌法」，交錯嵌入了長方形條石。

松本城位於一片複合沖積扇河洲上，這意味著大天守地基會面臨慢慢下沉、最終坍塌的風險。因此，在建城之初工匠便採用了內支撐結構來加固天守台，防止其下沉。首先在計畫堆砌石垣的地基上，按照 50 公分的間隔鋪設 3 公尺長的木樁，隨後在木樁上架設兩根木材，與木樁垂直，如「木枕」般承托牆基大石。整個結構又如同木筏，可均勻分散大天守的重量。

此外，還有兩排木樁被垂直打入距離地基約 5 公尺遠的護城河底。根據推測，這是為了進一步穩固泥土，防止這片區域的土地移位或滑坡。

<日本語仮訳>

城の基礎の構造

城の基礎となる天守台は、近隣の山から切り出した荒削りの岩で造られている。16世紀後半には一般的だったこの方法「野面積み」は、岩をノミで簡単に加工して組み立てる方法である。丁寧に加工された石垣に比べれば、洗練されているとはいえないが、手間がかからないので早く完成させることができた。また、石と石の間に隙間があるため、水捌けがよく腐食を防止できる。また、天守台の角には「算木積み」という工法を使い、長方形の石を交互に並べて、安定性を高めている。

松本城は複合沖積扇状地に建てられたため、基礎が徐々に沈下して大天守が倒壊する恐れがあった。これを防ぐために、城を建てる際に、内部で支柱を設け、天守台を補強した。まず、石垣を積む前に、石垣の基礎となるエリアに、3メートルの丸太を約50センチ間隔で水平に敷き詰めた。さらにその上に、材木を垂直に2本置き、土台の大きな石を支える「枕」を作った。これにより、筏のような構造が生まれた、天守の重さをより均等に分散させることを可能にした。

さらに、土台から約5メートルの堀の中には、丸太を2列、垂直に打ち込んでいる。この丸太の列は、土をさらに固め、土の部分全体がずれたり滑ったりしないようにするためと考えられている。

【タイトル】 大天守の壁

【想定媒体】 看板

<簡体字>

大天守の外牆

大天守具有防禦和指揮功能，同時象徵著城主的權威。它的外牆為防禦敵人的火繩槍攻擊而設計。16 世紀末，火繩槍在軍隊裡已廣為運用。為抵禦槍火，一樓和二樓的外牆最為堅固，部分牆體厚達 30 厘米左右，但高處牆壁則因射擊角度的變化而無需太厚。一樓直面槍火攻擊，槍彈可以垂直射入牆體，越往高處，槍彈的入射角度就越小，因此能夠穿透的牆體也越薄。

白灰泥牆面在日本建築中十分常見，通常是先搭建木頭格柵狀的牆體骨架，再在上面厚敷黏土和白色灰泥。松本城的外牆骨架採用櫻花樹和楓樹等材質的細圓木製作，骨架纏裹繩索，再在內外兩側塗抹數層黏土，最後在牆體表面刷上白色灰泥。松本城大天守每層外牆的上半部牆體直接暴露在外，下半部則使用黑漆“下見板”（風雨板）覆蓋。

大天守第二層外牆在 20 世紀 50 年代的修復中被拆除。牆體表面的灰泥塗層是在 1903 年至 1913 年保存修復工程期間重刷的。從這張牆體橫截面的俯瞰圖上，可以直觀了解牆體內部各層的構造。

<繁体字>

大天守的外牆

大天守具有防禦和指揮功能，同時象徵著城主的權威。它的外牆為防禦敵人的火繩槍攻擊而設計。16 世紀末，火繩槍在軍隊裡已廣為運用。為抵禦槍火，一樓和二樓的外牆最為堅固，部分牆體厚達 30 公分左右，但高處牆壁則因射擊角度的變化而無需太厚。一樓直面槍火攻擊，槍彈可以垂直射入牆體，越往高處，槍彈的入射角度就越小，因此能夠穿透的牆體也越薄。

白灰泥牆面在日本建築中十分常見，通常是先搭建木頭格柵狀的牆體骨架，再在上面厚敷黏土和白色灰泥。松本城的外牆骨架採用櫻花樹和楓樹等材質的細圓木製作，骨架纏裹繩索，再在內外兩側塗抹數層黏土，最後在牆體表面刷上白色灰泥。松本城大天守每層外牆的上半部牆體都直接暴露在外，下半部則使用黑漆「下見板」（風雨板）覆蓋。

大天守第二層外牆在 1950 年代的修復中被拆除。牆體表面的灰泥塗層是在 1903 年至 1913 年保存修復工程期間重刷的。從這張牆體橫截面的俯瞰圖上，可以直觀瞭解牆體內層間的構造。

<日本語仮訳>

大天守の壁

大天守は防戦と指揮という軍事機能に加えて、城主の権威の象徴でもある。その壁は、16世紀末に一般化した火縄銃を使った敵陣の攻撃から城兵を護れるように設計されている。城壁は1階と2階が最も強固で、一部は約30cmの厚みがある。高層階では入射角が変わるため、それほど壁を厚くする必要はなかったのである。1階では正面から撃つことができるが、高い階を狙えば狙うほど入射角は小さくなり、貫通できる壁厚も小さくなる。

日本建築には、白い漆喰壁がよく使われる。こうした壁は、まず支柱となる木製の格子を組み立て、その上から泥や漆喰を塗り重ねる。松本城の場合は、サクラ、カエデなどの細丸木で組んだ。その格子に縄を巻きつけ、その両側から土を塗り重ねる。最後に白い漆喰を塗り、完成である。大天守の外壁は、上部を露出させ、下部を黒塗りの下見板で覆っている。

この2階部分の壁は、1950年代の修理の際に撤去された。手前に見える漆喰の層は、1903年から1913年にかけて行われた保存修復工事の際に上塗りされたものである。図は壁の断面を上から見たもので、層がどのように組み合わせられているかを見ることができる。

【タイトル】懸魚：破風板裝飾

【想定媒体】看板

<簡体字>

懸魚：博風板下の裝飾件

松本城山牆外側的博風板下挂着被稱為“懸魚”的木製裝飾件，和不遠處展示的鯪瓦類似，傳說懸魚也能保護建築免于火患侵擾。“懸魚”就是“懸掛的魚”，相傳，古代中國人取“魚生于水可避火”之意，才將它們做成了魚的形狀，因此，最初的懸魚都是魚形。隨着時間的推移，懸魚逐漸出現了许多不同的形狀，包括以野猪眼睛（心形）、梅鉢紋、蕪菁（大頭菜，形似萝卜）和三葉草等幾大基礎造型衍生出的各種形狀。

在位於城郭中心的多層塔樓“大天守”、大天守西北方的“乾小天守”和東南方的“辰巳附櫓”上，所有人字形博風板下均裝飾有懸魚。這裡展出的一例來自辰巳附櫓，這種蕪菁狀的懸魚尤其多見於江戶時代(1603-1867)。

這塊懸魚以日本扁柏製成，外面曾纏有麻繩，方便在表面塗抹白灰泥。木板上至今殘留着固定麻繩的釘紐。中心的六角形金屬配件“六葉”上原本覆有黑漆，如今已經剝落，但木板上依舊可見染色的痕跡。

<繁体字>

懸魚：博風板下の裝飾物件

松本城山牆外側的博風板下掛著被稱為「懸魚」的木製裝飾物件。傳說懸魚能保護建築免于祝融之災，和不遠處展示的鯪瓦有類似功能。「懸魚」就是「懸掛的魚」，據說古代中國人取「魚生于水可避火」之意，將它們做成了魚的形狀，因此，最初的懸魚都是魚形。隨著時代演變，懸魚的形狀逐漸豐富，衍生出以野猪眼睛（心形）、梅鉢紋、蕪菁（大頭菜，形似蘿蔔）和三葉草等幾大基礎造型衍生出的各種形狀。

在位於城郭中心的多層塔樓「大天守」、大天守西北方的「乾小天守」和東南方的「辰巳附櫓」上，所有人字形博風板下都裝飾有懸魚。這裡展出的一例來自辰巳附櫓，這種蕪菁狀的懸魚在江戶時代（1603-1867）尤為流行。

這塊懸魚以檜木製成，外面原本纏著麻繩，方便在表面敷上一層灰泥。木板上至今殘留著固定麻繩的釘紐。中心的六角形金屬配件「六葉」上曾覆有黑漆，如今已經剝落，但木板上依舊可見染色的痕跡。

<日本語仮訳>

懸魚：破風板装飾

松本城の妻壁の外側につけられた破風板には、「懸魚」と呼ばれる木製の装飾具がある。近くに展示されている鯨瓦のように、懸魚もまた火災から建物を守るとされている。「懸魚」とは、文字通り、「魚を吊るす」という意味合いで、本来中国では火災除けに魚の形をしていると伝えられており、最初の「懸魚」は魚の形をしていたためこのように呼ばれたと言われる。しかし、その後、猪の目（ハート型）、梅鉢、カブ、三花などさまざまな形に基づいた懸魚が生まれて現在に至っている。

城郭の中枢部に建てられた多層の檜建築である大天守および大天守の北西に位置する乾小天守と南東に位置する辰巳附櫓の三角形の破風板のいずれにも懸魚が描かれている。ここに展示されているのは、辰巳附櫓から取り外されたものである。蕪型のデザインは、江戸時代（1603-1867）に最も一般的なものの一つである。

この懸魚は檜でできている。元々は麻紐で覆われており、白漆喰を塗るための固定具として使用されていた。この麻紐を固定するための小さな釘が残っている。中央の六角形の金具（六葉）には黒漆が塗られていたが、現在は剥がれ落ちたが、木部にかつての染色はまだ残っている。

【タイトル】 カラクリ、銃床、銃身：火縄銃の製作

【想定媒体】 看板

<簡体字>

枪机、枪托、枪管：制作一支火绳枪

制作火绳枪，需要多个不同行业的工匠参与：铁匠锻造枪管，木匠雕琢枪托，机械技师制作并组装枪机。

直到 16 世纪 40 年代，火器和制枪工艺才开始传入日本。不过，在此前的几个世纪里，日本工匠已经在锻造和金属加工等相关工艺领域拥有了高超的技艺。因此，在得到两支欧洲火绳枪之后，种子岛的刀匠只花了不到一年的时间便造出了同样的枪械。及至 16 世纪 50 年代，分布在不同地区的多家枪械铸造所已经生产出了数百支火绳枪。

中文	日本語
【枪管制造・铁匠】	【銃身・鉄砲師が作る】
使用硬铁制作芯棒，用于枪管定型。	真金で心棒を作り、銃身の成形を行う。
从初步锻成筒状的熟铁开始打造枪管。	錬鉄で瓦金を筒状に荒巻きする。
将硬铁紧紧包住芯棒后锻造成枪管。	真金を心棒に巻き付け、鍛える。
在枪管外包裹两层铁片或钢片。	鉄片または鋼片で銃身の筒に二重に巻きつける。
枪管成型，并添加前、后准星。	銃身の成形を行い、先目当と前目当がつけられる。
镌刻枪管铭文。有人会在枪管上刻上枪支主人或制造者的名字。	銃身に銘を彫る。一部の銃身には、所有者や作者の名前が刻まれるものもある。
【枪托制作・木匠】	【銃床・台師が作る】
描形，在木料上描出枪托的外形尺寸。	白木に墨入れを行う。
定型，根据枪管切削枪托，初步成型。	銃身をおさめる切り込みを仕上げる。

精修，完成枪托制作。	形を整え、銃床が完成する。
刻铭描墨，有人会在枪托上镌刻枪支主人或制造者的名字。	銃床に銘を彫る。一部の銃床には、所有者や作者の名前が刻まれるものもある。
【枪机组装·机械师】	【からくり·金具師が作る】
蛇杆，用于系火绳的蛇形杆。	火ばさみ、火繩を挟む部分。
蛇杆固定销	火ばさみ止め
“蟹目”扣，用于绷紧蛇杆。	火ばさみに張力をかけるためのカゴの目のついている盗人金。
弹簧	ゼンマイ
控制簧片	抑え金
枪机板	地板
组装各部件，完成枪机部分。	部品を組み立て、からくりが完成する。

火绳枪枪管的锻造

日本火绳枪的枪管使用锻铁打造。首先将熟铁片包裹在被称为“芯棒”的淬火铁棒上，锻造成无缝铁管。然后用一枚铁尾栓拧入枪管尾端封口，再对管身内壁进行研磨加工，使其光滑，并且内径大小一致。枪口成型后，在枪管前后两端安装准星。装上枪托，用一根金属箍带将其固定。最后安装好枪机装置和枪机板，并用黄铜钮钉固定所有部件。

在当时的军队中，身份地位不同，使用的枪械也不同。普通士兵使用的是由单层铁板量产的简易火绳枪，供武士使用的高级火绳枪在枪管上外加金属条强化。最贵重的火绳枪则使用双层淬火黑砂钢（日文称“玉钢”）制作枪管，这种钢材坚硬而富有延展性，是制作日本武士刀的材料。

<繁体字>

槍機、槍托、槍管：製作一支火繩槍

製作火繩槍，需要多個不同行業的工匠參與：鐵匠鍛造槍管，木匠雕琢槍托，機械技師製作並組裝槍機。

火器和製槍工藝在 1540 年代才開始傳入日本，不過在此前的幾個世紀裡，日本工匠已經在鍛造和冶金等相關工藝領域擁有了高超的技藝，因此，在得到兩支歐洲火繩槍之後，種子島的刀匠只花了不到一年的時間便造出了同樣的槍械。到了 1550 年左右，不同地區的多家槍械鑄造所已經生產出數百支火繩槍。

中文	日本語
【槍管製造・鐵匠】	【銃身・鉄砲師が作る】
使用硬鐵製作芯棒，用於槍管定型。	真金で心棒を作り、銃身の成形を行う。
從初步鍛成筒狀的熟鐵開始打造槍管。	鍊鉄で瓦金を筒狀に荒巻きする。
將熟鐵緊緊包住芯棒後鍛造成槍管。	真金を心棒に巻き付け、鍛える。
將鐵片或鋼片在槍管外包裹兩層。	鉄片または鋼片で銃身の筒に二重に巻きつける。
槍管成型，並添加前、後準星。	銃身の成形を行い、先目当と前目当がつけられる。
鑄刻槍管銘文。有人會在槍管上刻上槍支主人或製造者的名字。	銃身に銘を彫る。一部の銃身には、所有者や作者の名前が刻まれるものもある。
【槍托製作・木匠】	【銃床・台師が作る】
描形，在木料上描出槍托的外形尺寸。	白木に墨入れを行う。
定型，根據槍管切削槍托，初步成型。	銃身をおさめる切り込みを仕上げる。
精修，完成槍托製作。	形を整え、銃床が完成する。
刻銘描墨，有人會在槍托上鑄刻槍支主人或製造者的名字。	銃床に銘を彫る。一部の銃床には、所有者や作者の名前が刻まれるものもある。
【槍機組裝・機械師】	【からくり・金具師が作る】
蛇杆，用於系火繩的蛇形杆。	火ばさみ、火繩を挟む部分。
蛇杆固定銷	火ばさみ止め

「蟹目」扣，用於固定並繃緊蛇杆。	火ばさみに張力をかけるためのカニの目のついている盗人金。
彈簧	ゼンマイ
控制簧片	抑え金
槍機板	地板
組裝各部件，完成槍機部分。	部品を組み立て、からくりが完成する。

火繩槍槍管的鍛造

日本火繩槍の槍管使用鍛鐵打造，首先將熟鐵片包裹在被稱為「芯棒」的淬火鐵棒上，鍛造成無縫鐵管。然後將一枚鐵尾栓旋入槍管尾端封口，同時打磨槍管內壁，直至管身粗細一致、壁面光滑，接著完成槍口成形，並在槍管前後兩端加裝準星，再加裝槍托後用一根金屬箍帶固定，最後使用黃銅鈕釘固定所有部件，安裝好槍機裝置和槍機板。

在當時的軍隊中，身份地位不同，使用的槍械也不同。普通士兵使用由單層鐵片量產的簡易火繩槍，供武士使用的高級火繩槍在槍管上外加金屬條強化。最貴重的火繩槍則使用雙層淬火黑砂鋼（日文稱「玉鋼」）製作槍管，這種鋼材是製作日本武士刀的材料，質地堅硬而富有延展性。

<日本語仮訳>

カラクリ、銃床、銃身：火繩銃の製作

火繩銃の製造は、複数の熟練工の仕事であった。銃身を鍛える鍛冶屋、銃床を彫る木工屋、そしてカラクリを作り組み立てる技師である。

日本では 1540 年代まで銃器や鉄砲鍛冶は知られていなかったが、それまで、日本の職人たちはすでに何世紀もかけて、鍛冶や金属加工に関する技術を身につけていた。種子島の刀匠は、ヨーロッパの火繩銃 2 丁を手本に、1 年足らずでその技術を再現した。1550 年代までには、各地の鉄砲製造所で何百という火繩銃が生産されるようになった。

火繩銃の銃身の鍛造

日本製火繩銃の銃身は、まず錬鉄の板を「心棒」と呼ばれる焼き入れした鉄の棒に巻きつけ、継ぎ目のない筒状に鍛造する。この筒の尾端に鉄製の尾栓をねじ込んで密閉し、筒の内部を滑らかで、内径が一定になるようにホーニング加工（研磨）を施す。ここから、銃身は最終的な形に加工される工程に入る。銃口の形が整えられ、両端に先目当と前目当が付けられる。銃身を銃床にはめ込み、帯金で固定する。さらにはからくりやそのプレートを取り付け、真鍮製のピンで固定する。

当時、身分によって、所持する銃が決まっていた。一般兵が使う火縄銃は、一枚の鉄板から量産されたシンプルな銃身である。武士の持つ高級な銃は、銃身に短冊状の金属を巻いて補強した。その上に武士の刀と同じ、強くしなやかな玉鋼の焼入れ鋼を二重に巻いたものが最も高価な火縄銃であった。

【タイトル】 大口径火器と騎兵用火器

【想定媒体】 看板

<簡体字>

大口径火器和骑兵火器

大筒：大口径火绳枪

大友宗麟(1530-1587)是日本九州地区的一位吉利支丹（自16世纪至明治时代的日本基督教徒）大名（领主），他被公认为是将大口径火器引入日本的功臣。1576年，为了对抗领地内的对手，大友宗麟向葡萄牙人寻求帮助，购买到几支重型枪械，这就是后来被称为“大筒”的大口径火绳枪。有关这些枪支的技术规格信息很快传播开来，及至16世纪末，日本本国的枪械工匠便已造出了自己的大筒。

虽然构造原理与火绳枪非常相似，但就杀伤力而言，大筒更接近加农炮，就算是最小型的大筒，炮弹口径也有26毫米，射程在500米左右，通常被用来攻击城郭或其他防御工事。

大筒在大坂之阵(1614-1615)中扮演了重要角色，这场围城战是德川幕府(1603-1867)政权与前政府军之间爆发的最后一场大规模战役。相传，大坂城（今大阪）守军的士气就是在30毫米口径大筒一连数日、昼夜不停的攻击下消磨殆尽的。

在17世纪至18世纪，日本的枪械工匠们对基础版大筒加以改良，最终制造出了口径达100毫米的大筒。在欧洲，类似口径的野战加农炮被广泛应用于拿破仑战争(1803-1815)中。

抱式大筒：重型火绳枪

能够手持开火的大筒被称为“抱式大筒”。手持沉重的大筒并不简单，大筒本身的重量和射击时产生的后坐力让它们很难瞄准目标精准发射。当时日本的火绳枪没有配备西洋枪械那样的肩托，但枪手们演练出了不依托外物的支撑来操作这种威力强大的重型火绳枪的方法。他们或站，或跪着将左肘支撑在立起的左膝上射击，在射击时迅速抽回右臂，引导后坐力向上而非向后作用。

大筒兼具便携性和杀伤力，深得武士阶层将领的喜爱。这种武器不仅威力强大，还能被携带着穿行于狭窄的街道，或攀上蜿蜒的山路，这是车载加农炮所无法做到的。

马上筒：骑兵火器

日本的枪械锻造工匠还专门为骑马作战的武士研制出了短筒枪，称“马上筒”。这类武器的远程精准度不足，却胜在使用便利。

加藤清正(1562-1611)是一位来自日本中部地区的大名，他也是马上枪术高手，曾在 1592 年至 1598 年间多次赴朝鲜半岛参战。在那个时代，只有地位高贵的武士才有资格拥有定制武器，加藤清正却为骑兵团全员都配备了特制的马上筒。他的骑兵团用马上筒来突破敌军阵营，为紧随其后的长矛手开路。

<繁体字>

大口徑火器和騎兵火器

大筒：大口徑火繩槍

大友宗麟（1530-1587）是日本九州的一位吉利支丹（自 16 世紀至明治時代的日本基督教徒）大名（領主），他被認為是將大口徑火器引入日本的功臣。1576 年，為了對抗領地內的對手，大友宗麟向葡萄牙人尋求幫助，購買到幾支重型槍械，這就是後來被稱為「大筒」的大口徑火繩槍。有關這些槍支的技術訊息很快傳播開來，到了 16 世紀末，日本本國的槍械工匠便已造出了自己的大筒。

雖然構造原理與火繩槍非常相似，但就殺傷力而言，大筒更接近加農炮，就算是最小型的大筒，炮彈口徑也有 26 毫米，射程在 500 公尺左右，通常被用來攻擊城郭或其他防禦工事。

大筒在大坂之陣（1614-1615）中扮演了重要角色，這場圍城戰是德川幕府（1603-1867）政權與前政府軍之間爆發的最後一場大規模戰役。相傳，大坂城（今大阪）守軍的士氣就是在 30 毫米口徑大筒一連數日、晝夜不停的攻擊下消磨殆盡的。

在 17 世紀至 18 世紀，日本的槍械工匠們將基礎版大筒加以改良，最終造出了口徑達 100 毫米的大筒。在歐洲，類似口徑的野戰加農炮被廣泛應用於拿破崙戰爭（1803-1815）中。

抱式大筒：重型火繩槍

能夠手持開火的大筒被稱為「抱式大筒」。手持沉重的大筒並非易事，大筒本身的重量和射擊時產生的後坐力讓它們很難瞄準目標精準發射。當時日本的火繩槍沒有配備西洋槍械那樣的肩托，但槍手們卻練就出一身不依靠外物支撐來操作這種威力強大的重型火繩槍的方法。他們或站，或跪著將左肘支撐在立起的左膝上射擊，在射擊時迅速抽回右臂，引導後坐力向上而非向後作用。

由於大筒有著攜帶方便及殺傷力大的優點，深受武士階層將領的喜愛。這種武器威力強大，還能攜帶著穿行於狹窄的街道巷弄中，或攀爬蜿蜒的山路，這是車載加農炮所無法做到的。

馬上筒：騎兵火器

日本的槍械鍛造工匠還專門為騎馬作戰的武士研製出了短筒槍，稱「馬上筒」。這類武器雖然遠端精準度不足，使用起來卻相當便利。

加藤清正（1562-1611）是一位來自日本中部地區的大名，也是馬上槍術高手，曾在 1592 年至 1598 年間多次赴朝鮮半島參戰。在那個時代，只有地位高貴的武士才有資格擁有定製武器，加藤清正卻為騎兵團全都配備了特製的馬上筒。沖陣時，騎兵團用馬上筒突破敵軍防線，為緊隨其後的長矛手開路。

<日本語訳>

大口徑火器と騎兵用火器

大筒（大口徑火繩銃）

大友宗麟（1530-1587）は九州出身のキリシタン（16 世紀から明治時代における日本のキリスト教信者）大名（領主）で、日本に大口徑の火器を導入した人物として知られている。1576 年、大友は領地内の敵対勢力に対抗するためポルトガルの支援を求め、購入した重鉄砲は「大筒」として知られるようになる。この大筒に関する知識が広まり、16 世紀末には国内の火器鍛冶が大筒を製作するようになった。

デザインこそ火繩銃に似ていたが、その破壊力はむしろカノン砲に近いものであった。大筒は最も小型のものでも直径 26 ミリの球を発射し、射程距離が 500 メートル前後で城郭などの攻撃に使われた。

徳川幕府（1603-1868）と前政権軍との間で行われた最後の大規模な戦いである「大坂の陣」（1614-1615）でも、大筒は重要な役割を担った。大坂城は何日間にもわたって 30 ミリの大筒で数日にわたり 24 時間砲撃され、守備隊の士気が下がって降伏に追い込まれたといわれる。

日本の火器鍛冶は 1600 年代から 1700 年代にかけてこの大筒の基本設計を改良し、ついには口径 100 ミリにも及ぶ火砲を作り出した。ヨーロッパでは、ナポレオン戦争（1803-1815）で同じような口径の野砲が盛んに使われた。

抱え大筒：ヘビー級火繩銃

持ったまま撃てる大筒は「抱え大筒」と呼ばれた。重量があり、反動も大きいため、狙いを定めて撃つことが難しく、重量のあるこの大筒を扱うことは容易でなかった。西洋の銃器にはショルダーストックがあるが、日本の火繩銃にはない。そのため、射撃手たちは強力な火繩銃を支え無しで発射する独自の方法を開発した。立ったまま、もしくは膝をついて左肘を立てた左膝の上に乗せて支え発射するという方法であった。発射の際は、右腕を後ろに振り下ろし、反動を上方に逃がした。

武将たちは、携帯性と威力を兼ね備えた「大筒」を好んだ。強い破壊力を持ちながら、狭い道や曲がりくねった山道など、車載用のカノン砲では通れないような場所でも持ち運ぶことができた。

馬上筒：騎兵用火器

日本の火器鍛冶は、騎馬の武士用に「馬上筒」と呼ばれる短銃身の鉄砲を開発した。この銃は、扱いやすさで遠距離での低い命中精度という短所が補われた。

加藤清正(1562-1611)は、朝鮮半島出兵(1592-1598)で活躍した日本中部エリアの大名

であるが、馬上槍術の名手として知られている。当時、注文武器は身分の高い武士だけが持つものであったが、加藤は騎兵隊の全員に平等に専用の馬上筒で装備させた。これらの騎馬隊は、敵の隊列を崩すために突撃しながら発砲し、その後、槍で追撃した。

【タイトル】 日本各地での鉄砲生産

【想定媒体】 看板

<簡体字>

日本各地的枪械制造产业

自从葡萄牙火绳枪于 1543 年传入日本，枪械制造技艺便迅速在全国扩散。短短十年间，相关制造业已在多个地区落地生根。其中，最主要的制造中心是九州和近畿地方（大阪、京都周边地区），九州还是本土枪械制造的发源地。许多锻造工厂的创办者本身就是刀剑制造业者，他们将精良的金属加工工艺融入了枪械制造中。

虽说最初的日本火器只是对进口武器的模仿，但工匠们很快就开始寻求火器的多样性并加以改良，每个地区都渐渐发展出了各自的专长。

萨摩（今鹿儿岛县）

1543 年，种子岛的领主从葡萄牙商人手中得到了两支火绳枪，随即命令一位名叫八板金兵卫(1502-1570)的当地刀剑匠人研究复制。据传，八板金兵卫将女儿若狭嫁给了一名葡萄牙探险家，以此换取了火绳枪制造的一个关键性秘诀：如何将沉甸甸的铁制尾栓插入枪管尾部，使之能够承受开火时产生的压力。

萨摩枪形状细长，内置枪机，所有机械部件基本为铁制。整体设计力求简化，没有扳机护圈和放置推弹杆的槽口，但也有部分枪支添加了装饰性的元素，如刻花蛇杆或红漆枪托。

根来（今和歌山县）

根来的枪械制造创始人是日本第一位火绳枪制造大师津田监物(1499-1568)。身为根来寺（位于今和歌山县）武僧的后裔，津田监物曾在种子岛生活过一段时间。

1543 年，种子岛领主从葡萄牙商人手中得到两支葡萄牙火绳枪，津田监物买下了其中一支，带回根来后便雇佣刀匠复制了这种欧洲武器。虽然津田监物的枪械制造业很快被飞速崛起的堺地区（大阪附近）超越，但射击训练和部分枪械制造依然在根来地区保留下来。

根来的火绳枪多为大口径武器，枪口阔大，枪管为八棱形，外装黄铜枪机装置。在日本火器战争的初期，这类武器需求极大，只是如今存世量极少。

阿波（今德岛县）

阿波藩主要出产中等口径的枪械，阔口、长管。这类武器采用了带外置式 U 型簧片的枪机，被称为“平机关”，设计简单，很受欢迎。

堺（今大阪府）

火绳枪的出现为富有进取心的日本商人提供了机会，比如橘屋又三郎（生卒年不详）。这位来自大阪附近港口城市“堺”的商人，其枪械工厂就位于“堺”，而这里又是日本两大枪械产地之一，因此他本人也得到了“铁炮又”的别称（日语中的“铁砲”就是枪械）。在大约 300 年间，橘屋的工匠和他们的子孙主要为德川幕府(1603-1867)提供武器。

使用可锻铸铁制作的八棱形长枪管是堺火绳枪的特点。这类火绳枪形状十分优雅，尾端接近球状，逐渐收细，枪口窄小，装配了带 U 型外置式簧片的黄铜枪机。

堺出产的枪械中有很多装饰精巧的作品，它们配有镶嵌金属的枪托以及雕花的枪机板和枪管。绝大部分华丽且高价的“大名筒”都出自堺的枪械工匠之手。

备前（今冈山县）

江户时代(1603-1867)晚期，一群刀匠在毗邻濑户内海的备前藩创办了一家枪械锻造工厂。他们制造的火绳枪朴实无华却经久耐用，深受追求实战效果而非摆设的火枪手喜爱。

国友和日野（今滋贺县）

最初的火绳枪来到种子岛之后不久，岛上的领主就将它进献给了室町幕府将军足利义晴(1511-1550)，后者随即将这支武器送至国友村的锻冶屋，令其复制。

之后，国友和大阪府的堺成为了日本两大枪械产地。国友的枪械制造产业从 16 世纪内战时期起到德川幕府时代共延续了 4 个世纪。鼎盛时期，国友旗下的工匠数量高达 1000 余人。通常认为，如今存世的日本造火绳枪中，大约有三分之一都出自国友。

国友和邻市日野的枪械工匠为顺应时代需求，不断改良枪管和枪机设计，产品几乎涵盖了这种武器的所有品类。国友的枪械大都简单易用，不事雕琢。实用创新是国友的标签，其出品的火绳枪枪管越来越纤细轻巧，枪机设计中也引入了螺丝等新部件。

仙台（今宫城县）

17 世纪，德川幕府下令限制火绳枪的制造，于是，部分藩地开始暗中扩充各自的武器库。仙台是日本北部一处富庶的领地，当地大名（领主）秘密派遣工匠前往国友学习制造工艺，后来还在仙台境内秘密建造了一家枪械制造厂，持续生产至 19 世纪。

仙台的枪械实用且性能可靠。它们通常配有外装的扭转簧片（日文称“外记机关”）。部分木制枪托上有如葫芦、葡萄或葛藤等花式装饰。

<繁体字>

日本各地的槍械製造產業

葡萄牙火繩槍於 1543 年傳入日本後，槍械製造技術便迅速在全國傳開。短短十年間，相關產業便在日本多個地區落地生根。其中，最主要的製造中心是九州和近畿地方（大阪、京都周邊地區），九州更成為本土槍械製造的發源地。有趣的是，許多刀劍製造商將精良的金屬加工工藝融入了槍械的生產製造中，成為槍械工廠的老闆。

最初的日本火器只是對進口武器的模仿，但很快，日本工匠就開始挖掘火器的更多可能性並加以改良，漸漸地，每個地區都發展出了各自的專長。

薩摩（今鹿兒島縣）

1543 年，種子島的領主從葡萄牙商人手中得到了兩支火繩槍，隨即命令當地一位名叫八板金兵衛（1502-1570）的刀劍匠人研究複製。據傳，八板金兵衛將女兒若狹嫁給一名葡萄牙探險家，以此換取了火繩槍製造的一個關鍵秘訣：如何將沉甸甸的鐵製尾栓插入槍管尾部，使其能夠承受開火時產生的壓力。

薩摩槍形態細長，內置槍機，所有機械部件基本為鐵製。整體設計力求簡化，沒有扳機護圈和放置推彈杆的槽口，但也有部分槍支添加了裝飾性的元素，如刻花蛇杆或紅漆槍托。

根來（今和歌山縣）

根來的槍械製造創辦人是日本第一位火繩槍製造大師津田監物（1499-1568）。他曾在種子島生活過一段時間，是根來寺（位於今和歌山縣）武僧的後裔。

1543 年，種子島領主從葡萄牙商人手中得到兩支葡萄牙火繩槍，津田監物買下了其中一支，帶回根來後便雇傭刀匠，複製了這種歐洲武器。雖然津田監物的槍械製造業很快被飛速崛起的堺地區（大阪附近）超越，但射擊訓練和部分槍械製造依然在根來地區保留下來。

根來的火繩槍多為大口徑武器，槍管為八棱形，槍口相對更加闊大，外裝黃銅製作的槍機裝置。在日本火器戰爭的初期，這類武器需求量相當龐大，只是保存至今的已經很少。

阿波（今德島縣）

阿波藩主要出產中等口徑的槍械，闊口、長管。這類武器採用了帶外置式 U 型簧片的槍機，被稱為「平機關」，設計簡單，很受歡迎。

堺（今大阪府）

火繩槍的出現為富有野心的日本商販提供了機會，比如橘屋又三郎（生卒年不詳）。這位來自大阪附近港口城市「堺」的商賈，其槍械工廠就位於「堺」，而這裡又是日本兩大槍械產地之一，因此他本人也得到了「鐵炮又」的別稱（日語中的「鐵砲」就是槍

械)。在長約 300 年時間裡，橘屋的工匠和其子孫都在為德川幕府（1603-1867）提供武器。

使用可鍛鑄鐵製作的八棱形長槍管是堺火繩槍的特點。這類火繩槍形狀十分優雅，尾端接近球狀，槍口窄小，逐漸收細，並裝配了帶 U 型外置式簧片的黃銅槍機。

堺出產的槍械中有很多裝飾精巧的作品，它們配有鑲嵌金屬的槍托以及雕花的槍機板和槍管。絕大部分華麗且高價的「大名筒」都出自堺的槍械工匠之手。

備前（今岡山縣）

江戶時代（1603-1867）晚期，一群刀匠在毗鄰瀨戶內海的備前藩創辦了一家槍械鍛造工廠。他們製造的火繩槍樸實無華卻經久耐用，廣受追求實戰效果而非擺設的火槍手喜愛。

國友和日野（今滋賀縣）

最初的火繩槍來到種子島之後不久，島上的領主就將它進貢給室町幕府將軍足利義晴（1511-1550），後者隨即將這支武器送至國友村的鍛冶屋，並命令其複製。

後來，國友和大阪府的堺一起成為了日本兩大槍械產地。國友的槍械製造產業從 16 世紀內戰時期起到德川幕府時代共延續了 4 個世紀。鼎盛時期，國友旗下的工匠數量高達 1000 餘人。據說如今存世的日本造火繩槍中，大約三分之一都出自國友。

國友和鄰市日野的槍械工匠為順應時代需求，不斷改良槍管和槍機設計，產品幾乎涵蓋了這種武器的所有品類。國友的槍械大都簡單便於使用，不事雕琢。實用創新是國友的標籤，其出品的火繩槍槍管越來越纖細輕巧，槍機設計中也引入了螺絲等新零件。

仙台（今宮城縣）

17 世紀，德川幕府下令限制火繩槍的製造，於是，部分藩地開始暗中擴充各自的武器庫。仙台是日本北部一處富庶的領地，當地大名（領主）秘密派遣工匠前往國友學習製造工藝，後來還在仙台境內秘密建造了一家槍械製造工廠，持續生產至 19 世紀。

仙台的槍械不但實用而且性能可靠。它們通常配有外裝的扭轉簧片（日文稱「外記機關」），部分木製槍托上有如葫蘆、葡萄或葛藤等花式裝飾。

<日本語仮訳>

日本各地での鉄砲生産

1543 年にポルトガルから鉄砲が伝来して以来、鉄砲の生産は急速に広まった。その後 10 年で、日本の各地に銃砲製造の拠点が広がった。その中心は国産化の始まりの地である九州と、近畿地方（大阪・京都周辺）である。多くの鍛冶場が、刀工たちによって設立され、彼らの高度な金属加工技術が鉄砲生産に生かされていた。

当初の国産鉄砲は輸入品を模倣したものであったが、やがてバリエーションを増やし改良が加えられ、各地域で独自の発展を遂げた。

薩摩（鹿児島県）

1543 年、種子島の領主がポルトガル人商人から 2 丁の火縄銃を入手すると、地元の刀工、八板金兵衛（1502-1570）にその模造品を作るよう指示した。八板はポルトガル探検家の一人と娘の若狭を結婚させ、その見返りとして鉄砲製造の重要な秘伝（重い鉄製の尾栓で銃身の後部をふさぎ、火薬の爆圧を受け止める製法）を授かったと言われている。

薩摩鉄砲は細長く、内部にカラクリのバネを取り付け、その仕組みはほとんど鉄でできている。全体的にミニマルなデザインで、用心鉄や槩杖を収納する部分はないが、薩摩の鉄砲には火ばさみの刻印や紅がら塗りの銃床など、装飾的な要素を持つものもある。

根来（和歌山県）

根来の鉄砲づくりは、日本最初の鉄砲名人である津田監物（1499-1568）によってもたらされた。津田は現在の和歌山県にある根来寺の武僧の子孫で、種子島に住んでいたこともある。

1543 年、津田は種子島藩主がポルトガル人商人から入手した 2 本のポルトガル製火縄銃の 1 本を購入した。津田はこの武器を根来に持ち帰り、刀匠を雇ってこのヨーロッパの武器を再現させた。津田の鉄砲製造は、まもなく大阪近くの堺で急成長した鉄砲製造所に押され気味になったが、砲術の訓練と一部の製造が根来で続けられた。

根来の鉄砲は大口径のものが多く、銃口は広く、銃身は八稜形で、外側に真鍮製のカラクリが取り付けられている。日本における火縄銃を使用する戦争の初期には非常に需要があったが、現在まで残っているものはほとんどない。

阿波（徳島県）

阿波藩では、銃身が長く、広い口径を持つ中口径の銃がもっぱら生産された。カラクリは外側に U 字型のバネを取り付けた、「平からくり」と呼ばれるシンプルで人気の構造であった。

堺（大阪府）

火縄銃の伝来は、大阪近郊の港町「堺」の商人、橋屋又三郎（生没年不詳）のような進取の気性に富んだ実業家にチャンスをもたらした。橋屋の鉄砲工場は日本における二大鉄砲産地のひとつである堺にあり、橋屋は「鉄砲又」と呼ばれるようになった。日本語の「鉄砲」とは、銃器のこと。橋屋の鉄砲職人とその子孫は、主に徳川幕府（1603-1867）のために約 300 年にわたり武器を生産した。

堺の火縄銃は、柔らかい鉄製の長い八稜形の銃身が特徴である。台尻はやや丸みを帯びて銃口に向かって細くなり、とてもエレガントである。真鍮製のカラクリは外側に U 字型のバネが取り付けられている。

堺の鉄砲には、金属を嵌め込んだ銃床、彫刻を施したカラクリのプレートや銃身など、精巧な装飾が施されたものが多い。「大名筒」として知られる華麗で高価な武器のほとんどは、堺の鉄砲鍛冶が製造していた。

備前（岡山県）

江戸時代（1603-1867）末期、瀬戸内海側の備前藩で、刀工たちが鉄砲鍛冶を創業した。彼らが作る、飾りがなくて耐久性に優れた火縄銃は観賞用ではなく、実戦用の武器を必要とする砲撃手の間で人気を博した。

国友・日野（滋賀県）

種子島に初めて鉄砲が伝来して間もなく、島の領主は将軍・足利義晴（1511-1550）に鉄砲を献上し、義晴は国友村の鍛冶屋にその鉄砲を送り、その複製を命じたという。

国友の鉄砲鍛冶は、堺と並ぶ日本における鉄砲の二大産地のひとつとなった。国友の鉄砲製造所は、16世紀の内戦から徳川幕府時代までの400年にわたり、火縄銃を製造した。最盛期には1,000人以上の職人が働いていたという。現在残っている日本の火縄銃の約3分の1は国友で生産されたものと言われている。

国友の鉄砲職人や隣町の日野の鉄砲職人は、時代に合わせて銃身やカラクリのデザインを変えながら、あらゆる種類の鉄砲を製造した。国友銃は、装飾を排したシンプルで使いやすいものが多い。銃身は年々細く軽くなり、カラクリにはネジなどの新しい部品が導入されるなど、実用的な工夫が凝らされていたのも国友の特徴だった。

仙台（宮城県）

17世紀、徳川幕府が火縄銃の製造を制限し始めると、一部の藩は独自に火器を備蓄しはじめた。日本の北部に位置する裕福な藩である仙台の大名（領主）は国友に職人を密かに派遣し、鉄砲製造を学ばせた。そして仙台領内に密かに鉄砲製造所を設立し、19世紀まで生産を続けた。

仙台の鉄砲は、実用的で信頼性が高い。外側にねじりバネ（外記からくり）がついているのが一般的である。木製銃床に瓢箪、葡萄、葛などの花模様など、装飾が施されることもある。

【タイトル】 雑兵物語：足軽のためのハウツーガイド

【想定媒体】 看板

<簡体字>

《杂兵物语》：步兵指南

《杂兵物语》是一部面向长枪兵、弓箭兵、火枪兵及养马兵、运输兵的初级入门读物，他们都是17世纪军队的最主要兵种。这本书的描述生动易懂，可作为新兵指导手册。书中设定了30个步兵（日文称“足轻”）和后勤支援兵的角色，以他们各自的视角叙事并提供建议。

步兵军饷低，装备和物资供应都相对匮乏，想在战场上求生，所需的不仅仅是战斗技巧。《杂兵物语》为步兵指点了许多生存窍门，比如：如何碾碎辣椒抹在双腿上取暖，如何用马粪烧火，如何用绳子或树皮做汤，如何埋藏从敌军领地里夺来的食物和衣物。

书中对枪术也有很详尽的说明。手册中提出了不少建议：理想射程是多少（约100米），如何应对骑马的对手（先射马，后射人），在敌人逼近时如何运用刀剑（瞄准没有保护的脚部或手部挥剑，因为廉价的“足轻刀”遇上重铠就会“弯成锅柄”）。

《杂兵物语》成书于1657年至1683年之间，那时拥有实战经验的士兵数量正日趋下降。自最近一次的大规模军事冲突岛原之乱(1637-1638)后，德川幕府(1603-1867)已经建立起了一个和平稳定的社会，并最终持续了两个多世纪。因此，武士们需要寻找新的方式将战斗技能和知识传承下去。

《杂兵物语》作者不详，但有观点认为它是大名（领主）兼幕府顾问“相谈役”松平信兴(1630-1691)的作品。

《武器图鉴》：武器图解

《武器图鉴》（图鉴，音同“必”，意为“二百”）是一部武器、铠甲和其他军事装备的图鉴，出版于1848年。这本书更像一本学习工具书，书页中有裁剪线，便于读者剪下图片，作为认读卡片使用。

书中辑录了各色军事装备，包括：刀剑、匕首、弓、长矛等武器；旗帜、条幅及其它标识装备；战舰、防御工事、攻城兵器等。全书共分17类目，囊括当时的武器及相关配件，如加农炮、火绳枪、炸弹、弹药、火绳、推弹杆、炮架等。彩色插图上用汉字和便于拼读的平假名标明了每种武器的名称。

赤羽藏品

松本城铁砲博物馆（日语中的“铁砲”就是枪械）内不仅存放了赤羽道重和赤羽加代子

夫妇收藏的大量枪械，还有他们收集的各种与枪支相关的书籍和文献，其中包括了日本和西方国家出版的文献图书。赤羽夫妇将所有收藏委托给了松本市一并管理。

<繁体字>

《雜兵物語》：步兵指南

《雜兵物語》是一部寫給長槍兵、弓箭兵、火槍兵及養馬兵、運輸兵的入門讀物，他們是 17 世紀軍隊最主力的兵種。這本書如同一本新兵指導手冊，描述口吻生動，書中還設定了 30 個步兵（日文稱「足輕」）和後勤支援兵的角色，以他們各自的視角敘事並提供建議。

步兵軍餉低，裝備和物資供應都相對匱乏，想在戰場上求生，需要的不僅僅是戰鬥技巧。《雜兵物語》提供步兵許多生存竅門：如何碾碎辣椒抹在雙腿上取暖、如何用馬糞燒火，如何用繩子或樹皮做湯，以及如何埋藏從敵軍領地裡奪來的食物和衣物。

書中對槍術也有很詳盡的說明，並提出了不少建議：理想射程是多少（約 100 公尺）、如何應對騎馬的對手（先射馬，後射人）、在敵人逼近時如何運用刀劍（瞄準沒有保護的腳部或手部揮劍，因為廉價的「足輕刀」遇上重鎧就會「彎成鍋柄」）。

《雜兵物語》成書於 1657 年至 1683 年之間，那時擁有實戰經驗的士兵數量逐漸下降。自最近一次的大規模軍事衝突島原之亂（1637-1638）後，德川幕府（1603-1867）已經建立起了一個和平穩定的社會，並最終持續了兩個多世紀。因此，武士們需要尋找新的方式來將戰鬥技能和知識傳承下去。

《雜兵物語》作者不詳，但有觀點認為它是大名（領主）兼幕府顧問「相談役」松平信興（1630-1691）的作品。

《武器圖》：武器圖解

《武器圖》（圖，音同「必」，意為「二百」）是一部有關武器、鎧甲和其他軍事裝備的圖鑒，在 1848 年出版。這本書可以說是一本學習工具書，書頁中有裁剪線，便於讀者剪下圖片，作為認讀卡片使用。

書中摘錄了各色軍事裝備，包括：刀劍、匕首、弓、長矛等武器；旗幟、條幅及其它標識裝備；戰艦、防禦工事、攻城兵器等。全書共分為 17 個類目，囊括了當時的武器及相關配件，如加農炮、火繩槍、炸彈、彈藥、火繩、推彈杆、炮架等。彩色插圖上用漢字和便於拼讀的平假名標明了每種武器的名稱。

赤羽藏品

松本城鐵砲博物館（日語中的「鐵砲」就是槍械）內的赤羽藏品都來自赤羽道重和赤羽加代子夫婦，他們不僅收藏了各類槍械，還有與其相關的書籍和文獻，其中包括日本和西方國家出版的文獻圖書。赤羽夫婦將所有收藏委託給了松本市一併管理。

<日本語仮訳>

雑兵物語：足軽のためのハウツーガイド

『雑兵物語』は、17世紀の軍隊の大部分を占めた槍兵、弓兵、鉄砲兵、厩番、運搬係のための助言書である。本書は、歩兵（足軽）と支援部隊の30人の一人称の証言と指導で構成されている。この『雑兵物語』は、新兵のためのわかりやすい指導書として、生き生きとした口語体で書かれている。

足軽は給料も装備も食事も貧しく、戦場で生き残るためには戦闘技術だけでは不十分だった。『雑兵物語』には、暖を取るためにつぶした唐辛子を脚に塗る方法、馬糞を燃やして火を起こす方法、縄や木の皮で汁物を作る方法、敵地で略奪した食料や衣類を埋める方法などが書かれている。

砲術についても詳しく説明されている。射程距離の目安（約100メートル）、馬上の敵の対処法（まず馬を撃ち、次に騎手を撃つ）、敵が迫ってきたときの刀の使い方（露出した足や手に振り下ろす-足軽の安物刀は重い鎧に対して「鍋の柄のように曲がる」ため）などが解説されている。

『雑兵物語』は1657年から1683年にかけて編纂されたが、当時は実戦経験のある軍人が少なくなっていた時代であった。島原の乱（1637-1638）を最後に大規模な軍事紛争がなくなり、徳川幕府（1603-1867）が200年を超える社会の安定を作り出した時代である。そのため、武士たちは自分たちの専門知識を伝える新しい方法を考えなければならなかった。

『雑兵物語』は、大名（領主）で将軍の相談役であった松平信興（1630-1691）の著作とされることもあるが、その真偽は定かでない。

武器図鑑：武器図鑑

『武器図鑑』は、1848年に出版された武器や鎧などの軍装品の図鑑である。学習教材として、ページには切り取り線があり、コマを切り取ってカルタとして使用することができる。

収録されているのは、剣、短剣、弓、矛などの武具、旗、幟などの合図用具、軍艦、要塞、攻城兵器など、あらゆる種類のものである。17の項目は、大砲、火縄銃、爆弾、弾薬、火縄、槊杖、砲架などの銃器やその付属品を扱っている。図版はカラーで、各武器の名称は漢字とひらがなの両方で記載されている。

赤羽コレクション

松本城鉄砲蔵（日本語の「鉄砲」とは、銃器のこと）に赤羽コレクションを寄託した赤羽道重・加代子夫妻は、鉄砲に関するさまざまな書籍や資料も所蔵していた。日本だけでなく西洋の書籍も含む赤羽コレクションは、火縄銃やその他の武器のコレクションとともに松本市に寄託された。

【タイトル】 歴史に残る鉄砲戦：島原の乱

【想定媒体】 看板

<簡体字>

留存历史的枪炮战争：岛原之乱

九州南部爆发的岛原之乱(1637-1638)，是一场由大约 37,000 名农民和浪人（失去领主的武士）为反抗德川幕府(1603-1867)政权而发动的起义，他们的愤怒来自于苛捐杂税和宗教迫害。岛原藩前任藩主信奉基督教，起义者中有许多人都是在其统治期间闖家改宗的吉利支丹（自 16 世纪至明治时代的日本基督教徒）。在初期的几次小规模武装冲突之后，起义军躲进了一处城郭寻求庇护，引发了一场长达数月的围城之战。

交战双方都装备了精良的火器。荷兰商船队为幕府攻城部队提供了炮艇和加农大炮，起义军手中的火绳枪可能来自荷兰商人的对手葡萄牙人。

在起义军耗尽粮食和弹药之后，幕府军队攻占了城郭。数万起义军或死于战斗，或在事后遭到处决。

岛原之乱结束后，幕府收紧闭锁国政策，进一步强化基督教禁令，同时实施新限制生产和持有火器。短短数年之后，幕府几乎断绝了与西方诸国的往来。

<繁体字>

留存歷史的槍炮戰爭：島原之亂

九州南部爆發的島原之亂（1637-1638），是一場由大約 37,000 名農民和浪人（失去領主的武士）為反抗德川幕府（1603-1867）政權而掀起的起義，他們的憤怒來自於苛捐雜稅和宗教迫害。島原藩前任藩主信奉基督教，起義者中有許多人都是在其統治期間闖家改宗的吉利支丹，即自 16 世紀至明治時代的日本基督教徒。在初期的幾次小規模武裝衝突之後，起義軍躲進了一處城郭尋求庇護，引發了一場長達數月的圍城之戰。

荷蘭商船隊為幕府攻城部隊提供了炮艇和加農大炮，起義軍手中的火繩槍可能來自荷蘭商人的對手葡萄牙人，交戰雙方都裝備了精良的火器。

起義軍最終耗盡城中的糧食和彈藥，幕府軍隊攻佔了城郭。數萬起義軍或死於戰鬥，或在平定之後遭到處決。

島原之亂結束後，幕府加強了閉鎖鎖國政策，進一步強化基督教禁令，同時針對製造與持有火器實施了新的限制令。短短數年之後，幕府幾乎斷絕了與西方諸國的往來。

<日本語仮訳>

歴史に残る鉄砲戦：島原の乱

九州南部で起こった島原の乱（1637-1638）は、徳川幕府（1603-1867）の軍勢に対して、約3万7千人の農民と主君のいない武士が起こした反乱である。反乱軍には、高い税金や宗教的迫害に怒る者、島原の先代藩主がカトリック信者だったため、島原藩の下で改宗したキリシタン（16世紀から明治時代における日本のキリスト教信者）が多く含まれていた。反乱軍は小競り合いの後、城に避難して数カ月にわたる籠城戦を余儀なくされた。

両者とも火器は十分に備えていた。幕府軍はオランダの商船隊から砲艦とカノン砲を提供され、籠城戦を展開した。一方、反乱軍は、オランダ商人のライバルであるポルトガル人から入手したと思われる火縄銃で武装していた。

幕府軍が城を攻め落としたのは、反乱軍が食糧と火薬を使い果たした後だった。数万人の反乱軍は戦死するか、処刑された。

反乱の後、幕府は鎖国政策を強化。キリスト教禁止令を強化し、火器の製造と所持に新たな制限を課した。その数年後、幕府は欧米人の入国をほぼ禁止するようになった。

【タイトル】 ステータスのシンボルとしての銃

【想定媒体】 看板

<簡体字>

象征身份地位的枪械

如同刀、剑一样，火绳枪也并非单纯的武器，它是财富与权势的象征，甚至被视为艺术品。

16 世纪的内战结束后，日本迎来了德川幕府(1603-1867)相对和平安定的时代，对于战争武器的需求也随之减少。幕府虽然依旧用枪械装备自身的武器库，却严格限制地方，未经授权不得制造或持有。

幕府的政策令火绳枪变得稀有，并逐渐成为身份地位的象征。就像只有武士才能佩戴的长刀短剑，或是欧洲贵族的佩剑，一把造型优雅的火绳枪也足以代表权利与阶级，高官重臣们喜欢在家中摆设火绳枪。为满足这样的需求，当时的枪械工匠开始制作精巧华美的枪支。

雕花枪管和枪机板以及镶嵌着金、银、铜的枪托，都成为火绳枪的美学装饰元素。除了花卉图案很受欢迎之外，许多枪支上还镌刻着主人或制造者的姓名。

<繁体字>

象徵身份地位的槍械

如同刀、劍一樣，火繩槍也並非單純的武器，它是財富與權勢的象徵，甚至被視為藝術品。

16 世紀的內戰結束後，日本迎來了德川幕府時代（1603-1867）相對的和平與安定，對於戰爭武器的需求也隨之減少。幕府雖然依舊用槍械裝備自身的武器庫，卻嚴格限制地方，未經授權不得製造或持有。

幕府的政策令火繩槍數量銳減，並逐漸成為身份地位的象徵。就像只有武士才能佩戴的長刀短劍，或是歐洲貴族的佩劍，一把造型優雅的火繩槍也足以代表權力與階級，高官重臣們喜歡在家中擺設火繩槍。為滿足這樣的需求，當時的槍械工匠開始製作精巧華美的槍支。

雕花槍管和槍機板以及鑲嵌著金、銀、銅的槍托，都成為火繩槍的美學裝飾元素。許多槍支上還鐫刻著主人或製造者的姓名，花卉圖案也十分受歡迎。

<日本語仮訳>

ステータスのシンボルとしての銃器

火縄銃は刀剣と同様に単なる武器ではなく、富や権力の象徴、あるいは芸術品として扱われることもあった。

16世紀の内乱期から、徳川時代の比較的平和で安定した時代になると、武器の必要性は低下した。幕府は自国の武器庫に鉄砲を必要としたが、外部での鉄砲の無許可製造と所持には厳しい規制を課した。

その結果、火縄銃はその希少性からステータスのシンボルとなった。武士の長刀と短刀のように、あるいはヨーロッパの貴族の刀のように、優雅に作られた火縄銃は、権力と階級の象徴となったのである。また、有力者は自宅や屋敷に銃を飾り、鉄砲鍛冶は装飾を凝らした精巧な作品を製作するようになった。

火縄銃に施される装飾には、銃身やカラクリの刻印、金・銀・真鍮を象眼した銃床などがある。また、花柄のデザインも人気があり、所有者や製造者の名前が刻まれたものも多い。

【タイトル】 食器類および食物などの出土品

【想定媒体】 看板

<簡体字>

出土食器与食物

贝壳

松本城的居民曾经食用各种海洋贝类，包括鲍鱼、蝶螺、赤贝、牡蛎、文蛤等。此外，位于城郭二级区域的二之丸御殿遗址中还出土了淡水贝类和田螺的壳。

鱼骨

在二之丸御殿遗址，人们发现了海鲈鱼、海鲷、高体鲷及其他海鱼和淡水鲤鱼的骨头。松本地区的海产品来自太平洋或日本海，在冰箱冰柜和高速交通设施出现以前，它们都是非常昂贵的奢侈品。虽然大多数鱼类只能在腌制后再送到松本，但生鱼也并不少见，有记载显示，在 1825 年庆祝户田家族执掌本地的百年庆典上，就出现了生的海鲷鱼。

盐具

精制盐是备受武士和贵族家庭喜爱的调味品。提取精制盐，需要将粗盐放入陶罐中焙烤，去除卤水（称“盐卤”）蒸馏时残留的苦味物质和其他杂质。二之丸御殿遗址共出土了 59 个精制盐容器。

这个容器上有泉州（今大阪府堺市）一家盐店的印记，那里现在依然是盐产地。

朝鲜瓷器

在二之丸御殿遗址的发掘中，考古学家还发现了来自朝鲜半岛的青瓷制品。这种青绿色的瓷器十分珍贵，这里展出的样品可能出自 14 世纪至 16 世纪的某个时期。

<繁体字>

出土食器與食物

貝殼

松本城的居民曾經食用各種海洋貝類，包括鮑魚、蝶螺、赤貝、牡蠣、文蛤等。此外，位於城郭二級區域的二之丸御殿遺址中還出土了淡水貝類和田螺的殼。

魚骨

在二之丸御殿遺址中，人們發現了海鱸魚、海鯛、高體鰈及其他海魚和淡水鯉魚的骨頭。松本地區的海產品來自太平洋或日本海，在冰箱和鐵路、高速公路出現以前，都是非常昂貴的奢侈品。雖然大多數魚類只能在醃製後再送到松本，但生魚也並不少見，有記載顯示，在 1825 年慶祝戶田家執掌本地的百年慶典上，就出現了生海鯛魚。

鹽具

精製鹽是備受武士和貴族家庭喜愛的調味品。提取精製鹽，需要將粗鹽放入陶罐中焙烤，去除鹵水（稱「鹽鹵」）蒸餾時殘留的苦味物質和其他雜質。二之丸御殿遺址共出土了 59 個精製鹽的容器。

這個容器上有泉州（今大阪府堺市）一家鹽商的印記，那裡如今依然是鹽產地。

朝鮮瓷器

在二之丸御殿遺址的發掘中，考古學家還發現了來自朝鮮半島的青瓷製品。這種青綠色的瓷器十分珍貴，這裡展出的樣品可能出自 14 世紀至 16 世紀的某個時期。

<日本語仮訳>

食器類および食物などの出土品

貝殻

松本城の住民はかつて、アワビ、サザエ、赤貝、牡蠣、蛤など、さまざまな海の貝類を食していた。また、城二番目に重要な曲輪に位置する二の丸御殿跡からは、また、淡水の貝類や池のタニシの殻なども見つかっている。

魚の骨

二の丸御殿跡からは、スズキ、鯛、カンパチなどの海の魚や、淡水魚では鯉の骨も発見されている。太平洋や日本海から松本に運ばれた魚介類は、電気冷蔵や高速輸送が発達していなかった時代には、贅沢品であった。ほとんどの魚は塩漬けにして出荷されたが、生魚も珍しくはなかった。1825 年の戸田氏の治城百年祭では、生の鯛が供されたとの記録が残っている。

塩の容器

武士や公家が好んで使った調味料が精製塩である。塩を加工しないまま陶製の釜で焼き、苦味のあるにがりや不純物を取り除いて作られた。二の丸御殿跡からは 59 個の精製塩の容器が出土している。

この容器には、現在も塩の産地である泉州（大阪府堺市）の塩屋の印がある。

朝鮮磁器

二の丸御殿の発掘調査で、朝鮮半島産の青磁が発見された。この緑色の磁器は非常に貴重であった。この作品は、14 世紀から 16 世紀にかけて作られたものと思われる。

【タイトル】 歴史に残る鉄砲戦：大坂の陣

【想定媒体】 看板

<簡体字>

留存历史的枪炮战争：大坂之阵

1614年至1615年的“大坂之阵”是丰臣家族和德川家族之间爆发的最后一场战争。两大家族的对抗从16世纪晚期一直延续到17世纪早期，以德川家康(1543-1616)的最终胜利告终。德川家康是德川幕府第一位将军，他开创的时代一直延续到了1867年。德川家康深知火器的威力，因此，在攻打大坂城（今大阪）时带去了一批来自欧洲的加农炮。

这场围城战是两大家族漫长较量的最高潮。其实德川家康早在15年前便已压制住丰臣家族及其家臣，夺得了日本的统治权。丰臣家族仅余一支残部退守大坂城，城主是丰臣秀赖(1593-1615)。然而，德川家康依然将其视为威胁势力，终于在1614年采取行动，计划将其彻底剿灭。

德川家康军队装配的枪炮更先进，性能更优，其中包括被称为“大筒”的大口径火绳枪。连同从荷兰人和英国人手中得来的10门加农炮，德川军不分昼夜地轰击城郭。据说炮击未能损伤厚实坚固的石垣台基，却摧毁了上方的木构建筑和守城军队的士气。有文献记录显示，当时一枚加农炮弹击中了丰臣秀赖母亲淀殿的居所，打坏了她的茶柜。

德川家康的战术奏效了。1615年5月8日，大坂城被焚，丰臣家族年轻的家主丰臣秀赖切腹自尽，这场漫长的争斗终于落下了帷幕。

<繁体字>

留存歷史的槍炮戰爭：大坂之陣

1614年至1615年的「大坂之陣」是豐臣家和德川家之間爆發的最後一場戰爭。兩大家族的對抗從16世紀晚期一直延續到17世紀初期，以德川家康（1543-1616）的最終勝利告終。德川家康是德川幕府第一位將軍，他開創的朝代一直延續到了1867年。德川家康深知火器的威力，因此在攻打大坂城（今大阪）時帶去了一批來自歐洲的加農炮。

德川家康早在15年前便已壓制住豐臣家及其家臣，奪得了日本的統治權。豐臣家僅餘一支殘部退守大坂城，城主是豐臣秀賴（1593-1615）。然而，德川家康依然將其視為威脅勢力，終於在1614年採取行動，計畫徹底剿滅。因此，這場圍城戰成為了兩大家族漫長較量的最高潮。

德川家康軍隊裝配了被稱為「大筒」的大口徑火繩槍等更先進、性能更優越的槍炮，連同從荷蘭人和英國人手中得來的10門加農炮，德川軍不分晝夜地轟擊城郭。據說，炮擊

未能損傷厚實堅固の石垣台基，卻摧毀了上方的木構建築和守城軍隊的士氣。有文獻記載顯示，當時一枚加農炮彈擊中了豐臣秀賴母親澁殿の居所，打壞了她的茶櫃。

徳川家康の戦術奏效了。1615 年 5 月 8 日，大坂城被焚，豊臣家年輕的家主豊臣秀頼切腹自盡，這場漫長的爭鬥終於落下了帷幕。

<日本語仮訳>

歴史に残る鉄砲戦：大坂の陣

1614 年から 1615 年にかけて行われた大阪の陣は、16 世紀後半から 17 世紀初頭にかけて権力争いをしていた豊臣と徳川の最後の激突であった。勝ったのは、1867 年まで続いた江戸幕府を開いた第一代将軍・徳川家康（1543-1616）。家康は火器の力をよく理解していた。大坂城（現在の大阪）を攻めるとき、ヨーロッパから多くのカノン砲を持ち込んだ。

この籠城戦は、長い間のライバル関係の結果であった。その 15 年前、家康はライバルである豊臣氏とその家臣を抑え、日本の支配権を手に入れた。豊臣氏に残された砦は、豊臣秀頼（1593-1615）が支配した大坂城のみとなった。しかし、家康は同氏を脅威とみなし、徹底的に滅ぼそうと 1614 年に動き出したのだ。

家康の軍は「大筒」と呼ばれる大口徑の火縄銃など、より優れた新型の鉄砲を持ち、オランダやイギリスから入手したカノン砲 10 門とともに、日夜、城に砲撃を行った。この砲撃で、城の頑丈な石垣土台には被害がなかったが、木造の上部構造物には被害があり、城の守備隊の士気も低下したと言われている。当主・秀頼の母親、淀殿の居室を破り、使っていた茶筥筒を壊してしまったという話もある。

家康の戦術が功を奏し、5 月 8 日に城は燃え、豊臣家の若き当主・秀頼は切腹。長く続いた抗争に終止符が打たれたのである。

【タイトル】 牛つなぎ石

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**拴牛石**

在松本城以南大约 500 米开外的一处街角立着一块石头，上面缠了一条挂着“纸垂”（标志神明圣地的白纸片）的麻绳。它被称为“拴牛石”，在这个名字的背后，藏着一段与两位著名武将相关的传奇故事。

1550 年，武田信玄(1521-1573)攻克松本城。他是甲斐国（今山梨县）的统治者，也是日本战国时代(1467-1600)最有名的武将之一。但随之而来的却是武田信玄与上杉谦信(1530-1578)的冲突，后者统治着北面的越后国（今新潟县）。这两位强悍的武将分别拥有“甲斐之虎”与“越后之龙”的名号，双方展开了激烈的争斗。在接下来的数十年间，两者多次交战，却始终未能决出高下。相反，长期的较量令武田信玄与上杉谦信对彼此产生了深深的敬意，据说武田信玄过世时，上杉谦信还流下了眼泪。

16 世纪 60 年代，武田信玄同时还在与南方两国交战。由于武田信玄的领地位于内陆，他的对手便合谋阻断其领地与海岸地带间的商路。当时，农民以谷物为主食，因此盐和海产品是不可或缺的食材，切断这类物资的供给便能有效削弱武田信玄的力量。上杉谦信看到武田信玄的臣民们因缺盐而导致健康每况愈下，非但没有趁机出击，反而派出牛队，为松本送去了食盐。相传当年在本町和伊势町的交界处有一块石头，被视为当地的道祖神（位于村庄边界、山口和其他路边的驱邪防疫之神），而这些牛就被拴在这块石头上，“拴牛石”也因此得名。

不过这个传说直到江户时代(1603-1867)末期才出现，而本地盐市在此之前便已存在。尽管如此，人们依旧对这个关于两位武将惺惺相惜的故事津津乐道。时至今日，“为敌送盐”的谚语也仍在在使用。

<繁体字>**拴牛石**

在松本城以南大約 500 公尺開外的一處街角，立著一塊石頭，上面纏了一條掛著「紙垂」（標誌神明聖地的白紙片）的麻繩。它被稱為「拴牛石」，在這個名字背後，藏著一段有關兩位著名武將的傳奇故事。

1550 年，武田信玄（1521-1573）攻克松本城。他是甲斐國（今山梨縣）的統治者，也是日本戰國時代（1467-1600）最有名的武將之一。但隨之而來的卻是武田信玄與上杉

謙信（1530-1578）の衝突、後者統治著北面の越後國（今新潟縣）。這兩位強悍的武將分別擁有「甲斐之虎」與「越後之龍」的稱號，雙方展開了激烈的爭鬥。在接下來的數十年間，兩者多次交戰，卻始終未能決出高下。相反，長期的較量令武田信玄與上杉謙信對彼此產生了深深的敬意，據說武田信玄過世時，上杉謙信還流下了眼淚。

1560 年代，武田信玄同時還在與南方兩國交戰。由於武田信玄的領地位於內陸，對手便合謀阻斷他的領地與海岸地帶間的商路。當時，農民以穀物為主食，因此鹽和海產品是不可或缺的下飯食材，切斷這類物資的供給便能有效削弱武田信玄的力量。上杉謙信看到武田信玄的臣民們因缺鹽而導致健康每況愈下，非但沒有趁機出擊，反而派出牛隊，為松本送去了食鹽。相傳當年在本町和伊勢町的交界處有一塊石頭，被視為當地的道祖神（位於村莊邊界、山口和其他路邊的驅邪防疫之神），而這些牛就被拴在這塊石頭上，「拴牛石」也因此得名。

不過這個傳說直到江戶時代（1603-1867）末期才出現，而本地鹽市在此之前便已存在。儘管如此，人們依舊對這個關於兩位武將相互敬愛的故事津津樂道。時至今日，「為敵送鹽」的諺語也仍在使用。

<日本語仮訳>

牛つなぎ石

松本城から南へ約 500 メートル、街角に紙垂（神聖な場を示す白い紙の飾り）をたらししたしめ縄を付けた石がある。この石は「牛つなぎ石」と呼ばれているが、その名は 2 人の有名な武將にまつわる伝説に由来している。

1550 年、松本は甲斐の国（現在の山梨県）の武田信玄（1521-1573）に征服された。武田信玄は戦国時代（1467-1600）の最も有名な武將の一人であった。信玄は北の越後国（現在の新潟県）を支配していた上杉謙信（1530-1578）と対立することになる。この二人は「甲斐の虎」「越後の龍」と呼ばれ、激しい対立を繰り広げた。その後、数十年にわたり、両者は何度も戦火を交えたが、いずれも勝利することはなかった。信玄と謙信は長い戦いの中でお互いを深く尊敬し、信玄の死には謙信が涙したとも言われている。

1560 年代、信玄は南方の 2 つの国とも戦っていた。これらの敵は、信玄の内陸領と海岸を結ぶ通商路を遮断するために共同して戦った。当時、塩と魚介類は穀物を中心とした農民の食生活に欠かせないものであり、これを絶つことは信玄の勢力を弱めるのに有効な手段であった。塩が手に入らなくなった信玄の民は体調不良に陥った。弱った敵につけ込むこともできたが、謙信は松本に塩を積んだ牛を送ったという。その牛車を引いた牛をつないだのが「牛つなぎの石」だといわれるようになったが、この石は本町と伊勢町が交わる辻に置かれた道祖神（村境、峠などの路傍にあって外来の疫病や悪霊を防ぐ神）であった。

実は、この伝説が生まれたのは江戸時代（1603-1867）の終わり頃で、塩市はそれ以前から存在していた。しかし、両武將が互いに尊敬し合っていたことを示す物語として繰り返し語られ、現在でも「敵に塩を送る」という表現が使われている。

【タイトル】 二の丸御殿の発掘調査

【想定媒体】 看板

<簡体字>**二之丸御殿遗址发掘**

松本城从里到外共有三条环绕城郭的护城河，分别是内堀、外堀和总堀，它们将城郭划分成了几个呈同心圆状分布的区域，这些区域便是城郭内的分级防御空间，日文称“丸”。城郭核心区域被称为“本丸”，通常是天守及城主居所的所在地。本丸御殿位于本丸区域，在1727年遭焚毁之前一直是松本城的政治中枢。火灾后，相关职能机构便转移到了二之丸御殿。

二之丸御殿位于本丸以东、太鼓门以北、内堀和外堀之间，是松本城内三处居住与办公的综合区域之一。遗址的发掘工作在20世纪70至80年代进行。这里出土的石垣地基和大量文物令人们对16世纪至19世纪日本统治阶层的生活情况有了进一步的了解。

明治维新(1868)后，二之丸御殿于1871年被改造为县办公厅。5年后，相关建筑失火焚毁。之后在御殿旧址上建起了一座裁判所。1978年，裁判所搬迁至三之丸。二之丸在考古发掘与修复工作完成后被改造成了一座公园。二之丸御殿遗址已经被指定为国家史迹。

中文	日本語
焦石 二之丸御殿地基的一部分。 从裂纹和发红变色的部分可以看出1876年烧毁御殿的那场火灾的火势之凶猛。	烧石 二の丸御殿の基礎の一部。 ひび割れや赤い変色が、1876年の大火の激しさを物語っている。
上台所“围炉里” 御殿厨房的一座大地炉。 包括砂岩外壁在内，地炉尺寸为1.8×2.8米。这里出土了几罐精制盐。	上台所囲炉裏 御殿の台所にあった大きな囲炉裏。 砂岩の囲いを含めて1.8メートル×2.8メートルの大きさがある。精製塩の入った壺が出土している。
侧沟 环绕御殿建筑的小沟渠。 宽30厘米、深20厘米。侧沟在东北角分流，将水引入不远处的护城河。	側溝 御殿を囲む浅い排水溝。 幅30センチ、深さ20センチ。北東の角で分岐し、近くの堀に水を流していた。

<p>础石群</p> <p>这座建筑的承重柱竖立在平坦的河石上。从石头的位置可推测房间的布局。</p>	<p>礎石群</p> <p>平らな川石が建物の柱を支えている。石の位置から部屋の間取りを推測することができる。</p>
<p>蓄水池和木头水管</p> <p>这个蓄水池直径 1.37 米，深 1.5 米，内側敷黄泥。使用木头水管放水。</p>	<p>貯水槽・導水用の木管</p> <p>直径 137cm、深さ 1.5m の貯水槽で、黄土で敷き詰められている。木製のパイプで水を流していた。</p>
<p>雪隠</p> <p>这个长 5 米、宽 2.5 米的小空间里有 3 个竖穴式茅坑，其中两个紧靠并排。通常，厕所都会设在建筑外围的边界处。</p>	<p>雪隠</p> <p>幅 2.5m×長さ 5m の狭い範囲に 3 つの竖穴式便所が密集しており、そのうち 2 つは実質的に隣り合わせに並んでいた。便所は一般に建物の外側の縁の辺りに設置されていた。</p>
<p>大灶</p> <p>这两个大灶分别宽 0.6 米、0.8 米，上面放有煮饭的锅。这里还出土了一些环形锅架的金属残片。</p>	<p>大竈</p> <p>2 つの幅 0.6 メートルと 0.8 メートルの大型の竈で、炊飯用の鍋を載せていた。鍋を固定するリングの金属片が出土している。</p>
<p>信州松本御城内地下清水井分流示意图</p> <p>这张图展示了水井中的水是如何被引入二之丸御殿厨房和附近武士宅邸的。</p>	<p>信州松本御城内地蔵清水井戸分水之図</p> <p>水源井戸から二の丸御殿の台所や近隣の武家屋敷に水を送る様子を示したもの。</p>

<繁体字>

二之丸御殿遺址發掘

松本城從裡到外共有三條環繞城郭的護城河，分別是內堀、外堀和總堀，它們將城郭劃分成了幾個呈同心圓狀分布的區域，日文稱「丸」，一個「丸」便是城郭內的一處防禦空間。城郭核心區域被稱為「本丸」，通常是天守及城主居所的所在地。本丸御殿位於本丸區域，在 1727 年遭焚毀之前一直是松本城的政治中樞。火災後，相關辦公機構便轉移到了二之丸御殿。

二之丸御殿位於本丸以東、太鼓門以北、內堀和外堀之間，是松本城內三處居住與辦公的綜合區域之一。遺址的發掘工作在 1970 至 1980 年代進行。這裡出土的石垣地基和大量文物令人們對 16 世紀至 19 世紀日本統治階層的生活情況有了進一步的瞭解。

明治維新（1868）後，二之丸御殿於 1871 年被改造為縣辦公廳。5 年後，相關建築失火焚毀。之後，在御殿舊址上建起了一座裁判所。1978 年，裁判所搬遷至三之丸。二之丸在考古發掘與修復工作完成後被改造成了一座公園。二之丸御殿遺址已經被指定為國家史跡。

中文	日本語
<p>焦石 二之丸御殿地基的一部分。 從裂紋和發紅變色的部分可以看出 1876 年燒毀御殿的那場火災的火勢之兇猛。</p>	<p>焼石 二の丸御殿の基礎の一部。 ひび割れや赤い変色が、1876 年の大火の激しさを物語っている。</p>
<p>上台所「圍爐裏」 御殿廚房的一座大地爐。 包括砂岩外壁在內，地爐尺寸為 1.8×2.8 公尺。這裡出土了幾罐精製鹽。</p>	<p>上台所囲炉裏 御殿の台所にあった大きな囲炉裏。 砂岩の囲いを含めて 1.8 メートル×2.8 メートルの大きさがある。精製塩の入った壺が出土している。</p>
<p>側溝 環繞御殿建築的小溝渠。 寬 30 公分、深 20 公分。側溝在東北角分流，將水引入不遠處的護城河。</p>	<p>側溝 御殿を囲む浅い排水溝。 幅 30 センチ、深さ 20 センチ。北東の角で分歧し、近くの堀に水を流していた。</p>
<p>礎石群 這座建築的承重柱豎立在平坦的河石上。從石頭的位置可推測房間的布局。</p>	<p>礎石群 平らな川石が建物の柱を支えている。石の位置から部屋の間取りを推測することができる。</p>
<p>蓄水池和木頭水管 這個蓄水池直徑 1.37 公尺，深 1.5 公尺，內側敷黃泥。水經由木頭水管流出。</p>	<p>貯水槽・導水用の木管 直径 137cm、深さ 1.5m の貯水槽で、黄土で敷き詰められている。木製のパイプで水を流していた。</p>
<p>雪隠 這個長 5 公尺、寬 2.5 公尺的小空間裡有 3 個豎穴式茅坑，其中兩個幾乎並排排列。通常，廁所都會設在建築周邊的邊界處。</p>	<p>雪隠 幅 2.5m×長さ 5m の狭い範囲に 3 つの豎穴式便所が密集しており、そのうち 2 つは実質的に隣り合わせに並んでいた。便所は一般に建物の外側の縁の辺りに設置されていた。</p>
<p>大灶 這兩個大灶分別寬 0.6 公尺、0.8 公尺，上面放有煮飯的鍋。這裡還出土了一些環形鍋架的金屬殘片。</p>	<p>大竈 2 つの幅 0.6 メートルと 0.8 メートルの大型の竈で、炊飯用の鍋を載せていた。鍋を固定するリングの金属片が出土している。</p>
<p>信州松本御城内地下清水井分流示意圖 這張圖展示了水井中的水是如何被引入二之丸御殿廚房和附近武士宅邸的。</p>	<p>信州松本御城内地蔵清水井戸分水之図 水源井戸から二の丸御殿の台所や近隣の武家屋敷に水を送る様子を示したものの。</p>

<日本語仮訳>

二の丸御殿の発掘調査

松本城の周囲には内側から内堀、外堀と総堀の 3 本の堀が巡らされ、城は曲輪と呼ばれる同心円状の区画に分けられており、日本語では「丸」という。「丸」とは城郭の内部、防衛用の空間のこと、一番奥のエリアを「本丸」、通常天守と城主の居館がある最も重要な空間。本丸内にある本丸御殿は、1727 年に焼失するまで松本城の行政の中心であった。その後、行政機能は二の丸御殿に移った。

二の丸御殿は、本丸の東側、太鼓門の北側、内堀と外堀の間に位置し、城内に 3 つある居住区と執務施設で構成されていた御殿の一つであった。1970 年代から 80 年代にかけて行われた二の丸跡の発掘調査では、16 世紀から 19 世紀にかけての日本の支配階級の生活を明らかにする石墨や数多くの遺物が出土している。

明治維新（1868）後の 1871 年、二の丸御殿は県庁となったが、5 年後に火災で消失した。その後裁判所となり、1978 年に三の丸に移築された。二の丸は考古学的な発掘調査や修復を経て、公園として整備された。二の丸御殿は国の史跡に指定されている。

【タイトル】 弾薬製造の職務の分担

【想定媒体】 看板

<簡体字>

弹药制造的分工协作

随着火绳枪在 16 世纪下半叶的普及，制作火绳枪弹药和火绳的工作落到了武士的妻子与女儿们的身上。

火绳枪的铅弹是将铅锭放入小火盆中融化，然后倒入模具中制作而成。当时需要制作与各种火绳枪匹配的弹丸，有直径 4 毫米左右供小手枪使用的小弹珠，也有 80 毫米以上匹配类似加农炮这样重型武器“大筒”的弹丸。

早期的火绳使用柏木或竹纤维编制而成。这些纤维中的天然油脂可以保障火绳缓慢燃烧。只是一旦受潮，就需要花费很长时间才能重新干燥。最终，竹木纤维的火绳被浸过碱水和硝石溶液的棉绳取代。

同火绳浸泡液一样，火药本身虽然都是以硝石、木灰和硫磺混合而成，配方比例却各有不同。不同的配比决定了火药威力的大小，因此，火绳的编织技术与火药的配方比例都被视为重要的军事机密。

松本城与铁砲

松本城是顺应了火绳枪与加农炮时代的需求而建。它的木头城墙表面覆盖着厚厚的灰泥保护层，作为建在城郭中枢的多层塔楼，天守设有 55 个供火绳枪向下方开火的“狭间”（箭窗）。城郭布局经过了精密计算，确保天守内的火枪手可以准确命中 60 米外、试图越过最里侧护城河“内堀”的来犯者。

松本城的狭间为正方形，开口形状内阔外窄，可在充分保障射击角度的同时，最大限度减少火枪手暴露在敌人火力下的危险。训练有素的火枪手使用特制长筒火绳枪从天守内开火，可以准确命中 300 米开外的目标。

<繁体字>

彈藥製造的分工協作

隨著火繩槍在 16 世紀下半葉的普及，製作火繩槍彈藥和火繩的工作落到了武士的妻子與女兒們的身上。

火繩槍的鉛彈是將鉛錠放入小火盆中融化，然後倒入模具中製作而成。當時需要製作與各種火繩槍匹配的彈丸，從直徑 4 毫米左右供小手槍使用的小彈珠，到 80 毫米以上匹配類似加農炮這樣重型武器「大筒」的彈丸不等。

早期的火繩是使用柏木或竹纖維編製而成。這些纖維中的天然油脂可以保障火繩緩慢燃燒，只是一旦受潮，就得花費很長時間才能重新乾燥。最終，竹木纖維的火繩被浸過鹼水和硝石溶液的棉繩取代。

同火繩浸泡液一樣，火藥本身雖然都是以硝石、木灰和硫磺混合而成，配方比例卻各有不同。不同的配比決定了火藥威力的大小，因此，火繩的編織技術與火藥的配方比例都被視為重要的軍事機密。

松本城與鐵砲

松本城的興建是順應了火繩槍與加農炮的時代需求。它的木頭城牆表面覆蓋著厚厚的灰泥保護層，作為建在城郭中樞的多層塔樓，天守設有 55 個供火繩槍向下方開火的「狹間」（箭窗）。城郭布局經過了精密計算，確保天守內的火槍手可以命中 60 公尺外試圖越過最裡側護城河「內堀」的入侵者。

松本城的狹間為正方形，開口形狀內闊外窄，可在充分保障射擊角度的同時，最大限度減少火槍手暴露在敵人火力下的危險。訓練有素的火槍手使用特製長筒火繩槍從天守內開火，可以準確命中 300 公尺以外的目標。

<日本語仮訳>

弾薬製造の職務の分担

16 世紀後半、火繩銃の普及に伴って、火繩銃の弾や火繩の製造は、武士の妻や娘に任された。

鉛製の銃弾は、鉛インゴットを小さな火鉢を使って溶かしてから金型で作られた。小銃用の直径 4 ミリほどのものから、カノン砲のような大筒に使う、重量のある 80 ミリを超えるものまで、それぞれの火繩銃ごとに決まった大きさの玉が必要であった。

初期の火繩は、ヒノキや竹の繊維で編まれていたが、こうした繊維に含まれる油分の作用で、火がゆっくりと燃焼するのが特徴であった。しかし、水に濡れると乾くのに時間が掛かった。やがて、木綿の紐を灰汁と塩硝の溶液に浸して編んだものが主流となった。

火薬の調合は、火繩と同様に塩硝、木灰、硫黄の比率をいろいろと変えて行われた。この比率の違いによって、火薬の効き目が良くも悪くもなるため、繊維を編む技術や塩硝の比率は貴重な軍事機密とされた。

松本城と鉄砲

松本城は、火繩銃とカノン砲の時代に合わせて作られた城である。木造の城壁には厚い漆喰が塗られ、城郭の中枢部に建てられた多層の櫓建築である天守には 55 もの火繩銃用の狭間があり、そこから敵に発砲できるようになっている。天守から 60m 先の一番内側の「内堀」を越えようとする敵に確実に命中するよう、城内の配置が計算されていたのである。

松本城の狭間は正方形で、城内側は広く外に向かって狭くなっている。これは、敵からの攻撃に晒されるのを最小限に抑えながら、広い射撃角度を確保するための設計である。天守から発砲すると、銃身を長くした特製の火縄銃を使用する優れた狙撃手は、300メートル先の敵を命中させることができた。

【タイトル】 歴史に残る鉄砲戦：長篠の戦い

【想定媒体】 看板

<簡体字>

留存历史的枪炮战争：长篠之战

1575年的长篠之战（篠，音同“小”）或许是16世纪最出名的枪炮战役了。当时，火绳枪依然是比较新型的武器，而战争结果佐证了它们所具备的战术价值。

这场战事发生在设乐原，即如今日本中部的爱知县境内。战争的一方是那个时代最强大的军事力量之一武田军，由武田信玄(1521-1573)的儿子武田胜赖(1546-1582)率领。另一方则是织田信长(1534-1582)及其家臣德川家康(1543-1616)——未来的幕府将军所率联军。当时，武田胜赖的军队包围了联军控制的一座城郭，织田信长与德川家康需要奋力突破包围圈。

对这场战争联军的胜因众说纷纭，一般认为最终决定这场战事胜负的是织田军中的3000名火枪手。才识卓然的名将织田信长大规模引入了火绳枪，他将火枪手编为三排，安置在城郭对面一片平原的栅栏后面，随后诱使武田军的骑兵精锐发起冲锋。一时间枪炮齐鸣，挥舞着大刀与长枪的马上骑兵被纷纷击落，织田信长与德川家康最终大获全胜。

<繁体字>

留存歷史的槍炮戰爭：長篠之戰

1575年的長篠之戰（篠，音同「小」）或許是16世紀最出名的槍炮戰役了，當時，火繩槍依然是比較新型的武器，而戰爭結果佐證了它們所具備的戰術價值。

這場戰事發生在設樂原，即如今日本中部的愛知縣境內。戰爭的一方是那個時代最強大的軍事力量之一武田軍，由武田信玄（1521-1573）的兒子武田勝賴（1546-1582）率領；另一方則是織田信長（1534-1582）及其家臣德川家康（1543-1616）——未來的幕府將軍所率聯軍。當時，武田勝賴的軍隊包圍了聯軍控制的一座城郭，織田信長與德川家康需要奮力突破包圍圈。

對這場戰爭聯軍的勝因眾說紛紜，其中流傳最為廣泛的一種說法是，決定這場戰事勝負的關鍵是織田軍中的3000名火槍手。才識卓然的名將織田信長大規模引入了火繩槍，他將火槍手編為三排，安置在城郭對面一片平原的柵欄後面，隨後誘使武田軍的騎兵精銳發起衝鋒。一時間槍炮齊鳴，揮舞著大刀與長槍的馬上騎兵被紛紛擊落，織田信長與德川家康最終大獲全勝。

<日本語仮訳>

歴史に残る鉄砲戦：長篠の戦い

1575年の長篠の戦いは、おそらく16世紀から17世紀にかけての最も有名な鉄砲戦である。この戦いの結果は、当時まだ比較的新しい武器であった火縄銃の戦術的価値を証明することになった。

戦いの舞台は設楽原。現在の愛知県である。武田勝頼（1546-1582）は、武田信玄（1521-1573）を父に持ち、当時最も強力な軍隊を築いていた。対するは織田信長とその臣下で後に将軍となる徳川家康（1543-1616）の連合軍である。勝頼軍は徳川の同盟国が所有する城を包囲し、信長と家康はその包囲を破ろうとしていた。

連合軍の勝因について、一般的な説では、信長軍 3,000 人の鉄砲隊が勝負を決めたとされている。信長は型破りな名将として知られ、火縄銃を積極的に取り入れた。信長は城の反対側の平野の柵の後ろに鉄砲隊を 3 列に並べ、武田軍の精鋭騎馬隊を引きつけて砲撃を仕掛けた。鉄砲隊の連射のなか、刀や槍を持った騎馬兵が次々に倒れ、信長と家康は勝利したのである。

【タイトル】 オランダ海軍のカノン砲

【想定媒体】 看板

<簡体字>

荷兰海军的加农炮

这门前装式荷兰加农炮铸造于 16 世纪晚期，配备 33 毫米直径的炮弹，采用引信点火，射程可达 300~500 米。带轮炮架让它可以在战舰甲板或欧式城堡的城垛上自由移动。

欧洲进口的加农炮在日本的使用历史比进口火绳枪更长。日本的枪械工匠很快就掌握了高品质火绳枪的制造方法，却迟迟无法造出与重型欧式加农炮一样坚固耐用的炮筒。不同于火绳枪枪管，加农炮的炮筒通常是使用整张金属片锻造而成。

日本最早的加农炮是一对后膛装填式回转炮，1576 年自葡萄牙商人手中获得。及至 17 世纪早期，荷兰和英国取代葡萄牙人，成为了日本的火器供应商。他们向德川幕府(1603-1867)军队提供的加农炮被用在了日本武士时代最著名的一场炮击战役——大坂之阵(1614-1615)中。

<繁体字>

荷蘭海軍的加農炮

這門前裝式荷蘭加農炮鑄造於 16 世紀晚期，配備 33 毫米直徑的炮彈，採用引信點火，射程 300~500 公尺。帶輪炮架讓它可以在戰艦甲板或歐式城郭的城垛上自由移動。

歐洲進口的加農炮在日本的使用歷史比進口火繩槍更長，這是因為日本的槍械工匠很快就掌握了高品質火繩槍的製造方法，卻遲遲無法造出與重型歐式加農炮一樣堅固耐用的炮筒。不同於火繩槍槍管，加農炮的炮筒通常是使用整張金屬片鍛造而成。

日本最早的加農炮是一對 1576 年自葡萄牙商人手中獲得的後膛裝填式回轉炮。到了 17 世紀初期，荷蘭和英國取代葡萄牙人成為了日本的火器供應者。他們向德川幕府（1603-1867）軍隊提供的加農炮被用在了日本武士時代最著名的一場炮擊戰役——大坂之陣（1614-1615）中。

<日本語仮訳>

オランダ海軍のカノン砲

これは 16 世紀後半に鑄造されたオランダ製の前装式カノン砲である。33 ミリの砲弾を 300~500 メートルの範囲で発射することができ、導火線を用いて発射された。このカノン砲は車輪付きで、軍艦

の甲板やヨーロッパの城壁の上を簡単に移動することができた。

日本では、ヨーロッパから輸入されたカノン砲は、ヨーロッパの火縄銃よりも長く使われた。日本の鉄砲鍛冶はすぐに高品質の火縄銃を製造できるようになったが、ヨーロッパの重いカノン砲の砲身に匹敵する耐久性を出すには苦労した。火縄銃の銃身と異なり、カノン砲の銃身は一本の金属片から鍛造されるのが普通であった。

日本での最初カノン大砲は、1576年にポルトガル商人から譲り受けた2挺の後装式旋回砲（フランク砲）である。1600年代初頭にはオランダとイギリスがポルトガルに取って代わり、火器を供給するようになった。武士の時代の最も有名な砲撃戦である大坂の陣（1614-1615）で徳川幕府（1603-1867）軍が使用したカノン砲は、オランダとイギリスが供給したものである。

【タイトル】 古銭

【想定媒体】 看板

<簡体字>**古钱币**

位于城郭二级区域的二之丸御殿遗址中，共出土了 200 余枚古钱币，其中有包括唐开元通宝（2 枚）、宋熙宁元宝（2 枚）、明永乐通宝（5 枚）在内的共计 17 种 33 枚中国古钱币，以及一枚来自朝鲜半岛的古钱币。

考古学家原本寄望于在这里找到松本本地铸造的钱币。1636 年德川幕府发行的“宽永”新铜币，后来成为江户时代(1603-1867)的标准通行货币。当时日本全国共有十余处宽永铜钱的铸造所，松本正是其中之一，曾于 1637 年铸造了一批。遗憾的是，二之丸御殿遗址并未出土松本制的宽永铜钱。这里发现的日本钱币大多是被称为“新宽永”的改铸币，1668 年才开始在市场流通。

此外，考古发掘还发现了铸币后残留的枝状金属残骸，以及使用烟斗的金属斗钵制造的假钱币。

<繁体字>**古錢幣**

位於城郭二級區域的二之丸御殿遺址中，共出土了 200 余枚古錢幣，其中有包括唐開元通寶（2 枚）、宋熙寧元寶（2 枚）、明永樂通寶（5 枚）在內的共計 17 種 33 枚中國古錢幣，以及一枚來自朝鮮半島的古錢幣。

考古學家原本希望在這裡能找到松本當地鑄造的錢幣。1636 年德川幕府發行的「寬永」新銅幣，後來成為江戶時代（1603-1867）的標準通行貨幣。當時日本全國共有十餘處寬永銅錢的鑄造所，松本正是其中之一，曾於 1637 年鑄造了一批，只可惜二之丸御殿遺址並未出土松本當地製作的寬永銅錢。這裡發現的日本錢幣大多是被稱為「新寬永」的改鑄幣，1668 年才開始在市場流通。

此外，考古發掘還發現了鑄幣後殘留的枝狀金屬殘骸，以及使用煙斗的金屬斗鉢製造的假錢幣。

<日本語仮訳>**古銭**

城二番目に重要な曲輪に位置する二の丸御殿跡からは200枚を超える古銭が出土した。その中には、中国・唐朝の開元通宝2点、宋朝の西寧通宝2点、明朝の永楽通宝5点など中国貨幣が17種、33枚、朝鮮半島の貨幣が1種含まれていた。

考古学者たちは、松本で鑄造された銭貨の発見を期待していた。1636年に幕府は「寛永」という新しい銅銭を導入し、これが徳川時代（1603-1867）の標準通貨となった。この銅銭は、全国十数カ所で鑄造され、松本では1637年に鑄造が1回行われている。残念ながら二の丸御殿からは松本で鑄造された銅銭は出土していない。出土した和銭のほとんどは、1668年以降に流通した「新寛永」と呼ばれる寛永の改鑄銭である。

また、鑄造の際に出る枝状の金属部分や、タバコの煙管の金属部分を利用した偽硬貨も発見されている。

【タイトル】 タバコの煙管と碁石

【想定媒体】 看板

<簡体字>

烟斗与围棋

即便是在如位于城郭二级区域的二之丸御殿这样万分繁忙的地方，也还是有休闲娱乐时间的。考古学家在御殿遗址里发现了烟斗的斗钵和烟管共 22 件，同时出土的还有围棋棋子。

烟草自 16 世纪晚期开始传入日本。1601 年，一位名叫赫罗尼摩·德·赫苏斯·德·卡斯特罗（Jerónimo de Jesús de Castro；卒于 1601 年）的方济各会传教士向德川幕府创始人德川家康(1543-1616)进献了烟草种子，但德川家康对此不感兴趣。尽管幕府将吸食烟草视为恶习，还发布了禁令，但吸烟依旧流行开来，禁令最终被取消。松本随后成为了主要烟叶产地，并销售到江户（今东京）和名古屋等各大城市。

围棋则是一种发源于中国的智力游戏，相传早在公元 7 世纪便已传入日本。两名棋手分别执黑、白棋子，在 19×19 格的棋盘上交替落子，目的就是包围对方棋子并争夺地盘。二之丸御殿遗址出土的围棋子使用黑色板岩和白色蛤壳制成。

<繁体字>

煙斗與圍棋

即便是在如位於城郭二級區域的二之丸御殿這樣繁忙的地方，也還是有休閒娛樂時間的。考古學家在御殿遺址裡發現了 22 件煙斗的斗鉢和煙管，同時出土的還有圍棋棋子。

煙草在 16 世紀晚期傳入日本。1601 年，一位名叫赫羅尼摩·德·赫蘇斯·德·卡斯特羅（Jerónimo de Jesús de Castro；卒於 1601 年）的方濟各會傳教士向德川幕府創始人德川家康（1543-1616）進獻了煙草種子，但德川家康對此不感興趣。雖然幕府將吸食煙草視為惡習，還發布了禁令，但仍舊無法抵擋吸食煙草的流行，禁令最終被取消。松本隨後成為了主要煙葉產地，並將其賣到江戶（今東京）和名古屋等大城市。

圍棋則是一種發源於中國的益智遊戲，相傳早在西元 7 世紀便已傳入日本。兩名棋手分別執黑、白棋子，在 19×19 格的棋盤上交替落子，目的就是包圍對方棋子並爭奪地盤。二之丸御殿遺址出土的圍棋子使用黑色板岩和白色蛤殼製成。

<日本語仮訳>

タバコの煙管と碁石

忙しい二の丸御殿（城二番目に重要な曲輪に位置する）にも、くつろぎと楽しみの時間があった。遺跡からは 22 本の煙管とその軸、そして囲碁に使われた碁石が発見された。

タバコが日本に初めて持ち込まれたのは 16 世紀末のこと。1601 年、フランシスコ会の宣教師ジェロニモ・デ・ジェズス・デ・カストロ（?-1601）が、徳川幕府を開いた徳川家康（1542-1616）にタバコの種を献上した。家康はこれを好ましく思わなかったようで、幕府はタバコを悪習として禁止した。しかし、タバコの人気はとどまることはなく、やがて解禁されることとなった。松本はタバコの栽培が盛んで、江戸（東京）や名古屋といった大都市にタバコを輸出していた。

囲碁は中国発祥の盤上で行う戦略的ゲームで、日本には 7 世紀ごろに伝わったとされている。19×19 のマス目に黒と白の石を交互に置いていき、陣地と相手の石を囲んで攻略することを目指す。二の丸御殿跡で発見された碁石は、黒粘板岩と白い蛤の殻でできていた。

【タイトル】 硯

【想定媒体】 看板

<簡体字>

砚台

位于城郭二级区域的二之丸御殿遗址，总计出土了 13 块砚台，其中有两块完好无损。这些砚台很可能是城中书吏所用。

中国自古以来就使用砚台研磨并盛装墨汁。公元 4 世纪，砚台随书写文字一同自亚洲大陆传入日本。日本好几部经典古籍中都曾提及砚台，如成书于公元 8 世纪的《日本书纪》和 1002 年完稿的《枕草子》（清少纳言著）。

江户时代(1603-1867)，文档记录是提高行政管理效率的必要元素。德川幕府之所以能够在长达 200 多年的时间里掌控全国，有关税收和农作物产量的海量记录正是其中的一大保障。

<繁体字>

砚台

位於城郭二級區域的二之丸御殿遺址，一共出土了 13 塊硯台，其中有兩塊保存狀況良好。這些硯台很可能是城中書吏所用。

中國自古以來就使用硯台研磨並盛裝墨汁。西元 4 世紀，硯台隨書寫文字一同自亞洲大陸傳入日本。日本好幾部經典古籍中都曾提及硯台，如成書於西元 8 世紀的《日本書紀》和 1002 年完稿的《枕草子》（清少納言著）。

江戶時代（1603-1867），文檔記錄是提高行政管理效率的必要元素。德川幕府之所以能夠在長達 200 多年的時間裡掌控全國，有關稅收和農作物產量的大量且詳細記錄正是其中一項重要的原因。

<日本語仮訳>

硯

城二番目に重要な曲輪に位置する二の丸御殿跡からは 13 個の硯が発見され、そのうち 2 個は完全な形で残っていた。硯は、城で働く書記の人たちが使っていたものと思われる。

硯は、墨を削り、墨を入れるための石として、中国では古くから使われており、日本には 4 世紀頃に大陸から文字が伝来した際に渡来したと考えられている。8 世紀の『日本書紀』や 1002 年に完成し

た清少納言の『枕草子』など、古典にも硯の記述が見られる。

江戸時代（1603-1867）には、現代と同じように、藩政を成功へと導くために文書による記録が重要視された。徳川幕府が2世紀以上にわたって藩政を維持できたのは、租税や収穫量に関する膨大な記録の蓄積があったからである。

【タイトル】 二の丸御殿のレイアウト

【想定媒体】 看板

<簡体字>

二之丸御殿の布局

位于城郭二级区域的二之丸御殿，共设 50 个左右的房间，占地超过 2100 平方米。大天守位于其西侧，经东南侧的太鼓门和北侧的二之丸里御门桥即可抵达此处御殿。

二之丸御殿是松本藩的二级行政中枢。1727 年，位于城郭核心区“本丸”的主要行政中枢被焚毁，其职能便转移到二之丸。1868 年明治维新之后，二之丸御殿曾被改造为县办公厅。然而，御殿建筑却在 1876 年失火焚毁。两年后，在其原址上建起了一处裁判所，直至 1977 年裁判所才搬到松本城中的另一个区域。

裁判所的搬迁为二之丸御殿旧址的考古发掘提供了契机。考古学家在 1979 年至 1984 年间发掘并修复了此处御殿的地基部分，还在这里找到了种类多样的文物，它们承载着有关当年御殿日常生活的珍贵信息。这里展出的是其中部分文物。

<繁体字>

二之丸御殿的佈局

位於城郭二級區域的二之丸御殿總共有 50 個左右的房間，占地超過 2100 平方公尺。大天守位於其西側，經東南側的太鼓門和北側的二之丸裡御門橋即可抵達這處御殿。

二之丸御殿是松本藩的二級行政中樞。1727 年，位於城郭核心區「本丸」的主要行政中樞被焚毀，其職能便轉移到二之丸。1868 年明治維新之後，二之丸御殿曾被改造為縣辦公廳。然而，御殿建築卻在 1876 年失火焚毀。兩年後，在其原址上建起了一處裁判所，直至 1977 年裁判所才搬到了松本城中的另一個區域。

裁判所的搬遷為二之丸御殿舊址的考古發掘提供了契機。考古學家在 1979 年至 1984 年間發掘並修復了這處御殿的地基部分，還在這裡找到了種類多樣的文物，它們承載著有關當年御殿日常生活的珍貴資訊。這裡展出的是其中部分文物。

<日本語仮訳>

二の丸御殿のレイアウト

城二番目に重要な曲輪に位置する二の丸御殿は、床面積 2,100 平方メートル余り、約 50 の部屋からなる行政施設であった。西に大天守があり、南東の太鼓門と北の二の丸裏御門橋を通過して、

御殿にアクセスできた。

二の丸御殿は、松本藩の二番目の行政機関として機能していた。1727年に城の一番重要な曲輪の本丸の御殿が焼失したため、本丸の一番目の行政機関としての機能は二の丸御殿に移された。1686年明治維新後に二の丸御殿は一時県庁となったが、1876年に火災で焼失した。その2年後には裁判所が置かれ、1977年に城内の別の場所に移設されるまでこの地に存在した。

この移転を機に、二の丸御殿の跡地の発掘調査が行われることになった。1979年から1984年にかけて考古学者による調査が行われ、二の丸御殿の基礎が復元された。また、御殿の日常に関する貴重な情報を提供するさまざまな遺物も発見された。ここでは、それらの遺物の一部を展示している。

【タイトル】 瓦

【想定媒体】 看板

<简体字>**屋瓦**

烧制陶瓦在公元 6 世纪晚期随佛教自亚洲大陆传入日本。位于城郭二级区域的二之丸御殿遗址出土了 1100 余片陶瓦，其中部分瓦片上有装饰图案，包括中式唐草纹、涡卷状巴纹、桐花叶纹，以及成簇的圆圈或圆点组成的六星纹等。

屋瓦订单

这块瓦片相当于一份屋瓦订购记录单，上面记录了每种瓦片的数量、样式以及交付日期等订单详细信息。从中可以看出，这批瓦片烧制于水野家族统治松本城期间(1642-1725)。下面是一段记录在屋瓦订单上的信息：

七月六日

卷纹图案×89（片）

矢筈纹×56（片）（筈，音同“阔”；意为箭尾）

小丸图案×65（片）

平瓦×82 片（片）

泽泻纹

二之丸御殿出土的瓦片中有许多都刻有一种箭头状的三叶植物，这便是泽泻纹。泽泻是水野家族的家纹，该家族在 1642 年至 1725 年间出任松本城城主。这块瓦片中央的泽泻纹四周环绕着 16 个代表珍珠的圆点，表明该瓦烧制于水野家族执政早期。

巴纹轩圆形瓦当

这片瓦当上刻有 3 个如逗号般呈漩涡状排布的巴纹。三头巴纹起源不明，但变化繁多，自 11 世纪开始出现在日本人的纹章中。

类似这样的圆形瓦当通常被铺在建筑物的屋檐边缘，用于遮盖裸露的瓦头。这件展品的历史或可追溯到 16 世纪 90 年代松本城初建时期。

<繁体字>**屋瓦**

燒製陶瓦技術於西元 6 世紀晚期隨佛教自亞洲大陸傳入日本。位於城郭二級區域的二之丸御殿遺址出土了 1100 餘片陶瓦，其中部分瓦片上有裝飾圖案，包括中式唐草紋、渦卷狀巴紋、桐花葉紋，以及成簇的圓圈或圓點組成的六星紋等。

屋瓦訂單

這塊瓦片其實是一筆瓦片交易的訂購記錄單。上面記錄了每種瓦片的數量、款式以及交付日期等訂單的詳細資訊。從中可以看出，這批瓦片燒製於水野家統治松本城期間（1642-1725）。下面是一段記錄在瓦訂單上的資訊：

七月六日

卷紋圖案×89（片）

矢筈紋×56（片）（筈，音同「闊」；意為箭尾）

小丸圖案×65（片）

平瓦×82（片）

澤瀉紋

二之丸御殿出土的瓦片中有許多都刻有一種箭頭狀的三葉植物，這便是澤瀉紋。澤瀉是水野家的家紋，該家族在 1642 年至 1725 年間出任松本城城主。這塊瓦片中央的澤瀉紋周圍環繞著 16 個代表珍珠的圓點，表明該瓦燒製於水野家執政初期。

巴紋軒圓形瓦當

這片瓦當上刻有 3 個如逗號般呈漩渦狀排布的巴紋。三頭巴紋起源不明，但變化繁多，自 11 世紀開始出現在日本人的紋章中。

類似這樣的圓形瓦當通常會被鋪在建築物的屋簷邊緣，用於遮蓋裸露的瓦頭。這件展品的歷史或可追溯到 1590 年代松本城初建時期。

<日本語仮訳>

瓦

6 世紀後半に、日本に焼成粘土瓦は大陸からの仏教伝来とともに伝来した。城二番目に重要な曲輪に位置する二の丸御殿跡からは、1,100 枚以上の陶器の瓦が出土した。唐草紋、渦巻き状の巴と呼ばれる図形、桐の花と葉のデザインの桐紋、点または円の集まりの六星紋、装飾文様や家紋が刻まれたものもある。

瓦伝票

この瓦は、瓦の注文記録として使われた。瓦には、瓦の種類ごとの数や模様、納品した日など、瓦の注文の詳細が刻まれている。これらのことから、この瓦は水野氏が松本城を管理していた時代（1642-1725）のものであることがわかる。瓦に記載されている情報は以下の通り：

七月六日

巻物細工の柄×89

矢筈紋×56

小丸模様×65

平板×82

沢瀉紋

二の丸御殿の瓦の多くには、矢じりに似た三つ葉の沢瀉紋が刻まれている。この紋は、1642年から1725年まで松本城主であった水野家の家紋である。展示品は、その沢瀉紋を16個の丸で囲み、真珠を表現したもので、丸い珠を円形にならべた紋で、水野氏の初期に作られた瓦であることを示している。

巴文軒丸瓦

この瓦には、3つの渦が巻いている巴形の模様が刻まれている。巴形の起源は不明だが、バリエーションに富むこの模様は、11世紀以降の日本の紋章に用いられている。

このような丸瓦は、建物の軒先の瓦の目地を隠すために貼られる。今回展示されているのは、1590年代の松本城築城時のものと考えられている。

【タイトル】 指火式から雷管式へ：発射装置の変遷

【想定媒体】 看板

<簡体字>

从引火孔到雷管：击发装置的演变

从最早期的加农炮到现代手枪，所有火器的工作原理别无二致：把火药装进一端封口的管内，点燃火药，借助急速膨胀的气体将弹药从另一端的开口发射出去。而火药配方或点火击发方式的研发推动了火器技术的进步。

特别是对早期枪械工匠而言，他们的课题就是寻找更好的方式，让持枪者能更加快捷、可靠、且安全地装填火药及点火。

引火孔式

目前已知最古老的火器是 13 世纪中国制造的一门加农炮。在欧洲，类似的武器记载出现于 14 世纪早期。当时这些火炮并不复杂，多为金属或竹制炮管，借助点火引爆火药后产生的压力发射弹丸、霰弹或飞镖。点火装置也简单直接，炮手把一根装有阴燃火绳的长杆伸到炮筒封口端留出的小孔里，点燃膛内填装的火药。这根长杆被称为“导火杆”，小孔便是“引火孔”。

引火孔式击发装置虽然适用于固定式及车载式大炮，但对于手持武器来说却并不合适，毕竟，火枪手通常需要双手持枪才能瞄准射击。

火绳式

弹簧击发装置的出现，是枪炮发展史中最重大的飞跃之一。有了它们，只需扣动扳机便能点燃火药，完成射击。最早的弹簧击发装置被称为“火绳”，随此前阴燃引信的火绳命名。火绳于 15 世纪诞生在欧洲，当时，人们发明了一种名叫“蛇杆”的 S 形簧杆，用于点燃火药。蛇杆一头装有提前点燃的绳子，当火枪手扣动扳机，蛇杆向前弹出，火绳点燃引火药池，进而点燃枪膛内的主火药。

相对于引火孔而言，火绳确实前进了一大步，但依然存在缺点。在交战或放哨时，火枪手必须确保火绳始终燃烧。单单一座岗哨，每年就会消耗 1.6 公里长的火绳。此外，保持火绳燃烧既不容易，也不安全。雨水和泥浆都能轻易熄灭火绳，而火绳燃烧的光亮和气味则可能暴露火枪手的位置，夜间尤其如此。

燧发式

为了取代火绳，枪械工匠发明了名为“枪机”的机械组件，它们能够撞击出火花点燃火药。工匠们开发出了多种不同的机械组件，然而，只有燧发式枪机才兼备可靠性和高效性。

燧发点火装置用一个弹簧小锤取代了火绳的蛇杆，锤头上嵌有燧石。当火枪手扣动扳机，燧石撞击引火药池上方悬挂的小钢片（火镰），产生火花，点燃火药。

17 世纪中期至 19 世纪中期，燧发式点火装置在欧洲军队中得到了广泛应用，却从未在日本出现。

雷管式

雷管是一个小小的黄铜或黄铜合金容器，里面装有挥发性化学物质，一旦受到撞击便会爆炸，因此它可以替代火绳的火焰或燧发式装置的火花直接点燃火药。加之雷管具有更高的稳定性，所以从 19 世纪上半叶开始，燧发式点火装置便渐渐为雷管式击发装置取代。

雷管最初应用于前装式火绳枪上，后来才为后膛填装式的步枪和手枪采用。最终，撞击击发式的小型雷管被整合到现代枪械中，成为集成弹药筒的一部分。

<繁体字>

從引火孔到雷管：擊發裝置的演變

從最早期的加農炮到現代手槍，所有火器的工作原理別無二致：把火藥填裝入一端封口的管中，點燃火藥，借助急速膨脹的氣體將彈藥從另一端的開口發射出去。而火藥配方或點火擊發方式的更新換代常常推動著火器技術的進步。

特別是對早期槍械工匠而言，他們的課題就是尋找更好的方式，讓持槍者能夠更加快捷、可靠、且安全地裝填火藥及點火。

引火孔式

目前已知最古老的火器是 13 世紀在中國製造的一門加農炮。在歐洲，類似的武器記載出現在 14 世紀早期。當時這些火炮並不複雜，多為金屬或竹製炮管，借助點火引爆火藥後產生的壓力發射彈丸、霰彈或飛鏢。點火裝置也簡單直接，炮手把一根裝有陰燃火繩的長杆伸到炮筒封口端留出的小孔裡，點燃膛內填裝的火藥。這根長杆被稱為「導火杆」，小孔便是「引火孔」。

引火孔式擊發裝置足以滿足固定式及車載式大炮的要求，但對於手持武器來說卻並不合適，畢竟，火槍手通常需要雙手持槍才能瞄準射擊。

火繩式

彈簧擊發裝置的出現，是槍炮發展史中最重要進步之一。有了它們，只需扣動扳機便能點燃火藥，完成射擊。最早的彈簧擊發裝置被稱為「火繩」，隨此前陰燃引信的火繩命名。火繩於 15 世紀誕生在歐洲，當時，人們發明了一種名叫「蛇杆」的 S 形簧杆，用於

點燃火藥。蛇杆一頭裝有提前點燃的繩子，當火槍手扣動扳機，蛇杆向前彈出，火繩點燃引火藥池，進而點燃槍膛內的主火藥。

相對於引火孔而言，火繩確實前進了一大步，但依然有缺點。在交戰或放哨時，火槍手必須確保火繩始終燃燒。單單一座崗哨，每年就會消耗 1.6 公里長的火繩。此外，確保火繩燃燒是件不容易且危險性高的事情。雨水和泥漿都能輕易熄滅火繩，而在夜間作戰時，火繩燃燒的光亮和氣味則可能暴露火槍手的位置。

燧發式

為了取代火繩，槍械工匠發明了名為「槍機」的機械元件，它們能夠撞擊出火花點燃火藥。工匠們開發出了多種不同的機械元件，然而，只有燧槍機的可靠性和高效性才兼優。

燧發點火裝置用一個彈簧小錘取代了火繩的蛇杆，錘頭上嵌有燧石。當火槍手扣動扳機，燧石撞擊引火藥池上方懸掛的小鋼片（火鑷），產生火花，點燃火藥。

17 世紀中期至 19 世紀中期，燧發點火裝置廣泛應用於歐洲軍隊，卻從未在日本出現。

雷管式

雷管是一個小小的黃銅或黃銅合金容器，裡面裝有揮發性化學物質，一旦受到撞擊便會爆炸，因此它可以替代火繩的火焰或燧發式裝置的火花直接點燃火藥。加之雷管具有更高的穩定性，所以從 19 世紀上半葉開始，燧發點火裝置便漸漸被雷管式擊發裝置取代。

雷管最初應用於前裝式火繩槍上，後來才被後膛填裝式的步槍和手槍採用。最終，撞擊擊發式的小型雷管被整合到現代槍械中，成為集成彈藥筒的一部分。

<日本語仮訳>

指火式から雷管式へ：発射装置の変遷

初期のカノン砲から現代の拳銃まで、すべての銃器は本質的には同じように作動する：端が密閉された筒の中で火薬に点火し、膨張したガスがもう一方の端から標的に向かって弾丸を発射するというものだ。一方、火薬の調合や点火に工夫を凝らすことで、銃器技術の進歩がもたらされることは少くない。

特に初期の鉄砲鍛冶にとっては、銃器の使用者にとって、装填と発射をいかに速く、確実に、そして安全に行えるかが課題であった。

タッチホール（指火）式

最古の火器は、13 世紀の中国で作られたカノン砲である。1300 年代初頭のヨーロッパの記録にも、同様の武器が登場している。これらの大砲は、金属製や竹製の円筒で、火薬の点火によって生じる圧力で砲丸や散弾、矢を発射する単純なものであった。発射の仕組みは簡単だった：砲手は長い

棒（道火桿）の端に付けたゆっくりと燃える火縄を穴（火門）に付けて、銃身内の火薬に点火する。

指火式は、固定砲や車輪付きの大砲には適していたが、手で持って使う武器には不向きだった。砲手は通常、銃を持って狙いを定めるのに両手を使う必要があったからだ。

マッチロック（火縄）式

銃器の発展で最も大きな出来事となったのが、引き金を引くだけで装薬に点火できるバネ仕掛けの発明であった。最初のパネ式からくりは、かつて使用したゆっくりと燃える火縄にちなんで「マッチロック（火縄）式」と呼ばれた。15 世紀にヨーロッパで開発されたマッチロック式は、サーペントインと呼ばれる S 字型のアームで火薬に炎を当てる仕組みになっていた。サーペントインの先には火のついた縄が付いており、砲手が引き金を引くと、サーペントインが前に倒れて火薬皿に着火し、銃身内の主薬を爆発させたのである。

マッチロック式は指火式に比べて大きな進歩であったが、欠点もあった。戦場や見張り役の砲手は、常に火縄に火を点けておかなければならなかった。見張り所 1 か所で 1 年間に 1.6km もの火縄を消費することもあり、火を絶やさないことは安全でも簡単でもなかった。雨や泥で火縄は簡単に消えてしまい、特に夜間は火のついた紐の光と匂いで砲手の位置が分かってしまうこともあった。

フリントロック式

火縄を不要にするために、鉄砲鍛冶は火花を飛ばして火薬を点火する「ロック」というからくりを作った。何種類か開発されたが、信頼性と効率性を最も高めたのが火打ち石であった。

フリントロック式は、火縄を入れるサーペントインの代わりに、バネ仕掛けのハンマーで火打石を挟み込む。火打ち石は、引き金を引くと火皿の上にある「フリズン」と呼ばれる蝶番のついた鋼板を叩き、火花を発生させて火薬に点火させる。

17 世紀半ばから 19 世紀半ばまで、ヨーロッパの軍隊で主に使われたフリントロック式銃器は、日本では採用されることはなかった。

雷管式

雷管とは、小さな真鍮製や銅性の容器に揮発性の化学物質を充填したもので、叩くと爆発する。火花や炎の代わりに火薬に点火することができる。火打ち石による火花よりも雷管の方が信頼性も高く、19 世紀前半には雷管を使った発射装置がフリントロック式に取って代わり始めた。

雷管式は当初、前装式の火縄銃に使われたが、後に後装式のライフルやピストルにも使われるようになった。やがて小型の雷管は、現代の銃器に使われる一体型カートリッジに組み込まれるようになった。

【タイトル】 前装銃から後装銃へ

【想定媒体】 看板

<簡体字>

从前装式到后膛装填式

19 世纪以前，几乎所有枪械都是“前装式”，即从枪管前端的开口填装弹药。火枪手从枪口装入火药，然后放入一枚配套的火绳枪弹丸或其他弹丸，再用推弹杆将它们向内压实，最后平端火绳枪后才能开火。因此，从装填弹药到射击既耗时又耗力。

从尾部装填弹药的“后膛装填式”火器至少在 16 世纪便已出现。它们装填更快，操作更简单，但在爆炸产生压力作用下，也更容易炸膛。直到 19 世纪，随着金属加工技术和整装弹药的进步，这个问题才最终得以解决。此后，后膛装填便成为了火器的标准设计。

绝大多数现代弹药都是由弹丸、火药和撞击式点火装置组成的整装弹药匣，配备有可一次性装填多发子弹的弹夹或弹匣，大大提升了射击速度。此外，由于可以精准管控火药量，整装弹药匣对枪管的磨损也比散装火药小。

<繁体字>

從前裝式到後膛裝填式

19 世紀以前，幾乎所有槍械都是「前裝式」，即從槍管前端的開口填裝彈藥。但這種槍枝從裝填彈藥到射擊既耗時又耗力，因為火槍手從槍口裝入火藥後必須放入一枚配套的火繩槍彈丸或其他彈丸，再用推彈杆將它們向內壓實，最後平端火繩槍後，才能開火。

從尾部裝填彈藥的「後膛裝填式」火器至少在 16 世紀便已出現。它們裝填更快，操作更簡單，但在爆炸產生壓力作用下，也更容易炸膛。直到 19 世紀，隨著金屬加工技術和整装彈藥的進步，這個問題才最終得以解決。此後，後膛裝填便成為了火器的標準設計。

絕大多數現代彈藥都是由彈丸、火藥和撞擊式點火裝置組成的整装彈藥匣，配備有可一次性裝填多發子彈的彈夾或彈匣，大大提升了射擊速度。此外，由於可以精準管控火藥量，整装彈藥匣對槍管的磨損也比散装火藥更小。

<日本語仮訳>

前装式から後装式へ

19 世紀まで、ほとんどの銃は「マズル」と呼ばれる銃口の部分から装填されていた。銃口から火薬を注いで火縄銃などの弾丸を入れ、槌杖で弾丸を突き入れてから銃を水平にして発射する。そのため装填と発射には時間がかかり、手間がかかった。

背面から装填する銃器（後装式）は、少なくとも 16 世紀には存在していた。しかし、この銃は装填が早く簡単な反面、火薬が爆発する時の衝撃で割れたり破裂したりすることがあった。19 世紀になって、金属加工の進歩とカートリッジ弾薬の開発によってこの問題は解決された。その後、後装式が銃器の標準設計となった。

現代の弾薬は、弾丸と火薬と打撃感応式点火装置を組み合わせたカートリッジが主流である。弾丸はクリップや弾倉を利用して素早く装填することができ、発射速度が大幅に向上する。カートリッジは火薬の量を標準化することが可能なため、バラ火薬に比べて銃身の摩耗が少ない。

【タイトル】松本城鉄砲蔵・赤羽コレクション

【想定媒体】看板

<簡体字>

松本城铁砲博物馆・赤羽藏品

日语中的“铁砲”就是枪械。松本城铁砲博物馆共收藏 141 支火绳枪和其他古董枪支、283 件枪支配件和工具，以及 450 多份有关火器及相关历史的文献资料。大部分藏品的历史都可追溯到 16 世纪至 19 世纪之间。

博物馆的所有藏品都来自赤羽道重和赤羽加代子夫妇。这两位火器专家和射击运动爱好者，花费了一生心血收藏枪械。虽说出身于松本，赤羽夫妇多年来却一直在东京成功经营着一家餐厅。在此期间，他们逐步积累起了数量惊人的火器收藏品，尤以日本火绳枪居多。

1988 年，赤羽夫妇将他们的收藏委托松本市管理，从而诞生了松本城铁砲博物馆。1999 年，展品进行了更换，展品外的其余藏品现均保存在松本市立博物馆中。在铁砲博物馆建立之后，赤羽夫妇依然继续收藏枪械，藏品规模也不断扩大。

大天守是展示火绳枪的最佳地点。这天守建于 1593 年至 1594 年之间，从厚实的城墙和为火绳枪而设的诸多“狭间”（箭窗）可以看出，它就是为应对火器时代的战争而设计的。目前，松本城内有一支名叫“松本城铁砲队”的专属表演团队，主要演练传统的武士射击技巧“炮术”。1990 年，赤羽加代子亲自参与了铁砲队的第一次表演。

依照赤羽夫妇的意愿，馆藏所有火绳枪均需每年拆开清洗一次，以保持“随时能够守护松本城”的状态。

<繁体字>

松本城鐵砲博物館・赤羽藏品

日語中的「鐵砲」就是槍械。松本城鐵砲博物館總共藏有 141 支火繩槍和其他古董槍支、283 件槍支配件和工具，以及 450 多份有關火器及相關歷史的文獻資料。大部分藏品的歷史都可追溯到 16 世紀至 19 世紀之間。

博物館的所有藏品都來自兩位火器專家和射擊運動愛好者——赤羽道重和赤羽加代子夫婦。他們花費了一生心血收藏槍械。雖然出身於松本，赤羽夫婦多年來卻一直在東京成功經營著一家餐廳。也就是在這段時間內，他們逐步積累起了數量驚人的火器收藏品，尤以日本火繩槍居多。

1988年、赤羽夫婦將他們的收藏委託松本市管理，松本市便開設了松本城鐵砲博物館。1999年，展品進行了更換，展品外的其餘藏品均保存在松本市立博物館中。在鐵砲博物館建立之後，赤羽夫婦依然繼續收藏槍械，不斷擴大藏品規模。

大天守是展示火繩槍的最佳地點。這處天守建於1593年到1594年之間，從厚實的城牆和為火繩槍而設的諸多「狹間」（箭窗）可以看出，它就是為應對火器時代的戰爭而設計的。目前，松本城內還有一隻名叫「松本城鐵砲隊」的專屬表演團隊，主要演練傳統的武士射擊技巧「砲術」。1990年，赤羽加代子親自參與了鐵砲隊的第一次表演。

依照赤羽夫婦的意願，館藏所有火繩槍均需每年拆開清洗一次，以保持「隨時能夠守護松本城」的狀態。

<日本語仮訳>

松本城鉄砲蔵・赤羽コレクション

日本語の「鉄砲」とは、銃器のこと。松本城鉄砲蔵は、141挺の火縄銃をはじめとする古式銃砲、283点の銃砲用具、450点を超える火器とその歴史に関する資料で構成されている。これらのほとんどは16世紀から19世紀にかけてのものである。

これらの収蔵品は、生涯の鉄砲収集家にして銃器研究家、スポーツ射撃家でもあった赤羽道重・加代子夫妻から寄託されたものである。赤羽夫妻は松本出身で、東京で長年にわたりレストランを営んでいた。その間に、日本製火縄銃を中心とする火器のコレクションを徐々に増やしていった。

1988年に、赤羽夫妻から松本市にそのコレクションを寄託し、松本市が松本城鉄砲蔵を開設した。1999年に展示替えをして、展示品以外は市の博物館に収蔵されている。展示が始まった後も、赤羽夫妻は新たな鉄砲を入手し、コレクションを拡充していった。

大天守は、これらの火縄銃の展示にふさわしい場所である。1593年から1594年にかけて建設されたこの天守は、火縄銃を発射するための狭間が多数あり、壁も厚いことから、火器戦の時代に合わせて設計されていることがわかる。また、松本城には伝統的な侍の「砲術」を保存・伝承する実演チーム「松本城鉄砲隊」がある。1990年に行われた第1回演武には、赤羽加代子氏も参加した。

「松本城を守るためにいつでも使えるようにしてほしい」という赤羽夫妻の意向で、毎年収蔵している火縄銃をすべて分解・洗浄している。

【タイトル】 さまざまな銃器の種類を知るための入門編

【想定媒体】 看板

<簡体字>

火器种类异同概述

火器与枪械术语的世界浩如烟海，有时候很难分辨一把枪与另一把的区别。在长达多个世纪里，出现了许多种火器的分类方法，但其中最简单的就是看它们装填弹药与点火发射的方式。

火绳枪（又称滑膛枪）是 15 世纪至 17 世纪最通用的手持火器。这种**前装式**武器的原理是：先从枪口装填推进燃料（火药）和发射物（弹丸），再借助一根名叫“搨杖”的长条形推弹杆将其推到枪膛底部并压实，然后用一根卡在簧板上的阴燃火绳点燃火药，最后扣动扳机，簧板向前弹出后带动燃烧的火绳接触火药，完成点火发射。这种击发装置被称为**火绳式**。

在西方，火绳式击发装置在 17 世纪末期便遭到淘汰。最初替代它的是**簧轮式**和**燧发式**装置，它们借助火星而非火绳来点燃火药。一个世纪后，使用雷管点火的**雷管式**击发装置淘汰了此前所有设计。前装式也终被更高效、便捷的**后膛填装式**取代，后者通过枪管尾部的开口填装弹药。

然而，火绳枪在日本从未被抛弃，在 16 世纪至 17 世纪，枪械工匠还在不断改进火绳枪的设计。整个德川幕府时代(1603-1867)日本始终处于锁国状态，所以前装式火绳枪的应用基本就贯穿了该时代。直到 19 世纪，国门重新开放，日本才开始引进并制造更加现代化的武器。

<繁体字>

火器種類異同概述

火器與槍械術語的世界浩如煙海，有時很難分辨一把槍與另一把的區別。在長達數個世紀的歷史長河中，出現了許多種火器的分類方法，但最簡單的是看它們裝填彈藥與點火發射的方式。

火繩槍（又稱滑膛槍）是 15 世紀至 17 世紀最通用的手持火器。這種**前裝式**武器的原理是：先從槍口裝填推進燃料（火藥）和發射物（彈丸），再借助一根名叫「搨杖」的長條形推彈杆將其推到槍膛底部並壓實，然後用一根卡在簧板上的陰燃火繩點燃火藥，最後扣動扳機，簧板向前彈出後帶動燃燒的火繩接觸火藥，完成點火發射。這種擊發裝置被稱為**火繩式**。

在西方，火繩式擊發裝置在 17 世紀末期便遭到淘汰。最初替代它的是**簧輪式**和**燧發式**裝置，它們借助火星而非火繩來點燃火藥。一個世紀後，使用雷管點火的**雷管式**擊發裝置淘汰了此前所有設計。前裝式也終被更高效、便捷的**後膛填裝式**取代，後者透過槍管尾部的開口填裝彈藥。

然而，火繩槍在日本從未被拋棄，在 16 世紀至 17 世紀，槍械工匠還在不斷改進火繩槍的設計。由於整個德川幕府時代（1603-1867）日本始終處於鎖國狀態，所以前裝式火繩槍的應用基本就貫穿了該時代。直到 19 世紀，國門重新開放，日本才開始引進並製造更現代化的武器。

<日本語仮訳>

様々な火器の種類を知るための入門編

火器や銃器の専門用語の世界は非常に広範で、ある銃と他の銃の区別するのは困難を伴う場合もある。火器には何世紀もの歴史があり、その中で多くの分類方法があるが、最も簡単な方法は装填と発射の方法による分類である。

火繩銃（別名アークウィバス）は、15 世紀から 17 世紀にかけて使用された、最も一般的な手持ち式の火器であった。火繩銃は**銃口装填式（前装式）**で、推進剤（火薬）と発射体（鉄砲玉）を銃口の中に入れ、「槊杖」と呼ばれる長い道具を使って発射口に詰め込む。火薬は、バネ仕掛けのアームに取り付けられた、ゆっくりと燃える火縄で点火される。引き金を引くとアームが前に出て、火のついた縄を火薬に接触させ、銃を発射する。この発射装置を**火縄式**という。

西洋では、火縄式は 17 世紀末には使われなくなった。その後、火薬の着火に火縄ではなく火花を使う**ホイールロック式**や**フリントロック式**、さらに 1 世紀後には、これらのタイプに代わって、自己着火式の**雷管式**が使われるようになった。前装銃はやがて、より速く、使いやすい**後装式**（銃身後部の開口部から装填する）発射装置に取って代わられた。

日本では火繩銃が廃れることはなく、1600 年代から 1700 年代にかけて鉄砲職人によって改良が加えられた。徳川時代（1603-1867）に日本は鎖国をしていたので、銃口装填式の火繩銃がそのまま使われた。19 世紀になり日本が開国して初めて、より近代的な武器の輸入と製造が始まった。

【タイトル】銃と権力闘争

【想定媒体】看板

<簡体字>

枪械与权力之争

枪械被引入日本时，正值漫长的战乱年代。15 世纪 60 年代，室町幕府(1336-1573)逐渐丧失对全国的掌控力，权力的真空导致硝烟四起，各地大名（领主）的争战持续了 100 多年。火器在战争中起到了决定性的作用，比起没有火器的大名来，使用火器的一方更占优势。

战争的其他变化进一步扩大了枪械的影响。1543 年，火绳枪刚刚被引入日本，大名们立刻意识到了它对于以步兵为主的军队所起的作用。当时，步兵已经开始渐渐取代骑马的武士活跃在沙场。操作火绳枪不必如弓箭那样需要大量的训练，能让步兵发挥更重要的作用。很快，步兵便成了大名枪炮队中的主力。

先驱者：织田信长

与火绳枪关系最紧密的人物，非强大军阀织田信长(1534-1582)莫属。他是一位足智多谋且意志坚韧的领袖，步步为营确立了自己统治日本的地位。1573 年，他废黜室町幕府的最后一任将军，继而击败或降伏了大部分对手。织田信长看似越发势不可挡，但他攀登将军之位的努力却终结于 1582 年的一场背叛与刺杀。

织田信长是著名的军事战略家，以不拘一格和善于创新闻名。在 1575 年的长篠之战（篠，音同“小”）中，织田信长派出一支枪炮队，击退了对面武田胜赖(1546-1582)的精英骑兵队发起的冲锋，扫清了阻碍他夺取天下的最后一道障碍。

武装起义者：一向一揆

一向一揆（音同“葵”）并非大名军队，而是一个由反对大名的农民、下阶武士和佛家武僧组成的松散群体。这支武装力量很早便接受并开始制造火器了。

1569 年，为争夺今名古屋市的控制权，一向一揆与织田家族发生冲突。1570 年，织田军遭一向一揆伏击，其中包括来自日本最早的枪械制造中心根来寺的僧兵。起义军靠枪炮队的加持逼退了大名的军队。这场漫长的战争持续 10 年之久，织田信长付出了高昂的代价才取得了胜利。

<繁体字>

槍械與權力之爭

槍械被引入日本時，正值烽火頻仍的年代。1460 年代，室町幕府（1336-1573）對全國各地的掌控力逐漸式微，權力的真空導致硝煙四起，各地大名（領主）的爭戰持續了 100 多年。而當中，比起沒有火器的大名來，使用火器的一方更佔優勢，可以說，火器在戰爭有著關鍵性的影響力。

戰爭的其他變化也進一步擴大了槍械的影響。1543 年，火繩槍剛剛被引入日本，大名們立刻意識到了它對於以步兵為主的軍隊所起的作用。當時，步兵已經開始漸漸取代騎馬的武士活躍在沙場。操作火繩槍不必如弓箭那樣需要大量的訓練，能讓步兵發揮更重要的作用。很快，步兵便成了大名槍炮隊中的主力。

先驅者：織田信長

說到與火繩槍關係最緊密的強大軍閥，非織田信長（1534-1582）莫屬。他是一位足智多謀且意志堅強的領袖，步步為營確立了自己統治日本的地位。1573 年，他廢黜室町幕府的最後一任將軍，繼而擊敗或征服了大部分對手。雖然織田信長看似勢不可擋，然而，他登上將軍之位的努力卻終結於 1582 年的一場背叛與刺殺。

軍事奇才織田信長以不拘一格和善於創新聞名。在 1575 年的長篠之戰（篠，音同「小」）中，織田信長派出一支槍炮隊，擊退了對手武田勝賴（1546-1582）的精英騎兵隊發起的衝鋒，掃清了阻礙他奪取天下的最後一道障礙。

武裝起義者：一向一揆

一向一揆（音同「葵」）非大名軍隊，是一個由反對大名的農民、下級武士和佛家武僧組成的非正規軍組織。這支武裝力量很早便接受並開始製造火器。

1569 年，為爭奪今名古屋市的控制權，一向一揆與織田家發生衝突。1570 年，織田軍遭一向一揆伏擊，其中包括來自根來寺的武僧，而這座寺院正是日本最早的槍械製造中心。起義軍靠槍炮隊的力量逼退了大名的軍隊。這場漫長的戰爭持續 10 年，織田信長付出了高昂的代價才取得了勝利。

<日本語仮訳>

鉄砲と権力闘争

鉄砲が日本に伝来したのは、長引く内乱の時代であった。1460 年代に室町幕府（1336-1573）の権威が失墜し、その権力の空白を埋めるべく各地の大名（領主）が 1 世紀以上にわたって争いを繰り返した。火器はその戦いの勝敗を左右し、火器を導入した大名がライバルに対して優位に立つことができた。

鉄砲の影響は、他の軍事的変化によってさらに大きくなった。1543 年に火縄銃が登場したとき、大名はすでに足軽を中心とした軍隊の有効性を認識しており、騎馬武士に代わって足軽が戦場で活躍し始めていた。弓などの武器よりはるかに訓練が少なくて済む銃器は足軽の役割にぴったりで、足軽はまもなく大名軍の主要な砲術部隊となった。

先駆者：織田信長

火縄銃と最も関係の深い強い将軍は、織田信長（1534-1582）である。信長は抜け目なく不屈の精神を持つリーダーとして、16世紀の戦国時代にほぼ天下を手中に収め、1573年に室町幕府の最後の将軍を退位させ、ライバルたちのほとんどを打ち負かし、または服従させた。勢いがますます増してきた彼は、1582年に裏切られ暗殺されたことで、将軍の座を追われることになった。

信長は、革新的で型破りな軍事思想家として知られている。1575年の長篠の戦いでは、信長軍の鉄砲隊が、ライバルの武田勝頼（1546-1582）の騎馬隊の突撃を打ち負かし、信長の天下取りの最後の障害を取り除くことができた。

武装蜂起した者たち：一向一揆

一向一揆とは、大名の軍隊ではなく、大名支配に反旗を翻した農民、下級武士、武装した仏僧の集まりである。一向一揆の戦闘部隊は、特に火器の導入と製造が早かった。

1569年、一向一揆は現在の名古屋市の支配権をめぐる織田氏と対立した。1570年に最も古い鉄砲製造の中心地であった根来寺の僧兵を含まれた一向一揆軍が信長軍を待ち伏せた。一揆軍の鉄砲隊は、信長を退却させるのに貢献した。この戦いは10年に及ぶ長期戦となり、信長は大きな犠牲を払って勝利した。

【タイトル】 火縄銃の仕組み

【想定媒体】 看板

<簡体字>**火縄銃の構造**

早期的枪械大多构造简单，通常都在枪管尾部留出一个孔，通过它直接点燃枪膛内的火药，完成击发。这种方式适用于固定不动的加农炮，对于手持武器却非常不便。

火縄銃通过被称为“蛇杆”的 S 型簧板完成击发，便于火枪手瞄准和射击。其具体原理是将点燃的火绳卡在蛇杆上，扣动扳机，簧板向前弹出，点燃引火药池，进而点燃枪管中的主火药，推动子弹射出。

后来，原始火縄銃设计衍生出了许多新技术，日本的枪械工匠也开始独立创新。和众多技术一样，复杂的构造能够带来更多的功能，但也导致成本与维护难度的提升。

中文	日本語
火縄銃の枪机组件	カラクリ 火縄銃の機関部
夹住已燃火绳的蛇杆	点火した火縄をつけた火ばさみ
基础版枪机：平枪机（复制品）	ベーシック平からくり（レプリカ）
带“蟹目”扣的内枪机（复制品）	カニの目付き内からくり（レプリカ）
带扭转锁簧的外记枪机（复制品）	コイルバネ付き外記からくり（レプリカ）
扳机	引き金
枪机底板	地板
“蟹目”扣	カニの目
火绳	火縄
蛇杆（用于夹住火绳）	火ばさみ（火縄を挟む用）

套箍	胴金
主簧机	弾き金
引火药池	火皿
引火药池盖	火ぶた
平枪机的工作原理 (←)	平からくりの機構と作動の仕組み (←)

<繁体字>

火繩槍的構造

早期的槍械通常都在槍管尾部留出一個小孔，透過它直接點燃槍膛內的火藥，完成擊發，結構相對簡單。這種方式適用於固定不動的加農炮，對於手持武器卻非常不便。

火繩槍透過被稱為「蛇杆」的 S 型簧板完成擊發，便於火槍手瞄準和射擊。它的具體原理是將點燃的火繩卡在蛇杆上，扣動扳機，簧板向前彈出，點燃引火藥池，進而點燃槍管中的主火藥，推動子彈射出。

後來，原始火繩槍設計衍生出了許多新技術，日本的槍械工匠也開始獨立創新。和許多技術一樣，複雜的構造能夠帶來更多的功能，但也導致成本與保養難度提升。

中文	日本語
火繩槍的槍機組件	カラクリ 火繩銃の機関部
夾住已燃火繩的蛇杆	点火した火繩をつけた火ばさみ
基礎版槍機：平槍機（複製品）	ベーシック平からくり（レプリカ）
帶「蟹目」扣的內槍機（複製品）	カコの目付き内からくり（レプリカ）
帶扭轉鎖簧的外記槍機（複製品）	コイルバネ付き外記からくり（レプリカ）
扳機	引き金
槍機底板	地板
「蟹目」扣	カコの目

火縄	火縄
蛇杆（用於夾住火縄）	火ばさみ（火縄を挟む用）
套箍	胴金
主簧機	弾き金
引火薬池	火皿
引火薬池蓋	火ぶた
平槍機的工作原理（←）	平からくりの機構と作動の仕組み（←）

<日本語仮訳>

火縄銃の仕組み

初期の鉄砲の多くは、銃身後部の小さな穴から中の火薬に直接炎を当てて発射するものであり、極めてシンプルなものであった。この方法は据え置き型のカノン砲には適していたが、携帯型の武器には不向きであった。

火縄銃は、サーペンタインと呼ばれる S 型バネ仕掛けのアームを取り付けることで、照準や射撃を容易にした。サーペンタインには火のついた火縄が付いており、銃手が引き金を引くとアームが前に出て火薬を入れた皿に点火する。これが引火して銃身内の主火薬を爆発させ、弾が発射される。

この火縄銃の基本設計には多くのバリエーションがあり、日本の鉄砲職人も独自の工夫を凝らしている。多くの技術がそうであったように、より複雑なものはより多くの機能を備えているが、高価で手入れが困難であった。

【タイトル】 火繩銃の発射

【想定媒体】 看板

<簡体字>

火繩槍的發射步驟

1、裝彈

火繩槍屬於前裝式槍械。從槍口向膛內填入火藥，然後放入一枚彈丸，再使用推彈杆將彈藥壓實。

2、引信

平端火繩槍，向引火藥池中倒入火藥細粉，迅速蓋上引火藥池蓋以防火藥受潮、漏出或誤點火。引火藥池中火藥不滿就可能無法引燃槍膛中的主火藥，導致“啞火”。

3、準備

射擊前，將點燃的火繩卡入蛇杆頂部，打開引火藥池蓋。

4、瞄準

左手端起槍身，將槍托抵在臉頰處，通過槍管上方的前、後准星瞄準目標。

5、開火

扣動扳機，釋放蛇杆上的彈簧，蛇杆帶動燃燒的火繩叩擊引火藥池，點燃火藥粉，進而引燃槍膛中的主火藥。火藥爆炸，推動火繩槍彈自槍口射出，擊向目標。

分秒必爭：早合

火繩槍的彈藥填裝費時費力。為了提高效率，火槍手們發明了“早合”，相當於現代整裝子彈匣的前身。早合是一種預先填裝好定量火藥和一枚彈丸的彈藥包，通常會裝在竹筒等便於攜帶的小容器里。

與現代子彈匣不同的是，早合並不直接壓入槍膛，需要撕開一端的紙封，將火藥和彈丸一次性從槍口倒入槍管中。火槍手通常將早合放進腰包或子彈腰包內上陣，為每次裝填爭取決定生死的关键幾秒。

<繁体字>

火繩槍的發射步驟

1、裝彈

火繩槍屬於前裝式槍械。從槍口向膛內填入火藥，然後放入一枚彈丸，再使用推彈杆將彈藥壓實。

2、引信

平端火繩槍，向引火藥池中倒入火藥細粉，迅速蓋上引火藥池蓋以防火藥受潮、漏出或誤點火。引火藥池中火藥不滿就可能無法引燃槍膛中的主火藥，導致「啞火」。

3、準備

射擊前，將點燃的火繩卡入蛇杆頂部，打開引火藥池蓋。

4、瞄準

左手端起槍身，將槍托抵在臉頰處，透過槍管上方的前、後準星瞄準目標。

5、開火

扣動扳機，釋放蛇杆上的彈簧，蛇杆帶動燃燒的火繩叩擊引火藥池，點燃火藥粉，進而引燃槍膛中的主火藥。火藥爆炸，推動火繩槍彈自槍口射出，擊向目標。

分秒必爭：早合

火繩槍的彈藥填裝費時費力。為了提高效率，火槍手們發明了「早合」，相當於現代整裝子彈匣的前身。早合是一種事先填裝好定量火藥和一枚彈丸的彈藥包，通常會裝在一種如竹筒等便於攜帶的小容器裡面。

與現代子彈匣不同的是，早合並不直接壓入槍膛，而是需要撕開一端的紙封，將火藥和彈丸一次性從槍口倒入槍管中。火槍手通常將早合放進腰包或子彈腰包內上陣，為每次裝填省下決定生死的關鍵幾秒。

<日本語仮訳>

火繩銃の発射

1.装填

火繩銃は前装式である。銃口から火薬を注入し、弾丸を挿入して槊杖でそれらを押しこむ。

2.点火

次に銃を水平にし、火皿に粒の細かい火薬を入れて素早く蓋を閉める。蓋をすることで、火薬が濡れたり、こぼれたり、誤って点火したりするのを防ぐためである。火皿に火薬を目いっぱい入れないと、主装置に点火されずに、発火するだけで不発になる。

3.準備

撃つ時は、銃に付いているサーペントインの先に火のついた火繩をはさみ、火皿の蓋を開ける。

4.照準調整

左手で銃身を支え、銃床を頬に当て、銃身の前後の照準を合わせて狙いを定める。

5.発射

銃手が引き金を引くと、ばね仕掛けのサーペンタインが外れ、火のついた火縄が火皿に接触する。火薬が燃え上がり、銃身内の主薬に引火して爆発し、銃から発射された弾は標的の方向に進む。

時間の短縮：早合

火縄銃は装填に時間がかかる面倒なものであった。この作業を早くするために、銃手たちは現在のカートリッジ弾の前身「早合」を発明した。「早合」とは、竹筒のような携帯用の容器に入っているあらかじめ計量した火薬と火縄銃の弾丸のこと。

早合は、カートリッジと異なり、銃に直接差し込むことはない。紙で覆われた端をちぎって、中身の銃弾と火薬を銃口に流し込んで使用した。銃手は早合を胴乱や装弾胴乱に入れて持ち歩き、戦場では生死を分ける貴重な数秒の時間を短縮した。

【タイトル】 鉄砲隊の装備

【想定媒体】 看板

<簡体字>

火枪手的装备

14 世纪至 16 世纪的日本军队主要由两部分构成，一是军官和骑兵等高阶武士；一是叫做“足轻”的步兵。他们都可配带火绳枪，但枪炮队的主力通常是步兵，由他们组成长长的射击队列。

这里展出的是一副武士铠甲。武士铠甲通常为金属片层叠连缀而成，随着枪炮在战场上的普及，这些金属片也逐渐加厚。然而，即便是厚重的铠甲也无法阻挡近距离内发射的火绳枪弹，因此铠甲主要还是用于防护刀剑与长枪，同时也是身份等级的标识。

每名火枪手上战场时都需要自带弹药。这套士兵的装备里包括：一卷使用日本扁柏纤维或棉线编成的火绳；一个装火药的水筒状大容器；一个放引火药的葫芦状容器；一个放弹丸的袋子，袋口是特制的长颈“乌鸦嘴”，每次刚好倒出一枚弹丸；一个装“早合”（预装弹药包）的袋子；一根或多根用来压实枪管中火药和弹丸的推弹杆。而这个大木箱是运送弹药上战场的容器。

铠甲背后的管状物用来插武士背负的“指物”（靠旗）。

<繁体字>

火槍手的裝備

14 世紀至 16 世紀的日本軍隊主要由兩部分構成，一是軍官和騎兵等高階武士；一是叫做「足輕」的步兵。他們都可配帶火繩槍，但槍炮隊的主力通常是步兵，由他們組成長長的射擊隊列。

這裡展出的是一副武士鎧甲。武士鎧甲通常由金屬片層疊連綴而成，隨著槍炮在戰場上的普及，這些金屬片也逐漸加厚。然而，即便是厚重的鎧甲也無法阻擋近距離內發射的火繩槍彈，因此鎧甲主要還是用於防護刀劍與長槍，同時還是身份等級的標識。

每名火槍手上戰場時都需要自帶彈藥。這套士兵的裝備裡包括：一卷使用檜木纖維或棉線編成的火繩、一個裝火藥的水筒狀大容器、一個放引火藥的葫蘆狀容器、一個放彈丸的袋子，袋口是特製的長頸「烏鴉嘴」，每次剛好倒出一枚彈丸、一個裝「早合」（預裝火藥彈）的袋子、一根或多根用來壓實槍管中火藥和彈丸的推彈杆。而這個大木箱是運送彈藥上戰場的容器。

鎧甲背後的管狀物用來插武士背負的「指物」（靠旗）。

<日本語仮訳>

銃手の装備

14 世紀から 16 世紀にかけての軍隊は、士官や騎兵として活躍する上級武士（侍）と、足軽の二層で構成されていた。どちらも火縄銃を携帯することができたが、鉄砲隊の大部分を構成する長い射撃隊の列を形成したのは足軽であった。

ここに展示されている鎧は、武士のものである。武士の鎧は、金属の板を重ねたもので、戦場に火器が普及してから金属板を厚くするようになった。しかし、重い鎧でも近距離から発射された火縄銃弾を止めることはできず、鎧は主に剣や槍から身を守るため、また身分を示すものとして使われ続けた。

弾薬は各自が戦場に持参した。この兵士の装備セットには、檜や木綿を編んだ火縄、火薬を入れる大きな水筒型容器と点火薬を入れるひょうたん型の容器、弾を一度に 1 個を出す烏口、早合用の袋、弾を銃身に詰めるための槌杖（1 本または複数本）などが含まれている。木箱は戦場へ弾薬を運ぶのに使われた。

鎧の背中には、幟（指物）を立てるための筒が取り付けられている。

【タイトル】 松本城の守護神

【想定媒体】 看板

<簡体字>

松本城的守护神

大天守屋顶下的这个小神龕里供奉着二十六夜神，她是松本城的守护神明。

关于这位神明的传说发生在1618年正月廿六的夜晚。相传，一位名叫川井八郎三郎的武士这天值夜守卫城郭核心区内的本丸御殿。就在月亮刚刚从群山间升上天空时，他听到一个陌生的声音在叫他的名字。他回头寻找声音的来源，看到一名身穿红袴（音同“裤”，套在和服外类似百褶裤）的女子出现在面前。川井八郎三郎不由得心生敬畏，当场投地跪拜。

女子递给他一个锦囊，告诉他，只要每月供奉3石3斗3升3合3勺大米（约500公斤），他的主家就可保繁荣昌盛。但同时也警告他，绝不可打开锦囊。然后，女子便消失了。第二天一早，川井八郎三郎便将事情报告给了城主户田康长(1562-1633)。据说，从此以后，户田家族在每月廿六都会祭祀供奉，直至1868年明治维新后失去对松本城的掌控权。

二十六夜神的信仰或许与关东地区盛行的民间信仰有关，这里是户田康长曾经生活过的地方。每到七月廿六，当地信徒都会彻夜仰望月亮，祈祷三尊佛现身。

<繁体字>

松本城的守護神

大天守屋頂下的這個小神龕裡，供奉的是二十六夜神，祂是松本城的守護神明。

關於這位神明的傳說發生在1618年正月廿六的夜晚。相傳，一位名叫川井八郎三郎的武士在這天值夜守衛城郭核心區內的本丸御殿。就在月亮剛剛從群山間升上天空時，他聽到一個陌生的聲音在喊叫他的名字，回頭尋找聲音的來源，他看到一名身穿紅袴（音同「褲」，套在和服外類似百褶褲）的女子出現在面前，川井八郎三郎不由得心生敬畏，當場投地跪拜。

女子遞給他一個錦囊，告訴他，只要每月供奉3石3斗3升3合3勺大米（約500公斤），他的主家就可保繁榮昌盛。但同時也警告他，絕不可打開錦囊。然後，女子便消失了。第二天一早，川井八郎三郎便將事情報告給了城主戶田康長（1562-1633）。據說，從此以後，戶田家在每月廿六都會舉辦祭祀供奉，直至1868年明治維新後失去對松本城的掌控權。

二十六夜神の信仰或許與關東地區盛行的民間信仰有關，這裡是戶田康長曾經生活過的地方。每到七月廿六，當地信徒都會徹夜仰望月亮，祈禱三尊佛現身。

<日本語仮訳>

松本城の守護神

大天守の屋根の下にある小さな祠には、城の守護神とされる二十六夜神が祀られている。

この神様にまつわる伝説に、1618年正月26日の真夜中の出来事が書かれている。川井八郎三郎という武士が、城の一番重要な曲輪に位置する本丸御殿で夜番をしていた。月が山間から顔を出したとき、川井八郎三郎の名を呼ぶ聞き慣れない声があった。その声に振り向いて侵入者の姿を探すと、そこに緋色の袴をはいた女性が目の前に現れたのである。川井はその場にひれ伏した。

錦の袋を渡され、「毎月、三石、三斗、三升、三合、三勺の米（合計約500キロ）を供えれば、主家の繁栄につながる」と告げられた。そして、「この袋は絶対に開けてはいけない」と忠告して、彼女は姿を消した。翌朝、川合はこのことを殿様戸田康長（1562-1633）に報告。以後、明治維新の頃まで、毎月26日の夜に祭祀が行われたという。

二十六夜神信仰は、康長が松本に来る前に生活していた関東地方で盛んだった民間信仰と関係があるのかもしれないという説がある。信者は七月の二十六夜の月に、三尊仏の姿が現れるのを拝もうとして、眠らずに祈っていたそうだ。

【タイトル】市川量造の嘆願書

【想定媒体】看板

<簡体字>

市川量造の请愿书

1868 年的明治维新给日本的政治与社会带来了巨大变革，甚至影响了日本各地城郭的命运。刚刚诞生的中央集权政府，要求大名（领主）们交出各自领地，并按照新的都道府县制重新划分土地。那时，“城”被视为过时的封建制度的象征，因此许多城郭遭到破坏，所在土地也另作他用。

这里展出的文件是当年市川量造(1844-1908)写给县长的请愿信副本。他为了保住松本城做出了许多努力，这只是其中的一部分。市川量造不仅是一位民权运动家，也是本地一份新闻报刊的创办者。当他听到松本城将被拆除且所在土地可能被拍卖的消息后，十分不安，于是向执政的县长写信，请求将拍卖至少推迟 10 年，并提出在此期间可在城郭核心区“本丸”举办面向公众的展览。

尽管最初的请愿遭到驳回，市川量造依旧坚持不懈，他的请求终于在 1873 年得到了批准。同年 11 月，第一场博览会在松本城内举办，展品从美术作品、传统手工艺品，到化石、工具、武器，涵盖甚广。市川量造相信“纸上得来终觉浅”，而博览会的确实大受欢迎，在此后的 3 年中，又相继举办了 4 次。

<繁体字>

市川量造的請願書

1868 年的明治維新給日本的政治與社會帶來了巨大變革，甚至影響了日本各地城郭的命運。剛剛誕生的中央集權政府，要求大名（領主）們交出各自領地，並按照新的都道府縣制重新劃分土地。那時，「城」被視為過時的封建制度的象徵，因此許多城郭遭到破壞，所在土地也另作他用。

這裡展出的是當年市川量造（1844-1908）寫給縣長請願信的副本。他為了保住松本城做出了許多努力，這只是其中的一部分。市川量造不僅是一位民運人士，也是當地一份新聞報刊的創辦者。當他聽到松本城將被拆除且所在土地可能被拍賣的消息後，十分不安，於是向執政的縣長寫信，請求將拍賣至少推遲 10 年，並提出在此期間可在城郭核心區「本丸」舉辦面向大眾的展覽。

儘管最初的請願遭到駁回，市川量造依舊堅持不懈。終於，他的請求在 1873 年得到了批准。同年 11 月，第一場博覽會在松本城內舉辦，展品從美術作品、傳統手工藝品，到化

石、工具、武器，涵蓋甚廣。市川量造相信「紙上得來終覺淺」，而博覽會的確大受歡迎，在之後的 3 年中，又相繼舉辦了 4 次。

<日本語仮訳>

市川量造の嘆願書

1868 年の明治維新は、日本の政治と社会に大きな変化をもたらし、その影響は国内の各城の運命にさえも及んだ。中央集権的な新政府の誕生により、地方の領主であった大名（領主）は領地の返納を余儀なくされ、新たな都道府県制に再編されたのである。当時、城は時代遅れの封建制度戦争のシンボルとして捉えられていたため、多くの城が取り壊され、土地は再利用された。

ここに紹介するのは、市川量造（1844-1908）が松本城保存のための努力の一環として、に県知事に送った手紙の複製である。民権運動家であり、地元新聞の創刊者でもあった市川は、松本城が競売にかけられ、取り壊されるという知らせに心を痛めていた。彼は、城の売却を 10 年以上延期するよう知事に陳情し、城の一番重要な曲輪の本丸で博覧会を開催することを提案した。

当初は却下されたものの、市川は再度陳情し、1873 年によく許可された。その年の 11 月に、第 1 回目の博覧会が開催された。城内には美術品、工芸品、化石、道具、武器など、様々なものが展示された。市川は、人は 10 年本を読むより、1 日新しいものを見たほうが多くを学ぶと考えていた。展示は大変好評で、その後 3 年間でさらに 4 回の博覧会が開催された。

【タイトル】辰巳附櫓

【想定媒体】看板

<簡体字>

辰巳附櫓

辰巳附櫓建于 17 世纪 30 年代，连接着翼楼“月见櫓”与中央塔楼“大天守”，与同期完工的月见櫓都是松本城天守建筑群的组成部分，现已被指定为国宝。

辰巳附櫓位于大天守的东南侧，其建筑特征反映了日本从兵荒马乱的战国时代(1467-1600)到相对和平稳定的江户时代(1603-1867)之间的变化。大天守比辰巳附櫓早 40 年建成，是松本城最初、最重要的军事要塞。而辰巳附櫓建于和平时期，并不需要考虑攻守问题。站在辰巳附櫓与大天守之间的出入口上，一眼就能看出两处建筑主体框架所用木料的反差，大天守的支柱几乎要比辰巳附櫓的柱子粗一倍。

和天守的其他建筑一样，辰巳附櫓也有一部分突出于石垣地基之外。只是这里并没有大天守内部用来攻击下方来犯之敌的地板开口“石落”。

<繁体字>

辰巳附櫓

辰巳附櫓建於 1630 年代，連接著翼樓「月見櫓」與中央塔樓「大天守」，與同期完工的月見櫓都是松本城天守建築群的組成部分，現已被指定為國寶。

辰巳附櫓位於大天守的東南側，其建築特徵反映了日本從兵荒馬亂的戰國時代（1467-1600）到相對和平穩定的江戶時代（1603-1867）之間的變化。大天守比辰巳附櫓早 40 年建成，是松本城最初、最重要的軍事要塞。而辰巳附櫓建於和平时期，並不需要考慮攻守問題。站在辰巳附櫓與大天守之間的出入口上，一眼就能看出兩處建築主體框架所用木料的差異，大天守的支柱幾乎要比辰巳附櫓的柱子粗一倍。

辰巳附櫓有一部分突出於石垣地基之外，如同天守的其他建築。只是這裡並沒有大天守內部用來攻擊下方來犯之敵的地板開口「石落」。

<日本語仮訳>

辰巳附櫓

1630 年代に建てられた辰巳附櫓は、月見櫓と大天守をつなぎ、同時期に建てられた月見櫓とともに天守群の一部になっている。辰巳附櫓は国宝に指定されている。

辰巳附櫓は大天守の南東に位置し、その造りは、戦国時代（1467-1600）の混乱期から徳川幕府（1603-1867）の比較的平和で安定した時代に移行したことを反映している。大天守は辰巳附櫓より40年前に建てられ、最初で最も重要な軍事的な要塞としての性格が強い。一方の辰巳附櫓は平時に建てられたもので、攻城戦に耐えられるような構造にはなっていない。大天守との間にある出入り口に立つと、2つの建物の骨組みに使われている木材は対照的で、大天守の柱は辰巳附櫓のそれと比べて約2倍の幅がある。

辰巳附櫓は他の部分と同様、下の石造りの基礎の上に持ち出し、土台または側土台が伸びている。しかし、大天守にあった下から攻めてきた敵を攻撃するための「石落とし（いしおとし）」はない。

【タイトル】 運搬用の収納

【想定媒体】 看板

<簡体字>

运输装备

沙场上，士兵需要随身携带各类武器和装备，每名火枪手都有自己放置火药和弹丸的携带式器具。随军运输兵则负责运送装弹药和火绳的大箱子，箱内装备要在战前分发给各个部队。这块展板上的内容出自 19 世纪中叶一本名叫《武器百图》（百，音同“必”，意为“二百”）的图文军事百科全书：

(1) 存放弹丸、火药等小物件的腰包。

(2) 一对可以挑在扁担两头的装备箱。

箱子用来装运火绳枪弹丸和火药，由运输兵肩扛随火枪手一同行军。

下面展柜内陈列的箱子、盒子和袋子都是火枪手及运输兵的用品。装运火绳枪弹丸的抽屉柜被称为“玉箱”（日文称枪支弹丸为“铁砲玉”），专为带上战场设计，箱角额外加固，且在前侧开口而非上方，以避免雨水渗入箱内。

<繁体字>

運輸裝備

沙場上，士兵需要隨身攜帶各類武器和裝備，每名火槍手都有自己放置火藥和彈丸的攜帶式器具。隨軍運輸兵則負責運送裝彈藥和火繩的大箱子，箱內裝備要在戰前分發給各個部隊。這塊展板上的內容出自 19 世紀中葉一本名叫《武器百圖》（百，音同「必」，意為「二百」）的圖文軍事百科全書：

(1) 存放彈丸、火藥等小物件的腰包。

(2) 一對可以挑在扁擔兩頭的裝備箱。

箱子用來裝運火繩槍彈丸和火藥，由運輸兵肩扛隨火槍手一同行軍。

下面展櫃內陳列的箱子、盒子和袋子都是火槍手及運輸兵的用品。裝運火繩槍彈丸的抽屜櫃被稱為「玉箱」（日文稱槍支彈丸為「鐵砲玉」），專為帶上戰場而設計，箱角經過特殊加固，且在前側開口，而非傳統上方開口，用以避免雨水滲入箱內。

<日本語仮訳>

運搬用の収納

戦争中には、兵士は様々な装備品や付属品を携帯した。銃手には各人火薬や弾薬を入れる携帯容器を持っていたほか、荷役は弾薬や火縄が入った大きな箱を持ち運び、戦いの前に部隊に配った。このパネルでは、19世紀半ばに出版された図説百科事典『武器百圖』の一コマ、次のようなものが描かれている。

- (1) 弾薬などの小物を入れる腰袋。
- (2) 棒でつながれた一組の道具箱。

これらの箱は、火縄銃の弾や火薬の運搬に使われた。銃手の従者が肩に担いで持ち運んでいた。

下の展示ケースには、銃手とその従者が使用した箱、ケース、袋などの例が展示されている。火縄銃の弾を入れる「玉箱」（日本語のなかで、弾丸を鉄砲玉とも言う）は、戦場に持ち込むことを想定して角をしっかりと補強し、雨の侵入を防ぐために上開きではなく前開きになっている。

【タイトル】 火繩

【想定媒体】 看板

<簡体字>

火繩

火繩的原料多样，包括棉、竹及日本扁柏等多类植物纤维。为了提高可燃性，它们通常先用硝石加工处理。一旦点燃，火繩可以阴燃数小时之久，不过火枪手还是会随身携带燧石、火种或装有艾草余烬的小容器，以备重新点燃火繩（相关点火装备陈列如下）。

这块展板介绍了《武器图》（图，音同“必”，意为“二百”）中绘制的一系列配件装备：

- (1) 皮革火繩枪套
- (2) 火繩线圈
- (3) 切成 5 寸（约合 15 厘米）长的火繩段
- (4) 火繩段的挂板，可以插在火枪手身边的地上
- (5) 保护火繩燃烧端的盖子

一名火枪手在战场上随身携带的火繩根据部队不同而有所差异，但每人手臂或手腕上通常都会缠绕 3 米甚至更长的火繩。

<繁体字>

火繩

火繩的原料多样，包括棉、竹及檜木等多类植物纤维。为了提高可燃性，它们通常先用硝石加工处理。一旦点燃，火繩可以阴燃数小时之久，不过火枪手还是会随身携带燧石、火种或装有艾草余烬的小容器，以备重新点燃火繩（相关点火装备陈列如下）。

这块展板介绍了《武器图》（图，音同「必」，意为「二百」）中绘制的一系列配件装备：

- (1) 皮革火繩槍套
- (2) 火繩線圈
- (3) 切成 5 寸（约合 15 公分）长的火繩段
- (4) 火繩段的掛板，可以插在火槍手身邊的地上
- (5) 保護火繩燃燒端的蓋子

一名火槍手在戰場上隨身攜帶的火繩根據部隊不同而有所差異，但每人手臂或手腕上通常都會纏繞 3 公尺甚至更長的火繩。

<日本語仮訳>

火縄

木綿、竹、檜などさまざまな植物の繊維で作られた火縄は、燃えやすくするために塩硝で処理されることが多かった。一度火をつけると数時間はくすぶり続けるが、火打石や火種、あるいはヨモギの残り火を入れた容器などを携帯し、火縄の火が消えたときに再び火をつけることができた(これらの火種の展示は以下)。

このパネルでは、『武器百圖』の一コマ、様々な道具が描かれている。

- (1) 火縄銃用の革製収納袋
- (2) 火縄の束
- (3) 5寸(約15cm)に切られた火縄
- (4) 事前にかットされた火縄を置く板、砲手の横の地面に突き刺すことができる
- (5) 火縄の火の部分を覆うためのキャップ

火縄の長さは隊によって異なるが、一人当たり3メートル以上の縄を手首や腕に巻いていることも珍しくはなかった。

【タイトル】花頭窓

【想定媒体】看板

<簡体字>

花头窗

这种钟形窗户被称为“花头窗”，原本是佛教禅宗寺院的建筑特征，于13世纪随禅宗一同从中国传入日本。这一源自中国的禅寺建筑元素，不久便成为了体现社会地位以及高雅情趣的标志。到16世纪时，武士与大名（领主）们已将花头窗用在了自己的城郭与住宅中。

松本城共有四处花头窗，两扇位于大天守东南侧的辰巳附櫓2楼，两扇在西北角的乾小天守4楼。这些窗户的窗台上都开有雨槽，可以在百叶窗关闭时将雨水引向室外。

<繁体字>

花頭窗

這種鐘形窗戶被稱為「花頭窗」，原本是佛教禪宗寺院的建築特徵，於13世紀隨禪宗一同從中國傳入日本。這一源自中國的禪寺建築元素，不久便成為了體現社會地位以及高雅情趣的標誌。到了16世紀，武士與大名（領主）們已經在自己的城郭與住宅中採用花頭窗設計。

松本城共有四處花頭窗，兩扇位於大天守東南側的辰巳附櫓2樓，兩扇在西北角的乾小天守4樓。這些窗戶的窗台上都開有雨槽，可以在百葉窗關閉時將雨水引向室外。

<日本語仮訳>

花頭窓

この鐘型の窓は、もともと禅宗の寺院の特徴であった。13世紀に禅宗とともに中国から伝わり、「花頭窓」と呼ばれるようになった。中国から伝わったこの花頭窓も含めた禅宗建築は、やがて社会的な地位や品格を感じさせるものへとなっていった。16世紀には、武士や大名（領主）が城や屋敷にこの花頭窓を設置するようになった。

松本城には、大天守の南東に位置する辰巳附櫓の2階と北西に位置する乾小天守の4階にそれぞれ2基ずつ、計4基の花頭窓がある。これらの門扉は、雨戸を閉めたときに雨水を外部に流すための雨どいを内蔵している。

【タイトル】 様々な変り弾

【想定媒体】 看板

<簡体字>

非常規的火繩槍彈丸

為了尋找威力更大的彈藥，槍炮學校在標準火繩槍彈的基礎上試製了各種彈丸。有人在傳統彈丸上添加倒刺或鋒利的稜邊，以求加大殺傷力；也有人嘗試將多枚彈丸集束成團，一次性發射。然而，這些複雜的彈丸很難生產，功效也僅比簡單的球形鉛彈略有提升。因此，在 19 世紀火繩槍被現代槍械取代以前，普通球形彈丸始終是標準彈藥。

這塊展板介紹了種子島流派的槍械教材中繪製的各種非常規彈丸。展示櫃中陳列的則是不同形狀、尺寸的火繩槍彈以及其他展品，其中包括一枚陶製手榴彈（背後帶刺的圓彈）。

<繁体字>

非常規的火繩槍彈丸

為了尋找威力更大的彈藥，槍炮學校在標準火繩槍彈的基礎上試製了各種彈丸。有人在傳統彈丸上添加倒刺或鋒利的稜邊，以求加大殺傷力；也有人嘗試將多枚彈丸集束成團，一次性發射。這些複雜的子彈很難生產，效果也僅比簡單的球形鉛彈略有提升而已。因此，在 19 世紀火繩槍被現代槍械取代以前，普通球形彈丸始終是最廣泛使用的彈藥。

這塊展板介紹了種子島流派的槍械教材中繪製的各種非常規彈藥，展示櫃中陳列的則是不同形狀、尺寸的火繩槍彈丸以及其他展品，其中包括一枚陶製手榴彈（背後帶刺的圓彈）。

<日本語仮訳>

様々な火繩銃の変り弾

より効果的な弾薬を求めて、砲術学校では標準的な火繩銃の弾を出発点に、さまざまなバリエーションの作成が試みられた。棘（とげ）をつけたり、鋭利に仕上げたりして殺傷力を高めたものや、弾を連結して一緒に発射するものなど、さまざまな工夫が凝らされた。しかし、これらの弾は製造が困難である上に、単純な鉛の球に比べて効果の違いはわずかなものに留まるものであった。19 世紀に火繩銃が近代的な銃に取って代われるまで、基本的な球形の弾がスタンダードであり続けた。

このパネルでは、種子島流の火繩銃の教本に描かれている、さまざまな種類の珍しい弾丸を紹介し

ている。展示ケースには、さまざまな形や大きさの火縄銃の弾や、陶製の手榴弾（後方にトゲのある弾）などが入っている。

【タイトル】 爆弾

【想定媒体】 看板

<簡体字>**炸弹**

火药是加农炮和火绳枪的推进燃料，但它们也被用于制作炸弹。这幅出自《武器百图》（百，音同“必”，意为“二百”）的图画展示了如下几种不同类型的炸弹：

- (1) 手榴弹，采用引信引爆。
- (2) 炸药弹，供大口径火绳枪使用。
- (3) 地雷
- (4) 沙漏形手榴弹
- (5) 炸药炮弹，又称“盆貌弹”，后者取英文单词“bomb”音译。
- (6) 便携式葡萄弹，将多枚弹子装入布袋或稻草袋中一次性投掷。

右侧展柜中展出了一枚早期手榴弹，即装满了火药和弹片的釉面陶罐。后来又推出了由两个铜制半球组成的手榴弹，半球内装火药和铁屑，外以织物缠绕后上漆。二战后期金属短缺，作为权宜之计，日本军方曾一度重新启用陶制手榴弹。

<繁体字>**炸彈**

火藥是加農炮和火繩槍的推進燃料，但它們也是製作炸彈的原料。這幅出自《武器百圖》（百，音同「必」，意為「二百」）的圖畫展示了如下幾種不同類型的炸彈：

- (1) 手榴彈，採用引信引爆。
- (2) 炸藥彈，供大口徑火繩槍使用。
- (3) 地雷
- (4) 沙漏形手榴彈
- (5) 炸藥炮彈，又稱「盆貌彈」，這是取英文單詞「bomb」音譯。
- (6) 便攜式葡萄彈，將多枚彈子裝入布袋或稻草袋中一次性投擲。

右側展櫃中展出了一枚早期手榴彈，即裝滿了火藥和彈片的釉面陶罐。後來又推出了由兩個銅製半球組成的手榴彈，半球內裝火藥和鐵屑，外以織物纏繞後上漆。二戰後期金屬原料匱乏，日本軍方曾一度重新啟用陶製手榴彈，這是不得已的權宜之計。

<日本語仮訳>

爆弾

火薬はカノン砲や火縄銃を発射するための推進薬であるが、爆弾の材料としても利用された。この図は『武器百圖』の一コマで、数種の爆弾について説明している：

- (1) 信管で発火させる手榴弾
- (2) 大口径火縄銃用の炸薬弾
- (3) 地雷
- (4) 砂時計型手榴弾
- (5) 爆薬砲弾（盆貌弾、英語の「bomb」に由来）
- (6) 複数の小弾を布や藁で編んだ袋に詰め込み、携帯して投擲する葡萄弾

初期の手榴弾（右のケースに展示）は、釉薬のかかった陶器の壺に火薬と榴散弾を詰めたものである。その後、2枚の銅製の半球に火薬と鉄片を詰め、布で包み、漆を塗ったものが作られた。第二次世界大戦末期、金属が不足したため、軍は応急処置として再び陶製の手榴弾を作った。

【タイトル】銃手の道具 1

【想定媒体】看板

<簡体字>

火枪手的用具 1

《武器图》（图，音同“必”，意为“二百”）中如此描绘：

(1) 纸制或竹制的“早合”，用于预先装填定量的火药和一枚火绳枪弹丸，以便战场上快速装填弹药。

(2) 火药盒

(3) 针，用于清洁疏通火绳枪上引火药池和枪膛之间的通气孔。如果通气孔堵塞，引火药就无法点燃枪膛内的主火药，导致枪支哑火。

下方展柜中陈列的是竹制的早合容器。早合使用塞子或纸封封口，方便快速打开。竹早合可重复使用，但也有完全用纸制作的一次性早合。

<繁体字>

火槍手的用具 1

《武器圖》（圖，音同「必」，意為「二百」）中如此描繪：

(1) 紙製或竹製的「早合」，用於事先裝填定量的火藥和一枚火繩槍彈丸，以便戰場上快速裝填彈藥。

(2) 火藥盒

(3) 針，用於清潔疏通火繩槍上引火藥池和槍膛之間的透氣孔。如果透氣孔堵塞，引火藥就無法點燃槍膛內的主火藥，導致槍支啞火。

下方展櫃中陳列的是竹製的早合容器。早合使用塞子或紙封封口，方便快速打開。竹早合可重複使用，但也有完全用紙製作的一次性早合。

<日本語仮訳>

銃手の道具 1

『武器図』のこれらの記述は、次のものについて説明したものである：

(1) 紙製と竹製の早合。計量した火薬と火縄銃の弾をあらかじめセットしておき、素早く装填できるようにしている。

(2) 火薬の容器。

(3) 火縄銃の火皿と主火薬を装填する発射室の間にある通気孔が詰まらないように清掃するための針。この通気孔を塞ぐと、火薬が銃身内の主火薬点火できず、不発につながる。

下の展示ケースには、竹製の早合の薬莢も展示されている。早合は、すぐに開けられるようにストッパーや紙で封をしたもの。竹筒は再利用できるが、紙だけでできた使い捨ての早合もある。

【タイトル】銃手の道具 2

【想定媒体】看板

<簡体字>

火枪手的用具 2

这幅图画同样出自《武器百图》（百，音同“必”，意为“二百”）：

(1) 长条形清理工具，用于在哑火等情况下掏出枪管中的弹丸，或清理枪管中的火药残留。

(2) 推弹杆，用于压实枪管中的弹丸与火药。

(3) 弹药包，用于携带纸制或竹制“早合”，早合内预先填装定量火药和一枚弹丸，以便在战场上快速装弹。这种弹药包的设计是为了避免火枪手的袖子妨碍装填弹药和瞄准射击。

下方展示柜中陈列着步兵携带的其他用具，其中包括一对贴有“松本玉药方”标签的火药箱。每支枪炮队都配有专属人员负责搬运弹丸和火药。这对药箱的侧面配有穿绳索的铁环，可以如背包一样背负。

<繁体字>

火槍手的用具 2

這幅圖畫同樣出自《武器百圖》（百，音同「必」，意為「二百」）：

(1) 長條形清理工具，用於在啞火等情況下掏出槍管中的彈丸，或清理槍管中殘留的火藥。

(2) 推彈杆，用於壓實槍管中的彈丸與火藥。

(3) 彈藥包，用於攜帶紙製或竹製「早合」，早合內事先填裝定量火藥和一枚彈丸，以便在戰場上快速裝彈。這種彈藥包的設計是為了避免火槍手的袖子妨礙裝填彈藥和瞄準射擊。

下方展示櫃中陳列著步兵攜帶的其他用具，其中包括一對貼有「松本玉藥方」標籤的火藥箱。每支槍炮隊都配有負責搬運彈丸和火藥的專屬人員。這對藥箱的側面配有穿繩索的鐵環，可以如背包一樣背負。

<日本語仮訳>

銃手の道具 2

この図は、同じく『武器百圖』からのもの：

(1) 火縄銃の弾を銃身から取り出したり（不発の場合などの際に）、銃身に残った火薬を取り除いたりするための長尺の道具

(2) 銃弾や火薬を押さえるための槊杖

(3) 火薬と火縄銃の弾をあらかじめ計量して紙や竹の筒に入れ、素早く装填できるようにした「早合」を携帯するための装弾胴乱。この胴乱は、火薬の装填や発射の際に、砲手の袖が邪魔にならないようにデザインされている。

下の展示ケースには、「松本玉薬方」と書かれた一对の火薬箱など、歩兵が携行した道具が展示されている。各鉄砲隊には火薬や弾丸を運ぶ人員がいた。箆筒は背中に背負うことができるように、側面にある鉄製の輪に縄を通し、背囊のように背負うことができるように工夫されている。

【タイトル】 月見櫓

【想定媒体】 看板

<簡体字>

月見櫓

月見櫓建于 1633 年至 1634 年松平直政(1601-1666)统治期间。由于这座塔楼修建于和平时期，因此它几乎不具备日本城郭应有的防御要素，其建造初衷是为了接待包括幕府将军在内的贵宾。

与大天守狭窄的小窗迥然不同，月見櫓三面皆是叫“舞良戸”的木板拉门，全部拆下后可将城郭核心区“本丸”与城郭二级区域“二之丸”尽收眼底。从犹如船底的优雅拱形吊顶和朱漆檐廊等元素推测，这座塔楼很可能是为了供客人观赏月上高山的景色而建。

江户时代(1603-1867)初期的 1615 年以后，幕府下令禁止新建或扩建城郭，修缮既存城郭也需要得到幕府的许可。月見櫓之所以能够建成，或许得益于城主松平直政的身份，他是德川幕府首任将军德川家康(1543-1616)之孙。传说这座塔楼原本是为接待德川幕府第三任将军德川家光(1604-1651)而建。当时，德川家光前往相距不远的善光寺参拜，原计划返程时经过松本城。不料道路发生滑坡，将军不得不改道，因此，他一生从未到过松本城。

日本现存建有月見櫓的城郭只有三座，松本城便是其中之一。与天守直接相连的月見櫓，更是唯有此处。松本城月見櫓现已被指定为国宝。

<繁体字>

月見櫓

月見櫓建於 1633 年至 1634 年松平直政（1601-1666）統治期間。由於這座塔樓修建於和平時期，因此它幾乎不具備日本城郭應有的防禦功能，建造月見櫓的最初目的是為了接待包括幕府將軍在內的貴客。

與大天守狹窄的小窗迥然不同，月見櫓三面都是一種名為「舞良戸」的木板拉門，全部拆下後可將城郭核心區「本丸」與城郭二級區域「二之丸」盡收眼底。從猶如船底的優雅拱形吊頂和朱漆簷廊等設計元素推測，這座塔樓很可能是為了供客人觀賞月上高山的景色而建。

江戶時代（1603-1867）初期的 1615 年以後，幕府下令禁止新建或擴建城郭，修繕已有城郭也需要得到幕府的許可。月見櫓之所以能夠建成，或許得益於城主松平直政的身份，他是德川幕府首任將軍德川家康（1543-1616）之孫。傳說這座塔樓原本是為接待德川幕府第三任將軍德川家光（1604-1651）而建。當時，德川家光前往相距不遠的善光寺參拜，

原計劃返程時經過松本城。不料道路發生滑坡，將軍不得不改道，因此，他一生從未到過松本城。

日本現存建有月見櫓的城郭只有三座，松本城便是其中之一。與天守直接相連的月見櫓，更是唯有此處。松本城月見櫓現已被指定為國寶。

<日本語仮訳>

月見櫓

月見櫓は、松平直政（1601-1666）の統治下であった1633年から1634年にかけて建造された。平時の建築であるため、日本の城郭にみられるような防御的な要素はほとんどない。この櫓は、將軍をはじめとする重要な客人をもてなす場所として建てられた。

大天守の狭い窓とは対照的に、月見櫓の3面には「舞良戸」と呼ばれる板でできている引き戸が取り付けられており、この引き戸を取り外すと、城の一番重要な曲輪の本丸と城二番目に重要な曲輪二の丸を一望することができる。また、優雅な舟底のような天井や朱塗りの縁側などから、客を招いて周囲の山々の上に登る月を愛でるための場所として作られたと考えられる。

江戸時代（1603-1867）元和元年（1615年）以降は、城の建設や拡張は禁じられ、修理も幕府の明確な許可がなければならなかった。月見櫓は、直政が初代將軍・徳川家康（1543-1616）の孫であったことから、特別に許されたのかもしれない。三代將軍徳川家光（1604-1651）が善光寺に参詣した帰りに立ち寄る予定だったため、この櫓を建てたと言われている。しかし、家光は土砂崩れのため、別の道を通ったため、結局彼は一度も松本には立ち寄らなかった。

松本城は、現存する月見櫓のある3つの城のうちのひとつである。また、櫓が独立した構造ではなく、唯一、天守に直結しているのも特徴となっている。松本城の月見櫓は国宝に指定されている。

【タイトル】 明治時代（1868-1912）の松本城

【想定媒体】 看板

<簡体字>

明治时代(1868-1912)的松本城

自 1868 年明治维新之后，新政府创建起一支以西式装备及战术武装的现代化军队。木结构要塞被视为落后于时代，许多城郭相继被拆除。

松本城幸运地逃过了厄运，这要归功于当地一位名叫市川量造(1844-1908)的社会活动家。当时，市川量造向县长写信请愿，希望能推迟天守的拆除计划，并在其间举办一场博览会。他的请求最终获得批准，此后，大天守内外共举办了 5 次博览会。再后来本地一家农业协会在城郭最核心的“本丸”开辟了试验田。1900 年，那里又成为了一所中学的体育场。

然而，此时的大天守和其他建筑均已陷入年久失修的困境。中学校长小林有也(1855-1914)深感为后世保住这座城郭的重要性。于是，他在 1901 年创办了“松本城天守保存会”。在这个组织的带领下，修复工作于 1903 年正式启动。项目在日俄战争(1904-1905)期间一度中断，最终于 1913 年完工。令人惊叹的是，80%的修缮经费都来自保存会成员的捐款。

大多数修复工作都是为了防止城郭建筑进一步损坏：扶正倾斜的梁柱，再用金属螺栓加固，替换破碎的屋瓦，还为内外墙都涂上了一层灰泥涂料。但城郭的结构问题直到 20 世纪 50 年代才得到彻底解决，当时，人们将天守完全拆解，修补后再重新搭建复位。

<繁体字>

明治時代（1868-1912）的松本城

自 1868 年明治維新之後，新政府建立了一支以西式裝備及戰術武裝的現代化軍隊。木結構要塞被視為落後的象徵，許多城郭相繼被拆除。

松本城幸運地逃過了厄運，這要歸功於當地一位名叫市川量造（1844-1908）的民運人士。當時，市川量造給縣長寫信請願，希望能延後天守的拆除計畫，並在其間舉辦一場博覽會。他的請求最終獲得批准，此後，大天守內外共舉辦了 5 次博覽會。再後來，城郭最核心的「本丸」被當地一家農業協會開闢為試驗田，1900 年又被改造成一所中學的體育場。

然而，此時的大天守和其他建築均已陷入年久失修的困境。中學校長小林有也（1855-1914）深感為後世保住這座城郭的重要性。於是，他在 1901 年創辦了「松本城天守保存會」。在這個組織的帶領下，修復工作於 1903 年正式啟動。工程在日俄戰爭

(1904-1905) 期間一度中斷，最終於 1913 年完工。令人訝異的是，80%的修繕經費都來自保存會成員的捐款。

大多數修復工作都是為了防止城郭建築進一步損壞：扶正傾斜的樑柱，再用金屬螺栓加固，替換破碎的屋瓦，還為內外牆都塗上了一層灰泥塗料。但城郭的結構問題直到 1950 年代才得到徹底解決，當時，人們將天守完全拆解，修補後再重新搭建復位。

<日本語仮訳>

明治時代（1868-1912）の松本城

1868 年の明治維新後、新政府は西洋式の装備と戦術を中心とした近代的な軍隊を創設する。木造の要塞は時代遅れとされ、多くの城が取り壊された。

松本城は、市川量造（1844-1908）という活動家の尽力もあり、その運命を免れることができた。市川は、松本城の取り壊しを延期し、城内で展覧会を開催することを県知事に願い出た。市川の願いは認められ、大天守を中心に 5 回の博覧会が開かれた。その後、城の一番重要な曲輪の本丸は農業協会によって植物試験場として利用され、1900 年には地元の中学校の運動場となった。

一方、大天守をはじめとする建造物は老朽化が進んでいた。中学校の校長だった小林有也（1855-1914）は、この城を後世に残すことが重要であると考えた。そして、1901 年に「松本城天守保存会」を発足させる。この会を中心に、1903 年に改修工事が開始された。日露戦争（1904-1905）で工事は中斷されたが、1913 年によりやく完成した。驚くべきことに、改修費の 8 割は会員からの寄付でまかなわれた。

修理のほとんどは、城がこれ以上老朽化しないようにするために行われた。ゆがんだ柱をまっすぐに立て、金属製のボルトで補強し、割れた屋根瓦を取り替え、外壁と内壁に漆喰を塗り重ねた。城の構造上の問題は、1950 年代に天守を完全に解体し、補修し、再び組み立てることでようやく解決された。

【タイトル】 松本の宇宙ツツジ

【想定媒体】 看板

<簡体字>

松本の“宇宙杜鹃花”

这丛杜鹃花的种子曾经远赴外太空。1994年7月8日，杜鹃花种子跟随心脏外科医生、首位进入外太空的日本女宇航员向井千秋(1952-)登上了美国宇航局的哥伦比亚号航天飞机。当时，向井千秋被允许带几件家乡的纪念品上飞机，于是她选择了家乡群馬县东南部馆林市的市旗和一株有500年树龄的杜鹃花结出的种子，杜鹃花正是这座城市的市花。

在太空度过两周后，向井千秋带着杜鹃花种子回到了馆林市。花种被分发到几所大学和植物研究所培育、观察。种子们顺利发芽，零重力环境下的经历并未对它们造成影响。1998年，为了纪念那段太空旅行，这些“阅历不凡”的种子和由它们培育出的植株以“宇宙杜鹃花”之名注册商标。

2000年，馆林市举办了一年一度的“全日本鲜花大会”。这是一项全国性的活动，1952年在松本首次举办。当时，松本一位名叫小松勇的小学老师鼓励大家共同种植鲜花，以求改善战后一片萧索的城市景观。在将近50年后，馆林市将这株宇宙杜鹃花赠予松本市，以此纪念这项活动的发源。

<繁体字>

松本的「宇宙杜鹃花」

這叢杜鵑花的種子曾經遠赴外太空。1994年7月8日，花種跟隨心臟外科醫生、首位進入外太空的日本女宇航員向井千秋（1952-）登上了美國宇航局的哥倫比亞號太空船。當時，向井千秋被允許帶幾件家鄉的紀念品上飛船，於是她選擇了家鄉群馬縣東南部館林市的市旗和一株有500年樹齡的杜鵑花結出的種子，杜鵑花正是這座城市的市花。

在太空度過兩星期後，向井千秋帶著杜鵑花種子回到了館林市。花種被分發到幾所大學和植物研究所培育、觀察。種子們順利發芽，零重力環境下的經歷並未對它們造成影響。1998年，為了紀念那段太空旅行，這些「閱歷不凡」的種子和由它們培育出的植株以「宇宙杜鵑花」之名註冊商標。

2000年，館林市舉辦了一年一度的「全日本鮮花大會」。這是一項全國性的活動，1952年在松本首次舉辦。當時，松本一位名叫小松勇的小學老師鼓勵大家共同種植鮮花，使戰後一片蕭瑟的城市景觀獲得改善。在將近50年後，館林市將這株宇宙杜鵑花贈予松本市，以此紀念這項活動的發源。

<日本語仮訳>

松本の宇宙ツツジ

このツツジは、宇宙を旅してきた種から芽を出した。1994年7月8日、日本人女性初の宇宙飛行士となった心臓外科医で宇宙飛行士の向井千秋氏（1952-）が、NASAのスペースシャトル「コロンビア号」に持ち込んだ種である。向井氏は、故郷である群馬県南東部の館林市から記念品を持参することが許されていた。向井氏が選んだのは、市の旗と、市のシンボルがツツジの花であることから選んだ、樹齢500年のツツジの種だった。

2週間の宇宙滞在の後、向井氏はツツジの種とともに館林に戻り、その種を大学や植物研究所などに分けて、植え付けと観察を行った。種は問題なく発芽し、無重力空間滞在の影響も見られなかった。1998年、この種と種から育ったツツジに、宇宙への旅を記念して「宇宙ツツジ」という商標が登録された。

2000年、館林は「全日本花いっぱい大会」を開催。花いっぱい運動は、1952年、松本市の小学校の教師だった小松勇氏が、戦後の荒廃した街に花を植えようと呼びかけたのがきっかけで始まった全国的な運動である。それから50年近く経ち、運動発足を記念して、この「宇宙ツツジ」を松本に寄贈した。

【タイトル】 二頭の馬をめぐる清正の選択

【想定媒体】 看板

<簡体字>

加藤清正的二马之选

这株双子枝垂樱与松本城早期一个有趣的传说有关。那是在 1594 年前后，松本城的核心建筑已经完工，城主石川康长(1554-1642)在这里招待了同为大名（领主）的加藤清正(1562-1611)。加藤清正当时正从江户（今东京）返回他远在西南部的属地熊本城，途经松本。

在加藤清正辞行前，石川康长打算向他赠送一份礼物。他命令马夫牵来两匹名马，让加藤清正从中选择一匹。加藤清正没有选，而是回答：“像您这样眼光卓绝的鉴赏家挑选出来的马，我又如何能再从中做出取舍呢？”就这样，他将两匹马都带走了。

后来听到这个故事的人，无不对这位大名的机智选择赞叹不已。如果加藤清正从中选了一匹，那就意味着没被选中的那一匹稍劣。但如果他选择了稍劣的一匹，人们就会嘲笑他相马没有眼光。而他将两匹马一并带走，既巧妙地避开了两难之境，同时又体现了他考虑问题十分周全得体，哪怕对象只是一匹马。

传说加藤清正起程前，曾将这两匹骏马拴在一棵樱花树下，那正是如今这株双子枝垂樱的前身。

<繁体字>

加藤清正的二馬之選

這株雙子枝垂櫻與松本城早期一個有趣的傳說有關。1594 年前後，松本城的核心建築已經完工，城主石川康長（1554-1642）在這裡招待了當時正從江戶（今東京）返回屬地熊本城而途經松本的大名（領主）加藤清正（1562-1611）。

在加藤清正辭行前，石川康長打算贈送他一件禮物。他命令馬夫牽來兩匹名馬，讓加藤清正從中選擇一匹。加藤清正沒有選，而是回答：「像您這樣眼光卓絕的鑒賞家挑選出來的馬，我又如何能再從中做出取舍呢？」就這樣，他將兩匹馬都帶走了。

後來聽到這個故事的人，無不對這位大名的機智選擇讚歎不已。如果加藤清正從中選了一匹，那就意味著沒被選中的那一匹稍劣。但如果他選擇了稍劣的一匹，人們就會嘲笑他相馬沒有眼光。而他將兩匹馬一併帶走，既巧妙地避開了兩難之境，同時又體現了他考慮問題十分周全得體，從馬的選擇中，見微知著。

傳說加藤清正起程前，曾將這兩匹駿馬拴在一棵櫻花樹下，那正是如今這株雙子枝垂

櫻的前身。

<日本語仮訳>

二頭の馬をめぐる清正の選択

この2本の幹からなる枝垂れ桜には、松本城の初期の頃のある面白い伝説がある。1594年頃、城郭の核となる建物が完成したとき、城主の石川康長（1554-1642）は、同じ大名（領主）の加藤清正（1562-1611）を迎えた。清正は江戸（現在の東京）からはるか南西の熊本の城に戻る途中だった。

滞在を終えた清正に、康長は贈り物をしたいと考えた。彼は厩舎係の者に2頭の名馬を連れてこさせ、清正に好きな馬を選んで欲しいと伝えた。清正は、「あなたほどの目利きが選んだ馬をどうして私が選ぶことができますようや」と答え、2頭とも連れて帰ってしまった。

後にこの話を聞いた人々は、清正の賢い選択に大いに感心したという。もし清正がどちらかの馬を選べば、選ばれなかった馬が劣っていることになる。もし劣っている馬を選べば、馬を見る目がないと揶揄される。清正は2頭とも連れて帰ることでこの問題を巧みに回避し、馬の気持ちまで汲み取る配慮を示したのである。

清正は旅立つ前に、2頭の立派な馬を現在の木の前身の桜の木に繋いだと言われている。

【タイトル】 城の功労者たちの肖像

【想定媒体】 看板

<簡体字>

城郭恩人肖像

此处的两幅青铜浮雕人像，分别是市川量造和小林有也，松本城因这两位松本市民的极力挽救而免于被毁。虽身处明治时代(1868-1912)现代化与西方化的浪潮下，但他们并不认为松本城是无用的封建残余，而是将其视为承载着一段日本历史的无价之宝。

市川量造(1844-1908)

市川量造（左）出生于今松本市下横田的一个富裕家庭。1871年，他受命出任市政官员，并于次年创办了一份地方新闻报刊。1872年10月，市川量造听说松本城所在土地被拍卖、城郭建筑很快就要被拆除，决心努力阻止。他一边发挥旗下报刊的影响力，提升大众对松本城的认知度，一边上书政府，请求在大天守举办展览。市川量造希望借助博览会，赢得大众对保护松本城的赞同和支持。

小林有也(1855-1914)

小林有也（右）出生于今大阪西南部的一个武士家庭。他早年在东京学习物理学，于1885年来到松本，出任长野县县立中学的第一任校长。

进入20世纪后，松本城年久失修情况严重。于是，小林有也行动起来。他于1901年创建“松本城天守保存会”，面向全国发起募捐，最终募集到在当时算一笔巨款的2万日元，成功地将松本城的大规模修复工程提上了日程。

<繁体字>

城郭恩人肖像

此處兩幅青銅浮雕人像，分別是市川量造和小林有也，這兩位松本市民努力保全了松本城免於被毀。雖身處明治時代（1868-1912）現代化與西化風潮下，但他們並不認為松本城是無用的封建時代的象徵，而是將其視為承載著一段日本歷史的無價之寶。

市川量造（1844-1908）

市川量造（左）出生於今松本市下橫田的一個富裕家庭。1871年，他受命出任市政官員，並於次年創辦了一份地方新聞刊物。1872年10月，市川量造聽到松本城所在土地被拍賣、城郭即將被拆除的消息，決心努力阻止。他一邊發揮旗下報刊的影響力，提升民眾

對松本城的認知度，一邊向政府請願，請求在大天守舉辦展覽。市川量造希望借助博覽會，使民眾對於保護松本城有更深入的了解，進而支持保護計畫。

小林有也(1855-1914)

小林有也（右）出生於今大阪西南部的一個武士家庭。他早年在東京學習物理學，於 1885 年來松本，出任長野縣縣立中學的第一任校長。

進入 20 世紀後，松本城年久失修情況嚴重。於是，小林有也採取行動，他在 1901 年創建「松本城天守保存會」，向全國發起募捐，最終募集到在當時算一筆巨款的 2 萬日元，成功地推動了松本城的大規模修復工程。

<日本語仮訳>

城の功労者たちの肖像

松本城を取り壊しの危機から救おうと尽力した 2 人の松本市民、市川量造と小林有也のブロンズ製レリーフ。明治時代（1868-1912）、近代化・西洋化が進む中、彼らは松本城を封建時代の遺物としてではなく、日本の貴重な歴史の一部として捉えたのである。

市川量造(1844-1908)

市川量造（左）は、現在の松本市下横田の名主の家に生まれた。1871 年に町役人に任命され、翌年には地方新聞を創刊した。1872 年 10 月、市川は松本城が競売にかけられ、間もなく取り壊されることを知った。これを防ぐ決心をした彼は、自らの新聞を使って松本城の認知度を高め、大天守で博覽会を開くことを願い出た。この博覽会を通じて、市川は松本城保存のための民衆の支持を集めることができた。

小林有也(1855-1914)

小林有也（右）は、現在の大阪府南西部の武士の家に生まれた。東京で物理学を学んだ後、1885 年、長野県の県立中学校の初代校長として松本に赴任する。

20 世紀に入ると、松本城の荒廃が顕著となり、小林は行動を起こすことになる。1901 年、小林は「松本城天守保存会」を設立し、全国で募金活動を展開した。その結果、当時としては巨額の寄付金 2 万円が集まり、松本城の大規模な修復を実現することができたのである。

【タイトル】小笠原公の牡丹

【想定媒体】看板

<簡体字>

小笠原牡丹

这里的白牡丹比松本城更加古老，可以追溯到大约 500 年前，它们曾是一位 16 世纪武将所珍爱的花卉。

16 世纪下半叶，地处东面山区的“林城”城主小笠原长时(1514-1583)掌控着松本地区。然而，邻国甲斐国（今山梨县；“国”是日本古代行政区划，有别于国家）之主武田信玄(1521-1573)，开始由南向松本发起了进攻。小笠原长时决定放弃城郭北上，但一想到自己心爱的白牡丹要被武田军践踏便心痛不已。

为了保全这些牡丹花，小笠原长时将它们托付给了附近兔川寺的僧人。牡丹花从此一直由寺院信徒久根下家族照料。

如今，小笠原牡丹能重返松本城，一切皆归功于久根下家族。1957 年，该家族将有“城主大人的白牡丹”之称的小笠原牡丹送给了小笠原家族的第 32 代家主小笠原忠统(1919-1996)。小笠原忠统为久根下家族的忠义深深感动，遂将白牡丹送回松本城“本丸”（城郭核心区）内种下，好让市民共同欣赏。2006 年，久根下家族再次捐出了数株牡丹。目前，城内共有 6 株小笠原牡丹。

除了白色的小笠原牡丹之外，人们还在本丸种植了不同品种的粉色和黄色牡丹，花期在每年 5 月。

<繁体字>

小笠原牡丹

這裡的白牡丹可以追溯到大約 500 年前，比松本城更加古老，它們曾是一位 16 世紀武將所珍愛的花卉。

16 世紀下半葉，地處東面山區的「林城」城主小笠原長時（1514-1583）掌控著松本地區。然而，鄰國甲斐國（今山梨縣；「國」是日本古代行政區劃，並非國家）之主武田信玄（1521-1573），開始由南向松本發起了進攻。小笠原長時決定放棄城郭北上，但一想到自己心愛的白牡丹要被武田軍踐踏，他就心痛不已。

為使心愛的牡丹花能在戰火中倖存下來，小笠原長時將它們託付給了附近兔川寺的僧人，從此以後，寺院信徒久根下家便一直照料著牡丹花。

今日，小笠原牡丹能重返松本城，這一切都要歸功於久根下家。1957 年，這個家族將

有「城主大人の白牡丹」之稱の小笠原牡丹贈送給了小笠原家の第 32 代家主小笠原忠統（1919-1996）。小笠原忠統被久根下家の忠義深深感動，遂將白牡丹送回松本城「本丸」（城郭核心区）内種下，讓市民共賞。2006 年，久根下家再次捐出數株牡丹。目前，城内共有 6 株小笠原牡丹。

除了白色的小笠原牡丹之外，人們還在本丸種植了不同品種的粉色和黃色牡丹，在每年 5 月時綻放。

<日本語仮訳>

小笠原公の牡丹

この地に植えられた白牡丹の歴史は、松本城築城より古く、約 500 年前にさかのぼる。この白牡丹は、16 世紀のある武将が愛でた牡丹である。

16 世紀後半、松本地方は東側の山中にある「林城」を拠点とした小笠原長時（1514-1583）の支配下にあった。長時は、南から迫る甲斐国（現在の山梨県、「国」とは古代日本の行政区画、いまの「国家」とは異なる）の雄、武田信玄（1521-1573）による侵攻により、城を捨てて北上することを決意したが、大切にしている白牡丹が信玄の敵に踏み乱らされることを思うと、胸が痛んだ。

長時は牡丹を守ろうと、近くの兎川寺の住職に託した。そのようにして、牡丹は檀家の久根下家によって守り続けられた。

今日、松本城に小笠原公の牡丹があるのは、この久根下家のおかげである。1957 年、同家から小笠原家第 32 代当主・小笠原忠統（1919-1996）に「殿様の白牡丹」と呼ばれる小笠原公の牡丹が贈られた。久根下家の忠義に感動した忠統は、この白牡丹を松本城本丸（城の一番重要な曲輪）に植えて、市民にも見てもらえるようにした。2006 年には、久根下家からさらに数株の牡丹が寄贈され、合計 6 株となった。

白い小笠原公の牡丹のほかにも、ピンクや黄色の牡丹が本丸に植えられている。開花時期は 5 月。

【タイトル】 松本城と城下町

【想定媒体】 看板

<簡体字>

松本城及其城下町

极具近代风格的松本城及其城下町（围绕城郭发展起来的市镇）的建设始于1590年，那一年石川数正(?-1592)受命出任本地领主。当时，此地已经有了一座规模不大的城郭，石川数正执政后，对其开始了系统性地布局和建设，工程包括修筑以天守为中心的“堀”（护城河）和数座“櫓”（箭楼）。石川数正死后，其子石川康长(1554-1642)继任，并于1594年完成了大天守、乾小天守和渡櫓等的建造。

进入16世纪晚期后，武将们对于城郭的选址偏好已经从山顶转向了丘陵或平地。山城固然易于防守，但物资运送却是个难题。而建于平地的城郭就很容易从周边农家、工坊源源不断地获得粮食和武器补给。

如松本城这样建于平地的城郭，缺乏天然屏障，因此常常依靠呈多重同心圆形式分布的护城河提供防卫。数世纪以来，松本城都处在“内堀”、“外堀”和“总堀”这三重护城河的保护之下。内堀环绕“本丸”，将城郭的天守、仓库和城主的居所“本丸御殿”护卫其中。“二之丸”地处内堀和第二重护城河外堀之间，是一片长条状弧形区域，设有“二之丸御殿”和其他行政管理机构。“三之丸”则位于外堀以外。整座城郭被一道长长的土垒围墙环绕，与城外世界完全隔绝。包括最外侧护城河的总堀在内，城郭占地总面积为0.39平方公里。

平民居住在被农田与山野环绕的城下町外围。城下町内各区域之间的往来受到严格管制，护城河上建有窄桥，过桥需经过守卫森严的大门。

<繁体字>

松本城及其城下町

具備近代風格的松本城及其城下町（圍繞城郭發展起來的市鎮）始建於1590年，那一年，石川數正(?-1592)受命出任當地領主。當時這裡已經有了一座規模不大的城郭，石川數正執政後，開始了系統性的布局和建設，工程包括修築以天守為中心的「堀」（護城河）和多座「櫓」（箭樓）。石川數正死後，其子石川康長（1554-1642）繼任，並於1594年完成了大天守、乾小天守和渡櫓的建造。

進入16世紀晚期，武將們的城郭選址偏好已經從山頂轉向了丘陵或平地。山城固然易於防守，但物資運送卻是個難題，而建於平地的城郭就很容易從附近農家、工坊源源不斷的獲得糧食和武器補給。

如松本城這樣建於平地的城郭，缺乏天然屏障，因此常常依靠呈多重同心圓形式分布的護城河提供防衛。幾百年以來，松本城一直受到「內堀」、「外堀」和「總堀」三重護城河的保護。內堀環繞「本丸」，將城郭的天守、倉庫和城主的居所「本丸御殿」護衛其中。「二之丸」地處內堀和第二重護城河外堀之間，是一片長條狀弧形區域，設有「二之丸御殿」和其他行政管理機構。「三之丸」位於外堀以外。整座城郭被一道長長的土壘圍牆環繞，與城外的世界完全隔絕。包括最外側護城河總堀在內，城郭占地總面積為 0.39 平方公里。

平民居住在城下町周邊被農田與山野環繞的區域。城下町內各區域之間的往來受到嚴格管制，護城河上建有窄橋，過橋需經過守衛森嚴的大門。

<日本語仮訳>

松本城と城下町

松本城の近世的な城郭とその城下町（城郭を中心に発達した都市）の建設は、1590 年、石川数正（?-1592）がこの地の領主に任命されたときに始まった。すでにこの地には小規模な城郭が存在していたが、数正は天守を囲む堀と複数の櫓を計画的に築き始めた。数正の死後、息子の石川康長（1554-1642）が 1594 年に大天守、乾小天守、渡櫓などを完成させた。

16 世紀後半になると、武将たちは城を山の上に築くのではなく、丘陵や平地に築くようになった。山城は防御しやすいが、物資の補給が難しい。一方、平地の城は、周囲の農家や工房から食料や武器を調達することができた。

松本城のような平地の城には自然の防壁がないため、同心円状の複数の堀で囲まれることが多かった。松本城には古来、3 重の堀があった。内堀は天守や土蔵、城主が住む本丸御殿などがある本丸を囲んでいた。内堀の外側には二の丸があり、二の丸御殿と別の政務の建物が狭い凹字の曲輪に配置されていた。二の丸は外堀で囲まれており、その外には三の丸がある。敷地は全体が土塁で囲まれていた。一番外側の総堀を含む城地は 0.39 平方キロメートルに及び、城外の町とは隔絶された場所になった。

平民は、農地や田園地帯に囲まれた城下町の外に住んでいた。城下町の区画間の移動は厳しく規制されていた。堀には細い橋が架けられ、通行は護衛付きの門で制限されていた。

【タイトル】 歴史ある松本城

【想定媒体】 看板

<簡体字>

历史悠久的松本城

松本城的乾小天守、渡櫓和高达 29.4 米的大天守都建成于 1594 年。现在，松本城是日本现存第二古老的城郭，其五重六层结构的大天守则是全国最古老的天守建筑，也是现存唯一一座战国时代(1467-1600)末期为应对枪炮战而建黑色天守。日本全国仅五座城郭被指定为国宝，称“国宝五城”，松本城正是其中之一（另四座为犬山城、彦根城、姬路城、松江城），它也是五城中唯一修建在平面上的“平城”。

松本城由三重防御空间构成，从内到外称“本丸”、“二之丸”和“三之丸”。在城郭建造之初，每个“丸”的外侧都环绕着一条护城河和一道高高的土垒，三个区域形成了三道同心环。最终，城郭一直延伸到向南 1.3 公里的女鸟羽川边，占地约 0.39 平方公里。

位于最里侧的本丸是整座城郭的核心区域，大天守和本丸御殿都坐落在这里。本丸御殿既是藩政中枢，也是城主的居所。仓库和其他行政设施位于二之丸内。三之丸则是高阶武士家臣的居住区。

进入 19 世纪后，1868 年明治维新引发的社会和政治变革席卷日本，原本严苛的社会阶层被打破，各地城郭渐渐被视为战乱年代的残余。在接下来的一个半世纪里，松本城的三道土垒被夷平，绝大多数城门关卡被拆除，原有三道护城河中最外侧的“总堀”几乎被彻底填平。

城郭的核心建筑原本也难逃拆毁的命运，多亏了本地居民的努力，才得以屹立至今。1930 年，第二条护城河“外堀”以内以及最外侧护城河“总堀”的部分河段（标记为红色）被指定为国家史迹，从此受到保护。

<繁体字>

歷史悠久的松本城

松本城的乾小天守、渡櫓和高達 29.4 公尺的大天守都建成於 1594 年。現在，松本城是日本現存第二古老的城郭，其五重六層結構的大天守更是全國最古老的天守建築，且是現存唯一一座戰國時代（1467-1600）末期為應對槍炮戰而建的黑色天守。日本全國僅五座城郭被指定為國寶，稱「國寶五城」，松本城正是其中之一（另四座為犬山城、彥根城、姬路城、松江城），它也是五城之中唯一修建在平面上的「平城」。

松本城由三重防禦空間構成，從內到外稱「本丸」、「二之丸」和「三之丸」。在城

郭建造之初，每個「丸」的外側都環繞著一條護城河和一道高高的土壘，三個區域形成了三道同心環。最終，城郭一直延伸到向南 1.3 公里的女鳥羽川邊，占地約 0.39 平方公里。

位於最內側的本丸是整座城郭的核心區域，大天守和本丸御殿都坐落在這裡。本丸御殿既是藩政中樞，也是城主的居所。倉庫和其他行政設施位於二之丸內。三之丸則是高階武士家臣的居住區。

進入 19 世紀後，1868 年明治維新所引發的社會和政治變革席捲日本，各地城郭漸漸被視為戰亂年代的殘餘，原本嚴苛的社會階層也逐漸被打破。在接下來的一個半世紀裡，松本城的三道土壘被夷平，絕大多數城門關卡被拆除，原有三道護城河中最外側的一條「總堀」幾乎被徹底填平。

得益於當地居民的努力，城郭的核心建築逃離了被逃拆毀的命運，屹立至今。1930 年，第二條護城河「外堀」以內以及最外側護城河「總堀」的部分河段（標記為紅色）被指定為國家史跡，從此受到保護。

<日本語仮訳>

歴史ある松本城

松本城の乾小天守、渡櫓、高さ 29.4m の大天守は 1594 年に築かれた。現在、松本城は日本で 2 番目に古い城である。その五重六階の大天守は現存天守の中では日本最古であり、戦国末期（1467-1600）鉄砲戦に備え戦うための城郭として現存する唯一の漆黒の天守でもある。現在、国宝に指定されたお城は 5 つある（国宝 5 城）が、松本城はそのうちの 1 つであり（ほかの 4 つは犬山城、彦根城、姫路城と松江城）、かつ唯一の平城（平地に築かれた城）でもある。

松本城は内側から外側に向けて、「本丸」「二の丸」「三の丸」の 3 つの防御用空間「郭」で構成されている。築城当時はそれぞれの郭を堀と高い土塁で囲み、郭は同心円状に 3 つのセクションに分かれていた。その結果、城は女鳥羽川（南方 1.3km）にまで及び、約 39 万平方メートルの広さを占めていた。

一番奥の本丸には、大天守と城主の住居を兼ねた政務を行う本丸御殿がある。二の丸にはほかの管理棟や蔵、三の丸には上級家臣の屋敷があった。

19 世紀には、1868 年の明治維新を皮切りに、社会的、政治的な大改革が行われた。厳しい階級制度が廃止され、城は戦乱の時代の遺物とみなされるようになった。その後、1 世紀半の間に、城の土塁は削られ、関所のほとんどは取り壊され、3 つの堀のうち一番外側の「総堀」はほぼ完全に埋め立てられた。

城の中核となる建造物も破壊されてしまうところだったが、住民の努力により今も残っている。1930 年、内側から二番目の「外堀」以内と総堀の一部（赤色部分）が国の史跡に指定され、以後、保護されている。

【タイトル】太鼓門

【想定媒体】看板

<簡体字>

太鼓門

松本城由三重防御空间构成，从内到外称“本丸”、“二之丸”和“三之丸”。这座威武的大门是通往二之丸的主要出入口。来犯者就算突破了三之丸的土垒工事，也还得面对外堀（第二道护城河）和太鼓門组成的死亡关口。

太鼓門由两道相对而立的大门组成，两门之间隔着一个全封闭的空间。这种结构被称为“枡形門”（枡，音同“升”），因形似称量米粮的箱形量具“枡”得名。敌人即便突破了外层大门，也还得穿越小广场“枡形”，突破更加高大的内門。而布防在城墙上或門楼内的守军则可以趁此机会，使用弓箭和火绳枪攻击敌人。

“太鼓門”之名源于曾高居北面围墙内侧石基上俯瞰着枡形小广场的太鼓楼。当年，太鼓楼内安放着一面太鼓和一口钟，用于日常报时。据推测，紧急情况下也可示警，还能在嘈杂的战场上配合不同的鼓声，向守军传递指挥信号。

太鼓門的另一大特色在于，它的内門附近有一块巨石，构成了围墙的一部分。巨石叫“玄蕃石”，高 3.6 米，重 22.5 吨。这块巨大的岩石还有一段与松本城第二任城主石川康长（1554-1642，又名石川玄蕃头）有关的故事。相传，当初这块石头从山中拖到城郭里时，石川康长就一路高踞其上。期间，一名工人忍不住抱怨了一句，石川康长立刻跳下大石，砍掉了他的头颅，并将头颅挑在枪尖之上，然后重新登上石顶，高举起长枪，喝令所有人继续搬运石头。

太鼓門修建于 16 世纪的最后几年间，与大天守建成的时间相隔不久。此处城門曾在 1871 年前后被拆毀，但包括玄蕃石在内的原西墙部分墙体保留了下来。1999 年，根据 18 世纪早期留下的一份图样，这部分城牆得以重建。如今石牆的底部便是当初城牆的残留，与周围浅色的新牆明显不同。

红松木桩

这两根粗大的木桩，来自两棵树龄高达 140 年的老红松，树干在 1999 年竣工的太鼓門重建工程中被做成房梁，支撑門楼的屋顶。

旧柱础石

这块石头是最初支撑太鼓門門柱的础石之一。明治时代(1868-1912)初期城門拆除时，侍奉松本最后一任城主的商人——饭森家族领受了两块这样的础石，其中一块被用在了饭

森家的住宅里，这一块则在 1973 年被送归松本市，作为松本城历史的一部分展出。

<繁体字>

太鼓門

松本城由三重防禦空間構成，從內到外稱為「本丸」、「二之丸」和「三之丸」。這座威武的大門是通往二之丸的主要出入口。來犯者就算突破了三之丸的土壘工事，也還得面對外堀（第二道護城河）和太鼓門組成的死亡關口。

太鼓門由兩道相對而立的大門組成，兩門之間隔著一個全封閉的空間。這種結構被稱為「枅形門」（枅，音同「升」），因形似稱量米糧的箱形量具「枅」得名。敵人即便攻破了外層大門，也還得穿越小廣場「枅形」，突破更加高大的內門。而布防在城牆上或門樓內的守軍則可以趁此機會，使用弓箭和火繩槍攻擊敵人。

「太鼓門」之名源於曾高居北面圍牆內側石基上俯瞰著枅形小廣場的太鼓樓。當年，太鼓樓內安放著一面太鼓和一口鐘，用於日常報時。緊急情況下應該也可示警，或在嘈雜的戰場上配合不同的鼓聲，向守軍傳遞指揮信號。

太鼓門的另一大特色在於內門附近一塊構成圍牆一部分的巨石。它叫「玄蕃石」，高 3.6 公尺，重 22.5 噸。這塊巨大的岩石還有一段與松本城第二任城主石川康長（1554-1642，又名石川玄蕃頭）有關的故事。相傳，當初這塊石頭從山中拖到城郭裡時，石川康長就一路坐在石頭上，期間，一名工人忍不住抱怨了一句，石川康長立刻跳下大石，砍掉了工人的頭顱，將其挑在槍尖之上，然後重新登上石頂，高舉起長槍，喝令所有人繼續搬運石頭。

太鼓門修建於 16 世紀的最後幾年間，與大天守建成的時間相隔不久。這處城門曾在 1871 年前後被拆毀，但包括玄蕃石在內的原西牆部分牆體保留了下來。1999 年，根據 18 世紀早期留下的一份圖樣，這部分城牆得以重建。如今下部的石牆便是當初城牆的殘留，與周圍淺色的新牆明顯不同。

紅松木樁

這兩根粗大的木樁來自兩棵樹齡高達 140 年的老紅松，樹幹被用在了 1999 年竣工的太鼓門重建工程中。它們被做成房梁，支撐門樓的屋頂。

舊柱礎石

這塊石頭是最初支撐太鼓門門柱的礎石之一。明治時代（1868-1912）初期城門拆除時，飯森家領受到了兩塊這樣的礎石，他們是為最後一任松本城城主服務的商家。其中一塊被用在了飯森家的住宅裡，這一塊則在 1973 年被送歸松本市，作為松本城歷史的一部分向大眾展示。

<日本語仮訳>

太鼓門

松本城は内側から外側に向けて、「本丸」「二の丸」「三の丸」の 3 つの防御用空間「郭」で構成されている。この威厳のある門は、二の丸に入るための主要な門であった。三の丸を囲む土塁を突破した攻撃者には、外堀（二番目の堀）とこの太鼓門が致命的な障壁となる。

太鼓門は、囲いの両端にある二つの門から成る。これは米の量を計る枳形にちなんで「枳形門」と呼ばれる。外側の門を破った敵は、より大きな内側の門を突破しようとするために枳形内を横切らなければならない。その間、城壁や城門内の部隊は弓や火縄銃で攻撃することができた。

「太鼓門」の名は、かつてこの囲いを見下ろすように北側の壁の内側の石垣台の上にあった太鼓楼に由来する。太鼓楼には太鼓と鐘があり、時を知らせていた。緊急時に警鐘を鳴らすこともでき、戦いの喧噪の中で守備隊に太鼓のパターンを変えて合図を伝えることもできたと考えられている。

この門のもう一つの特徴は、内側の入り口付近の壁の一部を構成している巨大な岩である。これは、松本城二代目城主・石川康長（1554-1642、石川玄蕃頭という名もある）にちなんで名がつけられた高さ 3.6m、重さ 22.5t の巨石「玄蕃石」である。伝説によると、石川康長は、山から城へと引き入れる際に、この巨石の上に乗っていたという。運搬人のひとりが不平を漏らすと、石川は飛び降りて、その男の首を切り落とし、槍の先に突き刺した。石川は再び巨石に登り、その槍を高く掲げてもう一度動き出すよう叫んだとされる。

太鼓門は大天守のすぐ後、16 世紀の最後の数年間に建てられた。1871 年頃に太鼓門は取り壊されたが、西側の石垣の一部（玄蕃石を含む）はそのまま残されている。1999 年に、18 世紀初頭の絵図をもとに再建された。石垣の下部は元の石積みになっており、周りの明るい部分と見分けることができる。

赤松の切り株

これは、1999 年に完成した太鼓門の復元工事で使われた、2 本の樹齢 140 年の赤松の大きな切り株である。門の屋根を頭上で支える横木として使用された。

旧柱礎石

この石は、かつて太鼓門の柱を支えていた礎石の一つである。明治時代（1868-1912）初期に門が取り壊された際に、最後の松本城主に仕えた商人、飯森家に一対が贈られた。飯森家はそのうちの 1 個を自邸で使用していたが、1973 年に城の歴史として展示してもらえるようにと市に返還した。

【タイトル】 想像上の二の丸御殿

【想定媒体】 看板

<簡体字>**想象中的二之丸御殿**

这里是二之丸御殿的旧址。当年，松本城中共有三座兼有政务和居住区域的设施，称“御殿”，二之丸御殿就是其中一处。御殿内有城主的居所、日常办公与谒见议政的房间，与平日里空阔安静的天守不同，御殿是藩政中心。二之丸御殿是松本城中第二大御殿建筑，位于城郭二级区域，共有约 50 个房间，建筑面积约 1980 平方米。

二之丸御殿起初只是位于城郭核心区的本丸御殿的附属设施，在 1727 年本丸御殿焚毁后，成为城中的主御殿。然而，二之丸御殿本身也于 1876 年失火被焚，直至 1979 年，遗址才得以发掘。如今，来访者只能通过地面的石头标记想象此处建筑原本的布局与面貌——草地代表榻榻米房间，红砖则表示走廊或铺设木地板的房间，而建筑南侧设有玄关木阶的地方应该就是当年二之丸御殿的入口。

	中文	日本語
1	玄关	玄関
2	谒见室	広間
3	卫兵武器间	槍の間
4	玄关木阶	式台
5	内玄关	内玄関
6	低阶武士执勤所	徒士番所
7	枪手执勤所	持筒番所
8	木炭储藏室	炭を置く部屋
9	走廊	廊下
10	城主侍从执勤所	小姓番所
11	书院（兼会客功能）	書院
12	前厅	次の間
13	后厅	三の間
14	内廊	入側
15	小厮居所	坊主部屋
16	佣人区	小使番所
17	公共区	雑事

18	提草鞋仆从居所	草履取部屋
19	家具储藏室	家具部屋
20	灶台	かまど
21	厨房	台所
22	配料间	土台所
23	起居室	居間
24	厨房仆从居所	台所役所
25	私人物品储藏室	納戸部屋
26	侍从执勤所	近習番所
27	家居物品储藏室	物置
28	卧室	寢間
29	账房	賄所役所
30	对账所	賄所
31	账房居所	賄所番所
32	侍从居所	近習部屋
33	低阶家臣居所	用人部屋
34	庭园	庭
35	井	井戸
36	警备所	番所
37	金库	金部屋
38	厕所	雪隠
39	味噌储藏室	味噌部屋
40	中阶家臣居所	元鎮部屋
41	高阶家臣居所	年寄部屋

<繁体字>

想像中的二之丸御殿

這裡是二之丸御殿的舊址。當年，松本城中共有三座兼有政務和居住區域的設施，稱「御殿」，二之丸御殿就是其中一處。御殿內有城主的居所、日常辦公與謁見議政的房間，與平日裡空闊安靜的天守不同，御殿是藩政中心。二之丸御殿是松本城中第二大御殿建築，位於城郭二級區域，共有約 50 個房間，建築面積約 1980 平方公尺。

二之丸御殿起初只是位於城郭核心區域的本丸御殿的附屬設施，當 1727 年本丸御殿焚毀後，成為城中的主御殿。然而，二之丸御殿本身也於 1876 年失火被焚，直至 1979 年，遺址才得以發掘。如今，遊客只能透過地面的石頭標記想像這處建築原本的布局與面貌——草地代表榻榻米房間，紅磚則表示走廊或鋪設木地板的房間，而建築南側設有玄關木階

的地方應該就是昔日二之丸御殿的入口。

	中文	日本語
1	玄關	玄関
2	謁見室	広間
3	衛兵武器間	槍の間
4	玄關木階	式台
5	內玄關	内玄関
6	低階武士執勤所	徒士番所
7	槍手執勤所	持筒番所
8	木炭儲藏室	炭を置く部屋
9	走廊	廊下
10	城主侍從執勤所	小姓番所
11	書院（兼會客功能）	書院
12	前廳	次の間
13	後廳	三の間
14	內廊	入側
15	小廝居所	坊主部屋
16	傭人區	小使番所
17	公共區	雑事
18	提草鞋僕從居所	草履取部屋
19	家具儲藏室	家具部屋
20	灶台	かまど
21	廚房	台所
22	配料間	土台所
23	起居室	居間
24	廚房僕從居所	台所役所
25	私人物品儲藏室	納戸部屋
26	侍從執勤所	近習番所
27	家居物品儲藏室	物置
28	臥室	寢間
29	帳房	賄所役所
30	對賬所	賄所
31	帳房居所	賄所番所
32	侍從居所	近習部屋
33	低階家臣居所	用人部屋
34	庭園	庭

35	井	井戸
36	警備所	番所
37	金庫	金部屋
38	廁所	雪隠
39	味噌儲藏室	味噌部屋
40	中階家臣居所	元鎮部屋
41	高階家臣居所	年寄部屋

<日本語仮訳>

想像上の二の丸御殿

城内にあった 3 つの行政・居住施設（御殿）のうちの一つである、二の丸御殿があった場所。平時は人が少ない天守とは対照的に、御殿は活動の中心地であった。御殿には、城主の居住スペースや、政務や謁見のための間があった。城二番目に重要な曲輪に位置する二の丸御殿は、二番目に大きい御殿であった。建坪約 1,980 平方メートルに約 50 の部屋があり、御殿としては 2 番目に大きな建物である。

二の丸御殿はもともと城の一番重要な曲輪に位置する本丸御殿の付属的な建物であった。1727 年に本丸御殿が焼失した後、城の主要な御殿となった。二の丸御殿も 1876 年に焼失し、1979 年に発掘調査が行われた。現在は、石を使って建物の配置を示している。草地はかつての畳敷きの部屋、赤い石畳は縁側や板敷きの部屋を示している。二の丸御殿は、建物の南側にある式台が入口であったと考えられている。

【タイトル】 二の丸御殿土蔵

【想定媒体】 看板

<簡体字>

二之丸御殿仓库

这座白灰泥仓库是松本城最后一任城主户田光则(1828-1892)于1867年修建的。它最初应该是位于城郭二级区域内的“二之丸御殿”的金库，但很难想象这里曾经保存过大量钱财。户田家族于1726年至1869年第二次受命出任松本城城主，在任时间虽是历代城主家族之最，但其财政情况始终高度紧张。这是由于户田家族领地比历任城主都少，再加上位于江户（今东京）的别邸在1717年和1727年两度焚毁，重建时耗费了不少资金，所以家族财务不免捉襟见肘。

此外，户田家族统治期间时运不济，天明大饥荒(1782-1787)和天保大饥荒(1833-1839)导致了米价飙升。户田家族拿出自家的存粮救济百姓，据说，正是由于这一慷慨善举，当时才无一人饿死。

松本藩于1871年被废除后并入筑摩县，二之丸御殿随即成为筑摩县政府所在地，御殿仓库被用于存放文件。1876年，县政府建筑失火焚毁，仓库幸免于难。如今，此处仓库内存放着1979年御殿遗址发掘时出土的文物。

<繁体字>

二之丸御殿倉庫

這座白灰泥倉庫由松本城最後一任城主戶田光則（1828-1892）在1867年修建。它最初應該是位於城郭二級區域內的「二之丸御殿」的金庫，但很難想像這裡曾經保存過大量的錢財。戶田家於1726年至1869年第二次受命出任松本城城主，為歷代城主家族中任期最久，但財政狀況始終吃緊。這是因為他們的領地比歷任城主都少，再加上位於江戶（今東京）的別邸在1717年和1727年兩度焚毀，重建時耗費了巨額資金，導致家族財務狀況雪上加霜。

此外，戶田家統治期間時運不濟，天明大饑荒（1782-1787）和天保大饑荒（1833-1839）導致米價飆升。戶田家拿出自家的存糧救濟百姓，據說，正是由於這一慷慨善舉，當時才無一人餓死。

松本藩於1871年被廢除後併入築摩縣，二之丸御殿隨即成為築摩縣政府所在地，御殿倉庫被用於存放文件。1876年，縣政府建築失火焚毀，倉庫倖免於難。如今，這處倉庫內存放著1979年御殿遺址發掘時出土的文物。

<日本語仮訳>

二の丸御殿土蔵

松本城最後の城主、戸田光則（1828-1892）が 1867 年に建てた白漆喰の土蔵である。城二番目に重要な曲輪に位置する二の丸御殿の宝物庫として建てられたが、大金が保管されていたとは考えにくい。戸田家は松本城主として 2 度目の就任（1726 年から 1869 年にかけて）であり、どの家よりも長く城を支配したが、経済的に大変苦しかった。そして、それまでのどの家よりも領地が狭かった。しかも、戸田家は 1717 年と 1727 年に江戸（現在の東京）の別邸を焼失し、その再建費用で財政が逼迫していた。

戸田家の治世は、厳しい時代であった。天明の大飢饉（1782-1787）、天保の大飢饉（1833-1839）に見舞われ、米価が高騰したのである。戸田家は自ら蔵を開いて救済に努め、この寛大な行為のおかげで一人の餓死者も出さなかったと言われている。

1871 年に松本藩が解体され、筑摩県の一部になると、二の丸御殿は筑摩県庁となった。土蔵は城内に残り、文書の保管に使われた。1876 年に県庁が焼失した際にも蔵は残り、1979 年の発掘調査で出土した資料を保管している。

【タイトル】 国宝 旧開智学校校舍

【想定媒体】 看板

<簡体字>

【国宝】旧开智学校校舍

旧开智学校以校舍建筑闻名，它展现了西方建筑元素与传统日式建材、建筑技术的融合与创新。这种日西合璧的建筑风格被称为“拟洋风”。

这栋两层楼建筑的设计者是出身于松本的木匠大师立石清重(1829-1894)，他接到的任务是建造一座西洋式建筑。然而，和当时绝大多数的日本建筑工匠一样，立石清重并没有修造砖石建筑的經驗。面对这项挑战，立石清重发挥其创造力，建造了一栋拥有西式外表的木结构校舍。比如，他在建筑外墙的下半部使用灰泥涂层模拟出了石墙的效果。1868年明治维新之后，日本摒弃了闭关锁国政策，开始接受西方的科技与文化，拟洋风设计很快流行起来。

旧开智学校原本位于松本市中心的女鸟羽川河畔，1876年至1963年一直是一所小学。1965年，校舍搬迁到现在的位置，改为博物馆，主要展示日本的现代建筑及教育发展史。2019年，旧开智学校校舍成为进入明治时代(1868-1912)以后的第一座、也是唯一一座被指定为国宝的近代学校建筑。

（備考）「唯一」を取るケース

2019年，旧开智学校校舍成为进入明治时代(1868-1912)以后的第一座、也是至今唯一一座被指定为国宝的近代学校建筑。

<繁体字>

【國寶】舊開智學校校舍

舊開智學校以校舍建築聞名，它融合了西方建築元素和傳統日式建材與建築技術，並在此基礎上創新。人們將這種日西合璧的建築風格稱為「擬洋風」。

這棟兩層樓建築的設計者是出身於松本的木匠大師立石清重（1829-1894），他接到的任務是建造一座西洋式建築。然而，和當時絕大多數的日本建築工匠一樣，立石清重並沒有修造磚石建築的經驗。面對這一挑戰，立石清重發揮其創造力，建造了一棟擁有西式外表的木結構校舍。例如，他在建築外牆的下半部使用灰泥塗層模擬出了石牆的效果。1868年明治維新之後，日本摒棄了閉關鎖國政策，開始接受西方的科技與文化，擬洋風設計很快流行起來。

舊開智學校原本位於松本市中心的女鳥羽川河畔，1876 年至 1963 年一直是一所小學。1965 年，校舍搬遷到現在的位置，改為博物館，主要展示日本的現代建築及教育發展史。2019 年，舊開智學校校舍成為進入明治時代（1868-1912）以後的第一座、也是唯一一座被指定為國寶的近代學校建築。

（備考）「唯一」を取るケース

2019 年，舊開智學校校舍成為進入明治時代（1868-1912）以後的第一座、~~也是至今唯一~~一座被指定為國寶的近代學校建築。

<日本語仮訳>

国宝 旧開智学校校舍

旧開智学校校舍は、西洋のデザイン要素を日本の伝統建材と建築技術で再現した建築として知られている。このような建築様式は「擬洋風」と呼ばれる。

松本出身の大工、立石清重（1829-1894）が設計した 2 階建ての建物である。立石は洋風建築を任されたが、当時の日本の建築業の職人の多くがそうであったように、石や煉瓦を使った建築の経験がなかった。そこで立石は、木造校舍を西洋風に見せるための工夫を凝らした。例えば、1 階下部の「石積み」は、実は漆喰でできている。擬洋風とは、1868 年の明治維新以降に日本が鎖国を解き、西洋の思想や技術を取り入れるようになったことで流行したデザインである。

この学校は、もともと松本の中心部の女鳥羽川のほとりにあり、1876 年から 1963 年まで小学校として使用されていた。1965 年に現在の場所に移設され、現在は日本の近代建築と教育史に関する資料館として活用されている。2019 年、旧開智学校校舍は明治時代（1868-1912）以降の近代教育建築物としては初めて、そして唯一の国宝に指定された。

【タイトル】 西総堀の土塁

【想定媒体】 看板

<簡体字>

总堀西段的土垒

这道土垒是松本城最外侧护城河“总堀”沿岸防御工事的一段，如今已被指定为国家史迹。松本城的占地呈梯形状，四面分别朝向东、南、西、北四个方向，这段土垒位于城郭西侧。总堀将城郭与周边的街区、商人住宅区和农田分隔开来，是城郭抵御外敌的第一道防线。

土垒部分高逾 3.5 米，顶上叠加一道高 2.5~2.7 米的白灰泥墙，称为“土塼”。土垒上共设置了 14 座瞭望塔，称“见张櫓”。出入城郭区域只能走四个防卫森严的出击门“马出”和南面的“大手门”。

“土垒”是什么？

所谓“土垒”，就是将泥土夯实筑成的壁垒，是 16 世纪常见的防御工事。松本城的三道护城河边都筑有土垒，以进一步强化防御功能。入侵的敌人首先被护城河的深水阻挡，接着必须爬上又高又陡的土垒，土垒上的土塼沿线还布有枪手和弓箭手严阵以待，任何敌人都必然会暴露在守军的火力之下。

总堀土垒是如何修建的？

在开掘最外围的护城河时，工人们直接将挖出的泥土堆在岸边。随后，土堆被整修成一道下宽上窄的平顶土墙，墙底宽度约为 17.5 米。最终建成的土垒处于周长 1940 米的总堀外围，在当时无疑耗费了大量的人力和时间。

土垒与石垣的优劣对比

和石垣相比，土垒拥有不少优势。首先，土垒可以直接利用开掘护城河时挖出的泥土，但石头需要开采、运输和切割。其次，堆筑土垒对工人基本没有技术要求，但堆筑石垣却少不了经验老道的石工。因此，在需要迅速为大面积区域修筑防御工事时，选择土垒更高效。此外，土垒对弹丸的吸收能力也比石垣强。石头脆硬，受击会崩碎，土垒则更能抵御炮火。

<繁体字>

總堀西段的土壘

這道土壘是松本城最外側護城河「總堀」沿岸防禦工事的一段，如今已被指定為國家史跡。松本城的占地呈梯形狀，四面分別朝向東、南、西、北四個方向，這段土壘位於城郭西側。總堀將城郭與周邊的街區、商人住宅區和農田分隔開來，是城郭抵禦外敵的第一道防線。

土壘部分高逾 3.5 公尺，頂上疊加一道高 2.5~2.7 公尺的白灰泥牆，稱為「土塀」。土壘上共設置了 14 座瞭望塔，稱「見張櫓」。出入城郭區域只能走四個防衛森嚴的出擊門「馬出」和南面的「大手門」。

「土壘」是什麼？

所謂「土壘」，是 16 世紀常見的防禦工事類型，就是以泥土夯實築成的壁壘。松本城的三道護城河邊都築有土壘，以進一步強化防禦功能。入侵的敵人首先被護城河的深水阻擋，接著必須爬上又高又陡的土壘，土壘上的土塀沿線還布有槍手和弓箭手嚴陣以待，這樣一來，任何敵人必在守軍的火力暴露無疑。

總堀土壘是如何修建的？

在開掘最周邊的護城河時，工人們直接將挖出的泥土堆在岸邊。隨後，土堆被整修成一道下寬上窄的平頂土牆，牆底寬度約為 17.5 公尺。最終建成的土壘位處周長 1940 公尺的總堀周邊，在當時無疑耗費了大量的人力和時間。

土壘與石垣的優劣對比

和石垣相比，土壘擁有不少優勢。首先，土壘可以直接利用開掘護城河時挖出的泥土，但石頭需要開採、運輸和切割。其次，堆築土壘對工人基本沒有技術要求，但堆築石垣卻少不了經驗老道的石工。因此，在需要迅速為大面積區域修築防禦工事時，選擇土壘更高效。此外，土壘對彈丸的吸收能力也比石垣強。石頭脆硬，受擊會崩碎，土壘則更能抵禦炮火。

<日本語仮訳>

西総堀の土壘

この土壘は、松本城の総堀（一番外側の堀）に沿った土壘の一部であり、国の史跡に指定されている。城の敷地はほぼ台形で、それぞれの面が四方面しているが、この土壘は西側の一部を形成していた。総堀は城内と城外の町や商家、農家などを分ける役割に加えて、城の第一防御線であった。

土壘の高さは 3.5 メートル以上あり、その上に高さ 2.5~2.7 メートルの漆喰でできている土の塀が築かれている。総堀の土壘上には 14 の見張り櫓が立ち、出入口には 4 つの馬出しと南の大手門があった。

土壘とは？

土壘とは、16 世紀によく使われた土で固めた防御壁のことである。松本城では、城の 3 つの堀に沿

ってこの土塁を築き、防御を強化した。松本城に侵入を試みる敵は、最初に堀の深い水面、次に土塁の切り立った傾斜に直面する。さらに、堀を越えて侵入しようとする敵は、土塁上に配置された土塀から鉄砲隊や弓隊からの砲撃に晒される。

総堀の土塁はどのように築かれたか？

総堀を掘る際、掘った土砂を土手沿いに積み上げた。そして、これを傾斜させて底辺の幅が約 17.5m にもなる平らな土の壁をつくった。この土塁は、全長 1,940m にのぼる総堀に沿って設置され、当時としては大変な時間と労力が必要な工事であった。

土塁と石垣の比較

土塁は、石垣に比べていくつかの利点がある。堀から採取した土はすぐに使えるが、石は採取し、運搬し、形を整えなければならない。石垣は石工の技術が必要だが、土塁は熟練を要することなく作ることができる。このような理由から、土塁は建設が早く、広い範囲を素早く固めるのに適していたのである。また、土は石に比べて弾丸を吸収しやすいという長所もある。石は粉々に砕けるのに対し、土塁は銃弾に耐えることができる。

【タイトル】 土塁の構築

【想定媒体】 看板

<簡体字>**构筑土垒**

松本城的土垒采用版筑法建造，由多层不同的泥土夯实筑成。首先，用木板搭建一个结实的外框架，以备填土时使用。其次，向框架内逐层填入数十层不同质地的泥土，其中有的含沙量较高，有的粘土含量较多，还有的混入了碎石。最后，用力向下夯实泥土，直至所有土层紧密结合，形成一道坚实的壁垒，其强度远远高于使用单一泥土筑成的土墙。

不同土层的颜色也不相同，从横断面便可以看出土垒的构成。在这段土垒的东侧发现了数根框架木桩。

土垒结构图解

这是一幅江户时代(1603-1867)护城河“堀”、土垒和白灰泥围墙“土塀”的横截面构造图。护城河以外（左侧）是围绕城郭发展起来的城下町，平民住宅和商铺都在这个区域。护城河从画面中央穿过，土垒矗立于护城河右岸。土垒底部的水面的木桩，用以阻碍想要翻越它的敌人。

土垒上方还设有一道白色的灰泥墙“土塀”，城郭被攻时可在此集结守军防御。只要把木板架设在土塀内侧的支柱上，就能迅速搭建起一个平台供守城士兵立足，并从土塀上方朝试图渡过护城河的敌人开火。

土塀将土垒的平顶一分为二，内侧留出的通道被称为“武士走”（武士走廊），为防守军队留出了沿围墙布防的空间。墙外侧到护城河之间也有一条狭窄的小道，称“犬走”（犬走廊），因为它的宽度刚好只够一条狗通过。

土垒右侧是城郭内最外围的区域“三之丸”，高阶武士都居住在这一区域。

中文	日本語
总堀（最外侧护城河）	総堀（一番外側の堀）
木桩屏障	杭列
犬走廊	犬走
土垒	土塁
土塀（白灰泥墙）	土塀
武士走廊	武者走
武士宅邸	武家屋敷

木桩屏障

在护城河的水面下，沿着土垒的墙根外围有几排削尖的木桩。大多数木桩的材质为松木或栗木，切面处经火烧防腐处理。研究者认为，这些木桩主要是为了御敌，可能同时兼具稳固土垒地基的作用，防止地基下的泥土滑入护城河中。在山形县的米泽城也发现了同样的木桩构造。

<繁体字>

構築土壘

松本城的土壘採用版築法建造，由多層不同的泥土夯實築成。首先，用木板搭建一個結實的外框架，以備填土時使用。其次，向框架內逐層填入數十層不同質地的泥土，其中有的含沙量較高，有的粘土含量較多，還有的混入了碎石。最後，用力向下夯實泥土，直至所有土層緊密結合，形成一道堅實的壁壘，其強度遠遠高於使用單一泥土築成的土牆。

不同土層的顏色也不相同，從橫斷面便可以看出土壘的構成。在這段土壘的東側發現了幾根框架木樁。

土壘結構圖解

這是一幅江戶時代（1603-1867）護城河「堀」、土壘和白灰泥圍牆「土塀」的橫截面構造圖。護城河從畫面中央穿過，土壘矗立於護城河右岸。護城河以外（左側）是圍繞城郭發展起來的城下町，平民住宅和商鋪都在這個區域。土壘下面的護城河裡打著一排排木樁，可以防範敵人渡河翻越土壘。

土壘上方還加築了一道白色的灰泥牆「土塀」，城郭被攻時守軍集結於此。只要把木板架設在土塀內側的支柱上，就能迅速搭建起一個供守城士兵立足的防禦平台，並從土塀上方朝試圖渡過護城河的敵人開火。

土塀將土壘的平頂一分為二，內側留出的狹窄通道被稱為「武士走」（武士走廊），為防守軍隊留出了沿圍牆布防的空間。牆外側到護城河之間也有一條狹窄的小道，稱「犬走」（犬走廊），因為它的寬度剛好只夠一條狗通過。

土壘右側是城郭內最周邊的區域「三之丸」，高階武士都居住在這一區域。

中文	日本語
總堀（最外側護城河）	総堀（一番外側の堀）
木樁屏障	杭列
犬走廊	犬走
土壘	土壘
土塀（白灰泥牆）	土塀
武士走廊	武者走
武士宅邸	武家屋敷

木樁屏障

在護城河的水面下，沿著土壘的牆根周邊有幾排削尖の木樁。大多數木樁的材質為松木或栗木樹幹，切面處經火燒防腐處理。研究者認為，這些木樁主要是為了禦敵，可能同時兼具穩固土壘地基的作用，防止地基下的泥土滑入護城河中。在山形縣的米澤城也發現了同樣の木樁構造。

<日本語仮訳>

土壘の構築

松本城の土壘は、「版築」と呼ばれる土を何層にも重ねて固める技法でつくられている。まず木の板で頑丈な枠をつくり、その中に土を入れる。次に枠の中に砂や粘土、砂利などさまざまな土を入れて、突き固める作業を数十段にも重ねていくことによって、土だけで固めた壁より遥かに頑強な土壘が出来上がる。

この断面に見える色の付いた地層が、土壘の構成を示している。東側から数本の木製の骨組みの杭が確認されている。

土壘の図

この図は、江戸時代（1603-1867）の堀、土壘、漆喰土塀の断面図である。堀の向こう側（左）は城下町（城郭を中心に発達した都市）で、庶民の住居や商店があった。中央が堀で、右側が土壘。土壘の根元には水中に杭が打ち込まれており、これを乗り越えようとする攻撃者を阻む。

土壘の頂上には、攻撃されたときに守備隊を集めることができる白漆喰の土塀が設けられている。土塀の内側の支柱には木の板を敷いて台とすることができ、この台に立つと、塀の上から堀を越えようとする敵を見下ろす形で攻撃することが可能になる。

また、土塀の内側にある土壘上部の平らな部分は「武者走」と呼ばれ、城壁に沿って守備を固めることができる。塀の外側と堀の間にある土壘下部の狭い部分は、犬一匹が通れるほどの幅があるため「犬走」と呼ばれた。

土壘の右側は城郭内の最も外側の曲輪「三の丸」で、上級の武士が住んでいた。

木製の杭の列

土壘の外側の堀の水面下には、先端が尖った杭が何列にもわたって打ち込まれている。杭の多くは松や栗の丸太を割って作られ、その先は火で焼かれて固められている。この杭は敵を撃退するためのものであると同時に土留めの役割も果たしており、土が崩れないようにするためのものであったと考えられている。同様の杭は、山形県米沢城でも発見されている。

【タイトル】 武家屋敷の礎石

【想定媒体】 看板

<簡体字>

武士宅邸的地基

这里的石板地面上曾经坐落着一户武士宅邸，不同颜色的石板勾勒出宅邸当年的结构布局。左侧的土垒是城郭内最外围区域“三之丸”的外围，三之丸内禁止武士以外的人员居住。这处宅邸紧靠着土垒，可见当年城内土地有多么稀缺。

从1728年松本城的一张老地图可以看出，有两户武士曾经在这段土垒附近安家，他们分别是木村武兵卫和玉川助之丞。两人都是中阶武士，宅邸规模也相当。根据位置和地基结构判断，此处更有可能是木村武兵卫宅邸旧址。

经测量，这座宅邸占地约为东西向25米，南北向31米。住宅正门朝东，整体东西长、南北短，坐北朝南的屋子东侧是一间泥地的厨房。建筑为木梁柱结构，立柱下有础石。

宅邸内有一座人工池塘（蓝色区域），水源是两处泉眼。宅基南部区域出土了一些大瓮，可能曾用于储水。这类器具也常常放在简易厕所里用于收集排泄物，但土样分析显示，这些大瓮没有装过人类粪便。

<繁体字>

武士宅邸的地基

這片石板地面上曾經坐落著一戶武士宅邸，不同顏色的石板勾勒出宅邸當年的結構布局。左側的土壘是城郭內最周邊區域「三之丸」的周邊，三之丸內禁止武士以外的人員居住。這處宅邸緊靠著土壘，可見當年城內土地有多麼稀缺。

從1728年松本城的一張老地圖可以看出，有兩戶武士曾經在這段土壘附近安家，分別是木村武兵衛和玉川助之丞。兩人都是中階武士，宅邸規模也相當。根據位置和地基結構判斷，這裡更有可能是木村武兵衛宅邸舊址。

經測量，這座宅邸占地約為東西向25公尺，南北向31公尺。建築為木樑柱結構，立柱下有礎石。住宅正門朝東，整體東西長、南北短，坐北朝南的屋子東側是一間泥地的廚房。

宅邸內有一座人工池塘（藍色區域），水源是兩處泉眼。宅基南部區域出土了一些大甕，可能曾用於儲水。這類器具也常常放在簡易廁所裡用於收集排泄物，但土壤分析顯示，這些大甕沒有裝過人類糞便。

<日本語仮訳>

武家屋敷の礎石

この色とりどりの石畳は、かつてここにあった武家屋敷の配置を表している。左側の土塁は城郭内の最も外側の曲輪「三の丸」の外縁で、武士しか住むことが許されなかった。この屋敷は土塁に極めて接近して建てられており、城内の空間が希少であったことがうかがえる。

1728年の松本城の下絵図によると、木村武兵衛と玉川助之丞の二人の屋敷がこの土塁の近くにあった。両家とも中級の武士であり、家屋も同程度の大きさであったと思われる。基礎の位置や寸法から判断して、かつてここに立っていたのは木村武兵衛の住居だった可能性が高いと考えられる。

敷地面積は東西約 25m、南北約 31m。正面玄関は東向きで、東西に伸びる南向きの建物の東側は土間になっており、そこには台所があった。建物は礎石の上に木の柱を立てて支えている。

邸内には人工の池（青色部分）があり、2つの泉が湧き出していた。また、住居の南側から発見された大きな甕は、水を貯めるために使われた可能性がある。このような甕はトイレ（簡易便所）でよく使われるものだが、甕から採取した土からは人の糞便を溜めた痕跡は全くなかった。

【タイトル】 明治時代の土塁

【想定媒体】 看板

<簡体字>

明治時代の土塁

通常认为，松本城的土塁与松本城均是石川家族在 16 世纪 90 年代建造的。这些土塁经历了整个江户时代(1603-1867)，直到明治时代(1868-1912)初期的城郭地图上依然有它们的身影。据松本市文献记载，最外侧的护城河“总堀”在 1921 年前后被填平。研究者认为，当时填平河道所用的泥土就来自总堀边上的土塁。这道土塁几乎被彻底夷为平地，现仅存几处如小土丘般的残垣。

现存土塁是如何保留下来的？

部分土塁已经融入了不断发展的当代城市之中。留存至今的土塁都被圈为私有，其所有者在土塁残丘周边围上石头，以防坍塌；其中许多还成了私宅庭园里的人造假山“筑山”。2009 年，市政府在土塁残丘及其周围修建了公园，予以保护这些史迹。

土塁的修复

在动工修复之前，相关团队首先完成了对周边区域的调查，确定了土塁原始的宽度和坡度。明治时代以后，这段土塁已经不复最初的梯形模样，因此，除了调查所得数据，修复团队还参考了江户时代文献里有关土塁的建造标准。

松本市的土塁遗址

除了地处总堀西岸的这一段土塁之外，松本市及周边还保存了如下五段土塁残丘：

1. 松本城本丸庭园

城郭土塁中保存最完好的一段。

2. 总堀东段土塁残壁

现为一处市政所有土地上的假山。

3. 总堀北段土塁残壁

松本市政厅员工停车场南侧的小丘。

4. 舍堀^{*}土塁残壁

现为一处宗教设施内的假山。

5. 舍堀土塁残壁

本地商户的私家庭园景观。

※舍堀：多被视为因中途停工而被“舍弃”的护城河。

<繁体字>

明治時代の土壘

通常認為，松本城的土壘與松本城均是石川家在 1590 年代建造。這些土壘經歷了整個江戶時代（1603-1867），直到明治時代（1868-1912）初期的城郭地圖上依然存在。據松本市文獻記載，最外側的護城河「總堀」在 1921 年前後被填平。研究者認為，當時填平河道所用的泥土就來自總堀邊的土壘。這道土壘幾乎被徹底夷為平地，現僅存幾處如小土丘般的殘垣。

現存土壘是如何保留下來的？

部分土壘已經融入了不斷發展的當代城市之中。留存至今的土壘都被圈為私有，主人們在土壘殘丘周邊圍上石頭，以防坍塌；其中許多還成了私宅庭園裡的人造假山「築山」。2009 年，市政府在土壘殘丘及其周圍修建了公園，予以保護這些史跡。

土壘的修復

在動工修復之前，相關團隊首先完成了對周邊區域的調查，確定了土壘原始的寬度和坡度。明治時代以後，已經看不到這段土壘最初的梯形樣貌，因此，除了調查所得資料，修復團隊還參考了江戶時代文獻裡有關土壘的建造標準。

松本市的土壘遺址

除了地處總堀西岸的這一段土壘之外，松本市及周邊還保存了如下五段土壘殘丘：

1. 松本城本丸庭園

城郭土壘中保存最完好的一段。

2. 總堀東段土壘殘壁

現為一處市政所有土地上的假山。

3. 總堀北段土壘殘壁

松本市政廳員工停車場南側的小丘。

4. 舍堀※土壘殘壁

現為一處宗教場所內的假山。

5. 舍堀土壘殘壁

當地商家的私家庭園景觀。

※舍堀：多被視為因中途停工而被「捨棄」的護城河。

<日本語仮訳>

明治時代の土壘

松本城の土塁は、1590年代に石川家が築城と同時期に築いたものと考えられている。江戸時代（1603-1867）を経て、明治初期の城郭図にも記載されている。市の記録では、この辺りの総堀（一番外側の堀）は1921年頃に埋められたとされており、研究者は土塁の土を使って埋めたと見ている。その結果、土塁はほとんど撤去され、現在は小さな土手として部分的に残っているだけである。

残された土塁はどのように残ったのか？

土塁の一部は、発展する都市の住宅地や町並みに取り込まれた。残存している土塁は私有地の中に取り込まれており、住民は崩れないように石を積み、多くは「築山」となり、私有地の内庭の風景の一部となった。2009年に、こうした残りの土塁を史跡として保存するため、公園として保護することになった。

土塁の復元

この土塁を復元するためには、まず、土塁の幅や勾配を把握するために周辺を調査することから始めた。この土塁は、明治時代以降、台形状の形がほとんど失われてしまった。復元にあたっては、調査資料に加えて、江戸時代の土塁築造の目安を記した文献も参考にした。

松本市の土塁跡

松本市内および周辺には、西側の総堀にあるこの土塁のほか、5つの土塁が残っている。

1. 松本城本丸庭園

城郭の堤防の中で最も保存状態のよい部分。

2. 東総堀の残存土塁

築山として、現在市が保有する造園地内に保存。

3. 北総堀残存土塁

松本市役所職員駐車場のすぐ南にある小高い丘。

4. 捨堀※残存土塁（すてぼり）

宗教法人の敷地内に築山として残されている。

5. 捨堀残存土塁（すてぼり）

商家の庭の一部として保存。

※捨堀：工事途中で「捨ておかれた堀」の意味でとらえられていることが多い。

【タイトル】 旧開智学校校舎の成り立ち

【想定媒体】 看板

<簡体字>

旧开智学校校舍的历史

开智学校于 1873 年正式开课。这所学校的创办无疑受到了 1868 年明治维新的影响，建校 5 年前的这场维新运动给日本的社会、政治乃至教育体系带来了巨大的变革。在经历了约 250 年与西方文化几乎隔绝的时代之后，日本开始接受西方的概念与科技。因此，开智学校的校训和校规也带有浓郁的西方色彩。

最初，开智学校设在一座废寺之内。但是传统的佛寺建筑与开智学校现代化的课程体系总是显得格格不入，于是，人们决定建造一座西洋风格的新校舍。

本地木工大师立石清重(1829-1894)接下了设计新校舍的任务。他几度前往东京、横滨等繁华的大都市，学习最新传入的西式建筑风格。在反复研究揣摩之后，他设计出了这座“旧开智学校校舍”。校舍于 1876 年竣工，当时，政府拨出的教育经费很少，但民众对新学校的建造给予了强有力的支持，将近 70%的建设费用都为大众筹款所得。

拟洋风建筑

旧开智学校校舍以其“拟洋风”样式而闻名。明治时代(1868-1912)早期，日本国内对西式建筑技术的了解十分浅薄，大多数工匠最擅长的还是数百年来占据本国建筑主流的全木构梁柱式建筑。为了造出西式建筑的外观，木工们不得不另辟蹊径，想方设法在熟悉的材料和方法上加以创新。

在旧开智学校校舍的建筑上就可以看到许多这样的创新。例如看似石砌的外墙和砖砌八角塔楼其实均为木头建造，工匠们使用灰泥或油漆在木板表面模拟出了砖石的效果。正面二楼阳台恰到好处地将西方与日式装饰元素融为一体，弓形唐破风屋檐下，两位小天使拉开了写有学校名称的卷轴，阳台下方一条龙守卫着正门入口。

教育之路：从学校到博物馆

开智学校主要提供基础教育，但它同时还设置了中学、女子学校和盲人学校等设施。19 世纪晚期开始教育体系改革时，日本全国的平均入学率只有 30%，但开智学校的同期入学率却高达 60%以上，可见该校的教学质量和本地社会对教育的重视程度之高。

之后的近 90 年里，学校旁的女鸟羽川多次泛滥成灾，不断威胁着校舍建筑的安全，1959 年校舍还因一场台风而受损严重。1961 年，这处历史悠久的学校建筑被指定为国家重要文化财产，此项荣誉坚定了人们搬迁、修复校舍的决心，以期把这份瑰宝留存后世。

1965 年，在学校关闭两年后，校舍建筑被移至现址，并被改造成一家介绍日本近代教育发展史的博物馆重新开放。2019 年，旧开智学校校舍成为进入明治时代以后第一座、也是唯一一座被指定为国宝的近代学校建筑。如今，它与松本城并列为松本市的两大国宝。

<繁体字>

舊開智學校校舍的歷史

開智學校於 1873 年正式開課。這所學校的創辦無疑受到了 1868 年明治維新的影響，建校 5 年前的這場維新運動給日本政治、社會乃至於教育體系帶來了巨大的變革。在經歷了約 250 年與西方文化幾乎隔絕的時代之後，日本開始接受西方的概念與科技。因此，開智學校的校訓和校規也帶有濃郁的西方色彩。

最初，開智學校設在一座廢寺之內。只是傳統的佛寺建築與開智學校現代化的課程體系總是顯得格格不入，於是，人們決定建造一座西洋風格的新校舍。

當地木工大師立石清重（1829-1894）接下了設計新校舍的任務。他幾度前往東京、橫濱等繁華的大都市，學習最新傳入的西式建築風格。在反復研究揣摩之後，他設計出了這座「舊開智學校校舍」。校舍於 1876 年竣工，當時，政府撥出的教育經費很少，但老百姓對新學校的建造給予了強有力的支持，將近 70% 的建設費用都為民間籌款所得。

擬洋風建築

舊開智學校校舍以其「擬洋風」樣式而聞名。明治時代（1868-1912）早期，大多數工匠最為擅長的還是數百年來佔據本國建築主流的全木構樑柱式建築，日本國內有關西式建築技術的知識十分匱乏。為了造出西式建築的外觀，木工們不得不另闢蹊徑，想方設法在熟悉的材料和方法上加以創新。

在舊開智學校校舍的建築上就可以看到許多這樣的創新，例如看似石砌的外牆和磚砌八角塔樓其實均為木頭建造，工匠們使用灰泥或油漆在木板表面模擬出了磚石的效果。正面二樓陽台恰到好處地將西方與日式裝飾元素融為一體，弓形唐破風屋簷下，兩位小天使拉開了寫有學校名稱的卷軸，陽台下方一條龍守衛著正門入口。

教育之路：從學校到博物館

開智學校主要提供基礎教育，同時還設置了中學、女子學校和盲人學校等設施。19 世紀晚期開始教育體系改革時，日本全國的平均入學率只有 30%，但開智學校的同期入學率卻高達 60% 以上，可見該校的教學品質和當地社會對教育的重視程度之高。

之後的近 90 年裡，學校旁的女鳥羽川多次氾濫成災，不斷威脅著校舍建築的安全，1959 年校舍還因一場颱風而受損嚴重。1961 年，這處歷史悠久的學校建築被指定為國家重要文化財產。獲得這項榮譽堅定了人們搬遷、修復校舍的決心，希望能把這樣的建築瑰寶留存後世。1965 年，在學校關閉兩年後，校舍建築被移至現址，並被改造成一家介紹日本近代教育發展史的博物館重新開放。2019 年，舊開智學校校舍成為進入明治時代以後第一

座、也是唯一一座被指定為國寶的近代學校建築。如今，它與松本城並列為松本市的兩大國寶。

<日本語仮訳>

旧開智学校校舎の成り立ち

開智学校の最初の授業は1873年に行われた。同校の創立は、その5年前の明治維新（1868）がもたらしたものである。明治維新では、広範な社会的、政治的な変化をもたらし、それと共に教育制度も変化した。約250年間、西洋文化からほぼ隔離されていた日本は、様々な西洋の概念や技術を取り入れるようになった。開智学校は、その使命と規範にこうした西洋の影響を色濃く反映していたのである。

開智学校の授業はかつての仏教寺院の境内で行われたが、伝統的な寺院建築が開智学校の新しい近代的なカリキュラムにそぐわないと感じられるようになり、洋風建築の校舎を建てようということになった。

地元の棟梁・立石清重（1829-1894）は新校舎の設計を請け負った。彼は東京や横浜など大都市に何度も足を運び、最新の輸入洋風建築を研究した。1876年に完成した旧開智学校校舎は、その見聞をもとに設計されたものである。当時、政府の教育予算は少なかったが、新校舎建設は国民の強い支持を受け、建設費の7割近くを寄付でまかなうことができた。

擬洋風建築

旧開智学校校舎は、擬洋風と呼ばれる独特の建築様式で知られている。明治時代（1868-1912）初期は、西洋の建築技術に関する知識はまだ乏しく、ほとんどの職人が柱と梁で組み合わせて建てる、何百年にわたり主流だった木造建築のことしか知らなかった。したがって、伝統的な木工技術を身につけた大工たちが、その技術を駆使して西洋建築の外観を再現したのである。

旧開智学校校舎では、こうした技術の例を数多く見ることができる。外壁の石組みや八角塔のレンガは、実は木材を漆喰や塗装で石やレンガに似せて作ったものである。また、正面バルコニーには校名の入った巻物を持った2人の天使と、その下で正面玄関を守る龍が描かれ、西洋と日本のモチーフが融合した精巧な装飾が施されている。

教育の歴史：学校から博物館へ

開智学校は初等教育を主な目的としながらも、中学校、女学校、盲学校など、さまざまな施設を併設していた。19世紀末に始まった学制改革では、全国平均の就学率は30%に過ぎなかった。しかし、開智学校の就学率は60%を超えており、教育の質の高さと地域社会の教育に対する価値観が反映されていた。

その後90年近くの年月のなかで、旧開智学校は女鳥羽川の氾濫で被害を受け続けた。1959年の台風による被害もあった。1961年に、歴史的校舎が重要文化財に指定されたことで、後世のために、建物の移転と修復する決断を促した。廃校となった2年後の1965年に、現在の場所で日本の近代教育史を紹介する博物館として再開された。2019年、旧開智学校校舎は明治時代以降の

近代教育建築物としては初めて、そして唯一の国宝に指定された。松本では、松本城と合わせて2つの国宝のうちの1つとなっている。

【タイトル】 国宝 旧開智学校校舍

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

【国宝】旧开智学校校舍

旧开智学校校舍是日本最早的公立小学之一。校舍建造于1876年，其设计风格与建筑特征是典型的“拟洋风”，这种建筑风格在19世纪70年代曾风行一时。2019年，旧开智学校校舍成为日本进入明治时代(1868-1912)以后的第一座、也是唯一一座被指定为国宝的近代学校建筑。

开智学校的创立

1868年的明治维新，在日本掀起了一股社会、政治变革的浪潮，影响波及至日常生活的方方面面，教育也在其中。在经历了大约250年的闭关锁国后，日本政府打开国门，开始广泛引进西方的制度与科技。

1872年，开智学校的前身“筑摩县学”正式开班授课。学校原本坐落在女鸟羽川岸边一座废寺之内，鉴于全国性的教育改革已经开始，县立学校也引入了现代化的课程，寺院建筑便因此开始显得过于陈旧。

设计一座西洋式新校舍的任务被交到了立石清重(1829-1894)手中。这位出生于松本的木工大师曾几度前往东京、横滨等相对国际化的大都市，研究最新传入日本的西式建筑样本。然而，西式建筑虽然已经在这些大都市里出现，本国匠人对于西式建筑却依旧知之甚少。

在这样的状况下，“拟洋风”建筑风格于19世纪晚期应运而生。这是在模仿西式建筑设计的过程中，如立石清重这样的日本传统木工匠人创造出的独特建筑风格，他们的作品将日式技法与西洋元素融为了一体。

旧开智学校校舍被视为开先河之作，明治天皇(1852-1912)于1880年巡视松本时也对开智学校表现出了极大兴趣。此外，校舍照片也曾在新奥尔良(1884年)和芝加哥(1893年)的两届世界博览会上展出。

从学校到博物馆

开智学校开学时共招收1051名学生。松本地方政府大力支持初等教育，这份热情似乎也感染了本地居民。19世纪70年代，日本平均每三个学龄儿童中只有一人入学，而在开智学校，这个比例直逼三分之二。

早在江户时代(1603-1867)，学校主要借助中国的经典文本来传授阅读、书写、算术等基础知识。进入明治时代后，全新的课程设置中除了这些科目以外，同时更注重西方的科学技术教育。开智学校是县内唯一将“英学”（英语文化圈的语言与文化）作为主科教学的学校。

直到 1963 年，开智学校一直提供基础教育。在近 90 年中，女鸟羽川几度泛滥成灾，损毁了校舍建筑。1961 年，学校主楼被指定为国家重要文化财产。3 年后校舍搬迁到了现在的位置，并经历了大规模修复。如今，旧开智学校校舍是一座博物馆，致力于展示日本教育的发展史。馆内展品包括 19 世纪至今的教材和教室装备。

<繁体字>

【國寶】舊開智學校校舍

舊開智學校校舍建造於 1876 年，是日本最早的公立小學之一，其設計風格與建築特徵是典型的「擬洋風」，這種建築風格在 1870 年代左右曾風行一時。2019 年，舊開智學校校舍成為日本進入明治時代（1868-1912）以後的第一座、也是唯一一座被指定為國寶的近代學校建築。

開智學校的創立

1868 年的明治維新，在日本掀起了一股政治、社會變革的浪潮，影響波及日常生活的方方面面，教育也在其中。在經歷了大約 250 年的閉關鎖國後，日本政府開始廣泛引進西方的制度與科技，也打開了國門。

1872 年，開智學校的前身「築摩縣學」正式開班授課。學校原本坐落在女鳥羽川岸邊一座廢寺之內，鑒於全國已經開始教育改革，縣立學校也引入了現代化的課程，寺院建築似乎已經無法適應當時的文化環境。

設計一座西洋式新校舍的任務被交到了立石清重（1829-1894）手中。當時，西式建築雖然已經在這些大都市出現，本國匠人對於西式建築卻依舊知之甚少。因此出生於松本的立石清重數次前往東京、橫濱等更加國際化的大都市，研究最新傳入日本的西式建築。

在此風潮下，「擬洋風」建築風格於 19 世紀晚期應運而生。這是在模仿西式建築設計的過程中，如立石清重這樣的日本傳統木工匠人創造出的獨特建築風格，他們的作品將日式技法與西洋元素融為了一體。

舊開智學校校舍建築被視為開先河之作，明治天皇（1852-1912）於 1880 年巡視松本時也對開智學校表現出了極大興趣。此外，校舍照片也曾在新奧爾良（1884 年）和芝加哥（1893 年）的兩屆世界博覽會上展出。

從學校到博物館

開智學校開校時共招收 1051 名學生。松本地方政府大力支持初等教育，這份熱情似乎也感染了當地居民。1870 年代，日本平均每三個學齡兒童中只有一人入學，而在開智學校，這個比例直逼三分之二。

早在江戶時代（1603-1867），學校主要借助中國的經典文本來傳授閱讀、書寫、算術等基礎知識。進入明治時代後，全新的課程設置中固然也包含了這些科目，同時更注重西方的科學技術教育。開智學校是縣內唯一將「英學」（英語系國家的語言與文化）作為主科教學的學校。

直到 1963 年，開智學校一直提供基礎教育。在近 90 年中，女鳥羽川幾度氾濫成災，損毀了校舍建築。1961 年，學校主樓被指定為國家重要文化財產。3 年後校舍搬遷到了現在的位置，並經歷了大規模修復。如今，舊開智學校校舍是一座博物館，致力於展示日本教育的發展史。館內展品包括 19 世紀至今的教材和教室裝備。

<日本語仮訳>

国宝 旧開智学校校舎

旧開智学校校舎は、日本で最初の公立小学校の一つであった。1876 年に建てられた校舎のデザインや建築の特徴は、1870 年代に流行した擬洋風を代表するものだ。2019 年、旧開智学校校舎は明治時代（1868-1912）以降の近代の教育建築物としては初めて、そして唯一の国宝に指定された。

開智学校の起源

1868 年の明治維新は、社会的・政治的な変化の波をもたらし、教育制度を含む日常生活のあらゆる面に影響を与えた。約 250 年にわたる鎖国を解き、日本政府は西洋からさまざまな制度や技術を導入したのである。

1872 年、開智学校の前身である筑摩県学が初めて授業を行った。この最初の校舎は、女鳥羽川のほとりの旧仏閣の境内にあった。しかし、国の教育改革が始まり、開智学校も近代的なカリキュラムを採用するようになると、寺院建築は古めかしく感じられるようになった。

新しい洋風校舎の設計を任されたのは、松本出身の大工、立石清重（1829-1894）である。彼は、比較的国際化していた東京や横浜などの大都市に何度も足を運び、日本にある最新の西洋建築を研究した。東京や横浜の大都市には洋館が建ち始めていたが、西洋建築のことはほとんど知られていなかったのである。

19 世紀末のこうした状況の中で、伝統的な木工技術を身につけた立石ら大工が、西洋の建築様式を模倣することで生まれたのが「擬洋風建築」である。その結果、和洋折衷の独特な建築物が生まれた。

旧開智学校校舎が建設された当時、その建築様式は最先端のデザインとして注目された。1880 年に松本を訪れた明治天皇（1852-1912）の目に留まり、ニューオリンズ（1884 年）、シカゴ（1893 年）の万国博覧会では、この建物の写真が展示されたという。

学校から博物館へ

開智学校は、1,051名の生徒を集めて開校した。松本の行政が初等教育に熱心であったというが、それは住民も同じであったようである。1870年代の日本では、学校に通う子どもは3人に1人程度だったが、開智学校では3人に2人に近い割合で通っていた。

江戸時代（1603-1867）、学校では中国から伝わった古典を中心に読み、書き、算数を基礎的の学問として教えていたが、明治時代の新しいカリキュラムでは、これらの科目に加え、欧米の科学技術を重視するようになった。また、開智学校は県内で唯一「英学」を主要科目のひとつに掲げていた。

旧開智学校は、1963年まで小学校として使用された。その90年近くの間、女鳥羽川の氾濫で校舎は何度も被害を受けた。1961年には本館が重要文化財に指定された。これにより、1964年に現在地に移築され、建設当時の姿に復元されたのである。現在、旧開智学校は日本の教育史を紹介する博物館として、19世紀から現代までの教科書や教室用具を展示している。

【タイトル】旧開智学校校舍へようこそ

【想定媒体】パンフレット

<簡体字>

欢迎来到旧开智学校校舍

旧开智学校校舍是典型的“拟洋风”建筑，这种建筑风格曾风行于 19 世纪 70 年代。校舍如今作为博物馆对外开放，当年是日本最早的公立小学之一。2019 年，旧开智学校校舍成为进入明治时代(1868-1912)以后的第一座、也是唯一一座被指定为国宝的近代学校建筑。

开智学校的创立

1868 年明治维新之后，日本摒弃了持续近 250 年的闭关锁国政策。作为“文明开化”旗号下现代化运动的一部分，政府开始引进西方的概念与科技。来自西方的影响极大地改变了日本社会的日常生活，短短几年内，国家便制定并通过了宪法，建立了公共教育体系，马车、照相机和洋装随处可见。

就在这种社会变革之中，“筑摩县学”于 1872 年创立，次年改名“开智学校”。学校原本在女鸟羽川岸边一座废寺内授课。然而，本地居民渴望建造一所符合全新现代教学内容的新校舍。

当时，中央政府几乎拨不出新建教育设施的经费，建校资金只能由各地自行筹措。最终，本地居民捐款筹措起了新校舍 70% 的建造费用，另外 30% 则通过售卖从附近废寺里拆下的木材等其他方式筹集而成。

立石清重与拟洋风建筑

开智学校新校舍的设计任务落到了立石清重(1829-1894)肩上。这位出生于松本市的木工大师不仅工匠技艺高超，对于西方建筑的求知欲也十分强烈。

动工之前，立石清重多次前往东京和横滨，研习当时最新建成的西式建筑。如今设在旧开智学校校舍中的博物馆里藏有 200 余册立石清重的笔记，其中记满了他绘制的旅行途中所见建筑的草图、图纸和分析心得。

在 19 世纪 70 年代，开智学校校舍开启了拟洋风建筑先河。打开国门后，来自西方的建筑照片与图稿开始传入日本，但有关实际建筑技术方面的知识依旧匮乏。尽管如此，只接受过传统木工工艺训练的工匠们还是设法活用熟悉的技艺，努力仿造出了西方建筑的外观。

这样建成的建筑是西方元素与日本技法的奇妙结合体，旧开智学校校舍正体现了这种独特风格。校舍正墙看似是砖石所砌，但它其实是使用木头和灰泥涂层建造的。校舍正门上方的装饰也是如此，为一条龙与两位小天使的奇特组合。

继旧开智学校校舍之后，立石清重还督造了本地区多处设施，曾经位于松本城二级区域“二之丸”内的旧松本裁判所就是其中一例。

明治时代的教育

日本的教育制度在19世纪晚期经历了诸多变革。江户时代(1603-1867)的教育是通过儒学等中国古典之作来教导阅读、书写和算术等基础知识。进入明治时代后，新的教育体系转而参考西方国家的课程，除了读、写能力与算数之外，还注重技术与科学的学习。此时的开智学校是县内唯一将“英学”（英语文化圈的语言与文化）设为主科的学校。

开智学校开校时共招收学生1051名。在19世纪70年代，日本全国适龄儿童的平均入学率只有30%左右，而开智学校的这一比例却接近60%。当时的县长永山盛辉(1826-1902)热心教育事业，这份热情似乎也感染了松本的居民。随着学生人数不断扩大，开智学校很快便开始设立分校。各地分校的学生同为“开智学校”的一份子，学习同样的课程，奉行同样的校规与校训。其中，男生部的校训为“爱、正、刚”（热爱、公正、刚毅）。

从学校到博物馆

至1963年，开智学校一直是一所小学。无奈再三泛滥的女鸟羽川不断侵害校舍建筑，终于，人们决定建造一座新的校舍。1961年，老校舍被指定为国家重要文化财产，随后于1964年迁至现址。如今，旧开智学校校舍作为博物馆对公众开放，主要展示日本近现代的教育发展史，展品包括课本和教室用具等。

年表

1872	“筑摩县学”在全久院佛寺遗址上开校授课。与此前本地的私立学校不同，无论社会阶层、地位如何，所有儿童均可入校就读。
1873	“筑摩县学”改名“开智学校”。
1876	由本地木工大师立石清重(1829-1894)设计的全新西洋式校舍建成。
1880	明治天皇(1852-1912)视察开智学校。主教学楼二楼的一间教室被用作天皇御座所（会客室）。
1890	开智学校调整班级设置和课程设计。为缩小教学水平的差距，根据学生的智力水平分班授课。
1891	开智学校图书馆创立。馆藏图书为后来松本市立中央图书馆的建立奠定了基础。
1896	开智学校校舍遭女鸟羽川洪水严重损伤。当时，全日本多处拟洋风建筑的拟洋风设计元素被拆毁。

1906	9月21日，“明治三十七、八年战役纪念馆”在开智学校校园内开馆。这座日俄战争小型纪念馆是今松本市立博物馆的前身。
1921	开智学校文艺刊物《小さい花》（小花）创刊。该刊至1935年才停刊。
1961	旧开智学校校舍被指定为国家重要文化财产。
1964	旧开智学校校舍搬迁，原拟洋风设计元素修复。
2019	旧开智学校校舍被指定为国宝。这是全国首个得到该项指定的进入明治时代以后的近代学校建筑，松本的第二处国宝。

<繁体字>

歡迎來到舊開智學校校舍

舊開智學校校舍是典型的「擬洋風」建築，這種建築風格曾風行於1870年代。當年舊開智學校是日本最早的公立小學之一，現在其校舍則作為博物館對外開放。2019年，舊開智學校校舍成為進入明治時代（1868-1912）以後的第一座、也是唯一一座被指定為國寶的近代學校建築。

開智學校的創立

1868年明治維新之後，日本摒棄了持續近250年的閉關鎖國政策。作為「文明開化」旗號下現代化運動的一部分，政府開始引進西方的概念與科技。短短幾年內，國家便制定並通過了憲法，建立了公共教育體系，來自西方的影響極大地改變了日本社會的日常生活，馬車、照相機和洋裝隨處可見。

就在這種社會變革之中，「築摩縣學」於1872年創立，次年改名「開智學校」。學校原本在女鳥羽川岸邊一座廢寺內授課，然而，當地居民渴望建造一所符合全新現代教學內容的新校舍。

當時，中央政府對於新建教育設施的經費相當拮据，建校資金只能由各地自行籌措。最終，本地居民捐款籌措起了新校舍70%的建造費用，另外30%則通過售賣從附近廢寺裡拆下的木材等其他方式籌集而成。

立石清重與擬洋風建築

開智學校新校舍的設計任務落到了立石清重（1829-1894）肩上。這位出生於松本市的木工大師不僅工匠技藝高超，對於西方建築的求知慾也十分強烈。

動工之前，立石清重多次前往東京和橫濱，研習當時最新建成的西式建築。如今設在舊開智學校校舍中的博物館裡藏有200餘冊立石清重的筆記，其中記滿了他繪製的旅行途中所見建築的草圖、圖紙和分析心得。

在1870年代，開智學校的擬洋風校舍被視為開先河之作。打開國門後，西方的建築照片與圖稿開始傳入日本，儘管實際建築技術知識依舊匱乏，但受過傳統木工工藝訓練的日本工匠們還是設法活用熟悉的技藝，努力仿造西方建築的外觀。

這樣的建築成為西方元素與日本技法的奇妙結合體，而這種獨特的風格也體現在了舊開智學校校舍的建築上。校舍正牆看似磚石結構，但其實是使用木頭和灰泥塗層建造的。同樣，校舍正門上方的裝飾也不同尋常，是一條龍與兩位小天使的組合。

繼舊開智學校校舍之後，立石清重還監造了當地多處設施，曾經位於松本城二級區域「二之丸」內的舊松本裁判所就是其中一例。

明治時代的教育

日本的教育制度在 19 世紀晚期經歷了諸多變革。江戶時代（1603-1867）的教育主要是對儒學和中國其他典籍的學習，涉及閱讀、書寫和算術領域。進入明治時代後，新的教育體系轉而參考西方國家的課程，除了讀、寫能力與算數之外，還注重技術與科學的學習。此時的開智學校是縣內唯一將「英學」（英語系國家的語言與文化）設為主科的學校。

開智學校開校時共招收學生 1051 名。在 1870 年代，日本全國適齡兒童的平均入學率只有 30% 左右，而開智學校這一比例卻接近 60%。當時的縣長永山盛輝（1826-1902）熱心教育事業，他的熱情似乎也感染了松本的居民。隨著學生人數不斷擴大，開智學校很快便開始設立分校。各地分校的學生同為「開智學校」的一份子，學習同樣的課程，奉行同樣的校規與校訓。其中，男生部的校訓為「愛、正、剛」（熱愛、公正、剛毅）。

從學校到博物館

至 1963 年，開智學校一直是一所小學。無奈再三氾濫的女鳥羽川不斷侵害校舍建築，終於，人們決定建造一座新的校舍。1961 年，老校舍被指定為國家重要文化財產，隨後於 1964 年遷至現址。如今，舊開智學校校舍作為博物館對公眾開放，主要展示日本近現代的教育發展史，展品包括課本和教室用具等。

年表

1872	「築摩縣學」在全久院佛寺遺址上開校授課。與此前當地的私立學校不同，無論社會階層、地位如何，所有兒童均可入校就讀。
1873	「築摩縣學」改名「開智學校」。
1876	由當地木工大師立石清重（1829-1894）設計的全新西洋式校舍建成。
1880	明治天皇（1852-1912）視察開智學校。主教學樓二樓的一間教室被用作天皇御座所（會客室）。
1890	開智學校調整班級設置和課程設計。為縮短教學水準的差距，根據學生的智力水準分班授課。
1891	開智學校圖書館創立。館藏圖書為後來松本市立中央圖書館的建立奠定了基礎。
1896	開智學校校舍建築遭女鳥羽川洪水嚴重損傷。當時，全日本多處擬洋風建築的擬洋風設計元素被拆毀。
1906	9 月 21 日，「明治三十七、八年戰役紀念館」在開智學校校園內開館。這座日俄戰爭小型紀念館是今松本市立博物館的前身。

1921	開智學校文藝刊物《小さい花》（小花）創刊。該刊至 1935 年才停刊。
1961	舊開智學校校舍被指定為國家重要文化財產。
1964	舊開智學校校舍搬遷，原擬洋風設計修復。
2019	舊開智學校校舍被指定為國寶。這是全國首個得到該項指定的進入明治時代之後的近代學校建築，松本的第二處國寶。

<日本語仮訳>

旧開智学校校舍へようこそ

旧開智学校校舍は、1870 年代に流行した擬洋風建築で知られている。現在は博物館として公開されているが、もともとは日本で最初の公立小学校の一つであった。2019 年、旧開智学校校舍は、明治時代（1868-1912）以降の近代教育建築物としては初めて、そして唯一の国宝に指定された。

開智学校の成り立ち

1868 年の明治維新を経て、日本は約 250 年続いた鎖国政策を放棄した。「文明開化」をスローガンとする近代化運動の一環として、西洋の概念や技術を導入したのである。憲法が制定され、公教育制度が整い、馬車やカメラ、洋装がわずか数年の間に普及するなど、日常生活が大きく変化した。

こうした社会変革の中で、開智学校は 1872 年に「筑摩県学」として創立され、翌年には「開智学校」と改称された。当初は女鳥羽川のほとりに建てられた旧仏閣の境内で授業が行われていた。しかし、住民たちは新しい近代的なカリキュラムにふさわしい学校の建設を切望していた。

当時、学校建設費は国の予算には含まれていなかったため、新校舎の資金は地元で調達しなければならなかった。7 割は住民の寄付、残りの 3 割は近隣の廃寺の材木を売却して調達するなど、他の方法で調達された。

立石清重（1829-1894）と擬洋風建築

開智学校新校舎の設計は、松本市出身の大工棟梁・立石清重に依頼された。立石は、職人としての腕はもちろんのこと、西洋建築を学ぶことにも熱心であった。

立石は着工前から、幾度と東京や横浜に出向き、最新の洋風建築を研究していた。旧開智学校校舎内の博物館には、立石が旅先で目にしたもののスケッチや設計図、解説を書き込んだ 200 冊以上のノートが保存されている。

開智学校の擬洋風建築は、1870 年代当時、デザインの最先端とされていた。開国により、西洋の建物の写真や図版が日本に入ってくるようになったが、実際の建築方法についての技術的な知識はまだ乏しかった。そこで、伝統的な木工技術しか身に付けていない大工たちは、それらの建築物の外観を模倣することにした。

その結果生まれたのが、この旧開智学校校舎に見られるような和洋折衷の不思議な擬洋風建築である。ファサードは石やレンガをイメージしてデザインされたが、実際は木と漆喰でできている。また、正

面玄関の上部には龍と 2 人の天使という珍しい組み合わせの装飾が施されている。

旧開智学校校舎の完成後、立石は松本城二番目に重要な曲輪である二の丸にあった旧松本裁判所など、多くの市民施設の建設に携わった。

明治時代の教育

19 世紀後半になると、教育制度はさまざまな改革が行われた。江戸時代（1603-1867）の教育は、読み書きや算術が中心であった。こうした基礎は、儒教など中国の古典の学習を通して学ばれたことが多かったが、明治時代（1868-1912）の新制度は、欧米の教育プログラムを参考に、読み書き・算術に加えて技術や科学を重視するようになった。特に開智学校は、県下唯一の「英学」を主要科目に据えた先進的な学校であった。

開智学校は、1,051 名の生徒を集めて開校した。1870 年代の全国就学率は 30%程度であったが、開智学校は 60%に迫る勢いであった。県知事の永山盛輝（1826-1902）は教育熱心な人物であったが、その熱意は松本市民も同じだったようである。開智学校は、生徒数の増加に伴い、やがて分校を設立することになる。しかし、どの教室も同じ「開智学校」であり、カリキュラムも校則も校訓も同じであった。男子部の校訓は「愛正剛」であった。

学校から博物館へ

開智学校は、1963 年まで小学校として運営された。しかし、度重なる女鳥羽川の氾濫で校舎が傷み、新築が決定された。旧校舎は 1961 年に重要文化財に指定され、1964 年に現在の場所に移設された。現在、旧開智学校校舎は日本の教育の近代史を紹介する博物館として、教科書や教室の備品などを展示している。

年表

1872	旧全久院跡に筑摩県学が開校。それまでの藩校や私塾とは異なり、身分に関係なくすべての子どもが通うことができるようになる。
1873	筑摩県学を開智学校と改称。
1876	地元出身の大工棟梁・立石清重（1829-1894）の設計による洋風校舎完成。
1880	明治天皇（1852-1912）、開智学校へ行幸。本館 2 階の教室を天皇御座所に改める。
1890	開智学校の授業の構成、教育カリキュラムを改正。能力が似通った生徒ごとに教えることで教育の格差に取り組む。
1891	開智学校に図書室が設置される。この蔵書は、後に松本市立中央図書館の設立に活用される。
1896	開智学校、女鳥羽川の氾濫で校舎が大きな被害を受けた。この頃、全国多くの擬洋風建築の擬洋風要素が取り払われた。
1906	9 月 21 日に、現在の松本市立博物館の前身である「明治三十七、八年戦役（日露戦争）記念館」を校内に開館。

1921	開智学校、文芸誌『小さい花』を創刊。1935 年まで刊行される。
1961	旧開智学校校舎が重要文化財に指定される。
1964	旧開智学校校舎の移築が完了し、初期の擬洋風建築が復元される。
2019	旧開智学校校舎が国宝に指定される。日本明治時代以降の近代教育施設では初、松本市では 2 件目の国宝指定。

【タイトル】 ガラス

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>**玻璃**

在 19 世纪晚期以前，玻璃是一种昂贵的材料，很少用于建筑中。然而，旧开智学校校舍的主楼和教学楼却使用了大量玻璃，其中包括窗户上的透明玻璃和装饰性的彩绘玻璃片，合计约有 2600 块。这所学校也因此有了“玻璃学校”之称。

八角塔楼和 2 楼讲堂（报告厅）部分窗户都用到了红、蓝、绿、黄四种彩色玻璃。这些玻璃应该都是从欧洲进口的，因为当时日本还没有生产玻璃的技术。

<繁体字>**玻璃**

在 19 世紀晚期以前，玻璃是一種昂貴的材料，很少用於建築中。然而，舊開智學校校舍的主樓和教學樓卻使用了大量玻璃，其中包括窗戶上的透明玻璃和裝飾性的彩繪玻璃片，合計約有 2600 塊。這所學校也因此有了「玻璃學校」的稱號。

八角塔樓和 2 樓講堂（報告廳）部分窗戶都用到了紅、藍、綠、黃四種彩色玻璃。這些玻璃應該都是從歐洲進口的，因為當時日本還沒有生產玻璃的技術。

<日本語仮訳>**ガラス**

19 世紀後半以前、ガラスは高価な材料であり、建築に使われることはほとんど無かった。しかし、旧開智学校本館と教室棟の窓ガラスには、透明なガラスと装飾用の色ガラスを合わせて約 2,600 枚が使用された。そのため、「ギヤマン学校（ガラスの学校）」と呼ばれるようになった。

八角塔や 2 階の講堂の窓の一部には、色ガラスが使われていた。赤、青、緑、黄の 4 色で、当時はまだガラスの製造技術がなかったため、ヨーロッパから輸入されたものと思われる。

【タイトル】丸太柱

【想定媒体】アプリ QR コード

<簡体字>

圓木柱

据说，中央螺旋阶梯上的这根圆木柱原本是佛教寺庙“全久院”的一部分，开智学校的“拟洋风”校舍就建在这座佛寺的旧址上。因为日本传统建筑中很少出现螺旋式的楼梯，所以校舍的建造者对它们并不熟悉，以至于最终每级台阶的宽度都过于狭窄，教师和其他成年人都只能沿着台阶的外侧边缘上下，日积月累之下，阶梯外侧都被磨损了。

全久院是户田家族的家庙，户田家族自 1726 年开始便一直统治着松本藩。1868 年明治维新之后，政府发布数道法令，拆分早已融合数世纪之久的神道教与佛教。在部分地区，佛教甚至被视为必须被消灭的外来之物，并出现了极端的暴力行动，例如寺庙土地被征用；梵钟与佛像被熔铸销毁；寺僧被迫还俗，另觅生路。松本城最后一任城主户田光则(1828-1892)亲自下令废除了全久院，将寺院土地转用于创办小学。

<繁体字>

圓木柱

據說，中央螺旋階梯上的這根圓木柱原本是佛教寺廟「全久院」的一部分，開智學校的「擬洋風」校舍就建在這座佛寺的舊址上。因為日本傳統建築中很少出現螺旋式的樓梯，校舍的建造者對它們並不熟悉，以至於最後每級台階的寬度都過於狹窄，教師和其他成年人都只能沿著台階的外側邊緣上下，日積月累之下，階梯外側都被磨損了。

戶田家自 1726 年以來便一直統治著松本藩，全久院則是戶田家的家廟。1868 年明治維新之後，政府發布數道法令，拆分早已融合數世紀之久的神道教與佛教。在部分地區，佛教甚至被視為必須被消滅的外來之物，並出現了極端的暴力行動，例如寺廟土地被徵用；梵鐘與佛像被熔鑄銷毀；寺僧被迫還俗，另覓生路。松本城最後一任城主戶田光則(1828-1892)親自下令廢除了全久院，將寺院土地轉用於創辦小學。

<日本語仮訳>

丸太柱

螺旋階段の丸太柱は仏教寺院「全久院」にあったと言われている。擬洋風建築の開智学校はこの寺院の跡地に建設された。螺旋階段は伝統的な建築物にはなく、開智学校を建築する職人たちも

馴染みがなかった。そのため一段一段の幅が狭く、先生を含めた大人たちが使えるのは階段の一番外側だけであった。そのため、何十年もの使用にともないその部分が摩耗している。

全久院は、1726年から松本を治めていた戸田家の菩提寺であった。1868年の明治維新を受けて、政府は数々の政令を發布し、それまで何百年にもわたって融合してきた神道と仏教の分離を図った。地域によってはこの動きが過激化し、仏教を外来物とみなして撲滅しようとする動きが起こった。寺の土地は没収され、鐘や仏像は溶かされ、僧侶は他の職業に就くことを余儀なくされた。松本城最後の城主となった戸田光則（1828-1892）は全久院を廃寺とし、その境内を小学校に転用した。

【タイトル】 木彫りの棧唐戸

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

木雕棧唐戸

旧开智学校校舍の格子鑲板木門“棧唐戸”来自相距不远的净林寺。八扇門扉の上部精心透雕着飞龙和翻卷的波浪，其作者是一位名叫原田蒼溪(1835-1907)的雕刻家。校舍正門の門廊裝飾上也有类似图案。

在寺院里时，这些棧唐戸都安装在带有插销的立轴上，可以摆动开合。移到开智学校后，为了配合现代的西式风格，便使用进口的金属铰链和门把手取代了立轴和插销。

棧唐戸上还有一处不那么明显的“西化”调整：由于当时染色在日本并不常见，因此这些門扉都上了一层保护漆，漆色遮住了天然的木纹，而西式设计的特征之一便是这些木纹。为了弥补这一点，工匠在已经上过漆的門扉表面手工描出了一根根木纹。这项工作很耗时间，却体现了工匠们的精湛技艺。

<繁体字>

雕花棧唐戸

舊開智學校校舍の格子鑲板木門「棧唐戸」來自相距不遠的淨林寺。八扇門扉の上部精心透雕著飛龍和翻卷的波浪，這是雕刻家原田蒼溪（1835-1907）的作品，校舍正門的門廊裝飾上也有類似圖案。

在寺院裡時，這些棧唐戸都安裝在帶有插銷的立軸上，可以擺動開合。為了配合現代的西式風格，移到開智學校後，人們使用進口的金屬鉸鏈和門把手取代了立軸和插銷。

棧唐戸上還有一處不那麼明顯的「西化」調整：由於當時染色在日本並不常見，因此這些門扉都上了一層保護漆，漆色遮住了天然的木紋，而後者正是西式設計的特徵。為了彌補這一點，工匠在已經上過漆的門扉表面手工描出了一根根木紋。這項工作很耗時間，卻展現了工匠們的精湛技藝。

<日本語仮訳>

木彫りの棧唐戸

旧開智学校校舍の棧唐戸は、もともと近隣の浄林寺から移築されたものである。8枚の扉の上部には、原田蒼溪（1835-1907）という彫刻家が手がけた龍が舞い上がり、波が打ち寄せるという精

巧な彫り物が施されている。同様のモチーフは、正面玄関ポーチの装飾にも見られる。

当初、これらの戸は柱に固定され、その上に戸を開閉するためのソケットが取り付けられていた開き戸になっていた。開智学校では、この柱とソケットを、輸入された金属製の蝶番とドアノブに交換し、モダンな洋風スタイルにしたのである。

もうひとつ、あまり目立たないが、戸に施された「洋風」を強調する変更が加えられている。当時、日本ではステインを塗ることは一般的ではなかったため、保護のため下地の色が塗られていた。このため、西洋デザインの特徴である木目を隠してしまっていたのだ。これを補うため、下地の上に木目調の模様を丹念に描いて再現したのである。こうした手間のかかる工程に、当時学校を建築した職人たちの熟練した技術力を垣間見ることができる。

【タイトル】 紙天井

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

紙天花板

旧开智学校校舎の室内天花板使用层层疊加的和紙制成。在工匠们的心目中，地道的西式房间应该是白墙白顶，因此，他们试图使用熟悉的材料来实现这种效果。墙面可以刷白灰泥，但白灰泥不能很好地附着在天花板上，因此采用和紙替代。和紙天花板的制作工艺与日式传统房间里用来分隔不同空间的障子门类似，都是在格子木架上糊上多重和紙。

到1964年学校迁址修复之前，多处天花板已经改用灰泥或纖維板，但为了尽可能重现校舍原貌，修复时复原了当时的和紙天花板。

<繁体字>

紙天花板

舊開智學校校舎の室内天花板使用和紙層層疊加製成。工匠們認為典型西式房間應該是白牆白頂，因此，他們試圖用熟悉的材料來盡可能實現這種效果。牆面可以刷白灰泥，但因為灰泥難以牢固地附著在天花板上，因此便糊上和紙。和紙天花板的製作工藝與日式傳統房間裡用來分隔不同空間的障子門類似，同為在格子木架上糊上多重和紙。

到1964年學校遷址修復之前，多處天花板已經改用灰泥或纖維板，但為了盡可能重现校舍原貌，修復時復原了當時的和紙天花板。

<日本語仮訳>

紙天井

旧開智学校校舎の天井は、和紙を何層にも重ねてつくられている。大工たちが思い描いた理想の洋室は、白い壁と白い天井であり、それを身近な建材で実現しようとした。壁には漆喰を使うことができたが、天井は漆喰ではうまく接着できないので、紙を使うことになった。この紙の使い方は、伝統的な家屋で部屋を仕切る障子の格子を紙で何重にも覆うのに似ている。

1964年の移築復元時には、天井の多くが漆喰や纖維板で覆われていた。復元の過程では、天井は当時のままに再現されている。

【タイトル】 正面玄関

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

校舍正門

旧开智学校校舍的正门仅为贵宾开放。学校师生平时都从一条面对操场的走廊的后门出入。走廊墙壁为白色，而天花板中央的灯具上装饰着西洋风格的雕刻，两者形成了鲜明的对比。在旧开智学校校舍的设计者、木工大师立石清重(1829-1894)留下的笔记本里，还能找到这套灯具的设计草图。

明治天皇与现代教育

明治天皇(1852-1912)在 1880 年巡视全国期间曾经到访开智学校。天皇在松本参观了几处象征现代化进程的示范设施，包括松本城内的一间裁判所和周边的一座电信局。

学校一般不会被列为天皇的访问单位，但开智学校在教育实践上的创新吸引了明治天皇的关注。19 世纪 70 年代期间，开智学校是县内唯一将“英学”（英语文化圈的语言和文化）设为主科的学校。在天皇访问之后，开智学校依然持续探索着新教育体制。1890 年，学校实施了一套全新的教学方案，依照学生个人能力分班，为最需要指导与帮助的班级分派最优秀的老师。这套方案因带来了校园霸凌问题而只施行了 4 年，不过，学校并未因此停止摸索提升教育水平的途径。

尽管教室设备足够充足，但为了迎接天皇的到来，学校还是添加了些许新设备，例如将二楼的一间教室用隔板封闭起来，改造为天皇的接见室。为了昭示皇帝的尊贵，还特意把地板抬高，因为当年的会客室通常会按身份来调节客座位置的高低。此外，为了让天皇舒适度过访问时间，学校还增设了一些椅子、金色折叠屏风等物品。

如今，这个房间铺设了与二楼讲堂（报告厅）一样的竹编地席。松本藩在江户时代(1603-1867)以竹编工艺闻名，可惜现在掌握这门工艺的手工业者已是凤毛麟角。

<繁体字>

校舍正門

舊開智學校校舍的正門僅在貴賓來訪時開放。學校師生平時都從一條面對操場的走廊的後門出入。走廊牆壁為白色，而天花板中央的燈具上裝飾著西洋風格的雕刻，兩者形成了鮮明的對比。在舊開智學校校舍的設計者、木工大師立石清重（1829-1894）留下的筆記本裡，還能找到這套燈具的設計草圖。

明治天皇與現代教育

明治天皇（1852-1912）在 1880 年巡視全國期間曾經到訪開智學校。天皇在松本參觀了市內幾處已經在運營中的現代化設施，其中包括松本城內的裁判所和附近的電信局。

天皇一般不太會到學校訪問，但開智學校的創新教育實踐吸引了明治天皇的注意。1870 年代，開智學校是縣內唯一將「英學」（英語系國家的語言和文化）設為主科的學校。在天皇訪問之後，開智學校依然持續探索著新教育體制。1890 年，學校實施了一套全新的教學方案，依照學生個人能力分班，將最優秀的老師分配給最需要輔導的班級。儘管這項措施因為帶來了校園霸凌而只施行了 4 年，但是，學校並未因此停止探索，希望能不斷提高教學水準。

儘管教室設備足夠充實，但為了迎接天皇的到來，學校還是添加了些許新設備。例如將二樓的一間教室用隔板封閉起來，改造為天皇的接見室。因為當年的會客室通常會按身份來調節客座位置的高低，為了昭示皇帝的尊貴，還特意把地板抬高。此外，為讓天皇舒適度過訪校時間，學校還增設了一些椅子、金色折疊屏風等物品。

如今，這個房間鋪設了與二樓講堂（報告廳）一樣的竹編地席。松本藩在江戶時代（1603-1867）以竹編工藝聞名，可惜現在掌握這門工藝的手工業者已是鳳毛麟角。

<日本語仮訳>

正面玄関

旧開智学校校舎の正面玄関は、来賓の方だけが使用できるようになっていた。生徒や教師は、校庭に面した廊下の反対側にある扉から入っていた。廊下の白い壁とは対照的に、天井の中央の照明器具には西洋風の彫刻が施されている。この照明器具のデザインは、旧開智学校校舎を設計した大工の立石清重（1829-1894）の手帳にスケッチとして残されている。

明治天皇と近代教育

明治天皇（1852-1912）は 1880 年の全国行幸の折に開智学校を訪問された。松本では、松本城内にある裁判所や周辺の電信局など、日本の近代化を象徴する施設を視察された。

開智学校は、一見すると異例の訪問先だが、その革新的な教育実践が天皇の目に留まった。1870 年代、開智学校は県内で唯一「英学」を主要科目のひとつと位置づけていた。開智学校は、天皇の行幸後も新しい教育プログラムを試行し続けた。1890 年には、生徒を個人の能力に応じてレベル分けし、最も助けが必要なクラスに最高の教師をつけるという制度を実施した。この制度は 4 年後に生徒間のいじめが原因で廃止されたが、学校は生徒の学習を向上させるための新しい方法を模索し続けた。

開智学校は生徒のための教室は十分にあったが、明治天皇を迎えるにふさわしい施設として、新たな設備が必要であった。2 階の教室を間仕切りで閉め、床を高くて天皇にふさわしい格式にした。当時の応接室は、身分に応じて客席の高さを変えることが多かった。また、椅子や金屏風などの調度品も、天皇が快適に過ごせるように設置された。

床は 2 階の講堂と同じ竹で編んだ筵を敷いている。松本は江戸時代（1603-1867）にこの竹編みで有名になったが、現在ではその職人も少なくなっている。

【タイトル】 八角塔屋

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

八角塔楼

这扇门里的楼梯通往屋顶的八角塔楼。与讲堂（报告厅）中间的窗户一样，塔楼所有窗户的上半部都使用彩色玻璃镶嵌。塔楼上悬挂着一口钟，用于上下课报时。塔楼天花板原本和其他房间一样也是用和纸糊制而成，但不久之后就换成了木板。

这种屋顶塔楼在明治时代(1868-1912)的日本西式建筑中很常见。当时，塔楼被视为西方建筑的代表性特征。在长野县的旧山边学校和旧中込（音同“迂”）学校也能看到类似的塔楼建筑。

<繁体字>

八角塔樓

這扇門裡的樓梯通往屋頂的八角塔樓。與講堂（報告廳）中間的窗戶一樣，塔樓所有窗戶的上半部都使用彩色玻璃鑲嵌。塔樓上懸掛著一口鐘，用於上下課報時。塔樓天花板原本和校舍其他房間一樣也是用和紙糊製而成，但不久之後就換成了木板。

這種屋頂塔樓在明治時代（1868-1912）的日本西式建築中很常見。當時，塔樓被視為西方建築的代表性特徵。在長野縣的舊山邊學校和舊中込（音同「迂」）學校也能看到類似的塔樓建築。

<日本語仮訳>

八角塔屋

扉の奥の階段は、旧開智学校校舎の屋上にある八角形の塔に通じている。塔の窓の上部には、講堂の中央にある窓と同じように色ガラスがはめ込まれている。この塔に吊るされた鐘は、授業の開始と終了を知らせるために鳴らされたものである。塔の天井は、当初は他の部分の天井と同じように紙で作られていたが、すぐに木製の板張りに変更された。

このような屋上塔屋は、明治初期に建てられた洋館によく見られたものである。当時、建築家は塔を西洋建築の象徴とみなしていた。長野県にある旧山边学校と旧中込学校の建物にも、同じような塔が見られる。

【タイトル】 旧開智学校校舎の擬洋風建築

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

旧开智学校校舎の拟洋风建筑

旧开智学校校舎是日本最著名的“拟洋风”建筑之一，这种建筑风格曾风行于19世纪70年代。这是一座左右不对称的两层楼建筑，主体为木结构，但拥有砖石建筑的外观。日本的木工匠人利用传统的日本木构建筑法模拟出西方建筑之美，最终打造出了东西方设计元素完美交融的独特建筑作品。

这栋建筑的正墙上有许多拟洋风的元素。一楼外墙下半部及转角的砖石部分（屋角石）平整得不同寻常，其实这些“砖”和“石”都是用木料、灰泥和涂料做成的。同样的技术还用在了正门破风和屋顶八角塔楼的仿砖雕装饰上。使用一种建筑材料模拟另一种材料效果的手法，正是拟洋风建筑的重要特征。

阳台式破风

旧开智学校校舎最醒目之处，就是正门入口上方将弓形的唐破风屋檐与阳台融为一体的结构。它纵跨校舎的上下两层，装饰图案更是彰显了拟洋风建筑中日本和西方元素的融合的特点。

介绍一下这处阳台式破风的部分拟洋风特征。

阳台下方饰有波浪与龙的浮雕。相传，这条龙雕来自相距不远的佛寺净林寺。这种龙腾于海的图案显然源自东方，看上去很像是重现了中国“鱼跃龙门”的传说。浮雕中凶悍的龙与正门两侧金属灯具精致、纤秀的线条形成了鲜明的对比。

阳台上方的装饰则是典型的西方图案：一对快乐的小天使拉开了一幅写有学校名字的卷轴。此处设计有可能参考了日本大报社《东京日日新闻》（《每日新闻》的前身）的标志，这份报纸在松本也拥有庞大的读者群体。小天使位于正门弓形唐破风屋檐下方，唐破风常见于佛寺和神社，而它出现在这里，更是凸显了拟洋风建筑不拘一格的特征。

阳台上乍看有一道出入的门户，但实际上，那只是讲堂（报告厅）的一扇窗户。半圆形的气窗部分使用进口彩色玻璃片镶嵌，在19世纪70年代，彩色玻璃还是很珍稀的建筑材料。窗户上类似熟铁窗栏的精致装饰是这座建筑的设计者、本地木工大师立石清重(1829-1894)的标志，而这惟妙惟肖的“铁”护栏其实也是用灰泥制成的。

说来或许令人吃惊，这处阳台式破风在过去相当一段时间里并不是如今模样。19世纪90年代晚期，附近的女鸟羽川洪水泛滥，校舎严重受损，建筑原本的拟洋风设计元素几乎损毁殆尽。龙、天使、唐破风和各处精致的灰泥装饰尽皆不存，屋顶上只代之以一个不起

眼的三角形破风。直到 1964 年，旧开智学校校舍搬迁并被修复，此处阳台式破风结构才得以重现最初的面貌。

八角塔楼

在阳台式破风正上方，一座八角形塔楼矗立于屋顶正中。19 世纪晚期的日本木匠们将屋顶塔楼视为标准西方建筑的重要特征之一。旧开智学校校舍建于 1876 年，当时，除了松本城外，这座拥有塔楼、风向标和避雷针的校舍应该是本地最高的楼房。在四周一片低矮的建筑群中，开智学校脱颖而出，成为了现代化与进步的象征。

<繁体字>

舊開智學校校舍的擬洋風建築

舊開智學校校舍是日本最著名的「擬洋風」建築之一，這種建築風格曾風行於 1870 年代。這是一座左右不對稱的兩層樓建築，主體為木結構，但擁有磚石建築的外觀。日本的木工匠人利用傳統的日本木構建築法模擬出西方建築之美，最終打造出了完美融匯了東、西方設計元素的獨特建築作品。

這棟建築的正牆上有許多擬洋風的元素。一樓外牆下半部及轉角的磚石部分（屋角石）平整得不同尋常，其實這些「磚」和「石」都是用木料、灰泥和塗料做成的。同樣的技術還用在了正門破風和屋頂八角塔樓的仿磚雕裝飾上。使用一種建築材料模擬另一種材料效果的技法，正是擬洋風建築的重要特徵。

陽台式破風

舊開智學校校舍最醒目之處，就是正門入口上方將弓形的唐破風屋簷與陽台融為一體的結構，它縱跨校舍的上下兩層，裝飾圖案更是展顯了擬洋風建築中日本和西方元素的融合的特點。

介紹一下這處陽台式破風的部分擬洋風特徵。

陽台下方飾有波浪與龍的浮雕，相傳，這條龍雕來自相距不遠的佛寺淨林寺。這種龍騰於海的圖案顯然源自東方，看上去很像是中國「魚躍龍門」傳說的復刻。浮雕中兇悍的龍與正門兩側金屬燈具精緻、纖秀的線條形成了鮮明的對比。

陽台上方的裝飾則是典型的西方圖案：一對快樂的小天使拉開了一幅寫有學校名字的卷軸，這個設計有可能參考了日本大報社《東京日日新聞》（《每日新聞》的前身）的標誌，這份報紙在松本擁有龐大的讀者群體。小天使位於正門弓形唐破風屋簷下方，唐破風常見於佛寺和神社，而它出現在這裡，更是凸顯了擬洋風建築不拘一格的特徵。

陽台上乍看有一道出入的門戶，但實際上，那只是講堂（報告廳）的一扇窗戶。半圓形的氣窗部分使用進口彩色玻璃片鑲嵌，在 1870 年代，彩色玻璃還是很珍稀的建築材料。窗戶上類似熟鐵窗欄的精緻裝飾，是這座建築的設計者、當地木工大師立石清重（1829-1894）的標誌，而這惟妙惟肖的「鐵」護欄其實也是用灰泥製成。

現在可能很難想像，這陽台式破風在過去相當一段時間裡並不是如今模樣。1890 年代末，附近的女鳥羽川洪水氾濫，校舍嚴重受損，建築原本的擬洋風設計項目幾乎損毀殆盡。龍、天使、唐破風和各處精緻的灰泥裝飾不復存在，屋頂只代之以一個不起眼的三角形破風。直到 1964 年，舊開智學校校舍搬遷並進行修復，這處陽台式破風結構才得以重現最初的面貌。

八角塔樓

在陽台式破風正上方，有一座八角形塔樓矗立在屋頂正中。19 世紀晚期的日本木匠們將屋頂塔樓視為標準西方建築的重要特徵之一。舊開智學校校舍建於 1876 年，當時，除了松本城外，四周皆是低矮的建築群，這座擁有塔樓、風向標和避雷針的校舍應該是當地最高的樓房，它也因此脫穎而出，成為了代表著現代化與進步的地標。

<日本語仮訳>

旧開智学校校舎の擬洋風建築

旧開智学校校舎は、1870 年代に流行した擬洋風建築の代表的な例である。左右非対称の 2 階建てで、木造建築でありながら石造やレンガ造りを意識したデザインになっている。これは、西洋の建築物の美しさを木工技術で模倣しようとした日本の大工が編み出した融合様式である。その結果、東洋と西洋の要素が融合した独特の建築物が生まれた。

旧開智学校校舎のファサードには、この擬洋風の要素が多く見受けられる。1 階下部や建物の角にある石積みの部分（「コイニング」と呼ばれる）は、妙に平らだ。実は、この「石」や「レンガ」は、木と石膏と塗料で作られたもの。また、正面の破風や八角塔屋にも同様の手法が用いられている。このように、ある素材を別の素材で表現しているのが擬洋風建築の特徴である。

バルコニー付きの破風部分

正面玄関の上に設けられた丸みを帯びた「唐破風」屋根付きのバルコニーは、旧開智学校校舎の際立った特徴である。そのモチーフは擬洋風建築によく見られる和洋折衷のもので、1 階と 2 階を跨っている。

バルコニーの破風部分の擬洋風特徴の一部を紹介しよう。

下層部には波と龍の彫刻が施されている。龍の彫刻は、近くの仏教寺院である浄林寺から持ってきたものと思われる。龍の周囲を波が取り囲むというモチーフは、明らかに東洋的なものである。中国の「魚躍龍門」（龍門伝説）を想起させる。この龍の彫刻の猛々しさは、エントランスの両脇に配置された金属製の照明器具の繊細な曲線のラインと対照的なものとなっている。

バルコニー上段には、校名を記した旗を手にした元気なケルビム（天使）が描かれ、西洋的なモチーフがより鮮明に表現されている。このデザインは、松本で多くの読者を得ていた大手新聞社「東京日日新聞」（「毎日新聞」の前身）のロゴマークを参考にしたものと思われる。ケルビムは唐破風のアーチの中に配置されている。このような唐破風は寺社仏閣に多く見られるもので、自由な組み合わせが可能な擬洋風建築の特徴をよく表している。

バルコニーに出るための扉があるように見えるが、実はこの開口部も講堂の窓である。この半円の間窓は、1870年代には珍しい建築材料であった輸入色ガラス片で作られている。窓を囲む鉄柵のような精巧な模様は、この建物を設計した地元の名工・立石清重（1829-1894）のトレードマークである。この「鉄」は、漆喰で丹念につくられたものだ。

意外なことに、この校舎の歴史の大半において、このフロント部分は異なった表情であった。1890年代後半、女鳥羽川の氾濫で大きな被害を受けたため、校舎の象徴であった擬洋風のデザインはほとんど取り払われた。龍、ケルビム、唐破風、漆喰の複雑なデザインはすべて、屋根の上にある控えめな三角形の屋根破風にとって代わられた。1964年に旧開智学校校舎が移築された際、このフロント部分は元の姿に戻された。

八角形の塔

正面上部の破風屋根には、八角形の塔がある。19世紀後半、大工たちは屋上塔を洋風建築の象徴のひとつと考えた。1876年の竣工当時、塔に風見鶏と避雷針を備えた旧開智学校は、松本城と並んでこの地域で最も高い建物の一つであったと思われる。周囲の低層建築の中で、近代化と先進性の象徴としてひととき異彩を放っていた。

【タイトル】 乾小天守

【想定媒体】 看板

<簡体字>

乾小天守

乾小天守矗立于天守台之上，高约 13.9 米，是一座外观三层、内四层的木结构建筑。这座塔楼位于大天守的正北方，但日文名字却取了表示“西北”的“乾”字，这或许是因为“北”字往往与“败北”有关，为避忌讳，才如此取名。

乾小天守与大天守之间由多层式的檐廊“渡櫓”连接。这三处建筑均建于 1594 年，当时石川家族统治着松本。城郭的整体布局考虑到了战略之利：松本城的入口建在渡櫓的地下一层，而渡櫓夹在大天守和乾小天守之间，如果来敌想要突破入口，必定会暴露在三方火力夹攻之下。

与同期建成的大天守相比，乾小天守也有它自己的特点。大天守是方形支柱，而乾小天守大多数都是圆形支柱。其中理由无从得知，但诸说纷纭。例如乾小天守直接使用了从附近寺院挪来的现成木柱；工匠急于完工，来不及将这些木柱修整成方形；乾小天守和大天守的建筑团队本就不是同一支等等。另外，乾小天守的木柱还有一大特点，它仅用锛子简单切削而成，表面呈现出类似鱼鳞的独特纹路。

<繁体字>

乾小天守

乾小天守矗立於天守台之上，高約 13.9 公尺，是一座外觀三層、內四層的木結構建築。這座塔樓位於大天守的正北方，但日文名字卻取了表示「西北」的「乾」字。這可能是因為「北」字往往與「敗北」有關，為避忌諱，才如此取名。

乾小天守與大天守之間有多層式的簷廊「渡櫓」連接。這三處建築都建於 1594 年，當時石川家統治著松本。城郭的整體布局考慮到了戰略之利：松本城的入口建在渡櫓的地下一層，而渡櫓夾在大天守和乾小天守之間，如果來敵想要突破入口，必會遭受來自三方的火力攻擊。

與同期建成的大天守相比，乾小天守也有它自己的特點。大天守是方形支柱，而乾小天守大多數都是圓形支柱。其中理由無從得知，但諸說紛紜。比如乾小天守直接使用了從附近寺院挪來的現成木柱；工匠急於完工，來不及將這些木柱修整成方形；乾小天守和大天守的建築團隊本就不是同一支等等。乾小天守的木柱還有一大特點，它僅用鑿子簡單切削而成，表面呈現出類似魚鱗的獨特紋路。

<日本語仮訳>

乾小天守

乾小天守は、天守台の上端から約 13.9m の高さに建つ外観 3 層、内 4 階の木造建築である。「乾」とは「北西」を意味するが、この建物は大天守の真北に位置する。「北」という字には「負ける」「退く」という意味もあり、それを避けるためにあえてこのように名付けたのかもしれない。

乾小天守は大天守と多層式の渡櫓でつながっている。これら 3 つの建築物は、松本が石川家によって統治されていた 1594 年に完成した。松本城の入口は、大天守と乾小天守の間にある渡櫓の地下 1 階部分にあり、この配置は戦略的に有利である。大天守と乾小天守の間に位置するため、侵入しようとする敵は三方から火縄銃で攻撃されることになる。

大天守と同時期に建てられた乾小天守だが、特徴的な点がある。大天守の柱が四角いのに対し、乾小天守の柱は丸いものが多いのだ。その理由は不明だが、近隣の寺院などから柱を取り寄せたか、乾小天守を早く組み上げるために柱の形を整える作業を省略したか、あるいは大天守の大工とは別の大工が乾小天守を築造したか、などの説があるようである。乾小天守の柱のもうひとつの特徴は、斧で荒々しく仕上げられ、魚の鱗のような独特の模様がある。

【タイトル】松本城の歴史と保存について

【想定媒体】看板

<簡体字>

松本城的历史与保护

松本城由战国时代(1467-1600)的小笠原家族建造，是日本现存最古老的城郭之一。在漫长的历史中，它曾经繁盛，也经历了衰落。

石川家族于 1594 年建造的大天守、乾小天守和渡櫓是后世天守的原型。其后不到十年，德川幕府(1603-1867)建立，结束了 16 世纪战火纷飞的时代。从此，松本城成为本地政治中枢，前后历经多个家族的统治。1633 年至 1634 年，时任城主的松平家族增建辰巳附櫓和月见櫓，松本城成为一座兼备和平时期和战乱时期建筑特征的城郭。

1868 年明治维新之后，城郭在人们的心目中渐渐成为封建时代的腐朽遗存。在追求现代化的进程中，许多天守被推倒，护城河被填平，土地另作他用。松本城也险些遭遇同样的命运，幸得民众和多家团体伸出援手才留存下来。

第二次世界大战(1939-1945)末期，日本的许多天守在空袭中被毁。松本城躲过了战火再次幸存，却在 1945 年的一场大地震中受损。战后，松本城的文化价值得到驻日盟军最高司令官总司令部(SCAP)的认可，天守大规模修复工作于 1950 年至 1955 年展开。1952 年，松本城被指定为国宝。今天，作为日本“国宝五城”之一的松本城，得到了全社会的妥善保护。

被指定为国宝的城郭

松本城、犬山城、彦根城、姬路城、松江城

被指定为国家重要文化财产的城郭

弘前城、丸冈城、备中松山城、丸龟城、伊予松山城、宇和岛城、高知城

<繁体字>

松本城的歷史與保護

松本城是日本現存最古老的城郭之一，由戰國時代（1467-1600）的小笠原家建造。在漫長的歷史中，它曾經繁盛，也經歷了衰落。

石川家於 1594 年建造的大天守、乾小天守和渡櫓是後世天守的原型。其後不到十年，德川幕府（1603-1867）建立，結束了 16 世紀戰火紛飛的年代。從此，松本城成為本地政

治中樞，前後歷經多個家族的統治。1633 年至 1634 年，時任城主的松平家增建辰巳附櫓和月見櫓，松本城成為一座兼備和平時期和戰亂時期建築特徵的城郭。

1868 年明治維新之後，城郭在人們的心目中漸漸成為腐朽封建時代的遺產。在追求現代化的進程中，許多天守被推倒、護城河被填平，土地另作他用。松本城也險些遭遇同樣的命運，幸虧民眾和多家團體伸出援手，才得以留存。

第二次世界大戰（1939-1945）末期，日本的許多天守在空襲中被毀，松本城躲過了戰火再次倖存，卻在 1945 年的一場大地震中受損。戰後，松本城的文化價值得到駐日盟軍最高司令官總司令部（SCAP）的認可，天守大規模修復工作於 1950 年至 1955 年展開。1952 年，松本城被指定為國寶。今天，作為日本「國寶五城」之一的松本城，得到了全社會的妥善保護。

被指定為國寶的城郭

松本城、犬山城、彦根城、姫路城、松江城

被指定為國家重要文化財產的城郭

弘前城、丸岡城、備中松山城、丸龜城、伊予松山城、宇和島城、高知城

<日本語仮訳>

松本城の歴史と保存について

松本城は、戦国時代（1467-1568）に小笠原家が築城した日本最古の城の一つであり、長い歴史の中で繁栄と衰退の歴史を繰り返してきた。

1594 年に石川家が築いた大天守、乾小天守、渡櫓が現在の天守の原型である。それから 10 年足らずで徳川幕府（1603-1867）が開かれると、松本城は 16 世紀の乱世に終止符を打ち、いくつかの家系が代々続いた地方行政の中心地となった。1633 年から 1634 年にかけて、松平家は天守に辰巳附櫓と月見櫓を増築したことによって、平時と戦時の建築様式を併せ持つ城となった。

1868 年の明治維新以降、城は封建時代の遺物とみなされるようになった。近代化のため、多くの天守閣が取り壊され、堀が埋められ、土地は再利用された。松本城も同じような運命をたどるところであったが、多くの個人や団体の努力によって救われた。

第二次世界大戦（1939-1945）末期には、日本に残る多くの天守が空襲で破壊された。松本城は戦災を免れたが、1945 年の大地震で被害を受けた。その後、連合国軍最高司令官総司令部（SCAP）により文化的重要性が認められ、1950 年から 1955 年にかけて大規模な修理が行われた。1952 年、松本城は国宝に指定され、現在、日本「国宝 5 城」の 1 つとして保存・保護されている。

国宝に指定されている城：

松本城、犬山城、彦根城、姫路城、松江城

重要文化財に指定されている城：

弘前城、丸岡城、備中松山城、丸亀城、伊予松山城、宇和島城、高知城

【タイトル】 松本藩の年表

【想定媒体】 看板

<簡体字>**松本藩年表**

这份年表是松本藩大事记，记录了对松本城及本地居民日常生活产生过重大影响的历史事件。

松本藩下辖今长野县西北部区域，由被称为“大名”的地方领主统治。江户时代(1603-1867)，日本全国被划分为数百个“藩”，各藩大名居住在巨大的城郭中，担负着地方行政中枢的职责。

大名们通常只有一半的时间待在领地。当时执政的德川幕府(1603-1867)要求所有大名都在将军居所江户城（今东京）附近另设别邸，并定期前往，有时候一住就是一年。大名的妻子和大多数孩子也都必须长期定居江户，充当政治人质。幕府就是通过这套制度，以昂贵的旅费消耗各地大名的政治和经济实力，同时用其家人的安危来防范背叛。

	中文	日本語
1594	石川家族统治时代，松本城3处天守建筑——大天守、乾小天守、渡櫓建成。	大天守、乾小天守、渡櫓の3つからなる天守が、石川家の統治下で建てられる。
1613	小笠原家族取代石川家族入城，他们是众多与德川家族私人关系密切的松本大名领主中的第一家。	石川家が去り、代わりに小笠原家が入る。小笠原家は、徳川幕府と密接な関係を持つ最初の松本大名である。
1634	松平家族增建辰巳附櫓和月见櫓。	さらに、松平家により辰巳附櫓と月見櫓の2棟が増築される。
1686	北部农民抗议藩政年年征收重税。松本藩先假意接受对方要求，之后逮捕并处死了抗议首领。	北部の農民が、藩から課される高い年貢に抗議する。松本藩は、当初彼らの要求を受け入れるふりをした後、抗議のリーダーを捕らえ、はりつけにする。
1727	大名领主的居所和政治中枢“本丸御殿”焚毁。火灾并未波及天守，这被归功于供奉在大天守6楼屋顶下神龛里的“二十六夜神”。	本丸御殿（城の本丸にある大名の住居兼政庁）が焼失する。大天守の6階の屋根の下にある祠に祀られている二十六夜神が守ってくれたため、天守には火が燃え移らなかったという。

1776	城下町の“中町”区域发生大火。约1200处住宅被毁，其中包括57座武士宅邸。	「中町」と呼ばれる城下町の一角で大火事が発生。武家屋敷57棟を含む約1,200棟が焼失する。
1825	戸田家族举办纪念执政百年的盛大庆典。同年，松本藩北部米价飙升，由数万农民参加的起义爆发。	戸田家が100年目の節目を迎え、盛大に祝宴を開く。この年、松本市北部で米価の大幅な値上げに反対する数万人の農民の反乱が発生する。
1871	明治新政府废藩置县，松本藩正式成为松本县。1876年，与周边数县合并为长野县。	明治新政府により藩制が廃止され、松本藩は正式に松本県となる。1876年、周辺の諸県と合併し、長野県となる。

<繁体字>

松本藩年表

這份年表是松本藩大事記，記錄了對松本城及當地居民日常生活產生過重大影響的歷史事件。

松本藩下轄今長野縣西北部區域，由被稱為「大名」的地方領主統治。江戶時代（1603-1867），日本全國被劃分為上百個「藩」，各藩大名居住在巨大的城郭中，擔負著地方行政中樞的職責。

大名們通常只有一半的時間待在領地。當時執政的德川幕府（1603-1867）要求所有大名都在將軍居所江戶城（今東京）附近另設別邸，並定期前往，有時候一住就是一年。大名的妻子和大多數孩子也都必須長期定居江戶，充當政治人質。透過這套制度，幕府以昂貴的旅費消耗各地大名的政治和經濟實力，同時用其家人的安危來防止背叛。

	中文	日本語
1594	石川家統治時代，松本城3處天守建築——大天守、乾小天守、渡櫓建成。	大天守、乾小天守、渡櫓の3つからなる天守が、石川家の統治下で建てられる。
1613	小笠原家取代石川家入城，他們是眾多與德川家私人關係密切的松本大名領主中的第一家。	石川家が去り、代わりに小笠原家が入る。小笠原家は、徳川幕府と密接な関係を持つ最初の松本大名である。
1634	松平家增建辰巳附櫓和月見櫓。	さらに、松平家により辰巳附櫓と月見櫓の2棟が増築される。
1686	北部農民抗議藩政年年徵收重稅。松本藩先假意接受對方要求，之後逮捕並處死了抗議首領。	北部の農民が、藩から課される高い年貢に抗議する。松本藩は、当初彼らの要求を受け入れるふりをした後、抗議のリーダーを捕らえ、はりつけにする。

1727	大名領主的居所和政治中樞「本丸御殿」焚毀。火災並未波及天守，這被歸功於供奉在大天守 6 樓屋頂下神龕裡的「二十六夜神」。	本丸御殿（城の本丸にある大名の住居兼政庁）が焼失する。大天守の 6 階の屋根の下にある祠に祀られている二十六夜神が守ってくれたため、天守には火が燃え移らなかったという。
1776	城下町的「中町」區域發生大火。約 1200 處住宅被毀，其中包括 57 座武士宅邸。	「中町」と呼ばれる城下町の一角で大火事が発生。武家屋敷 57 棟を含む約 1,200 棟が焼失する。
1825	戸田家舉辦紀念執政百年的盛大慶典。同年，松本藩北部米價飆升，由數萬農民參加的起義爆發。	戸田家が 100 年目の節目を迎え、盛大に祝宴を開く。この年、松本市北部で米価の大幅な値上げに反対する数万人の農民の反乱が発生する。
1871	明治新政府廢藩置縣，松本藩正式成為松本縣。1876 年，與周邊數縣合併為長野縣。	明治新政府により藩制が廃止され、松本藩は正式に松本県となる。1876 年、周辺の諸県と合併し、長野県となる。

<日本語仮訳>

松本藩の年表

この年表は、松本城の発展や人々の暮らしに影響を与えた、松本藩の主な出来事を紹介したものである。

松本藩は現在の長野県北西部を含む地域で、「大名」と呼ばれる領主によって統治されていた。江戸時代（1603-1867）、日本は何百もの藩に分割され、大名は大きな城郭に住み、地方行政の中心的役割を担っていた。

大名が領内で過ごす時間は、その半分程度であった。徳川幕府は、すべての大名に江戸（現在の東京）の将軍家の居所・江戸城近くの別邸に定期的に出向くことを義務づけており、長い時一年間の滞在もある。一方、大名の妻や多くの子供たちは、政治的な人質として江戸に常住していた。この制度は、各大名が政治的、経済的に力をつけることを制限し、幕府に対する反乱を起こりにくくすることを目的とするものであった。

【タイトル】 城下町の地図

【想定媒体】 看板

<簡体字>

城下町地图

所谓“城下町”，即日本古代围绕城郭发展起来的市镇。这张松本城及其城下町的地图绘制于 1728 年，当时统治本地的是户田家族。1995 年，地图被指定为松本市重要文化财产。

由于大名（领主）常常在各藩间调动移任，地图便成为了统治的重要工具。一份绘制精准的地图在许多方面都大有用处，比如规划城防、了解高阶家臣的居住地点、解决领地纠纷、确定河流等关键资源等。虽说 18 世纪的勘测技术还相对不成熟，但这份地图已经十分接近现代地图了。

图中以不同颜色标记重要的基础设施和不同社会阶层人员的居住区域。主要道路标为黄色，护城河标为蓝色，城防土垒标记为深绿色。零星分布的鲜红色小点是岗楼哨所，城下町外围的白色区域是寺院与神社。城郭内最外围区域“三之丸”和城郭以北的淡红色区域是武士住宅区。城郭以南、以东的淡绿色区域则是平民居住区。

<繁体字>

城下町地圖

所謂「城下町」，即日本古代圍繞城郭發展起來的市鎮。這張松本城及其城下町的地圖繪製於 1728 年，當時統治當地的是戶田家。1995 年，該地圖被指定為松本市重要文化財產。

由於大名（領主）常常在各藩間調動移任，地圖便成為了統治的重要工具。一份繪製精準的地圖對於大名（領主）來說有極大的幫助，例如規劃城防、了解高階家臣的居住地點、解決領地糾紛、確定河流等關鍵資源等。雖說 18 世紀的勘测技術還相對不成熟，這份地圖已經十分接近現代地圖了。

圖中以不同顏色標記重要的基礎設施和不同社會階層人員的居住區域。主要道路標為黃色，護城河標為藍色，城防土壘標記為深綠色。零星分布的鮮紅色小點是崗樓哨所，城下町周邊的白色區域是寺院與神社。城郭內最周邊區域「三之丸」和城郭以北的淡紅色區域是武士住宅區。城郭以南、以東的淡綠色區域則是平民居住區。

<日本語仮訳>

城下町の地図

城下町とは、古代日本の城郭を中心に発達した都市のこと。この地図は、1728年に戸田家の統治下で作成された松本城とその周辺の町並みを描いたものだ。1995年に松本市の重要文化財に指定された。

大名（領主）は頻りに転封されたので、地図は重要な統治手段であった。正確な地図は、攻め込まれたときの防御策を練るのに役立ち、上級家臣の居住地を把握し、領地を巡る争いを解決し、河川など重要な資源の所在を把握するのに役立った。18世紀当時の測量技術は未熟な点もあったが、戸田家が作成したこの地図は現代の地図とほぼ同じである。

地図上の色分けは、重要なインフラと異なる社会階層が住むことを許された地域を示している。主要な道路は黄色、堀は青、防備のための土塁は濃い緑で表示されている。時折見える小さな明るい赤のマスは番所、町外れの白い部分は寺社である。城郭内の最も外側の曲輪「三の丸」と城の北側にある薄紅色の部分は武家屋敷。城の南側と東側に広がる薄緑色の区画は、町人の住まいである。

【タイトル】松本藩の6つの藩主家

【想定媒体】看板

<簡体字>

松本藩六大藩主家族

松本藩前后历经6个家族的统治，每个家族都会在城郭和城下町（围绕城郭发展起来的市镇）留下自己的印记。有的家族只是短暂执政，但统治时间的长短与执政者的影响力并不完全成正比。

江户时代(1603-1867)，各藩的大名（领主）均由德川幕府指定，任命和解任都十分随机。通常，忠诚的大名会被分封到更加富饶或是更靠近幕府政权中心江户（今东京）的领地，而犯有过失的大名则往往被分派到不那么理想的地区，甚至于彻底失去领地。松本藩就是一处理想的领地，加上松本城地处军事要冲，因此，历任大名都与幕府有血缘或姻亲关系。

石川家族(1590-1613)

石川数正(?-1592)被统一了日本的大军阀丰臣秀吉(1537-1598)任命为松本领主。石川数正上任后做的第一件大事，就是在城郭核心区的“本丸”修建用于监管周边地区的多层天守。然而，他在随丰臣秀吉出征朝鲜半岛期间去世，他的儿子石川康长(1554-1642)继承了他的遗志，于1594年完成了大天守、乾小天守和渡櫓的建设。

小笠原家族(1613-1617)

德川幕府创始人德川家康(1543-1616)免去了石川家族的任命，转而指派自己的孙女婿小笠原秀政(1569-1615)治理松本藩。小笠原家族在石川家族之前曾统治过这个地区，因此小笠原秀政这次可谓衣锦还乡。他及其继任者小笠原忠真(1596-1667)极大地改善了城下町的基础设施。

户田家族(1617-1633)

小笠原家族被转封至另一领地后，户田康长(1563-1633)接任松本藩。户田康长是德川家康异母妹妹的丈夫，由此例可以看出，向幕府誓以忠诚的大名才能被分封到具有重要战略地位的领地。担任松本藩藩主期间，户田家族致力于健全管理机制，要求每个村镇都选出一名村长和参事督管全村事务。

松平家族(1633-1638)

松平直政(1601-1666)执掌松本藩的时间虽然只有短短几年，却是松本城建设的一个重要人物。松平直政新建了辰巳附櫓和月见櫓，扩大了天守规模。从他省去这些建筑的狭间（箭窗）、石落（投石孔）等防御设施的决定中可以看出，德川幕府统治下的日本已经进入了和平、稳定的阶段。当时，幕府明令禁止扩建现有城郭，但或许因为松平直政是幕府将军德川家康的孙子，才获得了特别许可。

堀田家族(1638-1642)

在松平家族移任另一处更大的藩地后，松本藩被交到了堀田正盛(1609-1651)手中。这次任命具有政治连带关系：堀田正盛的继外祖母名叫春日局(1579-1643)，是德川幕府第三任将军德川家光(1604-1651)的乳母，在当时拥有很大的政治影响力。据说，在堀田正盛短暂的任期内，他从未踏足松本藩，但曾下令在城郭东侧的上土区修建了一座米仓。

水野家族(1642-1725)

水野忠清(1582-1647)及其子孙执掌松本藩长达 83 年，这段任期明显比此前的大名家族长得多。水野家族在 1724 年除了进行全面的土地普查、详细记录作物收成情况外，还下令编撰《信府统记》，记录松本藩的历史和地理。尽管政绩良多，水野家族在松本藩的统治却于 1725 年骤然终结，其原因是藩主水野忠恒(1701-1739)在江户城内砍伤了另一位大名的儿子。

户田家族(1726-1869)

在水野家族仓促离任之后的一年里，幕府暂时接管了松本藩。随后，治理权重新回到了近一个世纪前曾经掌管本藩的户田家族手中。藩主户田光慈(1712-1732)和其继任者弟弟户田光雄(1716-1758)于 1731 年遍访全藩，赢得了民众的拥护。及至 1793 年，户田家族在藩内开设了学校，称“崇教馆”，是大名鼎鼎的开智学校的前身。1868 年的明治维新带来了政治大变革，松本藩最后一位大名户田光则(1828-1892)不得不顺应时势，于 1869 年将藩地的控制权上交新政府。两年后，松本藩正式废藩。

<繁体字>

松本藩六大藩主家族

松本藩前後歷經 6 個家族的統治，每個家族都會在城郭和城下町（圍繞城郭發展起來的市鎮）留下自己的印記。有的家族只是短暫執政，但統治時間的長短與執政者的影響力並不完全成正比。

江戶時代（1603-1867），各藩的大名（領主）均由德川幕府指定，任命和解任十分隨機。通常，忠誠的大名會被分封到更加富饒或是更靠近幕府政權中心江戶（今東京）的領地，而犯有過失的大名則往往被分派到邊疆地帶，甚至於徹底失去領地。松本城地處軍事要衝，是一處理想的領地，因此，歷任大名都與幕府有血緣或姻親關係。

石川家（1590-1613）

石川數正（?-1592）被統一了日本的大軍閥豐臣秀吉（1537-1598）任命為松本領主。石川數正上任後做的第一件大事，就是在城郭核心區的「本丸」修建用於監管周邊地區的多層天守。然而，他在隨豐臣秀吉出征朝鮮半島期間去世，他的兒子石川康長（1554-1642）繼承了他的遺志，於 1594 年完成了大天守、乾小天守和渡櫓的建設。

小笠原家（1613-1617）

德川幕府開創者德川家康（1543-1616）免去了石川家的任命，轉而指派自己的孫女婿小笠原秀政（1569-1615）治理松本藩。小笠原家在石川家之前曾統治過這個地區，因此小笠原秀政這次可謂衣錦還鄉。他和繼任者小笠原忠真（1596-1667）改善了許多城下町的基礎設施。

戶田家（1617-1633）

小笠原家被轉封至另一領地後，戶田康長（1563-1633）接任松本藩。戶田康長是德川家康異母妹妹的丈夫。從這個例子可以看出，只有向幕府誓以忠誠的大名才能被分封到具有重要戰略地位的領地。在擔任松本藩藩主期間，戶田家致力於健全管理機制，要求每個村鎮都選出一名村長和參事，監督管理全村事務。

松平家（1633-1638）

松平直政（1601-1666）執掌松本藩的時間雖然只有短短幾年，卻是松本城建設的一個重要人物。松平直政新建了辰巳附櫓和月見櫓，擴大了天守規模。從他省去了這些建築的狹間（箭窗）、石落（投石孔）等防禦設施的舉措中可知，德川幕府統治下的日本已經進入了和平、穩定的階段。當時，幕府明令禁止擴建現有城郭，但或許因為松平直政是幕府將軍德川家康的孫子，才獲得了特別許可。

堀田家（1638-1642）

在松平家移任另一處更大的落地後，松本藩被交到了堀田正盛（1609-1651）手中。這次任命具有政治連帶關係：堀田正盛的繼外祖母名叫春日局（1579-1643），是德川幕府第三任將軍德川家光（1604-1651）的奶媽，在當時擁有很大的政治影響力。相傳，在短暫任期內，堀田正盛從未踏足松本藩，但曾下令在城郭東側的上土區修建了一座米倉。

水野家（1642-1725）

水野忠清（1582-1647）及其子孫執掌松本藩長達 83 年，這段任期明顯比此前的大名家族長得多。水野家在 1724 年除了進行全面的土地普查、詳細記錄作物收成情況外，還下令編撰《信府統記》，記錄松本藩的歷史和地理。儘管政績良多，水野家在松本藩的統治卻於 1725 年突然結束，原因是藩主水野忠恒（1701-1739）在江戶城內砍傷了另一位大名的兒子。

戸田家（1726-1869）

在水野家倉促離任之後的一年裡，幕府暫時接管了松本藩。隨後，治理權重新回到了近一個世紀前曾經掌管本藩的戸田家手中。藩主戸田光慈（1712-1732）和其繼任者弟弟戸田光雄（1716-1758）於1731年走訪全藩，贏得了民眾的擁護。及至1793年，戸田家在藩內開設了學校，稱「崇教館」，這就是大名鼎鼎的開智學校的前身。1868年的明治維新帶來了政治大變革，松本藩最後一位大名戸田光則（1828-1892）不得不順應時勢，在1869年將藩地的控制權上交新政府。兩年後，松本藩正式廢藩。

<日本語仮訳>

松本藩の6つの藩主家

松本藩は6つの家が代々統治し、城と城下町（城郭を中心に発達した都市）のに足跡を残してきた。短期間しか統治権を持たなかった家もあるが、統治期間の長短でその影響が決まるわけではない。

江戸時代（1603-1867）、徳川幕府が各藩を統治する大名（領主）を決めており、自由に任命したり解任したりすることができた。一般的に忠実な大名に、より繁栄した領地や江戸（現在の東京）の将軍の御殿に近い領地が与えられた。しかし、公の秩序を乱すような行為をした大名は、条件の良くない領地に転任させられたり、領地を完全に奪われたりすることもあった。松本は望ましい領地と考えられていた。松本城は軍事的に重要な位置にあり、その統治権を与えられた大名は幕府と血縁関係にあることが多かった。

石川家（1590-1613）

石川数正（?-1592）は、日本を統一した偉大な武将である豊臣秀吉（1537-1598）によって松本藩主に任ぜられた。着任後、数正はまず城の一番重要な曲輪「本丸」に周辺地域を監視できる重層の天守を建てることを優先させた。しかし、秀吉による朝鮮攻めの最中に数正が亡くなった。この計画は息子の石川康長（1554-1642）に託された。1594年、大天守、乾小天守、渡櫓の主要建築物が完成した。

小笠原家（1613-1617）

徳川幕府を開いた徳川家康（1543-1616）は、石川家を排除し、家康の長男の娘が嫁いだ大名小笠原秀政（1569-1615）に松本の統治を委ねた。秀政の松本入国は、ある意味で里帰りであった。石川家が入国する以前、小笠原家はこの地を統治していたのである。秀政とその後継者である小笠原忠真（1596-1667）は、城下町のインフラを大幅に整備した。

戸田家（1617-1633）

小笠原家の転封後、松本の藩主には戸田康長（1562-1633）が任命された。康長は家康の異母妹と結婚しており、幕府に忠誠を誓った大名が戦略的に重要な領主に任命されたことを示す実

例である。戸田家が在任中に、町方に庄屋と年寄をおいて、支配の仕組みを整えた。

松平家（1633-1638）

松本城主としての在任期間は短かったが、松平直政（1601-1666）は、現在の松本城を築き上げる上で大きな役割を担った。直政は辰巳附櫓や月見櫓を増築し、天守の規模を拡大した。彼のこれらの建物において狭間や石落などの防御的な要素を排除するという決断は、徳川幕府時代の平和と安定を象徴するものであった。この時代、既存の城の拡張は厳しく禁じられていたが、直政は將軍・徳川家康の孫であるため、特別な許可を得ていたであろう。

堀田家（1638-1642）

松平家が再び大きな藩を任されることになったため、松本は堀田正盛（1609-1651）が統治することになった。この人事にもまた婚姻政略が絡んでいる。正盛の義理の祖母は春日局（1579-1643）で、三代將軍徳川家光（1604-1651）の乳母として政治的に大きな影響力を持っていた。城の東側にある上土に米蔵を建てたのは正盛とされているが、正盛自身は松本に足を踏み入れたことはなかったと言われている。

水野家（1642-1725）

水野忠清（1582-1647）とその子孫は 83 年間にわたり松本を治めたが、これは歴代の大名に比べると明らかに長期の統治であった。1724 年には、徹底した検地を行い、作物の収穫を詳細に記録するとともに、藩の歴史と地理を記した『信府統記』を編纂した。しかし、水野忠恒（1701-1739）が江戸城内で他の大名の子息を刀で切りかかったことから、その支配は急速に終わりを告げた。

戸田家（1726-1869）

水野家が去った 1 年以内に、松本藩は幕府が直轄していたが、およそ 100 年前に統治していた戸田家が再任され、戸田光慈（1712-1732）が藩主の任に就いた。光慈はその後を継いだ弟の光雄（1716-1758）とともに、1731 年に藩内を巡察し、民衆の心をつかんだ。また、戸田家は 1793 年に、後の開智学校となる「崇教館」を設立した。1868 年、明治維新による急激な政変で 1869 年に最後の大名となった戸田光則（1828-1892）が新政府に藩政を委ね、その 2 年後に松本藩は正式に廃藩となる。

【タイトル】 桔木構造の屋根

【想定媒体】 看板

<簡体字>

桔木构造的屋顶

大天守顶层 6 楼没有做天花板，可以直接看到被称为“桔木构造”的屋顶内部结构。这种技术最初出现在镰仓时代(1185-1333)以后的寺院建筑中。

桔木构造运用了杠杆原理，使天守的木架结构可承托起沉重的屋瓦。

屋顶主梁是两根南北走向的日本香柏大圆木，在其上再架设两根东西走向的副梁，形成井字形梁架，然后在梁架上扇状排列 20 根桔木（斜梁）。这些桔木就是杠杆，它们的支撑点在外墙上部，会产生向上挺举屋檐的作用力。桔木构造可以防止最上层的歇山顶屋檐下沉，让象征权力和地位的天守永保雄风。

<繁体字>

桔木构造的屋顶

大天守顶层 6 楼没有做天花板，可以直接看到被称为「桔木构造」的屋顶内部结构。这种技术最一开始出现在镰仓时代（1185-1333）以后的寺院建筑中。

桔木构造运用了槓桿原理，使天守的木架結構可承托起沉重的屋瓦。

屋頂主樑是兩根南北走向的日本香柏大圓木，在其上再架設兩根東西走向的副梁，形成井字形梁架。然後在梁架上扇狀排列 20 根桔木（斜梁）。這些桔木就是槓桿，它們的支撐點在外牆上部，會產生向上挺舉屋簷的作用力。桔木構造可以防止最上層的歇山頂屋簷下沉，讓象徵權力和地位的天守永保雄風。

<日本語仮訳>

桔木構造の屋根

大天守最上階の 6 階に天井がなく、上に見えるのは桔木構造の屋根の内部構造である。桔木構造の屋根の技術は、もともと鎌倉時代（1185-1333）以降の寺院建築に用いられていた。

桔木構造の原理は「てこ」である。桔木構造の屋根を使うことで、天守の木組みは重い瓦屋根の重量を支えることができる。

2 本のネズコの太い敷梁を南北に渡し、その上に 2 本の梁を東西に配して井桁梁を構成。その上方に、20 本の桔木を放射状に配置して、桔木はてこの原理によって外壁上部を支点として常に軒先

を持ち上げている。これによって、最上層の入母屋の大屋根の軒先が下がらないようになり、権威の象徴でもある天守の雄々しい姿を保っている。

【タイトル】 近世日本の鉄砲

【想定媒体】 看板

<簡体字>

近代日本の枪械

16 世纪下半叶，日本烽烟四起，战乱频仍。室町幕府(1336-1573)的统治已经崩溃，各地大名（领主）或为扩张领地，或为自保而征战不休。这种局面为新式武器的普及带来了理想的环境。16 世纪 40 年代，欧洲制造的火绳枪传入日本，令战争形态发生了巨变。

日本铁匠很快复制出了这种欧洲武器，并对其进行了各种改良。最终，日本的火绳枪生产规模达到了以数千支为单位的水平。在西方各国，火绳枪很快被新型枪械取代，而在日本，它们却始终主流武器，沿用了 3 个多世纪。

枪械最初由种子岛传入日本。种子岛是九州南部的一座小岛，长久以来都是商人和偷运者的中转站。17 世纪早期成书的《铁炮记》（日语的“铁砲”就是枪械）中便记载了这么一段故事。1543 年，一艘搭载着中国和葡萄牙商人的船来到种子岛躲避风暴。葡萄牙人在觐见岛主时尧(1528-1579)的时候，展示了所携火绳枪的威力。时尧当即买下两把，令本地刀匠八板金兵卫(1502-1570)依样仿制。就这样，八板金兵卫成为了日本第一位枪械匠人，种子岛也成为了“火绳枪”的代名词。

枪械在 16 世纪至 17 世纪早期的日本内战中扮演了重要角色。这场漫长的内战以德川幕府(1603-1867)的建立而告终。之后，政府开始实施锁国政策，严格管制旅行和贸易。此外，幕府还针对包括枪支在内的武器制造与持有发布了严格的限制令。

西方在枪械领域经历了燧发式击发、雷管击发、弹药的后膛填装式等一系列的革命性变革，但日本并没有出现类似的重大创新，枪械工匠们都在反复改进前装式火绳枪，继续为幕府提供武器。直到 1854 年开国之前，火绳枪仍是日本唯一的手持火器。

<繁体字>

近代日本的槍械

16 世紀下半葉，日本烽煙四起，戰亂頻仍。室町幕府（1336-1573）的統治已經崩潰，各地大名（領主）或為擴張領地，或為自保，征戰不休。這種局面促成了新式武器的普及。1540 年代，歐洲製造的火繩槍傳入日本，戰爭形態隨之發生了巨變。

日本鐵匠很快複製出了這種歐洲武器，並進行了各種改良。最終，日本的火繩槍生產規模達到了數千支的水準。在西方各國，火繩槍很快被新型槍械取代，而在日本，它們卻始終是主流武器，沿用了 3 個多世紀。

槍械最初由種子島傳入日本。種子島是九州南部的一座小島，長久以來都是商賈和偷運商的中轉站。17世紀早期成書的《鐵炮記》（日語的「鐵砲」就是槍械）中便記載了這麼一段故事。1543年，一艘搭載著中國和葡萄牙商販的船來到種子島躲避風暴。葡萄牙人在觀見島主時堯（1528-1579）的時候，展示了所攜火繩槍的威力。時堯當即買下兩把，命令當地刀匠八板金兵衛（1502-1570）依樣仿製。就這樣，八板金兵衛成為了日本的第一位槍械匠人，種子島也成為了「火繩槍」的代名詞。

槍械在16世紀至17世紀早期的日本內戰中扮演了重要角色。這場漫長的內戰以德川幕府（1603-1867）的建立而告終。之後，政府開始實施鎖國政策，嚴格管制旅行和貿易。此外，幕府還針對包括槍支在內的武器製造與持有發布了嚴格的限制令。

西方在槍械領域經歷了燧發式擊發、雷管擊發、彈藥的後膛填裝式等一系列的革命性變革，但日本並沒有出現類似的重大創新，槍械工匠們仍在反復改進前裝式火繩槍，繼續為幕府提供武器。一直到1854年開國之前，火繩槍仍是日本唯一的手持火器。

<日本語仮訳>

近世日本の鉄砲

16世紀後半、日本では戦乱が激化した。室町幕府（1336-1573）が崩壊し、各地の大名（領主）が自己保身または領土をめぐる争っていた。このように多くの勢力争いがあったことは、新しい武器が普及するための絶好の環境であった。1540年代にヨーロッパから伝わった火縄銃は、戦術に大きな転換をもたらした。

日本の鍛冶職人は、ヨーロッパの火器を再現し、独自の改良を加えていった。やがて、日本の鍛冶職人は、火縄銃を数千丁単位で生産するようになった。その後西洋で新しい銃器が普及しても、火縄銃は3世紀以上にわたって主流であった。

鉄砲は、九州の南に位置し、古くから貿易商や密輸業者の中継地であった種子島を経由して日本に入ってきた。17世紀初頭に完成した『鉄炮記』（日本語の「鉄砲」とは、銃器のこと）にその様子が描かれている。1543年、中国やポルトガルの商人が乗った船が、嵐の中種子島に避難してきた。ポルトガル人たちは、島の領主である時堯（1528-1579）に謁見し、持参した火縄銃の使い方を披露した。時堯は直ちにそのうちの2丁を購入し、地元の刀工、八板金兵衛（1502-1570）にその複製を命じた。八板は日本初の鉄砲鍛冶となり、種子島は「火縄銃」の通称となった。

鉄砲は、16世紀から17世紀はじめにかけて起こった長い内戦においても重要な役割を果たした。徳川幕府（1603-1867）のもとで戦乱は終わり、旅行や貿易を厳しく制限する鎖国政策が採られた。幕府はまた、銃器などの武器の製造と所持に厳しい制限を課した。

鉄砲鍛冶は幕府に武器を供給し続けたが、日本は燧発式、雷管式、後装式弾倉など、西洋の銃器に革命をもたらした革新的な技術を開発することはなかった。その代わりに、日本の鉄砲鍛冶は前装式の火縄銃の設計を改良し続け、1854年に開国するまでこの手持ちの火器のみを使っていた。

【タイトル】 平からくり：基本的な火縄銃の構造

【想定媒体】 看板

<簡体字>

平机关——最基本的火绳枪机

平机关是最基础的火绳枪机组件，其主要驱动装置是一个简单的 U 形铁条或黄铜条，加装在枪机外侧。簧板和 S 形的蛇杆由一个与扳机相连的控制杆“击发阻铁”固定并绷紧。扣动扳机便能释放击发阻铁，蛇杆随之松开，向前击中火药池。阴燃的火绳引燃引火药，引火药点燃枪膛中的主火药，推动弹丸自枪口飞出。

16 世纪的枪械大多采用平机关。这种枪机装置构造简单，造价相对低廉，只是反复击发之后簧板会逐渐失去弹性。

<繁体字>

平機關——最基本的火繩槍機

平機關是最基礎的火繩槍機零件，其主要驅動裝置是一個簡單的 U 形鐵條或黃銅條，加裝在槍機外側。簧板和 S 形的蛇杆由一個與扳機相連的控制杆「擊發阻鐵」固定並绷紧。扣動扳機，釋放擊發阻鐵，蛇杆鬆開，向前擊中火藥池。陰燃的火繩引燃引火藥，引火藥點燃槍膛中的主火藥，推動彈丸自槍口飛出。

16 世紀的槍械大多採用平機關。這種槍機裝置構造簡單，雖然反復擊發之後簧板會逐漸失去彈性，但造價相對低廉。

<日本語仮訳>

平からくり：基本的な火縄銃の構造

平からくりは最も基本的な火縄銃のカラクリである。平からくりのゼンマイは、鉄や真鍮の単純な U 字型の金属で、からくりの外側に取り付けられている。バネと火ばさみは、引き金に取り付けられた「シア」と呼ばれるレバーによって張力が維持されている。引き金を引くとシアが解除され、銃の火ばさみとそれにつながっている火のついた火縄が火皿に接触し、点火される。この火薬が銃身内の主砲を発火させ、弾を発射させるのである。

16 世紀の戦いで使われた鉄砲は、ほとんどが平からくりであった。このからくりは簡単で比較的安価に作ることができたが、繰り返し使用するうちにバネが弱くなる傾向があった。

【タイトル】 内からくり：内蔵タイプの火縄銃の構造

【想定媒体】 看板

<簡体字>

内机关——内置式火绳枪机

也有一些火绳枪采用内置式枪机，即把枪机组件安装在木头枪托内。这样既可减少因撞击对装置造成的损害，又能避免枪机在战场上被泥土灰尘堵塞。但因为藏在枪体内不易打开，一旦出现故障，修复起来相对困难。

这里展出的“内机关”枪机属于“无蟹目”型。“蟹目”是从击发阻铁控制杆尾部延伸出来的一个水平方向锁扣，用于拉开弹簧，不让它回弹。“无蟹目”型内机关，顾名思义就是没有采用蟹目，而是纵向安装一块板来取而代之。

<繁体字>

内機關——内置式火繩槍機

也有一些火繩槍採用内置式槍機，即把槍機組件安裝在木頭槍托內。這樣既可減少因撞擊對裝置造成的損害，又能避免槍機在戰場上被泥土灰塵堵塞。但因為藏在槍體內不易打開，所以一旦出現故障，修復起來比較困難。

這裡展出的「內機關」槍機屬於「無蟹目」型。「蟹目」是從擊發阻鐵控制杆尾部延伸出來的一個水平方向鎖扣，用於拉開彈簧，不讓它回彈。「無蟹目」型內機關，顧名思義就是沒有採用蟹目，而是縱向安裝一塊板來取代。

<日本語仮訳>

内からくり：内蔵タイプの火縄銃の構造

木製の銃床の中にバネなどの部品を取めた内からくり式の銃もあった。内からくりは衝撃で破損したり、戦場の泥で詰まったりすることは少ないが、部品を取り出しにくいので、何かあったときに修理がしにくいという欠点があった。

このからくりは、「蟹の目無き」と呼ばれるタイプである。このからくりは、バネの張力を保つために、シアレバーの先端から「蟹の目」と呼ばれる水平のピンを出さず、垂直に取り付けられた板を使用することから、このような名前が付けられた。

【タイトル】 外記からくり：2つのシアを持つ火縄銃の構造

【想定媒体】 看板

<簡体字>

外记机关——双阻铁式火绳枪机

外记机关是日本火绳枪中最精密的枪机组件，因其发明者——枪械大师井上外记(?-1646)而得名。这种机械装置在U形主簧板之外还追加了一条或多条卷簧。外记机关可以定制，且可根据扣扳机所需力量设置不同的档位。和其他枪机组件不同，外记机关几乎没有失误走火的可能，只是扣动扳机耗时较长。

外记机关备受好评，只是高精密度的组件不仅提高了造价，令保养也变得复杂。因此，它们从来没能真正取代简单的“平机关”，普通军用火绳枪依然选择后者。

<繁体字>

外記機關——雙阻鐵式火繩槍機

外記機關是日本火繩槍中最精密的槍機組件，因其發明者——槍械大師井上外記 (?-1646) 而得名。這種機械裝置在 U 形主簧板之外還追加了一條或多條卷簧。外記機關可以定製，且可根據扣扳機所需力量設置不同的檔位。和其他槍機零件不同，外記機關幾乎沒有失誤走火的可能，只是扣動扳機耗時較長。

即便外記機關備受好評，但高精密度的組件不僅造價高，保養也更複雜。因此，它們從來沒能真正取代簡單的「平機關」，普通軍用火繩槍依然選擇後者。

<日本語仮訳>

外記からくり：2つのシアを持つ火縄銃の構造

外記からくりは、日本の火縄銃構造の中で最も洗練されたものである。鉄砲鍛冶の名人、井上外記 (? -1646) が開発したもので、U 字型の主バネに加え、1 本または複数のコイル状のバネを使用したものである。外記からくりはカスタマイズが可能で、引き金の硬さ（引き金を引く力）を何段階かに分けて設定することができた。他の仕掛けと違って誤作動がほとんどない反面、発射のためのコッキングに時間がかかる。

外記からくりは非常に高価なものであった。しかし、繊細な部品が多いため製造コストが高くメンテナンスも大変で、一般的な軍用火縄銃に使われている単純な平からくりに完全に取って代わることはなかった。

【タイトル】 強化された窓

【想定媒体】 看板

<簡体字>

防护窗

大天守の“武者窗”专为防范外敌攻击和恶劣天气而设计。窗框和窗格用来阻挡敌人的袭击，窗户外侧上方带铰链的木板窗可以遮挡风雨。

潮湿和水汽会导致木头腐坏，对于一座木结构的城郭而言，雨水的破坏力不亚于一支来犯的军队。为此，天守安装了可开式百叶窗，可适时通风采光。考虑到雨天排水，窗台上还开有被称为“水切”的排水槽。

<繁体字>

防護窗

大天守的「武者窗」，專為防範外敵攻擊和惡劣天氣而設計。窗框和窗格用來阻擋敵人的襲擊，窗戶外側上方帶鉸鏈的木板窗可以遮擋風雨。

潮濕和水氣會導致木頭腐壞，對於一座木結構的城郭而言，雨水的破壞力不亞於一支來犯的軍隊。為此，天守安裝了可開式百葉窗，可適時通風採光。考慮到雨天排水，窗台上還開有被稱為「水切」的排水槽。

<日本語仮訳>

強化された窓

大天守の武者窓は、枠と格子で敵の攻撃から身を守ることができるようになっている。それだけでなく、外側にある上部の蝶番のついた突上戸で風雨を防ぐこともできる。

湿気は腐敗や構造の劣化につながるため、木造の城にとって雨は軍隊が攻めてくるのと同じく脅威となる。そのため、雨戸は開けて固定できるようになっており、外気や外光が採り入れられるようになっている。また、窓枠には「水切」と呼ばれる排水用の樋を設け、雨水を建物の外に流すなどの対策も施されている。

【タイトル】 隠し銃

【想定媒体】 看板

<簡体字>

“隐形”枪支

这里展出了一些非常规的枪械，其中有几把是与其他武器组合的枪支。这类枪支多半为暗杀或其他不可告人的目的而造，或为了逃避政府对于枪支的严格管控，或就是纯粹为了满足对“隐形”枪支的新奇感。

最右侧的小火绳枪可以利用附属的夹子藏进和服袖子里。把枪管或击发组件安装在短剑、匕首或警察的“十手”（警棍）里，也算“隐形”枪支。当时日本对枪械的管制十分严格，但携带短刀短剑或棍棒却司空见惯。武士习惯佩戴长短双刀标示身份，短剑几乎从不离身，哪怕进入室内也不例外。

最左侧的展品估计并非为随身携带而设计，主要用于设置陷阱：将绊索或绊网连在枪管末端的控制杆上，一旦拉动，便能扣动扳机开火。

展品中也有雷管击发的隐形枪支，跟火绳枪相比，更为先进。

<繁体字>

「隱形」槍支

這裡展出了一些非常規的槍械，其中有幾樣與其他武器組合的槍支。這類槍支多半為刺殺或其他不可告人的目的而造，或為了逃避政府對於槍支的嚴格管控，或就是純粹為了滿足對「隱形」槍支的新奇感。

最右側的小火繩槍，可以利用附屬的夾子藏進和服袖子裡。把槍管或擊發組件安裝在短劍、匕首或員警的「十手」（警棍）裡，也算「隱形」槍支。當時日本對槍械的管制十分嚴格，但攜帶短刀短劍或棍棒卻是司空見慣。武士習慣佩戴長短雙刀標示身份，短劍幾乎從不離身，哪怕在室內也不例外。

最左側的展品估計並非為隨身攜帶而設計，主要應用於陷阱中：將絆索或絆網連在槍管末端的控制杆上，一旦拉動，便能扣動扳機開火。

展品中也有雷管擊發的隱形槍支，與火繩槍相比，更為先進。

<日本語仮訳>

隠し銃

このケースには、他の武器と組み合わせられたものも含めた珍しい銃器が展示されている。このような銃器は、暗殺などの不正な目的や政府の厳しい銃器規制を避ける目的、あるいは単に隠し銃に興味深く目新しかったという理由で作られた。

右端のもののように、小型の火器は付属のクリップを使って着物の袖に隠すことができた。また、公然と携帯できる武器として、短刀や短剣、あるいは警察官が使用する棍棒（十手）に銃身と発射機構を組み込んだものもあった。武士は身分の証として長短二本の刀を差し、室内でも短刀を抜かないのが普通であったから、短刀や十手が疑われることはほとんどなかった。

左端にあるものは、おそらく全く携帯されていなかったのだろう。その代わりに、罨の一部として使用されるように設計されている。銃身先端のレバーに取り付けられた仕掛けを引っ張ると、発射装置が作動する仕組みになっている。

展示されている隠し銃の中には、発射装置に雷管式を使用しているものもあり、火縄銃に比べると比較的近代的な武器と言える。

【タイトル】松本藩戊辰出兵記念碑

【想定媒体】看板

<簡体字>

松本藩戊辰出兵記念碑

这块石碑是为纪念戊辰战争(1868-1869)中参战的 261 名松本武士而立。戊辰战争是在最后一任德川幕府将军的势力（拥幕派）与支持政权回归天皇的新政府军（倒幕派）之间爆发的内战，也是明治维新(1868)的第一个阶段。它直接导致了德川幕府的终结，引发社会与政治的全面变革，从而推动日本快速走向工业化。

18 世纪晚期至 19 世纪早期，频繁发生的饥荒、通货膨胀和农民起义令德川幕府疲于应对。即便在武士阶层内部，对幕府的不满情绪也日益高涨，许多低阶武士勉强养家糊口。虽说武士名义上依然高踞社会顶层，但谁都免不了要向极其富有的“下层公民”商人借贷。

1853 年，美国海军司令官马修·C·佩里率舰队驶入江户湾，要求幕府开放与美国的商贸往来。1854 年，幕府官员接受并签署了第一份非常不平等的商贸条约。这样的退让，令幕府体制逐步衰落。

对幕府政权的不认同，加上对外国势力的反抗情绪，激发了大名（领主）、低阶武士以及浪人（失去领主的武士）心中的不满，他们试图推翻幕府，实行“大政奉还”，恢复数百年来有名无实的天皇政权。眼见反对声浪日益高炽，最后一任幕府将军德川庆喜(1837-1913)主动退位，将政权交还天皇。

尽管如此，倒幕派依旧穷追不舍，希望能彻底剥夺德川家族的地位和权势。来自萨摩藩的武士开始潜入江户（今东京），实施抢劫、纵火、杀人等行径，煽动恐惧情绪，试图以此削弱民众对幕府的支持。面对如此情形，德川庆喜派遣信使携书信前往位于京都的朝廷，向天皇提出抗议。德川庆喜的信使被倒幕派拒之门外，从而爆发了冲突，戊辰战争就此开启。

天皇很快赢得了西部诸藩的支持，然而，中部与北部的大名却发生了分歧。松本藩主摇摆不定，直到 1868 年 2 月 29 日才最终决定支持倒幕派。

1868 年 5 月 3 日，德川庆喜不战而降，交出了幕府政治中枢——江户城。然而，战争并没有停止，新政府军继续向北部和东部追击旧拥幕派。及至 1868 年秋，幕府最强大的支持者中大半已经被迫投降，残余势力逃往北海道南部。最终，这一支最后的力量也在新政府军的奇袭下投降。1869 年 5 月 20 日，戊辰战争结束。

纪念碑的正面记录了松本藩军队在东京以北和西北部北越、会津、宇都宫等地参与战斗的情况。背面镌刻着 261 名武士的姓名、职位和结局。

<繁体字>

松本藩戊辰出兵紀念碑

這塊石碑是為紀念戊辰戰爭（1868-1869）中參戰的 261 名松本武士而立。戊辰戰爭是在最後一任德川幕府將軍的勢力（擁幕派）與支持政權回歸天皇的新政府軍（倒幕派）之間爆發的內戰，也是明治維新（1868）的第一個階段。它直接導致了德川幕府的終結，引發了社會與政治的全面變革，進而推動了日本快速走向工業化。

18 世紀晚期至 19 世紀早期，頻繁發生的饑荒、通貨膨脹和農民起義令德川幕府疲於應對。許多低階武士也勉強養家糊口，因此即便在武士階層內部，對幕府的不滿情緒也日益高漲。雖說名義上武士依然高踞社會頂層，但誰都免不了要向極其富有的「下層公民」商人借貸。

1853 年，美國海軍司令官馬修·C·佩里率艦隊駛入江戶灣，要求幕府開放與美國的商貿往來。1854 年，幕府官員接受並簽署了第一份非常不平等的商貿條約。這樣的退讓，令幕府體制逐步衰落。

對幕府政權的不認同，加上對外國勢力的反抗情緒，激發了大名（領主）、低階武士以及浪人（失去領主的武士）心中的不滿，他們試圖推翻幕府，恢復數百年來有名無實的天皇政權，名曰「大政奉還」。眼見反對聲浪日益高熾，最後一任幕府將軍德川慶喜（1837-1913）主動退位，將政權交還天皇。

儘管如此，倒幕派依舊窮追不捨，希望能徹底剝奪德川家的地位和權勢。來自薩摩藩的武士開始潛入江戶（今東京），實施搶劫、縱火、殺人等行徑，煽動恐懼情緒，試圖以此削弱民眾對幕府的支持。面對如此情形，德川慶喜派遣信使攜書信前往位於京都的朝廷，向天皇提出抗議。德川慶喜的信使被倒幕派拒之門外，衝突爆發，戊辰戰爭就此開啟。

天皇很快贏得了西部諸藩的支持，然而，中部與北部的大名卻發生了分歧。松本藩主搖擺不定，直到 1868 年 2 月 29 日才最終決定支持倒幕派。

1868 年 5 月 3 日，德川慶喜不戰而降，交出了幕府政治中樞——江戶城。然而，戰爭並沒有停止，新政府軍繼續向北部和東部追擊舊擁幕派。及至 1868 年秋，幕府最強大的支持者中大半已經被迫投降，殘餘勢力逃往北海道南部。最終，這一支最後的力量也在新政府軍隊的奇襲下投降。1869 年 5 月 20 日，戊辰戰爭結束。

紀念碑的正面記錄了松本藩軍隊在東京以北和西北部北越、會津、宇都宮等地參與戰鬥的情況。背面鐫刻著 261 名武士的姓名、職位和結局。

<日本語仮訳>

松本藩戊辰出兵記念碑

この石碑は、徳川幕府最後の将軍の勢力と王政復古を支持する新政府軍との間で起こった戊辰戦争（1868-1869）に参戦した松本藩士 261 名を追悼するものである。戊辰戦争は明治維新

の第一段階であり、徳川幕府を崩壊させて社会と政治に大きな変革をもたらし、その後の急速な工業化の先駆けとなった。

18世紀末から19世紀初頭にかけて、徳川幕府は飢饉、インフレ、農民一揆と戦ってきた。幕府に対する不満は、武士階級の間でも高まっていた。下級武士の多くは困窮し、家族を養うのがやっとの状態であった。社会的地位が最も高いはずの武士が、誰もが繁栄を極めていた下層の商人たちから借金をするようになっていた。

1853年にアメリカ海軍のペリー提督（1794-1858）が軍艦を率いて江戸湾に来航し、幕府にアメリカとの貿易の開放を要求した。1854年に幕府はこれに応じ、外国勢力との不平等な通商協定の第一号に調印した。このような譲歩は、幕藩体制を弱体化させた。

徳川幕府への不信と反外国感情は、不満を持つ大名（領主）や下級武士、浪人の一派を刺激し、幕府を倒して何世紀にもわたってほとんど政治力を持たなかった天皇を復権させることを目指させることになった。このような動きを見て、最後の将軍である徳川慶喜（1837-1913）はその地位を辞し、政治的権限を天皇に移譲した。

しかし、それでも朝廷派は徳川家から爵位や所領を剥奪しようとした。薩摩藩の武士たちは、民衆に恐怖を与え、将軍への支持を弱めるために、江戸での襲撃、放火、殺人などの密かな作戦を始めた。これに対し、慶喜は京都の朝廷に兵士を派遣して天皇に抗議する手紙を出した。しかし、慶喜の使者は討幕派により謁見を阻まれ、戦闘が始まった。これが戊辰戦争の始まりである。

西日本では朝廷側が急速に支持を広げたが、中部・北部の大名は分裂していた。松本藩主はどちらにつか迷ったが、1868年2月29日に朝廷派を支援することに決めた。

1868年5月3日、慶喜は幕府の行政の中心である江戸城を戦わずして明け渡した。それでも戦いは続き、新政府軍は旧幕府軍を北と東に追撃した。1868年秋、幕府の強力な支持者の多くが降伏し、残党は北海道南部に逃れた。結局、戊辰戦争は1869年5月20日、旧幕府軍は急襲を受け降伏し、終結した。

この碑の表面には、北越、会津、宇都宮（東京の北と北西の地域）での松本勢の戦闘について記されている。裏面には261人の侍の氏名、地位、最期が刻まれている。

【タイトル】松本藩主の家紋

【想定媒体】看板

<簡体字>**松本藩历任藩主家纹**

历史上，日本各大家族都会用特定的纹章——“家纹”来昭示家族关系。家纹的应用很广，从正装和服，到统一的武器装备、家具，乃至房屋宅邸上都可看到这种专属标记。家纹图案常取材于大自然，如日本皇室的“菊”纹；或者是几何图案的组合变形，如三菱家族的三个重叠的菱形“三阶菱”。

下表为历代执掌松本城武士家族的家纹，黑门内侧的屋檐瓦当上可以看到几个这样的家纹。

家纹	姓氏	家纹名	说明
	石川家族(1590-1613)	笹龙胆 (笹，音同“世”)	龙胆花和五片类似竹叶的叶子
	小笠原家族(1613-1617)	三阶菱	三个重叠的菱形
	戸田家族(1617-1633)	离之六星	呈外五内一状排布的圆形六星
	松平家族(1633-1638)	丸三叶葵	包裹在圆环中的三片双叶细辛（乌金草）叶
	堀田家族(1638-1642)	黑饼竖木瓜	叠加在黑色糯米饼上的纵长鸟巢
	水野家族(1642-1725)	丸花泽泻	包围在圆环中的纵长三叶慈菇（泽泻科）
	戸田家族(1726-1869)	离之六星	呈外五内一状排布的圆形六星

<繁体字>**松本藩歷任藩主家紋**

歷史上，日本各大家族都會用特定的紋章——「家紋」來昭示家族關係。家紋應用很廣，從正裝和服，到統一的武器裝備、家具，乃至房屋宅邸上都可看到這種專屬標記。家紋圖案常取材於大自然，如日本皇室的「菊」紋；或者是幾何圖案的組合變形，如三菱家族的三個重疊的菱形「三階菱」。

下表為歷代執掌松本城武士家族的家紋，黑門內側的屋簷瓦當上可以看到幾個這樣的家紋。


家紋	姓氏	家紋名	說明
	石川家 (1590-1613)	笹龍膽 (笹，音同「世」)	龍膽花和五片類似竹葉的葉子
	小笠原家 (1613-1617)	三階菱	三個重疊的菱形
	戸田家 (1617-1633)	離之六星	呈外五內一狀排布的圓形六星
	松平家 (1633-1638)	丸三葉葵	包裹在圓環中的三片雙葉細辛(烏金草)葉
	堀田家 (1638-1642)	黑餅豎木瓜	疊加在黑色糯米餅上的縱長向鳥巢
	水野家 (1642-1725)	丸花澤瀉	包圍在圓環中的縱長三葉慈菇(澤瀉科)
	戸田家 (1726-1869)	離之六星	呈外五內一狀排布的圓形六星

<日本語仮訳>

松本藩主の家紋

日本は歴史的に見ると、「家紋」と呼ばれる紋章で家族のつながりを示してきた。家紋は、着物、軍配、家財道具、家屋など、あらゆるものに描かれている。家紋には、皇室の「菊」のように自然界にあるものをモチーフにしたものや、三菱の「三階菱」のように幾何学的な図形を組み合わせたものがよく使われる。

以下は、松本城を統治した各武家の家紋である。黒門の枳形側の軒先の丸瓦の端に、これらの家の紋章がいくつか見える。

家紋	姓氏	家紋の名前	説明
	石川家(1590-1613)	笹竜胆	竹に似た五枚の葉を持つリンドウの花

	小笠原家(1613-1617)	三階菱	重なり合う3つの菱形
	戸田家(1617-1633)	はなれ六星	6つの星が塗りつぶされた円となって配置されている
	松平家(1633-1638)	丸に三つ葉葵	丸に囲まれたフタバアオイの葉3枚
	堀田家(1638-1642)	黒餅に豎木瓜	黒い餅に縦長の鳥の巣
	水野家(1642-1725)	丸に花沢瀉	丸に囲まれた縦長の三つ葉の沢瀉。
	戸田家(1726-1869)	はなれ六星	6つの星が塗りつぶされた円となって配置されている

【タイトル】 大天守の各階

【想定媒体】 看板

<簡体字>

大天守各层概况

松本城大天守为五重六层的木结构建筑（即外观为 5 层，内部实际为 6 层），高 29.4 米，是日本现存最古老、也是唯一一座黑色基调的天守。它不但具备瞭望塔楼和仓库的功能，还能在城郭被围时成为守军最后的堡垒。据推测，大天守建成于 1594 年，一同竣工的还有乾小天守和渡櫓。

一楼

一楼中央是“母屋”（主屋），四周是“武者走”（武士走廊）。从柱子上的小孔可以推测，母屋曾经用移门分隔为四个空间，分别用于存放军粮、火药和武器等物资。

二楼

二楼的大小和功用都与一楼类似，但这一层的格子窗提供了更加开阔的视野，方便守军开火攻击下方来犯的敌人。柱子上的小孔显示，这一层最多能够分隔出 8 个房间，在紧急情况下可用于储物或屯兵。二楼如今是松本城铁砲博物馆（日语中的“铁砲”就是枪械），用以展示火绳枪。

三楼

三楼又被称为“隐藏层”或“暗闇重”（闇，音同“黯”），因为室内采光全靠三角形千鸟破风上的格子天窗。从建筑结构上看，三楼刚好位于二楼寄栋造式（庑殿顶）斜面屋顶的屋檐下方，因此无法另行开窗。

这一层的确切用途尚不明了。天花板的一角有个神秘的开口，直通四楼。有观点认为，这或许是当年在修筑天守时用来吊运物资的地方。

四楼

从四楼开始，内部结构就发生了明显的变化：天花板更高，窗户更多，立柱也全都打磨得光滑平整。和下面三层不同，这里空间开阔，立柱上没有小洞。不过这一层应该也曾被分隔为三个空间，只不过使用的是帘子或折叠屏风。

四楼最大的区域是为城主准备的起居空间，如果遭遇围城，便可暂时入住这里。这个空间与其他区域之间有细竹帘相隔，表明了使用者地位显贵。

五楼

五楼有可能是遭遇敌袭时的作战会议室。这一层在东南西北四个方向都开有宽大的格子窗，可在确保安全的情况下随时监控城郭内及周遭情况。

本层北侧的一根立柱上有绳索磨出的痕迹。据说，这些印记是在 1903 年至 1913 年留下的，当时人们曾用绳索来扶正开始倾斜的大天守。

六楼

一旦出现紧急情况，六楼便是观察敌情的瞭望处。这一层的四面窗户视野开阔，周边景象一览无余，可以眺望远处的山脉。

在 20 世纪 50 年代的大修复中，人们发现当初六楼外侧很可能曾被规划为一条勾栏回廊。或许是考虑到松本地区冬季的严寒，或许是为了防止因雨水渗入建筑内部对低处楼层造成损害，最终将空间留给了室内。

<繁体字>

大天守各層概況

松本城大天守為五重六層的木結構建築（即外觀為 5 層，內部實際為 6 層），高 29.4 公尺，是日本現存最古老、也是唯一一座黑色基調的天守。據推測，大天守建成於 1594 年，一同竣工的還有乾小天守和渡櫓，它不但具備瞭望塔樓和倉庫的功能，還能在城郭被圍時成為守軍最後的堡壘。

一樓

一樓中央是「母屋」（主屋），四周是「武者走」（武士走廊）。從柱子上的小孔可以推測，母屋曾經用移門分隔為四個空間，分別用於存放軍糧、火藥和武器等物資。

二樓

二樓的大小和功用都與一樓類似，但這一層的格子窗提供了更加開闊的視野，方便守軍開火攻擊下方來犯的敵人。柱子上的小孔顯示，這一層最多能夠分隔出 8 個房間，在緊急情況下可用於儲物或屯兵。二樓如今是松本城鐵砲博物館（日語中的「鐵砲」就是槍械），用來展示火繩槍。

三樓

三樓又被稱為「隱藏層」或「暗闇重」（闇，音同「黯」），因為室內採光全靠三角形千鳥破風上的格子天窗。從建築結構上看，三樓剛好位於二樓寄棟造式（廡殿頂）斜面屋頂的屋簷下方，因此無法另行開窗。

這一層的確切用途尚不明瞭。天花板的一角有個神秘的開口，直通四樓。有觀點認為，這或許是當年在修築天守時用來吊運物資的地方。

四樓

從四樓開始，內部結構就發生了明顯的變化：天花板更高，窗戶更多，立柱也全都打磨得光滑平整。和下面三層不同，這裡空間開闊，立柱上沒有小洞。不過這一層應該也曾被分隔為三個空間，只不過使用的是簾子或折疊屏風。

四樓最大的區域是為城主準備的起居空間，如果遭遇圍城，便可暫時入住這裡。這個空間與其他區域之間有細竹簾相隔，以示使用者的地位之高。

五樓

五樓在東南西北四個方向都開有寬大的格子窗，可在確保安全的情況下隨時監控城郭內及周遭情況。據推測，這一層有可能是遭遇敵襲時的作戰會議室。

本層北側的一根立柱上有繩索磨出的痕跡。據說，這些印記是在 1903 年至 1913 年留下的，當時人們曾用繩索來扶正開始傾斜的大天守。

六樓

這一層的四面窗戶視野開闊，周邊景象一覽無餘，可以眺望遠處的山脈。一旦出現緊急情況，六樓便是觀察敵情的瞭望處。

在 1950 年代的大修復中，人們發現當初六樓外側很可能曾被規劃為一條勾欄回廊。或許是考慮到松本地區冬季嚴寒，或許是為了防止因雨水滲入建築內部對低處樓層造成損害，最終將空間留給了室內。

<日本語仮訳>

大天守の各階

五重六階の大天守は、外観 5 層、内層 6 階の木造建築である。高さ 29.4m の大天守は、見張り台であり、貯蔵庫であり、そして籠城の際の最後の砦としても機能していた。また、現存天守の中では日本最古で、そして唯一の漆黒の天守でもある。乾小天守、渡櫓とともに 1594 年に完成したとされる。

1 階

1 階は中央の母屋を武者走が取り囲んでいる。柱に開けられた小さな穴から、かつて母屋は引き戸で 4 つの部屋に分かれており、食糧や火薬、武器などを保管していた可能性がある。

2 階

2 階は 1 階と同じような大きさと機能だが、格子窓があるため、守備側は敵軍を見下ろすことができ、より広い視界を確保することができた。また、柱に開けられた小さな穴から、最大 8 つの部屋があったことがわかり、倉庫として、あるいは非常時の武者の詰め所として使用された可能性がある。この階は現在、「松本城鉄砲蔵」（日本語の「鉄砲」とは、銃器のこと）として火縄銃の展示が公開されている。

3 階

3 階は「隠し階」または「暗闇重」とも呼ばれ、千鳥破風の木連格子状からほのかに光が差し込むだけである。構造上、3 階は 2 階上部から突き出た寄棟屋根の庇に隠れており、窓を設けることは不可能である。

この階の正確な用途は不明である。天井の一角に 4 階への吹き抜けがあるが、この開口部の用途は謎である。天守建設時に資材の昇降に用いたスペースの名残りという見解もある。

4 階

4 階以上になると、城の内部は大きく変化する。天井が高くなり、窓が増え、柱はすべて滑らかに鉋掛けされている。下層階のように柱に小さな穴が開いているわけではなく、開放的な空間を御簾や屏風で 3 部屋に仕切っていたと思われる。

4 階の一番大きな間仕切りは、もし籠城することがあれば、城主の居間になった場所であると思われる。この部屋は薄いすだれで区切られており、使用者の地位の高さを窺わせる。

5 階

5 階は、敵襲時には作戦室として使用したと思われる。この階の窓は格子状で広く、四方向に面しているため、城内や周辺を安全に監視することが可能である。

北側の柱には、ロープの跡が残っている。1903 年から 1913 年にかけて、傾き始めた大天守を引き起こすため使用されたものと言われている。

6 階

6 階は有事の際には物見として使用されたと思われる。四方に開いた窓からは、周囲の景色が遠くの山々まで見渡せる。

1950 年代の修理で、6 階の外側は勾欄がつく設計になっていた可能性があることが判明した。松本の厳しい冬を考慮して、あるいは雨水が浸入して下の階を傷めることを恐れて、室内空間を一回り大きく変更したと思われる。

【タイトル】 大手門

【想定媒体】 看板

<簡体字>

大手門

当年矗立在这里的大手門仅供松本城主和高贵宾客出入。这道城门将平民和低阶武士居住的城下町（围绕城郭发展起来的市镇）与高墙环绕的城内分隔开来。大手門在进入明治时代(1868-1912)后的第一个十年间即被拆除，地图上用红圈标出了它与城郭以及最外侧护城河“总堀”的位置关系（右上角）。

大手門由两道相对而立的城门组成，中间隔着一个小广场“枅形”（枅，音同“升”；因形似量米的箱形量具“枅”而得名）。枅形小广场西南角的門将它和城下町相连，北侧的門大得多，也威武得多，直接通往天守。

枅形小广场几乎完全被总堀环绕，大幅增加了攀爬乃至突破城墙的难度。这种设计犹如瓶颈，守城一方只需投入少量兵力，便可以抵挡攻城的敌军。

从大手門拆下来的部分石材被用在了南侧千岁桥的修建中。2012年，考古发掘发现了枅形小广场东侧石垣的一段残壁。研究者据此推断出了城门最初的尺寸和方位。此外，发掘中还出土了刻有水野家族和户田家族家纹的屋瓦。前者曾于1642年至1725年出任松本藩主；后者两度执掌松本藩，分别为1617年至1633年和1726年至1869年。

<繁体字>

大手門

當年矗立在這裡的大手門僅供松本城主和高貴賓客出入。這道城門將平民和低階武士居住的城下町（圍繞城郭發展起來的市鎮）與高牆環繞的城內分隔開來。大手門在進入明治時代（1868-1912）後的第一個十年間即被拆除，地圖上用紅圈標出了它與城郭以及最外側護城河「總堀」的位置關係（右上角）。

大手門由兩道相對而立的城門組成，中間隔著一個小廣場「枅形」（枅，音同「升」；因形似量米的箱形量具「枅」而得名）。枅形小廣場西南角的門將它和城下町相連，北側的門大得多，也威武得多，直接通往天守。

枅形小廣場幾乎完全被總堀環繞，大幅增加了攀爬乃至於翻越城牆的難度。這種設計猶如瓶頸，守城一方只需投入少量兵力，便可以抵擋攻城的敵軍。

從大手門拆下來的部分石材被用在了南側千歲橋的修建中。2012年，考古發掘發現了枅形小廣場東側石垣的一段殘壁，研究者也據此推斷出了城門最初的尺寸和方位。此外，

發掘中還出土了刻有水野家和戸田家家紋的屋瓦，前者曾於 1642 年至 1725 年出任松本藩主；後者在 1617 年至 1633 年和 1726 年至 1869 年曾兩度執掌松本藩。

<日本語仮訳>

大手門

かつてこの場所にあった大手門は、松本城主や上級の来客に利用されていた。庶民や下級武士が住む城下町（城郭を中心に発達した都市）と高い塀で囲まれた城内を分ける門であった。大手門は明治時代（1868-1912）の最初の 10 年間に取り壊されたが、城と最も外側の総堀の位置関係は地図（右上）の赤丸で示されている。

大手門は、柵形（度量衡器の一つ方形の「柵」にちなんで名付けた。）の両端にある二つの門で構成されていた。柵形の南西にある門は、柵形と城下町とをつなぎ、柵形の北端は、天守へとつながるより大きく立派な門である。

柵形は総堀でほぼ完全に囲まれており、城壁をよじ登ったり突破したりすることは困難であった。そのため、城内に侵入しようとする敵を少数の守備隊で食い止めることができ、障害の役割を果たした。

門を取り壊す際、石材の一部は南側にある千歳橋に再利用された。また、2012 年に行われた発掘調査では、柵形の東側の石垣の一部が発見された。そこから、門の大きさや向きが判明した。1642 年から 1725 年まで統治した水野家と、1617 から 1633 年までと 1726 年から 1869 年まで二度統治した戸田家の家紋が入った瓦も発見されている。

【タイトル】 おもてなし隊

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

“おもてなし”表演队

进入松本城，常常可以见到身穿传统铠甲或服饰的人经过，他们都是松本城“おもてなし(Omotenashi)”表演队的队员。“おもてなし”表示“以诚待客”，表演队以历史人物的形象迎候来访者，让城郭之旅更加鲜活。

石川数正

石川数正(?-1592)是松本城的第一任城主，松本城最早的三座塔楼——大天守、乾小天守和渡櫓都是由他计划建造的。

石川数正是活跃于日本战国时代(1467-1600)的武将之一。他原本一直属于德川幕府(1603-1867)创始人德川家康(1543-1616)的阵营，却在 1585 年突然投入其对手丰臣秀吉(1537-1598)麾下。1590 年，丰臣秀吉将松本城封给了石川数正。但仅仅两年后，石川数正便在随丰臣秀吉出兵朝鲜半岛时身亡。

小笠原秀政与登久姬

小笠原家族于 1613 年至 1617 年执掌松本城，前后出过两位城主，小笠原秀政(1569-1615)是其中第一位。

任命小笠原家族统治松本城的是德川幕府第一位将军德川家康。由于石川家族此前的背叛（详见上文），德川家康将其第二任城主石川康长(1554-1642)逐出松本城，另提拔小笠原秀政出任城主。这对小笠原秀政而言犹如返乡，因为在石川家族统治时期之前，小笠原家族就曾掌管这里，也正是他们将此地命名为“松本”。

登久姬(1576-1607)是小笠原秀政的妻子，她的婚姻是典型的家族联姻。彼时，武将家族之间常常通过联姻结成同盟来强化彼此忠诚度。登久姬的父亲是德川家康的长子，母亲是 16 世纪另一位大军阀织田信长(1534-1582)的长女。丰臣秀吉则是促成她与小笠原秀政这段婚姻的媒人。由此可见，当时织田信长、丰臣秀吉和德川家康三大武将都介入了婚姻政治之中。

松平直政

松平直政(1601-1666)是松平家族中唯一的松本城城主，他新建了辰巳附櫓和月见櫓，扩大了天守的规模。

德川幕府统治期间，严禁各地大名（领主）扩建城郭，就连修葺也必须首先得到幕府批准。但或许因为松本直政是德川家康的孙子，才得到了扩建松本城的特别许可。1638年，松本直政调任松江城（今岛根县）城主。

芥川九郎左卫门

芥川家族是日本著名的甲贺流忍术家族，为曾在1617年至1633年和1726年至1869年间两度执掌松本城的户田家族服务。第五代继承“九郎左卫门”名号的是芥川义矩(1732-1810)，他的忍术尤为精湛，世间还流传着他的传说。据说某日夜晚，芥川义矩正在家中劈柴，一名刺客潜入了他的家里。当刺客对他进行偷袭时，芥川义矩速度奇快，几乎在挥臂砍向柴木的同时斩断了刺客的胳膊。

<繁体字>

「おもてなし」表演隊

進入松本城，常常可以見到身穿傳統鎧甲或服飾的人經過，他們都是松本城「おもてなし(Omotenashi)」表演隊的隊員。「おもてなし」表示「以誠待客」，表演隊以歷史人物的形象迎接遊客，讓城郭之旅更加鮮活。

石川數正

石川數正（?-1592）是松本城的第一任城主，松本城最早的三座塔樓——大天守、乾小天守和渡櫓都是由他計畫建造的。

石川數正是活躍於日本戰國時代（1467-1600）的武將之一。他原本一直屬於德川幕府（1603-1867）創始人德川家康（1543-1616）的陣營，卻在1585年突然投入其對手豐臣秀吉（1537-1598）麾下。1590年，豐臣秀吉將松本城封給了石川數正。但僅僅兩年後，石川數正便在隨豐臣秀吉出兵朝鮮半島時身亡。

小笠原秀政與登久姬

小笠原家於1613年至1617年執掌松本城，前後出過兩位城主，小笠原秀政（1569-1615）是其中第一位。

任命小笠原家統治松本城的是德川幕府第一位將軍德川家康。由於石川家此前的背叛（詳見上文），德川家康將其第二任城主石川康長（1554-1642）逐出松本城，提拔小笠原秀政出任城主。這對小笠原秀政而言猶如返鄉，因為在石川家統治時期之前，小笠原家就曾掌管這裡，也正是他們將此地命名為了「松本」。

登久姬（1576-1607）是小笠原秀政的妻子，她的婚姻是典型的家族聯姻。彼時，武將家族之間常常通過聯姻結成同盟來強化彼此忠誠度。當時織田信長、豐臣秀吉和德川家康三大武將都介入了婚姻政治之中，登久姬的父親是德川家康的長子，母親是16世紀另一位大軍閥織田信長（1534-1582）的長女，豐臣秀吉則是促成她與小笠原秀政這段婚姻的媒人。

松平直政

松平直政（1601-1666）は松平家中唯一の松本城城主，他新建了辰巳附櫓和月見櫓，擴大了天守的規模。

徳川幕府統治期間，嚴禁各地大名（領主）擴建城郭，就連修葺也必須首先得到幕府批准。或許因為松本直政是徳川家康的孫子，才得到了擴建松本城的特別許可。1638年，松本直政調任松江城（今島根縣）城主。

芥川九郎左衛門

芥川家は日本著名的甲賀流忍術家族，為曾在1617年至1633年和1726年至1869年間兩度執掌松本城的戸田家服務。第五代繼承「九郎左衛門」名號的是芥川義矩（1732-1810），他的忍術尤為精湛，據說某日夜晩，芥川義矩在家中劈柴，一名刺客潛入了他家裡偷襲他，芥川義矩速度奇快，幾乎在揮臂劈柴同時砍斷了刺客的胳膊。

<日本語仮訳>

おもてなし隊

松本城内でよく見かける伝統的な鎧や衣装を身にまとった人物たちは、松本城の「おもてなし隊」の一行だ。「おもてなし」とは、お客様を歓待することで、歴史上の人物たちがお客様をお迎えして城内見学を盛り上げてくれる。

石川数正

石川数正（?-1592）は松本城の初代城主で、松本城の最も古い3つの櫓、大天守、乾小天守、渡櫓の築城に携わった人物である。

石川は、戦国時代（1467-1600）に活躍した多くの武将の一人で、のちに徳川幕府（1603-1867）を開くことになる徳川家康（1543-1616）の長年の盟友であった。しかし、1585年に石川は突然、家康のライバルである豊臣秀吉（1537-1598）に忠誠を誓い、豊臣秀吉のもとに加わった。1590年に秀吉は石川に松本城を与えたが、石川はそのわずか数年後、秀吉による朝鮮半島への出兵の最中に死去した。

小笠原秀政と登久姫

小笠原秀政（1569-1615）は、1613年から1617年にかけて松本城を治めた小笠原家の2人の城主のうちの1人である。

小笠原家は、徳川将軍家の初代・徳川家康から城の支配権を与えられた。家康は石川家を裏切り者として、二代目城主の石川康長（1554-1642）を松本城から追い出し（前述）、秀政に城を与えた。これが秀政にとっては里帰りである。小笠原家は石川家に来る前からこの地を治めており、「松本」という名前をつけたのも彼らである。

登久姫（1576-1607）は、秀政の妻である。武将が結婚を機に同盟を結び、忠誠心を示すこ

とはよくあることである。登久姫の父親は家康の長男、母親は 16 世紀もう一人有力武将である織田信長（1534-1582）の長女だった。秀政との結婚は豊臣秀吉が仲介したもので、信長、秀吉、家康の三大武将が政略結婚にかかわったことがわかる。

松平直政

松平直政（1601-1666）は、松平家唯一の松本城主である。松平直政は辰巳附櫓と月見櫓を増築し、天守の規模を拡大した。

徳川幕府の時代には、大名（領主）による城の拡張は許されず、修理には幕府の認可が必要であった。松平は家康の孫にあたり、松本城の拡張を特別に許可されたのであろう。1638 年、松平直政は松江城（現・島根県）に移封された。

芥川九郎左衛門

芥川家は 1617 年から 1633 年、および 1726 年から 1871 年まで松本城主であった戸田家に仕えた甲賀流忍術の名家である。その中でも「九郎左衛門」と名乗った 5 代目の芥川義矩（1732-1810）は特に優れた忍者であったと伝えられており、その武勇にかかわって伝説が残されている。それは、ある晩、義矩が薪を割っていると刺客が忍び込んだという。義矩が薪を割ろうとして斧を振りかざすと、その動作で刺客の腕が切断されてしまったという伝説である。

【タイトル】 松本城へようこそ

【想定媒体】 パンフレット

<簡体字>

欢迎来到松本城

松本城是日本最古老的城郭之一，建于公元 16 世纪的最后十年间，当时日本处于战国时代(1467-1600)，各地军阀武将为了争夺政权而征战不休。19 世纪时，这座城郭险些被拆除，所幸在本地居民不懈努力下得以保全。1936 年，松本城依据《国宝保存法》被指定为国宝，1952 又根据新制定的《文化财保护法》再次被指定为国宝。如今，日本全国仅存 12 座江戸时代(1603-1867)及之前修建的城郭，松本城正是其中之一。

在这 12 座城郭中，松本城的设计堪称独一无二。城内三座主要建筑大天守、乾小天守和渡櫓均在石川家族统治下的 1594 年建成。辰巳附櫓和月见櫓则于 1634 年松平家族统治时期增建。因此，松本城融合了战时与和平时期的建筑风格。

去见“おもてなし”表演队！

“おもてなし(Omotenashi)”的意思是“以诚待客”。在松本城里，随时可能遇见身着传统铠甲和服饰的“おもてなし”队员。扫描二维码，可了解更多历史人物以及他们和松本城的故事。

<繁体字>

歡迎來到松本城

松本城是日本最古老的城郭之一，建於西元 16 世紀的最後十年間，當時日本處於戰國時代（1467-1600），各地軍閥武將為了爭奪政權而征戰不休。19 世紀時，這座城郭險些被拆除，所幸在當地居民不懈努力下得以保全。1936 年，松本城依據《國寶保存法》被指定為國寶，1952 年又根據新制定的《文化財保護法》再次被指定為國寶。如今，日本全國僅存 12 座江戸時代（1603-1867）及之前修建的城郭，松本城正是其中之一。

在這 12 座城郭中，松本城的設計堪稱獨一無二，融合了戰時與和平時期的建築風格。城內三座主要建築大天守、乾小天守和渡櫓都在石川家統治下的 1594 年建成，辰巳附櫓和月見櫓則於 1634 年松平家統治時期增建。

去見「おもてなし」表演隊！

「おもてなし（Omotenashi）」的意思是「以誠待客」。在松本城裡，隨時可能遇見身著傳統鎧甲和服飾的「おもてなし」隊員。掃描 QR Code，可了解更多歷史人物以及他們和松本城的故事。

<日本語仮訳>

松本城へようこそ

松本城は、日本で最も古い城の一つで、16世紀の最後の10年間に建てられた。当時は軍閥が国の支配権をめぐる争っていた戦国時代（1467-1600）であった。19世紀には取り壊されそうになったが、地元住民の熱心な保存運動によって保存された。1936年に「国宝保存法」により、国宝に指定され、新たに制定された「文化財保護法」によって、1952年に再度国宝に指定された。江戸時代（1603-1867）およびそれ以前に建築された、現代まで保存されている12城の一つである。

現存する12城の中で、松本城の設計は独特である。大天守、乾小天守、渡櫓の三棟は、1594年、石川家の時代に建てられたものである。1634年、松平家の時代に辰巳附櫓と月見櫓が増築された。このように、戦時と平時の建築様式が合体しているのが、この城の特徴である。

「おもてなし隊」に会いに行こう！

「おもてなし」とは、お客様を歓待すること。松本城の「おもてなし隊」は、伝統的な鎧や衣服に身を包み城内を歩いている。QRコードを読み取ると、松本城にゆかりのある歴史上の人物について詳しく知ることができる。

【タイトル】 日本の城とは？

【想定媒体】 パンフレット

<簡体字>

日本的“城”是什么？

日本这些高大的天守都是战国时代(1467-1600)的产物。那是一个血色的时代，自 1336 年开始执政的室町幕府(1336-1573)渐渐丧失控制力，接下来的数十年间，各派势力为争夺统治权而彼此征伐。

天守是战国时代晚期“城”的特征。这一时期的城郭是武将统治各自领地的政治中枢。在此之前的数百年里，带有防御工事的要塞早已存在，但早期的“城”通常建在山顶，四面有土垒或木栅栏护卫。

山顶城郭易于防守，却因远离农田和主干道，并不适合作为政治中心。自 16 世纪早期开始，“城”的选址从高山转向丘陵地带，直至平原。也正是在这种渐进式的演变过程中，诞生了如今人们所熟知的日本“城”中最具标志性的天守。

松本城建于 16 世纪末，结合了新、旧筑城技术。从外观看，层塔型大天守与后世诸“城”的天守形态相似；然而从内部结构看，大天守则相当于在天守上叠加了望楼（瞭望塔），更接近早期城郭的建筑特点。由此可见，松本城是日本城郭设计转变阶段的代表。

<繁体字>

日本的「城」是什麼？

日本這些高大的天守都是戰國時代（1467-1600）的產物。那是一個血色的時代，自 1336 年開始執政的室町幕府（1336-1573）漸漸喪失控制力，接下來的數十年間，各派勢力為爭奪統治權而彼此征戰。

天守是戰國時代晚期「城」的特徵，這一時期的城郭是武將統治各自領地的政治中樞。在此之前的數百年裡，帶有防禦工事的要塞早已存在，但早期的「城」通常建在山頂，四面有土壘或木柵欄護衛。

山頂城郭雖然易於防守，卻因遠離農田和交通要道，並不適合做為政治中樞。自 16 世紀早期開始，「城」的選址從高山轉向丘陵地帶，直至平原。也正是在這種漸進式的演變過程中，誕生了如今人們所熟知的日本「城」中最具標誌性的天守。

松本城建於 16 世紀末，結合了新、舊築城技術，是城郭設計轉變階段的代表。層塔型大天守的外觀和後世諸「城」的天守形態相似；然而，大天守的內部建築結構相當於在天守上疊加望樓（瞭望塔），更接近早期城郭的建築特點。

<日本語仮訳>

日本の城とは？

日本の巨大な天守は、戦国時代（1467-1600）の産物である。1336年から続いた室町幕府（1336-1573）の統制力が衰退しはじめ、その後数十年にわたってさまざまな勢力が日本の統治をめぐる争った戦国時代（1467-1568）の産物である。

天守の存在こそが戦国時代末期の城の特徴と言える。城は当時武将たちが領地を統治するための本拠地としていた。この頃にはすでに数百年にわたって、要塞化された城郭は存在していたが、初期の城は山の上に築かれ土塁や木柵で囲まれているのが一般的であった。

山上の城は防御しやすいが、農地や街道から遠く、行政の中心地としては不向きであった。1500年代初頭から、城は山ではなく丘の上に築かれるようになり、やがて平地にも築かれるようになった。このような流れの中で、日本の城を象徴する天守は誕生したのである。

16世紀後半に築城された松本城は、新旧の技術が混在した城であった。大天守の外観は、後世の天守形式によく似ているが、天守の内部構造は、天守の上に望楼を積み重ねたようなもので、より初期の城の特徴を示している。このように、松本城は城郭設計の過渡期を代表する城と言ってよいであろう。

【タイトル】 戦と平和の城

【想定媒体】 パンフレット

<簡体字>

战争与和平并存之城

松本城の特色は、戦争時代と和平时代の建築設計。

备战是筑城的初衷，松本城具备众多防御设施。比如，墙上的四方形“狭间”（箭窗）用来向敌军开枪或射箭；架空在墙外的“石落”（投石口）则可以攻击渡过护城河、爬上石垣的敌人。

后来扩建的建筑则主要用于接待要人。以月见櫓为例，如果遭遇围城之战，它优雅的拱形天花板和朱漆栏杆檐廊就会变得十分不利。辰巳附櫓的悬空部分也存在同样的矛盾，外观貌似石落，但它并没有“开口”，上面完全被楼板覆盖，根本无法在战斗中发挥作用。

<繁体字>

戰爭與和平並存之城

松本城の特色は、戦争時代と和平时代の建築設計。

築城の初衷は備戦、松本城有許多防禦設施，例如，牆上的四方形「狹間」（箭窗）用來向敵軍開槍或射箭、架空在牆外的「石落」（投石口）則可以攻擊渡過護城河、爬上石垣的敵人。

後來擴建的建築則主要用於接待要人。以月見櫓為例，如果遭遇圍城之戰，它優雅的拱形天花板和朱漆欄杆簷廊就會變得十分不利。辰巳附櫓的懸空部分也存在同樣的矛盾，外觀貌似石落，但它並沒有「開口」，上面完全被樓板覆蓋，根本無法在戰鬥中發揮作用。

<日本語仮訳>

戦と平和の城

松本城の特徴は、戦時と平時の対照的な建築デザインが合体しているところにある。

松本城は、攻撃されることを想定して築かれた天守であることが、その充実した防御構造から窺える。城壁にある四角形の穴は、敵軍に弓や火縄銃を撃つために開けられたものである。また、堀を越えて石垣の上にたどり着いた敵は、石落と呼ばれる城壁から突き出た穴から撃退することも可能であった。

後に増設された建物は、要人をもてなすために作られたものである。例えば月見櫓の船底天井や朱塗りの縁側は、城が包囲された時などには不利なものである。こうした矛盾は、辰巳附櫓の張り出し

にも見られる。外見は石落のようだが、開口部は床板で完全に覆われており、攻め込まれたときには役に立たないものである。

【タイトル】 1 階と 2 階

【想定媒体】 パンフレット

<簡体字>

一樓

一樓原本用於貯備軍糧、火藥和武器等物資。寬大的走廊和眾多的狹間（箭窗）方便士兵迅速就位，保護城郭。

本層展出與天守建築相關的展品，例如：一段屬於 16 世紀支撐天守台的木柱；一對鯨瓦，「鯨」是想像中的神獸，傳說能夠保護城郭不受火患。

二樓

二樓是倉儲空間，也可能用來集結武士。通過東、南、西三面牆上的粗木豎格子窗，守軍可以開槍抵禦敵軍。

這一層如今是松本城鐵砲博物館，「鐵砲」即指槍械。這裡展出多種 16 世紀至 19 世紀晚期的日本和西方的火繩槍以及相關物品。館內藏品均由本地已故火器愛好者赤羽通重及赤羽加代子夫婦交由松本市保管。

<繁体字>

一樓

一樓原本用於貯備軍糧、火藥和武器等物資。寬大的走廊和眾多的狹間（箭窗）方便士兵迅速就位，保護城郭。

本層展出與天守建築相關的展品，例如：一段屬於 16 世紀支撐天守台的木柱；一對鯨瓦，「鯨」是想像中的神獸，傳說能夠保護城郭不受祝融之災。

二樓

二樓是倉儲空間，也可能是用來集結武士。透過東、南、西三面牆上的粗木豎格子窗，守軍可以開槍抵禦敵軍。

這一層如今是松本城鐵砲博物館，「鐵砲」即指槍械。這裡展出多種 16 世紀至 19 世紀晚期的日本和西方的火繩槍以及相關物品，原為當地已故火器愛好者赤羽通重及赤羽加代子夫婦的收藏品，現交由松本市保管。

<日本語仮訳>

1 階

1 階は食糧や火薬、武器などの物資を備蓄する場所として使われた。通路が広く、狭間が多いた

め、兵士は城を守るために素早く身構えることができた。

この階では、16世紀の天守台支持柱や、火災から城を守ったとされる想像上の動物を模った鯨瓦など、天守の建築にまつわる展示を行っている。

2階

2階には倉庫があり、武士の集合場所として使用された可能性がある。東、南、西の各壁には厚い格子の窓があり、そこから敵軍を撃退するための鉄砲による攻撃ができた。

この階には「松本城銃砲蔵・赤羽コレクション」があり、日本語の「鉄砲」とは、銃器のこと。ここでは、16世紀から19世紀後半にかけての和洋の火縄銃などの品々が幅広く展示されている。これらのコレクションは、地元の火器愛好家である故赤羽通重・加代子夫妻から寄託されたものである。

【タイトル】 3階と4階

【想定媒体】 パンフレット

<簡体字>

三楼

三楼天花板低矮，且只有一个格子天窗可采光，因此被称为“隐藏层”或“暗闇重”（闇，音同“黯”）。从建筑构造上看，这一层如同隐藏在第二层屋檐下的阁楼，所以整座大天守虽然有六层，但从外面看起来只有五层。三楼的具体用途暂未可知，有可能是仓储空间。

四楼

四楼的内部空间和下面三层有很大区别。这层的天花板很高，立柱全都打磨得光滑平整。室内过去可能用折叠屏风或幕帘分成了几个独立的房间，其中最大的一间是为城主准备的。如今这里用被称为“御帘”的竹帘区隔。

提示：四楼及以上楼层的楼梯均狭窄且陡峭。

<繁体字>

三樓

三樓只有一個格子天窗可採光，天花板低矮，因此被稱為「隱藏層」或「暗闇重」（闇，音同「黯」）。從建築結構上看，這一層如同隱藏在第二層屋簷下的閣樓，所以整座大天守雖然有六層，但從外面看起來只有五層。三樓的具體用途暫未可知，有可能是倉儲空間。

四樓

四樓的內部空間和下面三層有很大區別。這層立柱全都打磨得光滑平整，樓層很高，室內過去可能用折疊屏風或幕簾分成了幾個獨立的房間，其中最大的一間是為城主準備的。如今這裡用被稱為「御簾」的竹簾區隔。

提示：四樓及以上樓層的樓梯均狹窄且陡峭。

<日本語仮訳>

3階

天井の低い3階は、格子状の明かりとりが一ヶ所だけあり、そのため「隠し階」または「暗闇重」と呼ばれている。二重目の屋根に隠れた屋根裏部屋になっているため、外からは見えない。このように、松本城は5階建てのように見えるが、実は6階建てなのである。3階の用途は不明だが、倉庫として使

われていた可能性もある。

4 階

4 階の内装は、下層階とはかなり趣が異なる。天井は高く、柱はすべて滑らかに仕上げられている。内部は屏風や幕で仕切られていたようだ。最も広い部屋は城主の部屋で、現在は御簾で仕切られている。

注意：4 階以上の階段は幅が狭く、非常に急である。

【タイトル】 5階と6階

【想定媒体】 パンフレット

<簡体字>

五楼

五楼可能是遭遇敌袭时的作战会议室。本层借助三角形的破风在室内开辟出了左右两间小凹室。

六楼

六楼是用作观测敌情的瞭望塔。东、南、西、北四个方向均开有大窗，可远眺四周群山。这一层没有天花板，可以直接看到复杂的桔木结构。屋顶垂直相交的梁木上有一座小神龛，里面供奉着松本城的保护神“二十六夜神”。

<繁体字>

五樓

五樓可能是遭遇敵襲時的作戰會議室。本層借助三角形的破風在室內開闢出了左右兩間小凹室。

六樓

六樓是用作觀測敵情的瞭望塔。東、南、西、北四個方向均開有大窗，可遠眺四周群山。這一層沒有天花板，可以直接看到複雜的桔木結構。屋頂垂直相交的樑木上有一座小神龕，裡面供奉著松本城的保護神「二十六夜神」。

<日本語仮訳>

5階

5階は、襲撃を受けた時の作戦会議室として使われたと思われる。この階の両側にある破風入り込み間は、屋根の破風によってつくられた内部空間である。

6階

6階は襲撃者に備える見張り台として使われたようである。広い窓は四方に面し、四方の山々まで見渡すことができる。この階には天井がなく、複雑な桔木構造が見える。また、天井の井桁梁の上には、城の守護神とされる「二十六夜神」を祀る小さな祠がある。

【タイトル】 本丸御殿跡・二の丸御跡

【想定媒体】 パンフレット

<簡体字>

本丸御殿与二之丸御殿遗址

松本城の本丸御殿遗址和二之丸御殿遗址均为国家指定史迹。

天守前方的草坪上，黑瓦围出了本丸御殿所在的区域。本丸御殿位于松本城核心区“本丸”内，占地面积约 2730 平方米。这座御殿既是城主的居所，也是松本藩的政治中枢，城主在这里接见大臣、举办典礼、处理政务。

1727 年，本丸御殿失火焚毁，幸而火势没有波及天守。火灾后，松本藩的行政中枢职能转移到二之丸御殿，这一处御殿面积较小，位于城郭的二级区域“二之丸”内。一个半世纪之后，二之丸御殿也失火被毁。1979 年至 1984 年，二之丸御殿遗址进行发掘，现场的出土文物勾勒出了一幅当年城郭日常生活的画卷。如今，部分文物在大天守二楼展出。

虽本丸御殿和二之丸御殿均已不存，但来访者可以借助智能手机 App“StreetMuseum”来确认它们及城郭中其他建筑模拟复原后的样子。

<繁体字>

本丸御殿與二之丸御殿遺址

松本城的本丸御殿遺址和二之丸御殿遺址均為國家指定史跡。

天守前方的草坪上，黑瓦圍出了本丸御殿所在的區域。本丸御殿位於松本城核心區「本丸」內，占地面積約 2730 平方公尺。這座御殿既是城主的居所，也是松本藩的政治中樞，城主在這裡接見大臣、舉辦典禮、處理政務。

1727 年，本丸御殿失火焚毀，幸而火勢沒有波及天守。火災後，松本藩的行政中樞職能轉移到二之丸御殿，這一處御殿面積較小，位於城郭的二級區域「二之丸」內。一個半世紀之後，二之丸御殿也失火被毀。1979 年至 1984 年，二之丸御殿遺址進行發掘，現場的出土文物勾勒出了一幅當年城郭日常生活的畫卷。如今，部分文物在大天守二樓展出。

雖說本丸御殿和二之丸御殿已不復存在，遊客可以透過下載智慧型手機 App「StreetMuseum」，來了解兩殿及城郭中其他建築模擬復原後的樣子。

<日本語仮訳>

本丸御殿跡・二の丸御跡

本丸御殿跡と二の丸御殿跡は国の史跡に指定されている。

天守の前の芝生にある黒い瓦は、かつて重要な建物があったことを表している。本丸御殿、城主の居城であると同時に、主従の対面・儀式の場、藩政のための庁舎でもあった。城の一番重要な曲輪「本丸」の約 2,730 平方メートルを占めていた。

本丸御殿は 1727 年に焼失したが、天守には延焼しなかった。その後、藩の行政機能は二の丸御殿に移された。城二番目に重要な曲輪「二の丸」に位置するやや小さいこの建物も、1 世紀半後に焼失している。1979 年から 1984 年にかけての発掘調査で、二の丸御殿跡から出土した遺物から、城の日常生活が窺える。これらの遺物の一部が大天守の 2 階に展示されている。

本丸御殿や二の丸御殿は現存しないが、スマートフォンアプリ「ストリートミュージアム」で城内の建造物の再現を見ることができる。

【タイトル】 一般情報

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**基本信息**门票

	成人	儿童 (6~15岁) ※	
个人	700 日元	300 日元	
团体 (每人)	630 日元	270 日元	20~99 人
	560 日元	240 日元	100~299 人
	490 日元	210 日元	300 人及以上

※5岁及以下儿童免费。

松本市居民：凭身份证可免费进入本丸庭园。参观天守需购票。**残障人士**（每位限一名陪同者）：出示相关证件可免费进入本丸庭园。**夏季延长开放期内**（8月中旬）：穿着浴衣或其他日本传统服饰者可免费进入本丸庭园。开放时间

除 12 月 29~31 日外，松本城全年开放。

常规开放时间	8:00~17:30 (最后入场：16:30)
黄金周（4月底至5月初）延长开放期间	8:00~18:00 (最后入场：17:30)
夏季（8月中旬）延长开放期间	

天守内平均参观时长：45~60 分钟

黄金周（4月底至5月初）和盂兰盆节（8月中旬）期间，参观者较多。为确保安全，可能会限制单一时段内进入天守内的人数。请依序沿着本丸庭园内的参观路线排队入场。届时，庭园内部分区域可能因排队原因暂停开放。

松本城的“おもてなし”表演队

每天 8:30~16:00 点之间，本丸庭园内均有身着城主、公主、武士及忍者服饰的人物出没，这是松本城的“おもてなし(Omotenashi)”表演队。“おもてなし”的意思是“以诚待客”。表演队成员所扮演的都是与松本城有关的著名历史人物。请随意合影，或请他们为你拍照，留下城郭之旅的纪念。（演出队具体出场时间依天气条件而定）

注意事项：

- 大天守是一座 6 层建筑，楼梯陡峭，没有电梯。**为保护松本城的历史建筑，并未增加任何无障碍设施。登上六楼需攀爬近 140 级台阶，楼梯最大坡度达 61 度。
- 进入天守需脱鞋。**天守入口处提供鞋袋，参观者可以把鞋放在袋子内带入天守。
- 天守后方的红色“埋桥”不开放。**参观者需从正面的黑门进入。
- 不可携带宠物进入本丸庭园和天守内。**包括装在宠物箱和包袋内的宠物均不得入内。持证服务犬可入内，但需提前在城郭管理处办理许可。
- 参观者离开本丸后再度入内需另行付费。**
- 请勿携带外卖进入本丸庭园。**纪念品商店旁有冰淇淋和饮料自动贩售机。

礼品与纪念品

纪念品商店位于本丸庭园内。店内提供丰富多样的松本主题食物、工艺品、服装等。

松本城信息手册

<繁体字>

基本資訊

門票

	成人	兒童 (6~15 歲) ※	
個人	700 日圓	300 日圓	
團體 (每人)	630 日圓	270 日圓	20~99 人
	560 日圓	240 日圓	100~299 人
	490 日圓	210 日圓	300 人及以上

※5 歲及以下兒童免費。

松本市居民：憑身份證可免費進入本丸庭園，參觀天守需購票。

殘障人士（每位限一名陪同者）：出示相關證件可免費進入本丸庭園。

夏季延長開放期內（8 月中旬）：穿著浴衣或其他日本傳統服飾者可免費進入本丸庭園。

開放時間

除 12 月 29～31 日外，松本城全年開放。

常規開放時間	8:00～17:30 (最後入場：16:30)
黃金周 (4 月底至 5 月初) 延長開放期間	8:00～18:00 (最後入場：17:30)
夏季 (8 月中旬) 延長開放期間	

天守內平均參觀時長：45～60 分鐘

黃金週 (4 月底至 5 月初) 和盂蘭盆節 (8 月中旬) 期間，遊客較多。為確保安全，可能限制單一時段內進入天守內的人數。請依序沿著本丸庭園內的參觀路線排隊入場。屆時，庭園內部分區域可能因參觀人數過多暫停開放。

松本城的「おもてなし」表演隊

每天早上八點半至下午四點之間，本丸庭園內均有身着城主、公主、武士及忍者服飾的人物出沒，這是松本城的「おもてなし (Omotenashi)」表演隊。「おもてなし」的意思是「以誠待客」。表演隊成員所扮演的都是與松本城有關的著名歷史人物。歡迎與他們合照留念，甚至可以請他們為你拍照，為這次城郭之旅留下紀念。(演出隊具體出場時間依天氣條件而定)

注意事項：

- 大天守是一座 6 層建築，樓梯陡峭，沒有電梯。**為保護松本城的歷史建築，並未增加任何無障礙設施。登上六樓需攀爬近 140 級台階，樓梯最大坡度達 61 度。
- 進入天守需脫鞋。**天守入口處提供鞋袋，遊客可以把鞋放在袋子內帶入天守。
- 天守後方的紅色「埋橋」不開放。**遊客需從正面的黑門進入。
- 不可攜帶寵物進入本丸庭園和天守內。**包括裝在寵物提籠和背包、提袋內的寵物均不得入內。持證服務犬可入內，但需提前在城郭管理處辦理許可。
- 參觀者離開本丸後再度入內需另行付費。**
- 請勿攜帶外食進入本丸庭園。**禮品部旁有霜淇淋和飲料自動販賣機。

禮品與紀念品

禮品部位於本丸庭園內。店內提供各種具松本特色的食品、工藝品、服裝等。

松本城訊息手冊

<日本語仮訳>

一般情報

入場料

	大人	子供(6-15歳)*	
個人	¥700	¥300	
団体 (一人当たりの料金)	¥630	¥270	20-99人
	¥560	¥240	100-299人
	¥490	¥210	300人以上

*5歳以下のお子様は無料。

松本市民：本丸庭園は身分証をご提示いただければ無料で入場可能（城内には松本城観覧料が必要）。

障がい者手帳をお持ちの方：障がい者1名とその介護者1名が無料で入園可能。

夏季開園延長期間（8月中旬）：浴衣などの和服でお越しの方は無料です。

開館時間

松本城は12月29日～31日を除き、年中無休です。

通常	8:30～17:00 (最終入場は16:30)
ゴールデンウィーク（4月末～5月はじめ） 時間延長期間	8:00～18:00 (最終入場は17:30)
夏季（8月中旬）時間延長期間	

城内の滞在時間は平均45～60分。

ゴールデンウィーク（4月末～5月はじめ）、お盆（8月中旬）は混雑が予想されます。安全確保のため、一度に天守に入場できる人数を制限する場合があります。入場待ちの際は、本丸庭園内の順路に沿ってお進みください。また、本丸庭園を散策される方は、順路の関係で一部見学できない場所がありますので、ご了承ください。

松本城おもてなし隊

午前8時30分から午後4時頃まで、城主や姫、侍、忍者などに扮した人物が本丸庭園を歩く姿を見ることができるかもしれません。これは松本城のおもてなし隊で、松本が誇る歴史上の人物に扮したパフォーマーです。一緒に写真を撮ったり、写真を撮ってもらったり、お城めぐりの記念にいかがでしょうか（天候により時間が変更になる場合があります）。

注意事項：

- ・**大天守は6階建ての建物で、急で狭い階段があり、エレベーターはありません。**建てられた当時のままを保存しているため、城のバリアフリー化は行われていません。6階までは約140段、最大傾斜61°の階段を上る必要があります。
- ・**天守内は土足禁止です。**入口で下足袋を配布していますので、靴を袋に入れてご入場ください。
- ・**天守の裏側にある赤い橋「埋橋」は閉鎖されています。**正面の黒門から敷地内に入場してください。
- ・**本丸庭園と天守内ではペットの同伴は禁止されています。**キャリーやバッグに入れたペットも同様です。ただし、介助犬については、事前に管理事務所で許可を得てください。
- ・**一度外に出てしまうと再入場はできません。**
- ・**本丸庭園内での食べ物の持ち込みはできません。**アイスクリームと冷たいお飲み物は売店横の自動販売機にて販売しています。

ギフトとおみやげ

本丸庭園にお城のギフトショップがあります。松本にちなんだ食品、工芸品、衣料品などを取り揃えています。

お城のパンフレット

【タイトル】松本城の四季

【想定媒体】WEB

<简体字>

松本城的四季

松本城及周边庭园的美景四时不同。春天，最内侧的护城河“内堀”岸边樱花绽放；夏日，城郭宛如被绿色的海洋包围；秋季，护城河边的树木染上绚烂的色彩；冬天，高耸的黑色天守与白雪皑皑的日本北阿尔卑斯山脉相映成趣。城郭的护城河是鲤鱼、天鹅和野鸭的家园。在特定季节里，还有珍稀鸟类和蝴蝶造访城郭，比如，身披宝石色泽的欧亚翠鸟、拥有黄色锐利双眼和斑驳褐羽的日本鹰鸮。如果留心观察，也许还能看到黄钩蛱蝶那橘红色的翅膀闪过。

每个季节都有相应的活动和节日庆典，其中许多都与松本地区的传统文化有关。

春

樱花季里，城郭与绽放的樱花树被灯光点亮，为护城河和步道笼上一层朦胧飘渺的气息。到了春末，城郭内就会举办传统艺术与技艺展览，比如插花、江户时代(1603-1867)的枪术演武等。

夏

每到夏季，城内会举办太鼓祭、薪能（一种夜间在户外表演的能剧）演出等季节性的活动。8月的部分日子，只要穿浴衣或其他传统日本服装，便能免费参观。

秋

秋天，日本法定节假日“文化日”（11月3日）至11月10日的“松本城日”是“松本城周”，期间会举办各种特别展示和活动。

冬

新年前后有许多传统风俗和典礼，比如要在12月28日举办宗教仪式“扫尘”，扫除过去一年的尘埃，净化城郭，重归神圣；黑门和太鼓门要用冬日里依然青翠的植物和神圣的注连绳（扭转的稻草绳）装饰一新；1月1日至3日，城郭会向参观者特别开放，以此迎接春天的到来，这也是松本城游人最多的时期之一。

<繁体字>

松本城的四季

松本城及周邊庭園的美景四時不同。春天，最內側的護城河「內堀」岸邊櫻花綻放；夏日，城郭宛如被綠色的海洋包圍；秋季，護城河邊的樹木染上絢爛的色彩；冬天，高聳的黑色天守與白雪皚皚的日本北阿爾卑斯山脈相映成趣。城郭的護城河是錦鯉、天鵝和野鴨的家園。在特定季節裡，還有珍稀鳥類和蝴蝶造訪城郭，例如，有著黃色銳利雙眼和斑駁褐羽的日本鷹鴉、身披寶石色澤的歐亞翠鳥。如果仔細觀察，也許還能看到黃鉤蛺蝶那橘紅色的翅膀閃過。

每個季節都有相應的活動和節日慶典，其中許多都與松本地區的傳統文化有關。

春

櫻花季裡，城郭與綻放的櫻花樹被燈光點亮，為護城河和步道籠上一層朦朧飄渺的氣息。到了春末，城郭內就會舉辦傳統藝術與技藝展覽，例如插花、江戶時代（1603-1867）的槍術演武等。

夏

每到夏季，城內會舉辦太鼓祭、薪能（一種夜間在戶外表演的能劇）演出等季節性的活動。在 8 月的指定日期，只要穿浴衣或其他傳統日本服裝，便能免費參觀。

秋

秋天，日本法定節假日「文化日」（11 月 3 日）至 11 月 10 日的「松本城日」是「松本城週」，期間會舉辦各種特別展覽和活動。

冬

新年前後有許多傳統風俗和典禮，例如：要在 12 月 28 日舉辦宗教儀式「掃塵」，掃除過去一年的塵埃，淨化城郭，重歸神聖；黑門和太鼓門要用冬日裡依然青翠的植物和神聖的注連繩（扭轉的稻草繩）裝飾一新；1 月 1 日至 3 日，城郭會向遊客特別開放，以此迎接春天的到來，這也是松本城遊客最多的日子時期之一。

<日本語仮訳>

松本城の四季

松本城とその周辺の庭園の美しさは、一年を通して変化する。春は一番内側の堀「内堀」に桜が咲き乱れ、夏は城が鮮やかな緑に包まれる。秋は堀の木々が色づき、冬は黒くそびえる天守と雪をかぶった北アルプスのコントラストが美しい。堀には鯉や白鳥、鴨などが生息する。季節によっては宝石をちりばめたような色彩が美しいカワセミや、黄色い目をした斑点のある茶色のフクロウであるアオバズクなど、珍しい鳥や蝶を見ることができる。注意深く観察すれば、オレンジ色の羽を持つキタテハに出会えるかもしれない。

また、季節ごとに松本の伝統文化にちなんだイベントや祭りが開催される。

春

桜の季節には、お城と桜並木がライトアップされ、堀や散策路が幻想的な雰囲気にも包まれる。春の終わりには、いけばな展や江戸時代（1603-1867）の砲術演武などの伝統芸能や技術の展示も行われる。

夏

夏には、太鼓祭りや薪能（夜間に屋外で行われる能舞台）などの季節の行事が行われる。8月には、浴衣を着ていけば無料で入場できる期間も設けられている。

秋

秋には、日本の祝日である文化の日（11月3日）から独自に定めた松本城の日（11月10日）までの期間中に、特別展示やイベントを行う松本城 Week が開催される。

冬

年末年始には、一連の伝統行事が行われる。12月28日の営業最終日は、軒下などのほつりを落とし、すす払いの大掃除など城を清める儀式が行われる。また、黒門と太鼓門に冬の緑としめ縄が飾られる。正月三が日には、春を迎えるために城内が特別に開放される。この期間は、城を訪れる人が最も多い時期の一つである。

【タイトル】 ボランティアガイドのご案内

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

松本城的志愿者项目指南

本地有三家志愿者团体提供松本城免费导览游项目，包括日语和多种外语的导游解说，其中一些语言需要提前预约。如无特别通告，全年提供服务。

咨询或聘请向导相关事宜，请至松本城公园入口处的导游服务台办理，亦可在线提交预约申请。

阿尔卑斯善意通译协会(ALSA)

本非营利性组织，提供城郭及周边区域的中文、英语、法语、西班牙语和葡萄牙语解说，以及松本市内各项大型公共活动的解说服务。导览与翻译本身均不收取费用，但需客人承担志愿者在参与项目或活动过程中产生的交通、饮食及门票费用。

8月11日~8月17日、12月26日~1月9日期间不提供导览服务。

电话号码：090-9669-3454

电子邮件：npoalsa@gmail.com

网站：<https://www.npo-alsa.com/home-en>

松本城导览团队游（限日语）

本团队游项目于每年4月至11月上旬开放。本活动不包括天守内导览游。如逢雨天，活动可能推迟或取消。（如需申请参团，请填写并在线提交下述表格。）

电子邮件：s_koiwai1950@yahoo.co.jp

申请表：

[PDF(146KB)]

[Word(21KB)]

松本城市观光志愿者导游（限日语）

本组织提供松本市中心城区导览项目，包括松本城、中町通和绳手通等区域。本服务全年无休，但需至少提前一周预约。

电话号码：0263-39-7176

电子邮件：oote-info@po.mcci.or.jp

网站：<https://visitmatsumoto.com/guide/guides/>

<繁体字>

松本城の志工導覽

當地有三家志工機構提供免費日語和多種外語的松本城導覽，其中一些語言需要提前預約。若遇特殊情況會提前說明，除此之外，此導覽全年提供。

諮詢或聘請導覽員相關事宜，請至松本城公園入口處的導遊服務台辦理，也可在線上提交預約申請。

阿爾卑斯善意通譯協會 (ALSA)

本非營利性組織，提供城郭及周邊區域的中文、英語、法語、西班牙語和葡萄牙語解說，以及松本市內各項大型公共活動的解說服務。導覽與翻譯本身均不收取費用，但需遊客承擔志工參與活動過程中產生的交通、餐飲及門票費用。

8月11日至8月17日、12月26日至1月9日期間不提供導覽服務。

電話號碼：090-9669-3454

電子郵件：npoalsa@gmail.com

網站：<https://www.npo-alsa.com/home-en>

松本城導覽團隊遊 (限日語)

本團隊遊項目於每年4月至11月上旬開放。本活動不包括天守內導覽遊。如遇雨天，活動可能延後或取消。（如需申請參加，請填寫並線上提交下述表格。）

電子郵件：s_koiwai1950@yahoo.co.jp

申請表：

[PDF(146KB)]

[Word(21KB)]

松本城市觀光志工導遊 (限日語)

本組織提供松本市中心城區導覽活動，包括松本城、中町通和繩手通等區域。全年無休，但需至少提前一週預約。

電話號碼：0263-39-7176

電子郵件：oote-info@po.mcci.or.jp

網站：<https://visitmatsumoto.com/guide/guides/>

<日本語仮訳>

ボランティアガイドのご案内

地元の3つのボランティア団体が、松本城を無料でガイドしている。日本語のほか、多言語でのガイドが可能であるが、一部の言語は事前予約が必要。別段の案内が無い限り、通年で行っている。

お問い合わせやガイドのご依頼は、松本城公園入口にあるガイドステーションで受け付けている。また、インターネットでの予約も可能。

アルプス善意通訳協会（ALSA）

英語、フランス語、スペイン語、ポルトガル語、中国語でお城とその周辺を案内する非営利団体。また、松本市内で行われるイベントの通訳も行っている。ガイドと通訳は無料だが、ボランティアガイドがツアーやイベント中に発生する交通費、食費、入場料などは、訪問者の負担となる。

8月11日～17日および12月26日～1月9日は、ガイドのサービスは利用不可。

電話番号：090-9669-3454

電子メール：npoalsa@gmail.com

<https://www.npo-alsa.com/home-en>

松本城案内グループ（日本語のみ）

4月～11月上旬に活動。天守内のガイドツアーは実施していない。雨天の場合、延期または中止となることがある（ガイドのお申し込みは、下記リンク先のフォームから）。

メール：s_koiwai1950@yahoo.co.jp

申込書：

[PDF(146KB)]

[Word(21KB)]

松本まちなか観光ボランティアガイド（日本語のみ）

年中無休だが、1週間前までに予約が必要。松本城、中町通り、縄手通りなど松本市の中心部を案内している。

電話番号：0263-39-7176

電子メール：oote-info@po.mcci.or.jp

<https://visitmatsumoto.com/guide/guides/>

【タイトル】 松本城についてとマップ

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**关于松本城**

松本城是日本最古老的城郭之一，也是“国宝五城”[※]中唯一的平城（平地上修建的城郭），其起源可以追溯到修筑于战国时代(1467-1600)的一座简朴的纯木结构建筑。大天守建成于1594年，它是日本现存最古老的五重六层城郭建筑，即从外部看是5层建筑，内部实际有6层。

进入明治时代(1868-1912)后，松本城险些被拆除，在本地居民坚持不懈的努力下才得以保全。此后，松本城因其历史价值得到认可，被指定为国宝。

※国宝五城：松本城、犬山城、彦根城、姫路城、松江城

城内地图

中文	日本語
外堀（第二条护城河）	外堀（二番目の堀）
内堀（最内侧护城河）	内堀（一番内側の堀）
本丸御殿遗址	本丸御殿跡
大天守	大天守
乾小天守	乾小天守
渡櫓	渡櫓
辰巳附櫓	辰巳附櫓
月见櫓	月見櫓
埋桥	埋橋
纪念品商店	売店
黑门	黒門
参观售票处	観覧券売場
太鼓门	太鼓門
旧松本市立博物馆	旧松本市立博物館
二之丸御殿遗址	二の丸御殿跡
御金库	御金蔵
二之丸里御门桥	二の丸裏御門橋

<繁体字>

關於松本城

松本城是日本最古老的城郭之一，也是「國寶五城」※中唯一的平城（平地上修建的城郭），其起源可以追溯到修築於戰國時代（1467-1600）的一座簡樸的純木結構建築。大天守建成於 1594 年，它是日本現存最古老的五重六層城郭建築，即從外部看是 5 層建築，內部實際有 6 層。

進入明治時代（1868-1912）後，松本城險些被拆除，在當地居民堅持不懈的努力下才得以保全。此後，松本城被指定為國寶，其歷史價值得到認可。

※國寶五城：松本城、犬山城、彥根城、姫路城、松江城

城內地圖

中文	日本語
外堀（第二條護城河）	外堀（二番目の堀）
內堀（最內側護城河）	內堀（一番内側の堀）
本丸御殿遺址	本丸御殿跡
大天守	大天守
乾小天守	乾小天守
渡櫓	渡櫓
辰巳附櫓	辰巳附櫓
月見櫓	月見櫓
埋橋	埋橋
紀念品商店	売店
黑門	黒門
參觀售票處	觀覽券売場
太鼓門	太鼓門
舊松本市立博物館	旧松本市立博物館
二之丸御殿遺址	二の丸御殿跡
御金庫	御金蔵
二之丸裡御門橋	二の丸裏御門橋

<日本語仮訳>

松本城について

松本城は、日本で最も古い城のひとつであり、現在「国宝 5 城[※]」のうち、唯一の平城（平地に築かれた城）でもある。戦国時代（1467-1600）に建てられた簡素な木造建築がその起源とされる。1594 年に築城された大天守は、現在、外観 5 階、内層 6 階の「五重六階」という珍しい形式を持ち、現存する最古の天守である。

松本城は明治時代（1868-1912）に取り壊されそうになったが、地元の住民たちが保存のために奔走した結果それを免れた。その後、松本城はその歴史的価値が認められ、国宝に指定されている。

※国宝 5 城：松本城、犬山城、彦根城、姫路城、松江城

【タイトル】松本城のレイアウト

【想定媒体】WEB

<簡体字>

松本城的布局结构

松本城内共有五座建筑，分别是大天守、乾小天守、渡櫓、辰巳附櫓和月见櫓。

乾小天守是一座独立建筑，经渡櫓与大天守连接。这种布局方式通常被称为“连结式天守”。与之相反，辰巳附櫓和月见櫓都直接与大天守相连，这一种则被称为“复合式天守”。松本城是日本唯一可以同时看到两种布局的城郭。

根据 1929 年颁布的《国宝保存法》，1936 年松本城首次被指定为国宝。在这项指定中还特别指出，松本城是一座珍稀的早期连结复合式天守。

第二次世界大战(1939-1945)后，日本于 1950 年颁布《文化财保护法》，取代 1929 年的《国宝保护法》。1952 年，松本城再一次被指定为国宝。

松本城的主要特点

(1) 平城

松本城地处海拔 590 米的平原上，被群山环抱。与早期自带防守之利的“山城”相比，被称为“平城”的平地城郭需要额外修建防御工事。如今日本的“国宝五城”（另四座为犬山城、彦根城、姬路城、松江城）中，仅有松本城为平城。

松本城最初除了三条护城河之外，还在四周修筑了土堀（白灰泥牆）与城门等厚实严密的防御工事，武士就生活在城内，如遇攻击，可迅速响应。

(2) 现存最古老的五重六层天守

松本城的大天守从外部看为 5 层楼结构，实际内部却有 6 层，是日本现存同类天守建筑中最古老的一座。大天守、乾小天守和渡櫓是松本城最早的三座建筑，它们于石川数正(?-1592)统治期间开始策划，在其儿子石川康长(1554-1642)任内完工。

石川家族是大军阀丰臣秀吉(1537-1598)的家臣。据说松本城最初是用来包围并监视江户城（今东京）的城郭之一，江户是丰臣秀吉最大的敌手德川家康(1543-1616)的大本营。

(3) 为战争而建，也为和平而建

石川家族于 16 世纪晚期开始修建松本城，当时的日本正处于漫长的内战之中。拥有“大名”称号的地方武将们纷纷修筑城郭，甚至连缀成网，用于监视、掌控自己的领地。

鉴于动乱的时局，松本城最初的三座建筑均为应对攻击而设计。三处建筑共设 115 个狭间（箭窗）和 11 个悬空于天守台上方被称为“石落”的投石口。各式各样的“开口”可供城

郭守军使用弓箭或火绳枪攻击来犯的敌军。周围工事的设计也考虑到了火绳枪的应用：最内侧的护城河“内堀”的河面宽度约 60 米，刚好与火绳枪的有效射程相当；大天守一楼和二楼的外墙厚达 29 厘米左右，足以抵挡火绳枪的攻击。

辰巳附櫓和月见櫓建造时间较晚，讲述的又是另一个截然不同的故事。它们建于松平直政(1601-1666)统治期间，时值和平的江户时代(1603-1867)。月见櫓拥有船底般的拱形天花板和朱漆栏杆檐廊，却无防御设施。由此可见，这座塔楼是为了安宁祥和的聚会而修建。

(4) 建筑构造的创新

松本城建在女鸟羽川与薄川之间的复合冲积扇河洲的顶部，松软潮湿的土地为天守的建造带来了很大困难。但工匠们运用崭新的结构工艺，确保重达 1000 吨的大天守不会缓慢下沉。

内部支撑结构

天守台的内支撑结构由 16 根排列成 4×4 方格状的日本铁杉木柱组成。每根直径约 39 厘米、长约 5 米的圆柱被直接固定在地基上，再用横梁连接，这种支撑结构能把天守的重量均匀分散到地基上。这部分构造在堆砌天守台时被工匠用泥土掩埋了起来。

外部支撑设施

在修筑天守台之前，工人们便对规划好的墙基区域进行了加固。若干 3 米长的木柱依照大约 50 厘米的间隔被打入地面，形成一个筏子状的结构。然后在该结构的立柱顶端架设 2 根横木，横木即为“枕木”，与天守台保持平行，从底部向上托住墙基大石。最后或许是为了加固地基、防止泥土流失，在距离天守台约 5 米的护城河底垂直打下两排木桩。

<繁体字>

松本城的布局結構

松本城內共有五座建築，分別是大天守、乾小天守、渡櫓、辰巳附櫓和月見櫓。

乾小天守是一座獨立建築，經渡櫓與大天守連接。這種布局方式通常被稱為「連結式天守」。與之相反，辰巳附櫓和月見櫓都直接與大天守相連，這一種則被稱為「複合式天守」。松本城是日本唯一可以同時看到兩種布局的城郭。

根據 1929 年頒布的《國寶保存法》，1936 年松本城首次被指定為國寶。在這項指定中還特別指出，松本城是一座珍稀的早期連結複合式天守。

第二次世界大戰（1939-1945）後，日本於 1950 年頒布《文化財保護法》，取代 1929 年的《國寶保護法》。1952 年，松本城再一次被指定為國寶。

松本城的主要特點

(1) 平城

松本城位於海拔 590 公尺的平原上，被群山環抱。與早期自帶防守之利的「山城」相比，被稱為「平城」的平地城郭需要額外修建防禦工事。如今日本的「國寶五城」（另四座為犬山城、彥根城、姫路城、松江城）中，僅有松本城為平城。

松本城最初除了三條護城河之外，還在四周修築了土塀（白灰泥牆）與城門等厚實嚴密的防禦工事，武士就生活在城內，當遇到攻擊，便可迅速回應。

(2) 現存最古老的五重六層天守

松本城的大天守從外部看為 5 層樓結構，實際內部卻有 6 層，是日本現存同類天守建築中最古老的一座。大天守、乾小天守和渡櫓是松本城最早的三座建築，它們於石川數正（?-1592）統治期間開始規劃，在其兒子石川康長（1554-1642）任內完工。

石川家是大軍閥豐臣秀吉（1537-1598）的家臣。據說松本城最初是用來包圍並監視江戶城（今東京）的城郭之一，江戶是豐臣秀吉最大的敵手德川家康（1543-1616）的大本營。

(3) 為戰爭而建，也為和平而建

石川家於 16 世紀晚期開始修建松本城，當時的日本正處於漫長的內戰之中。擁有「大名」稱號的地方武將們紛紛修築城郭，甚至連綴成網，用於監視、掌控自己的領地。

鑒於動亂的時局，松本城最初的三座建築均為應對攻擊而設計。三處建築共設 115 個狹間（箭窗）和 11 個被稱為「石落」的投石口，後者懸空於天守台上方。各式各樣的「開口」可供城郭守軍使用弓箭或火繩槍攻擊來犯的敵軍。周圍工事的設計也考慮到了火繩槍的應用：最內側的護城河「內堀」的河面寬度約 60 公尺，剛好與火繩槍的有效射程相當；大天守一樓和二樓的外牆厚達 29 公分左右，足以抵擋火繩槍的攻擊。

辰巳附櫓和月見櫓建造時間較晚，講述的又是另一個截然不同的故事。它們建於松平直政（1601-1666）統治期間，時值和平的江戶時代（1603-1867）。月見櫓擁有船底般的拱形天花板和朱漆欄杆簷廊，並沒有防禦設施。由此可見，這座塔樓是為了安寧祥和的聚會而修建。

(4) 建築構造的創新

松本城建在女鳥羽川與薄川之間的複合沖積扇河洲的頂部，鬆軟潮濕的土地為天守的建造帶來了很大困難。但工匠們用新的結構工藝，確保重達 1000 噸的大天守不會緩慢下沉。

內部支撐結構

天守台的內部支撐結構由 16 根排列成 4×4 方格狀的日本鐵杉木柱組成。每根直徑約 39 公分、長約 5 公尺的圓柱被直接固定在地基上，再用橫樑連接，這種支撐結構能把天守的重量均勻分散到地基上。這部分結構在堆砌天守台時被工匠用泥土掩埋了起來。

外部支撐設施

在修築天守台之前，工人們便對規劃好的牆基區域進行了加固。若干 3 公尺長の木柱依照大約 50 公分的間隔被打入地面，形成一個筏子狀的結構。然後在該結構的立柱頂端架設 2 根橫木，橫木即為「枕木」，與天守台保持平行，從底部向上托住牆基大石。最後或許是為了加固地基、防止泥土流失，在距離天守台約 5 公尺的護城河底垂直打下兩排木樁。

<日本語仮訳>

城のレイアウト

松本城は、大天守、乾小天守、渡櫓、辰巳附櫓、月見櫓の 5 つの建物で構成されている。

乾小天守は、大天守と渡櫓でつながっている別棟の櫓である。この配置を「連結式天守」と呼ぶ。これに対し、辰巳附櫓と月見櫓は大天守に直接取り付けられており、これを「複合式天守」と呼ぶ。松本城は、日本で唯一これら 2 つの構造が同時に見られる城である。

1929 年に制定された「国宝保存法」に基づき、1936 年に初めて国宝に指定された。その際、松本城は希少な早期の連結複合式天守の例であることが取り上げられた。

第 2 次世界大戦（1939-1945）後、1929 年に制定された「国宝保存法」は 1950 年に「文化財保護法」に改められ、松本城は 1952 年に国宝に再指定された。

松本城の主な特徴

(1) 平城

松本城は、山々に囲まれた標高 590m の平地に築かれた。山城に比べ、平城はより強固な守りを必要とした。現在、国宝に指定された 5 つのお城（ほかの 4 つは犬山城、彦根城、姫路城と松江城）のうち、松本城は唯一の平城である。

松本城はもともと 3 つの堀に囲まれ、土塀や門で入念に囲まれており、武士は城内に住み、攻撃に素早く対応することができたのである。

(2) 現存する最古の五重六層天守

松本城は外観 5 層、内層 6 階の現存する天守としては最古の例である。大天守、乾小天守、渡櫓の 3 棟は、石川数正（?-1592）の時代に計画され、石川康長（1554-1642 年）が完成させたものである。

石川家は豊臣秀吉の家臣であった。松本城は、秀吉の最大のライバルである徳川家康（1543-1616）の本拠地である江戸城（現在の東京都）を囲み、監視するために築かれた城の一つであったと言われている。

(3) 戦争のための設計、平和のための設計

石川家が松本城を築いたのは 16 世紀後半、長い戦乱の時代であった。この時代、大名と呼ばれる地方の武将たちは、城のネットワークを構築して領地の監視・統治を行っていた。

そのため、大天守、乾小天守、渡櫓の 3 つの建物には、さまざまな防御設備が施されている。これ

らの建物は 115 の挟間を備え、天守台の上に 11 の「石落」と呼ばれる開口部が突き出ている。開口部からは、弓や火縄銃で敵軍を攻撃することができた。一番内側の堀「内堀」の幅は火縄銃の有効射程距離である 60m 前後となっていたり、大天守の 1 階と 2 階の壁は厚さ約 29 センチで、火縄銃で撃っても貫通することはないなど、周囲の防御も火縄銃を意識して設計されている。

一方、辰巳附櫓と月見櫓の 2 つの新しい建造物については、まったく違う物語になる。これらは江戸時代（1603-1867）の太平の世、松平直政（1601-1666）の時代に建てられたものである。月見櫓の舟底型の天井や朱塗りの廻縁は防御的な要素がないことから、戦時ではなく平時の集まりのために建てられたことがわかる。

(4) 革新的な構造

松本城は、女鳥羽川と薄川がつくる複合式扇状地の扇端部に築かれている。この場所は軟弱な湿地帯のために城の建設は困難であったが、1000 トンの大天守が徐々に地中に沈んでいくのを防ぐために、建築技術者たちは革新的な工法を駆使した。

内部の支持構造

天守台の内部の支持構造には、16 本のツガの柱を 4 本ずつ 4 列のグリッド状に配置した。直径約 39cm、長さ約 5m の丸柱を礎石の上に立てた。この柱を水平の梁でつなぐことで、城の重量を均等に分散させるための骨組みができあがった。この構造部分は、周囲の天守台を積みながら土で埋め込まれた。

外部の支持機能

天守台を築く前に、根石部分に 3m の丸太を約 50cm 間隔で並べた筏のような構造物で補強を行った。その上にさらに丸太を天守台のラインと平行に 2 本置いて、天守台の一番下の石を支える「枕木」とした。さらに、基礎から 5 メートルほど離れた堀の底には、丸太を 2 列垂直に打ち込んだ。これは土がずれ動かないようにするための地固めの杭だと考えられている。

【タイトル】 天守台

【想定媒体】 WEB

<简体字>

天守台

(1) 粗加工石材

大天守、乾小天守和渡櫓下方的天守台于 1594 年筑城时建造，整体带有平缓的坡度。

天守台用从附近山上开采的粗凿岩石砌成。石头几乎未经加工，工匠们用毛面砌法将它们坚固地组合在一起。这样砌出的石垣风格粗犷，看似不那么精细，却也相对省工省力，修建速度更快。建造石垣时，可以依照“布砌”法将石块横向排成一列，也可以采用更加随意的“乱砌”法。

(2) 隅石的砌法

为了增加稳固性，松本城天守台的四角均采用近似“算木砌法”的工艺，交错嵌入接近长方形条石而成。然而，这些条石并不像其他城郭那样排布规整，由此推测，松本城的隅石可能是这种技法的早期应用案例。

特殊的屋瓦

(1) 滴水瓦

这些三角形屋瓦被铺设在屋檐前端，据说是为排走屋顶上的雨水而设计。

相传，大军阀丰臣秀吉(1537-1598)的城郭最早开始使用这类屋瓦，而设计样式则源自朝鲜半岛建筑上的滴水瓦。据传，丰臣秀吉带领联军曾于 1592 年和 1597 年出征朝鲜半岛，战争虽然失败，这项技术却被带了回来。1600 年，德川家康(1543-1616)在关原之战中击败丰臣秀吉，将丰臣秀吉的党羽全部发配到了远离德川大本营江户（今东京）的偏远地区。或许正是这一系列的调动，让滴水瓦进一步普及到了更多地方城郭。

(2) 捨瓦

在 20 世纪 50 年代的一系列修复工程中，人们在屋顶各处加铺了一层平瓦。这些一次性瓦片被称为“捨瓦”，主要用于保护屋顶不被上方屋檐边跌落的积雪或碎冰损坏。

<繁体字>

天守台

(1) 粗加工石材

大天守、乾小天守和渡櫓下方的天守台於 1594 年築城時建造，整體帶有平緩的坡度。

天守台用從附近山上開採的粗鑿岩石砌成。石頭幾乎未經加工，工匠們用毛面砌法將它們堅固地組合在一起。這樣砌出的石垣風格粗獷，相對省工省力，修建速度更快，不過看起來不那麼精細。建造石垣時，可以依照「布砌」法將石塊橫向排成一列，也可以採用更加隨意的「亂砌」法。

(2) 隅石の砌法

為了增加穩固性，松本城天守台的四角都採用類似「算木砌法」的工藝，交錯嵌入接近長方形條石而成。然而，這些條石並不像其他城郭那樣排布規整，由此推測，松本城的隅石有可能是這種技法的早期應用案例。

特殊的屋瓦

(1) 滴水瓦

這些三角形屋瓦被鋪設在屋簷前端，據說是為排泄屋頂上的雨水而設計。

相傳，大軍閥豐臣秀吉（1537-1598）的城郭最早開始使用這類屋瓦，而設計樣式則源自朝鮮半島建築上的滴水瓦。據傳，豐臣秀吉帶領聯軍曾於 1592 年和 1597 年出征朝鮮半島，戰爭雖然失敗，這項技術卻被帶了回來。1600 年，德川家康（1543-1616）在關原之戰中擊敗豐臣秀吉後，將豐臣秀吉的黨羽全部發配到了遠離德川大本營江戶（今東京）的偏遠地區。或許正是這一系列的調動，讓滴水瓦進一步普及到了更多地方城郭。

(2) 捨瓦

在 1950 年代的一系列修復工程中，人們在屋頂各處加鋪了一層平瓦。這些一次性瓦片被稱為「捨瓦」，主要用於保護屋頂不被上方屋簷邊跌落的積雪或碎冰破壞。

<日本語仮訳>

天守台

(1) 未加工に近い石材

大天守、乾小天守、渡櫓が立つ天守台は緩やかな傾斜が付いており、1594 年に築城された当初に作られたものである。

天守台は、近くの山々から切り出した岩石で作られている。当時石垣は、石を切り出してはめ込み、強固に組み合わせた「野面積み」であった。このような石垣は、洗練されていないとみなされる一方で、手間がかからず、早く完成させることができた。石垣には「布積」と呼ばれる横一列に並べる方法と、「乱積」と呼ばれる無造作に積み上げる方法がある。

(2) 隅石の組み合わせ

松本城の土台の角は、安定性を高めるため、「算木積み」のような工法を使い、長方形に近い石を交互に並べて仕上げる。しかし、他の城に見られるような整然とした石組にまでは至っていない。松本城の隅角部の石組は、この技法の初期応用の可能性を示している。

特徴的な瓦

(1) 滴水瓦

軒先の隅にある三角形の瓦で、雨水を排水しやすくするために考案されたと言われている。

豊臣秀吉（1537-1598）の傘下の城が最初に使用したとされている。デザインは、朝鮮半島の建築に使われていた瓦を参考にしている。失敗に終わった 1592 年と 1597 年の朝鮮出兵の際に秀吉とその軍勢が、朝鮮半島からこの技術を持ち帰ったと言われている。1600 年、関ヶ原の戦いで豊臣の軍勢を破った徳川家康（1543-1616）は、豊臣の勢力を徳川の本拠地である江戸（現在の東京）から離れた地域に配置した。この移転により、滴水瓦は辺境の地域の城に普及したと思われる。

(2) 捨て瓦（雨落ち瓦）

1950 年代の復元工事の際、屋根の各所に平瓦を追加で敷き詰めた。これは、軒先から落ちてくる雪や氷から屋根を守るために設置された使い捨ての瓦である。

【タイトル】 大天守 1 階

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

大天守

一楼

(1) 外墙与下见板

天守的外墙分为上下两个部分，上面是白灰泥墙面，下面则覆盖了黑漆“下见板”（风雨板）。直接暴露在外的白灰泥墙面易受雨雪侵蚀，因此，屋檐遮挡不住的墙面下方加装了护板，以避免雨雪直接落在灰泥墙面上。

右侧照片是原大天守二楼的一截外墙，在 20 世纪 50 年代的修复工程中被拆除。白色灰泥墙面下的墙体为土墙，先在木格框架上缠绕绳索，再一层层敷上泥土筑成。一楼和二楼的外墙厚约 29 厘米，应该足以抵挡火绳枪的正面攻击，而高处的墙壁则略薄一些。

照片中另有一块薄墙体，是在 1913 年完成的那场修复工程中重刷的部分。

(2) 石落

这些楼板上的开口架空在天守台之外，名叫“石落”，是一种防御设施。守军可以通过这些开口攻击攀爬城墙的敌人。顾名思义，“石落”本该是投石口，但这里的开口更像是枪击口。

大天守、乾小天守和渡櫓的一楼共有 11 处石落，设在一楼的墙角和墙面中心点上，因此能俯瞰整面天守台。

(3) 地基与武者走

一楼主屋的地板下是双重木梁构造，中央部分比四周的“武者走”（武士走廊）高出约 50 厘米，从缝隙中可以看到这一结构。

展品简介

大天守的一楼走廊上陈列着 20 世纪 50 年代大修复前天守的部分物品。

天守土塀残壁

这段土塀（白灰泥墙）残壁原本是大天守二楼外墙的一部分，于 20 世纪 50 年代城郭修复期间被拆除。残壁厚约 29 厘米，以绳索缠绕的木框架为墙体骨架，然后敷上数重泥土，再涂刷白色灰泥。

鯨瓦

“鯨”是传说中的生物，虎头鱼身。据说在城郭建筑的屋顶上铺设鯨状瓦便能够让建筑物远离火患。这里陈列的鯨瓦来自大天守的屋顶。张口状的为雄鯨，原本安置在屋脊南端，闭口状的雌鯨则置于北端。

鯨真木

这些原本安装在天守屋顶上的小木柱“鯨真木”，用于支撑、固定鯨瓦。木柱高约 190 厘米，其中近 80 厘米插入鯨瓦之中。柱上铭文显示，这些鯨真木出自 1843 年。

地基支柱

这段残木曾是大天守地下支撑结构中 16 根立柱之一。在 20 世纪 50 年代的修复工程中开挖地基时发现，除了这根立柱之外，其他都已腐坏。19 世纪末期，大天守开始倾斜，很可能就是因为腐坏的地基无法继续支撑 1000 吨重的天守。

茺菁悬鱼

这类木制装饰件通常悬挂在天守侧墙人字形博风板的下方。悬鱼源自中国，最初多做成鱼形，被认为有避火之效。日本传统建筑都是全木结构，火灾的威胁无时不在，悬鱼可以为建筑物提供保护。这枚悬鱼中央的图形为茺菁（大头菜，形似萝卜）。

<繁体字>

大天守

一樓

(1) 外牆與下見板

天守的外牆分為上下兩部分，上面是白灰泥牆面，下面則覆蓋了黑漆「下見板」（風雨板）。直接暴露在外的白灰泥牆面易受雨雪侵蝕，因此，屋簷遮擋不住的牆面下方加裝了護板，這樣可以避免雨雪直接落在灰泥牆面上。

右側照片是原大天守二樓的一截外牆，在 1950 年代的修復工程中被拆除。白色灰泥牆面下的牆體為土牆，先在木格框架上纏繞繩索，再一層層敷上泥土築成。一樓和二樓的外牆厚約 29 公分，應該足以抵擋火繩槍的正面攻擊，而高處的牆壁則略薄一些。

照片中另有一塊薄牆體，是在 1913 年完成的那場修復工程中重刷的部分。

(2) 石落

這些樓板上的開口架空在天守台之外，名叫「石落」，是一種防禦設施。守軍可以透過這些開口攻擊攀爬城牆的敵人。顧名思義，「石落」本該是投石口，只是這裡的開口更像是槍擊口。

大天守、乾小天守和渡櫓的一樓共有 11 處石落，設於一樓的牆角和牆面中心點上，因此能俯瞰整面天守台。

(3) 地基與武者走

一樓主屋的地板下是雙層樑構造，中央部分比四周的「武者走」（武士走廊）高出約 50 公分，從縫隙中可以看到這一結構。

展品簡介

大天守的一樓走廊上陳列著 1950 年代大修前天守的部分物品。

天守土塀殘壁

這段土塀（白灰泥牆）殘壁原本是大天守二樓外牆的一部分，於 1950 年代城郭修復期間被拆除。殘壁厚約 29 公分，以繩索纏繞的木框架為牆體骨架，敷上數重泥土後再塗刷白色灰泥。

鯨瓦

「鯨」是傳說中的生物，虎頭魚身。人們相信，在城郭建築的屋頂上鋪設鯨狀瓦便能讓建築物遠離火患。這裡陳列的鯨瓦來自大天守的屋頂，張口狀的為雄鯨，原本安置在屋脊南端，閉口狀的雌鯨則置於北端。

鯨真木

這些原本安裝在天守屋頂上的小木柱「鯨真木」，用於支撐、固定鯨瓦。木柱高約 190 公分，其中近 80 公分插入鯨瓦之中。柱上銘文顯示，這些鯨真木出自 1843 年。

地基支柱

這段殘木曾是大天守地下支撐結構中 16 根立柱之一。在 1950 年代的修復工程中開挖地基時發現，除了這根支柱以外，其他都已腐壞。19 世紀末期，可能因為腐壞的地基無法繼續支撐 1000 噸的重量，大天守開始傾斜。

蕪菁懸魚

這類木製裝飾件通常懸掛在天守側牆人字形博風板的下方。懸魚源自中國，最初多做成魚形，被認為有避火之力。日本傳統建築都是全木結構，火災的威脅無時不在，懸魚能庇護建築。這枚懸魚中央的圖形為蕪菁（大頭菜，形似蘿蔔）。

<日本語仮訳>

大天守

1 階

(1) 壁と下見板

天守の外壁は、上部は白漆喰、下部は黒漆塗り喰の下見板で張られている。漆喰壁は雨や雪にさらされると劣化が早いので、屋根の庇の範囲外にある、風雨にさらされる壁の部分を保護するために、下見張りを追加した。

右の写真は、1950年代の修理の際に取り外された2階の壁の一部。白漆喰の下にある土壁は、木製の格子枠に縄を巻きつけ、泥を塗り重ねたものである。1階と2階の壁は厚さ約29センチで、火縄銃の攻撃は通さなかったと言われ、高層階は、もう少し薄い壁になっている。

写真の薄い壁は、1913年に完了した保存工事の際に追加されたものだ。

(2) 石落

天守台の上面基礎に張り出した床の開口部は、「石落」と呼ばれる防御装置である。城壁を登ってきた敵を攻撃するためのものである。石落としては文字通り「石を落とす」ことだが、実際には敵を鉄砲で迎撃するために設けられたと考えられる。

大天守、乾小天守、渡櫓の1階には11個の石落が設けられている。1階の四隅や中間に開口部を設け、天守台を見渡せるようにした。

(3) 土台と武者走り

1階の中央部分（母屋）は、周囲の武者走り（廊下）より約50cm高くなっている。これは、床下の梁が二重構造になっており、それを隙間から見る可以看到。

展示品

1階の廊下には、1950年代の修理まで天守の一部となっていた様々な物品が展示されている。

天守土塀の一部

これは1950年代に行われた大天守の修理で、2階から取り外された土壁の一部である。厚さは約29cm。縄を巻いた木枠に泥を塗り重ね、さらに、最後に白い漆喰で仕上げた。

鯨の屋根瓦

鯨は、虎の頭と魚の体を持つ伝説上の生き物。鯨の形をした瓦を城の屋根に載せると、火災から護られると信じられていた。ここに展示されている鯨瓦は、かつて大天守の屋根に飾られていた。棟の南端には口を開けた雄の鯨、北端には口を閉じた雌の鯨が置かれていた。

鯨真木

天守の屋根に鯨瓦を固定するための柱。190cmの真木のうち80cm近くが瓦に食い込んでいた。柱には墨書があり、1843年のものであることがわかる。

土台支持柱

この柱は、基礎の地下支持構造を構成していた16本のうちの1本の一部である。1950年代の修理の際、土台を掘り起こしたところ、1本を除いてすべての柱が腐敗していることが判明した。19世紀末ごろに入ってから大天守が傾き始めたのは、腐った土台が千トンもの重さを支えきれなくなったためと思われる。

蕪懸魚

天守の屋根の両端の三角部分「破風」には、このような木製の装飾品がよく飾られている。中国から伝わったもので、もともとは魚の形をしており、木造建築の多い伝統的な建築が一番恐れる火災から建物を守ると考えられていた。展示している懸魚は、蕪をモチーフにしたものである。

【タイトル】 大天守 2 階

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

二楼

(1) 竖格子窗

大天守二楼的三面墙都装有竖格子窗，又称“武者窗”，可供枪手透过窗格开火阻拦试图渡过护城河的来犯者。窗格每根宽约 13 厘米，厚约 12 厘米，强度足以抵挡敌军的火绳枪弹。

(2) 木工工艺

如果使用多段木料拼合组成天花板横梁，木料拼接点在结构上必然脆弱。因此在每一处梁木拼接点下方都用一个船形的木构件予以加固。在过往漫长的岁月里，许多立柱也都多少经过了一些修补。历代工匠各施所能，采用各种方法整修、加固立柱与横梁。如今的大天守里随处可见这样的痕迹。

松本城铁砲博物馆・赤羽藏品

大天守二楼是松本城铁砲博物馆，日语中的“铁砲”就是枪械。这座博物馆的藏品都来自赤羽通重和赤羽加代子夫妇，他们是出身于松本本地的火绳枪爱好者。馆藏共计 141 把古枪支及其配件，这里展出了其中 37 把。有关展品的详细介绍，可点击本站“收藏品”页面查看。

种类丰富的枪械

博物馆藏品种类十分丰富，包括出自知名枪械产地国友（今滋贺县长滨市）的火绳枪、重达 16 公斤的大口径火绳枪“大筒”，还有非常规的火绳枪等各种各样的枪械。馆内另有展板介绍枪械在日本战争史上发挥的决定性作用，比如 1575 年的长篠之战（篠，音同“小”）。

・ 击发装置

馆内设专区介绍火绳枪击发装置的制造原理。各种复杂的枪机组件被拆解开，方便参观者了解它们的组装方式。

・ 铠甲与武器装备

馆内展示了 16 世纪枪炮队使用的典型铠甲与武器装备。这一套甲冑是足轻（步兵）上战场时的全套装备：腰间佩着长刀和子弹腰包，葫芦状的引火药匣子自肩头垂下，背上还背着一根推弹杆，再加上火绳枪，整套装备的总重量接近 20 公斤。

铁砲博物馆相关活动

火绳枪演武会

每年春、秋两季，松本城铁砲队都会在松本城内各举办一次射击演武会。在现场观摩枪支上膛射击的景象，不由令人联想起 16 世纪的战场。

年度讲座

每年 9 月，博物馆都会举办一场特殊的讲座。参观者在听完火绳枪与松本城的历史介绍后，还有机会触摸真正的火绳枪、观赏演武视频。此外，还能与松本城铁砲队见面。

更多活动细节，请参见本网站“活动信息”页面。

二之丸御殿遗址的发掘

二之丸御殿遗址地处松本城的二级区域“二之丸”内。人们于 1979 年至 1984 年间对其进行了相关考古发掘工作。二之丸御殿曾是松本藩的行政中枢和城主居所，发掘出土的文物为后人展示了一幅当年松本城日常生活的画卷。

· 烧盐壶

这个陶罐用于制备、储存焙烤过的食盐，这样的盐在当时被视为奢侈品。罐上的铭文显示，它出自大阪西南部地区，明治时代(1868-1912)以前，那里一直是主要食盐产地之一。根据陶罐的烧制技术和铭文可以推断，这个盐壶的制造时间可能晚于 1726 年。

· 与食物相关的出土文物

二之丸御殿遗址出土了大量种类繁多的动物遗骸，包括贝壳、鱼骨、鸟骨和哺乳动物的骨头，其中如鰻鱼、海鲷等鱼类，应该是在日本海或太平洋捕捞上岸后运送到松本城的。

· 古钱币

此次考古共出土了 119 枚日本古钱币。松平直政(1601-1666)出任松本城主期间曾获得幕府的特别许可，于 1637 年在本地铸造钱币，但在二之丸御殿遗址却并未发现此类钱币。

<繁体字>

二樓

(1) 豎格子窗

大天守二樓的三面牆都裝有豎格子窗，又稱「武者窗」，可供槍手透過窗格開火阻攔試圖渡過護城河的敵人。窗格每根寬約 13 公分，厚約 12 公分，強度足以抵擋敵軍的火繩槍彈。

(2) 木工工藝

如果使用多段木料拼合組成天花板橫樑，木料拼接點在結構上必然脆弱，因此在每一處樑木拼接點下方都用一個船形的木構件予以加固。在過往漫長的歲月裡，許多立柱也都多少經過了一些修補。歷代工匠各盡所長，採用各種方法整修、加固立柱與橫樑，現在在大天守裡到處都可看到他們努力的痕跡。

松本城鐵砲博物館・赤羽藏品

大天守二樓是松本城鐵砲博物館，日語中的「鐵砲」就是槍械。這座博物館的藏品都來自赤羽通重和赤羽加代子夫婦，他們是出身於松本當地的火繩槍愛好者。館藏共計 141 把古槍支及其配件，這裡展出了其中的 37 把。點擊網站內「收藏品」，有展品的詳細介紹。

種類豐富的槍械

博物館藏品種類十分豐富，包括出自知名槍械產地國友（今滋賀縣長濱市）的火繩槍、重達 16 公斤的大口徑火繩槍「大筒」，還有非常規的火繩槍等各種各樣的槍械。館內另有展板介紹槍械在歷史上多場戰役中所發揮的決定性作用，例如 1575 年的長篠之戰（篠，音同「小」）。

・擊發裝置

館內設專區介紹火繩槍擊發裝置的製造原理。專區拆解了不同類型槍機零件，方便遊客瞭解它們的組裝方式。

・鎧甲與武器裝備

館內展示了 16 世紀槍炮隊使用的典型鎧甲與武器裝備。這一套甲冑是足輕（步兵）上戰場時的全套裝備，包括腰間佩著的長刀和子彈腰包，自肩頭垂下的葫蘆狀引火藥匣子，背上背著的推彈杆，再加上火繩槍，整套裝備的總體重量接近 20 公斤。

鐵砲博物館相關活動

火繩槍演武會

每年春、秋兩季，松本城鐵砲隊都會在松本城內各舉辦一次射擊演武會。在現場目睹槍支上膛射擊的場景，不禁讓人遙想起 16 世紀的戰場景象。

年度講座

每年 9 月，博物館都會舉辦一場特殊的講座。遊客在聽完火繩槍與松本城的歷史介紹後，還有機會觸摸真正的火繩槍、觀賞演武視頻。此外，還能與松本城鐵砲隊見面。

更多活動細節，請參見本網站「活動訊息」頁面。

二之丸御殿遺址の發掘

二之丸御殿遺址地處松本城的二級區域「二之丸」內。人們於 1979 年至 1984 年間對其進行了相關考古發掘工作。二之丸御殿曾是松本藩的行政中樞和城主居所，發掘出土的文物為後人展示了一幅當年松本城日常生活的畫卷。

・ 燒鹽壺

這個陶罐用於製備、儲存焙烤過的食鹽，這樣的鹽在當時被視為奢侈品。罐上的銘文顯示，它出自大阪西南部地區，明治時代（1868-1912）以前，那裡一直是食鹽的主要產區之一。根據陶罐的燒製技術和銘文推斷，這個燒鹽壺的製造時間可能晚於 1726 年。

・ 與食物相關的出土文物

二之丸御殿遺址出土了大量動物遺骸，包括貝殼、魚骨、鳥骨和哺乳動物的骨頭，種類繁多。其中如鰻魚、海鯛等魚類，應該都是在日本海或太平洋捕撈上岸並運送到松本城的。

・ 古錢幣

此次考古共出土了 119 枚日本古錢幣。松平直政（1601-1666）出任松本城主期間曾獲得幕府的特別許可，於 1637 年在當地鑄造錢幣，但在二之丸御殿遺址卻並未發現此類錢幣。

<日本語仮訳>

2 階

(1) 豎格子窓

大天守 2 階の 3 面には「武者窓」と呼ばれる豎格子窓があり、射撃手が隙間から堀際に押し寄せた的を攻撃することができるようになっている。格子の 1 本 1 本は幅 13cm、厚さ 12cm ほどで、敵の火縄銃の弾を防ぐのに十分な強度がある。

(2) 大工の技術

異なる木材を組み合わせて 1 本の天井梁を作る場合、その接続部分は構造上弱くなる。そこで、連結した梁の下側に舟形の肘木を付け、接合部を補強している。柱も経年変化で部分的に補修されているものが多く、大天守の随所にさまざまな柱や梁の接合・補強方法を見ることができる。

松本城鉄砲蔵赤羽コレクション

大天守の 2 階には、「松本城鉄砲蔵赤羽コレクション」がある。日本語の「鉄砲」とは、銃器のこと。展示品は地元出身で火縄銃を愛好した赤羽通重・加代子夫妻から寄託されたもので、141 挺の古式銃とその付属品で構成されている。鉄砲蔵には 37 挺の古式銃を展示している。「収蔵品」のページでは、その一部を紹介している。

さまざまな種類の鉄砲

生産地であった国友（現・滋賀県長浜市）で作られた火縄銃や、重さ 16 キログラムの大口径火縄銃「大筒」、変り鉄砲など、さまざまな銃を収蔵している。また、1575 年の長篠の戦いなど、有名な戦いで鉄砲が決定的な役割を果たしたことを説明するパネルも展示されている。

・発射機構

火縄銃の発射機構がどのように作られたかを紹介する展示がある。さまざまな種類の火縄銃を分解して、その複雑な部品がどのように組み立てられたかがわかるようになっている。

・甲冑と装備品

16 世紀当時の鉄砲隊の代表的な鎧や装備を展示している。この鎧一式は、万全の態勢で戦いに臨む足軽の姿が描かれている。腰には刀と弾を入れた胴乱、肩から瓢箪型の火薬入れ、背中には槊杖と、これに火縄銃を加えると、その重さは 20 キログラム弱になる。

コレクションに関連したイベント

火縄銃の演武会

松本城鉄砲隊は、春と秋の年 2 回、城内で射撃の実演を行っている。鉄砲の装填や発射の様子を見聞きすれば、16 世紀の戦場の光景を思い浮かべることができる。

年 1 回の講座

毎年 9 月に特別講座を開催している。火縄銃や松本城の歴史を聞いたあと、本物の火縄銃に触れたり、演武の映像を見たりと、記帳な体験ができる。また、松本城鉄砲隊にも会うことができる。

これらのアクティビティの詳細については、本サイトの「イベント情報」のページを参照。

二の丸御殿跡の発掘調査

1979 年から 1984 年にかけて、松本城二番目に重要な曲輪「二の丸」に位置する二の丸御殿跡で発掘調査が行われた。二の丸御殿は城主の居住空間であると同時に松本藩の行政の中心でもあった。発掘された遺物は松本城の日常生活の一端を物語っている。

・焼塩壺

高級品であった焼き塩を調理・保存するための陶製の壺。刻印から、明治時代まで塩の主な産地であった大阪府の西南部で生産されたことがわかる。壺の製造技法や刻印から、1726 年以降のものと推定される。

・食物関係の出土品

二の丸御殿跡からは、貝類や魚類・哺乳類・鳥類の骨など、さまざまな動物の遺骨が出土している。ブリやタイなど、日本海や太平洋で獲れた魚が松本まで運ばれてきたものもあったようだ。

・古銭

発掘調査では、合計 119 枚の日本の銭貨が出土した。1637 年に、松本城主・松平直政（1601-1666）は幕府から特別に許可を得て、松本で銭貨を鑄造したが、二の丸御殿跡からは一枚も出土していない。

【タイトル】 大天守 3階、4階と5階

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

三楼

(1) 没有窗户的楼层

大天守的三楼也被称为“隐藏层”或“暗闇重”（闇，音同“黯”），是隐藏在两重屋檐间的楼层。乾小天守的三楼也是类似构造。

这层楼的用途暂不明确，有可能是用于仓储。此外，三楼大多数立柱和横梁仅用锛子简单砍凿成型，因此在柱子表面留下了类似鱼鳞或贝壳的纹路。

由于天花板较低，可以看到面板接缝处名为“遮目板”的小板条，其作用在于加固天花板，防止木板翘曲变形。

天花板的东北角有个打通四楼的开口，具体功用目前依然是个谜。

四楼

(1) 城主的“御座所”

四楼最大的一个房间，应该是城主在遭遇围城时的临时起居室——“御座间”。和下面几层相比，这一层的天花板更高，装修也更豪华，立柱使用的材料还是日本扁柏。此外，御座间入口还悬挂着御帘（竹帘），在配置上也与其他楼层截然不同。

(2) 最陡的楼梯

四楼的室内层高 4 米有余，但楼梯上下两头的纵向跨度却被局限在两根柱子之间，因此，楼梯建得十分陡峭，坡度高达 61 度。

五楼楼梯中间有一个平台。尽管层高比四楼高出 40 厘米左右，但把楼梯分成两段后，坡度反而显得没那么大。

五楼

(1) 作战会议室

大天守的五楼可能是在城郭遭遇攻击时的作战会议室。从屋顶破风（一种屋檐装饰）处的木格子和开口处，武士们可以直接观察到城内外各个方向的战况。屋顶大破风给这层楼开辟出了小凹室。

(2) 立柱上的伤痕

进入 20 世纪之后，松本城天守因年久失修而慢慢开始倾斜。因为担心天守坍塌，松本一所中学的校长小林有也(1855-1914)于 1901 年创立了“松本城天守保存会”。1903 年，天守修复工程开启，直至 1913 年才全部完成。传说中，工人们用绳索扶正了大天守。在五楼北侧的一根立柱上还能看到貌似当时绳索留下的凹痕。

一份 20 世纪 50 年代大规模拆解·修复天守工程报告中指出，当时对大天守的水平校正，可能是通过截短部分立柱的榫头调整长度来实现的。

<繁体字>

三樓

(1) 沒有窗戶的樓層

大天守的三樓也被稱為「隱藏層」或「暗闇重」（闇，音同「黯」），是隱藏在兩重屋簷間的樓層。乾小天守的三樓也是類似構造。

這層樓的用途暫不明確，有可能是倉庫。此外，三樓大多數立柱和橫樑僅用鑄子簡單砍鑿成型，因此在柱子表面留下了類似魚鱗或貝殼的紋路。

由於天花板比較低，可以看到面板接縫處的小板條「遮目板」，作用是加固天花板，防止木板翹曲變形。

天花板的東北角有一个打通四樓的開口，具體功能目前依然是個謎。

四樓

(1) 城主的「御座所」

四樓最大的一個房間應該是城主萬一遭遇圍城時的臨時起居室「御座間」。和下面幾層相比，這一層的層高更高，裝修也更豪華——例如立柱的材質是檜木。此外，御座間入口還懸掛著御簾（竹簾），在配置上也與其他樓層截然不同。

(2) 最陡的樓梯

四樓的室內層高 4 公尺有餘，但樓梯上下兩頭的縱向跨度卻被局限在兩根柱子之間，因此，樓梯建得十分陡峭，坡度高達 61 度。

五樓樓梯中間有一個平台。儘管層高比四樓高出 40 公分左右，但把樓梯分成兩段後，坡度反而顯得沒那麼大。

五樓

(1) 作戰會議室

大天守的五樓在城郭遭遇攻擊時可能是作戰會議室。透過屋頂破風（一種屋簷裝飾）處的木格和開口，武士們可以直接觀察到城內外各個方向的戰況。屋頂大破風給這層樓開闢出了小凹室。

(2) 立柱上の傷痕

進入 20 世紀之後，松本城天守因年久失修而慢慢開始傾斜。因為擔心天守坍塌，松本一所中學的校長小林有也（1855-1914）於 1901 年創立了「松本城天守保存會」。1903 年，天守開始了修復工程，直至 1913 年才全部完成。傳說，工人們用繩索扶正了大天守。在五樓北側的一根立柱上還能看到明顯的凹痕，很可能就是當年綁繩索時留下的。

一份 1950 年代大規模拆解・修復天守的工程報告書中指出，當時對大天守的水平校正，可能是透過截短部分立柱的樺頭調整長度來達成的。

<日本語仮訳>

3 階

(1) 窓のない階

大天守の 3 階は「隠し階」「暗闇重」とも呼ばれ、二重の屋根の中に隠れるように作られている。乾小天守の 3 階も同じような構造になっている。

この階の用途は不明だが、物置（または倉庫）として使われた可能性がある。3 階の柱や梁の多くは手斧で荒く仕上げられ、貝殻や魚の鱗のような模様が見られる。

また、天井の高さが低いため、天井の板と板の間の隙間を埋めるための幅の狭い「目隠し板」を見ることができる。これは天井の強度を高め、ゆがみを防ぐためのものである。

東北隅には 4 階の吹き抜け部分もあるが、その用途は謎である。

4 階

(1) 城主の御座所

4 階で最も広い部屋は、籠城の際の城主の臨時的「御座の間」と考えられている。下層階に比べ天井が高く、柱には檜材が使われるなど、豪華な造りになっている。城主の部屋は、簾で仕切られ、他の階とは異なった仕上がりになっている。

(2) 城内一の急階段

4 階は床から天井まで 4 メートル余りの高さがある。この階段は、2 本の柱の間に設置されているため、高い天井に対応するために 61°というとつもなく急な角度で造られている。

5 階の階段は途中で踊り場が設けられている。天井は 4 階より 40 センチほど高く、階段の架け方を 2 段階にすることで、それほど急勾配にはならなかった。

5 階

(1) 作戦会議室

大天守の 5 階は、城攻めを受けた際の作戦会議室として使用された可能性がある。屋根の破風

にある木連格子や開口部からは、武士たちが城内外のあらゆる方角を見渡せたと思われる。この階の破風入り込み間は、屋根の破風によって造られた空間である。

(2) 柱のくぼみ傷

20 世紀に入ると、松本城天守は老朽化し、やや傾き始めていた。城の崩壊を恐れた地元の中学校長、小林有也（1855-1914）は、1901 年に「松本城天守保存会」を設立した。1903 年から修理が始まり、1913 年によく完成した。大天守を縄で引き起こしたという伝説がある。5 階北側の柱には、この時のロープの跡と思われる凹みが見られる。

1950 年代に行われた大規模な解体・復元工事の報告書では、この時の修理では大天守を水平にするために、特定の柱のほぞを切り取って長さを調整する方法が取られた可能性が指摘されている。

【タイトル】 大天守 6階

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**六楼****(1) 松本城的守护神**

大天守顶层的屋顶下设有的一处小神龛，供奉着“二十六夜神”，她是松本城的守护神。相传在古代某个夜晚，一位美丽的女子出现在一名城郭守卫面前，说只要在每个月的26日夜晚供奉3石3斗3升3合3勺米（约合500公斤），便可保城主兴旺发达。据说供奉“二十六夜神”习俗从1617年户田康长(1562-1633)接掌松本城之后就开始了。人们推测该习俗与日本东部地区的“二十六夜神信仰”有关。

(2) 屋顶的桔木构造

桔木构造是指在屋顶横梁和垂木之间架设斜梁，以支撑起瓦葺屋顶的重量。这种技术运用了杠杆原理：如图所示，外墙上方就是杠杆（桔木）的支点，屋檐前端是它的阻力点，阻力点会产生向上的力量，从而有效防止屋檐因屋瓦过重而下沉。

这项技术最初出现于镰仓时代(1185-1333)的寺庙建筑。在乾小天守的四楼也能看到同样的桔木构造，只是尺寸较小。

中文	日本語
桔木	桔木
垂木	垂木
桁条	けしょう垂木
杠杆	テコ
动力点	力点
支点	支点
阻力点	作用点

(3) “消失”的回廊

在20世纪50年代的大修复工程中，人们发现大天守六楼外侧原本计划建造一条勾栏回廊，或许是考虑到松本地区冬季太冷，以及风雨对建筑的损害，最终还是放弃了。

展品简介

1952年《国宝指定书》（复制品）

早在 1936 年，松本城就已经被认定为国宝。然而，二战结束后，日本颁布了新的文化财产保护法令，松本城遂于 1952 年再度被指定为国宝。指定涵盖了城郭的五座主要建筑：大天守、乾小天守、渡櫓、辰巳附櫓、月见櫓。

市川量造的《天守櫓拜借请愿书》《建言书》（复制品）

19 世纪 70 年代，松本城面临着土地被拍卖、城郭被拆除的风险。一位名叫市川量造 (1844-1908) 的本地社会活动家向县长提交了多封请愿书，希望能够保全这座城郭。他申请借用天守 10 年，在城郭内举办展会。最终，城郭在 1873 年至 1876 年间一共举办了 5 次博览会，展品包括美术品、工艺品和道具等。这些请愿书的原件如今则在松本市立博物馆展出。

在松本城最核心的区域“本丸”入口处，有一座缅怀市川量造和小林有也(1855-1914)的纪念碑。

<繁体字>

六樓

(1) 松本城的守護神

大天守頂層的屋頂下設有一處小神龕，供奉松本城的守護神「二十六夜神」。相傳，在古代某個夜晚，一位美麗的女子出現在一名城郭守衛面前，說只要在每個月的 26 日夜晚供奉 3 石 3 鬥 3 升 3 合 3 勺米（約等於 500 公斤），便可庇佑城主興旺發達。據說供奉二十六夜神的習俗從 1617 年戶田康長（1562-1633）接掌松本城之後就開始了，推測該習俗與日本東部地區的「二十六夜神信仰」有關。

(2) 屋頂的桔木構造

桔木構造是指在屋頂橫樑和垂木之間架設斜樑，以支撐起瓦葺屋頂的重量。這種技術運用了槓桿原理：如圖所示，外牆上方就是槓桿（桔木）的支點，屋簷前方是它的抗力點，抗力點會產生往上挑起的力量，從而有效防止屋簷因屋瓦過重而下沉。

這項技術最初出現於鎌倉時代（1185-1333）的寺廟建築。在乾小天守的四樓也能看到同樣的桔木構造，只是尺寸較小。

中文	日本語
桔木	桔木
垂木	垂木
桁條	けしょう垂木
槓桿	テコ
施力點	力点
支點	支点
抗力點	作用点

(3) 「消失」の迴廊

在 1950 年代的大修復工程中，人們發現大天守六樓外側原本計劃造一條勾欄迴廊，或許是考慮到松本地區冬季太冷，以及風雨對建築的傷害，最後放棄了。

展品簡介

1952 年《國寶指定書》（複製品）

早在 1936 年，松本城就已經被認定為國寶。然而，二戰結束後，日本頒布了新的文化財產保護法令，松本城於 1952 年再度被指定為國寶。指定涵蓋了城郭的五座主要建築：大天守、乾小天守、渡櫓、辰巳附櫓以及月見櫓。

市川量造的《天守櫓拜借請願書》《建言書》（複製品）

1870 年代，松本城面臨著土地被拍賣、城郭被拆除的風險。一位名叫市川量造（1844-1908）的當地民運人士連續向縣長提交了多封請願書，希望能夠保全這座城郭。他申請借用天守 10 年，在城郭內舉辦展會。結果，在 1873 年至 1876 年間，松本城一共舉辦了 5 次博覽會，展品包括美術品、工藝品和道具等。這些請願書的原件則在松本市立博物館展出。

在松本城最核心的區域「本丸」入口，有一座緬懷市川量造和小林有也（1855-1914）的紀念碑。

<日本語仮訳>

6 階

(1) 松本城の守護神

大天守の屋根の下にある祠には、松本城の守護神といわれる「二十六夜神」が祀られている。ある晩、美しい女性が見張りの前に現れ、毎月二十六夜に 3 石、3 斗、3 升、3 合、3 勺の米（合計約 500kg）を供えると城主が栄えると告げたという伝説がある。この習慣は、1617 年に戸田康長（1562-1633）が城主となってから始まったと言われている。これは東日本にあった二十六夜神信仰と関係があったのだろうと考えられる。

(2) 桔木構造の屋根

瓦屋根の重い重量を支えるために、梁と垂木の間に桔木を設ける工夫が見られる。この技術の基本原理は「てこの原理」である。図のように、桔木（てこ）が外壁の上部に乗って支点となり、作用点が軒先になる。作用点で上方に押し上げる力が得られるため、瓦の荷重により軒先が下がるのを防ぐ効果がある。

このような技術は、鎌倉時代（1185-1333）に始まった寺院建築に用いられた。乾小天守の 4 階には、この桔木を小型化したものも見られる。

(3) 消えた勾欄

1950 年代の修理の際、もともと 6 階の外側は手すりが付いた勾欄を造る予定になっていたことが判った。しかし、松本の冬の厳しさや雨風による被害を考慮してか、勾欄は造られなかった。

展示品

1952 年の国宝指定書（レプリカ）

松本城は 1936 年に国宝に指定されたが、戦後の文化財保護法の施行に伴い、1952 年に国宝に再指定された。大天守、乾小天守、渡櫓、辰巳附櫓、月見櫓の 5 つの建築物すべてが指定対象となった。

市川量造の「天守櫓拝借懇願書」・「建言書」（レプリカ）

1870 年代に松本城は競売にかけられ、取り壊しの危機にさらされていた。地元活動家の市川量造（1844-1908）は、松本城を守るために、何度も県知事宛に嘆願書を送った。彼は、天守を 10 年間借用すること、城内で博覧会を開催することを主張した。その結果、1873 年から 1876 年にかけて美術品、工芸品、道具など様々なものを展示した博覧会が 5 回開催された。これらの懇願書の原本は、松本市立博物館に展示されている。

松本城の最も主要な曲輪である本丸入口付近に市川量造と小林有也（1855-1914）に関する記念碑がある。

【タイトル】 乾小天守

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

乾小天守

一楼（目前维修关闭中）

(1) 圆柱与方柱

大天守所用立柱均为方柱，但乾小天守圆柱居多。这些圆柱原先可能都是附近寺院里的大树或建材。一楼中间的这根圆柱直径约 41 厘米，历史可追溯到 16 世纪晚期城郭初建之时。

有趣的是，乾小天守的立柱间隔为 182 厘米，明显小于大天守的 197 厘米。其原因无从知晓，但可以推测，负责修建乾小天守的可能是另一支团队。

(2) 出桁式腕木

为了承托一楼瓦葺房檐的重量，粗大的木材穿过天花板角落的墙面，支撑着檐椽的横梁。

二楼（目前维修关闭中）

(1) 排水孔

二楼的粗格子窗（又称“武者窗”）底部凹槽上开有与排水管相连的排水孔。雨水顺着墙面流到窗台上，经凹槽上的小孔排出，可避免窗台积水。

(2) 椽木护板

一楼屋脊的梁木穿过二楼的角柱突出在外。这些木制护板是为了保护角柱缺口。

三楼（通常不开放）

(1) 漆黑的楼层

乾小天守的三楼一片漆黑。其墙壁就是二楼屋檐架构的一部分，因此没有地方可以开窗。大天守的三楼也采用了类似的屋顶结构。

四楼（通常不开放）

(1) 花头窗

四楼有两面钟形窗户，称“花头窗”。这种设计于镰仓时代(1185-1333)自中国传入日本，最常见于禅宗寺院。虽说起初只是应用于宗教建筑，精美的花头窗终究还是得到了富裕武士阶层的青睐，从而渐渐出现在各地城郭和武士宅邸的建筑上。

辰巳附櫓二楼的南牆和北牆上也有花頭窗，且數量更多。

(2) 屋頂的桔木構造

瓦葺屋頂十分沉重，因此需要在橫梁和垂木間增加桔木結構來強化支撐。這項技術最早見於鎌倉時代的寺院建築。大天守的屋頂也採用了同樣的構造。

桔木構造運用了槓桿原理。粗大的桔木斜架在外牆上，以此為支點。屋頂的重量向下作用在桔木較長的一端，反向撬動較短的一端向上挑起，這樣就能有效防止屋櫓下沉。

<繁體字>

乾小天守

一樓（目前維修關閉中）

(1) 圓柱與方柱

大天守所用立柱均為方柱，但乾小天守大多都是圓柱。一樓中間的這根圓柱直徑約 41 公分，歷史可追溯到 16 世紀晚期城郭初建時。這些圓柱原先可能都是附近寺院裡的大樹或建材。

有趣的是，乾小天守的立柱間隔為 182 公分，明顯小於大天守的 197 公分。這究竟是為什麼如今已經難以知曉，但我們可以推測，乾小天守可能是由另一支隊伍負責修建的。

(2) 出桁式腕木

為了承托一樓瓦葺房櫓的重量，粗大木材穿過天花板角落的牆面，支撐著簷櫓的橫樑。

二樓（目前維修關閉中）

(1) 排水孔

二樓的粗格子窗（又稱「武者窗」）底部凹槽上開有與排水管相連的排水孔。雨水順著牆面流到窗台上，經凹槽上的小孔排出，可避免窗台積水。

(2) 椽木護板

一樓屋脊的椽木穿過二樓的角柱突出在外。這些木製護板是為了保護角柱缺口。

三樓（通常不開放）

(1) 漆黑的樓層

乾小天守的三樓一片漆黑。其牆壁就是二樓屋簷架構的一部分，因此沒有地方可以開窗。大天守的三樓也採用了類似的屋頂結構。

四樓（通常不開放）

(1) 花頭窗

四樓有兩面鐘形窗戶，稱「花頭窗」。這種設計於鎌倉時代（1185-1333）自中國傳入日本，最常見於禪宗寺院。雖說最開始只是應用在宗教建築，精美的花頭窗終究還是得

到了富裕武士階層的青睞，於是漸漸出現在各地城郭和武士宅邸的建築上。

辰巳附櫓二樓的南牆和北牆上也有花頭窗，並且數量更多。

(2) 屋頂的桔木構造

瓦葺屋頂十分沉重，因此需要在橫樑和垂木間增加桔木結構來強化支撐。這項技術最早見於鎌倉時代的寺院建築，大天守的屋頂也採用了同樣的構造。

桔木構造運用了槓桿原理。粗大的桔木斜架在外牆上，以此為支點。屋頂的重量向下作用在桔木較長的一端，反向撬動較短的一端向上挑起，這樣就能防止屋簷下沉。

<日本語仮訳>

乾小天守

1 階（現在工事中のため閉鎖中）

(1) 丸柱と角柱の混在

大天守の柱は角柱だが、乾小天守の柱には丸柱が多い。これは近隣の寺院の境内の大木や建物の材木が利用されたものと思われる。床中央にある直径 41 センチ近い丸柱は、16 世紀末の築城当初のものである。

興味深いのは、乾小天守の柱の間隔が 182 センチで、大天守の 197 センチより明らかに短いことである。この理由は不明であるが、乾小天守は別の大工が建設に当たった可能性がある。

(2) 出桁構造の腕木

初重の屋根の垂木を受ける出桁を支えるために、太い腕木が一階天井隅に突き出ている。それは 1 階の瓦庇の重量を支えるのに役立っている。

2 階（現在工事中のため閉鎖中）

(1) 水切の穴

2 階の厚い格子窓（武者窓）の枠には、排水管につながる水切の小さな穴が取り付けられている。これによって、壁面から雨水を逃がし、窓枠に雨水が溜まるのを防ぐ。

(2) 隅木の覆い

初重の隅棟を構成する隅木が、2 階の柱を突き抜けて内側に突き出ている。隅木の切り口を保護するために、木製の覆いが取り付けられている。

3 階（一般非公開）

(1) 真っ暗な階

乾小天守の 3 階は真っ暗である。壁は 2 階の軒先の骨組みの一部であり、窓を設ける余地はない。大天守の 3 階にも同様の屋根構造が見られる。

4 階（一般非公開）

(1) 花頭窓

4 階にある 2 つの鐘の形をした窓は、「花頭窓」と呼ばれるものである。このデザインは、鎌倉時代（1185-1333）に中国から伝来したものである。禅宗の寺院に多く見られた。宗教建築が起源であるにもかかわらず、裕福な武士たちは、城や自分の家にこのような格式の高い窓を取り入れるようになった。

さらに辰巳附櫓 2 階の北側と南側に、さらに多くの花頭窓が見られる。

(2) 桔木の屋根

瓦屋根は重量があるため、梁と垂木の上に桔木を設けて支える工夫があった。このような技術は、もともと鎌倉時代から寺院建築に用いられていたものである。大天守の屋根も、この桔木の設計を採用している。

この技術の根底にあるのは「てこ」の原理である。太い桔木が外壁にかかり、支点となる。屋根の重さで、桔木の上部の長い方が下に押される。すると、軒先に伸びた桔木の短辺の端が上方に押し上げられ、軒下が下がることがなくなる。

【タイトル】 渡櫓、辰巳附櫓と月見櫓

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

渡櫓

(1) 天守の入口

在1634年月見櫓建成以前，位于渡櫓一楼的入口是进入天守的唯一通道。入口处巨大的石头台阶通往连接大天守和乾小天守的走廊。在天守对公众开放之后，为确保来访者安全，台阶上加装了木架和扶手。

(2) 曲梁

渡櫓二楼的房梁中，有一根保留了树木天然的形状。据说这能够让房梁拥有更好的伸缩性和韧性，有助于抗震。在彦根城、金泽城等其他城郭中也能见到类似的曲梁。

房梁的小铜匾上记录着松本城保护活动的历程。

展品简介

渡櫓二楼的小展厅里展出了20世纪50年代城郭修复重建工程中拆下的屋瓦和长钉。修复期间，天守屋顶总计拆下84,672片瓦片，其中22,396片经回收整理后再度投入了使用。

每一次修补屋顶时，时任城主都会烧制带有家纹的瓦片。因此，现在能看到带有不同家纹的瓦片肩并肩地排列在天守屋顶上。

辰巳附櫓

(1) “消失”的石落

单从外面看，辰巳附櫓也有为了设置防御设施“石落”（投石口）而架空的悬挑结构。通常情况下，这种悬空开口可以打开，供城郭守卫使用弓箭或火绳枪防守御敌。但辰巳附櫓的这些开口其实都是封死的，上面铺了地板。

辰巳附櫓的悬挑结构，仅是为了让它和月見櫓的外墙风格保持一致。如果这处附櫓是建于战争时期，地板上一定会留出真正的石落开口，但在17世纪，作战已经不再是优先考虑的功能。

(2) 战争时代与和平时代的立柱

1603年，德川幕府的创立开启了一个相对和平的时代，各地大名（领主）也无需再随时保持战备状态。时代变迁，同样可以从修筑于不同时期的城郭建筑中窥见端倪。在大天

守和辰巳附櫓之间的通道口上，两处建筑的立柱并排而立。辰巳附櫓的立柱不必考虑抵御强敌攻击，因此只有大天守立柱的一半粗细。

(3) 花头窗和排水槽

辰巳附櫓中的钟形窗户被称为“花头窗”。这种设计源自中国，常见于禅宗的寺院建筑，后来才被引入了城郭建筑和武士宅邸中。

为了防止下雨积水损坏窗台，窗台上设置了被称为“水切”的排水槽，雨水通过细小的管道被排到下方屋顶上。

展品简介

辰巳附櫓二楼展出了部分来自松本城铁砲博物馆的火药容器及其他物品，日语中的“铁砲”就是枪械。更多展品信息，请查阅本网站“收藏品”页面。

月见櫓

(1) 不设防的櫓

月见櫓是江户时代(1603-1867)增建的城郭建筑，当时日本社会处于一段很长的和平时期，因此，这座塔楼并无城郭老建筑那样的防御设施。月见櫓舍弃了坚实的墙壁，在其中三面装上木拉门。卸下拉门后，视野顿时开阔，城郭内外一览无余，还可眺望远处的山脉。这里曾被用来举办宴会，地上还铺设了榻榻米。

相传，月见櫓原本是为接待德川幕府第三任将军德川家光(1604-1651)而建，他当时出巡善光寺，原计划要在松本城停留。不料路上发生落石，德川家光不得不改变路线，因此他并未到过松本。

(2) 拱形天花板和朱漆栏杆游廊

月见櫓有许多绝不会出现在战争时代建筑中的优雅设计。比如，塔楼周围环绕着朱漆栏杆游廊，栏杆两头微微向上翘起；室内的拱形天花板“船底天井”，酷似船底，面板还经过柿漆（油柿捣碎所浸出的汁液，可防腐）加氧化铁红的染色处理。

<繁体字>

渡櫓

(1) 天守的入口

在1634年月见櫓建成以前，位於渡櫓一樓的入口是進入天守的唯一通道。入口處巨大的石頭台階通往大天守和乾小天守之間的通道。在天守對大眾開放之後，為了確保遊客安全，台階上加裝了木架和扶手。

(2) 曲樑

渡櫓二樓的其中一根房樑保留了樹木天然的形狀。據說這樣的房樑擁有更好的伸縮性

和韌性，有抗震作用。在彥根城、金澤城等其他城郭中也能見到類似的曲樑。

房樑的小銅匾上記錄著松本城保護活動的歷程。

展品簡介

渡櫓二樓的小展廳裡展出了 1950 年代城郭修復重建工程中拆下的屋瓦和長釘。修復期間，天守屋頂總計拆下 84,672 片瓦片，其中 22,396 片經回收整理後再度投入了使用。

每一次修補屋頂時，時任城主都會燒製帶有家紋的瓦片。因此，現在能看到帶有不同家紋的瓦片肩並肩地排列在天守屋頂上。

辰巳附櫓

(1) 「消失」的石落

單從外面看，辰巳附櫓也有為設置防禦設施「石落」（投石口）的懸空結構。通常情況下，這種懸空開口可以打開，供城郭守衛使用弓箭或火繩槍防守禦敵。但辰巳附櫓的這些開口其實都是封死的，上面鋪了地板。

懸空結構在這裡僅是為了讓辰巳附櫓和月見櫓的外牆風格保持一致。如果這處附櫓建於戰爭時期，地板上一定會留出真正的石落開口，但在 17 世紀，作戰已經不再是優先考慮的功能。

(2) 戰爭時代與和平時代的立柱

1603 年，德川幕府的創立開啟了一個相對和平的時代，各地大名（領主）不需要像從前一樣隨時保持戰備狀態。時代變遷，同樣可以從修築於不同時期的城郭建築中窺見端倪。在大天守和辰巳附櫓之間的通道口上，兩處建築的立柱並排而立。辰巳附櫓的立柱不必考慮抵禦強敵攻擊，因此只有大天守立柱的一半粗細。

(3) 花頭窗和排水槽

辰巳附櫓中的鐘形窗戶被稱為「花頭窗」。這種設計源自中國，常見於禪宗的寺院建築，後來才被引入了城郭建築和武士宅邸中。

為了防止下雨積水損壞窗台，窗台上設置了被稱為「水切」的排水槽，雨水透過小管道直接排到下方屋頂上。

展品簡介

辰巳附櫓二樓展出了部分來自松本城鐵砲博物館的火藥容器及其他物品，日語中的「鐵砲」就是槍械。更多展品訊息，請查閱本網站「收藏品」頁面。

月見櫓

(1) 不設防的櫓

月見櫓是江戶時代（1603-1867）增建的城郭建築，當時日本社會處於一段很長的和平時期，因此，這座塔樓並沒有城郭老建築那樣的防禦設施。月見櫓捨棄了堅實的牆壁，在三面裝上了可拆卸的移動木門，視野開闊，可眺望遠處的山脈，將城郭內外一覽無餘。

此處曾用來舉辦聚會，地面還鋪了榻榻米。

相傳，月見櫓原本是為接待德川幕府第三任將軍德川家光（1604-1651）而建，他當時出巡善光寺，原計劃在松本城停留，不料道路發生落石，德川家光不得不改變路線，因此他並未到過松本。

(2) 拱形天花板和朱漆欄杆遊廊

月見櫓有許多絕不會出現在戰爭時代建築中的優雅設計。例如環繞塔樓的朱漆欄杆簷廊，欄杆兩頭微微向上翹起；室內的拱形天花板酷似船底，被稱為「船底天井」，面板都經過柿漆（油柿搗碎所浸出的汁液，可防腐）加氧化鐵紅的染色處理。

<日本語仮訳>

渡櫓

(1) 天守への入口

1634年に月見櫓ができるまでは、渡櫓の1階にある入口が城への唯一のアクセス手段であった。入口の重厚な石段は、大天守と乾小天守を結ぶ廊下へと続いていた。現在、階段は安全性を高めるために手すりを含む木枠で覆われているが、これは一般公開が始まってから付け加えられたものである。

(2) 曲がった天井の梁

渡櫓の2階にある天井の梁のうち、1本は元の木の形状を残したままになっている。これは、地震時に伸縮しやすいようにと考えられたものである。彦根城や金沢城など、他の城でも同じような曲線の梁を見ることができる。

梁に取り付けられた小さな銅板には、松本城の保存活動の歴史が記されている。

展示品

渡櫓の2階にある小さな展示室には、1950年代の天守の解体・復元時に取り外された瓦や釘などが展示されている。修理の際に屋根から剥がされた84,672枚の瓦のうち、22,396枚が回収され、再利用された。

城主が屋根の修理をするたびに、自分の家の家紋を入れた瓦を使った。その結果、城の屋根の瓦には、さまざまな家の紋が並んでいる。

辰巳附櫓

(1) 「消えた」石落

辰巳附櫓は外から見ると、石落と呼ばれる防御設備と思われる張り出しがある。通常、この張り出しは底が開いており、防御者が弓や火縄銃を撃つことができる空間になっている。開口部はなく、床板が張られている。

この張り出しは辰巳附櫓と月見櫓の壁を合わせるために、構造上必要なものであった。戦時に建て

られたのであれば、石落が設けられたのであろうが、17 世紀にはそのような防御的な機能は優先されなくなったのだ。

(2) 戦時と平時の柱

1603 年に徳川幕府が成立すると、比較的平和な時代が到来し、大名（領主）は常に侵略の危険に備える必要はなくなった。このような変化は、異なる時代に建てられた城の構造にも表れている。大天守と辰巳附櫓の間の敷居にはそれぞれの柱が並んでいる。辰巳附櫓の柱は攻撃に耐えられるような構造ではなく、大天守の柱の約半分の太さしかない。

(3) 花頭窓と水切

辰巳附櫓の鐘楼窓は「花頭窓」と呼ばれるものである。中国発祥のデザインで、禅宗の寺院に多く用いられていた。この窓が次第に天守や武家屋敷に取り入れられるようになった。

窓辺には水切と呼ばれる排水用の樋が設けられ、雨水が溜まって窓辺が傷むのを防いでいる。この水切は、雨水が小さなパイプを通して屋根に流れ出るようになっている。

展示品

辰巳附櫓の 2 階では、松本城鉄砲蔵の火薬入れなどの装備品を展示している。日本語の「鉄砲」とは、銃器のこと。詳細は本サイト「収蔵品」のページを参照。

月見櫓

(1) 無防備な櫓

月見櫓は、江戸時代（1603-1867）の平和な時代に増築された。そのため、旧来の天守のような防御機能は持たない。天守の 3 面には壁の代わりに木製の引き戸が取り付けられており、これを取り外すと城内と遠くの間々を一望することができる。畳が敷かれ、宴が行われた。

月見櫓は、徳川三代将軍・徳川家光（1604-1651）が善光寺参詣をする途中、この城に宿泊するために建てられたといわれている。しかし、家光は落石のため別の道を通り、松本を通過することはなかった。

(2) 船底天井と朱塗りの縁側

月見櫓には、戦時中ではありえないような優雅な演出が随所に施されている。例えば、塔の周囲には朱塗りの回縁があり、その角には緩やかなカーブを描く手すり（勿ね勾欄）が施されている。また、船底天井は柿渋にペンガラを混ぜた染料で薄く色づけした化粧板を張ってある。

【タイトル】 黒門と太鼓門

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

黒門

(1) 一之門

黒門是如今出入城郭核心区域“本丸”的唯一通道。但在 19 世纪晚期以前，只有城主和权贵显要的宾客才能使用这道城门，武士和工人仆役日常出入都得走本丸御殿东北方的一道小门。

从名字看，“黒門”应当是黑色的，但事实未必如此。“黒”字在这里代表的是这道门的用途。当时，黑色通常象征与公家或高贵相关，建筑或房舍的名字中如果出现“黒”字，往往就意味着它们具有公共职能或用途。

最早的黒門于 1871 年被拆除，现有的一之門（内門）是 1960 年重建的。据说，由于没有原始设计图存世，建筑师市川清作在设计时参考了名古屋城的城门。20 世纪 50 年代的城郭修复工程从天守屋顶拆下大量瓦片，其中部分被用在了 1960 年这道大门的重建中。许多屋瓦上带有数百年间历代松本城主不同的家纹。

(2) 二之門和枘形

黒門内的小广场因形似量米的量具“枘”（音同“升”）而被称为“枘形”，它是一道防御设施。敌人若想攻入本丸御殿，就必须先穿过此处小广场，从而彻底暴露于火绳枪的火力覆盖之下。现存二之門（外門）于 1989 年重建。

太鼓門

江戸时代(1603-1867)，太鼓門是松本城二级区域“二之丸”的主要出入口。和大部分城郭内其他建筑一样，这道城门及其周围的部分石垣都在明治时代(1868-1912)被拆除了。

如今的太鼓門于 1999 年重建，设计施工参考了 18 世纪早期的松本城示意图。城门所用日本扁柏已有 400 年树龄，巨大的横梁则是取 140 年树龄的松木制成。这道門的东侧开有“狭間”（箭窗）和“石落”（投石口），借助这些开口，城郭守军便可以使用弓箭或火绳枪御敌。

太鼓門初建时间不明，但大多认为是在 1590 年至 1613 年之间，当时的松本城处于石川家族治下。在太鼓門周边区域的考古发掘中，出土了覆有金箔的屋瓦，据考证，这批屋瓦正是出自这一时期。金箔瓦现于松本市立博物馆展出。

(1) 太鼓楼

太鼓門最初得名于矗立于北側門台上的“太鼓樓”，樓上置有一面太鼓和一口鐘，平常用于報時，遇到襲擊時則可向周邊地區示警。

(2) 玄蕃石

松本城內最大的单体岩石名叫“玄蕃石”，現位于太鼓門一側牆角。这块巨石高約3.6米，直徑約1.5米，重量估計可達22.5噸左右。當年要將這樣一块巨石運到城內，所需人力必然難以估量。

傳說，松本城的第二任城主石川康長(1554-1642)親自監督了岩石的搬運。當時，他高踞於这块巨石之上，指揮工人將它從山中運到松本城內。途中一名工人忍不住抱怨了一下，石川康長立刻跳下大石，揮刀砍下這名工人的頭顱，並挑在長槍上。然後，他爬回巨石頂端，高高舉起長槍，喝令所有人繼續拖拽大石前進。由此，有人認為“玄蕃石”的名字與石川康長有關，因為他曾經出任專門掌管僧尼和接待外國使者的“玄蕃頭”。

<繁体字>

黑門

(1) 一之門

黑門現在是出入城郭核心區域「本丸」的唯一通道。但在19世紀晚期以前，只有城主和顯要的權貴與賓客才能使用這道城門，武士和工人僕役日常出入都得走本丸御殿東北方的一道小門。

從名字看，「黑門」應當是黑色的，但實際上卻未必如此。「黑」字在這裡代表的是這道門的用途。當時，黑色通常象徵了與官方或貴族相關，建築或房舍的名字中如果出現「黑」字，往往就意味著它們具有公家職能。

最早的黑門於1871年被拆除，現有的一之門（內門）是1960年重建的。據說，由於沒有原始設計圖存世，建築師市川清作在設計時參考了名古屋城的城門。1950年代的城郭修復工程從天守屋頂拆下大量瓦片，其中部分被用在了1960年這道大門的重建中。許多屋瓦上帶有數百年間歷代松本城主不同的家紋。

(2) 二之門和枅形

黑門內的小廣場因形似量米的量具「枅」（音同「升」）而被稱為「枅形」，它是一道防禦設施。敵人若想攻入本丸御殿，就必須先穿過這處小廣場，從而徹底暴露於火繩槍的火力覆蓋之下。現存二之門（外門）於1989年重建。

太鼓門

江戶時代（1603-1867），太鼓門是松本城二級區域「二之丸」的主要出入口。和大部分城郭內其他建築一樣，這道城門及其周圍的部分石垣都在明治時代（1868-1912）被拆除了。

如今的太鼓門於1999年重建，設計施工參考了18世紀早期的松本城示意圖。城門所

用檜木已有 400 年樹齡，巨大的橫樑則是取 140 年樹齡的松木製成。這道門的東側開有「狹間」（箭窗）和「石落」（投石口），有了這些開口，城郭守軍便可以使用弓箭或火繩槍禦敵。

太鼓門初建時間不明，但大多數人認為是在 1590 年至 1613 年之間，當時的松本城處於石川家統治下。在太鼓門周邊區域的考古發掘中，出土了覆有金箔的屋瓦，據考證，這批屋瓦正是出自這一時期。金箔瓦現於松本市立博物館展出。

(1) 太鼓樓

太鼓門最初得名於矗立於北側門台上的「太鼓樓」，樓上置有一面太鼓和一口鐘，平常用於報時，遇到襲擊時則可向周邊地區示警。

(2) 玄蕃石

松本城內最大的單體岩石名叫「玄蕃石」，現位於太鼓門一側牆角。這塊巨石高約 3.6 公尺，直徑約 1.5 公尺，重量估計可達 22.5 噸左右。可以想像，當年要將這樣一塊巨大笨重的石頭運到城內，所需人力難以估量。

傳說，松本城的第二任城主石川康長（1554-1642）親自監督了岩石的搬運。當時，他高踞於這塊巨石之上，指揮工人將它從山中運到松本城內。途中一名工人忍不住抱怨了一下，石川康長立刻跳下大石，揮刀砍下這名工人的頭顱，並挑在長槍上。然後，他爬回巨石頂端，高高舉起長槍，喝令所有人繼續拖拽大石前進。因為石川康長曾經出任專門掌管僧尼和接待外國使者的「玄蕃頭」，有人認為「玄蕃石」的名字與他有關。

<日本語仮訳>

黒門

(1) 一の門

黒門は現在、城の一番重要な曲輪「本丸」への唯一の入口である。しかし、19 世紀後半以前は、この門は城主や高位の訪問者が使用するためのものであった。本丸御殿の北東にある小さな門が、武士や労働者が日常的に使用するものである。

黒門とは、文字通り「黒い門」という意味であるが、必ずしもその色から名付けられたわけでない。むしろ、この門の目的を反映したものである。この門が建てられた当時、「黒」は公的なものや格式の高いものを連想させる色であった。建物や部屋の名前にも「黒」が付くのは、公共的な役割や用途を反映したものである。

黒門は 1871 年に取り壊され、現在の一の門は 1960 年に再建されたものである。現存する設計図がなく、設計者の市川清作は名古屋城の門を参考にしたと言われている。1960 年の門の建設にあたっては、1950 年代に行われた城の修理で保存されていた屋根瓦を再利用した。この瓦には松本城の歴代城主の家紋が描かれているものが多い。

(2) 二の門と枳形

黒門の枡形（度量衡器の一つ方形の「枡」にちなんで名付けた）は防御策として作られたもので、本丸御殿に入ろうとする敵は枡形で一の門を破る前に火縄銃の攻撃にさらされることになる。現在の二の門は 1989 年に再建されたもの。

太鼓門

江戸時代（1603-1867）には、城の二番目に重要な曲輪「二の丸」への主要な出入り口として太鼓門があった。明治時代（1868-1912）、城内の多くの施設と同様に、門と周囲の石垣の一部が取り壊された。

現在の太鼓門は、1700 年代初頭に描かれた松本城の絵図をもとに、1999 年に建てられた。門に使われている檜は樹齢 400 年であるが、門の梁には樹齢 140 年の松材が使われている。門の東側には狭間があり、そこから弓や火縄銃を放つことができる石落も設けられている。

元の太鼓門の建築年代は不明だが、石川家が城主だった 1590 年から 1613 年の間に建てられたとされる。太鼓門周辺の発掘調査によりこの時代の金箔を貼った瓦が発見され、現在、松本市立博物館で展示されている。

(1) 太鼓楼

北側門台上に太鼓楼があり、鐘と太鼓が備えられていたことから、太鼓門と呼ばれるようになった。太鼓と鐘は、時刻を知らせたり、非常時の合図を周囲の町に知らせたりするために使われた。

(2) 玄蕃石

松本城で最も大きな石は、玄蕃石と呼ばれ太鼓門の角にある。高さ 3.6 メートル、直径 1.5 メートル、重さ 22.5 トンと推定される。この石を城まで運ぶには、大変な人手が必要であったろう。

松本城二代目城主の石川康長（1554-1642）は、山から引きずり出された石の上に乗ったという伝説が残っている。石川は、石の上に乗って山から引きずり出すときに、労働者の一人が文句を言うと、石を降りてその人の首を切り落として槍の先に突き刺した。そして、石に登り返すと、槍を高く掲げて、皆に再び動き出すように叱咤激励した。このように、玄蕃石は、玄蕃頭（僧尼を監督し、外国使節を接待する部署の長官）の官職を持つ石川にちなんで名づけられたと言われている。

【タイトル】 本丸御殿跡と二の丸御殿跡

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

本丸御殿遗址

在天守建筑群前的草地上，黑色瓦片标出了本丸御殿曾经的位置。本丸御殿是城主的居所，也是松本藩的政治中枢。这座建筑位于本丸内，占地约 2730 平方米。另在二之丸设有两处御殿，分别是二之丸御殿和古山地御殿。丸”即城郭内的防御空间，通常由中心向外分为“本丸”“二之丸”“三之丸”等区域。

右侧平面图展示了本丸御殿的布局构造。御殿由五栋主要建筑组成，共有 60 多个房间。御殿外有围栏环绕，将它与西侧的天守群及北侧的一排马厩分开。

本丸御殿于 1727 年失火焚毁。尽管是十分重要的建筑，但它却再也没有重建。当时新城主户田光慈(1712-1732)刚刚在前一年接管了松本城，决定将居所和行政机关都迁至二之丸御殿。

本丸御殿南侧备有多个待客的房间。这里除了设有一个能剧舞台，还有各种功能厅，可用于接见来访者、举办典礼或其他正式会议。御殿中央的房间则是藩内重臣的办公室。

本丸御殿北侧是城主的私人区域，最北侧是仓储区域和佣人房，东边设有一间大厨房。中庭北侧有一间放置日式时钟的房间，据说太鼓楼上的太鼓就是以这面钟的时间为准进行报时的。

二之丸御殿遗址

通常认为，本丸御殿和二之丸御殿都建于 1594 年前后，与城郭最早的三处建筑大天守、乾小天守和渡櫓兴建于同一时期。但也有历史文献显示，二之丸御殿的建造时间可能稍晚，大约在松平直政(1601-1666)执掌松本城期间的 1633 年。

二之丸御殿比本丸御殿小一些，占地约 1980 平方米，共设大约 50 个房间。在 1727 年本丸御殿失火焚毁之前，二之丸御殿始终是松本城的二级行政中枢。火灾将本丸御殿夷为平地，城主居所和大部分行政机构都迁到了二之丸御殿。由于御殿空间较小，另有一些行政机构搬到了周边的城下町（围绕城郭发展起来的市镇）。

二之丸御殿的正门位于建筑南端，此外，在东侧中央曾经还有过一个入口。从南门进入御殿区域后首先是一处大厅，大厅连接着几间面积较小的接待室。布局本身与本丸御殿完全相同，只是面积只有其三分之二。不过二之丸御殿的城主居所放在了接待区的后方，藩内重臣的办公室位于御殿最北侧，这部分的位置关系与本丸御殿刚好相反。二之丸御殿在东北侧同样设有一间厨房。

1868 年明治維新之後，二之丸御殿被用作筑摩縣政府的辦公地，直至 1876 年失火焚毀。1979 年啟動的考古發掘中，這裡出土了大量文物，令後人得以一窺當年松本城的日常生活景象。地面標記重現了二之丸御殿的基本建築規劃，勾勒出了其大體布局面貌。

<繁體字>

本丸御殿遺址

在天守建築群前的草地上，黑色瓦片標出了本丸御殿曾經的位置。本丸御殿是城主的居所，也是松本藩的政治中樞。這座建築位於本丸內，占地約 2730 平方公尺。另在二之丸設有兩處御殿，分別是二之丸御殿和古山地御殿。「丸」即城郭內的防禦空間，通常由中心向外分為「本丸」、「二之丸」、「三之丸」等區域。

右側平面圖展示了本丸御殿的布局結構。御殿由五棟主要建築組成，共有 60 多個房間。御殿外有圍欄環繞，將它與西側的天守群及北側的一排馬廄分開。

本丸御殿於 1727 年失火焚毀。儘管是十分重要的建築，但它卻再也沒有重建。當時新城主戶田光慈（1712-1732）剛於前一年接管了松本城，決定將居所和行政機關都遷至二之丸御殿。

本丸御殿南側備有多個待客的房間。這裡除了設有一個能劇舞台，還有各種功能廳，可用於接見賓客、舉辦典禮或其他正式會議。御殿中央的房間則是藩內重臣的辦公室。

本丸御殿北側是城主的私人區域，最北側是倉儲區域和僕人房。這一區域的東邊設有一間大廚房。中庭北側有一間放置日式時鐘的屋子，據說太鼓樓上的太鼓就是以這面鐘的時間為準進行報時的。

二之丸御殿遺址

通常認為，本丸御殿和二之丸御殿都建於 1594 年前後，與城郭最早的三處建築大天守、乾小天守和渡櫓興建於同一時期。但也有歷史文獻顯示，二之丸御殿的建造時間可能稍晚，大約在松平直政（1601-1666）執掌松本城期間的 1633 年。

二之丸御殿比本丸御殿小一些，占地約 1980 平方公尺，共設大約 50 個房間。在 1727 年本丸御殿失火焚毀之前，二之丸御殿始終是松本城的二級行政中樞。火災將本丸御殿夷為平地，城主居所和大部分行政機關都遷到了二之丸御殿。由於御殿空間較小，另有一些行政機關搬到了周邊的城下町（圍繞城郭發展起來的市鎮）。

二之丸御殿的正門位於建築南端，此外，在東側中央曾經還有過一個入口。從南門進入御殿區域後首先是一處大廳，大廳連接著幾間較小的接待室。布局本身與本丸御殿完全相同，只是面積只有其三分之二。不過二之丸御殿的城主的居所放在了接待區的後方，藩內重臣的辦公室位於御殿最北側，這部分的位置關係與本丸御殿剛好相反。二之丸御殿在東北側同樣設有一間廚房。

1868 年明治維新之後，二之丸御殿被用作了筑摩縣政府的辦公地，直至 1876 年失火焚毀。在 1979 年開始的考古發掘中，這裡出土了大量的文物，令後人得以一窺當年松本城

的日常生活景象。地面標記重現了二之丸御殿的基本建築規畫，勾勒出了其大體布局面貌。

<日本語仮訳>

本丸御殿跡

天守の前の芝生の中の黒い瓦を使った仕切りは、かつて本丸御殿があった場所を示している。本丸御殿は城主の居城であり、藩の行政の中心であった。本丸に位置する本丸御殿の面積は約2,730 平方メートル。二の丸には二の丸御殿と古山地御殿という 2 つの御殿があった。「丸」とは城郭の内部、防衛用の空間のこと。中心から外側に向けて、本丸、二の丸、三の丸などと称する。

右の図は、本丸御殿のレイアウトを示したものである。5 つの棟からなり、60 以上の部屋があった。御殿を囲む塀で、西側の天守と北側の馬場を区切っていた。

本丸御殿は 1727 年に焼失した。重要な建物であったにもかかわらず、再建されることはなかった。前年に松本城の支配権を得たばかりの戸田光慈（1712-1732）は、二の丸御殿に居館と行政機関を置くことにした。

本丸御殿の南側には、賓客を迎えるための部屋が多数あった。能舞台をはじめ、接客や式典、評議などを行うための諸広間があったという。中央の部屋は藩の重臣たちの執務室として使われた。

本丸御殿の北側は城主の私室で、一番北の端には物置や使用人の部屋があった。また、この東側には大きな台所もあった。中庭の北には和時計の置かれている部屋があり、この時計の時刻を太鼓門の太鼓で知らせていたと言われている。

二の丸御殿跡

本丸御殿と二の丸御殿は、大天守、乾小天守、渡櫓という城内最古の 3 つの建物とともに、1594 年頃に建てられたと考えられている。しかし、二の丸御殿は、松本城が松平直政（1601-1666）の時代、1633 年頃に建てられたとする史料もある。

二の丸御殿は、広さ1,980 平方メートル、部屋数 50 ほどで、本丸御殿より規模が小さかった。二の丸御殿が存在した当時は、二の丸御殿は城の第二の行政拠点として機能していた。1727 年に本丸御殿が焼失した後、城主の住居と役所の大半は二の丸御殿に移された。二の丸御殿は広くはないため、一部の役所は周辺の城下町（城郭を中心に発達した都市）に移さざるを得なかった。

二の丸御殿の正面玄関は南端にあり、東側の中央部にも内玄関があった。南側から入ると、まず大きな広間があり、そこからいくつもの小さな応接室が続いている。この配置は、本丸御殿と同じであるが、規模は 2/3 である。しかし、二の丸御殿では藩主の住居が応接エリアの後方にあり、その北端に上級官僚の執務室があった。この部分は、本丸御殿とは逆の配置になっている。また、二の丸御殿の北東側には台所もあった。

二の丸御殿は、1868 年の明治維新後、1876 年に焼失するまで筑摩県庁として使用された。1979 年から行われた発掘調査により、松本城の日常生活を知ることができるさまざまな遺物が出土した。地面には建物の基本的な図面を再現しており、レイアウトを知ることができる。

【タイトル】 その他の見どころ (1)

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

其他看点-1

松本城恩人肖像

这两幅青铜浮雕人像是松本市民市川量造和小林有也，当年，正是他们发起倡议与募捐，才最终保全松本城免于被拆毁。

市川量造(1844-1908)

左侧身着传统和服的铜像是市川量造。他是一名本地商人和地方行政官员，出生于松本地区南部的横田町。1872年，市川量造得知政府即将拍卖松本城，之后还会将其拆除。为了阻住这个计划，他上书县长，请求将拍卖推迟10年，并在此期间利用城郭场地举办展会。市川量造希望借助这些展览推进公民教育，让大众有机会亲身感受松本历史的重要组成部分。请愿于1873年获批，同年，第一场博览会在松本城内举办。展览广受欢迎，有时一天就有数千松本市民前来观摩。之后，城内又举办了4次博览会。得益于市川量造的不懈努力，松本城才终于逃脱了被拆除的命运。

小林有也(1855-1914)

右侧穿西装的是小林有也，他出生于今大阪西南部的一个武士家庭。小林有也早年在东京学习物理学，于1885年来到了松本，出任县立中学的第一任校长。

20世纪初，松本城天守开始倾斜，部分屋顶随时有坍塌的风险。数十年前，市川量造的努力保全了松本城不被拆毁，然而它却终究没能摆脱因年久失修带来的重大隐患。于是小林有也挺身而出，于1901年创办“松本城天守保存会”，面向全国发起了募捐，最终募集到2万日元。这在当时无疑是一笔巨款，松本城因此得到了大规模的修复。

<繁体字>

其他看点-1

松本城恩人肖像

這兩幅青銅浮雕人像是松本市民市川量造和小林有也，當年，正是他們發起倡議與募捐，才最終保全了松本城免於被拆毀。

市川量造 (1844-1908)

左側身著傳統和服的銅像是市川量造。他是一名在地商人和地方行政官員，出生於松本地區南部的橫田町。1872 年，市川量造得知政府即將拍賣松本城，此後還準備將其拆除。為了阻止這個計畫，他上書縣長，請求將拍賣推遲 10 年，並在此期間利用城郭場地舉辦展覽會。市川量造希望借助這些展覽推進公民教育，讓大眾有機會親身感受松本歷史的重要組成部分。請願於 1873 年獲批，同年，第一場博覽會在松本城內舉辦。展覽廣受歡迎，有時一天就有數千松本市民前來觀摩。之後，城內又舉辦了 4 次博覽會。得益於市川量造的不懈努力，松本城才終於逃脫了被拆除的命運。

小林有也 (1855-1914)

右側穿西裝的是小林有也，他出生於今大阪西南部的一個武士家庭。小林有也早年在東京學習物理學，於 1885 年來到松本，出任縣立中學的第一任校長。

20 世紀初，松本城天守開始傾斜，部分屋頂隨時有坍塌的風險。幾十年前，市川量造的努力保全了松本城不被拆毀，然而它卻終究沒能擺脫因年久失修帶來的重大隱患。於是小林有也挺身而出，於 1901 年創辦「松本城天守保存會」，面向全國發起募捐，最終募集到 2 萬日圓。這在當時無疑是一筆巨款，足以完成松本城的大規模修復工程。

<日本語仮訳>

その他の見どころ (1)

城の恩人の肖像画

市川量造と小林有也の 2 人の松本市民が、松本城の破壊を防ぐために資金調達を行ったのを顕彰したブロンズレリーフである。

市川量造(1844-1908)

左の和服姿の市川量造は、松本の南に位置する横田町で生まれた商人であり町政を担当した。1872 年に松本城が国から競売にかけられ、取り壊されることがほぼ確実となったことを知った。これを阻止するため、市川は県知事に対して、競売を 10 年遅らせ、その間に城郭内で博覧会を開くことを強く願い出た。これらの展覧会を通じて、松本の歴史の重要な部分を体験してもらい、公共の教育を促進することを市川は望んでいた。1873 年にこの陳情が認められ、同年、5 回にわたる開催された一回目の博覧会が松本城内で開かれた。博覧会は大盛況で、1 日に数千人の市民が訪れた日もあったという。市川の尽力により、松本城は取り壊しの危機を脱したのである。

小林有也(1855-1914)

右の洋装の小林有也は、現在でいう大阪南西部にあった武士の家に生まれた。東京で物理学を学んだ後、1885 年に松本の県立中学の初代校長として赴任した。

20 世紀に入ると松本城の天守は傾き始め、屋根の一部が崩れ落ちる危険性があった。数十年前に、市川の努力で松本城の取り壊しは免れたが、このままでは朽ち果ててしまうかもしれない。1901

年に小林は「松本城天守保存会」を設立し、全国で資金集めを開始した。その活動により、当時としては破格の2万円もの寄付金が集まり、大規模な修復を行うことができたのである。

【タイトル】 その他の見どころ (2)

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

其他看点-2

水野忠直捐贈的石灯笼

这个精美的石灯笼位于本丸庭园南侧，原本是松本城主水野忠直(1652-1713)为了纪念已故的德川幕府第四任将军德川家纲(1641-1680)，于 1681 年进献给东京宽永寺的贡品。1953 年，一位松本居民向宽永寺买下后将其带回了松本。

户田家族的石灯笼

沿本丸庭园外围有 3 个石灯笼和 1 个手水钵（净水池），它们最初都被安放在户田家族位于江户（今东京）的宅邸中，这个家族分别在 1617 年至 1633 年和 1726 年至 1869 年间两度出任松本城主。

小笠原牡丹

本丸庭园内的这些白牡丹已经有将近 500 年的历史。1550 年，松本地区还处于小笠原家族的掌控之下，然而，战国武将武田信玄(1521-1573)计划从南部向他们发起攻击。小笠原长时(1514-1583)决定退逃，他将心爱的白牡丹移栽到免川寺，希望能够保全它们。数百年来，这些牡丹一直由寺院的一个信徒家族照料。二战结束后，该家族将牡丹秧苗捐赠给了松本城。

拴马樱

本丸庭园内的这株樱花树和城郭一个生动的传说有关：16 世纪 90 年代，松本城主石川康长(1554-1642)在城内招待同为大名（领主）的加藤清正(1562-1611)。就在加藤清正即将辞别之时，石川康长令人牵来两匹神骏不凡的马，让他从中挑选一匹作为礼物，但加藤清正把两匹都带走了。

传说，在出城之前，加藤清正曾将这两匹马拴在一株樱花树下。如今的这株“拴马樱”便是故事里当年那株樱花树的子孙。

<繁体字>

其他看点-2

水野忠直捐贈的石燈籠

這個精美的石燈籠位於本丸庭園南側，原本是松本城主水野忠直（1652-1713）為了紀念已故的德川幕府第四任將軍德川家綱（1641-1680），於 1681 年進獻給東京寬永寺的貢品。1953 年，一位松本居民向寬永寺買下後將其帶回了松本。

戶田家の石燈籠

沿本丸庭園周邊有 3 個石燈籠和 1 個手水鉢（淨水池），它們最初都被安放在戶田家位於江戶（今東京）的宅邸中，這個家族分別在 1617 至 1633 年和 1726 至 1869 年間兩度出任松本城主。

小笠原牡丹

本丸庭園內的這些白牡丹已經有將近 500 年的歷史。1550 年，松本地區還處於小笠原家的掌控之下，然而，戰國武將武田信玄（1521-1573）計劃從南部向他們發起攻擊。小笠原長時（1514-1583）決定退逃，他將心愛的白牡丹移栽到免川寺，希望能在戰火中倖存下來。數百年來，這些牡丹一直由一個寺院信徒家族照料。二戰結束後，該家族將牡丹秧苗捐贈給了松本城。

拴馬櫻

本丸庭園內的這株櫻花樹和城郭一個生動的傳說有關：1590 年代，松本城主石川康長（1554-1642）在城內招待同為大名（領主）的加藤清正（1562-1611）。就在加藤清正即將辭別之時，石川康長令人牽來兩匹神駿不凡的馬，讓他從中挑選一匹作為禮物，但加藤清正把兩匹都帶走了。

傳說，在出城之前，加藤清正曾將這兩匹馬拴在一株櫻花樹下。如今的這株「拴馬櫻」便是故事裡當年那株櫻花樹的子孫。

<日本語仮訳>

その他の見どころ（2）

水野忠直奉獻灯籠

本丸庭園南側の豪華な石灯籠は、1681 年に松本城主水野忠直（1652-1713）が徳川 4 代将軍家綱の菩提を弔うために東京の寛永寺に寄進したものである。1953 年、同寺から購入した松本の住民が松本に持ち帰り、現在に至っている。

戸田家の灯籠

本丸庭園の外周には、3 基の石灯籠と 1 基の手水鉢が飾られている。元々は、1617 年から 1633 年、そして 1726 年から 1869 年にかけて松本城主を務めた、戸田家の江戸（現在の東京）の屋敷の敷地内にあったものである。

小笠原牡丹

本丸庭園の白牡丹は、500年近い歴史を持つ。1550年、松本地方は小笠原家の統治下にあったが、戦国武将・武田信玄（1521-1573）が南から攻め入る動きを見せていた。小笠原長時（1514-1583）は逃亡を決意するが、大切にしていた白牡丹を兎川寺に移し、保存した。その後、寺の檀家の1人が牡丹を守り続け、戦後になって松本城に牡丹の苗を寄贈している。

駒つなぎの桜

本丸庭園には、ある生き生きとした城の伝説を伝える一本の桜の木がある。1590年代に石川康長（1554-1642）が同じく大名（領主）の加藤清正（1562-1611）を松本城で歓待した。清正の滞在が終わろうとする際に、康長は清正に2頭の名馬のうちの1頭を贈ろうとしたところ、清正が2頭とも連れ帰ったことは有名な話である。

清正は出発前にその馬を桜の木に繋いだと言われており、現在の駒つなぎの桜はその伝説を伝える後継の木である。

【タイトル】 その他の見どころ (3)

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

其他看点-3

松本藩戊辰出兵纪念碑

这座高大的石碑为纪念参加戊辰战争(1868-1869)的 261 名松本武士而立。这场在支持最后一任德川幕府将军的“拥幕派”与支持还政于天皇的“倒幕派”之间爆发的战争，是明治维新的第一阶段，不仅终结了德川幕府(1603-1867)的统治，还引发了社会与政治的全面变革，开启了日本高速工业化的进程。

松本藩选择了支持天皇。1868 年 2 月 29 日，松本藩主派兵驰援江户（今东京）西北部的北越、会津等地。战斗详情记录在纪念碑正面，261 名松本武士的姓名、军衔职位和最终结局则都镌刻在了纪念碑的背面。

“全国城郭管理者协会”成员

本丸庭园的最南边有一道长长的照片墙，照片上的城郭都是“全国城郭管理者协会”的成员。该协会由负责监管全国各地现存城郭经营情况的地方行政机构和城郭管理机构联合运作。

每张照片都附有简介，包括城郭名、别名（如果有）、所在地、城郭类型（如山城、平城等）、建造者、建造年份等信息。

<繁体字>

其他看点-3

松本藩戊辰出兵纪念碑

這座高大的石碑為紀念參加戊辰戰爭（1868-1869）的 261 名松本武士而立。這場在支持最後一任德川幕府將軍的「擁幕派」與支持還政於天皇的「倒幕派」之間爆發的戰爭，是明治維新的第一階段，最終結束了德川幕府（1603-1867）的統治，同時引發了社會與政治的全面變革，開啟了日本高速工業化的進程。

松本藩選擇了支持天皇。1868 年 2 月 29 日，松本藩主派兵馳援江戶（今東京）西北部的北越、會津等地。戰爭詳情記錄在紀念碑正面，261 名松本武士的姓名、軍銜職位和最終結局則都鑄刻在了紀念碑的背面。

「全國城郭管理者協會」成員

本丸庭園的最南邊有一道長長的照片牆，照片上的城郭都是「全國城郭管理者協會」的成員，該協會由負責監管全國各地現存城郭經營情況的地方行政機關和城郭管理機關共同運作。

每張照片都附有簡介，包括城郭名、別名（如果有）、所在地、城郭類型（如山城、平城等）、建造人、建造年份等訊息。

<日本語仮訳>

その他の見どころ (3)

松本藩戊辰出兵記念碑

この大きな石碑は、戊辰戦争（1868-1869）で戦った松本藩士 261 名を追悼して建てられたものである。戊辰戦争は徳川幕府最後の将軍の幕府軍と、天皇制への復帰を支持する倒幕派との闘いで、明治維新の第一段階であり、徳川幕府（1603-1867）の終焉、社会と政治の大転換、工業化の急速な進展のきっかけとなった。

松本藩は、1868 年 2 月 29 日、江戸（現在の東京）の北西の方角に位置する北越や会津などに兵を派遣し、討幕派に加勢した。碑の表面には戦いの様子が、裏面には 261 名の松本藩士の氏名、地位、最期が刻まれている。

全国城郭管理者協議会加盟の城

本丸庭園の南端には、城の写真を並べた長い堀がある。ここに写っている城はすべて、全国の城の運営を管理する地方公共団体や城郭管理者の連合体である「全国城郭管理者協議会」に加盟している城である。

写真にはそれぞれ、城郭名、別名（あれば）、所在地、城の種類（山城、平城など）、築城者および築城年等が記載されている。

【タイトル】 その他の見どころ (4)

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

其他看点-4

古山地御殿遗址

当年的古山地御殿位于黑门南面，现在是一处广场。此处御殿建于16世纪末期，被认为是松本城首任城主石川数正(?-1592)的“慰所”（私人宅邸）。御殿最初根据石川数正的法号取名为“箇山寺”，至水野家族统治时期改名为“古山寺”，户田家族时期最终定名为“古山地”。

古山地御殿规模较小，只有30个房间，占地面积约587平方米，仅是位于城郭核心区域的本丸御殿的四分之一。据出自1712年前后的一份建筑平面图显示，御殿中央留出了一块空地作为庭园，南侧是居室，北侧建造了厨房等设施。此外，这里还建有風呂（浴池）、茶室、养鷹（狩猎用）房。可以看出，古山地御殿是为城主准备的私人休憩空间。

1727年，本丸御殿失火焚毁。当时的城主户田光雄(1716-1757)随即对古山地御殿进行了翻修、扩建。

若宫八幡神社旧社址

若宫八幡神社位于城郭二级区域的“二之丸”。据说这座神社初建于16世纪早期，用于供奉小笠原家族一位名叫岛立贞永(?-1517)的家臣。通常认为，岛立贞永建造了松本城的前身“深志城”。

若宫八幡神社如今位于城郭以北的松本神社域内。

<繁体字>

其他看点-4

古山地御殿遗址

当年的古山地御殿位于黑门南面，现在是一处广场。此处御殿建于16世纪末期，被认为是松本城首任城主石川数正(?-1592)的「慰所」（私人宅邸）。御殿最初根据石川数正的法号取名为「箇山寺」，至水野家统治时期改名为「古山寺」，最后，在户田家时期被定名为「古山地」。

古山地御殿规模较小，只有30个房间，占地面积约587平方公尺，仅是位于城郭核心区域的本丸御殿的四分之一。根据1712年前后的一份建筑平面图显示，御殿中央留出了一块空地作为庭园，南侧是居室，北侧建造了厨房等设施。此外，这里还建有風呂（浴池）、

茶室、養鷹（狩獵用）房。可以看出，古山地御殿是為城主準備的私人休憩空間。

1727 年，本丸御殿失火焚毀。當時的城主戶田光雄（1716-1757）隨即對古山地御殿進行了翻修和擴建。

若宮八幡神社舊社址

若宮八幡神社位於城郭二級區域的「二之丸」。據說這座神社初建於 16 世紀早期，用於供奉小笠原家一位名叫島立貞永（?-1517）的家臣。通常認為，島立貞永建造了松本城的前身「深志城」。

若宮八幡神社如今位於城郭以北的松本神社域內。

<日本語仮訳>

その他の見どころ（4）

古山地御殿跡

古山地御殿は、かつて黒門の南側にあり、いまは広場になっている。古山地御殿は、16 世紀末に松本城の初代城主である石川数正（?-1592）の「慰み所（私邸）」として建てられたとされている。建物の名前は最初数正の法名にちなんで、「箇山寺」と記され、水野家時代に「古山寺」と改められ、戸田家時代には「古山地」と名乗った。

古山地御殿は、面積が約 587 平方メートルで、城の一番重要な曲輪に位置する本丸御殿の 4 分の 1、部屋数も 30 室と小規模なものであった。1712 年頃の絵図によると、建物の中央部に坪庭が設けられている。南側に座敷、北側に台所などの設備があった。風呂や茶室、狩獵用の鷹の飼育室などもあり、古山地御殿は城主の私的な憩いの場として作られたことがわかる。

本丸御殿は 1727 年に焼失し、古山地御殿は当時の城主を務めた戸田光雄（1716-1757）によって改修・増築された。

若宮八幡神社旧社地

若宮八幡神社は城二番目に重要な曲輪「二の丸」にあった。小笠原家の家臣である島立貞永（?-1517）を祀るために、16 世紀初頭に創建されたのが始まりとされている。島立は、松本城の前身である深志城を築城したと伝えられている。

現在、城のすぐ北側にある松本神社の境内に若宮八幡神社がある。

【タイトル】松本城の歴史：松本城築城以前

【想定媒体】WEB

<簡体字>

松本城的历史：松本城筑城以前

一、松本城周边的山城

早在 16 世纪晚期松本城筑成以前，周边的山区里便有数座城防要塞。日本战国时代(1467-1600)，各地纷争四起，拥有“大名”称号的领主们修建了许多木结构或石头要塞来防卫自己的领地。以下是松本盆地周边山区里具有代表性的城防要塞。

1、林城（大城与小城）

林城位于如今松本市的山边地区，建造者是当年信浓国（今长野县）的统治者小笠原家族，松本地区处其所辖境内。林城由“大城”和“小城”两处独立建筑组成，两者分别位于一道马蹄形山脊的两端。1550 年，实力雄厚的大名武田信玄(1521-1573)对该地区发起进攻，小笠原家族放弃林城。如今仅小城的核心区域“本丸”外围还保留着一些石垣断壁。

2、桐原城和山边（中入）城

在林城以东的深山里还有两座城防要塞。桐原城属于桐原家族，扼守一处颇具战略意义的山口。山边城又被称为“中入城”，属于山边家族，至今在要塞原址依然能够看到它 2.5 米高的石垣。

3、埴原城

埴原城是一座大型城防要塞，位于如今松本市的中山地区，建造者不详。

4、稻仓城

稻仓城位于如今松本市的冈田地区，当年是后厅家族的居城。

5、虚空藏山城

虚空藏山城位于今松本市会田地区，原本是会田家族的居城。1550 年，小笠原家族被武田信玄军打败，虚空藏山城随即成为武田信玄与宿敌上杉谦信(1530-1578)对垒的前沿阵地。上杉谦信的大本营是松本以北的越后国（今新潟县）。

6、平濑城

平濑城位于今松本市岛内地区，城主是平濑家族。1550 年，小笠原家族被迫放弃林城，败逃平濑城求取庇护，并在此筹谋反攻。

7、犬甘城

今松本市的城山地区曾经是犬甘家族的领地，他们于 15 世纪在这里修建起了一座要塞。如今的犬甘城已是春季赏樱的名胜地。

8、井川城

和本地区其他城防要塞不同，井川城修建在平地，而非山上。在林城修筑以前，这里便是小笠原家族的根据地。

9、清水城

据说清水城的主人是小笠原家族的家臣岛立家族，这座城防要塞位于今松本市岛立地区。要塞旧迹几乎无存，与井川城一样，清水城也是一座修筑在平面上的“平城”。

中文	日本語
稻仓城	稲倉城
伊深城	伊深城
平瀨城	平瀨城
早落城	早落城
横屋入城	横屋入城
犬甘城	犬甘城
桐原城	桐原城
深志城	深志城
清水城	清水城
林城	林城
中入城	中入城
井川城	井川城
埴原城	埴原城
小屋城	小屋城
赤木城	赤木城
八间长者城	八間長者城

中文	日本語
出处：《我们的松本城》第 58 页	『わたしたちの松本城』P.58 から
井川城	井川城
若宫八幡神社旧址	若宮八幡跡

二、深志城

在松本城建成以前，这里可能有过一座较小的防御工事，名叫“深志城”。然而，关于

这座早期城防要塞本身，以及它的结构布局是否对后来松本城的布局有所影响，现在却所知甚少。

室町时代(1336-1573)早期，深志乡处于坂西家族的统治之下，相传当时这里已有某种城防要塞的雏形。后来，小笠原家族的家臣岛立贞永(?-1517)于1504年修筑了深志城。

小笠原家族统治松本地区多年，直至1550年，邻藩大名武田信玄进攻林城，小笠原长时(1514-1583)败逃北方。此后，武田信玄将深志城作为其统治本地的政治中枢，有可能对这座要塞进行了一些修复和扩建。

1582年，织田信长(1534-1582)彻底击败武田家族，这才结束了该家族对深志城的统治。松本地区随后被归入武将上杉谦信的领地，他指派了一名家臣治理深志城。后来，小笠原长时的儿子小笠原贞庆(1546-1595)重新拿回了深志城的掌控权。为纪念小笠原家族的回归，他为本地区起了一个新名字：松本。

虽然取得了胜利，小笠原家族却没能在松本长驻。1590年，仅在期盼已久的回归8年之后，小笠原家族便被另行分封到了日本东部地区。之后，松本城被当时最强大的军阀丰臣秀吉(1537-1598)封给了他的重臣石川数正(?-1592)。

<繁体字>

松本城的歷史：松本城築城以前

一、松本城周邊的山城

早在16世紀晚期松本城築成以前，周邊的山區裡便有數座城防要塞。日本戰國時代(1467-1600)，各地紛爭四起，擁有「大名」稱號的領主們修建了許多木結構或石頭要塞來防衛自己的領地。以下是松本盆地周邊山區裡具有代表性的城防要塞。

1、林城（大城與小城）

林城位於如今松本市的山邊地區，建造者是當年信濃國（今長野縣）的統治者小笠原家，松本藩地處其所轄境內。林城由「大城」和「小城」兩處獨立建築體組成，兩者分別位於一道馬蹄形山脊的兩端，如今僅小城的核心區域「本丸」周邊還保留著一些石垣斷壁。1550年，實力雄厚的大名武田信玄（1521-1573）對該地區發起進攻，小笠原家放棄林城。

2、桐原城和山邊（中入）城

在林城以東的深山裡還有兩座城防要塞。桐原城屬於桐原家，扼守一處頗具戰略意義的山口。山邊城又被稱為「中入城」，屬於山邊家，至今在要塞原址依然能夠看到它2.5公尺高的石垣。

3、埴原城

埴原城是一座大型城防要塞，位於如今松本市的中山地區，建造人不詳。

4、稻倉城

稻倉城當年是後廳家的居城，位於如今松本市的岡田地區。

5、虛空藏山城

虛空藏山城原本是會田家的居城，位於今松本市會田地區。1550年，小笠原家被武田信玄軍打敗，虛空藏山城隨即成為武田信玄與宿敵上杉謙信（1530-1578）對壘的前沿陣地。上杉謙信的大本營是松本以北的越後國（今新潟縣）。

6、平瀨城

平瀨城位於今松本市島內地區，城主是平瀨家。1550年，小笠原家被迫放棄林城，敗逃平瀨城求取庇護，並在此籌謀反攻。

7、犬甘城

今松本市的城山地區曾經是犬甘家的領地，他們於15世紀在這裡修建起了一座城防要塞。如今的犬甘城已是春季賞櫻的名勝地。

8、井川城

和當地其他城防要塞不同，井川城修建在平地，而非山上。在林城修築以前，這裡便是小笠原家的根據地。

9、清水城

據說清水城的主人是小笠原家的家臣島立家。這座城郭位於今松本市島立地區。城郭舊跡幾乎無存，清水城與井川城一樣也是一座修築在平地上的「平城」。

中文	日本語
稻倉城	稻倉城
伊深城	伊深城
平瀨城	平瀨城
早落城	早落城
橫屋入城	橫屋入城
犬甘城	犬甘城
桐原城	桐原城
深志城	深志城
清水城	清水城
林城	林城
中入城	中入城
井川城	井川城
埴原城	埴原城
小屋城	小屋城
赤木城	赤木城

八間長者城	八間長者城
-------	-------

中文	日本語
出處：《我們的松本城》第 58 頁	『わたしたちの松本城』P.58 から
井川城	井川城
若宮八幡神社舊址	若宮八幡跡

二、深志城

在松本城建成以前，這裡可能有過一座名叫「深志城」防禦工事，規模較小。然而，關於這座早期要塞本身，以及它的結構布局是否對後來松本城的布局有所影響，現在卻所知甚少。

室町時代（1336-1573）早期，深志鄉已有某種城防要塞的雛形，當時本地處於坂西家的統治之下。後來，小笠原家的家臣島立貞永（?-1517）於 1504 年修築了深志城。

小笠原家統治松本地區多年，直至 1550 年，鄰藩大名武田信玄進攻林城，小笠原長時（1514-1583）敗逃北方。此後，武田信玄將深志城作為其統治當地的政治中樞，可能對它進行了一些修復和擴建。

1582 年，織田信長（1534-1582）徹底擊敗武田家，這才結束了該家族對深志城的統治。松本地區隨後被歸入武將上杉謙信的領地，他指派了一名家臣治理深志城。後來，小笠原長時的兒子小笠原貞慶（1546-1595）重新拿回了深志城的掌控權。為紀念小笠原家的回歸，他為這片地區起了一個新名字：松本。

雖然取得了勝利，小笠原家卻沒能在松本長駐。1590 年，僅在期盼已久的回歸 8 年之後，小笠原家便被另行分封到了日本東部地區。之後，松本城被當時最強大的軍閥豐臣秀吉（1537-1598）封給了他的重臣石川數正（?-1592）。

<日本語仮訳>

松本城の歴史：松本城築城以前

(1) さまざまな山城

松本城が築城される 16 世紀後半以前から、周辺の間々には城が点在していた。戦国時代（1467-1600）の各地域の争いの中で、「大名」と呼ばれる領主たちは、領地を守るために木造や石造の城のネットワークを構築した。ここでは、松本盆地を囲む山々の城のうち、代表的なものを紹介する。

1. 林城（大城・小城）

林城は、現在の松本市山辺地区にあった。松本がある信濃国（現在の長野県）を治めていた小笠原家によって築かれた城。林城は、馬蹄形の尾根の両端に位置する大城と小城の 2 つの城郭からなる。1550 年、有力な大名武田信玄（1521-1573）がこの地を攻め、小笠原家は林城を放棄した。小城の一番重要な曲輪「本丸」には石積みの一部が現在も残っている。

2. 桐原城と山辺（中入）城

林城の東側の山奥にある 2 つの城。桐原城は桐原家の城で、峠の道筋の戦略的要所を押さえる地点に位置していた。山辺城は中入城とも呼ばれ、山辺家の城である。高さ 2.5m の石積みは現在も現地で見る事ができる。

3. 埴原城

埴原城は、現在の松本市中山地区にあった大きな城である。どの武将が築城したかは不明。

4. 稲倉城

現在の松本市岡田地区にあった、後序家の居城。

5. 虚空蔵山城

会田家の居城で、現在の松本市会田地区にあった。1550 年に武田信玄が小笠原家を破った後、信玄と、松本の北にある越後国（現在の新潟県）を本拠とする宿敵上杉謙信（1530-1578）の戦いの最前線となった。

6. 平瀬城

平瀬城は現在の松本市島内地区にあり、平瀬家が統治していた。小笠原家は 1550 年に林城を追われ、平瀬城に逃れてきた。小笠原家が反撃の計画を練ったのはこの平瀬城である。

7. 犬甘城

松本市城山地区はかつて犬甘家の領地であり、1400 年代には犬甘家がこの地に砦を築いた。現在では、春の桜の名所として親しまれている。

8. 井川城

井川城はこの地域の他の城とは異なり、山ではなく平地に築かれた城である。林城が築かれるまでは、小笠原家の本来の拠点であった。

9. 清水城

清水城は小笠原家の家臣である島立家が統治していたと考えられている。この城は現在の松本市島立地区にあった。現在はほとんど残っていないが、清水城も井川城と同様に平城（平地に築かれた城）の一つである。

(2) 深志城

松本城築城以前、この地には深志城と呼ばれる小規模な城郭があったと考えられている。しかし、この深志城自身のこと、そして配置が松本城のレイアウトにどのような影響を与えたかについては、ほとんど分かっていない。

室町時代（1336-1573）初期、深志郷は坂西家によって統治されており、そこには城らしきものを構えていたと思われる。その後、1504年に小笠原家の家臣である島立貞永（?-1517）が深志城を築いた。

小笠原家は長く松本周辺を統治していたが、1550年、隣の大名武田信玄が林城を攻め、小笠原長時（1514-1583）を北に追いやった。その後、信玄は深志城に本拠を構え、城の修理や拡張を行ったと思われる。

武田家は、1582年に織田信長（1534-1582）によって滅ぼされるまで深志城を統治した。その後、この地は戦国大名上杉謙信の支配下に置かれ、謙信は家臣の一人に深志城を預けた。その後、小笠原長時の子、小笠原貞慶（1546-1595）が深志城を奪還し、小笠原家の帰還を記念して、この地を「松本」と改名した。

勝利したとはいえ、小笠原家が松本に長く留まることはなかった。1590年、待望の帰還からわずか8年後には東日本に移封された。松本はその後、当時最有力の大名であった豊臣秀吉（1537-1598）により、彼の側近である石川数正（?-1592）に与えられた。

【タイトル】松本城の歴史：松本城の築城と江戸時代の松本城

【想定媒体】WEB

<簡体字>

松本城的历史

松本城初建

(1) 石川家族入主

石川数正(?-1592)原本是德川幕府创建者德川家康(1543-1616)的家臣，多年来深受信赖，就连德川家康出生地冈崎城的守备事务也交由他执掌。然而，石川数正却在1585年突然背弃主人，转投到丰臣秀吉(1537-1598)阵营。他因此获得了和泉国（今大阪府南部）领地以及10万石（1石≈180升）米的俸禄。1590年，丰臣秀吉解除小笠原家族的松本城主之职，指派石川家族取而代之。

(2) 天守建造

石川数正和长子石川康长(1554-1642)一边发展城下町（围绕城郭发展起来的市镇），一边着手修建松本城。但石川数正入主松本仅3年便去世了，因此，大天守、乾小天守和渡櫓都是在石川康长的主持下完成的。

在18世纪的历史地理书籍《信府统记》中，记载了松本城建造之初的情形：

“石川数正在二之丸建造的居所（古山地御殿）里，开始筹划城郭布局。石川康长继承父亲遗志，兴建天守，拓宽城郭最外围的护城河‘总堀’，加高河岸土垒，筑起石垣，布下城郭石基，建起渡櫓、黑门、太鼓门，修复围墙，在三之丸的大门上加建门楼。他基本完成了总堀河边灰泥墙的建造，修葺城郭各处屋宅房舍。此外，还为自己的武士家臣修建了住宅。”“丸”指城郭内的防御空间，通常由中心向外分为“本丸”“二之丸”“三之丸”等区域。

江户时代的松本城(1603-1867)

(1) 历代城主

江户时代，松本城前后迎来了来自6个家族23代城主。当时，这座城郭是松本藩（大致相当于如今长野县的中信地区）的行政中心。这个时代的日本被划分为数百个“藩”，由德川幕府指定“大名”出任领主，管理各藩地。忠于幕府的大名通常能够被分封到更好的领地，或得到更高的俸禄。俸禄以大米为单位计算，称“石高”。松本藩地处战略要津，俸禄等级颇高，因此向来都是上好的封地之选，大多是与幕府或德川家族关系密切的大名才会被分封到这里。

姓氏	名字	在任时间
----	----	------

石川	数正	1590~1592
	康长	1592~1613
小笠原	秀政	1613~1615
	忠政（忠真）	1615~1617
户田	康长	1617~1632
	康直	1633~1633
松平	直政	1633~1638
堀田	正盛	1638~1642
水野	忠清	1642~1647
	忠职	1647~1668
	忠直	1668~1713
	忠周	1713~1718
	忠干	1718~1723
	忠恒	1723~1725
德川幕府直辖时代		
户田	光慈	1726~1732
	光雄	1732~1756
	光德	1756~1759
	光和	1759~1774
	光悌	1774~1786
	光行	1786~1800
	光年	1800~1837
	光庸	1837~1845
	光则	1845~1869

家族名	官位	俸禄 1石≈180升	此前领地	此后领地
石川	伯耆守（领主）：数正 玄蕃头（总管僧尼、外交事务）：康长	8万石	和泉国	改易除封
小笠原	信浓守（领主）：秀政 右近大夫（五品右近卫首领）：忠政	8万石	信浓饭田	播州明石 (10万石)
户田	丹波守（领主）：康长 佐渡守（领主）：康直	7万石	上野高崎	播州明石 (7万石)
松平	出羽守（领主）：直政	7万石	越前大野	出云松江

				(18万6千石)
堀田	加贺守(领主)：正盛	10万石	武藏川越	下总佐仓 (11万石)
水野	隼人正(隼人司长官)：忠清等 出羽守(领主)：忠职等 日向守(领主)：忠干(在任 1718-1723)	7万石	三河吉田	改易除封
户田	丹波守(领主)	6万石	志摩鸟羽	废藩置县

(2) 大事记

下表收录了松本城及周边地区历史上发生的重大事件。

年份	事件	领主 家族
1504年	据传，岛立贞永建造深志城。	
1550年	武田信玄进攻深志城，小笠原长时败逃。武田信玄开始改建深志城。	
1582年	织田信长击败武田信赖(1546-1582)，武田家族被灭。在诸大名短暂争夺后，深志城归于小笠原贞庆治下，改名“松本城”。	
1590年	小笠原家族移封日本东部地区。丰臣秀吉将松本城赐予石川数正。	石川
1593年	大天守、乾小天守、渡櫓建造。	
1600年	石川家族在关原之战中与德川家康结盟。	
1613年	石川康长卷入税务丑闻“大久保长安事件”，遭德川家康免职。小笠原秀政受命接掌松本城。	小笠原
1614年	小笠原家族随德川幕府出战大坂冬之阵战役。	
1615年	小笠原秀政与长子小笠原忠脩(音同“修”)在大坂夏之阵战役中双双战死。	
1617年	户田康长受命出任松本城主，于城廓北侧扩建武士居住区。	户田
1633年	松平直政就任松本城主，加建辰巳附櫓、月见櫓，修缮城郭其他建筑。	松平
1649年	水野忠职开展松本藩内土地普查。	水野
1686年	松本藩北部农民起义(贞享骚动或加助骚动)，抗议岁贡过高。起义领袖被捕，判处磔刑(磔，音同“哲”)。	
1725年	水野忠恒在江户(今东京)城内持刀伤人，水野家族遭免职。松本城城下町在城主缺席期间建成。	
1726年	在幕府的短暂直辖后，户田家族再度统治松本城。	户田

1727 年	本丸御殿焚毀。其行政管理职能转至二之丸御殿和古山地御殿。
1743 年	幕府加封户田家族 5 万石的领地。
1760 年	信浓国（含松本藩）卷入中马运送诉讼纠纷，事涉对于公共道路沿线马匹运输的制裁。
1775 年	松本城大火，二之丸与三之丸部分区域被毀。
1793 年	藩立学校“崇教馆”建校授课。
1803 年	松本城再次遭遇火灾，城内大片区域遭殃及，多座武士宅邸和寺院受损或被毀。
1816 年	松本城北部乡村安曇野市开挖灌溉渠“拾之堰”。
1825 年	松本藩北部爆发农民起义（赤藁骚动），数万人参与，抗议米价飙升。
1832 年	连接松本与信州新町的运河“犀川”开通。
1854 年	发生大地震，城郭及城下町多处建筑被毀。
1862 年	一名松本藩武士于江户杀死两名英国士兵。
1863 年	松本藩受命协防浦贺湾。
1864 年	松本藩受命参与第一次长州出兵。藩军队于和田峠（音同“卡”）遭遇水户藩“浪人”（失去领主的武士），战败。
1865 年	松本城大火（山城屋火事），城下町南部商人工匠住宅区被毀。第二次长州出兵，松本藩出兵广岛。
1866 年	松本藩南部爆发农民起义（木曾骚动），抗议米价上涨。
1868 年	松本藩加入新政府阵营，出兵北海道，参与北越战争。
1869 年	松本藩最后一任藩主户田光则将领地交还天皇。
1870 年	天皇颁布法令拆分神道教与佛教，废佛毁释运动开始。
1871 年	幕府时代的藩政制度废除，松本藩改为松本县。多处城门被拆除，城郭移交陆军省管辖。不久，松本县改名筑摩县，县政府设于松本城二之丸内。

<繁体字>

松本城的歷史

松本城初建

(1) 石川家入主

石川數正（?-1592）原本是德川幕府創立者德川家康（1543-1616）的家臣，多年來深受信賴，就連德川家康出生地岡崎城的守備事務也交由他一手執掌。然而，石川數正卻在 1585 年突然背棄主人，轉投豐臣秀吉（1537-1598）陣營。他因此獲得了和泉國（今大

阪府南部)領地以及 10 萬石 (1 石≈180 升) 米的俸祿。1590 年, 豐臣秀吉解除小笠原家的松本城主之職, 指派石川家取而代之。

(2) 天守建造

石川數正和長子石川康長 (1554-1642) 一邊發展城下町 (圍繞城郭發展起來的市鎮), 一邊著手修建松本城。但石川數正入主松本僅 3 年便去世了, 因此, 大天守、乾小天守和渡櫓都是在石川康長的主持下完成的。

在 18 世紀的歷史地理書籍《信府統記》中, 記載了松本城建造之初的情形:

「石川數正在二之丸建造的居所 (古山地御殿) 裡, 開始規劃城郭布局。石川康長繼承父親遺志, 興建天守, 拓寬城郭最周邊的護城河『總堀』, 加高河岸土壘, 築起石垣, 布下城郭石基, 建起渡櫓、黑門、太鼓門, 修復圍牆, 在三之丸的大門上加建門樓。他完成了總堀河邊灰泥牆的建造, 修葺城郭各處屋宅房舍, 還為自己的武士家臣修建了住宅。」
「丸」指城郭內的防禦空間, 通常由中心向外分為「本丸」、「二之丸」、「三之丸」等區域。

江戶時代的松本城 (1603-1867)

(1) 歷代城主

江戶時代, 松本城前後迎來了來自 6 個家族 23 代城主。當時, 這座城郭是松本藩 (大致相當於如今長野縣的中信地區) 的行政中心。這個時代的日本被劃分為數百個「藩」, 由德川幕府指定的「大名」出任領主, 管理各藩地。忠於幕府的大名通常能夠被分封到更好的領地, 或得到更高的俸祿, 俸祿以大米為單位計算, 稱「石高」。松本藩地處戰略要津, 俸祿等級頗高, 因此向來都是極佳的封地選擇, 被分封到這裡的多數是與幕府或德川家關係密切的大名。

姓氏	名字	在任時間
石川	數正	1590~1592
	康長	1592~1613
小笠原	秀政	1613~1615
	忠政 (忠真)	1615~1617
戶田	康長	1617~1632
	康直	1633~1633
松平	直政	1633~1638
堀田	正盛	1638~1642
水野	忠清	1642~1647
	忠職	1647~1668
	忠直	1668~1713
	忠周	1713~1718
	忠幹	1718~1723

	忠恒	1723~1725
德川幕府直轄時代		
戸田	光慈	1726~1732
	光雄	1732~1756
	光德	1756~1759
	光和	1759~1774
	光悌	1774~1786
	光行	1786~1800
	光年	1800~1837
	光庸	1837~1845
	光則	1845~1869

家族名	官位	俸祿 1石≈180升	此前領地	此後領地
石川	伯耆守（領主）：數正 玄蕃頭（總管僧尼、外交事務）：康長	8萬石	和泉國	改易除封
小笠原	信濃守（領主）：秀政 右近大夫（五品右近衛首領）：忠政	8萬石	信濃飯田	播州明石（10萬石）
戸田	丹波守（領主）：康長 佐渡守（領主）：康直	7萬石	上野高崎	播州明石（7萬石）
松平	出羽守（領主）：直政	7萬石	越前大野	出雲松江（18萬6千石）
堀田	加賀守（領主）：正盛	10萬石	武藏川越	下總佐倉（11萬石）
水野	隼人正（隼人司長官）：忠清等 出羽守（領主）：忠職等 日向守（領主）：忠幹（在任1718-1723）	7萬石	三河吉田	改易除封
戸田	丹波守（領主）	6萬石	志摩鳥羽	廢藩置縣

(2) 大事記

下表收錄了松本城及周邊地區歷史上發生的重大事件。

年份	事件	領主 家族
----	----	----------

1504年	據傳，島立貞永建造深志城。	
1550年	武田信玄進攻深志城，小笠原長時敗逃。武田信玄開始改造深志城。	
1582年	織田信長擊敗武田信賴（1546-1582），武田家被滅。在諸大名短暫爭奪後，深志城歸於小笠原貞慶治下，改名「松本城」。	
1590年	小笠原家移封日本東部地區。豐臣秀吉將松本城賜予石川數正。	石川
1593年	大天守、乾小天守、渡櫓建造。	
1600年	石川家在關原之戰中與德川家康結盟。	
1613年	石川康長捲入稅務醜聞「大久保長安事件」，遭德川家康免職。小笠原秀政受命接掌松本城。	小笠原
1614年	小笠原家隨德川幕府出戰大坂冬之陣戰役。	
1615年	小笠原秀政與長子小笠原忠脩（音同「修」）在大坂夏之陣戰役中雙雙戰死。	
1617年	戶田康長受命出任松本城主，在城廓北側擴建武士居住區。	戶田
1633年	松平直政就任松本城主，加建辰巳附櫓、月見櫓，修繕城郭其他建築。	松平
1649年	水野忠職開展松本藩內土地普查。	水野
1686年	松本藩北部農民起義（貞享騷動或加助騷動），抗議歲貢過高。起義領袖被捕，判處磔刑（磔，音同「哲」）。	
1725年	水野忠恒在江戶（今東京）城內持刀傷人，水野家遭免職。松本城城下町在城主缺席期間建成。	
1726年	在幕府的短暫直轄後，戶田家再度統治松本城。	戶田
1727年	本丸御殿焚毀，其行政管理職能轉至二之丸御殿和古山地御殿。	
1743年	幕府加封戶田家5萬石的領地。	
1760年	信濃國（含松本藩）捲入中馬運送訴訟糾紛，事涉對於公共道路沿線馬匹運輸的制裁。	
1775年	松本城大火，二之丸與三之丸部分區域被毀。	
1793年	藩立學校「崇教館」建校授課。	
1803年	松本城再次遭遇火災，城內大片區域遭殃及，多座武士宅邸和寺院受損或被毀。	
1816年	松本城北部鄉村安曇野市開挖灌溉渠「拾之堰」。	
1825年	松本藩北部爆發農民起義（赤菘騷動），數萬人參加，抗議米價飆升。	
1832年	連接松本與信州新町的運河「犀川」開通。	
1854年	發生大地震，城郭及城下町多處建築被毀。	
1862年	一名松本藩武士在江戶殺死兩名英國士兵。	
1863年	松本藩受命協防浦賀灣。	

1864年	松本藩受命参加第一次長州出兵。藩軍隊於和田峠（音同「カ」）遭遇水戸藩「浪人」（失去領主的武士），戰敗。
1865年	松本城大火（山城屋火事），城下町南部商人工匠住宅區被毀。第二次長州出兵，松本藩出兵廣島。
1866年	松本藩南部爆發農民起義（木曾騒動），抗議米價上漲。
1868年	松本藩加入新政府陣營，出兵北海道，參加北越戰爭。
1869年	松本藩最後一任藩主戸田光則將領地交還天皇。
1870年	天皇頒布法令拆分神道教與佛教，廢佛毀釋運動開始。
1871年	幕府時代的藩政制度廢除，松本藩改為松本縣。多處城門被拆除，城郭移交陸軍省管轄。不久，松本縣改名築摩縣，縣政府設於松本城二之丸內。

<日本語仮訳>

松本城の歴史

松本城の築城

(1) 石川家の入城

石川数正（?-1592）は、徳川幕府を開いた徳川家康（1543-1616）の長年の家臣であった。家康の信頼も厚く、その生誕地である岡崎城の警備を任されていたほどである。しかし、1585年に数正は突然出奔し、豊臣秀吉（1537-1598）の配下となった。その見返りとして和泉国（現在の大阪南部）で10万石（1石≈180リットル）を与えられた。1590年に秀吉が小笠原家を松本城から追い出すと、石川家を後継者に選んだ。

(2) 天守の建設

数正と長男の石川康長（1554-1642）は、城下町（城郭を中心に発達した都市）を整備し、松本城の築城に着手した。数正は入城からわずか3年で亡くなったが、康長は大天守、乾小天守、渡櫓を完成させた。

18世紀の松本の歴史と地理に関する書物『信府統記』には、築城の初期段階が描かれている。

「数正は二の丸に屋敷（古山地御殿）を構え、城の配置を考え始めた。康長は父親の遺志を引き継ぎ、天守を建て、総堀を掘った。土塁を高くして石垣を積み基礎を築き、渡櫓、黒門、太鼓門を建造。堀を直し、三の丸の門に櫓を建てた。また、総堀の漆喰壁の大部分を築き、城内の屋敷も修造。そして、武士の住宅も建設したのである。」「丸」とは城郭の内部、防衛用の空間のこと。中心から外側に向けて、本丸、二の丸、三の丸などと称する。

江戸時代の松本城（1603-1867）

(1) 歴代城主

江戸時代、松本城は6家23代の城主によって統治された。松本城は、松本藩（現在の長野県

の中信地区にほぼ一致)の行政の中心地であった。この時代、全国は数百の藩に分かれており、大名は幕府の命令によって領主の任命が可能であった。幕府に忠実な大名は、より立地条件のよい領地に移封されたり、米の単位である「石高」を増やされたりすることがあった。松本藩は、その立地条件と俸禄の高さから、将軍とその家族と密接な関係を持つ大名が多く配された。

苗字	名前	統治期間
石川	数正	1590-1592
	康長	1592-1613
小笠原	秀政	1613-1615
	忠政(忠真)	1615-1617
戸田	康長	1617-1632
	康直	1633-1633
松平	直政	1633-1638
堀田	正盛	1638-1642
水野	忠清	1642-1647
	忠職	1647-1668
	忠直	1668-1713
	忠周	1713-1718
	忠幹	1718-1723
	忠恒	1723-1725
徳川幕府の直轄領時代		
戸田	光慈	1726-1732
	光雄	1732-1756
	光徳	1756-1759
	光和	1759-1774
	光悌	1774-1786
	光行	1786-1800
	光年	1800-1837
	光庸	1837-1845
	光則	1845-1869

家名	官位	石高 1石≈180L	前職	次職
石川	伯耆守(領主) : 数正 玄蕃頭(僧尼を監督し、外交事務を取り扱う長官) : 康長	8万石	和泉国	改易除封
小笠原	信濃守(領主) : 秀政 右近大夫(五位右近衛将監) : 忠	8万石	信濃飯田	播州明石 (10万石)

	政			
戸田	丹波守（領主）：康長 佐渡守（領主）：康直	7万石	上野高崎	播州明石 (7万石)
松平	出羽守（領主）：直政	7万石	越前大野	出雲松江 (18万6千石)
堀田	加賀守（領主）：正盛	10万石	武蔵川越	下総佐倉 (11万石)
水野	隼人正（隼人司長官）：忠清およびその他 出羽守（領主）：忠職およびその他 日向守（領主）：忠幹（在任期間1718-1723）	7万石	三河吉田	改易除封
戸田	丹波守（領主）	6万石	志摩鳥羽	廃藩置県

(2) 主な出来事

以下は、松本城とその周辺の藩の歴史の中で起こった重要な出来事を記した年表である。

年	出来事	領主
1504	島立貞永が深志城を築城したと伝えられている。	
1550	武田信玄が深志へ攻め込み、小笠原長時を撤退させる。信玄、深志城の改修に着手。	
1582	織田信長が武田勝頼（1546-1582）を破り、武田家を滅ぼす。大名同士の短い衝突の後、小笠原貞慶が深志城を領有し、「松本城」と改名する。	
1590	小笠原家、関東に転封。豊臣秀吉が石川数正に松本城を与える。	石川
1593	大天守、乾小天守、渡櫓の築造が進む。	
1600	関ヶ原の戦いで石川家が徳川家康に加勢する。	
1613	石川康長が公金横領にからむ幕府内の派閥争い（大久保長安事件）に巻き込まれ、家康によって権力の座から追われる。小笠原秀政が松本城を統治。	小笠原
1614	小笠原家、大坂冬の陣で徳川方につく。	
1615	小笠原秀政と長男の小笠原忠脩が大坂夏の陣で戦死。	
1617	戸田康長、松本城の支配権を獲得。城の北側に武家住宅地を作る。	戸田
1633	松平直政が松本城主に。辰巳附櫓、月見櫓などの増築、城のほかの部分の修繕を行う。	松平
1649	水野忠職、松本藩領内の検地を行う。	水野
1686	北部の農民が高い年貢に抗議する一揆（貞享騒動または加助騒動）が	

	起きる。頭が捕らえられ、磔にされる。	
1725	水野忠恒が江戸（現在の東京）城内で刃傷沙汰を起こし、水野家は改易される。水野家不在の間、城下町の整備を終える。	
1726	松本城が一時幕府の直轄となり、その後再び戸田家が城主となる。	戸田
1727	本丸御殿が焼失。その後、二の丸御殿と古山地御殿にその機能を移す。	
1743	戸田家、幕府より5万石の幕府領を預かる。	
1760	信濃国（松本藩を含む）内において、公道での馬による輸送の中馬運送を巡る訴訟が起こる。	
1775	松本城で大火が発生する。二の丸、三の丸の一部が焼失。	
1793	藩校「崇教館」開校。	
1803	松本城で再び火災が発生し、街の大部分が燃える。武家屋敷、寺院など数カ所で被害があり、破壊された。	
1816	松本城下の北方の安曇野に「拾ヶ堰」が開削される。	
1825	松本藩北部で、米価の大幅な値上げに反対する農民数万人による一揆（赤藁騒動）が起こる。	
1832	松本と信州新町間に犀川通船開通。	
1854	大地震により城と城下町の多くの建物が倒壊する。	
1862	松本藩士が江戸でイギリス兵2名を殺害する。	
1863	松本藩、浦賀湾警備への協力を命じられる。	
1864	松本藩、第1次長州出兵を命じられる。和田峠で水戸藩の浪士が松本藩の軍を破る。	
1865	松本城で大火（山城屋の火事）が発生し、城下町南部の町家が焼ける。 松本藩、第2次長州出兵を命じられ、広島に兵を派遣する。	
1866	松本藩南部で米価の高騰に反対する農民一揆（木曾騒動）が起こる。	
1868	松本藩、新政府に恭順の意を示し、北海道の北越戦争に出兵。	
1869	松本藩最後の大名戸田光則、天皇に版籍を奉還する。	
1870	勅令によって、神仏分離令が出され、廃仏毀釈が始まる。	
1871	幕藩体制が廃止され、松本藩は松本県となる。いくつかの城門が取り壊され、城は陸軍省に移管される。松本県は筑摩県と改称され、城の二の丸に県庁が置かれる。	

【タイトル】松本城の歴史：明治時代の変化

【想定媒体】WEB

<簡体字>

松本城的历史

明治时代的变革(1868-1912)

(1) 松本藩的终结

1868年，日本全国的大名（领主）都面临着二选一的抉择：一方，是京都的明治天皇（1852-1912）新政府；另一方，是江户（今东京）的德川幕府（1603-1868）。拥护天皇的新政府军已经开始向江户进发，准备彻底推翻幕府。松本藩的官员们发现自己陷入了迫在眉睫的两难之境，新政府军很快就要经过松本南面的主干道路，是应该继续忠于幕府，还是加入天皇的阵营？经过激烈的讨论之后，松本藩选择了新政府，并很快对藩内军队实施了一系列改制。

松本藩的最后一位藩主户田光则（1828-1892）主动参与了“版籍奉还”行动（领土与人民皆归还天皇），于1869年放弃“大名”封号、将领地交还天皇以后，他被任命为松本藩知事（地方最高行政长官）。大约在同一时期，天皇颁布《神佛判然令》，下令拆分此前融合已久的神道教与佛教，由此引发了一场全国性的废佛毁释运动。户田光则积极响应，在松本藩大力压制佛教，不但废除了自己家族的家庙“全久院”，还命令所有家臣都只能举办神道教葬仪。在这场运动的扫荡下，松本藩境内的许多佛寺都被拆毁或废弃。

1870年秋天，松本城发生了一启昭示时代更迭的重大事件，唯独贵族、武士和经特别许可的贵宾才能出入的城郭大门，有史以来第一次为平民百姓敞开。

1871年，藩政制度废除，松本藩改名松本县，户田光则调任去了东京。松本城的管辖权移交给陆军省，后来两度出任日本首相的山县有朋（1838-1922）受命前去接收了城内储备的军火武器。

(2) 松本城部分拆除

在松本城的二级区域“二之丸”被划归县政府之后，这一区域的许多城门、土塀（白灰泥墙）和塔楼都被拆除，拆下的建筑材料用在了其他各处。据说二之丸城墙上一座塔楼的木料被用于位于城郭内最外围区域“三之丸”内的一个警察署；大手门石基的石料则用来修建横跨女鸟羽川的千岁桥。另外据传，松本市近郊的好几座大门都出自城郭内，只是此传言并没有确凿的证据。

出生于松本的社会活动家、作家木下尚江（1869-1937）在开智学校念书时亲眼见证了城郭的诸多变化，他在小说《墓场》里这样描述当时的情形：

“城门的石垣、护城河堤岸上的大树，都被毫不客气地推倒了。岸边那棵传说被一只顽皮的狸猫放过一把火、三只眼睛的大光头妖怪‘大入道’现形过的大树，也很快被砍掉了。每一个听到砍伐声的人都会停下脚步，抬头朝河对岸望一望，猜想那又是树木被斧头砍断的声音，都无比揪心。”

2012年，考古发掘工作在大手门小广场“枅形”（枅，音同“升”；因形似量米的箱形量具“枅”而得名）和城门东侧护城河一带展开。现场出土的屋瓦数量惊人，据推测，它们都出自明治时代(1868-1912)早期被拆毁的大手门及周边围墙，只是拆下后便被随便地扔进了护城河中。

中文	日本語
松本藩最后一位藩主户田光则	松本藩の最後の藩主戸田光則
大手门枅形考古发掘现场	大手門枅形発掘の様子

<繁体字>

松本城的歷史

明治時代的變革（1868-1912）

（1）松本藩的終結

1868年，日本全國的大名（領主）都面臨著二選一的抉擇：一方，是京都的明治天皇（1852-1912）新政府；另一方，是江戶（今東京）的德川幕府（1603-1868）。擁護天皇的新政府軍已經開始向江戶前進，準備徹底推翻幕府。松本藩的官員們發現自己陷入了迫在眉睫的兩難之境，新政府軍很快就要經過松本南面的主要道路，是應該繼續忠於幕府，還是加入天皇的陣營？經過激烈的討論後，松本藩選擇了與天皇同一陣線，並很快對藩內軍隊實施了一系列改制。

松本藩的最後一位藩主戶田光則（1828-1892）主動參加了「版籍奉還」行動（領土與人民皆歸還天皇）。在於1869年放棄「大名」封號、將領地交還天皇以後，他被任命為松本藩知事（地方最高行政長官）。大約在同一時期，天皇頒布《神佛判然令》，下令拆分此前融合已久的神道教與佛教，由此引發了一場全國性的廢佛毀釋運動。戶田光則積極回應，在松本藩大力壓制佛教，不但廢除了自己家族的家廟「全久院」，還命令所有家臣都只能舉辦神道教葬儀。在這場運動的掃蕩下，松本藩境內的許多佛寺都被拆毀或廢棄。

1870年秋天，松本城發生了一啟昭示時代更迭的重大事件，唯獨貴族、武士和經特別許可的貴客出入的城門，有史以來第一次為平民百姓敞開。

1871年，藩政制度廢除，松本藩改名松本縣，戶田光則調任去了東京。松本城的管轄權移交給陸軍省，後來兩度出任日本首相的山縣有朋（1838-1922）受命前去接收了城內儲備的軍火武器。

（2）松本城部分拆除

在松本城的二級區域「二之丸」被劃歸縣政府之後，這一區域的許多城門、土塀（白

灰泥牆)和塔樓都被拆除，拆下的建築材料用在了其他地方。據說二之丸城牆上一座塔樓的木料被用在位於城郭內最周邊區域「三之丸」裡的一個員警署；大手門石基的石料則用來修建女鳥羽川上的千歲橋。另外據傳，松本市近郊的好幾座大門原本都出自城郭內，只是此傳言並沒有鑿實的證據。

出生於松本的社會活動家、作家木下尚江（1869-1937）在開智學校念書時親眼見證了城郭的各種變化，他在小說《墓場》裡這樣描述當時的情形：

「城門的石垣、護城河堤岸上的大樹，都被毫不客氣地推倒了。岸邊那棵傳說被一隻頑皮的狸貓放過一把火、三隻眼睛的大光頭妖怪『大入道』現形過的大樹，也很快被砍掉了。每一個聽到砍伐聲的人都會停下腳步，抬頭朝河對岸望一望，猜想那又是樹木被斧頭砍斷的聲音，都無比揪心。」

2012年，考古發掘工作在大手門小廣場「枅形」（枅，音同「升」；因形似量米的箱形量具「枅」而得名）和城門東側護城河一帶展開。現場出土的屋瓦數量驚人，據推測，它們都出自明治時代（1868-1912）早期被拆毀的大手門及周邊圍牆，只是拆下後便被簡單地扔進了護城河中。

中文	日本語
松本藩最後一位藩主戸田光則	松本藩の最後の藩主戸田光則
大手門枅形考古發掘現場	大手門枅形発掘の様子

<日本語仮訳>

松本城の歴史：明治時代の変化（1868-1912）

(1) 松本藩の終焉

1868年に全国の大名（領主）は、京都の明治天皇（1852-1912）中心の明治政府と、江戸の徳川幕府のどちらにつくかの選択を迫られた。倒幕を目指す新政府軍が江戸へ向けて進軍を開始し、松本藩は苦境に立たされることになる。新政府軍はまもなく松本の南の主要道路を通ることになる。幕府に忠誠を誓うか、それとも新政府側につくべきか？議論の末、松本は新政府側につき、数々の軍事的改革も行った。

最後の松本藩主戸田光則（1828-1892）は、「天皇に領土と国民を返す」（版籍奉還）動きに主体的に参加した。光則は1869年に領地と大名の地位を返上し、松本藩の知事に任命された。同じ頃、「神仏判然令」という勅令によって、廃仏棄釈の運動が始まった。特に光則は、菩提寺の全久院を廃止して家臣の葬儀も神式に限るなど、積極的な仏教弾圧を行った。その結果、松本市内の多くの寺院が取り壊され、廃寺となった。

1870年の秋、松本城に一つの時代の終わりを告げる変化が訪れた。城内に入ることができるのは、上級身分の者や武士、あるいは特別な許可を得た客人だけであったのが、一般市民が初めて城内に入ることができるようになったのである。

1871年、藩制が廃止された。松本藩は松本県となり、光則は東京に移封された。松本城の管理は陸軍省に移され、後に首相を2度務めた山縣有朋（1838-1922）が城内に保管されていた兵

器を押収するために派遣された。

(2) 松本城の一部損壊

松本城の二番目に重要な曲輪である「二の丸」が県の所有になると、門や土塀、櫓などの多くが取り壊され、建材は別の場所に再利用された。例えば、二の丸の城壁にある櫓の材木は三の丸の交番に、大手門台の石垣の石は女鳥羽川に架かる千歳橋に使われたと言われている。松本市近郊のいくつかの門は、松本城内に起源を持つと考えられているが、その明確な証拠はほとんど存在しない。

松本市出身の社会運動家・作家の木下尚江（1869-1937）は、開智学校在学中に城下の数々の変遷を目の当たりにしている。その時の様子を小説『墓場』で語っている。

「城門の石垣も、堀野土手の大木も、何もかも惜しげなく払い下げられた。たぬきがいたずらで火をつけたとか、三つ目の大入道（大きな坊主頭の化け物）が出たとか言われたあの大木も、すぐに斧で切り倒された。斧の音を聞いた者は立ち止まり、堀の向こうから見守っていた。根を切る音が聞こえたかと思うと、誰もがいたたまれない気持ちになった」。

2012年、大手門の枡形（度量衡器の一つ方形の「枡」にちなんで名付けた）付近と、その東側の堀の一部で発掘調査が行われた。その際、非常に多くの瓦が出土したが、これは明治時代（1868-1912）の初期に大手門とその周辺の塀が破壊された際に、瓦がそのまま堀に捨てられたと考えられる。

【タイトル】松本城の歴史：明治時代から現代まで

【想定媒体】WEB

<簡体字>

松本城的历史

从明治时代到当代

(1) 松本农事会的试验场

1880年，50名本地有志居民组建了“松本农事会”。该组织得到了松本城核心区“本丸”部分土地的使用许可，将其改造成了试验田。农事会在这里试验种植各种新品种水果、蔬菜，并在会员间共享成果。

据诗人洼田空穗(1877-1967)的回忆录记载，大约在1891年至1895年间，本丸中央是一片蔬菜地，靠近天守的西侧是苹果园，北侧则是一片葡萄园。为了筹措资金，农事会还在月见櫓内铺上榻榻米，收取门票，招揽游人进入天守参观。

后来，政府决定收回土地，将其分配给松本中学，试验田随之关闭。

(2) 松本中学修建

松本中学（相当于今天的高中）创建于1876年7月10日，是开智学校的一部分。随着学生人数不断增长，松本中学于1885年独立出来，搬迁到松本城的二级区域“二之丸”的古山地御殿旧址。直到1935年以前，学校都在二之丸开班授课。下图显示了松本中学在1919年时的布局结构。

1902年，由于学校需要开辟更多活动空间，本丸遂被改造为学生操场。

中文	日本語
松本中学于二之丸开校时的彩色锦绘	二の丸にて松本中学校の開校時の錦絵
1919年的松本中学校舍布局 (出处：《长野县松本中学 长野县松本深志高等学校 九十年史》)	1919年の松本中学校校舍配置 (出典：長野県松本中学校 長野県松本深志高等学校 九十年史)

(3) 化身公园的城郭

1930年，松本城被指定为国家史迹。城郭的管理权移交给松本市政府，市政最终决定将其改造成公园。1935年，松本中学从城郭迁移到蚁之崎街区。1938年，市政府制定了松本城利用方针，开始起草建设公园的具体方案。然而，次年第二次世界大战爆发，计划被搁置下来。

战争结束后，公园建设重启。1948年，人们开始在二之丸植树，并努力尝试恢复城郭

植被。城郭东南角建起了一个小型动物园，旁边是 1937 年搬到二之丸的市立博物馆，第二条护城河“外堀”旁还建了一个喷泉。1957 年，位于城郭内最外围区域“三之丸”西北角的儿童乐园开业，但于 1987 年关闭。1968 年，市立博物馆闭馆改造，再度开放时改名“日本民俗资料馆”（今松本市立博物馆）。

(4) 填平护城河

随着松本市的扩张与松本城的对外开放，继续保留三条重重环绕城郭的护城河似乎已不现实。1876 年，护城河填埋工程开启。首先被填平的是外堀的东段和最外侧的护城河“总堀”的南段。1877 年，填河复地行动全面展开。人们在大手门周边开拓出大片新的土地，并于 1879 年在此建立了四柱神社。在二之丸内的松本裁判所建成后，外堀东段也被填平，以方便行人出入。曾经守卫三之丸入口的“马出”（出击门）于 19 世纪 90 年代后期被彻底拆除，最内侧的护城河“内堀”的一部分也因为松本中学的扩建而于 1905 年被填平。

护城河填埋工程一直持续到了大正时代(1912-1926)，当时，总堀和外堀的大部分河段均已填平，用于扩大居民区。总堀仅存的一段河道也在昭和时代(1926-1945)早期被改造成了公共游泳池。

好在人们终究还是意识到，护城河是城郭必不可少的组成部分，也是这座城市历史的一大重要元素，于是本地于 1997 年开启了修复外堀南段、西段的工程。

<繁体字>

松本城的歷史

從明治時代到當代

(1) 松本農事會的試驗場

1880 年，50 名當地有志居民組建了「松本農事會」。該組織得到了松本城的核心區域「本丸」部分土地的使用許可，將其改造成試驗田。農事會在這裡試驗種植各種新品種水果、蔬菜，並在會員間共用。

據詩人窪田空穗（1877-1967）的回憶錄記載，大約在 1891 年至 1895 年間，本丸中央是一片蔬菜地，靠近天守的西側是蘋果園，北側則是一片葡萄園。為了籌措資金，農事會還在月見櫓內鋪上榻榻米地墊，收取門票，招攬遊人進入天守參觀。

後來，政府決定收回土地，試驗田隨之關閉，土地則分配給了松本中學。

(2) 松本中學修建

松本中學（相當於今天的高中）創立於 1876 年 7 月 10 日，是開智學校的一部分。隨著學生人數不斷增長，松本中學從開智學校獨立了出來，於 1885 年搬遷到松本城的二級區域「二之丸」的古山地御殿舊址。直到 1935 年以前，學校都在二之丸開班授課。下圖顯示了松本中學在 1919 年時的布局。

1902 年，由於學校需要開闢更多活動空間，本丸遂被改造為學生操場。

中文	日本語
松本中學於二之丸開校時的彩色錦繪	二の丸にて松本中学校の開校時の錦絵
1919 年的松本中學校舍布局 (出處：《長野縣松本中學 長野縣松本深志高等學校 九十年史》)	1919 年の松本中学校校舎配置 (出典：長野県松本中学校 長野県松本深志高等学校 九十年史)

(3) 化身公園的城郭

1930 年，松本城被指定為國家史跡。城郭的管理權移交給松本市政府，市政最終決定將其改造成公園。1935 年，松本中學從城裡遷移到蟻之崎街區。1938 年，市政府開始起草建設公園的具體方案，然而，次年第二次世界大戰爆發，計畫暫停。

戰爭結束後，公園建設重啟。1948 年，人們開始在二之丸植樹，並努力嘗試恢復城郭植被。城郭東南角建起了一個小型動物園，旁邊是 1937 年搬到二之丸的市立博物館，第二條護城河「外堀」旁還建了一個噴泉。1957 年，位於城郭內最周邊的區域「三之丸」西北角的兒童樂園對外開放，但於 1987 年關閉。1968 年，市立博物館閉館改造，再度開放時改名「日本民俗資料館」（今松本市立博物館）。

(4) 填平護城河

隨著松本市的擴張與松本城的對外開放，繼續保留三條重重環繞城郭的護城河似乎已不現實。1876 年，護城河填埋工程開啟，首先被填平的是外堀的東段和最外側的護城河「總堀」的南段。1877 年，填河復地行動全面展開，人們在大手門周邊開拓出大片新土地，並於 1879 年在此建立了四柱神社。松本裁判所在二之丸建成後，外堀東段也被填平，以方便行人出入。曾經守衛三之丸入口的「馬出」（出擊門）於 1890 年代後期被徹底拆除，最內側的護城河「內堀」的一部分也因為松本中學的擴建而於 1905 年被填平。

護城河填埋工程一直持續到了大正時代（1912-1926），當時，總堀和外堀的大多河段均已填平，用於擴大居民區。總堀僅存的一段河道也在昭和時代（1926-1945）早期被改造成公共游泳池。

好在人們終究還是意識到，護城河是城郭不可或缺的部分，也是這座城市歷史的一大重要元素，於是當地於 1997 年開啟了修復外堀南段、西段的工程。

<日本語仮訳>

松本城の歴史：明治時代から現代まで

(1) 松本農事会の試験場

1880 年、地元有志 50 人が集まって松本農事会を結成。この組織は、松本城の一番重要な曲輪「本丸」の一部を農業試験場として使用することを許可され、そこで新しい品種の野菜や果物を栽培して会員に配布する実験を行った。

詩人・窪田空穂（1877-1967）の手記によると、1891 年から 1895 年頃まで、本丸の中央は野菜畑、天守に近い西側はりんご園、北側はぶどう園だったという。資金を捻出するため、月見櫓に畳を敷いて、天守への入場料を取るなどしていたようである。

しかし、松本中学校への払い下げが決定し、試験場は閉鎖された。

(2) 松本中学校の建築

松本中学校（現在の高等学校に相当）は、1876年7月10日、開智学校の一部として設立された。生徒数の増加に伴い1885年に分離独立し、古山地御殿の跡地である松本城の二番目に重要な曲輪「二の丸」に移転した。松本中学校は、1935年までは二の丸にあった。下図は、1919年当時の校舎の配置図である。

1902年、学校はより多くの校庭が必要になり、本丸は生徒のための運動場として使われるようになった。

(3) 公園としての城郭

松本城は1930年に国の史跡に指定された。城郭の管理は松本市に移管され、松本市は城郭を公園として整備することを計画した。1935年、松本中学校は城下から蟻ヶ崎に移転した。1938年に松本市は城の利用方針を定め、公園化の具体案を作成し始めた。しかし翌年、第二次世界大戦の勃発により、この計画は具体化しなかった。

公園建設は終戦後に再開された。1948年に二の丸に木を植えるなど植生の再生に努めた。南東の角には、1937年に二の丸に移設された市立博物館の脇に小さな動物園が設けられ、外堀（二番目の堀）脇には噴水が設けられた。また、1957年には城郭内の最も外側の曲輪「三の丸」の北西部の一角に児童遊園がオープンしたが、1987年に閉鎖された。1968年、市立博物館が改修され、のちに日本民俗資料館（現・松本市立博物館）として開館した。

(4) 堀の埋め立て

市街地の拡大や城域の開放に伴い、城を囲む三重の堀を維持することは現実的でなくなった。そこで、外堀の東側と総堀（一番外側の堀）南側の部分を皮切りに1876年から堀の埋め立てに着手し、1877年に本格的な埋め立てが始まった。大手門を中心に広い範囲が埋め立てられ、1879年には埋め立てた土地に四柱神社が建立された。二の丸に松本裁判所が建てられると、外堀の東側が埋め立てられて往来が便利になった。三の丸の出入り口を守っていた馬出しは1890年代後半には完全に撤去され、内堀（一番内側の堀）の一部も1905年頃、松本中学校の拡張のために埋め戻された。

堀の埋め立ては大正時代（1912-1926）に入っても続き、総堀や外堀を埋め立てて住宅地が拡大された。昭和時代（1926-1945）の初めには、総堀の最後の部分が市民プールとして利用されるようになった。

しかし、やがて堀は城郭の基本的な部分であり、街の歴史を語る上で重要なものであることが認識されるようになった。1997年、外堀の南・西側を復元する取り組みが始まった。

【タイトル】松本城伝説

【想定媒体】WEB

<簡体字>

松本城の伝説

在松本城数百年的漫长历史之中，流传着许多传说、轶事和民间故事。有的故事与城郭的建筑、工匠或建材有关，比如“拉长横梁的名匠”。而另一些则是关于城中人的故事，或是历任城主，或是与松本城有关的历史人物，比如“袖留桥的离别”。

在这些传说中，既有史实也有大众的想象。在17、18世纪，只有高阶武士家族成员才能进入城郭核心区域，对于绝大多数平民来说，那里是禁区，只能隔着护城河远远望一眼高耸的城郭，想象其中发生的故事。诸如“倾斜之城”“松姬的悲剧”等故事里都蕴含了平民对于富裕武士精英阶层的复杂感情。

无论你是否相信这些传说，广为流传的每一则故事都反映了松本城及其历史，以及松本地区文化遗产的若干侧面。

<繁体字>

松本城的傳説

在松本城數百年的漫長歷史之中，流傳著許多傳説、軼事和民間故事。有的故事與城郭的建築、工匠或建材有關，例如「拉長橫樑的名匠」。而另一些則是關於城中人的故事，或是歷任城主，或是與松本城有關的歷史人物，例如「袖留橋的離別」。

在這些傳説中，有史實，也有來自民間的想像。在17、18世紀，只有高階武士家族成員才能進入城郭核心區域，對於大多數平民來說，那裡是禁區，只能隔著護城河遠遠望一眼高聳的城郭，想像其中發生的故事。諸如「傾斜之城」、「松姬的悲劇」等故事裡都蘊含著平民對於富裕武士精英階層的複雜感情。

無論你是否相信這些傳説，這裡的每一則故事都反映了松本城及其歷史，以及松本地区文化遺產的不同面向。

<日本語仮訳>

松本城伝説

松本城の数世紀にわたる歴史には、多くの伝説や逸話、民話がある。「梁をのばした匠」のように、城の建築、大工、材料にまつわる話もある。また、「袖留橋の別れ」のように、歴代の城主や、城と何ら

かに関係がある歴史上の人物について描いたものもある。

これらの伝説の多くは、史実と民衆の空想が織り交ぜられている。17世紀から18世紀にかけて、城の最奥部には上級武士家族以外は立ち入ることができず、ほとんどの庶民は堀の向こうにそびえる城を見つめ、そこで何が起きているのかを想像するしかなかった。「傾いた城」「松姫の悲劇」など、庶民の裕福なエリート武士に対する心情が物語として残されている。

これらの話を信じるかどうかは別として、そのいずれもが、松本城とその歴史、そして松本に残る文化遺産の一端を示している。

【タイトル】 梁をのばした匠

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

拉长横梁的名匠

松本城大天守于 1593 年开始建造，1594 年竣工，期间动用了足足 100 多名木工。其中有一人每日偷奸耍滑，无所事事地闲逛，只偶尔削两下连接木料的榫头，这让所有同伴都气恼不已。

终于，到了给大天守上梁的关键时候。当工匠们把支撑屋脊立柱的大梁装上去，却惊恐地发现，房梁竟短了 15 厘米。

所有人都惊得目瞪口呆，穷途末路时，那位不干活的木工居然开口了：“我来试试把房梁拉长一点吧。”说完，他指挥 100 名木工分成两队，分站东西两边，并让各队分别把绳子绑到横梁两端。一切就位后，他发出号令“拉！”两队人努力拉紧绳索，这个木工则手握一个巨大的木槌独自稳稳地站在横梁正中。当感觉时机来临，他飞身而起挥槌用力敲向木梁。一下！两下！三下！敲完三下后，木工道：“差不多了，应该有 15 厘米了。”

有人上前一量，房梁果真不多不少长了 15 厘米。人人都被这奇迹一般的事情惊呆了。从此以后，众人心悦诚服，将这位“不干活”的木工奉为名匠。

<繁体字>

拉長橫樑的名匠

松本城大天守於 1593 年開始建造，1594 年竣工，期間動用了足足 100 多名木工。其中有一人每日混水摸魚，無所事事地閒逛，只偶爾削兩下連接木料的榫頭，讓所有同伴都氣惱不已。

終於，到了給大天守上樑的關鍵時候，當工匠們把支撐屋脊立柱的大樑裝上去，卻驚恐地發現，房樑竟短了 15 公分。

所有人都驚得目瞪口呆，一籌莫展時，那位不幹活的木工居然開口了：「我來試試把房樑拉長一點吧。」說完，他指揮 100 名木工分成兩隊，分站東西兩邊，並讓各隊分別把繩子綁到橫樑兩端。一切就位後，他發出號令「拉！」兩隊人努力拉緊繩索，這個木工則手握一個巨大的木槌獨自穩穩地站在橫樑正中。當感覺時機來臨，他飛身而起揮槌用力敲向木樑。一下！兩下！三下！敲完三下後，木工說：「差不多了，應該有 15 公分了。」

上前一量，房樑果真長了 15 公分，不多也不少。人人都被這不可思議的情況嚇得目瞪口呆。從此以後，大家心悅誠服，將這位「不幹活」的木工奉為名匠。

<日本語仮訳>

梁をのばした匠

松本城の大天守の建設（1593-1594）には、100人以上の大工が動員された。そのうちの一人は、仕事から逃げるかのように木材を接合するための釘を時々削る程度で、他の職人たちを呆れさせていた。

そして、いよいよ天守を建てるための最も重要な作業、中央の棟木を支える梁を設置する段階になった。ところが、この梁が15センチほど短くて、大工さんたちは驚いたという。

大工たちはショックで言葉を失った。思案に暮れていたその時、その何もしない大工が口を開いた。「わしが梁をのばしてみよう」と言いながら、100人の大工たちを2組に分けるように指示した。そして、100人の大工を東と西に分けて立たせた。そして、その何もしない大工は、それぞれのグループの梁の端にロープを結ばせた。そして、「引っ張れ」と指示を出し、皆がロープを引っ張る中、自分は梁の真ん中で微動だにせず立っていた。そして、ここぞとばかりに、大きな木槌で梁を1回、2回、3回と打ち鳴らした。そして、飛び降りるようにして木槌を落とし、「これで15センチくらいかな」と言った。

すると、梁の長さが15センチほど伸びているではないか。この奇跡的な出来事に誰もが驚き、それ以来、この大工は名人として尊敬されるようになったという。

【タイトル】袖留橋の別れ

【想定媒体】WEB

<簡体字>**袖留橋的离别**

松本城公园正南 1 公里处，有一段朴实无华的石栏杆，上面刻着“绿桥”二字。这座桥建成于 1878 年，在此之前，横跨在河面上的是一座名叫“袖留桥”的木桥。关于这个名字，还有一段哀伤的故事。

故事发生在 17 世纪早期的袖留桥边。1615 年，松本城主小笠原秀政(1569-1615)受召参与大坂（今大阪）之阵，这是德川幕府与对手之间的最后一场战争。小笠原秀政出征不久，他的两个儿子小笠原忠脩（1594-1615；脩，音同“修”）和小笠原忠真(1596-1667)也很快接到军令，应征入伍。

小笠原忠真当时刚满 18 岁，虽然已经披上了铠甲，甲冑之下却依然穿着少年的“振袖”（长袖）长衫。儿时的乳母舍不得他上战场，痛哭道：“他还是个孩子！一想到他可能死在战场上我就受不了。我不敢想象可能会再也见不到他。”

乳母哭喊着跑向城外，追赶出征的队伍。就在小笠原忠真走到长泽川的桥边时，乳母赶了上来，拉住他低垂的长袖，不肯放他离去。小笠原忠真也沉浸在悲伤中，久久驻足，最后才说：“我得走了。”他转过身，继续朝着大坂方向而去，可乳母还是不肯放开他的袖子。小笠原忠真不得不用力甩开她的手，结果把袖子给撕破了。乳母站在桥上，眼睁睁看着孩子走向战场，手里还握着他的一段袖子。这便是“袖留桥”之名的由来。

<繁体字>**袖留橋的離別**

松本城公園正南 1 公里處，有一段樸實無華的石欄杆，上面刻著「綠橋」二字。這座橋建成於 1878 年，在此之前，橫跨在河面上的是一座名叫「袖留橋」的木橋。關於這個名字，還有一段哀傷的故事。

故事發生在 17 世紀早期的袖留橋邊。1615 年，松本城主小笠原秀政（1569-1615）受召參加大坂（今大阪）之陣，這是德川幕府與對手之間的最後一場戰爭。小笠原秀政出征不久，他的兩個兒子小笠原忠脩（1594-1615；脩，音同「修」）和小笠原忠真（1596-1667）也很快接到軍令，應徵入伍。

小笠原忠真當時剛滿 18 歲，雖然已經披上了鎧甲，甲冑之下卻依然穿著少年的「振袖」（長袖）長衫。兒時的奶媽不舍他上戰場，痛哭道：「他還是個孩子！一想到他可能

死在戰場上我就受不了，我不敢想像可能再也見不到他。」

奶媽哭喊著跑向城外，追趕出兵的隊伍。就在小笠原忠真走到長澤川の橋邊時，奶媽趕了上來，拉住他低垂的長袖，不肯放他離去。小笠原忠真也相當難過，在橋邊佇足良久，最後才說：「我得走了。」他轉過身要繼續朝著大坂方向前進，可奶媽還是不肯放開他的袖子，小笠原忠真不得不用力甩開她的手，結果把袖子給撕破了。奶媽站在橋上，眼睜睜看著孩子走向戰場，手裡還握著他的一段袖子，這便是「袖留橋」之名的由來。

<日本語仮訳>

袖留橋の別れ

松本城公園から南に1kmほど行くと、緑橋の銘鉄のついた質素な石の欄干がある。1878年に現在の橋が架かる以前、この川には袖留橋という木製の橋が架かっていた。この橋の名前の由来には、こんな悲しい話がある。

17世紀初頭、この橋はある出来事の舞台となった。1615年、松本城主の小笠原秀政（1569-1615）は、徳川幕府が相手との最後の戦いである大坂の陣に招集されて出陣した。秀政は出陣したが、彼の2人の息子である忠脩（1594-1615）と忠真（1596-1667）も間もなく戦場に召集された。

忠真はまだ18歳で、鎧を身にまもってはいるが、その下はまだ成人していない少年の長袖の振袖を着ている。幼少の頃の乳母は「まだ若いのに！このまま戦死して二度と会えなくなるなんて、耐えられない」と嘆き、忠真の旅立ちを惜しんだ。

そう言うと乳母は城を飛び出し、去っていく行列を追いかけた。忠真が長沢川に架かる橋にさしかかったところで追いつき、引きずる袖を掴んで離さない。忠真も悲しみに打ちひしがれ、しばらくは別れを惜しんで立ち尽くした。忠真は、「もう行かねばならぬ」と言った。忠真は立ち上がり、再び大坂を目指したが、乳母は手を離そうとしない。忠真は仕方なく袖を引いて彼女の手を振りほどき、彼女は橋の上に破れた袖の一部を握ったまま立ち尽くした。この「別れた袖」の話が、この橋が名前の由来であるという。

【タイトル】 松姫の悲劇

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

松姫的悲劇

德川幕府的首任将军德川家康(1543-1616)一直有个烦恼，他找不到愿意迎娶他同父异母妹妹的人。传说，他妹妹松姬(1563-1587)相貌颇为丑陋，就连能成为幕府将军妹夫这样的条件都无法吸引人前来求娶。无奈之下，德川家康只得召集全日本的大名（领主），宣布：“谁若愿意迎娶我的妹妹为妻，并生下儿子，我便赐予他 10 万石的领地。”

即便对于身家丰厚的大名来说，10 万石的领地也是极大的诱惑，然而依旧没有人响应。这时，唯有德川家康最信任的户田康长(1562-1633)对松姬露出了一个腼腆的微笑。看到这一幕，德川家康立刻宣布为他俩订下婚约。后来，户田康长成为了松本城的第五任城主。

故事里极力渲染了松姬容貌之丑陋，可其实这个故事是在松姬过世许多年之后杜撰出来的。松姬 5 岁时就与当时 6 岁的户田康长订立了婚约。史料显示，长大后的松姬出落得楚楚动人，夫妻俩生下了一个儿子，名叫户田永兼(1580-1619)。

不幸的是，松姬很早就过世了，他们的儿子也身体孱弱，一生的大多数时间都在病痛中度过。后来，户田康长的侧室又为他生下了两个儿子，名为户田忠光(1598-1629)和户田康直(1617-1634)。1617 年，户田康长接掌松本城，户田一家从上野（今群馬县境内）搬到松本。此后不久，户田永兼去世，户田忠光也于 1629 年英年早逝，户田康直成为了家族继承人。

自从户田忠光死后，户田家族便遭遇了一连串的不幸。户田康直怀疑接踵而来的厄运（包括户田忠光的死）都是户田永兼愤怒的鬼魂在实施报复，因为他对自己没能成为继承人而心怀怨恨；也有传言认为作祟的是松姬的怨灵。有关松姬的故事总是那么残酷，有说她是投水自尽的，有说她是一个婚姻不幸的丑女。

现在，松姬与户田永兼的灵位都被供奉在松本神社内。

<繁体字>

松姫的悲劇

德川幕府的首任將軍德川家康（1543-1616）一直有個煩惱：他找不到人願意迎娶他的同父異母妹妹，松姬（1563-1587）。傳說松姬相貌頗為醜陋，就連能成為幕府將軍妹夫這樣的條件都無法吸引人前來求娶。無奈之下，德川家康只得召集全日本的大名（領主），宣布：「誰若願意迎娶我的妹妹為妻，並生下兒子，我便賜予他 10 萬石的領地。」

即便對於身家豐厚的大名來說，10 萬石的領地也是不得了的誘惑。然而，依舊沒有人回應，只有德川家康最信任的戶田康長（1562-1633）對松姬露出了一個靦腆的微笑。看到這一幕，德川家康立刻宣布為他倆訂立婚約。後來，戶田康長成為了松本城的第五任城主。

故事裡極力渲染了松姬容貌之醜陋，可這個故事卻是松姬過世許多年後才被後人杜撰出來的。事實上，松姬 5 歲時就與當時 6 歲的戶田康長訂立了婚約，史料顯示，長大後的松姬出落得楚楚動人，夫妻倆生下了一個兒子，名叫戶田永兼（1580-1619）。

不幸的是，松姬很早就過世了，他們的兒子也身體孱弱，一生的大多數時間都在病痛中度過。後來，戶田康長的側室又為他生下了兩個兒子，戶田忠光（1598-1629）和戶田康直（1617-1634）。1617 年，戶田康長接掌松本城，戶田一家從上野（今群馬縣境內）搬到松本。此後不久，戶田永兼去世，戶田忠光也於 1629 年英年早逝，只留下戶田康直成為了家族繼承人。

自從戶田忠光死後，戶田家便遭遇了一連串的不幸。戶田康直懷疑這一系列的厄運（包括戶田忠光的死）都是戶田永兼憤怒的鬼魂在實施報復，因為他對自己沒能成為繼承人而心懷怨恨。也有傳言認為是松姬的怨靈作祟。有關松姬的故事總是那麼殘酷，有說她是投水自盡的，有說她是一個婚姻不幸的醜女。

今天，松姬與戶田永兼的靈位都被供奉在松本神社內。

<日本語仮訳>

松姬の悲劇

徳川幕府の初代将軍徳川家康（1543-1616）には、異父妹の松姫（1563-1587）と結婚してくれる人が見つからないという悩みがあった。松姫はひどく不細工で、将軍が義理の兄になるということですら、求婚者を引きつけるには十分ではなかった。家康は全国の大名（領主）を招集し、「妹を妻としてほしい。もし男の子が生まれたら、10 万石の領地を与える」と宣言した。

いくら大名といえども 10 万石は魅力的な条件であったが、どの大名もすぐにその提案を受け入れようとはしなかった。ただ 1 人、家康の信頼の厚い戸田康長（1562-1633）だけは、松姫に恥ずかしそうに微笑んだ。それを見て、家康は即座に婚約を宣言した。戸田康長は後に松本城の 5 代目城主となる。

この話は、松姫の醜さを強調するものだが、実は松姫の死後、長い年月をかけて作られた空想上の噂である。松姫はまだ 5 歳で、6 歳の康長と婚約した。松姫は美しく成長し、永兼（1580-1619）という男児をもうけたと記録されている。

しかし、残念なことに松姫は若くして亡くなり、松姫の息子も生涯病弱であった。康長の側室は、その後 2 人の息子を産んだ。忠光（1598-1629）、康直（1617-1634）である。1617 年、一族は上野（現在の群馬県の一部）から松本に移り、康長は松本城を統治するようになった。永兼は間もなく死去。1629 年、忠光も若くして没すると、康長は家督を継いだ。

忠光の死後、戸田家には多くの不幸があった。この不幸と忠光の死は、跡継ぎの座を譲り受けられ

なかった永兼の祟りではないかと康直は考えた。また、その原因を松姫の怨霊にあると陰口を言うものもいた。松姫に纏わる物語は残酷なものばかりであった。中には、松姫は溺死した、醜い女で不幸な結婚をした、などというひどい話もあったそうだ。

現在、松姫と永兼の霊は松本神社に祀られている。

【タイトル】 傾いた城伝説

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**倾斜之城**

进入 20 世纪后的数十年间，松本城一直被荒置。天守的屋顶开始摇摇欲坠，建筑外表衰朽不堪。更糟糕的是，地基也开始腐坏，以至于大天守出现了明显的倾斜。而大天守的倾斜，孕育出了松本城最具戏剧性的一则传说。

1686 年，一位名叫多田加助(1639-1686)的“庄屋”（村长）率领上万名村民向松本城的官员发起抗议，要求减免税赋。当时，这一地区的农民遭遇庄稼歉收，而税赋需要以大米缴纳，如果如数缴税，许多农户就将无粮果腹。

松本藩担心抗议发展成大规模的叛乱，很快便接受了多田加助的要求，甚至向他出具文书，承诺取消此前增税的决议。然而，事情刚刚平息，多田加助一家和大约 20 名追随者就都遭到逮捕、囚禁，所有文书也被收回。

多田加助被判处磔刑（磔，音同“哲”），公开行刑当日，民众云集，为他诵经祈祷。多田加助对大家说，他一定会为大家实现减税。他拼尽所有力气，一遍又一遍地高声呼喊官员此前承诺的税率。传说就在生命走到尽头的最后时刻，多田加助将充满了怒火的血红双眼转向松本城，大地随之传来一声可怕的轰响，大天守向西一偏，倾斜了。

<繁体字>**傾斜之城**

進入 20 世紀後的數十年間，松本城一直被荒置。天守的屋頂開始搖搖欲墜，建築外表衰朽不堪。更糟糕的是，地基也開始腐壞，以至於大天守出現了明顯的傾斜。而它的傾斜，孕育出了松本城最具戲劇性的一則傳說。

1686 年，這一地區的農民遭遇莊稼歉收，一位名叫多田加助（1639-1686）的「莊屋」（村長）率領上萬名村民向松本城的官員發起抗議，要求減免稅賦，因為稅賦需要以米糧繳納，如果如數繳稅，許多農戶就將無糧果腹。

松本藩擔心抗議發展成大規模叛亂，很快便接受了多田加助的要求，甚至白紙黑字地承諾取消此前增稅的決議。然而，事情剛剛平息，多田加助一家和大約 20 名追隨者就都遭到逮捕、囚禁，相關承諾文件也被收回。

多田加助被判處磔刑（磔，音同「哲」），行刑當日，老百姓雲集，為他誦經祈禱。多田加助對圍觀群眾說，他一定會為大家實現減稅。他拼盡所有力氣，一遍又一遍地高聲

呼喊官員此前承諾的稅率。傳說就在生命走到盡頭的最後時刻，多田加助將充滿了怒火的血紅雙眼轉向松本城，大地隨之傳來一聲可怕的轟響，大天守向西一偏，傾斜了。

<日本語仮訳>

傾いた城伝説

20 世紀に入ると松本城は何十年もの間ほとんど使われなくなり、放置されるようになった。屋根や外装の老朽化に加え、土台が腐り、大天守が大きく傾くという事態は、松本城の最も劇的な伝説のひとつを生んだ。

1686 年、庄屋・多田加助（1639-1686）は、松本城代が課した増税の廃止を求めて 1 万人の村民を率いて抗議行動を起こした。この地域の農民は最近不作で、税は米で支払われるため、多くの農民は飢餓の危険を冒さなくては増税された税を支払うことができなかった。

一揆に発展することを恐れた松本藩は、すぐに多田の要求を受け入れ、増税の撤廃を保証する文書を提示した。しかしその直後、行政府は多田とその家族、それに従者 20 人ほどを拘束し、獄に入れ、書類も没収した。

多田が公開磔刑に処せられる日、大勢の人が集まり、念仏を唱えた。多田はそれでも必要な減税は実現すると彼らに語りかけた。多田は息を引き取る間際、約束の税率を繰り返し叫んだ。そして、怒りに満ちた血走った目を最後に城に向けると、恐ろしい地響きとともに大天守が西に傾いたという伝説が残っている。

【タイトル】 国宝の保存

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

国宝保护

国宝指定

松本城在 1930 年被指定为国家史迹。6 年后被指定为国宝。

1929 年颁布的《国宝保存法》确定了指定国宝的规范和程序。第二次世界大战结束后，日本法律系统重构，这部法律也被取代。为避免混淆，人们有时会把在此之前根据旧规范指定的国宝称为“旧国宝”。

松本城被指定为国宝的时期相对较晚，1930 年它被指定为国家史迹时，日本已经有 16 座城郭获得国宝指定：名古屋城、姬路城、冈山城、广岛城、福山城、仙台城、熊本城、首里城、丸冈城、高知城、宇和岛城、犬山城、金泽城、和歌山城、松江城和松山城。

不幸的是，许多城郭后来都在二战的空袭中被毁，松本城却幸存了下来。1950 年，《文化财保护法》颁布，仅仅两年后，松本城便被重新指定为国宝，成为了新法规下、继姬路城之后获得这项指定的第二座城郭。当时，松本城正在经历它有史以来最大规模的整修工程。

松本城的保护

(1) 江户时代(1603-1867)的扩建与修缮

扩建

在石川家族统治时期的 1594 年，松本城的大天守、乾小天守和渡櫓建成。与此同时，石川家族还围绕天守建筑群修建了三重防御区域。日语中，城郭的防御区域叫做“丸”，由内向外，称“本丸”“二之丸”“三之丸”。40 年后，松平直政(1601-1666)出任松本城主，他扩建城郭，增建了辰巳附櫓和月见櫓，兼具“连接式”和“复合式”两种建筑风格的天守群就此诞生。

通过渡櫓将乾小天守与大天守相连，此为“连接式”；月见櫓、辰巳附櫓与大天守直接相连，称“复合式”。在现存城郭中，这种“复合连接式”建筑布局仅见于松本城。据说松本直政可能还在黑门北侧修建过一座塔楼，在二之丸建造过两座大米仓。

修缮

江户时代，天守似乎常常会进行修缮和维护保养，遗憾的是保留下来的详细记录很少。目前知道，自江户时代中叶接掌松本城以来，户田家族分别在 1733 年、1758 年、1779 年、

1781年、1782年、1802年、1817年、1826年、1832年和1842年对其进行过维修，却无从知晓修复详情与细节。

(2) 明治时代(1868-1912)的修缮

1868年明治维新后，日本开始在各个方面的学习西方文化，其中也包括石材建筑。因此，像松本城这样的木结构城郭渐渐被视为战乱时代的过时遗物。全国各地的许多城郭被拆毁，为市政基础设施建设或其他新建筑腾出空间。松本城虽然幸免于难，却也很快陷入了年久失修的窘况。天守屋顶瓦片碎裂，墙壁剥落倒塌，独具特色的黑漆“下见板”（风雨板）褪去了颜色。如果不是本地中学校长小林有也(1855-1914)挺身而出，城郭很可能早就坍塌。当时，小林有也目睹松本城的这幅景象，随即出面创办了“松本城天守保存会”，通过它募集资金，并申请到了修缮城郭所必须的政府许可。

修缮工程于1903年开启，至1913年完结，期间因日俄战争(1904-1905)有过短暂的中断。在参与松本城修缮工程的木匠中有一位名叫佐佐木喜重的大师，他便是后来“山边学校”的设计者，这所学校位于长野县，校舍为独具一格的拟洋风（以日式建筑方法和材料实现西式建筑外观）建筑。

详细的修缮记录现已不存，但可以推测当时工匠们重砌了天守群内的石阶、在墙内增设了斜梁并为墙面增涂了一层灰泥、使用金属支架加固了建筑骨架结构、校正了天守的倾斜。这次修缮解决了因城郭年久失修而存在的各类隐患，新增的窗户使其外观产生了显著的变化。工程中70%以上的维修费用都来自民间募捐，若无本地居民的支持，这项修复工程是不可能完成的。

中文	日本語
明治时代修复的情况	明治修理の状況
修复后的天守群（1913年）	修理後の天守群（1913）

(3) 昭和时代(1926-1989)的修缮

第二次世界大战结束后，一名叫查尔斯·F·加拉格尔(Charles F. Gallagher)的美术顾问于1946年秋天走访了长野县。他来自驻日盟军最高司令官总司令部(GDH)下属民间情报教育局，在看到松本城的现状后，他提出了尽快予以维修的建议。

在查尔斯的建议下，东京国立博物馆保存修理课的课长大冈实(1900-1987)和东京大学教授藤岛亥治郎(1899-2002)展开了先期考察。1948年，“松本城遗址风景地方保存会”成立。保存会继而发起筹款，并向中央政府提交了申请建设的请愿书。在他们的一系列努力下，松本城的大规模修复工程于1950年6月8日正式开启。

这次修复需要将相关建筑完全拆解开来，规模空前绝后，其最终目标是恢复松本城在江户时代的旧貌。施工人员在对其地基进行了彻底调查后，最终决定采用钢筋混凝土结构替代原来埋在地下的木柱，以提高地基结构的耐久性。

1950年	6月8日	开工仪式
-------	------	------

	8月	开始拆解
	8月15日	项目管理权自“松本市立博物馆”移交给“松本城保存工事事务所”
1952年	6月11日	新始仪式（新，同“斤”），宣告开始重建
1953年	10月3日	上栋仪式（上梁仪式）
1955年	10月1日	竣工仪式
	10月8日	大天守保护神“二十六夜神”入龕，供奉于大天守六楼
	10月15日	城郭后续运营管理职能交还“松本市立博物馆”

在修复项目进行的同时，松本市政府主动联系姬路城和松江城的管理团队，迈出了创建“全国城郭保存协会”的第一步。1951年9月18日，协会举行了临时筹备会议。同年11月，协会召集了其他保存了城郭的城市，在姬路召开协会的第一次全体会议。虽然该组织最终被解散，但它为如今的“日本城郭管理者协会”奠定了基础。

<繁体字>

國寶保護

國寶指定

松本城在1930年被指定為國家史跡，6年後被指定為國寶。

1929年頒布的《國寶保存法》確定了指定國寶的規範和流程。第二次世界大戰結束後，日本法律系統重構，這部法律也被取代。為避免混淆，人們有時會把之前根據舊規範指定的國寶稱為「舊國寶」。

松本城被指定為「國寶」相對較晚，在它被指定為國家史跡的1930年，日本已經有16座城郭獲得國寶指定：名古屋城、姬路城、岡山城、廣島城、福山城、仙台城、熊本城、首里城、丸岡城、高知城、宇和島城、犬山城、金澤城、和歌山城、松江城和松山城。

許多城郭後來不幸毀於二戰空襲，松本城卻倖存了下來。1950年，《文化財保護法》頒布，僅僅兩年後，松本城便被重新指定為國寶，成為了新法規下、繼姬路城之後獲得這項指定的第二座城郭。當時，松本城正在經歷它有史以來最大規模的整修工程。

松本城的保護

(1) 江戶時代(1603-1867)的擴建與修繕

擴建

在石川家統治時期的1594年，松本城的大天守、乾小天守和渡櫓建成。與此同時，石川家還圍繞天守建築群修建了三重防禦區域。日語中，城郭的防禦區域叫做「丸」，由內向外，稱「本丸」、「二之丸」、「三之丸」。40年後，松平直政(1601-1666)出任松本城主，他擴建城郭，增建了辰巳附櫓和月見櫓。至此，兼具「連接式」和「複合式」兩種建築風格的天守群誕生了。

乾小天守透過渡櫓與大天守相連，此為「連接式」；月見櫓、辰巳附櫓則與大天守直接連通，稱「複合式」。在現存城郭中，這種「複合連接式」建築布局僅見於松本城。據

說松本直政可能還在黑門北側修建過一座塔樓，在二之丸建造過兩座大米倉。

修繕

江戶時代，天守似乎常常會進行修繕和維護保養，只可惜保留下來的詳細記錄很少。目前所知道的是，自江戶時代中葉接掌松本城以來，戶田家分別在 1733 年、1758 年、1779 年、1781 年、1782 年、1802 年、1817 年、1826 年、1832 年和 1842 年對其進行過維修，如今卻已不知道修復詳情與細節。

(2) 明治時代 (1868-1912) 的修繕

1868 年明治維新後，日本開始在各個方面學習西方文化，其中也包括石板建築。因此，像松本城這樣的木結構城郭漸漸被視為戰亂時代的過時遺物。全國各地的許多城郭被拆毀，為市政基礎建設或其他新建築騰出空間。松本城雖然倖免於難，卻也很快陷入了年久失修的狀態。天守屋頂瓦片碎裂，牆壁剝落倒塌，獨具特色的黑漆「下見板」（風雨板）褪去了顏色。如果不是當地中學的校長小林有也（1855-1914）挺身而出，城郭很可能早就坍塌。當時，小林有也目睹松本城的這幅景象，隨即出面創辦了「松本城天守保存會」，透過協會募集資金，並申請到了修繕城郭所必須的政府許可。

修繕工程 1903 年開始，1913 年完結，期間因日俄戰爭（1904-1905）有過短暫的中斷。在參加松本城修繕工程的木匠中有一位名叫佐佐木喜重的大師，他便是後來「山邊學校」的設計師，這所學校位於長野縣，校舍為獨具一格的擬洋風（以日式建築方法和材料實現西式建築外觀）建築。

詳細的修繕記錄現已丟失，但可以推測當時工匠們重砌了天守群內部的石階、在牆內增設了斜樑並為牆面增塗了一層灰泥、使用金屬支架加固了建築骨架結構、校正了天守的傾斜。這次修繕解決了因城郭年久失修而存在的各類隱患，新增的窗戶使其外觀產生了顯著的變化。工程中 70% 以上的維修費用來自民間募捐，如果沒有在地居民的支援，這項修復工程是不可能完成的。

中文	日本語
明治時代修復的情況	明治修理の状況
修復後的天守群（1913 年）	修理後的天守群（1913）

(3) 昭和時代 (1926-1989) 的修繕

第二次世界大戰結束後，一名叫查理斯·F·加拉格爾（Charles F. Gallagher）的美術顧問於 1946 年秋天走訪了長野縣。他來自駐日盟軍最高司令官總司令部（GDH）下屬民間情報教育局，在看到松本城的現狀後，他提出了儘快予以維修的建議。

在查理斯的建議下，東京國立博物館保存修理課的課長大岡實（1900-1987）和東京大學教授藤島亥治郎（1899-2002）展開了先期考察。1948 年，「松本城遺址風景地方保存會」成立。保存會向中央政府提交了申請建設的請願書，繼而發起籌款。在他們一系列努力下，松本城於 1950 年 6 月 8 日正式開啟了大規模修復工程。

這次修復規模空前絕後，需要將相關建築完全拆解開來，其目標是恢復松本城在江戶

時代的舊貌。施工人員在徹底調查地基之後，決定採用鋼筋混凝土結構替代原來埋在地下的木支柱，以提高地基結構的耐久性。

1950年	6月8日	開工儀式
	8月	開始拆解
	8月15日	專案管理權自「松本市立博物館」移交給「松本城保存工事事務所」
1952年	6月11日	鉦（同「斤」）始儀式，宣告開始重建
1953年	10月3日	上棟儀式（上樑儀式）
1955年	10月1日	竣工儀式
	10月8日	大天守保護神「二十六夜神」入龕，供奉於大天守六樓
	10月15日	城郭後續運營管理職能交還「松本市立博物館」

在修復進行的同時，松本市政府主動聯繫姬路城和松江城的管理團隊，邁出了建立「全國城郭保存協會」的第一步。1951年9月18日，協會舉行了臨時籌備會議。同年11月，協會召集了其他保存了城郭遺址的城市，在姬路召開協會的第一次全體會議。雖然該組織最後被解散了，但它為如今的「日本城郭管理者協會」奠定了基礎。

<日本語仮訳>

国宝の保存

国宝への道

松本城が国の史跡に指定されたのは1930年。その6年後、国宝に指定された。

1929年に制定された「国宝保存法」は、国宝に指定されるための基準や手続きなどを定めた法律である。この法律は、第2次世界大戦後の日本占領に伴う法体系の再編成の中で、置き換えられた。そのため、混同を避けるため、旧法指定されたものを「旧国宝」と呼ぶこともある。

松本城の指定は比較的遅かった。松本城が国の史跡に指定された1930年には、16城が国宝に指定されていた。名古屋城、姫路城、岡山城、広島城、福山城、仙台城、熊本城、首里城、丸岡城、高知城、宇和島城、犬山城、金沢城、和歌山城、松江城、そして松山城が挙げられる。

残念ながら、第2次世界大戦中の空襲で多くの城が焼失してしまったが、松本城はそのような運命を免れることができた。1950年に「文化財保護法」が制定され、松本城はそのわずか2年後に国宝に再指定された。松本城は、姫路城に次いで2番目の国宝指定となった。指定された当時、松本城は歴史上最も大規模な修理が行われていた。

松本城の保存

(1) 江戸時代（1603-1867）の増築と修理

増築

石川家の統治下にあった1594年、同家によって大天守、乾小天守、渡櫓が築かれ、天守群を囲む三重の防衛用空間「丸」が整備された。日本語のなかで、「丸」とは城郭の内部、防衛用の空間

のこと。中心から外側に向けて、本丸、二の丸、三の丸などと称する。その 40 年後、松平直政（1601-1666）の時代に、辰巳附櫓と月見櫓が追加された。その結果、「連結式」と「複合式」両方の配置形式を持つ天守群が誕生した。

大天守と乾小天守が渡櫓でつなげる配置は連結式と呼ぶ。一方、辰巳附櫓と月見櫓が大天守に直接取り付け形式は複合式と呼ぶ。この組み合わせは、現存する城郭の中でも異彩を放っている。直政が黒門の北側にさらに櫓を追加したのではないかとされている。また、二の丸には米を貯蔵する大きな倉庫を 2 棟建てた。

修理

江戸時代、天守の修理や修繕はかなり頻繁に行われたようだが、その詳細な記録はほとんど残っていない。例えば、江戸時代中期以降、戸田家が統治していた松本では、1733、1758、1779、1781、1782、1802、1817、1826、1832、1842 年に天守の修理が行われたことが分かっている。しかし、これらの修理の具体的な内容は不明である。

(2) 明治時代（1868-1912）の修理

1868 年、明治維新を経て、日本は石造建築をはじめとする西洋文化が多く取り入れられるようになった。その結果、松本城のような木造の城は、戦国乱世の遺物とみなされるようになった。多くの城が取り壊され、公共施設やその他の新しい建築物のスペースとして確保された。松本城は救われたものの、瓦が割れ、壁が崩れ、黒漆塗りの下見板張りが色あせるなど、急速に老朽化が進んだ。地元の中学校長の小林有也（1855-1914）がいなければ、松本城は最終的には崩壊していたかもしれない。小林は天守の現状を目の当たりにし、「松本城天守保存会」を設立した。この会は、松本城の修理に必要な資金を集め、政府から修理の許可を受けた。

修理は 1903 年に始まり、日露戦争（1904-1905）中の一時中断を経て、1913 年に完成した。この工事に携わった棟梁の一人、佐々木喜重は、後に長野県のユニークな凝洋風（西洋のデザイン要素を日本の伝統建材と建築で再現した建築様式）校舎である山辺学校を設計することになる。

詳しい記録は残っていないが、内部の石段の積み直し、壁に斜めの支柱と漆喰の層を追加し、金属製の支柱で骨組みを補強し、城の傾きの修正などが行われたと思われる。その結果、城の老朽化は避けられたが、新しい窓が追加され、外観は大きく変化した。この修理は、地元住民の支援によって実現したもので、修理費の 70%以上は住民の寄付によってまかなわれた。

(3) 昭和時代（1926-1989）の修理

戦争終結後の 1946 年の秋、連合国軍最高司令官総司令部（GHD）民間情報教育局美術顧問が長野県を訪れた。彼の名はチャールズ・エフ・ギャラガー（Charles F. Gallagher）。松本城の現状を見たギャラガーは、一刻も早く修理を行うよう勧告した。

この勧告を受け、東京国立博物館保存修理課長の大岡實（1900-1987）と東京大学教授の藤島玄治郎（1899-2002）が事前調査を行った。1948 年、「松本城址風致地区保存会」が結成され、資金調達や中央政府への陳情書の作成に協力した。その結果、1950 年 6 月 8 日から

大規模な修理が始まった。

これは、前例のない大規模なもので、松本城を完全に解体しての工事であった。その目的は、江戸時代の城郭の姿を取り戻すことであった。しかし、この改修工事で基礎部分を徹底的に調査し、地下の木柱を鉄筋コンクリートに変えて耐久性を向上させることが決定された。

1950	6月8日	起工式
	8月	解体開始
	8月15日	松本市立博物館から松本城保存工事事務所に管理が移管される
1952	6月11日	再建の始まりを告げる「新始式」
1953	10月3日	上棟式
1955	10月1日	竣工式
	10月8日	大天守6階に城の守護神である「二十六夜神」を祀る
	10月15日	城の継続管理を松本市立博物館へ引き継ぐ

この事業の過程で、松本市は姫路城と松江城の関係者に働きかけ、「全国城郭保存協議会」の設立に向けた第一歩を踏み出した。1951年9月18日に臨時準備会議を開いた。その後、11月には他の城郭都市も加わり、姫路で第1回目の協議会が開催された。この組織はやがて解散したが、現在の「日本城郭管理者協議会」の基礎となった。

【タイトル】 地元住民の支援

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

本地居民的支持

松本城の救星：市川量造和小林有也

(1) 市川量造(1844-1908)

1868 年明治维新以后，松本城面临着被拆除和年久失修之两大危机。这座历史城郭能够留存至今，在很大程度上归功于松本市民的不懈努力。

明治时代(1868-1912)，西方的文化与制度开始为日本社会广泛接受，很快，高耸的木造城郭便成为了人们眼中过时的封建遗存。1871 年，松本城及其城郭核心区域“本丸”的管理权被陆军省接管。次年，本地一家报纸报道称，松本城即将被拍卖，城郭也将被拆除。不久，全国许多城郭相继被拆除，松本城因是名古屋陆军“镇台”（驻屯地）的支城而暂被保留了下来，但这并不代表它能逃脱被拆除的厄运。

本地一位名叫市川量造的社会活动家向县长递交了请愿书，请求将拍卖活动推迟至少 10 年。同时提出，可以利用城郭场地举办展览。他的请求得到了批准，并在 1873 年至 1876 年间，在松本城内共举办了 5 次博览会。

博览会大受欢迎。据本地媒体报道，第一次展会期间，每日最多接待 5000 多人次。展品种类也十分丰富，从美术作品、手工艺品，到化石、工具、武器，无所不有。对于许多参观者来说，这可能是他们有生第一次进入天守，因为这里从前只有武士和特别的贵宾才能涉足。各届博览会均由官方和民间组织协力举办，成功提高了大众对于松本城的关注度。

(2) 小林有也(1855-1914)

博览会结束后，县政府的关注点转向了其他紧迫事务。天守渐渐荒废，屋瓦碎裂，黑漆“下见板”（风雨板）褪色，天守台下的木柱日渐腐朽。

腐朽的木柱是松本城当时最严峻的问题，天守台再也无法支撑大天守 1000 吨的重量，天守开始倾斜。在一张 19 世纪 90 年代的照片上可以看到，天守倾斜的角度十分明显。不排除相机镜头的失真放大了问题的可能性，但毋庸置疑，天守台的问题已经导致建筑倾斜。本地还有传说认为，这是多田加助(1639-1686)的冤魂造成的。多田加助是 17 世纪一位本地村长，因为领导大规模抗议而被处以极刑。

20 世纪初期，松本中学位处城郭二级区域“二之丸”内，当时的校长名叫小林有也。眼见天守状况日益恶化，小林有也为了修复城郭而行动起来。他创办松本城天守保存会，发起募捐，筹集修复费用。这一次的城郭修复工程于 1913 年完成，小林有也本人则于次年去

世。

全民参与松本城的保护

自 19 世纪 70 年代城郭开放以来，本地居民便积极参与到松本城的保护活动中。如今，松本城是本地小学的常规游学目的地，每年都有志愿者负责清扫城郭，擦拭天守地板。随着游客人数的增长，本地亦已建立起志愿者团队，为来访者提供导览游服务，帮助大家了解松本城的历史。

为了协助举办各项年度活动，完成城郭考察，寻找促进旅游、激活本地经济的方法，一个名叫“松本古城会”的组织应运而生。在该团体的努力下，人们创立了执行委员会，并正致力于推进松本城申请联合国教科文组织(UNESCO)世界遗产认证项目。

中文	日本語
市川量造	市川量造
小林有也	小林有也
孩子们擦洗大天守地板	子どもたちが大天守の床を磨き

<繁体字>

當地居民的支持

松本城的救星：市川量造和小林有也

(1) 市川量造 (1844-1908)

1868 年明治維新以後，松本城面臨著被拆除和年久失修兩大危機。這座歷史城郭能夠留存至今，松本市民的不懈努力至關重要。

明治時代（1868-1912），日本社會開始廣泛接受西方的文化與制度，很快，高聳的木造城郭便成為了人們眼中過時的封建遺存。1871 年，松本城及其城郭核心區域「本丸」的管理權被陸軍省接管。次年，當地一家報紙報導稱，松本城即將被拍賣，城郭也將被拆除。不久，全國許多城郭相繼被拆除，松本城因為是名古屋陸軍「鎮台」（駐屯地）的支城而暫被保留下來，但這並不代表它能逃脫被拆除的厄運。

當地一位名叫市川量造的民運人士向縣長遞交了請願書，請求將拍賣活動推遲至少 10 年。同時提出，可以利用城郭場地舉辦展會。他的請求得到了批准。之後在 1873 年至 1876 年間，在松本城內共舉辦了五次博覽會。

博覽會大受歡迎。據當地媒體報導，第一次展會期間，每日最多接待 5000 多人次。展品種類十分豐富，從美術作品、手工藝品，到化石、工具、武器，無所不有。對於許多觀眾來說，這可能是他們有生第一次進入天守，因為這裡從前只有權貴、武士和貴賓才能涉足。各屆博覽會均由官方和民間團體共同舉辦，成功提高了老百姓對於松本城的關注度。

(2) 小林有也 (1855-1914)

博覽會結束後，縣政府的注意力轉向了其他緊迫事務。天守漸漸荒廢，屋瓦碎裂，黑

漆「下見板」（風雨板）褪色，天守台下木柱日漸腐朽。

腐朽的木柱是松本城當時最嚴峻的問題，天守台再也無法支撐大天守 1000 噸的重量，天守開始傾斜。在一張 1890 年代的照片上可以看到，天守傾斜的角度十分明顯。雖說相機鏡頭的失真或許放大了問題，但毋庸置疑，天守台的問題已經導致建築傾斜。當地還有傳說認為，這是多田加助（1639-1686）的冤魂造成的。多田加助是 17 世紀一位村長，因為領導大規模抗議而被處以極刑。

20 世紀初期，松本中學位處城郭的二級區域「二之丸」內，當時的校長名叫小林有也。眼見天守狀況日益惡化，小林有也為了修復城郭而行動起來。他創辦松本城天守保存會，發起募捐，籌集修復費用。這一次的城郭修復工程於 1913 年完成，小林有也本人則於次年去世。

全民參加松本城的保護

自 1870 年代城郭開放以來，當地居民便積極參加松本城的保護活動。如今，松本城是當地小學的傳統校外教學目的地，每年都有志工負責清掃城郭，擦拭天守地板。隨著遊客人數的增長，當地也建立起志工團隊，提供遊客導覽服務，幫助遊客進一步了解松本城的歷史。

為了協助舉辦各項年度活動，完成城郭考察，尋找促進旅遊、激活在地經濟的方法，一個名叫「松本古城會」的組織應運而生。在該團體的努力下，人們創立了一個執行委員會，並正致力於松本城申請聯合國教科文組織（UNESCO）世界遺產認證專案。

中文	日本語
市川量造	市川量造
小林有也	小林有也
孩子們擦洗大天守地板	子どもたちが大天守の床を磨き

<日本語仮訳>

地元住民の支援

松本城の救済：市川量造と小林有也

(1) 市川量造（1844-1908）

1868 年の明治維新後、松本城は取り壊しと荒廃という 2 つの危機に直面したが、松本市民の広範にわたる努力によって存続することができた。

明治時代（1868-1912）に入り、西洋の文化や制度が取り入れられるようになると、高く聳え立つ木造の城は時代遅れのものと思なされるようになった。1871 年、松本城と城の一番重要な曲輪「本丸」は陸軍省に移管された。翌年、松本城は競売にかけられ、取り壊されることが地元紙に報じられた。のちに、名古屋陸軍駐屯地（鎮台）の支城として、他の城が取り壊される中、松本城は残されることになった。しかし、取り壊される運命は変えられたわけではない。

地元の啓発家である市川量造の懇願書が県知事に提出され、少なくとも 10 年間は売却を延期

するよう求めた。また、城内を博覧会の会場として使用することも提案した。そして、1873年から1876年にかけて、5回の博覧会が開催された。

博覧会は人気を博した。地元の新聞によると、最初の博覧会には1日に5,000人以上が訪れたという。美術品、工芸品、化石、道具、武器など、さまざまなものが展示された。それまでは侍や特別な客人しか入れなかった天守に、人々ははじめて足を踏み入れた。官民一体となって実現したこの博覧会は、松本城への関心を高めることにつながった。

(2) 小林有也 (1855-1914)

博覧会が終わると、県庁は他の優先事項に追われ、天守は荒廃していった。屋根瓦は割れ、黒漆塗りの下見板は色あせ、天守台を支えていた木柱は腐り始めていた。

特に松本城で問題となったのは、この柱が腐ることだった。1,000トンの大天守の重さに天守台が耐えられなくなり、天守が傾いてしまったのだ。1890年代前半に撮影された有名な写真には、天守が大きく傾いている様子が写っている。実際には、レンズの歪みで傾いているように見えるのだが、それでも天守台が崩れ始め、傾いてしまったのだ。この傾きは、17世紀に大規模な一揆を起こして処刑された農民、多田加助(1639-1686)の祟りだと言う人もいた。

20世紀のはじめに、城の二番目に重要な曲輪「二の丸」に松本中学校に使われ、小林有也という人物が校長をしていた。小林は、日々悪化する天守の状態を目の当たりにし、修復に乗り出した。小林は松本城天守保存会を設立し、修理費の募金活動を開始した。1913年に修理は完了し、小林はその使命を終えたかのように、翌年この世を去った。

松本城の保護：市民の参加

1870年代の開城以来、松本城の保存は市民の手によって行われてきた。現在、松本城は地元の小学校の遠足でよく利用され、毎年ボランティアによって城内や床が清掃されている。観光客の増加に伴い、松本城の歴史をより多くの人に知ってもらうために、城内を案内するボランティア団体も結成された。

また、松本城の観光振興や経済活性化のために、年中行事の支援や城の調査研究などを行う「松本古城会」も設立され、この会からの呼びかけをもとに、実行委員会が組織され、松本城をユネスコ世界遺産に登録することを目標に、多くの人々が活動している。

【タイトル】 松本城を後世に残すために

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**为后世留下松本城**松本城周边遗址

松本城内共有 5 座建筑被指定为国宝，分别是：大天守、乾小天守、渡櫓、辰巳附櫓、月见櫓。不过全盛时期的松本城是一个更为精美繁复的城郭建筑群，由多个“丸”（城郭内的防御空间，从内至外通常为“本丸”、“二之丸”、“三之丸”等）、护城河、石垣、城门等组成，其中多处建筑设施均在 1930 年被指定为国家史迹。

如今的松本城保留了本丸和二之丸这两部分。江户时代(1603-1867)，城郭外围还有一处面积更大的“三之丸”，该区域向南一直延伸到大手门（今四柱神社附近）。进入明治时代(1868-1912)后，飞速的现代化进程成为时代的标签，本地政府认为应该有效利用城郭外围的土地。于是，护城河被填平，土垒被推倒，三之丸变成了城市公共空间。

昭和时代(1926-1989)，本丸和二之丸于 1930 年被指定为国家史迹。然而，城郭内还有诸如裁判所和学校在内的诸多非保护建筑。为了保护遗址完整的历史风貌，这些设施后来被陆续迁出，城郭遗址上修建了如今的松本城公园。护城河大部分现已不存，但有一段外堀（第二条护城河）河道及一段土垒被保存下来并已被指定为国家史迹。

下图展示了两份地图的叠加对比效果，其中一份是 1728 年的城下町（围绕城郭发展起来的市镇）地图，另一份是 2004 年的城区规划图。外堀和总堀（最外侧的护城河）被填平的区域经过重新开发，如今几乎布满了住宅和商业建筑。

中文	日本語
1930 年被指定为国家史迹的纪念柱	1930 年に指定された史跡標柱
总堀唯一现存河段	わずかに残された総堀
西总堀土垒公园	西総堀土塁公園
注：《享保 13 年(1728)秋修订 松本城下町绘图》（复制品，与 2004 年市区地图的叠加对比） 各处地名取 1728 年地图版；地图上未出现地名标于括号内。	注：『享保 13 年（1728）秋改松本城下絵図』（復元図、2004 年の都市計画図に重ねてある） 町名は同上絵図に載っている名称を主とし、絵図にない名称は（）で表記した

遗址保护

1867 年江户时代结束后，松本城内许多设施被拆除，但最主要的 5 座建筑及二之丸御

殿、二之丸城墙南角的天守都保留了下来。只是二之丸御殿在 1876 年失火焚毁，东北方的塔楼也最终被拆除，仅天守建筑群和少数几段城墙、护城河道留存至今。

20 世纪 50 年代，本地对城内 5 座建筑进行了大规模修缮，并修复了黑门周边的部分城墙和内堀（最内侧的护城河）。这一系列维修工作及随后在国家史迹指定区域内开展的所有工程，最终目的都是要恢复松本城在 19 世纪 50 年代至 60 年代的面貌。其他修复工程主要包括 1960 年黑门的“一之门”（内门）和 1999 年太鼓门的重建。长期的维护保护工作是研究者、专家和本地人士共同努力的结果，保护对象不只是松本城内被指定为国宝的天守群，还包括国家史迹部分。

松本城的石垣已经矗立了 400 多年，有些地方难免也偶尔会出现膨胀或坍塌的情况。要为子孙后代留住城郭，修复石垣是其中的重要一环。2014 年，埋门附近一段在 3 年前的地震中受损的石垣得到修复。同一时期，二之丸御殿西侧一段遭到附近榉树树根破坏的石垣也被修整。恢复江户时代石垣的面貌需要大量的时间和经费，好在国家和县政府予以支持，工程才得以顺利进行。

目前正在进行的大型工程是复原 1919 年被填平的外堀南段和西段区域。恢复城郭 19 世纪时的面貌是一段漫漫征途，眼下的工作仅仅是其中的一小步而已。

中文	日本語
在 2011 年地震中受损的埋门南侧石垣修复工程	平成 23 年の地震によって傷んだ埋門南側石垣の改修
因榉树根损坏的二之丸御殿遗址西侧石垣修复工程	ケヤキの根によって傷んだ内堀の二の丸御殿跡西側石垣を改修

<繁体字>

為後世留下松本城

松本城周邊遺址

松本城內共有 5 座建築被指定為國寶，分別是：大天守、乾小天守、渡櫓、辰巳附櫓和月見櫓。不過全盛時期的松本城是一個更為精美繁複的城郭建築群，由多個「丸」（城郭內的防禦空間，從內至外通常為「本丸」、「二之丸」、「三之丸」等）、護城河、石垣、城門等組成，其中多處建築設施均在 1930 年被指定為國家史跡。

如今的松本城保留了本丸和二之丸這兩部分。江戶時代（1603-1867），城郭周邊還有一處面積更大的「三之丸」，該區域向南一直延伸到大手門（今四柱神社附近）。進入明治時代（1868-1912）後，飛速的現代化進程成為時代標籤，當地政府認為應該有效利用城郭周邊的土地。於是，護城河被填平、土壘被推倒，三之丸變成了城市公共空間。

昭和時代（1926-1989），本丸和二之丸於 1930 年被指定為國家史跡。然而，城郭內還有例如裁判所和學校在內的許多非保護建築。為了保護遺址完整的歷史風貌，這些設施後來被陸續遷出，並在城郭遺址上修建了如今的松本城公園。護城河大部分現已不存，但

有一段外堀（第二條護城河）河道及一段土壘被保存下來並已被指定為國家史跡。

下圖展示了兩份地圖的疊加對比效果，其中一份是 1728 年的城下町（圍繞城郭發展起來的市鎮）地圖，另一份是 2004 年的城區規畫圖。外堀和總堀（最外側的護城河）被填平的區域經過重新開發，如今幾乎全是住宅和商業建築。

中文	日本語
1930 年被指定為國家史跡的紀念柱	1930 年に指定された史跡標柱
總堀唯一現存河段	わずかに残された総堀
西總堀土壘公園	西総堀土壘公園
注：《享保 13 年（1728）秋修訂 松本城下町繪圖》（複製品，與 2004 年市區地圖的疊加對比） 各處地名取 1728 年地圖版；地圖上未出現地名標於括弧內。	注：『享保 13 年（1728）秋改松本城下繪図』（復元図、2004 年の都市計画図に重ねてある） 町名は同上繪図に載っている名称を主とし、繪図にない名称は（）で表記した

遺址保護

1867 年江戶時代告終，之後松本城內許多設施被拆除，但最主要的 5 座建築及二之丸御殿、二之丸城牆南角的天守都保留了下來。不過二之丸御殿在 1876 年失火被焚毀，東北方的塔樓也被拆除，只剩下天守建築群和少數幾段城牆、護城河道留存至今。

1950 年代，當地對城內 5 座建築進行了大規模修繕，並修復了黑門的部分城牆和內堀（最內側的護城河），這一系列維修工作及隨後在國家史跡指定區域內開展的所有工程，目的都是要恢復松本城在 1950 年代至 1960 年代的面貌。其他修復工程主要包括 1960 年黑門的「一之門」（內門）和 1999 年太鼓門的重建。長期的維護保護工作是研究者、專家和地方人士共同努力的結果，保護對象不只是松本城內被指定為國寶的天守群，還包括國家史跡部分。

松本城的石垣已經矗立了 400 多年，有些地方難免也偶爾會出現膨脹或坍塌的情況，要為子孫後代留住松本城，修復石垣是其中的重要一環。2014 年，埋門附近一段在 3 年前的地震中受損的石垣得到修復。同一時期，二之丸御殿西側一段遭到附近櫟樹樹根破壞的石垣也被修整。恢復江戶時代石垣的面貌需要大量時間和經費，好在國家和縣政府予以支援，工程才得以順利進行。

目前正在進行的大型工程是復原 1919 年被填平的外堀南段和西段區域。恢復城郭 19 世紀時的面貌是一段漫長的道路，眼下的工作僅僅是其中的一小步而已。

中文	日本語
在 2011 年地震中受損的埋門南側石垣修復工程	平成 23 年の地震によって傷んだ埋門南側石垣の改修
因櫟樹根損壞的二之丸御殿遺址西側石垣修復工程	ケヤキの根によって傷んだ内堀の二の丸御殿跡西側石垣を改修

<日本語仮訳>

松本城を後世に残すために

松本城周辺の史跡

松本城は、大天守、乾小天守、渡櫓、辰巳附櫓、月見櫓の 5 棟が国宝に指定されている。しかし、最盛期の松本城は、いくつもの「丸」（城郭の内部、防衛用の空間のこと。中心から外側に向けて、本丸、二の丸、三の丸などと称する。）や堀、石垣、門などが複雑に入り組んでおり、精巧な城郭であった。1930 年、これらの建造物の多くが国指定史跡に指定された。

現在の松本城の敷地は、主に本丸と二の丸の部分である。江戸時代（1603-1867）には、城の周囲にさらに広い三の丸があり、南の大手門（現在の四柱神社付近）まで続いていた。明治時代（1868-1912）に入り、急速な近代化が進む中、行政は広大な城の敷地にもっと有効な使い道があるのではないかと考えた。そして、堀を埋め、土塁を平らにして、三の丸を市街地として整備した。

昭和時代（1926-1989）の 1930 年、本丸と二の丸は国の史跡に指定された。しかし、敷地の大部分には裁判所や学校などの保護対象外の建造物が残っていた。その後、城跡は現在の松本城公園として整備され、歴史的風致を守るためにこれらの施設は移築された。堀の部分はほとんど残っていないが、外堀（二番目の堀）の一部と土塁の一部も国指定史跡として保存されている。

下の画像は、1728 年に作成された城下町（城郭を中心に発達した都市）の絵図と、2004 年に作成された都市計画用の地図を重ね合わせたものである。現在は、埋め立てられた外堀と総堀（一番外側の堀）の大部分に、住宅や商業施設が軒を連ねている。

史跡の保存

松本城は、江戸時代が終わりを迎えた 1867 年以降に多くの建物が取り壊された。残された建物は、城内の 5 つの建物と二の丸御殿、そして二の丸南隅の天守である。しかし、二の丸御殿は 1876 年に焼失し、東北の櫓も取り壊され、天守群と城壁と堀の一部が残るのみとなった。

1950 年代には 5 棟の天守群の大修理が行われ、黒門周辺の壁や内堀（一番内側の堀）の一部も復元された。これらの改修工事と、その後の国指定史跡の工事では、1850 年～1860 年代の外観を復元することを目指した。このほかにも、1960 年に黒門（一の門）、1999 年に太鼓門が復元された。松本城は国宝の天守だけでなく、国指定史跡も含めて、研究者、専門家、地元関係者が一体となって保存に取り組んでいる。

松本城の石垣は、400 年以上の歴史があるが、時に石垣の一部が膨張したり、崩れたりすることがある。この石垣を補修することは、城を後世に残すための重要な取り組みだ。2014 年には、3 年前の地震で被害を受けた埋門付近の石垣の一部を補修した。その際、二の丸御殿跡の西側でも、近くの櫓の根で壊れた塀の一部が修復された。江戸時代の石垣の修復は、かなりの時間と費用がかかるが、国や県の補助によって実現されている。

現在、1919 年に埋められた外堀の南側と西側を復元する大プロジェクトが進行中だ。これは 19 世紀の城の姿を取り戻すための努力の一環に過ぎない。

【タイトル】松本城の収蔵品

【想定媒体】WEB

<簡体字>**松本城藏品**版权政策

未经授权，严禁复制以下图片。任何个人、团体如需将下列任何图片用于商用或非商用目的，请与松本城管理事务所联系。

松本城及周边地区地图

江户时代(1603-1867)有多幅松本城及周边地区地图存世，其中尤以 1642 年至 1725 年出品居多，当时松本城处于水野家族治下。

中文	日本語
《享保 13 年秋(1728)修订 松本城下町地图》	「享保 13 年秋改 松本城下絵図」
《信州松本城地图》 (附立体图绘；约 1668-1713)	「信州松本城之図」 (起し絵付、1668-1713 年前後)
《信浓国松本藩领地地图》 (约 1713-1725)	「信濃国松本藩領大絵図」 (1713-1725 年前後)
《后藤新門画 纸本墨画 松本城旧景图》 (约 1897 年)	「後藤新門画 紙本墨画 松本城旧景図」 (1897 年前後)
《维新前松本藩武士宅邸分布图》 (松本市立博物館收藏；1911 年)	「維新前松本藩士族屋敷割図」 (松本市立博物館所蔵、1911 年)

户田家族的珍宝

户田家族掌控松本城的时间比其他城主家族都长，直到 1868 年明治维新之后才退位交权。许多户田家族的珍贵藏品在松本市立博物馆展出。

《诸士出身记》及《出身书》《出身帐》	户田家族武士家臣族谱和功绩纪录
德川吉宗朱印状	德川吉宗颁给户田光慈（1726-1732，松本城主）的任命状
户田家族家传甲冑	户田康长（1617-1632，松本城主）所用甲冑
葵纹付筒	放儿童护身符的圆盒，上有德川幕府的葵纹家纹。

松竹梅桐纹蒔绘轿	贴金雕花漆轿
户田光行官印	户田光行（1786-1800，松本城主）的印章

赤羽藏品

松本城内收藏了 141 把火绳枪及相关配件，均来自松本出生的火绳枪爱好者赤羽通重和赤羽加代子夫妇。部分藏品於大天守二楼展出。

中文	日本語
火绳枪 小筒（18mm 及以下口径）	火繩銃 小筒（18 ミリ及びそれ以下）
火绳枪 士筒（18-25mm 口径）	火繩銃 士筒（18-25 ミリ）
火绳枪 大筒（26mm 及以上口径）	火繩銃 大筒（26 ミリ及びそれ以上）
火绳枪 马上筒（骑兵武器）	火繩銃 馬上筒（騎兵銃）
火绳枪 狭间筒（长筒枪）	火繩銃 狭間筒
撞击式雷帽 手枪	管打式銃 短筒（雷管式）
撞击式雷帽 匕首枪	管打式銃 七首鉄砲（雷管式）
撞击式雷帽 短剑枪	管打式銃 脇差鉄砲（雷管式）
前装式 十手（警棍）枪	十手内蔵式鉄砲（前装式）
前装式 荷兰海军加农炮	オランダ海軍カノン砲（前装式）
撞击式雷帽 科尔特左轮手枪	管打式銃 コルト・ネイビー・リボルバー式（雷管式）
引火药罐	口薬入れ
火药罐	火薬入れ
弹药箱	弾薬箱

松本藩的历史文献

“松本市文书馆”藏有 17,000 多份历史文献，其中包括大量松本地区武士或如村长这样地方官家族的记录。如研究所需，在提交书面申请后，可借阅馆藏资料。

中文	日本語
近藤家族文书	近藤家文書
寺岛家族文书	寺島家文書
穗刈家族文书	穂刈家文書
吉田家族文书	吉田家文書
盐尻堀内家族文书	塩尻堀内家文書
会田堀内家族文书	会田堀内家文書
芥川家族文书	芥川家文書
樋口家族文书	樋口家文書
上条家族文书	上條家文書

铃木家族文书	鈴木家文書
大岩家族文书	大岩家文書

松本城近代相关资料

松本城经历过两次大整修：一次是 1903 年至 1913 年，另一次是 1950 年至 1955 年。

下列照片及绘画作品可一窥明治时代(1868-1912)初期松本城风貌及相关工程情况。

中文	日本語
明治年间 农事试验场	明治年間 農事試験場
1897 年前后 太鼓门遗迹	1897 年頃 太鼓門跡
1903 年至 1913 年前后 明治修复工程	1903-1913 年頃 明治の修理
明治年间 松本裁判所（二之丸御殿旧址）	明治年間 松本裁判所（二の丸御殿跡）
1871 年 市川量造肖像	1871 年 市川量造肖像
1873 年 筑摩县博览会锦绘	1873 年 筑摩県博覧会の錦絵
1950 年 昭和修复工程前 天守外观	1950 年 昭和の修理前 天守
昭和修复工程前 大天守内部	昭和の修理前 大天守内部
1950 年 6 月 8 日 昭和修复开工仪式	1950 年 6 月 8 日 昭和の修理起工式
昭和修复工程 大天守北侧四楼和五楼区域	昭和の修理 天守北側四階五階部分
1950 年至 1955 年前后 天守施工现场	1950-1955 年前後 天守修理現場
1953 年 10 月 3 日 上梁仪式	1953 年 10 月 3 日 上棟祭
1954 年 3 月 31 日 修复中的天守（摄自松本市立博物馆）	1954 年 3 月 31 日 修理中天守（松本市立博物館から写す）
1955 年 10 月 4 日 二十六夜神迁座祭典现场	1955 年 10 月 4 日 二十六夜神遷座祭の様子
1955 年 10 月 1 日 落成典礼	1955 年 10 月 1 日 落成祭

20 世纪 50 年代修复工程图纸

以下为 20 世纪 50 年代松本城修复工程所用设计图纸。为方便浏览，原图已转存为黑白图片。

图片名称中显示“实测”字样为城郭维修前状态，“竣工”为维修后状态；“平面图”为建筑俯瞰结构，“立面图”为侧面构造，“断面图”为垂直截面构造。

中文	日本語
松本城竣工 大天守基础平面图	松本城竣功 大天守基礎平面図
松本城竣工 大天守一楼平面图	松本城竣功 大天守一階平面図
松本城竣工 大天守二楼·乾小天守三楼·辰巳附櫓二楼平面图	松本城竣功 大天守二階·乾小天守三階・辰巳附櫓二階平面図
松本城竣工 大天守三楼·乾小天守四楼平	松本城竣功 大天守三階·乾小天守四階平

面图	面図
松本城竣工 大天守四楼平面图	松本城竣工 大天守四階平面図
松本城竣工 大天守五楼平面图	松本城竣工 大天守五階平面図
松本城竣工 大天守六楼平面图	松本城竣工 大天守六階平面図
松本城竣工 大天守各层内部尺寸平面图	松本城竣工 大天守各階内装寸法平面図
松本城竣工 天守群东侧立面图	松本城竣工 天守東立面図
松本城竣工 天守群西侧立面图	松本城竣工 天守西立面図
松本城竣工 天守群南侧立面图	松本城竣工 天守南立面図
松本城竣工 天守群北侧立面图	松本城竣工 天守北立面図
松本城竣工 大天守东西侧断面图	松本城竣工 大天守東西断面図
松本城竣工 大天守南北侧断面图	松本城竣工 大天守南北断面図
松本城 布局图（本丸、二之丸）	松本城配置図（本丸、二の丸）
松本城竣工 乾小天守一楼·渡櫓底层平面图	松本城竣工 乾小天守一階・渡櫓地階平面図
松本城竣工 乾小天守东西侧断面图	松本城竣工 乾小天守東西断面図
松本城竣工 乾小天守南侧立面、渡櫓东西侧断面图	松本城竣工 乾小天守南立面及び渡櫓東西断面図
松本城竣工 乾小天守、渡櫓南北侧断面图	松本城竣工 乾小天守及び渡櫓南北断面図
松本城竣工 乾小天守、渡櫓东西侧断面图	松本城竣工 乾小天守及び渡櫓東西断面図
松本城竣工 辰巳附櫓地基、月见櫓底层平面图	松本城竣工 辰巳附櫓土台及び月見櫓地階平面図
松本城竣工 辰巳附櫓一楼、月见櫓一楼平面图	松本城竣工 辰巳附櫓一階及び月見櫓一階平面図
松本城竣工 辰巳附櫓、月见櫓断面图	松本城竣工 辰巳附櫓及び月見櫓断面図
松本城竣工 辰巳附櫓南北侧断面图	松本城竣工 辰巳附櫓南北断面図
松本城竣工 辰巳附櫓东侧立面、月见櫓南北侧断面图	松本城竣工 辰巳附櫓東立面及び月見櫓南北断面図
松本城竣工 辰巳附櫓、月见櫓东西侧断面图	松本城竣工 辰巳附櫓及び月見櫓東西断面図
松本城实测 天守群东侧立面图	松本城実測 天守東立面図
松本城实测 天守群西侧立面图	松本城実測 天守西立面図
松本城实测 天守群南侧立面图	松本城実測 天守南立面図
松本城实测 天守群北侧立面图	松本城実測 天守北立面図

〈繁体字〉

松本城藏品

版權政策

未經授權，嚴禁複製以下圖片。任何個人、團體如果想將下列任何圖片用於商用或非商用目的，請與松本城管理事務所聯繫。

松本城及周邊地區地圖

江戶時代（1603-1867）有多幅松本城及周邊地區地圖存世，其中尤以 1642 年至 1725 年出品居多，當時松本城處於水野家治下。

中文	日本語
《享保 13 年秋（1728）修訂 松本城下町地圖》	「享保 13 年秋改 松本城下繪図」
《信州松本城地圖》 （附立體繪圖；約 1668-1713）	「信州松本城之図」 （起し繪付、1668-1713 年前後）
《信濃國松本藩領地地圖》 （約 1713-1725）	「信濃國松本藩領大繪図」 （1713-1725 年前後）
《後藤新門畫 紙本墨畫 松本城舊景圖》 （約 1897 年）	「後藤新門畫 紙本墨畫 松本城舊景図」 （1897 年前後）
《維新前松本藩武士宅邸分布圖》 （松本市立博物館收藏；1911 年）	「維新前松本藩士族屋敷割図」 （松本市立博物館所藏、1911 年）

戶田家的珍寶

戶田家掌控松本城的時間比其他城主家族都長，直到 1868 年明治維新之後才退位交權。許多戶田家的珍貴藏品在松本市立博物館展出。

《諸士出身記》及《出身書》《出身帳》	戶田家武士家臣族譜和功績紀錄
德川吉宗朱印狀	德川吉宗頒給戶田光慈（1726-1732，松本城主）的任命狀
戶田家 家傳甲冑	戶田康長（1617-1632，松本城主）所用甲冑
葵紋付筒	兒童護身符筒，上有德川幕府的葵紋家紋。
松竹梅桐紋蒔繪轎	貼金雕花漆轎
戶田光行官印	戶田光行（1786-1800，松本城主）的印章

赤羽藏品

松本城內收藏了 141 把火繩槍及相關配件，均來自松本出生的火繩槍愛好者赤羽通重和赤羽加代子夫婦。部分藏品於大天守二樓展出。

中文	日本語
火繩槍 小筒 (18mm 及以下口徑)	火繩銃 小筒 (18 ミリ及びそれ以下)
火繩槍 土筒 (18-25mm 口徑)	火繩銃 土筒 (18-25 ミリ)
火繩槍 大筒 (26mm 及以上口徑)	火繩銃 大筒 (26 ミリ及びそれ以上)
火繩槍 馬上筒 (騎兵武器)	火繩銃 馬上筒 (騎兵銃)
火繩槍 狹間筒 (長筒槍)	火繩銃 狹間筒
撞擊式雷帽 手槍	管打式銃 短筒 (雷管式)
撞擊式雷帽 匕首槍	管打式銃 七首鉄砲 (雷管式)
撞擊式雷帽 短劍槍	管打式銃 脇差鉄砲 (雷管式)
前裝式 十手 (警棍) 槍	十手内蔵式鉄砲 (前裝式)
前裝式 荷蘭海軍加農炮	オランダ海軍カノン砲 (前裝式)
撞擊式雷帽 科爾特左輪手槍	管打式銃 コルト・ネイビー・リボルバー式 (雷管式)
引火藥罐	口薬入れ
火藥罐	火薬入れ
彈藥箱	弾薬箱

松本藩的歷史文獻

「松本市文書館」藏有 17,000 多份歷史文獻，其中包括大量松本地區武士或如村長這樣地方官家族的記錄。如研究所需，在提交書面申請後，可借閱館藏資料。

中文	日本語
近藤家文書	近藤家文書
寺島家文書	寺島家文書
穂刈家文書	穂刈家文書
吉田家文書	吉田家文書
鹽尻堀内家文書	塩尻堀内家文書
會田堀内家文書	会田堀内家文書
芥川家文書	芥川家文書
樋口家文書	樋口家文書
上條家文書	上條家文書
鈴木家文書	鈴木家文書
大岩家文書	大岩家文書

松本城近代相關資料

松本城經歷過兩次大整修：一次是 1903 年至 1913 年，另一次是 1950 年至 1955 年。下列照片及繪畫作品可一窺明治時代 (1868-1912) 初年松本城風貌及相關工程情況。

中文	日本語
----	-----

明治年間 農事試験場	明治年間 農事試験場
1897 年前後 太鼓門遺跡	1897 年頃 太鼓門跡
1903 年至 1913 年前後 明治修復工程	1903-1913 年頃 明治の修理
明治年間 松本裁判所（二之丸御殿舊址）	明治年間 松本裁判所（二の丸御殿跡）
1871 年 市川量造肖像	1871 年 市川量造肖像
1873 年 築摩縣博覽會錦繪	1873 年 筑摩県博覽会の錦繪
1950 年 昭和修復工程前天守外觀	1950 年 昭和の修理前 天守
昭和修復工程前 大天守內部	昭和の修理前 大天守内部
1950 年 6 月 8 日 昭和修復開工儀式	1950 年 6 月 8 日 昭和の修理起工式
昭和修復工程 大天守北側四樓和五樓區域	昭和の修理 天守北側四階五階部分
1950 年至 1955 年前後 天守施工現場	1950-1955 年前後 天守修理現場
1953 年 10 月 3 日 上樑儀式	1953 年 10 月 3 日 上棟祭
1954 年 3 月 31 日 修復中的天守（攝自松本市立博物館）	1954 年 3 月 31 日 修理中天守（松本市立博物館から写す）
1955 年 10 月 4 日 二十六夜神遷座祭典現場	1955 年 10 月 4 日 二十六夜神遷座祭の様子
1955 年 10 月 1 日 落成典禮	1955 年 10 月 1 日 落成祭

1950 年代修復工程圖紙

以下為 1950 年代松本城修復工程所用設計圖紙。為方便瀏覽，原圖已轉存為黑白圖片。

圖片名稱中顯示「實測」字樣為城郭維修前狀態，「竣工」為維修後狀態；「平面圖」為建築俯瞰結構，「立面圖」為側面結構，「斷面圖」為垂直截面結構。

中文	日本語
松本城竣工 大天守基礎平面圖	松本城竣工 大天守基礎平面図
松本城竣工 大天守一樓平面圖	松本城竣工 大天守一階平面図
松本城竣工 大天守二樓·乾小天守三樓·辰巳附櫓二樓平面圖	松本城竣工 大天守二階·乾小天守三階・辰巳附櫓二階平面図
松本城竣工 大天守三樓·乾小天守四樓平面圖	松本城竣工 大天守三階·乾小天守四階平面図
松本城竣工 大天守四樓平面圖	松本城竣工 大天守四階平面図
松本城竣工 大天守五樓平面圖	松本城竣工 大天守五階平面図
松本城竣工 大天守六樓平面圖	松本城竣工 大天守六階平面図
松本城竣工 大天守各層內部尺寸平面圖	松本城竣工 大天守各階内装寸法平面図
松本城竣工 天守群東側立面圖	松本城竣工 天守東立面図
松本城竣工 天守群西側立面圖	松本城竣工 天守西立面図
松本城竣工 天守群南側立面圖	松本城竣工 天守南立面図

松本城竣工 天守群北側立面圖	松本城竣工 天守北立面図
松本城竣工 大天守東西側断面圖	松本城竣工 大天守東西断面図
松本城竣工 大天守南北側断面圖	松本城竣工 大天守南北断面図
松本城布局圖（本丸、二之丸）	松本城配置図（本丸、二の丸）
松本城竣工 乾小天守一樓・渡櫓底層平面圖	松本城竣工 乾小天守一階・渡櫓地階平面図
松本城竣工 乾小天守東西側断面圖	松本城竣工 乾小天守東西断面図
松本城竣工 乾小天守南側立面、渡櫓東西側断面圖	松本城竣工 乾小天守南立面及び渡櫓東西断面図
松本城竣工 乾小天守、渡櫓南北側断面圖	松本城竣工 乾小天守及び渡櫓南北断面図
松本城竣工 乾小天守、渡櫓東西側断面圖	松本城竣工 乾小天守及び渡櫓東西断面図
松本城竣工 辰巳附櫓地基、月見櫓底層平面圖	松本城竣工 辰巳附櫓土台及び月見櫓地階平面図
松本城竣工 辰巳附櫓一樓、月見櫓一樓平面圖	松本城竣工 辰巳附櫓一階及び月見櫓一階平面図
松本城竣工 辰巳附櫓、月見櫓断面圖	松本城竣工 辰巳附櫓及び月見櫓断面図
松本城竣工 辰巳附櫓南北側断面圖	松本城竣工 辰巳附櫓南北断面図
松本城竣工 辰巳附櫓東側立面、月見櫓南北側断面圖	松本城竣工 辰巳附櫓東立面及び月見櫓南北断面図
松本城竣工 辰巳附櫓、月見櫓東西側断面圖	松本城竣工 辰巳附櫓及び月見櫓東西断面図
松本城實測 天守群東側立面圖	松本城実測 天守東立面図
松本城實測 天守群西側立面圖	松本城実測 天守西立面図
松本城實測 天守群南側立面圖	松本城実測 天守南立面図
松本城實測 天守群北側立面圖	松本城実測 天守北立面図

<日本語仮訳>

松本城の収蔵品

利用規定

以下の画像の無断転載を禁じます。商用・非商用にかかわらず、利用を希望する個人・団体は松本城管理事務所までお問い合わせください。

松本城とその周辺の地図

江戸時代（1603-1867）、特に水野家が統治していた1642～1725年の松本城とその周辺の町並みの地図がいくつか残されている。

戸田家の宝物

松本城を最も長く統治した戸田家は、1868年の明治維新を機にその支配を譲った。松本市立博物館には、戸田家の貴重な宝物が多数展示されている。

『諸士出身記』 並びに「出身書」「出身帳」	戸田家家臣団の家系と功績の記録
徳川吉宗朱印状	徳川吉宗から戸田光慈（松本城主・1726-1732）への領地付与の書状
戸田家伝世の甲冑	戸田康長（松本城主・1617-1632）所用甲冑一式
葵紋付筒	徳川幕府三つ葵紋子供護身符入箱
松竹梅桐紋蒔絵乗物	金箔花模様漆塗駕籠
御実印 戸田光行	戸田光行（松本城主・1786-1800）御実印

赤羽コレクション

松本城には、地元の赤羽通重・加代子夫妻から寄贈された 141 挺の火縄銃と関連小物が多数収蔵されている。その一部を大天守の 2 階に展示している。

松本藩の古文書

松本市文書館には、旧武家や庄屋などの家族の記録をはじめ、17,000 点を超える歴史文書が保管されている。これらの史料は、研究用として文書で申し込むと閲覧することができる。

近代の松本城関連資料

松本城は、1903～1913年と1950～1955年の二度にわたって大改修が行われた。以下の写真・図版集は、その作業の様子を伝えるもので、明治初期の城の姿を見ることができる。

1950年代の改修工事による設計図

以下の資料は、1950年代に行われた松本城天守の修理工事の際に作成された設計図である。見やすくするため、オリジナルを白黒に加工している。

タイトルに「実測」とあるものは修理前のもので、「竣工」とあるものは修理完了後の状態を示している。「平面図」は建物を真上から見たもの、「立面図」は建物を真横から見たもの、「断面図」は建物を垂直に切った断面を示したものである。

【タイトル】 渡櫓

【想定媒体】 看板

<簡体字>

渡櫓

渡櫓连接大天守和乾小天守，共两层，建于 1593 年至 1594 年，是松本城最初建成的建筑之一。天守的正门玄关就设在渡櫓一楼。

奇怪的是，大天守与乾小天守的地面高度并不一致。渡櫓的一楼、二楼均与乾小天守齐平，大天守则整体高出一截。因此，从渡櫓一楼入内时，需要先爬 1.4 米的楼梯才能到达大天守一楼。

渡櫓二楼一根巨大的横梁保留了木料天然的弧度，人们认为这种梁木具有更好的伸缩性和灵活性，抗震性能更强。

陈列于渡櫓内的展品均出自大天守修复工事。展品包括天守的木料样本、大钉，以及各类屋瓦，其中包括好几种样式的“鬼瓦”。鬼瓦是一种装饰性屋瓦，主要铺盖在屋脊两头，上面常常画有松本城主的家纹或鬼怪样貌。据说，鬼瓦上可怕的表情能够驱邪除魔，守护城郭。

<繁体字>

渡櫓

渡櫓連接大天守和乾小天守，共兩層，建於 1593 年至 1594 年間，是松本城最早建成的建築之一。天守的正門玄關就設在渡櫓一樓。

奇怪的是，大天守與乾小天守的地面高度並不一致。渡櫓的一樓、二樓均與乾小天守齊平，大天守則整體高出一截。因此，從渡櫓一樓入內時，需要先爬 1.4 公尺的樓梯才能到達大天守一樓。

渡櫓二樓一根巨大的橫樑保留了木料天然的弧度，人們相信這種樑木的伸縮性和靈活性更佳，抗震性能也更強。

陳列於渡櫓內的展品均出自大天守修復工事。展品包括天守的木料樣本、大釘，以及各類屋瓦，其中包括好幾種樣式的「鬼瓦」。鬼瓦是一種裝飾性屋瓦，主要鋪蓋在屋脊兩頭，上面常常畫有松本城主的家紋或鬼怪樣貌。據說，鬼瓦上可怕的表情能夠驅邪除魔，守護城郭。

<日本語仮訳>

渡櫓

大天守と乾小天守を結ぶ 2 層の屋根付き通路（渡櫓）は、築城当初の 1593 年から 1594 年にかけて建設された。天守の正面玄関は、この渡櫓の 1 階部分にある。

奇妙なことに、大天守と乾小天守の床の高さは同じではない。渡櫓と乾小天守の 1 階と 2 階は同じ高さだが、大天守のそれは高い。そのため、渡櫓の 1 階から入城した人は、大天守の 1 階まで 1.4 メートルも上らなければならない。

渡櫓の 2 階にある巨大な梁のひとつは、その材料となった木の曲がったままの形で残されている。このような梁は、自然のままの形を保つことで、地震が起きたときに伸縮しやすくなると考えられていた。

渡櫓に展示されているものは、大天守の修理の際に発見されたものだ。天守の建築に使われた木材のサンプルや大きな釘、屋根瓦などが展示されている。また、屋根の棟の端に被せる装飾瓦（鬼瓦）も数種類展示している。鬼瓦には、松本藩主の家紋や鬼の顔が描かれていることが多い。鬼瓦の恐ろしい表情は、魔除けとして城を守ると考えられていた。

解説文一覧

NO.	スポット名 (タイトル)	中国語文字数	想定媒体
003-001	若狭地域の仏像	1470	QRコード
003-002	若狭地方の仏像：展示品	1240	QRコード
003-003	季節の祈りと伝統	1420	QRコード
003-004	王の舞	1095	QRコード
003-005	町の祭り・芸能	1025	QRコード
003-006	縄文時代の鳥浜貝塚と嶺南地域	1235	QRコード
003-007	弥生時代の若狭・敦賀地方	1710	QRコード
003-008	古墳時代の若狭・敦賀地方	1800	QRコード
003-009	膳臣の進出	750	QRコード
003-010	若狭と敦賀の木簡	760	QRコード
003-011	若狭国：天皇への食糧供給	860	QRコード
003-012	塩の道：都に贈られた若狭の塩	665	QRコード
003-013	角鹿の塩：呪われなかった唯一の塩	980	QRコード
003-014	古代の都への道	1150	QRコード
003-015	若狭と奈良・京都を結ぶ街道	870	QRコード
003-016	若狭の荘園	1060	QRコード
003-017	中世の若狭湾：文化の交差点	1220	QRコード
003-018	世界及日本図 屏風	915	QRコード
003-019	若狭武田家：若狭国の守護	1285	QRコード
003-020	近世の若狭：街道と港を活用した地域開発	1015	QRコード
003-021	京極家と小浜藩	1265	QRコード
003-022	酒井家と小浜藩の発展	990	QRコード
003-023	小浜藩の学問奨励	1245	QRコード
003-024	北前船の寄港地：小浜と敦賀	940	QRコード
003-025	旧料亭蓬嶋楼：玄関と応接間	580	QRコード
003-026	旧料亭蓬嶋楼：2階座敷	795	QRコード
003-027	旧料亭蓬嶋楼：1階の座敷と庭	545	QRコード
003-028	小浜町並み保存資料館	605	QRコード
003-029	与七の石碑	220	QRコード
003-030	西山稻荷神社	365	QRコード
003-031	まがり	350	QRコード
003-032	小浜藩の米蔵の跡地	540	QRコード
003-033	松木神社	655	QRコード
003-034	前川	380	QRコード
003-035	菱屋	380	QRコード
003-036	熊川陣屋跡	520	QRコード

003-037	長屋道	285	QRコード
003-038	旧逸見勘兵衛家	395	QRコード
003-039	熊川城跡	570	QRコード
003-040	熊川番所	610	QRコード
003-041	熊川宿	985	QRコード
003-042	熊川宿：上ノ町地域	440	QRコード
003-043	熊川宿：中ノ町地域	540	QRコード
003-044	熊川宿：下ノ町地域	615	QRコード
003-045	熊川宿の誕生	430	QRコード
003-046	宿場町時代より前の熊川	480	QRコード
003-047	鯖街道の起源	525	QRコード
003-048	複数の路から成る鯖街道	490	QRコード
003-049	若狭街道	495	QRコード
003-050	熊川の文化	495	QRコード
003-051	熊川宿の葛	735	QRコード
003-052	2階の展示：宿場町の日常生活	825	QRコード

【タイトル】若狭地域の仏像

【想定媒体】アプリ QR コード

<簡体字>

若狭地区的佛像

概要

若狭虽然不是大都市，却拥有大量的珍贵佛像，其中很多都是出自古都奈良和京都的杰作，并已被指定为国家重要文化财产。这些佛像之所以能留存于本地，大致有如下几个原因：佛教传入若狭的时期较早、若狭的地理位置邻近两大古都、小浜港的商贸活动为若狭积累了财富，以及若狭的大部分区域未受内战破坏。如今，这些佛像的一部分保存于若狭历史博物馆内，其余大部分则数百年来一直被供奉在原初的寺院中。

了解更多

佛教传入若狭地区

公元 6 世纪，佛教自亚洲大陆传入日本后很快被当时的首都接纳，佛寺随之纷纷建立，佛法也得到广泛传播。公元 741 年，天皇发布敕令，要求各“国”（地方行政区划名，有别于“国家”）修建“国分寺”，即国立佛教寺院，此举进一步推动了佛教的发展壮大。若狭国的国分寺也因此于公元 807 年建立。

从佛像与佛寺的年代来看，佛教传入若狭的时期应该早于其他地区，其原因之一在于曾有一大批僧侣前来苦修。据说，多山的若狭地区成为热门的苦修之地是因为与首都之间的距离感——既让人觉得远离政治和文化中心，又能在必要的时候及时返回。由于接触佛教较早，本地区民众普遍信奉佛教且信仰虔诚。

不同时期的造像工艺

若狭地区最古老的佛像是一尊十一面观音菩萨像，此像被认为创作于公元 7 世纪晚期至 8 世纪早期之间。判断佛像的年代，除了借助科技手段之外，还需要分析造像工艺、对不同历史时期佛像造型的典型特征进行对照。墙边展板上的几尊观音像，形象地展示了不同时期造像的区别。

飞鸟时代至奈良时代(552-794)：

公元 6 世纪至 8 世纪的早期佛像在雕刻工艺上带有明显的特征，面相神态大都富有神秘感，通常为木雕或镀金铜塑。

平安时代(794-1185)：

公元 9 世纪至 10 世纪之间的佛像更多为木雕作品。仅以一块木料雕刻整尊佛像的工艺称为“一木造”，选用的树干越大，佛像也就越宏伟。这一时期的佛像作品神情严厉，衣饰褶皱厚重，给人以更为庄严的印象。

公元 11 世纪至 12 世纪的佛像则以优雅温和的神情、圆润的脸庞、修长的躯干和轻薄垂坠的衣袍为特征。“寄木造”工艺在这一时期被引入，并得到普及发展。这种工艺采用多块木料拼合，各部分独立雕琢后再加以组合，完成造像，因此可以雕塑更为精细的佛像。

镰仓时代(1185-1333)：

进入 13 世纪后，佛像面部、躯体和衣饰的雕刻开始趋向于写实。这一时期的佛像通常表情坚定，形态具有一定的张力。“玉眼”工艺在这一时期开始风行。如字面所示，这种技术采用水晶镶嵌佛像双眼，令其在寺庙幽暗的室内依然闪亮。

贸易时代寺庙的繁荣

公元 12 世纪至 17 世纪早期之间爆发的战争，毁掉了日本各地的诸多宗教设施与无价之宝。尽管若狭地区不免遭受波及，但幸运地避开了曾令其他许多地区损害严重的大规模战事。这里的木构寺庙与木雕佛像很少毁于战火，留存至今的寺院档案更是现代研究者眼中的瑰宝。

本地区之所以能够拥有高品质的佛像，小滨发达的商贸也是缘由之一。数世纪以来，小滨一直是生机勃勃的港口市镇，进入江户时代(1603-1867)后尤为繁荣。本地宗教机构在当时得到了来自朝廷、统治小滨藩的酒井家族，以及各大豪商的支持，也因此能有机会获得京都能工巧匠制作的珍贵雕像。

反佛浪潮中的佛教保护

在日本，佛教与神道教的融合有着上千年的历史，直至明治政府于 1868 年发布政令，拆分两教。废佛毁释之势兴起，许多佛寺、佛像和各类艺术品消失在这股浪潮之中。然而，如今的若狭地区依然有供奉着神道教神明的佛寺，也有一些佛寺里供奉着据说是从其他地方迁来本地避难的佛像。许多本来可能会被毁坏的珍宝因本地区民众对佛教的虔诚信仰而得到了保护。

<繁体字>

若狭地區的佛像

概要

若狭虽然不是大都市，卻擁有眾多珍貴的佛像，其中很多收藏更是來自古都奈良和京都時期的傑作，並被指定為國家重要文化財。這些佛像之所以收藏在若狭，有幾個原因：其一，佛教傳入若狭年代較早；其二，若狭的地理位置鄰近兩大古都；其三，小濱港的貿易活動為若狭地區帶來了財富；其四，若狭的大部分區域未受內戰波及。如今，這些佛像

大部分數世紀以來一直被供奉在原初的寺廟裡，有一部分保存在若狹歷史博物館中。

瞭解更多

佛教傳入若狹地區

西元 6 世紀，佛教自亞洲大陸傳入日本後，很快就被當時的首都接納。佛寺紛紛建立，佛法得到傳播。西元 741 年，天皇發佈敕令，要求各「國」（地方行政區劃分，有別於「國家」）修建「國分寺」，即國立佛教寺院，此舉更進一步推動了佛教的發展。若狹國的國分寺則於西元 807 年建立。

從現存部分佛像與佛寺的年代來看，佛教傳入若狹的時間似乎比其他地區更早一些，其中一個原因或許是曾有大量僧侶來到當地苦修。據說，多山的若狹地區與首都之間的距離，既能給人以遠離政治和文化中心之感，又能在必要的時候及時返回，因此常被選為苦修之地。由於接觸佛教較早，若狹地區人民普遍信奉佛教，且信仰虔誠。

不同時期的造像工藝

若狹地區最古老的佛像被認為創作於西元 7 世紀晚期至 8 世紀早期之間，是一尊十一面觀音菩薩像。判斷佛像的年代，除了運用科技分析之外，還需要考量造像工藝，對比不同歷史時期佛像造型的典型特徵。牆邊展覽板上的數尊觀音像，形象介紹了不同時期造像的區別。

飛鳥時代至奈良時代 (552-794) :

西元 6 世紀至 8 世紀的早期佛像在雕刻工藝上帶有明顯的風格特徵，佛像神態富有神秘感，通常為木雕或鍍金銅塑。

平安時代 (794-1185) :

西元 9 世紀至 10 世紀之間的佛像多為木雕作品。以一塊木料雕刻整尊佛像的工藝稱為「一木造」，所使用的樹幹越粗壯，佛像也就越宏偉。這一時期的佛像作品神情嚴厲，衣飾褶皺厚重，給人以更為莊嚴的印象。

西元 11 世紀至 12 世紀的佛像則以優雅溫和的神情、圓潤的臉龐、修長的軀幹和輕薄垂墜的衣袍為特徵。這段時期引入了「寄木造」工藝，並得到廣泛應用。這種工藝採用多塊木料拼合，各部分獨立雕琢後再加以組合，完成造像，因此能夠呈現更精緻的雕刻細節。

鎌倉時代 (1185-1333) :

進入 13 世紀後，佛像面部、軀體和衣飾的雕刻開始趨向於寫實。這一時期的佛像通常表情堅定，形態具有一定的張力。「玉眼」工藝在這一時期開始流行。如字面所示，「玉眼」採用水晶鑲嵌佛像雙眼，在寺廟幽暗的室內依然閃亮。

貿易時代寺廟的繁榮

西元 12 世紀至 17 世紀早期之間爆發的戰爭，給日本各地的宗教場所和無價之寶造成嚴重的破壞。儘管若狹地區也不免遭受波及，卻幸運地避開了令其他許多地區遭到嚴重破

壊の大規模戦事。在這裡，甚少有木構寺廟與木雕佛像毀於戰火，留存至今的寺院記錄更是現代研究者眼中的瑰寶。

當地之所以能夠擁有高品質的佛像，小濱發達的商貿也是緣由之一。數世紀以來，小濱一直是商業發達的港口市鎮，進入江戶時代（1603-1867）後尤為繁榮。當地宗教機構在當時得到了來自朝廷、統治小濱藩的酒井家，以及各大富商的支持，這使得寺院能夠獲得由京都能工巧匠製作的珍貴雕像。

反佛浪潮中的佛教保護

在日本，佛教與神道教的融合有著上千年的歷史，直至明治政府於1868年發佈政令，拆分兩教。廢佛毀釋之勢興起，導致許多佛寺、佛像和藝術品在這股浪潮中消失。然而，如今的若狹地區依然有供奉著神道教神明的佛寺，也有一些佛寺裡供奉著被認為是從其他地區遷來當避難的佛像。由於當地居民對佛教的虔誠信仰，許多原本可能被破壞的珍寶得以保存至今。

<日本語仮訳>

若狹地域の仏像

概要

若狹地方には、大都市ではない地域としては、貴重な仏像が数多くあります。その多くは、かつて都であった奈良や京都で制作された質の高い作品で、国の重要文化財に指定されています。そのような仏像が存在する背景には、若狹に仏教が早くから伝播したこと、奈良や京都に比較的近づいたこと、小浜港の交易によって富が生み出されたこと、そしてこの地域の大部分が戦乱の被害から免れたことなど、いくつかの要因があります。仏像の一部は若狹歴史博物館に保管されていますが、ほとんどは何世紀にもわたって崇拝されてきた寺院にそのまま置かれています。

もっと詳しく知る

若狹への仏教の伝播

仏教は6世紀に大陸から日本に伝わった後、都で受け入れられ、寺院の建立を通して普及が図られました。741年に発布された各「国」（古代日本の行政区画、いまの「国家」とは異なる）に国分寺を建立することを義務付ける勅令により、仏教の普及はさらに後押しされることになります。若狹国では807年に国分寺が建立されました。

仏像や寺院の年代から、他の地域と比べて若狹への仏教の伝来は早かったと考えられます。その一因として、修行のために訪れた僧侶の数が挙げられます。若狹の山々は、文化的・政治的な中心地から離れていると感じるに十分なほど都から離れていますが、必要であれば簡単に戻ることができる距離であったため、修行によく選ばれていたと伝えられています。早くから仏教に触れていたことは、この地域の人々に浸透している仏教への深い愛着につながりました。

時代による仏像の変遷

若狭最古と考えられている仏像は、7世紀後半から8世紀前半頃の間で作られた、十一面観音菩薩像です。仏像の鑑定には、純粋な科学的方法に加えて、技術的な技能の分析や、各時代の典型的な視覚的特徴を特定することも含まれます。壁沿いの展示ボードには、観音像を使って時代による作品の違いを説明しています。

飛鳥時代から奈良時代（552-794）

6世紀から8世紀にかけての初期の仏像は、様式化された顔立ちと神秘的な表情が特徴です。通常は木、または金銅が使われました。

平安時代（794-1185）

9世紀から10世紀にかけては、木製の仏像がより多く作られるようになります。「一木造」と呼ばれる技術で、一本の木で像の全体が彫られました。大きな木の幹を使用するこの技法により、より大きく背の高い像を作ることができるようになりました。この時代の作品は、厳しさを増した表情と重いひだのある衣で、より壮大で印象的なものになっています。

11世紀から12世紀にかけての仏像は、より穏やかで温もりのある表情で丸い顔をした、軽やかでドレープを描くような衣をまとったほっそりした体が特徴です。この時代には、仏像のパーツを別々に彫り、後から組み上げてより細かい作業を行う「寄木造」が導入され、普及しました。

鎌倉時代（1185-1333）

13世紀になると、仏像の彫刻様式は顔、体、衣をよりリアルに描写するようになり、仏像はより毅然とした表情の緊張感のある造形に仕上げられました。寺院内の暗い照明に映える水晶の目を入れる、玉眼の技法が普及しました。

交易の時代に繁栄した寺院

12世紀から17世紀初頭にかけて発生した戦により、日本中の多くの宗教施設や貴重な寺宝が破壊されました。戦は若狭でも起こりましたが、他の多くの地方に損害を与えた大規模な戦乱からは免れました。火事で失われた木造の寺院や彫像は他地域より少なく、残っている寺院の記録は、現代の研究者にとって非常に貴重なものとなっています。

この地域に質の高い仏像が存在する別の要因として、小浜が何世紀にもわたって港町として栄え、交易が盛んだったことも挙げられます。特に栄華を極めた江戸時代（1603-1867）には、朝廷や小浜藩を治めていた酒井家や豪商が宗教施設を支援しました。その援助によって、寺院は京都の熟練職人によって作られた貴重な像を手に入れることができたのです。

廃仏毀釈運動からの保護

1000年以上にわたり、仏教と神道は融合されて信仰されてきましたが、1868年に明治政府は神仏分離令を發布します。これをきっかけに廃仏毀釈の動きが起こり、多くの寺院や彫像、その他の芸術作品が失われました。しかし、現在の若狭には、神道の神々の像を祀る寺院や、損壊を免れる

ために他の場所から移されてきたと思われる仏像を安置する寺院があります。この地域の人々の深い信仰心が、破壊されたはずの多くの寺宝を守ったのです。

【タイトル】若狭地方の仏像：展示品

【想定媒体】アプリQRコード

<簡体字>

若狭地区の佛像：展品介绍

大日如来坐像（11世纪中叶；小浜市黑驹村）

这尊坐佛被认为是若狭地区最古老的大日如来像，长久以来一直被供奉在小浜市黑驹村。有记载显示，在神道教与佛教融合的“神佛习合”时期，这尊佛像曾于黑驹神社受社内僧侣供奉；但也另有记载显示，本地村民曾修造了一座佛堂来供奉此佛像，并委托附近一座寺庙代为管理。佛像最初可能覆有金箔，金箔磨损后以彩绘替代，头冠与背光则都是后来添加的。这尊大日如来双手结印，代表五元素（地、水、火、风、空）与灵性知觉的统一。

不动明王立像 复制品（11世纪晚期；圆照寺）

这尊不动明王立像的原件供奉于小浜市中心的圆照寺内，是国家指定重要文化财产。雕像的姿态动感十足，左足朝前，仿佛就要迈步走下基座一般。这是一尊根据“不动十九观”（不动明王的十九种法相）概念制作的早期雕塑范例，形象具备了多个特征，包括茂密卷曲的头发、左肩上的发辮、啮咬嘴唇的牙齿、双眼一睁一眯、手持宝剑与羂索（羂，音同“倦”）等。这尊复制品没有宝剑，右手呈握剑柄势。

不动明王坐像 复制品（11世纪晚期；常禅寺）

这尊不动明王坐像的原件曾供奉于常禅寺附近一座山中的不动堂内，如今藏于该寺宝物库中，是国家指定重要文化财产。在很长一段时间里，这尊坐像都被视为能够保佑海上安全的“波切不动明王”而受到供奉。修长的体型与浅雕的衣饰纹路是平安时代(794-1185)晚期京都的佛像雕刻特征。这种风格最初源自佛僧圆珍(814-891)自中国唐朝带入日本的一尊佛像。

观音菩萨坐像 复制品（10世纪早期；长庆院）

这是一尊手持莲花的大慈大悲观世音菩萨像，原件供奉于长庆院下辖的观音堂内，现已被指定为国家重要文化财产。相传，这尊坐像是奈良高僧行基(668-749)于公元731年雕刻而成。相关记载显示，它原本是久须夜之岳山脚下日光寺里供奉的本尊。日光寺于16世纪早期失火焚毁，但观音像被及时移出而幸免于难。

马头观音坐像 复制品（11世纪晚期；马居寺）

这尊马头观音坐像的原件供奉于马居寺本堂（正殿）内。相传这座寺庙是圣德太子(574-622)所建。马头观音的形态很独特，八臂、三面、马头为冠。雕像面部严厉的神情在代表慈悲的菩萨身上并不常见，但有解释认为，它所展现的正是守护信仰的力量。而在密宗里，这称作忿怒相，被视为是在对阻碍启蒙开悟之路的世俗烦恼表达愤怒。

阿弥陀佛坐像（10 世纪；小滨市佛谷区）

阿弥陀佛是无量光佛，也是无量寿佛。这尊阿弥陀佛小坐像很可能出自若狭地区。佛像主体大部分取材日本扁柏，以单块木料雕刻的“一木造”工艺制成，仅佛像双臂自肘部以下、双腿自膝部以下使用了别的木料。这尊佛像自古被供奉于佛谷村内，是当地宗教生活的核心。

地藏菩萨坐像（19 世纪；上根来村）

这尊地藏菩萨像被视为守护神，受供于上根来村村口的地藏堂内。地藏菩萨身着僧袍，呈半趺跏坐，右手执一柄尺杖。上根来村位于连接若狭与京都的商路网络“鯖街道”旁，因此，逐步发展为一处文化交流与商贸往来的枢纽地。过往旅人常常会前来参拜地藏菩萨，祈求旅途平安。

<繁体字>

若狭地区的佛像：展品介绍

大日如来坐像（11 世纪中叶；小滨市黑驹村）

这尊坐佛被认为是若狭地区最古老的大日如来像，长久以来一直被供奉在小滨市黑驹村。有记载显示，在神道教与佛教融合的「神佛习合」时期，这尊佛像曾于黑驹神社受社内僧侣供奉；但也另有记录显示，当地村民曾修造了一座佛堂，专门供奉此佛像，并委托附近的一座寺庙代为管理。佛像最初可能覆有金箔，后来因金箔磨损而改以彩绘替代。头冠与背光都是后来添加的。这尊大日如来双手结印，代表五元素（地、水、火、风、空）与灵性知觉的合一。

不动明王立像 複製品（11 世纪晚期；圆照寺）

这尊不动明王立像的原件供奉于小滨市中心的圆照寺内，被指定为国家重要文化财产。雕像的姿态动感十足，左足朝前，仿佛就要邁步走下基座一般。这是一尊根据「不动十九观」（不动明王的十九种法相）制作的早期雕塑范例，具备了多个形象特征，包括茂密捲曲的頭髮、左肩上的髮辮、齧咬嘴唇的牙齒、一眼睜一眼眯、手持寶劍與羈索（羈，音同「倦」）等。這尊複製品沒有寶劍，但右手呈握劍柄勢。

不动明王坐像 複製品（11 世纪晚期；常禅寺）

这尊不动明王坐像的原件曾供奉于常禅寺附近一座山中的不动堂内，现今收藏于该寺的宝物库，并被指定为国家重要文化财产。长久以来，这尊坐像都被视为能够保佑航海安

全的「波切不動明王」而受到供奉。修長的體型與淺雕的衣飾紋路是平安時代（794-1185）晚期京都的佛像雕刻特徵。這種風格最初源自佛僧圓珍（814-891）自唐朝帶入日本的一尊佛像。

觀音菩薩坐像 複製品（10世紀早期；長慶院）

這是一尊手持蓮花的大慈大悲觀世音菩薩像，原件供奉於長慶院下轄的觀音堂內，現已被指定為國家重要文化財產。相傳這尊坐像是奈良高僧行基（668-749）於西元731年雕刻而成。相關記載顯示，它原本是久須夜之嶽山腳下日光寺裡供奉的本尊。日光寺於16世紀早期失火焚毀，但觀音像被及時移出而倖免於難。

馬頭觀音坐像 複製品（11世紀晚期；馬居寺）

這尊馬頭觀音坐像的原件供奉於馬居寺本堂（正殿）內。相傳這座寺廟是聖德太子（574-622）所建。馬頭觀音的形態獨特，八臂、三面、馬頭為冠。雕像面部嚴厲的神情在代表慈悲的菩薩身上並不常見，有解釋認為，它所展現的正是守護信仰的力量。而在密宗裡，它被稱作忿怒相，代表了對阻礙啟蒙開悟之路的世俗煩擾的憤怒。

阿彌陀佛坐像（10世紀；小濱市佛谷區）

阿彌陀佛是無量光佛，也是無量壽佛。這尊阿彌陀佛小像很可能出自若狹地區。佛像主體大部分取材日本扁柏，以單塊木料雕刻的「一木造」工藝製成，僅佛像雙臂自肘部以下、雙腿自膝部以下使用了別的木料。這尊佛像自古被供奉於佛谷村內，在當地宗教生活中擔負了重要角色。

地藏菩薩坐像（19世紀；上根來村）

這尊地藏菩薩像被視為守護神，受供於上根來村村口的地藏堂內。地藏菩薩身著僧袍，呈半跏趺坐，右手執一柄尺杖。上根來村位於連接若狹與京都的商業網絡「鯖街道」旁，因此，逐步發展為一處文化交流與商貿往來的樞紐地。過往旅人經常會前來參拜地藏菩薩，祈求旅途平安。

<日本語仮訳>

若狹地方の仏像：展示品

大日如来坐像（11世紀半ば、小濱市黒駒）

この大日如来坐像は古くから黒駒村で信仰されている、若狹地方最古の大日如来像とされています。神仏習合の時代に黒駒の神社に奉職していた僧侶によって崇拜されたという記録もあれば、村人によって建てられ近所のお寺の管理下となったお堂に安置されていたという記録もあります。この像は当初は金箔で覆われており、金箔が薄くなった後に彩色されたものと思われます。冠と光背は後世になって追加されたものです。大日如来の両手は、五つの元素（地、水、火、風、空）と精神的意識との統一を象徴する手印を結んでいます。

不動明王立像の複製（11世紀後半、円照寺）

この不動明王像のオリジナルは、小浜市中心部の円照寺に祀られており、国の重要文化財に指定されています。不動明王は、左足を前に出して台座から降りようとするかのような躍動的な姿で表現されています。不動十九観の初期の作例で、ボリュームのある巻き髪や左肩にかかる弁髪、唇に食い込む歯、片方の目を開けてもう片方の目を細めた天地眼、宝剣と羂索を持つなどの図像的特徴が取り入れられています。この複製には宝剣はありませんが、右手は柄を握るように配置されています。

不動明王坐像の複製（11世紀後半、常禅寺）

国の重要文化財に指定されているこの不動明王坐像のオリジナルは、かつて常禅寺近くの山にある不動堂に安置されていたもので、現在は境内の宝物庫に保管されています。この像は、海上安全祈願の「波切不動」として古くから信仰されてきました。細身の体と浅く彫られた衣のひだは、平安時代（794-1185）後期の京都で制作された作品の特徴です。作風は、仏教僧の円珍（814-891）が中国（唐）から日本に持ち帰った仏像に基づいています。

観音菩薩坐像の複製（10世紀初頭、長慶院）

この像は慈悲の菩薩である観音が蓮の花を持っている様子を表しています。オリジナルは長慶院が管理する観音堂に安置されており、国の重要文化財に指定されています。オリジナルは731年に奈良の高僧・行基（668-749）によって彫られたと伝えられています。記録によると、当初は久須夜ヶ岳の麓にある日光寺の本尊でした。16世紀初頭に日光寺は焼失しましたが、観音像は運び出され損傷を免れました。

馬頭観音坐像の複製（11世紀後半、馬居寺）

この馬頭観音坐像のオリジナルは、聖徳太子（574-622）が創建したと伝えられる馬居寺の本堂に安置されています。この形式の観音の特徴は、三面八臂で馬の頭を被っていることです。慈悲の菩薩としては珍しく激しい表情をしています。一部の解釈では、これは信者を保護するために必要な強さを反映しているとされ、一方で密教では、悟りへの道を妨げる煩惱に対する怒りの表現と見なされています。

阿弥陀如来坐像（10世紀、小浜市仏谷区）

この無限の光と命を持つ小さな阿弥陀如来坐像は、若狭地方で制作されたものと考えられています。この像の大部分は檜の一木造の技法で作られています。肘から先の腕と膝から先の足は別の木材で作られています。この像は仏谷村で古くから崇められており、集落の信仰生活の中心的役割を果たしてきました。

地藏菩薩坐像（19世紀、上根来村）

この地藏菩薩は、上根来村の入り口にある地藏堂に守り神として祀られていました。この像は、僧衣をまとい、半跏趺座し、右手に尺杖を持った地藏の姿で表現されています。上根来は若狭と京都を

結ぶ交易路網である鯖街道に面しており、交易や文化交流の拠点となりました。ここを通る旅人が、この地蔵像に旅の安全を祈願したと考えられます。

【タイトル】 季節の祈りと伝統

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

季节性的祈祷祭典与传统活动

概要

若狭地区全年有许多节庆和仪式，分别在神社、佛寺、高山、田间、海岸，甚至居民家中举行。这些活动所涉甚广，有为田野诸神举办的祭典，为庆祝丰收举行的热闹游行，也有在海边祈求风平浪静的仪式。丰富多彩的活动不但体现了本地生活方式和居民所从事职业的多样性，也反映出商贸活动对本地区的信仰和风俗带来的影响。这些习俗代代相传，时至今日，这里的人们依然像他们的祖先一样，用节庆祭典迎送四季。

了解更多

新年

新年是除旧布新的时候，要为自己和整个社区祛除旧年之厄，祈求来年之福。届时，若狭各地均会举办“弓射”仪式，通过向特别的箭靶射箭来预测当年吉凶。而在被称为“户祝”或“狐狩”（猎狐）的仪式中，孩子们代表各路神明，在村中巡行唱诵咒语，或拿着仪式专用的木槌或木棍敲打各家门户，寓意神明赐福。

春夏季

这是稻谷播种的季节，因此许多仪式都是为了祈祷五谷丰登。在 5 月下旬到 6 月上旬之间，若狭地区大约有 30 个村庄会举办田神祭典。届时，孩子们会抬着小小的神轿穿行于村庄与田野间。在一些社区里，另外还有些孩子随队游行，一边唱诵经文，一边用仪式专用的竹杖敲打地面，寓意净化。

盂兰盆节

人们相信，祖先的灵魂会在每年 8 月中旬回到家中，因此，不但要举办仪式迎灵，也要送祖灵平安离开，这就是盂兰盆节。节日期间，最具代表性的一项仪式便是“六斋念佛”。这是一种佛教法会，人们随着钲鼓与太鼓的鼓乐节奏诵经、舞蹈，祈祷灵魂获得救赎，转世投胎。六斋念佛在数百年前自京都传入，如今若狭地区仍有大约 20 个村落依然保留着这项仪式，只是舞蹈形式、参与者的年龄以及服饰装扮各有不同。同样发源于京都的另一项传统祭典是名为“松上神事”的火祭。人们在田野间竖起一个巨大的火炬，待到夜幕降临，男人们便将燃烧的火把投向火炬，将它点燃。

在海边村落里，船只是盂兰盆节祭典中的重要角色。比如，在“精灵船送”仪式中，人们要事先准备好祭典用的灵船，供祖先的魂灵在造访生者之后返回灵界所用。如今大约还有 8 个村落依然延承着这一传统，人们用竹子、稻麦秸秆、草和其他一些材料制作灵船，并用旗子和彩带装饰。这些船在装满供品后被放入水中，飘向大海。

秋冬季

这个季节里有许多供奉自然界神明的祭典仪式，以感谢诸神带来丰收、提供庇护。大岛半岛上有一种名为“ニソの杜”(nisonomori)的宗教习俗。在这座岛上，本地居民将远祖视为神明，供奉于本地树林或山脚圣域内的小祭坛中。每年 11 月下旬或 12 月，在树林里会举办一项被称为“霜月先祖祭”的祭典，人们准备好特定的供品，来到林中的先祖祭坛前祭祀。冬日里，若狭各地均会举办供奉山神的“山神祭”，届时，当地民众会带着和先祖祭类似的祭品，来到小祭坛前供奉。仪式结束后还有一场特殊的盛宴，并且当日不允许进山工作。

展品介绍

本展区主要展出与若狭地区丰富多样的季节性节庆祭典活动相关的物品。“新年”展角的木槌木棒是孩童为村民祈福迎祥所用；“春夏季”展角有一座供奉田神的神轿。神轿主要用竹子、麦草和稻草制成，展现了自然纤维被巧妙地编织成型、装饰美化后的样子；“盂兰盆节”展角展出了六斋念佛仪式中使用的乐器，如独具特色的钲鼓和手持的“締太鼓”等。此外还有精灵船的模型，尺寸约为真实船只三分之二大小；“秋冬季”展角则以栩栩如生的食物模型形象展示了供奉先祖神明的祭品。例如山神祭中的供品虎鱼，据传它能安抚山中女神对俗世美丽女子的妒忌之心，还有 12 块刻有女子画像的木牌，据说是献祭的替代品。

<繁体字>

季節性的祈禱祭典與傳統活動

概要

若狭地區全年皆有許多節慶和儀式，分別在神社、佛寺、高山、田間、海岸，甚至居民家中舉行。這些活動涵蓋範疇廣泛，有為田野諸神舉辦的祭典，為慶祝豐收舉行的熱鬧遊行，也有在海邊祈求風平浪靜的儀式。豐富多彩的活動不僅體現了當地生活方式和居民所從事職業的多樣性，也顯示了商貿活動對於該地區信仰和風俗的影響。這些習俗代代相傳，時至今日，這裡的人們依然像他們的祖先一樣，用節慶祭典標記季節的變遷。

瞭解更多

新年

新年是除舊佈新的時節，要為自己 and 整個社區祛除舊年之厄，祈求來年之福。屆時，若狭各地均會舉辦「弓射」儀式，透過向特別的箭靶射箭來預測當年吉凶。而在被稱為

「戶祝」或「狐狩」（獵狐）的儀式中，孩子們代表各路神明，在村中巡行唱誦咒語，或拿著儀式專用的木槌或木棍敲打各家門戶，寓意神明賜福。

春夏季

這是稻穀播種的季節，因此許多儀式都是為了祈禱五穀豐登。在 5 月下旬到 6 月上旬之間，若狹地區大約有 30 個村落會舉辦田神祭典，屆時，孩子們會抬著小小的神轎在村莊與田野間穿行巡遊。在一些社區裡，還另外有些孩子隨隊遊行，一邊唱誦經文，一邊用儀式專用的竹杖敲打地面，寓意淨化。

盂蘭盆節

人們相信，祖先的靈魂會在每年 8 月中旬回到家中，因此，不但要舉辦儀式迎靈，也要送祖靈平安離開，這就是盂蘭盆節。節日期間，最具代表性的一項儀式便是「六齋念佛」。這是一種佛教法會，人們隨著鈺鼓與太鼓的鼓樂節奏誦經、舞蹈，祈禱靈魂獲得救贖和重生。六齋念佛在數百年前自京都傳入，如今若狹地區仍有大約 20 個村落依然保留著這項儀式，但舞蹈風格、參與者的年齡以及服飾裝扮各有不同。同樣發源於京都的另一項傳統祭典是名為「松上神事」的火祭。人們在田野間豎起一根巨大的火炬，待到夜幕降臨，男子們便將燃燒的火把投向火炬，將它點燃。

在海邊村落裡，船隻為盂蘭盆節祭典中的重要角色。例如，在「精靈船送」儀式中，人們會預先準備祭典用的精靈船，用來供奉祖先的靈魂，以便在他們造訪世間之後返回靈界。至今，大約有 8 個村落依然保留著這一傳統，人們使用竹子、稻麥秸稈、草和其他一些材料製作靈船，並用旗子和彩帶裝飾。這些船在裝滿供品後被放入水中，順流入海。

秋冬季

這個季節裡有許多供奉自然界神明的祭典儀式，感謝諸神帶來豐收、提供庇護。大島半島上有一種名為「ニソの杜」（nisonomori）的宗教習俗。在這座島上的居民將祖先視為神明，供奉在當地樹林或山腳聖域內的小祭壇中。每年 11 月下旬或 12 月，在樹林裡會舉辦一項被稱為「霜月先祖祭」的祭典，人們準備好特定的供品，來到林中祖先的祭壇前祭祀。冬日裡，若狹各地均會舉辦供奉山神的「山神祭」。屆時，當地民眾會帶著和先祖祭類似的祭品，來到小祭壇前供奉。儀式結束後還有一場特殊的盛宴，並且當日不允許進山工作。

展品介紹

本展區主要展示與若狹地區多元的季節性節慶祭典活動相關的物品。「新年」區域展示了孩子們在新年為村民祈福時所使用的木槌和木棒；「春夏季」區域有一座供奉田神的神轎。神轎主要以竹子、麥草和稻草製成，展示了自然纖維被巧妙地編織成型、裝飾美化後的樣子；「盂蘭盆節」區域的展品包括六齋念佛儀式中使用的樂器，如獨具特色的鈺鼓和手持的「締太鼓」等。此外還有精靈船的模型，尺寸約為真實船隻三分之二大小；「秋冬季」區域則以逼真的食物模型形象展示了供奉祖先神明的祭品。例如，山神祭中的供品虎魚，據傳牠能安撫山中女神對俗世美麗女子的妒忌。又如 12 塊刻有女子畫像的木牌，據

説は獻祭的替代品。

<日本語仮訳>

季節の祈りと伝統

概要

若狭地域では年間を通して、神社やお寺、山、畑、海辺、そして家庭などで、多数のお祭りや儀式が行われます。田の神々のために行われる儀式から、豊作を祝う賑やかな行列、海の平穏を祈る海辺の儀式まで、さまざまです。この多様性は、さまざまな暮らしや職業、そして交易によってもたらされたこの地域の人々の信仰や慣習を反映しています。これらの風習は代々受け継がれ、人々はその先祖たちと同じように季節を重ねています。

もっと詳しく知る

お正月

お正月は、自身や集落の前年の厄を祓い、来たる年の幸運を祈る時期です。若狭の各地で行われる「弓打ち」の儀式は、特別な的に向かって矢を放つことによって、その年を占います。「戸祝い（またはキツネガリ）」と呼ばれる行事では、神々に代わって子どもたちが村を回り、唱え歌を歌ったり神事用の槌や棒で戸口をドンドンと叩いたりして、幸運を授けます。

春と夏

田植えの時期に行われる多くの神事は、五穀豊穡を祈願するものです。5月下旬から6月上旬にかけて、若狭の約30の集落では「田の神祭り」が開催され、子どもたちが小さな神輿を担いで集落や田畑を練り歩きます。他の子どもたちが行列に同行し、お経を唱えながら儀式用の竹の杖で地面を打ってお祓いをする地区もあります。

お盆

8月中旬には先祖の霊が家族のもとに帰ると考えられており、霊を迎え、その後無事に送り返すための儀式が行われます。お盆の最も代表的な儀式の一つは「六斎念仏」で、鉦と太鼓のリズムに合わせて踊りながら念仏を唱える、救済と転生を願う法要です。六斎念仏は何世紀も前に京都からもたらされ、今でも若狭の約20の集落で、踊り方や参加者の年齢、衣装も様々に行われています。同じく京都発祥の「松上げ祭り」という火の神事では、大きな松明が野原に設置され、夕方になると男性たちが、松明に火を点けるために燃える薪の束を投げます。

海辺の集落では、船がしばしばお盆の祭りに利用されます。その一例が、祖先の霊が現世への訪問を終えて霊界に戻るための儀式用の船を提供する「精霊船送り」という儀式です。八つほどの集落が今でもこの伝統を実践しており、竹、稻わら、麦わら、草、その他の材料で船を造り、旗や色とりどりの吹流しで船を飾ります。船はお供え物で満たされ、海に流されます。

秋と冬

この季節には、自然の神々への豊作や守護への感謝の印として供物を捧げる儀式が数多く行われます。大島半島には、「ニソの杜」と呼ばれる宗教的行事があり、遠い祖先を神として、地元の森や山麓の聖域にある小さな祭壇に祀っています。「霜月の先祖祭」もその風習に含まれ、11月下旬または12月に、森の中の祭壇に特別な供物が奉納されます。冬に若狭地方全体で行われる「山の神祭」の間も、同様の供物が小さな祭壇に置かれます。続いて特別な宴が行われ、その日は山での作業は禁止されます。

展示品

この部屋の展示品は、四季折々に開催される若狭地方のさまざまな祭り、行事を表しています。「お正月」のコーナーには、子どもたちが村の家庭に幸運をもたらすために使用する木槌が展示されています。「春と夏」のコーナーには、田の神を祀る神輿があります。神輿のほとんどは竹や小麦、わらでできており、天然の繊維が巧みに編まれて神輿の形や装飾になっている様子が分かります。「お盆」のコーナーでは、特徴的な鉦や手持ちできる締め太鼓など、六斎念仏で使われる楽器が紹介されています。精霊船の模型は 2/3 の大きさで作られています。「秋と冬」のコーナーでは、リアルな食品模型で、古代の神々に捧げられる供物について説明しています。山の神祭の場合、お供え物には、美しい女性に嫉妬する山の女神をなだめるとされるオコゼや、女性の絵が描かれた、いけにえの“身代わり”とされる12枚の木簡などが含まれます。

【タイトル】 王の舞

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

王之舞

概述

“王之舞”是一种舞蹈仪式，通常由一名头戴长鼻子面具、手舞长矛的男性舞者表演。相传这项传统最初出自古都奈良和京都，在 11 世纪至 14 世纪逐渐传播至本地。或许是日本海沿岸港口城镇与都会地区活跃的贸易往来促进了文化的交流，将这项习俗带到了若狭地区。如今，若狭地区还保留着 17 种王之舞，通常在春季节庆祭典中上演。不同区域的舞蹈形式、时长、表演人数以及服饰装扮等均有所不同。

了解更多

千年传承的风俗

王之舞的起源和初衷早已消失在漫漫历史长河中，但大略可以推测，这项传统最初可能诞生于 11 世纪奈良和京都的宗教场所。王之舞的服饰中用到很多红色来表示驱邪，并且好几家神社自古流传的王之舞都是关于英雄退敌的故事，由此可见，这种舞蹈很可能是用于祛灾除厄。

与舞乐、伎乐的关系

王之舞最初可能起源于“舞乐”，这是一种古老的舞蹈，传统上只为宫廷或贵族表演。舞乐于公元 6 世纪随着商贸和文化交流自亚洲大陆传入日本，在大约 8 世纪时发展为独具特色的日本艺术形式。王之舞与《散手》《贵德》等古代舞乐作品颇有相似之处，在这些乐曲中，舞者往往被视为庆祝胜利的军事首领。此外，“伎乐”对王之舞可能也有影响，这种面具舞蹈同样来自亚洲大陆，比舞乐更古老，但它在舞乐日益风行的过程中渐渐失传了。有研究者提出，王之舞中带长鼻面具的舞者造型，可能正是源自伎乐表演前的游行，因为游行时也有一名戴着类似面具的舞者在前方引领并仪式性地净化道路。

私有农庄的作用

王之舞应该是从通往两大古都的商贸道路传入若狭地区的。而它之所以得以传承，必须归功于王室贵族以及有实力的神社、寺院在偏远地方上的私有农庄。这些庄园是京都和奈良文化在若狭地区的主要传播媒介。如今，本地绝大多数仍在上演王之舞的神社也都位于昔日的农庄之内。

王之舞的各种版本

在若狭地区各大神社中上演的王之舞有 17 种之多，彼此间差异颇大。其中，有的舞蹈全长只有两分钟，有的却要持续一个小时。大多数王之舞都是男子独舞，但也有群舞版本。有时候，表演者是成年人，有时候却是学龄男孩。王之舞仪式的主旨是驱邪除魔，但在某些神社，这些舞蹈也用于敬神，祈求五谷丰登、渔获丰富等特定的赐福。而这种差异，体现了王之舞仪式随着时间推移的演变，也反映出各地民俗、生活方式及需求的不同。

展品介绍

本展区通过穿戴不同服饰面具、手持长矛的人体模型，形象地介绍若狭地区现存的 17 种王之舞之间的差异。模型前方的舞蹈照片提供了更为详尽的服饰信息，而短片则演示了缓慢而规范的舞步。玻璃橱柜中陈列着一件红色长袍、一顶孔雀羽毛制作的华丽凤凰头饰，以及一张出自江户时代(1603-1867)的长鼻子面具，这些都曾被用于弥美神社的王之舞仪式中。

<繁体字>

王之舞

概述

「王之舞」是一種舞蹈儀式，通常由一名頭戴長鼻子面具、手舞長矛的男性舞者表演。相傳這項傳統最初來自古都奈良和京都，在 11 世紀至 14 世紀之間逐漸傳播至本地。或許是日本海沿岸港口城鎮與都會地區活躍的貿易往來促進了文化的交流，因此將這項習俗帶到了若狹地區。如今，若狹地區還保留著 17 種王之舞，通常在春季節慶祭典中表演。不同區域的舞蹈形式、時長、表演人數以及服飾裝扮等均有所不同。

瞭解更多

千年傳承的風俗

王之舞的起源和初衷早已消失在漫漫歷史長河中，但約略可以推測，這項傳統最初可能誕生於 11 世紀奈良和京都的宗教場所。王之舞的服飾使用大量紅色以示驅邪，而數家神社自古流傳的王之舞都是關於英雄退敵的故事，由此可見，這種舞蹈最初很可能是用來祛災除厄。

與舞樂、伎樂的關係

王之舞最初可能起源於「舞樂」，這是一種古老的舞蹈，傳統上只為宮廷或貴族表演。舞樂於西元 6 世紀隨著商貿和文化交流自亞洲大陸傳入日本，在大約 8 世紀時發展為獨具特色的日本藝術形式。王之舞與《散手》《貴德》等古代舞樂作品頗有相似之處，在這些樂曲中，舞者往往被視為慶祝勝利的軍事領袖。此外，「伎樂」對王之舞的形成可能也產生過影響。伎樂是一種面具舞蹈，同樣來自亞洲大陸，比舞樂更加古老，只是在舞樂日益風行的過程中漸漸失傳了。有研究者提出，王之舞中帶長鼻面具的舞者造型或許就是源自

古老的伎樂表演前的遊行，因為遊行中會有一名帶著類似面具的舞者在前方引領隊伍，主持淨化道路的儀式。

私有莊園的作用

據推測，王之舞是從通往兩大古都的商貿道路傳入若狹地區的。而它的傳承要歸功於王室貴族以及有影響力的神社、寺院在偏遠地區的私人莊園。這些莊園極大地促進京都和奈良文化向若狹地區傳播。如今，絕大多數仍在上演王之舞的神社也都位於昔日莊園內。

王之舞的各種版本

在若狹地區各家神社演出的王之舞達 17 種之多，彼此間差異顯著。其中，有的舞蹈全長只有兩分鐘，有的卻要持續一個小時。大多數都是男子獨舞，但也有群舞版本。有時候表演者是成年人，有時候卻是學齡男孩。王之舞儀式的主旨是驅邪除魔，但在某些神社，這些舞蹈也用於敬神，祈求五穀豐登、漁獲豐收等特定的賜福。而這種種差異，體現了王之舞儀式隨著時間推移的演變，也反映出各地民俗、生活方式及需求的不同。

展品介紹

本展區通過穿戴不同服飾面具、手持長矛的人體模型，形象展現若狹地區現存的 17 種王之舞之間的差異。模型前方的舞蹈照片提供了更為詳盡的服飾資訊。螢幕上播放的影像演示了王之舞緩慢而風格化的舞步。玻璃櫥櫃中陳列著一件紅色長袍、一頂孔雀羽毛製作的華麗鳳凰頭飾，以及一副出自江戶時代（1603-1867）的長鼻子面具，這些都曾被用於彌美神社的王之舞儀式中。

<日本語仮訳>

王の舞

概要

「王の舞」は一般的に、一人の男性が鼻高面を着け、鉾をふるいながら舞う儀式です。この伝統は、11 世紀から 14 世紀にかけて、かつての首都である奈良と京都から広まったと考えられています。日本海の港町と首都圏との活発な交易が、若狹にその風習をもたらした文化交流を促進したものと思われます。現在、この地域では 17 種類の「王の舞」が残っており、春の祭りの際によく演じられます。舞の形式や長さ、参加人数、衣装は場所によって異なります。

もっと詳しく知る

千年前から続く伝統

王の舞の起源やその目的は時の経過とともに分からなくなりましたが、この伝統は 11 世紀の奈良と京都の宗教的な場所で始まったと考えられます。王の舞の装束に多い赤色は邪気をはじくもので、いくつかの神社に伝わるこの舞にまつわる伝説が敵を倒す英雄の物語であることから、この舞いが災難や厄除けのために行われている可能性があることを示唆しています。

舞楽、伎楽との関わり

王の舞は、宮廷や貴族のために伝統的に演じられていた古代の舞のひとつである「舞楽」に由来する可能性があります。舞楽は、貿易や文化交流の過程で 6 世紀にアジア大陸からもたらされ、8 世紀頃に独特の日本的な芸術形式へ発展しました。王の舞と、『散手』や『貴徳』といった舞手が勝利を祝う軍の司令官を表していると考えられている古代の舞楽作品との間には類似点が見られます。王の舞はまた、舞楽の人気が高まるにつれて次第に姿を消した、アジア大陸のさらに古いタイプの仮面舞踊である伎楽の影響を受けている可能性があります。一部の研究者は、鼻高面を着けた王の舞の舞手の姿は、似たような面を着けて道を儀式的に清める役割を果たす演者が率いた、伎楽の公演の前に行われた行列に由来すると示唆しています。

荘園の役割

王の舞の伝統は、恐らくこの地方と古都を結ぶ交易路を通じて伝わったものと思われます。その伝統は、遠い地方の公家や有力な神社仏閣によって維持されていた荘園の存在によって継承されました。このような荘園は京都と奈良の文化を若狭へ広めることに大きく貢献し、現存する王の舞のほとんどは、かつての荘園内にあった神社で行われています。

王の舞のバリエーション

若狭地方の神社に受け継がれる 17 の王の舞には、かなりのバリエーションがあります。2 分間で終了する舞いもあれば、最長 1 時間続く舞いもあります。多くは一人の男性の踊り手によって演じられますが、中には複数の参加者が関わるものもあります。演者は大人の場合もあれば、男性学童の場合もあります。王の舞の包括的テーマは厄除けとされますが、神社によってはこの舞は豊作や豊漁などの特定の御利益を祈願するために奉納されます。その違いは、各地域の民俗と村人のニーズや生活様式を反映して、王の舞がどのように時代とともに変化してきたかを示しています。

展示品

マネキンを使ってさまざまな衣装、仮面、鉾が展示されており、若狭で現在も行われている 17 の王の舞の違いが表現されています。マネキンの前にある舞の写真は、衣装の種類をより詳細に示しています。上映されているビデオでは、この舞のゆっくりとした定型化された動きが見られます。ガラスケースの中にある赤い羽織や孔雀の羽で作られた精巧な鳳凰の頭飾り、江戸時代（1603-1867）の鼻高面はいずれも、彌美神社の王の舞で使用されていたものです。

【タイトル】 町の祭り・芸能

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

小浜の节庆与表演艺术

概要

江戸时代(1603-1867)的小浜十分繁荣。那时，它既是一座港口城市，也是一个围绕城郭发展起来的“城下町”。随着城市经济的发展和宗教的影响，小浜的节庆活动越来越奢华热闹，与乡村简朴的传统风格形成了鲜明的反差。大型山车（花车）、复杂多样的舞蹈、华丽的衣饰成为了小浜节日庆典的特色，部分习俗甚至历经数百年的传承，至今每年都会举办。

了解更多

小浜的都市庆典

与农村或渔村相比，在小浜这样的城镇地区举办的节日庆典往往规模更大、更奢华。其中，新年、节分（立春的前一天）和夏季祭祀祖先的盂兰盆节等重大节日更是热闹非凡。活力四射的舞蹈和充满魅力的演出，不仅是对神明的供奉，也是娱乐活动。富商们为庆典慷慨捐资，众人赶赴节日盛宴。就这样，小浜的节日庆典将宗教仪式、文艺表演和各种狂欢融为一体，逐步发展为持续数日的盛大庆典活动。

其他地区的影响

小浜的节庆活动，在很大程度上受到了京都风俗文化的影响。因为当时小浜是一座专门从事海上贸易的港口城镇，负责为京都运送物资。17世纪早期，川越藩（今埼玉县）的酒井家族成为小浜藩主，他们将当时流行于日本东部地区的表演形式带到了当地，“云滨狮子舞”便是其中之一，小浜市至今有一个地区还保留着这项演出。

小浜的祇园祭与放生祭

过去，小浜最具代表性的城市庆典活动是在广岭神社举办的祇园祭。神社藏有一幅江戸时代小浜祇园祭的卷轴画，画中描绘了当时活动的盛大规模和游行的热闹场面，游行队伍中有山车、乐师、舞者，还有身着盛装的参与者和观众。无论是大型山车、庆典音乐还是挥动长棒跳“棒振之舞”的舞者，从中都可以发现大名鼎鼎的京都祇园祭的影子。小浜祇园祭中的部分表演如今已被纳入八幡神社放生祭，每年9月中旬，附近的剧团会随同装饰精美的山车巡游城中大街小巷，展现传承了数百年之久的本地传统民俗艺术。

展品介绍

本展区的人体模型个个身着若狭地区的节庆服饰，形象再现了当时参加放生祭的表演者。身着异域风情服装、头戴浅色长假发的，是“棒振之舞”中的舞棒者；一袭黄底黑纹和服的，是大太鼓的鼓手；一身黄色和服、头戴帽檐上有挂坠的斗笠、用红布遮面的，是神乐乐团的横笛手；头顶饰有黑色羽毛狮头的，则是云滨狮子舞的舞者。此外还有赤夜叉、大头等其他角色。赤夜叉挥舞着手中的神器追逐众人，传说这样可以驱邪消灾。大头是个喜庆角色，大脑袋用捕鱼笼制成，他游走于棒振之舞的队伍中来取乐观众。人体模型背后的墙上悬挂着一幅放大的卷轴画，描绘的是大约 150 年前小浜祇园祭的场景。

<繁体字>

小濱的節慶與表演藝術

概要

江戶時代（1603-1867），小濱既是港口城市，也是圍繞城郭逐漸發展起來的市鎮「城下町」。隨著市民生活不斷富足，同時也受到宗教的影響，小濱的節慶活動越來越熱鬧、豪華，與鄉間樸素簡單的傳統風格形成了對比。大型山車（又稱屋台或花車）、繁複的舞蹈及華麗的衣飾成為了小濱町節日慶典的特色，部分習俗甚至自數百年前傳承至今，年年都有舉辦。

瞭解更多

小濱的城市慶典

在如小濱這樣的城鎮地區舉辦的節日慶典，往往比農村或漁村規模更大、更奢華。其中，新年、節分（立春的前一天）和夏季祭祀祖先之靈的盂蘭盆節等重大節日，更是熱鬧非凡。充滿活力的舞蹈和各式迷人的演出，既是對神明的供奉，也是娛樂活動。富有的商人慷慨捐資，讓這些活動得以舉行，眾人參與其中，共襄盛典。因此，小濱的節日慶典發展成為了豐富而盛大的活動，將宗教儀式、藝文表演和各種娛樂融為一體，持續數日之久。

來自其他地區的影響

小濱的節慶活動有不少受到了來自京都風俗與文化的影響。這是因為當時的小濱是一座從事海上貿易的港口市鎮，負責將物資運送到京都。在 17 世紀早期，川越藩（今埼玉縣）的酒井家成為小濱藩主，他們將當時在日本東部地區流行的表演形式帶到了小濱，其中包括了「雲濱獅子舞」。時至今日，小濱境內仍有一個地區保留著這項表演活動。

小濱的祇園祭與放生祭

過去，廣嶺神社的祇園祭是小濱一個重要且盛大的城市化節日慶典之一。神社現今仍保存著一幅江戶時代的小濱祇園祭卷軸畫，畫中生動描繪了當時活動的壯麗規模和熱鬧的遊行場景。遊行隊伍裡有花車、樂師、舞者、身著節慶服飾的演出者以及觀眾。從大型山車、慶典音樂到揮動長棒跳著「棒振之舞」的舞者，都能看到大名鼎鼎的京都祇園祭的蹤

影。小濱祇園祭中の部分節目現仍舊在八幡神社放生祭中上演，每年 9 月中旬可以觀摩。屆時，鄰近的劇團和裝飾精美的山車穿行在城市街道上，表演民俗藝術，紀念當地傳承了數百年的傳統。

展品介紹

本展區的人體模型個個身著若狹地區城市節慶服飾，形象再現了放生祭儀式上的演出者。其中，身穿異域風情服裝、頭戴淺色假長髮的是「棒振之舞」中的舞棒者；一襲黃底黑紋和服的是大太鼓的鼓手；穿著黃色和服、頭戴帽沿掛著墜飾的斗笠，用紅紗遮面的是神樂樂團的橫笛手；頭頂戴著黑色羽毛獅頭的則是雲濱獅子舞的舞者。此外，還有赤夜叉、大頭等其他角色。赤夜叉揮舞著手中的神器，追逐著人們，據傳這樣可以驅邪消災。大頭是個喜劇人物，他的頭部是用捕魚籠製作的大腦袋，有時會出現在棒振之舞的隊伍中，取樂眾人。人體模型背後的牆上懸掛著一幅放大的卷軸畫，描繪著大約 150 年前小濱祇園祭的場景。

<日本語仮訳>

町の祭り・芸能

概要

江戸時代（1603-1867）、小浜は港町、城下町（城郭を中心に発達した都市）として栄えました。そのころ、宗教的影響と全体的な富の増大により、農村部で見られるより簡素な伝統とは対照的に、優雅で活気のある祭りが発展しました。大きな山車、複雑な踊り、豪華な衣装は、小浜の町の祭りの特徴となりました。その一部は何世紀にもわたって行われ、今でも毎年続いています。

もっと詳しく知る

小浜の都会的な祭り

小浜のような町での祝い事は、主に農村や漁村で開催されていた祭りよりも規模が大きく、より豪華でした。正月や節分、夏に祖先の霊をたたえるお盆などの主要な祝祭日は特に人気がありました。神に対する崇拜と娯楽の両方を目的に、活気に満ちた舞や魅惑的なパフォーマンスが行われました。裕福な商人は祭りのために気前よく寄付を行い、多数の人々が祭りに参加しました。こうして、小浜の祭りは、宗教的な奉仕や芸術的なパフォーマンス、全般的なお祭り騒ぎを含む、何日も続く壮大で手の込んだ行事になっていた可能性があります。

他地域からの影響

小浜は海上交易と当時の都への物資の輸送に特化した港町だったため、その祭りは大いに京都の文化や伝統の影響を受けていました。また、17 世紀初頭に川越藩（現在の埼玉県）の酒井家が小浜藩主となった際、彼らは東日本で流行していた芸能形式を持ち込みました。その一つである「雲濱獅子」は、今でも小浜市のある地区で演じられています。

小浜の祇園祭と放生祭

かつての小浜の都会的なお祭りの代表例は、廣嶺神社の祇園祭でした。廣嶺神社所蔵の江戸時代の小浜祇園祭の絵巻には、山車や囃子、踊り子、衣装を着た参加者、見物人などによる賑やかな行列が描かれており、当時の祭りの規模の大きさを物語っています。有名な京都の祇園祭の影響は、大きな山車、祭りの音楽、棒振りという舞の踊り手などに見ることができます。小浜の祇園祭の演目の一部は、9月中旬に八幡神社で行われる放生祭に受け継がれました。近隣的一座や飾り付けられた山車が通りを行き来し、数百年にわたって受け継がれてきた地元の伝統を称える民俗芸能を披露します。

展示品

このコーナーでは主に、若狭地方の都市部の祭りで使われる衣装を着たマネキンを展示しています。それらのほとんどは、放生祭に参加する演者です。棒振りは異国風の衣装を着て、長く薄い色の毛でできた頭飾りを着けており、大太鼓は黒い模様のある特徴的な黄色の着物を着ています。神楽の横笛奏者は、黄色い着物に、端に飾りがぶら下がった菅笠を合わせ、赤いベールで顔を隠しています。雲浜獅子の踊り手は、てっぺんに黒い羽がついた獅子の頭飾りをつけています。他の衣装には、手にしている儀式的な武器で人々を追い立てることで災いを祓うと言われる赤い夜叉と、魚籠で作られた大きな頭を持つコミカルな人物である大頭（おこべ）があり、一部の棒振りの集団と一緒に、客を楽しませるものとして登場します。マネキンの後ろの壁には、約 150 年前に小浜で開催された祇園祭を描いた絵巻物の拡大された絵が描かれています。

【タイトル】 縄文時代の鳥浜貝塚と嶺南地域

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

绳文时代的鸟滨贝冢与岭南地区

概要

绳文时代（约公元前 13,000～前 400 年）的特征是陶器的发展，以及在以狩猎和采集为主要生业的同时开始趋向定居的生活。岭南地区位于福井县西南部的若狭湾沿岸，这里已经发现了 60 余处绳文时代的考古遗址。位于鸟滨的史前聚落和垃圾场考古遗址被叫做“鸟滨贝冢”，遗址中发现了绳文时代上半叶民居建筑和储藏坑的遗存，并出土了大量保存良好的遗物和有机物。这些发现为后人深入了解鸟滨聚落的居民生活方式提供了珍贵的资料。资料显示，当时人们已经在利用附近森林、湖泊、江河与海洋的丰富资源了。

了解更多

鸟滨贝冢的发现与由来

此处贝冢位于若狭町鸟滨地区、鲇川与高濑川交汇的地下深处。由于冰冷的地下水和贝壳中的钙质隔绝了氧气，有效防止了氧化，所以遗址中出土了大量保存良好的文物。根据这些文物判断，此聚落的居民会按季采收、加工包括贝类、可食用植物在内的多种食物，并将废弃的贝壳和其他垃圾丢弃到一处湖岸边。也许因为垃圾渐渐堆积成山，遂有了“贝冢”之称。

动植物遗骸

贝冢出土的动物与植物残骸显示，人们在这里形成了一个相对稳定的永久定居点，这与绳文时代之前以狩猎和采集为主要生业的迁移性生活方式有了很大区别。附近的湖泊、海洋和森林拥有丰富的动植物资源，为此处定居点提供了全年的食物保障。贝冢中现已确认超过 75 种可食用的动物和植物，包括野猪、鹿、贝类水产、坚果和莓果等。

手工制品

鸟滨贝冢还出土了独木舟、弓箭、斧柄、木制容器和其他手工制品，其中部分物品表面还涂有漆层。另一些出土文物包括纽结或编织而成的绳索、植物纤维编织簍的残片、多枚动物骨针和一根木槌——可能用于捶打纤维使之变得柔软。此外，这里还发掘出了种类丰富的个人用品，如梳子、发饰、耳饰、手镯和吊坠挂饰等等，制作材料涵盖木头、石头、动物獠牙、鹿角、贝壳、粘土及其他材质。

陶土制品

科学研究已经确认，鸟滨贝冢所在地层出土的陶器大约出自公元前 11,700 至前 3800 年之间。其中，从公元前 4300 年至前 3800 年前后的器具上，可明显看出陶土制品在器型、设计装饰等方面的变化过程。鸟滨出土的陶器表面大多留有烟灰和碳化食物残渣痕迹，分析证明，这些容器曾被用于烹饪海鲜和植物。

展品介绍

这里展出了大量鸟滨贝冢出土的陶土制品。展品依照年代顺序陈列，因此很容易看出不同时期的陶器在造型与设计上的差异。展品中有多件深钵，薄胎、广口、器身相对细长。陶器表面的纹饰是用尖锐工具或指甲刻划而成。

这艘独木舟于 1981 年至 1982 年间出土，是被发掘的两艘独木舟中较早发现的一艘。船体用一整棵日本柳杉树的树干制成，据推测，当时可能是先用火焚烧，然后再借助石制工具掏空树心。此处展示的绳索和布料残片中有一根细细的双股绳，大约出自公元前 9500 年的地层中。此外，鹿角制作的挖掘工具、石斧、木头斧柄和叉鱼的骨制枪尖，都是绳文时代日常工具中为数甚少的珍贵出土文物。鸟滨贝冢有着丰富的有机物遗存，保存状态良好，种类涵盖动物骨、鱼骨、坚果，以及成为此处遗址名字由来的贝壳。

<繁体字>

繩文時代的鳥濱貝塚與嶺南地區

概要

繩文時代（約西元前 13,000 至西元前 400 年）的特徵是陶器的發展，以及依舊在「狩獵—採集」的同時開始過定居的生活。嶺南地區位於福井縣西南部的若狹灣沿岸，這裡已經發現了 60 餘處繩文時代的考古遺址。位於鳥濱的史前聚落和垃圾場考古遺址被叫做「鳥濱貝塚」，遺址中發現了繩文時代上半葉民居建築和儲藏坑的遺存，並出土了大量保存良好的遺物和有機物。這些發現為瞭解鳥濱定居點的居民生活方式提供了珍貴的資料。資料顯示，當時的人們已知如何利用附近森林、湖泊、江河與海洋的豐富資源了。

瞭解更多

鳥濱貝塚的發現與由來

這處貝塚位於若狹町鳥濱地區、鱒川與高瀨川交匯的地下深處。冰冷的地下水和貝殼中的鈣質隔絕了氧氣，有效防止了氧化，所以遺址中出土了大量保存良好的文物。從留存的遺跡判斷，這處聚落的居民會按季採收、加工包括貝類、可食用植物在內的多種食物，再將廢棄的貝殼和其他垃圾丟棄到一處湖岸邊。也許因為垃圾漸漸堆積成山，遂有了「貝塚」之稱。

動植物遺骸

貝塚出土の動物與植物殘骸顯示，先民在這裡形成了一個相對穩定的永久定居點，這與繩文時代之前遷移性的狩獵—採集生活方式有了很大區別。附近的湖泊、海洋和森林擁有豐富的動、植物資源，保障了這處聚落全年的食物供給。貝塚中現已確認超過 75 種可食用的動物和植物，包括野豬、鹿、貝類水產、堅果和莓果等。

人工製品

鳥濱貝塚還出土了獨木舟、弓箭、斧柄、木製容器和其他人工製品，其中部分物品覆有漆面。另一些出土物品包括紐結或編織而成的繩索、植物纖維編織簍的殘片、多枚動物骨針和一根木槌——可能用於捶打纖維使之變得柔軟。此外，這裡還發掘出了種類豐富的個人用品，如梳子、發飾、耳飾、手鐲和吊墜掛飾等等，製作材料涵蓋木頭、石頭、動物獠牙、鹿角、貝殼、黏土及其他材質。

陶土製品

科學研究已經確認，鳥濱貝塚所在地層出土的陶器大約出自西元前 11,700 至前 3800 年之間。其中，從西元前 4300 年至前 3800 年前後的器具上，可明顯看出陶土製品在器型、設計裝飾等方面的變化過程。鳥濱出土的陶器表面大多留有煙灰和碳化食物殘渣痕跡，分析證明，這些容器曾被用於烹飪海鮮和植物。

展品介紹

這裡展出了大量鳥濱貝塚出土的陶土製品。展品依照年代順序陳列，可以輕易看出不同時期陶器在造型與設計上的差異。展品中有多件器皿都是深碗，壁薄、口寬、器身相對細長。陶器表面的紋飾是用尖銳工具或指甲刻劃而成。

這艘獨木舟於 1981 年至 1982 年間出土，是被發掘的兩艘獨木舟中較早發現的一艘。船體用一整棵日本柳杉大樹的樹幹製成，據推測，當時可能是先用火焚燒，然後再借助石頭工具掏空樹心。此處展示的繩索和布料殘片中有一根細細的雙股繩，大約出自西元前 9500 年的地層中。此外，鹿角製作的挖掘工具、石斧、木頭斧柄和叉魚的骨製槍尖，都是繩文時代日常工具中為數甚少的出土文物。鳥濱貝塚有著豐富的有機物遺存，保存狀態良好，種類涵蓋動物骨、魚骨、堅果，以及成為此處遺址名字由來的貝殼。

<日本語仮訳>

縄文時代の鳥濱貝塚と嶺南地域

概要

縄文時代（およそ紀元前 13,000-紀元前 400）は、土器の発達と、狩猟採集民の生活様式に加えて定住化が進んだことが特徴です。福井県南西部の若狭湾沿いにある嶺南地域では、当時の遺跡が 60 以上発見されています。鳥濱貝塚として知られるようになった、鳥濱にある先史時代の集落とゴミ捨て場の遺跡の発掘調査では、縄文時代前半の住居や貯蔵用の穴、保存状態の良い

遺物や有機物が大量に発見されました。これらの発見は、近くの森、湖、川、海からの豊富な資源を活用した鳥浜の集落の住民たちの生活様式を知る上で、貴重な資料となっています。

もっと詳しく知る

鳥浜貝塚の発見と由来

この貝塚は、若狭町鳥浜の、はず川と高瀬川が合流する地域の地下深くで発見されました。冷たい地下水と貝殻からのカルシウムで覆われ、酸化から守られたその遺跡からは、保存状態の良い遺物が多数発見されました。遺物から判断すると、集落の住民は、季節ごとに手に入る貝類や食べられる植物、その他の食べ物を収穫して加工し、貝殻やその他のゴミを湖岸に捨てていたようである。ゴミが山のように積み重なり、「貝塚」と呼ばれるようになったと考えられています。

植物性&動物性物質

貝塚から出た植物性&動物性物質は、人々が比較的恒久的な定住生活を送っていたことを示しており、それは縄文時代以前に優勢だった移動型の狩猟採集生活とは対照的です。動植物が豊富な近くの湖や海、森では、一年中食料が確保できました。イノシシ、シカ、貝類、ナッツ、ベリーなど、75種以上の食用の植物や動物が貝塚で確認されました。

人工物

鳥浜貝塚遺跡では、丸木船、弓、斧の柄、木製の容器などの人工物が発見されました。その中には漆が塗られたものもありました。その他、撚ったり編んだりした縄や、植物繊維で編んだかごの破片、動物の骨でできた針、繊維を柔らかくするために使用されたとされる木槌などが見つかりました。また、木や石、牙、鹿角、貝、粘土、その他の材質で作られた櫛や髪飾り、イヤリング、ブレスレット、ペンダントなど、さまざまな個人装飾品が発掘されました。

土器

科学的な研究により、鳥浜貝塚の地層から出土した土器は、紀元前 11,700 年頃から紀元前 3,800 年頃のものであることが判明しました。紀元前 4,300 年頃～紀元前 3,800 年頃の品は特に、土器の形状とデザインがどのように徐々に変化したかを示す好例です。鳥浜で発見された土器の多くは、すすや炭化した食品の残骸で覆われており、分析の結果、魚介類や植物の調理に使用されたことが判明しました。

展示品

鳥浜貝塚から出土した土器の膨大なコレクションが年代順に並べられており、デザインや形状の違いが分かりやすくなっています。その多くは、薄くて口が広く、比較的細身の深鉢です。粘土に施された装飾模様は、鋭利な道具や爪で刻まれたものです。

丸木舟は、1981 年から 1982 年にかけて発掘された 2 隻のうち最初に発見された 1 隻です。船体は日本杉の一木を使って作られており、焼いてから石器で彫ることによって、中をくり抜いたと考えられます。展示されている縄や布の破片のうち、細い 2 本撚りの縄は、紀元前約 9,500 年前の地層か

ら発見されたものです。鹿の枝角で作られた掘削道具や石斧やその木製の斧の柄、漁に使われた骨の槍先などは、縄文人の道具の数少ない例です。鳥浜貝塚のさまざまな有機遺物は良好な状態で、その中には動物や魚の骨、木の実、この場所の名前の由来となった貝殻などが含まれています。

【タイトル】 弥生時代の若狭・敦賀地方

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

弥生時代の若狭と敦賀地区

概要

从以狩猎和采集为主要生业的社会向农耕社会转变是弥生时代（公元前 400 年～公元前 300 年）的标志。在这一时期，稻田耕作技术、青铜器与铁器的金属加工技术自亚洲大陆传入九州北部，随后经由该地区传播到整个九州以及本州、四国等地。小浜和敦贺平原现已发现多处重要的弥生时代的遗址，为我们深入了解该地区当时的社会、技术、文化发展情况，乃至阶级社会逐步形成的过程提供了珍贵的资料。此外，聚落遗址中出土的部分物品也证明了这里与其他地区在当时已经有了往来联系。

了解更多

弥生陶器

与绳文时代（公元前 13,000 年～前 400 年）的陶器相比，弥生陶器一般装饰较少，器型简洁，更注重功能性。但此时的制陶工艺几乎保持不变，还是用陶土搓成长条盘绕堆叠出想要的形状，陶胚成型后再将表面抹平，最后用尖锐的工具在器具外侧刻划出简单的纹样。不过弥生陶器的种类更为丰富，用途也更为多样，有炊具、储物罐、碗、高足盘等等。

来自亚洲大陆的铁器、青铜器及金属加工工艺的发展

这一时期，各种铁器和青铜器被引入日本列岛，其中包括武器和典礼仪式中使用的礼器，如铜镜、铜铎等。弥生时代的手工业者逐步提高自身的金属加工技术，用进口原材料自行制造出了武器、工具、礼器和其他用品。在当时的技术水平下，青铜器比铁器更为坚固耐久，因此被认为具有更高的价值。青铜器既能制成武器，也是身份的象征，因此这类器具的出现被认为促进了社会阶层的分化。

铜铎及其他礼器

弥生时代的青铜器中，最具特色的是被称为“铎”的礼器钟。它们的表面刻有各种图案，其中一些代表人和动物。有迹象显示，部分铜铎的确曾被当作钟来使用，另一些却不然。至今少有证据能够确认铜铎的确切用途，但据推测它们很可能是用在祈祷丰收的仪式中。此外，还有一些武器模样的石头制品或许也是祭祀礼器，它们用石头磨制而成，形状类似来自朝鲜半岛的青铜或铁质的刀剑与戈刃。

敦贺的吉河遗址

吉河遗址位于敦贺平原的东南边界处，时间可追溯至弥生时代中期。从遗址北部的半地穴式房屋，以及搭建在插入地面的木柱上的平地建筑和干栏式建筑等遗迹看来，这一区域应当是居民区。遗址南部是墓地，有简单的墓穴，也有沟渠合围的长方形大墓，后者可能是权势家族成员的墓葬，其形式为弥生时代特有。此处遗址出土的器物包括陶器、磨制石器、礼器、加工程度不一的玉管及其制作工具等。

小浜的府中石田遗址

在 2005 年至 2008 年对府中石田遗址的发掘中，获得了许多重要的考古学发现。其中包括若狭地区发现的第一处沟渠合围的长方形墓葬，以及北陆地区出土的第一具木棺。此外，遗址出土了 120 根木柱，它们分别来自 69 座建筑物，为人们了解弥生时代柱基建筑结构提供了宝贵的资料。聚落的南部区域发现了底部带有简单净水装置的水井。此外，府中石田遗址还是福井县内首次出土巴形青铜器和分铜形土制品的地方。其中巴形青铜器与关西地区多处弥生时代遗址文物的典型样式相仿，而分铜形土制品则大多出土于本州西部中国地方（包括今鸟取、岛根、冈山、广岛、山口五县）和四国地区。

展品介绍

本展区主要展出若狭与敦贺地区出土的弥生时代的文物，包罗了在这一时期出现的工具、技术和陶器。府中石田遗址出土的一具木棺采用大块的日本柳杉木板制成，制作时间可追溯至大约公元前 300 年至前 200 年间。棺木底板上有一个正方形的孔洞，可能是为抬棺留出的把手。两组包括锅、罐、高足盘和其他器具组成的陶器，分别出土于府中石田遗址和吉河遗址。两处同为弥生时代聚落遗址，虽相距不远，却受到了来自不同地区的影响，这从两组陶器样式的差异上即能一目了然。

吉河遗址出土的石头小刀，是根据来自朝鲜半岛的金属刀具仿造的。从各种各样的箭簇展品中，可以了解到其加工方法与材料的发展过程。通过凿除石块多余部分制成的叶片形与三角形石箭簇，代表的是一种更加古老的工艺；磨制而成的三角形箭簇，属于弥生时代出现的新技术；最后的青铜箭簇，则是当时最为先进的金属加工工艺的产物。这里还使用吉河遗址的出土文物演示了将碧玉加工为玉管的工艺步骤。从遗址出土的工具和大量加工程度不一的玉管中可以推测，当时聚落居民中应该就有制作玉管的工匠。此外，同样值得关注的还有吉河遗址出土的鸟形陶器的残片。

<繁体字>

彌生時代的若狹與敦賀地區

概要

從「狩獵—採集」社會向農耕社會轉變是彌生時代（西元前 400 年至西元 300 年）的標誌。在這一時期，稻田耕作技術、青銅器與鐵器的金屬加工技術自亞洲大陸傳入九州北部，隨後經由該地區傳播到整個九州以及本州、四國等地。小濱和敦賀平原現已發現多處重要的彌生時代農業遺址，為我們深入瞭解該地區當時的社會、技術、文化發展情況，乃至社會階級逐步形成的過程，提供了珍貴的資料。此外，聚落遺址中出土的部分物品也證明了這裡與其他地區在當時已經有了往來聯繫。

瞭解更多

彌生陶器

與繩文時代（西元前 13,000 年至西元前 400 年）的陶器相比，彌生陶器裝飾較少，器型簡潔，更注重功能性。但此時的製陶工藝基本不變，依然是用陶土搓成長條盤繞堆疊出想要的形狀，陶胚成型後再將表面抹平，最後用尖銳的工具在器具外側刻劃出簡單的紋樣。不過，這一時期的陶器種類更為豐富，用途也更為多樣，有炊具、儲物罐、碗、高足盤等等。

來自亞洲大陸的鐵器、青銅器及金屬加工工藝的發展

這一時期，各種鐵器和青銅器被引入日本列島，其中包括兵器和典禮儀式中使用的禮器，如銅鏡、銅鐸等。隨著這些進口原料的引入，彌生時代的工匠逐漸提高自身的金屬加工技術，製造出了兵器、工具、禮器和其他用品。在當時的技術水準下，青銅器比鐵器更為堅固耐久，因此被認為具有更高的價值。青銅器既能製成兵器，也是身份的象徵，因此這類器具的出現被認為促進了社會階層的分化。

銅鐸及其他禮器

彌生時代的青銅器中，最具特色的是被稱為「鐸」的禮器鐘。它們的表面刻著各種圖案，其中一些代表人和動物。有跡象顯示，部分銅鐸的確曾被當作鐘來使用，另一些卻不然。至今少有證據能夠確認銅鐸的確切用途，但據推測它們很可能是用在祈禱豐收的儀式中。此外，還有一些狀似兵器的石頭製品也被視為祭祀禮器，它們用石頭磨製而成，形狀類似來自朝鮮半島的青銅或鐵質的刀劍與戈刃。

敦賀的吉河遺址

吉河遺址位於敦賀平原的東南邊界處，年代可上溯至彌生時代中期。從遺址北部的豎穴式居所，以及搭建在插入地面的木柱上的平地建築和干欄式建築等遺跡來看，這一區域應當是住宅區。遺址南部是墓地，有簡單的墓穴，也有溝渠合圍的長方形大墓，後者可能是權貴家族核心成員的墓葬，其形式是彌生時代所特有的。這處遺址出土的器物包括陶器、磨製石器、禮器、加工程度不一的玉管及其製作工具等。

小濱的府中石田遺址

於 2005 年至 2008 年對府中石田遺址的發掘中，獲得了許多重要的考古發現，其中包括若狹地區發現的第一處溝渠合圍的長方形墓葬，以及北陸地區出土的第一具木棺。此外，

遺址發掘出 120 根木柱，它們分別來自 69 座建築物，為研究者瞭解彌生時代柱基建築結構提供了珍貴的資料。聚落的南部區域發現了底部帶有簡單淨水裝置的水井。此外，府中石田遺址還是福井縣內首次出土巴形青銅飾品和分銅形土製品的地方。巴形青銅器與關西地區多處彌生時代遺址文物的典型樣式相仿，而分銅形土製品則大多出土於本州西部中國地方（包括今鳥取、島根、岡山、廣島、山口五縣）和四國地區。

展品介紹

本展區展出了若狹與敦賀地區出土的彌生時代的文物，包括在該時期新出現的工具、技術和陶器。來自府中石田遺址的一具木棺採用大塊的日本柳杉木板製成，製作時間可追溯至大約西元前 300 年至前 200 年間。棺木底板上有一個正方形的孔洞，據推測可能是為抬棺留出的把手。兩組由鍋、罐、高足盤和其他器具組成的陶器，分別出土於府中石田遺址和吉河遺址。這兩處同為彌生時代遺址，雖相距不遠，卻受到來自不同地區的影響，從兩組各異其趣的陶器樣式上就一目了然。

吉河遺址出土的石頭小刀是根據來自朝鮮半島的金屬刀具仿造的。從展品的各種箭簇中可以了解到其加工方法與材料的發展過程。通過鑿除石塊多餘部分製成的葉片形與三角形石箭簇代表的是一種更加古老的工藝；磨製而成的三角形箭簇代表了彌生時代出現的新技術；青銅箭簇，則是當時最為先進的金屬加工工藝的產物。透過展示吉河遺址的出土文物，形象介紹將碧玉加工為玉管的工藝步驟。從出土的工具和各種加工程度的玉管可以推測，當時聚落裡就居住著製作玉管的工匠。此外，吉河遺址還出土了鳥形雕塑的殘片，也值得關注。

<日本語仮訳>

弥生時代の若狹・敦賀地方

概要

弥生時代（紀元前 400-300）は、狩猟採集社会から農耕社会へ移行した時代です。この時期に、水田稲作法や、青銅や鉄の金属加工技術がアジア大陸から九州北部に伝わり、その後九州ほかの地域、本州、四国へと広がっていきました。弥生時代のいくつかの重要な遺跡が小浜平野と敦賀平野で発見されており、階級社会が徐々に出現してきたことなど、この地域で起こった社会的、技術的、文化的発展に関する貴重な知見を提供しています。発掘された集落の出土品の中には、他地域との繋がりを裏づけるものもあります。

もっと詳しく知る

弥生土器

縄文時代（紀元前 13,000-紀元前 400）の土器と比較すると、弥生土器は一般的に装飾が少なく、すっきりとした機能的な形をしています。土器の製法はほぼ同じで、長い粘土の紐を輪にして積み重ね、目的の形に仕上げていました。その後器の表面を滑らかにし、鋭い道具を使って外側に簡

単な模様を刻みます。しかし、用途の多様化を反映して陶器の種類は増加し、煮炊き用の甕、保存用の壺、鉢、高坏などが作られるようになりました。

アジア大陸からの鉄・青銅製品と金属加工の発展

この時代、日本列島に、武器や儀式用の道具（銅鏡や銅鐸）など、さまざまな鉄や青銅製品がもたらされました。その後、弥生時代の職人たちは、輸入された原料から武器や道具、祭具などを作成するために、金属加工技術を発達させていきました。当時の技術力では、青銅は鉄よりも耐久性に優れ、より価値が高いとされていました。青銅製品が武器と身分の象徴の両方に利用されたことで、社会階層の発展につながったと考えられます。

銅鐸とその他の祭具

弥生時代に作られた青銅器で最も特徴的なのが、銅鐸と呼ばれる儀式用の鐘です。表面にはさまざまな文様が施され、動物や人物が描かれているものもあります。銅鐸は実際に鐘として使われたものもあれば、そうでないものもあったということを示す証拠もあります。銅鐸の正確な用途についてはほとんど確認されていませんが、豊作を祈る儀式に使われたと推測されています。その他に、朝鮮半島から輸入された青銅や鉄の剣と戈の刃の形を模して、石を研磨して作られた武器型の石器も祭祀用と推測されています。

敦賀の吉河遺跡

弥生時代中期にできた吉河遺跡は、敦賀平野の南東の端に位置しています。遺跡の北部は居住域であったことが、竪穴式住居や、地中に埋められた木の柱を使って建てる平地式＆高床式建物などによって証明されています。南部は墓地で、簡易な墓穴と、影響力のある一族を埋葬するためのものと考えられる溝で囲まれた大きな長方形の墓があります。後者の埋葬形式は、弥生時代に特徴的な様式です。この場所で出土した遺物には、土器や磨製石器、祭器、様々な製作段階の管玉、そして管玉を作るための道具類が含まれています。

小浜の府中石田遺跡

2005年～2008年に発掘が行われた府中石田遺跡では、多くの重要な考古学的発見がありました。その中には若狭地域で初めて発見された、溝で区画された方形の墓と、北陸地方で初めて発見された木棺が含まれていました。69棟の構造物に使われた木製の柱約120本がこの遺跡から出土し、弥生時代の柱を基礎にした建物の構造に関する貴重な資料が得られました。集落の南部では、底部に基本的な浄水装置を備えた井戸が見つかりました。加えて、関西地方の弥生遺跡でよく見られるものに似た巴形銅器と、主に本州西部の中国地方（鳥取、島根、岡山、広島、山口の5県）と四国で出土している分銅形土製品が、福井県で初めて府中石田遺跡で発見されました。

展示品

このコーナーでは、若狭と敦賀地方で発掘された、新しい道具、技術、土器の出現を反映した弥生時代の遺物を展示しています。府中石田遺跡から出土した木棺はおよそ紀元前300年～紀元

前 200 年のもので、大きな杉板を使って作られています。底板には棺を持つための取っ手と思われる四角い穴が開いています。府中石田遺跡と吉河遺跡から出土した二組の甕、壺、高坏、その他の土器は土器の形態に違いがあり、比較的近接したこの 2 つの弥生集落それぞれに対する異なる地域からの影響を示しています。

吉河遺跡で発見された石の小刀は、朝鮮半島からもたらされた金属の刀に基づいて作られました。展示されているさまざまな矢じりは、製造方法と材料の段階的な発展を表しています。石の一部を削って作った葉形や三角形の石鏃は、古い技法を示しています。削り出された三角形の鏃には、弥生時代に生まれた新しい技法が見られます。最後の青銅の矢じりは、当時の最新技術である金属加工の一例です。吉河遺跡の出土品を使って、碧玉の管玉を作る工程を紹介しています。発見された道具類と、完成までのさまざまな段階にある多数の管玉は、管玉製造がこの遺跡の住人たちの職業であったことを示唆しています。鳥の形をした土製品の欠片も、吉河遺跡の注目すべき出土品です。

【タイトル】 古墳時代の若狭・敦賀地方

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

古墳時代の若狭と敦賀地区

概要

古墳時代（約 250-552 年），大和朝廷執掌了如今的奈良縣和大阪府區域，并逐漸將勢力擴張至更偏遠的氏族領地。而這個時代的名字，源於為當時皇室、部族首領以及其他權勢人物等統治階層成員修造的大型古墳。這些古墳既是陵墓，也是權勢與政治地位的象征。墓主人的尸身通常安放在一處石墓室內，墓室上方覆土築丘。陪葬品有武器、馬具、農具、其他工具，以及珠寶飾品、禮器等。日本列島各處的前方後圓式古墳被認為是大和朝廷權利的象征。若狹和敦賀地區也存在大量古墳，對建於 5 世紀中葉至 6 世紀中葉的古墳進行發掘調查和分析後發現，這一地區在大和朝廷與朝鮮半島古代王國的關係中發揮了重要的作用。

了解更多

古墳文化及其與大和朝廷的關係

大多數古墳分為前方後圓、前方後方、圓形及正方形等幾種樣式。這些墓葬的樣式、規模，或許就反映了大和朝廷時期確立的政治及社會等級體系。在若狹和敦賀地區，已確認的前方後圓式古墳大約有 20 座，還有數座大型圓墳。據推測，這些墓葬的主人可能都是與大和朝廷有關或至少聯繫緊密的強大氏族的首領。5 世紀中葉至 6 世紀早期的若狹地區古墳已經開始採用橫穴式石墓室，這種墓穴樣式最初出現在九州。此外，從這一時期的古墳中也出土了來自朝鮮半島的陪葬品。這反映了若狹地區氏族與九州北部及朝鮮半島的緊密聯繫，或許這些氏族還參與了大和朝廷與朝鮮古代王國的外交往來。

若狹地區最大的古墳

在若狹及敦賀地區的大型古墳中，有許多都位於今小浜市與若狹町之間的北川流域。該區域內有 7 座是若狹氏族首領的最大型古墳，均為前方後圓樣式，長度從 63 米到 100 米不等。上之塚古墳是其中最大的一座，歷史可追溯至公元 5 世紀早期。本地區最後一座強大氏族首領的墓葬叫丸山塚古墳，這座圓形古墳建於 6 世紀中葉，直徑約 50 米，但現已不存。大型古墳大都有兩層或三層墳丘，用名為“埴輪”的陶土製品劃分區域，并被壕溝環繞，墳丘坡面上覆蓋石頭。這些特征都源自大和朝廷統治者及其一族的古墳樣式。

陪葬品

与其他地方一样，若狭地区古坟中也发现了陪葬品，包括镜子、青铜装饰品、珠宝、马具、陶器、刀剑等武器及各类工具等。以地处若狭地区中部的西塚古坟为例，这座 5 世纪晚期的氏族首领坟墓中出土了黄金耳饰、青铜镜、镀金铜带类配饰、银铃等，其中部分物品来自朝鲜半岛。这些贵重文物（尤其是带类配饰）是地位与权力的象征，可以推测西塚古坟的主人应该是一位重要人物，在大和朝廷与朝鲜半岛古代王国的交流中占有一席之地。

须惠器

公元 4 世纪早期，日本出现了一种名为“土师器”的红褐色无釉素烧陶器。和弥生时代（公元前 400 年～公元 300 年）的陶器烧制工艺一样，土师器为手工塑形，烧制温度也只有 700～800°C。进入 5 世纪上半叶后，一种新的陶器制作工艺自朝鲜半岛传入。在这种工艺中，人们使用陶轮来制作陶胚，定型后放入依山而建的隧道状窑炉中，以 1000°C 高温烧制。烧制完成的陶器呈灰色，更加坚固耐久，渗透性更低，这就是“须惠器”。5 世纪中叶，古坟外使用的祭祀礼器中开始出现须惠器。及至 6 世纪早期，陪葬品中的陶器制品便以须惠器居多，土师器偏少。

展品介绍

这里展出了大量狮子塚古坟出土的陪葬品。这座 34 米长、前方后圆式的坟墓位于若狭的美滨地区，于 6 世纪早期为本地一位首领建造。展品中包括了多种须惠器，如锅具、装饰用高罐、罐架、高足盘和盖子、一个带有插管孔的饮水罐，另有在须惠器中难得一见的角形饮具。距离狮子塚古坟不远的山坡上还发现了一处为这座坟墓烧制须惠器的窑炉遗址。除此以外，古坟内出土的陪葬品还包括长刀、鹿角柄刀、铁箭簇等武器；马具的部分零件；镰刀、斧头、夹钳等铁器。本展区内展出的饰品主要是一组出土于墓室内的玉器，由圆形玉珠、玉管和巴形勾玉组成，应该来自于一条项链。这里展出的圆筒形大埴轮使用了城山古坟出土的埴轮残片修复而成，城山古坟是若狭地区一名首领的坟墓，建于公元 5 世纪上半叶。

古坟的横剖面模型根据建于公元 5 世纪中叶的向山古坟 1 号墓制作，该古坟为前方后圆式样。此处遗址中还发掘出了一个横穴式墓室，这种墓室样式更古老一些，多见于九州北部。研究推断，若狭是本州内最早采用这种墓葬结构的地区之一。向山古坟前部的方形区域内有一个放置武器的长方形坑洞，由此推测，安葬在石室内的墓主人生前可能是一名杰出的武士。陪葬品中还有一枚出自朝鲜半岛的金耳饰，说明当时若狭地区已经与朝鲜半岛的古代王国有了交流往来。

<繁体字>

古墳時代の若狹與敦賀地區

概要

古墳時代（約 250-552 年），大和朝廷執掌了如今的奈良縣和大阪府區域，並逐漸將勢力擴張至更偏遠的氏族領地。這個時代得名於當時建造的大型古墳——主要用以安葬皇室成員、部族首領和其他權貴等統治階層成員。這些古墳既是陵墓，也是權勢與政治地位的象徵。墓主人的屍身通常安放在一座石墓室內，墓室上方覆土築丘。陪葬品有兵器、馬具、農具、其他工具，以及珠寶飾品、禮器等。散布在日本列島各地的前方後圓式古墳被認為是大和朝廷權利的象徵。若狹和敦賀地區也有眾多古墳，在對建於 5 世紀中葉至 6 世紀中葉的古墳發掘調查和分析中發現，這一地區在大和朝廷與朝鮮半島古代王國的交流中扮演著重要的角色。

瞭解更多

古墳文化及其與大和朝廷的關係

大多數古墳分為前方後圓、前方後方、圓形及正方形墳等幾種樣式。學者推測，這些墳墓的樣式、規模反映了大和朝廷時期確立的政治及社會階級體系。在若狹和敦賀地區，已確認的前方後圓式古墳大約有 20 座，還有數座大型圓墳。據推測，墓主可能都是與大和朝廷有關或至少關係緊密的強大氏族的首領。5 世紀中葉至 6 世紀早期的若狹地區古墳已經開始採用橫穴式石墓室，這種墓穴樣式最初出現在九州。此外，從這一時期的古墳中還出土了來自朝鮮半島的陪葬品。通常認為，這反映了若狹地區氏族與九州北部及朝鮮半島的緊密聯繫，或許這些氏族就參與了大和朝廷與朝鮮古代王國的外交往來。

若狹地區最大的古墳

在若狹及敦賀地區的大型古墳中，有許多都位於今小濱市與若狹町之間的北川流域。該區域內有 7 座若狹的氏族首領的最大型古墳，均為前方後圓樣式，長度從 63 公尺到 100 公尺不等。上之塚古墳是其中最大的一座，年代可追溯至西元 5 世紀早期。丸山塚古墳埋葬的是該地區最後一座權貴氏族領袖的墳墓，這座圓形古墳建於 6 世紀中葉，直徑約 50 公尺，現已不復存在。大型古墳大都有兩層或三層墳丘，用名為「埴輪」的陶土製品劃分區域，並被壕溝環繞，墳丘坡面上覆蓋石頭。這些特徵都源自大和朝廷統治者及其一族古墳樣式。

陪葬品

與其他地方一樣，若狹地區古墳也發現了陪葬品，有鏡子、青銅裝飾品、珠寶、馬具、陶器、刀劍等武器及各類工具等。以地處若狹地區中部的西塚古墳為例，這座 5 世紀晚期的氏族首領墳墓中出土了黃金耳飾、青銅鏡、鍍金銅帶類配飾、銀鈴等，其中部分物品來自朝鮮半島。這些貴重文物（尤其是帶類配飾）是地位與權力的象徵，可以推測西塚古墳的主人應當是一位重要人物，在大和朝廷與朝鮮半島古代王國的交流中佔有一席之地。

須惠器

西元 4 世紀早期，日本出現了一種名為「土師器」的紅褐色無釉素燒陶器。和彌生時代（西元前 400 年至西元 300 年）的陶器燒製工藝一樣，土師器為手工塑形，燒製溫度也

只有 700～800°C。進入 5 世紀上半葉後，一種新的陶器製作工藝自朝鮮半島傳入。這種工藝使用陶輪來製作陶胚，定型後放入依山而建的隧道狀窯爐中，以 1000°C 高溫燒製。燒製完成的陶器呈灰色，更加堅固耐久，滲透性更低，這就是「須惠器」。5 世紀中葉，古墳外使用的祭祀禮器中開始出現須惠器，及至 6 世紀早期，陪葬品中的陶器製品便以須惠器為主，而土師器偏少。

展品介紹

這裡展出了大量獅子塚古墳出土的陪葬品。這座 34 公尺長、前方後圓式的墳墓位於若狹的美濱地區，建於 6 世紀早期，是當地某位首領的陵墓。展品中包括了多種須惠器，如鍋具、裝飾用高罐、罐架、高足盤和蓋子、一個帶有插管孔的飲水罐，另有在須惠器中難得一見的角形飲具。距離獅子塚古墳不遠的山坡上，還發現了一處燒製陪葬品的須惠器窯爐遺址。除此以外，古墳內出土的陪葬品還有長刀、鹿角柄刀、鐵箭簇等兵器；馬具的部分零件；鐮刀、斧頭、夾鉗等鐵器。本展區內展出的飾品主要是一組出土於墓室內的玉器，由圓形玉珠、玉管和巴形勾玉組成，應該來自於一條項鍊。這裡展出的圓筒形大埴輪用城山古墳出土的埴輪殘片修復而成，城山古墳是若狹地區一名首領的墳墓，建於西元 5 世紀上半葉。

古墳的橫剖面模型根據建於西元 5 世紀中葉的向山古墳 1 號墓創作，該墳墓為前方後圓式樣。這處遺址中發掘出了一個橫穴式墓室，這種墓室樣式更為古老，多見於九州北部。研究推斷，若狹是本州內最早採用這種墓葬結構的地區之一。向山古墳前部的方形區域內有一個放置兵器的長方形坑洞，由此推測，安葬在石室內的墓主人生前可能是一名傑出的武士。陪葬品中還有一枚出自朝鮮半島的金耳飾，說明當時若狹地區已經與朝鮮半島的古代王國有交流往來。

<日本語仮訳>

古墳時代の若狹・敦賀地方

概要

古墳時代（約 250-552 年）には、大和朝廷が現在の奈良県や大阪府で権力を握り、遠く離れた地域を支配する氏族への影響力を徐々に拡大していました。この時代の名前は、天皇や一族の指導者、その他の有力者など、支配階級の人のために建設された大規模な古墳に由来しています。古墳は墓としてだけでなく、権力や政治的地位を示すものとしても機能しました。故人の遺体は、大抵は石の埋葬室に入れられ、それを覆うように土の塚が築かれました。故人には、武器や馬具、農具やその他の道具、装飾品、祭器などの副葬品が添えられました。日本列島の各地に築かれた前方後円墳は、大和朝廷の権力の象徴と考えられています。若狹・敦賀地方でも、多くの古墳が築かれており、5 世紀半ばから 6 世紀半ばにかけて築かれた古墳の発掘調査や分析から、この地域が大和朝廷と朝鮮半島の古代王国との関係において重要な役割を果たしたことが示唆されています。

もっと詳しく知る

古墳文化と大和朝廷とのつながり

ほとんどの古墳は、前方後円墳、前方後方墳、円墳、または方墳でした。古墳の形や大きさは、大和朝廷によって確立された政治的および社会的階層を反映していると考えられています。若狭・敦賀地方では約 20 基の前方後円墳と数基の大型円墳の存在が確認されています。これらは、大和と関係が深い、あるいは強いつながりを持つ有力な氏族の長の墓であったと考えられます。5 世紀半ばから 6 世紀前半にかけて若狭に築かれた古墳には、最初に九州で出現した横穴式石室の採用や、朝鮮半島からもたらされた副葬品の使用が見られます。これは、若狭の氏族が、北九州や朝鮮半島の人々と深いつながりを持っていたことを反映しており、大和朝廷と朝鮮の古代王朝との外交に関わっていたことを示しているのかもしれない。

若狭地域で最大の古墳

若狭・敦賀地域で特に大きな古墳の多くは、小浜市と若狭町の間にある北川流域にあります。この地域で、若狭の氏族の長のために造られた 7 つの最大の古墳は前方後円墳で、全長は 63 メートルから 100 メートルでした。最も大きな古墳は上之塚古墳で、5 世紀初頭に造られました。この地域の強力な氏族の長のための最後の大規模な古墳は丸山塚古墳で、6 世紀半ばに造られた直径約 50m の円墳でした。しかし、現存はしていません。これらの大規模古墳の多くは、2 層または 3 層の墳丘で、埴輪と呼ばれる土製品によって区切られ、堀に囲まれており、また墳丘の斜面は石で覆われていました。このような特徴は、大和の支配者とその一族の古墳の様式を採用したことによるものです。

副葬品

他の地域の古墳と同様に、若狭の古墳からも副葬品が出土しており、鏡や青銅の装飾品、宝飾品、刀やその他の武器、馬具、農工具、土器などが含まれていました。例えば、若狭中心部にある 5 世紀後半の氏族長の墓である西塚古墳からは、金の耳飾り、銅鏡、金銅の帯具、銀の鈴などが発見されており、その中には朝鮮半島で作られたものもありました。これらの価値の高い品物（特に帯飾り）は、地位と権力の象徴であり、西塚古墳の埋葬者が大和朝廷と朝鮮半島の王国との関係において大切な役割を果たした重要人物であったことを示唆しています。

須恵器

4 世紀初頭、「土師器」と呼ばれる素焼きの赤褐色の陶器が日本で生まれました。土師器は弥生時代（紀元前 400 年-紀元 300 年）と同様に手で成形され、700～800℃で焼成されました。しかし、5 世紀前半に朝鮮半島から、ロクロで成形し、丘の斜面の中に造られた「トンネル」窯で、1000℃で焼成するという新しい陶器の製造技術が輸入されました。これにより、須恵器と呼ばれる、耐久性が高く、浸透性が低い、灰色の陶器が生み出されました。5 世紀半ばには、古墳の外側で祭祀に使われた物に須恵器が含まれるようになり、6 世紀初頭には数多くの須恵器が少量の土師器とともに副葬品としてよく使われました。

展示品

展示されている大量の副葬品は、若狭の美浜地域で6世紀初頭に地元の指導者のために造られた、34メートルの前方後円墳である獅子塚古墳から発見されました。その中にはたくさんの種類の須恵器が含まれ、鍋や背の高い装飾的な壺、壺をのせる台、脚付きの盆とその蓋、管を刺すための穴がある飲み物を注ぐ壺、そして須恵器の中でも特に珍しい例である角形の飲用の器などがありました。獅子塚古墳用の土器を作っていた窯の跡が、近くの山腹で発見されています。その他の副葬品には、長刀、鹿角の柄のナイフ、鉄製の鍬などの武器、馬具の一部、湾曲した鎌、斧、トングなどの鉄製の農具があります。展示されている装飾品は、石室から出土した丸い玉や管玉、コンマの形をした勾玉を組み合わせたものです。この玉は元々、いくつかのネックレスのパーツでした。大きな円筒型の埴輪は、5世紀前半に築造された若狭の族長の墓である城山古墳から出土した破片から復元されました。

古墳の断面の模型は、5世紀半ば頃に造られた前方後円墳の向山古墳1号です。発掘調査によって、九州北部で用いられた古い埋葬形式と同じ横穴式石室が発見され、若狭は本州で最初にこのような型の石室構造を採用した地域の1つであることが判明しました。古墳の前方部には武器を収めた長方形の穴があり、石室に埋葬された人物は傑出した戦士であった可能性があります。副葬品の中には、朝鮮半島の金のイヤリングがあり、若狭と朝鮮の旧王国との間にはすでにつながりがあったことを示しています。

【タイトル】 膳臣の進出

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

“膳臣”家族の崛起

概要

若狭地区与首都在政治及经济上的联系大约成形于公元 8 世纪之前。那时朝廷已经认识到了若狭地区在自然资源及其地处日本海沿岸的战略位置上的价值。统治这一地区的强大氏族受命向天皇和朝廷贵族提供以海产品为主的食材。作为宫廷食材的指定供应者，这个氏族被赐以“膳臣”的称号。

了解更多

为宫廷供应食材的若狭强大氏族

在公元 7 世纪下半叶，若狭地区被归入位于如今奈良县的大和朝廷治下。在日本海沿岸诸地之中，若狭距离首都最近，因此是理想的海产品供给地。为了控制这些资源，朝廷授命统治若狭的一个强大氏族负责为宫廷供应当地出产的食材，并正式赐予其“膳臣”之名。在接下来的数世纪里，随着商贸道路网络的发展和当地丰富海产的需求大增，若狭地区与奈良、京都这先后两个首都的关系日益增进，不断强化。

古坟与膳臣家族

在若狭地区发现的古坟中，有一些可能与膳臣家族有关。该家族统治若狭地区的时期，正好与为氏族首领和其他权势人物修建古坟的年代相符。在若狭地区古坟发掘中出土的各种陪葬品显示，当时这里是一个首都与亚洲大陆交易的贸易枢纽。此外，珍贵稀有的陪葬品也是身份和地位的象征，这就暗示了这些古坟应该是为与首都有关联的重要人物而建，例如膳臣家族。

展品介绍

本展区主要展出膳臣家族及其在若狭地区活动的相关文物与历史资料。展品包括从若狭地区境内几座古坟之一的西塚古坟墓室中出土的陪葬品复制件，其中有带装饰的镜子、银铃、镀金铜带饰、金耳饰等。而陶器残片是来自沿坟丘外围排列的礼器“埴轮”。

展品中有两份文稿，是江户时代(1603-1867)誊抄的《先代旧事本纪》和《日本书纪》。这两部早期日本历史典籍里记载了一些有关膳臣家族的信息。以《先代旧事本纪》为例，书中第 10 卷讲述了膳臣家族创始人的儿子荒砺命在公元 5 世纪受命统治若狭地区的经过。

<繁体字>

「膳臣」の崛起

概要

若狹地區與首都在政治及經濟上的交流大約成形於西元 8 世紀之前。當時，朝廷已經認識到了若狹地區在自然資源及其地處日本海沿岸的戰略位置上的價值。統治這一地區的強大氏族受命向天皇和朝廷貴族提供以海產為主的食材。作為宮廷食材的指定供應者，他們被賜以「膳臣」的稱號。

瞭解更多

為宮廷供應食材的若狹強大氏族

在西元 7 世紀下半葉，若狹地區被納入了位於如今奈良縣的大和朝廷統治之下。在日本海沿岸諸地之中，若狹距離首都最近，因此是理想的海產供給地。為了控制這些資源，朝廷授命統治若狹的一個強大氏族負責為宮廷供應當地出產的食材，並正式賜予其「膳臣」之名。在隨後的數世紀裡，隨著商貿網路的發展和當地豐富海產的需求大增，若狹地區與奈良、京都這先後兩個首都的關係日益增進，不斷強化。

古墳與膳臣

在若狹地區出土的一些古墳可能與膳臣有關，因為膳臣統治該地區的時期，正好與為氏族首領和其他權貴修建古墳的時代相符。在若狹地區古墳發掘中出土的各種陪葬品提供了有關當時社會的許多信息，顯示這裡是一個首都與亞洲大陸交易的貿易樞紐。此外，珍貴稀有的陪葬品是身份地位的象徵，這也意味著這些古墳是為與首都有聯繫的重要人物而建，例如膳臣。

展品介紹

本展區主要展出膳臣及其在若狹地區活動的相關文物與歷史資料。展品包括從若狹地區境內幾座古墳之一的西塚古墳墓室中出土的陪葬品的複製品，其中有帶裝飾的鏡子、銀鈴、鍍金銅帶飾、金耳飾等。而陶器殘片是來自沿墳丘週邊排列的禮器「埴輪」。

展品中有兩份文稿，分別為《先代舊事本紀》和《日本書紀》，是江戶時代(1603-1867)的抄本。這兩部典籍記載日本早期歷史中關於膳臣的資料。以《先代舊事本紀》為例，書中第 10 卷講述了膳臣先祖的兒子荒礪命在西元 5 世紀受命統治若狹地區的過程。

<日本語仮訳>

膳臣の進出

概要

若狹と都との間の政治と経済的な結びつきは、8 世紀以前あたりから形成され始めました。その時まで、朝廷はすでに若狹の天然の資源と日本海沿岸の戦略的位置の価値を認識していました。こ

の地域を統治する有力な氏族は、天皇や公家に食料（特に海産物）を供給する責任を負っていました。公式な朝廷への食料の提供者として、この氏族は「膳臣」の称号を与えられました。

もっと詳しく知る

宮廷に食料を供給した若狭の有力氏族

7世紀後半、若狭地方は現在の奈良県にあった大和朝廷の管轄下に置かれるようになりました。若狭は日本海側の地域の中で最も都に近かったため、理想的な海産物の供給元でした。これらの資源を確保するために、この地域を支配していた有力な氏族が若狭から朝廷への食料供給を担当する役人に任命され、公式に膳臣として知られるようになりました。その後の数世紀の間に、都（奈良、後に京都）との関係は、交易網と、若狭からの豊富な海産物に対する高い需要によって発展し、強化されていきました。

古代の古墳と膳臣

膳臣は、若狭地方で発見された古墳の一部と関連があると考えられています。この一族は、貴族や氏族の長、その他の強力な人物のために墓が建てられた時代に、統治を行っていました。若狭の古墳の発掘調査では、この地域が都やアジア大陸との間の貿易拠点だったことを示すさまざまな副葬品が出土しています。社会的地位を示す希少価値の高いこうした品々は、膳臣氏など都と縁のある重要人物のために築造された古墳であったことを示しています。

展示品

ここでは、膳臣氏や彼らの若狭地方での活動にまつわる遺物や史料を展示しています。若狭にある古墳の一つである西塚古墳の玄室から出土した副葬品のレプリカには、装飾された鏡、銀の鐘、金銅の帯金具、金のイヤリングなどがあります。粘土の破片は、かつて古墳の外側に並んでいた儀式用の道具である埴輪に由来するものです。

展示されている文書は、膳臣に関する情報が記載されている初期の日本の歴史書のうち、江戸時代（1603-1867）に写本された『先代旧事本紀』と『日本書紀』の2つです。例えば、『先代旧事本紀』の第10巻には、氏祖の息子であった荒礪命が5世紀に若狭地方を統治するよう任命された経緯が記されています。

【タイトル】 若狭と敦賀の木簡

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

若狭与敦贺的“木简”

概要

若狭国曾以食物向朝廷上缴部分税赋与岁贡。位于如今奈良县的古都藤原京和平城京发掘出了 8 世纪时记录进贡物资信息的木头牌子，这种类似货签的东西被称为“木简”。牌子上的文字注明了货物产地、对应税赋或岁贡、所含食物种类。若狭地区需要缴纳的税贡中包括了大量的盐以及海鲷、贝类、海胆等多种海产品。

了解更多

供应宫廷食材的证据

在对藤原京（694-710 年的首都）和平城京（710-740 年、745-784 年的首都）的发掘过程中出土了来自若狭地区的木简。这表明若狭国是一个“御食国”，也就是受命为天皇和宫廷供应食材的地区。“国”是当时的行政区划，并非国家。当时的御食国还包括淡路国（今兵库县淡路岛）、伊势国和志摩国（两者均在今三重县）。

木简的物理特征与承载信息

现已出土的木简中，最早的可追溯至公元 687 年。这些木简多取材日本扁柏或日本柳杉，长度介于大约 8~24 厘米之间。木简上标注的文字提供了货物产地、所缴税贡种类、缴税者姓名和所包含食材种类等信息。

缴税记录

许多标记为盐运的木简都用来支付一项称作“调”的个人税。这种税根据平民阶层中年龄与工作能力的差异来调整。当时，稻米、黄豆等食物可以代替货币缴纳多种税赋，但“调”税却不能以稻米抵缴，只能用生丝、木料等其他物品缴纳。若狭国是重要的盐产区，因此当地居民主要用盐来支付“调”税。

这些随货送往首都的木简上列出的食品还包括远东拟沙丁鱼、海鲷、贻贝、海胆、鲍鱼、海鞘、鱿鱼、海参、海藻等等。

展品介绍

大玻璃展柜里悬挂着古都出土的木简复制品，每一块的正反两面都清晰可见。展柜旁的触摸式显示屏“木简导航”内置电子数据库，其中收录了数十块木简的信息，可通过年

代、发货地和货品三种方式检索查看。每一页都显示一块附有日本古文的木简高清图片，旁边配有现代日语翻译和货品的插图。

<繁体字>

若狭與敦賀的「木簡」

概要

若狭國曾以食物向朝廷上繳部分稅賦與歲貢。在如今奈良縣的兩個古都藤原京和平城京中，發掘出了 8 世紀時記錄貢品資料的木牌，這種類似貨運標籤的東西被稱為「木簡」。牌子上的文字注明了貨物產地、對應稅賦或歲貢、所含食物種類。若狭地區需要繳納的稅貢中包括了大量的鹽以及海鯛、貝類、海膽等多種海產。

瞭解更多

供應宮廷食材的證據

在藤原京（694-710 年的首都）和平城京（710-740 年、745-784 年的首都）的發掘過程中出土了來自若狭地區的木簡。這表明若狭國是一個「御食國」，也就是受命為天皇和宮廷供應食材的地區。「國」則是當時的行政區劃，而非今日國家之意。當時的御食國還包括淡路國（今兵庫縣淡路島）、伊勢國和志摩國（兩者均在今三重縣）。

木簡的物理特徵與承載資訊

現已出土的木簡中，最早的可追溯至西元 687 年。這些木簡多取材日本扁柏或日本柳杉，長度介於大約 8~24 公分之間。木簡上標注的文字提供了貨物產地、所繳稅貢種類、繳稅者姓名和所包含食材種類等資料。

繳稅記錄

許多標記為鹽運的木簡都用來支付一項稱作「調」的個人稅，這種稅制根據年齡與工作能力差異來調整。當時，稻米、黃豆等食物可以代替貨幣，用來繳納多種稅賦。但「調」稅卻不能以稻米抵繳，只能用生絲、木料等其他物品繳納。若狭國是重要的鹽產區，因此當地居民主要用鹽來支付「調」稅。

這些隨貨送往首都的木簡上列出的食品還包括：青鱗魚、海鯛、貽貝、海膽、鮑魚、海鞘、魷魚、海參、海藻等等。

展品介紹

大玻璃展櫃裡懸掛著古都出土的木簡複製品，每一塊木簡的正反兩面都清晰可見。展櫃旁的觸碰式螢幕「木簡導航」內置電子資料庫，收錄了數十塊木簡的資訊，可通過年代、出貨地和貨品三種方式檢索查看。每一頁都顯示一塊附有日本古文的木簡高解析圖片，配有現代日文翻譯和貨品的插圖。

<日本語仮訳>

若狭と敦賀の木簡

概要

若狭国は、一定の税や貢納物を食物の形で朝廷に納めていました。8世紀にこのような支払いのための荷札として使われた木簡と呼ばれる木の板が、古代の都であり、現在の奈良県にあった藤原京や平城京から出土しています。木簡には、産地や関連する税または貢納物、貨物に含まれる食品の種類が刻まれていました。若狭からの支払いには、大量の塩と、タイ、イガイ、ウニなどのさまざまな海産物が含まれていました。

もっと詳しく知る

宮廷への食料供給の証拠

若狭地方の木簡は、かつての都であった藤原京（694～710年にかけての都）、平城京（710～740年と745年～784年にかけての都）の発掘調査で出土しました。このことから若狭国は、御食国と呼ばれる、天皇や朝廷のための食料を供給する地として指定された地域であったことが伺えます。ここの「国」は古代日本の行政区画であり、いまの「国家」とは異なる。その他の御食国は、淡路国（現在の兵庫県淡路島）、伊勢国、志摩国（いずれも現在の三重県）です。

木簡の物理的特徴と情報

出土した最古の木簡は687年のものです。木簡は通常はヒノキまたはスギでできており、長さは約8cmから24cmです。荷物がどの地域から来たのか、どの税の支払いに関係しているか、誰が納税者であるか、どのような種類の食品が含まれていたかなどの情報が書かれています。

記録された納税形態

塩の出荷を記載した木簡の多くは、年齢と労働能力に応じて調整される平民階級の人々に課される個人税の一種、調を支払うためのものでした。当時、様々な税はお金ではなく、米や大豆などの食料で納められていました。しかし、調は生糸や材木など、米以外の品物で支払わなければなりません。若狭国は重要な塩の産地であったため、人々の調の主な支払い形態は塩でした。

その他の都に向けた荷物として木簡に記載された食品には、マイワシ、タイ、イガイ、ウニ、アワビ、ホヤ、イカ、ナマコ、海藻などがあります。

展示品

古都の遺跡から出土した木簡の複製が大きなガラスケースに吊り下げられており、木簡の表と裏の両方が容易に見られます。ケースの隣にあるタッチパネル式の「木簡ナビ」は、数十点の木簡を年代・出荷地・内容物の3つのカテゴリで検索できるデジタルデータベースです。各ページには、高解像度の木簡の画像と古い日本語の文が表示され、現代語訳と内容物のイラストが添えられています。

【タイトル】若狭国：天皇への食糧供給

【想定媒体】アプリQRコード

<簡体字>

若狭国：为天皇供应食材

概要

大约在公元 8 世纪至 10 世纪，若狭国被指定为负责向皇室和宫廷提供食材、并以此冲抵部分税贡的“御食国”。若狭国以出产盐和丰富的海产品而闻名。从“木简”（货签）与相关史料的记载中可以了解到，当年这些被选出的沿海各“国”（日本古代行政区划，有别于“国家”）是如何满足首都贵族需求，以及究竟为天皇和宫廷供应了哪些种类的食材。

了解更多

御食国：御用食材指定供应地区

奈良时代(710-794)，有几个指定地区负责为宫廷供应食材，它们被称为“御食国”。御食国的选定通常考虑两个要素，一是沿海且海产品丰富；二是靠近首都，能确保食物新鲜送达。公元 8 世纪的歌集《万叶集》里特别提到过三个御食国，分别是淡路国（今兵库县淡路岛）、伊势国和志摩国（两者均在今三重县）。

宫廷食材供应地“若狭国”

现存史料文献中并没有直接将若狭国称为“御食国”的记录，但多项历史考证显示，它应该也是其中之一。最有力的证据是来自若狭国的货运标签“木简”，它们出土于地处今奈良县的古都藤原京（694-710 年首都）和平城京（710-740 年及 745-784 年首都）的发掘现场。木简上记录着货物产地、所抵税赋、纳税人和食材种类等信息。此外，奈良东大寺的古代记录里也将若狭国与其他三个官方正式指定的御食国相提并论，称它们为“每月上供珍贵食材之地”。

《延喜式》中的以食纳税记录

《延喜式》汇集了公元 10 世纪早期的风俗民情与官方事务，里面记载了若狭国用盐和海产品缴纳税贡的详细信息。当时，允许用于缴纳税贡的食品包括盐、海鲷、贻贝、远东拟沙丁鱼、海胆、鲍鱼、海鞘、鱿鱼、海参、海藻等。若狭国在《延喜式》里被列为赋税和贡品的双重缴纳者，有观点认为，这进一步证明了该地区的“御食国”身份。

展品介绍

本展区展示了 8 世纪时皇居里一顿标准的皇家餐食。史料中描述，天皇用膳时坐在低

矮的长条椅上，面对一张朱漆桌子，用筷子和银勺享用盛在银碗里的餐食。四个小容器里是四味调料，包括酱（味噌和酱油的前身）、盐、醋和清酒。研究者由此认为，当时的菜肴可能接近原味，上桌后由就餐者自行调味。

<繁体字>

若狭國：為天皇供應食材

概要

大約在西元 8 世紀至 10 世紀，若狭國被指定為「御食國」，即負責向皇室和宮廷提供食材，並以此繳納部分稅貢。若狭國以出產鹽和豐富的海產而聞名。通過「木簡」（貨運標籤）與相關史料的記載，我們可以瞭解到當年這些被選出的沿海各「國」（日本古代行政區劃，有別於「國家」）是如何滿足首都貴族需求，以及究竟為天皇和宮廷供應了哪些種類的食材。

瞭解更多

御食國：御用食材指定供應地區

奈良時代（710-794），有幾個指定的地區負責為宮廷供應食材，它們被稱為「御食國」。御食國的選定通常考慮兩個要求，一是沿海，且海產豐富；二是鄰近首都，能確保食物新鮮送達。西元 8 世紀的歌集《萬葉集》裡特別提到過三個御食國，分別是淡路國（今兵庫縣淡路島）、伊勢國和志摩國（兩者均在今三重縣）。

宮廷食材供應地「若狭國」

現存史料文獻中並沒有直接將若狭國稱為御食國的記錄，但多項歷史證據顯示，它應該也是其中一處。最有力的證據是來自若狭國的貨運標籤「木簡」，它們出土於地處今奈良縣的古都藤原京（694-710 年首都）和平城京（710-740 年及 745-784 年首都）的發掘現場。木簡上記錄著貨物產地、所抵稅賦、納稅人和食材種類等資訊。此外，奈良東大寺的古代記錄裡也將若狭國與其他三個官方正式指定的御食國相提並論，稱其為「每月上供珍貴食材之地」。

《延喜式》中的以食納稅記錄

《延喜式》彙集了西元 10 世紀早期的風俗民情與官方事務，記載了若狭國用鹽和海產繳納稅貢的詳細情形。當時，允許用於繳納稅貢的食品包括鹽、海鯛、貽貝、青鱗魚、海膽、鮑魚、海鞘、魷魚、海參、海藻等。若狭國在《延喜式》裡被列為賦稅和貢品的雙重繳納者，有觀點認為，這進一步證明了該地區的「御食國」身份。

展品介紹

本展區展示了 8 世紀時一餐標準的皇家飲食。史料中描述：天皇用膳時坐在低矮的長條椅上，面對一張朱漆桌子，用筷子和銀勺享用盛在銀碗裡的餐食。四個小容器裡是四味

調味料、包括醬（味噌和醬油的前身）、鹽、醋和清酒。研究者由此認為，當時的菜肴可能接近原味，上桌後由用餐者自行調味。

<日本語仮訳>

若狭国：天皇への食料供給

概要

およそ 8 世紀から 10 世紀にかけて、若狭国は、皇族や宮廷に献上する食料の形で一定の税や貢納物を支払うよう指定された地域である、御食国としての役割を果たしていました。若狭は塩や様々な海産物の産地として有名でした。木簡や関連資料からは、選ばれた沿岸の各「国」（古代日本の行政区画、いまの「国家」とは異なる）が都の貴族の需要にいかに応えたか、当時の天皇や宮廷にどのような種類の食料が献上されたかが分かります。

もっと詳しく知る

御食国：食料を献上するよう指定された国

奈良時代（710-794）、宮廷に献上される食料は、御食国と呼ばれるいくつかの指定された国から集められました。御食国は、食材が傷むことなく届くよう海からの距離や入手可能な食材の多様性、都への近さに基づいて選ばれました。8 世紀の歌集である『万葉集』には、淡路国（現在の兵庫県淡路島）、伊勢国、志摩国（いずれも現在の三重県）という3つの御食国が言及されています。

宮廷への食料供給地としての若狭

現存する文献には若狭国が御食国として明示されているものはありませんが、そうみなされていたことを示唆する史料はいくつかあります。特に明白なのは、現在の奈良県にある藤原京（694 年～710 年にかけての都）、平城京（694 年～710 年と 745 年～784 年にかけての都）の発掘調査で、若狭から送られた品物の荷札として使われていた木簡が発見されたことです。木簡には、出荷元や支払われる税、納税者、食品の種類などの情報が書かれていました。奈良の東大寺の古代の記録には、正式に指定された3つの御食国とともに、若狭が「珍しい食べ物で毎月貢納する国」として言及されています。

『延喜式』における食料による納税の記録

10 世紀初頭の風習や公務についてまとめた『延喜式』には、若狭国が塩や海産物で税や年貢を納めていたことが詳しく記されています。納税物として認められた品物には、塩、タイ、イガイ、マイワシ、ウニ、アワビ、ホヤ、イカ、ナマコ、海藻が含まれていました。若狭が『延喜式』に税と貢納物の両方を納入したと記載されているという事実は、若狭が御食国であったことをさらに裏づけるものと考えられます。

展示品

ここでは、8 世紀の皇居における典型的な食事の様子を展示しています。古文書には、天皇は朱塗りの食卓の前の低い長椅子に座し、箸と銀のスプーンを使用して、銀の椀に盛り付けられた料理を

食していたことが記述されています。4 つの小さな器は、ひしお（味噌や醤油の元型）、塩、酢、酒という 4 つの調味料のためのものでした。このことから研究者たちは、食べ物は薄味で食卓に出され、好みに応じて味付けされた可能性が高いと考えています。

【タイトル】 塩の道：都に贈られた若狭の塩

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

盐之路：供应首都的若狭盐

概要

数千年来，盐都是调味和食物保存不可或缺的必需品。公元 8 世纪时，若狭湾沿岸某些地区是重要的盐产地。史料和考古发现都显示，当时的人们通过浓缩、煮沸、焙干等工序，从这处海湾的海水中提取盐。那时候，税赋是以货物而非金钱的形式缴纳的，若狭地区生产的盐作为税收，被定期运往首都平城京（今奈良）。

了解更多

盐的生产

日本没有岩盐矿，过于潮湿的气候也无法单靠日晒蒸发制盐。因此，长年以来，日本的制盐工艺中都需要用炉子来煮沸海水，促使盐份凝结。首先，海水被倒在干海藻或海藻灰上加以浓缩。然后将浓缩液倒进大土锅里煮沸，析出结晶盐。最后把粗盐放入陶锅中焙烤，分离并挥发掉其中的苦味杂质，最终制成便于储存和运输的成品盐。

若狭地区现已发现多处盐场，其中，冈津是一处古代的官营工场，位处如今的小浜海岸附近。这里发掘出了土器的残片和几座炉子的遗迹。如今，这片区域已被指定为国家史迹。

为首都供盐

自公元 7 世纪中叶开始，日本多次修订法律条文，同时还调整了官方税制。一种被称为“调”的个人税必须以稻米（当时的主要税贡品）之外的其他物资缴纳，若狭地区便大多以盐来缴纳这项税赋。平城京古都遗址的发掘中出土了一些若狭地区的盐运“木简”（货签），其中一些木简上的措辞十分恭敬，意味着运送的货物是提供给天皇和朝廷的。

展品介绍

本展区展出的工具和模型说明了古代若狭地区制盐的流程。土器残片分别出土于小浜和若狭的冈津、阿纳盐滨、曾根田的制盐所遗址。立体小人偶直观介绍了通过煮沸海水制盐的主要步骤，而用来搬运盐块的篮子则是由艺术家根据历史学家的论证精心制作的。

<繁体字>

鹽之路：供應首都的若狹鹽

概要

數千年來，鹽都是調味和食物保存不可或缺的必需品。西元 8 世紀時，若狹灣沿岸部分地區是重要的鹽產地。史料和考古發現都顯示，人們採用濃縮、煮沸、焙乾的方式，從這處海灣的海水中提取鹽。當時的稅賦是以貨物而非金錢的形式徵收的，若狹地區生產的鹽作為稅收，被定期運往首都平城京（今奈良）。

瞭解更多

鹽的生產

日本沒有岩鹽礦，且由於氣候過於潮濕的氣候，無法僅靠日曬蒸發製鹽。因此，數世紀以來，日本的製鹽工藝都需要使用爐子來煮沸海水，促使鹽份凝結。首先，海水被倒在乾海藻或海藻灰上加以濃縮。然後將濃縮液倒進大土鍋裡煮沸析出結晶鹽。最後，把這些粗鹽放入陶鍋中焙烤，分離並揮發掉其中的苦味雜質，最後製成便於儲存和運輸的成品鹽。

若狹地區現已發現多處鹽場，其中，岡津是一處古代的官營工場，在如今的小濱海岸附近生產。這裡發掘出了土器的殘片和幾座爐子的遺跡。如今，這片區域已被指定為國家史跡。

為首都供鹽

自西元 7 世紀中葉開始，日本進行了多方面的法律改革，同時調整了官方稅制。一種被稱為「調」的個人稅必須以稻米（當時的主要稅貢品）之外的其他物資繳納，若狹地區便以鹽來繳納這項稅賦。平城京古都遺址的發掘中出土了一些若狹地區的鹽運「木簡」（貨運標籤），其中一些木簡上的用詞特別恭敬，表明運送的貨物是提供給天皇和朝廷的。

展品介紹

本展區展出的模型說明了古代若狹地區製鹽的流程。土器殘片分別出土於小濱和若狹的岡津、阿納鹽濱、曾根田的製鹽場遺址。展品中的立體小人偶直觀介紹了經由煮沸海水製鹽的主要步驟，而用來搬運鹽塊的籃子則是由藝術家根據史學家們的論證精心製作的。

<日本語仮訳>

塩の道：都に送られた若狭の塩

概要

8 世紀、若狭湾沿いの特定の地域は、数千年にわたり味付けと保存に不可欠なものとして使用されてきた、塩の重要な生産地でした。歴史的記録や考古学的な発見から、この湾の海水は、濃縮・沸騰・焼成の組み合わせで塩を生成していたことが分かっています。当時、税の支払いは金銭ではなく物品で納められ、若狭で作られた塩は定期的に税の支払いとして平城京（現在の奈良）へ運ばれていました。

もっと詳しく知る

塩の生産

日本には岩塩の堆積物がなく、湿気が高いため蒸発させるだけでは海塩を生成できないことから、長年炉を使用して海水を煮詰めて塩を結晶化させてきました。まず、乾燥させた海藻や海藻の灰に海水をかけて濃縮液を作ります。それを大きな土製の鍋で煮詰めて塩を結晶化させます。最後に、得られた粗塩を土器で焼いて苦味成分を分離させることで、保存や輸送に便利な塩になります。

若狭地方では、現在の小浜の海岸近くで操業していた古代の官営の工場だった岡津など、いくつかの製塩所跡が発見されました。発掘調査によって土器の破片や複数の炉の跡が見つかり、この地域は国の史跡に指定されています。

都への塩の供給

7世紀半ばから、日本では多くの法改正が実施され、公的税制が導入されました。個人税の一種である調は、(当時の税の支払いの定番だった)米以外の品物で納めなければならず、若狭地方の人々は調の多くを塩で納めていました。平城京遺跡の発掘調査では、若狭の塩の荷札として使われていた木簡が複数発見されました。一部の木簡の表記には特定の尊称的な言葉が使用されており、貨物が天皇や宮廷に向けて送られた物であることを示唆しています。

展示品

このコーナーに展示されている道具や模型は、古代の若狭地方で用いられた製塩過程を示しています。小浜や若狭にある岡津、阿納塩浜、曾根田の各製塩所跡からは、土器の破片が出土しました。展示されている置物は、海水を煮詰めて塩を作る主な手順を示しており、塩の塊を都へ運ぶために使用されたと歴史家がみなしている籠のようなものは、芸術家の手によるものです。

【タイトル】 角鹿の塩：呪われなかった唯一の塩

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

角鹿盐：唯一没有被诅咒的盐

概要

数世纪以来，若狭湾沿岸的角鹿地区（今敦贺市）都以出产高品质的盐而闻名。它还一度被认为是唯一可安全供给天皇食用的盐。在一则古代传说里，由于首都的政治阴谋和一场求而不得的单恋，引发了一个大臣的报复之心，从而对全日本的盐施加了诅咒。幸运的是，他在念咒时漏掉了角鹿，因此人们相信角鹿盐并未受到诅咒。就这样，角鹿在朝廷和首都贵族的眼中成为了更有价值的盐产地。

了解更多

在 8 世纪成书的日本编年史《日本书纪》中提及，重臣平群真鸟(?-498)在传说中的第 24 代天皇仁贤天皇(449-498)去世后曾试图夺权篡位。平群真鸟宣称自己受命摄政辅佐已故天皇的幼子，也就是未来的武烈天皇(489-507)，并以此为由，直接住进了继位者御用的宏伟宫殿。

长大后的武烈开始热烈追求一位叫影媛的女子，她是平群真鸟之子平群鲭的秘密情人。影媛害怕拒绝皇子的示好会惹来祸患，只得勉为其难地答应会面，于是武烈命令平群真鸟为自己准备马匹。大臣承旨但嘲弄地说：“这宫里的马还能是为谁养的呢？当然了，他的命令是要听的。”然后故意拖延磨蹭。

虽然遭到阻碍，武烈还是赶到了诗会现场，见到了影媛。平群鲭想阻拦他，却被命令回避。于是，两个年轻人斗起诗来，你来我往的诗句间暗藏着威胁与辱骂。平群鲭拒绝放弃情人，武烈便在之后吟出的诗中直接向影媛表达了爱意，可平群鲭却回答说，自己才是影媛唯一的真爱。

直到这时，武烈才意识到平群鲭与影媛原来早已相恋。再回想起备马时的遭遇，武烈因臣子的无礼而勃然大怒。他处决了平群鲭，还下令杀死平群真鸟。平群真鸟满心仇恨，临死前为了报复对海中的盐发起了诅咒，期望这些被诅咒的盐最终能送上天皇的餐桌。他历数各片海域，却唯独漏掉了角鹿地区。就这样，角鹿出产的盐在人们心目中便成为了能够安全供给天皇食用的唯一选择。

尽管古代传说的可信度不高，倒也为角鹿盐受到推崇提供了一种有趣的解释。此外，在这则传说中也凸显了若狭湾与首都的关系，从中可以看出，朝廷与权贵之间发生的事情对一个偏远海边小镇的商品声誉和消费量产生的影响。

展品介绍

本展区展出与角鹿地区制盐相关的文物及复制品。值得关注的展品包括出土于松原制盐遗址的古陶器，以及记录了从角鹿往平城京（今奈良）供盐信息的“木简”（货签）复制品。信息面板里有一张松原遗址的照片和一份放大的《日本书纪》内页复制品，讲述的就是鹿角盐的故事。

<繁体字>

角鹿鹽：唯一沒有被詛咒的鹽

概要

數世紀以來，若狹灣沿岸的角鹿地區（今敦賀市）都以出產高品質的鹽而聞名，甚至曾被認為是唯一可供天皇食用的安全鹽源。在一則古代傳說裡，由於首都的政治陰謀和一場求而不得的單戀，引發了一名大臣對全日本的鹽進行詛咒。幸運的是，他在念咒時漏掉了角鹿，因此人們相信角鹿鹽並未受到詛咒。就這樣，角鹿在朝廷和首都貴族的眼中成為了更有價值的鹽產地。

瞭解更多

在 8 世紀成書的日本編年史《日本書紀》中提及，第 24 代天皇仁賢天皇（449-498）去世後，重臣平群真鳥（?-498）曾試圖奪權篡位。平群真鳥宣稱自己受命攝政輔佐已故天皇的幼子，也就是未來的武烈天皇（489-507），並以此為由，直接住進了繼位者御用的宏偉宮殿。

長大後的武烈開始追求一位叫影媛的女子，她是平群真鳥之子平群鮪的秘密情人。影媛害怕拒絕皇子的示好會惹來禍患，只得勉為其難地答應會面。當武烈命令平群真鳥為自己備馬時，大臣承旨但嘲弄地說：「這宮裡的馬還能是為誰養的呢？當然了，他的命令是要聽的。」甚至故意拖延磨蹭。

雖然受到阻撓，武烈還是趕到了詩會現場，見到了影媛。平群鮪想阻攔他，卻被下令回避。於是，兩個年輕人鬥起詩來，你來我往的詩句間暗藏著威脅與辱罵。平群鮪拒絕退下，武烈便在之後吟出的詩中直接向影媛表達了愛意，可平群鮪卻回應說，自己才是影媛唯一屬意的愛人。

直到這時，武烈才意識到，平群鮪與影媛原來早已相戀。再回想起備馬時的屈辱，武烈勃然大怒，處決了平群鮪，並下令殺死平群真鳥。真鳥滿心仇恨，臨死前為了報復而對海中的鹽下咒，期望這些被詛咒的鹽最終被送上天皇的餐桌。他歷數各片海域，卻唯獨漏掉了角鹿地區。就這樣，角鹿出產的鹽在人們心目中便成為了能夠安全供給天皇食用的唯一選擇。

儘管古代傳説並不一定可信，卻也為角鹿鹽受到推崇提供了一個有趣的解釋。此外，這則傳説中也凸顯了若狹灣與首都的緊密關係，說明了朝廷及權貴之間的風吹草動都可以影響到一個偏遠的海邊小鎮的商品聲譽和消費量。

展品介紹

本展區展出與角鹿地區製鹽相關的文物及複製品。值得關注的展品包括出土於松原製鹽遺址的古陶器，以及記錄著從角鹿往平城京（今奈良）貢鹽資料的「木簡」（貨運標籤）複製品。展示板裡陳列了一張松原遺址的照片和一份放大的《日本書紀》內頁複製品，內容講述就是鹿角鹽的故事。

<日本語仮訳>

角鹿の塩：呪われなかった唯一の塩

概要

何世紀もの間、若狹湾に沿った角鹿地域（現在の敦賀市）は、良質な塩の産地として知られていました。さらに、一時は天皇が食しても安全な唯一の塩と見なされていました。その昔、都での政治的陰謀と報われぬ愛によって復讐に燃えた大臣が、日本のすべての塩に呪いをかけたという言い伝えがあります。幸いなことに、彼が呪いを唱えていた時に角鹿を言及するのを忘れたため、その塩は呪詛を免れたとされ、角鹿は宮廷や都の貴族にとってさらに価値の高い塩の産地となったのです。

もっと詳しく知る

8世紀の日本の歴史の年代記である『日本書紀』によると、有力な高位の大臣であった平群真鳥（?-498）は、伝説的な第24代天皇である仁賢天皇（449-498）の死後、権力を奪い、国を支配しようとしました。真鳥は、亡き天皇の幼い息子で将来の武烈天皇（489-507）の代理人であると主張し、皇位継承者のための壮大な宮殿に住んでいました。

武烈は成長すると、真鳥の息子である平群鮪の秘密の恋人であった影媛に求愛を始めました。影媛が皇子の誘いを断るとどうなるかを恐れ、しづしづ会うことを了承した時、真鳥は武烈へ馬を提供するよう命じられます。大臣は命令を受け入れ、あざけるように「誰のためにこの宮殿の馬を飼っているのか？もちろん、彼の命令には従わなければならない」と言いますが、故意に馬を遅らせました。

その妨害にもかかわらず、武烈は最終的に詩の朗読会で影媛に近づきます。鮪は邪魔をしようとしていましたが、脇へ追いやられました。二人の若者は、比喩の中に脅迫と侮辱を隠した詩を交換しました。鮪が身を引くことを拒否したとき、武烈は次の詩歌を使って影媛に直接愛を宣言しますが、鮪は自分の愛こそが影媛が必要とする唯一の愛であると返しました。

武烈はその時、鮪と影媛がすでに恋人同士であることに気づきました。馬の一件を思い出し、無礼に激怒した武烈は、鮪を処刑し、真鳥を殺すよう手配しました。恨みを募らせた真鳥は、死ぬ前の最後の復讐として、あらゆる海の塩に呪いをかけ、呪われた塩が最終的に天皇の食卓に届くよう願いました。彼は数えきれないほどの地名を挙げましたが、どうやら角鹿に言及することを忘れていたようで、その結果天皇が食しても安全なのは角鹿の塩だけとされたのです。

この言い伝え通りのことが起こった可能性は低いものの、角鹿の塩が高く評価された理由についての説明としては興味深い話です。この昔ばなしは若狭湾と都とのつながりも浮き彫りにし、宮廷や貴族の間で起きた出来事が、遠く離れた比較的小さな沿岸地域の品の評判や消費にいかに関与したかを物語っています。

展示品

展示されているのは、角鹿の製塩にまつわる遺物や複製品などです。注目すべき品には、松原製塩遺跡で発見された古代の陶器や、角鹿から平城京（現在の奈良）への塩の供給を記した木簡の複製などがあります。インフォメーションパネルでは、『日本書紀』の中の角鹿の塩の物語を伝えるページを拡大したものや、松原遺跡の写真が見られます。

【タイトル】 古代の都への道

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

连接古代首都的道路

概要

公元 7 世纪至 8 世纪时，早期的日本政府在专注于建立中央集权的同时，还大力建设基础设施来连接首都与边远地区。在若狭国，为了从海边快速运送盐和海产品而积极修路，并设置了“役所”（政府办公机构）处理地方行政事务。在新建成的道路沿线，还出现了相当数量的寺庙与神社。

了解更多

道路与“宿场”

古代日本的首都最初位于今天的奈良，后迁徙至京都，它们与偏远地区之间共有六条主干道相连，其中一条就是北陆道。若狭国是这条路线上第一个连接日本海沿岸港口的地区。沿北陆道过琵琶湖，旅行者可以走支路到若狭地区，也可以继续北行前往敦贺，沿海岸线一直走到如今的新潟县（潟，音同“细”）。

这些道路提高了首都与各地区间的通信效率。信使往来传递着中央政府的命令、地方统治者的政报和各种紧急文书。沿途大约每 16 公里设有一处“宿场”（驿站），里面备有驿马。奈良出土的税贡“木简”（货签）上记录了四个宿场的名字，而 10 世纪汇集了风俗及政要编写而成的《延喜式》中则提到了三个宿场名。

役所

若狭国正式建立于公元 701 年，当时，中央政府开始推行新的行政体系，将各地方分为国、郡、里（后来的乡）。不同的行政等级匹配不同的“执务所”，负责处理地区事务。“国府”由首都任命专职人员管理，“郡家”的行政官员则由当地名门望族指派。国府遗址中出土了多种文物，包括建筑础石、屋瓦，陶器、硬币，还有砚台等日常用品。

寺庙

佛教于公元 6 世纪自亚洲大陆传入日本，之后不久各地便开始兴建佛寺。若狭地区的第一批佛教寺庙大约修建于公元 7 世纪晚期，从兴道寺遗址出土的屋瓦分析显示，这座寺庙恰好初建于这一时期。

若狭神宫寺建造于公元 714 年，是融合了神道教与佛教的“神佛习合”综合宗教设施。若狭神宫寺因向奈良东大寺送圣水的仪式“送水祭”闻名，在东大寺著名的“水取祭”（取水

仪式)前10日举办。在对神宫寺遗址的发掘调查中发现,这里出土的屋瓦与8世纪时天皇居所平城宫的样式一致,从而进一步证明了该寺与奈良关系密切。

公元741年,圣武天皇(701-756)颁布政令,要求各“国”(日本古代行政区划,有别于“国家”)建立“国分寺”,即国立佛教寺院,以宣扬佛教,为国家祈求太平。在若狭国,承担起这一职责的是若狭国分寺,寺庙建于公元807年。原始建筑现已不存,寺庙遗迹已经被指定为国家史迹。

展品介绍

本展区通过展示多类文物、文献,介绍若狭地区各条道路在昔日首都与其他地区的连接沟通中所起到的重要作用。屋瓦残片出土于若狭国分寺、兴道寺等遗址。陶器、硬币、钟等日常用品发掘于各乡村、宿场和役所遗址。此外,这里还公开展示了江户时代(1603-1867)誊抄的《延喜式》中探讨若狭国在国家行政体系中所处地位的部分。东大寺文献中则记载了关于在若狭神宫寺的“送水祭”之后举办“水取祭”的详情。

<繁体字>

连接古代首都的道路

概要

西元7世纪至8世纪时,早期的日本政府在专注于建立中央集权的的同时,还大力修建基础设施来连结首都与偏远地区。在若狭国,为了有效运输海边出产的盐和海产而修建了道路,并设置了「役所」(政府办公机构)处理地方行政事务。在新建成的道路沿线,还出现了不少的寺庙与神社。

瞭解更多

道路与「宿场」

古代日本的首都最初位于如今的奈良县境内,后迁徙至京都,它们与偏远地区之间共有六条主干道相连,其中之一就是北陆道。若狭国是这条路线上第一个连接日本海沿岸港口的地区。沿北陆道过琵琶湖,游客可以走支线到若狭地区,也可以继续北行前往敦贺,沿海岸线一直走到今天的新潟县(潟,音同「细」)。

这些道路提高了首都与各地区的通信效率。信使往来传递著中央政府的命令、地方治理者的政报和各种紧急文书。沿途大约每16公里设有一处「宿场」(驛站),裡面備有驛馬。奈良出土的稅貢「木簡」(貨運標籤)上記錄了四個宿場的名字,而10世紀彙集了風俗和政要編寫而成的《延喜式》中則提到了三個宿場名。

役所

若狭国正式建立于西元701年,当时,中央政府开始推行新的行政体系,将各地方分为国、郡、里(后来的乡)。不同的行政等级匹配不同的「执务所」来负责处理地区事务。

「國府」由首都任命管理者，「郡家」的行政官員則由當地名門望族指派。國府遺址中出土了多種文物，包括建築礎石、屋瓦，陶器、硬幣，還有硯臺等日常用品。

寺廟

佛教於西元 6 世紀自亞洲大陸傳入日本，不久各地便開始建造佛寺。若狹地區的第一批佛教寺廟大約修建於西元 7 世紀晚期，興道寺就是其中之一。據遺址出土的屋瓦分析顯示，這座寺廟約略初建於這一時期。

若狹神宮寺建造於西元 714 年，是融合了神道教與佛教、體現「神佛習合」思想的宗教場所。若狹神宮寺以「送水祭」聞名，該祭典是為奈良東大寺送聖水而舉辦的儀式，在東大寺著名的「水取祭」（取水儀式）前 10 日舉辦。神宮寺遺址的發掘調查中發現，這裡出土的屋瓦與 8 世紀時天皇居所平城宮的樣式一致，從而進一步證明了該寺與奈良聯繫密切。

西元 741 年，聖武天皇（701-756）頒佈政令，要求各「國」（日本古代行政區劃，有別於「國家」）建立「國分寺」，即國立佛教寺院，用來宣揚佛教，為國家祈求太平。若狹國分寺建於西元 807 年，原始建築現已不存，寺廟遺跡已被指定為國家史跡。

展品介紹

本展區通過文物、文獻的展示，介紹若狹地區各條道路在昔日首都與其他地區的連結交流中所起到的重要作用。屋瓦殘片出土於若狹國分寺、興道寺等遺址。陶器、硬幣、鐘等日常用品發掘於各鄉村、驛站和役所遺址。此外，這裡還公開展示了江戶時代(1603-1867)謄抄的《延喜式》中探討有關若狹國在國家行政體系中所扮演的角色這一部分。東大寺文獻中有對在若狹神宮寺的「送水祭」之後舉辦「水取祭」的詳細記錄。

<日本語仮訳>

古代の都への道

概要

7 世紀から 8 世紀にかけて、初期の日本政府は、権力の集中化と、遠く離れた地域と都を繋ぐ大規模なインフラの整備に重点を置いていました。若狹国の場合、海岸から塩や海産物を効率よく運ぶために道路が整備され、地方行政を扱う役所（いまの官公庁）が設置されました。多くの寺院や神社もまた、この新たな道路沿いに建立されました。

もっと詳しく知る

街道と宿場

古代の都（最初は現在の奈良、後に京都）と遠隔地を結ぶ 6 つの主要な街道のうちの 1 つが北陸道でした。若狹は日本海の港につながる、北陸道の最初の国でした。琵琶湖を越えて北陸道を旅する人々は、分岐して若狹へ行くか、またはそのまま北上して敦賀に向かい、海岸線に沿って現在の新潟県にまで行くことができました。

この街道により、各地方と都の間で効率的なコミュニケーションができるようになりました。使者たちが中央政府からの命令、地方の支配者からの報告書、緊急文書などを運びました。街道に沿って約16kmごとに配置された宿場では、公用馬が飼われていました。奈良で発掘された税や貢納用の木簡には宿場の名前が4つ記されている一方、10世紀の風習や公務の手続きを編纂した『延喜式』には、3つの名前が言及されています。

役所

若狭国は701年に、全国を国、郡、里（後に郷）へと分割した新しい行政制度の下で正式に設置されました。異なる行政区分で業務を管理するために、いくつかの執務所が建設されました。国府は都から派遣された役人によって運営され、郡家は地元の有力な一族から任命された人々によって運営されました。国府の跡地から出土した遺物は、礎石や瓦、そして土器や硬貨、硯などの日用品にまで及びます。

寺院

仏教は6世紀にアジア大陸から日本に伝わり、そのすぐ後に仏教寺院の建設が始まりました。若狭に最初の仏教寺院が建てられたのは、7世紀後半頃です。例えば、興道寺の旧跡から出土した瓦の分析から、この頃に創建されたことが分かります。

若狭神宮寺は、神仏習合の宗教施設として、714年に創建されました。若狭神宮寺は、奈良の東大寺へ霊水を送る「お水送り」の神事が有名で、その10日後に東大寺で有名な「お水取り」の神事が行われます。若狭神宮寺の発掘調査で、8世紀の皇居であった平城宮と同じ様式の古い瓦が発見されたことで、奈良とのつながりがさらに深まりました。

741年、聖武天皇（701-756）は、仏教を広め国家の安全を祈るために、各「国」（古代日本の行政区画、いまの「国家」とは異なる）に国分寺を設立するよう命じました。若狭国分寺は、807年に若狭国でその役目を果たすために建立されました。初期の建造物は失われましたが、当時の寺院の遺跡は国の史跡に指定されています。

展示品

展示されている遺物や文書は、若狭からかつての都や他の地域に至る街道の重要な役割を示しています。若狭国分寺や興道寺跡などから、瓦片が出土しました。陶器、硬貨、鐘などの日用品は、かつての村、宿場、役所の跡地で見つかっています。江戸時代（1603-1867）の『延喜式』の写本は、行政制度における若狭国の地位を論じた部分が公開されており、東大寺の文書には、若狭神宮寺でお水送りが行われた後に行われるお水取りの神事の詳細が記載されています。

【タイトル】 若狭と奈良・京都を結ぶ街道

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

光雕投影

从若狭到奈良和京都的道路

概要

本档投影节目主要介绍若狭地区与古都奈良、京都之间在历史上的关联。通过运用明亮的色彩、图形、动画和其他视觉成像技术，形象讲述一个道路网络是如何让全国各地的物资与文化流通成为可能的故事。节目时长约 5 分钟。

了解更多

地图布局

这份地图勾勒出了若狭湾到奈良、京都两大古都之间的地形地貌。地图坐标上南下北，若狭湾正落在幕布的“再生”（播放）键旁。两大古都靠近地图中心区域，紧接于横跨福井县、京都府和滋贺县的峻峭山脉。

盐的运输

早在 1300 多年前，若狭和角鹿（今敦贺）地区出产的盐就已经大量供应位于奈良的首都。考古发现了许多运输若狭盐 and 各类海产品所用的货签“木筒”。投影中，通往首都的运盐路线以发光的白线表示。

送水祭

东大寺的“水取祭”（取水仪式）鼎鼎大名，祭典中用到的圣水来自小浜。每年 3 月 2 日，小浜举办“送水祭”，将圣水经由河川送往奈良。在东大寺举办仪式时，人们从圣井中汲水供奉佛教神明。祭典的意义在于清洗罪孽，迎接春天到来。动画里发光的蓝色小河，代表了圣水从小浜一直流向奈良。

与京都的联系

公元 794 年，日本首都迁到了京都（旧称“平安京”），而若狭与首都的关系越发密切。投影中的明黄色线条勾勒出了两地间人货往来的多条路线。活跃的商贸活动带动了文化的交流，京都的节日庆典、表演艺术、宗教信仰以及佛像文化相继传入若狭地区。时至今日，若狭地区依然保留着许多源自首都，或受其影响的风俗传统和文化财产。

鯖街道

江戸時代(1603-1867)，大量的鯖魚依靠人力從若狹灣送到京都，而這些交織的步行商道就被統稱為“鯖街道”。對於地處內陸的首都來說，若狹灣的海魚和其他海產品都是珍貴的食材，也是京都飲食文化中的重要組成部分。投影中明亮的藍色線條代表了從若狹灣到京都之間的“鯖街道”分支路線。

現代交通網

本地區目前的現代高速公路和國道以明亮的白色線條表示。完善的道路交通網絡彷彿在提醒著我們：時日變遷，風俗傳統、經濟形態與生活方式都已經發生了巨大的變化，但通過貿易、旅行和與人與人之間的思想交流來支持社會進步的道路主要功能卻從未改變。

<繁體字>

光雕投影

從若狹到奈良和京都的道路

概要

本檔光雕秀展現了若狹地區與古都奈良、京都之間在歷史上的聯繫。透過明亮的色彩、圖像、動畫和其他視覺效果，形象講述了這些重要幹道是如何讓全國各地的物資與文化交流成為可能的故事。光雕秀全長約 5 分鐘。

瞭解更多

地圖佈局

這份地圖勾勒出了若狹灣到奈良、京都兩大古都之間的地形地貌。地圖座標上南下北，若狹灣正落在布幕的「再生」（播放）鍵旁。兩大古都靠近地圖中心區域，緊接於橫跨福井縣、京都府和滋賀縣的峻俏山脈。

鹽的運輸

早在 1300 多年前，若狹和角鹿（今敦賀）地區出產的鹽就已經大量供應位於奈良的首都。考古發現了許多運輸若狹鹽和各類海產所用的貨運標籤「木簡」。投影中，通往首都的運鹽路線以發光的白線表示。

送水祭

東大寺的「水取祭」（取水儀式）舉世聞名，祭典中用到的聖水則來自小濱。每年 3 月 2 日，小濱舉辦「送水祭」，經由河川將聖水送往奈良。在東大寺舉辦儀式時，人們從聖井中汲水供奉佛教神明。祭典的意義在於洗滌罪孽，迎接春天到來。動畫裡面發光的藍色小河，代表了聖水從小濱一直流淌至奈良。

與京都的聯繫

西元 794 年，日本首都遷到了京都（舊稱「平安京」），而若狹與首都的聯繫越發密切。投影中的明黃色線條，勾勒出了的兩地間人貨往來的諸多道路。活躍的商貿活動帶動了文化的交流，京都的節日慶典、表演藝術、宗教信仰以及佛像文化相繼傳入若狹地區。時至今日，若狹地區依然保留著許多源自京都，或受其影響的風俗傳統和文化財產。

鯖街道

江戸時代（1603-1867），大量的鯖魚依靠人力從若狹灣送到京都，而這些交織的步行商道就被統稱為「鯖街道」。對於地處內陸的京都來說，若狹灣的海魚和其他海產都是珍貴的食材，也是京都飲食文化中的重要組成部分。投影中明亮的藍色線條代表了從若狹灣到京都之間的「鯖街道」分支路線。

現代交通網

本地區現有的現代高速公路和國道以明亮的白色線條表示。完善的道路交通網絡仿佛在提醒著我們：時日變遷，風俗傳統、經濟形態與生活方式都已經發生了巨大的變化，但通過貿易、旅行和人與人之間的思想交流來支持社會進步的道路主要功能從未改變。

<日本語仮訳>

プロジェクションマッピング

若狹と奈良・京都を結ぶ街道

概要

このプレゼンテーションでは、プロジェクションマッピング技術を使用して、若狹地方と古代の都であった奈良と京都との歴史的なつながりを示しています。明るい色、グラフィック、アニメーション、その他の視覚効果によって、何世紀にもわたって 2 つの地域間の物資の流れと文化交流を可能にしてきた街道の物語を伝えます。このプレゼンテーションの長さは約 5 分です。

もっと詳しく知る

地図のレイアウト

この地図は、若狹湾とかつての都、奈良と京都の間の地域の地形を示しています。この地形図は南が上で、若狹湾はプレゼンテーションの「再生」ボタンの近くにあります。2 つの都は地図の中央付近に配置されており、現在の福井県、京都府、滋賀県にまたがる険しい山々のすぐ先にあります。

塩の輸送

1300 年以上前、若狹と角鹿（現在の敦賀）で生産された大量の塩が、都のあった奈良に供給されていました。発掘調査によって、若狹の塩や様々な海産物の荷札として使われていた木簡が多数出土しました。都への塩の輸送に使用されたルートは、光る白い線で示されています。

お水送りの儀式

東大寺で行われる有名な「お水取り」神事のために、霊水を奈良へ送る「お水送り」の神事は、小浜で3月2日に行われます。東大寺の行事では、神聖な井戸から水をくみ上げ、仏様に捧げます。その儀式の目的は、人々の罪を清め、春を迎えることです。青く輝く小川のようなアニメーションは、小浜から奈良への儀式的な水の流れを表しています。

京都とのつながり

794年に都が京都（当初の名前は平安京）に移された後も、若狭と都の関係は引き続き強まりました。鮮やかな黄色の線は、地域間の移動や物資の輸送に使用された多数のルートを示しています。活発な交易は自然と文化交流を促し、祭りや芸能、宗教的な教え、仏像が京都から若狭地方にもたらされました。若狭には、京に由来する、またはその影響を反映した多くの伝統や文化財が保存されています。

鯖街道

江戸時代（1603-1867）、若狭湾で獲れた多くのサバが「鯖街道」として知られるようになった交易路を通り、徒歩で京都へ運ばれました。若狭湾で獲れた魚介類は内陸の都では貴重品であり、京料理の重要な一品になりました。鮮やかな青色の線は、若狭湾から都へと続く鯖街道の分岐路を示しています。

現代の輸送ネットワーク

この地域を通る現代の高速道路や国道は、光る白い線で示されています。よく整備された道路網は、伝統、経済、ライフスタイルが時とともに大きく変化しても、交易、移動、人々のアイデアの交換を通じて進歩を支える道路の主な機能は変わらないということを思い出させてくれます。

【タイトル】 若狭の荘園

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

若狭的庄园

概要

12 世纪至 16 世纪中期，若狭地区涌现出许多庄园，它们大都是大型神社和佛寺、贵族和武士家族的私有农庄，能够享受部分税赋的减免。由于业主通常都长驻奈良、京都等古都，这类产业便往往委托本地的代表人代为管理，管理者需确保农庄产出足够的粮食用以替代税收。业主与庄园之间的这种关系，逐渐发展为若狭与首都地区的一大交流渠道，精良的工艺品、宗教传统、节日庆典文化等随之也被带到了若狭地区。

了解更多

庄园产业及其管理

若狭地区占据滨海之利，长期以来都以物产丰富而闻名，因此也成为了建立庄园的理想之地。过去，日本的绝大多数土地都被视为天皇所有，使用土地需要向朝廷缴纳赋税。然而庄园土地却能免除部分中央政府征收的赋税，通常由一名长居庄园所在地的“代官”替代身居远处的庄园主人，负责具体的经营管理。耕种庄园田地的农民不用向朝廷纳税，而是直接向庄园主人缴纳稻米或其他物资。

庄园主带来的文化交流

12 世纪下半叶至 15 世纪上半叶，若狭地区的庄园数量达到最高水平。庄园主人都是极富影响力的宗教机构和朝廷权贵。据史料记载，京都的东寺和三十三间堂、奈良的东大寺、春日大社，以及伏见宫家族等皇室成员都在这里开设庄园。与业主之间的往来令首都的一些文化也随之传到了庄园，主要表现在佛像、宗教传统和艺术品上。在若狭地区，最具代表性的例证就是被叫做“田乐”的民谣和在春日祭典中上演供奉神明的“王之舞”。本地仍有神社至今保留着上演田乐民谣和王之舞的传统，最初大多是为了敬奉庄园的土地之神。

庄园制度的衰退

庄园制度自 15 世纪中叶开始衰退，之后随着各地“大名”（大领主）开始强化领地控管，进入战国时代(1467-1615)后庄园渐渐消亡。然而，在如今若狭地区的区名和町名中依然能够窥见昔日庄园的印记。

展品介绍

本展区展出的物品及历史文献的复制品都与若狭地区过去的庄园有关。比如镰仓幕府创始人源赖朝(1147-1199)在一封书信里认可了西津庄是京都神户寺的产业，同时警告任何人都不得违抗庄园业主的意志。一份编制于 1265 年、抄写于 14 世纪的地籍簿中记载了当时若狭地区的土地产权信息。另有展品专门介绍了属于京都东寺的太良庄。一张可能出自 1461 年的地图展现了农户之间的土地分割以及灌溉系统的布局情况。在庄园农户写给东寺的一封信中可以了解到在庄园管理出现问题时的相应对策，这封信上标注的日期是 1334 年。信中附有一则向神明起誓的誓言，证明信中内容均为实情，同时还指控寺庙指派的管理者处事不公，最后附有联名投诉者的集体“签名”——在他们各自的名字下用墨画了一个简单的圈。

<繁体字>

若狭的莊園

概要

12 世紀至 16 世紀中期，若狭地區湧現出了許多莊園，它們大都是大型神社和佛寺、貴族和武士家族的私有農莊，能夠享受部分稅賦的減免。由於業主通常都長駐奈良、京都等都城，莊園便往往委託當地的代表人代為管理，管理者需確保莊園產出足夠的糧食用以替代稅收。業主與莊園間的這種關係，逐漸發展為首都地區與若狭的一大交流管道，精良的工藝品、宗教傳統、節日慶典文化等隨之也被帶到了若狭地區。

瞭解更多

莊園產業及其管理

若狭地區佔據濱海之利，長期以來都以物產豐富而聞名，因此也成為了建立莊園的理想之地。過去，日本的絕大多數土地都被視為天皇所有，使用土地需要向朝廷繳納賦稅。然而莊園土地卻能免除部分中央政府徵收的賦稅，通常由一名長居莊園所在地的「代官」替代身居遠處的莊園主人，負責具體的經營管理。耕種莊園田地的農民不用向朝廷納稅，而是要直接向莊園主人繳納稻米或其他物資。

莊園主帶來的文化交流

12 世紀下半葉至 15 世紀上半葉，若狭地區莊園數量達到了最高水平。莊園的主人都是極富影響力的宗教機構和朝廷權貴。據史料記載，京都的東寺和三十三間堂、奈良的東大寺、春日大社，以及伏見宮家族等皇室成員都在此置辦產業。與業主之間的往來令首都的文化也隨之傳到了莊園，主要表現在佛像、宗教傳統和藝術品上。在若狭地區，最具代表性的例子就是被叫做「田樂」的民謠和在春日祭典中上演並用以供奉神明「王之舞」。當地仍有神社至今保留著上演田樂民謠和王之舞的傳統，最初大多是為了敬奉莊園的土地之神。

莊園制度的衰退

莊園制度自 15 世紀中葉開始衰退，之後隨著各地「大名」（大領主）開始強化對領地的控制，在進入戰國時代（1467-1615）後，莊園漸漸消亡。然而，在如今若狹地區的區名和町名中依然能夠窺見昔日莊園的印記。

展品介紹

本展區展出的物品及歷史文獻的複製品都與昔日若狹地區的莊園有關。例如鎌倉幕府創始人源賴朝（1147-1199）在一封書信裡認可了京都神戶寺對西津莊的產權，同時警告任何人都不得違抗莊園業主的指示。一份於 1265 年編製、抄寫於 14 世紀的地籍簿中詳細記載了當時若狹地區的土地產權資訊。另有展品專門介紹了屬於京都東寺的太良莊。一張可能出自 1461 年的地圖展現了農戶之間的土地分割以及灌溉系統的佈局情況。在莊園農戶寫給東寺的一封信中可以看到當時的人們如何解決與莊園管理相關的糾紛。這封信上標注的日期是 1334 年，信中附有一則向神明起誓的誓言，證明信中內容均為實情，同時還指控寺廟指派的管理者處事不公，最後附有聯名投訴者的集體「簽名」——在各自的名字下用墨畫了一個簡單的圈。

<日本語仮訳>

若狹の莊園

概要

12 世紀から 16 世紀半ばにかけて、若狹地方には、多くの莊園（大きな神社仏閣、公家、武家に与えられた、部分的に非課税の私有農地）がありました。その所有者は昔の都であった奈良や京都に拠点を置くことが多かったため、農家が税の代わりに一定量の十分な食料を生産するよう、地元の代表者が管理していました。莊園と地主とのつながりは、首都圏から若狹へ質の高い工芸品や宗教的伝統、祭礼文化をもたらしたルートの一つとなりました。

もっと詳しく知る

莊園とその管理

若狹地方は、昔から、海に近い肥沃な地域として知られており、莊園を持つのに理想的な場所とされていました。かつて、日本の土地のほとんどは天皇の所有地とみなされており、税金は朝廷に納められていました。しかし、莊園の土地は中央政府が課す税の一部を免除されており、通常はその地域に住む代表者である代官が、遠くに居る所有者に代わり管理していました。その土地で働く農民たちは、朝廷ではなく莊園所有者に米やその他の品物を支払いとして送っていました。

所有者とのつながりによる文化交流

12 世紀後半から 15 世紀前半の間、若狹には特に多くの莊園がありました。その所有者は非常に影響力のある宗教施設や公家でした。史料には、京都の東寺や三十三間堂、奈良の東大寺や春日大社、伏見宮家をはじめとする天皇の家系などと記されています。こうしたつながりを通じて、都の文化の一部が、仏像や宗教的伝統、芸術品などの形で莊園に伝わりました。若狹の代表的な例として

は、田楽という民謡や、春の祭礼で神々への奉納として行われる「王の舞」が挙げられます。地元の神社に残る田楽や王の舞などの伝統のほとんどは、もともと荘園の土地の神に捧げられたものでした。

荘園制度の衰退

荘園制度は 15 世紀半ばに衰退し始め、個々の大名（大領主）が領地に対する支配を強化し、国が戦国時代（1467-1615）に入ると徐々に消滅しました。しかし、荘園の記憶は現在の若狭地方の地区や町の名前に残っています。

展示品

このコーナーでは、かつて若狭地方にあった荘園にまつわる品や、歴史的資料のレプリカなどを展示しています。鎌倉幕府の創設者である源頼朝（1147-1199）からの書状は、西津荘を京都の神護寺の寺領として認めるとともに、荘園所有者に逆らってはならないと警告しています。1265 年の地籍簿を 14 世紀に写したのものには、当時の若狭地方の所有地に関する情報が記載されています。ある展示物は、京都の東寺に属していた太良荘に焦点を当てています。1461 年のものと推定される地図には、農民の間で土地がどのように分割され、どのような灌漑システムが設置されていたかが示されています。荘園の住民から東寺に宛てた書状には、荘園の管理に関連した問題が発生したときに、どのような措置が取られたかが示されています。この書状は 1334 年の日付で、内容が真実であると神々へ誓っています。書状には寺院に任命された管理者の不当な扱いの申し立てが含まれており、申立人は、名前の下に墨で簡素な円形のマークを付けて「署名」しています。

【タイトル】 中世の若狭湾：文化の交差点

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

中世纪的若狭湾：文化的交汇点

概要

12 世纪至 16 世纪时，若狭湾是日本海沿岸的重要门户，也是首都与日本乃至亚洲大陆各地交通最大级别的中转站，通往亚洲大陆的海道和连接首都及日本各地的道路都交汇于小浜。食物、艺术品、宗教物品和其他物资都经由小浜、敦贺等大港口交易，与之相伴的是商旅往来增加所带来的思想与文化的交流。

了解更多

食品、艺术品与外来动物的运输

从若狭湾出发，北航路最远可抵达北海道，西南航路则延伸到九州和朝鲜半岛。海运货物并不局限于食品和日常用品，还包括佛像、绘画、佛经、陶瓷器以及其他贵重物品。尤为引人注目的是 1408 年停靠小浜港的一艘越洋大船，船上载着好几头日本没有的动物，其中居然有一头大象。这是有记载以来第一头出现在日本的大象，后来被当作礼物献给了室町幕府第四代将军足利义持(1386-1428)。

日本国内以及与其他国家的贸易往来

许多抵达港口的珍贵物品都很快被转运到了其他地方，但也有一些留在了若狭地区的豪门望族和大寺庙中。1422 年，小浜地区的羽贺寺收到了一部精美珍贵的《妙法莲华经》，它来自朝鲜半岛的高丽王国(918-1392)，誊抄于 1325 年。日本国内的贸易同样令羽贺寺获益，东北地方的武将安倍康季曾在 1477 年出资重建了寺庙本堂（正殿）。

基督教在若狭湾地区的传播

众多外国来访者经若狭湾港口来到日本，将他们的思想观念与宗教信仰带到了这里，其中不乏基督教的传教士。1560 年，一名若狭本地人接受了耶稣会洗礼，获赐教名养方轩·保罗(? -1596)。1580 年，保罗和他的儿子洞院·文森特(1540-1609)正式被耶稣会接纳。父子俩对宗教典籍进行了翻译，为早期基督教在日本的传播做出了巨大的贡献。

展品介绍

本展区展出各种经由若狭湾的商品，及反映文化多样化现象的物品。展品中有一尊来自中国的 13 世纪迦楼罗佛像。迦楼罗原本出自印度教传说，被引入佛教后成为鸟形守护

神。1990年，人们在小浜的海边发现了这尊被冲上岸的佛像，当时，佛像外面包裹着破烂的红布，装在一个玻璃匣子中。

一份朝鲜半岛的地图复制品上标注了小浜，可见此处海港在1471年已经名扬海外。另一份文件副本上详细列出了1408年将第一头大象运到日本的那艘船上还装载的其他动物，比如孔雀、水鹿、葵花鹦鹉和其他外来的奇珍异兽。

1422年赠送给羽贺寺的《妙法莲华经》抄本，以其精美的插图和昂贵的材料（深蓝色的纸张上以金、银颜料绘制）而引人注目。

另一件展品是重印版的《使徒行传（节选）》，书中详细描述了基督教圣徒们的生活。本书日文由改宗基督教的养方轩·保罗和洞院·文森特父子翻译。值得一提的是，译文使用的是拉丁字母。

展品中还有一尊手抱婴儿的白瓷像，它是佛教里的大慈大悲观世音菩萨。这尊菩萨像来自中国，造于16世纪。在整个若狭地区，这样的塑像仅此一尊。抱子观音是常见的佛教题材，不过，由于其形象、特征都与基督教中圣母玛利亚颇有相似之处，日本的一些基督教徒也会供奉类似的塑像，称之为“玛利亚观音”。

<繁体字>

中世紀的若狹灣：文化的交匯點

概要

12世紀至16世紀時，若狹灣是日本海沿岸的重要門戶，也是首都與日本乃至亞洲大陸各地交通最大級別的中轉站，通往亞洲大陸的海道和連接首都及日本各地的道路都匯集於小濱。食物、美術品、宗教物品和其他物資都經由小濱、敦賀等大港口交易，與之相伴的，是商旅往來增加所帶來的思想與文化的交流。

瞭解更多

食品、藝術品與外來動物的運輸

從若狹灣出發，北航路最遠可抵達北海道，西南航路則延伸到九州和朝鮮半島。海運貨物並不局限於食品和日常用品，還包括雕像、繪畫、佛經、陶瓷器以及其他貴重物品。尤為引人注目的是1408年停靠小濱港的一艘越洋大船，這艘船上載著數頭日本沒有的動物，包括一頭大象。這是有記載以來第一頭出現在日本的大象，後來被當作禮物獻給了室町幕府第四代將軍足利義持（1386-1428）。

日本國內以及與其他國家的貿易往來

許多抵達港口的珍貴物品都很快被轉運到其他地方，但也有一些留在若狹地區的豪門望族和大寺廟中。1422年，小濱地區的羽賀寺收到了一部精美珍貴的《妙法蓮華經》，它來自朝鮮半島的高麗王國（918-1392），謄抄於1325年。日本國內的貿易同樣令羽賀寺獲益，東北地方的武將安倍康季曾在1477年出資重建了寺廟本堂（正殿）。

基督教在若狹灣地區的傳播

眾多外國到訪者經若狹灣港口來到日本，將外來的思想觀念與宗教信仰帶到了這裡，其中不乏基督教的傳教士。1560年，一名若狹當地人接受了耶穌會洗禮，獲賜教名養方軒·保羅（?-1596）。1580年，保羅和他的兒子洞院·文森特（1540-1609）正式被耶穌會接納。這對父子對宗教典籍進行了翻譯，為早期基督教在日本的傳播做出了巨大的貢獻。

展品介紹

本展區展出各種經由若狹灣的商品，及反映文化多元性的物品。展品中有一尊來自中國的13世紀迦樓羅佛像。迦樓羅原本出自印度教傳說，被納入佛教後成為了鳥形守護神。1990年，人們在小濱的海邊發現了這尊被沖上岸的佛像，當時，佛像外面包裹著破爛的紅布，裝在一個玻璃匣子中。

一份朝鮮半島的地圖複製品上標注了小濱，可見這處海港在1471年已經名揚海外。另一份文件副本上詳細列出了1408年將第一頭大象帶到日本的那艘船上裝載的其他外來的奇珍異獸，例如孔雀、水鹿、葵花鸚鵡。

1422年贈送給羽賀寺的《妙法蓮華經》謄抄本，以其精美的插圖和昂貴的材料（深藍色的紙張上以金、銀顏料繪製）而引人注目。

另一件展品是重印版的《使徒行傳（節選）》，書中詳細描述了基督教聖徒們的生活。本書日文由改信基督教的養方軒·保羅和洞院·文森特父子翻譯。值得一提的是，他們的譯文使用的都是拉丁字母。

手抱嬰兒的白瓷像是佛教裡的大慈大悲觀世音菩薩。這尊菩薩像來自中國，造於16世紀。在整個若狹地區，這樣的塑像僅此一尊。抱子觀音是常見的佛教題材，不過，由於其形象、特徵都與基督教中聖母瑪利亞頗有相似之處，日本的一些基督教徒也會供奉類似的塑像，稱之為「瑪利亞觀音」。

<日本語仮訳>

中世の若狹湾：文化の交差点

概要

12世紀から16世紀にかけて、若狹湾は、日本海沿岸の重要な玄関口であり、都と日本国内及びアジア大陸の目的地との最大級の中継点でした。大陸からつながる海の道と、都へとつながる陸の道が小浜で結節していました。食品、美術品、宗教的な道具などの品物が、小浜や敦賀などの大きな港を経由して取引され、それに伴う旅の増加は、思想の共有と文化交流に貢献しました。

もっと詳しく知る

食品、美術品、異国の動物の輸送

若狹湾からの北航路は北海道にまで至り、南西航路は九州や朝鮮半島まで及びました。貨物には食品や日用品だけでなく、仏像や絵画、経典、陶磁器などの貴重品も含まれていました。特筆すべ

きは、1408年に小浜港に寄港した、日本に生息していない数匹の動物を乗せた大型船です。そのうちの1頭は象で、記録上初めて日本に入学し、後に室町幕府第4代将軍である足利義持（1386-1428）に贈られました。

日本国内および外国との交易関係

港に到着した多くの貴重品は他の目的地に送られましたが、中には若狭地方の有力な一族や寺院によって保存されたものもありました。1422年、小浜の羽賀寺は、朝鮮の王朝である高麗（918-1392）の非常に貴重な経典の1325年の写本であった華麗な『法華経』を受け取りました。東北地方の武将、安倍康季が1447年に本堂を再建するための資金を提供するなど、羽賀寺は日本国内の交易の繋がりからも恩恵を受けました。

若狭湾地域のキリスト教

若狭湾の港を通じて多くの人の思想や信仰が日本にもたらされましたが、その中にはキリスト教の宣教師もいました。1560年、イエズス会（ヤソ会とも知られる）は、養方軒パウロ（?-1596）という名前と呼ばれていた若狭出身の男性に洗礼を受けました。1580年、パウロとその息子の洞院ヴィセンテ（1540-1609）は、イエズス会から新しい会員として認められました。二人は宗教書の貴重な翻訳を行い、日本における初期のキリスト教伝道活動に大きく貢献しました。

展示品

このコーナーでは、若狭湾を通過したさまざまな商品や文化現象の多様さを示す品物などを紹介しています。中国から伝来した13世紀の仏像は、ヒンドゥー教の伝承から導入された鳥のような守護神である迦楼羅を表しています。この像は、1990年、ぼろぼろの朱色の布に包まれ、ガラスケースに納められている状態で小浜の海岸に打ち上げられているのが発見されました。

朝鮮半島からもたらされた1471年の地図の写しには小浜の表示があり、小浜の港が海外で認められていたことを示しています。別の文書の写しは、1408年に日本へ最初のゾウを運んだ船が、クジャク、サンバー鹿、オウム、およびその他の外国産の動物も積んでいたことを明記しています。

1422年に羽賀寺に寄贈された『法華経』の写本は、非常に細かい挿絵と、紺色の紙に施された銀や金の絵の具などの高価な素材が特徴です。

もう1つの展示品は、イエズス会への改宗者の養方軒パウロと洞院ヴィセンテが日本語に翻訳した、『サントスの御作業の内抜書（聖人の行動の抜粹）』と題されたキリスト教の聖人たちの生活を詳しく説明した文書の複製版です。ちなみに翻訳文にはラテン文字を使用しています。

乳幼児を抱く白磁の像は、仏教の慈悲の菩薩である観音を表しています。16世紀に中国で作られたもので、この種の像では若狭で唯一のもので、子どもを抱く観音は一般的な仏教の題材ですが、一部の日本のクリスチャンは、キリスト教におけるイエスの母である聖母マリアに視覚的および象徴的に類似しているため、マリア観音としてこのような像を崇拜しました。

【タイトル】 世界及日本図 屏風

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

世界及日本地图屏风

概要

这两幅绘有世界地图和日本地图的八折屏风堪称江户时代(1603-1867)前的地图珍品，目前展出的是复制品。原本的世界地图采用了椭圆形绘图法，这种画法被认为是日本最古老的地图绘制方式，至今仅有东京·小林家本、福井·净得寺本及本图三例流传于世，三者均为国家指定重要文化财产。从地图中可以看出，当时正处于地理知识飞速普及的时代，人们对朝鲜半岛、中国东北部、西欧和新世界等地区均有所了解。这两幅折叠屏风曾在小浜一个富商家中珍藏数代，从中亦可窥见小浜这座港口市镇在日本与外部世界的连接中所扮演的角色。屏风原件现收藏于博物馆库房中。

了解更多

16 世纪末的珍贵地图

日本在江户时代制作了很多地图，但这两幅装饰性折叠屏风上的地图更为古老，估计可以追溯到 16 世纪末。两幅屏风中，一幅描绘的是日本列岛，另一幅则是根据西班牙或葡萄牙水手所用地图绘制的世界地图。每幅屏风宽约 3.8 米，高约 1.2 米。从地图上的地域边界、颜色和标注符号上，我们可以了解到当时的绘图者对于日本及世界地域疆界的认识。

两幅折叠屏风的历史

此折叠屏风很可能绘制于京都，主人应该是当时的一位“大名”（大领主），且与 16 世纪末期日本的实际统治者丰臣秀吉(1537-1598)关系密切。后来，这两幅屏风被带到小浜，被成功经营海运的富商川村家族收藏并流传数代。一个港口城镇的商人家庭能拥有如此杰出的艺术珍品，这正表明了小浜繁荣的商贸活动为部分商家带来了多么巨大的财富。

展品介绍

在这幅绘有日本地图的折叠屏风上，整个国家被蓝色的海洋和以金箔贴就的云朵环绕。图上准确绘出了九州、四国、本州西南部的关西地区与中国地方（本州西部地区名，包括鸟取、岛根、冈山、广岛、山口五县）的海岸线。相比之下，东北地区和更远的北海道等日本东北部的海岸线就没有那么精准了。

另一幅屏风上绘有椭圆形的世界地图。中央的横带代表赤道，每隔 10 度以红色标记标出经度。当时的制图师用不同的颜色标记不同地区。和日本地图一样，这幅地图上的很多

区域已经绘制得与现代地图十分接近，但仍有部分区域不太精准，这显示出当时人们对于各大陆的认识和文献记载的参差。地图周围的屏风表面覆盖着金箔，与深蓝色的海洋形成了鲜明的反差。

<繁体字>

世界及日本地圖屏風

概要

這兩幅八折屏風繪有世界地圖和日本地圖，堪稱是江戶時代（1603-1867）前的珍品，目前展出的是複製品。原本的世界地圖採用了橢圓形繪圖法，這種畫法被認為是日本最古老的地圖繪製方式，至今僅有東京·小林家本、福井·淨得寺本及本圖三例流傳於世，皆被列為國家指定重要文化財產。從地圖中可以看出，當時正處於地理知識飛速普及的時代，人們對朝鮮半島、中國東北部、西歐和新世界等地區均有所瞭解。這兩幅折疊屏風曾在小濱一個富商家中珍藏數代，由此可見小濱作為港口城鎮在日本與外界連接中所扮演的角色。屏風原件現收藏於博物館庫房中。

瞭解更多

16 世紀末的珍貴地圖

日本在江戶時代出現了許多地圖製品，但這兩幅裝飾性折疊屏風上繪製的地圖年代更為久遠，或許可以上溯到 16 世紀末。兩幅屏風中，一幅描繪的是日本列島，另一幅則是根據西班牙或葡萄牙水手所用地圖繪製的世界地圖。每幅屏風寬約 3.8 公尺，高約 1.2 公尺。透過地圖上的地域邊界、顏色和標注符號，我們可以了解到當時繪圖者對於日本及世界地域疆界情況的認識。

兩幅折疊屏風的歷史

此折疊屏風很可能繪製於京都，主人應該是一位「大名」（大領主），且與 16 世紀末期日本的實際統治者豐臣秀吉（1537-1598）關係密切。後來，這兩幅屏風被帶到小濱，被成功經營海運的富商川村家收藏並流傳數代。一個港口城鎮的商人家庭能擁有如此傑出的藝術珍品，這正表明了小濱繁榮的商貿活動為部分商業經營者帶來了巨大的財富。

展品介紹

在這幅繪有日本地圖的折疊屏風上，整個國家被藍色的海洋和以金箔貼就的雲朵環繞。圖上準確繪出了九州、四國、本州西南部的關西地區與中國地方（本州西部地區名，包括鳥取、島根、岡山、廣島、山口五縣）的海岸線。相比之下，東北地區和更遠的北海道等日本東北部的海岸線就沒有那麼精准了。

另一幅屏風上繪有橢圓形的世界地圖。中央的橫帶代表赤道，每隔 10 度以紅色標記標出經度。當時的製圖師用不同的顏色標記不同地區。和日本地圖類似，這幅地圖上的很多區域已經繪製得與現代地圖十分接近，但仍有部分區域不太精准，顯示出當時人們對於各

大陸的認識和文獻記載水準的參差。地圖周圍の屏風表面覆蓋著金箔，與深藍色的海洋形成了鮮明的反差。

<日本語仮訳>

世界及日本図 屏風

概要

世界地図と日本地図を描いた八曲一双の屏風は、江戸時代（1603-1867）以前に制作された貴重な地図画の複製です。オリジナルは世界図が卵形図法で描かれるものは最も古い形式と考えられ、東京・小林家本、福井・浄得寺本および本図の三例のみが伝存しており、いずれも国の重要文化財に指定されています。朝鮮半島や中国北東部、西ヨーロッパ、新世界といった地域への地理的な知識が劇的に拡大した時代を反映しています。この屏風は小浜の豪商の家に代々受け継がれ、日本と世界を結ぶ港町としての小浜の役割を反映し、国の重要文化財に指定されています。オリジナルは当館で所蔵しています。

もっと詳しく知る

16世紀末に制作された珍しい地図

日本では江戸時代に多くの地図が制作されましたが、装飾的な屏風に描かれたこの地図はそれよりも前の、16世紀末に制作されたと考えられています。1つは日本列島を描いており、もう1つはスペインやポルトガルの船乗りが使っていた地図をもとに世界全体を描いています。いずれの屏風も大きさは幅約3.8メートル、高さ約1.2メートルです。地図の境界線や色、ラベルから、当時の地図製作者が日本と世界の地域をどのように理解していたかが分かります。

二双の屏風の歴史

この屏風は京都で制作された可能性が高く、16世紀末の日本の事実上の支配者であった豊臣秀吉（1537-1598）に近い大名（大領主）が所有していたものと考えられます。屏風は最終的に小浜に持ち込まれ、廻船問屋として栄えた豪商の川村家が代々所有していました。海沿いの町の商家がこのような優れた芸術作品を手に入れることができたという事実は、小浜の交易が盛んになったことで、一部の事業主がいかに繁栄していたかを物語っています。

展示品

日本地図の屏風には、青い海と金箔の雲に囲まれた日本が描かれています。九州や四国地方、さらに本州南西部の中国（鳥取、島根、岡山、広島、山口の5県）・関西地方の海岸線は、忠実に表現されています。それに比べて、東北地方や日本のはるか北東にある北海道の海岸線は、あまり正確ではありません。

もう一方の屏風には、楕円形の世界地図が描かれています。中央の帯は赤道を表し、経度10度ごとに赤いマークで区切られています。当時の地図製作者の解釈に従って、地域を表すのにさまざまな色が使用されています。日本地図と同様に、現代の地図に極めて近い形で描かれている地域もあれ

ば、不正確な地域もあり、当時のそれぞれの大陸に関する知識や記録に偏りがあったことを示しています。地図の周囲の屏風の表面は金箔で覆われており、海の深い青とのはっきりとしたコントラストを生み出しています。

【タイトル】若狭武田家：若狭国の守護

【想定媒体】アプリQRコード

<簡体字>

若狭武田家族：若狭国の“守护”者

概要

若狭武田家族自 15 世纪中叶至 16 世纪下半叶掌管若狭国。这个家族受第六代室町幕府将军足利义教(1394-1441)指派，出任“守护”（地方知事）一职，至 16 世纪早期在小浜修建后瀨山城为止，一直留在京都对若狭国实施远程管理。若狭武田家族以军事战略和战斗技巧闻名，同时他们对和歌、连歌（均为日本传统诗歌形式）等艺术的支持也广为人知。

了解更多

武田家族的源起与分支

据传，武田家族的本家是日本第 56 代天皇清和天皇(850-881)的子孙，属清和源氏一系，清和源氏家族里诞生了平安时代(794-1185)数位最著名的武士。武田家族最初是甲斐国（今山梨县）的守护。1221 年，武田信光(1162-1248)受命出任安芸国（今广岛县西部）守护，从而诞生了安芸武田家族这条分支。

1440 年，在室町幕府将军足利义教的授命下，安芸武田家族的武田信荣(1413-1440)击败了当时统治若狭国的一色家族。因此功绩，武田信荣接任了若狭国的守护职位。这便是武田家族又一大分支——若狭武田家族的发端。

若狭国的“守护”

和其他许多守护一样，若狭武田家族最初并不住在若狭国。虽然有着这样的头衔，守护们却大都留在京都，以便参与各种活动并履行他们在朝廷的职责，而地方政务则交给被称为“守护代”的代理人执行。但在 1467 年至 1477 年经历了“应仁之乱”之后，首都逐渐荒废，若狭武田家族便开始准备移居若狭国。

1522 年，后瀨山城建成。与此同时，第六代家主武田元光(1494-1551)也在后瀨山山麓修建了府邸，他的家臣们则在若狭国内各处战略要地修建规模较小的城郭，以防御邻近地区的进犯。

对艺术与文化的支

由于常年定居京都，若狭武田家族与首都的文化人士关系密切。即使在移居若狭国之后，武田家族依然常常邀请有名的诗人、画家、学者、禅僧等到府邸交流，进而推动了其统治期间若狭国的文化艺术发展和佛教信仰传播。

若狭武田家族的衰落

进入 16 世纪下半叶后，若狭武田家族的影响力逐渐减退，在室町幕府与强大的军阀织田信长(1534-1582)展开权势争斗期间，被邻国越前国（今福井县东部）的朝仓家族取代。若狭武田家族第九代家主武田元明(1552-1582)遭朝仓家族拘禁，直至织田信长获胜以后才得以回归若狭。1573 年，他又被织田信长麾下武将丹羽长秀(1535-1585)夺位，由此，若狭武田家族在本地区的长期统治落下了帷幕。

展品介绍

若狭武田家族的家谱旁悬挂着一幅绘制于 1574 年的武田元光肖像画的复制品，画中的武田元光身着骑射服，骑在马上。若狭武田家族以一种被称为“犬追物”的家传军事训练运动而闻名，即用钝头箭射击在场地上奔跑的犬。这里展出了一卷可能是出自宽永年间(1624-1645)的武田式“犬追物”训练指南，翻开的插图页上有详细的标注与提示。展品中还有一份 1528 年发往明通寺的文献，上面有武田元光的花押（签名）。文件写明免除该寺的部分税赋，并禁止外来者进入寺庙地界砍伐树木或占用寺庙建筑作为居所。此外，一幅写有武田元光所作和歌的立轴作品，充分展示了若狭武田家族在文学艺术方面的才华。

<繁体字>

若狭武田家：若狭國的「守護」者

概要

從 15 世紀中葉開始，若狭武田家開始掌管若狭國，並一直延續到 16 世紀下半葉。這個家族受第六代室町幕府將軍足利義教（1394-1441）指派，出任「守護」（地方知事）一職，一直留在京都對若狭國實施遠端管理，直到 16 世紀早期在小濱修建後瀨山城。若狭武田家以軍事戰略和戰術聞名，同時他們對和歌、連歌（均為日本傳統詩歌形式）等藝術的支持也廣為人知。

瞭解更多

武田家的源起與分支

據傳，武田家的本家自稱是日本第 56 代天皇清和天皇（850-881）的子孫，屬清和源氏一系。清和源氏家裡誕生了平安時代（794-1185）數位最著名的武士。武田家最初是甲斐國（今山梨縣）的守護。1221 年，武田信光（1162-1248）受命出任安芸國（今廣島縣西部）守護，從而誕生了安芸武田家這條分支。

1440 年，在室町幕府將軍足利義教的授命下，安芸武田家的武田信榮（1413-1440）擊敗了當時統治若狭國的一色家。因此功績，武田信榮接任了若狭國的守護職位。這便是武田家的又一大分支——若狭武田家的發端。

若狭國的「守護」

和其他許多守護一樣，若狹武田家最初並不住在若狹國。雖然有著這樣的頭銜，守護們卻大都留在京都，以便參與各種活動並履行他們在朝廷的職責，而地方政務則交給被稱為「守護代」的代理人執行。但在 1467 年至 1477 年經歷了「應仁之亂」之後，首都逐步荒廢，若狹武田家便開始著手準備移居若狹國。

1522 年，後瀨山城建成。於此同時，第六代家主武田元光（1494-1551）在後瀨山山麓修建府邸，他的家臣們則在若狹國內各處戰略要地修建規模較小的城郭，以防禦鄰近地區的進犯。

對藝術與文化的支持

由於常年定居京都，若狹武田家與首都的文化人士關係密切。即使在移居若狹國之後，武田家依然經常邀請有名的詩人、畫家、學者、禪僧等到府邸交流，進而推動了其統治期間若狹國的文化藝術發展和佛教信仰傳播。

若狹武田家的衰落

進入 16 世紀下半葉後，若狹武田家的影響力漸漸式微，在室町幕府與強大的軍閥織田信長（1534-1582）展開權勢爭鬥期間，被鄰國越前國（今福井縣東部）的朝倉家取代。若狹武田家第九代家主武田元明（1552-1582）遭朝倉家拘禁，直至織田信長獲勝後才得以回歸若狹。1573 年，他又被織田信長麾下武將丹羽長秀（1535-1585）奪位，由此結束了若狹武田家在該地區的長期統治。

展品介紹

若狹武田家的家譜旁懸掛著一幅繪製於 1574 年的武田元光肖像畫的複製品，畫中的武田元光身著騎射服騎於馬上。若狹武田家以一種被稱為「犬追物」的家傳軍事訓練活動而聞名，即以鈍頭箭射擊在場地上奔跑的犬。這裡展出了一卷可能是出自寬永年間（1624-1645）的武田式「犬追物」訓練手冊，翻開的插圖頁上有詳細的標注與提示。展品中還有一份 1528 年發往明通寺的文獻，上面有武田元光的花押（簽名），文獻中寫明了減免該寺的部分稅賦，並禁止外來者進入寺廟地界砍伐樹木或佔用寺廟建築作為居所。此外，一幅寫有武田元光所賦和歌的立軸，作品展示了若狹武田家在文學藝術方面的才華。

<日本語仮訳>

若狹武田家：若狹国の守護

概要

若狹武田家は、15 世紀半ばから 16 世紀後半にかけて若狹国を治めました。彼らは、第 6 代室町幕府の将軍であった足利義教（1394-1441）から守護（地方の知事）に任命され、16 世紀初頭に小浜に後瀨山城を築城するまでは京都から国を治めました。若狹武田家は、軍略の研究や戦の技術だけでなく、和歌や連歌（いずれも日本の古来に普及した伝統的な詩形）などの芸術を支援したことで知られていました。

もっと詳しく知る

武田家の由来と分家

武田家の本家は、日本の第 56 代天皇である清和天皇（850-881）の子孫で、平安時代（794-1185）に最も有名な武將を輩出した清和源氏を祖とするとされています。当初は甲斐国（現在の山梨県）の守護を務めていました。1221 年、武田信光（1162-1248）が安芸国（現在の広島県西部）の守護に任命され、安芸武田家という分家が誕生しました。

1440 年、室町幕府の将軍・足利義教の命により、安芸武田家の武田信栄（1413-1440）は、当時若狭国の守護を務めていた一色家を討ちます。その功績により、信栄は若狭守護職を拝領し、これが若狭武田家という分家の起源となりました。

若狭国守護の職

他の多くの守護と同様に、若狭武田家も最初は若狭国には住んでいませんでした。その肩書きにもかかわらず、守護は主に、さまざまな行事に参加でき、宮中での義務を果たすことができる京都に居住し、地方の統治は守護代（代理人）に任せていました。しかし、1467 年から 1477 年にかけての応仁の乱で都が荒廃すると、若狭武田家は若狭への移住の準備を始めました。

1522 年、後瀬山に後瀬山城が完成すると、6 代当主であった武田元光（1494-1551）は山麓に居城を構えました。彼の家臣は、近隣地域からの攻撃から守るため、若狭各地の戦略的な位置に小さな城を築きました。

芸術と文化の支援

若狭武田家は長年京都に拠点を置いていたため、京の文化人とよく交流がありました。若狭国に移った後も、若狭武田家は著名な歌人、絵師、学者、禅僧を居城に招いて、若狭武田家が統治する間この地域に芸術と仏教信仰を広めました。

若狭武田家の衰退

16 世紀後半になると若狭武田家の影響力は弱まり、足利幕府と強力な武將であった織田信長（1534-1582）との勢力争いの間に、隣国の越前国（現在の福井県東部）の朝倉家に取って代わられます。その結果、9 代当主であった武田元明（1552-1582）が朝倉家に拘留されました。信長が勝利した後、彼は若狭に戻されましたが、1573 年に信長の武將の一人である丹羽長秀（1535-1585）に取って代われ、長きにわたる若狭武田家の支配は終焉を迎えました。

展示品

若狭武田家の家系図の隣には、1574 年に制作された武田元光の肖像画のレプリカがあり、流鏝馬の衣装を着て馬に乗る様子が描かれています。若狭武田家は、蠶目の矢で場内の中を走る犬を射る武道の訓練の一種である、犬追物を継承したことで知られていました。寛永年間（1624-1645）にまで遡ると考えられている武田式の犬追物の入門書の一つの巻は、詳細な注記やコツが書かれた絵図入りのページが開かれています。1528 年に明通寺に送られた武田元光の花押の入っ

た文書は、寺院の特定の税を免除し、外部の者が境内の木材を伐採することや宿泊のために寺院の建物を徴用することを禁止しています。元光の和歌が掛け軸として飾られており、若狭武田家の優れた文芸の才能を示しています。

【タイトル】 近世の若狭：街道と港を活用した地域開発

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

近世的若狭：善用道路与海港促进地区发展

概要

在日本近世(1568-1867)，统治若狭地区的领主们开发辖下土地，利用本地道路与港口，壮大了他们的财富与势力。领主们控制贸易，调节赋税，颁发新法令，实施各种项目扶持熊川宿以及港口城镇小浜，使它们成长为了繁荣的商贸交易中心。

了解更多

若狭国的治理

1587年，浅野长政(1546-1611)受命掌管若狭国。在完成征税土地的核查后，他于1589年发布政令，免除了熊川宿的多项赋税。该地区从前便是商贸和交通枢纽，新政不仅有利于商人，同时也令熊川宿内的货运代理店、脚夫店、各类商店和膳宿设施得到发展，从而成为了一个繁荣的“宿场町”（驿站）。周边道路的交通量也随之飞速提升，九里半街道便是其中之一，它是连接熊川宿与琵琶湖畔今津港的主干道。1595年，若狭国的新任统治者木下胜俊(1569-1649)针对平民与官员颁布了一系列法规，包括严厉禁止不当行为，尤其是行贿受贿。

与权势人物的关系

许多小浜港的商人都支持16世纪末日本的实际当政者丰臣秀吉(1537-1598)。这些商人中，有些获得了特许，可以代表政府转售某些特定商品而从中获利，其中最具代表性的就是来自菲律宾的吕宋陶器和丰臣秀吉在每年岁贡中收到的稻米。此外，凭借本地商人与丰臣家族成员的关系，小浜部分特定家族的社会地位和经济地位也得以提升。

小浜藩的发展

17世纪初，德川幕府的创始人德川家康(1543-1616)正式确立了由“大名”（大领主）统治各藩的政治体制。小浜藩建立之后，京极高次(1563-1609)受命担任首代藩主，随后便开始修建小浜城以取代规模较小的后瀨山城，进一步加强防御能力。同时他还在新城郭周围修建了武士住宅区。1634年，酒井家族接手统治小浜藩，他们完成了小浜城的修建，并一路带领小浜成长为一个更加繁荣的港口市镇。酒井家族监督海上贸易，支持商业，资助寺院与神社，还促进了若狭漆器等本地手工艺业的发展。

展品介绍

本展区展出了日本近世与若狭地区发展的有关文献。一幅出自江户时代(1603-1867)的卷轴画复制品描绘了熊川宿的鸟瞰图，画面里的城市布局与如今的非常接近。在画面中央，靠近宿场町入口栅栏处，还画出了监管旅行者与货物往来情况的“番所”（警备所）。展品中还有一份浅野长政在完成土地调查后布告政令的复制品，这份 1589 年的政令免除了熊川宿若干赋税。另一幅立轴挂画则是 1595 年木下胜俊所颁政令的复制品，上面列出了有关正当行为的准则。

<繁体字>

近世的若狭：善用道路與海港促進地區發展

概要

在日本近世（1568-1867），統治若狹地區的領主們開發轄下土地，利用當地道路與港口，壯大了自身的財富與勢力。領主們控制貿易，調節賦稅，頒發新法令，實施各種專案扶持熊川宿以及港口城鎮小濱，使它們成長為繁榮的商貿交易中心。

瞭解更多

若狹國的治理

1587 年，淺野長政（1546-1611）受命掌管若狹國。在完成徵稅土地的查核後，於 1589 年發佈政令，免除了熊川宿的多項賦稅。該地區從前便是商貿和旅行往來的樞紐，新政不僅有利於商人，同時也令熊川宿逐步發展為一個繁榮的「宿場町」（驛鎮），建立了數量眾多的貨運代理店、腳夫店、各類商店和旅店。周邊道路的交通量也隨之顯著提升，九里半街道便是其中之一，它是連接熊川宿與琵琶湖沿岸今津港的主幹道。1595 年，若狹國的新任統治者木下勝俊（1569-1649）針對平民與官員頒佈了一系列法規，包括嚴厲禁止不當行為，尤其是行賄受賄。

與權貴人物的關係

許多小濱港的商人都是 16 世紀末日本的實際當政者豐臣秀吉（1537-1598）的支持者。這些商人中，有些獲得了特許，可以代表政府轉售某些特定商品而從中獲利，其中最具有代表性的就是來自菲律賓的呂宋陶器和豐臣秀吉在每年歲貢中收到的稻米。此外，憑藉當地商人與豐臣家成員的關係，小濱部分特定家族的社會地位和經濟地位也得以提升。

小濱藩的發展

17 世紀初，德川幕府的創始人德川家康（1543-1616）正式確立了由「大名」（大領主）統治各藩的政治體系。小濱藩建立之後，京極高次（1563-1609）受命擔任首代藩主，隨後便開始修建小濱城以取代規模較小的後瀨山城，進一步加強防禦能力。同時他還在新城郭周圍修建了武士住宅區。1634 年，酒井家接手統治小濱藩，他們不但完成了小濱城的

修建，並推動小濱成長為一個更加繁榮的港口城鎮。酒井家監督海上貿易，支持商業，贊助寺院與神社，還促進了若狹漆器等當地手工藝產業的發展。

展品介紹

本展區展出了日本近世與若狹地區發展的有關文獻。一幅出自江戶時代（1603-1867）卷軸畫複製品描繪了熊川宿的鳥瞰圖，畫面裡的城市佈局與如今的非常接近。在畫面中心，靠近驛鎮入口柵欄處，還畫出了監管旅行者與貨物往來情況的「番所」（警備所）。展品中還有一份淺野長政在完成土地調查後佈告政令的複製品，這份 1589 年的政令免除了熊川宿若干賦稅。另一幅立軸掛畫則是 1595 年木下勝俊所頒政令的複製品，上面列出了有關正當行為的準則。

<日本語仮訳>

近世の若狹：街道と港を活用した地域開発

概要

日本の近世（1568-1867）の間、若狹地方を治めた領主たちは、管轄下にある土地を開発し、富と権力を増大させるために街道や港を利用しました。彼らは交易と税を統制し、新しい法律を導入し、熊川宿や小浜の港町を交易の中心地として繁栄させるプロジェクトを実施しました。

もっと詳しく知る

若狹国の統治

1587 年、浅野長政（1546-1611）が若狹国を治めるよう任命されました。徴税のための検地を行った後、彼は 1589 年に熊川宿に一連の税金免除の布告を出しました。それ以前からこの地域は交易と交通の交差点でしたが、新しい政策は商人に有利なものであり、それによって熊川宿は多くの運送代理店、運搬人の詰所、店舗、宿泊施設が並ぶ宿場町へと発展しました。その結果、熊川宿と琵琶湖畔にある今津港を結ぶ主要ルートであった九里半街道など、周辺道路の交通量が大きく増加しました。1595 年、若狹国の新たな統治者となった木下勝俊（1569-1649）は、不正行為、特に収賄に対する厳格な法律を含む、庶民と役人に対する一連の条例を発布しました。

権力者との絆

小浜の港町の商人の多くは、16 世紀末の日本の事実上のリーダーであった豊臣秀吉（1537-1598）に好意を抱いていました。彼らの中には、政府に代わって特定の商品を転売し利益を得ることを許可された者もあり、その典型的な例としては、フィリピンからのルソン陶器や秀吉が年貢として徴収した米などがありました。さらに、豊臣家と小浜の商人との結びつきは、小浜の特定の一族の社会的地位や経済的地位を向上させるのに役立ちました。

小浜藩の発展

17世紀初頭、徳川幕府の創始者である徳川家康（1543-1616）は、大名（大領主）によって統治される藩の体制を確立しました。家康は京極高次（1563-1609）を小浜藩の初代藩主に任命しました。京極は、小規模な後瀬山城に代わる小浜城の築城を開始し、防御を強化し、新しい城の周りに武家屋敷の地区を整備しました。1634年からは酒井家が藩を統治し、小浜城を完成させ、小浜をさらに繁栄した港町に成長させました。酒井家は、海運交易を監督し、商人の事業を支援し、寺院や神社に資金を提供し、若狭漆器などの地域の工芸品の発展を後押ししました。

展示品

展示されている資料は、日本の歴史における近世の若狭地方の発展に関連するものです。江戸時代（1603-1867）の絵巻物の複製品には、熊川宿の俯瞰図が描かれており、現在の町並みとよく似ています。旅人や物資の動きを監視していた番所は、図の中ほど、宿場町の入り口の柵の近くにあり、浅野長政が1589年に検地を経て発行した一連の税金免除の布告の複製もあります。掛け軸には、適切な行動の規則を概説した1595年の木下勝俊による法令の複製を展示しています。

【タイトル】 京極家と小浜藩

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>**京极家与小浜藩****概要**

17 世纪初，德川幕府确立了由“大名”（大领主）统治各藩的政治体制。1600 年，若狭国被改设为小浜藩，划归京极高次(1563-1609)治理。京极高次成为这个新藩的首任统治者后，很快便开始修建小浜城，同时围绕市镇与港口展开多项改良工程。只是他没能等到小浜改造完成，便于 1609 年去世。他的儿子京极忠高(1593-1637)接管了小浜藩，继续相关工程，直至 1634 年移任松江藩。

了解更多京极高次

应仁之乱(1467-1477)后，京极家族的势力大减，但第 17 代家主京极高次(1563-1609)再次复兴了家族。他早年曾多次改变政治阵营，后来在当时日本实际统治者丰臣秀吉(1537-1598)指挥的数次战事中崭露头角。作为奖赏，京极高次受封大名，成为近江国（今滋贺县）大津城的城主。1587 年，他迎娶了贵族出身的浅井初(1570-1633)，妻族的力量为京极家族带来了不可估量的价值。

丰臣秀吉死后，势力强大的大名德川家康(1543-1616)开始统一日本，京极高次成为了他的同盟者。在 1600 年的大决战“关原之战”中，德川家康集结军力于日本东部，京极高次则努力将一部分敌对力量拖在了大津城，为德川军最终取胜做出了贡献。同年，京极高次因此功绩被任命为新设立的小浜藩的首任藩主。

京极高次成为藩主后，为增强若狭地区的防御能力，着手修建小浜城以取代规模较小的后瀨山城。他还亲自监管小浜的街市改造，支持繁忙的港镇发展商业，并在城郭周围修建了武士住宅区。

浅井初（常高院）

浅井初（阿初）是大名浅井长政(1545-1573)与妻子阿市(1547-1583)所育的三个女儿中的一位。阿市是强大的军阀织田信长的妹妹。浅井初于 1587 年与京极高次成婚，成为了大津城的女主人。虽然没能生育子嗣，但她依然是人们心目中美丽、智慧的贤妻，也是丈夫值得信赖的智囊。阿初的家庭背景也为这场婚姻增添了宝贵的价值，因为她的姐姐是丰臣秀吉宠爱的侧室，妹妹是第二代德川将军德川秀忠(1579-1632)的妻子。也因如此，阿初成为了那一历史时期日本最强大的两个家族的中间人。

1600 年，阿初协助丈夫守卫大津城，抗击德川家族的敌人。京极高次获赏出任小滨藩藩主后，夫妻双双移居若狭。1609 年，京极高次去世，阿初遵循当时贵族妇人的传统，在小滨的常高寺出家，法号为“常高院”。虽说出家为尼就该远离凡尘俗事，阿初却还是凭借着她的家庭关系，努力尝试促成多年来争斗不休的丰臣与德川两大家族达成和平。1615 年，当冲突白热化时，阿初还在丰臣家族治下的大坂城（今大阪城）里尝试与姐姐交涉斡旋，直到眼见城郭要遭德川军攻破焚毁，才被家臣带离。

浅井初于 1633 年去世，遵照其遗愿，被安葬在常高寺。

展品介绍

这里展出的两幅立轴挂画分别是江户时代(1603-1867)京极高次与妻子浅井初（常高院）的肖像复制品，画中的京极高次作宫廷装束，而常高院则身着出家贵族女性的典型服饰。其他展品还包括京极家族族谱的复制品，以及《菊之物语》的插画版复制品，画面描绘了浅井初撤离大坂城时无比紧迫场景。

<繁体字>

京極家與小濱藩

概要

17 世紀初，德川幕府確立了由「大名」（大領主）統治各藩的政治體系。1600 年，若狹國被改設為小濱藩，劃歸京極高次（1563-1609）治理。京極高次成為這個新藩的首任統治者後很快便開始修建小濱城，同時在市鎮與港口周圍展開多項改良工程。只是他沒能等到小濱改造完成，便於 1609 年去世。他的兒子京極忠高（1593-1637）接管了小濱藩，繼續相關工程，直至 1634 年移任松江藩。

瞭解更多

京極高次

應仁之亂（1467-1477）後，京極家的勢力大減，但第 17 代家主京極高次（1563-1609）再次復興了家族往日的光榮。他早年曾多次改變政治陣營，後來在當時日本實際統治者豐臣秀吉（1537-1598）指揮的數次戰事中嶄露頭角。作為獎賞，京極高次受封大名，成為近江國（今滋賀縣）大津城的城主。1587 年，他迎娶了貴族出身的浅井初（1570-1633），妻族的力量為京極家帶來了不可估量的價值。

豐臣秀吉死後，勢力強大的大名德川家康（1543-1616）開始統一日本，京極高次成為了德川家的同盟者。在 1600 年的大決戰「關原之戰」中，德川家康集結軍力於日本東部，京極高次則盡力將部分敵對力量拖在大津城，為德川軍最終取勝做出了貢獻。同年，京極高次因此項功績被任命為新設立的小濱藩的首任藩主。

京極高次成為藩主後，為增強若狹地區的防禦能力，著手修建小濱城以取代規模較小的後瀨山城。他還親自監管小濱的街市改造，支援繁忙的港鎮發展商業，並在城郭周圍修建了武士住宅區。

淺井初（常高院）

淺井初（阿初）是大名淺井長政（1545-1573）與妻子阿市（1547-1583）所育的三個女兒之一，阿市是強大的軍閥織田信長的妹妹。淺井初於1587年與京極高次成婚，成為了大津城的女主人。雖然沒能生育子嗣，但她依然是人們心目中美麗、智慧的賢妻，也是丈夫值得信賴的智囊。阿初的家庭背景為這段婚姻帶來有利的附加價值，因為她的姐姐是豐臣秀吉寵愛的側室，妹妹則是第二代德川將軍德川秀忠（1579-1632）的妻子。也因如此，阿初成為了那一歷史時期日本最強大的兩個家族的中間人。

1600年，阿初協助丈夫守衛大津城，抗擊德川家康的敵人，京極高次獲賞出任小濱藩藩主後，夫妻雙雙移居若狹。1609年，京極高次去世，阿初遵循當時貴族婦女的傳統，在小濱的常高寺出家，法號「常高院」。雖說出家為尼就該遠離凡塵俗事，阿初卻還是憑藉著她與兩大家族之間的特殊關係，努力嘗試促成多年來爭鬥不休的豐臣家與德川家達成和解。1615年，當衝突白熱化時，阿初還在豐臣家治下的大坂城（今大阪城）裡嘗試與姐姐交涉斡旋，直到眼見城郭要遭德川軍攻破焚毀，才被家臣帶離。

淺井初於1633年去世，遵照其遺願，被安葬在常高寺。

展品介紹

這裡展出的兩幅立軸掛畫分別是江戶時代（1603-1867）京極高次與妻子淺井初（常高院）的肖像複製品，畫中的京極高次作宮廷裝束，而常高院則身著出家貴族女性的典型服飾。其他展品還包括京極家族譜的複製品，以及《菊之物語》的插畫版複製品，畫面描繪了淺井初從大坂城撤離時無比緊迫的場景。

<日本語仮訳>

京極家と小浜藩

概要

17世紀初頭に、徳川幕府が大名（大領主）によって藩を治める体制を確立すると、若狭国は小浜藩として1600年に京極高次（1563-1609）がその任に割り当てられました。この新しい藩の最初の統治者として、高次はすぐに小浜城の築城や、町や港周辺の工事に着手しましたが、生まれ変わった小浜を見届ける前に、1609年に亡くなりました。彼の息子の忠高（1593-1637）は、1634年に松江藩に移されるまで、小浜藩を統治しその工事を続けました。

もっと詳しく知る

京極高次

応仁の乱（1467-1477）の後、京極家の勢力は大きく衰退しましたが、その家運を再興させたのが 17 代当主・京極高次（1563-1609）でした。彼は若い頃に何度か忠誠を変え、当時の日本の事実上の指導者であった豊臣秀吉（1537-1598）の下での軍事作戦で頭角を現しました。高次はその功績を認められて大名となり、近江国（現在の滋賀県）の大津城の城主となりました。1587 年、高次は後にその家系が京極家にとってかけがえのないものとなる高貴な生まれの女性、お初（1570-1633）と結婚しました。

高次は、秀吉の死後に天下統一を目指した有力な大名、徳川家康（1543-1616）の同盟者になりました。家康が日本の東部に軍を集めたとき、高次は敵の一部を大津城で足止めし、1600 年の関ヶ原の戦いで家康の勝利に貢献しました。同年、この功績により、高次は新たに設置された小浜藩の最初の藩主に任命されました。

藩主として、高次は若狭地方の防御を改善するために、小規模な後瀬山城に代わる小浜城の建設を開始しました。彼はまた、小浜の町の刷新を指揮し、にぎやかな港町での商人たちの商いの成長を支え、城の周りに武家屋敷の地区を整備しました。

お初（常高院）

お初は、大名の浅井長政（1545-1573）と有力な武将だった織田信長（1534-1582）の妹であり長政の妻だったお市（1547-1583）の間に生まれた 3 人の娘の 1 人でした。お初は 1587 年に京極高次と結婚し、大津城の女主人となりました。彼女は子どもを産むことができませんでしたが、夫の信頼できる相談役として尽くした、美しく知的な妻と見なされていました。彼女の姉は豊臣秀吉の寵愛を受け、妹は二代目将軍の徳川秀忠（1579-1632）の妻だったので、お初の家系は高次との結婚に際して貴重な財産となりました。お初は、当時の日本の歴史上最も有力な 2 つの家系の間の仲介者という役割を担っていたのです。

1600 年、お初は、徳川家の敵から大津城を守る夫を助け、高次が小浜藩主の任を与えられると、二人は若狭に移りました。1609 年に高次が亡くなった後、お初は当時の高貴な女性の慣例に従い、小浜の常高寺で尼となり、常高院と名乗りました。尼僧は俗世から身を引くものとされていましたが、お初は家柄を利用して、何年にもわたって対立していた豊臣家と徳川家の間の和平の仲裁を行いました。1615 年にその争いが頂点に達したとき、お初は豊臣家が支配する大坂城（現在の大阪城）内で姉との交渉を続けていたため、城が徳川軍によって焼け落とされる前に、お初の家臣たちは彼女を避難させなければなりませんでした。

お初は 1633 年に亡くなり、その遺願によって常高寺に葬られました。

展示品

二つの掛け軸には、江戸時代（1603-1867）の宮廷装束の京極高次と、尼となった高貴な女性の典型的な服装をした妻のお初（常高院）の肖像画の複製が描かれています。その他の展示には、京極家の家系図の複製や、お初の大坂城からの劇的な脱出を描いた『お菊物語』の挿絵の複写などがあります。

【タイトル】 酒井家と小浜藩の発展

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

酒井家族与小浜藩的发展

概要

有权有势的酒井家族是小浜藩的第二代“大名”（大领主）。酒井忠胜(1587-1662)是酒井家族在小浜的首位藩主，他完成了小浜城修建，为小浜这座港口市镇的进一步发展实施了多项举措。在统治本地的 200 余年间，酒井家族资助神社、佛寺，鼓励若狭漆器等本地手工艺发展，并管理监督着小浜港利润丰厚的海运贸易。

了解更多

酒井忠胜的统治

1634 年，酒井忠胜成为小浜藩藩主。长期以来，他都是德川家族的家臣，在德川幕府里担任过多个重要职位，包括“老中”（长老）和“大老”（地位仅次于将军的最高官职）。他大多数时间都在幕府的所在地江户（今东京），远程管理小浜藩的藩政，与留在藩地代管理藩政的人员保持着频繁的书信往来。

在此之前，酒井忠胜是川越藩（今埼玉县）藩主，移任小浜藩后，也将风行于日本东部的表演艺术和娱乐形式带了过来。至今流传于小浜地区的“云滨狮子舞”就是其中之一。

小浜城的建成

小浜城自小浜藩首任藩主京极高次(1563-1609)就任时便开始修建，1645 年终于在酒井家族的统治期间完工，前后历时逾 30 年。小浜很快成为了一个繁华的城下町（围绕城郭发展起来的市镇），以及一个拥有热闹休闲娱乐街的港口市镇。此外，酒井家族还以支持若狭漆器匠人及其他传统手工业者而闻名。

酒井政权的末期

酒井家族对小浜藩的统治一直持续到 1871 年藩政制度废除。第 14 代、也就是酒井家族最后的大名酒井忠义(1813-1873)时任“京都所司代”（幕府驻京都代表）。1868 年，在德川幕府倒台以及天皇恢复统治的动荡政局中，明治天皇(1852-1912)即位，而酒井忠义几乎被贴上了“朝敌”的标签。但小浜藩家臣们制定了巧妙的政治策略，为他争取到了宣誓效忠天皇的机会，藩地因此得以免遭战乱之苦。

展品介绍

这套铠甲曾经属于小滨藩的最后一任大名酒井忠义。它大部分都出自江户时代(1603-1867)，唯有头盔古老得多，造于 14 世纪至 16 世纪的某个时期。铠甲上的金属装饰件上镌有酒井家族的家纹。展区内的其他展品还包括酒井家族的族谱、一封朝鲜半岛的朝鲜王国商贸代表写给酒井忠胜的信（复制品）、一幅绘于 1660 年的酒井忠胜身着宫廷装束的肖像立轴挂画（复制品）。此外，还有一个采用现代若狭漆器工艺制成的四层高的漆盒，以及一个再现传统若狭漆艺、用来存放贵重物品的漆盒，它们都是酒井家族统治期间扶持本土手工艺发展的范例。

<繁体字>

酒井家與小濱藩的發展

概要

有權有勢的酒井家是小濱藩的第二代「大名」（大領主）。酒井忠勝（1587-1662）是酒井家在小濱的首任藩主，他完成了小濱城的修建，並為小濱港的進一步發展實施了多項舉措。酒井家統治該地區 200 餘年，期間贊助神社、佛寺，鼓勵若狹漆器等當地手工藝發展，掌管著小濱港利潤豐厚的海運貿易。

瞭解更多

酒井忠勝的統治

1634 年，酒井忠勝成為小濱藩藩主。長期以來，他都是德川家的家臣，在德川幕府裡擔任過多個重要職位，包括「老中」（長老）和「大老」（地位僅次於將軍的最高官職）。他大多數時間都在幕府的所在地江戶（今東京），遠端管理小濱藩的藩政，與留在藩地代為管理藩政的人員保持著頻繁的信件往來。

在此之前，酒井忠勝是川越藩（今埼玉縣）藩主，移任小濱藩後，也將風行於日本東部的表演藝術和娛樂形式帶了過來。至今在小濱地區依然可以看到的「雲濱獅子舞」就是其中之一。

小濱城的建成

小濱城自小濱藩首任藩主京極高次（1563-1609）就任時便開始修建，1645 年終於在酒井家的統治期間完工，前後歷時 30 多年。小濱很快便成為了一個繁華的城下町（圍繞城郭發展起來的市鎮），以及一個擁有熱鬧休閒娛樂街的港口市鎮。此外，酒井家還以支持若狹漆器匠人及其他傳統手工業者而聞名。

酒井政權的末期

酒井家對小濱藩的統治一直持續到 1871 年藩政制度廢除。第 14 代、也就是酒井家最後的大名酒井忠義（1813-1873）時任「京都所司代」（幕府派駐京都代表）。1868 年，在德川幕府倒臺以及天皇恢復統治的動盪政局中，明治天皇（1852-1912）即位，而酒井

忠義幾乎被貼上了「朝敵」的標籤。但小濱藩家臣們制定了巧妙的政治策略，為他爭取到了宣誓效忠天皇的機會，藩地因此得以免受戰亂之苦。

展品介紹

這套鎧甲曾經屬於小濱藩的最後一任大名酒井忠義。它大部分出自江戶時代（1603-1867），唯有頭盔更為古老，於 14 世紀至 16 世紀之間製造。鎧甲上的金屬裝飾附件上鑄有酒井家的家紋。展區內的其他展品還包括酒井家的族譜、一封朝鮮半島的朝鮮王國商貿代表寫給酒井忠勝的信（複製品）、一幅繪於 1660 年的酒井忠勝身著宮廷裝束的肖像立軸掛畫（複製品）。此外，還有一個採用現代若狹漆器工藝製成的四層高的漆盒，一個再現了傳統若狹漆藝、用來存放貴重物品的漆盒，它們都是酒井家統治期間扶持當地手工藝發展的範例。

<日本語仮訳>

酒井家と小浜藩の発展

概要

小浜藩の 2 番目の大名（大領主）として藩を治めたのが、有力で人脈に恵まれた酒井家でした。酒井氏で初めて藩主となった酒井忠勝（1587-1662）は小浜城を完成させ、港町小浜をさらに発展させる様々な施策を導入しました。酒井家は 200 年以上にわたって神社や寺院に資金を提供し、若狹漆器などの地元の工芸品を奨励し、小浜港の豊かな海上貿易を管理監督しました。

もっと詳しく知る

酒井忠勝による統治

1634 年、酒井忠勝が小浜藩主となりました。彼は徳川家の長年の家臣であり、老中や大老（将軍に次ぐ地位）など、徳川幕府で要職を務めていました。彼は幕府の本拠地である江戸（現在の東京）でほとんどの時間を過ごし、藩を任せている者と頻繁に手紙で通信し、遠方から統治を行いました。

かつて川越藩（現在の埼玉県）の藩主であった忠勝は、小浜へ移った際、東日本で人気だった芸人や芸能を持ち込みました。その一つである「雲浜獅子」という獅子の舞は、今でも小浜のある地区で演じられています。

小浜城の完成

初代藩主であった京極高次（1563-1609）が着工した小浜城は、30 年以上の歳月を経て酒井政権の下で 1645 年に完成しました。小浜はすぐに城下町（城郭を中心に発達した都市）として栄え、花街のある賑やかな港となりました。酒井家はまた、漆器やその他の伝統工芸を作る若狹の職人たちを支援したことも知られています。

酒井家による統治の末期

酒井家は藩制が廃止された 1871 年まで小浜を統治しました。第 14 代、最後の酒井家大名であった酒井忠義（1813-1873）は、京都所司代（江戸幕府の京都常駐の地方官）も務めました。1868 年の徳川幕府の崩壊と王政復古をめぐる激動の政治情勢の最中、忠義は新たに即位した明治天皇（1852-1912）の敵というレッテルを貼られそうになります。しかし、小浜藩士の巧みな政治戦略により、忠義は天皇に忠誠を誓うことができ、小浜藩は戦争を回避することができました。

展示品

最後の小浜大名であった酒井忠義所有の甲冑です。大部分は江戸時代（1603-1867）の作ですが、兜はもっと古く、14～16 世紀ごろに作られました。鎧に付けられた飾り金具には酒井家の家紋が入っています。この他にも、酒井家の家系図、朝鮮半島にあった朝鮮王朝の通商代表が酒井忠勝に送った書簡の写し、宮廷の装束を着た忠勝の 1660 年の肖像画の写しが描かれた掛け軸などが展示されています。若狭塗の技法を現代に生かした四段重ねの漆器や、貴重な品を入れるための伝統的な漆塗りの箱を再現したものなど、酒井家の統治下で奨励された郷土工芸品もあります。

【タイトル】 小浜藩の学問奨励

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

小浜藩对学术研究的倡导

概要

江戸时代(1603-1867), 小浜藩藩主一直积极倡导教育和学习。藩主们在如今的福井县境内开设了第一家藩政出资的学校, 并对医药领域的研究提供了特别资助。本地因此涌现出一系列出色的学者, 他们的努力甚至改变了日本全国对医学的认识。其中, 小浜藩的医师中川淳庵(1739-1786)和杉田玄白(1733-1817)将西方医学中的解剖学知识引入日本, 推动了日本与欧洲的文化交流。

了解更多

儒学的振兴

小浜藩的儒学传统深受中国程朱理学影响。酒井家族在小浜藩的第一任藩主酒井忠胜(1587-1662)首开儒学推广先河, 邀请了一位儒学教师前来教导藩内百姓。他的继任者酒井忠直(1630-1682)同样热心学问, 曾为小浜民众组织公开讲学。酒井家族的第七任小浜藩主酒井忠用(1723-1775)也曾邀请一位儒家学者前来教导高阶家臣。

医学的发展

日本的第一次人体医学解剖出现于 1754 年的京都。此次解剖由小浜藩的医师倡议, 经当时的“京都所司代”(幕府驻京都代表)酒井忠用批准实行。此次解剖大大促进了人们对于人体解剖学的理解, 提升了小浜藩民众对于医学的兴趣。

购买荷兰的解剖图书

1771 年, 专研“兰学”^{*}的小浜医师中川淳庵给他的同事杉田玄白看了两本荷兰出版的解剖学图书, 分别是《人体解剖图谱》和《人体解剖学教科书》。杉田玄白认为书中内容丰富精深, 于是向当时酒井家族的第九代藩主酒井忠贯(1752-1806)提出申请, 希望购买这些昂贵的图书, 供藩内学习。

西方医学著作的首次全本翻译

杉田玄白和中川淳庵对照着《人体解剖图谱》旁观了一场人体解剖。书中图谱的准确性令两位科学家大为震惊, 于是决定将荷兰语的教材翻译成日语。另外三名医师也参与了

这项工作，最终完成的日文译本被命名为《解体新书》，于1774年出版。这是日本首次完整翻译的西方医学著作。

若狭·越前地区第一座藩营学校

同在1774年，酒井忠贯开设了“顺造馆”，这是首座若狭和越前地区（今福井县）由藩政府出资并运营的学校。低年级学生在这里学习读写，高年级学生则主要学习日本及中国历史、佛经和儒学。江户时代里，若狭和越前地区还有另外几所藩政运营的学校，以及500余所佛寺管理的教育机构“寺子屋”。

展品介绍

本展区最重要的展品便是四本原版《解体新书》和一套法文版的《人体解剖图谱》，后者于1734年出版，书中插图与杉田玄白及其同事中川淳庵等人手中的荷兰语版本完全一致。此外，一张海报将荷兰语版图书中的插图与西洋画家小田野直武(1749-1780)为《解体新书》创作的插图进行了对比。两幅立轴挂画分别是杉田玄白和中川淳庵的肖像。其他展品还有杉田玄白于1810年出版的医学回忆录《形影夜话》；杉田玄白的学生大槻玄泽(1757-1827)编写的烟草研究论文。展品中还有小浜藩家臣伴信友(1773-1846)的护臂和头盔，是他所穿盔甲的一部分。伴信友曾在顺造馆求学，是一名日本国学学者。

※兰学：江户时代经荷兰或荷兰语传入日本的西方科学技术的统称，主要涉及医学、天文学、军事研究等自然学科。

<繁体字>

小濱藩對學術研究的倡導

概要

江戶時代（1603-1867），小濱藩藩主一直熱衷於倡導教育和學習。藩主們在如今的福井縣境內開設了第一家藩政出資的學校，並對醫藥領域的研究提供了特別贊助。因此本地湧現出了一批出色的學者，他們的努力甚至改變了日本全國對醫學的認識。其中，小濱藩的醫師中川淳庵（1739-1786）和杉田玄白（1733-1817）將西方醫學中的解剖學知識引入日本，推動了日本與歐洲的文化交流。

瞭解更多

儒學的振興

小濱藩的儒學傳統深受中國程朱理學影響。酒井家族在小濱藩的第一任藩主酒井忠勝（1587-1662）首開先河推廣儒學，他邀請了一位儒學家前來教導藩內民眾。他的繼任者酒井忠直（1630-1682）同樣熱心學問，曾為小濱民眾組織公開講學。酒井家族的第七任小濱藩主酒井忠用（1723-1775）也曾邀請一位儒家學者前來教導身居高位的家臣。

醫學的發展

日本的第一次人體醫學解剖出現於 1754 年的京都。這項解剖由小濱藩的醫師倡議，經當時的「京都所司代」（幕府駐京都代表）酒井忠用批准實行。此項解剖大大促進了人們對於人體解剖學的理解，提升了小濱藩各階層民眾對於醫學的興趣。

購買荷蘭的解剖圖書

1771 年，專研「蘭學」*的小濱醫師中川淳庵給他的同事杉田玄白看了兩本荷蘭出版的解剖學圖書，分別是《人體解剖圖譜》和《人體解剖學教科書》。杉田玄白認為書中內容豐富精深，於是向酒井家族的第九代藩主酒井忠貫（1752-1806）提出申請，希望購買這些昂貴的圖書，供藩內學習。

西方醫學著作的首次全本翻譯

杉田玄白和中川淳庵對照著《人體解剖圖譜》見證了一場人體解剖。書中圖譜的準確性令兩位科學家大為震驚，於是決定將荷蘭語的教材翻譯成日語。另外三名醫師也參與了這項翻譯工作，最終完成的日文譯本被命名為《解體新書》，於 1774 年出版。這是日本首次完整翻譯的西方醫學著作。

若狹·越前地區第一座藩營學校

同在 1774 年，酒井忠貫開設了「順造館」，這是首座若狹和越前地區（今福井縣）由藩政府出資並經營的學校。低年級學生在此學習讀寫，高年級學生則主要學習日本及中國歷史、佛經和儒學。在江戶時代，若狹和越前地區還有另外幾所藩政經營的學校，以及 500 餘所佛寺管理的教育機構「寺子屋」。

展品介紹

本展區最重要的展品便是四本原版《解體新書》和一套法文版的《人體解剖圖譜》，後者於 1734 年出版，書中插圖與杉田玄白及其同事中川淳庵等人的荷蘭語版本完全一致。此外，一張海報將荷蘭語版圖書中的插圖與西洋畫家小田野直武（1749-1780）為《解體新書》創作的插圖進行了對比。兩幅立軸掛畫分別是杉田玄白和中川淳庵的肖像。其他展品還有杉田玄白於 1810 年出版的醫學回憶錄《形影夜話》；杉田玄白的學生大槻玄澤（1757-1827）編寫的煙草研究論文。展品中還有小濱藩家臣伴信友（1773-1846）的護臂和頭盔，是他所穿鎧甲的一部分。伴信友曾在順造館求學，是一名日本國學學者。

*蘭學：江戶時代經荷蘭或荷蘭語傳入日本的西方科學技術的統稱，主要涉及醫學、天文學、軍事研究等自然學科。

<日本語仮訳>

小濱藩の学問奨励

概要

江戸時代（1603-1867）、小浜藩の藩主は教育や学問を奨励しました。彼らは、現在の福井県であるこの地域に、藩が資金を提供する最初の学校を設立し、特に医学に焦点を当てた科学研究へ資金を提供しました。これにより、優れた才能を持つ学者が次々と輩出され、彼らの努力が日本の医学に対する理解を変えました。その学者の1人が小浜の医師であった中川淳庵（1739-1786）ともう1人の杉田玄白（1733-1817）が、西洋医学の解剖学の知識を日本に伝え、日本とヨーロッパの文化交流に貢献しました。

もっと詳しく知る

儒学の振興

小浜藩の儒学は、中国朱子学の影響を強く受けています。小浜藩の酒井家初代藩主であった酒井忠勝（1587-1662）は、藩民の教育のために儒学の教師を招き、儒学の振興に着手しました。後継者の酒井忠直（1630-1682）も同様に学問に熱心で、小浜の町人向けの公開講座を開きました。酒井家の7代目小浜藩主の酒井忠用（1723-1775）は、高位の家臣を指導するため儒学者を招きました。

医学の発達

日本で最初の医学的な人体解剖は、1754年に京都で行われました。それは小浜の医師が要請し、京都所司代（江戸幕府の京都常駐の地方官）であった忠用の承認を得て行われました。これにより、人体解剖学の理解が大幅に向上し、小浜藩における医学への関心が高まりました。

オランダの解剖図書の入手

1771年、小浜の医師であり、また蘭学[※]を専門とした中川淳庵は、同僚の杉田玄白にオランダの2冊の解剖学に関する書物、『ターヘル・アナトミア』（解剖一覧表）と『カスパリユス・アナトミア』（人体解剖学教程）を見せます。杉田はそれらが非常に有益であると感じ、酒井家の第9代藩主である酒井忠貴（1752-1806）に、藩のためにこの高価な本を購入してもらえよう願い出しました。

初の西洋医学書の完訳

杉田と中川は別の解剖に立ち会った際、『ターヘル・アナトミア』を参照しました。2人の科学者は、その本の解剖図の正確さに驚愕し、日本で使えるようにオランダ語を翻訳することを決意しました。このプロジェクトには他に3人の医師が関わり、翻訳された結果、『解体新書』と題されて1774年に出版されました。これは、日本で最初の西洋医学書の完訳でした。

若狭・越前初の藩校

同じく1774年に、忠貴は順造館を創設し、これが若狭・越前地方（現在の福井県）で初めて藩が出資し運営する藩校となりました。低学年の学生は読み方を学び、高学年は日本と中国の歴史、読経、儒学を中心に学びました。江戸時代には、若狭と越前には他にもいくつかの藩校と、500を超えるお寺が運営する寺子屋が建てられました。

展示品

注目すべき品として、解体新書の原本 4 冊と、杉田と彼の同僚中川淳庵らが入手したオランダ語版と同じ図面を含む『ターヘル・アナトミア』の 1734 年刊のフランス語版などがあり、後者には杉田氏らが入手したオランダ語版と同じ図面が掲載されています。あるポスターでは、オランダの本にある挿絵と、洋画家・小田野直武（1749-1780）が『解体新書』のために新たに描いた挿絵を比較しています。2 つの掛け軸には、杉田と中川の肖像画が描かれています。そのほかの展示品には、1810 年に刊行された杉田の医学的回顧録である『形影夜話』や、杉田の弟子である大槻玄沢（1757-1827）が編纂したタバコの研究書などがあります。筆手と兜は、かつて順造館で学んだ小浜藩士であり、国学者であった伴信友（1773-1846）が所有していた、鎧兜に由来するものです。

※蘭学：江戸時代にオランダを通じ、またはオランダ語を介して日本に伝わった西洋の学問・技術の総称。医学、天文学、兵学などの自然科学系統に属するものが主であった。

【タイトル】北前船の寄港地：小浜と敦賀

【想定媒体】アプリQRコード

<簡体字>

北前船の停靠港：小浜与敦賀

概要

从江户时代(1603-1867)中期直至（战前）昭和时代早期(1926-1945)，被称为“北前船”的商船从濑户内海出发，一直沿着日本海的海岸线往返于大阪和北海道之间。它们沿途停靠许多港口码头，买卖各地货物，比如北方的鲑鱼、昆布、西部的布匹衣物、清酒和盐。海上贸易刺激着各个港口城镇的发展，为经营航运业务的商人带来了繁荣，也为日本各地的文化交流做出了巨大贡献。

了解更多

关于“北前船”

在若狭地区，如今被统称为“北前船”的船只有着各自不同的称呼，如千石船、大廻船、弁才船等。北前船在往返起点和终点时均运载货物，并且逐站停港交易，而从大阪前往江户（今东京）的太平洋沿岸运输航船在返程时一般空舱航行，因此，北前船能确保更高的利益。

海上贸易带来的繁荣

小浜和敦賀都是北前船的重要停靠港，因为这两处港口位于日本海航线的中段，相对靠近当时的首都京都，往来船只在小浜或敦賀卸货后，货物可转经陆路送到京都。这两个城镇的发展离不开北前船，是它们从遥远地区捎来了食物、商品与信息，刺激了本地商贸经济的发展，并带来了日本各地不同的文化。特别是敦賀，在17世纪后半叶达到巅峰，大量船只出入这个港口，成就了它的繁荣。

其他航路与运输手段的发展

不久以后，人们开拓了被称为“西线”的航路，它经过连接本州与九州的关门海峡，穿越濑户内海后可以直接停靠大阪，因而更为便捷。但这导致经由敦賀、小浜、琵琶湖、大津（今滋賀县）和京都的一部分陆路贸易路线逐渐萧条。之后，随着铁路及其他交通方式的发展，北前船渐渐式微。

展品介绍

在这里，最引人注目的展品是一艘精心制作的北前船模型复制品，原件如今收藏在小浜的八幡神社内。这只特别制作的船只模型被视为守护神“船玉之灵”的圣器，据说，这位神明能够保佑出海平安。这种形式的船玉崇拜是小浜地区所独有的，在其他地方，神明的象征物通常都安放在真船的桅杆顶上。

本展区其他展品还包括一枚 19 世纪中期的指南针，上面用中国十二地支的文字标记着方向；一块用作船只通行证的木牌；一本小浜藩北前船的船员日记复制品。还有北前船贸易时期若狭地区发往外地的一些本地商品示例，比如一尊若狭瓦制作的鯨鯨（音同“虎毛”）像，它是日本传说中虎头鱼身的神话生物；一组若狭玛瑙雕刻，包括一只母鸡和三只小鸡。

<繁体字>

北前船的停靠港：小濱與敦賀

概要

從江戶時代（1603-1867）中期直至（戰前）昭和時代早期（1926-1945），被稱為「北前船」的商船從瀨戶內海出發，一直沿著日本海海岸線往返於大阪和北海道之間。它們抵沿途停靠許多港口碼頭，買賣各地貨物，例如北方的鮭魚、昆布、西部的布匹衣物、清酒和鹽。海上貿易促進各個港口城鎮的發展，為經營航運業務的商人帶來了財富，也為日本各地的文化交流做出了巨大貢獻。

瞭解更多

關於「北前船」

在若狹地區，如今被統稱為「北前船」的船隻有著各自不同的稱呼，如千石船、大迴船、弁才船等。北前船在往返起點和終點時均運載貨物，並且逐站停港交易，而從大阪出發前往江戶（今東京）的太平洋沿岸運輸航船在返程時一般空艙航行，因此，北前船具有更高的商業利益。

海上貿易帶來的繁榮

小濱和敦賀都是北前船的重要停靠港，因為這兩處港口位於日本海航線的中段，相對靠近當時的首都京都，往來船隻在小濱或敦賀卸貨後，貨物可轉經陸路送到京都。這兩個城鎮的發展離不開北前船，它們從遙遠地區帶來的食物、商品與資訊，刺激了當地商貿經濟的發展，還帶來了日本各地不同的文化。特別是敦賀在 17 世紀後半葉達到巔峰，大量船隻出入這個港口，成就了它的繁榮。

其他航路與運輸手段的發展

不久以後，人們開拓了被稱為「西線」的航路，它經過連接本州與九州的關門海峽，穿越瀨戶內海後可以直接停靠大阪，因而更為便捷。但這導致經由敦賀、小濱、琵琶湖、

大津（今滋賀縣）和京都的一部分陸路貿易路線逐漸蕭條。之後，隨著鐵路及其他交通方式的發展，北前船漸漸式微。

展品介紹

在這裡，最引人注目的展品是一個精心製作的北前船模型複製品，原件如今收藏在小濱的八幡神社內。這艘特別製作的船隻模型被視為守護神「船玉之靈」的聖器，據說，這位神明能夠保佑航海平安。這種形式的船玉崇拜是小濱地區所獨有的，在其他地方，神明的象徵物向來都安放在實際船隻的桅杆頂上。

本展區其他展品還包括一枚 19 世紀中期的指南針，上面用中國十二地支標記著方向；一塊用作船隻通行證的木牌；一本小濱藩北前船的船員日記複製品。展品中還有北前船貿易時期若狹地區發送至外地的一些本地商品樣本，例如一尊若狹瓦製作的鯨鯨（音同「虎毛」）像，它是日本傳說中虎頭魚身的神話生物；一組若狹瑪瑙雕刻，包括一隻母雞和三隻小雞。

<日本語仮訳>

北前船の寄港地：小浜と敦賀

概要

北前船は、江戸時代中期（1603-1867）から昭和初期（1926-1945）にかけて、大阪と北海道の間の沿岸を航行した交易船です。瀬戸内海から日本海を往復し、北からはニシンや昆布、西からは衣類や酒、塩といった、地場産品を売買するために各地の港に寄港しました。海運は港町の発展を促し、海運業を営む商人に繁栄をもたらし、国内の文化交流に大きく貢献しました。

もっと詳しく知る

北前船

現在一般的に北前船と呼ばれる船は、若狭地方では千石船、大廻り、弁才船という名で呼ばれていました。北前船は往路・復路ともに物資を運び、各寄港地で交易を行っていたため、大阪から江戸（現在の東京）まで太平洋沿岸に沿って貨物を輸送し、復路は空荷だった船と比べると、より高い利益を確保していました。

海運貿易による繁栄

小浜も敦賀も、日本海側の航路の中間地点に位置し、当時の都であった京都にも比較的に近い場所にあったことから、北前船にとって重要な寄港地でした。これにより、船は小浜や敦賀で荷降ろしができ、そのため商品を陸路で京都へ運ぶことができました。北前船は二つの町の発展に不可欠なもので、遠く離れた地域から食べ物や商品、情報を運び、交易経済を刺激し、日本各地のさまざまな文化を寄港地に伝えました。特に 17 世紀後半に活動のピークを迎えた敦賀は、入港する船の多さによって栄えました。

代替ルートの開拓と代替輸送手段の発展

やがて、本州と九州の間の関門海峡を通り、瀬戸内海を經由して大阪に直接アクセスできる、いわゆる西回りルートが開拓されると、より便利になりました。その結果、敦賀、小浜、琵琶湖、大津（現在の滋賀県）、京都を通り、一部を陸路とする交易路は人気が下がりました。その後の鉄道やその他の交通手段の発達に伴い、北前船の利用は徐々に減少していきました。

展示品

最も目を引く展示は、北前船の精巧な模型の複製で、オリジナルは小浜の八幡神社に保存されています。特別に製作された船の模型は、海の安全を授けると信じられていた守護神である船玉の霊の神聖な器と見なされていました。他の地域では、神を表す品物は伝統的に実際の船の帆柱に取り付けられていたため、この種の船玉崇拜は小浜に特有のものです。

展示されている他の品物には、干支の文字を使用して基本的な方向を示す 19 世紀半ばの方位磁石や、船の通過証明として使われていた木札、小浜藩の北前船の乗組員の日記の複製などがあります。頭が虎で体が魚という想像上の生き物であるシャチホコの大きな若狭瓦の像と、若狭瑠璃の 3 羽の雛と雌鶏の彫刻は、北前船が交易していた時代にこの地域から出荷された商品の一例です。

【タイトル】旧料亭蓬嶋楼：玄関と応接間

【想定媒体】アプリQRコード

<簡体字>

旧料亭“蓬嶋楼”：玄关和接待间

蓬嶋楼（嶋，音同“岛”）曾是三丁町地区最大的料亭（高级餐馆兼娱乐设施）。它建于19世纪晚期，至今依然保留着街区的历史气息。当时的小浜还是一处熙熙攘攘的港口市镇，拥有众多的茶屋、餐馆和旅店。蓬嶋楼工艺精巧、选材优良、建筑风格独特、内饰精美，置身其中，依然能令人感受到它昔日的荣华，回想起当年贵客往来的那段时光。

玄关

玄关处有一座小庭园，园内摆放一盏石灯笼，地面铺设着当时十分罕见的陶瓷地砖，还有一面圆形格子窗。玄关最初是泥土地面，后来换成了手工精心铺设的马赛克瓷砖。装饰窗等细节十分吸睛，引人遐想，让客人更加期待料亭里更优雅的环境。

接待间

拾级而上，进门后是宽敞的接待间。女主人坐在左后方的房间里迎接来宾，按照客人的要求妥善安排。她会在榉木制火钵台边和熟客聊天，搜集信息，增进关系和生意缘。

旧料亭的历史与日用物品

接待间里还有许多其他逸品，其中包括两个祭坛：面朝玄关的壁龛里供奉商业和农业之神——稻荷神；最左侧的屋子里则设有主人的家族神龛。收纳纸灯笼的盒子摆放在高高的架子上，盒子上镌着料亭主人村田家族的十字轮家族徽章。还有一个架子上摆放着好几个传统的人形玩偶“福助”，人们相信它们能够带来财富和好运，令生意兴隆。在相对较新的摆设中，招财猫被认为是能招揽客人的幸运物。

开放时间：周六、周日及法定假日，10:00~16:00，另有临时休馆日

<繁体字>

舊料亭「蓬嶋樓」：玄關和接待室

蓬嶋樓（嶋，音同「島」）曾經是三丁町地區最大的料亭，即高級餐館兼娛樂場所。這處建築修建於19世紀晚期，至今依然保留著街區的歷史氛圍。當時的小濱是一個熙熙攘攘的港口，擁有眾多茶屋、餐館和旅店。蓬嶋樓以其精湛的工藝、高品質的材料、獨特的

建築風格和精美的內部細節而聞名，處處彰顯昔日的繁榮，讓人回想起它曾是款待尊貴客人的高級料亭的過往。

玄關

玄關處有一座小庭園，園內擺放石燈籠，地面鋪設著當時稀有的陶瓷地板，並設有圓形格子窗。玄關地面最初是泥土地面，後來改為精心手工鋪設的馬賽克瓷磚。裝飾窗等細節吸引著人們的目光，讓來訪的賓客更加期待料亭裡優雅的內裝環境。

接待室

拾級而上，進門後是寬敞的接待室。女主人坐在左後方的房間裡，迎接著來賓，根據客人的要求盡心安排。她會在檯木製火鉢台邊和熟客聊天，搜集資訊，增進關係和生意機緣。

舊料亭的歷史與日用物品

接待室內還展示了許多特色物品，其中包括兩個祭壇：面朝玄關的壁龕裡供奉商業和農業之神的稻荷神，最左側的屋子裡設有主人的家族祭壇。高高的架子上擺放著收納紙燈籠的盒子，盒子上鐫刻料亭主人村田家的十字輪家紋。還有一個架子上擺放著好幾個傳統的人形玩偶「福助」，人們相信「福助」能帶來財富和好運，使生意興隆。此外，還有相對較新的擺設招財貓，這也是被認為能招攬客人的幸運物。

開放時間：週六、週日及國定假日，10:00～16:00，另有臨時休館日

<日本語仮訳>

旧料亭蓬嶋楼：玄関と応接間

蓬嶋楼は、かつては三丁町エリアで最大級の高級レストランであり娯楽施設（料亭）でした。この建物は19世紀後半に建設され、小浜が賑やかな港だった頃に複数の茶屋やレストラン、旅館があったこの界隈の歴史的な雰囲気をも今に伝えています。熟練した職人技、高品質の素材、特徴的な建築、洗練された内装は、蓬嶋楼の繁栄を反映しており、賓客をもてなす料亭であった往時を偲ばせます。

玄関

玄関は、石灯籠を配した小さな庭と、当時としては珍しいタイル張りの床、丸い格子窓が特徴です。玄関はもともと土間でしたが、後に手作業で丁寧に敷かれた小さな陶磁器製のタイルに置き換えられました。装飾的な窓をはじめとする目を引くディテールは、客にその料亭の内部の優雅なインテリアを想像させました。

応接間

建物に一步入ると、大きな応接間が広がっています。女将は左奥の部屋に座って、訪問者を歓迎し、要望に応じました。けやきでできた火鉢の台で常連客と会話を交わして情報を収集し、人間関係や商売関係を深めていたのです。

旧料亭の歴史的な品と日用品

その他にも、応接間にはさまざまな逸品が置かれています。建物のこの部分には 2 つの祠があります。入り口に面した床の間には、商業と農業の神である稻荷をまつる小さな祠があり、一番左の部屋には一家の神棚があります。高い棚に収納された提灯用の箱には、当主であった村田家の十字を輪で囲んだ紋が入っています。棚の 1 つには、商売繁盛や幸運をもたらすとされる、福助と呼ばれる伝統的な人形がいくつか飾られています。比較的最近加わったものとして、客を招くとされる招き猫も置かれています。

営業時間：土・日曜、祝日の 10:00–16:00（その他臨時休館の場合あり）

【タイトル】旧料亭蓬嶋楼：2階座敷

【想定媒体】アプリQRコード

<簡体字>

旧料亭“蓬嶋楼”：二楼待客间

二楼的豪华和式房间为蓬嶋楼（嶋，音同“岛”）的核心区域，是用来招待客人的空间，包括由两个房间组成的套房，以及可作私密用途的侧间。这套和式房间拥有精雕细刻的栏间（日式移门上方的天窗）、红色的墙壁、贴着半透明和纸的窗户与障子门等要素，选材用料精致、细节意趣横生。二楼的细纹木天花板比一楼高一些，这在娱乐区的建筑中非常典型，因为需要在楼上招待客人。

为待客而设计的空间

蓬嶋楼没有厨房，所有菜肴都需要特意从外面的食肆订购，这被认为是地道高级料亭的标志。客人聚在内侧房间的大桌旁饮酒、用餐、交流。靠近入口的房间供“艺者”（和京都一样，小浜地区习惯称之为“艺伎”）表演歌舞之用。三味线、小鼓等艺者常用的乐器陈列在专用的壁橱内。乐器左侧的“床之间”（壁龛）内悬挂着一幅卷轴书画，床之间的外框为圆形，喻意“满月”。而对面角落里还有一个与其风格类似的壁龛，为“新月”造型，摆放着插花。两者遥相呼应，为两处空间营造出了一种艺术性平衡。

提升奢华感的艺术品

待客间内陈列着各种艺术品，包括绘画、书法、陶瓷器、木雕等。其中部分在蓬嶋楼成为料亭时便已存在，另一些则是后来陆续添置的。靠内侧的房间里挂着一幅麻雀群飞图，它是常客们钟爱的游戏。这个游戏就是比赛谁能数清飞鸟的数目，而在酒过三巡后，难度就会越来越高。“新月”旁悬挂着两幅著名艺术家严谷一六(1834-1905)的书法作品，他对日本现代书法艺术的发展卓有贡献。另一件重要的艺术品是一对六折屏风，摆放在两个房间之间。金箔装点的屏风上题写着书法作品，出自龙草庐(1714-1792)之手，他是儒学者、诗人，以书写中国古典作品而闻名。

历史气息的留存

至1989年料亭关闭停业的百年之间，二楼的待客间为无数客人提供了精美的餐饮与娱乐享受，其中有商人、船主，也有富有的旅行者。蓬嶋楼独特的建筑、奢华的内部装潢、丰富的艺术品，无不让人联想其当年繁华时代的模样与氛围。

<繁体字>

舊料亭「蓬嶋樓」：二樓待客間

二樓豪華的和式房間是蓬嶋樓（嶋，音同「島」）的核心區域，這些用來招待客人的房間，包括一個由兩間房間組成的套房，以及可作私密用途的側間。這套和式套房擁有精雕細刻的欄間（日式移門上方的天窗）、紅色的牆壁、貼著半透明和紙的窗戶與障子門等元素，凸顯其在設計上用料精緻、意趣橫生的特點。二樓的細紋木天花板相較於一樓更高，這在娛樂區的設計中非常典型，因二樓是款待客人的場所。

為待客而設計的空間

蓬嶋樓沒有廚房，所有菜肴都需要特別從外面的食肆訂購，這被認為是真正高級料亭的標誌。客人聚在內側房間的大桌旁飲酒、吃飯、交流。靠近入口的房間供「藝者」（和京都一樣，小濱地區習慣稱之為「藝伎」）表演歌舞之用。三味線、小鼓等藝者常用的樂器陳列在專用的壁櫥內。樂器左側的「床之間」（壁龕）內懸掛著一幅卷軸書畫，床之間的外框為圓形，喻意「滿月」。而對面房間的角落裡有一個與「滿月」風格類似的「新月」造型壁龕，擺放著花卉。兩者遙相呼應，為兩處空間營造出了一種藝術性平衡。

提升奢華感的藝術品

待客間內陳列著各種藝術品，包括繪畫、書法、陶瓷器、木雕等。其中部分在蓬嶋樓成為料亭時便已存在，另一些則是後來陸續添置的。靠內側的房間裡掛著一幅麻雀群飛圖，這是常客們鍾愛的遊戲。遊戲是比賽誰能數清飛鳥的數目，在酒過三巡後，難度就會越來越高。在「新月」的旁邊，掛著兩幅著名藝術家巖谷一六（1834-1905）的書法作品，他對於日本現代書法藝術的發展有著卓越的貢獻。另一件重要的藝術品是一對六折屏風，擺放在兩個房間之間。這些屏風以金箔裝飾，上面書寫著書法作品，出自龍草廬（1714-1792）之手，他是一位儒學者和詩人，以書寫中國古典作品而聞名。

歷史氣息的留存

1989年，料亭歇業。在這之前的百來年間，二樓的待客間為無數客人提供了精美的餐飲與娛樂享受，其中有商人、船主，也有富有的旅人。從蓬嶋樓的獨特的建築、奢華的內部裝潢、豐富的藝術品上，至今依然可以窺見它當年繁華時代的模樣與氛圍。

<日本語仮訳>

旧料亭蓬嶋楼：2階座敷

この階にある豪華な座敷は、料亭 蓬嶋楼の中心的な部屋であり、お客をもてなすための客間でした。一つの部屋として使用された2つの大きな広間と、プライベートな用を足す脇部屋で構成されています。この座敷は、精緻な彫刻が施された欄間、赤い壁、透け感のある和紙を使った窓や襖など、上

質な素材と目を引く要素にこだわって設計されています。この階の、木目が細かく美しい木材を使った天井は 1 階に比べて高くなっており、上層階でお客をもてなす花街の建物の典型となっています。

客をもてなすための空間

蓬嶋楼には厨房がなく、料理は外部の仕出し屋へ特注しており、それが格調高い店の証とされていました。客は座敷の奥の部屋にある大きなテーブルに集まり、食べたり飲んだり、交流を楽しんだりしました。座敷の入口近くの部屋は、芸者（小浜では京都での慣習と同じく芸妓と呼ばれる）による音楽と舞の舞台として使われました。壁沿いの専用のくぼみには三味線や小鼓など、芸妓が使う楽器の例が展示されています。楽器の左側には、掛け軸のある床の間の枠となる大きな「満月」の意匠があります。この座敷の反対側の角にある同様の「三日月」の意匠は、生け花を縁取り、2 つの部屋の間に芸術的なバランスを生み出しています。

贅沢な印象を際立たせる芸術作品

座敷には、絵画、書、陶器、木彫など、さまざまな芸術作品が展示されています。蓬嶋楼が料亭として営業していた頃から残っているものもあれば、後年追加されたものもあります。奥の部屋にある、飛んでいるスズメの群れを描いた絵は、常連客が楽しむ遊びのお題目でした。この遊びの目的は鳥を数えることでしたが、お酒が進むとだんだん難しくなるようです。「三日月」モチーフの近くには、現代書道の発展に貢献した影響力のある芸術家、巖谷一六（1834-1905）による 2 つの書道作品が掛かっています。もう 1 つの傑出した芸術作品は、両方の部屋にまたがる一双の六曲屏風です。金箔で覆われたこの屏風には、中国古典の作品で知られる儒学者で詩人でもある龍草廬（1714-1792）による書画が書かれています。

歴史的な雰囲気はそのままに

2 階の座敷は、1989 年に料亭が閉店するまでの約 100 年間、商人、船主、裕福な旅行者など、数え切れないほどのお客に美食と娯楽を提供してきました。その特徴的な建築や豪華な内装、そして展示されている数々の美術品に、蓬嶋楼が栄えた時代の面影が残っています。

【タイトル】 旧料亭蓬嶋楼：1 階の座敷と庭

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

旧料亭“蓬嶋楼”：一楼待客间与庭园

这部分为大正时代(1912-1926)增建，其中包括一个接待客人的宽敞空间。和其他房间一样，这个待客间选材用料讲究、设计意趣横生，与高级餐厅的形象完全相符。例如，“床之间”（壁龕）旁的窗户有细格子的菱形窗格，从不同的角度看去，这些纤细的线条会产生或聚或散的效果。屋子正中的大桌子取整块日本七叶树制成，以栎木镶边。桌子上方看似金属材质的灯具其实是木制，只是在外面刷了一层亮漆。

装饰品与艺术品

待客间里摆放着各色艺术品和装饰品。其中有一幅明治时代(1868-1912)的画作《饮中八仙图》，根据中国大诗人杜甫(712-770)的诗作《饮中八仙歌》绘制而成，生动描绘了八名好酒的唐朝文人群像。床之间内则悬挂着一幅山水卷轴。对面墙上的书法作品是一首诗，传说为曾雄霸中国北部的一代枭雄曹操(155-220)在公元 208 年赤壁之战前夕所诵。

庭园

一楼待客间外侧的走廊沿料亭主庭园延伸。障子门上镶着玻璃，从室内可一览庭园景致。这些玻璃板使用明治时代精巧的玻璃吹制工艺制成，十分罕见且珍贵。庭园中心有一口小池塘，四周环绕着精心排布的植物。池塘往里，有一座小神社，供奉的是航海之神金毗罗。在料亭里设立金毗罗神社并不常见，不过，小浜当年是一处热闹的港口城镇，或许也有不少客人曾在此参拜。

<繁体字>

舊料亭「蓬嶋樓」：一樓待客間與庭園

這部分是大正時代（1912-1926）增建的，其中包括一個接待客人的寬敞空間。和其他房間一樣，這個待客間選材用料講究、設計意趣橫生，與高級餐廳的形象完全相符。例如，「床之間」（壁龕）旁的窗戶有細格子的菱形窗格，從不同的角度看去，這些纖細的線條會產生或聚或散的效果。屋子正中的大桌取整塊日本七葉樹製成，以櫟木鑲邊。桌子上方看似金屬材質的燈具其實為木製，只是在外面刷了一層亮漆。

裝飾品與藝術品

待客間裡擺放著各色藝術品和裝飾品。其中有一幅明治時代（1868-1912）的畫作《飲中八仙圖》，根據詩人杜甫（712-770）的詩作《飲中八仙歌》繪製而成，生動描繪了八名好酒的唐朝文人群像。床之間內則懸掛著一幅山水卷軸。對面牆上的書法作品是一首詩，傳說為一代梟雄曹操（155-220）在西元 208 年赤壁之戰前夕所誦。

庭園

一樓待客間外側的走廊沿著料亭主庭園延伸。障子門上鑲著玻璃，從室內可一覽庭園景致。這些玻璃板使用明治時代精巧的玻璃吹製工藝製成，十分罕見且珍貴。庭園中心有一口小池塘，四周環繞著精心布排的植物。池塘深處有一座小神社，供奉的是航海之神金毗羅。在料亭裡設立金毗羅神社並不常見，不過，小濱當年是一處熱鬧的港口城鎮，或許也有不少客人曾在此參拜。

<日本語仮訳>

旧料亭蓬嶋楼：1 階の座敷と庭

大正時代（1912-1926）に増築された建物のこの部分には、客をもてなすための広々とした座敷があります。他の部屋と同様に、料亭にふさわしい上質な素材や興味深い意匠が使われています。たとえば、床の間の近くにある細い線でできた菱形の柄の窓は、見る角度によって収束したり分離したりします。中央の大きなテーブルはトチノキの一枚板にナラ材で縁取りされており、テーブル上の金属のように見える照明器具は、実際には光沢のある漆を塗った木材で作られています。

装飾と芸術作品

座敷には、さまざまな芸術作品や装飾品があります。その 1 つは、「飲中八仙図」と題された明治時代（1868-1912）の絵画です。中国の詩人、杜甫（712-770）の詩「飲中八仙歌」を題材に、酒を愛する 8 人の唐の時代の学者たちを描いています。床の間には山水画の掛軸が掛かっています。反対側の壁の書は、208 年の赤壁の戦いの直前に中国北部の武将、曹操（155-220）が詠んだと言われる詩を表しています。

庭

1 階の座敷の外にある廊下は、料亭の主庭に沿っています。襖には、明治時代の巧みな吹きガラスを用いた希少で貴重なガラスパネルが取り付けられているため、視界はほとんど妨げられません。庭自体は、巧みに配置された植物に囲まれた小さな池を中心としています。池の奥には、海運にまつわる神である金比羅権現をまつる祠があります。料亭に金毘羅神社があるのは珍しいですが、港町として栄えた小浜だけに、多くの客が参拝したと考えられます。

【タイトル】 小浜町並み保存資料館

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>**小浜城市景观保护资料馆**

港口城镇小浜连接着京都与海洋，历史悠久，西组地区独特的街道风貌反映了昔日的繁荣。为了支持整个区域的保护工作，本地于1997年开设了小浜城市景观保护资料馆。当时的资料馆坐落于一处修复的町家（商人或工匠的住宅，通常与店铺或工坊合为一体）建筑内，它是在保持街区历史氛围的同时，实现老建筑活化新生的鲜活范例。2016年，资料馆搬迁至现有建筑中，这是另一处带店铺的町家。如今，这座资料馆已经成为一处教育设施，向来访者展示西组地区的文化与町家的经典建筑风貌，并提供本地区旅游信息。

老式店铺的传统建筑与布局

这栋建筑的历史可以追溯至大正时代(1912-1926)，狭长的构造与京都的町家建筑相似。房屋的整体布局被纵向一分为二，一楼左侧是4个可以打通的榻榻米房间，其中临街的一间曾被用作店面。右侧是类似狭窄通道的玄关，里面有一道门，将房屋后部的住户私人区与店面顾客区隔开。门后是厨房，配备了一个传统的大炉灶，为了方便排烟，天花板建得很高。再往里有一间浴室、一个厕所，还有一个中庭和一座仓库，中庭内有一口水井。二楼面积较小，主要是家庭成员及仆佣的卧室，目前用于存放节日庆典用品。

小浜的文化与观光信息

资料馆的内墙上挂满了小浜地标与节日庆典的照片。另外，浏览馆内图书里的老照片，可以了解19世纪至20世纪的城市风貌与日常生活景象。资料馆的接待台设在第二个房间内，如果导游在场，还可参加建筑导览游（仅提供日语解说）。

<繁体字>**小濱城市景觀保存資料館**

小濱是一座歷史悠久的繁榮港口市鎮，連接著京都與海洋，這一點從小濱西組地區獨特的街道風貌便可見一斑。為了支援整個區域的保存工作，1997年開設了小濱城市景觀保存資料館。原本資料館坐落於一處修復的町家（商人或工匠的住宅，通常與店鋪或工坊合為一體）建築內，因此，這座資料館也成為了展示老建築如何在不破壞街區歷史氛圍的前提下活化新生的最佳範例。2016年，資料館搬遷至現址，這裡也是一處帶店鋪的町家。如

今、這座資料館成為了一個教育機構，向觀光客展示西組地區的文化和町家的經典建築風貌，同時提供當地旅遊資訊。

老式店鋪的傳統建築與布局

此處建築的歷史可以追溯至大正時代（1912-1926），狹長的構造與京都的町家建築相似。房屋整體上被縱向分為兩部分。一樓左側是 4 個可以互通的榻榻米房間，其中，臨街的一間曾被用作店面。右側是類似狹窄通道的玄關，裡面有一道門，將房屋後方僅供住戶使用的私人區域與顧客活動區隔開。門後是廚房，配有傳統式的大爐灶，天花板也特別高，以便排煙。再往裡有一間浴室、一間廁所，還有一個帶井的中庭和一座大倉庫。二樓面積較小，當年主要是家庭成員及傭僕的臥室，目前用於存放節日慶典用品。

小濱的文化與觀光資訊

資料館的內牆上掛滿了小濱地標與節日慶典的照片。此外，展示的圖書中還包含了 19 世紀至 20 世紀的城市風貌和日常生活景象的老照片。資料館的服務台設在第二個房間內，如果導覽人員在場，還可參加館內導覽遊。請注意，導覽僅提供日語解說。

<日本語仮訳>

小浜町並み保存資料館

西組地区の特徴的な街並みは、京都と海を結ぶ港町として栄えた小浜の長い歴史を反映しています。地域全体の保全活動を支援するため、改修された町家（店舗や工房が併設する商家や職人の住宅）なかに、1997 年に「小浜町並み保存資料館」が開館し、この地区の雰囲気を持しながら古い建物を改修する事例となっています。2016 年、同資料館は別の町家である現在の建物に移転しました。ここでは、西組地区の代表的な町家建築や文化を紹介し、この辺りの観光情報を提供する教育施設です。

旧商店の伝統的な建築と間取り

建物は大正時代（1912-1926）に建てられたもので、その細長い構造は京都の町家に似ています。全体のレイアウトは、縦に 2 つに分かれています。1 階左側には、一続きになった畳敷きの 4 部屋があり、通りに近い部屋はもともと店舗として使われていました。右側には奥に扉のある狭い廊下のような玄関があり、客がアクセスできる部分と、住人だけが使用するプライベートなエリアを分けています。扉を開けると、大きな昔ながらのかまどのある台所があり、天井は煙をろ過するために非常に高くなっています。敷地の奥には、お風呂、トイレ、井戸のある中庭、そして大きな蔵があります。2 階は比較的小さく、主に家族や使用人の寝室として使用されていました。現在は祭り道具の保管場所として使われています。

小浜の文化や観光の情報

館内のいたるところの壁に小浜の名所や祭りの写真が飾られ、古い写真を掲載した本には、19 世紀から 20 世紀の街の風景や日常生活が紹介されています。受付は保存資料館の二番目の部屋に設置されており、ガイドが居る場合は館内ツアーも利用できます。このツアーは日本語のみとなっております。

【タイトル】 与七の石碑

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

与七石碑

这块不起眼的石碑位于历史悠久的熊川宿靠近下之町入口处，旨在表彰本地一位名叫与七的著名孝子。

距今大约 300 年前，与七和妻子一起生活在熊川宿。虽然这对夫妻生活十分贫困，但他们宁可自己忍饥挨饿，也会确保年迈的双亲衣食无忧。他们对父母的尊重与纯孝传到了小浜藩藩主耳中，藩主对此孝行大加赞赏，于是赏赐粮食，帮助他们全家度日。

石碑附近设有一处可举办展览、若狭文化讲座，以及体验教室等活动的休闲设施，也被命名为“与七”，以纪念故事里的亲子亲情。

<繁体字>

與七石碑

這塊不起眼的石碑位於歷史悠久的熊川宿，靠近下之町入口處，旨在表彰當地一位名叫與七的孝親典範。

距今大約 300 年前，與七和妻子一起生活在熊川宿。雖然這對夫妻生活十分貧困，但他們寧可自己忍饑挨餓，也會確保年邁的雙親衣食無虞。他們對父母的尊重與純孝傳到了小濱藩藩主耳中，藩主對這樣的孝行大加讚賞，於是賞賜糧食，幫助他們全家度日。

石碑附近設有一處休閒場所可舉辦展覽、若狹文化講座，以及體驗教室等活動，也被命名為「與七」，以紀念故事中體現的親情。

<日本語仮訳>

与七の石碑

この控え目な石碑は、この地域の親孝行の鑑である与七という男を讃えて、歴史ある熊川宿の下ノ町の入口近くに設置されたものです。

与七は約 300 年前に妻と一緒に熊川宿に住んでいました。この夫婦は非常に貧しかったにも関わらず、自身の食べ物が無くなっても、老いた両親に食べ物を提供することは欠かしていませんでした。小浜藩主がこの夫婦の両親への敬意と献身を聞き、その行為を称えて、この一家全員を支える米を与えました。

石碑の近くには、展示会や若狭文化に関する講座、体験教室などのためのスペースを備えた休憩所があり、この物語に代表される親子の絆を称えて「与七」と名付けられました。

【タイトル】 西山稻荷神社

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>**西山稻荷神社**

在靠近熊川宿下之町入口的山坡上有一座红色鸟居，它是通往西山稻荷神社的标志。这座小神社坐落在更高处的山坡上，供奉农业与商业之神“稻荷神”。

早在数世纪以前，西山稻荷神社就备受崇奉，是人们祈求生意兴隆的热门地点，常常有航运业者前来参拜。神社的建造时间已无从知晓，但依照本地民间传说，有可能是介于1680年至1760年之间。相传，这里的御神体是从位于京都的稻荷神社总本宫——伏见稻荷大社直接请来的。同伏见稻荷大社一样，每年秋天，西山稻荷神社都会举办一场名为“御火炊”的祭神仪式。在仪式上，写有人们祈愿的木棒会被投入圣火中焚烧。从中可见，在熊川宿这样的驿镇与故都京都之间，除了食品及其他物资的商贸往来以外，还存在着宗教传统与文化的交流。

如果打算造访西山稻荷神社，需留意登山小道有时会被倒伏的落木阻断，切勿在恶劣天气里前往。

<繁体字>**西山稻荷神社**

靠近熊川宿下之町入口的山坡上有一座紅色鳥居，它是通往西山稻荷神社的標誌。這座小神社坐落在更高處的山坡上，供奉農業與商業之神「稻荷神」。

早在數世紀以前，西山稻荷神社就倍受尊崇，它是人們祈求生意興隆的熱門景點，經常有航運業從業人員前來參拜。神社的建造時間已無從知曉，但依照當地民間傳說，有可能是介於1680年至1760年之間。相傳，這裡的御神體是從位於京都的稻荷神社總本宮——伏見稻荷大社直接請來的。同伏見稻荷大社一樣，每年秋天，西山稻荷神社都會舉辦一場名為「御火炊」的祭神儀式。在儀式上，寫有人們願望的木棒會被投入聖火中焚燒。由此可以證明，在熊川宿這樣的驛鎮與故都京都之間，除了食品及其他物資的商貿往來以外，還存在著宗教傳統與文化的交流。

如果打算造訪西山稻荷神社，需留意登山小道有時會被倒下的落木阻斷，因此在惡劣天氣下請避免前往。

<日本語仮訳>

西山稲荷神社

歴史ある熊川宿の下ノ町の入口近くの山の斜面にある朱色の鳥居は、西山稲荷神社への道しるべです。斜面のさらに上にあるその小さな神社は、農業と商業の神である稲荷を祀っています。

西山稲荷は何世紀にもわたって信仰されてきた場所です。商売繁盛を祈願する人気の場所であり、海運業に携わる人々がよく参拝に訪れました。いつ神社が建てられたのかは正確にはわかりませんが、この地域に伝わる口伝によると、1680年から1760年の間に建てられたとされています。御神体は、京都にある稲荷神社の総本宮である伏見稲荷大社から直接勧請されたと言われています。伏見稲荷大社と同じように、西山稲荷では、毎年秋に人々の祈りが書かれた木の棒を聖なる火で燃やす「御火炊」という神事が行われます。この神事は、熊川宿などの宿場町と昔の都である京都との間に、食料やその他の商品の取引に加えて、宗教的な伝統や文化の交流があったことを示しています。

西山稲荷を訪れる際は、倒木で道が塞がれる場合がありますので、悪天候時のハイキングは避けてください。

【タイトル】 まがり

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>**まがり(Magari)：道路弯角**

熊川宿的居民将下之町与中之町之间的这个“L”型弯角称为“まがり”(Magari)，即“弯角”之意。它被认为是公元 15 世纪至 16 世纪时的军事防御工事遗迹，那时的山顶上矗立着一座俯瞰小镇的城郭。被称为“柵形”（柵，音同“杰”，意为“盒子状”）的工事与其结构相同，常见于日本各地的“城下町”（围绕城郭发展起来市镇），主要用于拖慢来犯者的前进速度，扰乱视线，避免敌人轻易长驱直入。弯角除防御功能外，在相对和平的江户时代(1603-1867)，也充当张贴地方法律、政令的公共场所。

其他地区的柵形往往修造在城镇入口处，熊川宿却不同，这里的弯角更靠近中心地段。由于熊川宿的西部城区相对较新，人们推测这座小镇当时可能在原有布局的基础上向西面扩建，所以此处弯角过去应该位于小镇西端。

<繁体字>**まがり (Magari)：道路彎角**

熊川宿的居民將下之町與中之町之間的這個「L」型彎角稱為「まがり」(Magari)，即「彎角」之意，被認為是西元 15 世紀至 16 世紀時的軍事防禦工事遺跡。當時的山頂上矗立著一座俯瞰小鎮的城郭。被稱為「柵形」(柵，音同「傑」，意為「盒子狀」)的工事建築結構與彎角相同，在日本各地的「城下町」(圍繞城郭發展起來市鎮)都能見到，主要用於延緩敵人的前進速度，擾亂視線，避免其輕易地長驅直入。彎角除防禦功能外，在相對和平的江戶時代(1603-1867)，也充當張貼地方法律、政令的公共場所。

其他地區的柵形往往修造在城鎮入口處，熊川宿卻不同，這裡的彎角更靠近中心地段。由於熊川宿的西側城區相對較新，人們推測這座小鎮當時可能在原有布局的基礎上向西面擴建，因此這處彎角過去可能位於小鎮西端。

<日本語仮訳>**まがり**

熊川宿の住人は、下ノ町地域と中ノ町地域の間の道路上にある L 字型の曲がり角を「まがり」と呼んでいます。このまがりは、15 世紀から 16 世紀にかけて山城がこの町を見下ろしていた頃の、軍事的

な防御の名残とされています。「柵形」と呼ばれる同様の構造は、侵入者を減速させ、視線を遮り、簡単に前進するのを防ぐために、全国の城下町（城郭を中心に発達した都市）で使用されました。防御のためだけでなく、比較的平和だった江戸時代（1603-1867）、まがりは地域の法律や命令を掲示した高札を置く公共スペースとしても使われました。

他の地域では、柵形がよく町の入口に造られましたが、熊川宿のまがりは、より中心的な場所にあります。熊川宿の西側は比較的新しいため、町は当初の町割りからその方向に拡大したであろうと考えられており、まがりはかつて西の端にあったとも考えられています。

【タイトル】 小浜藩の米蔵の跡地

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

小浜藩的米仓旧址

现在松木神社所处的位置上曾经矗立着 12 座米仓，它们是小浜藩的官仓，用来存放征收的税粮。在江户时代(1603-1867)，各种税收都是以稻米、大豆等食物缴纳，而非钱财。据史料记载，小浜藩曾一次从 61 个村庄征收了将近 30,000 俵（计量单位，1 俵合 75 公斤）大米运送到熊川宿。这些米就被临时存放在米仓中，由驻扎在附近的两名“奉行”（行政官员）负责管理。

经熊川宿送米到京都

从藩内各村征收上来的税粮走若狭街道、经北川送到熊川宿。船只抵达后，货物先被送到“奉行所”（行政官员的办公场所）登记，然后才能存入官仓。之后，这些稻米就会用马匹拉到近江国（今滋贺县）的高岛，在那里装船，然后渡过琵琶湖到达天津，再从天津将这些税粮发往首都京都。

米仓拆除与松木神社建立

1871 年，明治政府废除藩制，代之以“都道府县”制，小浜藩的米仓和奉行所随之拆毁，原址上什么也没剩下。不过，其中有几座米仓可能被移走用作了私人仓库。1933 年，为纪念本地村庄领袖松木庄左卫门(1625-1652)，人们在米仓旧址上修建了松木神社。松木庄左卫门为背负重税的农民发声，但因违反了底层百姓不得直接向政府请愿的禁令而被处死。最终，税赋被降低，村民们也得以减负，牺牲性命的松木庄左卫门则成为了本地人心目中的英雄。

<繁体字>

小濱藩的米倉舊址

現在松木神社所在地過去曾經矗立著 12 座米倉，它們是小濱藩的官倉，用來存放徵收的稅糧。在江戶時代（1603-1867），各種稅收都是以稻米、大豆等食物繳納，而非錢財。據史料記載，小濱藩曾一次從 61 個村莊徵收了將近 30,000 俵（計量單位，1 俵合 75 公斤）大米運送到熊川宿。這些米就被臨時存放在米倉中，由駐紮在附近的兩名「奉行」（行政官員）負責管理。

經熊川宿押米到京都

自藩内各村徵收上來的稅糧走若狹街道、經北川押送到熊川宿。船隻抵達後，貨物先被送到「奉行所」（行政官員的辦公場所）登記，然後才能存入官倉。之後，這些稻米就會用馬匹運送到近江國（今滋賀縣）的高島裝船，然後渡過琵琶湖到大津，再從大津將這些稅糧押送至首都京都。

米倉的拆除與松木神社的建立

1871 年，明治政府廢除藩制，代之以「都道府縣」制，小濱藩的米倉和奉行所隨之拆毀，原址上最後什麼也沒剩下。不過其中有幾座米倉可能被移走用作了私人倉庫。1933 年，為紀念當地村莊代表松木莊左衛門（1625-1652），人們在米倉舊址上建立了松木神社。松木莊左衛門為背負重稅的農民發聲，但因違反了階層民眾不得直接向政府請願的禁令而被處死。最終，稅賦被降低，村民們的負擔也得以減輕，而犧牲性命的松木莊左衛門則成為了當地人心目中的英雄。

<日本語仮訳>

小浜藩の米蔵の跡地

現在、松木神社が建っている土地にはかつて、小浜藩の役人が徴収した年貢を保管するために使われた 12 の米蔵がありました。江戸時代（1603-1867）には、さまざまな税金が、お金ではなく米や大豆などの食材で支払われていました。歴史的な記録によると、ある時には、小浜藩は 61 の村から約 3 万俵（米などを流通する際の単位、江戸時代の 1 俵は約 75 キロ）の米を集め、熊川宿に運びました。米は一時的にその蔵に保管され、近くに配置された 2 人の「奉行」（政務を担当し執行する者）によって管理されていました。

熊川宿から京都への米の輸送

藩中の村から集められた米は、若狹街道と北川を經由して熊川宿に送られました。舟が到着すると、貨物は奉行所に運ばれ、集計され、藩の蔵に置かれました。その後、米は馬で近江国（現在の滋賀県）高島に運ばれ、そこで船に積み込まれ、琵琶湖を渡り大津に運ばれました。そこから、その税は京都に届けられました。

蔵の取り壊しと松木神社の創建

1871 年に明治政府による廃藩置県で、小浜藩の蔵や「奉行所」（政務を管轄する役所）は取り壊されました。一部の蔵は、移築されて民家として使用されていたようですが、元の場所には何も残っていません。1933 年、この地に村の名主であった松木庄左衛門（1625-1652）を祀る松木神社が建立されました。松木は重税を課された農民たちを代弁し、下層階級の人々が政府に直接請願することを禁じた法律に違反したとして処刑されました。最終的には税は引き下げられて村人の負担は軽減され、松木は自身が犠牲となったことで地元の英雄になりました。

【タイトル】 松木神社

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>**松木神社**

这座神社供奉的是松木庄左卫门(1625-1652)，他是一名乡村领袖，因替小浜藩内背负重税的农民发声请愿而遭处决。4 个世纪过去了，若狭人依然铭记着他为村民力争减负而牺牲的英雄事迹。

为修建城郭而加重赋税

在江户时代(1603-1867)，赋税都是用诸如米、豆等食物支付，而非钱财。17 世纪早期，京极家族受命执掌小浜藩后，为修建小浜城而大幅提升赋税。比如，用大豆支付的税额上涨了 15~25%。如此高的赋税水平一直延续到了酒井家族统治时期，1641 年小浜城完工，税额却依然没有改变。起初农民们还尽力完税，无奈不合理的沉重赋税终究还是危害到了藩内各地许多人的生计。

松木庄左卫门一生为民鞠躬尽瘁

为了共同商讨不公平的税收问题，当地 252 个村庄选出了 20 多名代表，松木庄左卫门就是其一。代表们直接向本地政府请愿，要求修改税率。在经过了 10 余年反复不断的申诉、被驳回、再申诉之后，赋税终于降到了最初的水平。但由于当时社会等级制度森严，底层百姓直接向政府请愿属违法行为。因松木庄左卫门多年来一直是请愿活动的核心人物，他于 1648 年被捕，并于 1652 年在日笠川的河岸边被处磔刑而死，年仅 28 岁。

创建神社

1933 年，为纪念松木庄左卫门和他为民做出的牺牲，人们建立了松木神社。神社坐落在小浜藩官营米仓旧址上。在日本，大多数神社供奉的都是自古以来受到人们崇拜的神道教神明，但松木神社供奉的却是相对近期的历史人物。第一座鸟居背后竖立着一尊高大的松木庄左卫门像，雕像单膝跪地，作敬献文书状，表现他正在代表百姓向藩政府官员请愿。

<繁体字>**松木神社**

這座神社供奉的是松木莊左衛門（1625-1652），他本是一名村莊代表，因替小濱藩內背負重稅的農民發聲請願而遭處決。如今 4 個世紀過去了，若狹人依然銘記著他為村民力爭減負而犧牲的英雄事蹟。

為修建城郭而加重賦稅

在江戶時代（1603-1867），繳納賦稅都是用諸如米、豆等食物支付，而非錢財。17 世紀早期，京極家受命執掌小濱藩後為修建小濱城而大幅提高賦稅。例如，用大豆支付的稅額就上漲了 15~25%。這樣的賦稅標準一直延續到了酒井家統治時期，1641 年小濱城完工，稅額依然沒有改變。起初農民們還盡力完稅，無奈不合理的沉重賦稅終究還是危害到了藩內各地許多人的生計。

松木莊左衛門一生為民鞠躬盡瘁

松木莊左衛門是當地 252 個村莊的 20 多名代表之一。他們齊聚一堂，探討不公平的稅收問題，並直接向本地政府提出請願，要求改革稅率。在經過了 10 餘年反復不斷的申訴、被駁回、再申訴之後，賦稅終於降到了最初的水準。然而在那個時代，社會等級制度森嚴，底層民眾直接向政府陳情是非法的舉動。因松木莊左衛門多年來一直是請願活動的核心人物，他於 1648 年被捕，並於 1652 年在日笠川の河岸邊被處磔刑而死，年僅 28 歲。

創建神社

1933 年，為紀念松木莊左衛門和他為民做出的犧牲，當地民眾建立了松木神社。神社坐落在小濱藩官營米倉舊址上。在日本，大多數神社供奉的是自古以來受到人們崇拜的神道教神明，但松木神社供奉的卻是相對近代的歷史人物。第一座鳥居背後豎立著一尊高大的松木莊左衛門像，雕像單膝跪地，作敬獻文書狀，表現他正在代表普通民眾向藩政府官員請願。

<日本語仮訳>

松木神社

この神社には、重税に苦しんでいた小浜藩の農民を擁護した村の名主、松木庄左衛門（1625-1652）が祀られています。4 世紀が経った今も、自分の命を犠牲にして仲間である村人にかかる負担を軽減しようと努めた英雄として、若狭地域で語り継がれています。

城の建設資金のための重税

江戸時代（1603-1867）には、お金の代わりに米や豆などの品が税の支払いに使われていました。17 世紀初頭、京極家が小浜藩主に任命されると、小浜城築城の資金として大幅な増税が行われました。例えば、大豆で支払われる税は約 12~25%増加しました。この課税水準は、酒井家の統治下で 1641 年に城が完成した後も変わりませんでした。農民たちは、初めのうちは何とか支払うことができましたが、過度の税負担は藩全体の多くの人々の生活を危険に晒しました。

農家のために尽力した松木庄左衛門

松木は、不当な課税について話し合うためにこの地域の 252 の村から集まった 20 人を超える代表者の一人であり、税率の改定を藩に直訴しました。10 年以上陳情を続けた結果、ついに元の水準まで減税されました。しかし、当時は社会階級が厳しく区分されていたため、身分の低い人々がこのように藩へ直接陳情することはご法度でした。長年にわたりその中心人物であった松木は、1648 年に捕えられ、1652 年に日笠川の河原で磔にされ、28 歳で命を落としました。

神社の創建

1933 年、松木神社は松木庄左衛門と彼の犠牲的な行動に敬意を表して建てられました。神社は、かつて小浜藩の米蔵の跡地にあります。日本の神社の大部分は古くから崇拝されてきた神々を祀っていますが、松木神社は、比較的新しい歴史上の人物を祀っています。最初の鳥居の先には、庶民に代わって藩の役人へ陳情を行う様子を表した、片膝をついて文書を差し出す大きな松木の像があります。

【タイトル】 前川

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>**前川水道**

这条名为“前川”的石砌水道贯穿整个熊川宿，是 17 世纪早期政府工程的一部分，当时的藩政府正致力于将这座小村庄发展为“宿场町”（驿镇）。对于本地居民来说，修建水道是一件好事，它提供的淡水能够同时满足农田灌溉和日常用水两方面的需求。带有亲水平台的石阶被称为“川门”，沿水道修建，每隔一段就有一个。平台紧贴水面，方便人们日常洗衣、洗菜使用。行经宿场町的旅人和马匹都可以取用自店铺前流过的清水解渴，补满水囊。

前川的另一个用途是方便安装“芋洗器”。这是一种利用水车改造的削土豆皮的装置。一根杆穿过带桨叶的木桶中心，然后插进水道两侧的石墙缝隙里，悬在水上。流水推动桨叶，带动木桶回转，桶里的土豆便滚动起来被洗剥干净。

随着现代管道铺设系统的出现，这条水道不再用作饮用水的水源和洗濯场所。可它依然能在冬天冲走积雪，为炎夏消解暑热，是本街区传统风貌中不可或缺的一份子。

<繁体字>**前川水道**

這條名為「前川」的石砌水道貫穿整個熊川宿，是 17 世紀早期政府工程的一部分，當時的藩政府致力於將這座小村莊發展為「宿場町」（驛鎮）。對於當地居民來說，修建水道有利民生，因其提供的淡水能夠同時滿足農田灌溉和日常用水兩方面的需求。被稱為「川門」的帶石階平台沿著水道修建，每隔一段就有一個，方便人們日常洗衣、洗菜使用。行經宿場町的旅人和馬匹都可以取用自店鋪前流過的清水解渴，裝滿水囊。

前川的另一個用途是方便安裝「芋洗器」。這是一種利用水車改造的削馬鈴薯皮的裝置。一根杆穿過帶槳葉的木桶中心，然後插進水道兩側的石牆縫隙裡，懸在水上。流水推動槳葉，帶動木桶回轉，桶裡的馬鈴薯便滾動起來被洗削乾淨。

隨著現代管道鋪設系統的出現，這條水道不再用作飲用水的水源和洗濯場所。可它依然能在冬天沖走積雪，為炎夏消解暑熱，是當地街區傳統風貌中不可或缺的存在。

<日本語仮訳>**前川**

熊川宿の端から端まで流れている、「前川」と呼ばれる石で舗装された水路は、17 世紀初頭に、小さな村を宿場町へと発展させるための公的な取り組みの一環として造られました。この水路は、畑の灌漑用水と日常生活の両方に必要な浄水の供給源として、住民にとってありがたいものでした。「かわと」と呼ばれる、台を備えた石段が水面近くに水路に沿って点々と設けられており、衣服や野菜を洗うなど日々の仕事を簡単にできるようになっていました。この宿場町を通る人々や馬は、店先を流れる水で喉の渇きを潤し、物資を補給したものでした。

前川のもう 1 つの用途は、ジャガイモの皮を剥くための水車、芋洗い器でした。水かきの付いた木製の樽の中央に通した棒を水路の両側の石壁の隙間に設置して、水上に吊るします。流れる水が水かきにぶつかって樽を回転させ、中のジャガイモを転がして皮を剥きます。

近代的な水道管の敷設によって、この水路は飲料水の供給源としても、洗濯をする場所としても使われなくなりました。しかしこの水路は今、冬には雪を洗い流し、夏には暑さをしのぐものとして、伝統的な町並みに欠かせない存在となっています。

【タイトル】 菱屋

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>**菱屋**

此处建筑修建于 1868 年，是一家名叫“菱屋”的大型船运以及批发商家的所在地。菱屋经营数代，始终在熊川宿的商贸经济中占据着重要地位。菱屋是熊川宿的转运点之一，货物在这里卸下，集装，然后运往下一个目的地。人们还能在这里雇用脚夫和马匹。最鼎盛时，菱屋的货流量每年大约有 27,000 吨。若狭街道连接若狭地区与首都京都，是一条重要的商贸道路。蓬勃发展的商业昭示着这座小镇正是若狭街道上重要的转运枢纽。

19 世纪晚期的菱屋建筑是熊川宿街道风貌中十分引人注目的一大元素，这片街区现已指定为国家重要传统建筑群保护区。菱屋是本地区最大的双层建筑之一，店面开阔，正对主街和前川水道的汨汨流水。深红色和白色的外墙配格子窗、瓦葺屋顶。如今，这座建筑是一处共享办公空间，也是各种会议、讲座、快闪店铺和社区活动的举办地，它正以全新的现代方式，持续不断地为熊川宿的居民生活提供助力。

<繁体字>**菱屋**

這處建築修建於 1868 年，是一家名叫「菱屋」的大型船運以及批發商家的所在地。菱屋經數代經營，始終在熊川宿的商貿經濟中佔據著重要地位。菱屋是熊川宿的轉運點之一，貨物在此卸下、集裝，然後運往下一個目的地。這裡還能雇用腳夫和馬匹。最鼎盛的時候，菱屋的貨物輸送量每年大約有 27,000 噸。若狹街道連接若狹地區與首都京都，是一條重要的商貿道路。蓬勃發展的商業代表著這座小鎮正是若狹街道上重要的轉運樞紐。

19 世紀晚期的菱屋建築是熊川宿街道風貌中十分引人注目的一大元素，這片街區現已被指定為國家重要傳統建築群保護區。菱屋是當地最大的雙層建築之一，店面開闊，正對主街和前川水道的汨汨流水。深紅色和白色的外牆配格子窗、瓦葺屋頂。如今，這座建築是一處共用辦公空間，也是各種會議、講座、快閃店鋪和社區活動的舉辦場所，它正以全新的現代方式，持續不斷地對熊川宿居民生活提供支持。

<日本語仮訳>**菱屋**

この建物は、熊川宿の貿易経済の一翼を何世代にもわたって担ってきた、「菱屋」と呼ばれる大きな運送業・問屋の建物として 1868 年に建設されました。菱屋は熊川宿から次の目的地への輸送のために貨物を降ろして集荷する場所の 1 つでした。運搬人や馬もそこで借りることができました。最盛期には、年間約 27,000 t の貨物が菱屋を通過しました。その商いの繁盛ぶりは、若狭地方と京都を結ぶ重要な交易路である若狭街道沿いにある主要な輸送の中心地としての町の役割を代弁するものでした。

19 世紀後半に建てられた菱屋は、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された熊川宿の町並みの中でも、注目すべき建物です。2 階建ての建物はこの地域でも最大級で、その広い正面からは主要な道と前川の流れを見渡せます。建物の外観の特徴は、深い赤と白の壁、格子窓、瓦屋根です。現在、この建物はシェアオフィススペースとして、また会議や講演会、ポップアップショップ、地域イベントの場として利用されており、新しい現代的な方法で熊川宿の住民の生活を支えています。

【タイトル】熊川陣屋跡

【想定媒体】アプリQRコード

<簡体字>**熊川陣屋遺址**

这里曾是江户时代(1603-1867)本地行政长官执政的场所“奉行所”，官员们在此各司其职，对熊川地区和小滨藩实施统一管理，处理相关民政事务。其中，最重要的工作就是监管熊川宿的船运行业，以及掌管藩内每年的税收。这些赋税以稻米缴纳，征收后便被存放在不远处的 12 座米仓中。

奉行所的结构与职能

小滨藩最早的奉行所建于 17 世纪早期、第一位藩主京极高次(1563-1609)的在任期间。当时，此处建筑属于“阵屋”（城郭以外的领主宅邸），由行政总部、仓库和本地最高行政长官的宅邸组成。1634 年，酒井忠胜(1587-1662)受命出任藩主，阵屋被改为奉行所，随之，其职权范围也扩大到了全部民事事务。若狭街道连接着日本海沿岸各港口和当时的首都京都，而熊川宿又是该路线上的要镇，因此这个奉行所在协调熊川宿活跃的经济活动方面扮演了重要的角色。

奉行所的拆除与遗址的再利用

奉行所和不远处的米仓都于 1871 年拆除，当时，明治政府废除了藩制，代之以“都道府县”制。如今，此处遗址上建有一家坚持运用传统工艺从野葛中提取优质葛粉的工厂，此外还为珍稀的源氏萤保留了一小片水生栖居地。遗址深处是一条登山小道的入口，小道通往熊川城遗址，山腰处有风光秀美的观景点。

<繁体字>**熊川陣屋遺址**

這裡曾是江戶時代（1603-1867）地方行政長官執政的場所「奉行所」。官員們在此各司其職，對熊川地區和小濱藩實施統一管理，處理相關民政事務。其中，最重要的工作就是監管熊川宿的船運行業，以及掌管藩內每年的稅收。這些賦稅以稻米繳納，徵收後便存放在不遠處的 12 座米倉中。

奉行所的结构与职能

小浜藩最早的奉行所建於 17 世紀早期，正值第一位藩主京極高次（1563-1609）的在任期間。當時，這處建築屬於「陣屋」（城郭以外的領主宅邸），由行政總部、倉庫和當地最高行政長官的宅邸組成。1634 年，酒井忠勝（1587-1662）受命出任藩主，陣屋改為「奉行所」。奉行所職權範圍隨之擴大，覆蓋全部民事事務。若狹街道連接著日本海沿岸各港口和當時的首都京都，而熊川宿佔據著其戰略要地，因此這個奉行所在管理熊川宿活躍的經濟活動方面扮演了重要的角色。

奉行所の拆除與遺址的再利用

奉行所和不遠處的米倉都於 1871 年拆除。當時，明治政府廢除了藩制，代之以「都道府縣」制。如今，這處遺址上有一家堅持運用傳統工藝從野葛中提取優質葛粉的工廠，此外還為珍稀的源氏螢保留著一小片水生棲居地。遺址深處是一條登山小道的入口，小道通往熊川城遺址，山腰處有風光秀美的觀景點。

<日本語仮訳>

熊川陣屋跡

ここは江戸時代（1603-1867）に、熊川地域と小浜藩全体の統治に関連する民事がさまざまな役人によって取り扱われる奉行所があった場所です。その最も重要な任務は、熊川宿の運送業者の取り締まりと、近くにある 12 の蔵に保管されていた、米で支払われていた藩の年貢の管理でした。

奉行所の構造と機能

最初の奉行所は 17 世紀初頭、小浜藩の初代藩主である京極高次（1563-1609）の時代に建設されました。当時、この施設は陣屋（城とは別に所持していた大名の屋敷）に分類され、行政本部、蔵、最も位の高い地方行政官の居宅がありました。酒井忠勝（1587-1662）が 1634 年に藩主に任命された後、陣屋は奉行所になり、その権限は民事全般に拡大されました。熊川宿は、日本海の港と当時の都であった京都を結ぶ若狭海道沿いの要所に位置していたため、この奉行所は経済が活発な熊川宿の調整役として重要な役割を果たしました。

奉行所の取り壊しと現在の跡地利用

1871 年の明治政府による廃藩置県で、奉行所と近隣の米蔵が取り壊されました。現在、敷地内には葛から高品質のでんぷんを製造する伝統的な加工工場と、珍しいゲンジボタルのための水で満たされた小さな生息地があります。さらに奥には、山腹の絶景ポイントから熊川城跡へと続くハイキングコースへの入口があります。

【タイトル】 長屋道

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>**长屋道**

这条狭窄的小巷曾经通向一座名叫“长屋”的平房。长屋以前是士兵宿舍，最多可以容纳 16 名被称为“足轻”的低阶步兵入住，他们直接听命于“奉行”（行政官员）。年深日久，这条通往长屋的小巷也就得名“长屋道”，即“通往长屋的小道”。尽管长屋现已不存，小巷的旧名却保留了下来。

足轻士兵通常会参与各种军事行动，但在相对和平的江户时代(1603-1867)，他们经常担任巡逻市镇、守卫城门岗哨等公务。尽管没有文献记录驻扎熊川宿的士兵们具体的工作职责，但推测他们会协助町奉行处理领地事务，负责附近仓库大米（赋税）的出货，从旅人那里收取货品的税金，或监督熊川番所（警备所）检查武器及违禁物品。

<繁体字>**長屋道**

這條狹窄的小街曾經通向一座名叫「長屋」的平房。長屋過去曾是士兵宿舍，最多可以容納 16 名被稱為「足輕」的低階步兵入住，這些步兵直接聽命於「奉行」（行政官員）。年深日久，這條通往長屋的小街就得名「長屋道」，即「通往長屋的小道」。儘管長屋本身現已不存，小街的舊名卻保留了下來。

足輕士兵通常會參與各種軍事行動，但在相對和平的江戶時代（1603-1867），他們經常會擔任巡邏市鎮、守衛城門崗哨等公務。儘管沒有文獻記錄駐紮在熊川宿的士兵們具體的工作職責，但推測他們會協助町奉行處理領地事務，負責附近倉庫大米（賦稅）的出貨，從旅客那裡收取貨品的稅金，或監督熊川番所（警備所）檢查武器及違禁物品。

<日本語仮訳>**長屋道**

この狭い路地は、かつて兵舎として使われていた「長屋」と呼ばれる平屋建ての建物に通じていました。そこには、町奉行（政務を担当し執行する者）の部下であった足軽という位の低い歩兵が最大 16 人住んでいました。時が経つにつれ、この兵舎に通じる道は「長屋道」として知られるようになりました。建物自体は現存していませんが、路地にはその歴史を感じる名前が残りました。

足輕は通常、さまざまな軍事行動に関わっていましたが、比較的平和だった江戸時代（1603-1867）には、町の見回りや門番などの公務に従事することがよくありました。熊川宿に駐屯した足輕がどのような任務を遂行したかを示す記録は残っていませんが、町奉行の藩務を補佐したと考えられています。藩が管理する近くの蔵へ年貢として送られる米の出荷や、旅人が輸送品の税金を納めたり、武器や禁制品の検査を受けたりしていた熊川番所での監視などに携わっていた可能性もあります。

【タイトル】 旧逸見勘兵衛家

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

逸見勘兵衛旧宅

这处住宅是江户时代(1603-1867)熊川宿的富人所钟爱的典型町家建筑。町家是商人或工匠的住宅，通常与店铺或工坊合而为一。这里曾经是熊川宿第一位村长逸见勘兵卫(1842-1909)的宅邸。从当年的建筑图纸来看，主屋初建于1858年。宅邸中附带一个小酒藏和一座庭园，宅邸后方还有一个库房，里面藏有大量书籍。

1994年，这处宅邸由逸见家族后人捐赠给了若狭町。1995年，若狭町将其指定为物质文化财产，随后展开了大规模的修缮工作，前后历时3年。修复后的宅邸成为了熊川宿古建筑改良再利用的范本，在为子孙后世保留传统风貌的同时，也满足了现代生活的需求。

这处设施如今对外提供住宿服务，另设有一间咖啡厅和一个纪念品商店。来访者既可以亲身入住文化财产建筑，享用若狭地区的乡土料理，也可以仅在咖啡厅消费，同时参观这座传统住宅。咖啡厅仅在每年春季至秋季期间每逢周末、节假日开放营业。

<繁体字>

逸見勘兵衛舊宅

這處住宅是江戶時代（1603-1867）熊川宿的富人所鍾愛的典型町家建築。町家是商人或工匠的住宅，通常與店鋪或工坊合而為一。這裡曾經是熊川宿第一位村長逸見勘兵衛（1842-1909）的宅邸。根據當年的建築圖紙，主屋初建於1858年。宅邸中附一個小型釀酒廠和一座庭園，宅邸後方還有一間藏有大量書籍的倉庫。

1994年，這處宅邸由逸見家後人捐贈給了若狹町。次年，若狹町將其指定為物質文化財產，隨後展開了大規模的修繕工作，前後歷時3年。修復後的宅邸成為了熊川宿古老的建築再利用的典範，在為後世保留傳統風貌的同時，也能夠適應現代社會的需求。

現在，這座建築開放供遊客住宿，另設有一間咖啡廳和一個紀念品商店。遊客既可以親身入住文化財建築，享用若狹地區的鄉土料理，也可以在咖啡廳消費的同時參觀這座傳統住宅。咖啡廳僅在每年春季至秋季期間、每逢週末和節假日開放營業。

<日本語仮訳>

旧逸見勘兵衛家

この建物は、江戸時代（1603-1867）に熊川宿の富裕層に好まれた町家（店舗や工房が併設する商家や職人の住宅）の代表的な例です。ここはかつて熊川の初代村長であった逸見勘兵衛（1842-1909）の邸宅でした。歴史的な建築図面によれば、主屋はもともと 1858 年に建てられました。敷地内には小さな酒蔵や庭園があり、裏手にある蔵には大量の蔵書が保管されていました。

この邸宅は 1994 年に逸見家の子孫から若狭町へ寄贈されました。1995 年に町の有形文化財に指定され、3 年をかけて大規模な修繕工事が行われました。復元されたこの邸宅は、熊川宿の古い建物を後世のために伝統的な外観を維持しながら、現代の生活のニーズを満たすために改良した例となりました。

現在、この建物には、宿泊施設、カフェ、土産物店が入っています。観光客は若狭の郷土料理を堪能し、文化財に宿泊する特別な体験でき、またカフェの営業時間中（週末と祝日、春から秋）であれば、小額の料金で伝統的な家を探索することができます。

【タイトル】 熊川城跡

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>**熊川城遗址**

熊川宿曾經是一處有名的“宿場町”（驛鎮），沿若狹街道運送各種食物或其他貨物時都要行經這裡。不過，在一段不算長的時間裡，它也曾處於熊川城的守護之下。熊川城位於山頂，能俯瞰下方的村莊與行人往來的道路。在熊川宿，至今仍能看到一些當年城郭的防禦性設施，比如一處被稱作“まがり”(magari)的L型彎角，用於阻礙入侵者長驅直入。

熊川城与沼田家族

据传，熊川城由沼田家族在16世纪修筑，但确切时间不明。1569年，邻城城主松宫清长攻打熊川城，并从当时的城主沼田光兼手中一举夺下了城郭。传说之后沼田一家逃亡到近江国（今滋贺县），沼田光兼本人成为了细川家族麾下武将，他的女儿麿香(1544-1618)后来嫁给了著名的将军兼出色的作家细川藤考（1534-1610；又名细川幽斋）。麿香因在1600年田边城被困时英勇守城而闻名。

松宫家族的短暂统治与城郭的废弃

松宫家族占据熊川城仅数年之后，强大的军阀织田信长(1534-1582)在1573年攻占了若狭地区，并指派下属丹羽长秀(1535-1585)接管该地，熊川城从而遭到废弃。如今，只有一道护城河与几处防御战壕留下的模糊形状诉说着城郭曾经的位置。熊川“奉行所”（行政官员的办公场所）遗址和白石神社后方有一条短短的小径，从小径的观景点放眼远眺，周边的景致或许和当年在熊川城上看到的一样。

<繁体字>**熊川城遗址**

熊川宿曾經是一處有名的「宿場町」（驛鎮），各式各樣的食物和貨物沿著若狹街道運輸，都會經過這個地方。不過，在一段不長的時間裡，熊川宿也曾處於熊川城的庇護之下。熊川城位於山頂，能俯瞰下方的村莊與行人往來的道路。在熊川宿，至今仍可看到一些當年城郭的防禦性設施，比如一處被稱作「まがり」（magari）的L型彎角，用於阻礙進犯者長驅直入。

熊川城與沼田家

據傳，熊川城由沼田家在 16 世紀修建，但確切的建造年代不詳。1569 年，鄰城城主松宮清長攻打熊川城，並從當時的城主沼田光兼手中一舉奪下了城郭。據傳，沼田一家逃亡到了近江國（今滋賀縣），沼田光兼成為了細川家麾下武將，他的女兒麿香（1544-1618）後來還嫁給了著名的將軍兼出色的作家細川藤考（1534-1610；又名細川幽齋）。麿香因在 1600 年田邊城被困時英勇守衛而聞名。

松宮家の短暫時統治與城郭的廢棄

松宮家佔據熊川城僅數年，強大的軍閥織田信長（1534-1582）在 1573 年攻佔了若狹地區，並指派下屬丹羽長秀（1535-1585）接管該地區，之後熊川城便遭到了廢棄。如今，只留一道護城河與幾處防禦戰壕留下的模糊形狀，告訴人們城郭曾經的位置。熊川奉行所（行政官員的辦公場所）和白石神社後方有一條短短的小徑，從小徑的觀景點放眼遠眺，周邊的景致或許和當年在熊川城看到的一樣。

<日本語仮訳>

熊川城跡

熊川宿は、かつて若狹街道に沿ってさまざまな食料品やその他の商品を輸送するときに使用された宿場町として主に知られています。しかしある短い期間、熊川城に守られていました。その城は山頂にあり、その下の旅路と村を見下ろしていました。熊川宿には今でも、敵の進軍を妨げる L 字型の「まがり」（曲がり角）など、城の防御的な特徴がいくつか残っています。

熊川城と沼田氏

熊川城は、16 世紀に沼田氏によって建てられたと言われていますが、正確な築城時期は不明です。1569 年、熊川城の城主が沼田光兼であった時、熊川城は隣の城の城主であった松宮清長に攻撃され占領されました。沼田氏は、近江国（現在の滋賀県）に逃亡し、そこで光兼は細川氏の武將として仕えたといわれています。彼の娘の麿香（1544-1618）は後に、名將であり著名な作家でもあった細川藤孝（細川幽齋としても知られる、1534-1610）と結婚しました。麿香自身は、1600 年の田辺城籠城戦の際に、城を守った人物の一人として有名になりました。

松宮氏による短期間の統治と廃城

熊川城は数年間、松宮氏に占領されましたが、強力な武將の織田信長（1534-1582）がこの若狹地域を制圧し、1573 年に配下の丹羽長秀（1535-1585）をこの地の統治者に任命すると、城は放棄されました。今では、漠然とした輪郭を示す堀や塹壕の跡のみが、城がかつて立っていた場所を示しています。熊川奉行所（政務を管轄する役所）の跡地や白石神社の裏手からの短い小道の途中にある展望スポットからは、熊川城から見えたかもしれない眺めを望むことができます。

【タイトル】 熊川番所

【想定媒体】 アプリ QRコード

<簡体字>**熊川番所**

熊川番所（警备所）由当时的小浜藩藩主酒井忠胜(1587-1662)于宽永时代(1624-1644)建成，主要用于监管出入熊川宿的往来旅人。在一张 1645 年的若狭与敦贺地区老地图上，番所还位于熊川宿的中心位置。但另一张 18 世纪晚期的地图却把它标在了上之町区域内，和现在的位置一样。由此可见，番所曾在 17 世纪晚期或 18 世纪的某个时期经历过一次搬迁。

番所的运作

番所内配备两名官员，负责检查、询问到访者，确认他们的旅行文书，对经由若狭街道的货物征税。在连接小浜、日本海沿岸与京都（当时的首都）的商道网络中，若狭街道最为热闹，以至于道路税收成为了小浜藩的主要收入来源。江户时代(1603-1867)，这样的番所遍布全国，德川幕府借助它们来维持对各藩的控制，其中对商品征税、武器运送和女性旅行的管控尤其严格。1867 年，幕府倒台，1870 年，熊川番所被废除。之后，番所建筑被改造为一处私人住宅。

修复与展示

2002 年，此处旧番所被若狭町买下后恢复了其原貌，如今它是日本国内唯一仍然位于国家重要传统建筑群保护区内原址上的番所建筑。番所内，两个真人大小的人像代表了正在负责检查旅行文书、对“宿场町”（驿镇）往来货物征税的官员。他们的身后靠墙处展示着弓、箭、步枪，另有执行拘捕的 3 件套武器，包括一柄刺股（带 U 型叉头的长杆，用来固定嫌疑人）、一根突棒（T 型头长杆，可用于绊、推、拨拉）和一把袖搦（搦，音同“诺”；顶头带铁钉的长杆，用来勾住衣服）。

<繁体字>**熊川番所**

熊川番所（警備所）由當時的小濱藩藩主酒井忠勝（1587-1662）於寬永年間（1624-1644）建成，主要用於監管出入熊川宿的往來旅人。在一張 1645 年的若狹與敦賀地區老地圖上，番所還位於熊川宿的中心位置。但另一張 18 世紀晚期的地圖卻把它標在了上之町區

域内，和現在的位置一樣。由此可見，番所曾在 17 世紀晚期或 18 世紀的某個時間經歷過一次搬遷。

番所の運作

番所内設兩名官員，負責盤查到訪者，確認他們的旅行文書，對利用若狹街道運輸的貨物徵稅。在連接小濱、日本海沿岸與京都（當時的首都）的商貿網路中，若狹街道最為熱鬧，以至於道路稅收成為了小濱藩的主要收入來源。江戶時代（1603-1867），這樣的番所遍布全國，德川幕府借助它們來維持對各藩的控制，其中對商品徵稅、兵器運送和女性旅行的管控尤其嚴格。1867 年，幕府倒台，1870 年，熊川番所被廢除。之後，番所建築被改造為一處私人住宅。

修復與展示

2002 年，這處舊番所被若狹町買下後恢復了其原貌，如今它是日本國內唯一仍然位於國家重要傳統建築群保護區内原址上的番所建築。番所内，兩個真人大小的人像代表了負責檢查旅行文書、對「宿場町」（驛鎮）往來貨物徵稅的官員。他們身後靠牆處展示著弓、箭、步槍，另有執行拘捕的 3 件套兵器，包括一柄刺股（帶 U 型叉頭的長杆，用來固定嫌疑人）、一根突棒（T 型頭長杆，可用於絆、推、撥拉）和一把袖搦（搦，音同「諾」；頂頭帶鐵釘的長杆，用來勾住衣服）。

<日本語仮訳>

熊川番所

熊川番所は、熊川宿を通過する旅人を監視するために、小浜藩の藩主であった酒井忠勝（1587-1662）によって寛永年間（1624-1644）に建てられました。1645 年に作成された若狹・敦賀地方の歴史ある地図では、熊川番所は熊川宿の中心に描かれていますが、18 世紀後半に作成された地図では上ノ町地域の現在の場所に配置されており、17 世紀後半または 18 世紀の間に位置が変わったことが分かります。

番所の運営

番所には、通行人の検査や尋問、往来手形の確認や若狹街道に沿って運ばれる物品に税を課すことを任務とする 2 人の役人が配置されていました。若狹街道は、小浜そや日本海を京都（当時の都）と結ぶ交易路網の中で最もよく行き来されていたので、これらの税は藩の大きな収入源でした。江戸時代（1603-1867）、このような番所は、国中の藩の支配を維持するため、徳川幕府によって利用されていました。特に、商品への課税や、武器の輸送、女性の移動に関しては厳しく規制されました。幕府が 1867 年に滅亡した後、1870 年に番所は廃止されました。その建物は後に改築され、個人の住居として使用されました。

復元と展示

2002年、旧番所は若狭町に買い取られ、当時の姿に復元されました。いまは、日本唯一国の重要伝統的建造物群保存地区に元位置のまま現存する番所建物です。中にある等身大の2人の人物像は、往来手形の確認と宿場町を通過する物品の税の徴収を担当する役人を表しています。後ろの壁に展示されているのは、弓、矢、鉄砲、そして捕物に使用された3つの武器のセットです。これらには、刺股（容疑者を固定するために使用されるU字型に分岐した先端を備えた棒）、突棒（ころばせたり、押したり引いたりするために使用されるT字型の先端を備えた棒）、そして袖搦（衣服を引っ掛けるために先端に鉄のとげが付いた棒）が含まれます。

【タイトル】熊川宿

【想定媒体】アプリQRコード

<簡体字>**熊川宿**

熊川宿地处连接若狭地区与首都京都的主商道若狭街道旁，是一处繁华的“宿场町”（驿站），它的存在促进了商道的货物运输。1589年，政府发布命令，免除了熊川宿的一系列赋税，从而推动了货运商、脚夫店、商店、膳宿设施等商业的发展。熊川宿是国家指定重要传统建筑群保护区，同时，作为“御食国若狭与鯖街道”的组成部分，已被认定为日本遗产。至今犹存的历史气息还能让人窥见1750年至1867年间那个热闹宿场町的日常生活景象。宿场町分为三个部分，分别是上之町、中之町和下之町。

重要景点**1. 熊川番所**

“番所”（警备所）官员负责监控出入宿场町的情况，检查旅行文书，对往来货物征税。番所已恢复当时原貌，内部再现了当年官员工作的场景，其身后还陈列着各类武器。番所现已被指定为若狭町物质文化财产。

2. 逸见勘兵卫旧宅

此处建筑的主人是熊川的第一任村长逸见勘兵卫(1842-1909)。它是宿场町富人所钟爱的町家典范。町家也称町屋，是商人或工匠的住宅，通常与店铺或工坊合而为一。在经过大规模修缮后，这座宅邸已经成为保护传承老建筑的范本。如今，旧宅内设有一处膳宿设施、一家咖啡馆和一个纪念品商店。

3. 熊川宿资料馆（宿场馆）

此处建筑初建于1940年，当时是熊川村役场（村公所）。1997年，它被改造为资料馆，用来展示熊川宿的历史文化，以及连接若狭地区与京都的商路网络“鯖街道”的相关资料。展品包括文献资料、照片、面板展示，以及各种与昔日宿场町日常生活和商业活动有关的物品。

4. 荻野家族传统住宅

荻野家族几代人都经营着一家专营货运的商铺，名为“仓见屋”。此处宅邸的主屋建于1811年前后，是熊川宿现存最古老的传统町家。其他特色建筑包括一个毗连主屋的物品存放仓库，和供雇员使用的阁楼卧室。这座住宅现已被指定为国家重要文化财产。

5. 村田馆

此处房屋是“菊乃井”的创始人村田寅吉的故居。“菊乃井”是一家米其林三星餐厅，于1912年在京都创办。在村田寅吉的孙子、菊乃井的第三代当家人的支持下，此处住宅经翻新后对外开放，主要展示由“鯖街道”商路成就的若狭饮食文化。

6. 熊川宿体验交流设施“与七”

此处建筑既是一个休憩设施，也可以用来举办展览、体验课程、讲座和其他活动。它得名自熊川宿的孝子表率“与七”。当年，与七和妻子一同生活在这一地区，虽然自己贫困潦倒，却从不让年迈的双亲忍饥挨饿。最终，他们的孝心孝行获得了小浜藩藩主的重赏。

<繁体字>

熊川宿

熊川宿地處連接若狹地區與首都京都的主商道若狹街道旁，是一處繁華的「宿場町」（驛鎮），它的存在促進了商道的貨物運輸。1589年，政府發布命令，免除了熊川宿的一系列賦稅，從而推動了貨運商、腳夫店、商店、旅店等商業的發展。熊川宿現在被指定為國家重要傳統建築群保護區，同時，作為「御食國若狹與鯖街道」的組成部分，已被認定為日本遺產。至今猶存的歷史氣息還能讓人窺見1750年至1867年間那個熱鬧宿場町的日常生活景象。宿場町分為三個部分，分別是上之町、中之町和下之町。

重要景點

1. 熊川番所

「番所」（警備所）官員負責監控出入宿場町的情況，檢查旅行文書，對往來貨物徵稅。番所現已恢復原始面貌，內部再現了當年番所官員工作的場景，其身後還陳列著一系列兵器。番所現已被指定為若狹町物質文化財產。

2. 逸見勘兵衛舊宅

這處建築的主人是熊川的第一任村長逸見勘兵衛（1842-1909），它是宿場町富人所鍾愛的典型町家樣式。町家也稱町屋，是商人或工匠的住宅，通常與店鋪或工坊合而為一。在經過大規模修繕後，這座宅邸已經成為保護和傳承老建築的典範。如今，宅內設有一處旅店、一家咖啡館和一個紀念品商店。

3. 熊川宿資料館（宿場館）

這處建築初建於1940年，當時是熊川村役場（村公所）。1997年，它被改造為資料館，用來展示熊川宿的歷史文化，以及連接若狹地區與京都的商貿網路「鯖街道」的相關資料。展品包括文獻資料、照片、面板，以及各種與昔日宿場町日常生活和商業活動有關的物品。

4. 荻野家の傳統住宅

「倉見屋」是荻野家數代人所經營的一家專營貨運的商鋪。這處宅邸的主屋建於 1811 年前後，是熊川宿現存最古老的傳統町家。其他特色建築還包括一個毗連主屋的倉庫用以存放貨物，和供雇員使用的閣樓臥室。這座住宅現已被指定為國家重要文化財產。

5. 村田館

這座房屋是「菊乃井」的創始人村田寅吉的故居。「菊乃井」是一家米其林三星餐廳，於 1912 年在京都創辦。在村田寅吉的孫子，即菊乃井的第三代接班人的協助下，這處住宅被整修並對公眾開放，主要展示由「鯖街道」商路造就的若狹飲食文化。

6. 熊川宿體驗交流設施「與七」

這處建築既是一個休憩場所，也可以用來舉辦展覽、體驗課程、講座和其他活動。它得名自熊川宿的孝子表率「與七」。當年，與七和妻子一同生活在此，雖然自己貧困潦倒，卻從不讓年邁的雙親挨餓受凍。最終，他們的孝心孝行得到了小濱藩藩主的重賞。

<日本語仮訳>

熊川宿

熊川宿は、若狹地域と京都を結ぶ主要な交易路である若狹街道の物資輸送を促進した、繁栄した宿場町でした。1589 年、政府の勅令により町は多くの税金が免除されたことで、運送代理店、運搬人の詰所、商店、宿泊施設などの商業が発展しました。熊川宿は、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されており、また「御食国若狹と鯖街道」の一部として、日本遺産にも認定されています。その歴史的な雰囲気から、1750 年～1867 年にかけての賑やかだった宿場町の日常生活を垣間見ることができます。町は上ノ町、中ノ町、下ノ町の 3 つのエリアに分かれています。

見どころ

1. 熊川番所

番所に配属された役人は、熊川宿への出入りを監視し、往來手形を検査し、輸送される物品に税を課していました。番所は当時の姿に復元され、内部では役人が働く様子が再現されており、その背後には様々な武器が展示されています。番所は若狹町の有形文化財に指定されています。

2. 旧逸見勘兵衛家

この建物は、熊川の初代村長であった逸見勘兵衛（1842-1909）がかつて所有していたものです。宿場町の富裕層に好まれた町家（店舗や工房が併設する商家や職人の住宅）様式の代表例となっています。この建物は、伝統的な建物を次世代に残すための模範となるべく、大規模な修復が行われました。現在は、宿泊施設、カフェ、土産物店が入っています。

3. 熊川宿資料館（宿場館）

この建物は元々1940年に建てられ、熊川村役場として使われていました。1997年には、熊川宿の歴史と文化、そして若狭と京都を結んだ交易路である鯖街道に関する資料館として開館しました。展示品には、保存資料、写真、パネル展示、昔の宿場町の日常生活や商業活動に関連するさまざまな品物が含まれます。

4. 荻野家の伝統的住宅

荻野家は何世代にもわたって、物資の輸送を専門とする「倉見屋」と呼ばれる事業を営んでいました。主屋は1811年頃に建てられており、熊川に残っている最も古い伝統的な町家です。その他の注目すべき建築上の特徴には、隣接する荷物用の蔵と従業員用の屋根裏の寝室があります。この住宅は国の重要文化財に指定されています。

5. 村田館

この建物は元々、1912年に京都で創業したミシュラン3つ星の料亭である「菊乃井」の創設者、村田寅吉の生家でした。菊乃井の3代目オーナーである寅吉の孫の協力での旧邸宅は改装され、鯖街道によって栄えた若狭の食文化に特化した施設になりました。

6. 熊川宿体験交流施設 与七

この建物は、展示会や体験教室、講演会、その他のイベントの開催にも使われている休憩施設です。熊川宿で親孝行の鑑とされる与七という男にちなんで名付けられました。与七はかつて妻と一緒にこの地域に住んでおり、とても貧しかったにもかかわらず、年老いた両親に食べ物を提供することを欠かしていませんでした。ついには、この夫婦の尊敬と献身に対して、小浜藩の藩主から豪華な褒美が与えられました。

【タイトル】熊川宿：上ノ町地域

【想定媒体】アプリ QR コード

<簡体字>**熊川宿：上之町区**

熊川宿是一个繁华的“宿场町”（驿镇），主要为若狭街道沿途的货运往来提供服务。若狭街道是连接若狭地区与首都京都的主要商道。这座历史悠久的宿场町共分三个区，分别是上之町、中之町与下之町。

上之町区

上之町是熊川宿町内最靠近京都的区域，所以对途经宿场町的旅人而言，这里既是前往港口城镇小浜的入口，也是奔赴都城京都的出口。在若狭有一句古老的谚语，“京は遠ても一八里（首都虽遥远，不过十八里）”。十八里相当于 72 公里，对于经验丰富的脚夫来说，不过是一天的路程。

熊川番所（警备所）就建在宿场町的入口处，监控着道路上的往来情况。驻守番所的官员负责查看旅行文书，根据所运货物征税。离番所不远的地方有一处权现神社的旧址，传说神社内供奉的神明能保护本地不受水火侵扰。

番所外的主干道上，当年曾林立着货运商、脚夫店、五花百门的商店和膳宿设施。前川水道从路边店铺门前流过，供居民和旅人取水使用。时至今日，古老的街道上还保留着许多瓦顶、格子窗的传统建筑，当年那个繁华的熊川宿宿场町仍然依稀可见。

<繁体字>**熊川宿：上之町區**

熊川宿是一個繁華的「宿場町」（驛鎮），主要為若狹街道沿線的貨運往來提供服務。若狹街道是連接若狹地區與首都京都的主要商道。這座歷史悠久的宿場町共分三個區，分別是上之町、中之町與下之町。

上之町區

上之町是熊川宿町內最靠近京都的區域，所以對途經宿場町的旅客而言，這裡既是前往港口城鎮小濱的入口，也是奔赴首都京都的出口。在若狹有一句古老的諺語，「京は遠ても一八里（首都雖遙遠，不過十八里）」。十八里相當於 72 公里，對於經驗豐富的腳夫來說，不過是一天的路程。

熊川番所（警備所）就建在宿場町の入口處，監控著道路上的往來情況。駐守番所的官員負責查看旅行文書，並對運輸的貨物徵稅。離番所不遠的地方是權現神社的舊址，傳說神社內供奉的神明能保護當地不受水火侵擾。

番所外的主幹道上，當年曾林立著貨運商、腳夫店、林林總總的商店和旅店。前川水道在道邊的店鋪門前流過，供居民和旅客取水使用。時至今日，古老的街道上還保留著許多瓦頂、格子窗的傳統建築，當年那個繁華的熊川宿宿場町仍然依稀可見。

<日本語仮訳>

熊川宿：上ノ町地域

熊川宿は、若狭地域と京の都を結ぶ主要な交易路である若狭街道の物資の輸送で繁栄した宿場町でした。歴史ある町は上ノ町、中ノ町、下ノ町の3つのエリアに分かれています。

上ノ町地域

熊川宿のこの地域は京都に最も近く、港町小浜に向かう人にとっての入口であり、都へ旅する人にとっての出口でもありました。若狭では「京は遠ても十八里」と古くから言われており、経験豊富な運搬人はたった1日での距離（約72 km）を踏破することができました。

宿場町の入口には、道を監視するために熊川番所が設置されました。常駐していた藩の役人は、往来手形を検査し、輸送される商品に税を課しました。番所の近くには元々、火や水難から身を守ると言われる神が祀られた権現神社がありました。

番所の向こうの主要な道路には、かつては運送会社、運搬人の詰所、さまざまな商店、宿泊施設が並んでいました。道路沿いの店先を流れる前川は、住民や旅行者にとっての水源としての役割を果たしていました。歴史ある町並みには、瓦屋根や格子窓を備えた伝統的な建物が多くあり、宿場町として栄えた熊川宿の雰囲気を残しています。

【タイトル】熊川宿：中ノ町地域

【想定媒体】アプリQRコード

<簡体字>**熊川宿：中之町区**

熊川宿是一个繁华的“宿场町”（驿镇），主要为若狭街道沿途的货运往来提供服务。若狭街道是连接若狭地区与首都京都的主要商道。这座历史悠久的宿场町共分三个区，分别是上之町、中之町与下之町。

中之町区

中之町位于熊川宿的中心地带，是宿场町内商业和行政建筑最集中的核心区域。在这里，街道两旁云集了众多脚夫店、商店、膳宿设施，以及专司货运的菱屋和名为仓见屋的批发商。保存状态良好的建筑是当年殷实商人钟爱的房屋样式，在这座以商贸为核心产业的小镇里，商人扮演着重要角色。

纵观熊川宿的历史，行政机构向来都集中在中之町。江户时代(1603-1867)，监管货运代理商铺、掌控小浜藩每年税收的“奉行所”（行政官员的办公场所）就位于本区。到了20世纪，一座西洋风格的建筑在主干道不远处建成，这便是熊川村役场（村公所）。如今，曾经的役场被改建为熊川宿资料馆（宿场馆），馆内展出各类文献资料、面板和物品，详细介绍了小镇的历史以及它作为货运枢纽起到的作用。

中之町内有好几处宗教设施，包括觉成寺、得法寺、松木神社、白石神社等。松木神社建在当年小浜藩存放税收大米的12座米仓原址上，如今是熊川宿欣赏樱花和红叶的知名去处。一条小路连接着主路“御藏道”，当年，人们正是沿着这条路，将从附近北川上运来的稻米送进米仓。

<繁体字>**熊川宿：中之町區**

熊川宿是一個繁華的「宿場町」（驛鎮），主要為若狹街道沿線的貨運往來提供服務。若狹街道是連接若狹地區與首都京都的主要商道。這座歷史悠久的宿場町共分三個區，分別是上之町、中之町與下之町。

中之町區

中之町位於熊川宿的中心地帶，是宿場町內商業和行政機關最集中的核心區域。在這裡，街道兩旁雲集了眾多腳夫店、商店、旅店，以及專司貨運的菱屋和名為倉見屋的批發

商。保存状態良好的建築は當年殷實商人鍾愛の房屋様式，在這座以商貿為核心產業の小鎮裡，商人扮演著重要角色。

縱觀熊川宿の歴史，行政機構向來都集中在中之町。江戸時代（1603-1867），監管貨運代理商號、掌控小濱藩毎年稅收的「奉行所」（行政官員的辦公場所）就位於這一區。到了20世紀，一座西洋風格的建築在主幹道不遠處建成，這便是熊川村役場（村公所）。如今，曾經的役場被改造為熊川宿資料館（宿場館），參觀館內的文獻資料、展版和物品，可以了解到宿場町の歴史以及它作為貨運樞紐起到的作用。

中之町內有數處宗教場所，包括覺成寺、得法寺、松木神社、白石神社等。松木神社建在當年小濱藩存放稅收大米的12座米倉原址上，如今是熊川宿欣賞櫻花和紅葉的知名景點。一條小路連接著主道「御藏道」，當年，人們正是沿著此路將從附近北川上運來的稻米送進米倉。

<日本語仮訳>

熊川宿：中ノ町地域

熊川宿は、若狭地域と京の都を結ぶ主要な交易路である若狭街道の物資の輸送で繁栄した宿場町でした。歴史ある町は上ノ町、中ノ町、下ノ町の3つのエリアに分かれています。

中ノ町地域

熊川宿の中ノ町地域は、最も多くの企業や行政の建物が集まる宿場町の中心でした。通りには、運搬人の詰め所、商店、宿泊施設、そして物品の輸送を専門とする菱屋や倉見屋といった問屋が並んでいました。保存状態の良い建物は、貿易中心のこの町の経済において主要な役割を担っていた、裕福な商人が好む様式を反映しています。

熊川宿の歴史を通して、行政は主に中ノ町で行われていました。江戸時代（1603-1867）にはこの地域に、運送代理店を規制し、小浜藩の年貢を管理する奉行所（政務を管轄する役所）がありました。20世紀には、主要な道の近くに熊川村役場として洋館が建てられました。現在ここは熊川宿資料館（宿場館）として、町の歴史や輸送拠点としての役割に関連する保存資料やパネルなど、さまざまな品を展示しています。

中ノ町には、覚成寺、得法寺、松木神社、白石神社などの寺社仏閣があります。松木神社は、かつて小浜藩が税として徴収した米を保管する12の蔵があった土地に建っており、いまは熊川宿の中では桜と紅葉の名所でもあります。近くの北川からこの蔵まで米を運ぶために、「御藏道」として知られる主要な道から続く小道が使われました。

【タイトル】熊川宿：下ノ町地域

【想定媒体】アプリQRコード

<簡体字>

熊川宿：下之町区

熊川宿是一个繁华的“宿场町”（驿镇），主要为若狭街道沿途的货运往来提供服务。若狭街道是连接若狭地区与首都京都的主要商道。这座历史悠久的宿场町共分三个区，分别是上之町、中之町与下之町。

下之町区

下之町是熊川宿最接近港口城镇小浜的区域。过去这里的膳宿设施为许多沿着若狭街道行经本地的旅人提供落脚过夜之处。下之町入口处附近的石碑是为孝子“与七”而立，他被认为是熊川宿孝亲之道的典范人物。相传与七和妻子生活极度贫困，却从未让年迈的双亲忍饥挨饿。不远处有一处以与七为名的休憩设施，常常举办有关若狭文化的展览、体验课程和讲座。

下之町还是三星米其林餐厅“菊乃井”的创始人——村田寅吉旧居所在地。这家餐厅于1912年在京都创立。在村田寅吉的孙子、菊乃井的第三代掌门人的支持下，旧居被改造为资料馆向公众开放。这家“村田馆”专注于介绍若狭地区的饮食文化。

在下之町和中之町之间，有一处“L”形的弯角，称为“まがり”(magari)。类似的结构常常以防御工事形制出现在城下町（围绕城郭发展起来的市镇）内，用以阻拦来犯者，延缓敌人入侵的速度。在15、16两个世纪间，熊川宿附近曾经坐落着一座山顶城堡，当时此处弯角应该就位于这座小镇的西端。从它在熊川宿的方位不难看出，下之町应该是最晚开发的一个区域。尽管如此，这里依然拥有与上之町和中之町类似的历史氛围，保留着许多传统“町家”（商人或工匠的住宅，兼有店铺或工坊），其中大部分至今仍是私人住宅。

<繁体字>

熊川宿：下之町區

熊川宿是一個繁華的「宿場町」（驛鎮），主要為若狹街道沿線的貨運往來提供服務。若狹街道是連接若狹地區與首都京都的主要商道。這座歷史悠久的宿場町共分三個區，分別是上之町、中之町與下之町。

下之町區

下之町は熊川宿に最も近い港口城鎮小濱の区域。這裡の旅店が許多沿著若狹街道行經當地的旅人提供了落腳過夜之處。下之町入口處附近的石碑是為名叫「與七」の孝子而立、他被認為是熊川宿孝親之道的典範人物。相傳與七和妻子生活極度貧困、卻從未讓年邁的雙親忍饑挨餓。石碑不遠處有一座以與七為名的休憩場所、常常舉辦有關若狹文化的展覽、體驗課程和講座。

下之町還是三星米其林餐廳「菊乃井」の創始人——村田寅吉舊居所在地。這家餐廳於1912年在京都創立。在村田寅吉の孫子、菊乃井の第三代掌門人の支持下、舊居被改建為資料館向民眾開放、稱為「村田館」、專門介紹若狹地區的飲食文化。

在下之町和中之町之間、有一處「L」形の彎角、稱為「まがり」(magari)。類似的結構經常以防禦工事の形式出現在城下町（圍繞城郭發展起來の市鎮）內、用以阻攔進犯者、拖延敵人の入侵。在15、16兩個世紀裡、熊川宿附近曾經坐落著一座山頂城郭、當時這處彎角應該就位於這座小鎮の西端。從它在熊川宿の所處方位不難推測、下之町應該是最晚開發的一個區域。儘管如此、這裡依然擁有與上之町和中之町類似的歷史氣息、保留著許多傳統「町家」（商人或工匠の住宅、兼有店鋪或工場）、其中大部分至今仍是私人住宅。

<日本語仮訳>

熊川宿：下ノ町地域

熊川宿は、若狹地域と京の都を結ぶ主要な交易路である若狹街道の物資の輸送で繁栄した宿場町でした。歴史ある町は上ノ町、中ノ町、下ノ町の3つのエリアに分かれています。

下ノ町地域

港町小浜に最も近いのが熊川宿のこの地域です。ここでは、若狹街道を旅する途中で一泊する多くの旅人に宿を提供しました。下ノ町の入口近くにある石碑は、熊川宿で親孝行の鑑とされる与七という男にちなんだものです。与七と彼の妻は、彼ら自身が非常に貧しかったにもかかわらず、年老いた両親を決して空腹にしませんでした。この近くにある、与七にちなんで名付けられた休憩施設は、展示会や体験教室、若狹文化についての講演会などに使われています。

下ノ町は、1912年に京都で創業したミシュラン3つ星の料亭である菊乃井の創設者、村田寅吉の旧居がある場所です。菊乃井の3代目オーナーである寅吉の孫の助けを借りて、建物は改装され、若狹地域の食文化を紹介する村田館として生まれ変わりました。

下ノ町と中ノ町間の道路には、まがりと呼ばれるL字型の曲がり角があります。同様の構造物は、敵の進行を妨げるものとして、防衛目的で城下町（城郭を中心に発達した都市）によく設置されていました。15～16世紀の一時期には熊川宿の近くに山城があり、当時は町の西端にまがりがあったと考えられています。現在のまがりの位置は、下ノ町が熊川宿の他の地域よりも比較的後になって開発されたことを示唆しています。にもかかわらず下ノ町には上ノ町や中ノ町と同様の雰囲気がかき漂っており、伝統的な町家（店舗や工房が併設する商家や職人の住宅）が数多くありますが、そのほとんどは現在個人の住居となっています。

【タイトル】 熊川宿の誕生

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>**熊川宿の誕生**

熊川宿是一个重要的货运枢纽，它因促进了日本海沿岸各港口与古都奈良、京都之间的商贸往来而为人熟知。不过直到 16 世纪晚期，它作为“宿场町”（驿镇）的历史才正式开启。

浅野长政治理下的发展

1587 年，“大名”（大领主）浅野长政(1546-1611)受命管理若狭国。随后，他对熊川地区进行了考察。当时的熊川尽管还是个小村庄，但它紧邻商贸道路若狭街道，并地处近江国（今滋贺县）边界线附近，浅野长政从中看到了其经济发展的潜力。1589 年，他发布了政令免除熊川地区多项税赋，从此，货运代理商、脚夫店、商店、膳宿设施等各类商业随之蓬勃兴起。

宿场町的繁荣发展

在木下家族、京极家族、酒井家族等历代领主的统治下，熊川宿不断发展。前川水道贯通全镇，政府派驻本地区官员办公的“奉行所”建成，监察出入宿场町旅人与货物的“番所”也随之设立。得益于优惠的税收政策和丰富的建设工程项目，短短数十年之间，熊川宿就从一个只有 40 户居民的小村发展成了拥有 200 余户人家的繁华驿镇。

<繁体字>**熊川宿の誕生**

熊川宿是重要的貨運樞紐，因促進日本海沿岸各港口與古都奈良、京都之間的商貿往來而為人所熟知。不過直到 16 世紀晚期，它作為「宿場町」（驛鎮）的歷史才正式開啟。

淺野長政治理下的發展

1587 年，「大名」（大領主）淺野長政（1546-1611）受命掌管若狹國。隨後，他對熊川地區進行了考察。當時的熊川還是個小村莊，但它緊鄰商貿道路若狹街道，並地處近江國（今滋賀縣）邊界線附近，淺野長政從中看到了經濟發展的潛力。1589 年，他免除了熊川地區的多項稅賦，在這項政令的刺激下，貨運代理店、腳夫店、商店、旅店等各類商業隨之蓬勃興起。

宿場町の繁榮發展

在木下家、京極家、酒井家等歴代領主的統治下，熊川宿不斷發展。前川水道貫通全鎮，政府派駐該地區官員辦公的「奉行所」建成，監察出入宿場町旅人與貨物的「番所」也設立了。得益於優惠的稅收政策和豐富的建設工程專案，短短數十年之間，熊川宿便從一個只有 40 戶居民的小村莊發展成了擁有 200 餘戶人家的繁華驛鎮。

<日本語仮訳>

熊川宿の誕生

熊川宿は、日本海沿岸の港と古都奈良・京都との交易を促進する重要な輸送拠点としてよく知られています。しかし、宿場町としての歴史が正式にはじまったのは、16 世紀後半のことでした。

浅野長政の統治下での發展

1587 年に大名（大領主）であった浅野長政（1546-1611）が若狭国の領主に任命されると、彼は熊川地域の検分を行います。浅野は、若狭街道と近江国（現在の滋賀県）の国境に近いことから、この小さな村の経済的可能性を見出しました。1589 年、彼は熊川地域から諸税を免除する布告を発し、運送代理店や運搬人の詰所、商店、宿泊施設など様々な事業の發展を促しました。

豊かな宿場町へのさらなる發展

熊川宿は、木下氏、京極氏、酒井氏という歴代の領主の支配下で成長を続けました。前川という水路は町全体に拡張され、地域を監督する役人のために奉行所が建設され、宿場町に出入りする人や物の流れを監視するための番所が設置されました。有利な税制と様々な建設プロジェクトの結果、熊川はわずか数十年の間に、たった 40 世帯の小さな村から 200 世帯以上の宿場町へと發展しました。

【タイトル】宿場町時代より前の熊川

【想定媒体】アプリ QR コード

<簡体字>

“宿场町”时代前的熊川

在 16 世纪晚期发展成“宿场町”（驿镇）之前，熊川只是一个坐落于若狭国与近江国（分别为今福井县和滋贺县）交界处附近的小村。过往若狭街道的旅人在越过熊川东南侧的保坂峠（音同“卡”）山口后进入近江国，继续向东可前往今津和琵琶湖，向南则可抵达朽木、大原和当时的首都京都。记录显示，15 世纪早期，这里便出现了一处检查往来行人、货物的行政设施，可见当时若狭街道早已是连接首都与日本海的重要商道。

沼田家族

16 世纪，沼田家族统治着熊川地区。当时，熊川城领主沼田光兼的女儿麿香(1544-1618)嫁入了强大的细川家族。她的丈夫细川藤孝（1534-1610；又名细川幽斋）是著名的武将和优秀的作家，后来成为了丹后国（今京都府北部）的领主。麿香本人也声名卓著，是 1600 年田边城被困时坚守城郭的英雄之一。她后来改宗基督教，因此也被称为“细川玛利亚”。

若狭街道

若狭街道贯穿熊川地区，是一条重要的商道，有时也会成为军用道路。据织田信长(1534-1582)传记所载，这位强大的军阀和他的部将于 1570 年与旁边的越前国（今福井县北部）领主作战时，就在熊川驻扎了一晚。

<繁体字>

「宿場町」時代前的熊川

熊川在 16 世紀晚期發展成「宿場町」（驛鎮）之前，只是一個坐落於若狹國與近江國（分別為今福井縣和滋賀縣）交界處附近的小村莊。過往若狹街道的旅客在越過熊川東南側的保坂峠（音同「卡」）山口後進入近江國，繼續向東可前往今津和琵琶湖，向南則可抵達朽木、大原和當時的首都京都。根據記載顯示，15 世紀早期，這裡便出現了一處檢查往來行人、貨物的行政機構，可見當時若狹街道早已是連接首都與日本海的重要商道了。

沼田家

熊川地區在 16 世紀歸屬沼田家統治。當時，熊川城領主沼田光兼的女兒麿香（1544-1618）嫁入了勢力龐大的細川家。她的丈夫細川藤孝（1534-1610；又名細川幽齋）是著名的武將和優秀的作家，後來成為了丹後國（今京都府北部）的領主。麿香本人也聲名卓著，是 1600 年田邊城被困時堅守城郭的英雄之一。她後來改宗基督教，因此也被稱為「細川瑪利亞」。

若狹街道

若狹街道貫穿熊川地區，是一條重要的商道，有時也會成為軍用道路。據織田信長（1534-1582）傳記所載，這位強大的軍閥和他的部屬將領於 1570 年與旁邊的越前國（今福井縣北部）領主作戰時，就在熊川駐紮了一晚。

<日本語仮訳>

宿場町時代より前の熊川

16 世紀後半に熊川が宿場町へと発展する前は、若狹国と近江国（それぞれ、現在の福井県と滋賀県）の国境近くにある小さな村にすぎませんでした。熊川の南東にある保坂峠を通過した若狹街道を行く旅人たちは近江国に入り、引き続き東の今津や琵琶湖へ向かうか、または南の朽木、大原、京都（当時の都）へ向かうことができました。記録によれば、15 世紀初頭には熊川の近くに人や物を検査する施設があり、若狹海道はすでに都と日本海を結ぶ重要なルートであったことがわかります。

沼田氏

16 世紀、熊川地域は沼田氏によって統治されていました。熊川城の領主である沼田光兼の娘である麿香（1544-1618）は、有力な細川氏に嫁ぐこととなります。夫である細川藤孝（細川幽齋としても知られる、1534-1610）は、名将で著名な作家であり、後に丹後国（現在の京都府北部）の領主になりました。麿香自身は、1600 年の田辺城籠城戦で城を守った者の一人として有名になりました。キリスト教への改宗後は、細川マリアとしても知られるようになりました。

若狹街道

熊川を抜ける若狹街道は、主に交易路でしたが、時には軍事目的で使われることもありました。有力な武將であった織田信長（1534-1582）の伝記によると、信長とその配下は、1570 年に隣接する越前国（現在の福井県北部）領主との戦にあたり、熊川に一晩滞在しました。

【タイトル】 鯖街道の起源

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>**鯖街道の起源**

“鯖街道”连接着日本海与古都京都，是它们之间商贸路线网络的通称。这个名字到了江户时代(1603-1867)才出现，但这些道路本身的历史都已逾千年，考古发现和古代的货运记录都证实了这一点。

古墳の考古发现

在若狭地区的各道路沿线有着许多前方后圆式的古墳。其中，上中地区更是以发现了公元 5 世纪至 6 世纪的古墳而闻名。挖掘现场出土的随葬品中包括来自亚洲大陆的物品，这意味着在那个时期，日本海沿岸港口已经有了越洋贸易，连接首都的商贸道路网络也已经建立，并在到港货物进入内陆地区的运输中发挥着作用。部分古墳已初步确定与“膳臣”一族有关，这是当地一个受命专为天皇和宫廷供应食材的家族。

为朝廷供应食材的若狭国

若狭国曾是“御食国”，意味着可以用食品向朝廷缴纳部分赋税。因此，若狭国还需负责食材运送。在位于今奈良县境内的藤原京（694-710 年的首都）和平城京（710-740 年、745-784 年的首都）的考古挖掘过程中，出土了来自若狭地区的“木简”（货签）。这些木牌上记录着发货地区、缴税种类、食品类型等信息。现在仍然清晰可辨的刻字包括盐和贻贝、海鲷等海产品。由此可见，早在鯖街道以运送鯖鱼而闻名之前，便已经有其他贵重食材沿着同样的道路送往奈良和稍后的京都。

<繁体字>**鯖街道の起源**

「鯖街道」连接著日本海與古都京都，是兩地之間商貿網路的通稱。這個名字到了江戶時代（1603-1867）才出現，但這些道路本身的歷史都已逾千年，考古發現和古代的貨運記錄都證實了這一點。

古墳の考古發現

在若狹地區的各道路沿線有著許多前方後圓式的古墳。其中，上中地區更是以發現了西元 5 世紀至 6 世紀的古墳而聞名。考古挖掘現場出土的隨葬品中包括來自亞洲大陸的物

品，這意味著在那個時期，日本海沿岸港口已經有了越洋貿易，連接首都的商貿網路也已經建立，方便了內陸貨物的運輸。部分古墳已初步確定與「膳臣」一族（當地受命為天皇和宮廷提供食材的家族）有關。

為朝廷供應食材的若狹國

若狹國曾是「御食國」，意指可以用食品向朝廷繳納部分賦稅的地區。因此，若狹國還需負責食材運送。在位於今奈良縣境內的藤原京（694-710 年的首都）和平城京（710-740 年、745-784 年的首都）的考古挖掘過程中，出土了來自若狹地區的「木簡」（貨運標籤）。這些木牌上記錄著發貨地區、繳稅種類、食物類型等訊息。現在仍然清晰可見的刻字包括鹽和貽貝、海鯛等海產。由此可見，早在鯖街道以運送鯖魚而聞名之前，便已經有其他貴重食材沿著同樣的道路一路送往奈良和稍後的京都。

<日本語仮訳>

鯖街道の起源

鯖街道は、日本海と古代の都であった京都を結ぶ、枝分かれした交易路の通称です。この名前は江戸時代（1603-1867）に使用されるようになりましたが、この道自体に 1000 年以上の歴史があることは、考古学的な発見や古代の輸送記録によって証明されています。

古墳での考古学的発見

若狹地域を抜ける街道沿いには、鍵穴の形をした古墳が数多く点在しています。特に上中地域は、5～6 世紀の古墳が見つかったことで有名です。発掘調査で出土した副葬品にはアジア大陸のものも含まれており、日本海沿岸の港ではすでに海外との貿易が行われていたことや、都への交易路が確立されたことで内陸への輸送が容易になったことを示しています。一部の古墳は、若狹から天皇や朝廷へ食料を供給する任務を負っていた一族である、膳臣と関連があると推測されています。

若狹国による朝廷への食材供給

若狹国はかつて、朝廷への税の一部を食材で納める御食国として、食料の輸送を行っていました。現在の奈良県にかつてあった藤原京（694 年～710 年の都）と平城京（710 年～740 年と 745 年～784 年の間の都）の発掘調査で、若狹からの木簡が発見されました。木簡には、出荷元、その荷に関連する税の支払い、荷に含まれていた食品の種類などの情報が記されていました。今でも判読できるそこに刻まれた文字には、塩やイガイ、鯛などの海産物があります。このように、鯖街道が鯖で有名になるずっと前から、他の貴重な食材が同じ道を通して若狹から奈良、そして後に京都へ運ばれていたのです。

【タイトル】 複数の路から成る鯖街道

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

鯖街道的众多道路

鯖鱼（青花鱼）是江户时代(1603-1867)若狭地区的主要商品之一。为了将从日本海捕捞的新鲜鯖鱼送往远方市场，通常要先将它们盐腌或发酵。其中大部分鯖鱼都被送到了当时的首都京都，因此，这些连接若狭地区与京都的道路便渐渐以“鯖街道”之名为人所知。

商贸道路网络

“鯖街道”听似是一条道路，实际却是一个纵横交错的道路网，包含了多条商道。其中，最热闹的是若狭街道，它途经名为熊川宿的“宿场町”（驿镇），以及朽木、大原、八濑等村庄，最后抵达京都。从港口城镇小浜到京都，路程最短的是一条沿远敷川翻越针畑山口的山路，但这条路十分险峻难行，颇具挑战。此外，还有一些道路自若狭地区通往京都以北的丹波地区和近江国（今滋贺县）的琵琶湖区域。

到京都只有 72 公里

若狭地区有一句古老的俗谚，“京は遠ても一八里（首都虽遥远，不过十八里）”，说的就是若狭到京都的实际距离，约合 72 公里。山道虽崎岖难行，但若是经验丰富的脚夫，一天内就能沿着鯖街道将鱼和其他货物送到京都。著名诗人与谢芜村(1716-1784)曾写下一首有关鯖街道的俳句：夏山や 通ひなれたる 若狭人（夏日越山岭，健步如飞似通途，叹哉若狭人）。

<繁体字>

鯖街道的眾多道路

鯖魚（青花魚）是江戶時代（1603-1867）若狹地區的主要商品之一。為了將從日本海捕撈的新鮮鯖魚送往遠方市場，通常要先經過鹽醃或發酵處理。其中大部分鯖魚都送到了當時的首都京都，因此，這些連接若狹地區與京都的道路便漸漸以「鯖街道」之名為人所知。

商貿網路

「鯖街道」雖聽起來象是一條道路，實際卻是一個縱橫交錯的道路網，包含了許多條商道。其中，最熱鬧的是若狹街道，它途經名為熊川宿的「宿場町」（驛鎮），以及朽木、

大原、八瀬等村莊，最後抵達京都。從港口城鎮小濱到京都，路程最短的是一條沿遠敷川翻越針畑山口的山路，但這條路十分險峻難行，頗具挑戰。此外，還有一些道路自若狹地區通往京都以北的丹波地區和近江國（今滋賀縣）的琵琶湖區域。

到京都只有 72 公里

若狹地區有一句古老的俗諺「京は遠ても一八里（首都雖遙遠，不過十八里）」，說的就是若狹到京都的實際距離，約為 72 公里。山道雖崎嶇難行，但有經驗的腳夫一天內就能沿著鯖街道將魚和其他貨物送到京都。著名詩人與謝蕪村（1716-1784）曾寫下一首有關鯖街道的俳句：夏山や 通ひなれたる 若狹人（夏日越山嶺，健步如飛似通途，嘆哉若狹人）。

<日本語仮訳>

複数の路から成る鯖街道

江戸時代（1603-1867）、鯖は若狹地方から出荷された主要な商品の 1 つでした。遠方の市場へ運ぶため、日本海で獲れた新鮮な鯖を塩漬けまたは発酵させて保存しました。その大部分は当時の都であった京都に送られ、若狹と京都を結ぶ道は「鯖街道」として知られるようになりました。

張り巡らされた交易路

「鯖街道」という名前は一本の道を連想させますが、実際には複数の交易路が網目状に枝分かれした街道でした。最もよく行き来されたのは、熊川宿という宿場町を通り、朽木、大原、八瀬という村々を経由して京都に至る若狹街道でした。港町の小浜から京都への最短ルートは、遠敷川沿いの針畑越えという峠を通過する山道でしたが、急勾配でかなり難しい道のりでした。他の道は、若狹と京都北部の丹波地域や近江国（現在の滋賀県）の琵琶湖とを結んでいました。

京都までわずか 72 km

若狹の古い表現に「京は遠ても一八里」とあり、京都までの距離は約 72 km という事実にちなんだものです。山あいを通る困難な旅にもかかわらず、魚やその他の物資を、鯖街道を通して運ぶ経験豊富な運搬人は、たった 1 日でその旅を終えることができました。有名な歌人の与謝蕪村（1716-1784）のある俳句に、鯖街道の様子がこう詠まれています。「夏山や 通ひなれたる 若狹人」

【タイトル】 若狭街道

【想定媒体】 アプリQRコード

<簡体字>**若狭街道**

自古以来，若狭街道就是一条把海产品及其他货物从港口城镇小浜运至古都奈良和京都的要道。在江户时代(1603-1867)，它是“鯖街道”商贸路网诸多道路中最热闹的一条。若狭街道始于小浜，过熊川宿，翻越保坂峠（音同“卡”）山口，一路向南，依次途经朽木村、大原和八瀬各村，最终抵达京都北部的出町柳。

历史文献中的若狭街道

江户时代若狭街道沿线的货运和商贸活动都有记录可查，比如《小浜市场仲买文书》，这也让人们能够推算出当时行旅的规模。此外，18世纪中叶出版的一些图书中也保留着一些有关记载，例如，关于疏通小浜与熊川宿之间的船运河道的建设项目；某一年总计数百头马匹出入“宿场町”（驿镇）的具体记录等。

朝圣之路的一部分

除了是商贸要道之外，若狭街道还在宗教生活中扮演着重要角色。本州岛中部有一条“西国三十三所观音巡礼路线”，横跨2府5县（兵库县、京都府、大阪府、和歌山县、奈良县、滋贺县、岐阜县），连接33处供奉观音菩萨的寺院，被列入日本遗产名录。而若狭街道就连接着这条朝圣之路中的两站——松尾寺和宝严寺。据18世纪早期熊川宿的商贸记录显示，有时候，沿若狭街道参拜并投宿宿场町的巡礼者可达数百人之多。

<繁体字>**若狭街道**

自古以來，若狹街道就承擔著從港口城鎮小濱向古都奈良和京都運送海產及其他貨物的職責。在江戶時代（1603-1867），這是「鯖街道」商貿網路諸多道路中最熱鬧的一條。若狹街道始於小濱，過熊川宿，翻越保坂峠（音同「卡」），一路向南，依次途經朽木村、大原和八瀨各村，最終抵達京都北部的出町柳。

有關若狹街道的歷史記錄

江戶時代若狹街道沿線的貨運和商貿活動都有記錄可查，比如《小濱市場仲買文書》，這也讓人們能夠推算出當時行旅的規模。此外，18世紀中葉出版的圖書中也保留著有關的

記載，例如，關於疏通小濱與熊川宿之間船運河道的建設專案；某一年出入「宿場町」（驛鎮）的馬匹總計數百頭等具體記錄。

朝聖之路的一環

除了是商貿要道之外，若狹街道還在宗教生活中扮演著重要角色。本州中部有一條「西國三十三所觀音巡禮路線」，橫跨 2 府 5 縣（兵庫縣、京都府、大阪府、和歌山縣、奈良縣、滋賀縣、岐阜縣），連接 33 處供奉觀音菩薩的寺院，被列入日本遺產名錄。而若狹街道連接著這條朝聖之路中的兩站——松尾寺和寶嚴寺。據 18 世紀早期熊川宿的商貿記錄顯示，有時候，沿若狹街道參拜並在宿場町過夜的巡禮者可達數百人之多。

<日本語仮訳>

若狹街道

若狹海道は古代から、港町である小浜からかつての都である奈良や京都へ、海産物やその他の物資を運ぶために利用されていました。江戸時代（1603-1867）には、鯖街道を構成する多数の交易路の中で、最もよく行き来された道でした。若狹街道は、小浜から熊川宿という宿場町へと延び、山あいにある保坂峠を越えて、南は朽木村に、さらに南へ行くと大原と八瀬を通り、京都北部の出町柳が終着点でした。

若狹街道の役割に関する史料

『小浜市場仲買文書』など、江戸時代に若狹街道で行われた輸送や商取引の記録から、当時の旅の規模を推定することができます。18 世紀半ばに出版された別の書には、小浜と熊川宿の間で川船による輸送を可能にする工事にまつわる記述や、ある年に何百頭の馬が宿場町を通過したかというデータも記載されています。

巡礼路の一部

若狹街道は、重要な交易路であっただけでなく、宗教的生活においても重要な役割を果たしました。若狹街道の一部は、本州中央部の 2 府 5 県（兵庫県、京都府、大阪府、和歌山県、奈良県、滋賀県、岐阜県）に跨る三十三の観音霊場を巡る「西国三十三ヶ所」巡礼路のうちの 2 つの札所、松尾寺と宝嚴寺を結んでいました。熊川宿の 18 世紀初頭の業務記録によれば、時には何百人もの巡礼者が、若狹街道を旅する途中で熊川宿に泊まったとあります。「西国三十三ヶ所」巡礼道は、日本遺産に登録されています。

【タイトル】 熊川の文化

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

熊川文化

熊川位于若狭街道沿线，长久以来一直就是古都京都与亚洲大陆之间的文化交流地。自日本海而来的人与货物经过熊川前往京都，同时，宗教信仰、节日庆典习俗与艺术品也自京都流往熊川。

文化的交汇处

许多知名的艺术家、作家、艺人和宗教人士都曾在旅行途中暂住熊川。佛教净土真宗的宗祖莲如(1415-1499)曾于 1475 年在此停留，与得法寺僧侣们共处了一段时间，后来得法寺便改宗为净土真宗。迎娶了熊川城主女儿麿香(1544-1618)的著名武将兼作家细川藤孝（1534-1610；又名细川幽斋）于 1567 年到访此地，举办了一场连歌（日本传统诗歌的一种形式）诗会。1568 年，著名连歌诗人里村绍巴(1525-1602)也在熊川宿停留小住。

京都文化在熊川

京都文化对熊川宿的影响在传统节日庆典方面体现得最为明显。每年 5 月 3 日举办的白石神社祭典期间，一辆装饰着华丽织锦挂毯的巨大“山车”（花车）会在街头游行，形式与京都著名的祇园祭十分相似。每年夏天，起源于京都北部八濑村和大原村的铁扇舞依然在熊川宿上演。这项活动曾在大正时代(1912-1926)一度中断，后在本镇居民和传统艺能保存会的努力下，于 1998 年复兴。

<繁体字>

熊川文化

熊川位於若狹街道沿線，長久以來一直就是古都京都與亞洲大陸之間的文化交流樞紐。自日本海而來的人與貨物經過熊川前往京都，同時，宗教信仰、節日慶典習俗與藝術品也自京都流往熊川。

文化的交匯處

許多知名的藝術家、作家、藝人和宗教人士都曾在旅行途中暫住熊川。佛教淨土真宗的宗祖蓮如（1415-1499）曾於 1475 年在此停留，與得法寺僧侶共處了一段時光，後來得法寺便改宗為淨土真宗。迎娶了熊川城主女兒麿香（1544-1618）的著名武將兼作家細川

藤孝（1534-1610；又名細川幽齋）於 1567 年到訪此地，舉辦了一場連歌（日本傳統詩歌的一種形式）詩會。1568 年，著名連歌詩人里村紹巴（1525-1602）也在熊川宿停留小住。

京都文化在熊川

京都文化對熊川宿的影響在傳統節日慶典方面尤其顯著。每年 5 月 3 日舉辦的白石神社祭典期間，一輛裝飾著華麗織錦掛毯的巨大「山車」（花車）會在街頭遊行，形式與京都著名的祇園祭十分相似。每年夏天，起源於京都北部八瀨村和大原村的鐵扇舞依然在熊川宿上演。這項活動曾在大正時代（1912-1926）中斷，後在當地居民和傳統藝能保存會的努力下，於 1998 年復興。

<日本語仮訳>

熊川の文化

熊川は若狭街道にあることから、長らくかつての都である京都とアジア大陸との文化交流の場となってきました。日本海から人や物資が京都へ向かう途中で熊川を經由し、都から熊川には信仰や祭礼、美術品が次々と持ち込まれました。

文化の交差点

多くの著名な芸術家、文人、芸人、宗教家が旅の途中、熊川に立ち寄りました。浄土真宗の開立の祖である蓮如（1415-1499）は、1475 年に得法寺の僧侶たちとしばらくの間を過ごし、後に得法寺は浄土真宗に改宗しました。熊川城主の娘である麿香（1544-1618）と結婚した名将であり、著名な作家であった細川藤孝（細川幽齋としても知られる、1534-1610）は、1567 年に連歌（日本の古来に普及した伝統的な詩形）の会を主催するために熊川を訪れています。有名な連歌師の里村紹巴（1525-1602）は、1568 年に熊川宿に滞在しました。

熊川における京文化

京文化の影響は、熊川宿の伝統的な祭りに最も顕著に表れています。毎年 5 月 3 日に行われる白石神社の祭りでは、豪華な織物で飾られた大きな山車が、京都の有名な祇園祭のように街中を練り歩きます。夏には、京都北部の八瀨村や大原村で発祥した鉄扇踊りが、熊川宿で踊られます。この慣習は大正時代（1912-1926）に途絶えましたが、町民や伝統芸能保存会の尽力により、1998 年に復活しました。

【タイトル】熊川宿の葛

【想定媒体】アプリQRコード

<簡体字>**熊川宿的葛粉**

野葛是一种豆科爬藤植物，一般繁茂生长在田野和山间。传统上，它被认为是代表秋天的七草之一，曾在公元8世纪成书的日本最古老诗集《万叶集》中被提及。几百年前，人们就开始从野葛的根中提取淀粉，葛根淀粉至今仍是珍贵的食材和药材。作为食物时，它主要被用于制作类似水晶皮的葛馒头、软糯的葛饼等和菓子（日本传统甜点），以及增稠剂。作为草药时，它往往被加入饮料中服用，可促进血液循环，缓解寒颤、肩酸等早期感冒症状。

史料中的熊川宿葛粉

熊川宿的葛粉自古便以品质优异而著称。《稚狭考》与《若狭郡县志》这两部江户时代(1603-1867)的书籍中记录了若狭地区的历史，书中就有提到，17世纪时，熊川宿出产的葛粉已在昔日首都京都售卖。1830年，儒学者赖山阳(1780-1832)专门从熊川宿为他远在广岛生病的母亲寄去葛粉，一同寄出的手书中附上了如何将葛粉与生姜一同熬煮的润肺药方。赖山阳还在信中称赞说，同为葛粉著名产区，熊川宿出产的葛粉比奈良县吉野地区的品质更好。

加工工艺

熊川宿葛粉的高品质或许可以归功于耗时长达数月的传统加工工艺和优良水质。葛粉加工从冬天便开始了，因为必须赶在春天生长消耗养分之前就把葛根采收下来。粗大的葛根块被清洗、去皮、粉碎后，放入过滤器中，滤出的糊状物用冷水反复浸泡。过滤杂质的步骤需要重复多次，直到留下的白色沉淀物能够达到预期品质。最后，将糊状葛粉进行干燥，定型成块状，售卖时再捣成粉状。

传统工艺的保留

如今，日本国内大部分的葛粉厂商都采用更加现代化的设备。尽管如此，熊川葛振兴会依然致力于保留本地传统工艺，并将其传承给后代。振兴会在熊川宿“奉行所”（行政官员的办公场所）的原址上开办了一家小型工场，从附近的山上采收葛根，严格遵照传统工艺，生产顶级品质的葛粉。

<繁体字>

熊川宿的葛粉

野葛是一種豆科爬藤植物，一般在田野和山間繁茂生長。傳統上，它被認為是代表秋天的七草之一，曾在西元 8 世紀成書的日本最古老詩集《萬葉集》中被提及。數百年前，人們就開始從野葛的根中提取澱粉，葛根澱粉至今仍是珍貴的食材和藥材。在烹飪中，它主要被用於製作水晶皮模樣的葛饅頭、軟糯的葛餅等和菓子（日本傳統甜點），或用作增稠劑。它也是一種草藥，往往被加入飲料中服用，用於促進血液循環，緩解寒顫、肩酸等早期感冒症狀。

史料中的熊川宿葛粉

熊川宿的葛粉自古便以品質優異而著稱。《稚狹考》與《若狹郡縣誌》這兩部江戶時代（1603-1867）的書籍中記錄了若狹地區的歷史，書中就有提到，17 世紀時，熊川宿出產的葛粉已在昔日首都京都售賣。1830 年，儒家學者賴山陽（1780-1832）專門從熊川宿為遠在廣島生病的母親寄去葛粉，隨附的手書中說明如何將葛粉與生薑一同熬煮的潤肺藥方。賴山陽還在信中稱讚說，同為葛粉著名產區，熊川宿出產的葛粉比奈良縣吉野地區的品質更好。

加工工藝

熊川宿葛粉的高品質或許可以歸功於耗時長達數月的傳統加工工藝和優良水質。加工葛粉須從冬天開始，因為必須趕在春天生長消耗養分之前就採收葛根。粗大的葛根塊被清洗、去皮、粉碎後，放入濾網。濾出的糊狀物還要以乾淨的冷水反覆浸泡。過濾雜質的步驟需要重複多次，直到留下的白色沉澱物能夠達到預期品質。最終將糊狀葛粉進行乾燥，定型成塊狀，販售時搗成粉狀。

傳統工藝的保留

如今，日本國內大部分的葛粉廠商都採用更加現代化的設備。儘管如此，熊川葛振興會依然致力於保留當地傳統工藝，並將其傳承給後代。振興會在熊川宿「奉行所」（行政官員的辦公場所）的原址上開辦了一家小型工廠，從附近的山上採收葛根，嚴格遵照傳統工藝，生產頂級品質的葛粉。

<日本語仮訳>

熊川宿の葛

葛はマメ科のつる植物で、野山で繁茂します。伝統的に秋の七草の一つとされ、日本最古の歌集である 8 世紀の『万葉集』にも登場します。何世紀も前から、葛の根からはでんぷんが作られ、現在も食品や医薬品の貴重な原材料になっています。料理では、主にゼラチン状の葛饅頭やもちもちした葛

餅などの伝統的なお菓子や、増粘剤として使われています。生薬としては、血行を良くし、寒気や肩こりなどの風邪の初期症状をやわらげるために、飲み物に混ぜて服用するのが一般的です。

史料における熊川宿の葛

熊川宿の葛は、古くから品質の良さで有名です。江戸時代（1603-1867）に書かれた若狭地方の歴史を記した2冊の書物、『稚狭考』と『若狭郡県志』によれば、17世紀に京の都で熊川宿の葛粉が売られていたことが確認されています。1830年、儒学者の頼山陽（1780-1832）は、広島にいた病気の母親に熊川宿から葛を送りました。同封された手紙には、肺を潤すための葛と生姜の煮物の作り方も書かれていました。頼は、同じく葛の名産地である奈良県吉野地方産の葛粉と比べて、熊川宿の葛は上品だと称賛しています。

生産工程

熊川宿で生産される葛の品質の高さは、数ヶ月に及ぶ伝統的な製法と、その過程で使用される水の質の高さによるものといえるでしょう。葛が春に成長のために栄養分を消費する前に、葛の根を収穫する必要があるため、葛の製造は冬に始まります。洗って皮をむかれた後、太い根の塊はすりつぶされ、漉し器で濾されます。すりつぶされ、どろどろになった葛はその後、冷たい真水に繰り返し浸されます。残った白い物質が目的の品質になるまで何度も濾過を繰り返し、不純物を取り除きます。最後に、ペースト状のでんぷん質を乾燥させ、粉の塊へと固形化させます。それを砕いて販売します。

伝統製法を守る

日本全国のほとんどの葛の製造者は現在、より近代的な設備を使用しています。しかし、熊川葛振興会は、伝統的なこの地域の葛づくりの技術を守り、後世に伝えることに力を注いでいます。同会は熊川宿の奉行所（政務を管轄する役所）の跡地で小さな工場を営んでおり、近くの山で葛を収穫し、昔ながらの製法で最高品質の葛を製造しています。

【タイトル】 2階の展示：宿場町の日常生活

【想定媒体】 アプリQRコード

<簡体字>

二楼展厅：“宿场町”的日常生活

本层展厅主要展示熊川宿的日常生活面貌和商业活动景象。熊川宿是一个繁荣的“宿场町”（驿镇），拥有众多货运代理商、脚夫店、各种商店和膳宿设施等。

旅人与脚夫使用的衣物与工具

江户时代(1603-1867)，过路旅人常常戴着草帽、穿着草鞋和蓑衣。这些服饰就陈列在交易、运输工具的旁边。人们用扁担和篮子挑运重物，用牛驮运更重的货物。木头制作的大驮架可以把货物稳稳地架在牛背上，便于牛运载物资。这个木驮架上嵌着螺钿装饰，有可能是用于运送年贡赋税等特殊场合。驮架旁悬挂的草鞋是为牛准备的，用于保护牛蹄，增加摩擦力，以防打滑。

其他经商所需物品及家居用品

与经商相关的物品还包括来自几个不同商家的木制招牌、一块列出部分在售药物的药房看板，以及用来装运各种货物的箱子和罐子等。冬季下雪时，人们会利用木头雪橇运货。此外，熊川宿还有一种独特的日用工具“芋洗器”。这是一种根据水车改造的桶状装置，借助贯穿宿场町的石砌水道“前川”中流水的力量来给土豆去皮。

葛粉的制作过程与工具

二楼有一个熊川宿的特产“葛粉”展区，展示着盘、盆、粉碎与切割工具、一段野葛根，以及一份出自 100 年前的产品样本。信息板和照片介绍了葛粉加工的步骤，复制的文献中则谈到了熊川宿葛粉的高品质。

熊川宿的今与昔

一个大型鸟瞰立体模型展示了今日熊川宿及周边风光。两份老地图分别出自江户时代后期和公元 1878 年，地图上列出了在宿场町经商店家或住户的名称，为后人深入了解町内布局变迁提供了参考依据。许多当年日常生活的瞬间都保留在了数量繁多的黑白老照片上，其中最早的一张可以追溯到大正时代(1912-1926)。

各种各样的文献资料、工具、手工艺品、服装和其他展品一起，共同勾勒出了数百年前熊川宿日常生活的鲜活图像。无论是消防队的旗子、庆典上使用的仪杖、“足轻”（步兵）

头戴的传统斗笠、装饰性的屋瓦，还是西式留声机，每件展品都在诉说着过去的时光，如今，这些“时光”都被精心保存在了资料馆中。

<繁体字>

二樓展廳：「宿場町」的日常生活

本層展廳主要展示熊川宿的日常生活面貌和商業活動景象。熊川宿是一個繁榮的「宿場町」（驛鎮），擁有眾多貨運代理店、腳夫店、各種商店和旅店等。

旅人與腳夫使用的衣物與工具

在江戶時代（1603-1867），過路旅人經常頭戴草帽、身披蓑衣、腳穿草鞋。這些服飾就陳列在交易、運輸工具的旁邊。人們用扁擔和籃子挑運重物，用牛馱運更重的貨物。木頭製作的大馱架可以穩固地放置在牛背上，以幫助運載貨物。這個木馱架上嵌著螺鈿裝飾，可能是用於特殊場合，如運送年貢和稅金等。馱架旁懸掛的草鞋是為牛準備的，用於保護牛蹄，增加摩擦力，以防打滑。

其他經商相關物品及家居用品

展品中還包括與經商相關物品，例如來自幾個不同商家的木製招牌、一塊列出部分販售藥物的藥房招牌，以及用來裝運各種貨物的箱子和罐子等。

冬季下雪時，人們會利用木頭雪橇運貨。此外，熊川宿還有一種獨特的日用工具，名叫「芋洗器」。這是一種根據水車改造的桶狀裝置，借助貫穿宿場町的石砌水道「前川」中流水的力量來給馬鈴薯去皮。

葛粉的製作過程與工具

二樓有一個展示熊川宿的特產「葛粉」的區域，展出盤、盆、粉碎與切割工具、一段野葛根，以及一份出自 100 年前的產品樣本。展示板和照片介紹了葛粉加工的步驟，複製的文獻中則談到了熊川宿葛粉的高品質。

熊川宿的今與昔

一個大型鳥瞰立體模型展示了今日熊川宿及周邊的風光。兩份老地圖分別出自江戶時代後期和西元 1878 年，地圖上標示了在宿場町經商和住戶的名稱，為後人深入瞭解町內布局變遷提供了參考依據。許多過去日常生活的片段被記錄在大量的黑白老照片中，其中最早的一張可以追溯到大正時代（1912-1926）。

各種各樣的文獻資料、工具、手工藝品、服裝和其他展品一起，共同勾勒出了數百年前熊川宿日常生活的鮮活圖像。無論是消防隊的旗子、慶典上使用的儀仗、「足輕」（步兵）穿著的傳統斗笠、裝飾性的屋瓦，還是西式留聲機，每件展品都在訴說著過去的時光，如今，這些「時光」都被精心保存在了資料館中。

<日本語仮訳>

2 階の展示：宿場町の日常生活

このフロアでは、かつて運送代理店や運搬人の詰所、さまざまな商店、宿泊施設があり、宿場町として栄えた熊川宿の日常生活や商業活動にまつわるものを展示しています。

旅人や運搬人が使用した衣類や道具

江戸時代（1603-1867）、町を通過する旅人たちは藁で作られた帽子や靴、雨合羽をよく身に着けていました。そのような衣類は、交易や輸送に使用された道具の隣に見られます。棒と編み籠は肩に乗せて重い荷物を運ぶために使用され、さらに重い荷物は牛によって運ばれました。大きな木製の荷鞍が背中にしっかりと固定された牛が物資を運びました。荷鞍は螺鈿細工で装飾されており、年貢の運搬などの特別な機会に使用されたのかもしれない。そのそばには、牛のために編まれた、ひづめを保護し滑りやすい足場で牽引力を発揮する藁のくつが吊るされています。

その他の商業用品および日用品

その他商売に関連する品物には、いくつか商店の木製の看板や、扱っている薬の一部を筒条書きにした薬局の看板、さまざまな商品を運ぶために使用される箱や壺などもあります。雪が降る冬の間は、木製のそりが運搬に使われました。熊川宿ならではの日用品の一例として「芋洗い器」があり、これは水車をベースにした樽のような形の道具で、町内を縦断する石で舗装された水路「前川」を流れる水の力を利用して、じゃがいもの皮を剥くためものです。

葛の製造工程と道具

2 階の一部は、熊川の特産品である葛のコーナーです。展示品には、お盆やたらい、粉碎および切断する道具、葛の根、100 年前の製品のサンプルなどが含まれます。パネルや写真で製造工程を解説し、熊川宿の葛の品質の高さについて言及した史料を再現しています。

熊川宿の現在と過去

大型のジオラマは、現在の熊川宿とその周辺の風景を俯瞰で再現しています。江戸時代後期のものと 1878 年のものという 2 枚の歴史的地図には、かつて宿場町で商売をしていた企業や居住していた家族の名前が記載されており、時間の経過とともに配置が変化していった様子が分かります。日常生活の一コマが数多くの白黒写真で保存されており、最も古いものは大正時代（1912-1926）のものであります。

さまざまな資料、道具、工芸品、衣服、その他の展示品は、過去数世紀にわたる熊川宿の生活を鮮やかに描き出しています。消防隊の旗、祭りで使用される儀式用の杖、足軽が着用する伝統的な笠、装飾的な屋根瓦、さらには西洋式の蓄音機など、それぞれの品が過去の時代を物語るっており、現在は資料館に大切に保管されています。

地域番号	004	協議会名	いしかわ工芸・文化財デジタルコンテンツ推進協議会
------	-----	------	--------------------------

解説文一覧

NO.	スポット名 (タイトル)	中国語文字数	想定媒体
004-001	石川県立美術館 / 国宝 色絵雉香炉 (いろえきじこうろ)	785	WEB
004-002	石川県立美術館 / 国宝 色絵雉香炉 (いろえきじこうろ)	435	アプリQRコード
004-003	石川県立美術館 / 国宝 色絵雉香炉 (いろえきじこうろ)	1145	看板
004-004	石川県立美術館 / 重要文化財 色絵雌雉香炉 (いろえめすきじこうろ)	875	WEB
004-005	石川県立美術館 / 重要文化財 色絵雌雉香炉 (いろえめすきじこうろ)	385	アプリQRコード
004-006	石川県立美術館 / 重要文化財 色絵雌雉香炉 (いろえめすきじこうろ)	705	看板
004-007	石川県立美術館 / 重要文化財 蒔絵和歌の浦図見台 (まきえわかのうらぎけんたい)	885	WEB
004-008	石川県立美術館 / 重要文化財 蒔絵和歌の浦図見台 (まきえわかのうらぎけんたい)	430	アプリQRコード
004-009	石川県立美術館 / 重要文化財 緑地桐鳳凰文唐織 能装束 (みどりじきりほうおうもんからおり)	745	WEB
004-010	石川県立美術館 / 重要文化財 緑地桐鳳凰文唐織 能装束 (みどりじきりほうおうもんからおり)	445	アプリQRコード
004-011	石川県立美術館 / 重要文化財 西湖図 (せいこず)	1010	WEB
004-012	石川県立美術館 / 重要文化財 西湖図 (せいこず)	415	アプリQRコード
004-013	石川県立美術館 / 重要文化財 色絵梅花図平水指 (いろえばいかずひらみずさし)	665	WEB
004-014	石川県立美術館 / 重要文化財 色絵梅花図平水指 (いろえばいかずひらみずさし)	425	アプリQRコード
004-015	石川県立美術館 / 重要文化財 四季耕作図 (しきこうさくず)	705	WEB
004-016	石川県立美術館 / 重要文化財 四季耕作図 (しきこうさくず)	430	アプリQRコード
004-017	石川県立美術館 / 古九谷 (こくたに)	630	WEB
004-018	石川県立美術館 / 古九谷 (こくたに)	365	アプリQRコード
004-019	石川県立美術館 / 百工比照 (ひゃくこうひしょう)	1090	WEB

004-020	石川県立美術館 / 百工比照 (ひやくこうひしょう)	525	アプリQRコード
004-021	石川県立美術館 / 伝統工芸の技法 (1) 国指定重要無形文化財 工芸技法「陶芸-釉裏金彩」(ゆうりきんさい)	935	WEB
004-022	石川県立美術館 / 伝統工芸の技法 (1) 国指定重要無形文化財 工芸技法「陶芸-釉裏金彩」(ゆうりきんさい)	450	アプリQRコード
004-023	石川県立美術館 / 伝統工芸の技法 (2) 国指定重要無形文化財 工芸技法「陶芸-彩釉磁器」(さいゆうじき)	665	WEB
004-024	石川県立美術館 / 伝統工芸の技法 (2) 国指定重要無形文化財 工芸技法「陶芸-彩釉磁器」(さいゆうじき)	475	アプリQRコード
004-025	石川県立美術館 / 伝統工芸の技法 (3) 国指定重要無形文化財 工芸技法「漆芸-蒔絵」(まきえ)	1230	WEB
004-026	石川県立美術館 / 伝統工芸の技法 (3) 国指定重要無形文化財 工芸技法「漆芸-蒔絵」(まきえ)	440	アプリQRコード
004-027	石川県立美術館 / 伝統工芸の技法 (4) 国指定重要無形文化財 工芸技法「漆芸-沈金」(ちんきん)	790	WEB
004-028	石川県立美術館 / 伝統工芸の技法 (4) 国指定重要無形文化財 工芸技法「漆芸-沈金」(ちんきん)	515	アプリQRコード
004-029	石川県立美術館 / 伝統工芸の技法 (5) 国指定重要無形文化財 工芸技法「漆芸-髹漆」(きゅうしつ)	730	WEB
004-030	石川県立美術館 / 伝統工芸の技法 (5) 国指定重要無形文化財 工芸技法「漆芸-髹漆」(きゅうしつ)	430	アプリQRコード
004-031	石川県立美術館 / 伝統工芸の技法 (6) 国指定重要無形文化財 工芸技法「漆芸-螺鈿」(らでん)	870	WEB
004-032	石川県立美術館 / 伝統工芸の技法 (6) 国指定重要無形文化財 工芸技法「漆芸-螺鈿」(らでん)	450	アプリQRコード
004-033	石川県立美術館 / 伝統工芸の技法 (7) 国指定重要無形文化財 工芸技法「金工-彫金」(ちょうきん)	920	WEB

004-034	石川県立美術館 / 伝統工芸の技法 (7) 国指定重要無形文化財 工芸技法「金工—彫金」(ちょうきん)	455	アプリQRコード
004-035	石川県立美術館 / 伝統工芸の技法 (7) 選択無形文化財 工芸技法「金工—(彫金)加賀象嵌」(かがぞうがん)	1045	WEB
004-036	石川県立美術館 / 伝統工芸の技法 (7) 選択無形文化財 工芸技法「金工—(彫金)加賀象嵌」(かがぞうがん)	480	アプリQRコード
004-037	石川県立美術館 / 伝統工芸の技法 (8) 国指定重要無形文化財 工芸技法「金工—鑄金」(ちゅうきん)	935	WEB
004-038	石川県立美術館 / 伝統工芸の技法 (8) 国指定重要無形文化財 工芸技法「金工—鑄金」(ちゅうきん)	510	アプリQRコード
004-039	石川県立美術館 / 伝統工芸の技法 (9) 国指定重要無形文化財 工芸技法「金工—銅鑼」(どら)	790	WEB
004-040	石川県立美術館 / 伝統工芸の技法 (9) 国指定重要無形文化財 工芸技法「金工—銅鑼」(どら)	405	アプリQRコード
004-041	石川県立美術館 / 伝統工芸の技法 (10) 国指定重要無形文化財 工芸技法「木竹工—木工芸」(もっこうげい)	1025	WEB
004-042	石川県立美術館 / 伝統工芸の技法 (10) 国指定重要無形文化財 工芸技法「木竹工—木工芸」(もっこうげい)	530	アプリQRコード
004-043	石川県立美術館 / 伝統工芸の技法 (11) 国指定重要無形文化財 工芸技法「金工—日本刀」(にほんとう)	945	WEB
004-044	石川県立美術館 / 伝統工芸の技法 (11) 国指定重要無形文化財 工芸技法「金工—日本刀」(にほんとう)	530	アプリQRコード
004-045	石川県立美術館 / 伝統工芸の技法 (12) 国指定重要無形文化財 工芸技法「金工・截金」(きりかね)	860	WEB
004-046	石川県立美術館 / 伝統工芸の技法 (12) 国指定重要無形文化財 工芸技法「金工・截金」(きりかね)	470	アプリQRコード
004-047	石川県立美術館 / 重要無形文化財全般 (工芸部門を中心に) と人間国宝	845	WEB

004-048	石川県立美術館 / 重要無形文化財全般（工芸部門を中心に）と人間国宝	510	アプリQRコード
004-049	石川県立美術館 / 伝統工芸の技法（13）加賀蒔絵（かがまきえ）	860	WEB
004-050	石川県立美術館 / 伝統工芸の技法（13）加賀蒔絵（かがまきえ）	440	アプリQRコード
004-051	石川県立美術館 / 伝統工芸の技法（14）加賀友禅（かが ゆうぜん）	1180	WEB
004-052	石川県立美術館 / 伝統工芸の技法（14）加賀友禅（かが ゆうぜん）	545	アプリQRコード
004-053	石川県立美術館 / 石川県の伝統工芸 歴史等全般	780	WEB
004-054	石川県立美術館 / 石川県の伝統工芸 歴史等全般	450	アプリQRコード
004-055	国立工芸館 建物（旧軍第九師団司令部庁舎、旧金沢偕行社）	900	WEB パンフレット
004-056	石川県立美術館 広坂別館 建物（旧陸軍第九師団長官舎）	940	WEB パンフレット
004-057	石川県立歴史博物館 赤レンガ建物（旧陸軍兵器庫）	960	WEB パンフレット
004-058	石川県立美術館	745	WEB
004-059	石川県立美術館	365	アプリQRコード
004-060	石川県立美術館 / 尊経閣文庫分館（そんけいかくぶんこぶんかん）	870	WEB
004-061	石川県立美術館 / 尊経閣文庫分館（そんけいかくぶんこぶんかん）	450	アプリQRコード
004-062	石川県立美術館 / 尊経閣文庫分館（そんけいかくぶんこぶんかん）	740	看板
004-063	石川県立美術館 / 加賀藩御細工所（かがはんおさいくしょ）	1000	WEB
004-064	石川県立美術館 / 加賀藩御細工所（かがはんおさいくしょ）	540	アプリQRコード
004-065	石川県立美術館 / 前田家と加賀藩の概要	980	看板 WEB
004-066	石川県立美術館 / 石川県の伝統工芸 インTRODクシヨ	455	看板 WEB

【タイトル】石川県立美術館 / 国宝 色絵雉香炉（いろえきじこうろ）

【想定媒体】WEB

<簡体字>

雄雉香炉

这件雄雉陶瓷香炉是本馆内最珍贵的藏品之一，由17世纪著名陶艺家野野村仁清烧制而成。

仁清被誉为京烧（一种起源于京都的彩陶风格）大师。仁清创作的精美作品深受京都武士精英阶层欢迎，他们会在茶之汤（亦即茶道）中使用这些陶瓷器具。许多现存的早期京烧作品均为茶具，例如这件雄雉香炉。一般来说，主人会在茶室的“床之间”（凹间）摆放季节性装饰品。雉鸡传统上与春天联系在一起，因此这件香炉可能用于春季集会时以营造季节氛围。

这件作品从多方面展示了仁清的精湛技艺。其中，栩栩如生的羽毛是釉上彩的典范。釉上彩（日语为色绘）是一种开创性的陶瓷装饰技法，在仁清所处的时代才刚从中国引进。所谓釉上彩，是在已完成上釉和烧制的作品表面绘制彩色釉料的技法。随后，作品需在低温下经过第二次烧制，以融合两层釉料。由于釉料在烧制过程中会液体化及变色，陶艺家必须清楚地了解釉料在不同温度下会发生的变化，以使其作品呈现出理想效果。据传，釉上彩技法是12世纪末在中国金代的磁州窑开创出来的。

雉鸡的造型同样精妙。仁清将粘土细致地分层，使雄雉的头部微微扬起，神态警觉，姿势生动。雉鸡长尾的水平角度也是一项高难度工艺，因为在烧制过程中，黏土容易因自重而下垂或断裂。作品尾部下方两处轻微的痕迹表明，仁清在烧制作品过程中使用了支撑物来维持其形态，但仅靠这种方法并不能保证烧制成功。

仁清是当时最著名的工匠之一，也是最早使用“陶印”的著名陶艺家。陶印是一种类似于签名的标记，用于识别作者的身份。添加陶印的行为意味着一种思维的转变——通过在作品上签名，陶艺家将自己从佚名劳动者升级为为人所知的个体艺术家。这件雄雉香炉的上盖内侧（排烟口旁边）以及底部都刻有仁清之印。

雄雉香炉精妙地呈现了雉鸡的形态，亦表现出仁清娴熟的釉上彩技巧，因此在1951年，这件作品被指定为日本国宝。仁清创作的雄雉香炉及成双的雌雉香炉在博物馆长期展出。

<繁体字>

雄雉香爐

這件陶製雄雉香爐是本館內最珍貴的藏品之一，由 17 世紀著名的陶藝家野野村仁清製作。

仁清被譽為製作京燒（一種源於京都的彩陶風格）的大師，所創作的精美作品深受京都武士菁英階級喜愛，他們會將其作為茶之湯（日本茶道儀式）的道具使用。許多現存的早期京燒作品均為茶道用具，這件雄雉香爐也不例外。一般而言，茶會主辦人會在茶室的「床之間」（凹間）擺放季節性裝飾品。雉雞在傳統中讓人聯想到春季，因此這件香爐可能是在春季的集會中用於營造出季節氛圍。

在這件作品中多處皆體現了仁清的精湛技藝，雉雞栩栩如生的羽毛展現他高超的釉上彩技巧。釉上彩（日語中稱為色繪）是一種開創性的陶器裝飾技法，在仁清身處的時代才剛從中國引進。所謂釉上彩技法，是在已完成上釉和燒製的作品表面塗上彩色釉料。接著作品必須經過第二次低溫燒製，才能融合兩層釉料。由於燒製過程中釉料會熔為液體，顏色也隨之改變，因此陶藝家必須清楚掌握釉料在不同溫度下的變化，才能呈現出想要的效果。據傳，釉上彩技法於 12 世紀末，在中國金代由磁州窯所開創。

雉雞的形狀同樣精妙，仁清藉由細緻的黏土分層，活靈活現地呈現微微揚起的雉雞頭部，警覺的神態與姿勢生動。此外，製作雉雞水平延伸的長尾也需要高難度的技巧，因為黏土容易在燒製期間因重量而下垂或斷裂。雉雞的尾巴下方有兩處小痕跡，顯示仁清在燒製期間使用了支撐物來維持其形態，但僅靠這方法仍無法保證燒製能成功。

仁清在當時是最著名的工匠之一，也是最早使用專屬「陶印」的著名陶藝家。陶印是一種類似簽名的標記，用於識別創作者的身分。加上陶印的作法也呈現出思維的轉變，意即陶藝家透過在作品留名，能將自己從無名的勞動者提升至有辨識度的藝術家個體。這件雄雉香爐的上蓋內側（排煙口旁邊）與底部皆可見仁清之印。

仁清精妙地呈現雉雞的形態，嫺熟地運用釉上彩技法，讓這件作品於西元 1951 年獲指定為日本國寶。仁清創作的雄雉香爐及與其成對的雌雉香爐是博物館的常設展品。

<日本語仮訳>

雄雉香炉

当館で最も重要な作品のひとつである雄雉の形をした陶製の香炉。17 世紀、高名な陶芸家である野々村仁清によって制作された。

仁清は、京都で生まれた絵付け陶器である京焼の大成者として知られている。仁清の優美な作品

は武士階級たちに、茶の湯や茶道具として大いに好まれた。この雄雉香炉のように、今も残っている京焼の初期の作品の多くは茶器である。通常、茶会の席では、亭主が床の間に季節の飾りを置くのが一般的である。雉は伝統的に春に関連付けられているため、この香炉は春の集まりで使われ、部屋に香りを漂わせ、季節感を演出したのであろう。

この作品には、仁清の高い技量を示すいくつかの点がある。羽根は、仁清の時代に中国からもたらされたばかりの画期的な装飾技法である「色絵」を用いて、写実的に表現されている。色絵とは、釉薬をかけて焼いた作品の上に、色釉を塗り重ねていく技法である。その後、再び低温で焼成し、2層の釉薬を融合させる。絵の具は流動性を持ち、焼成中に発色ため、陶芸家はさまざまな温度での絵具の挙動を熟知し、目的の効果を達成する必要がある。この技法は、創始は金代 12 世紀末の磁州窯と推定される。

雉の造形も見事なものである。わずかに傾いた頭部から生き生きとした佇まいが伝わってくるが、仁清は粘土を丁寧に重ねることによってそれを実現した。また、雉の長い尾の水平な角度は、粘土が自重で垂れ下がったり、焼成中に割れたりするため、達成するのが非常に困難だ。尾の裏側にある2つの痕跡は、仁清が焼成中に支えを用いて尾の位置を維持したことを示しているが、このような方法は決して成功を保証するものではない。

仁清は当時の一流の職人のひとりであり、著名な陶芸家として最初に、作者を特定できるサインのような印、「陶印」を作品に施した。これは、陶芸家が無名の労働者から一人の芸術家として認知されるようになったことを意味している。この雄雉香炉では、蓋の内側（煙出しの横）と底に仁清の印が見られる。

巧みに表現された雉の形と、仁清の見事な色絵により、1951年に国宝に指定された。仁清の「雄雉香炉」は、「雌雉香炉」とともに、当館に常設展示されている。

【タイトル】石川県立美術館 / 国宝 色絵雉香炉（いろえきじこうろ）

【想定媒体】アプリ QR コード

<簡体字>

雄雉香炉

这件雄雉香炉由17世纪备受敬仰的陶艺家、京烧大师野野村仁清烧制而成，是博物馆最珍贵的藏品之一。它于1951年被指定为日本国宝，即使在仁清的众多著名作品中也堪称出类拔萃。

从这件作品的多个方面都可以看出仁清的精湛技艺。例如雉鸡水平延伸的长尾，因为在烧制过程中，黏土容易因自重下垂或断裂，是一项高难度工艺。作品尾部下方有两处轻微的痕迹，表明仁清曾在这个位置放置支撑物，来维持作品在窑中烧制时的形态。成品雉鸡神态警觉，姿势生动。

雉鸡色彩缤纷的羽毛和灵动的眼睛是釉上彩技法“色絵”的典型例子。釉上彩陶艺家在已完成上釉和烧制的作品表面绘制彩色釉料，随后再次烧制，以融合釉料。雉鸡全身的羽毛被涂为绿色、蓝色或棕色，其中部分以黑色填充，然后再以金色勾勒轮廓。据传，釉上彩技法是12世纪末在中国金代的磁州窑开创出来的。在中国，釉上彩也被称为“五彩瓷”。

虽然有些装饰性的精美作品仅作装饰之用，但这件雄雉香炉却有往昔的使用痕迹。在香炉上盖的内侧，可以看到排烟口周围因香火的烟雾而变色。

<繁体字>

雄雉香爐

這件雄雉香爐是博物館最珍貴的藏品之一，由17世紀的陶藝家，同時也是備受敬仰的京燒大師野野村仁清製作。在西元1951年獲指定為日本國寶，即使在仁清眾多的著名作品中，也屬於出類拔萃的逸品。

在這件作品中多處皆體現了仁清的精湛技藝，例如雉雞的長尾由於角度呈水平延伸，因為黏土容易在燒製期間因重量而下垂或斷裂，製作時需要高難度的技巧。雉雞的尾巴下方有兩處小痕跡，顯示仁清曾在這兩處放置支撐物，讓作品在進入窯中燒製的期間可以維持形態。成品的雉雞神態警覺，姿態生動。

無論是雉雞色彩繽紛的羽毛，還是靈動的眼睛，都展現出高超的釉上彩（在日語中稱

為色繪) 技法。釉上彩陶藝家が已完成上釉、焼製した作品表面に彩色釉料を塗り、その後再度焼製した作品に融合釉料を施す。雄雉の羽毛はそれぞれに緑色、藍色、茶色、黒色を塗り、その後金で輪郭を勾勒する。伝説によれば、釉上彩技法は12世紀末、中国の金代に磁州窯で始まったとされ、この技法は中国でも「五彩」と呼ばれる。

雄雉の香炉は精巧な装飾品として知られるが、この雄雉香炉には使用された痕跡がある。香炉の蓋の内側には、排煙口付近に燃焼香によって変色した通気孔の周辺が見られる。

<日本語訳>

雄雉香炉

この雄雉の形をした香炉は当館で最も注目すべき作品の一つ。17世紀、京焼の大成者として知られる陶芸家・野々村仁清が制作したものである。1951年に国宝に指定され、仁清の数ある名品の中でもこの雉は別格とされた。

この雉には、仁清の卓越した技術を示すいくつかの点がある。例えば、長い尾。この水平な角度を再現することは、粘土が自重で垂れ下がったり、焼成中に割れたりするため、達成するのは非常に難しいのだ。尾の裏側には、仁清が窯内での位置を維持するために支柱を立てたことを示す2つの痕跡がある。完成した姿は、生き生きとした活気のある雉を表現している。

カラフルな羽と生き生きとした目は、色絵技法の好例である。釉薬をかけて焼成した作品の表面に色釉を塗り、再度焼成して釉薬を定着させる。雉の羽は、緑、青、茶などの色で彩色され、黒で部分的に塗りつぶされ、最後に金で輪郭が描かれている。この技法は、創始は金代12世紀末の磁州窯と推定される。

装飾の名品には純粋に観賞用として作られたものもあるが、この雄雉香炉は使用された形跡がある。蓋の裏側には、香を焚いた煙で変色した通気孔の周辺が見られる。

【タイトル】石川県立美術館 / 国宝 色絵雉香炉（いろえきじこうろ）

【想定媒体】看板

<簡体字>**仁清雉鸡：釉上彩之珍宝**

房间中央陈列的两件雉鸡香炉是17世纪陶艺家野野村仁清的杰作。这两件香炉以绿雉为灵感，展现了一对雉鸡的形象：一只色彩鲜艳的雄雉，以及一只素雅的雌雉。即使在仁清的众多著名作品中，这两件香炉也堪称出类拔萃。

仁清于17世纪中后期活跃于京都。在京都和濑户（今岐阜县南部）的瓷窑学习后，他在京都西部山麓的仁和寺附近建立了自己的瓷窑。仁清在这座瓷窑开发的技法，尤其是釉上彩的应用，对京都独有的陶瓷“京烧”的发展起到了重要作用。

京烧与宫廷生活以及茶文化紧密相连。包括这两件香炉在内，许多现存最早的京烧作品均为“茶之汤”，即茶道使用的器具。在茶室中焚香可以为茶会营造出纯净、宁静的氛围。

仁清是最早使用“陶印”的著名陶艺家之一。陶印是一种类似于签名的标记，用于识别作者的身份。盖上陶印的行为标志着一种思维的转变，陶艺家从佚名劳动者升级为为人所知的个体艺术家。

仁清也影响了加贺藩（今石川县和富山县）九谷烧的发展。掌控加贺藩的前田家族及其家臣十分欣赏仁清作品的风格，因此收藏了仁清的多件作品，其中包括这件展出的雄雉。

羽毛和色彩：色彩缤纷的雄雉

仁清以陶钧（制作陶器所用的转轮）大师最广为人知，但这件作品表明，他的手工制作、绘制和上釉技艺也十分精湛。

例如，雉鸡的尾部以完全水平的角度从身体延伸出，这种长尾的制作难度极高，因为在烧制过程中，黏土容易因自重下垂或断裂。为了解决这个问题，仁清在将作品放入窑炉时，在其尾部下方放置了支撑物，因此作品的底部留下了两处轻微的痕迹。

从正面看，雄雉的头微微扬起，神态警觉而生动。为了打造雄雉的这种姿态，仁清必须考虑黏土在烧制过程中收缩和变形的的方式。预测黏土变形的能力体现了仁清的大师级水平，而香炉上下两部分能够紧密闭合进一步证明了其不凡的技艺。注意看开口处连续的羽毛图案，这种处理可以隐藏较小的间隙。

雄雉栩栩如生的羽毛是釉上彩“色絵”的典型例子。所谓“色絵”，是指在已完成上釉和烧制的作品表面绘制彩色釉料，然后将作品在低温下二次烧制，以融合两层釉料。由于釉料会在烧制过程中会液体化并且变色，陶艺家必须清楚地设想作品的预期效果，并全面了解釉料在不同温度下的变化。仁清的这件作品再现了雄雉复杂斑斓的羽毛，考虑到他所处

的时代釉上彩技法刚刚从中国传入，其超群绝伦的技艺可见一斑。

1951年，这件雄雉香炉被指定为日本国宝，而当时的情况略有些特殊。在17世纪末或18世纪初，前田家族将这件香炉赠予了一位家臣，后来，这位家臣的后代于19世纪末将其卖给了世代为商的山川家族。山川家族非常珍视这件作品，仅允许少数人前来欣赏。事实上，当时日本政府希望将这件作品指定为国宝，但山川家族拒绝将这件作品带到东京参加官方展览和评定仪式。因此，这件作品在没有公开展示的情况下即被授予国宝称号。

<繁体字>

仁清雉雞：釉上彩珍寶

房間中央陳列著兩件雉雞香爐是17世紀陶藝家野野村仁清的傑作，他以綠雉為靈感，描繪一對雉雞：一隻色彩鮮豔的雄雉，以及一隻樸實無華的雌雉。即使在仁清眾多著名作品中，這兩件雉雞香爐也是出類拔萃的逸品。

仁清在17世紀中後期活躍於京都，他在京都和瀨戶（今岐阜縣南部）的瓷窯學習製陶技法之後，於京都西部山麓的仁和寺附近建立自己的瓷窯。仁清在自己瓷窯所開發的技法，尤其釉上彩的應用，對京都獨有陶瓷器「京燒」的發展有極重要的貢獻。

京燒與宮廷生活、茶文化緊密相連，許多現存的早期京燒作品均為茶之湯（茶道儀式）用具，這兩件香爐也不例外。人們在茶室中焚香，營造純淨且寧靜的氛圍。

仁清是最早使用專屬「陶印」的著名陶藝家。陶印是一種類似簽名的標記，用於識別創作者的身分。蓋上陶印的作法也呈現出思維的轉變，意即陶藝家透過在作品留名，能將自己從無名的勞動者，提升至有辨識度的藝術家個體。

仁清也影響了加賀藩（今石川縣和富山縣）九谷燒的發展。掌控加賀藩的前田家及其家臣十分欣賞仁清的作品風格，因此收藏了多件他的作品，展出的這件雄雉香爐也是其收藏品之一。

羽毛和色彩：色彩繽紛的雄雉

仁清以陶輪（製陶時使用的轉輪）大師最廣為人知為，但從這件作品可看出他的手工技藝、繪製與上釉技巧也十分精湛。

例如雉雞的尾巴，這條長長的尾巴以完全水平的角度從主體延伸，導致製作難度極高，因為黏土容易在燒製期間因重量而下垂或斷裂。為了解決這個問題，仁清將作品擺進窯中燒製時，在尾巴下方放置了支撐物，也讓作品的底部留下兩處小痕跡。

從正面看，雄雉的頭微微揚起，神態警覺而生動。為了精準呈現雄雉的姿態，仁清必須考慮黏土在燒製過程中收縮和變形的程度。仁清大師級的技藝體現在預測黏土變形的能力，完美接合香爐的上下兩部分，也進一步證明他不凡的功力。注意其開口處連續的羽毛圖案，這種處理可隱藏微小的縫隙。

雄雉栩栩如生的羽毛展現出高超的釉上彩技法，這種技法在日語中稱為「色繪」，是指在已完成上釉、燒製的作品表面塗上彩色釉料。接著作品必須經過第二次低溫燒製，才

能融合兩層釉料。由於在燒製過程中，釉料會熔為液體，顏色也會改變。陶藝家因此必須明確構想出想要的效果，並全面地了解釉料在不同溫度的變化。仁清的這件作品重現了雄雉斑斕多樣的羽毛，思及他所處的時代釉上彩技法才剛從中國傳入，其超群絕倫的技藝可見一斑。

這件雄雉香爐於西元 1951 年獲指定為日本國寶，但當時的情況稍微有些特殊。在 17 世紀末或 18 世紀初左右，前田家將這件香爐賞賜給一位家臣，而後這位家臣的後代於 19 世紀末時，將其賣給從商的山川家。山川家非常珍視這件作品，只允許少數人欣賞。事實上，在日本政府要將這件作品指定為國寶時，山川家拒絕帶這件作品到東京參加官方展示和指定儀式。因此這件作品在沒有公開展示的情況下，便被指定為國寶了。

<日本語仮訳>

仁清の雉：色絵釉薬の至宝

部屋の中央に置かれた 2 つの雉香炉は、17 世紀の陶芸家、野々村仁清の代表作である。雉をモチーフに、色鮮やかな雄と淡い色の雌のつがいを表現している。この作品は、仁清の数ある代表作の中でも異彩を放つ作品である。

仁清は、17 世紀中頃から後半にかけて京都で活躍した。京都や瀬戸（現在の岐阜県の南部）の窯元で修業をした後、京都西部の山麓にある仁和寺の近くに自分の窯を構えた。そこで培った上絵付けの技術は、京焼の発展に大きく貢献した。

京焼は、宮廷の生活や茶の文化と深く結びついていた。この香炉をはじめ、現存する最古の京焼の多くは、茶の湯、または茶道に使われた道具である。茶室で香を焚き、清らかで静かな時間を演出する。

仁清は名工の中でもいち早く、作者を特定するサインのような印、「陶印」を施した職人の一人である。これは、陶工を無名の労働者ではなく、一人の芸術家として位置づける考え方の転換を意味していた。

仁清はまた加賀藩（現石川県、富山県）の九谷焼の発展にも大きな影響を与えた。前田家の殿様やその家臣たちは、仁清の作風を深く理解し、ここに展示されている雄雉をはじめ、多くの作品を手に入れた。

羽毛と色彩：カラフルな雄

仁清は轆轤の名手として知られているが、この作品からは、手捻り、絵付け、釉薬にも長けていることがわかる。

例えば、この雉の尾。この胴体から完全に水平に長く伸びた尾は、粘土が自重で垂れ下がったり、焼成中に割れたりしやすいため、制作は至難の業である。そこで仁清は、尾の下に支柱を立てて窯に入れ、尾の裏側に小さな跡を 2 つ残している。

正面から見ると、首がわずかに傾いており、生き生きとした活気のある表情をしている。このポーズをとるために、仁清は焼成による粘土の収縮やゆがみを考慮しなければならなかった。このような変化を予測することができるのは匠の技であり、香炉の上下がぴったりと合っているところも、仁清の腕前を物語っている。羽の様子は分割して連続させ、わずかな隙間を目立たなくしていることにも注目したい。

この雄のリアルに表現された羽毛は、色絵の好例である。この技法は、釉薬をかけて焼成した作品の表面に色釉をかけ、さらに低温で焼成して2層の釉薬を融合させるものだ。絵の具が発色し、焼成中に流動化するため、陶芸家は求める効果を明確にイメージし、さまざまな温度での材料の反応を総合的に理解する必要がある。仁清の時代に、中国から色絵の技法が日本に伝来して間もないことを考えると、万華鏡のような雄雉の羽の再現には目を見張るものがある。

この「雄雉香炉」が国宝に指定されたのは1951年で、少し変わった事情があった。17世紀末から18世紀初頭にかけて、前田家が家臣にこの作品を下賜し、その子孫が19世紀末に商家の山川家に売却した。山川家はこれを非常に大切に、限られた人にしか見ることを許さなかった。国宝に指定しようとしたとき、山川家は東京での公開と指定式を拒否した。その結果、公開されることなく国宝に指定されたのである。

【タイトル】石川県立美術館 / 重要文化財 色絵雌雉香炉（いろえめすきじこうろ）

【想定媒体】WEB

<簡体字>**雌雉香炉**

这件雌雉陶瓷香炉由17世纪陶艺家野野村仁清烧制而成。与其成双的作品雄雉香炉一样，雌雉香炉作品也展现了仁清高超的塑形功力，以及对釉上彩技艺的精湛运用。仁清的才华巩固了他作为京烧大师的地位。京烧是一种起源于京都，为武士精英阶层服务的彩陶制品。

仁清创作的精美作品在茶之汤（茶会）场合中深受欢迎。事实上，许多现存的早期京烧作品均为茶具，包括这两件雉鸡香炉。一般来说，茶会组织者会在茶室的“床之间”（凹间）摆放季节性装饰品。雉鸡传统上与春天联系在一起，因此，这件香炉可能用于春季集会，来给房间增添香气，营造季节氛围。

雌雉香炉的色彩不如雄雉香炉那么鲜艳。雄雉进化出了色彩艳丽的羽毛，用于吸引配偶，而雌雉进化出了与大地的颜色相融合的外观，以便躲避捕食者。仁清通过使用在窑炉中氧化的银釉，为作品的大部分区域打造出黑色和棕色的渐变效果，忠实再现了雌雉素雅的色彩。然而，仁清在雌雉的头部进行了一些艺术创作：他赋予了雌雉红色和金色的肉髯，并在其眼睑周围添加了细微的蓝色。他还在雌雉的脑后加上了像角一样向外突出的耳羽。而事实上，只有雄雉身上才存在肉髯和耳羽。目前有多种理论来解释雌雉香炉上为何存在这两个部位。一种说法是，仁清以雄雉为模板进行创作，虽然他意识到了需要改变整体颜色，但是他没有注意到雌雉的头部构造有所不同。另一种猜想是，“雌雉”其实是另一只雄雉——即暗影中的“夜间”雄雉。

黏土在窑炉中烧制时会收缩移动，因此制作形状复杂的作品十分考验陶艺家的专业技艺。雌雉身体部分的塑形展现了陶艺家高超的水准，其尾部呈45度向外延伸，颈部以平滑的弧度向后转，仿佛这只雌雉正在梳理羽毛。在东亚绘画中，这种姿态是雌雄一对动物中雌性的常见表现手法。

仁清凭着精湛的技艺成为了日本最受欢迎的工匠之一，他也是最早使用“陶印”的著名陶艺家之一。陶印是一种类似于签名的标记，用于识别作者的身份。盖上陶印的行为标志着一种思维的转变，陶艺家从佚名劳动者升级为为人所知的个体艺术家。在这件作品的底部可以找到仁清之印。

1960年，雌雉香炉被指定为重要文化财产。这件作品与日本国宝雄雉香炉同为常设展品。

<繁体字>

雌雉香爐

雌雉陶瓷香爐由17世紀的陶藝家野野村仁清製作，和成對的雄雉香爐相同，這件作品也展現了仁清高超的塑形功力，以及精湛運用釉上彩的技法。仁清如此出類拔萃的才華，鞏固了他京燒（一種源於京都，為武士菁英階級打造的彩陶風格）大師的地位。

仁清創作的精美陶製作品深受歡迎，人們會將其作為茶之湯（茶道儀式）用具使用。事實上，許多現存的早期京燒作品均為茶道用具，這兩件雉雞香爐也不例外。一般來說，茶會主辦人會在茶室的「床之間」（凹間）擺放季節性裝飾品。雉雞在傳統中讓人聯想到春季，因此這件香爐在春季的集會中，可能用於營造出季節氛圍。

雌雉香爐的顏色不如雄雉香爐鮮豔。雄雉演化出色彩豔麗的羽毛以吸引配偶，雌雉則發展成融入周圍環境的外觀以躲避捕食者。仁清在雌雉身上多半使用在窯中氧化的銀釉，打造黑色和棕色的漸變效果，忠實重現雌雉相較暗淡的顏色，但他又發揮巧思，在雌雉的頭部增添一些色彩，賦予了雌雉紅色和金色的肉垂，並在眼瞼附近稍微加上一點藍色。此外，仁清還為雌雉加上了像角一樣從後腦向外突出的耳羽。然而，只有雄雉身上才會有肉垂和耳羽。目前有多種解釋為何雌雉香爐上會有這兩個部位的說法，一種說法是，仁清依照雄雉創作雌雉，雖然他知道需要改變整體顏色，卻沒注意到雌雉的頭部構造有所不同。另種說法是，「雌雉」其實是另隻暗夜版本的雄雉。

黏土在窯中燒製時會收縮和變形，因此製作形狀複雜的作品時，十分考驗陶藝家的專業技藝。雌雉身體部分的塑形，展現陶藝家的高超技巧，其尾巴呈45度向外延伸，頸部向後轉，形成平滑的弧度，彷彿這隻雌雉正在梳理羽毛。在東亞繪畫中描繪一雌一雄時，這種姿態常用於雌性的表現手法。

仁清由於擁有精湛的技藝，因此成為日本最受歡迎的工匠之一，他也是最早使用專屬「陶印」的著名陶藝家之一。陶印是一種類似簽名的標記，用於識別作者的身分。蓋上陶印的作法也呈現出思維的轉變，意即陶藝家透過在作品留名，能將自己從無名的勞動者，提升至有辨識度的藝術家個體。在雌雉香爐的底部可以找到仁清之印。

西元1960年，雌雉香爐獲指定為重要文化財，與日本國寶雄雉香爐一同為常設展品。

<日本語仮訳>

雌雉香炉

この陶器は、17世紀、陶芸家・野々村仁清が制作した雉香の形をした炉である。雌は雄と同様、上絵付けの技法に優れ、造形も巧みである。これらの才能は、京焼の大成者としての名声を確固たるものにした。京焼は京都で生まれ、武家階級を対象とした絵付け陶器の様式である。

仁清の優美な作品は、茶の湯や茶道具として大いに好まれた。実際、今も残っている京焼の初期の作品の多くは、この雄雉香炉を含む茶道具である。通常、茶会の席では、亭主が床の間に季節の飾りを置くのが一般的である。雉は伝統的に春に関連付けられているため、この香炉は春の集まりで使われ、部屋に香りを漂わせ、季節感を演出したのであろう。

雉の雌は、雄に比べ色彩が乏しい。雄は相手を引きつけるために派手な色に進化した一方、雌は捕食者を避けるために地面に溶け込むような模様に進化した。仁清は、窯の中で酸化した銀の絵の具で黒や茶のグラデーションを作り、雌雉の地味な色調を忠実に再現している。しかし、頭部には、赤と金の肉垂と、まぶたのあたりにほんの少し青を入れるなどの工夫がされている。また、雌の方は後頭部から羽毛のような耳が角のように突き出ている。肉垂も耳も雄の雉にしか見られないため、その存在にはさまざまな説がある。仁清は雄の雉をモデルにし、また雄と雌で全体の色調が変わることは知っていたが、雌の頭部が異なることまでは知らなかったのだらうという説。また、雉の雌は実はもう一羽の雄で、雄が影になっている「夜雉」であるという説もある。

窯の中では、粘土が縮んだり動いたりするので、複雑な形を作るには熟練の技が必要である。尾は45度に突き出し、首は背中に向かって滑らかな弧を描き、まるで羽毛を整えるなど、雉の体の造形は高度な習熟度を示している。東アジアの絵画では、このような姿勢は雌雄を識別するために用いられている。

仁清は、その技術によって、国内でも最も需要のある職人の一人となった。また、仁清は、陶芸家として初めて作者を特定できるサインのような印、「陶印」を作品に施した陶芸家の一人である。このマークは、陶芸家が無名の労働者ではなく、一人の芸術家として認知されるようになったことを意味する。この作品の底面には、仁清の陶印が入っている。

この雌雉香炉は1960年に重要文化財に指定された。この香炉は、国宝である「雄雉香炉」とともに常設展示されている。

【タイトル】 石川県立美術館 / 重要文化財 色絵雌雉香炉（いろえめすきじこうろ）

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

雌雉香炉

这件雌雉陶瓷香炉由 17 世纪陶艺大师野野村仁清烧制而成。与其成双的作品雄雉香炉一样，雌雉香炉作品也展现了仁清高超的造型功力，以及对釉上彩技艺的精湛运用。这件作品于 1960 年被指定为重要文化财产。

仁清使用在窑炉中氧化的银釉来打造雌雉棕色和灰色的羽毛，从而模仿现实生活中雌雉羽毛的渐变效果。仁清在雌雉的头部进行了一些艺术创作：他赋予了雌雉红色和金色的肉髯，并在其眼睑周围添加了细微的蓝色。这两笔创意均采用了釉上彩“色绘”技艺。

雉鸡身体部分的塑形也展现了陶艺家高超的技巧，其长而直的尾部以 45 度向斜上方延伸，颈部以平滑的弧度向后转，仿佛这只雌雉正在梳理羽毛。黏土在窑炉中烧制时会收缩变形，因此，打造形状精确的作品相当考验陶艺家的天赋和经验。

仁清创作的精美作品深受贵族和武士精英欢迎，他们在茶会中使用这些陶瓷器具。事实上，许多现存的作品均为茶具，包括这两件雉鸡香炉。

<繁体字>

雌雉香爐

雌雉陶瓷香爐由 17 世紀的陶藝大師野野村仁清製作，和成對的雄雉香爐相同，這件作品也展現了仁清高超的塑形功力，以及精湛運用釉上彩的技法。西元 1960 年，雌雉陶瓷香爐獲指定為重要文化財。

仁清使用在窯中氧化的銀釉，打造雌雉的棕色和黑色羽毛，呈現漸變的效果，與現實中雌雉的顏色維妙維肖。仁清還發揮巧思，在雌雉的頭部增添一些色彩，賦予了雌雉紅色和金色的肉垂，並在眼瞼附近稍微加上一點藍色。這兩處均運用了釉上彩（在日語中稱為「色繪」）技法。

雉雞身體部分的塑形也展現了陶藝家高超的技巧，雉雞長而直的尾巴以 45 度向斜上方延伸，頸部向後轉，形成平滑的弧度，彷彿這隻雌雉正在梳理羽毛。黏土在窯中燒製時會收縮和變形，因此要打造形狀精確的作品，相當考驗陶藝家的天賦和經驗。

仁清創作的精美陶藝作品深受貴族和武士菁英階級喜愛，他們會將其作為茶之湯（茶道儀式）用具使用。事實上，許多現存的仁清作品均為茶道用具，這兩件雉雞香爐也不例外。

<日本語仮訳>

雌雉香炉

この陶器は、17世紀、陶芸家・野々村仁清が制作した雉の形をした香炉である。雌は雄と同様、上絵付けの技法に優れ、造形も巧みである。1960年に重要文化財に指定された。

仁清は、窯の中で酸化する銀の絵の具を使って、虹色に輝く褐色と灰色の羽を描き、本物の雉の雌の色に近いグラデーションを表現している。頭部には、赤と金の肉垂と、まぶたの周りにほんの少し青を入れるという、芸術的な工夫が施されている。いずれも「色絵」と呼ばれる上絵付けの技法である。

雉の体の造形も高度な技術を要する。この長くまっすぐな尾は45度の角度で上がり、首は背中に向かって滑らかな弧を描き、まるで羽繕いをしているように見える。粘土が収縮したり、ゆがんだりする窯の中で、このような正確な形を作り出すには、相当な才能と経験が必要である。

仁清の優雅な焼き物は、公家や武士階級が茶の湯や茶道具として好んで使用した。実際、雉香炉を含め、現存する多くの作品が茶道具である。

【タイトル】石川県立美術館 / 重要文化財 色絵雌雉香炉（いろえめすきじこうろ）

【想定媒体】看板

<簡体字>

银与金：巧妙的雌雉

与许多鸟类类似，雄性绿雉和雌性绿雉的斑纹差异很大。雄雉拥有色彩艳丽的羽毛来吸引配偶，而雌雉则带灰色和棕色，以便融入周围环境并躲避捕食者。

仁清创作这对雉鸡时，再现了这种两性外貌上的差别。虽然雌雉的颜色十分素雅，为它着色也需要同样精湛的技巧。事实上，棕色羽毛的复杂阴影是使用银釉实现的。当含银物质在窑炉中氧化，会出现棕色和黑色的渐变效果，从而再现雌雉暗褐色的斑纹。

仁清在雌雉的头部进行了一些艺术创作。与雄雉不同，雌性绿雉没有红色肉髯和耳羽，但仁清在这件作品中添加了这两个部位。或许仁清希望在作品中添加一抹色彩，建立与雄雉的视觉联系。另一种理论认为，仁清只找到了一只雄雉作为模板，并根据记忆改变了雌雉身体的颜色。第三种有趣的猜想是，两只雉鸡其实均为雄性。在这种情况下，“雌雉”是在夜间观察到的雄雉，它的颜色因为夜色而变暗。

仁清擅长预测黏土在窑炉中发生的变化，他因此能制作出形状复杂的作品。雌雉的姿势明显证明了这一点：其尾部以45度向斜上方延伸，颈部以平滑的弧度向后转，仿佛这只雌雉正在梳理羽毛。（在东亚绘画中，这种梳理羽毛的姿势是雌雄一对动物中雌性的常见表现手法。）香炉的排烟口被切割成羽毛的形状，与整体图案更加融合。

日本政府于1960年将这件作品指定为重要文化财产，以彰显其艺术价值。

雌雄雉鸡重聚

由于这两件香炉似乎为雌雄一对，而且大小和风格相似，因此人们认为它们是同时制作的。然而，前田家族买下了雄雉香炉，雌雉香炉却被卖往他处。1991年，这件雌雉香炉在东京重新出现，其主人水野富士子将它捐赠给了博物馆。自这对雉鸡在仁清的瓷窑诞生以来，已历经300年以上，现在这对雉鸡得以重聚并作为常设展览。

<繁体字>

銀與金：細膩描繪的雌雉

綠雉與許多鳥類類似，雄性和雌性的斑紋差異很大，雄雉發展出色彩豔麗的羽毛來吸引配偶，雌雉則擁有暗淡的灰色與棕色羽毛，以融入周圍環境並躲避捕食者。

仁清創作這對雉雞時，重現了這種雌雄兩性之間的差別。雖然雌雉的顏色相對暗淡，

但為它上釉也同樣需要精湛技巧。事實上，棕色羽毛複雜的陰影是透過銀釉打造。當含銀物質在窯中氧化，便出現棕色和黑色的漸變效果，與雌雉灰棕色的斑紋維妙維肖。

在製作雌雉的頭部時，仁清發揮了一點巧思。與雄雉不同，雌性綠雉沒有紅色肉垂和耳羽，但仁清在作品中加上了這兩個部位。也許仁清想增添一點顏色，營造與雄雉的視覺聯繫。另種理論則認為仁清只找到一隻雄雉作參考，並根據記憶改變雌雉的體色。第三種理論相當有趣，認為其實兩隻雉雞都是雄性，雌雉便是夜間的雄雉，其身上的顏色因為身處黑夜中而變得暗淡。

仁清擅長預測黏土在窯中變形的程度，因此能夠製作出形狀複雜的作品，這點從雌雉的姿態便能領略，其尾巴以 45 度向斜上方延伸，頸部向後轉，形成平滑的弧度，彷彿這隻雌雉正在梳理羽毛（在東亞繪畫中在描繪一雌一雄時，這種以喙梳理羽毛的姿態常用於雌性的表現手法）。香爐的排煙口切割成羽毛的形狀，更加融入整體圖案。

有鑑於這件作品擁有的藝術價值，日本政府於西元 1960 年將其指定為重要文化財。

雌雄雉雞團聚

由於這兩件香爐似乎為雌雄一對，而且大小和風格相似，因此人們認為它們應是同時製作。然而，前田家買下雄雉香爐，雌雉香爐卻賣給了其他人。西元 1991 年，雌雉香爐現出東京，其擁有者水野富士子將它捐贈給博物館。自從這對雉雞在仁清的窯窯誕生以來，已歷經 300 年以上，現在這對雉雞得以團聚並一同作為常設展覽。

<日本語仮訳>

銀と金：繊細なメス

多くの鳥類がそうであるように、雉も雄と雌でその模様が大きく異なる。雄は相手を引きつけるために派手な色をしているが、雌は周囲に溶け込み、外敵を避けるために落ち着いた灰色や茶色をしている。

この羽のペアは、その性差を再現したものである。雌の色調は地味だが、その彩色には熟練を要する。褐色の羽の複雑な陰影は、銀の絵の具で表現されている。窯の中で銀が酸化することで、茶色や黒のグラデーションが現れ、雌の褐色の色彩を表現している。

雌の頭部には、仁清が少し芸術的な表現を施してある。雌の雉には、雄のような赤い肉垂や耳がないが、この作品にはそれらがついている。おそらく、雄の雉と視覚的なつながりを持たせるために、色彩を加えたのであろう。また、本物の雉をモデルにしているが、雄しか手に入らないので、記憶を頼りに雌の色彩を変更したのではないかという説もある。また、2羽とも雄で、この「雌」は夜間に暗くなって色が薄くなった雄を表しているという説も興味深い。

仁清は、粘土窯の中でどのように変化するかを予測し、複雑な形を作り出すことに長けていた。これは鳥の姿勢から明らかである。尾は 45 度に上がり、首は背中に向かって滑らかな弧を描き、まるで羽繕いをしているようだ（この羽繕いの姿勢は、東アジアの絵画で雌雄を識別するために用いられるものである）。また、香炉の吹き出し口は、模様になじむように羽の形にカットされている。

この作品は、その芸術的価値が認められ、1960年に重要文化財に指定された。

雉のペアが再結成

この2つの香炉は雌雄の組み合わせのようで、大きさや様式が似ていることから、同時に制作されたものと思われる。しかし、雄は前田家に買い取られ、雌は別の場所に売られた。1991年、この雌は東京で所有者の水野富士子氏から寄贈された。仁清の窯でこの雉のペアが焼かれてから300年余りの時を経て、二羽の雉が再び揃い、常設展示されることになったのである。

【タイトル】石川県立美術館 / 重要文化財 蒔絵和歌の浦図見台（まきえわかのうらげんたい）

【想定媒体】WEB

<簡体字>

和歌之浦蒔絵读书架

这件漆艺读书架于17世纪创作，当时独特的金泽漆器风格仍处于发展初期。它的确切出处无从考证，但普遍被认为是清水九兵卫(?-1688)的作品。

清水出生于江户（今东京），并在那里学艺。17世纪初，加贺藩主及显要艺术赞助人前田利常(1593-1658)邀请清水前往加贺藩（今石川县）进行艺术创作。清水与同为漆艺家的第二代五十岚道甫(1635-1697)密切合作，将加贺漆器发展为一种独特而繁荣的艺术形式。他们二人均为蒔絵大师。蒔絵是一种装饰技法，将金粉等金属粉末撒在软漆上来绘制图案。二人的作品誉满天下，因此“蒔絵”一词很快成为了优质加贺漆器的代名词。

统治加贺藩的前田家族拥有仅次于幕府将军的大量财富，他们利用自身资源发展文化事业。像这件读书架这样的奢侈器具就是为了彰显其财富和声望而创作的，它比人们日常使用的同类物品要华丽得多。

这件读书架刻画了和歌山县和歌之浦湾的景色。一千多年来，和歌之浦湾的自然美景为日本诗人和作家带来了源源不断的灵感。和歌之浦湾在8世纪的《万叶集》（现存最古老的日本和歌集）中多次出现。读书架上的图案让人想起一首《万叶集》中的短歌：

和歌之浦，潮水涌动。
潮滩浸没，鹤鸣长空。
盘旋飞渡，芦苇重重。

如果仔细观察这幅图案，可以发现画面上一些元素以浮雕的形式凸起于表面，形成有纹理的立体效果。这是通过“肉合研出蒔絵”技法实现的，这种技法结合了“研出蒔絵”（磨光）和“高蒔絵”（增高）。在研出蒔絵技法中，漆艺家将金粉撒在湿漆形成的浅浮雕上来绘制图案。湿漆干燥后，便在作品上再涂抹一层黑漆或清漆。最后，用木炭将这层漆磨平，直至金粉图案显露出来，与新表面齐平。而在高蒔絵技法中，漆艺家先用漆和木炭或黏土粉料层构建表面设计，再添加金属粉末。风景蒔絵作品经常使用肉合研出蒔絵技法，为作品赋予立体的深度。

这件读书架还展示了与石川县密切相关的其他漆艺装饰技法，其中包括金银截金技法（不使用金属粉，而是使用裁剪成不同形状的金属片）。这件作品制作精美，历代漆艺家都曾仔细研究其工艺，以磨练技艺。

这件读书架作为加贺蒔绘形成阶段的杰作，于 1998 年被指定为重要文化财产。

<繁体字>

和歌之浦蒔繪閱書架

這件 17 世紀的閱書架以漆藝技法製成，當時獨特的金澤漆器風格仍處於發展初期。作品的確切出處無從考證，但普遍被認為出至清水九兵衛（?-西元 1688）。

清水出生於江戶（今東京），並在那裡學藝。17 世紀初，深具影響力的藝術贊助人——加賀藩藩主前田利常（西元 1593–1658）邀請清水前往加賀藩（今石川縣）進行藝術創作。清水與同為漆藝家的第二代五十嵐道甫（西元 1635–1697）合作，將加賀漆器發展成一種獨特而興盛的藝術形式。二人均為蒔繪大師，所謂蒔繪是一種裝飾技法，將金粉等金屬粉末撒在軟漆上來繪製圖案。兩位大師的作品譽滿天下，因此「蒔繪」一詞快速成為優質加賀漆器的代名詞。

統治加賀藩的前田家擁有僅次於幕府將軍的大量財富，並將自身資源投入發展文化事業。為了彰顯財富和聲望，包括這件閱書架等奢侈用品，前田家特地委託工匠製作，比起日常使用的類似物品就是華麗許多。

這件閱書架刻畫了和歌山縣和歌之浦灣的景色。一千多年來，和歌之浦灣的自然美景啟發了許多日本詩人和作家，並在 8 世紀的《萬葉集》（現存最早的日語詩歌總集）中多次出現。閱書架上的圖案讓人想起《萬葉集》中的短歌：

和歌之浦，潮水湧動。
潮灘浸沒，鶴鳴長空。
盤旋飛渡，蘆葦重重。

仔細觀察閱書架上的圖，可以發現一些浮雕元素從表面突起，形成有層次的立體效果，當中使用了結合「研出蒔繪」（拋光）和「高蒔繪」（堆高）的「肉合研出蒔繪」（整體表面除了突起也重視平滑）技法。研出蒔繪技法是指將金粉撒在濕漆形成的淺浮雕上來繪製圖案。等到濕漆乾燥後，便在作品上再塗抹一層黑漆或清漆。最後，再用木炭將這層漆磨平，直到金粉圖案顯露出來，與新的表面齊平。至於高蒔繪技法，則以多層漆和

木炭或黏土粉打造表面設計，然後再撒上金屬粉末。風景蒔繪作品經常使用肉合研出蒔繪技法，為作品賦予立體深度。

從這件閱書架還能見到其他與石川縣密切相關的漆藝裝飾技法，例如並非使用金屬粉末，而是使用金銀切金，即切削加工金屬形狀的技法。由於製作如此精美，世世代代的漆藝家都為了磨練技藝，進而仔細研究這件閱書架中運用的工藝技法。

和歌之浦蒔繪閱書架作為加賀蒔繪形成期的傑作，於西元 1998 年獲指定為重要文化財。

<日本語仮訳>

蒔繪和歌の浦図見台

この漆塗りの見台は、17 世紀、金沢の特産品である漆器がまだ発展途上であった時代に作られた。正確なことはわかっていないが、清水九兵衛 (?-1688) の作とされている。

清水は江戸（現在の東京）に生まれ、そこで漆工芸を学んだ。17 世紀初頭、芸術家の支援者であった大名・前田利常（1593-1658）は、清水を加賀藩（現在の石川県）に招き制作にあたらせた。清水は、同じ漆工芸家の二代目五十嵐道甫（1635-1697）と共に、加賀漆器を独自の芸術として確立させることに貢献した。二人は、蒔繪の名手だった。「蒔繪」とは、漆の上に金粉などの金属粉を載せて絵を描く技法である。彼らの作品は高く評価され、やがて加賀漆器は "蒔繪" の代名詞となった。

加賀藩主・前田家は将軍家に次ぐ富を持ち、その財力を文化に注いでいた。この見台のような豪華な品々は、彼らの富と名声を示すために発注されたもので、日常的に使用される同様の品々とは比較にならないほど華麗なものである。

この見台には和歌山県の和歌の浦が描かれている。和歌の浦は千年以上にわたって日本の詩人や作家にインスピレーションを与えてきた自然美の宝庫である。和歌の浦は、8 世紀の現存する日本最古の歌集「万葉集」に何度も登場する。この見台のデザインは、万葉集のある短歌を連想させる：

若の浦に
潮満ち来れば
潟をなみ
葦辺をさして
鶴鳴き渡る

和歌の浦に

潮が満ち
干潟が水に沈むと
鶴が頭上で鳴き
葦が生い茂る岸辺に渡る

よく見ると、画像の一部（鶴・芦・浜辺など）が浮き彫りになっており、質感のある立体的な効果を生み出していることがわかる。これは肉合研出蒔絵と呼ばれる技法で、研ぎ出しと高蒔絵を組み合わせたものである。研出蒔絵は、濡れた漆に金粉を塗り、浮き彫りにしたものである。漆が乾いたら、黒や透明の漆を塗り重ねる。これを炭で磨くと、模様が浮かび上がってくる。高蒔絵では、漆と木炭や粘土の粉を何層にも重ねて文様を作り、金属粉の層を作る。風景を意匠とする蒔絵には、奥行きを出すために肉合研出がよく使われる。

この見台には、このほかにも金銀切金（粉体ではなく、切削加工された金属を貼る手法）など、石川県にゆかりの深い漆芸の技法が施されている。その精巧な出来栄は、代々の漆工芸家が技を磨くために研究してきたほどである。

この見台は、加賀蒔絵の形成期を代表する傑作として、1998年に重要文化財に指定された。

004-008

いしかわ工芸・文化財デジタルコンテンツ推進協議会

【タイトル】 石川県立美術館 / 重要文化財 蒔絵和歌の浦図見台（まきえわかのうらずけんだい）

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

和歌之浦蒔絵读书架

这件来自 17 世纪的漆艺读书架采用了华丽的蒔絵技法装饰。蒔絵装饰技法需将金粉等金属粉末撒在软漆上。这件读书架是金泽漆器开创者之一、蒔絵大师清水九兵卫 (?-1688) 的作品。

清水出生于江户（今东京），并在那里学习技艺。17 世纪初，清水应加贺藩藩主前田利常 (1593-1658) 的邀请，前往加贺藩（今石川县和富山县）进行创作。在前田家族雄厚资金的赞助下，加贺的漆艺蓬勃发展。

如果仔细观察这幅图案，可以发现画面上一些元素以浮雕的形式凸起于表面，形成有纹理的立体效果。这是通过“肉合研出蒔絵”技法实现的，这种技法结合了“研出蒔絵”（磨光）和“高蒔絵”（增高）。这件作品还应用了与金泽漆器相关的其他技术，例如金银截金技法（不使用金属粉，而是使用切割金属形状）。

这件读书架刻画了和歌山县和歌之浦湾的景色，题材源自 8 世纪诗集《万叶集》中收录的一首短歌：

和歌之浦，潮水涌动。

潮滩浸没，鹤鸣长空。

盘旋飞渡，芦苇重重。

这件读书架于 1998 年被指定为重要文化财产。

<繁体字>

和歌之浦蒔繪閱書架

這件 17 世紀的閱書架以華麗的蒔繪漆藝技法（將金粉等金屬粉末撒在軟漆上的裝飾技法）裝飾，是金澤漆器開創者之一，同時也是蒔繪大師的清水九兵衛 (?-西元 1688) 的作品。

清水出生於江戸（今東京），並在那裡學會了漆藝技法。17世紀初，清水應加賀藩藩主前田利常（西元1593–1658）的邀請，前往加賀藩（今石川縣和富山縣）進行創作。在前田家雄厚資金的支持下，加賀的漆藝蓬勃發展。

仔細觀察閱書架上的圖，可以發現一些浮雕元素從表面突起，形成有層次的立體效果，當中使用了結合「研出蒔繪」（拋光）和「高蒔繪」（堆高）的「肉合研出蒔繪」（整體表面除了突起也重視平滑）技法。這件作品還運用了與金澤漆器相關的其他技術，例如並非使用金屬粉末，而是使用金銀切金，即切削加工金屬形狀的技法。

閱書架刻畫了和歌山縣和歌之浦灣的景色，題材源自8世紀詩集《萬葉集》中收錄的一首短歌：

和歌之浦，潮水湧動。
潮灘浸沒，鶴鳴長空。
盤旋飛渡，蘆葦重重。

西元1998年，和歌之浦蒔繪閱書架獲指定為重要文化財。

<日本語仮訳>

蒔繪和歌の浦図見台

この17世紀の漆塗りの見台は、蒔繪（金粉などの金属粉を柔らかい漆に塗る技法）で贅沢に装飾されている。金澤漆器の祖の一人であり、蒔繪の名手である清水九兵衛（?-1688）の作とされている。

清水は江戸（現在の東京）に生まれ、漆工芸を学んだ。17世紀初頭、加賀藩主・前田利常（1593-1658）に招かれ、加賀藩（現在の石川県と富山県）に移った。前田家の支援のもと、加賀では漆工芸の技術が栄えた。

よく見ると、画像の一部（鶴・芦・浜辺など）が浮き彫りになっており、質感のある立体的な効果を生み出していることがわかる。これは肉合研出蒔繪と呼ばれる技法で、研ぎ出しと高蒔繪を組み合わせたものである。このほかにも金銀切金（粉体ではなく、切削加工された金属を貼る手法）など、金澤漆器に関連する技法も用いられている。

この見台に描かれているのは、歌山県の和歌の浦の風景である。8世紀の歌集『万葉集』に詠まれた短歌が題材になっている：

若の浦に
潮満ち来れば
潟をなみ
葦辺をさして
鶴鳴き渡る

和歌の浦に
潮が満ち
干潟が水に沈むとき
鶴が頭上で鳴き
葦が生い茂る岸边に渡る

この見台は、1998年に重要文化財に指定された。

【タイトル】石川県立美術館 / 重要文化財 緑地桐鳳凰文唐織 能装束（みどりじきりほうおうもんからおり）

【想定媒体】WEB

<簡体字>

泡桐凤凰纹锦缎唐织

这件锦缎和服是一件“唐织”，也就是能剧中扮演女性角色的演员穿着的华丽服饰。“唐织”一词既可指服装，也可以指用于制作这类服装的面料。江户时代(1603-1867)的日本，唐织生产蓬勃发展，而这件服饰的历史可以追溯到17世纪初。

与其他锦缎一样，唐织由经纬底纹和浮织组成。也就是说，织工首先编织经线和纬线来组成基本图案，然后在一些区域的经纬底纹上方覆盖纬线，从而打造类似刺绣的织物样式。而唐织与刺绣的不同之处在于，唐织的花纹图样是在编织过程中嵌在布料上的，而非之后刺绣加工的。在这件衣服上，织工先用深绿色真丝斜纹绸勾勒出经纬底纹，再用白色、淡蓝绿色、黄绿色、浅灰色、藏青色、黄色和红色的丝线缝制凤凰和泡桐开花的图案。

数世纪以来，唐织的样式愈发奢华，后来的唐织经常使用大量金银丝线来编织图案。现代能剧表演中，演员穿着的唐织服饰重量可达数公斤，在灯光照射下光彩熠熠。相比之下，这件作品展现了桃山文化时代(1573-1615)的风格——色彩斑斓但更加庄重。这一时代的另一特色，是服饰的图案从上至下交错排列。例如，这件服饰衣袖最上方的凤凰朝左，而其下方的凤凰朝右。

传统能剧是一种非常注重风格化的戏剧，其演员面戴面具，身着华丽服饰。演员服饰的设计样式可以体现其角色类型。例如，红色底纹的唐织是年轻女性角色专属。其他底色（例如这件作品使用的绿色）代表中年或老年角色。像凤凰、泡桐这样华贵的图案通常代表尊贵威严的人物。

石川县有着历史悠久的能剧传统。该县的前身加贺藩从 16 世纪末至 1871 年一直由富裕的前田家族统治，前田家族为艺术和文化事业投入了大量资金。前田家族十分热衷于能剧，在其统治期间，前田家族扶持了当地的能剧流派——宝生流。

这件作品作为现存的早期唐织，于 1974 年被指定为重要文化财产。

<繁体字>

綠地桐鳳凰紋唐織

這件錦緞和服是一件「唐織」，也就是能劇演員中扮演女性角色所穿著的華麗服飾。「唐織」一詞既可指服裝，也可以指用於製作這類服裝的布料。日本江戶時代（西元 1603–1867）期間，人們大量生產唐織，而這件服飾的歷史可以追溯到 17 世紀初。

與其他錦緞一樣，唐織由地紋和浮織組成。也就是說，織布者首先編織經線和緯線以製作基本圖案，然後在某些的地紋上方再補緯線，打造類似刺繡的樣式。不同於真正的刺繡，唐織是在編織過程中將花紋圖樣嵌在布料上，而非之後刺繡加工。製作這件唐織時，織布者先用深綠色的斜紋織絲線勾勒出地紋，再用白色、淡藍綠色、黃綠色、淺灰色、藏青色、黃色和紅色的絲線縫製鳳凰和泡桐開花的圖案。

數世紀以來，唐織愈來愈奢華，後期的設計經常大量使用金銀絲線。在現代的能劇表演中，演員穿著的唐織服飾重量可達數公斤，在燈光照射下閃閃發光。相較之下，這件作品展現了桃山文化時代（西元 1573–1615）色彩豐富但更加內斂的風格。桃山文化時代服飾的另個特色，就是從上到下的圖案以帶狀交錯排列。例如，這件服飾衣袖最上方的鳳凰朝左，下一排的鳳凰則朝右。

傳統能劇是種樣式化的戲劇，演員戴上面具，身著華麗服飾。從演員服飾的設計樣式，可以看出其扮演的角色類別。例如，紅色地紋的唐織是年輕女性角色專屬，而這件作品所使用的綠色等其他底色，則由中年或老年角色穿著。至於鳳凰、泡桐等華貴的圖案，通常代表穿著的人物擁有尊貴地位。

石川縣擁有歷史悠久的能劇傳統，其前身加賀藩從 16 世紀末到西元 1871 年期間，一直由富裕的前田家統治，他們為藝術和文化事業投入了大量資金。前田家十分熱衷於能劇，在統治期間扶持了當地的能劇流派「寶生流」。

這件作品作為現存的早期唐織，於西元 1974 年獲指定為重要文化財。

<日本語仮訳>

桐と鳳凰の錦唐織

この錦の着物は「唐織」で、能楽の女形が着る豪華な衣装である。唐織とは、能の衣裳とそれを作る布の種類を指す言葉である。唐織は江戸時代（1603-1867）に盛んに作られたが、これは17世紀初頭に作られたものである。

唐織は他の錦織と同様に、地織の上に浮織を重ねたものである。つまり、経糸と緯糸で基本的な柄を作り、その上に部分的に緯糸を補い、刺繍のように柄を重ねるのだ。刺繍とは異なり、デザインは後から縫い付けるのではなく、織りの工程で作られる。この着物は、地織が深緑の絹綾織で、白、淡い青緑、黄緑、ライトグレー、紺、黄、赤の糸で鳳凰と花桐の柄が描かれている。

その後、唐織はますます豪華になり、金糸や銀糸をふんだんに使ったデザインも多く見られるようになった。現代の能舞台で着用される唐織は、数キログラムの重さがあり、照明に照らされてキラキラと輝きを放つこともある。それに対して、この作品は、色鮮やかではあるが、落ち着いた雰囲気のある桃山文化時代（1573-1615）のスタイルである。また、衣服の上部から下部にかけて、図柄が交互に並んでいるのも、この時代の特徴である。例えば、袖の鳳凰は、上の段は左向きだが、その下の段は右向きである。

能楽の伝統は非常に様式化されており、面と華麗な衣装をつけた役者によって演じられる。装束のデザインは、役者がどのような役を演じるかを示している。例えば、赤い地色の唐織は、若い女性の役柄を表す。ここで使われているこの緑など、赤以外の地色は、中高年の役柄を表す。また、鳳凰や桐などの豪華なモチーフは、高傑（威厳）な人物を表す。

石川県は能の盛んな県である。県の前身である加賀藩は、16世紀後半から1871年まで芸術・文化事業に多大な投資を行った富豪の前田家の支配下にあった。前田家は能楽に熱心で、在任中は地元の宝生流の能楽師を育成・支援した。

現存する最古の唐織の例として、この着物は1974年に重要文化財に指定された。

【タイトル】 石川県立美術館 / 重要文化財 緑地桐鳳凰文唐織 能装束（みどりじきりほうおうもんからおり）

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

泡桐凤凰纹锦缎唐织

这件锦缎和服是一件“唐织”，也就是能剧中扮演女性角色的演员穿着的华丽服饰。江戸时代 (1603–1867) 的日本，唐织生产蓬勃发展，而这件服饰的历史可以追溯到 17 世纪初。

“唐织”一词既可指服装，也可以指这类服装的面料。唐织面料由经纬底纹和浮织组成。浮织是在纬线底纹上另外加入纬线，用于进行装饰和补充，从而打造出类似刺绣的图案。

后期的唐织经常使用大量金银丝线来编织图案，而这件作品更加庄重的设计则是桃山文化时代 (1573–1615) 的典型风格。这件服饰的图案并非由金线编织，而是在深绿色斜纹绸底纹上用彩色丝线缝制而成。这一时代的另一特色，是锦缎服饰的图案从上至下交错排列。例如，这件服饰衣袖最上方的凤凰朝左，而其下方的凤凰朝右。

在特别注重风格化的能剧传统中，演员的服饰可以体现其角色的类型。例如，红色底纹的唐织由年轻女性角色专属。其他底色（例如这件作品使用的绿色）代表中年或老年角色。凤凰、泡桐这样华贵的图案代表尊贵威严的人物。

这件唐织于 1974 年被指定为重要文化财产。

<繁体字>

綠地桐鳳凰文唐織

這件錦緞和服是一件「唐織」，也就是能劇演員中扮演女性角色所穿著的華麗服飾。日本江戸時代（西元 1603–1867）期間，人們大量生產唐織，而這件服飾的歷史可以追溯到 17 世紀初。

「唐織」一詞既可指服裝，也可以指這類服裝的布料，是由地紋及在地紋上方編織的浮織組成。所謂浮織是指一種畫龍點睛的織法，會使用緯線另外編織在地紋上方，打造出類似於刺繡的圖案。

後期的唐織設計經常使用大量金銀絲線，而這件作品更加內斂的設計為桃山文化時代

(西元 1573–1615) 典型風格。上方的圖案並未使用金線編織，而是在深綠色斜紋織地紋上，以彩色絲線縫製而成。桃山文化時代服飾的另個特色，就是從上到下的圖案以帶狀交錯排列。例如，這件服飾衣袖最上方的鳳凰朝左，下一排的鳳凰則朝右。

在樣式化的傳統能劇中，可以從演員的服飾看出其扮演的角色類別。例如，紅色地紋的唐織代表年輕女性角色，而這件作品所使用的綠色等其他底色，則由中年或老年角色穿著。至於鳳凰、泡桐等華貴的圖案，代表穿著的人物擁有尊貴地位。

西元 1974 年，這件唐織獲指定為重要文化財。

<日本語仮訳>

桐と鳳凰の錦唐織

この錦の着物は「唐織」で、能楽の女形が着る豪華な衣装である。唐織は江戸時代（1603-1867）に盛んに作られたが、これは 17 世紀初頭に作られたものである。

唐織とは、地織に浮織を重ねた能の衣裳と生地との両方を指す言葉である。浮織とは、地糸である緯糸の上に補助的に装飾用の緯糸を織り込み、刺繍のような模様にしたものである。

後の唐織は金糸を多用することが多いが、本品は桃山文化時代（1573–1615）らしい落ち着いた作風である。柄は金ではなく、深緑の綾織地に色糸を用いたものである。また、錦の図柄が衣服の上部から下部にかけて帯状に配されているのも、この時代の特徴である。例えば袖の鳳凰は、上段は左向きだが、下段は右向きである。

非常に様式化された能の伝統では、衣装は役柄を示すものである。例えば、赤い地色の唐織は、若い女性の役柄を表す。緑色の地色の唐織は、中高年の役柄を表す。鳳凰と桐をモチーフにした威风堂々たる姿は、高傑な人物を表す。

この唐織は 1974 年に重要文化財に指定された。

【タイトル】 川島立美術館 / 重要文化財 西湖図（せいこず）

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**秋月等观《西湖图》(1496)**

自唐朝 (618–907) 以来，杭州西湖就经常出现在中国的传说、绘画和文学中。从日本出访中国的使节、僧侣和商人在旅途中经常到访杭州，西湖就此在日本文人中广为人知。久而久之，西湖逐渐演变为中国自然美景的典范，令无数日本诗人、画家和贵族心驰神往。

这幅挂轴画可追溯至 1496 年，是日本现存最早描绘西湖的作品，由师从著名画家雪舟等杨 (1420–1502) 的秋月等观（生卒年不详）所绘制。最初，人们认为这幅作品为雪舟本人所作，因为画中的山脉、寺庙和树木的笔触与雪舟的画风十分相似。然而这幅作品左上角的题词却暗示了其作者另有其人。

题词写道：“杭州西湖之图，于北京会同馆作此图，弘治玖年 (1496) 闰三月拾三日。”据记载，1496 年，雪舟本人并不在中国，而秋月却在中国。秋月很有可能在西湖完成速写，然后在北京会同馆留宿期间，参考了中国画中的西湖，从而完成了自己的画作。根据题词中的信息，这幅作品的作者才得以确定为秋月。

画中各地点都标注了名称，如一排拱桥下方标有“六桥”，而画幅中间后侧南高峰和北高峰之间的小型建筑上方则标有“灵隐寺”。虽然秋月必须将不同场景浓缩在一张画布上，但这幅作品像地图一样真实地反映了西湖的景色，其中的建筑物和围墙都描绘得利落准确。这种写实的风格提高了作品的可信度，证明画家确实亲眼见到过西湖的风景。后世的日本画家，尤其是著名的狩野派画家，以秋月的作品为蓝本创作了自己的西湖画作。

狩野派由狩野正信 (1434–1530) 创立，这流派主导日本绘画界 300 余年，得到富有的武士、贵族以及足利幕府、德川幕府的资助。狩野派画家的作品主要为中国题材的水墨画，例如中国山水画和佛祖。17 世纪，无法亲自前往西湖的狩野派画家借鉴了秋月的西湖画作来创作自己的作品。每位画家都在构图和笔法上加入了的风格，来强调景物的某些特征，并弱化其他特征。

馆内共藏有四幅西湖图。除秋月的作品外，还有狩野元信 (1476–1559)、狩野兴以 (?–1636) 和狩野探幽 (1602–1674) 的作品。在后三幅作品中，画上的山脉更为高耸，建筑物相对弱化，云雾笼罩着湖面，营造出更为缥缈的氛围。相比于秋月对西湖真实而浓缩的描绘，

狩野派画家的作品更注重艺术氛围。这几幅作品还体现了中日绘画风格更强烈的融合。由于这些画作脆弱易损，通常不对外展出，但是博物馆的网站发布了其清晰图片。

1950年，秋月的《西湖图》被指定为重要文化财产。

<繁体字>

秋月等觀《西湖圖》（西元 1496 年作）

自唐朝（西元 618–907）以來，杭州西湖就經常出現在中國的傳說、繪畫和文學作品中。從日本前往中國的使節、僧侶和商人經常在旅途中到訪杭州，使得西湖在日本文人學士之間變得廣為人知。久而久之，西湖逐漸演變為中國自然美景的理想典範，令無數日本詩人、畫家和貴族心馳神往。

這幅掛畫可追溯至西元 1496 年，是日本現存最早描繪西湖的作品，其作者為師從著名畫家雪舟等楊（西元 1420–1502）的秋月等觀（生卒年不詳）。最初，人們認為這幅作品為雪舟本人所作，因為畫中的山巒、寺廟和樹木的筆法與他的畫風十分相似，但作品左上角的題詞卻暗示作者另有其人。

題詞寫道：「杭州西湖之圖，於北京會同館作此圖，弘治玖年（西元 1496 年）閏三月拾三日。」據記載，西元 1496 年時，雪舟並不在中國，但秋月卻在。秋月很有可能在西湖畫好草圖，然後在北京會同館留宿期間，參考了中國畫中的西湖來完成自己的作品。根據題詞中的資訊，才得以確定這幅作品的作者為秋月。

畫中各地點都標註了名稱，例如一排拱橋下方標有「六橋」，而畫中央後方的南高峰和北高峰之間有棟小型建築，上方標有「靈隱寺」。雖然秋月必須將不同場景濃縮在一張畫布上，但這幅作品像地圖一樣真實呈現西湖的景色，其中的建築物和圍牆都顯得俐落而精準。這種寫實風格提高了作品的可信度，證明畫家確實親眼見過西湖的風景。後世的日本畫家，尤其是著名的狩野派畫家，以秋月的作品為藍本創作了自己的西湖畫作。

狩野派由狩野正信（西元 1434–1530）創立，在擁有大量財富的武士、貴族以及足利幕府、德川幕府的資助下，主導日本繪畫界長達 300 多年。狩野派畫家的作品主要是以中國為題材的水墨畫，例如中國山水畫和佛畫。在 1600 年代期間，無法親自前往西湖的狩野派畫家，借鑑了秋月的《西湖圖》完成自己的畫作。每位畫家都在構圖和筆法上加入了自己的風格，來強調景物的某些特徵，並弱化其他特徵。

館內共收藏了四幅西湖畫作。除秋月的作品外，還有狩野元信（西元 1476–1559）、狩野興以（?-西元 1636）和狩野探幽（西元 1602–1674）的作品。在後三幅作品中，山巒更加高聳，建築物相對不突出，雲朵籠罩著湖面，營造出更為縹緲的氛圍。相比秋月對西湖真實而濃縮的描繪，狩野派畫家的作品更注重藝術氣息。這幾幅作品還體現了中國和日本繪畫風格更完美的結合。由於這些畫作脆弱易損，通常不對外展出，但博物館的網站有

放上畫作清晰的圖片。

西元 1950 年，秋月的《西湖圖》獲指定為重要文化財。

<日本語仮訳>

西湖図、秋月等観（1496 年）作

中国杭州にある西湖は、唐の時代（618-907）から中国の伝説や絵画、文学に登場する場所である。中国に渡った日本の使節や僧侶、商人たちは、旅の途中でしばしば杭州を訪れ、日本の文人たちの間でも西湖はよく知られるようになった。やがて西湖は中国の理想的な自然美を表現し、日本の詩人や画家、貴族の心をとらえた。

本図は、1496 年に描かれた掛け軸で、現存する日本最古の西湖の絵である。これは雪舟等楊（1420-1502）に師事した秋月等観（年代不詳）によって描かれたものである。山や寺院、樹木の筆法が雪舟の画風に酷似していることから、当初は雪舟の筆とされていた。しかし、本図の左上隅にある款記は、その出所を示唆している。

「杭州西湖図、弘治九年（1496）三月十三日、北京の会同館にて描かれた」と記されている。1496 年当時、雪舟は中国にいなかったが、秋月がいたことが記録に残っている。秋月はおそらく西湖を写生し、その後、北京の会同館に滞在しながら中国の絵画を参考にして完成させたと思われる。この碑文があることで、この作品は正しくは秋月の作品であるとされた。

橋の下には「六橋」、中央奥の北高峰と南高峰に挟まれた小さな建物の上には「靈隠寺」と、それぞれの地名が書かれている。秋月が紙面に収まるように縮めて描いたとはいえ、建物や壁がきれいに描かれ、地図のようにリアルな描写である。この写実的な描写は、絵師が自分の目で見たことを証明するものであり、作品に信憑性を与えたものであった。後世の日本画家、特に狩野派の画家たちは、この秋月の作品を手本に湖水画を描いていった。

狩野正信（1434-1530）が開いた狩野派は、武士や貴族、足利将軍家、徳川将軍家などから支援を受け、300 年以上にわたって日本画壇を支配した。狩野派の画家たちは、中国の山水画や仏教の中心人物など、中国を題材とした水墨画を得意としていた。1600 年代、西湖を訪れることができなかつた狩野派の画家たちは、秋月が描いた西湖を参考にしながら作品を制作していった。構図や筆法に工夫を凝らし、ある部分は強調し、ある部分は抑えるなど、それぞれの画家が独自の表現で西湖を描いた。

当館には、西湖を描いた 4 枚の絵画がある。秋月のほか、狩野元信（1476-1559）、狩野興以（?-1636）と狩野探幽（1602-1674）が描いたものである。後三者は、山が高くなり、建物が目立たず、雲が湖を覆い、より幽玄な雰囲気漂う。湖の様子は、圧縮されてはいるが秋月の忠実な描写に比べ、狩野派の画家たちの作品は、より芸術的な雰囲気に重点がおかれている。また、中

国と日本の画風がより融合している。絵は壊れやすいため通常展示されていないが、当館のホームページで詳細な画像を見ることができる。

秋月の「西湖図」は、1950年に重要文化財に指定された。

【タイトル】石川県立美術館 / 重要文化財 西湖図（せいこず）

【想定媒体】アプリQRコード

<簡体字>

秋月等观《西湖图》(1496)

自唐朝 (618–907) 以来，杭州西湖就经常出现在中国的传说、绘画和文学中。日本旅人访问中国时常常造访杭州，西湖因而也逐渐演变为中国自然美景的典范，令无数日本诗人、画家和贵族心驰神往。

这幅挂轴画可追溯至 1496 年，是日本现存最早的描绘西湖的作品。这幅作品由师从著名画家雪舟等杨 (1420–1502) 的秋月等观（生卒年不详）绘制。1950 年，《西湖图》被指定为日本重要文化财产。

挂轴左上角题款为“杭州西湖之图，于北京会同馆作此图，弘治玖年（1496 年）闰三月拾三日”。秋月很有可能在游览西湖时完成速写，然后参考中国画中的西湖，完成了这幅画作。

画中各地点都标注了名称，如一排拱桥下方标有“六桥”，而画幅中间后侧南高峰和北高峰之间的小型建筑上方则标有“灵隐寺”。该作品对西湖景色的写实程度近似地图。这种现实主义风格导致后来江户时代 (1603–1867) 日本画家们想要描绘西湖时，纷纷以此为可靠的参考。

<繁体字>

秋月等觀《西湖圖》（西元 1496 年作）

自唐朝（西元 618–907）以來，杭州西湖就經常出現在中國的傳說、繪畫和文學作品中，日本旅人前往中國旅遊時常常到訪杭州，西湖也逐漸演變為中國自然美景的典範，令無數日本詩人、畫家和貴族心馳神往。

這幅掛畫可追溯至西元 1496 年，是日本現存最早描繪西湖的作品，其作者為師從著名畫家雪舟等楊（西元 1420–1502）的秋月等觀（生卒年不詳）。西元 1950 年，《西湖圖》獲指定為日本重要文化財。

掛軸左上角題款為「杭州西湖之圖，於北京會同館作此圖，弘治玖年（西元 1496 年）閏三月拾三日。」。秋月很有可能在遊覽西湖時畫好草圖，然後參考中國畫中的西湖來完

成這幅畫作。

畫中各地點都標註了名稱，例如一排拱橋下方標有「六橋」，而畫中央後方的南高峰和北高峰之間有棟小型建築，上方標有「靈隱寺」。這件作品如實描繪西湖景色，寫實程度近似一幅地圖。由於如此寫實，後來江戶時代（西元 1603–1867）的日本畫家們在描繪西湖時，將《西湖圖》視為可靠的參考對象。

<日本語仮訳>

西湖図、秋月等観（1496年）作

中国杭州にある西湖は、唐の時代（618-907）から中国の伝説や絵画、文学に登場する場所である。中国を訪れた日本人は、旅先で杭州を訪れることが多く、中国の自然美を象徴する湖として、日本の詩人や画家、貴族の心を捉えた。

本図は、1496年に描かれた掛け軸で、現存する日本最古の西湖の絵である。雪舟等楊（1420-1502）に師事した秋月等観（年代不詳）が描いたものである。1950年に重要文化財に指定された。

掛け軸の左上には、「杭州西湖図、弘治九年（1496）三月十三日、北京の会同館にて描かれた」と記されている。西湖を訪れた際に写生し、その後、中国の絵画を参考にして完成させたようだ。

橋の下には「六橋」、中央奥の北高峰と南高峰に挟まれた小さな建物の上には「靈隱寺」と、それぞれの地名が書かれている。まるで地図のような湖のリアルな描写である。このリアルさは、江戸時代（1603-1867）に西湖を描こうとした後世の日本画家にとって、信頼できる参考資料となった。

004-013

いしかわ工芸・文化財デジタルコンテンツ推進協議会

【タイトル】石川県立美術館 / 重要文化財 色絵梅花図平水指（いろえはいかずひらみずさし）

【想定媒体】WEB

<簡体字>

梅花纹水罐（水指）

这件水罐由京烧大师野野村仁清制作而成，京烧是京都的一种著名陶艺风格。这件艺术品水平精湛，是17世纪茶具代表作。因此，它于1950年被指定为日本重要文化财产。

仁清于17世纪中后期活跃于京都。他求学于陶瓷业中心有田（今属佐贺县）和瀬户（今属岐阜县），之后得到宗和流茶道创始人金森宗和（1584–1656）资助，在京都建立了自己的窑炉。金森宗和引导仁清形成了与其茶道理念相契合的风格，并在皇室成员中推荐仁清的作品。

水罐在日语中称为“水指”，在茶会中主要用于盛装清水。人们会将罐中的清水注入水壶来煮茶，并用清水洗涤茶盏。茶会时，东道主将各种用具逐一带到聚会的茶室，最先入场的通常是水指。不过，由于其体积较大，盛水后比较沉重，水指往往会被提前布置在茶室中。这件水指直径为23.4厘米，

罐体的梅树图案采用釉上彩工艺“色絵”，使用此技巧时，陶艺家先将器皿初步上釉烧制，再用彩色釉料绘制图案。随后，作品需在低温下经过第二次烧制，以融合两层釉料。由于釉料在烧制时会融为液体，并因化学反应而变色，陶艺家必须充分了解材料的变化，才能实现预期的效果。

仁清经常使用这种淡米黄色的厚底釉作为基础，并在上面施以彩绘。此件作品以红、黑、绿釉描绘梅树及花朵，并以金漆更为清晰地勾勒出轮廓。部分花朵用银漆装点，当颜料逐渐氧化，就会呈现出略带光泽的灰色。可以看到，仁清巧妙地用浅绿点染枝干，惟妙惟肖地勾勒出覆满青苔的老树虬枝。

仁清也影响了加贺藩（今石川县和富山县）九谷烧的发展。掌控加贺藩的前田家族及其家臣十分欣赏仁清作品的风格，并收藏了仁清的多件作品。

<繁体字>

色繪梅花圖平水指

這件水罐（在日語中稱為「水指」）由京燒（京都著名的陶藝風格）大師野野村仁清製作，作為 17 世紀的茶具代表作品，其展現了極高的藝術性，因此在西元 1950 年時獲指定為日本重要文化財。

仁清在 17 世紀中後期活躍於京都，他在陶瓷業中心有田（今屬佐賀縣）和瀨戶（今屬岐阜縣）學習技術，之後在宗和流茶道創始人金森宗和（西元 1584–1656）的資助下，於京都建立了自己的窯。金森宗和不僅引導仁清發展與自身茶道哲學相契合的風格，也向皇室成員引薦仁清的作品。

水罐在日語中稱為「水指」，在茶會（亦稱「茶之湯」）中作為盛裝清水之用。罐中清水會倒入水壺來煮茶，以及用於洗滌茶盞。茶會主辦人會將各種用具逐一帶到聚會的茶室，最先入場的通常是水指。不過，由於體積較大，盛水後比較沉重，水指往往會提前佈置在茶室中，像這件水指的直徑便有 23.4 公分。

水罐上的梅樹圖案採用了釉上彩（在日語中稱為「色繪」）的技法，陶藝家會在製作時先將器皿初步上釉燒製，再用彩色釉料繪製圖案。接著作品必須經過第二次低溫燒製，才能融合兩層釉料。由於釉料在燒製時會熔為液體，並因化學反應而變色，陶藝家必須充分了解材料的變化，才能呈現出想要的效果。

仁清經常以這種厚層的淡米黃色釉為基底，然後在上方繪製顏色豐富的圖案。比如在製作這件作品時，他以紅、黑、綠釉描繪梅樹及梅花，並以金漆更清晰地勾勒出輪廓。部分花朵點上銀漆，當顏料逐漸氧化就會呈現出略帶光澤的灰色。另外可以注意到仁清巧妙地在枝幹上運用淺綠色，維妙維肖地勾勒出樹皮覆滿地衣的老樹。

仁清也影響了加賀藩（今石川縣和富山縣）九谷燒的發展。掌控加賀藩的前田家及其家臣十分欣賞仁清的作品風格，並收藏了多件他的作品。

<日本語仮訳>

梅花の水指

京都の代表的な陶磁器である京焼の大成者、陶芸家・野々村仁清の作の水指である。1950年、17世紀の茶器の典型として、その優れた芸術性から重要文化財に指定された。

仁清は、17世紀半ばから後半にかけて京都で活躍した人物である。有田（佐賀県）や瀨戸（岐阜県）で学んだ後、京都で宗和流茶道の開祖・金森宗和（1584-1656）の支援のもと自らの窯を構えた。宗和は、仁清の作風と宗和の茶道哲学を一致させるように指導し、朝廷の人々に仁清の作品を広めることに貢献した。

水指は「ミズサシ」と呼ばれ、茶の湯で使われる。釜に水を入れたり、茶碗をすすぐためのものである。お茶会の際、亭主が茶室に道具を持ち込むスタイルでは、水差しを先に持ち込むのが一般的だ。しかし、水差しはサイズが大きく、水を入れるとかなりの重さになるため、あらかじめ茶室に置かれることが多い。これは直径 23.4cm の大きさである。

この作品の梅の木は、釉薬をかけて焼いた作品の上に色釉をかける「色絵」技法で作られたものである。その後、再び低温で焼成し、2 層の釉薬を融合させる。絵の具が化学反応によって発色したり、焼成中に液体になったりするため、陶芸家は材料の挙動をよく理解していなければ、思うような効果を得ることができない。

仁清は、色彩豊かな図柄を表現するために、このようなやや黄みを帯びた白色の釉薬をベースとして厚く塗り重ねることが多かった。この作品では、梅の木と花が赤、黒、緑の釉薬で描かれ、金彩で立体感を出している。花の部分には、時間の経過とともに酸化する銀彩を使って、少し光沢のあるグレーを表現している。また、仁清が幹や枝に施された緑色の濃淡で、樹木の樹皮に付着した地衣類を巧みに表現している。

また、仁清は加賀藩（現在の石川県、富山県）の九谷焼の発展にも大きな影響を与え、藩主前田家やその家臣たちは仁清の作風を深く称賛し、多くの作品を所蔵した。

【タイトル】石川県立美術館 / 重要文化財 色絵梅花図平水指（いろえはいかずひらみずさし）

【想定媒体】アプリ QR コード

<簡体字>

梅花纹水罐（水指）

这件水罐由京烧陶艺大师野野村仁清制作。1950 年，这件工艺精湛的 17 世纪茶具代表作被指定为日本重要文化财产。

仁清于 17 世纪中后期活跃于京都。他求学于陶瓷业中心有田（今属佐贺县）和瀬户（今属岐阜县），之后得到宗和流茶道创始人金森宗和（1584–1656）资助，在京都建立了自己的窑炉。之后，仁清因善于制作各类茶具而在王公贵族中闻名。这件水罐也属于茶器，在茶会时主要用于盛装清水。人们会将罐中的清水注入水壶来煮茶，以及洗涤茶盏。

梅树图案采用釉上彩“色絵”工艺。制作时，陶艺家先将器皿初步上釉烧制，再用彩色釉料绘制图案。随后，作品需在低温下经过第二次烧制，以融合两层釉料。

仁清经常使用这种淡米黄色的厚底釉作为基础，并在上面施以彩绘。此件作品以红、黑、绿釉描绘梅树及花朵，并以金漆更为清晰地勾勒出轮廓。可以看到，仁清巧妙地用浅绿点染枝干，惟妙惟肖地勾勒出覆满青苔的老树虬枝。他在部分花朵上点上银漆，当颜料逐渐氧化后，就会呈现出略带光泽的灰色。

<繁体字>

色繪梅花圖平水指

這件水罐（水指）由京燒陶藝大師野野村仁清製作，作為 17 世紀的茶具代表作，其展現了精湛的工藝技巧，因此在西元 1950 年獲指定為日本重要文化財。

仁清在 17 世紀中後期活躍於京都，他在陶瓷業中心有田（今佐賀縣）和瀬戶（今岐阜縣）學習技術，之後在宗和流茶道（茶之湯）創始人金森宗和（西元 1584–1656）的資助下，於京都建立了自己的窯。之後仁清因善於製作各類茶道用具，在王公貴族間享負盛名，這件水指也是其中之一。這類容器在茶會中作為盛裝清水之用，罐中清水會倒入水壺來煮茶，以及用於洗滌茶盞。

水指上的梅樹圖案採用了釉上彩（在日語中稱為「色繪」）的技法，陶藝家會在製作

時先將器皿初步上釉燒製，再用彩色釉料繪製圖案。接著作品必須經過第二次低溫燒製，才能融合兩層釉料。

仁清經常以這種厚層的淡米黃色釉為基底，然後在上方繪製顏色豐富的圖案。比如在製作這件作品時，他以紅、黑、綠釉描繪梅樹及梅花，並以金漆更清晰地勾勒出輪廓，還可以注意到仁清巧妙地在枝幹上運用淺綠色，維妙維肖地勾勒出樹皮覆滿地衣的老樹。部分花朵點上銀漆，當顏料逐漸氧化，就會呈現出略帶光澤的灰色。

<日本語仮訳>

梅花の水指

この水指は、京焼の大成者の一人である野々村仁清の作である。17世紀の茶器の原型ともいえるべき優れた作品として、1950年に重要文化財に指定されている。

仁清は、17世紀半ばから後半にかけて京都で活躍した。有田（佐賀県）や瀬戸（岐阜県）の窯元で学んだ後、宗和流茶道の創始者である金森宗和（1584-1656）の支援を受けて京都に窯を構えた。その後、仁清はこの水指などの茶器を制作し、朝廷にその名を広めた。茶会ではこれらの容器に、釜に水を入れたり、茶碗をすすぐための清水を入れておく。

この梅の木のデザインは、釉薬をかけて焼いた作品の上に色釉をかける「色絵」技法で作られたものである。その後、再び低温で焼成し、2層の釉薬を融合させる。

仁清は、色彩豊かな図柄を表現するために、このようなやや黄みを帯びた白色の釉薬をベースとして厚く塗り重ねることが多かった。この作品では、梅の木とその花は、赤、黒、緑の釉薬で描かれ、金彩で変化をつけている。また、幹や枝に施された緑色の濃淡で、樹皮に付着した地衣類を巧みに表現していることにも注目していただきたい。花の一部には、時間の経過とともに酸化する銀彩を使い、やや光沢のある灰色を表現している。

【タイトル】石川県立美術館 / 重要文化財 四季耕作図（しきこうさくず）

【想定媒体】WEB

<簡体字>

久隅守景《四季耕作图》（17世纪）

这对屏风展现了17世纪乡村中人们一年四季的生活景象，于1967年被指定为日本重要文化财产，作者为画家久隅守景（约1620–1690）。久隅原本属于兴盛于15至17世纪的绘画流派——“狩野派”，他师从江户时代（1603–1867）狩野派名家狩野探幽（1602–1674），后来逐步脱离了该流派，发展出自己独特的绘画风格，以描绘日本乡村生活见长。

以耕作、制丝等农事活动为主题的绘画类型源自中国，称为“鉴戒画”，于室町时代（1336–1573）在日本开始流行。创作这种绘画一部分是为了让统治者了解平民百姓的日常生活，提醒他们体察民生疾苦。通过这些画作，统治者可以看到领地内的人们正在辛勤劳作，从而对百姓心怀怜悯。这些图画还可能用于教育武士阶层的儿童。

包括久隅守景在内，许多日本艺术家创作的耕织图高度模仿中国的作品，甚至连房屋和人物服饰也不例外。但这对屏风呈现了日本而非中国的风俗，因此引人注目。其中的风景、建筑、服饰和活动都展现了17世纪日本的生活。

另一个独特之处在于，屏风上四季的顺序是按照从左至右的方向排列。日本传统的文字、挂轴或屏画均按照从右至左的方向布局，但在这件作品中，久隅将四季常规的排列顺序颠倒，在左侧描绘了春季的内容，而将冬季安排在画卷最右侧。

每座屏风各有六扇。前两扇描绘春季，图中房屋和树顶上覆盖着积雪。接下来的几扇画面里积雪消失，可以看到有人在桥上行走、下河捕鱼或在田间劳作。第五扇是夏日人们在树荫下纳凉。场景随后转入秋季，人们辛勤地在田野间劳动。第二座屏风的末尾几扇是人们为过冬做准备的忙碌场景，画面上可以看到嬉戏的儿童，还有一名官员在收获季节之后收取年租。

<繁体字>

久隅守景《四季耕作圖》（17世紀）

這對屏風描繪17世紀鄉村中人們一年四季的生活景象，於西元1967年獲指定為日本重要文化財，由畫家久隅守景（約西元1620–1690）所作。久隅原本屬於15至17世紀間

興盛的繪畫流派「狩野派」。他師從江戶時代（西元 1603–1867）狩野派最活躍的名家之一狩野探幽（西元 1602–1674），後來脫離了該流派，發展出自己獨特的繪畫風格，以描繪日本鄉村生活見長。

描繪農事活動或製絲等鄉村生活的繪畫類別源自中國，稱為「鑑戒畫」，在日本於室町時代（西元 1336–1573）期間流行。這種繪畫的部分創作目的，則是為了讓統治者們了解平民百姓的日常生活，提醒他們體察民間疾苦。透過這些畫作，統治者可以看到領地內的人們正在辛勤工作，進而體恤百姓。另外，這些畫作也可用於教育武士階級的兒童。

包括久隅守景在內，許多日本藝術家創作的鄉村生活圖高度模仿中國的作品，甚至直接在作品中沿用中國式的房屋和人物服飾，但這對屏風呈現了日本而非中國的風俗，成為這件作品獨特之處。其中的風景、建築、服飾和活動都展現了 17 世紀日本的生活。

另個獨特之處在於屏風上四季的順序，按照由左至右的方向排列。日本傳統的文字、掛畫及屏風畫均採由右至左的方向，但在這件作品中，久隅將四季的排列順序顛倒，在左側描繪春季的內容，並將冬季安排在畫卷最右側。

每座屏風各有六扇，前兩扇描繪春季，圖中的樹梢和屋頂上覆蓋著積雪。接下來的幾扇畫中積雪不再，可以看到有人在過橋、下河捕魚或在田間耕作。第五扇描繪夏季時人們在樹下乘涼，隨後場景轉入秋季，人們更加辛勤地在田野間工作。第二座屏風的最後幾扇描繪為過冬做準備的忙碌場景，可看到嬉戲的孩童，還有一名官員在收穫季後收取年租。

<日本語仮訳>

四季耕作図、久隅守景（1600 年代）作

17 世紀の村人の四季折々の風習を生き生きと描いた、一對の屏風である。1967 年に重要文化財に指定された。作者は画家・久隅守景（1620 年頃 – 1690 年頃）。久隅はもともと、15 世紀から 17 世紀にかけて隆盛を極めた狩野派の画家である。久隅は、江戸時代に最も活躍した狩野派の画家のひとりである狩野探幽（1602-1674）に師事したが、やがて退塾し、日本の農村生活を描いた独自の画風を確立した。

農耕や絹の生産など農村の生活を描いた絵は、中国から伝わった絵画のジャンルである。「鑑戒画」と呼ばれ、室町時代（1336-1573）に流行した。これらの絵画は、統治者に領民の日常生活を教え、その苦勞を思い起こさせるという目的もあった。絵を通して領民が懸命に働いていること、思いやりをもって接するべきことを知ることができた。また、武士階級の子供たちの教育にも使われたかもしれない。

久隅をはじめとする多くの日本画家は、中国の農村生活を模倣し、中国風の衣服や住居を身にま

とった人々も描いている。しかし、この屏風が注目されるのは、中国ではなく、日本の風習を描いている点である。この屏風に描かれている風景、建物、衣服、風習は、17世紀の日本人の生活を表現している。

また、季節が左から右へと順に描かれているのもユニークな点である。日本の文字や絵巻物、屏風絵は、右から左へと進んでいくのが伝統的なスタイルである。この作品では、季節の順序を逆にして、左から春、そして右に冬へと続いている。

屏風はそれぞれ6面ある。最初の2面の春の絵では、雪が梢や屋根を覆っている。次の数面では雪が消え、橋を渡る人、川で釣りをする人、畑で働く人が描かれている。5画面目の人物は、夏の木の下でくつろいでいる。そして場面は秋へと移り、人々は畑仕事に精を出している。2画面目の最後の面では、冬支度の喧騒が描かれている。子供たちが遊び、収穫期になると役人が年貢を取り立てる姿が見られる。

【タイトル】石川県立美術館 / 重要文化財 四季耕作図（しきこうさくず）

【想定媒体】アプリ QR コード

<簡体字>

久隅守景《四季耕作图》（17 世纪）

这对屏风展现了江户时代 (1603–1867) 平民百姓一年四季的生活景象，于 1967 年被指定为日本重要文化财产。屏风共两座，每座各有六扇，出自 17 世纪画家久隅守景（约 1620–1690）之手。久隅原本属于声名显赫的“狩野派”，但后来逐渐形成了自己独特的绘画风格，以描绘日本乡村生活见长。

展现乡村生活的绘画是中国画的一大类别，目的在于提醒皇帝更加体恤黎民百姓的艰辛。这种题材在室町时代 (1336–1573) 传入日本，而日本画家们不但借鉴了整体的主题，连其中的景物、服饰和风俗也仿效中国作品。久隅的《四季耕作图》则富有原创性，屏风上所绘的景物、建筑及活动都不再照搬中国画作，而是反映了 17 世纪日本的面貌。

另一个独特之处在于，此件屏风上的四季顺序是按照从左至右的方向排列。日本传统的文字、挂轴或屏画均应按照从右至左的方向来阅读或观看。但在这件作品中，久隅将四季常规的排列顺序颠倒，在左侧描绘了春季的内容，而将冬季安排在画卷最右侧。

<繁体字>

久隅守景《四季耕作圖》（17 世紀）

這對屏風描繪江戶時代（西元 1603–1867）平民百姓一年四季的生活景象，於西元 1967 年獲指定為日本重要文化財。屏風共兩座，每座各有六扇，出自 17 世紀畫家久隅守景（約西元 1620–1690）之手。久隅原本屬於兼具名聲與影響力的狩野派，但後來逐漸發展出自己獨特的繪畫風格，並以描繪日本鄉村生活見長。

在中國畫中，鄉村生活畫是一種特殊的類別，目的在於提醒皇帝體恤百姓的艱辛。隨著鄉村生活畫在室町時代（西元 1336–1573）傳入日本，日本畫家們不但借鑑了整體的主題，連其中的景物、服飾和風俗也仿效中國作品。久隅的《四季耕作圖》則富有原創性，不再沿用中國畫作中的景物、建築與活動，而是反映了 17 世紀日本的面貌。

另個獨特之處在於，此件屏風上的四季順序按照由左至右的方向排列。日本傳統的文字、掛畫及屏風畫均依照由右至左的方向來閱讀或觀看，但在這件作品中，久隅將四季的排列順序顛倒，在左側描繪春季的內容，並將冬季安排在畫卷最右側。

<日本語仮訳>

四季耕作図、久隅守景（1600年代）作

江戸時代（1603-1867）の庶民の風習を四季折々に描いた一對の屏風である。1967年に重要文化財に指定された。この屏風は、17世紀の画家・久隅守景（1620年頃－1690年頃）が制作したもので、それぞれ6面で構成されている。久隅はもともと名門・狩野派に属していたが、その後、日本の農村生活を描いた独自の画風を確立した。

中国美術において、農村の生活を描いた絵は特殊なジャンルであった。天皇が労働する民衆を思いやるためのものであった。室町時代（1336-1573）にこのジャンルが日本に伝わると、一般的なテーマだけでなく、中国の風景や衣服、風習なども再現された。久隅の「四季耕作図」は、中国から日本へ舞台を移した点で独創的であった。この屏風に描かれている風景、建物、活動などは、いずれも17世紀の日本を描写している。

また、この作品のユニークな点は、季節が左から右へと順番に描かれていることだ。日本の文字、絵巻物や屏風絵は、右から左へ見るのが伝統的な見方である。この作品では、季節の順序を逆にして、左から春、そして右に冬を描いている。

【タイトル】石川県立美術館 / 古九谷（こくたに）

【想定媒体】WEB

<簡体字>**古九谷**

九谷烧是以缤纷的釉上彩而闻名的瓷器，历史上经历了两个不同的发展阶段。“古九谷”指 17 世纪后半叶烧制的早期九谷烧。此后，九谷烧的生产中断了约 100 年。直到 19 世纪初，人们再度开始制作生产九谷烧。这一时期的成品称为“再兴九谷”。

17 世纪中叶，人们在当时的九谷村（位于现在的石川县南部）发现了瓷石。有了这种烧制瓷器必需的珍贵原料，九谷烧由此诞生。九谷村隶属大圣寺藩，由前田家族的一个分支统治。当时，全日本只有南部九州的有田在生产真正的瓷器，而由于政治动荡，从中国进口的瓷器也有所减少。因此，前田家族觉察到这正是发展本地瓷器产业的良机。

1640 年左右，九谷建起了瓷窑。1630 年代，有田的陶瓷匠人们开始制作红、黄、绿、蓝、黑等各色釉上彩作品。深受有田烧的影响，古九谷烧则以绿、黄、紫、藏青、红五种颜色为特征，现今被称为“九谷五彩”。图案一般采用黑色描边，再施以厚釉，从而呈现出浓墨重彩的效果。

古九谷可以根据图案花纹大致分为两类。“色绘”（釉上彩）使用五种颜色，因此也被称为“五彩手”。釉上彩图案有一定程度留白，可以看见瓷器底色。相比之下，“青手”完全不使用红色，仅用其他两到三种颜色完全覆盖瓷器表面。黄色为底配以精致花纹是“青手”常见的一种设计。

1700 年左右，九谷烧生产中断，“古九谷”时代至此结束。由于窑炉规模和生产时期有限，古九谷真品存世量相对较少。不过，由于后世陶艺家再现了当时的风格并加以发展，使得古九谷的色彩和图案仍是现代石川陶瓷工艺的重要组成部分。

<繁体字>**古九谷**

九谷燒是以繽紛的釉上彩而聞名的瓷器，在歷史上經歷了兩個不同的發展階段。「古九谷」指 17 世紀後半葉燒製的早期九谷燒。此後，九谷燒的生產中斷了約 100 年，一直到 19 世紀初，人們才再度開始製作九谷燒，此時期的作品稱為「再興九谷」。

17世紀中葉，人們在當時的九谷村（位於現在的石川縣南部）發現了瓷石。由於取得了這種燒製瓷器必需的珍貴原料，人們於是得以製作九谷燒。九谷村隸屬於大聖寺藩，由前田家的一個分支統治。當時，全日本只有南部九州的有田在生產真正的瓷器，而且由於政治動盪，從中國進口的瓷器也有所減少。在這種情況下，前田家認為正是發展當地瓷器產業的好機會。

西元1640年左右，九谷建立了瓷窯。1630年代，有田的陶藝家們開始製作紅、黃、綠、藍、黑等各色的釉上彩作品。古九谷深受有田燒影響，則以綠、黃、紫、藏青、紅五種顏色為特徵，現今被稱為「九谷五彩」。古九谷的圖案一般以黑色描邊，再施以厚釉，呈現出大膽而濃厚的色彩效果。

現今古九谷可大略分為兩類風格。「色繪」（釉上彩）九谷燒運用全部五種顏色，因此也稱為「五彩手」。釉上彩圖案有一定程度的留白，可以看見瓷器底色。相較之下，「青手」九谷燒則完全沒有使用紅色，僅用其他兩到三種顏色完全覆蓋瓷器表面，其中一種常見設計是以黃色為底上搭配精緻的花紋。

西元1700年左右，因生產中斷，古九谷階段至此結束。由於窯爐規模和生產時期有限，現存的古九谷真品相對較少。不過，後世的陶藝家將古九谷風格再造並進一步發展，其色彩和圖案仍是現代石川陶瓷工藝重要的一部分。

<日本語仮訳>

古九谷

九谷焼は、色鮮やかな上絵付けが特徴である。その歴史は、2つの異なる時代から成り立っている。古九谷は、17世紀後半に作られた初期の作品を指す。その後、約100年間、生産が途絶えた。19世紀初頭に九谷焼は復活し、「再興九谷」と呼ばれるようになった。

九谷焼は17世紀半ば、九谷村（現在の石川県南部）で磁器に必要な希少な材料である陶石が発見されたことから始まった。この地域は、前田家の分家が治める大聖寺藩の一部であった。当時、日本で本格的な磁器を生産していたのは南九州の有田だけであり、中国からの輸入は政情不安により減少していた。そこで、前田家は磁器の地場産業を生み出す機会を見出した。

1640年頃、九谷に窯が建てられた。有田では、1630年代から赤、黄、緑、青、黒などの釉薬が上絵付けに用いられるようになり、九谷の作風はその影響を強く受けている。古九谷の上絵付けは、緑、黄、紫、紺、赤の同じような配色が特徴で、現在では「九谷五彩」と呼ばれている。絵柄の輪郭を黒で描き、釉薬を厚くかけることで、深みのある大胆な色彩を表現するのが一般的であった。

現在、古九谷は大きく2つに分類されている。色絵は5色すべてを使うため、五彩手とも呼ばれ

ることがある。色絵では素地の白地が少し見えるのが特徴である。これに対し、青手は赤を除いた、他の 2～3 色だけを使い、磁器の表面を完全に覆い尽くすようにデザインされることが多い。青手では、精巧な模様が施された黄色地のものが多い。

1700 年頃に生産が終了し、古九谷の時代は終わりを告げた。窯の規模や生産期間が限られていたため、真の古九谷は比較的少数しか残っていない。しかし、後世の陶芸家たちがその作風を再現し、発展させたため、古九谷の色彩やモチーフは、現代の石川県の陶芸に欠かせないものとなっている。

【タイトル】石川県立美術館 / 古九谷（こくたに）

【想定媒体】アプリQRコード

<簡体字>**古九谷**

九谷烧瓷器以其浓艳的釉上彩闻名，以绿、黄、紫、藏青、红五种颜色，即“九谷五彩”所绘制。

九谷烧的历史分为两个不同的发展阶段。其中，“古九谷”指的是约 1655 年至 17 世纪末生产的瓷器。古九谷烧产自前田家族所辖地区的一处瓷窑。瓷窑停产后，九谷烧过了大约一个世纪才迎来复兴。这一断层时期后问世的九谷烧作品称为“再兴九谷”。

古九谷的艺术风格可粗略地分为两类。“色绘”（釉上彩）运用五种颜色，因此也被称为“五彩手”。釉上彩图案有一定程度留白，可以看见瓷器底色。相比之下，“青手”九谷烧完全不使用红色，仅用其他两三种颜色完全覆盖瓷器表面。黄底上装饰繁复花纹是“青手”九谷烧的典型特征。

鉴于原始窑炉的规模和生产时期有限，古九谷烧真品存世量相对较少。不过，古九谷烧的风格对后世陶艺工匠影响深远，其色彩和图案至今仍是石川陶瓷业传统的重要组成部分。

<繁体字>**古九谷**

九谷燒以綠、黃、紫、藏青、紅的「九谷五彩」繪製，是一種以濃豔的釉上彩而聞名的瓷器。

九谷燒的歷史分為兩個不同的發展階段，其中「古九谷」指的是大約在西元 1655 年至 17 世紀末生產的瓷器。古九谷燒產自一處由統治當地的前田家所資助的瓷窯，在其停止生產後，九谷燒過了大約一個世紀才迎來復興。至於此斷層時期過後問世的九谷燒作品則稱為「再興九谷」。

現今粗略地將古九谷分為兩類風格。釉上彩（在日語中稱為色繪）九谷燒運用全部五種顏色，因此也稱為「五彩手」。釉上彩圖案有一定程度的留白，可以看見瓷器底色。相較之下，「青手」九谷燒則完全沒有使用紅色，僅用其他兩到三種顏色完全覆蓋瓷器表面，其典型特徵為在黃底上裝飾繁複的花紋。

有鑑於原始窯爐的規模和生產時期有限，現存的古九谷真品相對較少。不過，古九谷的風格對後世陶藝工匠影響深遠，其色彩和圖案至今仍是石川陶瓷業傳統重要的一部分。

<日本語仮訳>

古九谷

九谷焼は、緑、黄、紫、紺、赤の5色の九谷五彩と呼ばれる色彩で、大胆な上絵付けが特徴的な陶磁器である。

九谷焼の歴史は、大きく2つの時代に分けられる。古九谷とは、1655年頃から17世紀末頃までに作られた磁器を指す。古九谷は、前田家の支援のもと、窯で作られたものである。窯が製造を中止した後、約100年ぶりに九谷焼が再興された。それ以降に作られたものを「再興九谷」と呼んでいる。

古九谷は現在、大きく2つに分類されている。色絵は五色すべてを使うので、五彩手と呼ばれることもある。色絵は素地の白地が少し見えるのが特徴である。これに対し、青手は赤を除き、他の2～3色だけを使い、表面を完全に覆い尽くすようにデザインされることが多い。特に、黄色を基調とした精巧な模様が青手の特徴である。

窯は規模も生産時期も限られていたので、真の古九谷は比較的少数しか残っていない。しかし、後世の陶芸家に与えた影響もあり、その色調や文様は石川県の陶芸を語る上で欠かせないものとなっている。

【タイトル】石川県立美術館 / 百工比照 (ひやくこうひしょう)

【想定媒体】WEB

<簡体字>

百工比照：一位藩主的装饰工艺样品集

百工比照是17世纪的收藏集，收藏了代表日本各地装饰工艺水平的小物件、样品和图纸。该收藏集是加贺藩（今石川县和富山县）第5代藩主前田纲纪（1643-1724）的心血结晶，由11个箱子组成，共有2000多件藏品，展现了17世纪顶尖的工艺技术。

收藏者

前田纲纪学识渊博，严谨认真，非常重视收藏书籍、文献和装饰工艺美术品。和同时代的许多人一样，他深受中国宋明理学家朱熹（1130-1200）“格物致知”思想的影响。纲纪十分认同这一哲学思想，认为仔细观察装饰工艺品（源于人类创造力的“知识”形式）有助于了解构成物质世界的基本模式。他别出心裁地将这一思想运用到装饰工艺美术品之中，令百工比照成为了独一无二的珍贵资料。

为了收集这些工艺品，纲纪请工匠为自己制作样品，并在前田家族位于加贺和江户（现为东京）的宅邸中收集物品。他甚至会从其他藩购买物品。如果物品的主人拒绝出售，他便会请人复刻或绘制图纸。百工比照中大约85%至90%的藏品是纲纪亲自收集的。在他逝世之后，他的后人继续扩充藏品。然而，11号箱缺乏条理性，可能是临时的“分类箱”，这表明收藏并未完成或未得到完整编目。

内容

该样品集收藏了各种工艺品，包括“蒔绘”漆艺装饰品、金属制品、木制品、和纸、皮革、布料，以及服装和家族纹章（家纹）的图纸。

1号箱收藏了蒔绘样品等物品，其中尤其引人注目的是“梨子地涂色”方形样品，这是早期的蒔绘样式之一。这种样式采用了一种名为梨子地（意指梨子皮的表面）的细腻金粉，这种金粉由大小不规则的颗粒组成。将金粉撒在漆器上时，会形成类似于沙梨皮的纹理。梨子地蒔绘方形样品的排列方式展现了蒔绘工艺和色调的发展变化。因此，这些样品不仅可以充当工匠的实用教学工具，也可以充当特定设计和蒔绘样式的参考资料。

2号箱收藏了许多彩色武具图纸，其中包括各种阵羽织的图纸。这种外套可穿在铠甲外面，为武士遮风挡雨。纲纪可能本想直接收集阵羽织，但是由于它们是武士主人的身份

等级象征，所以根本无法获取。因此，他转而请人仔细地将这些阵羽织画在纸上，并将这些图纸收录进百工比照收藏集。

许多箱子中收藏了实际使用过的物品，而不是样品。3号箱和4号箱收藏了金属配件，5号箱和6号箱收藏了装饰钉隐（遮盖钉子的装饰品），7号箱则收藏了设计精巧的抽屉把手。其余的箱子中装有建筑顶饰、木料和皮革样品、抽屉把手和钉隐的图纸、设计图，以及尚未妥善整理和存放的物品。

6号箱中的黄金和珐琅钉隐尤为精美。有些钉隐形似装有鸟或昆虫的笼子，另一些则设计成花朵在笼中盛开的造型。这些钉隐曾是前田家族江户宅邸中的室内装饰品，之后被收藏进了百工比照。

<繁体字>

百工比照：一名藩主的裝飾工藝樣品集

百工比照是17世紀的收藏集，網羅了代表日本各地裝飾工藝的小物件、樣品和圖紙。這個收藏集是加賀藩（今石川縣和富山縣）第5代大名（藩主）前田綱紀（西元1643–1724）的心血結晶，由11個箱子組成，共有2,000多件收藏品，展現了日本17世紀頂尖的工藝技術。

收藏家

前田綱紀學識淵博，嚴謹認真，非常重視收藏書籍、文獻和裝飾品與工藝品。與同時代的許多人一樣，他深受中國宋明理學家朱熹（西元1130–1200）的「格物致知」思想影響，並從朱熹的哲學思想出發，認為仔細觀察裝飾工藝品（源於人類創造力的「知識」形式），有助於了解構成物質世界的基本模式。他將朱熹的哲學思想應用到裝飾品與工藝品上，展現不同於一般人的獨特思維，讓百工比照成為獨一無二的珍貴資料。

為了完成樣品集，綱紀不但請工匠為自己製作樣品，還從前田家位於加賀和江戶（今東京）的宅邸收集物品。他甚至會從其他藩購買物品，如果主人拒絕出售，他便會請人拷貝或繪製圖紙。百工比照中大約85%至90%的收藏品，由綱紀親自收集，在他逝世之後，由他的後人繼續增加。然而，11號箱缺乏條理性，人們認為這可能是臨時的「分類箱」，顯示物品並未收集齊全或沒有完整編目。

內容物

百工比照收藏了「蒔繪」漆藝裝飾品、金屬製品、木製品、和紙、皮革和布料的樣品，以及服裝和家紋的圖紙等。

1號箱收藏了蒔繪樣品等物品，其中特別引人注目的是「梨子地塗色」方形樣品，這是早期的蒔繪樣式之一。這種樣式採用一種由大小不規則的細小顆粒所組成的金粉，稱為

「梨子地」、字面意思為梨子皮的表面。將金粉撒在漆器上時，會形成類似於梨子皮的紋理。梨子地蒔繪方形樣品排列的方式，展現蒔繪工藝和色調的發展變化。因此，這些樣品不僅能成為工匠實用的學習資源，也可以當作蒔繪特定設計和樣式的參考資料。

2 號箱收藏了許多武具的彩色圖紙，其中包括各種陣羽織。所謂陣羽織是可穿在鎧甲外面的外衣，為武士遮風擋雨。綱紀原本可能想直接收集陣羽織，但因它們象徵所有者的武士身分階級，所以根本無從入手，於是他轉而請人仔細地將這些陣羽織畫在紙上，並將得到的圖紙納入百工比照收藏集。

許多箱子中收藏了實際使用過的物品，而不是樣品。3 號箱和 4 號箱收藏了金屬配件，5 號箱和 6 號箱收藏了裝飾用的釘隱（隱藏釘子的裝飾品），7 號箱則收藏了設計精巧的抽屜把手。其餘的箱子則裝有建築頂飾、木頭和皮革樣品、抽屜把手和釘隱的圖紙、設計圖，以及尚未妥善整理和存放的物品。

6 號箱中的黃金和珙琅釘隱尤為精美。有些釘隱形似裝著鳥或昆蟲的籠子，另一些則設計成花朵在籠中盛開的造型。這些釘隱曾是前田家族江戶宅邸中的室內裝飾品，之後納入百工比照收藏集中。

<日本語仮訳>

百工比照：大名の工芸標本集

百工比照は、17 世紀に日本各地の工芸品を表す小物や見本、図版を集めたものである。加賀藩（現石川県、富山県）5 代藩主・前田綱紀（1643-1724）の発案によるものである。1600 年代の優れた工芸技術を示す 11 箱、計 2,000 点余りを収蔵している。

収集家

前田綱紀は几帳面な学者で、書物や文献、工芸品などの収集に努めた。同時代の多くの人と同様、綱紀は中国の新儒学者・朱熹（1130-1200）の「格物致知」という思想に強く影響を受けていた。この思想に基づき、綱紀は装飾工芸（人間の創造性に由来する「知」）をよく観察することで、物理的な世界を構成する基本的なパターンを見出すことができると信じていた。この思想を工芸品に応用したのは綱紀にとって珍しく、「百工比照」は他に類を見ない貴重な資料となった。

このコレクションは、綱紀が職人に見本を作らせたものである。また、加賀や江戸（現在の東京）の前田家の邸宅から収集したものもある。また、他藩のものを購入し、売却を拒否された場合は、複製や挿絵を描いてもらったりもした。コレクションの約 85～90%は綱紀が集めたもので、綱紀の死後も子孫によって拡充された。しかし、第 11 号箱は一時的な「仕分け箱」であったと思われ、整理されていないことから、完全な目録作成には至らなかったと考えられる。

内容

蒔絵、金工、木工、和紙、皮革、布の見本や、衣服、家紋などの図を収録している。

第 1 号箱には、蒔絵の見本などが収められている。特に注目すべきは、初期の蒔絵様式のひとつである梨子地塗色類の升目である。梨地とは、不規則な大きさの粒子からなる「梨地」と呼ばれる細かい金粉を使用する。漆塗りの下地に粉を蒔くことで、梨の皮のような質感を表現するものである。梨地蒔絵の升目は、塗り方と色調の変遷を示すように配置されている。このように、蒔絵のデザインやスタイルの参考になるとともに、職人の教材としても役立ったであらう。

第 2 号箱には、風雨を防ぐために鎧の上に羽織る陣羽織など、色鮮やかな武具の図版が多数収められている。綱紀は陣羽織そのものを収集したかったのだろうが、陣羽織は武士の身分の象徴でもあり、入手は不可能であった。そこで綱紀は、陣羽織を丁寧に紙に描かせ、その図版を百工比照のコレクションに収めたのである。

箱の中には、見本ではなく、実際に使用されたものが多く含まれている。第 3・4 号箱は金具、第 5・6 号箱は装飾用の釘隠し、第 7 号箱は複雑なデザインの引き出しの取っ手が入っている。残りの箱には、装飾用のフィニアル、木や革のサンプル、引き出しの取っ手や釘隠しの図面、設計図、また、まだきちんと整理・保管されていないものなどが入っている。

特に、第 6 号箱の金とエナメル製の釘隠しは見事である。鳥や昆虫を入れた鳥かごをイメージしたものや、鳥かごから花が咲いているようなデザインのものもある。この釘隠しは、百工比照に収蔵される以前は、江戸の前田家の邸宅にあった室内装飾品である。

【タイトル】 石川県立美術館 / 百工比照 (ひやくこうひしょう)

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

百工比照：装饰工艺样品集

百工比照是 17 世纪的收藏集，收藏了日本各地具有代表性的装饰工艺美术样品。该收藏集包括展现工艺技术的样品、工艺图和许多小型工艺品。这些藏品于江户时代 (1603–1867) 早期耗费约 50 年间收集，共计 2000 多件。

该收藏集由 11 个箱子组成。前两个箱子主要收藏了经折装书籍，但也有一些抽屉装有木料和漆料样品。其余的箱子包含装有物品和工艺样品的层叠式抽屉。

该收藏集不仅涵盖“蒔绘”漆器、金属制品、木制品、纸张、皮革和布料样品，还纳入了各种羽织和家族纹章（家纹）的图纸。该收藏集中的著名藏品包括 1 号箱中的“梨子地涂色”方形样品，展现了这一早期蒔绘漆艺技术。此外，6 号箱中精致的装饰钉隐（遮盖钉子的装饰品）也是一大亮点，这些钉隐来自前田家族位于江户（今东京）的宅邸。

加贺藩第 5 代藩主前田纲纪 (1643–1724) 筹划创建了百工比照。他学识渊博，严谨认真，非常重视收藏书籍和文献，后来逐渐对装饰工艺美术品产生兴趣。

百工比照中大约 85% 至 90% 的藏品是纲纪亲自收集的，其余藏品则由他的继承人收集。这些藏品中既有纲纪请人制作的样品，也有他从前田家族宅邸收集的物品。他甚至会从其他藩购买物品。如果物品的主人拒绝出售，他便会请人复刻或绘制图纸。

<繁体字>

百工比照：裝飾工藝樣品集

百工比照是 17 世紀的收藏集，網羅了日本各地具有代表性的裝飾與工藝品的樣品，當中包括展現工藝技術的樣品、工藝圖和許多小型工藝品。這些收藏品於江戶時代（西元 1603–1867）早期耗費約 50 年間收集，共計 2,000 多件。

該收藏集由 11 個箱子組成。前兩個箱子主要收藏經摺裝書籍，但也有一些抽屜裝有木頭和漆料樣品。其餘箱子包含裝有物品和工藝樣品的層疊式抽屜。

該收藏集不僅涵蓋「蒔繪」漆器、金屬製品、木製品、紙張、皮革和布料樣品，還納

入各種羽織和家紋の圖紙，著名的收藏品包括 1 號箱中的「梨子地塗色」方形樣品，展現「梨子地塗」這項早期蒔繪漆藝技術。此外，6 號箱中精緻的裝飾釘隱（隱藏釘子的裝飾品）也是一大亮點，這些釘隱來自前田家位於江戶（今東京）的宅邸。

百工比照由加賀藩第 5 代藩主前田綱紀（西元 1643–1724）策劃，他學識淵博，嚴謹認真，非常重視收藏書籍和文獻，後來逐漸對裝飾品與工藝品產生興趣。

百工比照中大約 85%至 90%的收藏品由綱紀親自收集，其餘則由他的後繼者收集。這些收藏品中既有綱紀請人製作的樣品，也有他從前田家宅邸收集的物品。他甚至會從其他藩購買物品，如果主人拒絕出售，他便會請人拷貝或繪製圖紙。

<日本語仮訳>

百工比照：工芸標本集

百工比照は、17 世紀に日本各地の工芸品や美術品の見本を集めたものである。その中には、工芸技法を示す見本や工芸図、工芸小物も多く含まれている。江戸時代前期（1603-1867）の約 50 年間に渡り、合計 2,000 点余りが収集された。

コレクションは 11 箱ある。最初の 2 箱は帖仕立の折本が中心で、木や漆の見本が入った引き出しもある。残りの箱には、品物や工芸品の見本が入った引き出しが積み重ねられている。

蒔絵、金工、木工、紙、皮革、布の見本のほか、羽織や家紋の図版もある。第 1 号箱の、蒔絵の初期技術であるの梨子地塗の角型見本、第 6 号箱の前田家の江戸（現在の東京）の邸宅の精巧な釘隠しなどが見どころである。

百工比照は、加賀藩 5 代藩主・前田綱紀（1643-1724）が考案したものである。几帳面な学者で、書物や文献の収集に努め、後に美術工芸品にも興味を持つようになった。

コレクションの約 85～90%は綱紀が収集したもので、残りは後継者によって収集されたものである。綱紀は見本をつくらせたり、前田家の邸宅から集めたりした。また、他藩から購入し、売却を拒否された場合は、複製や挿絵を描かせることもあった。

【タイトル】 石川県立美術館 / 伝統工芸の技法 (1) 国指定重要無形文化財 工芸技法

「陶芸－釉裏金彩」(ゆうりきんさい)

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

釉裏金彩

“釉裏金彩”是一种较新的釉下彩工艺，用于装饰瓷器，采用裁剪的金箔片和金漆创作图案。2001年，这项工艺被指定为重要非物质文化遗产。

黄金自古以来就被用于装饰瓷器。在中国，早在宋朝(960–1279)就开始用金漆在釉面上绘制纹饰(烧制后绘制)。这类釉上彩样品于17世纪传入日本，于是有田(现今佐贺县)和九谷(现今石川县)的陶艺家开始在自己的设计中加入金漆装饰。随着时间的推移，陶艺家开始改用金箔进行装饰，这种工艺叫做“金襴手”。

大多数的陶瓷釉料经高温烧制后才能呈现出合适的玻璃化程度，而黄金在这样的温度下可能会熔化或变形。因此，金襴手等黄金装饰通常为釉上彩工艺，属于最后的工序，通过低温烧制将装饰图案固定在釉面上。然而，这种工艺下的黄金浮于表面，时间一长容易磨损。

1960年代初，石川县的陶艺家竹田有恒(1888–1976)开发了一种名为釉裏金彩的新工艺。这种工艺将金箔夹在两层透明的低温釉之间，能令金箔免受磨损，并呈现出更柔和的光泽。

釉裏金彩工艺的第一步是烧制带有高温釉的瓷器。然后，陶艺家会将设计图案画在描图纸上，思考如何在约11平方厘米的金箔纸上裁剪下所需的碎片，草拟最佳方案。他们将每片金箔编号，与设计图中的位置相对应。这张脆弱的金箔纸(厚度通常约为一万分之一毫米)被放在两张厚纸之间，纸上画有复制而来的设计图案。之后，陶艺家会亲手将金箔片裁剪下来。更复杂的作品可能需要数百个形状各异的小碎片。接下来，陶艺家会为贴金箔做准备，在瓷器上涂上一层薄薄的低温釉作为黏合剂，并将描图纸上的图案转移到瓷器上。陶艺家会用镊子将小金箔片逐一贴在釉面上。即使是十分微弱的呼吸也足以损坏这种脆弱的材料，所以在这个过程中要非常小心和专注。

贴完金箔后，可以用金漆或金粉进行细节处理，也可以用针状工具在金箔上划出线条。图案干燥之后，陶艺家会再涂上一层透明的低温釉，小心避免让任何金箔片移位，然后将

瓷器送入窑内进行最后的烧制。

陶艺家可以通过釉裹金彩工艺创造丰富多彩的表现形式，例如使用银箔和铂金箔、重叠箔片，或者使用各种厚度的金箔，从而使瓷器表面呈现不同的质感和不透明度。

吉田美统 (1932-) 是另一位与釉裹金彩工艺有关的石川县陶艺家，他于 2001 年被认定为重要非物质文化遗产保持者。

<繁体字>

釉裹金彩

「釉裹金彩」是一種較新的釉下彩工藝，以裁剪的金箔片和金漆製作圖案，用於裝飾陶瓷器。西元 2001 年，這項工藝獲指定為重要無形文化財產。

黃金自古以來就被用作裝飾陶瓷器的材料。在中國，金漆早在宋朝（西元 960–1279）便用於釉上彩（燒製後繪製）。這類釉上彩製品於 17 世紀傳入日本，於是有田（今佐賀縣）和九谷（今石川縣）的陶藝家開始在自己的作品中加入金漆裝飾。一段時間過後，陶藝家們開始改用金箔來裝飾，這種工藝叫做「金襴手」。

大多數的陶瓷釉料必須經過高溫燒製，才能呈現合適的玻璃化程度，但黃金在如此的溫度下可能會熔化或變形。因此，金襴手等黃金裝飾通常以釉上彩技法製作，屬於最後的工序，陶藝家們會用低溫燒製，讓裝飾圖案附著在釉面上。然而在使用這種技法時，黃金靠近釉面，導致時間一久容易磨損。

1960 年代初期，石川縣的陶藝家竹田有恆（西元 1888–1976）研究出一種名為釉裹金彩的新工藝，將金箔夾在兩層透明的低溫釉之間，能使金箔免於磨損，呈現出更柔和的光澤。

釉裹金彩工藝的第一步，從使用了高溫釉燒製的陶瓷器開始，接著陶藝家會將設計圖案畫在描圖紙上，並思考要採用怎樣的方法，才能妥善地從約 11 平方公分的金箔紙剪下所需部分。每片金箔都有一個編號，與設計圖中的位置相對應。這張脆弱的金箔紙厚度通常約為一萬分之一公釐，會被放在兩張有厚度的紙之間，紙上有複製而來的設計圖案，然後陶藝家會親手將金箔片剪下來。更複雜的作品可能需要數百個形狀各異的小金箔片，然後陶藝家準備進入貼金箔的工序，他們會塗上一層薄薄的低溫釉作為黏合劑，並將描圖紙上的圖案轉印到陶瓷器上。陶藝家會用鑷子將小金箔片逐一貼在釉面上，由於金箔片非常脆弱，即使只是微弱的呼吸也可能會導致它損壞，所以在這個過程中必須非常小心和專注。

貼完金箔後，陶藝家可能會用金漆或金粉進行細節處理，或者用針狀工具在金箔上畫出線條。等圖案乾燥完，陶藝家將再塗上一層透明的低溫釉，並特別注意不要讓任何金箔

片移位，然後把陶瓷器送入窯內進行最後的燒製。

陶藝家亦可能會使用銀箔和鉑金箔、各種厚度的金箔，或將箔片層層堆疊，讓陶瓷器表面呈現不同的質感和不透明度，打造各式各樣的釉裏金彩效果。

吉田美統（西元 1932-）是另一位與釉裏金彩工藝有關的石川縣陶藝家，他於西元 2001 年獲認定為重要無形文化財產保持者。

<日本語仮訳>

釉裏金彩

釉裏金彩は、切り出した金箔片と金泥で文様を描く、比較的新しい陶磁器の下絵付け技法である。2001 年に重要無形文化財に指定された。

金は古くから陶磁器の装飾に用いられてきた。中国では古く宋の時代（960-1279）から金彩（焼成後に塗布）が行われていた。日本には 17 世紀に渡来し、有田（現在の佐賀県）や九谷（現在の石川県）の陶芸家たちが金彩を施した作品を制作するようになった。その後、金箔を使うようになり、金欄手と呼ばれる技法に発展した。

金は、釉薬がガラス化する際の高温で溶けたり歪んだりする性質がある。そのため、金欄手などの金装飾は、最終工程で施される上絵付けの技法で、より低温の焼成で封じ込められるのが一般的である。しかし、これでは金が表面近くに残り、時間が経つとすり減りやすくなる。

1960 年代前半、石川県の陶芸家・竹田有恒（1888-1976）は、「釉裏金彩」という新しい技法を開発した。金箔を 2 層の透明な低温釉薬で挟み込むことで、金箔を傷から守り、柔らかな光沢を持たせることができる。

釉裏金彩は、まず高温の釉薬で陶磁器を焼成するところから始める。そして、トレーシングペーパーに絵柄を描き、11 センチ四方の金箔からどのように必要な形を切り出すかを考える。それぞれのピースには、デザイン上の場所に対応する番号が付けられている。厚さ 1 万分の 1 ミリほどの繊細な金箔を、デザインを写し取った 2 枚の厚い紙の間に挟み込む。ピースは手作業で切り出される。複雑な作品になると、何百もの小さな形が必要になることもある。次に、接着剤となる低温釉薬を薄く塗り、トレーシングペーパーからパターンを転写して、陶磁器に貼り付けるための下準備を行う。ピンセットで小さな金箔を一枚一枚貼っていく。息がかかっただけでも傷つきやすいので、細心の注意と集中力が必要となる。

金箔を貼り付けたら、金色の絵の具や金粉を塗り、針のような道具で金箔を引っ掻き、線をひくなどして、細部を描き加えていく。乾燥させた後、透明な低温釉薬で金箔をずらさないように塗り、本焼きをする。

名人は銀箔やプラチナ箔を用い、箔を重ねたり、金箔の厚さを変えて質感や不透明度を変えたりすることで、多彩な釉裏金彩の表現が可能になる。

2001年に重要無形文化財保持者に認定された吉田美統（1932-）も、この「釉裏金彩」技法にゆかりのある石川県の作家である。

【タイトル】 石川県立美術館 / 伝統工芸の技法 (1) 国指定重要無形文化財 工芸技法

「陶芸－釉裏金彩」(ゆうりきんさい)

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

釉裏金彩

“釉裏金彩”是一种较新的釉下彩工艺，采用裁剪的金箔片和金漆创作图案来装饰瓷器。2001 年，这项工艺被指定为重要非物质文化遗产。

自 17 世纪以来，黄金被用来装饰日本瓷器，但通常会在釉上彩工艺中运用。这种工艺下的黄金浮于表面，随着时间的推移容易磨损。1960 年代初，石川县的陶艺家竹田有恒 (1888–1976) 开发了一种釉下彩工艺，在釉面下使用金箔和金漆进行装饰。这种工艺后来被称作釉裏金彩。他的方法不仅能让黄金免受磨损，还能使其呈现出更柔和的光泽。

釉裏金彩工艺的第一步是从脆弱的金箔上裁剪下图案碎片，这种材料一旦处理不当就很容易撕裂或起皱。然后，陶艺家会在事先烧制好的高温釉瓷器上涂一层薄薄的釉，并仔细地将金箔片贴在上面。此外，还可以用金漆和金粉进行细节处理，或者用针状工具在金箔上划出线条。图案干燥之后，陶艺家会小心地涂上最后一层透明的釉，并用低温烧制瓷器，使黄金图案夹在几层釉之间。

吉田美统 (1932–) 是另一位以釉裏金彩工艺而闻名的石川县陶艺家，他于 2001 年被指定为重要非物质文化遗产保持者。

<繁体字>

釉裏金彩

「釉裏金彩」是一種較新的釉下彩工藝，以裁剪的金箔片和金漆製作圖案來裝飾陶瓷器。西元 2001 年，這項工藝獲指定為重要無形文化財產。

自 17 世紀以來，黃金便是用於裝飾日本陶瓷的材料，通常以釉上彩技法製作，但使用這種技法時，黃金相當靠近表面，導致時間一久容易磨損。1960 年代初，石川縣的陶藝家竹田有恆（西元 1888–1976）研究出一種使用金箔和金漆進行裝飾的釉下彩工藝，不僅能讓黃金免於磨損，還能使其呈現出更柔和的光澤，這種技法後來稱為釉裏金彩。

使用釉裏金彩工藝時，第一步是從金箔片剪下圖案，不過金箔相當脆弱，一旦處理不

當就很容易破損或起皺。陶藝家接著會在事先燒製好的高溫釉陶瓷器上塗一層薄薄的釉料，並仔細地將金箔片貼在上面，還可能會用金漆和金粉進行細節處理，或者用針狀工具在金箔上畫出線條。等到圖案乾燥之後，陶藝家會小心地塗上最後一層透明的釉料，並用低溫燒製陶瓷器，使黃金圖案包裹在幾層釉之間。

吉田美統（西元 1932-）是另一位以釉裏金彩工藝聞名的石川縣陶藝家，他於西元 2001 年獲指定為重要無形文化財產保持者。

<日本語仮訳>

釉裏金彩

釉裏金彩は、切り出した金箔片と金泥で文様を描く、比較的新しい陶磁器の下絵付け技法である。2001 年に重要無形文化財に指定された。

金は 17 世紀頃から日本の陶磁器に用いられてきたが、上絵付けの技法が一般的で、表面に近い部分であるため、経年変化による摩耗に弱かった。1960 年代初頭、石川県の陶芸家、竹田有恒（1888-1976）は下絵付けに金箔や絵の具を用いる、「釉裏金彩」と呼ばれる技法を開発した。この技法は、金箔を傷から守り、柔らかな光沢を与えるものである。

釉裏金彩は取り扱いを誤ると破れやシワが生じやすい繊細な金箔からデザインの一部を切り出るところから始まる。それをあらかじめ高温の釉薬で焼いた陶器に、薄い釉薬で丁寧に接着していく。さらに金泥や金粉を使ったり、針のような道具で金地に線を引いたりすることで、細部まで表現することができる。絵柄が乾いたら、最後に透明な釉薬を丁寧に塗り、低温で焼成すると、何層もの釉薬の間に金色の絵柄が挟まれた状態になる。

2001 年に重要無形文化財保持者に認定された人間国宝の吉田美統（1932-）も、この「釉裏金彩」の技法で有名な石川県の作家である。

【タイトル】石川県立美術館 / 伝統工芸の技法 (2) 国指定重要無形文化財 工芸技法

「陶芸—彩釉磁器」(さいゆうじき)

【想定媒体】WEB

<簡体字>

彩釉瓷器

“彩釉”是陶艺家三代德田八十吉 (1933–2009) 发明的现代上釉工艺，其特点是将色彩鲜艳的釉料融合在一起，打造出细腻的渐变效果。1997 年，这项工艺被指定为重要非物质文化遗产。

三代德田八十吉出生于石川县小松市的著名九谷烧世家，他的祖父初代德田八十吉 (1873–1956) 是家族的掌舵者。初代八十吉是著名的陶艺家，拥有精湛的釉上彩技术，并重新设计出 17 世纪古九谷烧的釉料。不仅如此，他还创造了许多新的釉色。三代八十吉同样精通釉料的运用，在 22 岁时就首次入选著名的日本美术展览会。

三代八十吉对古九谷的“青手”釉上彩风格尤其感兴趣。这种风格的特点是不使用红色，而是采用深绿色、黄色、紫色和藏青色的设计。过去，他一直尝试将这些釉料应用于更现代的美学创作。在用比平时更高的温度烧制瓷器时，他偶然发现釉料不仅会与素胚融合，还会与其他釉料互相融合，形成朦胧的光泽层次，这种效果常被比作极光或超新星。三代八十吉将这种迷幻且具有流动感的渐变釉面命名为彩釉。

彩釉瓷器大胆突破了传统的形式和图案，但又以九谷烧原初便运用的传统釉料配合为基础，从传统九谷烧中脱颖而出。石川县立美术馆收藏了三代八十吉创作的 9 件彩釉作品，这些独具风格的作品不仅反映了他鲜明的现代感，也展现了他创造的各种创新表现形式。

1997 年，为了表彰三代八十吉的贡献，彩釉被指定为全新类别的重要非物质文化遗产。同年，因他致力于保护和推广彩釉，被指定为重要非物质文化遗产保持者。三代八十吉于 2009 年逝世，但他将彩釉工艺传授给了长女，后者继承了家族名号，成为四代八十吉 (1961–)。

<繁体字>

彩釉瓷器

「彩釉」是由第三代德田八十吉（西元 1933–2009）這位陶藝家發明的現代上釉工藝，其特點是將色彩鮮豔的釉料融合在一起，打造出細膩的漸變效果。西元 1997 年，這項工藝獲指定為重要無形文化財產。

第三代德田八十吉出生於石川縣小松市著名的九谷燒世家，他的祖父初代德田八十吉（西元 1873–1956）是家族的掌門人，以精湛的釉上彩技術聞名於世，並改良了 17 世紀古九谷的釉料。不僅如此，他還打造了許多新的釉色。第三代八十吉同樣精通釉料的運用，年僅 22 歲時便首次入選著名的日本美術展覽會。

第三代八十吉對古九谷的「青手」釉上彩風格特別感興趣，這種風格的特點是不使用紅色，而是採用深綠色、黃色、紫色和藏青色的設計。他過去一直嘗試將這些釉料，用於更具現代風格的美學創作。在用比平常高的溫度燒製瓷器時，第三代八十吉偶然發現釉料不僅會與素胚，還會與其他釉料互相融合，形成朦朧的色彩層次，這種效果常被比作極光或超新星。他將這種迷幻且具流動感的漸變釉面命名為彩釉。

彩釉瓷器大膽突破了傳統的形式和圖案，但又以九谷燒原初便運用的傳統釉料配合為基礎，因此從傳統的九谷燒中脫穎而出。石川縣立美術館收藏了第三代八十吉創作的 9 件彩釉作品，其中不僅反映了他對於現代風格鮮明的感觸，也展現了他創造的各種創新藝術表現形式。

西元 1997 年，為了表彰第三代八十吉的貢獻，彩釉獲指定為全新類別的重要無形文化財產。同年，由於第三代八十吉致力於保護和推廣彩釉這項上釉工藝，獲指定為重要無形文化財產保持者。第三代八十吉於西元 2009 年過世，但他將彩釉工藝傳授給了長女，其長女繼承了家族名號，成為第四代八十吉（西元 1961–）。

<日本語仮訳>

彩釉磁器

彩釉は、陶芸家・三代目徳田八十吉（1933-2009）が考案した現代釉薬の技法で、色鮮やかな釉薬が溶けて細かいグラデーションを描くのが特徴である。1997年に重要無形文化財に指定された。

三代目徳田八十吉は石川県小松市の九谷焼の名家に生まれた。祖父は、初代徳田八十吉（1873-1956）。初代八十吉は、17世紀の古九谷の釉薬を改良（古い作品を研究して技術を

復元) したことで知られている。また独自の色彩を数多く生み出している。三代目八十吉も同様の釉薬を得意とし、若干 22 歳で日本美術展覧会に初入選を果たしている。

三代目八十吉は、古九谷の青手の上絵付に特に関心を寄せていた。このスタイルは、赤を使わず、緑、黄、紫、紺などの濃い釉薬を使うのが特徴だ。三代目八十吉は、この釉薬を現代的な美学で表現することを試みていた。そして、通常よりも高い温度で焼成したところ、釉薬がビスクと融合するだけでなく、互いに溶け合い、オーロラや超新星に例えられるような霞がかかった色のスペクトルになることを、偶然にも発見したのである。八十吉は、このような流動的で幻想的なグラデーションを、彩釉と名付けた。

彩釉は、九谷焼の原点である伝統的な釉薬の配合に基づきながら、伝統的な形やモチーフから大きく逸脱した、九谷焼の中でも突出した存在である。石川県立美術館には、三代目八十吉の特徴的な彩釉作品 9 点が収蔵されており、彼の現代的な感性と斬新な表現の幅を見ることができる。

1997 年、八十吉の功績が評価され、彩釉はまったく新しい重要無形文化財に指定された。同年、彩釉の保存と普及を目的として重要無形文化財の保持者に認定された。三代目八十吉は 2009 年に死去したが、彩釉の技術を長女に伝え、長女が四代目八十吉 (1961-) を襲名した。

【タイトル】 石川県立美術館 / 伝統工芸の技法（2）国指定重要無形文化財 工芸技法

「陶芸—彩釉磁器」（さいゆうじき）

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

彩釉瓷器

“彩釉”是三代德田八十吉（1933–2009）发明的现代上釉工艺，其特点是将色彩鲜艳的釉料融合在一起，打造出细腻的渐变效果。1997 年，这项工艺被指定为重要非物质文化遗产。

三代八十吉是德田家族的第三代传人，致力于推动九谷烧艺术的发展。他师从祖父初代八十吉（1873–1956），后者重制了 17 世纪古九谷烧中的失传釉料。初代八十吉凭借精湛的釉上彩技艺而著称，而他的孙子延续了这一传统。

三代八十吉对古九谷的“青手”釉上彩尤其感兴趣。这种风格的特点是不使用红色，而是采用深绿色、黄色、紫色和藏青色的釉料。他尝试将这些釉料应用于更现代的美学创作。在这个过程中，他偶然发现了一种迷幻且具有流动感的渐变釉面，并将其命名为彩釉。这种效果是通过用比平时更高的温度烧制瓷器，使釉料不仅与素胚融合，还与其他釉料互相融合。最终，釉面会呈现出朦胧的光泽层次，这种效果常被比作极光或超新星。

1997 年，因致力于保护和推广彩釉，三代八十吉被指定为重要非物质文化遗产保持者。他于 2009 年逝世，但他将彩釉工艺传授给了长女，后者继承了家族名号，成为四代八十吉（1961–）。

<繁体字>

彩釉瓷器

「彩釉」是第三代德田八十吉（西元 1933–2009）發明的現代上釉工藝，其特點是將色彩鮮豔的釉料融合在一起，打造出細膩的漸變效果。西元 1997 年，這項工藝獲指定為重要無形文化財產。

第三代八十吉是德田家族的第三代傳人，致力於推動九谷燒藝術的發展。他的祖父初代八十吉（西元 1873–1956）再現了 17 世紀古九谷失傳的釉料，並憑藉精湛的釉上彩技藝聞名於世，而他的孫子第三代八十吉拜其為師，延續了這項傳統。

第三代八十吉對古九谷的「青手」釉上彩特別感興趣，這種風格的特點是不使用紅色，而是採用深綠色、黃色、紫色和藏青色的釉料。他嘗試將這些釉料用於更具現代風格的美學創作，期間偶然發現了一種迷幻且具流動感的漸變釉面，並將其命名為彩釉。這種效果是利用比平時更高的溫度燒製瓷器，讓釉料不僅與素胚，還與其他釉料互相融合。最終，釉面會呈現出朦朧的色彩層次，這種效果常被比作極光或超新星。

西元 1997 年，由於第三代八十吉致力於保護和推廣彩釉這項上釉工藝，獲指定為重要無形文化財產保持者。他於西元 2009 年過世，但將彩釉工藝傳授給了長女，其長女繼承了家族名號，成為第四代八十吉（西元 1961-）。

<日本語仮訳>

彩釉磁器

彩釉は、三代目徳田八十吉（1933-2009）が考案した現代釉薬の技法で、鮮やかな色の釉薬が融合して細かいグラデーションを生み出すのが特徴である。1997 年に重要無形文化財に指定された。

三代目八十吉は、徳田家の三代目として九谷焼の技術を発展させた。17 世紀の古九谷で使われていた釉薬を再現した祖父の初代八十吉（1873-1956）に師事した。初代八十吉は、上絵付けの技術でも知られ、その技は孫に受け継がれた。

三代目八十吉は、古九谷の青手の上絵付に特に関心を寄せていた。このスタイルは、赤を使わず、緑、黄、紫、紺などの濃い釉薬を使うのが特徴だ。この釉薬を現代風にアレンジできないかと試行錯誤していたところ、偶然にも、八十吉が後に彩釉と呼ぶ幻想的な色のグラデーションを発見したのである。通常より高い焼成温度で焼くことで、釉薬がビスクと融合するだけでなく、互いに溶け合うことで効果を発揮する。その結果、オーロラや超新星に例えられるような、ぼんやりとした色のスペクトルが生まれるのである。

1997 年、三代目八十吉は重要無形文化財保持者に認定され、彩釉の保存と普及に努めた。2009 年に死去したが、彩釉の技術を長女に伝え、長女が四代目八十吉（1961-）を襲名した。

【タイトル】 石川県立美術館 / 伝統工芸の技法 (3) 国指定重要無形文化財 工芸技法

「漆芸－蒔絵」(まきえ)

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

蒔絵

“蒔絵”是一种在漆器上创作图案的工艺，操作技法是将金粉等金属粉末撒在刚涂好的柔软漆面上。蒔絵一词的意思是“撒画”，也可以指用这种工艺装饰的物品。它是日本漆器中最常用的装饰工艺之一。

8 世纪时，日本漆器上开始出现蒔絵图案。在接下来的几个世纪，这项工艺扩散至日本全国各地。蒔絵既可以用于装饰屏风和佛坛等大型装饰品，也可以用于发饰和文具箱等小型家居用品。制作蒔絵工艺品需要昂贵的材料和专业技艺，因此在这项工艺诞生后的大部分时间里，只有上流阶层才能负担得起。然而，随着 18 世纪富商阶层的出现，平民也开始从光顾蒔絵艺术家。新客户的涌现不仅扩大了这一艺术形式的应用范围，还丰富了它的表现形式。19 世纪中叶，日本取消了许多国际贸易限制，这一举措促进了出口业务增长和艺术交流。在这种环境之下，蒔絵工艺不断发展，在应用艺术和创意艺术领域均收获了国际认可。

蒔絵工艺品的技法分为 3 大类：研出蒔絵、平蒔絵及高蒔絵。所有漆器的制作方法都是在器物上涂抹多层漆（漆树的汁液）。研出（磨光）蒔絵的技法是在分层涂漆的过程中创作金属图案，之后再涂上一层漆将图案覆盖。待漆器表面变硬之后，对其进行打磨，直至金属图案显露出来，并与周围的漆面齐平。而在平蒔絵工艺中，艺术家会用漆在漆器成品上刷出图案，然后将金属粉撒在图案上，这样粉末就只会附着在湿漆上。艺术家只使用少量的漆，从而让图案与漆面基本保持齐平。相比之下，高蒔絵工艺则是特意让图案凸起。艺术家首先会在平滑的器物表面上选择一些区域，在上面涂几层混有木炭或黏土粉的漆，令这些区域凸起，从而制作出高浮雕图案，然后将金属粉撒在上面。

除了金和银之外，艺术家还会用各种其他金属与合金来打造不同的渐变色彩。例如，“青金”是金和银的混合物，可以呈现出更浅的金色；“赤铜”则是金和铜的混合物，会呈现出偏红的铜色，久而久之还会形成黑紫色的铜锈。此外，颗粒大小不同的粉末可以打造出不同的质感和光泽度。

蒔絵工艺中使用的漆和金属粉不仅昂贵，而且容易散落，因此艺术家开发了多种专用

工具来操纵这些材料。其中两种最重要的工具是粉筒和爪盘。粉筒是一端包有丝绸或纱布的竹筒，用于均匀地撒粉。爪盘则是戴在拇指上的小调色盘，用于调配液体漆。此外，艺术家还会用精细的刷子以便在扫去多余的粉末时不破坏图案。

在石川县的工艺品中，蒔绘工艺通常会与其他装饰工艺结合在一起运用。这些工艺包括“平文”（用裁剪成不同形状的金属片装饰，而不使用粉末）、“卵壳”（用碎蛋壳装饰）、“螺钿”（镶嵌珍珠母）和“沉金”（在刻纹中镶嵌黄金）。石川县立美术馆的许多漆器展品都结合了这几种工艺。

1955年，蒔绘被指定为重要非物质文化遗产。第一位被认定为重要非物质文化遗产保持者的蒔绘艺术家是出生于石川县的松田权六（1896–1986）。此外，还有3位石川县民先后于1982年、1985年和2010年成为蒔绘工艺的保持者，他们分别是大场松鱼（1916–2012）、寺井直次（1912–1998）和中野孝一（1947–）。

<繁体字>

蒔繪

蒔繪是一種在漆器上創作圖案的工藝，作法是將金粉等金屬粉末，灑在剛塗好的柔軟漆面上。蒔繪一詞既為「灑粉的繪畫」，也可指以蒔繪工藝裝飾的物品。在日本漆器的裝飾工藝中，蒔繪是最常使用的工藝之一。

8世紀時，日本漆器上開始出現蒔繪圖案。在接下來的幾個世紀，這項工藝擴散到日本各地。蒔繪既可以用於裝飾屏風和佛壇等大型裝飾品，也可以用於髮飾和文具盒等小型家居用品。製作蒔繪工藝品需要昂貴的材料和專業技藝，因此在蒔繪工藝誕生後，多半時候僅有上層階級才負擔得起。然而隨著富商階級於18世紀出現，平民也開始光顧蒔繪工匠。湧現新客戶不僅擴大了蒔繪工藝的應用範圍，還豐富了它的表現形式。19世紀中葉，日本取消了許多國際貿易限制，使得出口貿易增加，藝術交流也更為頻繁。在這種環境下，蒔繪工藝不斷發展，於應用藝術和創意藝術領域均得到國際認可。

蒔繪工藝品的技法分為研出蒔繪、平蒔繪及高蒔繪的三大類。製作所有漆器時，都會在器物上塗抹層層的漆（漆樹汁液）。研出（拋光）蒔繪技法是在塗上一層又一層漆的過程中，先打造金屬圖案，之後再塗上一層漆將其覆蓋。等到漆器表面變硬之後，再進行打磨，直到金屬圖案顯露出來，並與周圍的漆面齊平。至於平蒔繪工藝，則是以漆在漆器成品上刷出圖案，然後將金屬粉灑在圖案上，於是粉末就只會附著在濕漆上。過程中只會使用少量的漆，讓圖案與漆面基本保持齊平。相較之下，高蒔繪工藝則是特意讓圖案凸起。首先，工匠會在平滑的器物表面上選擇一些區域，在上面塗幾層混有木炭或黏土粉的漆，令這些區域凸起，以製作出有高浮雕的圖案，然後在上面灑金屬粉。

除了金和銀之外，工匠還會運用各種其他金屬與合金來打造不同的漸變色彩。例如，「青金」是金和銀的混合物，可以呈現出更淺的金色；「赤銅」則是金和銅的混合物，會呈現出偏紅的銅色，久而久之還會形成黑紫色的銅鏽。此外，顆粒大小不同的粉末可以打造出不同質感和光澤度。

蒔繪工藝中使用的漆和金屬粉不僅昂貴，而且容易飛散，因此工匠們開發出多種專用工具來操縱這些材料，當中最重要兩個工具是粉筒和爪盤。粉筒是一端包著絲綢或紗布的竹筒，用於均勻地灑粉；爪盤則是戴在拇指上的小調色盤，用於調配液體漆。此外，工匠還會用細軟的刷子，在刷去多餘的粉末時避免破壞圖案。

在石川縣的工藝品中，蒔繪工藝通常會和「平文」（用裁切成不同形狀的金屬片裝飾，而不是粉末）、「卵殼」（用碎蛋殼裝飾）、「螺鈿」（鑲嵌珍珠母）和「沉金」（在刻紋中鑲嵌黃金）等其他裝飾工藝一同使用。石川縣立美術館展出的許多漆器都結合了這幾項工藝。

西元 1955 年，蒔繪獲指定為重要無形文化財產。首位獲認定為重要無形文化財產保持者的蒔繪工匠，則是出生在石川縣的松田權六（西元 1896–1986），另外還有 3 位石川縣民先後於西元 1982 年、1985 年和 2010 年成為蒔繪工藝的保持者，他們分別是大場松魚（西元 1916–2012）、寺井直次（西元 1912–1998）和中野孝一（西元 1947–）。

<日本語仮訳>

蒔繪

蒔繪とは、塗りたての柔らかい漆器に金粉などの金属粉を塗り、文様を表現する技法である。また、蒔繪とは、このように装飾された作品を指すこともある。日本の漆器では、最も一般的な装飾技法のひとつである。

蒔繪は、8 世紀ごろから日本の漆器に見られるようになり、その後、数世紀にわたって全国に広まった。屏風や仏壇などの大型の装飾品から、髪飾りや筆箱などの家庭用品まで、その用途は多岐にわたる。蒔繪は高価な材料と専門的な技術を必要とするため、その歴史の大半は富裕層だけが手に入れることができた。しかし、18 世紀に入り裕福な商人層が出現すると、蒔繪師をひいきにするようになった。このような新しい顧客の流入により、アートの用途や表現の幅が広がっていったのである。19 世紀半ばになると、日本は国際貿易に対する多くの制限を撤廃し、輸出や芸術の交流が盛んになった。このような状況の中、蒔繪は進化を続け、応用芸術だけではなく、創造的な芸術として国際的に認知されるようになったのである。

蒔繪の技法は、大きく研ぎ出し蒔繪、平蒔繪と高蒔繪の 3 つに分類される。漆器はすべて、漆（漆の木の樹液）を何層にも塗り重ねて作られる。研ぎ出し蒔繪は、漆を塗り重ねる途中で金彩を

施し、さらに漆を塗り重ねる。漆が固まったところで、周囲の漆と同じ高さになるように磨き上げ、デザインを浮かび上がらせる。平時絵は、完成した作品の上に漆で文様を刷り込む。その上に金属粉を蒔き、濡れた漆にだけ付着させる。漆は少量しか使用しないので、文様はほぼ平坦に仕上がる。一方、高時絵は意図的に盛り上げたデザインである。高時絵は、平滑な面に炭や粘土の粉を混ぜた漆を何層にも塗り重ねることで、部分的に盛り上げていく。これにより、高浮き彫りのイメージを作り出し、その上に金属粉を塗布する。

金や銀のほか、さまざまな金属や合金を用いて、色のグラデーションを表現する。例えば、金と銀を混ぜた青金（あおきん）は明るい金色を生成するが、金と銅を混ぜた赤銅（しゃくどう）は赤銅色で、時間が経つと黒紫色の緑青（ろくしょう）を帯びることがある。また、粒の大きさが異なる粉を使うことで、質感や光沢を変化させることができる。

高価で飛散しやすい蒔絵の漆や金属粉を自在に操るために、作家はいくつかの専用道具を開発した。その代表的なものが「粉筒」と「爪盤」。「粉筒」は竹筒の片側に絹やガーゼを被せて、粉を均一に蒔くための、「爪盤」は液体漆用の親指に取り付ける小さなパレットである。絵柄を崩さないように余分な粉を払い落とすための繊細な刷毛もある。

石川県の工芸品では、蒔絵のほかいくつかの技法が併用されることが多い。平文（粉ではなく切って加工した金属を用いる）、卵殻（卵殻を砕いたもので装飾する）、螺鈿（螺鈿細工）、沈金（金をはめ込む）などである。石川県立美術館には、これらの技法を組み合わせた漆器が多く展示されている。

蒔絵は 1955 年に重要無形文化財に指定され、最初の重要無形文化財保持者は石川県出身の松田権六（1896-1986）である。このほかにも、石川県出身の 3 人が 1982 年、1985 年、2010 年に蒔絵の保持者に認定されている。その 3 人は大場松魚（1916-2012）、寺井直次（1912-1998）、と中野孝一（1947-）。

【タイトル】 石川県立美術館 / 伝統工芸の技法 (3) 国指定重要無形文化財 工芸技法

「漆芸－蒔絵」(まきえ)

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

蒔絵

蒔絵是一种漆器装饰工艺，操作技法是将金粉等金属粉末撒在刚涂好的柔软漆面上。1955年，这项工艺被认定为重要非物质文化遗产。

早在8世纪，艺术家就开始运用蒔絵工艺进行装饰，主要对象是社会和宗教上流阶层。随着漆器的客户群不断扩大，蒔絵的工艺和设计也变得多元化并不断发展，特别是在商业繁荣发展的18世纪，以及国际交流日益频繁的19和20世纪。

蒔絵一词的意思是“撒画”，操作技法是先在硬化的漆面上用湿漆刷出图形，然后撒上金属粉。粉末会附着在新涂的漆上，形成图案或纹样。蒔絵装饰可以嵌入底漆，与漆面齐平，也可以采用高浮雕的形式，具体取决于所运用的技巧。

蒔絵艺术家研究出了许多方法来丰富自己的艺术。除了金和银，他们可能会使用其他金属与合金来打造不同的色彩。使用颗粒大小不同的粉末则可以打造出各种质感和光泽度。艺术家还会将蒔絵工艺和其他相关工艺结合，比如“卵壳”（用碎蛋壳装饰）和“螺钿”（镶嵌珍珠母），从而让自己的设计呈现出纯白色或彩虹般的光泽。石川县立美术馆的许多漆器展品都结合了这几种工艺。

<繁体字>

蒔繪

蒔繪是一種漆器裝飾工藝，作法是將金粉等金屬粉末，灑在剛塗好的柔軟漆面上。西元1955年，這項工藝獲指定為重要無形文化財產。

早在8世紀，工匠們便開始運用蒔繪工藝，主要為社會和宗教領域的上層階級打造裝飾品。隨著漆器的客群不斷擴大，蒔繪的工藝和設計也變得多元並不斷發展，特別是在商業繁榮發展的18世紀，以及國際交流日益頻繁的19和20世紀。

蒔繪一詞的意思是「灑粉的繪畫」，作法是先硬化了的漆面上刷上濕漆以製作形狀，然後再灑上金屬粉。粉末會附著在新塗的漆上，形成圖案或紋樣。根據所運用的工藝，蒔繪裝飾可能會嵌入底漆，與漆面齊平，也可能會呈現高浮雕的樣式。

蒔繪工匠們為了讓作品更加豐富，還研究出許多方法。除了金和銀，他們可能會使用其他金屬與合金來打造不同的色彩，並以顆粒大小不同的粉末，打造出各種質感和光澤度；他們還會將蒔繪工藝和「卵殼」（用碎蛋殼裝飾）和「螺鈿」（鑲嵌珍珠母）等其他相關工藝結合，為作品增添純白色或彩虹般的光澤。石川縣立美術館展出的許多漆器都結合了這幾項工藝。

<日本語仮訳>

蒔繪

蒔繪は、漆器に用いられる装飾技法で、塗りたての柔らかい漆の上に金粉などの金属粉を塗るものである。1955年に重要無形文化財に指定された。

蒔繪の歴史は古く、8世紀頃には主に社会的・宗教的な権力者のメンバーのために用いられていた。特に18世紀の商業ブーム、19世紀から20世紀にかけての国際交流の進展により、漆器が他の顧客層にも普及するにつれ、技法やデザインは多様化し、進化を遂げた。

蒔繪とは、固まった漆の表面に、濡れた漆で形を描き、その上に金属粉を蒔いて作られる。塗りたての漆に粉が付着し、絵柄が出来上がる。蒔繪は技法によって、下地漆の中に埋め込むもの、表面と同じ高さのもの、高浮き彫りのものなどがある。

蒔繪師はその芸術を多様化するために、さまざまな方法を開発してきた。金や銀だけでなく、他の金属や合金を用いて様々な色を表現することもある。また、粒の大きさが異なる粉を使うことで、様々な質感や光沢に変化を持たせることもできる。蒔繪に卵殻（卵殻を砕いたもので装飾する）や螺鈿（螺鈿細工）を組み合わせることで、純白の輝きや虹色の輝きを加えることもできる。石川県立美術館には、これらの技法を組み合わせた漆器が数多く展示されている。

【タイトル】石川県立美術館 / 伝統工芸の技法 (4) 国指定重要無形文化財 工芸技法
「漆芸—沈金」(ちんきん)

【想定媒体】WEB

<簡体字>

沉金

沉金是一种漆器装饰技法，操作技法是在硬化的漆上刻出细槽，然后将金粉或金箔填入其中。它是令石川县漆器声名远扬的传统装饰技法之一。

这技法起源于中国宋朝 (960–1279)，中文名为戩金。戩金工艺品于室町时代 (1392–1573) 传入日本，现存于京都大德寺宝物馆中的作品就是证明。本地工匠对这些工艺品进行了研究，并采用了这项技法。最终，这项工艺扩散至日本全国各地。

沉金一词的意思是“沉下的黄金”，操作技法是用名为“沉金凿”的金属凿在硬化的漆器上雕刻出线条或圆点。工匠会亲自制作凿子，用磨刀石在刃口处打磨出自己想要的形状。不同形状的刃口（圆弧状、棱角分明、尖利或粗糙等），及使用凿子的力道可以打造出不同的效果。例如，使用三角凿雕刻时，在中途施加比开始和结束时更大的力，就可以打造出竹叶一般的锥形。雕刻竹竿的直线条时，可以使用凿身狭窄且呈刀片状、刃口略微弯曲的凿子，而尖头凿则可用于增加细节和纹理。由于漆面上的不当划痕或雕错之处无法修复，因此雕刻时要十分小心。

雕刻好图案后，艺术家会在上面涂上一层薄薄的湿漆。然后，要用传统的手工纸（和纸）擦拭漆面，吸收多余的漆，只在凹槽中留下少量的漆。接着，艺术家会在图案上贴金箔或撒金粉，并用一点棉絮轻轻按压固定。金属只会附着在凹槽中的湿漆上。片刻之后，艺术家会用手掌或指尖擦去多余的金属，此时光彩夺目的图案便会显露出来，和漆面形成鲜明的对比。

为了打造出色彩变化，艺术家会使用银、铂金或其他金属。叠加碳粉等材料可以使色调变深或变浅。此外，还可以用朱漆或黑漆代替金属粉，将其填入雕刻的图案中。

1955 年，沉金被认定为重要非物质文化遗产。这项工艺与石川县有着紧密的联系，尤其是轮岛市。该市诞生了多位重要非物质文化遗产保持者——前大峰 (1890–1977)、前史雄 (1940–) 和山岸一男 (1954–)，分别于 1955 年、1999 年和 2018 年获得了这一称号。

<繁体字>

沉金

沉金是一種漆器裝飾技法，作法是在硬化的漆上刻出細槽，然後將金粉或金箔填入其中。它是令石川縣漆器聲名遠播的傳統裝飾技法之一。

這技法起源於中國宋朝（西元 960–1279），中文稱為戩金。戩金工藝品於室町時代（西元 1392–1573）傳入日本，現存於京都大德寺寶物館的藏品便能證明這點。日本當地的工匠研究了這些工藝品，並運用當中的技術，最終使得這項工藝擴散到日本各地。

沉金一詞的意思是「沉下的黃金」，作法是用名為「沉金鑿」的金屬鑿，在硬化的漆器上雕刻出點或線。工匠們會親自製作鑿子，用磨刀石在刃口處磨出想要的形狀。不同形狀的刃口（圓弧狀、稜角分明、尖利或粗糙等）與使用鑿子的力道可製造出不同效果。例如，使用三角鑿雕刻時，在中途施加比開始和結束時更大的力氣，就能打造出竹葉般的錐形。雕刻竹竿的直線時，可以使用鑿身狹長且呈刀片狀、刃口略微彎曲的鑿子，尖頭鑿則能用於增加細節和紋理。由於不當劃痕或雕錯之處無法修復，因此工匠在雕刻時需要非常小心。

雕刻好圖案後，工匠會在上面塗一層薄薄的濕漆，然後用傳統的手工紙（和紙）擦拭漆面、吸掉多餘的漆，僅在凹槽中留下少量的漆。接著，工匠會用一點棉絮將金箔或金粉輕輕點在圖案上，金屬只會附著在凹槽中的濕漆。待一段時間後，工匠會用手掌或指尖擦去多餘的部分，此時光彩奪目的圖案便會顯露出來，和漆面形成鮮明的對比。

為了打造出色彩變化，工匠們會使用銀、鉑金或其他金屬，並疊加碳粉等材料，使色調變深或變淺，還會用朱漆或黑漆代替金屬粉，將其填入雕刻的圖案中。

西元 1955 年，沉金獲指定為重要無形文化財產。這項工藝與石川縣有著緊密的關係，尤其是輪島市誕生了分別於西元 1955 年、1999 年和 2018 年獲認為重要無形文化財產保持者，依序是前大峰（西元 1890–1977）、前史雄（西元 1940–）和山岸一男（西元 1954–）。

<日本語仮訳>

沈金

沈金とは、漆を硬化させたものに細かい溝を彫り、そこに金粉や箔を充填して装飾する技法である。

石川県の漆器の名声を支えている伝統的な装飾技法のひとつである。

この技法は、中国では鎗金と呼ばれ、宋代（960-1279）に生まれた。日本には室町時代（1392-1573）に鎗金（そうきん）が輸入され、京都の大徳寺の宝物館に現存するものがその例である。その技法を学んで取り入れた地元の職人たちが、やがて全国に広めていった。

沈金とは「沈んだ金」という意味で、固まった漆器に「沈金ノミ」という金属製のノミで線や点を彫り込んでいくものである。職人たちは、砥石を使い、刃先の形状を整えながら、自分だけのノミを作る。丸みを帯びたもの、角ばったもの、鋭く尖ったもの、粗いものなど、形状の違いや力の入れ具合によって、さまざまな効果が得られる。例えば、笹の葉のような先が細い形は、角ノミを使い、切り始めと切り終わりよりも、途中を強く押すことで作ることができる。竹稈の直線的なラインは、刃先が少し曲がったナイフのような細い刃物で彫り、ピンポイントに削られたノミは、細かい部分や質感を加えることができる。漆は傷や失敗を修復することができないので、細心の注意が必要である。

彫り上げたデザインは、漆で薄く覆っていく。次に、伝統的な手作りの紙（和紙）で表面を拭き、余分な漆を吸収させ、溝の部分にほんの少し残していく。そして金箔または金粉を綿毛のようなもので叩いて塗る。金属は溝の濡れた漆にのみ付着し、しばらくして手のひらや指先で余分な部分を拭き取ると、漆地とは対照的にデザインが輝き出す。

銀やプラチナなどの金属を使い、色のバリエーションをつけることもできる。また、炭の粉などを重ねて、色を濃くしたり薄くしたりすることもできる。金属粉の代わりに朱漆や黒漆で彫文様を埋めるバリエーションもある。

沈金は 1955 年に重要無形文化財に指定された。石川県、特に輪島市との結びつきが強く、重要無形文化財保持者を数人輩出している。1955 年、1999 年と 2018 年に、前大峰（1890-1977）、前史雄（1940-）、山岸一男（1954-）が認定されている。

【タイトル】 石川県立美術館 / 伝統工芸の技法（4）国指定重要無形文化財 工芸技法
「漆芸—沈金」（ちんきん）
【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

沉金

沉金是一种漆器装饰技法，操作技法是在硬化的漆上刻出图案，然后将金粉或金箔填入其中，打造精美的设计。1955 年，这项工艺被认定为重要非物质文化遗产。

沉金一词的意思是“沉下的黄金”，工艺技法起源于中国宋朝（960–1279）。沉金工艺品于室町时代（1392–1573）传入日本，工匠因此可以进行研究并再现这一技法。在中文里，这项技法叫做戩金。

沉金工艺的操作技法是用名为沉金凿的金属凿在硬化的漆器上雕刻出线条或圆点。工匠会亲自制作凿子，用磨刀石在刃口处打磨出自己需要的形状。不同形状的刃口（圆弧状、棱角分明、尖利或粗糙等）和使用凿子时的力道可用于打造不同的效果。艺术家可以大面积地凿刻粗犷的线条，也可雕刻像小猫毛发一样精致细腻的细节。

雕刻好图案后，艺术家会在上面涂上一层薄薄的湿漆。然后，他们用传统的手工纸（和纸）擦拭漆面，吸收多余的漆，只在凹槽中留下少量的漆。接着，艺术家会用一点棉絮将金粉或金箔轻轻点按在图案上，这些黄金材料只会附着在湿漆上。片刻之后，艺术家会擦去多余的金属，此时光彩夺目的图案便会显露出来，和漆面形成鲜明的对比。

在现代，沉金技法与石川县轮岛市的漆器有着格外紧密的联系，该市诞生了多位重要非物质文化遗产保持者。

<繁体字>

沉金

沉金是一種漆器裝飾技法，作法是在硬化的漆上刻出圖案，然後將金粉或金箔填入其中，打造精美的設計。西元 1955 年，這項工藝獲指定為重要無形文化財產。

沉金一詞的意思是「沉下的黃金」，起源於中國宋代（西元 960–1279），在中文中稱為戩金。戩金工藝品於室町時代（西元 1392–1573）傳入日本，工匠們於是得以研究並重現這項技法。

沉金の作法是用名為「沉金鑿」的金屬鑿，在硬化的漆器上雕刻出點或線。工匠們會親自製作鑿子，用磨刀石在刃口處磨出需要的形狀。不同形狀的刃口（圓弧狀、稜角分明、尖利或粗糙等）與使用鑿子時的力道可以打造不同效果。工匠們可以大面積刻出粗獷的線條，也可雕出精緻如貓毛般的細節。

雕刻好圖案後，工匠會在上面塗一層薄薄的濕漆，然後用傳統的手工紙（和紙）擦拭漆面以吸掉多餘的漆，只在凹槽中留下少量的漆。接著，用一點棉絮將金粉或金箔輕輕點在圖案上，這些金粉或金箔只會附著在濕漆。一段時間後，工匠會擦去多餘的金屬，此時光彩奪目的圖案便會顯露出來，和漆面形成鮮明的對比。

在現代，沉金技法與石川縣輪島市的漆器關係格外緊密，該市誕生了多位重要無形文化財產保持者。

<日本語仮訳>

沈金

沈金は、漆を硬化させたものに文様を刻み、金粉や箔を充填して文様を表現する漆器の装飾技法である。1955年に重要無形文化財に指定された。

「沈んだ金」を意味するこの技法は、中国では鎗金と呼ばれ、宋代（960-1279）に生まれた。日本には室町時代（1392-1573）に沈金が輸入され、職人が研究を重ね、再現するようになった。

沈金とは、沈金ノミという金属製のノミで、固まった漆器に線や点を彫り込んで作るものである。職人は砥石を使い、刃先の形を整えながら、自分だけのノミを作っていく。丸みを帯びたもの、角ばったもの、鋭く尖ったもの、荒いものなど、形状や力の入れ具合によって、さまざまな効果が得られる。大胆に広がる線や、子猫の毛並みのような繊細なディテールも作り出すことができる。

文様を彫った後、濡れた漆を薄く塗っていく。その後、伝統的な手作りの紙（和紙）で表面を拭き、余分な部分を吸収させ、溝にほんの少し残す。金粉または金箔を綿毛で軽く叩いていく。この時、金は濡れた漆にのみ付着する。しばらくして余分な金属を拭き取ると、漆地と対照的にデザインが輝き出す。

現代では、特に石川県輪島市の漆器に沈金が施され、重要無形文化財保持者を複数輩出している。

【タイトル】 石川県立美術館 / 伝統工芸の技法 (5) 国指定重要無形文化財 工芸技法

「漆芸—髹漆」(きゅうしつ)

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

塗漆 (髹漆)

髹漆是日本传统工艺中涂漆工序的总称。这一工序包含制作器胚(底胎)的工艺,比如车削和竹编,但有别于涂装和镶嵌金属等装饰工艺。

日本至少从公元前 4000 年就开始生产漆器,而这部分得益于丰富的漆树(学名: *Toxicodendron vernicifluum*) 资源。17 世纪,藩主致力于促进地方产业的发展,因此出现了各种风格的漆器。在此期间,这一传统工艺迅速发展并日趋成熟。自那时起,日本涂漆工艺中特有的工具和技法发展出了丰富的文化。

髹漆技法大致可分为两种:一种是直接在器胚上涂漆,另一种则是先在器胚上覆盖一层基底,然后再涂上多层漆。这两种技法会带来截然不同的成品,这些区别不仅体现在外观方面,还体现在耐久性、耐热性和其他功能特点方面。无论采用哪一种技法,操作过程中都需要多次涂漆,并且每次都要等漆面硬化后才能涂下一层。这项费力的工作可能需要数月甚至数年才能完成。

漆是一种具有挑战性的材料。当漆中的化学成分漆酚与空气中的氧气发生反应时,会形成具有光泽感和良好耐久度的漆面,但这种反应很容易受到温度和湿度变化的影响。特别是在人们能通过电力来控制环境之前,需要具备特殊的专业知识才能管理这些变量,使漆正常硬化。此外,还必须防止灰尘或其他颗粒附着在湿漆上,以免破坏漆面。为了简化这一工序,工匠开发了独特的设备,比如“漆风吕”,这是一种防尘干燥箱,由保湿性强的日本柏木或杉木制成,有助于保持湿度均匀。

石川县的漆器工艺以轮岛市、山中温泉和金泽市为中心。1974 年,髹漆被认定为重要非物质文化遗产,赤地友哉(1906–1984) 则被指定为这项技法的保持者。石川县艺术家盐多庆四郎(1926–2006) 和小森邦卫(1945–) 也分别于 1995 年和 2006 年荣获这一称号。

<繁体字>

塗漆 (髹漆)

髹漆是日本傳統工藝中塗漆工序的總稱，包含旋削和竹編等製作器胚（底胎）的工藝，但有別於塗裝和鑲嵌金屬等裝飾工藝。

日本至少從西元前 4,000 年就開始生產漆器，這部分得益於豐富的漆樹（學名：Toxicodendron vernicifluum）資源。17 世紀時，藩主致力於促進地方產業發展，因此出現了各種風格的漆器，漆器傳統工藝也在此期間迅速發展並日趨成熟。日本塗漆工藝獨有的工具和工藝自那時起，便發展出豐富的文化。

髹漆的技法大致可分為兩種：一種是直接器胚上塗漆，另一種則是先在器胚覆蓋一層基底，然後再塗上多層漆，這兩種技法做出的成品截然不同，不僅是外觀，在耐久性、耐熱性和其他功能特性等方面也有相當大的差異。無論採用哪一種技法，過程中都需要多次塗漆，而且每次都必須等到漆面硬化後才能塗下一層。由於如此的費力，可能需要數個月甚至數年才能完成。

漆是一種具有挑戰性的材料。當漆中的化學成分漆酚與空氣中的氧氣反應時，將形成具有光澤感和良好耐久度的漆面，但這種反應也很容易受到溫度和濕度變化的影響，特別是在人們能夠透過電力進行控管之前。為了能讓漆正常硬化，需要具備特殊的專業知識才能管理這些變數。此外，還必須防止灰塵或其他顆粒附著在濕漆上，導致破壞漆面。為了簡化這些保護措施，工匠們開發了「漆風呂」這類獨特的裝置。漆風呂是一種防塵乾燥箱，由保濕性強的日本柏木或杉木製成，有助於維持相同濕度。

石川縣的漆器工藝中心為輪島市、山中溫泉和金澤市。西元 1974 年，髹漆獲指定為重要無形文化財產，赤地友哉（西元 1906–1984）則獲指定為這項技法的保持者。石川縣的工匠鹽多慶四郎（西元 1926–2006）和小森邦衛（西元 1945–）也分別於西元 1995 年和 2006 年榮獲此稱號。

<日本語仮訳>

漆塗り（髹漆）

髹漆とは、日本の伝統工芸における漆塗りの総称である。旋盤や竹編みなど素地（下地）を整える技法も含まれるが、塗装や象嵌などの装飾技法とは区別される。

日本では、漆の木が豊富にあったこともあり、少なくとも紀元前 4,000 年頃から漆器が作られていた。17 世紀になると、藩主による地場産業の育成を背景に、多様なスタイルの漆器が作られるようになり、伝統は急速に発展して洗練されていった。それ以来、漆を塗るための道具や技法は、日本独自の豊かな文化として発展していった。

「髹漆」の技法は、木地に直接漆を塗る方法と、下地をつくり、その上に漆を塗り重ねる方法の2つに大別される。この2つの方法は、外観だけでなく、最終製品の耐久性、耐熱性などの機能面でも大きく異なる結果をもたらす。どちらの方法でも、漆を何度も塗っては固め、次の漆を塗っては固めるという工程が必要となる。そのため、この労力のかかる作業は、数ヶ月または数年かかることもある。

また、漆は難易度の高い素材である。漆は、ウルシオールという成分が空気中の酸素と反応して光沢を出し、耐久性も高いが、この反応が温度や湿度の変化に弱いのである。特に電気の普及で空調管理が可能になる以前は、漆がきちんと固まるように管理するには特別な専門知識が必要であった。さらに、濡れた漆にはホコリやゴミが付着して上塗りが損なわれる可能性があるため、注意しなければならない。そのため、湿気を均一に保つのに役立つ保湿性の高いヒノキやスギを使った「漆風呂」のような防塵用の乾燥箱など、独自の道具が開発された。

石川県では、輪島、山中温泉、金沢を中心に漆器工芸が盛んである。1974年に重要無形文化財に指定され、赤地友哉（1906-1984）が保持者に認定された。石川県の工芸家塩多慶四郎（1926-2006）と小森邦衛（1945-）も、1995年と2006年に認定されている。

【タイトル】 石川県立美術館 / 伝統工芸の技法（5）国指定重要無形文化財 工芸技法

「漆芸—髹漆」（きゅうしつ）

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

涂漆（髹漆）

髹漆是日本传统工艺中涂漆工序的总称。这一工序包含制作器胚（底胎）的工艺，比如车削和竹编，但有别于涂装和镶嵌金属等装饰工艺。

17 世纪，由于各藩之间的竞争，许多地区的不同漆器传统得以发展。因此，日本涂漆工艺中特有的工具和技法发展出了丰富的文化。基于对这一宝贵传统的认可，日本在 1974 年将髹漆认定为重要非物质文化遗产。

髹漆技法大致可分为两种：一种是直接在器胚上涂漆，另一种则是先在器胚上覆盖一层基底，然后再涂上多层漆。这两种技法不仅会影响成品的外观，还会影响耐久性和耐热性等功能特点。

漆是一种具有挑战性的材料。当漆中的化学成分漆酚与空气中的氧气发生反应时，会形成具有光泽感的漆面，但这种反应很容易受到温度和湿度变化的影响。操作时，必须涂抹多层漆，有时甚至要涂抹数百层，并且每涂一层漆都要留足够的时间让漆面硬化。许多技法还要求在每次涂施之前抛光上一层漆。与此同时，还必须防止灰尘或其他颗粒与湿漆接触，以免破坏漆面。整个工序可能需要数月甚至数年才能完成。

<繁体字>

塗漆（髹漆）

髹漆是日本傳統工藝中塗漆工序的總稱，包含旋削和竹編等製作器胚（底胎）的工藝，但有別於塗裝和鑲嵌金屬等裝飾工藝。

17 世紀時，由於各藩之間的競爭，各地演變出不同的漆器傳統，使得日本塗漆工藝中獨有的工具和工藝發展出豐富的文化。由於認可這項寶貴的傳統，日本在西元 1974 年將髹漆指定為重要無形文化財產。

髹漆的技法大致可分為兩種：一種是直接在器胚上塗漆，另一種則是先在器胚覆蓋一層基底，然後再塗上多層漆，這兩種技法不僅會影響成品的外觀，還會影響耐久性和耐熱性

等功能特性。

漆是一種具有挑戰性的材料。當漆中的化學成分漆酚與空氣中的氧氣反應時，將形成具有光澤感的漆面，但這種反應也很容易受到溫度和濕度變化的影響，因此必須塗上多層漆，有時甚至要塗抹數百層，而且每塗一層，都要留足夠的時間讓漆面硬化。許多技法還需要在每次塗漆之前將上一層漆做拋光處理，同時還必須防止灰塵或其他顆粒附著在濕漆上，導致破壞漆面。這整個過程可能需要數個月甚至數年才能完成。

<日本語仮訳>

漆塗り（髹漆）

髹漆とは、日本の伝統工芸において、漆を塗る工程の総称である。旋盤や竹編みなど素地（下地）を整える技法も含まれるが、絵付けや象嵌などの装飾技法とは区別される。

17世紀、藩の間の競争により、各地に漆器の伝統が生まれた。1974年に重要無形文化財に指定された「髹漆」は、漆塗りに関わる独自の道具や技術など豊かな文化を生み出した。

「髹漆」の技法は大きく分けて、木地に直接漆を塗る方法と、素地（下地）をつくり、その上に漆を塗り重ねる方法に分けられる。この2つの方法は、仕上がりの外観だけでなく、出来上がった製品の耐久性や耐熱性などの機能的な特性にも影響を与える。

漆は、難易度の高い素材である。漆は、ウルシオールという成分が空気中の酸素と反応して光沢を出す。この反応は温度や湿度の変化に弱い。漆は何度も、時には何百回も塗り重ね、その間に十分に硬化させる必要がある。また、多くの技法では、漆を塗る間に研磨する必要がある。濡れた漆に埃やゴミが上塗りを損なわないように注意も必要だ。このように、漆は完成までに数ヶ月または数年かかることもある。

【タイトル】石川県立美術館 / 伝統工芸の技法 (6) 国指定重要無形文化財 工芸技法

「漆芸－螺鈿」(らでん)

【想定媒体】WEB

<簡体字>

螺鈿

螺鈿是一种装饰工艺，操作技法是在漆中嵌入小片珍珠母。奈良东大寺正仓院宝库中保存的文物表明，这项工艺于 8 世纪从中国传入日本。后来，螺鈿成为了日本漆器中的常见工艺，通常与金银蒔绘装饰结合起来使用。这项工艺不仅可以用于装饰小型个人或家居用品，亦可用于装饰大型建筑，例如，在京都附近的世界遗产平等院中，凤凰堂华丽的天花板就采用了这项工艺。

“珍珠母”指的是某些软体动物贝壳内部堆积而成的类似珍珠的物质，也叫做珠母层。不同物种会产生不同颜色和品质的珍珠母，但螺鈿工艺中常用的珍珠母来自鲍鱼、珍珠贝、蝾螺和鹦鹉螺。由于每种贝壳都有各自的轮廓和独特的虹彩图案，因此，找到合适的贝壳来完成所构想的设计，是螺鈿艺术家面临的首要挑战。

第二大难关是取出合适的珍珠母碎片。首先，工匠会用磨刀石或磨具打磨贝壳两面，制作出表面相对平整的珍珠母薄片。贝壳的尺寸和天然弧度会限制可取出的大块碎片的数量。珍珠母是一种易碎的材料，因此碎片的厚度决定了它们的用途。厚度在 0.1 至 2 毫米之间的碎片叫做“厚贝”，厚度在 0.1 毫米以下的碎片则叫做“薄贝”。过去，制作薄贝的方法是将贝壳煮 3 至 7 天，然后刨下薄薄的珠母层。如今，人们会使用机械磨具，因此要用水给贝壳降温，从而防止摩擦生热。（否则，在制作珍珠母薄片所需的漫长打磨过程中，热量会损坏贝壳。）除了厚贝和薄贝，还可以在设计中使用“微尘贝”，这种色彩斑斓的粉末由小片珍珠母研磨而成。

艺术家收集到足够的珍珠母片后，会将它们切割成所需的形状。他们会根据碎片的厚度，使用线锯、精密刀具、冲压模板或酸蚀法进行切割。此外，他们还会使用线刻、绘图，以及在半透明的薄贝背面贴金箔等技法进一步装饰贝壳片。

然后，艺术家会将切割好的碎片镶嵌或贴在漆器表面，接着在图案上涂一层保护漆，并进行抛光。蒔绘是另一种漆器装饰技法，经常与螺鈿结合使用，从而在螺鈿的白、粉、蓝虹彩色调中加入金银这类金属色。

石川县立美术馆收藏了许多从 15 世纪到现代的螺钿漆器精品，其中包括一件国家指定的重要文化财产和多件石川县重要文化财产。

1999 年，螺钿被指定为重要非物质文化遗产。

<繁体字>

螺钿

螺钿是一種裝飾工藝，作法是在漆中嵌入小片的珍珠母。據奈良東大寺正倉院寶物庫中存放的文物顯示，這項工藝於 8 世紀從中國傳入日本。後來，螺钿成為常見的日本漆器工藝，通常與金銀蒔繪裝飾結合使用。螺钿不僅可以用於裝飾小型個人或家居用品，還能用於裝飾大型建築，像是京都近郊的世界遺產平等院，寺院內鳳凰堂華麗的天花板就運用了這項工藝。

「珍珠母」是指在某些軟體動物貝殼內部所形成類似珍珠的物質，也叫做珠母層，其顏色和質地因軟體動物的品種而異，但螺钿工藝中常用的珍珠母來自鮑魚、珍珠貝、蝶螺和鸚鵡螺。由於每種貝殼都有各自的輪廓和獨特的彩虹色圖案，因此螺钿工匠首先面臨的挑戰，就是找到合適的貝殼來完成設計構想。

要解決的第二個大難題是取出合適的珍珠母碎片。首先，工匠會用磨刀石或磨具磨製貝殼的兩面，製作出表面相對平整的珍珠母薄片。貝殼尺寸和天然弧度則會限制可取出的大塊碎片數量。此外，珍珠母相當易碎，因此碎片厚度決定了它們的用途。厚度在 0.1 到 2 公釐之間的碎片叫做「厚貝」，0.1 公釐以下則是「薄貝」。過去製作薄貝的方法是將貝殼煮 3 到 7 天，然後刨下薄薄的珠母層。如今，人們會使用機械磨具，因此要以水為貝殼降溫，防止摩擦生熱。不然，由於製作珍珠母薄片需要歷經漫長的打磨階段，過程中產生的熱量將損壞貝殼。除了厚貝和薄貝，設計中還會使用「微塵貝」，這種色彩豐富的粉末由小片珍珠母研磨而成。

工匠收集到足夠的珍珠母片後，會根據碎片的厚度，使用線鋸、精密刀具、衝床模板或酸蝕法將它們切割成所需的形狀，還可能會進一步裝飾貝殼片，像是雕刻細線、繪圖以及在半透明的薄貝背面貼金箔。

接著，工匠會將切割好的碎片鑲嵌或貼在漆器表面，然後在圖案上塗一層保護漆，並進行拋光。為了在以螺钿工藝打造的白、粉與藍色的彩虹色調中加入金和銀這類金屬色，工匠會運用蒔繪，這是另一種漆器裝飾技法，經常與螺钿搭配使用。

石川縣立美術館收藏了許多從 15 世紀到現代的出色螺钿漆器，其中包括一件國家指定的重要文化財產和多件石川縣重要文化財產。

西元 1999 年、螺鈿獲指定為重要無形文化財産。

<日本語仮訳>

螺鈿

螺鈿（らでん）は、漆の中に小さな真珠貝を埋め込む装飾技法である。この技術が 8 世紀に中国から伝わったことは、奈良・東大寺の正倉院宝物から発見された遺物によって証明された。その後、螺鈿は金や銀の時絵と一緒に、日本の漆器によく使われる技法となった。また、小物や生活用品だけでなく、京都近郊の世界遺産平等院鳳凰堂の豪華な天井装飾など、大建築物にも使用された。

マザーオブパールは、軟体動物の貝殻の内側にできる真珠層と呼ばれる真珠のような物質のことである。貝の種類によって真珠の色や質は異なるが、螺鈿に使われるのはアワビ、チョウガイ、ヤコウガイ、オウムガイなどが多い。どの貝も輪郭や真珠光沢の模様が異なるため、デザインに合うものを探すのが最初の難関である。

次に大きなハードルとなるのが、適切な真珠層の破片採取することである。まず、貝の両面を砥石やグラインダーで削り、真珠層の表面を比較的平らにする。貝の大きさや自然なカーブによって、採取できる大きな破片の数が制限される。真珠層はもろいため、採取した真珠層の厚さによって、使い道が決まる。厚さ 0.1 ミリから 2 ミリのものを「厚貝」、それ以下のものを「薄貝」と呼ぶ。かつて薄貝は 3～7 日間煮て、薄い真珠層をはがして作られていた。現在は、機械式の研磨機を使用しているため、摩擦が起きないように貝を水で冷却している（そうしなければ、長時間研磨している間に熱で貝が傷んでしまう）。厚貝、薄貝のほか、真珠貝の小片を粉碎した「みじん貝」という虹色の粉もデザインに使うことができる。

真珠層が十分に確保できたら、次は形を切り出す。作品の厚さにもよるが、糸のこ、精密ナイフ、パンチプレート、酸エッチングなどを使って切り出す。さらに、細い線の彫刻や絵画、半透明の薄貝の裏面に金箔を貼るなどして、貝殻に装飾を施すこともある。

次に、切り出した貝殻を漆器にはめ込んだり、その表面に貼り付けたりする。その上に漆を塗り、研ぎ出す。漆器の装飾技法のひとつである時絵は、螺鈿と組み合わせて使われることが多く、虹色の白、ピンク、青などの色調に金属銀や金を加える。

石川県立美術館には、15 世紀から現代に至るまで多くの螺鈿漆器が収蔵されている。その中には、国指定重要文化財 1 件、石川県の重要文化財も多数含まれている。

螺鈿は 1999 年に、重要無形文化財に指定された。

【タイトル】石川県立美術館 / 伝統工芸の技法 (6) 国指定重要無形文化財 工芸技法

「漆芸－螺鈿」(らでん)

【想定媒体】アプリ QR コード

<簡体字>

螺鈿

螺鈿是一种漆器装饰工艺，操作技法是在漆面上嵌入珍珠母。这项工艺于 8 世纪从中国传入日本。日本艺术家将这项装饰工艺应用于各个领域，从小型家居用品到军事装备和雄伟的建筑物，包罗万象。

螺鈿工艺使用的材料是某些软体动物贝壳内部的虹彩层，人称“珍珠母”或“珠母层”。鲍鱼和珍珠贝等许多软体动物的壳内都有适用于螺鈿工艺的珍珠母，但这些珍珠母的颜色和品质各不相同。取珍珠母的方法是打磨贝壳两面，直到剩下一层薄片。厚度在 0.1 至 2 毫米之间的珍珠母碎片叫做“厚贝”，厚度在 0.1 毫米以下的碎片则叫做“薄贝”。厚度决定了这些碎片的用途。此外，还可以将小片珍珠母磨成名为“微尘贝”的虹彩色粉末。

艺术家可以根据设计需要，使用线锯、精密刀具、冲压模具或酸蚀法在珍珠母上切割出形状，然后将这些不同形状的碎片装饰在漆器上。对于较厚的碎片，艺术家通常会采用镶嵌工艺；对于更容易粘贴的较薄碎片，艺术家则会为其涂漆，将其粘贴在漆器表面。最后，艺术家会涂上一层漆，然后将表面打磨至平滑光亮。

1999 年，螺鈿被指定为重要非物质文化遗产。

<繁体字>

螺鈿

螺鈿是一種漆器裝飾工藝，作法是在漆面上嵌入珍珠母。這項工藝於 8 世紀從中國傳入日本，之後日本工匠們將其用於各個領域，從小型家居用品到軍事裝備和雄偉的建築物皆有。

螺鈿工藝使用的材料是某些軟體動物貝殼內部的虹彩層，稱為「珍珠母」或「珠母層」。鮑魚和珍珠貝等許多軟體動物的殼內都有適合用於螺鈿工藝的珍珠母，但顏色和品質各異。取珍珠母的方法是磨製貝殼兩面，直到剩下一層薄片。厚度在 0.1 至 2 公釐之間的珍珠母碎片叫做「厚貝」，厚度在 0.1 公釐以下的碎片則叫做「薄貝」，而厚度決定了這些碎片的用途。此外，還可以將小片珍珠母磨成名為「微塵貝」的彩虹色粉末。

工匠可以根據設計需要，以線鋸、精密刀具、衝床模具或酸蝕法在珍珠母上切割出形狀，然後使用這些不同形狀的碎片裝飾漆器。接著，工匠對於較厚的碎片，一般將採用鑲嵌工藝；至於更容易貼上的較薄碎片，則會在上面塗漆並將其貼在漆器表面。最後，工匠會再塗上一層漆，然後將表面磨到平滑光亮。

西元 1999 年，螺鈿獲指定為重要無形文化財產。

<日本語仮訳>

螺鈿

螺鈿（らでん）は、表面の漆の中に真珠層を埋め込んだ漆器の装飾技法である。8 世紀に中国から伝わり、日本の芸術家たちは小物から武具、建築物に至るまで、この技法を用いて装飾を施した。

螺鈿は軟體動物の貝殻の内側にある虹色の層を利用したもので、「真珠層」と呼ばれている。アワビやチョウガイなど多くの貝が螺鈿に適した真珠層を形成するが、その色や質はさまざまである。真珠層は、薄いウエハース状になるまで貝殻の両面を研削して、抽出される。厚さ 0.1～2 ミリのものを「厚貝」、0.1 ミリ以下のものを「薄貝」と呼び、厚さによって使い分けられる。また、真珠貝の小片を粉にしたものは「みじん貝」と呼ばれ、虹色に輝く。

真珠層から、糸のこ、精密ナイフ、パンチングテンプレート、酸エッチングなどで、思い描くデザインを切り出し、漆器に貼り付ける。厚みのある貝は象嵌で、薄い貝は漆を塗って貼り付ける方法が一般的である。最後に漆を塗り、表面を磨いて完成する。

螺鈿は 1999 年に、重要無形文化財に指定された。

【タイトル】石川県立美術館 / 伝統工芸の技法（7）国指定重要無形文化財 工芸技法

「金工一彫金」（ちょうきん）

【想定媒体】WEB

<簡体字>

雕金

雕金是指金属加工中采用的各种装饰性雕刻工艺，包括雕刻、捶打和镶嵌等专业技法。1955年，这些工艺共同被指定为重要非物质文化遗产。

在弥生时代（公元前300年 – 公元300年），雕刻技法从亚洲大陆传入日本。起初，这些技法主要用于装饰由铜、金、银和青铜制成的礼器和个人装饰品。随着冶金和金属加工技术的发展，人们研究出了各种合金，并用这些更坚固的金属制作锅等生活用品，以及剑和盔甲。因此，用于装饰这些新合金的雕刻工艺也随之发展。

即使在日本摆脱了一个多世纪的战乱、进入相对和平的江户时代（1603–1867）之后，统治社会的武士阶层依然会委托专人制作武器和盔甲，将其视作身份的象征。雕刻和其他装饰技法也因此繁荣发展。然而，这类技法在1876年经历了重大转折，因为新成立的明治政府禁止人们佩剑。在此之前，为刀剑制作装饰配件一直是许多金属工匠的谋生手段。这一政策转变再加上金属生产日趋机械化，导致手工制作和雕刻的金属制品大幅减少。另一方面，在这段时间，传统日本工艺品开始在国际展览中亮相，拉动了出口需求。许多金属工匠从制作武具转为制作纯艺术品，这不仅改变了金属雕刻技法的用途，也振兴了这类技法。

与石川县最密切相关的雕金技法是“镶嵌”。这项技术的操作方法是将金和银等较软的金属嵌入较硬的金属母材中。石川县的镶嵌风格被称作加贺镶嵌，这一名称源自石川县旧时所属藩地的名称。加贺镶嵌已被指定为稀少传统工艺，其首要特点在于镶嵌金属的固定方式。工匠会在金属母材上斜切出一个凹口，使其最深处宽于开口处。当镶嵌金属被敲打进凹口时，它会向凹口内部延伸，而镶嵌金属上方的母材则被压下并覆盖在上面。这样就可以将镶嵌金属固定到位，并使两种金属保持齐平。加贺镶嵌其他广为人知的特点包括使用多层镶嵌技法和名为色金的铜合金。这种合金可以用溶液处理，形成保护性氧化膜和各种颜色的铜锈。

其他雕金技法包括用凿子在金属上雕刻细如发丝的线条、三角形图案或类似于刷痕的楔形图案。工匠可以将图案雕刻成凹雕、浅浮雕或立体形式。此外，工匠还可以在金属上

打孔，制作镂空图案，或者仔细用锤子敲出凹痕，打造点状纹理。

石川县立美术馆收藏了许多展现雕金技法的作品，其中包括部分加贺藩出产的珍品镶嵌金属马镫。

<繁体字>

雕金

雕金是指金属加工中采用的各种装饰性雕刻工艺，包括雕刻、捶打和镶嵌这类专业技法。西元 1955 年，这些工艺获共同指定为重要无形文化财产。

弥生时代（西元前 300 年-西元 300 年）时，雕金技法从亚洲大陆传入日本。起初，这些技法主要用于装饰由铜、金、银和青铜制成的礼器和个人装饰品。随着冶金和金属加工技术的发展，人们研究出了各种合金，并用这些更坚固的金属制作锅子等生活用品，以及剑和盔甲。因此，用于装饰这些新合金的雕金工艺也随之发展。

即使在日本摆脱了一个多世纪的战乱，进入相对和平的江户时代（西元 1603-1867）后，统治社会的武士阶级依然会委托专人制作武器和盔甲，将其视为身分的象征。雕金和其他装饰技法也因此繁荣发展。然而，在西元 1876 年，由于新成立的明治政府禁止人们佩剑，导致这类技法面临重大转折。在此之前，为刀剑制作装饰配件一直是许多金属工匠的谋生工具。由于上述政策转变，再加上金属生产机械化程度的提升，导致手工制作和雕刻的金属制品急速减少。另一方面，在这段期间，传统日本工艺品开始在国际展览中亮相，带动了出口需求。许多金属工匠从制作武器转为纯艺术品，这不仅改变了金属雕刻技法的用途，也振兴了这类技法。

与石川县最密切相关的雕金技法是镶嵌，作法是将金和银等较软的金属，嵌入较硬的金属母材中。石川县的镶嵌风格称为加贺镶嵌，取自石川县旧时所属藩地的名称。加贺镶嵌已获指定为稀少传统工艺，其首要特点在于镶嵌金属的固定方式。工匠先在金属母材上斜切出一个凹口，使其最深处宽于开口处，接着敲打可让镶嵌金属向凹口内延伸，上方的金属母材则会压住镶嵌金属往下压，如此就能将镶嵌金属固定到位，并使两种金属保持齐平。加贺镶嵌其他广为人知的特点包括使用多层镶嵌法，以及名为「色金」的铜合金，这种合金可用溶液处理，形成保护性氧化膜和各种颜色的铜锈。

其他雕金技法包括用凿子在金属上雕刻细如发丝的线条、三角形图案或类似于刷痕的楔形图案。此外，工匠还可将图案雕刻成凹雕、浅浮雕或立体形式，还能在金属上打孔，制作镂空图案，或者仔细用锤子敲出凹痕，打造点状纹理。

石川县立美术馆收藏了许多展现雕金技法的作品，其中包括一些加贺藩引以为傲的镶嵌金属马镫。

<日本語仮訳>

彫金

彫金（ちょうきん）とは、金属工芸品に施される様々な装飾技法を指す。彫り、打ち出し、魚子打ち、象嵌などの特殊な技法が含まれる。1955年に重要無形文化財に指定された。

弥生時代（紀元前300–紀元後300）にアジア大陸から日本に伝来した彫金の技法は、当初は主に銅、金、銀、青銅などの祭器や装身具に用いられていた。しかし、冶金や金属加工の技術が発達するにつれ、さまざまな合金が考案され、より強い金属が鍋などの生活用具や剣・鎧などに使われるようになった。そして、この新しい合金を装飾するための、彫金の技法も同時に発展していった。

日本が100年以上続いた戦乱の世から、比較的平和な江戸時代（1603–1867）に入っても、武家は武器や鎧をステータスシンボルとして注文し続けた。また、彫金などの装飾技法も盛んに行われた。しかし、1876年、明治政府が刀剣の着用を禁止したことが大きな転機となった。それまでは、刀の飾り金具を作ることが、多くの金工の生業であった。また、金属生産の機械化が進み、手づくりや手彫りの金工品は激減した。一方、この頃から日本の伝統工芸が国際博覧会に出品されるようになり、輸出の需要も出てきた。多くの金工家が、武道的なものから純粋な芸術的な用途へと転換し、工芸の方向性を変え、復活させたのである。

石川県にゆかりのある彫金技法は、象嵌である。金や銀などの柔らかい金属を、より硬い地金に埋め込んでいく。加賀象嵌と呼ばれるこの技法は、石川県の前身である藩の名前にちなんで名づけられた。加賀象嵌は希少伝統工芸に認定されている金属工芸である。加賀象嵌の特徴は、まず、地金の留め方にある。地金に斜めに切り込みを入れ、開口部より奥の方が広くなるようにする。象嵌を打ち込むと、このくぼみに広がり、その上に地金のはみ出し部分が押さえつけられる。こうすることで象嵌が固定され、両金属が同一平面になる。加賀象嵌は、重ね象嵌や「色金」と呼ばれる銅合金を使うことでも知られている。この合金は、溶液で処理することにより、さまざまな色の保護用の酸化皮膜や緑青（ろくしょう）を作ることができる。

また、彫金技法には鑿（たがね）を使って、毛彫りや蹴彫り、片切り彫りなどの技法がある。さらに、肉合彫りや浮き彫り、彫りくずし、透かし彫り、魚子打ちなどで文様を施すこともできる。

石川県立美術館には、加賀藩が誇った象嵌の鎧（あぶみ）など、彫金の技法を示す作品が数多く所蔵されている。

【タイトル】 石川県立美術館 / 伝統工芸の技法（7）国指定重要無形文化財 工芸技法

「金工一彫金」（ちょうきん）

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

雕金

雕金是指金属加工中采用的各种装饰性雕刻工艺，包括雕刻、捶打和镶嵌等专业技术。1955年，这些工艺共同被指定为重要非物质文化遗产。

在弥生时代（公元前300年 – 公元300年），早期雕刻工艺从亚洲大陆传入日本，并与日本冶金技术一同发展，成为了一种装饰礼器和实用器具的技法。19世纪晚期，新成立的明治政府禁止人们佩剑，加上金属生产日趋机械化，导致雕刻工艺的应用领域开始转向纯艺术品。金属工匠发现了国际市场对各类日本工艺品的青睐，转而将技术应用于艺术品制作。

雕金包括线刻、浮雕和镂空雕刻等专业技术，但与石川县最密切相关的工艺是镶嵌，操作技法是将金和银等较软的金属嵌入较硬的金属母材中。当地的镶嵌风格被称作加贺镶嵌，这一名称源自石川县旧时所属藩地的名称。这项技法的特点之一在于镶嵌金属的固定方式。工匠会在金属母材上斜切出一个凹口，使其底部宽于开口处。当镶嵌物被敲打进凹口时，它会向凹口内部延伸，而其上方的母材则被压下并覆盖在上面。

石川县立美术馆收藏了许多展现雕金工艺的作品，其中包括部分加贺藩引以为傲的珍品镶嵌金属马镫。

<繁体字>

雕金

雕金是指金屬加工中採用的各種裝飾性雕刻工藝，包括雕刻、捶打和鑲嵌這類專業技法。西元1955年，這些工藝獲共同指定為重要無形文化財產。

在彌生時代（西元前300年–西元300年）時，早期雕金工藝從亞洲大陸傳入日本，與日本冶金技術一同發展，成為一種裝飾禮器和實用器具的技法。19世紀晚期，新成立的明治政府禁止人們佩劍，再加上金屬生產的機械化程度提升，導致雕刻工藝的應用領域開始轉向純藝術品。由於金屬工匠們發現了國際市場對各類日本工藝品的青睞，轉而將技術用

於製作藝術品。

雕金包括線刻、浮彫和鏤空雕刻等專業技法，但與石川縣最密切相關的工藝是鑲嵌，作法是將金和銀等較軟的金屬嵌入較硬的金屬母材中。當地的鑲嵌風格稱為加賀鑲嵌，取自石川縣舊時所屬藩地的名稱，其特點之一在於鑲嵌金屬的固定方式。工匠會在金屬母材上斜切出一個凹口，使其底部寬於開口處。接著敲打可讓鑲嵌金屬向凹口內延伸，上方的金屬母材則會將鑲嵌金屬往下壓。

石川縣立美術館收藏了許多展現雕金工藝的作品，其中包括一些加賀藩引以為傲的鑲嵌金屬馬鐙。

<日本語仮訳>

彫金

彫金（ちょうきん）とは、金属工芸品に施される様々な装飾技法を指す。彫り、打ち出し、魚子打ち、象嵌などの特殊な技法が含まれる。1955年に重要無形文化財に指定された。

弥生時代（紀元前300年－紀元後300年）にアジア大陸から伝わり、日本の冶金技法とともに儀礼的・機能的な装飾品として発展してきた彫金の技法。19世紀後半、明治政府により刀剣類の着用が禁止され、金属加工の機械化が進むと、金属職人たちはその技法を美術品に転用し、日本のあらゆる工芸品を海外に売り込むようになった。

彫金には、線彫り、浮き彫り、透かし彫りなどの専門技法があるが、石川県に最も関係の深い技法は、金や銀などの柔らかい金属を硬い地金に埋め込む「象嵌（ぞうがん）」である。この技法は「加賀象嵌」と呼ばれ、石川県の前身である藩の名前にちなんで名づけられた。加賀象嵌の特徴は、地金の留め方にある。職人が地金に斜めに切り込みを入れ、開口部より底部の方が広くなるようにする。象嵌を打ち込むと、このくぼみに広がり、その上に地金のはみ出した部分が押しつけられる。

石川県立美術館には、加賀藩が誇った象嵌の鐙（あぶみ）など、彫金の技法を示す作品が数多く所蔵されている。

【タイトル】石川県立美術館 / 伝統工芸の技法 (7) 選択無形文化財 工芸技法「金工
— (彫金) 加賀象嵌」(かがぞうがん)

【想定媒体】WEB

<簡体字>

加贺镶嵌

加贺镶嵌是在加贺藩（今石川县）发展起来的一种金属装饰工艺。这项工艺与江户时代 (1603–1867) 加贺藩生产的盔甲、刀剑配件和马具有着尤为紧密的联系。加贺镶嵌是一种金属雕刻工艺，这类工艺统称为雕金，在 1955 年共同被指定为重要非物质文化遗产。

金属镶嵌的常用操作技法是将金和银等较软的金属嵌入较硬的金属母材中。加贺镶嵌是一种平面镶嵌工艺，即让打造图案的金属片或金属丝与金属母材保持齐平。这种风格的主要特点在于镶嵌金属的固定方式。工匠会在金属母材上斜切出一个凹口，使其底部宽于开口处。当工匠敲入镶嵌金属来打造光滑的表面时，这些金属会向凹口内延伸，而上方的母材则会将其固定。

加贺镶嵌的设计经常呈现出丰富的色彩，这是通过采用多层镶嵌，即在镶嵌物内嵌入其他金属而实现的。多层镶嵌很难通过焊接或黏合剂来实现，但加贺镶嵌能让金属牢固地结合在一起，从而可以实现这种工艺。色金技法也可以打造出不同寻常的颜色，操作方法是使用弱酸性溶液处理传统铜合金，从而形成保护性氧化膜和彩色铜锈。

在日本，早在古坟时代（约 250–552）就出现了采用镶嵌技法的剑，但直到金属工匠后藤祐乘 (1440–1512) 出现，这种工艺才得以确立。后藤被视作日本雕刻之父，开发了许多金属装饰技法，并由其后人进一步发展并推广。

17 世纪初，镶嵌工艺传入石川县，当时该地区被称作加贺藩。藩主前田利长 (1562–1614) 邀请祐乘的玄孙后藤德乘 (1550–1631) 指导当地的金属工匠装饰盔甲和马具。前田家族和后藤家族的这一协定延续了几个世纪。在此期间，加贺藩凭借精美的金属制品声名远扬，尤其是实际使用时耐磨的镶嵌马镫和盔甲。

1868 年，明治维新结束了武士阶层的统治，以致通过为武士生产刀和盔甲来谋生的金属工匠失去了主要的生计来源。然而，政府制定了支持贸易和国际交流的政策，为金属艺术品开辟了海外市场，一些金属工匠得以将工作方向转移到纯粹的艺术品制作。及後于 20 世纪上半叶日本因参与历次战争导致金属面临短缺，加上 20 世纪下半叶的技术繁荣导致大

众对传统工艺的兴趣日渐减少，令这项工艺再次出现危机。

尽管面临这些困难，石川县的金属工匠依然坚持了下来，将加贺镶嵌的技艺和知识传授给了新一代艺术家，而这些继承者至今仍在研究创新的技法，致力于将这项工艺运用到现代美学之中。2004 年，中川卫 (1947-) 凭借雕金技艺被指定为重要非物质文化遗产保持者。石川县立美术馆收藏了中川的一件作品，还收藏了他的师傅、雕金家高桥介州 (1905-2004) 的 7 件作品。

<繁体字>

加賀鑲嵌

加賀鑲嵌是在加賀藩（今石川縣）發展起來的一種金屬裝飾工藝，與江戶時代（西元 1603-1867）加賀藩生產的盔甲、刀劍配件和馬具的關係特別緊密。加賀鑲嵌和其他幾種金屬雕刻工藝統稱為雕金，在西元 1955 年獲共同指定為重要無形文化財產。

一般來說，金屬鑲嵌的作法是將金和銀等較軟的金屬，嵌入較硬的金屬母材中。加賀鑲嵌是一種平面鑲嵌工藝，也就是讓打造圖案的金屬片或金屬絲，與金屬母材保持齊平。這種風格的主要特點在於鑲嵌金屬的固定方式。工匠會在金屬母材上斜切出一個凹口，使其底部寬於開口處。當工匠敲打鑲嵌金屬來打造光滑的表面時，這些金屬會向凹口內延伸，上方的母材則下壓將其固定。

加賀鑲嵌設計經常呈現豐富的色彩，以多層鑲嵌的手法打造而成，也就是在鑲嵌物內也嵌入其他金屬。由於加賀鑲嵌工藝能將金屬牢固地結合在一起，因此能做到焊接或黏合劑難以實現的多層鑲嵌。色金技法也可以打造出與眾不同的顏色，作法是用弱酸性溶液處理傳統銅合金，形成保護性氧化膜和彩色銅鏽。

在日本，早在古墳時代（約西元 250-552）就有了運用鑲嵌技法的劍，但直到金屬工匠後藤祐乘（西元 1440-1512）出現，鑲嵌技法才得以確立。世人將後藤視為日本雕刻之父，他開創了許多金屬裝飾技法，並由其後人進一步發展與推廣。

17 世紀初，鑲嵌工藝傳入石川縣，當時石川縣被稱為加賀藩，加賀藩藩主前田利長（西元 1562-1614）邀請祐乘的玄孫後藤德乘（西元 1550-1631），指導當地的金屬工匠裝飾盔甲和馬具。這項前田家和後藤家之間的協定延續了幾世紀，期間加賀藩因為精美的金屬製品而聲名遠播，其中又以鑲嵌馬鐙和耐用的盔甲最為出名。

西元 1868 年，明治維新結束了武士階級的統治，導致以替武士生產刀和盔甲為生的金屬工匠，失去了主要的生計來源。然而，政府制定了扶持貿易和鼓勵國際交流的政策，為金屬藝術品開闢了海外市場，讓一些金屬工匠得以將重心轉往製作純藝術品。及後於 20 世紀上半葉日本因參與多場戰爭導致金屬面臨短缺，加上 20 世紀下半葉因為技術革新，使大

眾對傳統工藝的興趣日漸減少，導致這項工藝再度式微。

儘管面臨這些困難，石川縣的金屬工匠依然堅持了下來，並將加賀鑲嵌的技藝和知識，傳授給新一代的工匠們，這些繼承者們至今仍在研究創新的技法，致力將這項工藝運用到現代美學中。西元 2004 年，中川衛（西元 1947-）憑藉雕金技藝獲指定為重要無形文化財產保持者。石川縣立美術館收藏了中川的 1 件作品，以及中川的師傅——雕金家高橋介州（西元 1905-2004）的 7 件作品。

<日本語仮訳>

加賀象嵌

加賀象嵌（かがぞうがん）は、加賀藩（現在の石川県）で発達した装飾的な金工技法である。特に江戸時代（1603 - 1867）に加賀で生産された鎧、刀装具、馬具に関連する工芸品である。加賀象嵌は彫金技法のひとつであり、彫金は 1955 年に重要無形文化財に指定された。

一般的に象嵌は、金銀などの柔らかい金属を、硬い地金に埋め込むことによって形成される。加賀象嵌は平象嵌とも呼ばれ、地金に金属板や針金で文様を埋め込み、地金と同じ高さになるように作られる技法である。加賀象嵌の特徴は、地金の留め方にある。職人が地金に斜めに切り込みを入れ、開口部よりも底部の方が広くなるようにする。このくぼみに象嵌を打ち込み、表面を滑らかにすると、象嵌が広がり、地金のはみ出しで固定される。

加賀象嵌のデザインは多色であることが多く、これは象嵌の部分と別の金属を重ね合わせる「重ね象嵌」という手法で表現される。はんだや接着剤では接合が難しいが、加賀象嵌は接着力が強いので可能だ。また、伝統的な銅合金を弱酸性の溶液で処理し、保護用の酸化皮膜やカラフルな緑青（ろくしょう）を作る「色金」という技法で、珍しい色を作ることもできる。

日本では古墳時代（250 年頃-552 年頃）の象嵌刀が発見されているが、その技法が確立されたのは、金工家・後藤祐乗（1440-1512）の登場からである。後藤は日本の彫金の父と考えられ、多くの装飾的な金属加工技術を開発し、その子孫がさらに進化させ、普及させた。

石川県に象嵌技法がもたらされたのは、17 世紀初頭、加賀藩の時代である。藩主の前田利長（1562-1614）は、祐乗の曾孫である後藤徳乗（1550-1631）を招き、鎧や馬具の装飾を地元の金工に指導させたのである。加賀藩は、前田家と後藤家の間で数世紀にわたって金工の名声を高め、特に象嵌細工の鎧（あぶみ）や実用に耐える甲冑（かつちゆう）に定評があった。

1868 年の明治維新で武士がいなくなると、武士に刀や鎧を納めることを生業としていた金工職人たちは、生計の主な源を失った。しかし、貿易や国際交流を支援する政府の政策により、金属工芸品の海外市場が生まれ、一部の金属工芸家は純粋な芸術活動へと軸足を移すことができた。しか

し、20 世紀前半の戦争による金属不足、後半の技術革新による伝統工芸への関心の低下などにより、再び危機的な状況に陥った。

しかし、石川県の金工家たちは、加賀象嵌の技と知識を新しい世代に伝え、その技を現代的な美意識に応用するための革新的な方法を開発しているのである。2004 年、中川衛（1947-）は、その彫金技術が評価され、重要無形文化財保持者に認定された。石川県立美術館は、中川の作品 1 点と、中川の師である彫金家・高橋介州（1905-2004）の作品 7 点を所蔵している。

【タイトル】 石川県立美術館 / 伝統工芸の技法 (7) 選択無形文化財 工芸技法「金工
— (彫金) 加賀象嵌」(かがぞうがん)

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

加賀鑲嵌

加賀鑲嵌是石川县（旧称加賀藩）的金属装饰工艺。这项技法隶属于 1955 年共同被指定为重要非物质文化遗产的雕金工艺。

加賀鑲嵌是一种平面鑲嵌工艺，操作技法是将金和银等较软的金属嵌入较硬的金属母材中。工匠会在金属母材上斜切出一个凹口，使其底部宽于开口处。当工匠敲入鑲嵌金属来打造光滑的表面时，这些金属会向凹口内延伸，而上方的母材则会将其固定。加賀鑲嵌其他广为人知的特点是使用多层鑲嵌技法和名为“色金”的生锈铜合金，这种合金可以呈现出各种颜色。

加賀鑲嵌与江户时代 (1603–1867) 加賀藩生产的盔甲和马具有着十分紧密的联系。在此期间，加賀藩的统治者大力投资金属加工等传统工艺。他们邀请京都和江户（今东京）的知名金属工匠来指导当地的工匠。当地工匠随后制作出了精美耐用的鑲嵌工艺品。统治者将这些工艺品赠送给幕府将军和其他藩主，借此展现自己的软实力。

时至今日，加賀鑲嵌依然是一种自成一体的艺术形式。石川县工匠保留了这项工艺的技法，并在珠宝、艺术和家居装饰领域为这一传统工艺找到了新的表达形式。2004 年，中川卫 (1947–) 凭借雕金技艺被指定为重要非物质文化遗产保持者。

<繁体字>

加賀鑲嵌

加賀鑲嵌是石川縣（舊稱加賀藩）的金屬裝飾工藝，也是西元 1955 年獲共同指定為重要無形文化財產的雕金工藝之一。

加賀鑲嵌是一種平面鑲嵌工藝，作法是將金和銀等較軟的金屬嵌入較硬的金屬母材中。工匠會在金屬母材上斜切出一個凹口，使其底部寬於開口處。當工匠敲打鑲嵌金屬來打造光滑的表面時，這些金屬會向凹口內延伸，上方的母材則下壓將其固定。加賀鑲嵌其他廣為人知的特點是使用多層鑲嵌法，以及名為「色金」的生鏽銅合金，這種合金可以呈現出

各種顏色。

加賀鑲嵌還與江戶時代（西元 1603–1867）加賀藩生產的盔甲和馬具有著十分緊密的關係。在此時期，加賀藩的統治者大力投資金屬加工等傳統工藝，並邀請京都和江戶（今東京）的知名金屬工匠來指導當地的工匠。當地工匠隨後製作出了精美耐用的鑲嵌工藝品。統治者將這些工藝品贈送給幕府將軍和其他藩主，藉此展現自己的軟實力。

時至今日，加賀鑲嵌仍沒有被時代淘汰，持續展現獨特的藝術魅力。石川縣工匠保留了這項工藝的技法，並在珠寶、藝術和家居裝飾領域，為傳統工藝找到了新的表現形式。西元 2004 年，中川衛（西元 1947–）憑藉雕金技藝獲指定為重要無形文化財產保持者。

<日本語仮訳>

加賀象嵌

加賀象嵌（かがぞうがん）は、石川県（旧加賀藩）の装飾金工技法である。彫金技法のひとつであり、彫金は 1955 年に重要無形文化財に指定された。

加賀象嵌は、金や銀などの柔らかい金属を、硬い金属の地金に平らに埋め込む平象嵌の技法である。地金に斜めに切り込みを入れ、開口部より底部の方が広くなるようにする。このくぼみに、象嵌した金属を打ち込んで表面を滑らかにすると、金属が広がり、地金の張り出した部分によって固定される。また、加賀象嵌は重ね象嵌や、色金と呼ばれる銅合金を用いて、多彩な色彩を表現することでも知られている。

加賀象嵌は、江戸時代（1603–1867）に加賀藩で生産された鎧や馬具と強い結びつきがある。この時代、加賀藩は金工をはじめとする伝統工芸に大きな投資を行っていた。加賀藩は、京都や江戸（現在の東京）から有名な金工職人を招き、職人たちを指導した。その結果、美しく丈夫な象嵌細工が生まれ、将軍や諸大名に献上され、ソフト・パワーが発揮された。

現在も加賀象嵌は芸術として存続している。石川県の職人たちは、その技法を守りながら、ジュエリーやアート、インテリア、室内装飾など、新たな表現で加賀象嵌の魅力を伝えている。2004 年、中川衛（1947–）は、その彫金技術が評価され、重要無形文化財保持者に認定された。

【タイトル】石川県立美術館 / 伝統工芸の技法 (8) 国指定重要無形文化財 工芸技法

「金工一鑄金」(ちゅうきん)

【想定媒体】WEB

<簡体字>

铸金

铸金指日本金属铸造工艺中的几种传统技法，这些技法都涉及将熔融金属倒入铸模，然后将铸造物置于室温中冷却。由于铸金技法是针对液态金属进行加工，因此，铸金与其他金属加工技法（如锤揲）相比，可以打造更为复杂的造型。1964年，铸金的各项技法被共同指定为重要非物质文化遗产。

铸金所用的铸模是使用黏土和沙混合物制成的，这种材料在日语中称为“真土”。根据铸造工艺，铸金的铸模可分为三种类型：蜡型、込型和惣型。

蜡型是一种失蜡浇铸法。首先，使用蜂蜡和树脂的可延展混合物制作构想中铸件的模型。然后将真土包裹在蜂蜡模型上，并进行加热。蜂蜡受热后液化流出，只留下铸件形状的空壳。在这三种铸模类型中，使用失蜡浇铸法可以打造最精密复杂的形状，但是铸模在制作过程中会被破坏。

込型是一种分段成型工艺（又称“分件铸模”）。首先需要使用黏土制作模型。然后，使用石膏包裹黏土模型，初步制成模具。接下来，用真土包裹石膏模具的外部，然后将真土铸模分割成几段，以便拆卸、单独组装。之后，用真土覆盖石膏模具的内部。这样便制成了两件一样的真土铸模，其中一个略小于另一个。硬化后，这两件铸模便可用作内模和外模。

惣型工艺适用于制作钟、茶会用的茶釜等圆形和碗状的物品。惣型模具的上下两部分是分别在两件耐热模具中制成的。在模具内部填入真土，然后将真土压成均匀的表层，覆盖在模具的侧方和底部。然后，使用一个围绕模具中心轴旋转的板件，将真土的内表面打磨平整。之后可以在真土上压入或雕刻装饰图案，这些图案会呈现在成品铸件的外表面上。接下来，将模具内的真土烧制硬化。然后，将真土铸模的上下两部分安装在一起，如同两只套娃套在一起，中间放置一个称为“中型”的模芯。中型由金属垫片支撑，在铸模间形成间隙，以供注入液态金属。

无论采用哪种铸造方法，在铸模制作完成后，都需要将熔融金属注入其中，形成内部

中空的形状。金属冷却后，便可将铸模移除，留下金属铸件。通常，工匠会在尚未冷却的铸件表面涂漆或黑色铁基染料，为铸件上色并添加保护层。

最初，铸金制品由亚洲大陆传入日本，但有证据表明，日本国内的铸金工艺始于弥生时代早期（公元前 400–公元 200）。到了公元 1 世纪，日本工匠开始使用先进铸造工艺制作铜剑、铜镜和铜铎（一种钟形礼器）等青铜制品。

<繁体字>

鑄金

鑄金是指數種日本金屬鑄造工藝的傳統技法，每種技法都會將熔融金屬倒入鑄模，然後將鑄造物放在室溫中冷卻。由於鑄金技法是將液態金屬加工，因此與其他金屬加工技法（如錘揲）相比，可以打造更複雜的造型。西元 1964 年，鑄金的各項技法獲共同指定為重要無形文化財產。

鑄金所用的鑄模以黏土和沙的混合物製成，這種材料在日語中稱為「真土」。鑄金的鑄模根據製造方法分為蠟型、込型和惣型等三種類型。

蠟型是一種脫蠟法。首先，使用具延展性的蜂蠟和樹脂混合物，製作想要的鑄件模型。接著，用真土包裹蜂蠟模型，並進行加熱。蜂蠟受熱後液化流出，只留下鑄件形狀的空殼。在這三種鑄模類型中，使用脫蠟法可以打造最精密複雜的形狀，但鑄模會在製作過程中遭到破壞。

込型則是一種分段成型工藝（又稱「分件鑄模」）。首先需要使用黏土製作模型，接著用石膏包裹黏土模型，初步製成模具。接下來，用真土包裹石膏模具的外側，然後將真土鑄模分割成幾部分，以便拆卸與單獨組裝。之後，用真土覆蓋石膏模具的內側。這樣便能製作出兩件外型一樣的真土鑄模，其中一個略小於另一個。待硬化後，這兩件鑄模可作為內模和外模使用。

至於惣型工藝，可用於製作鐘、茶會用的茶釜等圓形和碗狀的物品。惣型模具的上下兩部分，分別在兩件耐熱模具中製成。真土會填入模具內側，然後壓成均勻的表層，覆蓋每個模具的側邊和底部，接著使用一個板子繞著模具中心軸旋轉，將真土內側的表面打磨平整。之後可以在真土上壓入或雕刻裝飾圖案，這些圖案會呈現在成品外側的表面上。下一步，將模具內的真土燒製使其硬化。然後將真土鑄模的上下兩部分組裝在一起，就像將分成兩半的木頭俄羅斯娃娃套在一起，並在中間放置一個稱為「中型」的模芯。中型由金屬墊片支撐，在鑄模間形成間隙，以供注入液態金屬。

無論採用哪種鑄造方法，在鑄模製作完成後，都需要將熔融金屬注入其中，形成內部中空的形狀。金屬冷卻後，便可將鑄模移除，留下金屬鑄件。工匠通常會在尚未冷卻的鑄件表面，塗漆或塗上黑色鐵基染料，為鑄件上色和加上保護塗層。

鑄金製品最初從亞洲大陸傳入日本，但有證據顯示，日本國內的鑄金工藝始於彌生時代早期（西元前 400–西元 200 年）。到了西元 1 世紀，日本工匠開始使用先進的鑄造工藝，製作銅劍、銅鏡和銅鐸（一種鐘形禮器）等青銅製品。

<日本語仮訳>

鑄金

鑄金（ちゅうきん）とは、日本の金工で使用されるいくつかの伝統的な鑄造方法を指す。いずれも、溶かした金属を型に流し込み、常温で冷やすというものである。金属を液体として扱うため、鋳起などの他の金属加工技術に比べ、より複雑な形状が可能である。1964 年に重要無形文化財に指定された。

鑄金の鑄型は、「真土（まね）」と呼ばれる粘土と砂を混ぜたもので作られる。この鑄型は、作り方によって「蠟型（ろうがた）」「込型（こめがた）」「惣型（そうがた）」3 種類に分けられる。

蠟型は、蜜蝋と樹脂を混ぜ合わせたものから、目的の物体の原型を作るロストワックス技法である。蠟の周りに真土を詰め込み、加熱する。すると、蠟が溶けて排出され、原型のくぼみが残る。3 種類の型のうち、ロストワックス鑄造は最も複雑な形状を再現できるが、原型はその過程で壊される。

込型は、粘土で原型を作る込型鑄造（piece molding）の技法である。まず粘土で型を作り、その上に石膏で原型を作る。次に、石膏型の外側を真土で覆い、それを分割して取り外し、別々に組み立てる。その後、石膏型の内側を真土で覆う。こうすることで、鏡像のような 2 つの真土ができ、片方はわずかに小さくなる。固まった後は、内型と外型として使用する。

鐘や茶道の茶釜など、円形のお椀のような形状のものには、「惣型」という手法を用いる。耐熱性のある 2 つの型この中に、惣型の上下を形成する。その中に真土を入れ、側面と底面が均等になるように押し付ける。型の中心軸を中心に回転させた型紙の板で、型の内側を平らにならす。このとき、真土を押ししたり、彫刻したりすることで、外側に装飾を施すことができる。次に、型の中の真土を焼成して固める。そして、木製の入れ子人形のように上下の型を合わせ、その中に中型と呼ばれる芯型を入れていく。中型には金属製のスペーサーを置いて、溶けた金属が流れ込むように隙間を作る。

いずれの方法でも、鑄型が完成したら、溶けた金属を流し込み、中の空洞の形をとる。金属が冷えると、鑄型は壊され、金属の形だけが残る。このとき、漆や鉄系の黒色染料でコーティングし、保護することが多い。

日本に初めて鑄物が伝わったのはアジア大陸からであるが、弥生時代初期（紀元前 400 年-200 年）には鑄物が始まっていたことがわかっている。1 世紀頃までには、高度な鑄造技術によって、刀剣、鏡、銅鐸などの青銅器が作られるようになった。

【タイトル】石川県立美術館 / 伝統工芸の技法 (8) 国指定重要無形文化財 工芸技法

「金工—鑄金」(ちゅうきん)

【想定媒体】アプリ QR コード

<簡体字>

铸金

铸金指日本金属铸造工艺中的几种传统技法。铸金工艺通过将熔融金属倒入铸模，然后等待铸造物冷却来制作金属制品。铸金工艺使用熔融金属，可以打造出比其他金属加工技法（如锤揲）更为复杂的造型。1964 年，铸金的各项技法被共同指定为重要非物质文化遗产。

铸金工艺于弥生时代早期（公元前 400 年—公元 200 年）从亚洲大陆传入日本。到了公元 1 世纪，金属工匠开始使用先进工艺制作铜剑、铜镜和铜铎（一种钟形礼器）等青铜制品。铸铁技术（铁的熔点更高）以及冶金技术（精炼矿石，并用金、银、铜、锡和铁炼造各类合金）随后也逐步发展。冶炼和铸造这些材料的专业技艺在金属加工车间世代传承。数世纪以来，铸金工艺不仅用于生产装饰品，还用于制作寺庙钟、茶釜、饭锅和其他与日本传统文化息息相关的物品。在石川县，铸金工艺与茶会中使用的铜锣的制作有着紧密的联系。

铸金工艺根据铸造模具的制作方法分类。蜡型是失蜡浇铸法。込型是一种使用黏土模型和石膏来制作内模和外模的分段成型工艺。在惣型技法中，需要将黏土和沙混合物（真土）沿两个碗形容器内壁压成一层，制成外模的两部分。经过烧制之后，将两个形似半个鸡蛋壳的零件包住一个较小的核心，其中间形成的空间可供注入液态金属。

<繁体字>

鑄金

鑄金是指數種日本金屬鑄造工藝的傳統技法，將熔融金屬倒入鑄模，然後等待鑄造物冷卻來製作金屬製品。由於使用熔融金屬，可以打造出比其他金屬加工技法（如錘揲）更複雜的造型。西元 1964 年，鑄金的各項技法獲共同指定為重要無形文化財產。

鑄金工藝於彌生時代早期（西元前 400 年—西元 200 年）從亞洲大陸傳入日本。到了西元 1 世紀，金屬工匠開始使用先進的工藝，製作銅劍、銅鏡和銅鐸（一種鐘形禮器）等青銅製品。隨後精煉礦石，並用金、銀、銅、錫和鐵煉造各類合金的冶金技術，以及鑄鐵技

術（鐵的熔點更高）也逐步發展。冶煉和鑄造這些材料的專業技藝在金屬加工工坊世代傳承。數世紀以來，鑄金工藝不僅用於生產裝飾品，還製作寺院的鐘、茶釜、飯鍋和其他與日本傳統文化息息相關的物品。在石川縣，鑄金工藝尤其和製作茶會中使用的銅鑪有著緊密關係。

鑄金工藝根據鑄造模具的製作方法分類，蠟型是脫蠟法，込型則是分段成型工藝，使用黏土模型和石膏製作內模和外模。至於惣型技法，需要將黏土和沙的混合物（稱為「真土」）沿兩個碗形容器的壁面壓成一層，製成外模的兩部分。經過燒製之後，將兩個形似半個雞蛋殼的零件包住一個較小的核心，其中間形成的空間可供注入液態金屬。

<日本語仮訳>

鑄物

鑄金（ちゅうきん）とは、日本の金工で使用されるいくつかの伝統的な鑄造方法を指す。鑄造とは、溶かした金属を型に流し込み、冷やすことで金属を形作る技法である。金属を液体として扱うため、鋳起しなどの他の金属加工技術よりもはるかに複雑な形状を実現することができる。1964年に重要無形文化財に指定された。

鑄造技術は、弥生時代初期（紀元前 400 年-紀元 200 年）にアジア大陸から日本にもたらされた。1 世紀頃までには、刀や鏡、銅鐸などの青銅器が高度な技術で造られるようになった。また、鉛石を精錬し、金、銀、銅、錫、鉄などさまざまな合金を作る冶金技術も発達していた。そして、これらの材料を錬り、鑄造する専門技術が、金属加工業で代々受け継がれていったのである。何世紀にもわたって、鑄物は装飾品だけでなく、梵鐘や茶釜、飯釜など日本の伝統文化に関連するものにも用いられてきた。特に石川県では、茶道の銅鑪（どら）作りに鑄物が受け継がれている。

鑄金は、鑄型の作り方で分類される。蠟型（ろうがた）はロストワックスの技法で作られる。込型（こめがた）は、粘土の模型と石膏で内型と外型を作る込型鑄造（piece molding）の技法である。惣型（そうがた）は、外型の半分をなす 2 つの椀状の鉢の壁に沿って、砂と粘土（真土）と呼ばれるの混合物を層状に押し付ける技法である。焼成後、外型と内型を卵のようにはめ込み、その間に液状の金属を流し込む。

【タイトル】石川県立美術館 / 伝統工芸の技法 (9) 国指定重要無形文化財 工芸技法

「金工—銅鑼」(どら)

【想定媒体】WEB

<簡体字>

铜锣

铜锣指一种主要用于茶会（茶之汤）的小型金属锣。铜锣由一种称为“砂张”的合金制成，这种合金由铜、锡、铅和银按精确比例混合制成。砂张金属含量的平衡是铜锣发出独特共鸣的关键，而不同铜锣的大小和厚度决定了其音调和音色。

各种金属制成的锣由亚洲大陆传入日本，这些锣有可能起源于南方的爪哇岛和苏门答腊岛的打击乐器。最初，锣用于佛寺的仪式，以及在军事演习和船只出发等场合用于传递信号。15 至 16 世纪，茶会逐渐发展为一种社交活动和美学实践，茶会组织者使用锣声示意与会者进入茶室。锣低沉而悠长的回响为茶会奠定了宁静冥思的基调。直到今天，铜锣依然是现代各茶道流派不可或缺的元素。

铜锣采用失蜡浇铸法铸造。首先，使用黏土和薯蕷混合物制作锣的基础模型。模型烧制过程中，薯蕷被烧为灰烬，留下一些小孔，可让气体在铸造过程中排出。然后，在尚未冷却的模型上覆盖多层真土（黏土和沙的混合物），工匠可以使用木制模板将其塑造、打磨成目标成品的形状。真土干燥后，工匠可以继续雕刻或打磨，为其增加纹理和装饰，但是这个步骤会影响成品的音色。基础模型以及真土铸模层共同组成了铸模的底部。将一层蜡压入经过雕刻的凹陷部分，然后用黏土和薯蕷制作铸模的顶部，这样，铸模的上下两部分便制作完成了。整个铸模结构经过加热，蜡层受热流出，形成锣形状的空壳。此时再向其中倒入熔融砂张合金。

冷却约一小时后，工匠小心地去除模具，浇铸完成的锣便显露出来。之后，工匠对锣进行抛光，有时还会进行锤揲，完成收尾工作。制作完成的铜锣会被悬挂在木制框架中。

1955 年，铜锣的铸造工艺被指定为重要非物质文化遗产。同年，石川本地工匠初代鱼住为乐 (1886–1964) 因其制作铸造铜锣的技艺被指定为重要非物质文化遗产保持者。2002 年，鱼住为乐的孙子三代鱼住为乐 (1937–) 也被指定为铜锣铸造工艺的保持者。石川县立美术馆的藏品包括鱼住家族制作的铜锣及其他金属制品。

<繁体字>

銅鑼

銅鑼指一種主要用於茶會（茶之湯）的小型金屬鑼，製作材料是以銅、錫、鉛和銀按精確比例混合的合金，這種合金稱為「砂張」。砂張金屬含量的平衡是銅鑼發出獨特共鳴的關鍵，不同銅鑼的大小和厚度則決定了音調和音色。

各種金屬製成的鑼由亞洲大陸傳入日本，這些鑼的起源有可能是南方的爪哇島和蘇門答臘島的打擊樂器。鑼最初用於佛寺的儀式，並在軍事演習和船隻出發等場合用於傳遞信號。15 至 16 世紀，茶會逐漸發展為一種社交活動和美學傳統，茶會主辦人會用鑼聲示意與會者進入茶室的時機。鑼低沉而悠長的迴響，為茶會奠定了寧靜冥思的基調。直到今日，銅鑼依然是現代各茶道流派不可或缺的元素。

銅鑼以脫蠟法鑄造。首先，使用黏土和稻殼的混合物製作鑼的基礎模型。模型燒製的過程中，稻殼被燒成灰燼，形成一些小孔，可讓氣體在鑄造過程中排出。接下來，在尚未冷卻的模型上覆蓋多層真土（黏土和沙的混合物），工匠可以使用木製模板將其塑造、打磨成目標成品的形狀，等到真土乾燥後，可以繼續進行雕刻或打磨，為模型增加紋理和裝飾，但這個步驟會影響成品的音色。基礎模型與真土鑄模層共同組成了鑄模的底部。將一層蠟壓入經過雕刻的凹陷部分，然後用黏土和稻殼製作鑄模的頂部，鑄模的上下兩部分便製作完成。整個鑄模結構經過加熱後，蠟層受熱流出，形成鑼形狀的空殼，此時再倒入熔融的砂張合金。

冷卻約一小時後，工匠小心地去除模具，鑼便顯露出來。之後，再將鑼進行拋光，有時還會進行錘揲，以完成收尾工作。製作完成的銅鑼會懸掛在木架上。

西元 1955 年，銅鑼的鑄造工藝獲指定為重要無形文化財產。同年，石川縣的工匠初代魚住為樂（西元 1886–1964）因其銅鑼鑄造技術，獲指定為重要無形文化財產保持者。西元 2002 年，魚住為樂的孫子第三代魚住為樂（西元 1937–）也獲指定為銅鑼鑄造工藝保持者。魚住家族製作的銅鑼及其他金屬製品，收藏於石川縣立美術館中。

<日本語仮訳>

銅鑼

銅鑼は、主に茶道（茶の湯）で使われる小型の金属製の鉦（かね）である。銅、錫、鉛、銀を慎重に配合した「砂張（さはり）」と呼ばれる合金で作られる。これらの金属のバランスで銅鑼特有の響きを作り出し、個々の銅鑼の大きさや厚みで音程や音色を決定する。

さまざまな金属製で作られた銅鑼が、アジア大陸を經由して日本に伝わったが、その起源はジャワ島やスマトラ島などの南方系の打楽器であった可能性がある。もともとは仏教寺院で儀式に用いられた、また軍事作戦や船の出航などの合図に使われていた。15 世紀から 16 世紀にかけて茶会が社会的、美的実践として発展するにつれ、銅鑼は亭主が参加者に茶室に入る時間を知らせる手段として

取り入れられるようになった。低く、長く続く残響音は、集まりにふさわしい瞑想的な音色をもたらすことを意図していた。今日でも、銅鑪はすべての近代的な流派のお茶にとって不可欠な道具である。

銅鑪はロストワックス製法で作られている。まず、粘土と粉殻を混ぜたもので土台となる形を作る。粉殻は焼くと灰になり、鑄造時にガスが抜けるように小さな穴が開く。その上に、粘土と砂を混ぜた"真土"を何層にも重ね、木型で形を整え、鉦の形にならす。乾燥後、さらに真土を削り、質感や装飾を加えることもできるが、これは完成品の音色にも影響する。ベースと真土を合わせたものが、鑄型の下半分になる。蠟の層が彫られたくぼみに押し込まれ、粘土と粉殻の層が型を完成させる。鑄型全体を加熱すると、蠟の層が抜け、鉦の形の空洞ができ、そこに溶けた砂張を流し込む。

1 時間ほど冷やした後、型を丁寧に削り取ると、中の銅鑪が現れる。職人が磨き、時には鎚で叩いて仕上げる。完成した銅鑪は、木製の枠に掛けられる。

1955 年、銅鑪は重要無形文化財に指定された。同年、石川県出身の初代・魚住為楽（1886-1964）が、銅鑪作りの技術で重要無形文化財保持者に認定された。2002 年には孫の三代・魚住為楽（1937-）も技術保持者に認定された。石川県立美術館には、魚住家の銅鑪をはじめとする金工品が収蔵されている。

【タイトル】石川県立美術館 / 伝統工芸の技法 (9) 国指定重要無形文化財 工芸技法

「金工—銅鑼」(どら)

【想定媒体】アプリ QR コード

<簡体字>

铜锣

铜锣指一种主要用于茶会（茶之汤）的小型锣，茶会组织者使用锣声示意与会者进入茶室。锣低沉而悠长的回响为茶会奠定了宁静冥思的基调。铜锣之所以能够发出这种共鸣声，是由于采用了特殊的原材料“砂张”——一种由铜、锡、铅和银按精确比例混合制成的合金。

铜锣采用失蜡浇铸法手工铸造。在铸造过程中，由于只有打破铸模才能取出内部冷却的铸件，因此每次铸造工匠都需要制作新的铸模。之后，工匠对铜锣进行抛光，有时还会进行锤揲，完成收尾工作。铜锣的大小和厚度以及任何装饰都会影响其音调和音色，工匠必须具备专业技巧才能预测锣的声音效果。制作完成的铜锣会被悬挂在名为“铜锣挂”的木制框架中。

1955年，铜锣的铸造工艺被指定为重要非物质文化遗产。2002年，金泽的三代鱼住为乐(1937-)被指定为铜锣铸造工艺重要非物质文化遗产保持者。三代鱼住为乐师从祖父初代鱼住为乐(1886-1964)，后者于1955年被指定为铜锣铸造工艺的保持者。

<繁体字>

銅鑼

銅鑼指一種主要用於茶會（茶之湯）的小型鑼，茶會主辦人會在是時候進入茶室時敲響鑼來示意與會者。鑼低沉而悠長的迴響為茶會奠定了寧靜冥思的基調。銅鑼之所以能夠發出這種共鳴聲，是因為採用了名為「砂張」的原料，這是一種將銅、錫、鉛和銀按精確比例混合製成的合金。

銅鑼以脫蠟法手工鑄造。由於鑄造過程中必須打破鑄模、才能取出內部冷卻的鑄件，因此每次鑄造工匠都需要製作新的鑄模。之後，工匠會再將銅鑼進行拋光，有時還會進行錘揲，以完成收尾工作。銅鑼的大小、厚度以及任何裝飾都會影響音調和音色，工匠必須擁有熟練的技能，才能預測鑼的聲音效果。製作完成的銅鑼會懸掛在名為「銅鑼掛」的木架上。

西元 1955 年、銅鑪的鑄造工藝獲指定為重要無形文化財產。西元 2002 年、金澤的第三代魚住為樂（西元 1937-）因鑄造銅鑪的技術而獲指定為重要無形文化財產保持者，其祖父初代魚住為樂（西元 1886-1964）在西元 1955 年獲指定為銅鑪鑄造工藝保持者，第三代魚住為樂的銅鑪鑄造技術便是向祖父學習而來。

<日本語仮訳>

銅鑪

銅鑪は、主に茶道（茶の湯）で使われる小型の金属製の鉦（かね）である。茶人が銅鑪を鳴らして茶室に入る時間を知らせ、その深く長い余韻は、集まりに適切な瞑想的なトーンにするためのものである。銅、錫、鉛、銀を精密に配合した「砂張（さはり）」という合金が、この響きを生み出すのである。

銅鑪はロストワックスという技法で、手作業で鑄造される。鑄型を壊して中の冷えた金属を取り出す必要があるため、職人は 1 つ 1 つ新しい鑄型を作るのである。職人が磨き、時にはハンマーで叩いて仕上げる。銅鑪の大きさや厚み、装飾品によって音の高さや音色が変わるので、それを見極めるのも熟練の技である。完成した銅鑪は、「銅鑪掛（どらかけ）」と呼ばれる木製の枠に吊るされる。

銅鑪作りは、1955 年に重要無形文化財に指定された。金沢市出身の三代・魚住為樂（1937-）は、2002 年に銅鑪作りの技術で重要無形文化財保持者に認定された。1955 年に銅鑪作りの技術で保持者に認定された祖父の初代・魚住伊樂（1886-1964）から、その技術を受け継いだ。

【タイトル】 石川県立美術館 / 伝統工芸の技法（10）国指定重要無形文化財 工芸技法
「木竹工—木工芸」（もっこうげい）

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

木工

长久以来，木制品一直是传统建筑以及漆器、编织篮等其他众多工艺的重要组成部分。1970年，木制品工艺被指定为重要非物质文化遗产，表示其重要意义正式得到认可。

日本复杂多样的气候条件和地理环境养育了多种适合木制品加工的天然木材。人们在考古遗址中发现了一些简单的木制品，例如碗、弓和船，其历史可追溯到绳文时代（公元前10,000年—公元前400年）。铁制工具于弥生时代（公元前400年—公元200年）广泛传播，而且自古坟时代（约250—552）以来，不断有来自亚洲大陆的专业工程师和工匠来到日本，木制品工艺的复杂程度和精密度因此不断提高。17世纪以来，城市化的进程以及商人阶级财富的不断积累推动了木制品制造业的蓬勃发展，高度专业化的技艺不断精进，以满足人们对更为精致奢华的木制品的需求。到了19世纪，国际贸易和交流愈发频繁，为日本工艺品带来了更广泛的需求，这促使木匠由制作传统工艺品向制作创新产品转型。这些创新产品的出现使木制品工艺发展为重要艺术门类。

石川县的木制品工艺主要分为四类。细木工（指物）指不使用任何钉子，将木板或面板固定在一起的技法。这种处理一般是为了隐藏木制品的接头。雕刻（削物）指使用刨子、刀和凿子将木块打造成木制作品的技法。这种技法要求工匠细致观察木材的纹理和其他特征，调整设计思路，充分利用木材的天然特性。曲木（曲物）指将雪松或柏树等软木材浸泡在热水中使其变软，然后再将其弯曲成圆柱或椭圆体的技法。这种技法通常用于制作米饭盒和便当盒，因为天然防腐木材具有保温保湿的特性。最后，车削（挽物）指在车床上使用车刀将旋转的木块加工成型，是制作碗、托盘等圆形物品的理想选择。所有技法都要求工匠深刻理解各类木材的特性，因为经过切割的木材可能因温度或湿度的变化而发生变形或断裂。

石川县的木制品工艺高度发达，其中一部分原因是石川县的木制品会被用于制作漆器基材。无论是透过薄漆仍可清楚看见木材纹理的山中漆器等传统工艺，还是涂漆较厚、装饰华丽的金泽漆器和轮岛漆器，制作精良的漆器基材都是不可或缺的原材料。

石川诞生了多位木制品工艺的重要非物质文化遗产保持者，其中首位是冰见晃堂(1906–1975)，他于 1970 年被指定为指物的重要非物质文化遗产保持者。另外两位石川县的木制品工艺保持者分别是于 1994 年被指定为挽物保持者的川北良造(1935–)，以及于 2012 年被指定为指物保持者的灰外达夫(1941–2015)。这几位工匠的作品收藏于石川县立美术馆。

<繁体字>

木工

長久以來，木工工藝一直是傳統建築，以及漆器、編織籃等其他眾多工藝品中重要的構成元素。西元 1970 年，木工工藝獲指定為重要無形文化財產，表示其重要性正式獲得認可。

日本的氣候條件和地理環境複雜多樣，有利於多種適合進行木工加工的天然木材生長。人們在繩文時代（西元前 10,000 年–西元前 400 年）的考古遺址中發現了碗、弓和船等一些簡單的木製品。隨著鐵製工具在彌生時代（西元前 400 年–西元 200 年）普及，再加上自古墳時代（約西元 250–552）以來，不斷有來自亞洲大陸的專業技術人員和工匠來到日本，使得木工工藝的複雜程度和精密度不斷提升。從 17 世紀開始，都市化加上商人階級的財富不斷累積，推動木工產業蓬勃發展，高度專業化的技藝也不斷精進，以滿足人們對更加精緻奢華的木製品的需求。自 19 世紀起，國際貿易和交流愈來愈頻繁，增加了對日本工藝品的需求，促使木工工匠為傳統工藝賦予新意，轉型為製作創新的藝術作品，這確立了木工工藝作為重要藝術門派的地位。

石川縣的木工工藝主要分為四類，細木工（指物）指不使用任何釘子，將木板或板子固定在一起的技法，這種處理一般是為了隱藏接合處。雕刻（剝物）指使用刨具、刀和鑿子將木塊塑形的技法，工匠必須仔細觀察木材的紋理和其他特徵，隨之調整設計思路，以充分利用木材的天然特性。曲木（曲物）指將雪松或柏樹等軟木材浸泡在熱水中使木材變軟，然後再將其彎曲成圓柱或橢圓狀的技法，通常用於製作飯盒和便當盒，因為天然防腐木材具有保溫、保濕的特性。最後，旋削（挽物）指在車床上使用車刀，將旋轉的木塊加工成型，非常適合用於製作碗、托盤等圓形物品。無論使用上述哪種技法，工匠都必須熟知各類木材的特性，因為經過切割的木材，可能會因溫度或濕度的變化而變形或斷裂。

石川縣的木工工藝非常發達，其中一部分原因是木製品會用於製作漆器基材。無論是透過薄漆仍可清楚看見木材紋理的山中漆器等傳統工藝，還是塗上較厚的漆料、裝飾華麗的金澤漆器和輪島漆器，製作精良的漆器基材都是當中不可或缺的原料。

石川縣誕生了多位木工工藝的重要無形文化財產保持者，其中首位是冰見晃堂（西元 1906–1975），他於西元 1970 年獲指定為指物的重要無形文化財產保持者，另外兩位則分別是於西元 1994 年獲指定為挽物保持者的川北良造（西元 1935–），以及於西元 2012 年獲指定為指物保持者的灰外達夫（西元 1941–2015）。這幾位工匠的作品收藏於石川縣立美術館。

<日本語仮訳>

木工

木工は長い間、伝統的な建築物や漆器、籠細工など多くの工芸品の重要な構成要素であった。木工の重要性は 1970 年に正式に認められ、重要無形文化財に指定された。

日本は気候や地形が変化に富んでおり、木工に適した多種多様な在来木材が豊富にある。縄文時代（紀元前 10,000- 300 年）の遺跡からは、椀、弓、舟などの単純な木製品が見つかっている。弥生時代（紀元前 400 年-紀元前 200 年）に鉄器が普及し、古墳時代（約 250-552 年）にはアジア大陸から専門技術者や職人が渡来したことで、工芸はますます複雑化、高度化していった。17 世紀以降、都市化と商人階級の富の増大により木工ブームが起こり、より複雑で豪華な作品の需要に応えるため、高度な専門技術が発達した。19 世紀以降、国際貿易や交流が盛んになると、日本の工芸品への需要が高まり、木工職人は伝統的な技術を生かして革新的な芸術性の作品を制作するようになった。そして、木工は芸術の一大分野として確立していったのである。

石川県の木工は、大きく分けて 4 つに分類される。指物（さしもの）とは、木製の板やパネルを釘を使わずに固定することである。これは通常、接合部が見えないようにする。刳物（くりもの）は、かんなや刃物、ノミを使って、一塊の木から形を作る。木目や材質を見極め、素材の持ち味を生かした作品に仕上げる。曲物（まげもの）は、杉やヒノキなどの針葉樹を湯に浸してしなやかにし、円柱や楕円に曲げたものである。防腐効果のある木材は保温・保湿性が高いため、ご飯箱やお弁当箱などによく使われる。また、ろくろで回転させた木の塊を刃物で成形する挽物（ひきもの）は、お椀やお盆など円形のものに適している。いずれも、切り出した木材が温度や湿度の変化で反ったり割れたりするため、木の性質を熟知した職人が必要である。

木工は漆器の下地（ベースとなるもの）を作るために使われることもあり、石川県では非常に発達した工芸品となっている。漆を塗る下地は、木目を生かした山中漆器だけでなく、金沢や輪島などの厚塗りで華麗な装飾が施された漆器でも、漆を塗る土台が緻密であることは不可欠である。

石川は木工芸の重要無形文化財保持者を何人も輩出している。最初に1970年に「指物」で氷見晃堂（1906-1975）が認定された。石川県出身のもう二人の木工芸保持者は、1994年に「挽物」で川北良造（1935-）、2012年に「指物」で灰外達夫（1941-2015）の2名が認定されている。それぞれの作家の作品は、石川県立美術館で見ることができる。

【タイトル】 石川県立美術館 / 伝統工芸の技法（10）国指定重要無形文化財 工芸技法
「木竹工—木工芸」（もっこうげい）

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

木工

木制品工艺本身就是一种历史久而多样化的工艺，并且也是漆器和编织篮等工艺的重要组成部分。1970 年，木制品工艺被指定为重要非物质文化遗产，表示其重要意义正式得到认可。

日本列岛复杂多样的气候条件和地理环境孕育了多种适合木制品加工的天然木材。人们在考古遗址中发现了可追溯到绳文时代（公元前 10,000–公元前 400）的具有某些形状の木制品。日积月累之下，工具和技术逐渐成熟，艺术品和建筑物也随之日益精细复杂。如今，木制品工艺被认可为一种重要艺术门类。

木制品工艺的 4 种主要技法分别为：指物（不使用钉子的细木工）、剝物（在木块上进行雕刻）、曲物（将软木材浸泡在热水中，然后将其弯曲），以及挽物（车削）。所有技法都要求工匠深刻理解各类木材的特性，因为如果经切割的木材所处的环境发生温度或湿度变化，木材可能会变形或断裂。

在石川县，木制品工艺与当地著名的漆器共同发展。漆器一般具有木质基材。无论是透过薄漆仍可清楚看见木材纹理的山中漆器等传统工艺，还是涂漆较厚、装饰华丽的金泽漆器和轮岛漆器，制作精良的漆器基材都是不可或缺的原材料。

有数位木制品工艺的重要非物质文化遗产保持者是来自石川，如冰见晃堂（1906–1975）、川北良造（1935–）和灰外达夫（1941–2015）。

<繁体字>

木工

木工不僅本身就是一項歷史悠久又多樣的工藝，還是漆器和編織籃等工藝重要的構成元素。西元 1970 年，木工工藝獲指定為重要無形文化財產，表示其重要性正式獲得認可。

日本列島の氣候條件和地理環境複雜多樣，有利於多種適合進行木工加工的天然木材生長。人們也在繩文時代（西元前 10,000–西元前 400）的考古遺址中發現了有特定形狀的木製品。日積月累之下，工具和技術逐漸成熟，藝術品和建築物也日益精細複雜。到了現代，木工工藝更獲認可為一項重要的藝術門派。

木製品工藝的 4 種主要技法分別為：指物（不使用釘子的細木工）、剝物（在木塊上進行雕刻）、曲物（將軟木材浸泡在熱水中，然後將其彎曲），以及挽物（旋削）。無論使用上述哪種技法，工匠都必須熟知各類木材的特性，因為經過切割的木材，可能會因溫度或濕度的變化而變形或斷裂。

在石川縣，木工工藝與當地著名的漆器一同發展。漆器一般會有一個木頭製的基材，無論是透過薄漆仍可清楚看見木材紋理的山中漆器等傳統工藝，還是塗上較厚的漆料、裝飾華麗的金澤漆器和輪島漆器，製作精良的漆器基材都是當中不可或缺的原料。

有多位木工工藝的重要無形文化財產保持者是來自石川縣，其中包括冰見晃堂（西元 1906–1975）、川北良造（西元 1935–）和灰外達夫（西元 1941–2015）。

<日本語仮訳>

木工

木工は、それ自体が長い歴史を持つ多様な工芸品であるが、漆器、籠細工など多くの工芸品の重要な構成要素でもある。1970 年には、正式にその重要性が認められ、重要無形文化財に指定された。

日本列島の氣候や地形は、木工に適した多種多様な種類の在来木材を育み、縄文時代（紀元前 10,000-400 年）の木製品の遺物が発掘されている。時が経つにつれ、道具や技術が高度化し、美術品や建築物も複雑化していった。現在では、木工は芸術の一大分野として認識されている。

その技法は、「指物」「剝物」「曲物」「挽物」の 4 つに大別される。いずれも、切り出した木が温度や湿度の変化で反ったり割れたりするため、木の性質を熟知した職人が必要だ。

石川県では、漆器とともに木工が発達しており、漆器の下地（ベース）は木が一般的である。山中漆器のように木目を生かしたものだけでなく、金沢や輪島のように漆を厚く塗り、装飾を施したのも、木地がきれいに整っていることが必要不可欠である。

氷見晃堂（1906-1975）、川北良造（1935-）、灰外達夫（1941-2015）など、石川県から木工芸の重要無形文化財保持者が数人誕生している。

【タイトル】 石川県立美術館 / 伝統工芸の技法（11）国指定重要無形文化財 工芸技法
「金工—日本刀」（にほんとう）

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

日本刀锻造

日本利用锻造技术制造单刃刀已有数百年的历史。这种锻造技术可以打造坚固异常且具有复杂表面纹理和回火纹样的钢材。1955年，日本刀制造工艺被指定为重要非物质文化遗产。

几个世纪以来，日本不断涌现了符合当时需求和审美风格各类长度、曲度不同的日本刀。然而，这些不同的日本刀却都使用了相似的锻造技术。这些日本刀的制造原料为低杂质铁砂与木炭的混合物，再经过熔炼、锻焊，制成一种称为玉钢的材料。刀匠将钢料反复折叠，并多次捶打，这一步骤可以去除多余的杂质，并让碳分布更加均一，从而打造优质的多层钢材。随后，刀匠将刀片尖端切割成一定角度，并经过锤击打造出刀尖的形状，然后再将刀片表面整体打磨光滑。

接下来，刀匠对刀进行回火，使其变得更加坚固，并能够保持刀刃持续锋利。刀匠首先将黏土、木炭和磨刀石粉末的混合物包裹在刀刃以外的所有部位。刀片先经过加热，然后放入水中急速冷却，经过这一步骤，刀刃边缘会形成独特的回火纹样。如果刀片发生变形，刀匠会使用锤子修正，并将刀片抛光得锋利无比。最后一步是在刀茎（刀片安装在刀柄内的部分）上刻上刀匠的签名（铭）。

铸刀，即将熔融金属倒入模具制刀的技法，最晚在古坟时代（约 250–552）就已经存在。然而直到平安时代（794–1185），日本国内的刀匠才开始通过锻造制刀。12世纪末，日本出现了一种名为太刀的长弯刀，标志着日本刀正式诞生。

15世纪至16世纪的动荡时期，一种略短的武士刀（日语发音为 katana，汉字为“刀”）成为当时的主导风格。精锻的日本刀专为统治者打造，而批量生产、品质较差的武士刀则是为普通武士准备的。17世纪初，日本在德川幕府的统治下进入和平年代。在接下来两个世纪的幕府统治时代，日本刀演变为地位和权力的重要象征。富裕的日本刀购买者要求作品兼具实用价值和艺术价值，因此日本的锻刀工艺变得更加精密复杂。这种需求促使刀匠及掌握其他配套工艺的工匠在城下町聚集。

一般来说，刀片及相关配件都是由专业工匠打造的艺术品。绘有漆和金蒔绘的定制木质刀鞘、包裹着丝绸的鲨鱼皮刀柄，还有镶嵌着贵金属的精致护手，这些华丽的装饰无不彰显着拥有者的惊人财富和尊贵地位。17 世纪至 19 世纪，在前田氏藩主的资助下，加贺藩（今石川县和富山县）吸引并培养了大量技艺精湛的刀匠及相关工匠。

<繁体字>

日本刀鍛造

日本製造單刃刀已有數世紀的歷史，當中運用的鍛造技術，可以打造出特別堅固且具有複雜表面紋理、回火紋樣的鋼材。西元 1955 年，日本刀製造工藝獲指定為重要無形文化財產。

數世紀以來，日本不斷出現符合當下需求和審美風格的各類長度、曲度各異的日本刀，但各類不同的日本刀卻都使用了相似的鍛造技術。這些日本刀的製造原料為低雜質鐵砂與木炭的混合物，再經過熔鍊、鍛焊，製成一種稱為玉鋼的材料。刀匠將鋼料反覆摺疊，並多次鍛打，這個步驟可以去除多餘雜質，讓碳的分布更加均勻，就能打造出優質的多層鋼材。隨後，刀匠再將刀片尖端切割成一定角度，並經過錘擊以打造出刀尖的形狀，然後再磨製刀片表面，讓整體變得光滑。

接下來，刀片經過回火，變得更堅固且維持鋒利度。刀匠首先將黏土、木炭和磨刀石粉末的混合物，包裹在刀刃以外的所有部位。接著刀片先經過加熱，然後放入水中急速冷卻，經過這個步驟，刀刃邊緣會形成獨特的回火紋樣，然後若刀片變形，刀匠會使用錘子修正，並將刀片拋光，使其鋒利無比。最後一步是在刀莖（刀片裝在刀柄內的部分）刻上刀匠的名字（在日文中稱為「銘」）。

鑄刀為將熔融金屬倒入模具製刀的技法，最晚在古墳時代（約西元 250–552）就已經存在，但直到平安時代（西元 794–1185），日本國內的刀匠才開始透過鍛造製刀。12 世紀末，日本出現了一種名為太刀的長彎刀，從此日本刀正式誕生。

15 世紀至 16 世紀之間時局動盪，一種略短的武士刀（在日語中稱「刀」，讀音為 katana）成為當時的主流。精鍛的日本刀專為統治者打造，許多大量生產、品質較差的武士刀則是為普通武士準備。17 世紀初，日本在德川幕府統治下進入和平的時代。在接下來兩個世紀的幕府統治時代，日本刀演變為地位和權力的重要象徵。富裕的日本刀買家要求作品兼具實用性和藝術價值，因此日本的鍛刀工藝變得更加精密複雜，這種需求促使刀匠及其他相關工藝的工匠們聚集在城下町。

一般來說，刀片及相關配件都是由專業工匠打造的藝術品。裝飾著漆和金蒔繪的定製木製刀鞘、包裹著絲綢的鯊魚皮刀柄，還有鑲嵌著貴重金屬的精緻護手，無不彰顯著擁有

者的驚人財富和尊貴地位。17世紀至19世紀，在前田氏藩主的資助下，加賀藩（今石川縣和富山縣）吸引並培養了大量技藝精湛的刀匠及相關工匠。

<日本語仮訳>

日本刀の鍛造

日本では古くから片刃の刀が生産されており、鍛造技術により、複雑な鍛え肌・地肌と刃文を持つ、非常に強靱な鋼が生み出されている。1955年、日本刀づくりは重要無形文化財に指定された。

何世紀にもわたって、時代のニーズやスタイルに応じて、長さや曲率の異なるさまざまな種類の刃物が生み出されてきた。しかし、どの刀にも共通するのは、鍛造技術である。原料は不純物の少ない砂鉄で、これを炭と混ぜて製錬し、鍛接し、玉鋼（たまはがね）と呼ばれる鋼をつくる。この鋼塊を何度も折り曲げたり、打ち出したりして不純物取り除き、炭素を均一に分散させることで、高品質で多層構造の鋼に仕上げる。刃の先端を斜めにカットし、槌で叩いて尖らせた後、全体を平滑に仕上げる。

次に、刀の強度と切れ味を高めるために焼き入れを行う。まず、粘土と炭と砥石の粉を混ぜたものを刃先以外のすべての部分に塗る。刃を熱し、水で急冷することで、刃の長さに沿って独特の刃文ができる。その後、ハンマーで刃の歪みを取り、鋭利な刃に磨き上げる。最後になかご（柄の内側に納まる刃の部分）に鍛冶職人のサイン（銘）を入れる。

鋳型に溶かした金属を流し込んで作る鋳造刀は、少なくとも古墳時代（250～552年頃）には存在していた。しかし、国内の刀工が鍛刀するようになったのは、平安時代（794-1185）に入ってからである。12世紀末には、太刀と呼ばれる非常に長い弧を描く刀が登場し、これが日本刀の原型となった。

15世紀から16世紀にかけての混乱期には、カタナと呼ばれるやや短めの刀が主流となった。藩主のための精巧な刀が作られる一方、一般の武士のための低品質で大量生産された刀も多くあった。しかし、17世紀初頭に日本は徳川幕府のもとで平和が訪れた。その後、2世紀にわたる幕府の支配下に置かれ、刀剣は身分と権力の象徴となり、富裕層が機能性と芸術性を兼ね備えた価値の高い作品を求めるようになり、刀工の技術も洗練されていった。城下町には刀匠や関連工芸の職人たちが集まり、彼らの要望に応えた。

刀身とその付属品は専門の職人によって作られた芸術品であることが多い。漆や金の蒔絵を施した特注の木製の鞘（さや）、絹を巻いた鮫革の柄（つか）、貴金属をはめ込んだ精巧な鐔（つば）など、華麗な装飾品は着用者の富と地位を示している。加賀藩（現在の石川県・富山県）は、前田家の支援のもと、17世紀から19世紀にかけて、多くの腕利きの刀工や関連職人を集め、育成することができた。

【タイトル】 石川県立美術館 / 伝統工芸の技法（11）国指定重要無形文化財 工芸技法
「金工—日本刀」（にほんとう）

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

日本刀鍛造

日本刀是一种弯曲的单刃刀，以其异常坚固的钢材、复杂的纹理和回火纹样而闻名。1955年，日本刀制造工艺被指定为重要非物质文化遗产。

日本刀的与众不同之处在于其锻造和回火的工艺。日本刀的制造原料为低杂质铁砂与木炭的混合物，再经过熔炼、锻焊，制成一种称为玉钢的材料。刀匠将玉钢材料反复折叠，并多次捶打，以去除多余的杂质，让碳分布更加均一，从而打造优质的多层钢材。刀匠将黏土混合物包裹在刀刃以外的所有部位，然后将刀片加热，再放入水中冷却，经过这一步骤，刀片上会形成独特的回火纹样。最后，刀匠将刀片抛光，并在刀茎（刀片安装在刀柄内的部分）上刻上签名。

虽然在更早的时期，日本也存在过一些刀，而日本刀真正的起源是平安时代（794–1185）诞生的名为太刀的长弯刀。到了15世纪至16世纪，一种略短的武士刀（日语发音为katana，汉字为“刀”）取代了太刀的地位，成为了当时的主导风格。然而，“日本刀”这一概念涵盖符合不同时代需求和审美风格各类短刀和长刀。

17世纪至19世纪，加贺藩（今石川县和富山县）的前田氏藩主招揽了大量技艺精湛的刀匠，以及制作刀柄和护手等部件的工匠。在前田家族的资助下，这些工匠得以不断追求并完善其技艺，为精英武士阶层制作精致的刀及华丽的配件。

<繁体字>

日本刀鍛造

日本刀是一種彎曲的單刃刀，以特別堅固的鋼材、複雜的紋理和回火紋樣而聞名。西元1955年，日本刀製造工藝獲指定為重要無形文化財產。

日本刀與眾不同之處在於鍛造和回火的工藝，其製造原料為低雜質鐵砂與木炭的混合物，再經過熔鍊、鍛焊，製成一種稱為玉鋼的材料。刀匠將玉鋼材料反覆摺疊，並經多次鍛打去除多餘雜質，讓碳的分布更加均勻，就能打造出優質的多層鋼材。刀匠將黏土混合

物包裹在刀刃以外的所有部位，然後將刀片加熱，再放入水中冷卻，刀片上便會形成獨特的回火紋樣。最後，刀匠將刀片拋光，並在刀莖（刀片裝在刀柄內的部分）上刻上名字。

雖然在更早的時期，日本便已出現刀，但日本刀真正的起源是平安時代（西元 794-1185），當時誕生名為太刀的長彎刀。到了 15 世紀至 16 世紀，一種略短的武士刀（在日語中稱「刀」，讀音為 katana）取代了太刀的地位，成為當時的主流。然而，「日本刀」這個概念涵蓋符合不同時代需求和審美風格的各類短刀和長刀。

17 世紀至 19 世紀，加賀藩（今石川縣和富山縣）的前田氏藩主招攬了大量技藝精湛的刀匠，以及製作刀鞘和護手等部件的工匠。在前田家的資助下，這些工匠得以不斷磨練技藝並提升能力，為上層武士階級製作精緻的刀及華麗的配件。

<日本語仮訳>

日本刀の鍛造

日本刀は、湾曲した片刃の刃物で、非常に強い鋼と複雑な鍛え肌・地肌や刃文で知られている。1955 年、日本刀づくりは重要無形文化財に指定された。

日本刀の特徴は、鍛錬と焼き入れの方法にある。原料は不純物の少ない砂鉄で、これを炭と混ぜて製錬し、鍛錬して玉鋼（たまはがね）と呼ばれる鋼を作る。玉鋼の塊を何度も折り曲げ、打ち延ばすことで不純物を取り除き、炭素を均一に分散させることで、高品質な多層鋼に仕上げる。刃を熱し、焼き入れする前に粘土を混ぜたものを刃先以外のすべての部分に塗ることで、全く独自の刃文をつけることができる。最後に刃を磨き上げ、なかご（柄の内側に納まる部分）に鍛冶職人の銘を刻む。

それ以前の刀も存在するが、真の日本刀の起源は平安時代（794-1185）の太刀と呼ばれる長く湾曲した刀の出現にある。15 世紀から 16 世紀にかけて、太刀はカタナと呼ばれるやや短い刀に取って代われ、主流となった。しかし、一口に「日本刀」といっても、時代のニーズやスタイルに応じて、短刀から長刀までさまざまな刀が生まれた。

17 世紀から 19 世紀にかけて、加賀藩（現・石川県・富山県）の前田藩主は、刀鍛冶や鞘・鍔などの刀装具の職人を引き寄せた。前田家の支援のもと、職人たちは技術を磨き、武士の上位階級に精巧な刀や華麗な装飾を施した刀を供給することができた。

【タイトル】 石川県立美術館 / 伝統工芸の技法 (12) 国指定重要無形文化財 工芸技法

「金工・截金」(きりかね)

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

截金

截金是一种装饰技法，以切割出的极薄金属箔（一般为金箔或银箔），将其装饰到木材或其他基材表面，从而组成微小而复杂的图案。最初，截金主要用于装饰佛教塑像的袈裟和盔甲。这种技法于飞鸟时代 (552–645) 从亚洲大陆传入日本，并在 8 世纪至 14 世纪初达到巅峰。

江户时代 (1603–1867)，截金很大程度上被金漆所取代，因为后者操作起来更加方便快捷。截金技法一度被弃用，只有京都的东本愿寺和西本愿寺保留了这种技法。第二次世界大战后，截金技法传播到了宗教之外的领域，人们开始使用这种技法装饰茶具和其他艺术品等，截金技法才得以复苏。

金箔非常脆弱，甚至一不留神就会被工匠呼出的气息吹破，因此截金工匠会将几张金箔叠在一起来增加其强度。工匠用竹子制成的镊子来处理金箔，因为竹制品不会与金箔粘连在一起，也不会产生静电火花破坏作品。工匠将金箔短暂地置于热灰铺成的基底上，热灰会将金箔加热到合适程度，此时数张金箔叠在一起并受到挤压，正好可以互相黏合。多层金箔达到一定厚度时，工匠便将其转移至鹿皮切割台，用竹刀将其切成比人类的头发丝还要细的细丝。切割台上的鹿皮能保持金箔丝不移动，将金箔丝拿起时也不会黏住。

工匠使用一种特殊胶水将金箔丝固定到基材上。这种胶水由海藻基粘合剂“布海苔”和动物皮制成的粘合剂“胶”混合而成。工匠在黏合金箔丝时两手各持一支毛笔，其中一支毛笔的尖端用水润湿，工匠用毛笔的尖端将金箔丝的末端卷曲，将其从切割台上提起。另一支毛笔用胶水和水的混合物润湿，工匠用带胶水的毛笔将金箔丝牵引至基材上，同时将其黏在基材表面。

至今仅有三位工匠被指定为截金这项重要非物质文化遗产的保持者。其中一位工匠是来自石川县的西出大三 (1913–1995)，他于 1985 年被指定为重要非物质文化遗产保持者。西出在研究佛教艺术修复时接触到了截金，并通过刻苦钻研自学了这一技法。随后，他将截金技法融入到了自己的木制品中。本馆收藏了多件西出的作品，其中包括一系列采用截金技法缀满彩色金线和花瓣的非写实动物形器皿。

1981 年，截金技法被指定為重要非物質文化遺產。

<繁體字>

截金

截金是一種裝飾技法，以切割出的極薄金屬箔（一般為金箔或銀箔），將其裝飾到木材或其他基材表面，打造細小精緻的圖案。最初，截金主要用於裝飾佛像的袈裟和盔甲。這種技法在飛鳥時代（西元 552–645）從亞洲大陸傳入日本，並在 8 世紀至 14 世紀初達到巔峰。

江戶時代（西元 1603–1867）時，由於金漆使用起來更加方便快速，導致截金很大程度上由金漆所取代，除了京都的東本願寺和西本願寺保留了這種技法外，一度不再有人使用。直至第二次世界大戰後，截金技法開始用於宗教以外的領域，人們開始使用這種技法裝飾茶道用具和其他藝術品等物品，截金技法才得以復甦。

金箔非常脆弱，甚至會因為工匠的呼吸而破碎，因此截金工匠會將幾張金箔疊在一起來增加強度。在處理金箔時，工匠會使用竹子製成的鑷子，因為竹製品不會產生靜電火花破壞作品，金箔也不會附著其上。工匠會短暫地將金箔放在熱灰鋪成的基底上，讓金箔加熱到合適的程度，此時數張金箔會疊在一起並受到擠壓，正好可以黏合在一起。多層金箔達到一定厚度時，工匠便會將金箔轉移到鹿皮切割台上，用竹刀切成比人類髮絲還細的細絲。放置在鹿皮製成的切割台上時，金箔絲不會移動，將其拿起時也不會黏住。

接著工匠使用一種由「布海苔」（原料為海藻的黏合劑）和「膠」（動物毛皮製成的黏合劑）混合而成的特殊膠水將金箔絲固定到基材上。在黏合金箔絲時，工匠兩手各持一支毛筆，其中一支的尖端用水沾濕。然後，工匠會用毛筆的尖端捲起金箔絲的末端，並從切割台上挑起。另一支毛筆用膠水和水的混合液沾濕，然後工匠會用沾著混合液的毛筆將金箔絲移動到基材上，同時將金箔絲黏在基材表面上。

至今僅有三位工匠獲指定為截金這項重要無形文化財產的保持者，其中一位是來自石川縣的西出大三（西元 1913–1995），他在西元 1985 年獲得這項稱號。西出在學習修復佛教藝術時接觸到截金，花費大量時間鑽研並自學這項技法。隨後，他將截金技法融入到自己的木工製品中。本館收藏了多件西出的作品，包括一系列採用截金技法的動物造型器皿，綴滿彩色的金線和花瓣。

西元 1981 年，截金技法獲指定為重要無形文化財產。

<日本語仮訳>

截金

截金（きりかね）とは、極薄の金や銀などの金属箔を切り取り、木などの素地（下地）に塗布して、微細で複雑なパターンを形成する装飾技法である。もともと截金は、仏像の衣や鎧の装飾に多く用いられていた。日本には飛鳥時代（552-645）にアジア大陸から渡来したが、8世紀から14世紀初頭にかけて最盛期を迎えた。

江戸時代（1603-1867）には、より早く簡単に塗れる金泥に取って代われ、截金は使われなくなった。一時は京都の東本願寺と西本願寺にしかその技術が残っていないほど廃れてしまった。第二次世界大戦後、宗教の枠を超えて、茶道具や美術品などの工芸品に施されるようになり、復活した。

金箔は息がかかると破れてしまうほど繊細なため、職人が何枚も重ねて補強する。竹製のピンセットを使って、箔に付着しないように、また静電気を帯びないように、何枚も重ねていく。このとき、箔は熱せられた灰の上に置かれ、重ね合わされた箔が他の箔と密着するのに十分な熱を持つ。何層にも重ねた箔が十分な厚さになったら、鹿革の裁断台に移し、竹刀で髪の毛よりも細く切っていく。鹿革が薄い箔を固定し、かつ剥がすときにくっつかないようにするためだ。

帯状にしたものを下地に貼り付けるには、特殊な接着剤を使用する。糊は、海藻を原料とする「布海苔（ふのり）」と、動物の皮を原料とする「膠（にわか）」を混ぜ合わせたものである。職人は両手に筆を持って、帯状の箔を貼っていく。1つは、先端を水で湿らせた筆である。職人が箔の端を巻いて、裁断台から浮かせる。もう一本は、糊と水を混ぜたもので湿らせた筆である。これで箔を下地に乗せると同時に、表面に接着させる。

截金で重要無形文化財保持者に認定されたのは、これまで3人しかいない。石川県にはその一人、西出大三（1913-1995）は1985年に認定された。彼は仏教美術の修復を学ぶ中で截金に出会い、熱心に研究して独学で技法を習得した。その後、截金を自身の木工芸に取り入れた。当館には、色とりどりの金線と花びらで動物の容器全体を覆い尽くした截金作品など、数点の作品が収蔵されている。

截金は1981年に重要無形文化財に指定された。

【タイトル】 石川県立美術館 / 伝統工芸の技法（12）国指定重要無形文化財 工芸技法
「金工・截金」（きりかね）

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

截金

截金是一种装饰技法，以切割出的极薄金属箔（一般为金箔或银箔），将其装饰到木材或其他基材表面，从而组成微小而复杂的图案。1981年，截金技法被指定为重要非物质文化遗产。

截金技法于飞鸟时代（552–645）从亚洲大陆传入日本，传统上用于装饰佛教塑像。17至18世纪，截金很大程度上被金漆所取代，因为后者操作起来更加方便快捷，但京都的两座寺庙保留了这种技法。在第二次世界大战后，工匠将截金应用于非宗教艺术品，这种技法才得以复苏。

金箔非常脆弱，甚至一不留神就会被工匠呼出的气息吹破，因此截金工匠会将几张金箔固定在一起以增加其强度。工匠将金箔短暂地置于热灰铺成的基底上，热灰会将金箔加热到合适程度，此时数张金箔叠在一起并受到挤压，正好可以互相黏合。工匠用竹子制成的镊子和刀来夹取并切割金箔，因为竹制品不会与金箔粘连在一起，也不会产生静电火花破坏作品。工匠将金箔切成比人类的头发丝还要细的细丝，然后细致地将金箔丝黏在物品表面，来制作图案或装饰雕刻。

1985年，出生于石川县的艺术家西出大三（1913–1995）因其截金技术被指定为重要文化遗产保持者。

<繁体字>

截金

截金是一種裝飾技法，以切割出的極薄金屬箔（一般為金箔或銀箔），將其裝飾到木材或其他基材表面，打造細小精緻的圖案。西元1981年，截金技法獲指定為重要無形文化財產。

截金技法在飛鳥時代（西元552–645）從亞洲大陸傳入日本，傳統上用於裝飾佛像。17至18世紀時，由於金漆使用起來更加方便快速，導致截金很大程度上由金漆所取代，

但京都的兩座寺院保留了這種技法。直至第二次世界大戰後，工匠們將截金工藝用於非宗教藝術品，這種技法才得以復甦。

金箔非常脆弱，甚至會因工匠的呼吸而破碎，因此截金工匠會將幾張金箔黏合在一起來增加強度，方法是工匠將短暫地將金箔放在熱灰鋪成的基底上，讓金箔加熱到合適的程度，此時數張金箔會疊在一起並受到擠壓，正好可以黏合在一起。此外，工匠會用竹子製成的鑷子和刀來夾取、切割疊在一起的金箔，因為竹製品不會產生靜電火花破壞作品，金箔也不會附著其上。最後工匠會將金箔切成比人類髮絲還細的細絲，然後細緻地將金箔絲黏在物品表面，以製作圖案或裝飾雕刻。

西元 1985 年，在石川縣出生的工匠西出大三（西元 1913-1995）因其截金技術而獲指定為重要文化財保持者。

<日本語仮訳>

截金

截金（きりかね）とは、極薄の金や銀などの金箔を切り取り、木などの素地（下地）に貼り付けて、微細で複雑な模様を表現する装飾技法である。1981 年に重要無形文化財に指定された。

飛鳥時代（552-645）にアジア大陸から渡来した截金は、伝統的に仏像の装飾に使われていた。17 世紀から 18 世紀にかけては、より早く簡単に塗れる金泥の使用に取って代わられた。しかし、京都の 2 つの寺院がこの技法を守り続け、第二次世界大戰後、宗教以外の美術品に応用され、復活した。

金箔は息を吹きかけると破れてしまうほど繊細なため、截金職人は何枚も金箔を貼り合わせて強度を高めている。このとき、箔は熱せられた灰の上に置かれ、重ね合わされた箔が他の箔と密着するのに十分な熱を持つ。職人はピンセットと、箔がくっつきにくく、静電気を帯びにくい竹製のナイフで重ねた箔を持ち、カットする。箔は髪の毛より細いものもあり、丹念に作品の表面に貼りつけて、デザインや彫刻を装飾する。

石川県出身の西出大三（1913-1995）は截金の技術が評価され、1985 年に重要無形文化財の保持者に認定された。

【タイトル】石川県立美術館 / 重要無形文化財全般（工芸部門を中心に）と人間国宝

【想定媒体】WEB

<簡体字>

什么是重要非物质文化遗产保持者？

非物质文化遗产保持者，是在被指定为重要非物质文化遗产的传统手工艺或表演艺术领域获得国家认可的大师。许多国家都将有形物（如艺术品、考古文物和历史建筑）指定为国宝，但日本是第一个将非物质实践（如传统音乐、表演艺术和工艺技法）指定为文化遗产的国家。对于一个国家的文化历史来说，这些非物质实践与物质财宝一样重要，国家有必要为子孙后代保存这些财富，以抵御全球化和现代化带来的同质化浪潮。

1950 年，日本政府开始建立《文化财产保护法》框架以支持文化遗产的完整保存和传承。该法案首次确定了重要非物质文化遗产的构成。1954 年的修订版法案则建立了指定此类艺术和手工艺的体系。此次修订的内容还包括将精通指定艺术或手工艺的个人或团体指定为“保持者”的条款，保持者将负责文化遗产的保护和推广工作。如今，这些人被称为“重要非物质文化遗产保持者”，也可以通俗地称为“人间国宝”。

文部科学省负责重要非物质文化遗产和重要非物质文化遗产保持者的评选流程。文部科学省中的大臣向负责文化研究和推广的内部机构，即文化审议会提交入选的候选人。在有关专家的协助下，文化审议会负责决定是否通过候选文化财产或人间国宝。

至今仅数百人获得了重要非物质文化遗产保持者称号，这一称号为终身享有。保持者人数的上限为 116 人，但实际保持者人数通常低于上限人数。保持者人数由国家预算确定，因为每位保持者每年至少会获得 200 万日元的津贴。这些资金用于培养后继者、举办公开演出或展览，以及制作影片等档案文件。

重要非物质文化遗产的“工艺”主题之下分为 9 个类别：陶艺、染织、漆艺、金属加工、木工和竹工艺、人偶制作、和纸、拨镂（染色象牙雕刻）和截金（用金属箔细丝来创作图案）。特定技法在这些大类别下获得认可，如陶瓷类别中的彩釉，以及漆器类别中的蒔绘装饰。

石川县在以上多个领域都有着辉煌的历史。事实上，截至 2022 年，石川县已有 9 人以及 1 个团体被指定为手工艺领域的重要非物质文化遗产保持者，该县的保持者数量与总人口之间比例冠绝日本。

<繁体字>

什麼是重要無形文化財產保持者？

所謂重要無形文化財產保持者，是指在獲指定為重要無形文化財產的傳統手工藝，或表演藝術領域中獲得國家認可的專家。許多國家都將藝術品、考古文物和歷史建築等有形物指定為國寶，但日本是第一個將傳統音樂、表演藝術和工藝技法等無形的文化資產，指定為文化遺產的國家。對於一個國家的文化與歷史來說，這些無形的文化資產與有形的文化資產一樣重要，在全球化、現代化造成同質化的趨勢下，國家必須為後代子孫保留這些資產。

西元 1950 年，日本政府開始制定《文化財保護法》框架以協助完整保存和傳承文化遺產。該法案首次定義了構成重要無形文化財產的元素。到了西元 1954 年的修訂版法案，進而建立了符合重要無形文化財產定義的藝術，以及手工藝的認定體系，此次修訂的內容還包括將精通指定藝術或手工藝的個人或團體，指定為「保持者」的條款，保持者將負責保護與推廣文化財。如今，這些人被稱為「重要無形文化財產保持者」，也可俗稱為「人間國寶」。

文部科學省負責重要無形文化財產、重要無形文化財產保持者的評選流程，文部科學省中的大臣則向負責文化研究和推廣的內部機構，即文化審議會提交入選的侯選者。在相關專家的協助下，文化審議會負責決定是否將通過侯選的文化財或人間國寶。

至今僅數百人獲得了重要無形文化財產保持者的稱號，此稱號在保持者過世之前都適用。保持者上限為 116 位，但實際保持者人數通常低於上限人數。保持者人數由國家預算確定，因為每位保持者每年至少會獲得 200 萬日圓的津貼，這些資金用於培養後繼者、舉辦公開演出或展覽，以及製作影片等文獻。

重要無形文化財產的「工藝」主題之下，分為陶藝、染織、漆藝、金屬加工、木工和竹工藝、人偶製作、和紙、撥鏤（彩繪象牙雕刻）和截金（用金屬箔細絲來製作圖案）的 9 個類別，在這些廣泛的類別下，比如陶瓷類別中的彩釉，以及漆器類別中的蒔繪裝飾等特定技法獲得認可。

長期以來，石川縣在以上多個領域都表現不俗。事實上截至 2022 年，石川縣已有 9 人以及 1 個團體獲指定為手工藝領域的重要無形文化財產保持者，其保持者人數與總縣民人口之間的比例，也高於日本其他都道府縣。

<日本語仮訳>

重要無形文化財保持者とは？

重要無形文化財保持者とは、国の重要無形文化財に指定されている伝統工芸や芸能の名人を指す。美術品や考古遺物、歴史的建造物など、形のあるものを国宝に指定する国は多くあるが、日本はいち早く伝統音楽、芸能、工芸などの無形のを文化遺産に指定した。このような慣行は、その国の文化や歴史にとって有形文化財と同様に重要なものであり、グローバル化や近代化によって均質化されることなく、後世に残すべきものである。

1950年、政府は「文化財保護法」を制定し、文化遺産の保存と継承を支援するための枠組み作り着手した。この法律は、重要無形文化財を構成するものを定義した最初のものであった。1954年の改正により、この定義に適合する美術工芸品の指定制度が設けられた。この改正には、指定された技術や工芸を習得した個人や団体を「保持者」として認定し、その保存と振興を図る規定も含まれている。現在、これらの人々は「重要無形文化財保持者」、あるいは通称「人間国宝」と呼ばれている。

重要無形文化財と重要無形文化財保持者の選考は、文部科学省が行っている。大臣は、文化財の研究・普及を目的とした文化審議会に候補者を提出し、有識者の意見を聞きながら、指定するかどうかを決定する。

重要無形文化財保持者に認定されたのはわずか数百人しかおらず、その認定は亡くなるまで保持される。最大の保持者の数は116人だが、実際の数はこれよりも少ない。この人数は国家予算で決められるもので、資格保持者には毎年少なくとも200万円の俸給が支給される。資金は、後継者の育成、公演や展示会の開催、映画などの記録物の作成にも使われる。

重要無形文化財の「工芸」には、陶芸、染織、漆芸、金工、木竹工、人形、和紙、撥鏝（ばちる、染めに象牙を彫る）、截金（細い金箔を張って模様を描く）の9分野があり、その中で、陶芸は彩釉、漆芸は蒔絵というように、特定の技法が認められている。

石川県は、これらの分野で多くの実績を残している。2022年現在、石川県には人間国宝が9人、1団体あり、県民一人当たりの重要無形文化財保持者の数は他県より多い。

【タイトル】石川県立美術館 / 重要無形文化財全般（工芸部門を中心に）と人間国宝

【想定媒体】アプリ QR コード

<簡体字>

什么是重要非物质文化遗产保持者？

重要非物质文化遗产保持者，俗称“人间国宝”，是指在获指定为重要非物质文化遗产的传统手工艺或表演艺术领域里，获得国家认可的个人或团体。政府每年为这些保持者提供津贴及其他支持，以帮助他们保存和推广这些知识和技能。

1954 年，日本修订了 1950 年的《文化财产保护法》，并以此为依据设立了这一称号。此次法案修订指派了现名为文部科学省的机构负责保护历史建筑等有形文物，以及支撑传统工艺和表演艺术的无形知识体系。

至今仅数百人获得了重要非物质文化遗产保持者称号，这一称号为终身享有。保持者人数的上限为 116 人，但实际保持者人数通常低于上限人数。

重要非物质文化遗产的“工艺”主题之下分为 9 个类别：陶艺、染织、漆艺、金属加工、木工和竹工艺、人偶制作、和纸、拨镂（染色象牙雕刻）和截金（用金属箔片来创作图案）。特定技法在这些大类别下获得认可，如陶瓷类别中的彩釉，以及漆器类别中的蒔绘装饰。

石川县在以上多个领域都有着辉煌的历史，当地的木工、漆艺、金属加工、染织和陶艺尤为出色。事实上，截至 2022 年，石川县已有 9 人以及 1 个团体被指定为手工艺领域的重要非物质文化遗产保持者，该县的保持者数量与总人口之间比例冠绝日本。

<繁体字>

什麼是重要非物質文化財保持者？

重要非物質文化財保持者俗稱「人間國寶」，是指在獲指定為重要非物質文化財的手工藝或表演藝術領域中，經政府認可為專家的個人或團體。政府每年為這些保持者提供津貼及其他支援，幫助他們保存和推廣自身的知識和技能。

西元 1954 年，日本修訂了西元 1950 年制定的《文化財保護法》，並設立了這個稱號。在此次的法案修訂中，指派了現在名為文部科學省的機構，來負責保護歷史建築等有形文物，以及構成傳統手工藝和表演藝術的無形知識體系。

至今僅數百人獲得了重要非物質文化財保持者的稱號，此稱號在保持者過世之前都適用。保持者上限為 116 位，但實際保持者人數通常低於上限人數。

重要非物質文化財的「工藝」主題之下，分為陶藝、染織、漆藝、金屬加工、木工和竹工藝、人偶製作、和紙、撥鏤（染色象牙雕刻）和截金（用金屬箔片來製作圖案）等 9 個類別。在這些廣泛的類別下，比如陶瓷類別中的彩釉，以及漆器類別中的蒔繪裝飾等特定技法獲得認可。

長期以來，石川縣在以上多個領域表現都不俗，當地的木工、漆藝、金屬加工、染織和陶藝尤為出色。事實上截至 2022 年，石川縣已有 9 人以及 1 個團體獲指定為手工藝領域的重要非物質文化財保持者，其保持者人數與總縣民人口之間的比例，也高於日本其他都道府縣。

<日本語仮訳>

重要無形文化財保持者とは？

重要無形文化財保持者（通称「人間国宝」と呼ばれている）とは、国の重要無形文化財に指定されている伝統工芸や芸能の名人を指す。人間国宝は、その知識や技術を保存し、普及させるために、政府から年俸やその他の支援を受けている。

本指定は、1950 年の文化財保護法の改正により、1954 年に制定された。それは、現在の文部科学省に、歴史的建造物などの有形文化財だけでなく、伝統工芸や芸能品などの無形文化財も保存するよう求めた。

重要無形文化財保持者に指名されたのはわずか数百人しかおらず、その認定は亡くなるまで保持される。現在の保持者の数は 116 名とされているが、実際の数はこれよりも少ない。

重要無形文化財の「工芸」には、陶芸、染織、漆器、金工、木竹工、人形、和紙、撥鏤（ばち、染めに象牙を彫る）、截金（細い金箔を張って模様を描く）9 分野があり、その中で、陶芸は彩釉、漆器は蒔絵というように、幅広い分野で特定の技法が認められている。

石川県は、木工、漆工、金工、染織、陶器など、多くの分野で歴史を誇っている。2022 年現在、重要無形文化財保持者は 9 人、1 団体あり、県民一人当たりの国宝数は全国一である。

【タイトル】 石川県立美術館 / 伝統工芸の技法 (13) 加賀蒔絵 (かがまきえ)

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**加賀蒔絵**

加賀蒔絵は江戸時代 (1603–1867) 来自加賀藩 (今石川県和富山县) の一種漆器風格。加賀蒔絵の特點は使用一種名為“蒔絵”の技法對物品進行華麗裝飾，即將金粉等金屬粉末撒在軟漆上來繪制圖案。

古時加賀藩の統治者は前田家族。加賀藩盛産大米，而大米是江戸時代經濟的基礎，因此前田家族積累了大量財富。前田家族投入資源以發展文化事業，頻繁招募日本技藝最精湛的工匠，並為工匠們提供一切所需資源。17 世紀初，藩主前田利常 (1593–1658) 邀請兩位蒔絵大師前往金澤城附近進行創作。清水九兵衛 (?–1688) 来自江戸 (今東京)，初代五十嵐道甫 (?–1678) 来自京都。二人創作了一些著名的加賀蒔絵作品，並培養了加賀蒔絵的後繼者，為今天金澤漆器的美譽奠定了基礎。

漆器表面塗有漆樹的粘稠樹液。工匠需在物品表面塗施多層樹液，每次塗施後都需要留出足夠時間讓樹液硬化，然後再塗下一層。此外，使用蒔絵技法裝飾的漆器還需要用到貴金屬。因此，加賀蒔絵的製作工藝費時且昂貴，只有富裕階層才能夠承擔。所以一般來說，加賀工匠的作品反映了統治階層的品味和興趣。使用加賀蒔絵裝飾的物品包括馬鞍、馬鐙、刀鞘等武器裝備，以及文具盒、茶具等家居用品。加賀蒔絵的裝飾風格一般華麗而複雜，描繪自然美景，讓人聯想起著名詩歌，或民間傳說中的吉祥圖案。

加賀蒔絵作品通常結合多種技法，形成具有紋理和深度的立體效果。例如“肉合研出蒔絵”技法結合了“研出蒔絵”（磨光）和“高蒔絵”（增高）。在研出蒔絵技法中，漆藝家用漆和粉末打造淺浮雕效果，濕漆乾燥後，便在作品上再塗抹一層黑漆或清漆。最後，用木炭將這層漆磨平，直至金粉圖案顯露出來，與新表面齊平。而在高蒔絵技法中，漆藝家先用漆和木炭或黏土粉料層構建表面設計，再添加金屬粉末。其他裝飾技法，例如卵壳技法和螺鈿技法，通常與蒔絵技法結合使用，給作品帶來更豐富的色彩。

石川県立美術館收藏的加賀蒔絵作品包括清水九兵衛製作的 17 世紀奢華書架，以及初代五十嵐道甫製作的文具箱，這件文具箱使用蒔絵和螺鈿技法，描繪了秋夜月光下的田野景色。

<繁体字>

加賀蒔繪

加賀蒔繪是江戶時代（西元 1603–1867）來自加賀藩（今石川縣和富山縣）的一種漆器風格，其特點是使用一種名為「蒔繪」的技法，將金粉等金屬粉末撒在軟漆上來打造圖案和設計，藉此為物品加上華麗的裝飾。

加賀藩過去由前田家統治，由於此地盛產稻米，而稻米是江戶時代經濟的基礎，讓前田家得以累積大量財富。不僅如此，前田家投入資源發展文化事業，頻繁地招募日本技藝最精湛的工匠，並為他們提供所有需要的資源。17 世紀初，藩主前田利常（西元 1593–1658）邀請兩位蒔繪大師到金澤城附近進行創作，他們分別是來自江戶（今東京）的清水九兵衛（?-西元 1688），以及來自京都的初代五十嵐道甫（?-西元 1678）。兩人創作了一些廣受讚譽的加賀蒔繪作品，並培養出加賀蒔繪的後繼者，為今日金澤漆器享有的盛譽奠定基礎。

漆器的表面會塗上漆樹的黏稠樹液，而且必須塗上好幾層，每次塗漆後還需要留足夠的時間讓樹液硬化，然後才能再塗下一層。此外，使用蒔繪技法裝飾的漆器也需用到貴金屬。上述因素讓加賀蒔繪耗時又昂貴，只有富裕階層才負擔得起。因此一般來說，加賀工匠的作品反映了統治階層的品味和興趣。使用加賀蒔繪裝飾的物品包括馬鞍、馬鐙和刀鞘等武具，以及文具盒、茶道用具等家居用品。加賀蒔繪的裝飾一般華麗而複雜，描繪了自然美景，讓人聯想到著名詩歌，或民間傳說中的吉祥圖案。

至於加賀蒔繪的作品則通常結合多種技法，打造具有紋理和深度的立體效果，例如「肉合研出蒔繪」技法便結合了「研出蒔繪」（拋光）和「高蒔繪」（堆高）。研出蒔繪技法是用漆和粉末打造淺浮雕效果，等到濕漆乾燥後，便在作品上再塗抹一層黑漆或清漆。最後，再用木炭將這層漆磨平，直到金粉圖案顯露出來，與新的表面齊平。至於高蒔繪技法，則是以多層漆和木炭或黏土粉打造表面設計，然後再撒上金屬粉末。蒔繪技法通常會與卵殼技法和螺鈿技法等其他裝飾技法結合使用，為作品帶來更豐富的色彩。

石川縣立美術館收藏的加賀蒔繪作品，包括清水九兵衛於 17 世紀製作的豪華讀書架，以及初代五十嵐道甫製作的文具箱，這件文具箱使用蒔繪和螺鈿技法，描繪了秋季月光下的田野景色。

<日本語仮訳>

加賀蒔繪

加賀蒔繪は、江戸時代（1603-1867）に加賀藩（現在の石川県と富山県）で作られた装飾漆器の一つである。金粉などの金属粉を柔らかい漆に塗り、絵柄を描く「蒔繪」の様式による、華麗な装飾が特徴である。

加賀藩は前田家が治めていた。江戸時代の経済の基礎であった米の生産量が豊富だったため、前田家は非常に裕福であった。前田家は、日本の優秀な職人を集め、必要とするものを提供し、文化の発展に投資した。17世紀初頭、前田利常公（1593-1658）は金沢城の近くに2人の蒔絵師を招いた。清水九兵衛（?-1688）は、江戸（現在の東京）の出身で、初代・五十嵐道甫（?-1678）は京都の出身である。二人は加賀蒔絵の代表的な作品を制作し、その技術を後継者に伝え、現在の金沢漆器の名声の基礎を築いた。

漆器は、漆の木の粘性のある樹液を塗ったものである。この樹液を何度も塗り重ね、固まるまでに十分な時間をかける必要がある。また、蒔絵を施すには貴金属が必要である。加賀蒔絵は、このように手間と費用がかかるため、富裕層しか手が出せなかった。そのため、加賀蒔絵の対象は支配階級の人々の趣味や嗜好を反映したものとなっていた。加賀蒔絵は、鞍（くら）、鎧（あぶみ）、鞘（さや）などの武具から、筆箱、茶道具などの生活用品に至るまで、その装飾は多岐にわたる。加賀蒔絵の装飾は、有名な和歌や民話の吉祥文様を連想させる、自然の情景を描いた華麗で複雑なものが多い。

加賀蒔絵は、複数の技法を組み合わせることで、質感や奥行きのある立体的な情景を表現することが多い。例えば、「肉合研出蒔絵」は、「研ぎ出し蒔絵」と「高蒔絵」を組み合わせた蒔絵技法である。研ぎ出し蒔絵は、漆と粉の模様を浅浮き彫りにして乾燥させ、その上に黒や透明の漆を塗り重ねる。さらに、文様が浮き上がるまで木炭で研ぎ落として、新しい面と同じ高さにする。高蒔絵は、漆と炭や粘土の粉を何層にも重ねて文様を作り、その上に金属粉の層をつくる。蒔絵の色彩を広げるために、砕いた卵殻や螺鈿などの装飾技法もよく併用される。

石川県立美術館には、17世紀に清水九兵衛の作とされる豪華な書見台や、初代・五十嵐道甫が制作した蒔絵と螺鈿で、月明かりに照らされた秋の野原を描いた文箱など、加賀蒔絵の名品が収蔵されている。

【タイトル】 石川県立美術館 / 伝統工芸の技法 (13) 加賀蒔絵 (かがまきえ)

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>**加賀蒔絵**

加賀蒔絵は江戸時代 (1603–1867) から加賀藩 (今石川県和富山県) 興起した一種の漆器装飾スタイル。加賀蒔絵は金粉等金属粉末を漆に撒く技法で、華やかで複雑な蒔絵設計で有名。後、加賀蒔絵は今日の金澤漆器へと変化した。

江戸時代、加賀藩は富裕な前田家によって統治された。前田利常 (1593–1658) は蒔絵の達人清水九兵衛 (?–1688) と初代五十嵐道甫 (?–1678) を金澤に招き、彼らに漆器の工房を建てさせた。二人は数々の有名な加賀蒔絵作品を作り、後継者を育て、金澤を重要な漆器生産の中心地にした。

蒔絵技法には様々なやり方があり、デザインは物の表面に平らにすることも、また表面より高くすることもできる。加賀蒔絵は異なる工芸を組み合わせて立体デザインを作り出すことで有名で、デザインには色とりどりの貝殻の殻片や白い卵殻が用いられる。

加賀蒔絵の作品は統治者前田藩主の趣味や興味を映し出している。これらの作品のテーマは自然の風景、特に風雅な詩に関連する風景、または民間伝説の吉祥な図案である。加賀蒔絵で装飾された物には馬具、鎧や刀鞘などの軍用装備、そして書架、茶道具などの豪華な家具が含まれる。

<繁体字>**加賀蒔繪**

加賀蒔繪是江戸時代 (西元 1603–1867) 於加賀藩 (今石川縣和富山縣) 興起的一種漆器裝飾風格，將金粉等金屬粉末撒在軟漆上，以華麗複雜的設計而廣為人知。後來逐漸演變為現今的金澤漆器。

江戸時代期間，加賀藩由富裕的前田家統治。前田利常 (西元 1593–1658) 邀請蒔繪大師清水九兵衛 (?–西元 1688) 和初代五十嵐道甫 (?–西元 1678) 前往金澤，並資助他們建立了漆器作坊。兩人創作了一些廣受讚譽的加賀蒔繪作品，並培養出加賀蒔繪的後繼者，為金澤發展為重要漆器生產中心奠定了基礎。

蒔繪技法有多種的應用方式，其圖案可能會與物品表面齊平，也可能會高於表面，而

且凸起的程度各異。此外，加賀蒔繪以結合不同工藝來打造立體設計而聞名，當中經常運用多彩又閃耀的珍珠母材料和白色的碎蛋殼。

不僅如此，加賀蒔繪作品反映了統治者前田藩主的品味和興趣，這些作品經常以自然美景為主題，尤其是運用出現在知名詩歌或民間傳說中的吉祥圖案，打造出有格調的作品。使用加賀蒔繪裝飾的物品包括馬具、盔甲和刀鞘等武具，以及讀書架、茶道用具等豪華的家居用品。

<日本語仮訳>

加賀蒔繪

加賀蒔繪は、江戸時代（1603-1867）に加賀藩（現在の石川県と富山県）で発展した装飾漆器の一つである。現在の金沢漆器へと発展した加賀蒔繪は、柔らかい漆に金粉などの金属粉を塗る「蒔繪」の様式による、複雑で華麗なデザインで知られている。

江戸時代、加賀藩は富豪・前田家によって統治されていた。前田利常（1593-1658）は、蒔繪師である清水九兵衛（?-1688）と初代・五十嵐道甫（?-1678）を金沢に招き、漆器の工房を設立させた。二人は加賀蒔繪の代表的な作品を制作し、その技術を後継者に伝えた。これにより、金沢を一大漆器産地となった。

蒔繪の技法には、文様を平らにするもの、盛り上げるものなど、様々な方法がある。加賀蒔繪は、これらの方法を組み合わせて、立体的な構図を作り出すのが特徴である。そのデザインには、螺鈿や砕いた白い卵殻もよく使われている。

加賀蒔繪は、前田藩主の趣味嗜好を反映したものであった。自然をモチーフにしたものが多く、特に有名な和歌や民話に登場する吉祥文様を参考にしたものがよく作られている。加賀蒔繪は、馬具や鎧、鞘などの武具、書見台や茶道具などの豪華な生活用品にも施された。

【タイトル】石川県立美術館 / 伝統工芸の技法 (14) 加賀友禪 (かが ゆうぜん)

【想定媒体】WEB

<簡体字>**加賀友禪染丝绸**

加賀友禪是一种手工染色技法，工匠使用独特的五色染料手工绘制图案，在丝绸上呈现生动写实的自然图像。加賀友禪与京都的京友禪、东京的江户友禪并称为日本三大传统丝绸染色技法。加賀友禪可用于装饰布袋、围巾等织物配饰，还可以用于制作华丽的和服。

加賀友禪起源于 16 世纪的加賀藩（今石川县地区）。在那时，加賀藩是一大丝绸产地，但当时的丝绸纺织品均会被染成纯粉色。17 世纪中叶，工匠开始使用一些基本图案和图片来装饰纺织品。著名丝扇绘师宫崎友禪斋 (?-1758) 推动了丝绸装饰技艺的发展。关于友禪斋的身世，史料记载各有不同，他可能出生于加賀，也可能于 1712 年左右从京都来到金泽。友禪斋将防染技艺（可以使用多种颜色染色的技术）传授给了加賀的其他染匠。得益于友禪斋的深远影响，以及当地富裕藩主前田氏的资助，加賀友禪发展为一门高雅艺术並传承至今。

加賀友禪的第一个步骤是在纸上勾勒出设想的图案。然后，染匠使用鸭跖草制成的墨水将图案的轮廓绘制到长条状的待染丝绸上（这种墨水是水溶性的，因此图案轮廓之后会被清洗掉）。接下来，使用装有糯米浆糊的特制裱花袋来勾画轮廓。这种米糊具有防染特性，可以形成屏障，防止染料扩散到轮廓线之外。

接下来便可以为图案着色。染匠使用合称“加賀五彩”（靛蓝、深红、黄褐、深绿和绛紫色）的五种渐变色染料为图案的各个部分手工上色。加賀染匠在绘制花朵时，会将染料涂在每片花瓣的外层边缘，然后再向内涂刷，形成一种独特的渐变色，花朵边缘的颜色最深，向中心逐渐变淡。而京友禪图案的渐变方向与之相反。

加賀友禪的图案绘制完毕后，染匠会用蒸汽处理丝绸，让染料附着在上面。接下来，染匠用米糊将图案完全覆盖，准备进行背景部分的染色。米糊具有防染特性，可以避免背景染料破坏已染色的图案。友禪的背景部分也是手工上色的，染匠使用宽的短毛刷进行染色。在大面积丝绸上均匀着色十分考验染匠的技巧。丝绸还要经过第二次蒸汽处理，以定型背景色。

丝绸的所有染色工序完成后，便可以进行清洗。染匠用冷水和硬毛刷清除并冲洗鸭跖

草墨水、米糊和多余的染料。传统工艺中，染匠会在河川中冲洗丝绸。他们会将长丝绸系在杆子上，并将杆子固定在水流中。大部分现代工坊设有配备流水的浅水池，但在冬季，金泽的浅野川上仍然偶尔可以见到染匠使用传统工艺冲洗丝绸。

其中一种称为板场友禅的加贺友禅技法并非由手绘图案轮廓开始。取而代之，染匠用数张经柿子单宁硬化的纸板分别将不同颜色染到丝绸上。这一步骤的原理与木版印刷或现代丝网印刷十分类似。

友禅染于 1955 年被指定为重要非物质文化遗产，两位来自石川的染匠被指定为友禅技法的保持者：木村雨山 (1891–1977) 于 1955 年被指定为保持者，二冢长生 (1946–) 则于 2010 年被指定为保持者。石川县立美术馆收藏了多件采用加贺友禅技法染色的作品，包括精美和服、挂轴、屏风和其他装饰品。

<繁体字>

加賀友禪染絲綢

加賀友禪是一種手工染色技法，工匠會運用獨特的五色染料來手工繪製圖案，在絲綢上呈現生動寫實的自然景象。加賀友禪與京都的京友禪、東京的江戶友禪並稱為日本三大傳統絲綢染色技法。加賀友禪可用於裝飾包包、圍巾等紡織品配飾，也能用於製作華麗的和服。

加賀友禪的歷史起源於 16 世紀的加賀藩（今石川縣地區），當時加賀藩是重要的絲綢產地，不過絲綢紡織品均染成純粉色。17 世紀中葉，工匠們開始用一些基本圖案和圖畫來裝飾紡織品。著名絲扇繪師宮崎友禪齋（?-西元 1758）持續推動絲綢裝飾技藝的發展。關於友禪齋的身世，史料上記載各有不同，他可能出生於加賀，也可能於西元 1712 年左右從京都來到金澤。隨後友禪齋將防染工藝（可以使用多種顏色染色的技術）傳授給加賀的其他染匠；於是在他的影響下，再加上富裕的加賀藩主前田氏的資助，加賀友禪發展成一門高雅的藝術並傳承至今。

加賀友禪的第一步是在紙上勾勒出設想的圖案，然後染匠會使用鴨跖草製成的墨水，將圖案輪廓繪製到長條狀的待染絲綢上（這種墨水是水溶性的，因此圖案輪廓之後會被水清洗掉）。接著，使用裝有糯米漿糊的特製擠花袋畫出輪廓。這種漿糊具有防染特性，可以形成屏障，防止染料擴散到輪廓線外。

再來，便可以為圖案著色。加賀染匠會使用合稱「加賀五彩」（靛藍、深紅、黃褐、深綠和皇家紫）的五種漸變色染料，為圖案各個部分手工上色。在繪製花朵時，他們還會將染料塗在每片花瓣最外層的邊緣，然後再向內塗刷，形成獨特的漸變效果，即花朵邊緣的顏色最深，向中心逐漸變淡，這種漸變效果的方向正好與京友禪圖案相反。

加賀友禪の圖案繪製完畢後，染匠會將絲綢置於蒸氣中，讓染料附著在絲綢上。接著，染匠會用米糊將圖案完全覆蓋，準備將背景染色。米糊具有防染特性，可以避免背景染料破壞已染色的圖案。友禪的背景部分也是手工上色，染匠會使用寬的短毛刷來完成這項工序，但在大面積的絲綢上均勻著色，相當考驗染匠的技巧。絲綢還必須再次置於蒸氣中，才能將背景色附著於絲綢上。

所有染色工序完成後，絲綢便可以進行清洗。染匠會用冷水和硬毛刷，清除並沖洗鴨跖草墨水、米糊和多餘的染料。傳統上染匠會在河川和溪流中沖洗絲綢，將長絲綢綁在桿子上，並將其固定於水流中。至於大部分現代工坊則設有流水式的淺池，但在冬季金澤的淺野川上，仍然偶爾可見染匠以傳統方式沖洗絲綢。

其中一種稱為板場友禪的加賀友禪技法並非由手繪圖案輪廓開始。取而代之，染匠用數張經柿澀單寧硬化的紙板，分別將不同顏色染到絲綢上，當中的原理與木版印刷或現代絲綢印刷十分類似。

友禪染於西元 1955 年獲指定為重要非物質文化財，兩位來自石川的染匠也獲指定為友禪技法的保持者：木村雨山（西元 1891–1977）於西元 1955 年獲指定為保持者，二塚長生（西元 1946–）則於西元 2010 年獲指定為保持者。石川縣立美術館收藏了精美和服、掛畫、屏風，以及其他裝飾品等多件透過加賀友禪技法染色的作品。

<日本語仮訳>

加賀友禪

加賀友禪は、手描きの絵柄と 5 色の独特の色調で、鮮やかで写実的な自然のイメージを絹に表現する、手描き染めの様式である。京都の京友禪、東京の江戸友禪と並び、日本三大染色のひとつに数えられている。加賀友禪は、バッグやスカーフなどの布小物の装飾や、豪華な着物などにも用いられている。

加賀友禪の歴史は 16 世紀、現在の石川県である加賀藩に始まる。当時、加賀藩は絹織物の一大産地であったが、ピンク色の無地染めの織物であった。17 世紀半ばになると、職人たちは生地にベーシックな模様や絵を描くようになった。次の発展段階は、絹の扇絵師で有名な宮崎友禪（?-1758）によるものである。歴史的な記録はまちまちだが、友禪は加賀の出身か、1712 年頃に京都から金沢を訪れたとされている。多彩な色使いを可能にする防染の技術は、加賀の染物師に受け継がれた。友禪の影響と前田藩主の支援により、加賀友禪は現在も続く洗練された芸術へと発展した。

加賀友禪の工程は、まず、絵師がイメージする絵柄（または一連のイメージ）を紙に描くことから始まる。そして、染めてない絹の長い帯に、ツククサの墨で輪郭を描く（墨は水溶性のため、線は後で洗

い流される)。次に、専用の絞り袋で糊置きを塗って模様をなぞる。この糊が染料をはじくので、線に染料を閉じ込めることができる。

この後、その絵柄に色をつけていく。加賀五彩と呼ばれる藍、深紅、黄土、深緑、古代紫の5色のグラデーションの染料で、一枚一枚手描きしていく。花の絵の場合、花びらの一番外側から染料を塗り、内側に向かって刷毛で塗ることが多いため、端が最も濃く、中心に向かって薄くなるグラデーションが特徴的である。京友禅では、このグラデーションの方向が逆になる。

加賀友禅の絵柄を描き終わったら、絹を蒸して色を定着させる。次に、背景を染めるために、糊で絵柄を完全に覆う。糊は背景の染料をはじき、描いた絵柄を汚さないようにするためである。背景の染料も、毛足の短い幅広の刷毛を使って手作業で塗るが、絹の広い範囲に均等に色をつけるには、かなりの熟練を要する。さらにもう一度蒸して、地色を定着させる。

これで完全に着色された絹は、水洗の準備が整う。冷水と硬い筆を使い、ツククサの墨や糊、余分な染料を洗い流す。伝統的には、この工程は川や小川で行われ、長い絹の帯を棒に結び、流れに耐えるようにしていた。現在、工房の多くは浅い水槽に水を張っているが、冬場には金沢の川では、昔ながらの方法で作業する職人の姿を今でも時折見ることができる。

加賀友禅には、手描きの輪郭線から始まらない板場友禅がある。代わりに、柿渋で固めた型紙を使い、絹に一色ずつ色をのせていく。木版画や現代のスクリーン印刷のようなものである。

友禅染は1955年に重要無形文化財に指定され、石川県には2人の友禅技法保持者がいる。1955年に木村雨山(1891-1977)、2010年に二塚長生(1946-)の2人が保持者となった。石川県立美術館には、着物や、掛け軸、屏風など加賀友禅で染められた作品が多数展示されている。

【タイトル】 石川県立美術館 / 伝統工芸の技法 (14) 加賀友禪 (かが ゆうぜん)

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

加賀友禪染丝绸

加賀友禪是一種有着數百年歷史的絲綢染色傳統工藝，工匠使用獨特的五色染料手工繪製圖案，在絲綢上呈現生動寫實的自然圖像。加賀友禪與京都的京友禪、東京的江戶友禪並稱為日本三大傳統絲綢染色技法。如今，人們用加賀友禪裝飾包袋、圍巾等配飾，以及製作石川縣華麗的加賀友禪和服。

16 世紀，加賀藩（今石川縣地區）是著名絲綢產地。18 世紀初，著名絲扇繪師宮崎友禪齋 (?-1758) 為加賀帶來了開創性染色技法。憑借友禪齋開創的複雜防染技術，染匠可以在絲綢上設計精緻多彩的圖案。染匠首先手工繪製複雜圖案，並使用水溶性米糊來防止紡織品的特定區域染上錯誤的顏色。如今，這一工藝仍是加賀友禪染的基礎。

加賀友禪以對自然界的寫實描繪而聞名，如被昆蟲啃咬或腐爛的樹葉。這種意象被稱為“蟲食”，它表現了自然界事物的脆弱和轉瞬即逝。此外，加賀友禪的設計風格也不追求華麗金銀裝飾，這一點與京友禪相異。江戶友禪更傾向於使用柔和素雅的顏色，而加賀友禪則使用五種醒目的顏色，合稱加賀五彩：靛藍、深紅、黃褐、深綠和絳紫色。

友禪染於 1955 年被指定為重要非物質文化遺產，兩位來自石川的染匠被指定為友禪技法的保持者：木村雨山 (1891-1977) 於 1955 年被指定為保持者，二冢長生 (1946-) 則於 2010 年被指定為保持者。

<繁体字>

加賀友禪染絲綢

加賀友禪是一種有著數百年歷史的絲綢染色傳統工藝，工匠使用獨特的五色染料手工繪製圖案，在絲綢上呈現生動寫實的自然景物。加賀友禪與京都的京友禪、東京的江戶友禪並稱為日本三大傳統絲綢染色技法。如今，人們用加賀友禪裝飾包包、圍巾等配飾，以及石川縣華麗的加賀友禪和服。

16 世紀，加賀藩（今石川縣地區）是著名的絲綢產地。到了 18 世紀初，知名的絲扇繪師宮崎友禪齋 (?-西元 1758) 為加賀帶來了開創性的染色技法。染匠可以手工繪製複雜

圖案，並使用水溶性米糊，防止紡織品的特定區域染上錯誤顏色，這種複雜的防染技術，讓染匠可以在絲綢上設計精緻多彩的圖案。如今，這項工藝仍是加賀友禪染的基礎。

加賀友禪以對自然界的寫實描繪聞名，比如像是被昆蟲啃咬的樹葉或腐爛的樹葉，這種意象稱為「蟲食」，可以表現自然界事物的脆弱和轉瞬即逝。此外，加賀友禪的設計風格也不追求華麗的金銀裝飾，這點與京友禪相異；江戶友禪更傾向於使用柔和素雅的顏色，加賀友禪則使用靛藍、深紅、黃褐、深綠和皇家紫等五種合稱為加賀五彩的鮮豔顏色。

友禪染於西元 1955 年獲指定為重要非物質文化財，兩位來自石川の染匠也獲指定為友禪技法的保持者：木村雨山（西元 1891-1977）於西元 1955 年獲指定為保持者，二塚長生（西元 1946-）則於西元 2010 年獲指定為保持者。

<日本語仮訳>

加賀友禪

加賀友禪は、手描きの絵柄と独特の五色の色彩で、絹の上に鮮やかで写実的な自然の情景を描写する、何世紀にもわたる伝統的な絹織物染めである。京都の京友禪、東京の江戸友禪と並び、日本三大染色のひとつに数えられている。現在、加賀友禪の技術は、バッグやスカーフなどの小物の装飾や、石川県の高級着物である加賀友禪の制作に用いられている。

16 世紀、加賀藩（現在の石川県の地域）は絹織物の名産地であった。18 世紀初頭、有名な絹の扇絵師である宮崎友禪（?-1758）は、加賀藩に画期的な染織技術をもたらした。彼の複雑なレジスト染色法は、手描きによる複雑な絵柄を可能にし、さらに水溶性の糊で染料を吸収させないようにすることで、色とりどりの精巧なデザインを可能にした。この技法は、現在も加賀友禪の基本となっている。

加賀友禪は、虫にかじられた葉や朽ちた葉など、自然をリアルに表現することで知られる。これは「虫喰い」と呼ばれ、自然のはかなさを表現している。また、加賀友禪のデザインは、京友禪のような金銀の華やかな装飾を避ける傾向にある。江戸友禪が落ち着いた色調であるのに対し、加賀友禪は藍、深紅、黄土、深緑、古代紫の 5 色の「加賀五彩」と呼ばれる色彩が用いられている。

友禪染は 1955 年に重要無形文化財に指定され、1955 年に木村雨山（1891-1977）、2010 年に二塚長生（1946-）の 2 人の石川県民が友禪の技術保持者となっている。

【タイトル】 石川県立美術館 / 石川県の伝統工芸 歴史等全般

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**石川县传统手工艺历史**

石川县拥有历史悠久、繁荣发展的传统手工艺，类别涵盖陶瓷、纺织品、漆器、金属制品和木制品等。

江户时代 (1603–1867) 是石川工艺史上最重要的阶段。当时，位于江户（今东京）的幕府政权治下有 250 多个相对自治的藩领，石川所属的加贺藩便是其中之一。自 1583 年起直至 1871 年废藩置县，加贺藩一直由前田家族统治。

稻米是江户时代重要的经济基础，而加贺藩农业生产发达，尤其盛产稻米，因此成为了日本最富庶的藩地。前田家族投入大量的资源发展文化，邀请全国最优秀的工匠和艺术家来到金泽市，并为他们提供了丰厚的资助，让他们在此开设作坊、向当地的手工艺人传授技艺。

推动石川工艺发展的另一个原因是加贺藩建立了综合多个工艺门类的加贺藩御细工所。这座工坊设立于江户时代之前数十年的战争期间，最初目的是为了制造和修理武器。战事基本平息后，前田家族的首位藩主——前田利家（约 1539–1599）考虑到再次爆发战争的可能，对解散御细工所犹豫不决，决定令工匠们钻研装饰技术，如盔甲和武器的装饰。后来，随着和平状态的持续，加贺藩的第三代领主前田利常 (1594–1658) 正式将御细工所的使命改为推广装饰艺术。

加贺藩御细工所汇集了来自不同领域的工匠。一般的工匠干活时通常是“单干”，各自的技艺更是秘而不宣，因而这种不同工艺领域之间的交流互鉴、百家争鸣的情况很少见。但通过在御细工所的交流合作，他们得以结合各自所长，从而创造出杰作。包括加贺蒔绘和加贺金属镶嵌在内的诸多技艺正是在这里诞生的。

前田家族将工匠最精美的作品赠送给其他武士领主、贵族和受宠的家臣，从而提升了加贺藩的影响力和威望。往来的商船纷纷停靠加贺藩港口，将这里的工艺品销往日本各地，北至北海道，南至本州岛南端，最后到达大阪和京都。加贺藩的工艺产品的名声逐渐远扬日本各地，石川县的优质精美的工艺品至今仍获得很高的赞誉。

<繁体字>

石川縣傳統手工藝歷史

石川縣的傳統手工藝歷史悠久且繁榮發展，類別涵蓋陶瓷、紡織品、漆器、金屬加工和木工等。

江戶時代（西元 1603–1867）是石川縣手工藝史上最重要的階段，當時位於江戶（現今的東京）幕府政權轄下，有 250 多片相對自治的領地，石川縣所屬的加賀藩是其中之一。自西元 1583 年起直到西元 1871 年廢藩置縣，加賀藩一直由前田家統治。

由於稻米是江戶時代的經濟基礎，而加賀藩農業發達，尤其盛產稻米，因此成為日本最富庶的藩地。前田家投入大量資源發展文化產業，邀請一些日本國內最優秀的工匠和藝術家來到金澤市，並為他們提供豐厚資助，讓他們在當地開設作坊、向當地的工匠們傳授技藝。

此外，加賀藩建立了集結多個手工藝領域的加賀藩御細工所，成為另一個推動石川縣手工藝發展的因素。在江戶時代前數十年戰爭期間設立的該座作坊，最初目的是製造和修理武器。即使之後戰事基本上已平息，但考慮到可能會再次爆發戰爭，於是前田家的首位藩主——前田利家（約西元 1539–1599）對解散御細工所猶豫不決，決定下令工匠們鑽研盔甲和武器的裝飾等裝飾技術。後來隨著和平狀態持續，加賀藩的第三代藩主前田利常（西元 1594–1658）正式將御細工所的使命改為推廣裝飾藝術。

加賀藩御細工所彙集了來自不同領域的工匠，如此不同手工藝領域互相交流、彼此學習的情況很少見，因為工匠們通常獨立工作，各自技藝更是不傳之祕。但透過在御細工所的交流合作，他們得以發揮各自所長，創造出傑作。包括加賀蒔繪和加賀金屬鑲嵌在內的許多重要技藝正是在此誕生。

前田家將工匠最精美的作品贈送給其他武士領主、貴族和受寵的家臣，提升了加賀藩的影響力和聲望。往來的商船紛紛停靠加賀藩港口，將這裡的手工藝品銷往日本各地，北至北海道，南至本州島南端，最後到達大阪和京都。加賀藩出品的手工藝品逐漸在日本全國聲名遠播。時至今日，石川縣仍以優質精美的手工藝品聞名。

<日本語仮訳>

石川県の伝統工芸の歴史

石川県には、陶芸、染織、漆器、金工、木工など、伝統的な工芸品がある。

石川県の工芸の歴史において最も重要な時期は、江戸時代（1603-1867）である。この時

代、この地域は加賀藩の一部であった。江戸（現在の東京）に拠点を置く幕府の管轄下にあった250以上の自治領の一つである。1583年から1871年の廃藩置県まで、加賀藩は前田家の支配下にあった。

加賀は農業が盛んで、特に当時の経済の基礎となった米の生産量が多く、日本で最も裕福な藩であった。前田家は、その豊富な資金をもとに文化の発展に努め、一流の職人や芸術家を金沢に招いた。前田家は、金沢に工房を設立し、地元の職人たちに技術を教える代わりに、彼らに手厚い後援を行った。

石川県の工芸を発展させたもう一つの要素は、加賀藩御細工所と呼ばれる多分野の工芸品工房の設立である。工房の本来の目的は、江戸時代以前の数十年にわたる戦乱の中で、武器の製造や修理を行うことであった。戦乱が収まった後も、前田藩初代藩主・前田利家（1539 頃-1599）は、再び戦乱に見舞われた場合に備えて、工房を解散させることを躊躇していた。その代わり、職人たちに鎧や武器の装飾など、装飾技術に専念するように指示した。しかし、平和が訪れたことで、加賀藩3代藩主・前田利常（1594-1658）は、工房の使命を装飾美術の振興に改めた。

加賀藩御細工所では、さまざまな分野の職人たちが一緒に仕事をしていた。一般的に職人は独立して活動し、その技術を秘密にしていたため、このような芸術的な異業種交流は珍しいことであった。しかし、工房の協力的な雰囲気の中で、それぞれの分野を融合させ、傑作を生み出すことができたのである。加賀時絵や加賀象嵌などの技法もここで生まれた。

前田家では、職人の技が光る作品を他の武家領主や貴族、寵臣に贈り、加賀藩の影響力と名声を高めていった。商船は加賀の港に停泊し、北は北海道、南は大阪や京都まで、加賀藩の工芸品を運んでいた。加賀の名産品は徐々に全国に広まるようになり、石川県の品質と美しさは今日に至るまで高い評価を得ている。

【タイトル】 石川県立美術館 / 石川県の伝統工芸 歴史等全般

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>**石川县传统手工艺历史**

石川县拥有历史悠久、繁荣发展的传统手工艺，类别涵盖陶瓷、纺织品、漆器、金属制品和木制品等。

江户时代 (1603–1867)，当时属于加贺藩的石川县在藩主的推动下不断发展和完善其手工艺行业。当地盛产稻米，统治当地的前田家族因此富甲一方，他们将这些资源用于文化发展。最初为维护和修理盔甲和武器而建的一所工坊被改造成综合各类工艺的加贺藩御细工所，有多达 70 名工匠在这里练习手艺，培训后继者，共同为前田家族创造华丽的工艺杰作。加贺的藩主们还邀请全国各地的能工巧匠移居金泽，为他们提供土地和丰厚的资金支持。加贺友禅染丝绸、加贺蒔绘、加贺金属镶嵌等著名石川工艺品的特色技术都是在这个时期发展起来的。

与此同时，锐意进取的商人们开始通过沿海商船，将加贺藩的产品远销外地。这些商船往返于北海道和大阪之间，沿途停靠许多港口。船上除了肥料、大米和其他主要商品外，还运载漆器等奢侈品。得益于此商业活动，以及前田家族将精美手工艺品用作政治赠礼的习俗，石川县优质精美的传统工艺品声名远扬，至今仍然备受欢迎。

<繁体字>**石川縣傳統手工藝歷史**

石川縣的傳統手工藝歷史悠久、繁榮發展，類別涵蓋陶瓷、紡織品、漆器、金屬加工和木工等。

江戶時代（西元 1603–1867）時，當時屬於加賀藩的石川縣在藩主的推動下，手工藝產業快速發展並趨向成熟。加賀藩盛產稻米，統治當地的前田家因此富甲一方，並將這些資源用於文化發展。一間最初為維護和修理盔甲和武器而建的作坊，被改造成集結各類手工藝的加賀藩御細工所，有多達 70 名工匠在這裡磨練手工藝技術，培養後繼者，共同為前田家打造華麗的工藝傑作。加賀的藩主們還邀請全國各地的能工巧匠移居金澤，為他們提供土地和豐厚的資金支援。加賀友禪染絲綢、加賀蒔繪、加賀金屬鑲嵌等著名石川手工藝品的特色技術都是在這個時期發展起來。

與此同時，銳意進取的商人們開始透過沿海商船，將加賀藩的產品遠銷外地。這些商船往返於北海道和大阪之間，沿途停靠許多港口。船上除了肥料、稻米和其他主要商品外，還載著漆器等奢侈品。得益於此商業活動，再加上前田家將精美手工藝品當作政治贈禮的習俗，石川縣優質精美的傳統手工藝品聲名遠播，至今仍備受歡迎。

<日本語仮訳>

石川県の伝統工芸の歴史

石川県には、陶芸、染織、漆器、金工、木工など、伝統的な工芸品がある。

石川県の工芸は、江戸時代（1603-1867）に加賀藩主によって、急速に進化し洗練されたものになった。加賀藩主・前田家は、豊かな米作によって巨万の富を築き、その財を文化に注いだ。もともと鎧や武具の整備・修理を行うためにつくられた工房は、70 人もの職人が技を磨き、後継者を育成し、前田家のために華麗な作品を共同制作する多分野の工芸館に変わった。また、全国の腕利きの職人を金沢に招き、土地の提供や多額の資金援助も行った。加賀友禅、加賀蒔絵、加賀象嵌など、石川県の代表的な工芸品は、この時期に生まれた。

一方、進取の気性に富む商人たちは、沿岸の交易船を使って加賀産物を藩の外にまで広く送り出し始めた。北海道と大阪を結ぶ船は、さまざまな港に停泊して、加賀藩の特産品を運んだ。肥料や米などの生活必需品に加え、漆器など的高级品も運ばれていた。こうした交易と、前田家の政治的な贈答品としての工芸品によって、石川県の伝統工芸はその品質と美しさで広く知られるようになり、現在に至っている。

【タイトル】 国立工芸館 建物 (旧軍第九師団司令部庁舎、旧金沢偕行社)

【想定媒体】 WEB、パンフレット

<簡体字>

国立工艺馆历史建筑

国立工艺馆所在建筑是由明治时期 (1868–1912) 的两座木结构建筑历经搬迁、重建和翻新合并而成。其中一座是旧日本帝国陆军第九师团司令部；另一座是旧金泽偕行社（军官俱乐部）。这两座建筑是 19 世纪末西式建筑的宝贵典范，均于 1997 年列入物质文化财产。

历史背景

西方影响是明治时期建筑的显著特征。1854 年，一支船坚炮利的美国海军分舰队来到日本，迫使闭关锁国两个多世纪的日本开放边境进行贸易。日本由此意识到自身与西方国家的实力差距，展开了一系列加快现代化的举措。当时，许多日本领导人认为最快缩小差距的途径是吸收西方文化元素，包括学习西方的建筑。有的建筑会邀请外国建筑师来设计，有的则完全由日本国内的建筑师模仿西方建筑的样式设计。

旧日本帝国陆军第九师团司令部

国立工艺馆正门左侧的建筑曾是日本帝国陆军第九师团司令部所在地。该师团成立于 1898 年，司令部设于金泽城二之丸。二战后，建筑历经多次翻新和搬迁，用途也不断更改，曾先后作为金泽大学办公室、公共卫生公司和博物馆储藏室。2017 年，该建筑启动了迁至现址、恢复原外观的工程，并于 2020 年竣工。

该建筑结构中的轴对称设计、双排窗以及外部壁柱和山形墙都属于 19 世纪末建筑的常见元素。走进位于建筑中央的入口，可以看到宽敞的大厅通往一座坚固的榉木楼梯。楼梯两侧的一对柱子顶部饰有灰泥砌成的式立柱上的常见装饰。建筑窗户为垂直方向开启，也有别于传统日本建筑中水平方向开启的设计。

旧金泽偕行社

工艺馆正门右侧是旧金泽偕行社，这座建筑最初建于 1909 年，是高级军官聚会和社交的场所。二战后，这里曾是市税务局，还曾先后作为附近能剧剧场的更衣室、邻近的石川县立历史博物馆的储藏室，以及几个县政府机构的办公场所。和旧第九师团司令部一样，该建筑也于 2017 年至 2020 年期间迁至现址并完成修复。

旧金澤偕行社屋頂的中心部分具有孟莎屋頂的四向雙坡特徵，屋檐以下的部分較為陡峭，屋檐以上部分向外伸展的角度則更和緩。這種屋頂是典型的 18-19 世紀法國建築風格。該建築的設計還融入了巴洛克元素，如立面的科林斯式壁柱和屋頂上的老虎窗。儘管建築師並未留下姓名，但其技術成就由此可見一斑。

<繁體字>

國立工藝館歷史建築

國立工藝館的建築是由明治時代（西元 1868–1912）的兩座歷經搬遷、重建和翻新的木造結構建築合併而成，其中一座是舊日本帝國陸軍第九師團司令部廳舍，另一座則是舊金澤偕行社（軍官俱樂部）。上述兩座建築是珍貴的 19 世紀末西式建築典範，均於西元 1997 年列為有形文化財產。

歷史背景

西方帶來的影響是明治時代建築明顯的特徵。在西元 1854 年時，因為遭到一支軍事實力更甚於日本的美國海軍分艦隊來到，閉關鎖國兩個多世紀的日本被迫開放邊境貿易，自此日本意識到與西方國家的實力差距，於是展開一系列加快現代化的措施。當時許多日本統治者都認為最快縮小差距的途徑，就是吸收西方文化元素，包括學習西方的建築等。有時人們會邀請外國建築師來設計，有時則完全由日本國內的建築師去模仿西方建築的樣式。

舊日本帝國陸軍第九師團司令部廳舍

國立工藝館正門左側的建築，曾是日本帝國陸軍第九師團司令部所在地。該師團於西元 1898 年成立，司令部設於金澤城二之丸。二戰後，建築歷經多次翻新和搬遷，用途也不斷改變，先後作為金澤大學辦公室、公共衛生公司和博物館儲藏室使用。西元 2017 年，該建築展開遷至現址、恢復原外觀的工程，並於西元 2020 年竣工。

該建築結構左右對稱的設計、雙排窗以及外部壁柱和山形牆都屬於 19 世紀末建築常見的元素。走進位於建築中央的入口，可以看到寬敞的大廳通往一座堅固的櫟木樓梯，樓梯兩側一對柱子的頂部，飾有灰泥砌成的莨苳葉紋，這是希臘和羅馬式立柱上常見的裝飾。建築窗戶以垂直方向開啟，有別於傳統日本建築中水平方向開啟的設計。

舊金澤偕行社

工藝館正門右側是舊金澤偕行社，這座建築最初在西元 1909 年建於現址附近，成為高階軍官聚會和社交的場所。二戰後這裡曾是市稅務局，還先後當作附近能劇劇場的更衣室、鄰近石川縣立歷史博物館的儲藏室，以及幾個縣政府機構的辦公場所使用。如同舊第九師團司令部廳舍，這座建築也於西元 2017 年至 2020 年期間遷至現址並完成修復。

舊金澤偕行社屋頂の中心部分，具有馬薩式屋頂的四向雙坡特徵，屋簷附近較為陡峭，屋簷以上部分向外伸展的角度則更加和緩，這種屋頂是 18 至 19 世紀法國建築典型的風格。另外，建築的設計還融入了巴洛克元素，像是立面的科林斯式壁柱，以及屋頂上的老虎窗。儘管建築師並未留下姓名，但其技術成就由此可見一斑。

<日本語仮訳>

国立工芸館の歴史的建築物

国立工芸館の建物は、明治時代（1868-1912）建てられた 2 つの木造建築を移築・改築・改装したものである。1 つは旧陸軍第九師団司令部庁舎、もう 1 つは旧陸軍偕行社である。どちらも 19 世紀後半の貴重な洋風建築として、1997 年に有形文化財に登録された。

歴史的背景

明治時代の建築物の特徴は、西洋の影響を受けていることである。日本は 2 世紀以上にわたる鎖国を経て、1854 年、はるかに優れた火力を持つアメリカ海軍の艦隊の来訪により、強制的に開国させられた。このとき日本は、欧米諸国とのパワーバランスの崩れを自覚し、急速な近代化の道を歩み始めた。当時、日本の指導者の多くは、建築を含む西洋文化の要素を取り入れることが、その差を縮める早道だと考えていた。外国人建築家を招聘することもあったが、国内の建築家が独自に西洋の建築物の外観を模倣することもあった。

旧陸軍第九師団司令部庁舎

当館の正面玄関の左手にある建物は、かつて大日本帝国陸軍第九師団の司令部であった。同師団は 1898 年に創設され、金沢城二ノ丸に司令部が置かれた。第二次世界大戦後は、金沢大学本部、健民公社、博物館の収蔵庫などとして再利用、改修、移築が繰り返された。2017 年から現在の場所に移築し、当時の外観を復元するプロジェクトが始まり、2020 年に完成した。

この建築は、左右対称、二列の窓、ピラスターとペディメントを用いた外観など、19 世紀後半の建築によく見られる要素である。内部は、中央の広々とした玄関ホールから、ケヤキ材の無垢の階段が続いている。階段を挟む一対の柱の上部には、ギリシャ・ローマの円柱によく見られる装飾であるアカンサスの葉が漆喰で施されている。また、窓は日本の伝統的な建築様式である横開きではなく、縦開きのスライド式になっている。

旧陸軍偕行社

当館正面玄関の右手にある旧陸軍偕行社は、1909 年に高位将校の親睦の場としてこの付近に建設された建物である。第二次世界大戦後は市の国税局を経て、近隣の能楽堂の控室、隣接する石川県立歴史博物館の収蔵庫、そして県の複数の事務所として利用されてきた。旧第九師団司令部同様、こちらも 2017 年から 2020 年にかけて現在地に移築・復元された。

将軍倶楽部の屋根の中央部分は、マンサード屋根の特徴である4方向の二重勾配で、上部付近が急勾配、軒先のすぐ上は緩やかに広がっている。マンサード屋根は、特に18～19世紀のフランスに特徴的な屋根である。また、ファサードのコリント式ピラスターや屋根のドーマーウィンドウなど、バロック的な要素も取り入れられ、無名の建築家の技術力の高さがうかがえるデザインとなっている。

【タイトル】石川県立美術館 広坂別館 建物（旧陸軍第九師団長官舎）

【想定媒体】WEB、パンフレット

<簡体字>**广坂别馆**

石川県立美術館の広坂別館建于 1922 年，原为旧日本帝国陆军第九师团的师团长官邸。2016 年，该建筑作为大正时期 (1912–1926) 军邸的典型代表，入选物质文化财产。这是日本仅存的六座同类建筑之一。

历史背景

西方的影响和兼收并蓄的风格组合是大正时期建筑的典型特征。1854 年，一支船坚炮利的美国海军分舰队来到日本，迫使闭关锁国两个多世纪的日本开放边境进行贸易。日本由此意识到自身与西方国家的实力差距，展开了一系列加快现代化的举措。当时，许多日本领导人认为最快缩小差距的途径是吸收西方文化元素，包括学习西方的建筑。有的建筑会邀请外国建筑师来设计，有的则完全由日本国内的建筑师模仿西方建筑的样式设计，且通常会融入日本传统建筑元素。

关键特征

目前建筑的正门位于尖顶马车门廊下方，方便乘马车的访客在此下车。不过也有观点认为，师团长及家人很可能是通过当时存在于正门右侧的第二道门出入。现在在此处的是颜色较深的石雕，上方覆盖小型的山墙屋顶。在建筑的上层，北欧建筑常见的特色半木结构被漆成粉红色，并镶嵌在厚厚的砂浆中。这种保留砂浆粗糙纹理的风格被称为“德国壁”。另一点值得注意的是附有跌檐式山墙和老虎窗的欧式主屋顶。建筑背面覆盖着白色的木质壁板，与正面形成鲜明对比。有观点认为，这是 1945 年盟军占领期间美国军队接管该建筑后，为了让其显得更温馨而改造。室内保留了部分原有的陈设，包括装饰假壁炉的两个壁炉架，以及一些现存无几的古老玻璃灯具。此外，天花板上的木质装饰也得以保存，每个房间的装饰都各不相同。

现存的平面图显示，建筑原有的结构还包括一大片居住区。目前保留下来的一半的建筑为西式风格房间，是师团长工作、会客的场所；他和家人则居住在日式的榻榻米房间，但这部分建筑在 1962 年被拆除。2008 和 2016 年，有关方面对部分建筑进行了重建，恢复了其中一个榻榻米房间。

当前用途

二战后，广坂别馆曾先后用作美军将校的官邸、金泽家庭法院的办公室、石川县儿童会馆、野鸟园以及旁边兼六园的休息馆等。现在，这座建筑是美术馆的文化财产保护和修复工作室。这里除了负责修复和维护博物馆的藏品，还为下一代文物技术专家提供专门培训。参观者可以通过交互式触摸屏了解各种修复过程，甚至可以在展示区参观正在进行的修复工作。

<繁体字>

廣坂別館

石川縣立美術館的廣坂別館建於西元 1922 年，原為舊日本帝國陸軍第九師團的師團長官邸。西元 2016 年，該建築作為大正時代（西元 1912–1926）軍邸的典型代表，入選無形文化財。這是日本僅存的六座同類建築之一。

歷史背景

西方帶來的影響，以及廣泛採用各類風格並加以組合，成為大正時代建築典型的特徵。在西元 1854 年時，因為遭到一支軍事實力更甚於日本的美國海軍分艦隊來到，閉關鎖國兩個多世紀的日本被迫開放邊境貿易。自此日本意識到與西方國家的實力差距，於是展開一系列加快現代化的措施。當時許多日本統治者都認為最快縮小差距的途徑，就是吸收西方文化元素，包括學習西方的建築等。有時人們會邀請外國建築師來設計，有時則完全由日本國內的建築師去模仿西方建築的樣式，且通常會融入日本傳統建築元素。

主要特徵

目前的正門位於尖頂馬車門廊的下方，方便乘坐馬車的訪客在此下車。不過也有觀點認為，師團長及其家人很可能透過當時位於正門右側的第二道門出入。現在這個位置是稍微呈灰白色的石雕，上方覆蓋著小型的山牆屋頂。在建築的上層，屬於北歐建築常見特色的半木造結構裝飾，漆成了粉紅色並鑲嵌在厚厚的砂漿中。這種保留砂漿粗糙紋理的風格稱為「德國壁」。另一個值得注意的特點是歐式主屋頂的切角頂與老虎窗。至於建築背面覆蓋著白色的木造壁板，則與正面形成鮮明對比。有觀點認為，這是在西元 1945 年盟軍佔領期間，美軍接管該建築後改造，目的是增添在家般的溫馨感。室內保留了部分原有陳設，包括裝飾仿壁爐的兩個壁爐架，以及一些當時留下，但現存無幾的玻璃燈具。此外，每個房間在天花板上各有不同的木造裝飾，這些裝飾也保留至今。

現存的平面圖顯示，建築原有的結構還包括一大片居住區域，目前建築保留下來的部分為西式房間，作為師團長工作與會客的場所，他和家人居住的場所則是日式榻榻米房間，但這部分在西元 1962 年遭到拆除。西元 2008 和 2016 年，部分建築進行重建工作，並恢復了其中一間榻榻米房間。

目前的用途

二戦後、廣坂別館曾先後作為美軍將校的官邸、金澤家庭法院的辦公室、石川縣兒童會館、野鳥園，以及附近兼六園的休息館等使用。如今這座建築是美術館保護和修復文化財的工作室，除了負責修復和維護博物館的收藏品外，還為下一代文物技術專家提供專門訓練。參觀者可以透過互動式觸控螢幕，了解各種修復過程，甚至能在展示區觀看正在進行的修復工作。

<日本語仮訳>

広坂別館

石川県立美術館・広坂別館は、陸軍第九師団の師団長官舎として 1922 年に建てられた。大正時代（1912-1926）の軍邸宅の特徴的な例として保存され、2016 年に有形文化財に登録された。全国に 6 棟しか残されていないうちの 1 棟である。

歴史的背景

大正時代の建物は、西洋の影響を受け、様々な様式が混在しているのが特徴である。日本は 2 世紀以上にわたる鎖国を経て、1854 年、はるかに優れた火力を持つアメリカ海軍の艦隊の来訪により、強制的に開国させられた。このとき日本は、欧米諸国とのパワーバランスの崩れを自覚し、急速な近代化の道を歩み始めた。当時、日本の指導者の多くは、建築を含む西洋文化の要素を取り入れることが、その差を縮める早道だと考えていた。そのため、建築物の設計に外国人建築家を招聘することもあった。また、国内の建築家が独自に西洋の建築物の外観を再現し、日本の伝統的な要素を取り入れた設計と融合させるなど、工夫を凝らした。

主な特徴

現在の正面玄関は、馬車で到着した訪問者が下車したであろう尖った屋根の車寄せの下にある。しかし、指揮官とその家族は、当初は右側にあったもう一つの扉口から入ったと考えられている。現在では、小さな切妻がやや灰色の石造りの部分を覆っている。上階には、北ヨーロッパでよく見られるーフ・ティンバーのアクセントがピンク色に塗られ、厚いモルタルで塗られた「ドイツ壁」と呼ばれる粗い質感の壁面に据えられている。また、半切妻とドーマー型の換気口を持つヨーロッパ風の屋根であることも特筆すべき点である。正面とは対照的に、背面は白木の下見板張りで覆われている。これは連合国軍占領下の 1945 年、米軍が建物を引き継ぎ、より家庭的な雰囲気にするために後付けしたものとと思われる。内装は、暖炉を飾る 2 つのマントルピース（暖炉飾り）や、珍しいガラス製の照明器具など、オリジナルのものがいくつか残っている。また、部屋ごとに異なる天井の木工装飾も残されている。

現存する設計図によると、当初は広い住宅地も併設されていた。長官は、現存する家の半分の洋室で仕事や接待を行い、家族は 1962 年に取り壊された和室で暮らしていた。2008 年と 2016 年に、建物の一部が改修され、一室の和室が復元された。

現在の用途

第二次世界大戦後は、米軍将校の官舎、金沢家庭裁判所の事務所、県立児童会館、野鳥園、近隣の兼六園の休憩館として利用されてきた。しかし、現在は、美術館の文化財保存修復工房として利用されている。この工房は、美術館のコレクションの修復や維持だけでなく、次世代の技術者を育成するための専門的なトレーニングも担っている。タッチスクリーンを使った体験型ステーションで修復の工程を学ぶことができるほか、見学コーナーでは修復の様子を見ることがもできる。

【タイトル】石川県立歴史博物館 赤レンガ建物（旧陸軍兵器庫）

【想定媒体】WEB、パンフレット

<簡体字>**旧金泽陆军兵器库：石川県立历史博物馆历史悠久的砖砌建筑物**

石川県立历史博物馆由三栋长条形红砖建筑组成，分别建于 1909、1913 和 1914 年，在 20 世纪初曾是旧日本帝国陆军的兵器库。它们是世纪之交日本军事建筑的重要代表，也见证了砖块在日本建筑材料领域的短暂应用。

历史背景

20 世纪初，日本由国家兴建的建筑深受西方样板的影响。1854 年，一支船坚炮利的美国海军分舰队来到日本，迫使闭关锁国两个世纪的日本开放边境进行贸易。日本由此意识到自身与西方国家的实力差距，展开了一系列加快现代化的举措。当时许多日本领导人认为，缩小该差距最快的途径是吸收西方文化元素，包括学习西方的建筑。有的建筑会邀请外国建筑师来设计，有的则完全由日本国内的建筑师模仿西方建筑的样式设计。作为欧洲建筑风格的象征，红砖在 19 世纪末开始流行于日本。日本由此兴起砖块生产热潮，以供应诸多大型政府项目（例如原来的东京车站）。很可惜，这种建筑材料非常不适合地震频繁的日本，短短几十年之后便无人问津了。

关键特征

经过 1983 至 1990 年的翻新项目，三栋红砖建筑外部得以恢复原貌。每栋两层建筑长约 90 米，陡峭的山墙屋顶上盖有顶部带装饰的传统日式陶瓦。与当时的许多西式建筑一样，建筑的长边也是中轴对称的设计。以中间双门的正面入口为轴，一层和二层左右两边均为相同的拱形窗，两扇窗之间则建有厚重的壁柱。窗户上沉重的黑色铁栅栏和坚固的铁制帘，显示出曾经存放在这里的大炮弹药的价值和危险性。进行修复时，窗上的钢百叶帘都已被拆除，很可能是被熔炼后用于其他用途。但修复团队在三号建筑阁楼中发现一对遗留的百叶帘，以此为参考对其他位置的窗户进行了还原。

大部分原有内饰在修复时经过更换，以提高抗震能力，并为博物馆藏品提供足够的空间；但部分内饰被特地保留下来。在三号建筑，参观者可以看到高处的椽子之间有绳索和滑轮组，它们曾被用来将重型武器运到二层。二号建筑大厅的一处展示区则保留了部分原始支撑结构，如砖垛和木制支撑梁，以展示建筑的构造。

当前用途

二战后，建筑曾被金泽美术工艺大学使用，至 1972 年由县政府管理，并于 1986 年成为石川县立历史博物馆。现在，这三座建筑是历史博物馆的展厅和办公室，同时作为加贺本多博物馆，展出这一强大武士家族的藏品。

1990 年，旧金泽陆军兵器库被指定为日本重要文化财产。

<繁体字>

舊金澤陸軍兵器庫：石川縣立歷史博物館歷史悠久的磚牆建築

石川縣立歷史博物館由三棟分別建於西元 1909、1913 和 1914 年的長形紅磚建築組成，在 20 世紀初皆是日本帝國陸軍的兵器庫，不但是世紀之交日本軍事建築重要的代表，也呈現磚塊暫為日本建築材料的例證。

歷史背景

20 世紀初，日本由國家興建的建築參考西方，並深受其風格影響。在西元 1854 年時，因為遭到一支軍事實力更甚於日本的美國海軍分艦隊來到，閉關鎖國兩個多世紀的日本被迫開放邊境貿易。自此日本意識到與西方國家的實力差距，於是展開一系列加快現代化的措施。當時許多日本統治者都認為最快縮小差距的途徑，就是吸收西方文化元素，包括學習西方的建築等。有時人們會邀請外國建築師來設計，有時則完全由日本國內的建築師去模仿西方建築的樣式。19 世紀末，象徵歐洲建築風格的紅磚開始在日本流行，這讓日本國內興起生產磚塊的熱潮，以滿足諸多大型政府建築（例如原來的東京車站）需要。可惜的是，這種建築材料非常不適合地震頻繁的日本，導致短短數十年便無人問津。

主要特徵

經過西元 1983 至 1990 年的翻新計畫，三棟紅磚建築外部得以恢復原貌。此外，三棟建築皆有兩層樓，長約 90 公尺，陡峭的山牆屋頂上頭，覆蓋著頂端有裝飾物的日式陶瓷屋瓦。與許多當時的西式建築一樣，建築的長邊也採左右對稱的設計。以中間雙門的正面入口為軸，兩層樓左右兩邊均為相同的拱形窗，兩扇窗之間設有厚重的壁柱。至於窗戶上沉重的黑色鐵柵欄、堅固的鋼製護窗板，則顯示出曾經存放在這的大砲彈藥的價值和危險性。在修復時，窗上的鋼製護窗板都已拆除，很可能是在熔化後作為其他用途，但修復團隊在三號建築的閣樓中，發現一對遺留的護窗板，以此為參考還原了其他的護窗板。

不僅如此，為了提高耐震能力，同時提供足夠的空間存放博物館藏品，大部分原有的內部陳設在修復時經過更換，但也有部分的內部陳設被特地保留下來。在三號建築，參觀者可以看到高處的椽，還能見到繩索和滑輪組，它們曾用於將重型武器運到二樓。二號建築大廳的展示區則保留了磚柱、木造支撐樑等部分原始支撐結構，展示了建築的構造。

目前的用途

建築在二戦後曾由金澤美術工藝大學使用，到了西元 1972 年開始則由縣政府管理，直到西元 1986 年成為石川縣立歷史博物館。現在，這三棟建築是歷史博物館的展廳和辦公室，同時作為加賀本多博物館，展出本多家這個強大武士家族的相關藏品。

西元 1990 年，舊金澤陸軍兵器庫獲指定為日本重要文化財。

<日本語仮訳>

旧金沢陸軍兵器庫：石川県立歴史博物館の歴史的なレンガ造りの建物

石川県立歴史博物館は、20 世紀初頭に旧陸軍の兵器庫として使用された 3 棟の赤レンガ造りの長大な建物を利用している。1909 年、1913 年、1914 年に建てられたものである。これらの建物は、世紀末の軍事建築と、日本が短期間で煉瓦を建築材料として使用したことを示す重要な例である。

歴史的背景

20 世紀初頭の国家建築は、西洋のモデルから大きな影響を受けていた。日本は 2 世紀にわたる鎖国を経て、1854 年、はるかに優れた火力を持つアメリカ海軍の艦隊が来航し、強制的に開国させられた。このとき日本は、欧米諸国とのパワーバランスの崩れを自覚し、急速な近代化の道を歩み始めた。当時、日本の指導者の多くは、建築を含む西洋文化の要素を取り入れることが、その差を縮める早道だと考えていた。外国人建築家を招聘することもあれば、国内の建築家が独自に西洋建築の外観を模倣することもあった。19 世紀後半、赤レンガはヨーロッパ建築を連想させるため、流行した。東京駅などの官公庁の大プロジェクトに対応するため、国産レンガの生産が盛んになった。しかし、地震の多い日本には不向きな材料であったため、わずか数十年で使われなくなった。

主な特徴

1983 年から 1990 年にかけて行われた改修プロジェクトで、3 棟の赤レンガの外観が当時の姿に復元された。いずれも 2 階建てで、建物は全長 85～90m、急勾配の切妻屋根に瓦葺きで、棟飾りが付いている。この時代の多くの洋風建築と同様、長辺が左右対称になっている。中央の二重ドアの正面玄関からは、両側が鏡像になっており、それぞれの階には厚い柱が組み入れられた一対のアーチ型の窓がある。窓には重厚な黒い鉄格子と頑丈な鉄製の扉があり、かつて内部に保管されていた大砲と弾薬の価値と危険性を物語っている。修復された時点では、これらの鉄製の扉は既にすべて取り外されていたが、修復チームは、第 3 棟の屋根裏部屋で発見された現存する 1 組の鉄製の扉をもとに、これを再現することに成功したのである。

この改修工事では、耐震性の向上と収蔵品の適切な収容を可能にするため、オリジナルの内装の多くを変更する必要があった。しかし、中には意図的に保存されたものもある。第 3 号棟では垂木の上まで見ることができ、また重い兵器を 2 階まで運ぶのに使われたロープと滑車のシステムを見ることが

できる。第2棟のロビーには、レンガの杭や木の支え梁など、当時の支持構造の一部が保存され、建物がどのように建てられたかがわかるようになっている。

現在の用途

第二次世界大戦後は、金沢美術工芸大学で使用された後、1972年に県が管理するようになった。1986年、石川県立歴史博物館として開館。現在、3棟の建物には、博物館の展示室や事務室、武家屋敷の宝物を展示する加賀本多博物館がある。

旧金沢陸軍兵器庫は、1990年に重要文化財に指定された。

【タイトル】 石川県立美術館

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**石川県立美术馆**

石川県立美术馆共有 4000 多件藏品，这些藏品体现了石川县丰富而精湛的手工艺技术及其对日本文化历史的重要意义。馆藏包括一件常设的国宝、六件日本重要文化财产，以及众多县内重要非物质文化遗产保持者的作品。

旧馆是日本最古老的地方美术馆之一，成立于 1959 年，当时为位于兼六园边缘处的一个小型设施。1970 年代末，石川县政府开始规划新的美术馆，以便容纳更大规模的馆藏，并更好地保存馆藏中的历史文物。目前的新美术馆于 1983 年正式开放，坐落于金泽绿意盎然的文化区中心，邻接兼六园及旧美术馆。游客可结合周边的文化设施，漫步欣赏这城镇。

美术馆藏品众多，其中有大量来自石川县的重要藏品，反映了这里作为传统艺术和手工艺中心的悠久历史。在江户时代 (1603–1867)，统治当地的前田家族汇集能工巧匠，促使石川县涌现了一批技术领先的手工艺作坊。随着时间的推移，部分作品和工艺流转至日本其他地区，更多则在石川当地的家族中一代代传承保留下来。二战期间，金泽并未像其他大城市那样遭受战火重创，因此，许多私人藏品都躲过了战乱，随后又被捐赠给美术馆。

在美术馆的常设展览和临时展览当中，每次展出约 250 件作品。其中既有展现石川知名工艺技术和风格的作品，如九谷烧、加贺友禅染和加贺蒔绘漆器；也有精美的当地历史文物，如装饰性的刀剑和马具、神轿和佛经等。还有些藏品则体现了当地匠人对日本更广泛艺术领域的涉猎，如茶道用具、能剧面具和服装以及书法工具。此外，展品还包括由当代石川艺术家们创作的现代作品，例如油画和摄影作品，展示了审美和技术的不断发展。

美术馆将继续收集更多体现当地艺术和手工艺传统的历史和现代作品，并致力于在传统的继承保护中发挥核心作用。同时，美术馆也欢迎本地居民和游客到来，进一步了解石川县的文化财产。

<繁体字>

石川縣立美術館

石川縣立美術館共有 4,000 多件藏品，體現了石川縣豐富而精湛的藝術，以及手工藝與其對日本文化與歷史的重要意義。館藏包括一件常設的日本國寶、六件重要文化財產，以及備受景仰的石川縣重要無形文化財產保持者的眾多作品。

舊館成立於西元 1959 年，是日本最古老的地方美術館之一，最初為位於兼六園邊緣處的一個小型設施。到了 1970 年代末，石川縣政府為了舉辦更大規模的展覽，並更妥善地保存收藏的歷史文物，開始規劃設立新的美術館。目前的新美術館於西元 1983 年啟用，坐落於金澤綠意盎然的文化區中心，鄰接兼六園及舊美術館。遊客可結合周邊的文化設施，漫步欣賞這城鎮。

美術館藏品眾多，反映了石川縣作為傳統藝術和手工藝中心的悠久歷史，館中有大量來自縣內的重要創作。在江戶時代（西元 1603–1867），統治當地的前田家彙集能工巧匠，使得石川縣出現一批技術領先的作坊，當中製作的作品部分流傳到日本其他地區，更多則在石川當地的家族中一代代傳承下來。好在於二戰期間，金澤並未像其他大城市一樣遭受戰火重創，許多私人藏品因此躲過戰亂，隨後又被捐贈給美術館。

在美術館的常設和臨時展覽中，每次展出約 250 件作品，既有呈現石川縣知名的手工藝技術與風格的，如九谷燒、加賀友禪與加賀蒔繪漆器等展品，也有裝飾性的刀劍和馬具、神轎和佛經等精美的當地歷史文物。此外，另還有些藏品體現了當地工匠對日本更廣泛的藝術領域也有涉獵，像是茶道與書法用具，以及能劇的面具和服裝。不僅如此，館內更包括由當代石川藝術家們創作的現代作品，例如油畫和攝影作品，反映了審美和技術的持續發展。

承上，美術館將會繼續收集更多體現當地藝術、手工藝傳統的歷史和現代作品，並致力於承擔保護這些作品的重責大任。與此同時，美術館也歡迎當地居民和遊客們前往參觀，進一步了解石川縣的文化財產。

<日本語仮訳>

石川県立美術館

石川県立美術館は、石川県の美術工芸の精巧さと多様性を示し、日本の文化や歴史において重要な役割を果たす 4,000 点を超える作品を所蔵している。1 点の国宝の常設展示、6 点の重要文化財、県内の重要無形文化財保持者の作品を多数収蔵している。

旧館は、全国でも最も古い地方美術館の一つである。1959 年に兼六園の端にある小さな施設として設立された。1970 年代後半、県はより大規模な展示が可能で、歴史的なコレクションを維持できる新美術館の計画を開始した。1983 年、現在の新美術館は、兼六園や旧美術館に隣接した、

緑豊かな金沢の文化ゾーンの中心に開館した、周辺の文化施設と合わせたまち歩きが楽しめるようになった。

当館のコレクションは比較的規模が大きく、伝統工芸の中心地として長い歴史を持つ石川県の重要な作品を多数所蔵している。江戸時代（1603-1867）には、前田家が名工を招き入れ、最先端の工房を育成した。作品は全国各地に流出することもあったが、多くは地元に残り受け継がれてきた。第二次世界大戦中、金沢は他の大都市のような大規模な破壊を免れたので、多くの個人コレクションが戦災を掻い潜り、後に当館に寄贈された。

常設展と企画展を合わせると、常時約 250 点が展示されている。九谷焼、加賀友禅、加賀蒔絵漆器など石川県を代表する工芸技術や様式を紹介するものから、装飾刀や馬具、輿、経典など石川県の歴史を物語る精巧な工芸品も含まれている。また、茶道具、能面・能装束、書道具など、日本の広範な芸術領域に地域が参加したことを示す作品も含まれている。石川県の現代作家による油彩画や写真などのモダンな作品からは、技術や美意識が進化し続けていることがわかる。

当館は、石川県の伝統的な美術工芸品の保存の中核を担うべく、歴史的な作品から最新の作品まで、幅広く収集し続けている。また、石川県の文化遺産を地域の皆さんや観光客に紹介する場としても利用されている。

【タイトル】 石川県立美術館

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

石川県立美术馆

石川県立美术馆共有 4000 多件藏品，它们体现了石川县的艺术和手工艺传统，以及该地在日本文化历史中的重要地位。馆藏包括一件国宝、六件日本重要文化财产，以及众多县内重要非物质文化遗产保持者的作品。

旧馆是日本最古老的地方艺术博物馆之一，成立于 1959 年，当时为位于兼六园边缘处的一个小型设施。目前的新美术馆坐落于金泽绿意盎然的文化区中心，1983 年正式开放。

该馆的常设展览和临时展览当中，每次展出约 250 件作品。参观者既可以欣赏石川县特有工艺技术和风格的代表作，如九谷烧、加贺友禅染和加贺蒔绘漆器，也能看到许多反映当地历史的精美文物，如藩地统治者前田家族的装饰性刀剑、马具和佛经等。藏品的年代跨度超过两千年，涵盖绳文时期（公元前 10,000 年至公元前 300 年）的陶器乃至 21 世纪的油画和摄影，展现着石川文化财产的历史变迁。

<繁体字>

石川縣立美術館

石川縣立美術館共有 4,000 多件藏品，體現了石川縣的藝術和手工藝傳統，以及石川縣在日本文化與歷史中重要的地位。館藏包括一件日本國寶、六件重要文化財，以及備受景仰的石川縣重要非物質文化財保持者的眾多作品。

舊館成立於西元 1959 年，是日本最古老的地方藝術博物館之一，最初為位於兼六園邊緣處的一個小型設施；目前的新美術館則坐落於金澤綠意盎然的文化區中心，於西元 1983 年啟用。

在美術館的常設和臨時展覽中，每次展出約 250 件作品，參觀者在這可以欣賞石川縣特有手工藝技術和風格的代表作，包括九谷燒、加賀友禪與加賀蒔繪漆器等，也能看到統治當地的前田家的佛經、刀劍和馬具等許多反映石川縣歷史的文物。藏品的年代跨度超過兩千年，涵蓋繩文時代（西元前 10,000 年-西元前 300 年）的陶器，乃至 21 世紀的油畫和攝影作品，展現出石川縣文化財的發展與變遷。

<日本語仮訳>

石川県立美術館

石川県立美術館は、石川県の美術・工芸の伝統を代表する4,000点以上の作品を収蔵し、日本の文化や歴史におけるこの地域の重要な役割を示している。国宝1点、重要文化財6点をはじめ、県内の要無形文化財保持者の作品も多数所蔵している。

旧館は、全国でも最も古い地方美術館の一つである。1959年、兼六園の端に小さな施設として設立された。現在の新美術館は、1983年に金沢の緑豊かな文化ゾーンの中心に開館した。

常設展と企画展を合わせると、常時約250点を展示している。九谷焼、加賀友禅、加賀蒔絵漆器など石川県の代表的な工芸品見ることができる。また、経典、前田家の刀剣や馬具など、石川県の歴史的な古美術品も展示されている。このコレクションは、縄文時代（紀元前10000-紀元前300）の土器から21世紀の油彩画や写真に至るまで、二千年以上にわたる石川県の文化遺産の変遷を知ることができる。

【タイトル】 石川県立美術館 / 尊經閣文庫分館（そんけいかくぶんこぶんかん）

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

前田家族的宝藏：尊经阁文库

尊经阁文库是富裕的前田家族的藏品库，囊括了古籍、历史文献、装饰性盔甲、阵羽织、绘画和其他珍宝。前田育德会展示室中陈列了其中部分精选藏品。从 1583 年到 1871 年，前田家族统治着加贺藩（今石川县和富山县）。

尊经阁文库位于东京，共含 1 万件以上藏品。由于前田家族与金泽的历史渊源，石川县立美术馆得到许可保存和展出将近 400 件来自文库中的工艺和艺术珍品。

历史背景

在江户时代 (1603–1867) 初期，前田家族是日本最富有的家族之一，统治的加贺藩的年收入仅次于幕府。前田家族雄厚的资产让他们得以斥资推动艺术发展，并收集许多优秀作品。尊经阁文库的大部分藏品是由加贺第三代藩主前田利常 (1594–1658) 及其孙第五代藩主前田纲纪 (1643–1724) 所收集。

历史上，这些藏品部分保存在前田家族在江户（今东京）的府邸。江户时代的藩主通常有两处府邸，一处在自己的藩地，一处是在江户。根据幕府的“参勤交代”政策，藩主每年必须轮流居住在江户和自己的藩地。因此当幕府政权于 1867 年倒台时，前田家族的藏品一部分在东京。明治时期 (1868–1912) 前田家族前往东京定居，将留在金泽府邸的藏品也搬迁至东京。

1926 年，前田家族的第 16 任当主前田利为 (1885–1942) 在东京成立了前田育德会，以便更好地保存和管理家族藏品。整个尊经阁文库中共有国宝 22 件，日本重要文化财产 77 件，就单个家族的收藏而言可谓数目惊人。其中很多古老珍贵的文献资料目前藏于东京，仅供经授权的研究者查阅。只有在石川县立美术馆的前田育德会展示室，公众才有机会欣赏尊经阁文库中具有历史意义的藏品。

前田育德会展示室

展示室每个月根据不同的主题轮流展出各种藏品，包括绘画、武器盔甲、能剧服装和茶道用具等。其中有前田家族藩主们成套的盔甲、阵羽织、采用加贺金属镶嵌技法的马镫、茶道用具、山水画、日本书法作品，极少数情况下还会展出“百工比照”，即展现各种手工

技艺的特殊样本集。

展览室里有日本曾经最富有武士家族引以为傲的珍藏，参观者们可以在其中近距离欣赏这些保存完好的工艺杰作。

<繁体字>

前田家的寶藏：尊經閣文庫

在前田育德會展示室中，陳列了部分來自尊經閣文庫的精選藏品。尊經閣文庫是前田家的藏品庫，這個富有的家族在西元 1583 年到 1871 年間統治著加賀藩（今石川縣和富山縣），文庫中囊括了古籍、歷史文獻、裝飾性盔甲、陣羽織、繪畫和其他珍寶。

尊經閣文庫目前位於東京，當中總共有 1 萬多件藏品。由於前田家與金澤之間的歷史淵源，石川縣立美術館獲准存放與展出文庫中將近 400 件的手工藝品和藝術珍品。

歷史背景

在江戶時代（西元 1603–1867）初期，前田家是日本最富有的家族之一，所統治的加賀藩的年收入僅次於幕府。前田家雄厚的資產讓他們得以斥資推動藝術發展，並收集許多出色作品。尊經閣文庫大部分的藏品是由加賀藩第三代藩主前田利常（西元 1594–1658）及其孫第五代藩主前田綱紀（西元 1643–1724）收集。

歷來這些藏品部分存放在前田家位於江戶（今東京）的住所。江戶時代的藩主通常有兩處主要住所，一處在自己的藩地內，一處在江戶。根據幕府的「參勤交代」政策，藩主每年必須輪流居住在江戶和自己的藩地，因此西元 1867 年幕府政權倒台時，一部分前田家的藏品存放於東京。隨著前田家在明治時代（西元 1868–1912）前往東京定居，其他留在金澤住所的藏品亦被一併帶去。

西元 1926 年，前田家的第 16 任家主前田利為（西元 1885–1942）為了保存和管理家族藏品，在東京成立了前田育德會。整個尊經閣文庫中共有 22 件日本國寶，77 件重要文化財，就單個家族的收藏而言可謂數目驚人。其中絕大部分為古老珍貴的文獻資料，目前存放於東京，僅供取得授權的研究人員查閱。只有在石川縣立美術館的前田育德會展示室，一般民眾才能欣賞尊經閣文庫中具有歷史意義的藏品。

前田育德會展示室

展示室每個月會根據不同主題，輪流展出各種藏品，包括繪畫、武器盔甲、能劇服裝和茶道用具等。其中有前田氏藩主們成套的盔甲、陣羽織、以加賀金屬鑲嵌技藝裝飾的馬鐙、茶道用具、山水畫、日本書法作品。在少數情況下，還會展出「百工比照」，即展現各種手工藝的特殊樣本集。

展示室裡有日本最富有武士家族之一引以為傲的珍藏，參觀者們可以近距離欣賞這些保存完好的工藝傑作。

<日本語仮訳>

前田家の宝物 尊経閣文庫

前田育徳会展示室は、前田家が収集した古典籍、古文書、甲冑、陣羽織、絵画などの宝物を所蔵する「尊経閣文庫（そんけいかくぶんこ）」の中から、選りすぐりの品々を展示している。前田家は1583年から1871年まで加賀藩（現在の石川県と富山県）を治めた。

尊経閣文庫は1万点を超えるコレクションがあり、東京に保管されている。石川県立美術館は、前田家と金沢の歴史的なつながりから、所蔵品のうち約400点の美術工芸品の所蔵・展示が認められている。

歴史的背景

江戸時代（1603-1867）初頭までには、前田家は日本有数の豪家のひとつとなり、加賀藩の年収は幕府に次ぐものとなっていた。前田家の財力により、芸術の振興に投資を行い、多くの優れた作品を収集することができた。加賀藩3代藩主・前田利常（1594-1658）と、その孫で5代藩主・前田綱紀（1643-1724）が収集したものが、尊経閣文庫のコレクションの大部分を占めている。

歴史的には、宝物の一部は江戸（現在の東京）の前田家邸宅に保管されていた。江戸時代、藩主の屋敷は藩内と江戸の二カ所にあった。幕府の「参勤交代（さんきんこうたい）」という政策により、藩主は毎年、江戸と自分の領地を交互に往復しなければならなかった。このため、1867年の幕府滅亡時には、収蔵品の一部は東京にあった。残りの金沢藩邸にあった宝物は、明治時代（1868-1912）に東京に永住することになり、東京に移された。

1926年、前田家16代当主の前田利為（1885-1942）は、前田家のコレクションを整理・保存するために財団法人前田育徳会を東京に設立した。尊経閣文庫には、国宝22点、重要文化財77点が収められており、一族のコレクションとしては驚異的な数である。寄託内容の大半は東京に残され、貴重な古文書（古典籍）であり、研究者以外には公開されていない。一般公開は石川県立美術館の前田育徳会展示室のみである。

前田育徳会展示室

この展示室では、絵画、武具、能装束、茶道具など、展示テーマに合わせて月替わりで展示を行っている。前田家伝来の鎧兜、陣羽織、加賀象嵌の鎧、茶道具、山水画、書道、時には百工比照（工芸技法を示す珍しい見本のコレクション）など、前田家ゆかりの品々を展示している。

保存状態のよい貴重な品々を間近で見ることができ、日本有数の武家が誇った名品を鑑賞するこ

とができる。

【タイトル】 石川県立美術館 / 尊經閣文庫分館（そんけいかくぶんこぶんかん）

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>**前田家族的宝藏：尊经阁文库**

前田育徳会展示室中陈列了部分尊经阁文库的精选藏品。尊经阁文库是富裕的前田家族的藏品库，囊括了古籍、历史文献、装饰性盔甲、阵羽织、绘画和其他珍宝。尊经阁文库位于东京，但由于前田家族与金泽的历史渊源，石川县立美术馆得到许可保存和展出其中将近 400 件工艺和艺术珍品。

整个尊经阁文库共有 1 万件以上藏品，其中有国宝 22 件，日本重要文化财产 77 件，就单个家族的收藏而言可谓数目惊人。前田家族在从 1583 年到 1871 年间统治着加贺藩（今石川县和富山县）。尊经阁文库的大部分藏品是由加贺第三代藩主前田利常（1594–1658）及其孙第五代藩主前田纲纪（1643–1724）所收集。

前田育徳会展示室会每个月分批次展出部分尊经阁文库的藏品。其中有前田家族藩主们成套的盔甲、采用加贺金属镶嵌技艺的马镫、茶道用具、山水画、书法作品，极少数情况下还会展出“百工比照”，即展现各种装饰工艺技巧的特殊样本集。展览室里有日本曾经最富有武士家族引以为傲的珍藏，参观者们可以在其中近距离欣赏这些保存完好的工艺杰作。

<繁体字>**前田家的寶藏：尊經閣文庫**

在前田育徳會展示室中，陳列了部分來自尊經閣文庫的精選藏品。尊經閣文庫是富有的前田家藏品庫，囊括了古籍、歷史文獻、裝飾性盔甲、陣羽織、繪畫和其他珍寶。尊經閣文庫目前位於東京，但由於前田家與金澤之間的歷史淵源，石川縣立美術館獲准存放和展出其中將近 400 件的手工藝品和藝術珍品。

整個尊經閣文庫共有 1 萬多件藏品，其中有 22 件日本國寶，77 件重要文化財，就單個家族的收藏而言可謂數目驚人。前田家在西元 1583 年到 1871 年間統治著加賀藩（今石川縣和富山縣）。尊經閣文庫大部分的藏品是由加賀藩第三代藩主前田利常（西元 1594–1658）及其孫第五代藩主前田綱紀（西元 1643–1724）收集。

至於前田育徳會展示室每個月會輪流展出不同的尊經閣文庫藏品，其中有多套前田氏

藩主們的盔甲、以加賀金屬鑲嵌技藝裝飾的馬鐙、茶道用具、山水畫、書法作品。偶爾還會展出「百工比照」，即展現各種裝飾手工藝的樣本與手工藝品集。展示室裡有日本最富有武士家族之一引以為傲的珍藏，參觀者們可以近距離欣賞這些保存完好的工藝傑作。

<日本語仮訳>

前田家の宝物 尊経閣文庫

前田育徳会展示室は、前田家が収集した古典籍、古文書、甲冑、陣羽織、絵画などの宝物を所蔵する「尊経閣文庫（そんけいかくぶんこ）」の中から、選りすぐりの品々を展示している。尊経閣文庫自体は東京にあるが、前田家と金沢の歴史的なつながりから、石川県立美術館は、文庫の遺品や美術品約 400 点の作品の所蔵・展示が認められている。

国宝 22 点、重要文化財 77 点を含む 1 万点余りのコレクションは、一族のコレクションとしては驚異的な数である。前田家は 1583 年から 1871 年まで加賀藩（現在の石川県と富山県）を治めた。3 代藩主・前田利常（1594-1658）と、その孫で 5 代藩主・前田綱紀（1643-1724）が、尊経閣文庫のコレクションの大部分を収集したのである。

前田育徳会展示室では、月替わりで「尊経閣文庫」に収められている品々を展示している。前田家伝来の鎧兜、加賀象嵌の鐙、茶道具、山水画、書道、時には百工比照（工芸の技法を示す見本や工芸品）も展示されている。この展示室では、保存状態のよい貴重な品々を間近で見ることができ、日本有数の武家が誇った名品を鑑賞することができる。

【タイトル】 石川県立美術館 / 尊經閣文庫分館（そんけいかくぶんこぶんかん）

【想定媒体】 看板

<簡体字>**前田家族の宝蔵：尊經閣文庫**

此展示室中陈列的展品均来自尊经阁文库，尊经阁文库是江户时代（1603–1867）前田家族收藏古籍、历史文献、装饰盔甲、绘画和其他珍宝的仓库。展品每个月都会轮换，其中有前田家族藩主们成套的盔甲、华丽的阵羽织、采用加贺金属镶嵌技艺的马镫、茶道用具、山水画、书法作品，极少数情况下还会展出“百工比照”，即展现各种装饰工艺技巧的特殊样本集。

尊经阁文库所有藏品中共有国宝 22 件，日本重要文化财产 77 件，就单个家族的收藏而言可谓数目惊人。这些藏品大部分是古籍，保存于东京。但石川县立美术馆经准许可以保存和展出其中约 400 件艺术品和工艺品。

在江户时代早期，前田家族是日本最富有的家族之一，加贺藩的年收入仅次于幕府。前田家族雄厚的资产让他们能够斥巨资推动艺术发展，并收集许多优秀作品。尊经阁文库的大部分藏品是由加贺第三代藩主前田利常（1594–1658）及其孙五代藩主前田纲纪（1643–1724）收集的。

历史上，前田家族的藏品一部分保存在其位于江户（今东京）的府邸。江户时代的藩主通常有两处府邸，一处在自己的藩地，一处则在江户。根据幕府的“参勤交代”政策，藩主每年必须在两处府邸轮流居住，藩主的妻和主要继承人则长期住在江户。因此，前田家族的部分藏品保存在位于江户的府邸。当幕府政权在 1867 年倒台时，前田家族的藏品一部分在东京。明治时期（1868–1912）前田家族前往东京定居，将留在金泽府邸的藏品也搬迁至东京。1926 年，前田家族的第 16 任当主前田利为（1885–1942）在东京成立了前田育德会，以便更好地保存和管理家族藏品。

只有事先获得许可的研究者才可以进入东京的尊经阁文库。因此，公众只有在前田育德会展示室才可以欣赏这些日本曾经最富有的武士家族引以为傲的珍藏。

<繁体字>**前田家的寶藏：尊經閣文庫**

此展示室中陳列的展品均來自尊經閣文庫，尊經閣文庫是前田家在江戶時代（西元 1603–1867）期間，所收藏古籍、歷史文獻、裝飾性盔甲、繪畫和其他珍寶的藏品庫。展品每個月都會輪換，其中有前田氏藩主們成套的盔甲、華麗的陣羽織、以加賀金屬鑲嵌技

藝裝飾的馬鐙、茶道用具、山水畫、書法作品，偶爾還會展出「百工比照」，即展現各種裝飾手工藝的樣本與物品集。

在整個尊經閣文庫的藏品中共有 22 件日本國寶，77 件重要文化財，就單個家族的收藏而言可謂數目驚人，這些藏品大部分是古籍，存放在東京的相關設施內，但石川縣立美術館獲准存放與展出其中將近 400 件的手工藝品和藝術珍品。

在江戶時代早期，前田家是日本最富有的家族之一，所統治的加賀藩年收入僅次於幕府。前田家所擁有雄厚的資產，讓他們能夠投下巨資推動藝術發展，並收集許多出色作品。尊經閣文庫大部分的藏品是由加賀藩第三代藩主前田利常（西元 1594–1658）及其孫五代藩主前田綱紀（西元 1643–1724）收集。

歷代前田家的藏品一部分存放在其位於江戶（今東京）的住所。由於江戶時代的藩主通常有兩處主要住所，一處在自己的藩地內，一處在江戶。根據幕府的「參勤交代」政策，藩主每年必須在兩處住所輪流居住，藩主的妻子和主要繼承人則必須定居江戶。因此前田家的部分私人藏品，存放在位於江戶的住所，這也是為什麼當幕府政權於西元 1867 年倒台時，一部分前田家的藏品存放在東京。至於其他留在金澤的藏品，則隨著前田家在明治時代（西元 1868–1912）前往東京定居，由他們一併帶去。西元 1926 年，前田家的第 16 任家主前田利為（西元 1885–1942）為了保存和管理家族藏品，在東京成立了前田育德會。

只有事先取得許可的研究人員可以進入東京的尊經閣文庫，因此只有在前田育德會展示室，一般民眾才有機會欣賞到這些日本最富有武士家族之一引以為傲的珍貴藏品。

<日本語仮訳>

前田家の宝物 尊經閣文庫

この展示室では、前田家が江戸時代（1603–1867）に収集した古典籍、古文書、武具、絵画などの宝物を保管する「尊經閣文庫（そんけいかくぶんこ）」の所蔵品を展示している。前田家伝来の鎧兜、陣羽織、加賀象嵌の鐙、茶道具、山水画、書道、時には百工比照（工芸技法を示す見本のコレクション）まで、月替わりで展示している。

国宝 22 点、重要文化財 77 点という、一族のコレクションとしては驚異的な数を誇る。そのほとんどが古文書（古典籍）で、東京の施設に保管されているが、石川県立美術館では、収蔵品のうち約 400 点の美術工芸品の収蔵・展示が認められている。

江戸時代に入ると、前田家は国内有数の豪家のひとつとなり、加賀藩の年収は幕府に次ぐものだった。前田家の財力は、芸術の振興に多大な投資を行い、多くの優れた作品を収集することを可能にした。加賀藩 3 代藩主・前田利常（1594-1658）と、その孫で 5 代藩主・前田綱紀（1643-1724）が収集したものが、尊經閣文庫のコレクションの大部分を占めている。

歴史上、前田家のコレクションの一部は、江戸（現在の東京）の藩邸に保管されていた。江戸時代、藩主の屋敷は本所と江戸の二カ所にあった。幕府の「参勤交代（さんきんこうたい）」の政策により、藩主は毎年、この 2 つの屋敷を交互に行き来しなければならなかった。

藩主の妻や主な相続人は江戸に常駐することが義務づけられていたため、前田家の江戸屋敷には

遺品が保管されていた。そのため、1867年の幕府崩壊の際には、コレクションの一部は東京にあった。残りの金沢藩邸にあった宝物は、明治時代（1868-1912）に東京に永住することになり、東京に移された。

1926年、前田家16代当主の前田利為（1885-1942）が東京に財団法人前田育徳会を設立し、コレクションの整理・保存をした。

東京の保管庫には、事前に許可を得た研究者のみが入ることができる。そのため、日本有数の武家の誇りである名品を一般に公開するのは、前田育徳会展示室だけである。

【タイトル】 石川県立美術館 / 加賀藩御細工所（かがはんおさいくしよ）

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**加賀藩御細工所**

加賀藩御細工所是 16 世纪后期创立于加賀藩（今石川县和富山县）的工艺作坊，由实力雄厚的前田家族赞助。御細工所为培养能工巧匠，发展手工艺和装饰艺术做出了巨大贡献，直到 1868 年关闭。

在江户时代 (1603–1867) 前，日本经历了数十年的全国战争。加賀藩和其他许多藩地一样设立了工坊，最初主要是为了维修和管理武器盔甲。后来战乱平息，工坊原有的服务不再面临大量需求。但由于政局仍不稳定，加賀藩第一代藩主前田利家（约 1539–1599）下令工坊继续经营，以防战争再次爆发。时过境迁，爆发战争的风险逐步消散，工坊的匠人们将重点转向艺术领域。

加賀藩第三代藩主前田利常 (1594–1658) 积极鼓励工坊发展装饰艺术和工艺。在他的推动下，工坊正式改为“御細工所”，聘请了各类型的熟练工匠。镶嵌和加賀蒔绘等众多工艺技术蓬勃发展，规模日渐扩大的金泽城下町吸引了来自日本各地的工匠。

不仅工匠们主动聚集，前田家族更是积极邀请他们到金泽生活和工作。除了前田利常之外，加賀藩第五代藩主前田纲纪 (1643–1724) 对 17 世纪加賀工艺技术的发展同样功不可没。前田纲纪由祖父前田利常抚养长大，对艺术充满热情。为了对各种精湛的工艺技术进行分类和研究，他广泛搜集各类工艺成品物件，创造出名为“百工比照”的样本集锦。前田纲纪让工匠们在御細工所附近聚居，以鼓励技术发展，对造出优秀作品的工匠也予以奖励。

加賀藩御細工所的突破创新还体现在另一个方面。过去，工艺技巧和知识往往由某个家族研发和掌握，也只传授给家族后辈。然而，在加賀藩御細工所里，漆器、绘画、金属工艺等各个领域的工匠聚在一起并肩工作。在这种共同努力之下，各种工艺技巧齐头并进，催生出许多出类拔萃的作品。

加賀藩御細工所最杰出的作品之一是一件江户时代晚期的神轿。到了 19 世纪，御細工所的工匠已有 70 余人。他们结合各自知识和技巧，共同创造了这件华丽的作品。御興采用金蒔绘、螺钿镶嵌和黑漆底金镶嵌等手法，呈现花朵装饰的藤蔓图案和前田家族的梅

花形家徽。御輿的金属部件设计复杂而精巧，其内部装饰也极为考究，在金底上以蒔绘和彩绘技法勾勒出图案。

加贺藩御细工所活跃经营了 250 余年，于 1868 年永久关闭。这是因为 1867 年，德川幕府统治终结，日本进入明治时期 (1868–1912)，政治结构出现了巨大变革，藩主的土地和权力被剥夺，藩地被重新划分为县；1872 年，加贺藩的一部分成为石川县。

<繁体字>

加賀藩御細工所

加賀藩御細工所是位於加賀藩（今石川縣和富山縣）的手工藝作坊，在 16 世紀後期由當地實力雄厚的前田家資助，直到西元 1868 年關閉以前，為培養技藝純熟的工匠及發展手工藝和裝飾藝術做出了巨大貢獻。

在江戶時代（西元 1603–1867）以前，日本各地戰火連連，時間長達數十年之久，期間加賀藩和其他許多藩一樣設立了作坊，最初主要是為了維修和管理武器和盔甲。等到後來戰亂平息，作坊傳統的服務不再面臨大量需求。但由於政局仍不穩定，加賀藩第一代藩主前田利家（約西元 1539–1599）下令繼續經營作坊，以防再次發生戰爭。過了一段時間後，好在戰爭爆發的風險解除，作坊的工匠們將重心轉向藝術領域。

加賀藩第三代藩主前田利常（西元 1594–1658）積極鼓勵作坊發展裝飾藝術和手工藝。在他的推動下，作坊正式以「御細工所」的名義成立，並招募了精通各類手工藝的工匠們。隨著鑲嵌和加賀蒔繪等眾多手工藝技術蓬勃發展，規模日漸擴大的金澤城下町吸引到來自日本各地的工匠。

不僅工匠們主動前來，前田家也積極邀請他們到金澤生活和工作。除了前田利常之外，加賀藩第五代藩主前田綱紀（西元 1643–1724）對 17 世紀加賀手工藝技術的發展同樣功不可沒。前田綱紀由祖父前田利常撫養長大，對藝術充滿熱情，為了對各種精湛的手工藝技術進行分類和研究，他廣泛收集各類手工藝樣本和手工藝品，整理出名為「百工比照」的樣本集。前田綱紀還鼓勵手工藝發展，邀請工匠們在御細工所附近聚居，並獎賞製作出優秀作品的工匠。

加賀藩御細工所的突破創新還體現在另一方面，由於過去手工藝技術往往由某個家族研發和掌握，相關知識也只傳授給後代子孫。然而在加賀藩御細工所裡，漆器、繪畫、金屬加工等各個領域的工匠們聚在一起並肩工作，共同努力之下各種手工藝技巧一齊發展，催生出許多出類拔萃的作品。

在加賀藩御細工所製作的作品中，最具代表性的是一件江戶時代晚期的神轎。到了 19 世紀，御細工所的工匠已有 70 餘人，他們結合各自的知識和技巧，攜手打造出這件精巧作

品。御輿採用金蒔繪、螺鈿鑲嵌和在黑漆底鑲嵌黄金等手法，呈現花朵裝飾的藤蔓圖案，以及前田家の梅花形家徽。御輿的金屬部件設計也同樣精巧，內部在金底上以蒔繪和彩繪技法勾勒圖案。

加賀藩御細工所延續了 250 多年，於西元 1868 年永久關閉。這主要是因為在西元 1867 年時，德川幕府的統治終結，日本進入明治時代（西元 1868–1912），政治結構出現了巨大變革，藩主的土地和權力遭到剝奪，藩地被重新劃分為縣，加賀藩的一部分也在西元 1872 年成為石川縣。

<日本語仮訳>

加賀藩御細工所

加賀藩御細工所（おさいくしよ）は、16 世紀後半に加賀藩（現在の石川県、富山県）によって設立された工芸品製作所である。加賀藩の有力者であった前田家の支援を受け、1868 年に閉鎖されるまで、高度な技術を持つ職人や工芸品、装飾品などの発展に大きく貢献した。

この工房の本来の目的は、他藩の工房と同様、江戸時代（1603-1867）に先立つ数十年にわたる戦乱の時代に武器や武具を管理・修理することが本来の目的であった。混乱が収まると、従来のような工房の大きなニーズはなくなった。しかし、政情不安もあり、加賀藩初代藩主・前田利家（1539-1599）は、万が一、再び戦乱が起こった場合に備えて、工房を継続するよう命じたのである。時が経つにつれ、争いの危険性は減少し、工房の成員はより芸術的な活動へと移行していった。

加賀藩 3 代藩主・前田利常（1594-1658）は、工房の装飾美術・工芸の発展を積極的に奨励した。利常の影響により、工房は正式に「御細工所」（おさいくしよ）として設立され、あらゆる種類の熟練工が採用されるようになった。象嵌や加賀蒔絵など、さまざまな工芸技術が開花し、城下町として発展した金沢には全国から職人が集められた。

前田家は、自分たちの意思で職人を呼び寄せただけでなく、積極的に多くの職人を招き入れ、そこに住まわせ働かせた。1600 年代の加賀の工芸技術の発展には、利常のほか、第 5 代加賀藩主の前田綱紀（1643-1724）が大きく貢献したとされている。祖父・利常に育てられた綱紀は、芸術に造詣が深かった。さらに、優れた工芸技術を研究し、標本化するために、工芸品の見本や品々を集めた「百工比照」として知られる膨大なコレクションを作成したのである。綱紀は、職人を工房の近くに住まわせるなどして、工芸の発展を促した。また、特に質の高いものを作った職人には褒賞を与えた。

加賀藩御細工所は、もう一つの点で新境地を開いた。それまでは、技術の知識を自分の子孫にのみ伝えた家によって発展してきた。しかし、加賀藩御細工所には、漆器、絵付け、金工などあらゆる分野の職人が集まり、肩を並べて仕事していたのである。その結果、多くの技法が生まれ、優れた作品が生み出されたのである。

加賀藩御細工所の代表的な作品に、江戸時代後期の御輿がある。1800年代には、70人以上の職人が在籍し、それぞれの知恵と技術を結集して、この精巧な作品を作り上げた。デザインは黒漆地に金蒔絵、螺鈿細工、金象嵌で、蔓に花をあしらった文様と梅花型の前田家の家紋を表現している。金具のデザインも凝っている。内部も蒔絵や金地と色鮮やかな絵が施されている。

加賀藩御細工所は、250年以上続いた後、1868年に永久に閉鎖された。1867年に徳川幕府が崩壊し、明治時代（1868-1912）が始まり、日本の政治体制が大きく再編されたことがその理由である。大名は領地と権限を奪われ、藩は県に改編され、加賀藩の一部は1872年に石川県となった。

【タイトル】 石川県立美術館 / 加賀藩御細工所（かがはんおさいくしょ）

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

加賀藩御細工所

加賀藩御細工所は 16 世紀後期に加賀藩（今石川県和富山県）創立和経営の工藝作坊，由實力雄厚的前田家族贊助。直到 1868 年關閉前，御細工所為培養能工巧匠，發展手工藝和裝飾藝術做出了巨大貢獻。

在江戶時代（1603–1867）前，日本經歷了數十年的全國戰爭。加賀藩和其他許多藩地一樣設立了工場，最初主要是為了維修和管理武器盔甲。1615 年戰爭結束之後，在和平穩定的環境下，製造和修理武器的需求大不如前。

加賀藩第三代藩主前田利常（1594–1658）將工場的重點轉向發展裝飾藝術和工藝技巧。在他的推動下，“御細工所”正式成立，吸引了各類熟練工匠來到規模日漸擴大的金澤城下町。

前田綱紀（1643–1724）是加賀藩第五代藩主，他對推動 17 世紀當地的工藝技術發展作出了很大貢獻。前田綱紀由祖父前田利常撫養長大，對藝術充滿熱情。為了鼓勵技術的發展，他讓工匠們聚居在御細工所附近。過去，工藝技巧和知識往往是某個家族或商業機密。但在加賀藩御細工所，漆器、繪畫，金屬工藝等行業的工匠們可以聚集在一起工作，他們的共同努力造就了加賀藩許多一流的作品。前田綱紀還會嘉獎製造出優秀作品的工匠。

除了不斷提升自己本行的技藝，御細工所的匠人們在前田家族喜愛的能劇、茶道等文化領域也取得了很大成就。

<繁体字>

加賀藩御細工所

加賀藩御細工所是位於加賀藩（今石川縣和富山縣）的手工藝作坊，在 16 世紀後期由當地實力雄厚的前田家資助。直到西元 1868 年關閉以前，為培養技藝純熟的工匠，以及發展手工藝和裝飾藝術做出了巨大貢獻。

在江戸時代（西元 1603–1867）以前，日本各地戰火連連，時間長達數十年之久，期間加賀藩和其他許多藩一樣設立了作坊，最初主要是為了維修和管理武器和盔甲。西元 1615 年戰爭結束之後，在和平穩定的環境下，製造或修理武器與盔甲的需求大不如前。

加賀藩第三代藩主前田利常（1594–1658）將作坊的重心，轉為發展裝飾藝術和手工藝，在他的推動下，作坊正式以「御細工所」的名義成立，吸引了精通各類手工藝的工匠們，來到規模日漸擴大的金澤城下町。

前田綱紀（西元 1643–1724）是加賀藩第五代藩主，對於推動加賀藩 17 世紀的手工藝技術發展作出了很大貢獻。前田綱紀由祖父前田利常撫養長大，對藝術充滿熱情，為了鼓勵技術的發展，他邀請工匠們聚居在御細工所附近。由於手工藝技術和知識過去往往是某個家族不外傳的秘密或商業機密，但在加賀藩御細工所，精通漆器工藝、繪畫，金屬加工等所有藝術門派的工匠們可以聚在一起並攜手合作，他們共同努力造就了許多加賀藩出品的一流作品。此外，前田綱紀還會獎勵製作出優秀作品的工匠。

許多御細工所的工匠們除了不斷提升自己本行的技藝，在前田家喜愛的能劇、茶道等文化領域也取得了很大成就。

<日本語仮訳>

加賀藩御細工所

加賀藩御細工所（おさいくしよ）は 16 世紀後半に設立され、加賀藩（現在の石川県と富山県）が運営していた工芸品製作所である。この工房は、加賀藩の有力者であった前田家の支援を受け、1868 年に閉鎖されるまで、高度な技術を持つ職人や工芸品、装飾品の発展に大きく貢献した。

この工房の本来の目的は、他藩の工房と同様、江戸時代（1603-1867）に先立つ数十年にわたる戦乱の時代に、武器や武具の管理・修理することであった。1615 年に戦いが終わり、安定と平和が訪れたため、武器や防具の製作や修理の必要性が少なくなった。

加賀藩 3 代藩主・前田利常（1594-1658）は、工房を装飾美術・工芸の振興に重点を置くようにした。利常の影響により、工房は正式に「御細工所」（おさいくしよ）となり、金沢の城下町にはさまざまな職人が引き寄せられた。

5 代目加賀藩主・前田綱紀（1643-1724）は、1600 年代に加賀で工芸技術を発展させたことで、多くの功績が認められている。祖父・利常のもとで育った綱紀は、芸術に造詣が深かった。そのため、職人を工房の近くに住ませ、技術の発展を促した。加賀藩の工房には、それまで家内や企業秘密とされていた漆や絵付け、金工などさまざまな職人が集まり、協力していた。彼らの協力により、加

質の数々の名品が生み出されたのである。綱紀はまた、職人たちが特に質の高いものを作ると報いた。

御細工所の職人の多くは、本業の工芸品に加えて、能楽や茶道など、前田家の好む文化的な分野にも力を注いだ。

【タイトル】石川県立美術館 / 前田家と加賀藩の概要

【想定媒体】看板、WEB

<簡体字>**加賀藩和前田家族的文化政策**

在江户时代(1603–1867)，幕府政权下有大约 250 个相对自治的藩领，现在的石川县当时属于其中的加贺藩。从 1583 年到 1871 年废藩置县，前田家族共有 14 任藩主统治加贺藩。得益于前田家族对加贺藩传统艺术的强劲支持，这种文化传统历久弥新，并延续到今天石川县的文化生活中。

加贺藩是一片地域辽阔、富饶多产的农业区域。由于各藩地的财富取决于其农作物（尤其是大米）的产量，因此前田家族的收入仅次于幕府本身的总收入。

在江户时代之前，日本经历了几个世纪的混战。武将们各自拥兵，割据一方，争斗不休。16 世纪末，德川家族在征战中崛起，并于江户建立了幕府政权。德川家族清楚地意识到，拥有更多财富意味着有更多的资源来招募和装备军队。前田家族这样富裕的藩主一旦不再效忠，并将财富用于叛乱，将会构成重大威胁。

而前田家族也担心自己因为富甲一方而被幕府视为政治对手。为此他们选择了一种高明的政治策略，将财富大量投入能剧、装饰艺术和茶道等非军事活动。因为这种策略，前田家族得到了幕府将军的青睐，获得了一些官职；他们管理的金泽尽管远离首都，也发展成为地区中心。与此同时，前田家族通过发展文化影响力，以一种和平的方式抵消幕府控制，从而维护领地的独立。

前田家族的文化政策大致可以分为收藏工艺品和培养工艺人才两个方面。收藏精美的艺术品可以提升藩主的威望。这种兴趣在武士阶层并不少见，然而，前田家族的财力格外雄厚，更愿意为收藏一掷千金，因此得以将日本各地的许多珍品和杰作纳入囊中。但前田家族并不仅仅满足于收藏，更以推动当地艺术和工艺发展作为治理藩地的基础。他们通过提供丰厚的资助、补贴和土地，吸引全国最优秀的艺术家们来到加贺藩。在前田家族的邀请下，不少艺术家从京都和江户（今东京）迁居至金泽，并开发出石川赖以闻名的许多工艺，例如加贺友禅染丝绸。

前田家族所推行的措施中影响最深远之一，是将金泽的武器盔甲修理坊改造为综合多种工艺类型的加贺藩御细工所。在历任藩主的财政支持之下，艺术家们不断磨炼技艺，培养传人，并合作进行突破边界的创新项目，创造一流的作品。前田家的第五代藩主前田纲纪(1643–1724)广泛收集和汇总当时日本各地的工艺样本，编成“百工比照”，这一收藏集为加贺藩御细工所的工匠提供了指导和启发。今天石川的漆器、金属工艺和木工的许多

关键技术都源于这一创新机构。

<繁体字>

加賀藩和前田家的文化政策

在江戶時代（西元 1603–1867），幕府轄下約有 250 個相對自治的領地，現在的石川縣當時屬於其中的加賀藩。從西元 1583 年到 1871 年廢藩置縣，加賀藩歷經 14 任前田氏藩主統治。多虧有前田家大力推動加賀藩的傳統藝術，這項文化傳統才得以歷久彌新，並延續到今日石川縣的文化生活中。

加賀藩是一片地域遼闊、富饒多產的農業區域。由於各藩地的財富取決於生產的農作物（尤其是稻米）產量，因此前田家的收入僅次於幕府的總收入。

在江戶時代之前，日本經歷了幾個世紀的混戰。武將們各自擁兵，割據一方且爭鬥不休。到了 16 世紀末，德川家族在征戰中崛起，在江戶建立了幕府政權。德川家族清楚地意識到當財富增加，代表擁有更多資源來招募軍隊和備妥裝備。當前田家如此富裕的藩主一旦不再效忠，並將財富用於叛亂，將會構成重大威脅。

另一方面，前田家也擔心可能會因為所擁有的財富，被幕府視為政治對手，因此他們選擇了一種高明的政治策略，將財富大量投入能劇、裝飾藝術和茶道等非軍事活動。上述策略讓前田家得到了幕府將軍的青睞，並獲得一些官職，他們管理的金澤儘管遠離首都，但也發展為地區中心。與此同時，前田家透過發展文化影響力，以一種和平的方式與幕府的控制抗衡，維護領地的獨立性。

前田家的文化政策大致可以分為收藏手工藝品和培養人才兩個方面。收藏精美的藝術品可以提升藩主的威望，雖然這種興趣在武士階級並不少見，然而前田家的財力格外雄厚，更願意為收藏一擲千金，因此得以將日本各地的許多珍品和傑作納入囊中。不過單單收藏無法滿足前田家，他們更致力於推動當地藝術和手工藝發展，以此作為治理藩地的基礎，因此提供豐厚的資助、補貼和土地，吸引日本全國最優秀的工匠們來到加賀藩。在前田家的邀請下，不少工匠從京都和江戶（今東京）遷居至金澤，並研究出許多石川縣著名的手工藝，例如加賀友禪染絲綢。

前田家所推行的措施中影響最深遠之一，是將金澤城的盔甲修理坊，改造為匯集多種手工藝類別的加賀藩御細工所。在歷任藩主的財政支援下，工匠們不斷磨鍊技藝、培養傳人，並攜手完成突破性的創新計畫，創造一流的作品。前田家的第五代藩主前田綱紀（西元 1643–1724）廣泛收集當時日本各地的手工藝樣本，並編成「百工比照」，為加賀藩御細工所的工匠們提供指引、帶來啟發。今日石川縣代表性的漆器、金屬加工和木工，許多的關鍵技術都源於這個創新機構。

<日本語仮訳>

加賀藩と前田家の文化政策

現在の石川県として知られている地域は、かつて加賀藩の一部であった。江戸時代（1603-1867）に、将軍の権限下にあった約 250 の自治領の一つである。加賀は、1583 年から 1871 年の廃藩置県まで、前田家 14 代が統治した。加賀の伝統工芸の育成に力を注ぎ、その遺産は石川県の文化に脈々と受け継がれている。

加賀藩は広大で、農業が盛んな地域であった。藩の財産は米を中心とした農作物の生産量で決まるため、前田家の収入は幕府の総収入に次ぐ豊かな藩であった。

江戸時代に入る前、日本は何世紀もの間、独立した武将たちの中で争いが絶えなかった。16 世紀末に徳川家が台頭し、江戸を拠点に幕府を開いた。徳川家は、富が増えれば、兵員の動員や装備のための資源も増えることを十分認識しており、前田家のような富裕な領主が忠誠心を失い、反乱を起こせば、大きな脅威となりうることをよく知っていた。

前田家もまた、自分たちの富が将軍の政敵とみなされることを懸念していた。そこで前田家は、能楽、美術、茶道など非軍事的な分野への投資をするという抜け目のない政治路線に乗り出した。この政策により、一族は将軍家の寵愛を受け、官職に就くことができ、金沢は都から遠く離れていながら、地方の中心都市へと変貌を遂げた。同時に、文化的な影響力を高めることは、藩の独立性を主張し、幕府の支配を相殺する平和的な方法であった。

前田家の文化政策は、大きく分けて「収集」と「育成」の二つに分けられる。美術品の収集は、藩主の威信を高めるために行われた。これは武士の間では常識であったが、前田家は裕福だったため、他の大名よりも多く日本各地の名画を数多く所有した。しかし、前田家は単に収集するだけでは満足しなかった。地域の芸術や工芸を振興することを領国経営の基本としていた。加賀藩は、支援や土地を提供することで、全国の優秀な職人たちを呼び寄せた。加賀時絵をはじめとする石川県の工芸品の多くは、前田家の招きで京都や江戸から金沢に移り住んだ職人たちによって確立されたものである。

中でも、金沢城の甲冑修理場を、加賀藩御細工所と呼ばれる多分野の工芸工房に変えたことは、大きな影響力を持つことになった。歴代藩主の資金援助により、芸術家たちは技術を磨き、後継者を育成し、境界を越えるプロジェクトや名作を共同制作したのである。5 代藩主・前田綱紀（1643-1724）は、全国の当時の工芸の見本を幅広くまとめたものを作成するよう促した。それは百工比照として知られ、加賀藩の工房の職人たちの教育・啓発に役立てられた。今日の石川県の漆器、金工、木工を定義する多くの重要な技術は、この革新的な施設から生まれた。

【タイトル】石川県立美術館 / 石川県の伝統工芸 インタロダクション

【想定媒体】看板、WEB

<簡体字>**石川传统工艺介绍：**

数百年来，现在的石川县地区一直是重要的手工艺行业中心，比肩京都和江户（现东京）等文化之都。当地蓬勃发展的传统手工艺包括陶瓷、纺织品、漆器、金属制品和木制品。日本各地的许多艺术形式，如刀剑铸造和友禅丝染，在石川演变出了独特的表现形式。加贺镶嵌等其他技艺也起源于该地区。

鉴于其艺术和历史价值，石川县的许多工艺已被日本政府指定为重要非物质文化遗产。从人口比例来看，该县拥有最多的手工艺重要非物质文化遗产保持者。这些大师级的工匠们肩负保护非物质文化遗产的重任，传承并发展着历史悠久的工艺技术。

如今，到访石川的游客不仅可以看到过去的杰作，还可以看到传承古老手艺的工匠们如何在今天探索新方法，将传统工艺技术融入现代审美。这些当代作品范围很广，既有供博物馆收藏的精致艺术品，也有兼顾美观和实用性的日常用品，如九谷烧饭碗或轮岛漆筷。一些产品完全保留了传统形态，例如茶道中使用的礼仪锣，而其他工艺则有了更为现代的表现形式。例如，厚度仅以微米计的薄金箔在过去用于佛教塑像，而现在则应用于软冰淇淋和高端面部护理中。

<繁体字>**石川縣傳統手工藝介紹**

數百年來，現在的石川縣地區一直是重要的手工藝中心，與京都和江戶（今東京）等文化之都並駕齊驅。當地蓬勃發展的傳統手工藝包括陶瓷、紡織品、漆器、金屬加工和木工，刀劍鑄造和友禪染等日本各地的許多藝術形式，也在石川縣發展出獨特的表現形式，其他像是加賀鑲嵌等技藝也起源於此。

日本政府認可石川縣許多手工藝的藝術和歷史價值，將其指定為重要無形文化財產。從人口比例來看，石川縣擁有最多手工藝重要無形文化財產保持者，這些大師級工匠們肩負保護無形文化財產的重任，致力於將這些歷史悠久的手工藝技術傳承下去。

如今，到訪石川縣的遊客不僅可以欣賞昔日傑作，還能了解現代工匠們除了傳承古老手工藝，還有如何探索出新的方法，將傳統的手工藝技術融入現代審美。當代作品範圍很廣，既有在博物館展示的精緻藝術品，也有九谷燒飯碗或輪島漆筷等兼顧美觀、實用性的日常用品。另外一些產品完全保留傳統，例如用於茶道儀式的鑼；其他手工藝則迎合現代

潮流，有了全新風貌，例如厚度只有幾微米的薄金箔，過去用於裝飾佛像，現則鋪在霜淇淋上，或用於高級臉部護理療程。

<日本語仮訳>

石川県伝統工芸品の紹介

現在、石川県として知られている地域は、数百年前から京都や江戸（現在の東京）の文化都市と肩を並べる工芸の中心地である。陶磁器、織物、漆器、金工、木工など、石川県の伝統工芸は盛んである。刀鍛冶や友禅など、日本各地で行われている工芸が石川県で独自の発展を遂げた。また、加賀象嵌など、この地域が発祥の地とされる技法もある。

石川県で行われている工芸の多くは、その芸術的・歴史的価値が認められ、国の重要無形文化財に指定されている。また、無形文化遺産に登録された伝統的な技法を守る名人である、工芸に関する重要無形文化財保持者の輩出も、人口比で日本一となっている。

現在、石川県を訪れると、過去の名作だけでなく、現代の職人たちが伝統的な技術を現代的な美意識に適合させるために新たな方法を模索している姿を見ることができる。美術館に展示されるような精巧な美術品から、九谷焼の飯碗や輪島塗の箸のような機能美を備えた日用品まで、現代の作品は多岐にわたる。茶道の銅鑪のように超伝統的なものもあれば、現代に新たな表現を見出した工芸品もある。例えば、かつて仏像に使われていたミクロン単位の薄さの金箔は、今ではソフトクリームの上に貼られたり、高級なフェイシャルトリートメントに使われたりしている。

解説文一覧

NO.	スポット名 (タイトル)	中国語文字数	想定媒体
005-001	有楽苑へようこそ	1495	QR、WEB、 パンフ
005-002	織田有楽の生涯	1590	QR、WEB、 パンフ
005-003	如庵	1805	QR、WEB、 パンフ
005-004	旧正伝院書院	995	QR、WEB、 パンフ
005-005	茶道具	1025	QR、WEB、 パンフ
005-006	有楽苑の茶道体験	740	QR、WEB、 パンフ
005-007	元庵	760	QR、WEB、 パンフ
005-008	弘庵	620	QR、WEB、 パンフ
005-009	岩栖門・含翠門	340	QR、WEB、 パンフ
005-010	徳源寺唐門・萱門	550	QR、WEB、 パンフ
005-011	有楽苑の四季	540	QR、WEB、 パンフ
005-012	有楽苑の注目すべき植物	745	QR、WEB、 パンフ
005-013	犬山焼	1015	QR、WEB、 パンフ
005-014	茶室と露地：隠居所づくり	1560	QR、WEB、 パンフ

【タイトル】 有楽苑へようこそ

【想定媒体】 アプリ QR コード、WEB、パンフレット

<簡体字>

欢迎来到有乐苑

这是一座专为 17 世纪的稀世之珍“如庵”茶室建造的庭园。如庵是日本仅有的三家国宝茶室之一，也是唯一向公众开放的国宝茶室，被视为茶室建筑的最高杰作。1971 年，名古屋铁道株式会社（以下简称“名铁”）收购了如庵。为了继承如庵的建造者、著名茶人织田有乐(1547-1621)的文化精髓，名铁将茶室从神奈川县大矶迁至爱知县犬山市，并在此兴建了一座庭园，命名为“有乐苑”。

有乐苑的核心——传世国宝如庵

织田有乐出身于尾张国（今爱知县西部；“国”是日本古代行政区划，有别于国家。）的织田家族。这个强大的武士家族在附近建立了犬山城。1618 年，织田有乐退隐避世后，在京都建仁寺内新建了一处居所“正传院”。因他热衷于举办茶会，又在居所旁设计建造了一间茶室，取名“如庵”。

直至明治时代(1868-1912)，如庵及其周边建筑一直位于京都。之后，由于产权变更房屋几经迁移。最终，如庵以及正传院的部分建筑被三井家族收购，并移至神奈川县大矶的私府之中。

1969 年，三井家族将这些建筑售于名铁，一并出售的还有如庵的“露地”（茶庭）和其他众多历史文物。在名铁的计划中，收购只是第一步，打造一座既能保护历史建筑，又能向公众展示文化遗产的庭园，才是最终目的。

名铁请来著名建筑师、建筑史学家堀口舍己(1895-1984)主持这个庭园项目。在此前的几十年中，堀口舍己一直在千方百计收集着如庵以及其他茶室的古旧草图、图纸和历史文献，还以此为题材撰写了数本著作。参与如庵的复原工作，并为展示它而创建一座充满想象力的庭园，无疑是他一生集大成之作。

造园

名铁选择了犬山城附近的一座早已关闭的游乐场来建造有乐苑。工程开始时可谓好事多磨，1971 年 5 月 18 日，堀口舍己抵达名古屋的当天，正逢名铁工人罢工，巴士和火车全都停运。当他好不容易赶到犬山后，还是波折不断。5 月 19 日早晨，他在一场滂沱大雨中前往现场评估。虽然工人们已经花了一周时间，按照他从东京寄来的图纸，用绳索在地上标记了建筑位置，但他在实地勘察后勃然大怒，怒斥绳索的定位与他的设计截然不同，

连如庵的位置都标记错误。第二天经过调整，项目才终于正式开工。此后一年中，一大批修复师、石匠和木匠在堀口舍己的指导下，重新搭建并修复了织田有乐的历史建筑，园艺师也打造出了一片精致而富有活力的景观。

堀口舍己当时已年逾古稀，但工作起来依然全力以赴、废寝忘食，还经常穿着借来的名铁雨衣冒雨察看工地。他前后 21 次奔赴犬山，每次都会留下一套详尽的指示。

实现愿景

堀口舍己以擅长将天然材料的特性融入设计而著称。他绝不拘泥于自己最初的庭园构想，而是根据每块岩石、每棵树的特点调整设计方案。

在制定如庵修复和造园方案时，堀口舍己参考了史料记载和一幅 1799 年的织田有乐居所的画作。在他的设计中，园中一切都必有出处，不仅是建筑位置、围墙样式，还包括踏脚石如何排列、松树种于何处、选用何种竹子等等，所有细节都经过仔细考据，只求重现如庵的原貌。

在 1799 年的那幅画作上，一座石塔立于矮丘上，塔旁有水池，池上横跨着一座简朴的石桥。堀口舍己并没有挖掘水池，而是以细洁的白砂代水，用枯山水再现了这一景观。除此之外，他还重现了织田有乐的正方形赏月台“啸月台”。在他的精心设计下，园中不仅拥有数百年历史的古旧门扉、石灯笼、手水钵，还有移植而来的数十株大树以及石块。所有这些都有机地融为一体，令庭园古意盎然。

有乐苑的建设最初只是一个简单的搬迁与修复工程，但庭园落成后反而具有更重大的意义。它的设计不仅展现了 17 世纪茶道大师的审美趣味、建筑大师的奉献精神与愿景，同时也体现了有识之士为子孙后代守护庭园文化遗产所作出的不懈努力。

<繁体字>

歡迎來到有樂苑

這是一座專為 17 世紀的稀世之珍「如庵」茶室而建造的庭園。如庵是日本僅有的，被指定為國寶的三家茶室之一，同時也是唯一對民眾開放的國寶茶室，它被譽為茶室建築的巔峰之作。1971 年，名古屋鐵道株式會社（以下簡稱「名鐵」）收購了如庵。為了繼承如庵的建造者、著名茶人織田有樂（1547-1621）的文化精髓，名鐵將茶室從神奈川縣大磯遷至愛知縣犬山市，並在此興建了一座庭園，命名為「有樂苑」。

有樂苑的核心——歷史國寶如庵

織田有樂出身於尾張國（今愛知縣西部；「國」是日本古代行政區劃，並非國家。）的織田家。這個強大的武士家族在附近建立了犬山城。1618 年，織田有樂選擇隱居退世，在京都建仁寺內新建了一處居所「正傳院」。因其熱衷於舉辦茶會，又在居所旁設計建造了一間茶室，取名「如庵」。

直至明治時代（1868-1912），如庵及其週邊建築一直被保留在京都。之後，因房屋所有權轉移，歷經幾次遷移。如庵以及正傳院的部分建築最終被三井家收購，並移至位於神奈川縣大磯的私宅之中。

1969年，三井家將這些建築和如庵的「露地」（茶庭），連同其他眾多歷史文物一併出售給了名鐵。依照名鐵的規劃，首先購得這些建築，最終打造一個既能保護歷史建築，又能向大眾展示文化遺產的庭園。

名鐵請來了著名建築師和建築史學家堀口舍己（1895-1984）擔任總指揮。在執行這項工作之前的數十年間，堀口舍己一直在收集如庵以及其他茶室的古老草圖、圖紙和歷史文獻，還以此為基礎撰寫了數本著作。對堀口舍己來說，參與如庵的復原工作，並為展示它而創建一座充滿想像力的庭園，無疑是他一生集大成之作。

造園

名鐵選擇了犬山城附近的一家早已關閉的遊樂場來建造有樂苑。工程開始時並不順利，1971年5月18日，堀口舍己抵達名古屋的當天，恰逢名鐵工人罷工，客運和火車全都停駛。在經歷了一番波折後，他終於抵達了犬山，但麻煩尚未結束。5月19日早晨，他在滂沱大雨之中前往現場進行評估，雖然工人們已按照他從東京寄來的圖紙，花了一週的時間，用繩索在地上標記了建築位置，但他在實地勘察後大為不滿，怒斥繩索的定位與他的設計截然不同，連如庵的位置都標記錯誤。第二天經過調整，工程才終於正式開工。此後一年中，大批修復師、石匠和木匠在堀口舍己的指導下，重新搭建和修復了織田有樂的歷史建築。同時，園藝師也打造出了一片複雜而精細的景觀。

堀口舍己當時已年逾古稀，但工作起來依然精力充沛，不辭辛勞，經常穿著借來的名鐵雨衣，冒雨察看工地。他前後21次奔赴犬山，每次必定留下詳盡的指示。

願景達成

堀口舍己以擅長將天然材料的特性融入設計中而聞名。他不受限於最初的庭園構想，而是根據現場每塊岩石、每棵樹的特點來調整設計方案。

在制定如庵修復和造園方案時，堀口舍己參考了史料記載和一幅1799年的織田有樂居所的畫作。他的設計中一切都有依據，包括建築位置、圍牆樣式，甚至踏腳石的排列、松樹的種植位置，以及竹子的選擇等，都經過了細緻的考證，只求再現如庵的原始面貌。

在1799年的那幅畫作中，一座石塔矗立在矮丘上，塔旁有一個池塘，並有一座簡樸的石橋跨越其上。不過堀口舍己並沒有挖掘水池，而是以細潔的白砂代水，用枯山水再現了這一景觀。此外，他還重現了織田有樂的正方形賞月臺「嘯月台」。在他的設計與安排下，園中不僅配置了數百年歷史的古舊門扉、石燈籠、手水鉢，還有移植而來的數十株大樹，以及石頭。所有都巧妙地融為一體，令庭園古意盎然。

有樂苑最初只是一個簡單的搬遷和修復工程，但在庭園落成後，反而發展出更重要的意義。它的設計不僅展現了17世紀茶人的審美趣味、建築大師的奉獻精神與願景，同時也體現了有識之士為子孫後代保護庭園文化遺產的所做出的不懈努力。

<日本語仮訳>

有楽苑へようこそ

この庭園は、17 世紀の貴重な茶室「如庵」にふさわしい場所として作られた。如庵は茶道建築の最高傑作とされており、国宝に指定されている 3 つの茶室のうちの 1 つであり、普段からご覧いただける唯一の国宝茶室である。1971 年、名古屋鉄道株式会社（以下、名鉄）が如庵を譲り受け、神奈川県大磯から愛知県犬山市に如庵を移築し、この庭園が建設された。庭園の創設にあたっては、如庵の生みの親である茶人・織田有楽（1547-1621）の好みを取り入れた庭園を造ることを目指し、「有楽の庭」という意味の「有楽苑」と名付けた。

有楽苑の中核をなす歴史的国宝「如庵」

織田有楽は尾張の国（現在の愛知県西部、「国」とは、古代日本の行政区画、いまの「国家」とは異なる。）で、近くに犬山城を築いた有力武士である織田家に生まれた。1618 年に隠居した有楽は、京都の建仁寺の境内に「正伝院」と呼ばれる屋敷を構えた。茶会を催すのが好きだった有楽は、邸宅に隣接して茶室を設計・建築した。この茶室を「如庵」と名付けた。

如庵とその周辺の建物は、明治時代（1868-1912）まで京都に残されていた。その後、建物は所有者が変わり、何度か移転した。最終的に、如庵と正伝院書院の一部は三井家が取得し、神奈川県大磯の私邸に移築された。

1969 年、三井家はこれらの建物を、如庵の「露地」（茶庭）やその他多くの歴史的遺物とともに名鉄に売却した。この購入は、歴史的建造物を保存し、文化遺産を公開する庭園を建設しようという名鉄の計画の第一歩だった。

その陣頭指揮を執ったのが、名高い建築史家でもある堀口捨己（1895-1984）であった。堀口は赴任前の数十年間、如庵やその他の茶室に関する古いスケッチや図面、歴史的文献を丹念に収集し、このテーマに関する著書も何冊か執筆していた。堀口はこの如庵の修復とそれを展示するための庭園づくりに携わり、ライフワークの集大成としたのである。

庭園の建設

名鉄が有楽苑を建設する場所に選んだのは、犬山城にほど近い遊園地跡地であった。建設は前途多難な滑り出しであった：1971 年 5 月 18 日、堀口が名古屋に着いた時、名鉄の従業員はストライキに突入しており、バスも電車もすべてストップしていた。堀口が犬山に到着した後も、トラブルは続いた。5 月 19 日の朝、土砂降りの中、堀口は現地の様子を見に行った。堀口が東京から送った図面をもとに、この 1 週間、作業員たちは建物の位置を示すためのひもを張っていた。それを見た堀口は、自分の設計した線と全然違う、如庵の位置が違うと、激怒した。翌日、急遽、修正を行い、工事を開始した。その後、堀口の指揮のもと、約一年間にわたって修復師、石工、大工が有楽の歴史的建造物を再建・修復し、庭師が複雑で生きた風景を作り上げた。

堀口は 70 歳を過ぎても、雨の中、借りた名鉄のレインコートを着て工事に立ち会うなど、精力的に活動した。堀口は、犬山まで 21 回も通い、その都度、注意事項を書き残した。

ビジョンの実現

堀口捨己は、自然素材の特性をデザインに取り入れたことが評価されている。堀口は、最初に描いた庭のイメージに縛られることなく、岩や木の個性を生かしながら設計を進めた。

堀口は如庵の復元と庭園造成の計画を立てるにあたり、史料と 1799 年の有楽邸の絵図を参考にした。建物の位置はもちろん、垣根の形、飛び石の配置、松の木の位置、竹の種類など、すべてこの資料に基づいて選ばれており、元々の如庵の姿を想起させる。

1799 年の絵図には、石塔のある低い丘、そしてその横に簡単な石橋がかかった池が描かれている。堀口は池を掘る代わりに、水を細かい白砂で表現した枯山水でこの風景を再現した。また、有楽の四角い月見台「嘯月台」も再現した。庭の随所に数百年前の門や石灯籠、手水鉢を配し、数十本の大木や石を移植して、歴史を感じさせる庭園に仕上げた。

有楽苑は、当初は簡単な移転・修復工事から始まったが、その後、庭園全体がより大きなものに発展した。その設計には、17 世紀の茶人の美的感覚、名建築家の献身とビジョン、そしてこの文化遺産を次世代のために残そうとする関係者のたゆまぬ努力が結集されている。

【タイトル】 織田有楽の生涯

【想定媒体】 アプリ QR コード、WEB、パンフレット

<簡体字>

织田有乐生平

织田有乐，本名织田长益，于 1547 年出生于尾张国（今爱知县西部；“国”是日本古代行政区划，有别于国家。）比起本名来，其茶名“有乐”或“有乐斋”更为人所知。织田有乐是尾张国的统治者、势力强大的织田家族家主织田信秀(1511-1549)的第 11 个儿子。他的兄长织田信长(1534-1582)后来成为逐鹿天下、统一日本的三位“天下人”中的第一位，并促进日本最终过渡到了中央集权化的德川幕府。织田有乐与第二、第三位“天下人”丰臣秀吉(1537-1598)、德川家康(1543-1616)也往来甚密。

尽管与诸多强大军事人物的关系密切，但织田有乐被后世铭记却不是因其战绩，而是他卓越的文化成就。织田有乐曾跟随日本历史上最有影响力的茶人千利休(1522-1591)学习茶道，在 16 世纪晚期至 17 世纪早期动荡的几十年中，经常借茶会之机促成各大军阀的和谈。最终，他选择在京都的一间佛寺内隐居，并在那里建造了他的杰作——如庵茶室。

青年时代

织田有乐的青少年时期鲜为人知。1567 年，20 岁的他与兄长织田信长一起来到后者刚刚征服的岐阜城。1581 年，基督教传教士进入该地区，为数百人施行了洗礼。尽管没有明确记录，但坊间流传织田有乐也是受洗者之一，他的受洗名叫“João”（葡萄牙语的 John），在日语中的发音为“Jo-an”。后来他以同音的“如庵”命名了自己的茶室。

1582 年，灾祸来袭。织田有乐跟随兄长织田信长拜访京都本能寺时，织田信长麾下将领明智光秀(1528-1582)发动叛乱，将寺院团团围住。织田信长不愿沦为阶下囚，自杀身亡。传说其长子织田信忠(1557-1582)当时处在随父亲自尽还是逃生的两难境地中，最终在织田有乐的建议下选择自尽，然而织田有乐却脱逃了。

茶会调停人

在织田信长去世前，千利休曾出任织田家族的顾问，织田有乐也因此机缘拜千利休为师。几年后，千利休又受聘于丰臣家族，织田有乐再度师从于他。有些文献将其列为千利休门下的“七哲”之一。

醉心茶学的织田有乐在当时的政局中扮演了重要角色。在 16 世纪后半叶的几次关键事件中，他均以调停人的身份参加茶会，努力促成了和平。1585 年，他安排原织田信长麾下大将丰臣秀吉和织田信长次子兼继承人织田信雄(1558-1630)谈判，并促成双方达成了和

平协议。此后不久，他又参加了丰臣秀吉与其曾经的亲信德川家康的茶会，并在 1586 年令这两大崛起的军事势力间达成了和解。

摇摆的忠心

1598 年丰臣秀吉去世，德川家康趁机填补权力空白，与丰臣秀吉的继承人和家臣展开了斗争。1600 年，德川家康在关原之战中取得决定性胜利，确立了将军地位。织田有乐在德川家康麾下参与了此战，胜利后获得了大片领地。

1614 年，德川家康成功征服了丰臣秀吉的同盟势力，只余下后者的侧室淀殿夫人(1567-1615)及年幼的继承人丰臣秀赖(1593-1615)一脉。二人以大坂城（今大阪城）为据点，开始招兵买马。织田有乐是淀殿夫人的舅父，反复劝说她与德川家康议和，多次遭拒后感到十分沮丧，于 1615 年初离开大坂。当年 6 月，德川家康攻入大坂城，淀殿夫人与丰臣秀赖自尽。

退隐

或许缘于在大坂遭受的打击，织田有乐于 1615 年隐退京都。1617 年，他与建仁寺商议，希望允许他重修寺内一座破落的“塔头”（附属寺院），为自己建造隐居之所。1618 年，他迁入新居，将其命名为“正传院”。3 年后，织田有乐辞世，享年 75 岁，被葬于宅邸院内。

织田有乐的传承

织田有乐的后人和弟子所传承的茶道流派称为“有乐流”，至今仍然活跃。在有乐苑修建期间的 1972 年 3 月 23 日，有乐流第 15 代宗主织田长繁(1918-1992)亦曾到访。

织田有乐认为，茶道最重要的就是令客人如沐春风。他反对那些只会模仿大师，却不理解茶道真义，也没有自己的思想与创新的习茶者。如庵的设计是他独立精神的明证，既反映了恩师的教诲，却又不拘泥其中。

<繁体字>

織田有樂生平

織田有樂，本名織田長益，於 1547 年出生在尾張國（今愛知縣西部；「國」是日本古代行政區劃，並非國家。）相比於本名，其茶名「有樂」或「有樂齋」更為人所知。當時，勢力強大的織田家統治著尾張國，織田有樂是家主織田信秀（1511-1549）的第 11 個兒子，兄長織田信長（1534-1582）後來成為逐鹿天下、統一日本的三位「天下人」中的第一位，并推動日本最終成為了中央集權化的德川幕府。織田有樂與第二、第三位「天下人」豐臣秀吉（1537-1598）、德川家康（1543-1616）也往來甚密。

儘管與諸多強大的軍事人物的關係密切，織田有樂被後世銘記卻不是因他的戰績，而是他卓越的文化成就。織田有樂曾跟隨日本歷史上最具有影響力的茶人千利休（1522-1591）

學習茶道，在 16 世紀晚期至 17 世紀早期動盪的幾十年中，經常借茶會之機促成各大軍閥的和談。最後，他選擇在京都的一間佛寺內隱居，建造了他的傑作——如庵茶室。

青年時代

織田有樂的青少年時期鮮為人知。1567 年，20 歲的他與兄長織田信長一起來後者剛剛征服的岐阜城。1581 年，基督教傳教士進入該地區，數百人受洗。儘管沒有明確記錄，但坊間流傳織田有樂也是受洗者之一，他的受洗名叫「João」（葡萄牙語的 John），在日語中的發音為「Jo-an」，後來他便以同音的「如庵」命名了自己的茶室。

1582 年，織田有樂跟隨兄長織田信長拜訪京都本能寺時，織田信長麾下將領明智光秀（1528-1582）發動叛亂，將寺院團團圍住。織田信長不願淪為階下囚，自殺身亡。傳說他的長子織田信忠（1557-1582）當時處在隨父親自盡還是逃生的兩難境地中，最終聽從織田有樂的建議選擇自盡，然而織田有樂卻脫逃了。

茶會調停人

在織田信長去世前，千利休曾出任織田家的顧問，織田有樂因此得有機緣拜千利休為師。數年後，千利休又受聘於豐臣家，織田有樂有幸再度師從於他。有些文獻將他列為千利休門下的「七哲」之一。

醉心茶學的織田有樂在當時的政局中扮演了重要角色。在 16 世紀後半葉的幾次關鍵事件中，他均以調停人的身份參加茶會，為和平盡一己之力。1585 年，他安排原織田信長麾下大將豐臣秀吉和織田信長次子兼繼承人織田信雄（1558-1630）談判，並促成雙方達成了和平協議。此後不久，他又參加了豐臣秀吉與其曾經的親信德川家康的茶會，並在 1586 年令這兩大崛起的軍事勢力間達成了和解。

搖擺的忠心

1598 年豐臣秀吉去世，德川家康趁機填補權力空白，與豐臣秀吉的繼承人和家臣展開了鬥爭。1600 年，德川家康在關原之戰中取得決定性勝利，確立了將軍地位。織田有樂在德川家康麾下參加了關原之戰，勝利後獲得了大片領地。

1614 年，德川家康成功征服了豐臣秀吉的同盟勢力，只餘下豐臣秀吉的側室澱殿夫人（1567-1615）及年幼的繼承人豐臣秀賴（1593-1615）一脈。二人以大坂城（今大阪城）為據點，開始招兵買馬。織田有樂是澱殿夫人的舅父，反覆勸說她與德川家康議和，多次遭拒後感到十分沮喪，於 1615 年初離開大坂。當年 6 月，德川家康攻入大坂城，澱殿夫人與豐臣秀賴自盡。

退隱

或許由於在大坂遭受的打擊，織田有樂於 1615 年在京都隱退。1617 年，他與建仁寺商議，希望准許他重修寺內一座破落的「塔頭」（附屬寺院）為自己建造隱居之所。1618 年，他搬入新完工的居所，將其命名為「正傳院」。3 年後，織田有樂辭世，終年 75 歲，葬於宅邸院內。

織田有樂的傳承

織田有樂の後人和弟子所傳承的茶道流派稱為「有樂流」，至今仍然活躍。1972年3月23日，在有樂苑修建期間，有樂流第15代宗主織田長繁（1918-1992）亦曾到訪。

織田有樂認為，茶道最重要的就是使客人如沐春風，反對那些只會模仿大師，卻不理解茶道真義，也沒有自己的思想與創新的習茶者。如庵的設計是他獨立精神的明證，既反映了其師的教誨，卻又不拘泥其中。

<日本語仮訳>

織田有樂の生涯

織田有樂、本名織田長益は、1547年、尾張の国（現在の愛知県西部、「国」とは、古代日本の行政区画、いまの「国家」とは異なる。）に生まれた。本名より、茶名「有樂」や「有樂齋」で知られる織田有樂は、この地を支配していた織田家の当主、織田信秀（1511-1549）の11男である。有樂の兄、織田信長（1534-1582）は、後に天下統一を成し遂げた三大武將の最初一人となり、徳川幕府の中央集権化につながった。有樂は、2番目、3番目の「天下人」である豊臣秀吉（1537-1598）、徳川家康（1543-1616）とも親交があった。茶名「有樂」

このような強力な武闘派との繋がりにも関わらず、有樂は武道よりも文化人としても知られ、日本史上最も影響力のある茶人である千利休（1522-1591）に茶の湯を学んだ。16世紀末から17世紀初頭の激動の時代、有樂はしばしば茶会を通じて諸派の和議を成立させた。やがて京都の寺に隠棲し、彼の重要な作品である『如庵』を建てた。

初期

有樂の少年時代は、ほとんど知られていない。1567年、20歳のとき、兄の信長と合流し、信長が征服したばかりの岐阜の地に赴いた。1581年、キリストの宣教師がこの地にやってきて、数百人に洗礼を授けた。確たる記録は残っていないが、その中に有樂も含まれており、日本語では「ジョアン」と発音する、受洗名の「João」（ポルトガル語で「John」）を名乗ったとの説もある。この名前は、後に茶室にも付けられることになる。

1582年、災難に見舞われる。有樂と信長が京都の本能寺を訪れたとき、信長は武將の一人である明智光秀（1528-1582）に裏切られ、その軍勢に本能寺を包囲されてしまったのだ。信長は捕まることなく、自害した。言い伝えによると、信長の長男である織田信忠（1557-1582）は、自害するか逃げるか迷っていたという。信忠は有樂の勧めで、そのまま自害したが、有樂は退却した。

茶会を通じた調停

有樂は、織田信長の死によって幕を閉じた織田家の指南役であった茶人・千利休に師事していた。数年後、豊臣家に利休が雇われていた頃、有樂は再び利休に師事している。また、有樂を利休七哲の一人としてあげている記録もある。

有樂の茶の研究は、当時の政局にも大きな影響を及ぼしている。16世紀後半のいくつかの重要な局面で、和平工作の一環として、有樂は茶会に出席して調停役を務めた。1585年、信長の元家

臣・豊臣秀吉と、信長の次男で後継者の織田信雄（1558-1630）との間の和議を取りまとめた。その後まもなく、秀吉や秀吉の側近であった徳川家康との茶会に参加した。1586年、有楽は両者の和議を成立させた。

対立する忠誠心

1598年に秀吉が死去すると、徳川家康は権力の空白を埋めるために動き出す。家康と秀吉の後継者、家臣の間で争いが始まり、家康は1600年の関ヶ原の戦いで勝利を収めたことで、将軍の座を確固たるものにした。有楽は関ヶ原で家康の下で戦い、その功績で大きな領地を与えられた。

1614年までに、家康は秀吉の側室・淀殿（1567-1615）とその幼い嫡男・秀頼（1593-1615）を除く、秀吉の残りの支持者を支配下に置く。淀殿と秀頼は大坂城（現在の大阪城）に陣を構え、加勢を募り始める。淀殿の叔父にあたる有楽は、家康との和睦を何度も勧めた。ついに交戦に業を煮やした有楽は、1615年初頭、大坂を去る。その6月、家康によって城は攻撃され、淀殿と秀頼は自害した。

隠居

大坂での経験に失望したのか、1615年、有楽は京都に隠棲した。1617年、建仁寺と交渉し、老朽化した塔頭のひとつを再建し、隠居所を建てることを許可された。1618年、完成した「正伝院」に移り住む。3年後、有楽は75歳で亡くなり、屋敷の敷地内に埋葬された。

有楽の遺志

有楽の後継者や弟子たちが受け継いだ茶の流派は「有楽流」と呼ばれ、現在でもその流派は受け継がれている。1972年3月23日には、有楽流の第15代宗家である織田長繁（1918-1992）が、有楽苑の建設に立ち会った。

有楽にとって茶の湯は、客をもてなし、快適に過ごしてもらうことが第一であった。また、茶人たちが大家のやり方を真に理解せず、独自の考えや工夫をしないで模倣することに批判的であった。このような有楽の独立心は、師匠の教えにとらわれずに、その教えを反映させた「如庵」のデザインに表れている。

【タイトル】 如庵

【想定媒体】 アプリ QR コード、WEB、パンフレット

<簡体字>

如庵

如庵茶室被视为织田有乐(1547-1621)的巅峰之作，其设计集中体现了织田有乐的茶道美学与个性，但在各方面都背离了千利休(1522-1591)等茶道大师拟定的茶室建筑惯例。尽管如此，或者说正因如此，如庵才被奉为杰作。著名画家尾形光琳(1658-1716)对之极为推崇，乃至以如庵为范本也为自己建造了一间茶室，现存于京都仁和寺中。据说，如庵是全球被仿建次数最多的茶室。

早期历史

1621 年织田有乐去世后，他的宅邸被委托给建仁寺管理，至 1872 年前，寺院一直靠捐助维护宅邸。但此后明治新政府颁布法令，在全国范围内削弱佛教的势力与影响，因此建仁寺等寺院的土地和其他资产被强制拍卖。织田有乐宅邸的正传院书院、如庵茶室和旁边“露地”（茶庭）的产权也被移交至京都祇园，并更名为“有乐馆”，被用于加工茶叶等多种用途。1908 年，祇园向来自全国各地的买家抛售这些建筑，三井高栋(1857-1948)就是买家之一。

三井家族

三井家族是日本 19 世纪晚期最显赫的巨贾之一，三井高栋是三井家族主支第 10 任家主。他毕生钻研茶道，在传统建筑方面也有很深的造诣。三井高栋购买了正传院书院、如庵茶室及其茶庭，并于 1908 年将它们迁至自己在东京麻布的私宅内。他希望在退休后能专注茶道，但人口稠密的东京存在火灾隐患，于是 1938 年，在他决定去神奈川县大矶的家族别墅颐养晚年时，将上述建筑也一并迁移了过去。也正是他的这个决定，让这些古建筑在二战东京大轰炸期间逃过一劫。

迁至犬山

1951 年，三井高栋去世后不久，如庵被指定为国宝。1969 年，名古屋铁道株式会社购得三井家族的大矶别墅以及其中许多建筑和艺术品，为兴建有乐苑奠定了基础。

如庵迁址犬山的准备工作始于 1971 年初。首先项目组对如庵的建筑进行了深入研究，运用当时最先进的 X 光来检测评估墙壁和支柱的状态。开始拆卸时，工作人员绘制了详细图纸并进行了精细测量，还为部件都标上编号。拆下的每个部分都分别用衬垫和防水材料包裹，玄关（土质门厅及周边墙体）部分则被装入木头框架中进一步加固。最后，工人将

所有部件都装上配备减震装置的大卡车，1971年3月31日凌晨1:30，如庵离开大矶，日本广播协会NHK安排了全程跟拍。

运输过程中曾发生了一件意外：过高速公路收费站时，一辆卡车的货厢顶部轻微蹭到了限高栏，被迫停了下来。所幸茶室并未受损，但收费站工作人员拒绝让此车通行，几经努力周旋，最终才得以放行。

重建与修复

如庵安全抵达犬山后，由专业修复师开始组装。尽管因屋顶漏水等原因，茶室必须局部整修，但尽可能保持建筑原貌，才是本次修复工程的最大目的。对于部分腐朽的柱子等受损构件，修复师决定采用合成树脂进行加固。经过纹理处理和上漆，修复处看起来就跟真的木头一样。而如屋顶木片瓦等需要完全替换的地方，则采用与原始建筑相同的工艺重新制作。

借此机会，修复师还清除了长久以来对如庵的种种改造痕迹。他们以史料对织田有乐京都宅邸的描述为据，将大矶时期变动过的建筑布局还原如初。比如在大矶时，如庵茶室和正传院书院通过一条由书院东南角引出的户外廊道相连。修建有乐苑时，修复师们拆除了这条廊道，将两栋建筑紧靠在一起，这样，从书院的缘侧（檐廊）便可直接进入如庵。

建筑特点

前来如庵出席茶会的客人需从建筑西南侧带屋顶的泥地外门厅进入。入门前武士要卸下长刀，放置在一扇拉门后小房间内的刀架上。所有客人均需脱鞋，然后俯身爬过窄小低矮的“躡口”（躡，音同“藺”）进入一个狭小的房间。如庵的茶室仅3.5叠榻榻米大小（约6.2平方米），比千利休偏好的2叠要大一些，但依然小于4.5叠，属于“小间”（小茶室）。织田有乐十分看重客人的舒适度，因此设计了相对宽敞的茶室空间。

织田有乐还喜欢光线相对明亮的茶室。为此，如庵的屋顶设有带铰链的活动面板，可以像天窗那样向上打开。东侧墙上还有两扇窗为如庵独有，被称作“有乐窗”。这种正方形的窗户用细竹枝竖直密排，营造出半透光的效果。窗户开启时，光线透过竹枝间的缝隙照进来，拉上移门，门纸上便会映出优雅的竹影。

如庵正面墙壁和低矮的“躡口”对面设有另一种叫“下地窗”的窗户，窗户旁的部分墙体不抹灰泥，用竹子和芦苇编成的网格层暴露无遗。

如庵还有一个独一无二的装饰，只在茶室内部可见：茶室内墙的下部三分之一处贴满了旧日历，有些早至1629年。这种装饰技法叫“历张”（日历贴），意在表达隐居生活的朴素。在这里，日常用具皆可再利用，没有丝毫浪费。

<繁体字>

如庵

如庵茶室被視為織田有樂（1547-1621）的巔峰之作，它的設計集中體現了織田有樂的茶道美學與個性。如庵的設計在各種方面都背離了千利休（1522-1591）等茶道大師擬定的茶室建築慣例，儘管如此，或者說正因如此，如庵才被奉為傑作。著名畫家尾形光琳（1658-1716）對如庵極為推崇，乃至以其為範本為自己造了一間茶室，現存於京都仁和寺中。據說如庵是全球被仿建次數最多的茶室。

早期歷史

1621年織田有樂去世後，他的宅邸委託給建仁寺管理，1872年前，寺院一直靠捐助維護宅邸。但此後明治政府頒佈法令，在全國範圍內削弱佛教的勢力與影響，建仁寺等寺院的土地和其他資產因此被強制拍賣。織田有樂宅邸的正傳院書院、如庵茶室和旁邊「露地」（茶庭）的所有權也被轉移至京都祇園，並更名為「有樂館」，被用於加工茶葉等多種用途。1908年，祇園向來自全國各地的買家拋售該建築，三井高棟（1857-1948）就是買家之一。

三井家

三井家是日本19世紀晚期最顯赫的巨賈之一，三井高棟是三井家主支第10任家主。他畢生鑽研茶道，對傳統建築也有很深的造詣。三井高棟購買了正傳院書院、如庵茶室及其茶庭，並於1908年將它們遷至自己在東京麻布的私宅內。希望在退休後能專注研究茶道的他，因為擔心人口稠密的東京存在火災隱患，於是在1938年決定去神奈川縣大磯的家族別墅頤養晚年時，將這些建築一併遷移了過去。而正是他的這個決定，才讓這些古建築在二戰東京大轟炸期間逃過一劫。

遷至犬山

1951年，三井高棟去世後不久，如庵被指定為國寶。1969年，名古屋鐵道株式會社購得三井家的大磯別墅以及其中許多建築和藝術品，為興建有樂苑奠定了基礎。

如庵遷址犬山的準備工作始於1971年初。首先，對如庵建築作深入研究，牆壁和支柱都運用了當時最先進的X光檢測來評估其狀態。開始拆卸時，工作人員繪製了詳細圖紙，並進行了精細測量，為每個部件都標上編號。拆下的每個部分都分別用襯墊和防水材料包裹，玄關（土質門廳及周邊牆體）部分則被裝進了木框架中進一步加固。最後，工人將所有部件都裝上設有減震裝置的大卡車。1971年3月31日凌晨1:30，日本廣播協會NHK安排了全程跟拍如庵離開大磯的過程。

然而在運輸過程中發生了一件意外：過高速公路收費站時，一輛卡車的貨廂頂部輕微擦撞到限高欄，被迫停了下來。所幸茶室並未受損，但收費站工作人員拒絕讓這輛卡車通行，經過努力周旋最終才得以放行。

重建與修復

如庵安全抵達犬山後，由專業修復師開始組裝。雖然茶室的部分區域因屋頂漏水等原因必須局部整修，但重點還是盡可能保持建築原貌。對受損的結構部件，如部分腐朽的柱子，修復師採用合成樹脂進行加固，再經過紋理處理和上漆，看起來就跟真的木頭一樣。

此外，若有需要完全替換的部件，例如屋頂的木片瓦，則使用與原始建築相同的工藝重新製作。

藉此機會，修復師還清除了長久以來對如庵的種種改造痕跡。他們以史料對織田有樂京都宅邸的描述為據，將大磯時期變動過的建築佈局還原如故。比如在大磯時，如庵茶室和正傳院書院通過一條由書院東南角引出的戶外廊道相連，而建設有樂苑時，修復師們拆除了這條廊道，將兩棟建築排在一起，這樣從書院的緣側（簷廊）便可直接進入如庵。

建築特點

前來如庵出席茶會的客人需從建築西南側帶屋頂的泥地外門廳進入。入門前武士要卸下長刀，放置在一扇拉門後小房間內的刀架上。所有客人均需脫鞋，然後俯身爬過窄小低矮的「躡口」（躡，音同「蘭」）進入一個狹小的房間。如庵的茶室僅 3.5 疊榻榻米大小（約 6.2 平方公尺），比千利休偏好的 2 疊稍大一些，但依然小於 4.5 疊，屬於「小間」（小茶室）。織田有樂十分看重客人的舒適與否，因此設計了相對寬敞的茶室空間。

織田有樂還喜歡光線相對明亮的茶室。為此，如庵的屋頂設有帶鉸鏈的活動面板，可以如天窗般向上打開。東側牆上還有兩扇窗為如庵獨有，被稱作「有樂窗」。這種正方形的窗戶用細竹枝豎直密排，營造出半透光的效果。窗戶開啟時，光線透過竹枝間的縫隙照進來，拉上移門，門紙上便會映出優雅的竹影。

如庵正面牆壁和低矮的「躡口」對面設有另一種叫「下地窗」的窗戶，窗戶旁的部分牆體不抹灰泥，用竹子和蘆葦編成的網格層顯露無遺。

如庵還有一個獨一無二的裝飾，只在茶室內部可見，即茶室內牆的下部三分之一處貼滿了舊日曆，有些甚至早至 1629 年。這種裝飾技法叫「曆張」（日曆貼），意在表達隱居生活的樸素，以彰顯日常用具皆可再利用，沒有絲毫浪費。

<日本語仮訳>

如庵

織田有樂（1547-1621）の最高傑作といわれる「如庵」には、彼の茶の美学と個性が表現されている。千利休（1522-1591）のような茶人たちが築いた茶の湯建築の定石から、様々な意味で逸脱したデザインであるが、それにもかかわらず（あるいはそれゆえに）、如庵は名席とされた。この茶室を賞賛した著名な画家の尾形光琳（1658-1716）が自ら依頼した写しが、京都の仁和寺にある。如庵は、世界で最も多く複製されている茶室と言われている。

初期の歴史

1621 年の有樂の死後、その地所は最終的に建仁寺の管理下に置かれた。建仁寺は寄付によって維持していたが、1872 年、明治新政府は全国の仏教施設の力と影響力を低下させる政策を取る。建仁寺の寺領などは強制的に競売にかけられ、有樂邸の正伝院書院、如庵、茶庭（露地）などの所有権は京都・祇園に譲渡された。建物は「有楽館」と改称され、茶葉の加工など様々な用途に

使われた。1908年、祇園はこの建物を全国各地の業者に売却する。その買い手の中に、三井高棟（1857-1948）という人物がいた。

三井家

三井高棟は、19世紀末を代表する豪商である三井総領家の10代目当主であった。生涯にわたって茶の湯を学び、伝統的な建築物にも造詣が深かった。正伝院書院と如庵、その茶庭を購入し、1908年に東京・麻布の自邸に移築させた。引退後は茶の湯に専念したいと考えていた三井は、密集した東京の街では火災の危険が常につきまことを懸念していた。1938年、三井が神奈川県大磯の別邸に隠居することを決め、これらの建造物を移築させた。そのおかげで、第二次世界大戦で東京が焼け野原になった時、これらの建物はすでに東京にはなかったのである。

犬山への移転

三井高棟の死後間もない1951年、如庵は国宝に指定された。1969年、名古屋鉄道株式会社が三井家の大磯邸の権利と数多くの建造物、美術品などを取得。これが、有楽苑の設立のきっかけとなった。

1971年初め、如庵を犬山に移すための準備が始まった。まず、建物を徹底的に調査した。当時としては画期的なレントゲン撮影を行い、壁や支柱の状態を確認した。分解が始まると、丁寧に図面と寸法が取られ、部品に番号が振られた。それぞれを中綿と防水カバーで包み、玄関部分（土製の前庭とその周囲の壁）は、木製の骨組みの中に入れて、さらに構造的に支えた。作業員は各セクションを振動吸収装置を取り付けた大型トラックに積み込み、1971年3月31日午前1時30分、如庵はNHKの取材班を従えて大磯を出発した。

途中の高速道路の料金所で、積荷が高さ制限の壁にほんのわずかに接触したため、1台のトラックが止められるという大きなハプニングがあった。茶室に被害はなかったが、料金所の職員はトラックを通そうとせず、最終的にはなんとか説得した。

復元と修復

如庵は無事犬山に到着し、修復師たちによって再建作業が開始された。屋根の雨漏りなどによる浸水などの影響で、茶室には修理が必要な部分もあったが、注力されたのは元の建物を残すことだった。部分的に腐った支柱など、傷んだ構造部分は合成樹脂で補強され、木のような質感を出すために塗装が施された。また、屋根の板材など、交換が必要なものは、当時の工法で再製作された。

この機会に、修復師たちは長年にわたって行われてきた如庵の改造を元に戻した。大磯では建物の配置が変わっていたのに対し、如庵と正伝院書院は、京都の有楽邸での配置の史料に基づき、再び接合された。大磯では、書院の南東角から外廊下で結ばれていた。有楽苑では、この通路を撤去し、書院の縁側から直接如庵に入れるような配置にした。

建築の特徴

茶会に招かれた客は、建物の南西側にある土間底から入る。入室する前、侍は長刀を抜き襖の奥の小室にある刀掛けに刀を納める。客は全員履物を脱いで、低い位置にある小さな「躰り口」から

這ようにして狭い部屋に入っていく。如庵の茶室はわずか3.5畳（約6.2平方メートル）しかない。これは千利休が好んだとされる2畳間よりは広いが、小間の限度である4.5畳の範囲内である。有楽が客人の快適さを重視したことは、茶室をより広く設計したことにも表れている。

また、有楽は比較的明るい茶室を好んだ。そのため、如庵の屋根には天窓のような突き上げ窓がある。また、東側の壁には「有楽窓」と呼ばれる、如庵独特の窓が2つある。この四角い窓は、細い竹を垂直につめ打ちした、半透明の板でできている。窓を開けておくと竹の隙間から光が入り、障子を閉めると竹の影が映し出され、上品な陰絵ができる。

正面の壁と低いにじり口の反対側には、別の形式の窓がある。これは「下地窓」と呼ばれている。この窓は、壁の一部を漆喰で仕上げることなく、その下にある竹と葦の格子を露出させたものである。

如庵の非常に珍しい装飾は、外からは見えないところにある。茶室の壁の下3分の1は古い曆で埋め尽くされており、中には1629年までさかのぼるものまである。これは「曆張り」と呼ばれる装飾技法で、身近なものを再利用し、無駄なものを一切使わない庵の素朴さをイメージしている。

【タイトル】 旧正伝院書院

【想定媒体】 アプリ QR コード、WEB、パンフレット

<簡体字>

旧正传院书院

与如庵一样，旧正传院书院也建于1618年。它位于织田有乐(1547-1621)在建仁寺的居所内，原本属于正传院的一部分，现被指定为国家重要文化财产。正传院是建仁寺内的“塔头”（附属寺院），除了织田有乐的私室、庭园和茶室等建筑外，还修有佛堂。书院则是他待客、读书与休闲之所。

1908年，正传院各栋建筑被分别售于不同的买家，购得如庵的三井高栋(1857-1948)同时还买下了正传院书院。修建有乐苑时，两栋建筑被一起迁至犬山，不仅是建筑本身，包括建筑布局，都忠实地复原了最初的风貌。

修复

1971年修复时，建筑师堀口舍己(1895-1984)以一幅绘制于1799年的织田有乐居所的画作为参考依据，恢复了书院原貌。他拆除了三井家族在书院和茶室间加建的廊道，并复原了书院南缘侧（檐廊）的矮扶栏，还在南侧设计了一条特别长的石阶。名古屋铁道株式会社在购得书院时，屋顶上是被铺成波浪状的陶瓦，但古画中是木片瓦。最终，堀口舍己采用了形状相近但更耐久的铜瓦。

建筑特点

正传院书院的正门玄关位于北侧，上方建造了曲线柔和的“唐破风”屋顶，在传统上象征着文雅与尊贵。书院入口铺着石板，内有6个房间，西侧还有一间相当于厨房的“水屋”。不过在织田有乐时代，此处很可能是连接书院与正传院佛堂的走廊的一部分。

从玄关往里看，内墙上的白色线条很是显眼，颜色较浅的部分就是房屋梁柱的位置。随着时间的推移，抹墙石膏中所含的锰会溶入墙体表面，进而氧化，令墙表变成茶褐色，但墙内如有木框架，氧化程度就较小，颜色也就较浅。

襖绘

“襖”是分隔正传院书院房间的大型装饰性拉门。和折叠屏风一样，襖上通常也绘有跨越多块门板的连续风景画。为书院作襖绘的都是织田有乐时代最优秀的画家。以前居中房间拉门上的画就出自著名的长谷川派创始人长谷川等伯(1539-1610)之手，8块门板上绘有中国画中的传统题材——荷、兰、菊、梅4种花卉。画中，树、石、人物都具有长谷川等

伯的鮮明風格，應該是他中年時期的作品。襖繪的繪製年代早於正傳院的落成，因此很可能來自織田有樂之前的居所。

書院中另有一幅由幾位狩野派畫家共同繪製的水墨山水。狩野派在中國水墨畫的基礎上融入了日本傳統的大和繪要素，可謂日本繪畫史上最負盛名的畫派。由於年代久遠，畫作脆弱易損，書院中的大部分襖繪都被移出妥善保存。長谷川等伯的兩幅菊圖非有樂苑所有，很可能被私人收藏。

<繁體字>

舊正傳院書院

舊正傳院書院與如庵同建於 1618 年。它位於織田有樂（1547-1621）在建仁寺的居所內，原本屬於正傳院的一部分，現被指定為國家重要文化財產。正傳院是建仁寺內的「塔頭」（附屬寺院），除了織田有樂的私室、庭園和茶室等建築外，還修有佛堂。書院則是織田有樂待客、讀書與休閒之所。

1908 年，正傳院各棟建築被分別售於不同的買家，三井高棟（1857-1948）同時買下了如庵及正傳院書院。修建有樂苑時，兩棟建築被一起搬遷至犬山。為了再現織田有樂宅邸最初的格局，依照建築物本來面貌，及相關位置進行復原。

修復

1971 年修復時，建築師堀口舍己（1895-1984）以一幅繪製於 1799 年的織田有樂居所的畫作為參考依據，恢復了書院的原貌。他拆除了三井家在書院和茶室間加建的廊道，並復原了書院南緣側（簷廊）的矮扶欄，還在南側設計了一條特別長的石階。名古屋鐵道株式會社在購得書院時，屋頂上是被鋪成波浪狀的陶瓦，但畫中畫的是木片瓦。最後，堀口舍己經過專業考量採用了形狀相近但更耐久的銅瓦。

建築特點

正傳院書院的正門玄關位於北側，上方建造了曲線柔和的「唐破風」屋頂，是象徵文雅與尊貴的傳統樣式。書院入口鋪著石板，內有 6 個房間，西側還有一間相當於廚房的「水屋」。不過在織田有樂時代，此處很可能是連接書院與正傳院佛堂走廊的一部分。

從玄關往裡看，內牆上顯眼的白色線條可以判斷出建築樑柱的位置。隨著時間的推移，抹牆石膏中所含的錳會溶入牆體表面，進而氧化，令牆表變成茶褐色。但牆內如有木框架，氧化程度就較小，顏色也就較淺。

襖繪

「襖」是分隔正傳院書院房間的大型裝飾性拉門。和折疊屏風一樣，襖上通常也繪有跨越多塊門板的連續風景畫。為書院作襖繪的均為織田有樂時代最優秀的畫家。過去在居中房間的拉門上的畫出自著名的長谷川派創始人長谷川等伯（1539-1610）之手，8 塊門板上繪有中國畫中的傳統題材——荷、蘭、菊、梅 4 種花卉。畫中，樹、石、人物都具有長

谷川等伯の鮮明風格，應該是其中年時期的作品。襖繪的繪製年代早於正傳院的落成，因此很可能來自織田有樂之前的居所。

書院中另有一幅由幾位狩野派畫家共同繪製的水墨山水。狩野派在中國水墨畫的基礎上融入了日本傳統的大和繪要素，應該是日本繪畫史上最負盛名的畫派。由於年代久遠，畫作脆弱易損，書院中的大部分襖繪都被移出妥善保存。長谷川等伯的兩幅菊圖非有樂苑所有，現可能為私人收藏。

<日本語仮訳>

旧正伝院書院

旧正伝院書院は、如庵と同じく1618年に建仁寺に織田有楽（1547-1621）邸の一部として建てられたもので、正伝院と呼ばれていたものの一部分に過ぎないが、国の重要文化財に指定されている。正伝院は建仁寺の塔頭寺院で、有楽の私室や庭園、茶室などのほか、仏殿を備えていた。書院は、有楽が客人をもてなしたり、読書をしたり、くつろいだりできる場所であった。

1908年、正伝院はさまざまな業者に売却され四散した。書院は、如庵も買収した三井高棟（1857-1948）に売却された。有楽苑の創設に伴い両建物は犬山に移築され、有楽の時代の姿に復元された。建物の位置関係も、有楽邸の当初の間取りを忠実に再現している。

復元工事

1971年の再建では、建築家の堀口捨己（1895-1984）は1799年に描かれた有楽邸の絵図を参考に、書院を当時の姿に戻した。書院と茶室の間に三井家が増築した屋根付き通路を撤去し、書院の南縁側にあった低い手摺を復元した。さらに堀口は、南側に異様に長い長方形の石段を作らせた。屋根は、名古屋鉄道株式会社が書院を取得した当時、棧瓦葺であったが、古い図面には木製の平板が描かれていた。堀口は、形は似ているがより耐久性に優れた銅板葺きを選んだ。

建築の特徴

正伝院書院の正面玄関は北側にあり、伝統的に上品で格式あるとされる緩やかな曲線を描く庇（唐破風）がついている。その石を敷き詰めた入り口の他に、書院には6つの部屋と建物の西側に「水屋」と呼ばれる台所のような空間がある。有楽の時代には、この部屋は書院と正伝院の仏殿をつなぐ廊下の一部であったと思われる。

玄関から内壁を見ると、白のラインが印象的である。これらの色の薄い箇所は、建物の梁や柱の位置を示している。泥漆喰に含まれるマンガンが、時間の経過とともに壁の表面に溶け出す。これが酸化して、最表層が茶褐色に変色するのである。ただし、壁の内側に木枠がある場合は、この影響は少なくなる。

襖絵

書院の部屋は、「襖」と呼ばれる大きなスライドする化粧板で仕切られている。屏風と同じように襖も複数の板に渡って風景画が描かれることが多い。書院の襖は、有楽の時代の最も優れた画家たちに

よって装飾が施された。かつて中央の部屋には、長谷川派の創始者である長谷川等伯（1539-1610）の襖絵が描かれていた。8枚のパネルに、中国古典絵画に共通する4つの花（蓮、蘭、菊、梅）が描かれていた。樹木、岩、人物など、いずれも長谷川独特の画風で、襖絵は彼の中年期に描かれたものと思われる。正伝院が創建される前なので、有楽のかつての住居から持ち込まれたものであろう。

書院の他の襖は、日本画史上恐らく最も有名な狩野派の画家たちによって描かれた山水画である。狩野派は中国の水墨画にならった「漢画」様式に、伝統的な日本の「やまと絵」の要素を取り入れている。これらの襖絵は非常に古く脆いため、現在ではそのほとんどが書院から外されて保管されている。長谷川が描いた2枚の菊の襖絵は、有楽苑では所蔵しておらず、個人蔵であるとされる。

【タイトル】 茶道具

【想定媒体】 アプリ QR コード、WEB、パンフレット

<簡体字>

茶道具

茶碗、水指（盛净水の器皿）、水壶以及其他点茶使用的器具统称“茶道具”。举办茶会所用道具根据流派、茶会性质和时节不同差异颇大，但点抹茶时大多都要用到以下茶道具：

茶碗

茶碗，指茶会上“亭主”（主人）用来点抹茶的盛具。16 世纪前使用的大部分茶碗自中国进口，优雅而精致。进入 16 世纪早期后，日本茶人逐渐青睐更为质朴的高丽（朝鲜）茶碗，特别是被称作“井户茶碗”的器皿，因其静谧简朴的“侘寂”气质，更是成为了后来日本茶道的主流美学代表。实际上，如今被尊为无价之宝的茶碗中，有些当初也只是日常使用的平价品。16 世纪，日本的窑场开始生产自己的茶器，在千利休(1522-1591)和他的弟子古田织部(1544-1615)的推广下，国产茶器日渐盛行。

茶碗的“正面”可根据器型、形状或主要装饰（如笔触细致的花卉、醒目的釉色等）位置确定。茶碗的形状、图案和尺寸种类繁多，冬季茶碗通常壁厚杯深，便于保温；夏季茶碗则大多口阔盏浅，能让茶汤尽快冷却。

薄茶器

茶会上多以“薄茶”奉客。调制薄茶的抹茶粉存放在密闭容器内，直到茶会前才取出适量，盛于被称为“薄茶器”的茶盒中。点茶时，亭主将薄茶器中的抹茶粉舀至茶碗中。

薄茶器通常为木制漆器，装饰极其精美，器型各不相同，最常见的一种名为“枣”，其上大下小的筒形外观酷似枣子。

茶勺

茶勺薄而扁平，一端微微翘起。亭主用它从薄茶器中舀取抹茶粉放进茶碗，通常一杯茶舀 2 勺。茶勺多为竹制，但也有木头、象牙、玳瑁，甚至贵金属材质。

茶筴

用竹茶筴（音同“险”）搅打，抹茶的泡沫才能细腻又饱满。亭主往茶碗中加入抹茶粉和热水，然后快速搅打，直到茶粉完全融入热水中，并且在茶汤上堆积起泡沫。

不同的茶道流派选用的茶筴也各有不同，差异在于前端帚部有直有圆。

织田有乐的茶道具

织田有乐(1547-1621)收集了一批当时最有价值的茶道具，现多数收藏于博物馆或私人收藏家处。他去世后，部分珍贵作品交托给了友人保管，还有一些则作为供养费赠予建仁寺。另外，织田有乐自己也曾制作过一些茶道具，包括十余把茶勺。

茶道具通常都会被冠以作者或知名物主的雅称。一盏现藏于东京国立博物馆以“有乐”命名的大井户茶碗，就曾在 1937 年掀起激烈的竞拍大战。

织田有乐的茶道具中还有一个制浓茶时使用的珍贵茶盒。1612 年，织田有乐将它赠与丰臣秀吉(1537-1598)的继承人丰臣秀赖(1593-1615)。1615 年大坂城（今大阪城）陷落并被焚毁后，德川家康(1543-1616)命手下从灰烬中觅得此物，从此据为传家宝。

<繁体字>

茶具

茶碗、水指（盛淨水的器皿）、水壺以及其他點茶使用的器具統稱「茶具」。舉辦茶會所用道具根據流派、茶會性質和時節不同差異頗大，但點抹茶時大多都要用到以下茶具：

茶碗

茶碗指茶會上「亭主」（主人）用來點抹茶的盛具。16 世紀前使用的大部分茶碗自中國進口，優雅而精緻。進入 16 世紀早期後，日本茶人逐漸青睞更為質樸的高麗（朝鮮）茶碗，特別是被稱作「井戶茶碗」的器皿，因其靜謐簡樸的「侘寂」氣質，成為了後來日本茶道的主流美學代表。事實上，今日被尊為無價之寶的茶碗中，有些可能當初也只是日常使用的平價品。到了 16 世紀，日本的窯場開始生產本國的茶具，在千利休（1522-1591）和他的弟子古田織部（1544-1615）的推廣下，國產茶具日漸盛行。

茶碗的「正面」可根據器型、形狀或主要裝飾（如筆觸細緻的花卉、醒目的釉色等）所在位置來確定。茶碗的形狀、花色和尺寸種類繁多，冬季茶碗通常壁厚杯深，有助於保溫；夏季茶碗則大多口闊盞淺，能讓茶湯快速冷卻。

薄茶器

茶會上多以「薄茶」奉客。調製薄茶的抹茶粉存放在密閉容器內，直到茶會前才取出適量，盛於被稱為「薄茶器」的茶盒中。點茶時，亭主將薄茶器中的抹茶粉舀至茶碗中。

薄茶器通常為木製漆器，裝飾極其精美。它們的器型各不相同，最常見的一種名為「棗」，以其上大下小的筒形外觀正如棗子而得名。

茶勺

茶勺薄而扁平，一端微微翹起。亭主用它從薄茶器中舀取抹茶粉放進茶碗，一般一杯茶舀 2 勺抹茶粉。茶勺多為竹製，但也有木頭、象牙、玳瑁，甚至貴金屬製作。

茶筴

用竹茶筥（音同「險」）攪打，抹茶的泡沫才能既細膩又飽滿。亭主往茶碗中加入抹茶粉和熱水，然後快速攪打，直到茶粉完全融入熱水中，並且在茶湯上堆積起泡沫。

不同的茶道流派選用的茶筥也各有不同，主要差異在前端帚部有直有圓。

織田有樂的茶具

織田有樂（1547-1621）收集了一批當時最有價值的茶具，現多數收藏於博物館或私人收藏家處。他去世後，部分珍貴作品託付給友人，還有一些則作為供養費贈予建仁寺。另外，織田有樂自己也曾製作過一些茶具，包括十餘把茶勺。

茶具通常都會被冠以作者或知名物主的雅稱。例如一盞現藏於東京國立博物館以「有樂」命名的大井戸茶碗，就曾在 1937 年掀起激烈的競拍爭奪。

織田有樂的茶具中還有一個製濃茶時使用的珍貴茶盒。1612 年，織田有樂將它贈與豐臣秀吉（1537-1598）的繼承人豐臣秀賴（1593-1615）。1615 年大坂城（今大阪城）陷落並被焚毀後，德川家康（1543-1616）命手下從灰燼中覓得此物，並據為德川家的傳家寶。

<日本語仮訳>

茶道具

茶を点てるための道具である茶碗、水指、釜などを総称して「茶道具」という。茶席で使われる道具は流派や茶会の種類、時期などによってかなり異なる。しかし、抹茶を使ってお茶を点てる手順においては、ほぼ次のような道具が使われる。

茶碗

茶会では、亭主が茶碗と呼ばれる器に抹茶を点てる。16 世紀以前は、茶碗の多くは中国から輸入された優雅なものであった。16 世紀初頭になると、日本の茶人は高麗（朝鮮）の素朴な味わいの茶碗を好むようになる。中でも「井戸茶碗」と呼ばれるものは、後に日本の茶の湯を支配することになる静謐な簡素さの美学「わび」を体現するものであった。実際、現在最も高価な茶碗の中には、日常的に使用する安価な食器として作られたものもある。16 世紀には日本の窯元が独自の茶器を作るようになり、千利休（1522-1591）やその弟子の古田織部（1544-1615）らが普及に貢献した。

茶碗には「正面」があり、茶碗の形状、形、あるいは主要な装飾（精巧に描かれた花や目を惹く釉薬など）によって決まることが多い。茶碗の形やデザイン、大きさは実にさまざまである。冬に使用されるものは、茶の温かさを保つために肉厚で深いものが多い。一方、夏用の茶碗は、茶が早く冷めるよう、広く浅いものが多い。

薄茶器

茶会では、薄茶と呼ばれるお茶が出される。薄茶の材料となる抹茶は密閉容器に入れ、直前に「薄茶器」と呼ばれる茶入れに適量を移し替える。お茶を点てる時、亭主は茶入から抹茶をすくい茶碗に入れる。

茶入は非常に装飾的であり、漆塗りの木で作られていることが多い。形はさまざまだが、最も一般的なものは「棗」と呼ばれるものである。ナツメの実を指すこの名前は、丸みを帯びた円筒形で、底が細くなっている容器の形が似ていることに由来している。

茶杓

茶杓は薄くて平らな道具で、片方の端がゆるやかに曲がっている。亭主が茶入から茶碗に抹茶をすくうのに使われ、通常は茶碗 1 杯につき 2 杓入れる。茶杓は竹製のものが多いが、違う種類の木、象牙、べっ甲、貴金属製のものまでもある。

茶筌

抹茶の泡立ちをよくするために、竹製の茶筌で泡立てることが多い。茶碗に抹茶と湯を入れた後、亭主は抹茶が完全に溶けて泡が立つまで、勢いよく泡立てる。

茶道の流派によって、茶筌の先がまっすぐなもの、丸みを帯びているものなどがある。

有楽の茶道具

織田有楽（1547-1621）は、当時としては非常に貴重な茶道具を収集しており、現在その多くは博物館や個人のコレクションとして残されている。有楽の死後、貴重な作品の一部は知人に託されたが、一部は建仁寺の供養料として贈られた。また、有楽は十数点の茶杓など、自ら茶道具を制作している。

茶道具には、作者や名主にちなんだ詩情豊かな名前がつけられることが多い。1937 年には、有楽の名を冠した大井戸茶碗が、激しい入札合戦を引き起こした。現在、東京国立博物館に所蔵されている。

また、有楽の道具の中には、濃茶を練る際に使う貴重な茶入があった。1612 年、有楽は秀吉（1537-1598）の嫡男・豊臣秀頼（1593-1615）にこの茶入れを献上した。大坂城（現在の大阪城）が攻撃されて焼失した後、徳川家康は灰の中からこの茶入を回収するよう命じ、以後徳川家の家宝となった。

【タイトル】 有楽苑の茶道体験

【想定媒体】 アプリ QR コード、WEB、パンフレット

<簡体字>

在有乐苑体验茶道

在有乐苑“弘庵”可以体验传统茶道。茶席设在“广间”（主厅），从这里可将青苔和阶石相映成趣的幽静庭园一览无遗。弘庵的茶席提供简略版的茶道体验，省略了点茶等部分特定步骤，直接从奉茶与品茶开始，但礼仪与正式茶会完全相同。

茶事的具体步骤和简要说明如下：

1. 入座

参加茶会的客人坐姿通常采用正坐（跪坐），但也可以盘坐或侧坐。

2. 工作人员送上盛放有传统日式甜点“和菓子”的食盘

与和菓子同时送上的还有被称作“黑文字”的小木签。

3. 左手端起盘子，右手用黑文字将和菓子切成一口大小。

甜点是为了平衡即将品尝的抹茶之苦味，应在上茶前吃完。

4. 工作人员将抹茶碗摆到客人面前，鞠躬行礼。客人将双手指尖接触膝前地面，鞠躬回礼。

正式茶会上，还应向旁边尚未接茶的客人鞠躬行礼，为先饮表示歉意。

5. 右手端起茶碗，拇指搭在碗口，其余四指靠近碗底，将茶碗移置左手掌心。

6. 将茶碗放在与腰齐平的高度，顺时针方向转动 90 度。

正式茶会上，亭主（主人）布茶时要将茶碗的“正面”（一般指主要装饰花色所在的一面）对着客人，以示尊重。为表谦让，客人不能从“正面”饮茶，因此需要转动茶碗。

7. 饮茶

这种点茶法称为“薄茶”，所用茶粉较“浓茶”少。浓茶一般只在提供多道茶饮的正式茶会的餐后才出现。

8. 饮完茶，用右手的食指和拇指擦拭碗口嘴唇接触到的部位。

擦拭茶碗是象征性的动作，由茶客轮流同饮一盏茶的传统演变而来。

9. 将茶碗逆时针旋转，让“正面”对着自己，然后将其放回地板上。

此时，客人可仔细鉴赏茶碗的器型或图案。由于茶会上使用的茶碗大多价值不菲，因此鉴赏时应尽量让茶碗靠近地面。

10. 品完茶后，工作人员会向客人介绍“床之间”（和式壁龛）里的卷轴书画和插花作品。
每一件装饰品都根据季节精心挑选，往往蕴含着亭主希望传达的情绪或信息。

<繁体字>

在有樂苑體驗茶道

在有樂苑的「弘庵」可以體驗傳統茶道。茶席設在「廣間」（正廳），從這裡可將青苔和階石相映成趣的幽靜庭園一覽無遺。弘庵的茶席提供簡易的茶道體驗，省略了點茶等部分特定步驟，而從奉茶與品茶開始。儘管程序略為簡略，但禮儀與正式茶會完全相同。

茶事的具體步驟和簡要說明如下：

1. 入座

參加茶會的客人坐姿通常採用正坐（跪坐），但盤坐或側坐也是被允許的。

2. 工作人員送上盛放傳統日式甜點「和菓子」的小餐盤

與和菓子同時送上的還有被稱作「黑文字」的小木籤。

3. 左手端起盤子，右手用黑文字將和菓子切成一口大小。

甜點是為了平衡即將品嘗的抹茶之苦味，應在上茶前食用完畢。

4. 工作人員將抹茶碗擺到客人面前，鞠躬行禮。客人將雙手指尖接觸膝前地面，鞠躬回禮。

正式茶會上，還應向旁邊尚未接茶的客人鞠躬行禮，為先飲表示歉意。

5. 右手端起茶碗，拇指搭在碗口，其餘四指靠近碗底，將茶碗移置左手掌心。

6. 將茶碗放在與腰齊平的高度，順時針方向轉動 90 度。

正式茶會上，亭主（主人）布茶時要將茶碗的「正面」（一般指主要裝飾花色所在的一面）對著客人，以示尊重。為表謙讓，客人不能從「正面」飲茶，因此需要轉動茶碗。

7. 飲茶

這種點茶法稱為「薄茶」，所用茶粉較「濃茶」少。濃茶一般只在提供多道茶飲的正式茶會的餐後才出現。

8. 飲完茶，用右手的食指和拇指擦拭碗口嘴唇接觸到的部位。

擦拭茶碗是象徵性的清潔動作，由茶客輪流同飲一盞茶的傳統演變而來。

9. 將茶碗逆時針旋轉，讓「正面」對著自己，然後將其放回地板上。

此時，客人可仔細鑒賞茶碗的器型或花色。由於茶會上使用的茶碗大多價值不菲，因此鑒賞時應儘量讓茶碗靠近地面。

10. 品完茶後，工作人員會向客人介紹「床之間」（和式壁龕）裡的卷軸書畫和插花作品。每一件裝飾品都根據季節精心挑選，往往蘊含著亭主希望傳達的情緒或主題。

<日本語仮訳>

有楽苑の茶道体験

有楽苑では、「弘庵」で伝統的な茶の湯を体験することができます。お茶は、苔と飛び石が美しく調和するひっそりとした庭園を望む広間で提供される。有楽苑のお茶席は、お茶を点てるところなどいくつかのステップは省略された略式の茶会である。弘庵の茶事は、お茶をいただくところから始まり、正式な茶会と同じように、儀式化された所作で行われる。

お茶席の作法の各ステップと簡単な説明は下記の通りである。

1. 席に着く。

茶会の客人は、足を下に折り畳んで座る（正座と呼ばれる座り方）のが一般的であるが、あぐらや横すわりでもよい。

2. スタッフが伝統的なお菓子がのったお皿を差し出してくれる。

和菓子には木の楊枝（黒文字）が付く。

3. 左手でお皿を持ち上げる。右手で黒文字を使って和菓子を一口サイズにカットしていただく。

お菓子は、その後出される抹茶の味とのバランスをとるためのものなので、抹茶が運ばれる前に食べきるようにする。

4. スタッフが抹茶碗を目の前に置き、一礼する。両手の指先を膝の前の床に合わせ、お辞儀を返す。

正式な茶会では、隣の客（まだお茶をいただいていない客）にも一礼し、先にいただくことを詫げる。

5. 右手で茶碗を持ち上げ、親指を縁に、指を底に近づけ、左手の手のひらに茶碗を乗せる。

6. 腰の高さで碗を持ち、時計回りに90度回転させる。

正式な茶会では、亭主は茶碗の「正面」（通常、主な装飾要素のある側）を客に向けるように置く。これは、尊敬の印である。代わりに、客は茶碗を回し、正面から直接飲まないことで、謙虚さを示す。

7. 飲む。

薄茶と呼ばれるこの点て方は、濃茶に比べ抹茶の量が少ない。濃茶は一般に、お茶が何杯も提供される本格的な茶会では食後にのみ供される。

8. 飲み終わったら、右手の人差し指と親指で、口をつけた茶碗の縁を拭う。

茶碗を拭くのは清めの象徴的な仕草で、同じ茶碗で順番に飲むスタイルから生まれたものである。

9. 茶碗の正面が自分の手前に向くよう反時計回りに茶碗を回し、床に置く。

この時、茶碗をじっくりと見て、形や装飾を愛でる人もいる。茶会で使われる茶碗は貴重なものが多いので、茶碗は床の近くで鑑賞するのが望ましい。

10. お茶をいただいた後、床の間に飾られている掛け軸や生け花の意味をスタッフが説明する。

飾りはそれぞれ季節に合わせて特別に選ばれたもので、茶会の主催者が共有したい気分やメッセージが込められていることが多い。

【タイトル】 元庵

【想定媒体】 アプリ QR コード、WEB、パンフレット

<簡体字>

元庵

这间茶室名为“元庵”，重建于现代。织田有乐(1547-1621)早年建于大坂（今大阪）宅邸中的茶室图纸尚存，堀口舍己(1895-1984)认为图纸上的茶室很可能也叫“如庵”。因此，兴建有乐苑时，他取元祖之意，提议将这间依据古图纸重建的茶室命名为“元庵”。

堀口舍己通过参考如庵的一件旧物——南侧匾额，推测出位于大坂的那间早期茶室的历史。这块刻有“如庵”字样的牌匾制作于 1599 年，远早于在京都修建正传院和如庵的时期。于是，堀口舍己判断这块匾额之前曾用在同名茶室上，在织田有乐离开大坂时，匾额也被一同带走。织田有乐在京都新建茶室时，很可能沿用了这个旧名和老匾额。

织田有乐在 1614 年冬天之前，一直住在位于大坂城西北方的天满。在他离开 3 年后，这所旧居被纳入了新建的川崎东照宫之内，茶室也作为神社的一部分保留下来，直至 1837 年毁于火灾。1871 年，此地新建了日本造币局，局中一角还保留了当年茶室供来客停留脱鞋的“沓脱石”。重建元庵时，堀口舍己曾出面交涉，希望能将这块石头移至有乐苑，但未能如愿。

重建后的元庵同样需要一块匾额，堀口舍己并未使用新的材料，而是挑选了一块历史悠久的木料——曾悬于奈良喜光寺、后又用在三井家族大矶别墅的门板。有乐苑的工作人员将木料送至京都，交给茶道流派表千家第 13 代宗匠无尽宗左(1901-1979)。大师将选定的名字刻于匾额，正式将“元庵”之名赋予了这间新的茶室。

元庵空间比如庵更大，内部装饰同样不循常规，其中几处明显背离了织田有乐的老师千利休(1522-1591)的喜好。千利休不喜竹子，织田有乐却在室内大量使用竹料，障子窗（移窗）用了竹框架，甚至分隔主席与客席的柱子也用了竹子。此外，千利休喜欢让客人一眼就能看到为茶会挑选的卷轴书画和插花，织田有乐却将元庵的“床之间”（和式壁龛）设在了茶会亭主（主人）的身后。

<繁体字>

元庵

這間茶室名為「元庵」，為當代重建的建築。堀口舍己（1895-1984）根據織田有樂（1547-1621）早年建於大坂（今大阪）宅邸中的茶室圖紙推測，當時的茶室可能也稱作

「如庵」。因此，興建有樂苑時，他取元祖之意，建議將這間依據古圖紙重建的茶室命名為「元庵」。

堀口舍己透過如庵的一件舊物——南側匾額，推測出位於大坂的那間早期茶室的歷史。這塊刻有「如庵」字樣的牌匾製作於1599年，遠早於在京都修建正傳院和如庵的時期。於是，堀口舍己判斷這塊匾額之前曾擺放在同名茶室上。織田有樂離開大坂時，該匾額也被一同帶走。織田有樂在京都新建茶室時，很可能沿用了這個舊名和舊匾額。

織田有樂在1614年冬天之前，一直住在位於大坂城西北方的天滿。3年後，這所舊居被納入了新建的川崎東照宮之內，茶室也作為神社的一部分保留下來，直至1837年毀於火災。1871年，同址新建了日本造幣局，局中一角還保留了當年茶室供客人停留脫鞋的「沓脫石」。重建元庵時，堀口舍己甚至曾出面協商，希望能將這塊具有歷史意義的石頭移至有樂苑，可惜未能如願。

重建後的元庵同樣需要懸掛匾額，堀口舍己挑選了一塊曾懸於奈良喜光寺、後又用在三井家大磯別墅的古老門板。有樂苑的工作人員將木料送至京都，交給了茶道流派表千家第13代宗匠無盡宗左（1901-1979）。無盡宗左將選定的名字刻於匾額，正式將「元庵」之名賦予了這間新的茶室。

元庵空間比如庵更寬敞，內部裝飾同樣不循常規，其中幾處設計與織田有樂的老師千利休（1522-1591）的喜好頗有背離。千利休不喜竹子，織田有樂卻在室內大量使用竹料，例如障子窗（移窗）框架，以及用竹柱來分隔主席與客席。此外，千利休喜歡讓客人一眼就能看到為茶會挑選的卷軸書畫和插花，織田有樂卻將元庵的「床之間」（和式壁龕）設在茶會亭主（主人）的身後。

<日本語仮訳>

元庵

元庵という茶室は、現代になって再建されたものである。かつて有樂が大坂（現在の大阪）の旧居に建てた茶室の図面が残っており、堀口捨己はこちらも「如庵」と呼ばれていたのではないかと考えた。有樂苑の建設にあたり、この図面をもとに建設される茶室の正式名称が必要となり、堀口は「元庵」と名付けることを提案した。

堀口は、この茶室の歴史を紐解くために、如庵にまつわる遺物の一つである、南側に掲げられている扁額を参考にした。この額には「如庵」の名が刻まれているが、その日付は正伝院や如庵が京都に建てられるずっと以前の1599年である。堀口は、この扁額は以前からあった同名の茶室のために作られたもので、有樂が大坂を離れる際に持ち帰ったものであり、京都に建てた新しい茶室でこの扁額と名前を再利用したと推測している。

有樂は1614年の冬まで、大坂城のすぐ北西にある天満に住んでいた。その3年後、有樂の旧居は新たに設立された川崎東照宮に吸収された。1837年に火災で焼失するまで、有樂の茶室は神社の一部として保存されていた。1871年、この地に造幣局が新たに設立され、その敷地の一角に当時の茶室の一部で、客が入る前に靴を脱ぐために立ち止まる「沓脱石」が残されている。堀口は、元庵再建の際、この石を有樂苑に移設しよう交渉したが、実現しなかった。

元庵の再建が完了すると、扁額が必要となった。堀口は新しい材料ではなく由緒ある木材として、かつて奈良の喜光寺にあり、大磯の三井家別邸で再利用されていた扉板を選んだ。それを有楽苑の職員が京都に運び、表千家第 13 代宗匠の無盡宗左（1901-1979）に贈呈した。無盡は扁額に選んだ名前を刻み、完成した茶室に「元庵」の名を正式に授けたのである。

元庵は如庵より大きく、内装も同様に型破りなものが多い。その中には、有楽の師である千利休の好みから明らかに逸脱したものもある。例えば、障子窓の枠など、この部屋の仕上げに利休が嫌った竹を有楽は多用した。また、亭主の席と客の席を仕切る柱も竹でできている。さらに利休は、茶の湯の際に選んだ掛け軸や生け花を客に直接見せることを好んだが、元庵では、有楽は床の間を亭主の背後に配置している。

【タイトル】 弘庵

【想定媒体】 アプリ QR コード、WEB、パンフレット

<簡体字>

弘庵

与如庵和元庵不同，这间叫“弘庵”的茶室并非出自织田有乐(1547-1621)的构想，而是中村昌生(1927-2018)和京都传统建筑技术协会设计的作品。弘庵建于1986年，比有乐苑落成开放晚了10多年。如庵和元庵这两处具有历史意义的茶室一般不对外开放，而弘庵是有乐苑中的品茶场地，会定期举办最多20人参加的大型茶会。

为表敬意，弘庵取时任名古屋铁道株式会社社长竹田弘太郎(1916-1991)名字里的一个字命名。茶室入口悬挂的匾额由表千家第14代掌门而妙斋(1938-)题写制作，为元庵题写匾额的无尽宗左(1901-1979)是他的前任。

弘庵有两间接待室，“广间”（主厅）大小为15叠榻榻米（约24平方米），较如庵私密的小茶室宽敞许多。中央大型“床之间”（和式壁龛）的天顶尤其引人注目，采用8世纪早期的老杉木板拼接而成。

另一间“寄付”有8叠榻榻米大小（约13平方米），在广间举办茶会时，这里用作等候室。寄付一般不举行茶会，但里面地炉和床之间等设施齐备，只是床之间更为质朴。右手边的柱子用整根赤松圆木加工而成，除了在底部刨出了一个楔形，连树皮都未除去。这个倒三角形斜面因为形似竹笋而被称为“笋面”，元庵中的一处床之间也经过同样的加工处理。

通往弘庵的小道上有一个暗藏发音装置的石制手水钵，被称作“水琴窟”。手水钵四周的小石子底下，埋有一个倒置、底部带孔的陶罐，在地下形成空洞。用长柄勺舀水浇在石子上，渗下的水滴落入罐中，就会发出宛如日本古筝的悦耳声响。

<繁体字>

弘庵

與如庵和元庵不同，「弘庵」並非出自織田有樂（1547-1621）的構想，而是中村昌生（1927-2018）和京都傳統建築技術協會設計的作品。弘庵建於1986年，晚於有樂苑落成開放約10多年。如庵和元庵這兩處具歷史意義的茶室一般不對外開放，但弘庵是有樂苑中的品茶場地，會定期舉辦最多20人參加的大型茶會。

為表敬意，弘庵取時任名古屋鐵道株式會社社長竹田弘太郎（1916-1991）名字裡的一個字命名。入口懸掛的匾額由表千家第14代宗匠而妙齋（1938-）題寫製作，他是為元庵題寫匾額的無盡宗左（1901-1979）的繼任者。

弘庵有兩間接待室。其中廣間（主廳）大小為 15 疊榻榻米（約 24 平方公尺），較如庵中私密的小茶室更為寬敞。中央大型「床之間」（和式壁龕）的天頂尤其引人注目，採用 8 世紀早期的老杉木板拼接而成。

較小一間稱為「寄付」，8 疊榻榻米大小（約 13 平方公尺），在廣間舉辦茶會時，這裡就是等候室。寄付一般不舉行茶會，但裡面地爐和床之間等設備齊全，只是床之間更為質樸。右手邊的柱子用整根赤松圓木加工而成，除了在底部刨出了一個楔形，連樹皮都未除去。這個倒三角形斜面因為形似竹筍而被稱為「筍面」，元庵中的一處床之間也經過了同樣的加工處理。

通往弘庵的小道上有一個暗藏發音裝置的石製手水鉢，被稱作「水琴窟」。手水鉢四周的小石子底下，埋有一個倒置、底部帶孔的陶罐，在地下形成空洞。用長柄勺舀水澆在石子上，滲下的水滴落入罐中，就會發出宛如日本古箏的悅耳聲響。

<日本語仮訳>

弘庵

茶室「弘庵」は、「如庵」「元庵」と異なり、織田有楽が設計したものではない。有楽苑の開苑から 10 年以上経った 1986 年に、中村昌生（1927-2018）と京都伝統建築技術協会の設計で建てられたものである。如庵と元庵この 2 つの歴史ある茶室は普段は非公開だが、弘庵は有楽苑の呈茶サービスの会場となっており、定期的に 20 名までの大寄せ茶会が開催されている。

弘庵は、当時の名古屋鉄道株式会社社長・竹田弘太郎（1916-1991）にちなんで命名された。玄関に掲げられている扁額は、元庵の扁額を刻んだ人物の後継者である表千家 14 代家元、而妙斎（1938- ）が制作したものである。

弘庵には二つの部屋がある。広間は 15 畳、約 24 平方メートルと、如庵のようなこじんまりした茶室と比べるとかなり広い。その中でも特筆すべきは、中央の大きな床の間の天井で、これは 8 世紀初頭の杉板を再利用したものである。

小さめの寄付は 8 畳（13 平方メートル）で、主に広間で行われるお茶会の待合室として使用されている。通常、寄付は茶会の場として使われないが、床の間や炉など、必要な設備は揃っている。寄付の床の間は、広間の床の間に比べて素朴な雰囲気がある。右側の柱は、赤松の丸太を皮付きのまま加工したもので、底には小さな楔が削られている。この三角形の切り込みは、筍の形に似ていることから「筍面」と呼ばれ、元庵の床の間にもこのような加工が施されている。

弘庵に続く道には、「水琴窟」と呼ばれる音響装置が隠された石の手水鉢がある。手水鉢を囲む小石の下に底に小さな穴を開けられた陶製の壺が逆さに埋まっており、地中に空洞ができています。柄杓で水を注ぐと、水滴が壺の中に落ち、まるで琴の音のように響く。

【タイトル】 岩栖門・含翠門

【想定媒体】 アプリ QR コード、WEB、パンフレット

<簡体字>

岩栖門和含翠門

岩栖門

有乐苑优雅的大门建于17世纪早期，与苑内其他的门一样，之前属于三井家族，曾经矗立在该家族大矶别墅的花园中。如庵茶室迁址时，它也被一起带到了有乐苑。

大门屋顶造型如同吊钟，从侧面看时尤为明显。这种曲线型屋顶的大门称“唐门”，由于岩栖门的屋顶中央的屋脊与入门方向垂直，又被叫做“平唐门”。

这扇门的屋顶覆以桧皮（日本扁柏树皮），呈凹状曲线，形似倒置的船只，故名“船底天井”。

含翠門

含翠门的年份和由来已难以考证，但它同样曾属于三井家族。堀口舍己(1895-1984)在有乐苑中为这座门选址时，充分利用了它如同卷轴画框般简洁的几何线条，将内庭里的风景框于其中。穿过含翠门，一条笔直的石板小道在满目浓荫和苍苔的隧道中通向书院西侧，道路尽头，书院一角在树叶掩映下隐约可见。

<繁体字>

岩棲門和含翠門

岩棲門

有樂苑優雅的大門建於17世紀早期，與苑內其他的門一樣，之前屬於三井家所有，曾經矗立在該家族大磯別墅的花園中。如庵茶室遷址時，這座大門也被一起帶到了有樂苑。

大門屋頂造型如同吊鐘，從側面看時尤為明顯。這種曲線型屋頂的大門稱「唐門」，而像岩棲門這樣，屋頂中央的屋脊與入門方向垂直的門叫「平唐門」。

這扇門的屋頂覆以檜皮（檜木皮），呈凹狀曲線，形似倒置的船隻，故名「船底天井」。

含翠門

含翠門的年份和由來已難以考證，但它同樣曾屬於三井家。堀口舍己（1895-1984）在有樂苑中為這座門挑選位置時，充分利用了它如同卷軸畫框般簡潔的幾何線條，將內庭

裡的風景框於其中。穿過含翠門，一條筆直的石板小道在滿目濃蔭和蒼苔的隧道中通向書院西側，道路盡頭，書院一角在樹葉掩映下隱約可見。

<日本語仮訳>

岩栖門・含翠門

岩栖門

この有楽苑のエlegantな正門は17世紀初頭に建てられたもので、苑内の他の門と同様、三井家が所有し、その大磯別邸の庭にあったものである。その後、如庵とともに有楽苑に移築された。

この門の屋根は釣鐘状に湾曲しており、横から見ると最もよくわかる。このように屋根が湾曲している門を唐門というが、この門は屋根の中央の棟が進入方向に対して垂直である「平唐門」である。

この門の屋根は檜皮葺きで、船底天井と呼ばれる、板を凹状に曲げ、船を反転させたような形をしている。

含翠門

含翠門が建てられた年や由来はほとんどわかっていないが、こちらも三井家の所有物であった。堀口捨巳（1895-1984）は、この門の配置を決めるにあたり、絵巻物の縁取りのようなすっきりとした幾何学的なラインを生かし、内庭を額縁のように眺めることができるようにした。門をくぐると、整然と敷き詰められた石畳の長い道が書院の西側へと続き、木々や苔が生い茂るトンネルを抜けると、書院の一角が顔を覗かせる。

【タイトル】 徳源寺唐門・萱門

【想定媒体】 アプリ QR コード、WEB、パンフレット

<簡体字>

徳源寺唐門和萱門

徳源寺唐門

这座大门曾矗立在奈良附近的禅寺徳源寺内。该寺是织田家族的私寺，由织田有乐(1547-1621)的侄孙织田高长(1590-1674)于1632年建造。斗转星移，徳源寺渐渐荒废，进入明治时代(1868-1912)时，寺院只剩下这座门。1941年，三井家族将之买下。

这座庄严的木构大门与岩栖门一样属于唐门。不过从它宽大的吊钟形屋檐，以及中央屋脊与入门方向平行的特点中可以看出，它是一座“向唐门”。

大门的天花板上雕有牡丹，门扉上的田垄图案装饰十分罕见。这座门所用材质应该是榉木，而榉木和唐门形制都代表着雅致与高贵。

萱門

这座古朴的大门在有乐苑中显得格外与众不同。它的门柱用的是简单加工的树干，屋顶上覆盖着茅草，而非桧皮（日本扁柏树皮），门楣低矮，来访者需恭谦地低头方可通过。

萱门由千家族的大门复制而来，简单的结构和低矮的门口均体现出由千利休(1522-1591)确立的侘寂美学，即体会事物的残缺、古旧之美。三井高栋(1857-1948)研习秉承千利休风格的表千家茶道，故而特意让工匠复制了这座大门。

萱门还有一个特色，门上有一扇被称作“潜门”的小门，大门全开时不可见，大门关闭时，这扇小门可以开启，客人必须更加躬身才能通过。举办茶会时使用潜门，意在提醒客人，入门后将是一个与外界截然不同、本真和谦逊的世界。

<繁体字>

徳源寺唐門和萱門

徳源寺唐門

這座大門曾矗立在奈良附近的禪寺徳源寺內。該寺是織田家的私寺，由織田有樂(1547-1621)的侄孫織田高長(1590-1674)於1632年建造。斗轉星移，徳源寺漸漸荒廢。進入明治時代(1868-1912)，寺院只剩下了這座門。1941年，被三井家買下。

這座莊嚴的木構大門與岩棲門一樣屬於唐門。不過從它寬大的吊鐘形屋簷，以及中央屋脊與入門方向平行的特點，屬於「向唐門」。

大門の天花板上雕有牡丹，門扉上の田壘圖案裝飾十分罕見。這座門應該是櫟木材質，而櫟木和唐門形制都代表著雅致與高貴。

萱門

這座古樸的大門在有樂苑中顯得格外與眾不同。它的門柱用的是簡單加工的樹幹，屋頂上覆蓋著茅草，而非檜皮（檜木皮），門楣低矮，來賓需恭謙地低頭方可通過。

萱門簡單的結構和低矮的門口均體現了由千利休（1522-1591）確立的侘寂美學，即領悟事物的殘缺、古舊之美。三井高棟（1857-1948）學習秉承以千利休為代表的表千家茶道，故而特意讓工匠複製了這座千家的大門。

萱門上有一扇被稱作「潛門」的小門，大門全開時不可見，大門關閉時，這扇小門可以開啟，客人不得不更加躬身才能進入。舉辦茶會時使用潛門，意在提醒客人，入門後將是一個與外界截然不同、本真和謙遜的世界。

<日本語仮訳>

徳源寺唐門・萱門

徳源寺唐門

この門は、かつて奈良近郊の禅寺である徳源寺の一部であった。徳源寺は、1632年に有楽（1547-1621）の兄の孫である織田高長（1590-1674）が、織田家のために建てた私寺である。やがて徳源寺は荒廃し、明治時代（1868-1912）に入るとこの門だけが残された。1941年、三井家に買い取られた。

岩栖門と同様、この威厳ある木造の門も唐門である。切妻の特徴的な釣鐘状の屋根と、屋根の中央の棟が入口に面しているのが、向唐門の特徴である。

門の天井には牡丹の彫刻が施され、門扉には珍しい畝模様の装飾が施されている。この門はケヤキ材で造られていると推測されるが、一般的にケヤキ材は唐門の形とともに、上品で高貴なイメージを与える材料である。

萱門

この素朴な門は、有楽苑の他の門とは著しく異なっている。柱は木の幹を荒々しく加工し、屋根は檜皮葺ではなく、茅葺きである。まぐさは低くされており、来客は頭を低く下げて入らなければならない。

この門の簡素な造りと低い入口は、千利休（1522-1591）が確立した侘び寂びを表現している。実は萱門は、千家が所有していた門のレプリカである。この門は、利休の教えに基づく表千家の茶人であった三井高棟（1857-1948）の要望で作られたものである。

この門には、大きな木製の扉を開けた状態ではわからない、「潜戸」と呼ばれるもうひとつの小さな扉がある。正面の扉を閉めると、この小さな扉が開き、客はさらに身を低くして入らなければならない。この潜戸は、茶会で客によりつつましい別世界に来たことを感じさせるために使われたのであろう。

【タイトル】 有楽苑の四季

【想定媒体】 アプリ QR コード、WEB、パンフレット

<簡体字>

有乐苑的四季

与许多传统艺术一样，季节在茶道中也是极为关键的要素。在节令活动上同时举办茶会比较普遍，且主人在装饰和茶具的选择上也具有鲜明的季节特征。同样，日式庭园的设计也注重展现园中美景的四季变化。在有乐苑，从豆沙甜点的微妙色彩中，或是从令人叹为观止的满开樱花树上，都能令人感受到季节流转。

日本传统诗歌中，一年不仅有四季，还有来自中国的24节气，每一节气都有应季的花卉、水果、鸟类，或其他代表风物。但由于地理位置和气候的差异，日本的节气物候和中国黄河流域略有不同。例如在日本，盛开的梅花和日本树莺是早春的象征；满月和芒草是初秋的象征。茶会上，和式壁龕“床之间”墙上挂的卷轴书画和瓶中的插花最能表现这种暗喻。卷轴内容可能是季节风物画作，也可能是与节令活动相关的书法作品。插花也要选用当季的代表性花卉或其它植物。

有乐苑的茶花园十分特别，终年茶花盛开。从弘庵沿一条绿荫覆盖的小径往东，穿过石桥和瀑布，即可在外庭寻得这处幽僻之地。假山流水更增添了景象的幽深感。园中遍植织田有乐(1547-1621)钟爱的山茶，此外还有芬芳的“白云木”（玉铃花）、蜡梅、李叶绣线菊等植物。

茶会上，就连宾主身着的和服、茶碗的形状和图案、随茶的甜点都能精妙地体现出季节特征。有乐苑的茶会依四时提供不同颜色镶边的甜点：春粉、夏绿、秋橙、冬白。

<繁体字>

有樂苑的四季

與許多傳統藝術一樣，季節在茶道中也是極為關鍵的要素。與節令活動同時舉辦茶會甚為普遍，季節性的象徵意義決定了主人裝飾和茶具的選擇。同樣，日式庭園的設計也注重展現一年中美景的四季變化。在有樂苑，從豆沙甜點的微妙色彩中，或是從令人驚嘆的滿開櫻花樹上，都能令人感受到季節流轉。

日本傳統詩歌中，一年不僅有四季，還有來自中國的24節氣，每一節氣都有應季的花卉、水果、鳥類，或其他代表風物。但由於地理位置和氣候的差異，日本的節氣物候和中國黃河流域略有不同。例如在日本，盛開的梅花和日本樹鶯是早春的象徵；滿月和芒草是初秋的象徵。茶會上，和式壁龕「床之間」牆上掛的卷軸書畫和瓶中的插花對這種暗喻表

現得最為突出。卷軸內容可能是季節風物畫作，也可能是與節令活動相關的書法作品。插花也要選用當季的典型花卉或其它植物。

有樂苑的茶花園是終年都有茶花盛開的特別區域。從弘庵沿一條綠蔭覆蓋的小徑往東，穿過石橋和瀑布，即可在外庭尋得這處幽僻之地。假山流水更增添了景象的幽深感。園中遍植織田有樂（1547-1621）鍾愛的山茶，此外還有芬芳的「白雲木」（玉鈴花）、蠟梅、李葉繡線菊等植物。

茶會上，就連賓主身著的和服、茶碗的形狀和花色、隨茶的甜點都能體現出精妙的季節特徵。有樂苑的茶會依四時提供不同顏色鑲邊的甜點：春粉、夏綠、秋橙、冬白。

<日本語仮訳>

有樂苑の四季

多くの伝統芸術と同様、茶道においても季節は重要な要素である。茶会は季節の行事と併せて行われることが多く、亭主によって、季節の要素を取り入れた飾り付けや茶道具の選択が行われる。それと同じように、日本庭園も一年を通じて四季の移り変わりの美しさを楽しめるように設計されている。有樂苑では、あんこのお菓子の色や満開の桜の木で季節を感じることができる。

日本の伝統的な詩歌は、1 年を四季だけでなく 24 の期間に分け（中国から伝わった「二十四節気」のこと）、それぞれに花やくだもの、鳥などその季節の特徴を表現している。日本と中国黄河地域は地理的位置と気候が異なるため、季節感も少し異なるところがある。例えば日本では、梅やウグイスは早春の象徴であり、満月やススキは初秋の象徴である。茶会では、床の間に飾る掛け軸や生け花にその象徴が最も顕著に現れる。掛け軸は、季節のイメージを描いた絵画であったり、季節の行事にちなんだ書であったりする。生け花は、その時期を反映した花や植物を生ける。

有樂苑の「茶花園」は、一年を通じて茶花が咲いている特別な場所である。弘庵から東に向かい、木陰の道に沿って、石橋を渡り、滝を通ると、ひっそりとした外苑に位置する茶花園にたどり着く。人工的な丘の上から流れる水が、風景に奥行き感を与えている。有樂（1547-1621）が好んだ椿をはじめ、ハクウンボク、ロウバイ、シジミバナなどが植えられている。

茶会では、亭主や客が身に着ける着物、茶碗の形や装飾、茶菓子に季節を感じることができる。有樂苑では、春はピンク、夏は緑、秋はオレンジ、冬は白の 4 色の縁取りが施されたお菓子が提供される。

【タイトル】 有楽苑の注目すべき植物

【想定媒体】 アプリ QR コード、WEB、パンフレット

<簡体字>

有乐苑的奇花异卉

有乐苑是一座富有生命力的纪念馆，它纪念的不仅是茶人织田有乐(1547-1621)，还有日本茶庭之美。庭中的乔木、灌木、绿草和苔藓，无不经过堀口舍己(1895-1984)和园艺公司的精心挑选、布置与栽培，力求与织田有乐的品位相契合。樱花和山茶为庭园添彩增色，高挑的竹林遮挡住了园外的都市景观，蕨类植物和苔藓令岩石造景更显古意与端庄。这里的每一株植物都是庭园不可或缺的组成部分，其中一些尤其值得关注。

有乐山茶

有乐山茶是日本山茶与 14 世纪至 16 世纪从中国引进的山茶的杂交品种。织田有乐独爱山茶，据说他在如庵周围种植的正是这个品种。有乐山茶的粉色花朵大小中等，单瓣，花蕊呈艳丽的黄色，花期在 3 月和 4 月，被广泛用于茶会插花。在有乐苑，这些山茶生长在书院北庭的西墙边。

流苏树

5 月中旬，流苏树绽放出一蓬蓬蕾丝花边般的花朵，馥郁芬芳，洁白似雪。该品种在日本较为珍稀，日本环境省将其列为濒危Ⅱ类物种。犬山市郊外有一片野生流苏树林，1923 年被指定为国家天然纪念物。

这种植物在日本有许多别名，其中一个“ナンジャモンジャ”(nanjamonja)，据说这是日本人对于珍稀树木的昵称，即“奇树”。堀口舍己感觉这个名字十分有趣，所以将它种在了书院北庭的显眼位置。

龟甲竹

龟甲竹是一种高大的竹子，茎壁厚实，竹节倾斜交错，形成菱形图案，看上去如同龟甲。它是毛竹的突变品种。史料和绘画作品显示，织田有乐宅邸周围毛竹环绕，因此这种植物在有乐苑中也随处可见。在元庵入口附近，种植着一片龟甲竹林。

真实世界里的“云锦手”（樱花枫叶纹）

犬山烧陶瓷器里有一种名为“云锦手”的樱花枫叶彩绘图案，而在有乐苑中它是真实存在的。在弘庵旁的白墙北侧小径旁，生长着一株樱花树，在大约一人高的树干分叉处，居然又长出一株日本红枫，十分罕见。

<繁体字>

有樂苑的奇花異卉

有樂苑是一座生機勃勃的紀念館，它紀念的不僅是茶人織田有樂（1547-1621），還有日本茶庭之美。庭中的喬木、灌木、綠草和苔蘚，無不經過堀口舍己（1895-1984）和園藝公司的精心挑選、佈置與栽培，力求與織田有樂的品位契合。櫻花和山茶為庭園增添色彩，高挑的竹林遮擋住了園外的都市景觀，蕨類植物和苔蘚令岩石造景更顯古意與端莊。儘管這裡的每一株植物都是庭園不可或缺的組成部分，但其中一些還是值得特別介紹。

有樂山茶

有樂山茶是日本山茶與 14 世紀至 16 世紀從中國引進的山茶的雜交品種。織田有樂對山茶情有獨鍾，據說他在如庵周圍種植的正是這個品種。有樂山茶花大小中等，呈粉色，單瓣，有豔麗的黃色花蕊，花期在 3 月和 4 月，被廣泛用於茶會插花。在有樂苑，這些山茶沿著書院北庭的西牆生長。

流蘇樹

每年 5 月中旬，流蘇樹綻放出一叢叢蕾絲花邊般的花朵，馥鬱芬芳，潔白如雪。這個品種在日本較為珍稀，因此日本環境省將其列為瀕危II類物種。犬山市郊外有一片野生流蘇樹林，於 1923 年被指定為國家天然紀念物。

這種植物在日本有著多個別名，其中有一個名稱是「ナンジャモンジャ」（nanjamonja），據說這是日本人對於珍稀樹木的昵稱，即「奇樹」。這個名字讓堀口舍己覺得很有意思，因而將它種在了書院北庭的顯眼位置。

龜甲竹

龜甲竹是一種高大的竹子，莖壁厚實，竹節傾斜交錯，形成菱形圖案，看上去就像龜甲一樣。它是孟宗竹的突變品種。史料和繪畫作品顯示，織田有樂宅邸周圍孟宗竹環繞，因此這種植物在有樂苑中也隨處可見。元庵入口附近種植著一片龜甲竹林。

真實世界裡的「雲錦手」（櫻花楓葉紋）

犬山燒陶瓷器裡有一種名為「雲錦手」的櫻花楓葉彩繪圖案。而在有樂苑中，這個主題也真實存在。在弘庵旁的白牆北側，一株櫻花樹矗立在小徑旁，在大約一人高的樹幹分叉處，居然又長出了日本紅楓，十分罕見。

<日本語仮訳>

有樂苑の注目すべき植物

有樂苑は、織田有樂（1547-1621）と日本の茶庭の美しさを伝える生きたモニュメントである。有樂が愛した庭園を目指し、堀口捨己（1895-1984）と造園業者が、樹木、低木、草、苔の一

つひとつを厳選し、配置、栽培を工夫したものである。桜や椿の花が彩りを添え、竹林が周囲の市街地を遮り、シダや苔が石組みに年季や重厚感をもたらしている。どの植物も庭園全体に欠かせない存在ではあるが、その中でも特に注目すべき植物を紹介する。

有楽椿

有楽椿は、日本のツバキと 14 世紀から 16 世紀にかけて中国から渡来したツバキとの交配種である。椿をこよなく愛した有楽が、如庵の近くで栽培・植栽したとされる。有楽椿は中輪のピンク色の花を咲かせ、花弁は一重で、黄色の中心が際立つ。3 月から 4 月にかけて咲き、茶席での生け花に多く用いられる。有楽苑では、書院の北庭の西壁に沿って植えられている。

ヒトツバタゴ

ヒトツバタゴは、5 月中旬にレース状に香り高い白い花を咲かせる。日本では比較的珍しい植物であり、環境省のレッドデータブックでは絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。犬山市郊外に自生するヒトツバタゴは、1923 年に国の天然記念物に指定された。

この木には「ナンジャモンジャ」などいくつかの和名がある。「ナンジャモンジャ」は、地元で見られなかったり、きわめて珍しかったりする木をさしてという呼び方で、堀口はその名前に惹かれ、書院の北庭のひときわ目立つ場所に植えた。

キッコウチク

キッコウチクは背が高く、肉厚の竹で、節が交互に傾斜してジグザグ模様になることから亀甲を連想させる。モウソウチクの突然変異とされている。史料や絵図を見ると有楽邸はモウソウチクに囲まれていることから、この種の竹が有楽苑のあちこちに植栽されていたことがわかる。キッコウチクは元庵の入り口付近の一画に生育している。

実在する「雲錦手」(桜と紅葉)

犬山焼に見られる桜と紅葉をあしらった色絵「雲錦手」のモチーフは、有楽苑に実際に存在する。弘庵のそばにある白漆喰の壁のすぐ北側、小道の脇に桜の木が生えている。その幹が頭の高さあたりで枝分かれし、桜の幹から伸びる形で紅葉の木が生えている。

【タイトル】 犬山焼

【想定媒体】 アプリ QR コード、WEB、パンフレット

<簡体字>

犬山焼

有乐苑奉茶用的“犬山焼”茶碗，已经有 200 多年历史。19 世纪早期，在犬山城城主的推动下，当地建起窑场，聚集起一批本地优秀陶工。犬山焼陶器风格朴素优雅，以成瀬正寿(1782-1838)设计的“云锦手”为特色，后者参考了中国明代福建南部漳州一带生产的外销瓷器“吴州赤绘”。此后 200 年间，犬山焼的风格和工艺有了多元化发展与变化，但犬山市的 3 家窑厂仍在传统工艺制作传统图案的茶碗、茶杯和花器。

近代犬山焼

犬山市今井地区最早于 18 世纪中后期开始制作陶器。第一代陶工奥村传三郎（生卒时间不详）在美浓国（今岐阜县南部）学艺后，回犬山创建了本地第一座窑场。他制作的陶器被称为“今井焼”，以简朴的日用器具为主，上覆光亮的褐色釉。今井窑之后由奥村传三郎的传人经营，直到 1781 年第 3 代窑主去世后才关闭。

1810 年，一位名为岛屋宗九郎（生卒时间不详）的当地商人想要复兴本地制陶业。他向犬山城城主成瀬正寿提出请求，获准在丸山地区开窑。这就是今日“犬山焼”陶器的起源。

窑场最初 10 年留下的资料极少，据说 1817 年一位新窑主接手了丸山窑场，1822 年濑户和师段味地区出身的陶工将工艺技术带到了本地。到 1831 年，当地匠人开始生产“染付”（青花）和“赤绘”（红绿花）陶器。

成瀬正寿对此非常满意，于 1836 年增加了对本地窑场的投资，并要求窑场制作一种名为“云锦手”的樱花枫叶纹陶器，后来它成为了犬山焼最受欢迎、最具代表性的图案。

随着新窑场不断涌现，产品的器型和上色工艺逐步提升，犬山焼也愈发名声大振。然而到了 19 世纪 70 年代早期，随着废除各藩、建立府县的“废藩置县”改革实施，日本进入明治时代(1868-1912)，犬山焼被迫停产。

现代犬山焼

大约 10 年后，犬山焼重启生产。1883 年，犬山陶器会社成立，许多老陶工重返窑场。1891 年的浓尾地震使窑场严重受损，陶器会社随之解散，但有数名陶工仍然坚持制作犬山焼。20 世纪早期，部分窑场为求生存不得不暂时转向烧制屋瓦。直到 20 世纪晚期，茶文化再度流行，高品质陶器才重获关注。

今天，尾关作十郎陶房、后藤陶逸陶苑、大泽久次郎陶苑这三家犬山的窑场仍在坚持制作传统风格的茶碗、花器、茶杯、风铃和其他各种陶器。除了繁复的赤绘和“云锦手”等最具代表性的装饰图案以外，厂家还采用涂金、虹彩金属色旋涡或是带纹理的釉彩等别具一格的装饰手法。

有乐苑的商店里出售各种犬山烧茶碗精品，不过，窑场直销的商品种类更为繁多。

<繁体字>

犬山燒

有樂苑奉茶用的「犬山燒」茶碗已有 200 多年歷史。19 世紀早期，在犬山城城主的推動下，當地建起窯場，匯集了一群優秀的陶工。犬山燒陶器風格樸素優雅，以成瀨正壽（1782-1838）設計的「雲錦手」為特色，後者參考了中國明代福建南部漳州一帶生產的外銷瓷器「吳州赤繪」。此後 200 年間，犬山燒的風格和工藝經歷了多次演變，然而犬山市的三家窯場仍然堅守傳統工藝，製作傳統花紋的茶碗、茶杯和花器。

近代犬山燒

犬山市今井地區最早於 18 世紀中後期開始製作陶器。第一代陶工奧村傳三郎（生卒時間不詳）在美濃國（今岐阜縣南部）學藝後，回犬山創建了當地首個窯場。他製作的陶器被稱為「今井燒」，是表面覆蓋光亮的褐色釉料的簡樸日用器皿。今井窯由奧村傳三郎的後代繼續經營，直至第三代窯主在 1781 年去世後才關閉。

1810 年，一位名為島屋宗九郎（生卒時間不詳）的當地商人想要復興當地的製陶業。他向犬山城城主成瀨正壽提出請求，獲准在丸山地區開窯。這就是如今「犬山燒」陶器的起源。

窯場最初 10 年留下的資料極少，據說 1817 年一位新窯主接手了丸山窯場，而 1822 年，來自瀨戶和師段味地區出身的陶工將工藝技術帶到了犬山。到 1831 年，當地匠人開始生產「染付」（青花）和「赤繪」（紅線花）陶器。

成瀨正壽因此十分高興，於 1836 年增加了對窯場的投資，並要求窯場製作一種名為「雲錦手」的櫻花楓葉紋陶器，後來它成為了犬山燒最受歡迎、最具代表性的花紋。

隨著新窯場不斷湧現，產品的器型和上色工藝逐步提升，犬山燒的名聲亦越發大振。然而到了 19 世紀 70 年代早期，隨著廢除各藩、建立府縣的「廢藩置縣」改革實施，日本進入明治時代（1868-1912），犬山燒不得不停產。

現代犬山燒

在停產約 10 年後，犬山燒重啟生產。1883 年，犬山陶器會社成立，許多老陶工重返窯場。1891 年，濃尾地震讓窯場嚴重毀損，陶器會社雖然隨之解散了，但仍有數名陶工堅持著犬山燒的製作。20 世紀早期，一些窯場為求生存不得不暫時轉向燒製屋瓦。幸而 20 世紀晚期茶文化再度流行，高品質陶器才重獲關注。

今天，尾關作十郎陶房、後藤陶逸陶苑、大澤久次郎陶苑這三家犬山的窯場，依然堅持製作傳統風格的茶碗、花器、茶杯、風鈴和其他各種陶器。繁複的赤繪和「雲錦手」仍是其最具代表性的裝飾圖案，並在此基礎上，採用塗金、虹彩金屬色漩渦或是帶紋理的釉彩等別具一格的裝飾手法。

有樂苑的商店中販賣各種犬山燒茶碗精品，而在窯場店鋪內則種類更多。

<日本語仮訳>

犬山焼

有樂苑では、200 年以上の歴史を持つ犬山焼の茶碗でお茶が提供されている。19 世紀初頭、犬山城主が地元の窯の設立を支援し、優秀な陶工が集まるようになった。犬山焼の作風は、中国明時代の呉州赤絵（現在の福建省南部、漳州一帯で生産された輸出向けのやきもの）を手本とする呉州風赤絵・犬山城主成瀬正寿（1782-1838）の意匠による雲錦手が特徴で、素朴で優雅な陶器として愛用されている。その後の 200 年の間に、さまざまな作風や製法へと進化したが、犬山市の 3 つの窯元では、今もなお伝統的な技法を使った伝統柄の茶碗や湯呑み、花瓶などを作り続けている。

近世の犬山焼

犬山市今井地区で初めて陶器が作られたのは、18 世紀半ばから後半にかけてのことである。初代陶工・奥村伝三郎（生没年不詳）が美濃国（現在の岐阜県南部）で技法を学んだのち、犬山で最初の窯を築いた。今井焼と呼ばれるその陶器は、光沢のある褐色の釉薬をかけて仕上げた日常使いの素朴な焼き物である。奥村の後継者が今井窯を続けていたが、1781 年に 3 代目が亡くなり、廃窯となる。

1810 年、地元の商人・島屋宗九郎（生没年不詳）が、この地域の窯業の復興に取り組んだ。彼は、犬山城主の成瀬正壽に嘆願し、丸山地区での開窯を許可されたのである。これが、現在の犬山焼きの始まりである。

最初の 10 年間の記録はほとんど残っていないが、1817 年に新しい窯元が引き継ぎ、1822 年には瀬戸や師段味出身の陶工が技術をもたらしたとされる。1831 年までには、地元の職人によって染付（青花）や赤絵（赤と緑）が作られるようになった。

これを喜んだ正壽は、1836 年、窯元への資金援助を強化した。そして、後に犬山焼の最も人気の高い代表的なデザインとなる桜と紅葉を組み合わせた「雲錦手」の制作を窯元に依頼した。

その後も新しい窯が開かれ、絵付けの方法やデザインに磨きがかかり、犬山焼は隆盛を極めた。しかし、1870 年代初頭の廃藩置県や明治時代（1868-1912）への移行に伴い、陶器の生産はストップしてしまう。

現代の犬山焼

一旦中断した犬山焼の生産は、およそ 10 年後に再開される。1883 年に、犬山陶器会社が設立され、多くの同じ職人たちが仕事を再開した。1891 年の濃尾地震で窯が大きな被害を受け、会

社は解散したが、数人の職人が犬山焼を作り続けた。20 世紀初頭には、事業を継続するために一時的に瓦を焼くようになった窯もあった。しかし、20 世紀後半にお茶の人気が高まると、高級陶磁器が再び注目されるようになった。

犬山では現在も 3 つの窯元、尾関作十郎陶房、後藤陶逸陶苑、大澤久次郎陶苑が、伝統的な茶碗や花器、湯呑み、風鈴など多くの陶磁器を生産している。複雑な赤絵や雲錦手を中心に、金やメタリックな虹色の渦、質感のある釉薬などが際立つ作品がある。

有楽苑では、様々なデザインの茶碗を販売しているが、窯元ではより幅広い種類の作品を販売している。

【タイトル】茶室と露地：隠居所づくり

【想定媒体】アプリQRコード、WEB、パンフレット

<簡体字>

茶室与茶庭——打造隐居之所

侘茶：简朴的美学

16世纪，日本的权贵精英阶层开始在狭窄朴素的茶室空间，接待其他武将或促成联盟的中介人。这些平日享尽奢华的男人们会俯身从低矮的门口进入茶室，置身如同林中隐士居住的简陋茅屋内，围坐在小小的茶炉边。达官显贵追求的正是一种被称作“侘茶”的茶道美学。

16世纪前，热衷于饮茶文化的主要是僧侣、贵族和高阶武士。举办茶会的场所一般设在名门望族宽阔奢华的厅堂或是寺庙的佛堂，喜欢使用从中国进口的高级茶具。然而侘茶注重选用普通的原料和简单的工艺，以极简的装饰来体现朴素与优雅。

侘茶最早的发起人是僧侣村田珠光(1423-1502)，他的主张得到大坂（今大阪）富商武野绍鸥(1502-1555)认同，并被弟子千利休(1522-1591)继承，后者最终成为日本历史上最有影响力的茶人之一。千利休拥有各大割据军阀作为强大后盾，也许正是在他们的推崇下，侘茶在整个武士阶层流传开来，继而成为今日茶道的主流美学。

千利休的理想茶室

千利休与许多茶人都认为，茶室应有山间小屋之意境。因此，许多茶室以“庵”命名，汉字“庵”原意为茅草屋，可引申出“避世、隐居所”的意义。千利休偏好“山里”这一设计理念，为营造朴实简约的氛围，他在茶室周围修建茶庭，并将二者结合为同一个意象空间。

千利休理想中的茶室是一座独立小屋，客人须从一个方形的小口爬进去。室内的天花板很低，没有家具，装饰极简。整个建筑主要由未经加工的天然材料筑成，屋顶只用茅草覆盖。

茶庭在千利休的美学意象中同样举足轻重。他认为，超然独立的茶室都应拥有一个“露地”（茶庭），即带踏脚石小径的小庭园。正式的茶会一般在菜式繁多的怀石料理之后开始，客人先要在茶庭外的“待合”（带屋顶的等候区）集合等待。随着一声锣响或其它信号宣布“亭主”（主人）已做好接待准备，客人方可沿着茶庭小径走向茶室。小径旁一般设有供客人洗手的“蹲踞”（低矮的手水钵）。

织田有乐的茶室

身为千利休的弟子，织田有乐(1547-1621)在侘茶美学方面受老师影响颇深，同样偏好小而独立的茶室。但另一方面，他的茶道风格仍保留了些许武士阶层茶道的奢靡之感。如庵和元庵不仅面积比千利休的茶室大，它们的屋顶还采用了“板葺”（木片瓦），而非“茅葺”（茅草顶）。两处茶室内部的“床之间”（和式壁龛）皆以黑漆边框装饰，这无疑会让千利休觉得过于华丽。

如庵的茶庭

“飞石”（踏脚石）、蹲踞、“井筒”（井户围栏）、石灯笼，以及如庵茶庭中的其他物件都在 1908 年一并出售给了三井家族。建筑师堀口舍己(1895-1984)参考一幅 1799 年的正传院画作展开复原工作，让所有元素都回归原位，还在庭中种下了与画中相同的黑松和日本红枫。

茶庭西南角的井筒以侘茶之祖村田珠光的井筒为蓝本。织田有乐对村田珠光非常尊崇，不仅帮忙修复了他的井筒，还在自家茶庭里复制了一个，并加上了铭文“元和元年(1615)九月二日，有乐”。

如庵茶庭中另一件值得关注的装置是被称为“釜山海”的石蹲踞，这块石头的名字取自它的原产地——韩国釜山的海岸。1592 年，丰臣秀吉(1537-1598)派军入侵朝鲜半岛，这块奇石被带回日本敬献给丰臣秀吉，之后又被转赠织田有乐。石头中间因海浪的侵蚀而下凹，这使其成为符合侘茶美学的理想蹲踞石。

元庵的茶庭

元庵的茶庭基于一张江户时代(1603-1867)中期的草图重建。茶室南侧设有“待合”，走过一条踏脚石小径后是一处摆放着小型立方体蹲踞的地方。从草图看，原蹲踞的各面均刻有佛像。这种类型的蹲踞叫做“四方佛手水钵”，由分解后的石佛塔基座制成。堀口舍己无法再为元庵觅得同类型的手水钵，便直接选用了简单的立方体。他又在蹲踞四周种下小栎树和南天竹，一如织田有乐的时代。

敬请留意：茶庭部分区域的道路上有扎着黑绳的岩石阻挡，这是“留石”，意在提醒访客止步。

<繁体字>

茶室與茶庭——打造隱居之所

侘茶：簡樸的美學

16 世紀，日本的權貴精英階層開始在狹窄樸素的茶室空間，接待其他武將或促成聯盟的仲介人。這些平日享盡奢華的男人們會俯身從低矮的門道進入茶室，置身如同林中隱士居住的簡陋茅屋中，圍坐在小小的茶爐邊。這些權貴們所追求的是一種被稱作「侘茶」的茶道美學。

16世紀前，熱衷於飲茶文化的主要是僧侶、貴族和高階武士。舉辦茶會的場所一般設在名門望族寬闊奢華的廳堂或是寺廟的佛堂，喜歡使用從中國進口的高級茶具。然而侘茶注重選用普通的原料和簡單的工藝，以極簡的裝飾來體現樸素與優雅。

侘茶最早的發起人是僧侶村田珠光（1423-1502），他的主張得到大坂（今大阪）富商武野紹鷗（1502-1555）認同，並被弟子千利休（1522-1591）繼承，後者最終成為日本歷史上最具有影響力的茶人之一。千利休擁有各大割據軍閥作為強大後盾，也許正是在他們的推崇下，侘茶在整個武士階層流傳開來，繼而成為今日茶道的主流美學。

千利休的理想茶室

千利休與許多茶人都認為，茶室應有山間小屋之意境。因此，許多茶室以「庵」命名，漢字「庵」原意為茅草屋，可引申出「避世、隱居所」的意義。千利休偏好「山里」這一設計理念，為營造出樸實簡約的氛圍，在茶室周圍修建茶庭，並將二者結合為同一個意象空間。

千利休理想中的茶室是一座獨立小屋，客人們須從一個方形的小口爬進去。室內的天花板很低，沒有傢俱，裝飾極簡。整個建築主要由未經加工的天然材料造就，屋頂只用茅草覆蓋。

茶庭在千利休的美學意象中同樣舉足輕重。他認為，超然獨立的茶室都應擁有一個「露地」（茶庭），即帶踏腳石小徑的小庭園。正式的茶會一般在菜式繁多的懷石料理之後開始，客人先要在茶庭外的「待合」（帶屋頂的等候區）集合等待。隨著一聲鑼響或其它信號宣佈「亭主」（主人）已做好接待準備，客人方可沿著茶庭小徑走向茶室。小徑旁一般設有供客人洗手的「蹲踞」（低矮的手水鉢）。

織田有樂的茶室

身為千利休的弟子，織田有樂（1547-1621）在侘茶美學方面受老師影響頗深，同樣偏好小而獨立的茶室。但另一方面，他的茶道風格仍保留了些許武士階層茶道的奢靡之感。如庵和元庵不只面積比千利休的茶室都大，它們的屋頂還採用了「板葺」（木片瓦），而非「茅葺」（茅草頂）。兩處茶室內部的「床之間」（和式壁龕）皆以黑漆邊框裝飾，這對千利休所推崇的「侘茶」美學顯然過於華麗。

如庵的茶庭

「飛石」（踏腳石）、蹲踞、「井筒」（井戶圍欄）、石燈籠，以及如庵茶庭中的其他物件都在1908年一併出售給三井家。建築師堀口舍己（1895-1984）在復原有樂苑時，參考一幅1799年的正傳院畫作，讓所有物件都回歸原位，他甚至還在庭中種下了與畫中相同的黑松和日本紅楓。

茶庭西南角的井筒以侘茶之祖村田珠光的井筒為藍本。織田有樂對村田珠光非常尊崇，不僅幫忙修復了他的井筒，還在自家茶庭裡複製了一個，並加上銘文「元和元年（1615）九月二日，有樂」。

如庵茶庭中另一件值得關注的是被稱為「釜山海」的石蹲踞，這塊石頭的名字來自它的原產地，即韓國釜山的海岸。1592年，豐臣秀吉（1537-1598）派軍入侵朝鮮半島，這塊罕見的奇石被帶回日本獻給了豐臣秀吉，後又被轉贈織田有樂。石頭中央因海浪的侵蝕而凹陷，使其成為符合侘茶美學的理想蹲踞石。

元庵的茶庭

元庵的茶庭是基於一張江戶時代（1603-1867）中期的草圖而重建。茶室南側設有「待合」，從那裡沿踏腳石小徑可到達一處擺放著小型立方體蹲踞的地方。從草圖看，原蹲踞的各面均刻有佛像。這種類型的蹲踞叫做「四方佛手水鉢」，由分解後的石佛塔基座製成。由於堀口舍己無法為元庵找到類似的手水鉢，便直接選用了簡單的立方體。他又在蹲踞四周種下小欒樹和南天竹，一如織田有樂的時代。

請注意：茶庭部分區域的道路上有繫著黑繩的岩石「留石」，意在提醒訪客止步。

<日本語仮訳>

茶室と露地：隠居所づくり

侘び茶：簡素簡略の美学

16世紀、日本の有力者たちは、武將や同盟関係の仲介者らとの会談に茶室という狭い空間を利用するようになった。贅の限りを尽くせる男たちがにじり口から入り、森の隠者の庵に似せて作られた部屋で、小さな囲炉裏を囲んだのである。こういった権力者たちは、「侘び茶」と呼ばれる茶道の美学を追求していた。

16世紀まで、茶の湯は主に僧侶や公家、上級武士が嗜んでいた。茶会は上流階級の屋敷の豪華な広間や寺のお堂で行われ、中国から輸入された豪華な茶器が好まれた。しかし、侘び茶は、質素な素材と最小限の装飾を用いたつましい技巧による、簡素で飾り気のないものに重点を置いていた。

最初にこの様式を提唱したのは僧侶の村田珠光（1423-1502）で、その思想を大坂（現在の大阪）の豪商・武野紹鷗（1502-1555）が取り入れ、その弟子である千利休（1522-1591）が受け継ぎ、歴史上最も影響力のある茶人の一人となったのである。もしかして、利休の後ろ盾であった有力な武士を通じ、侘び茶は武士階級に普及し、現在では日本の茶道の主流となっているかもしれない。

利休の理想な茶室

利休をはじめとする茶人たちは、茶道は野山にある小屋のような雰囲気であるべきだと考えていた。そのため、多くの茶室の名前には「隠れ家」や「隠居所」などを意味する「庵」がついている。利休は「山里」という設計思想を好んだ。そのひなびた雰囲気を再現しようと、利休は茶室を囲むように茶庭を設け、両者を一体化した空間とした。

利休が理想とした茶室は、小さな独立した庵であった。客は、小さな四角いじり口から這うように入っていく。天井の低い部屋には家具がなく、装飾も最小限である。屋根は質素な茅葺きで、全体的にほとんど加工されていない自然素材が使われている。

庭もまた、利休の美学の一翼を担っていた。離れの茶室には、飛び石を敷いた小さな庭「露地」があるべきと考えたのである。正式には、懐石料理の後に行われる茶会が始まる前に、客は庭の外にある「待合」と呼ばれる屋根付きの待機スペースに集まる。亭主の準備が整ったことが告げられると（多くの場合は銅鑼の音や他の合図で）、客は露地に沿って茶室に向かう。路地には、立ち止まって手を洗うための蹲踞があるのが一般的である。

有楽の茶室

利休の弟子であった有楽（1547-1621）は、利休の好んだ侘び茶や小さな離れの茶室の影響を受けている。その一方で、有楽のスタイルには武家茶道の贅沢さも感じられる。如庵、元庵は、利休の茶室のほとんどよりも規模が大きいことに加え、屋根は茅葺きではなく、板葺きである。内部は、両茶室とも床の間の縁が利休であれば華美過ぎると考えたであろう黒漆塗りとなっている。

如庵の露地

飛び石、蹲踞、井筒、石灯籠といった露地の必要な要素は、1908年に如庵とともに三井家に売却された。建築家の堀口捨己（1895-1984）は、1799年に描かれた正伝院の絵図をもとに、各要素の配置を復元した。また、絵図に描かれている樹木に合わせて、黒松や楓を植えた。

南西の隅にある井筒は、侘び茶の祖である村田珠光が所有していたものを模して作られたものである。珠光を大いに尊敬していた有楽は、珠光の井筒を復元した後、自分の庭用にも複製を作り、「元和元年（1615）九月二日、有楽」という銘を刻んでいる。

もう一つ、如庵の露地には、「釜山海」と名付けられた石の蹲踞がある。これは石の産地が韓国釜山の海岸であることに由来する。1592年、豊臣秀吉（1537-1598）軍が朝鮮半島を侵略した際、この珍しい石を持ち帰り、秀吉に献上した後、有楽に贈られた。この石の中央のくぼみは波によって自然にできたもので、侘び茶の美学に基づいた理想的な蹲踞である。

元庵の露地

元庵の露地は、江戸時代（1603-1867）中期に描かれた絵図をもとに復元されたものである。茶室の南側に待合がある。そこから飛び石を渡っていくと、小さな立方体の蹲踞がある。絵図によると、元々の蹲踞は各サイドに仏像が彫られていた。この種の蹲踞は「四方仏手水鉢」と呼ばれ、石塔の台座を分解して作られていた。堀口は、元庵に適したこの種の蹲踞が見つからなかったため、シンプルな立方体のものを選んだ。周囲には、有楽の時代と同じようにカシの小木やナンテンが植えられている。

注意：庭園の一部には、黒い紐で結ばれた石が通路をふさいでいる場所がある。これは「留め石」といって、その先が立ち入り禁止であることを示している。

地域番号	006	協議会名	日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」推進協議会
------	-----	------	-----------------------

解説文一覧

NO.	スポット名 (タイトル)	中国語文字数	想定媒体
006-001	生野鉱山寮馬車道跡	275	案内板
006-002	生野鉱山寮馬車道跡	165	パンフ
006-003	生野鉱山寮馬車道跡	345	WEB
006-004	飾磨津物揚場跡	345	案内板
006-005	馬車道修築碑	250	案内板
006-006	三木家住宅	305	案内板
006-007	三木家住宅	355	WEB
006-008	三木家住宅	325	パンフ
006-009	辻川町 (妖怪)	220	WEB
006-010	屋形町	375	案内板
006-011	屋形町	115	パンフ
006-012	屋形町	300	WEB
006-013	中村・粟賀町地区	220	案内板
006-014	中村・粟賀町地区	325	パンフ
006-015	中村・粟賀町地区	230	WEB
006-016	竹内家住宅	205	案内板
006-017	竹内家住宅	160	パンフ
006-018	竹内家住宅	230	WEB
006-019	生野鉱山関連遺構 (生野鉱山及び鉱山町の文化的景観)	520	案内板
006-020	生野鉱山関連遺構 (生野鉱山及び鉱山町の文化的景観)	315	WEB
006-021	生野鉱山町 (生野鉱山及び鉱山町の文化的景観)	480	案内版
006-022	生野鉱山町 (生野鉱山及び鉱山町の文化的景観)	290	WEB
006-023	神子畑鑄鉄橋・羽淵鑄鉄橋	390	案内板
006-024	神子畑鑄鉄橋・羽淵鑄鉄橋	270	WEB
006-025	神子畑選鉱場跡	360	案内板
006-026	神子畑選鉱場跡	250	WEB
006-027	旧神子畑鉱山事務舎 (ムセ旧居)	360	案内板
006-028	旧神子畑鉱山事務舎 (ムセ旧居)	235	WEB
006-029	明延鉱山明神電車	295	WEB
006-030	明延鉱山明神電車	390	パンフ
006-031	明延鉱山関連遺構・明延鉱山町	240	WEB
006-032	明延鉱山関連遺構・明延鉱山町	295	パンフ

006-033	中瀬鉦山関連遺構・中瀬鉦山町	270	WEB
006-034	中瀬鉦山関連遺構・中瀬鉦山町	380	パンフ

【タイトル】 生野鉱山寮馬車道跡

【想定媒体】 案内板

<簡体字>**生野矿山寮马车道遗迹**

这里是“生野矿山寮马车道”（今“银之马车道”）的一部分。马车道于 1876 年竣工开通。修建这条道路的目的是，更高效地将采矿物资从姬路的饰磨津运往兵库县北部的生野矿山。马车道由法国工程师莱昂·希思黎(Leon Sisley, 1847-1878)设计，采用了当时欧洲十分普及的马卡丹式碎石筑路法。马车道是日本第一条高速产业道路，也是明治时代(1868-1912)具有代表性的现代工业遗产。

此处发现的道路约 100 米长，是马车道如今仅存的一段。道路沿着一座具有 400 多年历史的池塘延伸，岸边樱花树成行。至今，路基两侧的大石仍清晰可辨。

<繁体字>**生野礦山寮馬車道遺跡**

這裡是「生野礦山寮馬車道」（今「銀之馬車道」）的一部分。馬車道於 1876 年竣工開通。興建這條道路的目的在於，更高效地將採礦物資從姬路的飾磨津運往兵庫縣北部的生野礦山。馬車道由法國工程師萊昂·希思黎（Leon Sisley, 1847-1878）設計，採用了當時歐洲廣泛運用的馬卡丹式碎石築路法。馬車道是日本第一條高速產業道路，也是明治時代（1868-1912）具有代表性的現代工業遺產。

此處發現的道路約 100 公尺長，是馬車道僅存的一段。道路沿著一座具有 400 多年歷史的池塘延伸，岸邊種滿了櫻花樹。至今，路基兩側的大石仍清晰可辨。

<日本語仮訳>**生野鉱山寮馬車道跡**

これは 1876 年に完成した「生野鉱山寮馬車道」（現在の「銀の馬車道」）の一部である。この道は姫路の飾磨津から兵庫県北部にある生野鉱山へ、鉱工業にかかる資材などを効率よく運ぶために建設された。その設計者であるフランス人の技師レオン・シスレー（1847-1878）は、当時ヨーロッパで広く用いられていたマカダム工法（碎石を用いる道路舗装様式）を採用した。日本最初の産業高速道路として、馬車道は明治時代（1867-1912）を代表する近代化産業遺産である。

ここでは、およそ 100 メートルにわたって桜の木で縁取られた、400 年以上前からある池に沿って馬車道の一部が発見されている。道路の両側を支えるために使われた大きな石を見るができる。ここが唯一の現存する馬車道である。

【タイトル】 生野鉱山寮馬車道跡

【想定媒体】 パンフレット

<簡体字>

生野矿山寮马车道遗迹

神河町保留了一段长约 100 米的“生野矿山寮马车道”（今“银之马车道”），沿着一座岸边樱花树成行的池塘延伸。马车道于 1876 年竣工开通，是日本第一条用马卡丹式碎石筑路法修建的道路，也是日本最早的高速产业道路。2016 年，马车道的部分路段被发掘出来，迄今保存状态良好。自 19 世纪晚期以来，此处的景观几无变化。

<繁体字>

生野礦山寮馬車道遺跡

神河町保留了一段長約 100 公尺的「生野礦山寮馬車道」（今「銀之馬車道」），沿著一座岸邊櫻花樹成行的池塘而行。馬車道於 1876 年竣工開通，是日本第一條用馬卡丹式碎石築路法修建的道路，也是日本最早的高速產業道路。2016 年，馬車道的部分路段被發掘出來，至今狀態保持良好。自 19 世紀晚期以來，此處的景觀幾乎沒有變化。

<日本語仮訳>

生野鉱山寮馬車道跡

神河町には、100 メートルほどの「生野鉱山寮馬車道」（現在の「銀の馬車道」）が現存している。この道路はマカダム工法という技術を使って 1876 年に建設された日本で初の産業高速道路であった。桜の木で縁取られた池の周りを巡っており、2016 年に道路の一部が発掘され、いまなお良い状態で残されている。景観も 19 世紀後半以来ほとんど変わっていない。

【タイトル】 生野鉱山寮馬車道跡

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**生野矿山寮马车道遗迹**

“生野矿山寮马车道”（今“银之马车道”），连接了兵库县朝来市的生野矿山与姬路的饰磨津。这条道路由法国工程师莱昂·希思黎(Leon Sisley, 1847-1878)设计，1876 年竣工。马车道结合了皮埃尔·玛丽·杰罗姆·特雷萨盖(Pierre-Marie-Jérôme Trésaguet, 1716-1796)开发的法式道路设计与苏格兰人约翰·卢登·马卡丹(John Loudon McAdam, 1756-1836)发明的马卡丹式碎石筑路法修筑而成，是日本最早的高速产业道路。它的开通预示着日本明治时代(1868-1912)现代化浪潮的兴起。

马车道沿着一座岸边樱花树成行的池塘延伸，周边景色自道路竣工以来几无变化。2016 年在对部分路段进行的发掘过程中，发现了当时的马卡丹式筑路法技术。

<繁体字>**生野礦山寮馬車道遺跡**

「生野礦山寮馬車道」（今「銀之馬車道」），連接了兵庫縣朝來市的生野礦山與姬路的飾磨津。這條道路由法國工程師萊昂·希思黎（Leon Sisley, 1847-1878）設計，於 1876 年竣工。它結合了皮埃爾·瑪麗·傑羅姆·特雷薩蓋（Pierre-Marie-Jérôme Trésaguet, 1716-1796）開發的法式道路設計法與蘇格蘭人約翰·盧登·馬卡丹（John Loudon McAdam, 1756-1836）發明的馬卡丹式碎石築路法修築而成，是日本最早的高速產業道路，預示著日本明治時代(1868-1912)現代化浪潮的興起。

馬車道沿著一座兩岸種植櫻花樹的池塘而行，周邊景色自道路竣工以來幾無變化。2016 年在對部分路段進行的發掘過程中，發現了當時的馬卡丹式築路法技術。

<日本語仮訳>**生野鉱山寮馬車道跡**

「生野鉱山寮馬車道」（現在の「銀の馬車道」）は兵庫県の朝来市にある生野鉱山と姫路にある飾磨津を結んでいる。フランス人技師レオン・シスレー（1847-1878）によって設計され、1876 年に完成した。日本で最初に造られた産業高速道路で、ピエール・マリー・ジェローム・トレサゲ（1716-1796）が開発したフランスの道路設計方法と、スコットランド人のジョン・ラウダン・マカダム

(1756-1836) が考案したマカダム工法を組み合わせたものである。この道の完成は、明治時代(1868-1912) 日本の近代化への波を先取りするものであった。

道路は桜の木で縁取られた池を巡っており、周辺の景観は当時からほとんど変わっていない。そのため、2016年に道路の一部で発掘調査が行われ、マカダム工法の技術が明らかになった。

【タイトル】 飾磨津物揚げ場跡

【想定媒体】 案内板

<簡体字>**饰磨津装卸码头遗址**

本区域现属于姬路港的一部分，旧时是饰磨津装卸码头，也是当年“生野矿山寮马车道”（今“银之马车道”）的终点。当时，人们通过马车道将兵库县北部矿山开采的银和其他物资运输至濑户内海沿岸的各家工厂。道路和装卸码头的建设是明治时代(1868-1912)日本快速工业化的进程中最早一批由政府发起的项目，有效提升了运输速度和安全性。饰磨津装卸码头和总长 49 公里的马车道均由法国工程师莱昂·希思黎(Leon Sisley, 1847-1878)设计。两项工程都始于 1873 年，于 1876 年竣工。

1894 年，随着日本的基础设施建设日益完善，兵库县北部的矿产开始用铁路运输，饰磨津装卸码头逐渐失去了存在意义。浅田化学工业从政府手中购得此处，改造为工厂。如今的装卸码头遗址上只剩下砖砌仓库的几块墙体。

<繁体字>**飾磨津裝卸碼頭遺址**

本區域現屬於姬路港的一部分，過去曾是飾磨津裝卸碼頭，也是當年「生野礦山寮馬車道」（今「銀之馬車道」）的終點。當時，人們透過馬車道將兵庫縣北部礦山開採的銀和其他物資運輸至濑戶內海沿岸的各家工廠。在明治時代（1868-1912）日本快速工業化的過程中，道路和裝卸碼頭是最早由政府發起的專案之一，它們的興建有效提升了運輸速度和安全性。飾磨津裝卸碼頭和總長 49 公里的馬車道均由法國工程師萊昂·希思黎（Leon Sisley, 1847-1878）設計。兩項工程都於 1873 年啟動，1876 年竣工。

1894 年，隨著日本的基礎設施建設日益完善，兵庫縣北部的礦產開始用鐵路運輸，飾磨津裝卸碼頭逐漸失去了作用。後來淺田化學工業從政府手中購得此處，改造為工廠。如今的裝卸碼頭遺址上僅存磚砌倉庫的幾塊牆體。

<日本語仮訳>**飾磨津物揚場跡**

いまでは姫路港の一部となっているこの地域は、かつて「飾磨津物揚場」として知られていた。それは兵庫県北部の鉱山で採掘された銀や他の材料を瀬戸内海沿いの工場へと運ぶ、生野鉱山寮馬車

道（現在の「銀の馬車道」）の終着点であった。輸送スピードと安全性の向上に貢献した馬車道と物揚場の建設は、明治時代（1868-1912）の日本の急速な産業化の中で、明治政府が手がけた最も初期のプロジェクトの一つであった。フランス人技師レオン・シスレー（1847-1878）が設計した全長 49 キロメートルの道路と飾磨津物揚場は、いずれも 1873 年に着工し、1876 年に完成した。

1894 年までに、日本のインフラは兵庫県北部の鉱山からの産物を鉄道で輸送できるまでに整備され、飾磨津物揚場は必要とされなくなった。浅田化学工業がそれを政府から買い取り、現在工場として利用している。当時の揚場の跡で残っているのは、レンガ造りの倉庫を構成する壁の一部のみである。

【タイトル】 馬車道修築碑

【想定媒体】 案内板

<簡体字>**馬車道修築碑**

这块石碑是 1876 年完工的“生野矿山寮马车道”（今“银之马车道”）的竣工纪念碑，马车道曾经连接了兵库县北部的矿山和饰磨津装卸码头（今姬路港的一部分）。1865 年的萨摩（今鹿儿岛县）英国留学生代表团成员朝仓盛明(1843-1925)和法国工程师莱昂·希思黎(Leon Sisley, 1847-1878)花费了 3 年时间才完成马车道的修建。此项工程的挑战之一便是在总长 49 公里的道路上架设 20 多座桥梁，其中藪田桥施工难度最大，道路竣工后，该桥更名为生野桥。为了纪念成功攻克新道路施工中的“第一难”，人们在生野桥附近树立了这块马车道修筑碑。

<繁体字>**馬車道修築碑**

這塊石碑是 1876 年完工的「生野礦山寮馬車道」（今「銀之馬車道」）的竣工紀念碑，馬車道曾經連接了兵庫縣北部的礦山和飾磨津裝卸碼頭（今姬路港的一部分）。1865 年的薩摩（今鹿兒島縣）英國留學生代表團成員朝倉盛明（1843-1925）和法國工程師萊昂·希思黎（Leon Sisley, 1847-1878）耗費 3 年時間才完成這條道路。當時工程遇到的挑戰之一便是在 49 公里的道路上架設 20 多座橋樑，其中以藪田橋施工難度最大，道路竣工後，該橋改名為生野橋。為了紀念成功攻克新道路施工中的「第一難」，人們在生野橋附近樹立了這塊馬車道修築碑。

<日本語仮訳>**馬車道修築碑**

この石碑は 1876 年の生野鉱山寮馬車道（現在の「銀の馬車道」）の完成を祝って建立された記念碑である。馬車道は、兵庫県北部の鉱山と「飾磨津物揚場」（現在の姫路港の一部）を結んでいた。1865 年の薩摩（現在の鹿児島県）のイギリス留学生代表団の一人、朝倉盛明（1843-1925）とフランス人技師レオン・シスレー（1847-1878）が 3 年をかけて完成させた。難関のひとつは、全長 49 キロメートルの馬車道に 20 以上ある橋の架設だった。その中でも最難関が藪田橋で、完成後に生野橋と改名された。新しい馬車道の最大の難所の完成を記念して、この記念碑が近くに建てられた。

【タイトル】 三木家住宅

【想定媒体】 案内板

<簡体字>

三木家族住宅

三木家族住宅既是福崎地区名门望族的私家宅邸，也兼作行政办公之用。宅院内最早的建筑物建于 1697 年，此后又经过多次阶段性扩建。1874 年，由于要为修建中的“生野矿山寮马车道”（今“银之马车道”）让道，住宅正面的产权线不得不后退 1.8 米，故而重修了正门和南墙。

1885 年，这里接待了当时仅 11 岁的柳田国男(1875-1962)。这位少年日后成为了著名学者，被尊为“日本民俗学之父”。柳田国男在这里阅读了大量三木家族的藏书，这对他以后的探索与研究产生了深远的影响。

1972 年，三木家族住宅被指定为兵库县重要文化财产。在 2012 年至 2016 年的大规模翻修中，当地尽量利用原有建材，恢复了办公室和起居室的原貌。

<繁体字>

三木家住宅

三木家住宅既是福崎地区名士的私家宅邸，也兼作行政办公之用。宅院内最早的建筑物建于 1697 年，此后又经过多次扩建。1874 年，为了让道给修建中的「生野矿山寮马车道」（今「银之马车道」），住宅正面的产权线后退 1.8 公尺，因此重修了正门和南墙。

1885 年，三木家住宅接待了当时只有 11 岁的柳田国男（1875-1962）。这位少年日后成为了著名学者，被尊为「日本民俗学之父」。柳田国男在三木宅邸阅读了大量的藏书，对他以后的探索与研究产生了深刻的影响。

1972 年，三木家住宅被指定为兵库县重要文化财产。2012 年至 2016 年的大规模翻修尽量使用了原有建材，以此恢复了办公室和起居室的原貌。

<日本語仮訳>

三木家住宅

三木家住宅は福崎の名士の住居であり、政務を行う場所でもあった。敷地内の初期の建造物は 1697 年に建てられたもので、その後も段階的に建築が続けられた。1874 年、生野鉱山寮馬車道（現在の「銀の馬車道」）の敷設開始に伴って、正面の敷地境界線が 1.8 メートル後退することとなり、新たに正門と南側の塀が必要となった。

1885 年、のちに「日本民俗学の父」となる若き柳田国男（1875-1962）がこの住宅に下宿する。当時まだ 11 歳だった彼は三木家の蔵書を大いに活用し、その後の彼の学問探求に大きな影響を与えることとなった。

1972 年、三木家住宅は兵庫県の重要文化財に指定された。2010 年から 2016 年にかけての大規模な修復工事では、当初の材料をできるだけ多く再利用して、表座敷と居室が復元された。

【タイトル】 三木家住宅

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**三木家族住宅**

名門望族三木家族于 1655 年定居福崎，此处房屋就是他们的私宅。1697 年，三木家族开始建造宅邸，扩建工事阶段性地持续到了明治时代(1868-1912)早期。1874 年，由于要为建设中的“生野矿山寮马车道”（今“银之马车道”）让道，住宅的产权线后退了 1.8 米。

三木家族以学者辈出闻名，对年少的柳田国男(1875-1962)来说，这里是再理想不过的寄宿地。他在此居住一年，博览了三木家族的藏书。这一经历为他树立起志向，并为日后成长为“日本民俗学之父”打下了坚实的基础。

1972 年，三木家族住宅被指定为兵库县重要文化财产。2004 年，该家族第 11 代家主将它捐献给了福崎町。翻修工程从主屋开始，于 2016 年完工。现在，它已经成为兵库县保存最完好的江户时代(1603-1867)住宅之一。

<繁体字>**三木家住宅**

名門望族三木家於 1655 年遷來福崎定居，此處房屋就是他們的私宅。1697 年，三木家開始建造宅邸，擴建工事持續到了明治時代（1868-1912）早期。1874 年，由於要讓道給正在修建中的「生野礦山寮馬車道」（今「銀之馬車道」），三木家住宅的產權線因此後退了 1.8 公尺。

三木家以學者輩出聞名，對年少的柳田國男（1875-1962）來說，這裡是再理想不過的天地。他在此寄宿一年，博覽了三木家的藏書。這一經歷幫助他樹立起志向，並為日後成為「日本民俗學之父」奠定了基礎。

1972 年，三木家住宅被指定為兵庫縣重要文化財產。2004 年，該家族第 11 代家主將它捐獻給福崎町。翻修工程從主屋開始，於 2016 年完工。現在，它已經成為兵庫縣保存最完好的江戶時代（1603-1867）住宅之一。

<日本語仮訳>**三木家住宅**

三木家住宅は、1655年に福崎に居を構えた名士である三木家の住まいであった。住宅の建築は1697年に始まり、明治時代（1868-1912）初期にかけて段階的に続けられた。1874年には、新しい生野鉷山寮馬車道（現在の「銀の馬車道」）の敷設に伴い、敷地境界線が1.8メートル後退した。

学者一族として知られていた三木家は、若い柳田国男（1875-1962）にとって理想的な宿主であった。柳田はこの住宅に滞在していた1年の間に、三木家の蔵書を読み漁った。この経験が、のちに「日本の民俗学の父」となる彼の探求心に火をつけたのである。

1972年、三木家住宅は県の重要文化財に指定され、2004年には三木家の11代当主が福崎町に寄贈した。母屋から改修が始まり、2016年に完成した。いまでは県内で最も保存状態の良い江戸時代（1603-1867）の屋敷の一つとなっている。

【タイトル】 三木家住宅

【想定媒体】 パンフレット

<簡体字>**三木家族住宅**

三木家族于 1655 年赴福崎出任地方官员，此处房屋是其私宅。宅院中最早一栋建筑建于 1697 年，此后两个世纪中又陆续经过多次阶段性的扩建。1874 年，为给新修建的“生野矿山寮马车道”（今“银之马车道”）让道，宅邸大门和南墙不得不后移并重修。

这座宅邸在修建中设置了多重安全设施，例如在拉门上安装了木锁、采用低矮的天花板设计以防刀剑挥舞，还有多处是在召开紧急会议时供守卫监视的窥视孔。1871 年，当地居民抗议明治政府执行新政策，对宅邸发起冲击，宅院后方会议室的柱子和檐廊上至今仍能看到刀剑留下的痕迹。

1972 年，三木家族住宅被指定为兵库县重要文化财产。在 2012 年至 2016 年的大规模翻修中，当地尽量利用原有建材，恢复了办公室和起居室的原貌。

<繁体字>**三木家住宅**

三木家於 1655 年赴福崎出任地方官員，此處房屋是其私宅。宅院中最早一棟建築建於 1697 年，此後兩個世紀中又陸續進行過多次擴建。1874 年，為了讓道給修建中的「生野礦山寮馬車道」（今「銀之馬車道」），宅邸大門和南牆不得不後移並重修。

這座宅邸在修建中設置了多重安全設施，例如在拉門上安裝了木鎖、採用低矮的天花板設計以防刀劍揮舞，還有多處在召開緊急會議時供守衛監視的窺視孔。1871 年，當地居民抗議明治政府執行新政策，圍攻三木家住宅，宅院後方會議室的柱子和簷廊上至今仍能看到當年刀劍爭鋒留下的痕跡。

1972 年，三木家住宅被指定為兵庫縣重要文化財產。2012 年至 2016 年的大規模翻修儘量利用原有建材，以此恢復了辦公室和起居室昔日的面貌。

<日本語仮訳>**三木家住宅**

三木家住宅は、1655年に福崎に着任した役人の住まいであった。敷地内の最も初期の建築物は1697年に建てられたもので、その後200年にわたって段階的に建設が続けられた。1874年、新しい生野鉾山寮馬車道（現在の「銀の馬車道」）の敷設に伴って、正門と南側の壁が移築された。

引き戸にある木製の鍵、刀を振り回すのを防ぐ低い天井、緊迫した会議を警備が見張るための多くのぞき穴など、建物には様々な安全装置が施されている。1871年、明治政府の政策変更に反対する地元民が屋敷を襲った際についた木の切り傷が、いまでも上の間の柱や縁側に残っている。

1972年、三木家住宅は兵庫県の重要文化財に指定された。2010年から2016年にかけて大規模な改修工事が実施され、元の材料をできるだけ再利用して、表座敷と居室が復元された。

【タイトル】 辻川町（妖怪）

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**辻川町（妖怪）**

辻川町（辻，音同“十”）是日本著名学者及民俗学家柳田国男(1875-1962)的出生地。他儿时的故居现归福崎町所有，并对外开放参观。

在研究地方传说时，柳田国男对妖怪，或者说是超自然生物的故事尤为感兴趣。因此，附近的辻川山公园里设置了形形色色的妖怪造像。此外，这里还有两个会动的妖怪景点：其一，每15分钟就有河童（水中妖怪）从池塘水面升起；其二，片刻之后又能看到一只长着翅膀的天狗从小塔中飞出。公园各处都有关于妖怪像的说明牌，其中包括若干本地妖怪的故事。

<繁体字>**辻川町（妖怪）**

辻（音同「十」）川町是日本著名學者及民俗學家柳田國男（1875-1962）的出生地。他童年時的故居現歸福崎町所有，並對一般民眾開放。

在研究地方傳說時，柳田國男對妖怪，或者說超自然生物的故事尤為感興趣。因此附近的辻川山公園裡設置了形形色色的妖怪造像，還有兩個會動的妖怪景點：每15分鐘就有河童（水中妖怪）從池塘水面升起；片刻之後又能看到一隻長著翅膀的天狗從小塔中飛出。公園各處都有關於妖怪像的說明牌，其中包括若干當地妖怪的故事。

<日本語仮訳>**辻川町（妖怪）**

辻川町は、有名な日本の学者で民俗学者の柳田国男（1875-1962）の生誕地である。彼の生家は現在福崎町が所有し、一般に公開されている。

地域の伝承の研究において、柳田は「妖怪」、すなわち超自然の生き物に関する物語に特に興味を持っていた。そのため、近所にある辻川山公園には、数多くの妖怪の像や、2つの動く妖怪のアトラクションがある。15分ごとに河童(川に住む妖怪)が池から出てきて、数分後に翼を持つ天狗が小さな塔から飛び出す。公園の周囲に設置されている看板にはこれらの像の説明があり、この地に住んでいる特定の妖怪にまつわる話もある。

【タイトル】 屋形町

【想定媒体】 案内板

<簡体字>**屋形町**

有关兵库县北部银矿开采的记录可追溯到 1000 年前，也有史料显示公元 807 年就已有开采。屋形町作为介于兵库县北部矿山和姬路港之间的宿场町（驿镇）一直活跃到了 19 世纪。江户时代(1603-1867)，幕府将军控制了这座驿镇。银矿中开采出来的白银主要靠人力徒步运送，由武士压阵。鉴于白银对幕府的重要性，政府官员时常前来视察安全情况。1876 年，明治新政府决定在生野银矿与姬路饰磨津码头之间修筑一条的现代化产业道路。于是，一条为了让运银马车通行的马卡丹式碎石路——“生野矿山寮马车道”（今“银之马车道”）应运而生。

在鼎盛时期，屋形町共有 9 家日式旅馆，其中两家是为接待政府官员的“御用宿”，剩余 7 家则是供平民百姓留宿的“一般宿”。此外，城中还有 6 家售酒的酒屋、3 家当铺，以及五花八门售卖日用品的店铺。尽管如今宿场町时期的建筑所存无几，但马车道遗迹依然贯穿着整座小镇，可供来访者寻访游玩。

<繁体字>**屋形町**

兵庫縣北部開採銀礦的紀錄可追溯至 1000 年前，也有文獻顯示西元 807 年已在開採。屋形町作為介於兵庫縣北部銀礦和姬路港間的宿場町（驛鎮）一直活躍到了 19 世紀時。江戶時代（1603-1867），這座驛鎮處於幕府將軍控制之下。銀礦開採出來的白銀主要靠人力徒步運送，由武士壓陣。基於白銀對國家財政的重要性，為確保安全，政府官員時常前來視察。1876 年，明治政府決定在生野銀礦與姬路飾磨津碼頭之間修築一條現代化的產業道路，於是一條為了讓運送白銀的馬車通行的馬卡丹式碎石路——「生野礦山寮馬車道」（今「銀之馬車道」）由此誕生。

在全盛時期，屋形町共有 9 家日式旅館，其中兩家是為接待政府官員的「御用宿」，剩餘 7 家則是供平民百姓留宿的「一般宿」。此外，城中還有 6 家賣酒的酒屋、3 家當舖，以及五花八門販賣日用品的店鋪。儘管如今已幾乎看不見宿場町時期的建築，但遊客依然能探訪到貫穿全鎮的馬車道遺跡。

<日本語仮訳>

屋形町

兵庫県北部では1,000年前から銀が採掘されていたと記録されており、807年にはすでに行われていたとする史料もある。屋形町は、兵庫県北部の鉾山と姫路港とを行き交う旅人たちの宿場町として、1800年代まで栄えていた。江戸時代（1603-1867）の屋形町は、幕府によって支配されていた。鉾山で採掘された銀は、武士に警護された人足によって主に徒歩で輸送されていた。銀の重要性から、政府役人はその安全性を確認するためしばしば町を訪れていた。1876年、明治新政府によって生野鉾山と姫路の飾磨津とを結ぶ道路を近代化させるプロジェクトが起ち上げられた。このマカダム式の舗装路である生野鉾山寮馬車道（現在の「銀の馬車道」）が、馬車による銀の輸送を可能にしたのである。

最盛期には屋形町に9軒の旅館があり、うち2軒は「御用宿」と呼ばれる政府役人のための宿で、7軒は「一般宿」と呼ばれる庶民のための宿だった。町には6軒の酒屋、3軒の質屋、そして日用品を売る様々な小間物店があった。宿場町だった当時の建物は今日ではほとんど残っていないが、いまでも町を抜ける馬車道の跡をたどることができる。

【タイトル】 屋形町

【想定媒体】 パンフレット

<簡体字>**屋形町**

屋形町是连接兵库县北部矿山和姬路港道路上的重要宿场町（驿镇）。“生野矿山寮马车道”（今“银之马车道”）于 1876 年建成开通，屋形町则是旅人的主要歇脚地。尽管如今几乎看不到当年的建筑，但小镇景观已经成为日本遗产中的文化财产。

<繁体字>**屋形町**

屋形町是連接兵庫縣北部礦山和姬路港道路上的重要宿場町（驛鎮）。「生野礦山寮馬車道」（今「銀之馬車道」）於 1876 年建成開通，屋形町則是旅人的主要休息地。儘管如今幾乎看不到當年的建築，但小鎮景觀已經成為日本遺產中的文化財產。

<日本語仮訳>**屋形町**

屋形町は兵庫県北部の鉱山と姫路の港を結ぶ、重要な宿場町の役割を果たしていた。生野鉱山寮馬車道（現在の「銀の馬車道」）が 1876 年に開通した当時、屋形町は主要な休憩地であった。歴史的建造物は今日ではほとんど残っていないが、その街並みは日本遺産の構成文化財となっている。

【タイトル】 屋形町

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**屋形町**

屋形町是一处重要的宿场町（驿镇），供往来于兵库县北部矿山和姬路港之间的旅人落脚。江户时代(1603-1867)，生野矿山中开采出来的白银主要靠人力徒步运送。由于白银是政府收益的重要来源，官员时常前来屋形町视察安全防护措施。1868年明治维新后，新政府志在快速推动国家现代化，因此委任日本和法国工程师修建一条能让运银南下的马车通行的现代化产业道路。1876年，“生野矿山寮马车道”（今“银之马车道”）建成开通。

屋形町是这条道路上最繁荣的宿场町，鼎盛时期拥有多达 9 家日式旅馆、6 家售酒的酒屋、3 家当铺，还有各种售卖日用品的店铺。尽管如今几乎看不见宿场町时期的建筑，来访者依然能在镇上寻到昔日马车道的踪影。

<繁体字>**屋形町**

屋形町是一處重要的宿場町（驛鎮），是往來於兵庫縣北部礦山和姬路港之間的旅人的休息地。江戶時代（1603-1867），生野礦山開採出來的白銀主要靠人力徒步運送。由於白銀是政府收益的重要來源，官員時常前來屋形町巡視安全防衛措施以確保白銀的運輸。1868年明治維新以後，新政府志在快速推動國家現代化，因此委任日本和法國工程師修建一條能讓運銀馬車通行的現代化產業道路。1876年，這條專門用於運銀南下的「生野礦山寮馬車道」（今「銀之馬車道」）竣工開通。

屋形町是這條道路上最繁榮的宿場町，全盛時期擁有多達 9 家日式旅館、6 家賣酒的酒屋、3 家當舖，還有各種販售日用品的商店。儘管如今幾乎看不見宿場町時期的建築，遊客依然能在鎮上尋到昔日馬車道的蹤跡。

<日本語仮訳>**屋形町**

兵庫県北部の鉱山と姫路の港の間に位置する屋形町は、旅人にとって重要な宿場町であった。江戸時代（1603-1867）、生野鉱山から採掘された銀は主に徒歩で輸送されていた。政府の収入源として銀は重要であったため、役人はその安全性を確認するためにしばしば屋形町を訪れていた。1868年の明治維新後、明治政府はできるだけ早期の近代化を目指した。馬車で銀を南への輸送

を可能にする近代的な産業道路の敷設がフランス人と日本人の技師に課され、1876 年に生野鉾山寮馬車道（現在の「銀の馬車道」）が完成した。

馬車道の最も栄えた宿場町であった屋形町の最盛期には、9 軒の旅館、6 軒の酒屋、3 軒の質屋、そして日用品を売る様々な商店があった。宿場町の当時の建物はほとんど残っていないが、いまでも馬車道の跡をたどることができる。

【タイトル】 中村・栗賀町地区

【想定媒体】 案内板

<簡体字>**中村・栗賀町地区**

中村・栗賀町地区は连接兵庫県北部矿山与姫路港道路上的宿場町（驛鎮）。鼎盛时期，这两处小镇共有 40 多家店铺。富商竹内家族住宅和旧難波酿酒厂是现存的两栋江户时代(1603-1867)建筑。1876 年“生野矿山寮马车道”（今“银之马车道”）建成后，该地区仍然是沿途重要的宿场町。1894 年，连接兵庫県内陸和姫路の播但铁道开通，生野矿山开采的白银改由铁路运输。旅行者在鶴居火车站下车后换乘马车，再在“栗賀驛（馬屋）”更换马车。

<繁体字>**中村・栗賀町地區**

中村・栗賀町地區是連接兵庫縣北部礦山與姫路港道路上的宿場町（驛鎮）。鼎盛時期，這兩處小鎮共有 40 多家商店。現存的兩棟江戶時代（1603-1867）建築為富商竹內家住宅，及舊難波釀酒廠。1876 年「生野礦山寮馬車道」（今「銀之馬車道」）建成後，該地區仍然是沿途重要的宿場町。1894 年，連接兵庫縣內陸和姫路の播但鐵路開通，生野礦山開採的白銀改由鐵路運輸。遊客從鶴居火車站下車後換乘馬車，再在「栗賀驛（馬屋）」更換馬車。

<日本語仮訳>**中村・栗賀町地区**

中村・栗賀町地区は、兵庫県北部の鉱山と姫路の港を結ぶ街道にある宿場町であった。最盛期には両町合わせて 40 軒以上の商店が軒を連ねていた。江戸時代（1603-1867）にさかのぼる 2 棟の建物がいまでも残っており、ひとつは豪商の竹内家住宅、もうひとつはかつての難波酒造である。生野鉱山寮馬車道（現在の「銀の馬車道」）が 1876 年に整備された当時も、中村・栗賀町地区は引き続き道中の重要な宿場町であった。1894 年には、生野鉱山からの銀を輸送し、兵庫県の内陸部と姫路とを結ぶ播但鉄道が敷かれた。旅人は鶴居駅から馬車に乗り、「栗賀の驛（うまや）」で馬車を乗り替えていた。

【タイトル】 中村・栗賀町地区

【想定媒体】 パンフレット

<簡体字>**中村・栗賀町地区**

中村・栗賀町地区位于连接兵库县北部矿山小镇和姬路港的道路旁，在江户时代(1603-1867)和明治时代(1868-1912)一直是旅行者的宿场町（驿镇）。鼎盛时期，该地区共有 40 多家店铺。1876 年，“生野矿山寮马车道”（今“银之马车道”）竣工开通，令本地交通更为快速便捷。

竹内家族住宅和旧难波酒造（酿酒厂）是现存的两栋江户时代的建筑。马车道旁社区中心的房屋外覆木板，带着浓郁的江户风情；镇上的垃圾站也被装饰成了老仓库的模样。此外，“栗贺驿（马屋）”也颇具历史意义，过去乘坐播但铁道的旅行者，都要在这里更换马车。

本地出产的仙灵茶被加工成焙茶和粉茶后销售。5 月，来访者可以下茶田采茶，然后回到镇上将它们做成美味的茶叶天妇罗。

<繁体字>**中村・栗賀町地區**

中村・栗賀町地區位於連接兵庫縣北部礦山小鎮和姬路港的道路旁，在江戶時代(1603-1867)和明治時代（1868-1912）是往來遊客的宿場町（驛鎮）。鼎盛時期，該地區共有 40 多家商店。1876 年「生野礦山寮馬車道」（今「銀之馬車道」）的竣工，使當地的交通更為快速便捷。

中村・栗賀町地區現存兩棟江戶時代的建築，一為竹內家住宅，一為舊難波酒造（釀酒廠）。馬車道旁社區中心的房屋外覆木板，帶著濃郁的江戶風情；鎮上的垃圾站也被裝飾成了老倉庫的模樣。此外，「栗賀驛（馬屋）」也頗具歷史意義，過去搭乘播但鐵路的遊客，都要在此更換馬車。

當地出產的仙靈茶被加工成焙茶和粉茶後銷售。若適逢採收季節的 5 月來訪，遊客可以體驗茶田採茶，然後回到鎮上將採收的成果做成美味的茶葉天婦羅。

<日本語仮訳>**中村・栗賀町地区**

中村・粟賀町地区は江戸時代（1603-1867）から明治時代（1868-1912）にかけて、兵庫県北部の鉱山の町と姫路港を結ぶ街道を行き来する人々のための宿場町の役割を果たしていた。その最盛期には、中村・粟賀町地区には 40 以上の商店が軒を連ねていた。1876 年に開通した生野鉱山寮馬車道（現在の「銀の馬車道」）により、この地域の交通の便や移動速度が改善した。

現在、江戸時代からの建物は二つ残っており、それが竹内家住宅とかつての難波酒造である。江戸時代を想起させる木製のパネルが馬車道にある公民館を覆っており、町内のゴミ捨て場は昔の倉のようなつくりになっている。また歴史的に興味深いのは粟賀の驛（うまや）で、ここは播但線に乗る旅人が馬車を乗り換える場所になっていた。

この地域では「仙霊茶」の生産が行われており、「ほうじ茶」や「粉茶」として販売されている。5 月には旅行者も地元の茶畑で茶葉を摘むことができ、その後町に戻って天ぷらにして、おやつとして美味しくいただくことができる。

【タイトル】 中村・栗賀町地区

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**中村・栗賀町地区**

中村・栗賀町地区是一处宿场町（驿镇），位于连接兵库县北部矿山和姫路港道路旁，鼎盛时期，这里曾拥有 40 多家店铺。明治时代(1868-1912)早期，随着 1876 年“生野矿山寮马车道”（今“银之马车道”）建成，该地区的交通得到了改善。

中村・栗賀町地区现存两栋江户时代(1603-1867)的建筑，一为竹内家族住宅，一为旧难波酒造（酿酒厂）。旧“栗賀驿（马屋）”旁的老民房被翻新改建成游客中心，过去利用播但铁道的旅行者，都要在栗賀驿更换马车。

<繁体字>**中村・栗賀町地區**

中村・栗賀町地區是位於連接兵庫縣北部礦山和姫路港道路上的宿場町（驛鎮），鼎盛時期，這裡曾經擁有 40 多家商店。明治時代（1868-1912）早期，隨著 1876 年「生野礦山寮馬車道」（今「銀之馬車道」）建成，該地區的交通變得更加便利。

中村・栗賀町地區現存兩棟江戶時代（1603-1867）的建築，一為竹內家住宅，一為舊難波酒造（釀酒廠）。舊「栗賀驛（馬屋）」旁的老民房被修葺成遊客中心，過去利用播但擔鐵路的遊客，都會在馬屋更換馬車。

<日本語仮訳>**中村・栗賀町地区**

宿場町である中村・栗賀町地区は、兵庫県北部の鉱山から姫路港に通じる街道沿いの休憩地の役割を果たしていた。最盛期には 40 以上の商店が軒を連ねていた中村・栗賀町地区は、その経路上の最大の宿場町の一つであった。同地域の往来は、明治時代（1867-1912）初期の 1876 年に生野鉱山寮馬車道（現在の「銀の馬車道」）が完成したことで向上した。

現在も、江戸時代（1603-1867）に遡る建物が二つ残っており、それが竹内家住宅と旧難波酒造である。播但鉄道の旅人が馬車を乗り換えていた「栗賀の驛（うまや）」の隣にあった古民家を改修した、観光案内所がある。

【タイトル】 竹内家住宅

【想定媒体】 案内板

<簡体字>**竹内家族住宅**

江戸時代(1603-1867)末期，富商竹内家族在栗賀町建造了此处宅邸。该家族经营各种产品，其中包括自产自销的茶叶、酱油和日本清酒。他们是本地绿茶品种“仙灵茶”的批发商，名声远及京都。今天，仙灵茶依旧是当地的名茶，用仙灵茶制作的和菓子（日本传统甜点）也十分受欢迎。

和当时常见的商家宅邸一样，竹内家族也将自家住宅的前屋用作店面，而住宅正中央的房间则专门用来安放佛龕。住宅后方原有 4 栋仓库，但现在只存 1 栋。

<繁体字>**竹内家住宅**

江戸時代（1603-1867）末期，富商竹内家在栗賀町建造了此處宅邸。竹内家經營各種產品，其中包括自產自銷的茶葉、醬油和日本清酒。他們是當地綠茶品種「仙靈茶」的批發商，名聲遠播京都。時至今日，仙靈茶依舊是當地名產，以仙靈茶製作的和菓子（日本傳統甜點）也十分受消費者歡迎。

竹内家與當時常見的商家宅邸一樣，將自家住宅的前屋作為店面，而住宅正中央的房間則專門用來安置佛龕。住宅後方原有 4 棟倉庫，但現在僅存 1 棟。

<日本語仮訳>**竹内家住宅**

竹内家は江戸時代（1603-1867）の終わりに栗賀町に屋敷を建てた商人であった。彼らは自ら生産したお茶、醤油、酒といった様々なものを商っていた。「仙靈茶」として知られる緑茶の卸売業者として、その評判ははるか京都まで届いていた。仙靈茶はいまでも地元で生産されており、また、仙靈茶を使って作られたお菓子も人気が高い。

当時の一般的な商人同様、竹内家は屋敷の前室を店先として使っていた。仏壇が置かれる部屋は家の中心にある。屋敷の裏には4つの蔵があったが、現在は1つしか残っていない。

【タイトル】 竹内家住宅

【想定媒体】 パンフレット

<簡体字>**竹内家族住宅**

竹内家族住宅是中村・栗賀町地区现存的两处江户时代(1603-1867)建筑之一。竹内家族是本地区富商、城中望族。住宅的前屋辟为店面，销售茶叶、酱油、日本酒等商品。住宅后方曾有 4 栋用于存货的仓库，但现在只存其一。他们的特色商品是一种绿茶——仙灵茶，直到今天仍是本地区特产，用这种茶制作的和菓子（日本传统甜点）也十分受欢迎。

<繁体字>**竹內家住宅**

竹內家住宅是中村・栗賀町地區現存的兩處江戶時代（1603-1867）建築之一。竹內家是當地富商、城中望族。住宅的前屋開闢為店面，銷售茶葉、醬油、日本酒等商品。住宅後方曾有 4 棟用於存貨的倉庫，但如今只存其一。竹內家的特色商品是名為仙靈茶的綠茶，直到今天仍是當地特產，以仙靈茶製作的和菓子（日本傳統甜點）也十分受消費者歡迎。

<日本語仮訳>**竹内家住宅**

竹内家住宅は、江戸時代（1603-1867）から残る中村・栗賀町地区の二つの建物のうちの一つである。竹内家は豪商で、町の名士でもあった。屋敷の正面にある部屋は、茶、醤油、酒などの商品を売る店舗として使われていた。屋敷の裏には、いまでは 1 つしかないが、4 つの蔵があった。「仙靈茶」として知られている特別な種類のお茶を売っていた。今日でもこの地域では地元の特産品として「仙靈茶」を生産し続けており、また、仙靈茶を使って作られたお菓子も人気が高い。

【タイトル】 竹内家住宅

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**竹内家族住宅**

江戸時代(1603-1867)末期，竹内家族在栗賀町建造了宅邸。他们是富商，也是城中望族。该住宅是中村・栗賀町地区仅存的两处江戸時代建筑中的一处。住宅的前屋辟为店面，销售茶叶、酱油、日本酒等商品。他们的特色商品是“仙灵茶”，自从向京都的一家寺院提供了这种茶后，更是让其声名远扬。今天，仙灵茶依旧是当地的名茶，用它制作的和菓子（日本传统甜点）也十分受欢迎。住宅后方曾有 4 栋用于存货的仓库，但现在只存其一。宅邸正中央的房间专门用于安放佛龕，这是典型的江戸時代的住宅布局。

<繁体字>**竹内家住宅**

江戸時代（1603-1867）末期，栗賀町の富商及望族竹内家在此建造了宅邸。該住宅是中村・栗賀町地區僅存的兩處江戸時代建築中的一處。住宅的前屋開闢為店面，銷售茶葉、醬油、日本酒等商品。竹内家的招牌商品是「仙靈茶」，自從他們把這種茶提供給了京都一家寺院之後，更是讓其聲名遠揚。時至今日，仙靈茶依舊是當地的名產，用它製作的和菓子（日本傳統甜點）也十分受到消費者的歡迎。住宅後方曾有 4 棟用於存貨的倉庫，但現在只存其一。宅邸正中央的房間專門用於安置佛龕，這是典型的江戸時代的住宅布局。

<日本語仮訳>**竹内家住宅**

竹内家は江戸時代(1603-1867)の終わりに栗賀町に居を構えた豪商一族で、地元の名士でもあった。その邸宅は江戸時代から中村・栗賀町地区に残る 2 軒の建物のうちの 1 つである。屋敷の正面の部屋は、茶、醤油、酒を含む商品を売る店先として使われていた。緑茶である「仙靈茶」は特産品で、京都のとある寺に送ったところ評判になった。この仙靈茶はいまでも地元で生産されており、また、仙靈茶を使って作られたお菓子も人気が高い。屋敷の裏には商品を保管する 4 つの蔵があったが、いまでは 1 つしか残っていない。仏間として使われる部屋は、江戸時代の住宅によく見られるように家の中央にある。

【タイトル】生野鉱山関連遺構（生野鉱山及び鉱山町の文化的景観）

【想定媒体】案内板

<簡体字>**生野矿山相关遗迹（生野矿山和矿山町文化景观）**

据传，生野矿山的开采始于 807 年。生野矿山曾是日本开采量名列前茅的银矿之一。1868 年，明治政府投入了爆破、汞齐化法等最新工业技术，并选定生野为现代化示范矿山。他们请来以采矿专家让·弗朗西斯克·科涅特(Jean Francisque Coignet, 1835-1902)为首的几位法国工程师对矿山进行现代化改造。法国专家团中的莱昂·希思黎(Leon Sisley, 1847-1878)设计了一条采用马卡丹碎石筑路法的新路，来连接生野矿山和姬路的饰磨津码头。这条“生野矿山寮马车道”（今“银之马车道”）于 1876 年开通，马车的使用大幅提升了物资运输的速度。当时为这些法国工程师担任翻译的朝仓盛明(1843-1924)后来成为了生野矿山的首任局长。

1896 年，生野矿山被政府出售给三菱合资会社，最终于 1973 年关闭。次年，一条矿坑被改建成了旅游景点，里面陈列着采矿工具和被亲切称为“GINZAN BOYZ（银山小伙）”的矿工模型。观光矿坑进出口附近设有信息中心，还有一栋独立的建筑向参观者介绍江户时代(1603-1867)的冶炼工艺。

生野矿山相关遗迹（生野矿山和矿山町文化景观）是日本国家选定重要文化景观。

<繁体字>**生野礦山相關遺跡（生野礦山和礦山町文化景觀）**

據傳，生野礦山的開採始於 807 年。生野礦山曾是日本開採量名列前茅的銀礦之一。1868 年，明治政府投入爆破、汞齊化法等最新工業技術，指定生野為現代化示範礦山，並請來以採礦專家讓·法蘭西斯克·科涅特（Jean Francisque Coignet, 1835-1902）為首的法國工程師團隊對礦山進行現代化改造。法國專家團中的萊昂·希思黎（Leon Sisley, 1847-1878）則設計了一條採用馬卡丹碎石築路法的新路，連通生野礦山和姬路的飾磨津碼頭。這條「生野礦山寮馬車道」（今「銀之馬車道」）於 1876 年正式開通，馬車的使用大幅提升了物資運輸的速度。當時為這些法國工程師擔任翻譯的朝倉盛明（1843-1924）後來成為了生野礦山的首任局長。

1896 年，生野礦山被政府出售給三菱合資會社，最終於 1973 年關閉。次年，一條礦坑被改建成旅遊景點，裡面陳列著採礦工具和被親切地稱為「GINZAN BOYZ（银山男

孩)」的礦工模型。觀光礦坑進出口附近設有資訊中心，還有一棟獨立的建築向遊客介紹江戶時代（1603-1867）的冶煉工藝。

生野礦山相關遺跡（生野礦山和礦山町文化景觀）也是日本國家選定重要文化景觀。

<日本語仮訳>

生野鉱山関連遺構（生野鉱山及び鉱山町の文化的景観）

生野での採掘は 807 年に始まったと言われており、生野鉱山は日本屈指の銀採掘量を誇る鉱山であった。1868年に明治政府はダイナマイトやアマルガム製錬法など、当時の最新技術を投入し、近代化を進めるモデル鉱山として生野を選んだ。鉱山の専門家であるジャン・フランソワ・コワニエ（1837-1902）を筆頭にフランス人技師が鉱山の近代化のために雇われた。その中の一人、フランス人レオン・シスレー（1847-1878）は、生野鉱山と姫路の飾磨港を結ぶ新しいマカダム工法の道路を設計した。「生野鉱山寮馬車道（現在の「銀の馬車道」）が 1876 年に完成し、馬車による資材の輸送ははるかに速くなった。朝倉盛明（1843-1924）はフランス人技師たちの通訳を務め、のちに生野鉱山の初代局長となった。

1896 年、政府は生野鉱山を三菱合資会社に売却し、1973 年の閉山まで操業を続けた。その翌年、鉱山のひとつの坑道が観光用に整備された。採掘の道具や、親しみを込めて「GINZAN BOYZ」と呼ばれる鉱夫や作業員のマネキンを展示している。観光坑道の坑口の出入り口付近にはインフォメーションセンターと、江戸時代（1603-1867）の製錬工程を説明する建物がある。

生野鉱山関連遺構（生野鉱山及び鉱山町の文化的景観）は国選定重要文化的景観である。

【タイトル】 生野鉱山関連遺構（生野鉱山及び鉱山町の文化的景観）

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**生野矿山相关遗迹（生野矿山和矿山町文化景观）**

生野矿山曾是日本白银开采量名列前茅的矿山之一，也是第一家国营矿山。1868年，明治政府选定生野矿山为示范样本来推动现代化改造，并请来法国工程师团队协助施工。“生野矿山寮马车道”（今“银之马车道”）于1876年竣工，向南直通姬路港。生野也因此成为日本工业现代化的象征。

1973年，在持续开采了1000多年后，生野矿山关闭。此后不久，旧矿坑被改造成了旅游景点，通过各类展示向参观者介绍矿山的历史和不同时代的采矿技术。观光矿坑进出口附近设有信息中心，另有一栋独立建筑，里面着重介绍江户时代(1603-1867)的冶炼工艺。

生野矿山相关遗迹（生野矿山和矿山町文化景观）是日本国家选定重要文化景观。

<繁体字>**生野礦山相關遺跡（生野礦山和礦山町文化景觀）**

生野礦山曾是日本白銀開採量名列前茅的礦山之一，也是第一家國營礦山。1868年，明治政府選定生野礦山為推動現代化改造的示範點，並請來法國工程師團隊協助施工。「生野礦山寮馬車道」（今「銀之馬車道」）於1876年竣工，向南直通姬路港。生野也因此成為日本工業現代化的象徵。

1973年，在持續開採了1000多年後，生野礦山關閉。此後不久，舊礦坑被改造成旅遊景點，透過各類展示向遊客介紹礦山的歷史和不同時代的採礦技術。觀光礦坑進出口附近設有資訊中心，另有一棟獨立建築，著重介紹江戶時代（1603-1867）的冶煉工藝。

生野礦山相關遺跡（生野礦山和礦山町文化景觀）也是日本國家選定重要文化景觀。

<日本語仮訳>**生野鉱山関連遺構（生野鉱山及び鉱山町の文化的景観）**

生野鉱山は日本屈指の銀採掘量を誇る鉱山であった。1868年に、フランス人技師たちの協力を得て近代化を推進するために明治政府に選ばれた、最初の官営鉱山でもあった。姫路の港に向かって南へと続く「生野鉱山寮馬車道」（現在の「銀の馬車道」）は1876年に完成し、生野は日本の産業が近代化へと突き進む象徴となった。

生野鉱山は、1,000年以上にわたり採掘が続けられたのち、1973年に閉鎖された。その後まもなく、来訪者が鉱山の歴史や様々な時代の採掘技術について学べるように、旧坑道内に展示物が設置された。坑道出入口付近には、インフォメーションセンターと、江戸時代（1603-1867）の製錬工程を展示する建物がある。

生野鉱山関連遺構（生野鉱山及び鉱山町の文化的景観）は国選定重要文化的景観である。

【タイトル】 生野鉱山町（生野鉱山及び鉱山町の文化的景観）

【想定媒体】 案内板

<簡体字>**生野矿山相关遗迹（生野矿山和矿山町文化景观）**

生野矿山相关遗迹（生野矿山和矿山町文化景观）是日本国家选定重要文化景观。生野矿山町顺着市川河畔绵延 7 公里，昔日有一条沿河而行的铁路连接矿山与城镇，但如今只残存几段轨道。在姬宫桥上眺望城镇和河流美景的同时，也可以看到部分轨道。生野的中心有一座建于 1874 年的冶炼厂，至今还在炼锡。今天，生野矿山町仍是日本仅有的炼锡以及稀有金属再利用的矿工业基地，也是唯一一处能展现日本从中世纪（12-16 世纪）到近现代矿业技术发展和矿业市镇景观变迁的地方。

生野矿山町中心又称为“口银谷”，有几处建于不同年代的宅邸和建筑，有些早至江户时代(1603-1867)，被称作“井筒屋”的吉川家族住宅就是其中之一。吉川家族在江户时代拥有部分生野矿山的经营权。1999 年，该住宅被捐赠给了生野矿山町，如今里面陈列着各种讲述这座城镇历史的文献，内容生动有趣。在志村乔纪念馆，可以看到现三菱综合材料株式会社为员工建造的房屋。这些房屋分别再现了明治时代(1868-1912)、大正时代(1912-1926)与昭和时代(1926-1989)的风貌，并配备了同属这些时代的家具和用品。

<繁体字>**生野礦山相關遺跡（生野礦山和礦山町文化景觀）**

生野礦山相關遺跡（生野礦山和礦山町文化景觀）是日本國家選定重要文化景觀。生野礦山町順著市川河畔綿延 7 公里，昔日有一條沿河而行的鐵路連接礦山與城鎮，但如今只殘存幾段軌道。在姬宮橋上眺望城鎮和河流景致的同時，也可以看到部分軌道。生野的中心有一座建於 1874 年的冶煉廠，至今仍在煉錫。今天，生野礦山町仍是日本僅有的煉錫以及稀有金屬再利用的礦工業基地，也是唯一一處能展現日本從中世紀（12-16 世紀）到近代礦業技術發展和礦業市鎮景觀變遷的地方。

生野礦山町中心又稱為「口銀谷」，保留了一些建於不同年代的宅邸和建築，有些可以追溯到江戶時代（1603-1867），例如被稱作「井筒屋」的吉川家住宅就是其中之一。吉川家在江戶時代擁有部分生野礦山的經營權。1999 年，該住宅被捐贈給了生野礦山町，如今裡面陳列著各種講述這個城鎮歷史的文獻，內容引人入勝。在志村喬紀念館，可以看到現三菱綜合材料株式會社為員工建造的房屋。這些房屋分別再現了明治時代（1868-

1912)、大正時代(1912-1926)與昭和時代(1926-1989)的風貌,並配備了同屬這些時代的傢俱和用品。

<日本語仮訳>

生野鉾山関連遺構(生野鉾山及び鉾山町の文化的景観)

生野鉾山関連遺構(生野鉾山及び鉾山町の文化的景観)は国選定重要文化的景観である。生野鉾山町は市川沿いにおよそ7キロメートルに伸びている。かつては、鉄道が鉾山から川沿いに町まで通っていたが、今日では古い線路の一部が残るのみである。その一部はいまも姫宮橋の上から見ることができ、川や町の素晴らしい景色を眺めることができる。生野の中心には1874年に建てられた製錬工場があって、現在も錫の製錬を行っている。この町はいまなお日本唯一の錫製錬や、レアメタルリサイクルなどの鉾工業が営まれており、また、日本で唯一、中世から近現代までの鉾工業技術史及び鉾山都市史の変遷を理解することができる鉾工業都市景観が維持されている。

「口銀谷(くちがなや)」として知られる町の中心部には、様々な時代の屋敷や建物が多く集まっており、中には江戸時代(1603-1867)にさかのぼる建物もある。その一つに「井筒屋」があり、江戸時代に生野鉾山の一部を経営していた吉川家の屋敷である。この屋敷は1999年に寄贈され、町の歴史がよく分かる興味深い資料を展示している。志村喬記念館には、現三菱マテリアル株式会社が従業員のために建てた家々が展示されている。これらの展示は、明治(1868-1912)、大正(1912-1926)、昭和(1926-1989)期に及ぶ様子を再現し、さらにそれらの時代の家具や家電製品も展示されている。

【タイトル】 生野鉱山町（生野鉱山及び鉱山町の文化的景観）

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**生野矿山相关遗迹（生野矿山和矿山町文化景观）**

生野矿山相关遗迹（生野矿山和矿山町文化景观）是日本国家选定重要文化景观。生野矿山町沿着市川河畔绵延 7 公里。在姬宫桥上，可以看到对岸建于不同时代的宅邸和建筑，其中一些早至江户时代(1603-1867)。城中 4 处最古老的住宅经过翻修，免费对外开放。志村乔纪念馆里展示的是现三菱综合材料株式会社为员工建造的房屋，分别建于明治(1868-1912)、大正(1912-1926)与昭和(1926-1989)三个时代。这里的特色美食是在米饭上放法式炖牛肉浇头的“日式牛肉烩饭”。自早年法国工程师在生野矿山生活、工作以来，这座小镇便一直深受西方文化影响。

<繁体字>**生野礦山相關遺跡（生野礦山和礦山町文化景觀）**

生野礦山相關遺跡（生野礦山和礦山町文化景觀）是日本國家選定重要文化景觀。生野礦山町沿著市川河畔綿延 7 公里。在姬宮橋上，可以看到對岸建於不同時代的宅邸和建築，其中一些甚至可以追溯至江戶時代（1603-1867）。城中 4 處最古老的住宅經過翻修，免費對外開放。志村喬紀念館裡展示的是現三菱綜合材料株式會社為員工建造的房屋，分別建於明治（1868-1912）、大正（1912-1926）與昭和（1926-1989）三個時代。當地的特色美食是在白飯上放法式燉牛肉的「日式牛肉燴飯」。自早年法國工程師在生野礦山生活、工作以來，這座小鎮便一直深受西方文化影響。

<日本語仮訳>**生野鉱山関連遺構（生野鉱山及び鉱山町の文化的景観）**

生野鉱山関連遺構（生野鉱山及び鉱山町の文化的景観）は国選定重要文化的景観である。生野鉱山町は市川沿いにおよそ 7 キロメートルに伸びている。姫宮橋から対岸を眺めると、様々な時代の屋敷や建物が並んでおり、中には江戸時代(1603-1867)まで遡るものもある。そのうちの最も古い 4 棟が改装され、来訪者に無料で開放されている。志村喬記念館には、明治（1868-1912）、大正（1913-1926）、昭和（1926-1989）期にわたり三菱マテリアル株式会社の従業員のために建てられた家々が保存されている。地元の名物は、ご飯にビーフシチューをかける料理

「ハヤシライス」。フランス人技師が生野鉱山に住み、働いていた時代から、西洋文化の影響を大きく受けた町である。

【タイトル】 神子畑鑄鐵橋・羽瀨鑄鐵橋

【想定媒体】 案内板

<簡体字>**神子畑铸铁桥和羽瀨铸铁桥**

神子畑（音同“田”）铸铁桥和羽瀨（音同“渊”）铸铁桥是“矿石之道”上的两座桥梁，于1883年同时开始建造，分别于1885年和1887年竣工。矿石之道，是把附近明延和神子畑开采、分选后的矿石运输到生野的干道。采矿技术的发展势必增加开采量，因此这两座桥采用了铸铁建造，不仅具备卓越的耐久性，还能承受矿石的重量。

神子畑铸铁桥是日本最早的全铸铁桥，也是第三古老的铁桥。它是日本工程师在法国设计师指导下完成的作品，因此尽管建造年代早于埃菲尔铁塔，设计却极为相似。桥梁在横须贺的一家钢厂铸造，然后经由“生野矿山寮马车道”（今“银之马车道”）运到现场，再由技师们当场组装完成。

神子畑和羽瀨铸铁桥原本都架于圆山川上，1995年遭受台风破坏后，羽瀨铸铁桥需要修复，河道也需拓宽以防洪水，因而将此桥迁移至别处。神子畑铸铁桥还保留在原地，1977年被指定为国家重要文化财产。

<繁体字>**神子畑鑄鐵橋和羽瀨鑄鐵橋**

神子畑（音同「田」）鑄鐵橋和羽瀨（音同「淵」）鑄鐵橋是「礦石之道」上的兩座橋樑，均於1883年開始建造，分別於1885年和1887年完工。礦石之道是把明延和神子畑開採分選後的礦石運輸到生野的一條幹道。考量到採礦技術的發展會增加開採量，這兩座橋使用鑄鐵建造，不僅具備卓越的耐久性，還能承受更重的重量。

神子畑鑄鐵橋是日本最早的全鑄鐵橋，也是第三古老的鐵橋。它是日本工程師在法國設計師指導下完成的作品，因此儘管建造年代早於艾菲爾鐵塔，設計上卻極為相似。橋樑在橫須賀的鋼廠鑄造，然後通過「生野礦山寮馬車道」（今「銀之馬車道」）運到施工現場，再由技師們組裝完成。

神子畑和羽瀨鑄鐵橋原本都架於圓山川上，1995年遭受颱風破壞後，羽瀨鑄鐵橋需要修復，河道也需拓寬以防洪水，因而將此橋遷移至別處。神子畑鑄鐵橋則保留在原地，1977年被指定為國家重要文化財產。

<日本語仮訳>

神子畑鑄鉄橋・羽瀨鑄鉄橋

神子畑鑄鉄橋と羽瀨鑄鉄橋は「鉾石の道」の道中に架かる橋で、1883年に建設が開始され、それぞれ1885年、1887年に完成した。「鉾石の道」は鉾山町である明延、神子畑で採掘し選鉾された鉾物を生野に運ぶために作られたものである。「鉾石の道」に架かる橋は、採掘技術の向上から、輸送量が増えることが予想されたため、鉾物の重量にも耐えうる最も耐久性のある材料として鑄鉄によって作られた。

神子畑鑄鉄橋は日本最古の全鑄鉄の橋であり、鉄製の橋としては日本で3番目に古いものである。橋はエッフェル塔よりも前に建てられたが、似たデザインをしている。これは、フランス人設計者の指導の下、日本人技師が設計したためだ。横須賀製鉄所で鑄造されたのち、「生野鉾山寮馬車道」（現在の「銀の馬車道」）を使って運ばれ、現場で組み立てられた。

元々、神子畑鑄鉄橋と羽瀨鑄鉄橋は共に円山川に架かっていた。しかし1995年の台風によって被害を受け修理が必要となったこと、加えて洪水対策のために河川の拡張工事が行われたことから、羽瀨鑄鉄橋は移築された。神子畑鑄鉄橋は元の場所に残っており、1977年に国の重要文化財に指定された。

【タイトル】 神子畑鑄鉄橋・羽瀨鑄鉄橋

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**神子畑铸铁桥和羽瀨铸铁桥**

坐落于“矿石之道”上的神子畑（音同“田”）铸铁桥和羽瀨（音同“渊”）铸铁桥，分别于 1885 年和 1887 年落成通车。矿石之道，是把明延和神子畑开采、分选后的矿石运输到生野的干道。采矿技术的发展势必带来运输量的增加，为了承受矿石的重量，这两座桥采用了铸铁建造。神子畑铸铁桥是日本最早的全铸铁桥，也是第三古老的铁桥。这条运矿路上原本有 5 座桥，但如今只剩下神子畑和羽瀨铸铁桥。

1995 年，羽瀨铸铁桥因遭受台风破坏需要修复，且河道也需拓宽以防洪水，所以被迁至现址。但神子畑铸铁桥还在原地，1977 年被指定为国家重要文化财产。

<繁体字>**神子畑鑄鐵橋和羽瀨鑄鐵橋**

坐落於「礦石之道」上的神子畑（音同「田」）鑄鐵橋和羽瀨（音同「淵」）鑄鐵橋，分別於 1885 年和 1887 年落成通車。礦石之道，是把明延和神子畑開採分選後的礦石運到生野的一條幹道。考量到新的採礦技術會帶來運輸量的增加，因此這兩座橋採用了鑄鐵建造，以承受礦石的重量。神子畑鑄鐵橋是日本最早的全鑄鐵橋，也是第三古老的鐵橋。這條運礦幹道上原本有 5 座橋，但如今僅剩下神子畑和羽瀨鑄鐵橋。

1995 年，羽瀨鑄鐵橋因遭受颱風破壞需要修復，且河道也需拓寬以防洪水，所以被遷至現址。而神子畑鑄鐵橋還留在原地，1977 年被指定為國家重要文化財產。

<日本語仮訳>**神子畑鑄鉄橋・羽瀨鑄鉄橋**

神子畑鑄鉄橋と羽瀨鑄鉄橋はそれぞれ 1885 年、1887 年に完成した。明延、神子畑で採掘し選鉱された鉱物を生野に運ぶために作られた「鉱石の道」の道中の河川に架けられたもので、採掘技術の向上から、輸送量が増えることが予想され、かつ鉱物の重量に耐えるために鑄鉄で作られた。神子畑鑄鉄橋は日本で最も古い全鑄鉄の橋であり、鉄製の橋として 3 番目に古いものである。元々「鉱山の道」には 5 つの橋があったが、神子畑鑄鉄橋と羽瀨鑄鉄橋のみが現存している。

1995年の台風によって被害を受け修理が必要となったこと、加えて洪水を防ぐに河川の拡張工事が行われたことから、羽淵鑄鉄橋は現在の場所へ移築された。しかし神子畑鑄鉄橋はいまも同じ場所にあり、1977年に国の重要文化財に指定された。

【タイトル】 神子畑選鉱場跡

【想定媒体】 案内板

<簡体字>**神子畑選礦場遺址**

据传，大约 1000 多年前人们就已经在神子畑（音同“田”）开采银矿。但和生野一样，神子畑也是在 15 世纪才进入全面开采期，并迅速成长为该地区产量最高的矿山之一，又在 19 世纪 70 年代晚期至 90 年代中期迎来了最鼎盛期。1896 年，三菱合资会社收购了矿山。1909 年，在明延矿山发现新矿脉后，现三菱综合材料株式会社关闭神子畑矿，兴建了选矿场。此后几经扩建，到 1949 年时这里已成为东亚最大的选矿场。锌、铜、锡等矿料均从明延用火车运来此地加工。

神子畑选矿场位于一座陡坡上。明延运来的矿料从坡顶倒入选矿场，碾碎后与水混合成浆，然后在经过一系列选矿工序后再顺山势往下流。选矿的最后一步是排水，只留下矿物，此道工序使用的设备是一种叫“浮选槽”的巨型水泥漏斗。

选矿场于 1987 年关闭，2004 年被拆除，如今能看到的只有混凝土地基和浮选槽。

<繁体字>**神子畑選礦場遺址**

據傳，神子畑（音同「田」）開採銀礦的歷史可上溯到千年前。但如同生野，神子畑也是在 15 世紀才進入全面開採期，並迅速發展為該地區產量最高的礦山之一，又在 1870 年代晚期至 1890 年代中期迎來了全盛時代。1896 年，三菱合資會社收購了神子畑礦山。1909 年，在明延礦山發現新礦脈後，現三菱綜合材料株式會社關閉神子畑礦，興建了選礦場。此後幾經擴建，到 1949 年時這裡已成為東亞最大的選礦場。鋅、銅、錫等礦料均從明延用火車運來此地加工。

神子畑選礦場位於一座陡坡上。明延運來的礦料從坡頂倒入選礦場，碾碎後與水混合成漿，然後在經過一系列選礦工序後再順山勢往下流。選礦的最後一步是排水，只留下礦物，此道工序使用的設備是一種叫「浮選槽」的巨型水泥漏斗。

選礦場於 1987 年關閉，2004 年被拆除，如今能看到的只有混凝土地基和浮選槽。

<日本語仮訳>**神子畑選鉱場跡**

神子畑での銀の採掘は 1,000 年以上前に始まったと伝えられている。15 世紀には、神子畑は生野とともに本格的な採掘がはじまり、この地域で最も生産性の高い鉱山のひとつとなった。最盛期は、1870 年代末から 1890 年代半ばまでであった。1896 年に鉱山は三菱合資会社に売却されたが、1909 年、明延鉱山にて新しい鉱脈が発見されたことにより、1919 年、現三菱マテリアル株式会社は神田畑鉱山を閉鎖し、選鉱場を建設した。以降、何度も拡張工事を行い、1949 年には東アジア最大の選鉱場として知られる規模となった。亜鉛、銅、錫を含む鉱石は列車で明延から運ばれた。

神子畑選鉱場は険しい斜面に建てられた。明延から運ばれた鉱石は頂上から選鉱場内部に入られる。そこで砕かれ水と混ぜ合わされてスラリー（泥漿）が作られる。スラリーは選鉱のための様々な工程を経ながら、さらに斜面を下っていく。最終工程にて水分が取り除かれ、鉱物のみが残される。その最終工程に使われたのが「シックナー」と呼ばれる巨大なセメントの漏斗である。

工場は 1987 年に閉鎖し、2004 年に解体されたが、コンクリートの建物基礎部とシックナーだけが残っている。

【タイトル】 神子畑選鉱場跡

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**神子畑選鉱場遺址**

据说，大约 1000 多年前人们就已经在神子畑（音同“田”）采矿。和邻近的生野、明延矿山一样，神子畑矿山几百年来一直出产银和铜，并在 19 世纪末期迎来巅峰期。1909 年明延矿山发现新矿脉后，神子畑矿山于 1919 年关闭，并被改造为选矿场。此后几经扩建，神子畑成为东亚最大的选矿场。

明延开采的矿料由火车送到神子畑选矿场，经过一系列工序提取铜、锌、锡等矿物后，再将这些矿物运往别处冶炼。

选矿场于 1987 年关闭，场内建筑于 2004 年被拆除，如今能看到的只有混凝土地基和用来排水、过滤的巨大水泥漏斗“浮选槽”。

<繁体字>**神子畑選礦場遺址**

據說，神子畑（音同「田」）採礦的歷史可追溯到 1000 多年前。和鄰近的生野、明延礦山一樣，神子畑礦山數百年持續出產銀和銅，並在 19 世紀末期迎來全盛時期。1909 年明延礦山發現新礦脈後，神子畑礦山於 1919 年關閉，並被改造為選礦場。此後幾經擴建，神子畑發展成為東亞最大的選礦場。

明延開採的礦料由火車送到神子畑選礦場，經過一系列工序提取銅、鋅、錫等礦物後，再將這些礦物運往別處冶煉。

選礦場於 1987 年關閉，場內建築在 2004 年被拆除，如今能看到的只有混凝土地基和用來排水、過濾的巨大水泥漏斗「浮選槽」。

<日本語仮訳>**神子畑選鉱場跡**

神子畑での採鉱は、1,000 年以上の歴史があると伝えられている。近隣の明延や生野の鉱山とともに神子畑は何世紀もの間銀や銅などを産出し、19 世紀末頃に最盛期を迎えた。1909 年、明延鉱山にて新しい鉱脈が発見されたことにより、1919 年、神子畑鉱山を閉鎖し、新たに選鉱場を建設した。以降、何度も拡張工事を行い、東アジア最大規模の選鉱場と呼ばれるようになった。

明延で採掘された鉱石は、列車で神子畑選鉱場まで運ばれ、そこで様々な工程を経て必要な鉱物のみを選鉱される。選鉱された銅、亜鉛、錫は製錬のためほかの場所に運ばれた。

選鉱場は 1987 年に閉鎖した。建物は 2004 年に解体されたが、コンクリートの建物基礎部と脱水・濾過を行う巨大な漏斗状の「シックナー（セメントの漏斗）」はいまなお残っている。

【タイトル】旧神子畑鉱山事務舎（ムーセ旧居）

【想定媒体】案内板

<簡体字>

旧神子畑矿山办公地（穆谢故居）

这栋建筑是 1872 年为法国地质学家及工程师埃米尔·泰奥菲尔·穆谢(Émile Théophile Mouchet, 1845-1895)在生野建造的住宅，由法国建筑师 M. J. 乐加斯 (M. J. Lescasse, 生卒年不详) 设计。穆谢担任生野矿山副指挥官时，和妻子以及他们的 5 个孩子住在这里。他们一家回法国后，房屋于 1888 年被迁至神子畑（音同“田”），成为矿山办公地。次年又归宫内省（今宫内厅）管辖，至今屋顶上仍装饰着象征日本皇室的菊花瓦片。

继 1987 年神子畑选矿场关闭后，2004 年穆谢故居被改造为一处资料馆，主要展示从前的选矿场图片、矿石矿物标本以及介绍选矿工序的模型。

尽管历经数次翻修，此建筑基本保持原貌，窗户和百叶窗依然如故，外观也完美再现了其最初的风貌。1992 年，穆谢故居被指定为兵库县物质文化财产。

<繁体字>

舊神子畑礦山辦公地（穆謝故居）

這棟建築是 1872 年為法國地質學家及工程師埃米爾·泰奧菲爾·穆謝 (Émile Théophile Mouchet, 1845-1895) 在生野建造的住宅，由法國建築師 M. J. 樂加斯 (M. J. Lescasse, 生卒年不詳) 設計。穆謝擔任生野礦山副指揮官時，和妻子以及他們的 5 個孩子住在這裡。穆謝一家回法國後，房屋於 1888 年被遷至神子畑（音同「田」），成為礦山辦公地。次年又歸宮內省（今宮內廳）管轄，至今屋頂上仍裝飾著象徵日本皇室的菊花瓦片。

繼 1987 年神子畑選礦場關閉後，2004 年穆謝故居被改造為一處資料館，主要展示過去的選礦場圖片、礦石和礦物標本以及介紹選礦工序的模型。

儘管歷經數次翻修，此建築基本保持原貌，窗戶和百葉窗依然如故，外觀也完美再現了其最初的風貌。1992 年，穆謝故居被指定為兵庫縣物質文化財產。

<日本語仮訳>

旧神子畑鉱山事務舎（ムーセ旧居）

フランス人の地質学者であり技師であった、エミル・テオフィール・ムーセ（1845-1895）のために 1872 年に生野に建てられた邸宅。フランス人建築家の M.J.レスカス（生没年不明）が設計した建

物で、生野鉱山で副指揮官として働いていたムーセと彼の妻、そして 5 人の子供が住んでいた。ムーセが帰国した後、この家は 1888 年に神子畑へ移築され、鉱山事務舎として使われていた。その翌年には宮内省に移管され、天皇家の象徴である菊の瓦がいまも屋根を飾っている。

1987 年の神子畑選鉱場の閉鎖後、2004 年のムーセ旧居は資料館となった。その展示品の中には古い選鉱場の写真、鉱石や鉱物のサンプルや選鉱作業を説明するジオラマなどがある。

建物には何度かの補修の跡が見られるが、当初の姿とほぼ同じ状態で残っている。元の窓と雨戸は当時のまま、当時の外観と同じように塗装されている。1992 年、ムーセ旧居は兵庫県の有形文化財に指定された。

【タイトル】 旧神子畑鉱山事務舎（ムーセ旧居）

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**旧神子畑矿山办公地（穆谢故居）**

这栋建筑是 1872 年为法国地质学家及工程师埃米尔·泰奥菲尔·穆谢(Émile Théophile Mouchet, 1845-1895)在生野建造的住宅。穆谢负责协助生野矿山的机械化和现代化改造工程。任期结束后，他偕家人返回法国。这栋房屋于 1888 年被迁至神子畑（音同“田”），成为矿山办公地。一直到 1987 年神子畑矿山关闭前，此处建筑先后被许多人用于各种目的。

2004 年，穆谢故居经翻修恢复原貌后，被改造为一座资料馆，主要用于展示照片、模型及矿石标本。

<繁体字>**舊神子畑礦山辦公地（穆謝故居）**

這棟建築是 1872 年為法國地質學家及工程師埃米爾·泰奧菲爾·穆謝(Émile Théophile Mouchet, 1845-1895)在生野建造的住宅。穆謝負責協助生野礦山進行機械化和現代化改造。任期結束後，他偕家人返回法國。這棟房屋於 1888 年被遷至神子畑（音同「田」），成為礦山辦公地。一直到 1987 年神子畑礦山關閉前，此處建築先後被許多人用於各種目的。

2004 年，穆謝故居經翻修恢復原貌後，被改造為一座資料館，主要用於展示照片、模型及礦石標本。

<日本語仮訳>**旧神子畑鉱山事務舎（ムーセ旧居）**

ムーセ旧居は、フランス人の技師であり地質学者であったエミル・テオフィール・ムーセ（1845-1895）のために、1872 年に生野に建てられた。生野鉱山の機械化・近代化支援する任務を受けたムーセとその家族は、任期を終えるとフランスに帰国した。1888 年にムーセ旧居は神子畑に移築され、鉱山事務舎として使われることになった。1987 年に神子畑鉱山が閉鎖するまで、この建物は様々な用途で多くの人に使用された。

2004 年、ムーセ旧居は歴史的な外観を取り戻すための改築が行われ、資料館として整備された。展示品には写真やジオラマ、鉱石のサンプルなどがある。

【タイトル】 明延鉱山明神電車

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**明延矿山明神电车**

明延矿山明神电车于 1929 年全面开通。这条长 6 公里的电气化铁路，经由山中隧道将明延矿山的矿石运送至神子畑（音同“田”）选矿场。为方便矿场工人和往来于两地间的其他人员，明神电车后来又增加了客运车厢。客运车厢的票价仅为 1 日元，因此又被称作“一元电车”。明神电车从 1945 年一直运营至 1985 年，此后有 3 节客车留在明延矿山附近展示，其中 1 节如今行驶在一段新建的 150 米长的轨道上，供参观者乘坐体验。客车在 4 月至 11 月之间，每月的第一个周日以及黄金周（4 月底至 5 月初）、暑假等特定假日运行。来访者最好在官网上提前确认运行日期 <http://www.akenobe-kozan.com/>。

<繁体字>**明延礦山明神電車**

明延礦山明神電車於 1929 年正式開通。這條長 6 公里的電氣化鐵路，穿過山中隧道將明延礦山的礦石運送至神子畑（音同「田」）選礦場。為方便礦場工人和往來於兩地間的其他人員，明神電車後來又增加了客運車廂。客運車廂的票價僅為 1 日圓，因此又被稱作「一圓電車」。明神電車從 1945 年營運至 1985 年，停運後有 3 節客車留在明延礦山附近展示，其中 1 節如今行駛在一段新建的 150 公尺長的軌道上，供遊客乘坐體驗。客車在 4 月至 11 月之間，每月的第一個周日以及黃金周（4 月底至 5 月初）、暑假等特定假日運行。遊客最好在官網上提前確認運行日期 <http://www.akenobe-kozan.com/>。

<日本語仮訳>**明延鉱山明神電車**

明延鉱山明神電車は、明延から山のトンネルを通り神子畑選鉱場まで鉱石を運ぶために 1929 年に開通した、全長 6 キロメートルの電化鉄道である。貨物列車に加えて、鉱山の労働者や二つの町を行き来する人々のために客車も走っていた。客車の乗車賃がちょうど一円だったため、「一元電車」として知られるようになり、1945 年から 1985 年まで運行されていた。客車のうちの 3 輛は明延鉱山の近くにいまも展示されており、1 輛は新たに建設された 150 メートルの線路で体験乗車を行っている。4 月から 11 月の期間、毎月第 1 日曜日や夏休み・ゴールデンウィークなどの特定日に乗車会が実施されており、詳細は公式サイトでご確認ください、<http://www.akenobe-kozan.com/>。

【タイトル】 明延鉱山明神電車

【想定媒体】 パンフレット

<簡体字>**明延矿山明神电车**

明延矿山明神电车于 1929 年全面开通。这条长 6 公里的电气化铁路，将明延的矿石运送至神子畑（音同“田”）选矿场。1945 年，明神电车增加了能通过狭窄隧道的客运车厢，方便矿山员工往来于两地。1949 年，这一服务惠及大众，成为便利的通勤和日常生活线路。因车票仅需 1 日元，被称作“一元电车”。客车每日运营一直持续至 1985 年，两年后明神电车彻底停运，明延矿山也同时关闭。

此后，有 3 节客运车厢留在明延矿山附近展示，分别被称作“银”(shirogane)、“铜”(akagane)和“铁”(kurogane)。2010 年，在一项全国性的筹款运动和志愿者的努力下，当地修建了一条长 150 米的轨道，启用“铁”车厢供访客乘坐体验。该车厢在 4 月至 11 月间，每月的第一个周日以及黄金周、暑假等特定假日运行。来访者最好在官网上提前确认运行日期 <http://www.akenobe-kozan.com/>。

<繁体字>**明延礦山明神電車**

明延礦山明神電車於 1929 年正式開通。這條長 6 公里的電氣化鐵路，將明延的礦石運送至神子畑（音同「田」）選礦場。1945 年，明神電車增加了能通過狹窄隧道的客運車廂，方便礦場員工往來於兩地。1949 年，這一服務惠及大眾，成為便利的通勤和日常生活線路。由於車票僅需 1 日圓，因此又被稱作「一圓電車」。客車營運至 1985 年，兩年後明神電車停運，明延礦山也同時關閉。

停運後有 3 節客運車廂留在明延礦山附近展示，被稱為「銀」(shirogane)、「銅」(akagane)和「鐵」(kurogane)車廂。2010 年，透過全國性的募款活動和志工的努力下，當地修建了一條長 150 公尺的軌道，啟用「鐵」車廂提供訪客乘坐體驗。該車廂在 4 月至 11 月間，每月的第一個周日以及黃金周、暑假等特定假日運行。遊客最好在官網上提前確認運行日期 <http://www.akenobe-kozan.com/>。

<日本語仮訳>**明延鉱山明神電車**

1929年に開通した明延鉱山明神電車は、明延の鉱山から神子畑選鉱場まで鉱石を運ぶ6キロメートルの電化鉄道であった。1945年、狭いトンネルに合うよう設計された客車を加え、鉱山従業員は二つの町を行き来できるようになった。1949年には一般にも開放され、便利な通勤・生活経路となった。電車の運賃がちょうど1円だったことから「1円電車」の名で知られるようになった。客車は、明神電車が廃線となり、明延鉱山が閉鎖される2年前の1985年まで、毎日運行されていた。

客車のうち3輛はいまも明延に展示されており、「しろがね（銀）」、「あかがね（銅）」、「くろがね（鉄）」と呼ばれている。2010年、全国規模の募金運動とボランティア活動により、「くろがね」用の150メートルの線路が造られた。4月から11月の期間、毎月第1日曜日や夏休み・ゴールデンウィークなどの特定日に乗車会が実施されており、詳細は公式サイトでご確認ください、<http://www.akenobe-kozan.com/>。

【タイトル】 明延鉱山関連遺構・明延鉱山町

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**明延矿山相关遗迹和明延矿山町**

据说，明延矿山在 8 世纪前后就已经开始开采。人们在这里发现了多种金属矿，但以铜和锡的产量最大。传闻明延还为奈良东大寺那尊有名的大佛提供了部分铜材。

江戸時代(1603-1867)至明治時代(1868-1912)早期，明延矿山始终在政府控制之下，直到 1896 年被售予三菱合资会社。1987 年，矿山关闭，第 3 层以下的矿坑全部没入水中，最上面的两层则留作科普教育之用。参加导览游可以进入矿坑，这些区域基本保留着开采时期的原貌，里面还展示着轨道矿车及重型采矿机械。

<繁体字>**明延礦山相關遺跡和明延礦山町**

據說，明延礦山在 8 世紀左右就已經開始開採。這裡發現了多種金屬礦，但以銅和錫的產量最大。傳聞，奈良東大寺那尊著名大佛的部分銅材也來自於此。

江戸時代（1603-1867）至明治時代（1868-1912）早期，明延礦山由政府控制，直到 1896 年被售予三菱合資會社。1987 年，礦山宣告關閉，第 3 層以下的礦坑全部沒入水中，最上面的兩層則留作科普教育之用。參加導覽可以進入礦坑，這些區域基本保留著開採時期的原貌，裡面還展示著軌道礦車及重型採礦機械。

<日本語仮訳>**明延鉱山関連遺構・明延鉱山町**

明延鉱山での操業は 8 世紀頃始まったと言われている。様々な金属が発見されたが、産出量が最も多かったのは銅と錫であった。奈良の東大寺の有名な大仏に使われている銅の一部も明延産だと伝えられる。

江戸時代（1603-1867）から明治時代（1868-1912）の初期にかけて政府の管理下にあった明延鉱山は、1896 年に三菱合資会社に売却された。1987 年には閉山となり、2 層目以下の坑道はすべて水没の処置が取られた。しかし、それより上の層は教育目的のため保存されている。ガイド付きツアーで見学できるこのエリアは、鉱山が操業していたときとほぼ同じ状態のままである。鉱山トロッコや重厚な採掘機械類も展示されている。

【タイトル】 明延鉱山関連遺構・明延鉱山町

【想定媒体】 パンフレット

<簡体字>**明延矿山相关遗迹和明延矿山町**

明延矿山据传在 8 世纪前后就已经开始开采，直到 1987 年才关闭。该矿山铜和锡的产出量最大，特别是锡，一度占据了全日本 90% 的市场，产量位居全国第一。直到今天，矿井里还能清晰地看见矿脉。只是 20 世纪 80 年代起，日元升值导致按美元结算的锡价一路下跌，最终矿山不得不关闭。

矿山关闭前，上下各有 18 层，总共 36 层，矿坑全长 550 公里。虽然第 3 层以下的矿坑被有意淹没，但最上面的两层被保留了下来，来访者参加导览游便可入内参观。

矿内温度一年四季保持在 11 摄氏度左右，是陈化酱油和日本清酒的理想场所。山阳杯酒造（酿酒厂）采用本地大米和水生产的特色日本清酒“仙樱”，就是在矿井里的酒窖“明寿藏”中陈酿而成。

<繁体字>**明延礦山相關遺跡和明延礦山町**

明延礦山據說在 8 世紀左右就已經開始開採，直到 1987 年才關閉。此處以銅和錫的產出量最大，明延出產的錫一度佔據了全日本 90% 的市場，產量位居全國第一。直到今天，礦井裡還能清晰地看見礦脈，但在 1980 年代，日圓升值導致以美元結算的錫價一路下跌，最終礦山不得不關閉。

明延礦山關閉前，上下各有 18 層，總共 36 層，礦坑總長達 550 公里。雖然第 3 層以下的礦坑被有意淹沒，但最上面的兩層被保留了下來，參加當地舉辦的導覽便可入內參觀。

礦內溫度一年四季保持在攝氏 11 度左右，是陳化醬油和日本清酒的理想場所。山陽杯酒造（釀酒廠）採用當地大米和水製作特色日本清酒「仙櫻」，正是在礦井裡的酒窖「明壽藏」中陳釀而成。

<日本語仮訳>**明延鉱山関連遺構・明延鉱山町**

明延鉱山は 8 世紀頃から 1987 年の閉山まで操業していたと言われている。最も産出量が多かった鉱石は銅と錫で、一時明延は日本の錫の 9 割を供給しており、錫の産出量は国内第 1 位であつ

た。現在も鉱脈は見えているが、1980年代までに円高の影響により、ドルによる錫の国際価格の低下が止まらない時代を迎えたことから、鉱山は閉鎖した。

鉱山が閉鎖した当時は、明延鉱山は上層 18 層、下層 18 層の 36 層になっており、総計 550 キロメートルになる坑道があった。2 層目以下の坑道はすべて水没の処置が取られたが、それより上の層は保存され、ガイドツアーが実施されている。

坑道は 1 年を通じて摂氏 11 度前後を保っており、醤油や酒の熟成に理想的な環境となっている。山陽盃酒造は地元産の米と水を使い、「仙櫻（せんさくら）」と呼ばれる特別な日本酒を造っており、その酒が鉱山内にある熟成庫「明壽蔵（めいしゅぐら）」で寝かされる。

【タイトル】 中瀬鉱山関連遺構・中瀬鉱山町

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**中瀬鉱山相关遗迹和中瀬鉱山町**

1573年，人们在流经中瀬的八木川中发现了黄金。很快，一座金矿被开发出来，并成为政府极其重要的收入来源。矿区戒备森严，绝不亚于“城下町”（围绕城郭发展起来的市镇）的安保。从安土桃山时代(1573-1603)至江户时代(1603-1867)前期，这里一直是日本近畿地区最大的金山之一。后来，中瀬又发现了锑矿，到20世纪中叶，中瀬矿山成为了日本最大的锑产地。1969年，中瀬矿山关闭，但矿区仍在继续冶炼从中国进口的锑矿石。如今，日本国内70%的锑产品仍然出自中瀬。旧矿区不对外开放，但游客可以在中瀬游客中心参加中瀬町导览游。

<繁体字>**中瀬礦山相關遺跡和中瀬礦山町**

1573年，流經中瀬的八木川中發現了黃金。開採金礦的礦業迅速崛起，並成為政府極其重要的收入來源，因此礦區的守衛如「城下町」（圍繞城郭發展起來的市鎮）一般森嚴。從安土桃山時代（1573-1603）至江戶時代（1603-1867）前期，這裡一直是日本近畿地區最大的金山之一。後來，中瀬又發現了錒礦，到20世紀中葉，中瀬礦山成為日本最大的錒產地。1969年，中瀬礦山關閉，但礦區仍在繼續冶煉從中國進口的錒礦。如今，日本國內70%的錒產品仍然出自中瀬。舊礦區不開放參觀，但遊客可以在中瀬遊客中心參加中瀬町導覽。

<日本語仮訳>**中瀬鉱山関連遺構・中瀬鉱山町**

1573年、中瀬を流れる八木川で金が発見された。その後まもなく鉱山が開かれたが、政府にとって非常に重要な収入源となったことから、採掘地域は城下町（城郭を中心に発達した都市）並みに厳重に警備されていた。安土・桃山時代（1573-1603）から江戸時代（1603-1867）前期には近畿地方最大級の金山として栄えた。のちにアンチモンが発見され、20世紀中頃までに中瀬鉱山は日本で最大のアンチモン鉱石の産出地となった。鉱山は1969年に閉鎖されたが、中国から輸

入するアンチモンの精錬は続けられた。国内すべてのアンチモン製品の7割がいまも中瀬で生産されている。旧鉾山の見学はできないが、中瀬の観光案内所では町のガイド付きツアーを実施している。

【タイトル】 中瀬鉱山関連遺構・中瀬鉱山町

【想定媒体】 パンフレット

<簡体字>**中瀬矿山相关遗迹和中瀬矿山町**

1573年，中瀬的八木川中首次发现黄金，很快一座金矿被开发出来。中瀬成为政府极为重要的收入来源之地，守卫如同“城下町”（围绕城郭发展起来的市镇）一般森严，三重门户的进出都受到严密管控。从安土桃山时代(1573-1603)至江户时代(1603-1867)前期，这里一直是日本近畿地区最大的金山之一。后来，中瀬又发现了锑矿，到20世纪中叶，中瀬矿山成为日本最大的锑产地。

1969年前后，由于锑等矿物储量不断减少，中瀬矿山关闭，并开始从中国进口加工铸块的原材料。中瀬的人口迅速流失，建于江户时代的8座寺院也只剩下5座。但矿区还在继续冶炼从中国进口的锑矿石，如今日本国内70%的锑产品依然出自中瀬。

游客中心有一些漂亮的矿产样本展示。中瀬所产的矿石中，最令人惊叹的是一块重626克内含石英的原生金块，现陈列于美国的史密森尼博物馆(Smithsonian Museum)。

<繁体字>**中瀨礦山相關遺跡和中瀨礦山町**

1573年，中瀨的八木川中首次發現黃金，開採金礦的礦業迅速崛起，中瀨成為政府極為重要的收入來源之地，因此礦區的守衛如「城下町」（圍繞城郭發展起來的市鎮）一般森嚴，三重門戶的進出都受到嚴密管控。從安土桃山時代（1573-1603）至江戶時代（1603-1867）前期，這裡一直是日本近畿地區最大的金山之一。後來，中瀨又發現了錒礦，到20世紀中葉，中瀨礦山成為日本最大的錒產地。

1969年前後，因錒等礦物儲量不斷減少，中瀨礦山關閉，並開始從中國進口加工鑄塊的原材料。中瀨的人口迅速流失，建於江戶時代的8座寺院也只剩下5座。但礦區還在繼續冶煉從中國進口的錒礦石，如今日本國內70%的錒產品依然出自中瀨。

遊客中心有一些漂亮的礦產樣本展示。中瀨所產的礦石中，最令人驚歎的是一塊重626克內含石英的原生金塊，現陳列於美國的史密森尼博物館（Smithsonian Museum）。

<日本語仮訳>**中瀬鉱山関連遺構・中瀬鉱山町**

金がはじめて中瀬の八木川で発見されたのは 1573 年のことであった。続いて鉾山が発見された。中瀬は政府にとって非常に重要な収入源となったため、城下町（城郭を中心に発達した都市）並みに厳重に警備され、3 つの門で出入りの管理が行われていた。安土・桃山時代（1573-1603）から江戸時代（1603-1867）前期には近畿地方最大級の金山として栄えた。のちに、アンチモンが発見され、中瀬鉾山はやがて日本で最大のアンチモン鉾石の産出地となった。

1969 年頃には、アンチモンなどの資源が減少して、鉾山は閉鎖した。インゴットを製造するための原料を中国から輸入することになった。中瀬の人口は急激に減少し、江戸時代の 8 つの寺院のうち 5 つのみが現存している。それでも中国から輸入するアンチモンの精製は続けられ、国内のアンチモン製品の 7 割がいまなお中瀬で作られている。

中瀬鉾山で採掘された美しい鉾物の一部が観光案内所に展示されている。見つかった鉾物の中で最も美しいものの一つは、石英と融合した 626 グラムの自然金で、アメリカのスミソニアン博物館に展示されている。

地域番号	007	協議会名	書寫山圓教寺観光振興協議会
------	-----	------	---------------

解説文一覧

NO.	スポット名 (タイトル)	中国語文字数	想定媒体
007-001	圓教寺	790	WEB
007-002	摩尼殿 (如意輪堂)	405	看板
007-003	三十三所堂	410	看板
007-004	湯屋橋	375	看板
007-005	石造笠塔婆	250	看板
007-006	護法石	340	看板
007-007	瑞光院 (圓教寺塔頭)	300	看板
007-008	圓教寺の三之堂	640	WEB
007-009	大講堂	440	看板
007-010	食堂	395	看板
007-011	常行堂	425	看板
007-012	弁慶鏡井戸	300	看板
007-013	白山権現	460	看板
007-014	開山堂	425	看板
007-015	不動堂	390	看板
007-016	護法堂 (乙天社と若天社)	395	看板
007-017	護法堂拝殿	330	看板
007-018	伝和泉式部歌塚塔	435	看板
007-019	金剛堂	450	看板
007-020	薬師堂	395	看板
007-021	十地院 (圓教寺塔頭)	200	看板
007-022	圓教寺鐘楼	370	看板
007-023	法華堂	280	看板
007-024	本多家廟屋	380	看板
007-025	榊原家廟所	465	看板
007-026	松平家廟所	425	看板
007-027	十妙院 (圓教寺塔頭)	445	看板
007-028	壽量院 (圓教寺塔頭)	340	看板
007-029	仁王門と木造金剛力士像	340	看板
007-030	五重塔跡	310	看板
007-031	文殊堂	415	看板
007-032	木造釈迦如来乃両脇侍像	390	WEB
007-033	木造四天王立像	315	WEB
007-034	木造阿弥陀如来坐像	450	WEB
007-035	圓教寺開山-木造性空坐像	375	WEB
007-036	木造金剛薩埵像	395	WEB

007-037	圓教寺開山-性空上人坐像	225	WEB
007-038	如意輪観音坐像	515	WEB
007-039	愛宕社本殿	295	WEB
007-040	圓教寺縁起	850	WEB
007-041	修正会（鬼追い会式）	680	WEB
007-042	節分会・星祭	615	WEB
007-043	御朱印	555	WEB
007-044	書写塗	390	WEB
007-045	修行体験	340	WEB
007-046	武蔵坊弁慶	380	WEB
007-047	三十三所巡り	385	WEB
007-048	芸能と圓教寺	520	WEB

【タイトル】 圓教寺

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**圓教寺**

圓教寺坐落于兵库县中部的书写山。总面积逾 31 万平方米的寺院中分布着数十座古建筑，此外还有宝塔、墓地、本堂（正殿）以及 6 座“塔头”（附属寺院）。自 966 年性空上人(910-1007)建寺以来，圓教寺便一直受到权贵与皇室成员的庇护，精英武士与平民也纷纷捐资修建寺中建筑与佛像。众多建筑和佛像可上溯至室町时代(1336-1573)，如今已被登录为文化财产。

寺院建筑的布局可分为三大部分，摩尼殿位居中央。相传性空上人上山居住后不久，见到一位天女绕着樱花树一边起舞一边诵偈，便在此处修建了摩尼殿。受此奇迹触发，性空上人将这棵樱花树雕成了一尊手持摩尼宝珠的如意轮观音菩萨像。雕像虽毁于火灾，摩尼殿也经历数次重修，但建筑本身仍保留了象征与宗教意义。

此处是“西国三十三所”路上的第 27 处灵场。这条朝圣路线形成于 8 世纪，总长 1000 公里，跨越日本中部 5 县 2 府（和歌山县、大阪府、兵库县、京都府、奈良县、滋贺县和岐阜县）。它也是日本最古老的观音巡礼线路，来自日本各地和全球的参拜者至今络绎不绝。

圓教寺的另一大主要建筑群是“三之堂”，分别为大讲堂、食堂和常行堂。这 3 座优雅而庄严的建筑建于 10 世纪至 15 世纪，呈“冂”形分布，中间是一处宽阔的庭园。供奉在大讲堂内的释迦三尊像由性空上人的弟子感阿上人于 987 年制作。释迦三尊像和四天王立像共计 7 尊雕像居于高处，安静地注视着中庭尽头常行堂前的舞台。

寺院西侧的一组建筑是圓教寺的圣域“奥之院”，包括建于 1673 年的开山堂和 1697 年的不动堂，以及供奉乙天和若天的护法堂。从圓教寺建立以来，乙天和若天这两大护法神就守护于此，至今仍在寺院传承和传统中扮演着重要的角色。

千百年来，参拜者只有从 6 条狭窄的山道中选择 1 条登上书写山才能到达圓教寺。1958 年，沿东侧山道开通了抵达山顶的缆车线路。乘坐缆车到达的来访者将通过仁王门进入寺内，这道门内外两边分别意味着俗世与圣域。

圓教寺内可提供一日修行、坐禅及抄经体验。

<繁体字>**圓教寺**

總面積逾31萬平方公尺的圓教寺坐落於兵庫縣中部的書寫山，寺院內除了數十座古建築外，還坐落著寶塔、墓地、本堂（正殿）以及6座「塔頭」（附屬寺院）。自西元966年由性空上人（910-1007）初建後，圓教寺一直受到權貴與皇室成員的庇護，菁英武士與平民也紛紛捐資修建寺中建築與佛像。眾多建築和佛像可上溯至室町時代（1336-1573），如今已被登錄為文化財產。

圓教寺寺院建築群分為三大部分，摩尼殿位居其中。相傳性空上人剛上山居住時，見到天女繞著櫻花樹起舞誦偈，便在此處修建了摩尼殿。受此神蹟啟發，他將這棵樹雕成了一尊手持摩尼寶珠的如意輪觀音菩薩像。雕像雖毀於火災，摩尼殿也經歷數次重修，但現存的建築仍保留了它的象徵與宗教意義。

圓教寺是「西國三十三所」路上的第27處靈場。這條朝聖路線始建於西元8世紀，總長1000公里，跨越日本中部5縣2府（和歌山縣、大阪府、兵庫縣、京都府、奈良縣、滋賀縣和岐阜縣）。除此之外，它也是日本最古老的觀音巡禮路線，來自日本各地和全球的參拜者至今絡繹不絕。

圓教寺的另一大主要建築群是「三之堂」，分別為大講堂、食堂和常行堂。這3座優雅而莊嚴的建築建於10世紀至15世紀，呈「口」形排列，中間是一處寬闊的庭園。相傳大講堂內的釋迦三尊像由性空上人的弟子感阿上人在987年製作。釋迦三尊像和四天王像共計7尊雕像居於高處，安靜地注視著中庭盡頭「常行堂」前的舞台。

寺院西側的建築群是圓教寺的聖域「奧之院」，包括建於1673年的開山堂和1697年的不動堂，以及供奉乙天和若天的護法堂。從圓教寺建立以來，乙天和若天這兩大護法神就守護於此，至今仍在寺院傳承和傳統中扮演著重要的角色。

千百年來，參拜者只有從6條狹窄的山道中選擇1條登上書寫山後才能到達圓教寺。1958年，沿東側山道抵達山頂的纜車開通。乘坐纜車造訪的遊客將透過俗世與聖域的分界——仁王門進入寺內。

圓教寺內提供一日修行、坐禪及抄經體驗。

<日本語仮訳>

圓教寺

圓教寺は兵庫縣中央部に位置する書寫山にある。31万平方メートルを超える境内に、数十の歴史的建造物、仏塔、墓地、本堂と6つの塔頭が存在している。性空上人（910-1007）によって966年に創建されて以来、圓教寺は裕福な公家や皇室からの庇護を受けてきた。有力武将や一般庶民もまた寺院の多くの建物や仏像の制作に貢献した。これらの多くは室町時代（1336-1573）に作られ、文化財に登録されている。

この寺院の構造は3つの主要な部分に分けることができる。中心には、摩尼殿がある。この建物は、性空上人が山に住んでいた初期のころに、桜の木の周りで踊り、偈文を詠じている天女の姿を目撃したと言われる場所に建っている。奇跡のような光景に触発されて、性空上人は桜の木に宝珠を持った如意輪観音菩薩像を彫った。この像は火事で失われ、摩尼殿は何度か再建されたが、この建物

は今なお象徴的・宗教的な意義を保っている。

圓教寺は「西国三十三所」の第 27 番目のお札所である。8 世紀に確立されたこの巡礼路の総距離は 1,000 キロメートルにも及び、日本中部 2 府 5 県（和歌山、大阪、兵庫、京都、奈良、滋賀と岐阜）にまたがっており、日本最古の観音巡礼でもあるため、日本全国および世界中から巡礼者が訪れる。

圓教寺の主要部分の一つには、大講堂、食堂、常行堂からなる三つの堂が集まっている。10 世紀から 15 世紀に作られた三つの優雅な建物は広い中庭を中心にしてコの字型を成している。大講堂に収められている釈迦三尊像は、987 年に性空上人の弟子の感阿上人によって彫られた。この釈迦三尊像と四天王立像の計 7 体は、高い台座の上から中庭の向こうにある常行堂の前の舞台を静かに見つめている。

境内の西端にある建物群は、圓教寺の聖域、奥之院で、開山堂（1673 年創建）、不動堂（1697 年創建）、乙天と若天を祀る護法堂である。創建以来圓教寺を護っている乙天と若天は、今日まで受け継がれる寺院の伝承やしきたりに数多く登場する。

長年、圓教寺への参拝者は 6 つの狭いハイキングコースの 1 つを通して書寫山に登らなければならなかった。1958 年にロープウェイが東ルートに沿って開通した。ロープウェイで山頂に着くと、参拝者は俗世と聖域の境をなしている仁王門を通して境内に入る。

書寫山圓教寺では、一日修行体験、坐禅体験、写経体験などを随時実施している。

【タイトル】 摩尼殿（如意輪堂）

【想定媒体】 看板

<簡体字>

摩尼殿（如意輪堂）

摩尼殿位于圆教寺建筑群的中央。据说开山祖师性空上人(910-1007)在此处看见一位天女围绕着一棵樱花树起舞诵偈，偈文赞美化身为樱花树的大慈大悲六臂如意轮观音将护佑众生长寿繁荣、往生极乐净土。性空上人受此景启发，将樱花树雕成了一尊如意轮观音像，并立龕保护。之后，又在 970 年以此尊观音像为中心建造了如意轮堂。

据传，佛堂建成后一直关闭，雕像被藏于其中。直到 1174 年，退位的后白河法皇(1127-1192)到访圆教寺，佛堂在他的要求下才被开启。后白河法皇将此殿命名为“摩尼殿”，“摩尼”意为“佛法宝珠”，指殿中雕像是圆教寺的至宝。摩尼殿虽经历 4 次重建，但建筑从未偏离原来樱花树所在的位置。

摩尼殿内的须弥坛后，矗立着 5 组厚漆门扉。门后佛龕内供奉的本尊为国家指定重要文化财产。佛龕门只在每年 1 月 18 日开启一次，当天，圆教寺会举办迎接新年、祈求和平与五谷丰登的法会“修正会”。

<繁体字>

摩尼殿（如意輪堂）

摩尼殿位於圓教寺建築群的中央。相傳開山祖師性空上人（910-1007）在此處看見天女圍繞著櫻花樹起舞誦偈，讚美化身為櫻花樹的大慈大悲六臂如意輪觀音護佑眾生長壽繁榮、往生極樂淨土。性空上人受此景啟發，將櫻花樹雕成了一尊如意輪觀音像，並立龕保護。970 年又以此尊觀音像為中心建造了如意輪堂。

據傳，佛堂建成後一直關閉，世人無緣一睹觀音像真容，直到 1174 年，退位的後白河法皇（1127-1192）參拜圓教寺，要求開啟佛堂。法皇將佛堂命名為「摩尼殿」，「摩尼」意為「佛法寶珠」，指此觀音像是圓教寺的至寶。摩尼殿雖經歷 4 次重建，但建築從未偏離原來櫻花樹所在的位置。

摩尼殿內的須彌壇後，矗立著 5 組厚漆門扉。門後佛龕內供奉的本尊為國家指定重要文化財產。佛龕門只在每年 1 月 18 日開啟，當天圓教寺會舉辦迎接新年、祈求和平與五穀豐登的法會「修正會」。

<日本語仮訳>

摩尼殿（如意輪堂）

摩尼殿は圓教寺の中心部に位置している。圓教寺の開祖性空上人（910-1007）が、一本の桜の周りを舞い踊りながら神聖な偈文を詠じている天女を目撃したとされるのがこの場所である。天女の偈文は、生きている木の姿で、慈悲の菩薩である六臂如意輪観音を讃えていた。偈文では、如意輪観音はすべての衆生に長寿と繁栄をもたらし、極楽浄土で生まれ変わると約束していた。この光景に触発された性空上人は、桜の木に如意輪観音のお姿を彫刻し、守護のための厨子を建てた。その後、970年に如意輪観音を中心にして如意輪堂が建設された。

1174年に後白河法皇（1127-1192）が圓教寺を訪れ、像を見たいと要求するまで像は秘され、このお堂は閉ざされたままだったと伝えられている。後白河法皇はこのお堂を現在の名である「摩尼殿」と名付けた。この像が圓教寺の中心的存在として大切にされているのと同様、摩尼は仏教の教えの中心にある宝珠を意味している。摩尼殿は4回再建されたが、その都度桜の木が立っていた場所に建てられている。

摩尼殿の内部の須弥壇の後ろには、厚い漆塗りの扉が5組ある。この厨子には、本尊が安置されており、国の重要文化財に指定されている。年一回、1月18日にこの扉が開かれる。この日、圓教寺は平和と五穀豊穡の法要「修正会」を執り行い、新年を祝う。

【タイトル】 三十三所堂

【想定媒体】 看板

<簡体字>**三十三所堂**

这间朴素的佛堂内供奉着 33 尊发愿救世的大慈大悲观音菩萨像，被称为微缩版的“西国三十三所”，意义重大。“西国三十三所”朝圣之路已经有 1000 多年历史，是日本最古老的观音巡礼线路，长 1000 公里，跨越 5 县 2 府（和歌山县、大阪府、兵库县、京都府、奈良县、滋贺县和岐阜县），圆教寺是该路线的第 27 处灵场。

“西国三十三所”巡礼活动始于平安时代(794-1185)晚期，但直到江户时代(1603-1867)才开始广泛流行。《法华经》中说，只要祈求观音保佑，任何困难都可克服。因此参拜完 33 处所有圣地，便可积累功德，往生极乐净土，得道开悟。净土宗信仰在江户时代尤为盛行。

朝圣之路漫长而艰辛，依传统必须徒步走完全程，且在江户时代，官府严格限制着跨越地区的旅行。为了解决旅途的重重阻难，思想开明的僧侣从早期便创建了“复刻灵场”，用这一处来替代朝圣路线的全段或其中一部分。朝圣者造访圆教寺便等于同时参拜了 33 尊观音，能高效地完成巡礼，获得净土轮回的功德。

<繁体字>**三十三所堂**

外觀樸素的三十三所堂內供奉著 33 尊發願救世的大慈大悲觀音菩薩像，被稱為縮小版的「西國三十三所」，意義非凡。「西國三十三所」朝聖之路至今有 1000 多年歷史，是日本最古老的觀音巡禮路線，長 1000 公里，跨越 5 縣 2 府（和歌山縣、大阪府、兵庫縣、京都府、奈良縣、滋賀縣和岐阜縣），而圓教寺是該路線的第 27 處靈場。

「西國三十三所」巡禮活動始於平安時代（794-1185）晚期，但直到江戶時代（1603-1867）隨著淨土宗的風行才開始廣泛流行。《法華經》中說，只要祈求觀音保佑，任何困難都可迎刃而解。因此參拜過所有 33 處聖地，便可積累功德，往生極樂淨土，得道開悟。淨土宗信仰在江戶時代尤為盛行。

朝聖之路漫長而艱辛，依傳統必須徒步走完全程，且在江戶時代，官府嚴格限制著跨區旅行。為解決旅途的重重阻難，思想開明的僧侶從早期便創建了「復刻靈場」，用此處代表朝聖路線全段或一部分。朝聖者造訪圓教寺便等於同時參拜了 33 尊觀音，能快速地完成全部朝聖，獲得淨土輪回的功德。

<日本語仮訳>

三十三所堂

この奥ゆかしさのあるお堂には、すべての生きとし生けるものを救いに導くことを誓った、慈悲の菩薩である観音菩薩像が 33 体納められている。このお堂は千年以上に渡る巡礼路「西国三十三所」の縮小版として重要な役割を果たしている。圓教寺は、西国三十三所の 27 番目のお寺で、この巡礼路の総距離は 1,000 キロメートルにも及び、2 府 5 県（和歌山、大阪、兵庫、京都、奈良、滋賀と岐阜）にまたがっており、日本最古の観音巡礼でもある。

西国三十三所は平安時代（794-1185）後期に成立したが、江戸時代（1603-1867）になってようやく広く知られるようになった。『法華経』の一節によると、観音菩薩に救済を求めることで、誰もが大きな困難を乗り越えられ、三十三観音すべてを巡礼した人は、悟りが保障されている極楽浄土に生まれ変わるための功德を積むことができるとされている。浄土信仰は江戸時代に特に広まった。

しかし巡礼の道りは長く困難を伴い、徒歩で踏破するのが習わしで、さらに江戸時代は地方間の行き来が厳しく制限されていた。この困難な旅を何とかしようと、早い時期から進取的な僧侶たちが、数十箇所の離れた場所を巡礼する代わりに、一箇所で三十三観音、もしくはその一部を訪れることができる場所である「写し霊場」を作った。巡礼者が圓教寺を訪れることで三十三観音を一度に参拝し巡礼全体を効率的に終えることができ、浄土で生まれ変わるための功德を享受できるというわけである。

【タイトル】 湯屋橋

【想定媒体】 看板

<簡体字>

湯屋橋

16 世纪后期的数十年中，圓教寺也被战争阴云笼罩。建于 17 世纪早期的汤屋桥，代表了一个社会和政治急剧动荡时代的结束，象征着寺庙的重建与复生。

15 世纪晚期，圓教寺已发展成为拥有许多宏伟殿宇、掌控雄厚资金的佛教设施。但随着战国时代(1467-1603)的来临，群雄竞起争夺突然出现的权力真空，战火蔓延全国各地，而乱世终也导致圓教寺急遽衰落。1578 年，武将丰臣秀吉（1537-1598，当时名羽柴秀吉）占领圓教寺，征用寺院作为山城基地，在此驻扎了约 2 万人的军队。期间，兵卒不但恐吓僧侣，还肆意破坏建筑和佛教文物。

1620 年，本多忠政(1575-1631)成为姬路城的新任城主，圓教寺的命运这才得以扭转。本多忠政对寺院的破败现状深感震惊，遂募集资金，助其恢复昔日荣光。汤屋桥就建于这一复兴时期。然而 300 多年后的 1944 年，该桥上的青铜拟宝珠被卸下充作战资。1955 年，拟宝珠得以重铸，并镌刻铭文以纪念本多忠政。

<繁体字>

湯屋橋

16 世紀後期的數十年中，圓教寺也被戰爭陰霾籠罩。建於 17 世紀早期的湯屋橋，代表了一個社會和政治急劇動盪時代的結束，象徵著寺廟的重建與重生。

至 15 世紀晚期，圓教寺已發展為擁有許多宏偉殿宇、手握雄厚資金的佛教場所。但緊接而來的戰國時代（1467-1603）天下大亂，群雄競起爭奪突然出現的權力真空，戰火蔓延全國各地，最終導致了圓教寺急遽衰落。1578 年，武將豐臣秀吉（1537-1598，當時名羽柴秀吉）佔領圓教寺，徵用寺院作為山城基地，在此駐紮了約 2 萬人的軍隊。期間，兵卒不但恐嚇僧侶，還肆意破壞建築和佛教文物。

1620 年本多忠政（1575-1631）成為姬路城的新任城主，圓教寺的命運才撥雲見日。本多忠政對寺院的破敗現狀深感震驚，遂募集資金，助其恢復昔日榮光。湯屋橋就建於這一寺院復興時期。然而 300 多年後的 1944 年，圓教寺再次遭遇浩劫，湯屋橋上的青銅擬寶珠被卸下充作戰資。直到 1955 年，擬寶珠得以重鑄，並刻下銘文以紀念本多忠政。

<日本語仮訳>

湯屋橋

16 世紀最後の数十年間は、戦の影が圓教寺を混乱に陥れた。17 世紀初頭に架けられた湯屋橋は、劇的な社会および政治的変動の時代の終わりを告げる橋である。湯屋橋は現在、寺院の再建の象徴として存在している。

15 世紀後半までに、圓教寺は多くの特徴的な建物と大きな経済力を有した複合施設に成長した。しかし、この寺院は戦国時代（1467-1603）に急激な衰退期を迎える。戦国時代にはさまざまな勢力が突然の権力の空白を埋めるために戦ったため、全国で広範な軍事紛争が勃発した。1578 年、武将の豊臣秀吉（1537-1598、当時は羽柴秀吉）が圓教寺を占拠し、寺院の施設を山城に変え、秀吉軍の約 2 万人の兵隊を配置した。この間、兵士たちは僧侶たちを恐喝し、建物や仏教遺物を破壊したのである。

圓教寺の運命は、1620 年に本多忠政（1575-1631）が姫路城の新城主となったときから上向き始めた。忠政は荒廃した寺院の状況に衝撃を受け、かつての栄光を取り戻すために資金を募った。湯屋橋はこの復興期に架けられた。それから 3 世紀後の 1944 年に、元の青銅の擬宝珠は戦時供出された。1955 年には、本多忠政を称える碑文を刻んだ新しい擬宝珠が鑄造された。

【タイトル】 石造笠塔婆

【想定媒体】 看板

<簡体字>

石造笠塔婆

这座石塔上的浮雕是净土宗的信仰核心“无量光佛”阿弥陀如来。净土宗是日本最大的佛教宗派之一，在其信仰中，阿弥陀如来发愿要救众生脱离无尽轮回。浮雕里的阿弥陀如来坐在莲花座上，莲花出淤泥而不染，象征众生能够通过修行超越自身存在。

此笠塔婆具备典型的时代特征与风格，十分珍贵。半肉雕外部边界雕刻成花头形状源自中国的设计，自13世纪随禅宗建筑传入日本后广为流行。而柱子上微微翘起的“笠”是镰仓时代(1185-1333)的审美特征。顶部的泪滴状石雕和如意轮观音手中所持一样，代表了能令人生万事如意的宝珠。

<繁体字>

石造笠塔婆

這座石塔上的浮雕是淨土宗的信仰核心「無量光佛」阿彌陀如來。淨土宗是日本最大的佛教宗派之一，在其信仰中，阿彌陀如來發願要救眾生脫離無盡輪回。浮雕裡的阿彌陀如來坐在蓮花座上，蓮花出淤泥而不染，象徵眾生能夠通過修行超越自身存在。

此笠塔婆具備典型的時代特徵與風格，十分珍貴。半肉雕外側邊緣雕刻成花頭形狀源自中國的設計，自13世紀隨禪宗建築傳入日本後廣為流行。而柱子上微微翹起的「笠」是鎌倉時代（1185-1333）的審美特徵。頂部的淚滴狀石雕與如意輪觀音手持一樣，代表了能讓人生萬事如意的寶珠。

<日本語仮訳>

石造笠塔婆

この石造笠塔婆には、無量光仏である阿弥陀如来の浮き彫りが施されている。阿弥陀如来は日本における最大の仏教信仰の一つである浄土信仰の中心となる仏である。その教えは無限の輪廻転生からすべての生き物を救うことを誓っている。阿弥陀如来の像は蓮の花に座った姿で描かれている。これは、泥だらけの濁った池から蓮が成長するように、衆生が修行を通じて存在を超越する力を象徴している。

石造笠塔婆は、それが作られた時代の様式を記録するものとして重要である。半肉彫りの外側の境界は花頭形に掘られており、これは、13世紀に禅宗の建築様式が中国から伝わった後、日本で好まれた大陸起源のデザインの特徴である。緩やかに反った柱の「笠」もまた、鎌倉時代（1185-1333）の審美的特徴である。上部の涙のしずくのような形の石は、如意輪観音が手にしているものと同じく、願いを叶える宝珠を表している。

【タイトル】護法石

【想定媒体】看板

<簡体字>**护法石**

关于这对苔色苍苍的巨石有两个传说。在第一个传说中，圆教寺的开山祖师性空上人(910-1007)于966年初到书写山时，不动明王和毗沙门天化作孩童乙天和若天，降临在两块巨石之上，协助性空上人进行初期修行。乙天和若天被称为“护法善神”，即佛法教义的忠实捍卫者，因而两块巨石被称作“护法石”。千年以来，这两位善神一直都是圆教寺的守护者，在寺中传说和传统中多有出现。

这两块巨石还被称为“弁庆的沙包”（弁，音同“遍”），因为它们与家喻户晓的武僧武藏坊弁庆(1155-1189)有关。关于弁庆的传说和奇谈很多，人们都知道他自小在圆教寺学习，并由此引发出诸多故事。传说弁庆年轻时曾经抛接这两块巨石来测试自己的力量；另有故事中说，弁庆因被同伴取笑而发生打斗，从而引发了1331年烧毁圆教寺大部分建筑的那场大火。

<繁体字>**護法石**

關於這對苔色蒼蒼的巨石有兩個傳說。相傳圓教寺的開山祖師性空上人（910-1007）在966年初到書寫山時，不動明王和毗沙門天化作孩童乙天和若天，降臨在兩塊巨石之上，協助性空上人的初期修行。由於乙天和若天被稱為「護法善神」，即佛法教義的忠實捍衛者，因而兩塊巨石被稱作「護法石」。千年以來，這兩位善神一直都是圓教寺的守護者，在寺中傳說和傳統中多有出現。

這兩塊巨石還被稱為「弁慶的沙包」（弁，音同「遍」），相傳它們與日本家喻戶曉的武僧武藏坊弁慶（1155-1189）有關。關於弁慶的傳說和奇談很多，人們都知道他自小在圓教寺學習，並由此引發出諸多故事。傳說弁慶年輕時曾經拋接這兩塊巨石來測試自己的力量；另有故事說，弁慶因為被同伴取笑而發生打鬥，從而引發了1331年那場燒毀圓教寺大部分建築的大火。

<日本語仮訳>**護法石**

苔で覆われたこの二つの岩には二つの伝説がある。最初の伝説によると、不動明王と毘沙門天の子供の姿の化身である乙天と若天は、圓教寺の開祖性空上人（910-1007）が 966 年に最初に書寫山に到着したときに天からこれらの石の上に降り立ったという。乙天と若天は性空上人の初期の修行を助けた。乙天と若天は護法善神、または仏教の教えの断固とした守護神として知られ、二つの石はこの伝説から「護法石」と呼ばれるようになった。乙天と若天は圓教寺の守り神として、千年以上に渡って寺伝や習わしの数々に登場している。

これら二つの石は、伝説的僧兵である武蔵坊弁慶（1155-1189）にちなんで、「弁慶のお手玉」としても知られている。弁慶に関しては多くの伝説や逸話が残されているが、彼は少年時代、圓教寺で修業したことが知られており、この事実が多くの物語を生んだのである。伝説によると、若き弁慶は二つの岩でお手玉をして自分の力を試したという。他にも、弁慶が仲間にかかわれたことに端を発した諍いが、1331 年に圓教寺の主要な建物を焼き尽くした大惨事につながったという言い伝えもある。

【タイトル】 瑞光院（圓教寺塔頭）

【想定媒体】 看板

<簡体字>

瑞光院（圓教寺塔頭）

瑞光院是圓教寺內的六座“塔頭”（附屬寺院）之一。历史上，塔頭的主要作用是通過德高望重的住持及其独到的佛法解说，或是对特定的佛经、佛陀的研究，发展信徒，共同支持圓教寺教区。人们对瑞光院的历史知之甚少，寺門旁的一块牌子显示，它曾用作朝聖者的住宿地。如今，这座塔頭以美景闻名，朴素的土牆和艳丽的秋叶形成鲜明对比，是人们拍摄婚纱照的热门场地。

瑞光院正对面矗立着一座供奉大黑天的小神社。大黑天是一位融合了佛教和神道教的神灵，掌管财富、农民、食物和好运。附近还有一块歌碑（刻有和歌的石碑），是为纪念出生于姬路市的著名和歌诗人初井しづ枝(Hatsui Shizue, 1900-1976)而立。

<繁体字>

瑞光院（圓教寺塔頭）

瑞光院是圓教寺內的六座「塔頭」（附屬寺院）之一。历史上，塔頭的作用主要是通過德高望重的住持和獨特的修行法門，或是研究特定的佛經佛陀，以此擴大信徒的數量來支撐並壯大圓教寺教區。雖然人們對瑞光院的歷史知之甚少，但寺門旁的一塊牌子顯示，它過去曾是朝聖者的投宿之處。如今，這座塔頭以美景聞名，它樸素的土牆和豔麗的秋葉形成了鮮明對比，是新人拍攝婚紗照的熱門背景。

瑞光院對面矗立的小神社供奉著大黑天，祂是一位融合了佛教和神道教的神靈，掌管財富、農民、食物和好運。附近還有一塊歌碑（刻有和歌的石碑），是為紀念出生於姬路市的著名和歌詩人初井しづ枝（Hatsui Shizue, 1900-1976）而立。

<日本語仮訳>

瑞光院（圓教寺塔頭）

瑞光院は圓教寺内の塔頭六院の 1 つである。歴史的に、それぞれの塔頭は通常カリスマ的な住職と一連の教え、あるいは特定の経典や仏の研究を中心とした信者のグループを発展させることによって、より幅広く圓教寺の共同体を支えていた。瑞光院の歴史についてはほとんど知られていないが、寺院の門の近くにある案内板には、訪れる巡礼者のための宿院としての役割について記されている。現

在、この塔頭はその美しい風景で有名である。瑞光院の素朴な土の外壁と秋の鮮やかな紅葉は、ウエディングフォトの撮影場所として人気となっている。

瑞光院の真向かいには、大黒天を祀った小さな神社がある。大黒天は神仏習合に由来する富、農民、食物、そして幸運にまつわる神である。近くには、姫路市生まれの有名な歌人、初井しずゑ（1900-1976）を称えた歌碑（歌を刻みこんだ石碑）がある。

【タイトル】 圓教寺の三之堂

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

圓教寺三之堂

三之堂包括大讲堂、食堂和常行堂，是圆教寺的主要建筑群之一，它见证了圆教寺的悠久历史、宗教修行以及上千年来在此起居生活的历代僧人。大讲堂位处三之堂北端，隔着铺设白石的宽阔庭园与常行堂相望。中央的2层楼食堂长达40米，十分罕见，宛如一条三之堂西缘的长廊。

三之堂建于10世纪至15世纪，每一座建筑都在寺内活动中扮演了重要角色。大讲堂是授课和辩论的场所，采用天台宗寺庙的建筑模式，大殿中央设有下沉的“土间”，即夯实的泥土地面。大讲堂的本尊是释迦牟尼佛，身旁伴随两位胁侍菩萨，右侧为象征智慧的文殊菩萨，左侧为象征正行的普贤菩萨。三尊金色佛像安宁地注视着庭院对面常行堂前的舞台。

常行堂则是举行宗教仪式的场所。寺中僧人有时会在此进行“常行三昧”冥想。这种冥想需要一边反复诵经，一边围绕殿堂中央象征着无限光明和生命的阿弥陀大佛像缓行。这种修行有时要持续90天，中间只有短暂的进餐和休息时间。如此严苛的修行艰难且有安全隐患，因此寺中僧人也不常践行。

食堂过去是僧人进餐、就寝的场所。1174年，由退位的后白河法皇(1127-1192)下令建造，但直到1963年才完工。如今，1楼主要供访客抄经积累功德；2楼陈列着众多宗教及文化遗产，展现了圆教寺悠久丰富的历史。

保护完好的建筑和围绕中央庭园的“口”形布局，令三之堂频繁成为电视和电影的拍摄地。在汤姆·克鲁斯和渡边谦主演的大片《最后的武士》（2003年）等好几部热门的历史影片中，都能一睹它的风采。

三之堂建筑均为国家指定重要文化财产。

<繁体字>

圓教寺三之堂

三之堂包括大講堂、食堂和常行堂，是圓教寺主要建築群之一，它見證了圓教寺悠久的歷史、宗教修行以及上千年來在此起居生活的歷代僧人。大講堂位處三之堂北端，隔著寬闊的白石庭園與常行堂相望。中央的2層樓食堂長達40公尺，十分罕見，宛如三之堂西緣的長廊。

三之堂建於 10 世紀至 15 世紀，每一座建築都在寺內活動中扮演了重要角色。大講堂是授課和辯論的場所，採用天台宗寺廟的建築模式，大殿中央設有下沉的「土間」（夯實的泥土地面）。大講堂供奉的本尊是釋迦牟尼佛，身旁伴隨兩位脅侍菩薩，右側為象徵智慧的文殊菩薩，左側為象徵正行的普賢菩薩。三尊金色佛像祥和地注視著庭院對面常行堂前的舞台。

常行堂是舉行宗教儀式的場所，寺中僧人有時會在此進行「常行三昧」冥想。這種冥想需要在殿堂中央一邊反復誦經，一邊繞著象徵著無限光明和生命的阿彌陀大佛像緩慢行走。修行有時要持續 90 天，中間只有短暫的進餐和休息時間。如此嚴苛的修行艱難且潛藏危險，因此寺中僧人也不常踐行。

食堂則是僧人進餐、就寢的場所。1174 年，應退位的後白河法皇（1127-1192）的要求修建，直到 1963 年才完工。如今，1 樓主要供訪客抄經積累功德；2 樓陳列著眾多宗教及文化遺產，展現了圓教寺悠久豐富的歷史。

現存三之堂良好的建築現況，以及它圍繞中央庭園的「口」形布局，讓其頻繁成為電視和電影的拍攝布景。在湯姆·克魯斯和渡邊謙主演的賣座鉅片《最後的武士》（2003 年）等數部熱門的歷史影片中都能一睹它的風采。

三之堂建築均被指定為國家重要文化財產。

<日本語仮訳>

圓教寺の三之堂

大講堂、食堂、常行堂からなる「三之堂」は、圓教寺の主要部分の一つであり、圓教寺の豊かな歴史やその修行、そして千年以上に渡ってここを使用してきた各時代の僧侶たちを象徴する場所でもある。大講堂は、三之堂の北端にあり、白い小石の広い中庭を挟んで常行堂に面している。中央の 2 階建ての食堂は、長さ約 40 メートルで大変珍しく、三之堂の西端を構成する長い回廊のように見える。

10 世紀から 15 世紀の間に建てられた三之堂の各建物は、寺院での生活において重要な役割を果たしている。大講堂は、講義や議論が行われる修行の場である。天台宗の寺院に共通する建築様式で、その中心は、内陣を一段下がった土間としている。このお堂の本尊は釈迦如来で、知恵の菩薩である文殊菩薩（右）と正しい行いの菩薩である普賢菩薩（左）の二菩薩を両脇に従えている。金色に輝く三尊像は、中庭の向こうにある常行堂の前の舞台を穏やかに眺めている。

常行堂は、宗教的な祈りの場として特徴付けられる。僧侶たちは時々、「常行三昧」と呼ばれる瞑想的な修行を行う。この修行では、僧侶たちは本尊である大きな阿彌陀仏像の周りを、お経を唱えながらゆっくりと歩く。阿彌陀仏は無限の光と命を持つ仏陀。場合によっては、この修行は食事と休憩のための短い休みだけで 90 日も連続して行われる。このような厳しい修行は非常に困難であるばかりでなく、危険を伴う可能性があり、常行三昧を圓教寺の僧侶が行うことは稀である。

食堂は歴史的には、僧侶が食事をしたり寝たりする場所として使用されていた。後白河法皇（1127-1192）の勅願により 1174 年から建設が開始されたが、1963 年まで未完成であった。

現在、1 階は主に訪問者が功德を積むための写経の場として利用されている。食堂の 2 階には、圓教寺の長く豊かな歴史に光を当てるさまざまな宗教的および文化的遺産が展示されている。

建物の保存状態の良さと中庭を囲むコの字型の配置により、三之堂はテレビや映画の撮影に頻繁に使われる場所となっている。人気の時代劇などに登場しており、トム・クルーズと渡辺謙主演の大ヒット映画『ラストサムライ』（2003）のワンシーンもそのひとつである。

三之堂のお堂はすべて、国の重要文化財に登録されている。

【タイトル】 大講堂

【想定媒体】 看板

<簡体字>

大講堂

在圓教寺“三之堂”中，大講堂位於最北端。顧名思義，大講堂是講經授課的場所，被視為寺中最重要的建築之一。原有殿閣最初於 10 世紀由花山法皇(968-1008)下令建造，現有建築重建於 15 世紀。它的設計完美融合了亞洲大陸和日本的建築形制，具有佛教天台宗的典型特徵，比如大講堂的本尊釋迦牟尼像被安置在佛殿裡側。佛像坐於蓮花座之上，蓮花座下的基台為錐形，令人想起佛教世界觀中的五峰聖山須彌山，代表了物質世界、形而上世界和精神世界的中心。

釋迦牟尼像兩側的脅侍菩薩結象徵教化的手印。圍繞釋迦三尊像而立的四天王立像，於 1933 年從這裡移入摩尼殿的佛龕中，在相隔約 90 年後的 2023 年 6 月，又被請回了大講堂。金色的釋迦三尊像和四天王立像居高注視著庭院對面“常行堂”前的舞台。每年寺內舉行重大活動時，這個舞台都會上演舞樂來敬奉眾佛。大講堂和常行堂沿著南北軸線相對而立，彼此映襯烘托，充分體現出了三之堂布局的巧妙與嚴謹。

大講堂和其中的釋迦三尊像、四天王立像，均為國家指定重要文化財產。

<繁体字>

大講堂

大講堂位於圓教寺「三之堂」的最北端。顧名思義，大講堂是講經授課的場所，被視為寺中最重要的建築之一。原本的殿閣最初於 10 世紀由花山法皇（968-1008）下令建造，現存建築則重建於 15 世紀。大講堂的設計完美融合了亞洲大陸和日本的建築形制，並具有佛教天台宗的典型特徵，例如大講堂的本尊釋迦牟尼像被安置在佛殿裡側。佛像坐於蓮花座之上，而蓮花座下的基台為錐形，其形狀令人想起須彌山，即佛教世界觀中的五峰聖山，代表著物質世界、形而上世界和精神世界的中心。

釋迦牟尼像兩側的脅侍菩薩手結象徵教化的手印。圍繞釋迦三尊像而立的四天王立像，於 1933 年移駕至摩尼殿的佛龕中，在相隔約 90 年後的 2023 年 6 月，才再次被請回大講堂。金色的釋迦三尊像和四天王立像居高臨下注視著庭院對面「常行堂」前的舞台。每年寺內舉行重大活動時，這個舞台都會上演舞樂來敬奉眾佛。大講堂和常行堂沿著南北軸線相對而立，彼此映襯烘托，充分體現出了三之堂布局的巧妙與嚴謹。

大講堂和其中的釋迦三尊像、四天王立像，均被指定為國家重要文化財產。

<日本語仮訳>

大講堂

圓教寺の「三之堂」の最北端にあるのが、大講堂である。名前が示すように、このお堂は講義の場所であり、圓教寺の境内の中で最も重要な建物の1つとされている。元の建物は10世紀に花山法皇（968-1008）の命によって建てられたが、現在の建物は15世紀のものである。大陸と日本の様式をバランス良く融合させたそのデザインは、天台宗の特徴も備えている。たとえば大講堂の本尊である釈迦如来像は、内陣に安置されている。その像は、中央が先細りになっている蓮台に鎮座している。その形は物理的、形而上学的、および精神的世界の中心を表す、仏教の宇宙論における神聖な5峰の須弥山を表している。

釈迦如来像の両脇には、教えを説く行為を表すポーズを同じように取っている二体の仏像がある。釈迦三尊像を囲むように配置されているのが四天王立像で、1933年にここから摩尼殿の厨子に納められていたが、2023年6月に約90年ぶりに大講堂に戻された。金色に輝く釈迦三尊像と四天王立像はその高い位置から、中庭の向こうにある常行堂の前の舞台を見据えている。寺の年間行事のうちの特定の行事の際には、この舞台で仏たちに舞楽が奉納される。これら2つの建物が南北に分かれて向かい合う形式から、三之堂が綿密な計画を基に建てられたことがわかる。

大講堂と釈迦三尊像、四天王立像は、国の重要文化財である。

【タイトル】 食堂

【想定媒体】 看板

<簡体字>

食堂

食堂连接着大讲堂和常行堂，构成了圆教寺“三之堂”的西轴线。这座建筑长达 40 米，十分罕见，过去是僧人学习、进餐和就寝的生活空间。

1174 年，寺院应退位的后白河法皇(1127-1192)要求开始在此处建造殿宇，但数次自然灾害摧毁了第一座和其后重建的一座。现在的食堂开工于 15 世纪中叶，按当时计划，建成后它将成为日本同类建筑中规模最大的双层大殿。由于工程过于浩大复杂，历时近 500 年都未能竣工。最终，作为大规模改建的一部分，其第 2 层于 1963 年落成。由于从构想到完工经历了漫长岁月，施工过程中出现了不少错误，例如从 2 楼露台看，大殿东南角的屋檐与常行堂的屋檐交叠在了一起。

如今，食堂 1 楼主要供访客抄经积累功德，2 楼陈列着众多宗教及文化遗产，展现了圆教寺悠久丰富的历史，其中一尊 14 世纪的木雕金刚萨埵像则象征对觉悟的坚定信念。

食堂是国家指定重要文化财产，木雕金刚萨埵像是兵库县重要文化财产。

<繁体字>

食堂

食堂連接大講堂和常行堂，長達 40 公尺，十分罕見，構成了圓教寺「三之堂」的西軸線，過去曾是僧人學習、進餐和就寢的生活空間。

1174 年，應退位的後白河法皇（1127-1192）要求首次在食堂的現址上起造建築，但數次自然災害摧毀了第一座和其後重建的食堂。現存的食堂於 15 世紀中葉開工，建成後將成為當時日本同類建築中規模最大的雙層大殿，但由於工程過於浩大複雜，歷時近 500 年都未能竣工。最終，作為大規模改建的一部分，其第 2 層於 1963 年落成。由於從構想到完工經歷了漫長歲月，施工過程中出現了不少錯誤，例如從 2 樓露台看，大殿東南角的屋簷竟與常行堂的屋簷交疊在了一起。

如今，食堂 1 樓主要供訪客抄經積累功德，2 樓陳列著眾多宗教和其他文物，展現了圓教寺悠久豐富的歷史文化，其中一尊 14 世紀的木雕金剛薩埵像則象徵堅定不移的證悟願望。

食堂為國家指定重要文化財產，木雕金剛薩埵像則是兵庫縣重要文化財產。

<日本語仮訳>

食堂

大講堂および常行堂と繋がっている食堂は、圓教寺の「三之堂」の西軸線を形成しており、長さ約40メートルで大変珍しく、歴史的に食堂は僧侶が修行し、就寝し、食事をする居住空間であった。

この場所に最初に建てられた建物は、後白河法皇（1127-1192）の勅願により1174年に着工された。自然災害により、元の建物やその後に建て直された建物も倒壊した。現在の建物は15世紀半ばに着工されたが、日本最大の2階建て建築で、その規模が大きく複雑であることが理由で、完成が遅れた。結局、食堂は約5世紀にわたって未完成のままであった。その2階部分は大規模な改修計画の一環として1963年に完成した。その長い建設過程により、いくつかの建築上の手違いが生じた。たとえば、2階の南東の角の屋根は常行堂の屋根とぶつかっており、2階の露台からもはっきりと見える。

現在、食堂の1階は訪問者が功德を積む写経を行う場所として主に利用されている。2階には、圓教寺の豊かな歴史に光を当てた数多くの宗教的および文化的な遺産が展示されている。その中には、14世紀に製作された、悟りへの揺るぎない願いを象徴する木造金剛薩埵像がある。

食堂は国の重要文化財、木造金剛薩埵像は兵庫県の重要文化財である。

【タイトル】 常行堂

【想定媒体】 看板

<簡体字>

常行堂

常行堂位于“三之堂”的南侧，里面供奉一尊象征无限光明和生命的金色木雕阿弥陀佛坐像。常行堂的主要特征是前方有一个用于表演神圣舞乐以及举办其他仪式的舞台。这座建筑的历史可以追溯至室町时代(1336-1573)。如殿名所示，这里过去是僧人们修习冥想的场所。修习时，他们边诵经边绕佛像缓行，有时需要持续90天，中间只有短暂的进餐和休息时间。

大殿内供奉的木雕阿弥陀佛坐像呈经典冥想沉思造型，结跏趺坐于双重莲花座上，双眼半闭，双手柔和地折出代表沉思的禅定印。佛像耳垂细长、肉髻突出、螺髻右旋，象征着慈悲、智慧和觉悟，在佛教形象中相当常见。阿弥陀佛坐像头枕一面象征着散发万丈金光的背光，背光的三个方向各有一个梵文字符，称为“种子”，分别代表阿弥陀佛和伴随其旁的慈悲、智慧两位胁侍菩萨——文殊菩萨和普贤菩萨。阿弥陀佛坐像身后的背景木板上绘有25位菩萨，他们与阿弥陀佛一起乘紫云从极乐净土降临降下，普度众生。

木雕阿弥陀佛坐像和常行堂建筑均为国家指定重要文化财产。

<繁体字>

常行堂

常行堂位於「三之堂」的南側，殿內供奉了一尊象徵無限光明和生命的金色木雕阿彌陀佛坐像，殿前則有一個用於表演神聖舞樂以及舉辦其他儀式的舞台。這座建築的歷史可以追溯至室町時代（1336-1573）。如殿名所示，這裡過去是僧人們修習冥想的場所。修習時，僧人邊誦經邊繞佛像緩行，這種修行有時需要持續長達90天，中間只有短暫的進餐和休息時間。

大殿內供奉的木雕阿彌陀佛坐像呈經典冥想沉思造型，結跏趺坐於雙重蓮花座上，雙眼半閉，手結代表沉思的禪定印。佛像耳垂細長、肉髻突出、螺髻右旋，象徵著慈悲、智慧和覺悟，是佛教藝術中常見的表達手法。阿彌陀佛坐像頭枕散發萬丈金光的背光，背光的三個方向各有一個梵文字，稱為「種子」，分別代表阿彌陀佛和隨侍在側的慈悲、智慧兩位脅侍菩薩——文殊菩薩和普賢菩薩。阿彌陀佛坐像身後的木背景板上繪有25位菩薩，牠們伴隨阿彌陀佛一起乘紫雲從極樂淨土降臨凡間，普度眾生。

木雕阿彌陀佛坐像和常行堂建築均被指定為國家重要文化財產。

<日本語仮訳>

常行堂

圓教寺の「三之堂」の南側に位置する常行堂は、無量光仏である金色の阿弥陀如来の木造坐像を祀っている。この建物の主な特徴は、神聖な舞楽やその他の儀式の奉納に使用される前方の舞台である。現在の建物は、室町時代（1336–1573）に建てられた。その名前が示すように、ここは僧侶たちが歴史的に、木造阿弥陀如来坐像の周りを阿弥陀経を唱えながら歩き続ける瞑想的な修行を行っている場所である。時に、この修業は食事と短い休憩だけで 90 日もの間続く。

堂内の阿弥陀如来は古典的な瞑想する姿勢で描かれており、二重の蓮の花の上で結跏趺坐を組んでいる。半眼で、手は熟考を示す禅定印を緩やかに結んでいる。細長い耳たぶ、頭頂部に隆起した肉髻および右巻きの螺髪は、仏像で頻繁にみられる図像的工夫であり、慈悲、知恵、および悟りを表している。阿弥陀仏は光背のある姿で表現されている。光輪は、阿弥陀如来とその両脇侍として描かれることが多い慈悲と智慧の菩薩を表す「種子」である 3 つのサンスクリット文字で飾られている。木造の背景には、阿弥陀如来とともに極楽浄土から紫雲に乗って降りてきて、衆生を救いに導く 25 体の菩薩が描かれている。

木造阿弥陀如来坐像も常行堂の建物そのものも、国の重要文化財である。

【タイトル】 弁慶鏡井戸

【想定媒体】 看板

<簡体字>**弁慶鏡井戸**

武藏坊弁慶（1155-1189；弁，音同“遍”）是一位僧兵，年轻时曾在圓教寺修行。他以神力和忠诚而闻名，是众多民间故事、舞台演出以及现代动漫作品中大名鼎鼎的英雄。虽然经常被描绘为勇敢与忠诚的典范，但他的暴脾气和暴力倾向也同样有名。

他性格中不那么讨人喜欢的一面，引发了许多传奇的故事，其中一个就与镜井户有关。据说，一个名叫信浓坊戒圆的小和尚趁弁慶睡觉时用木炭在他脸上涂鸦。弁慶醒后，察觉一群小和尚都在嘲笑他，便跑到镜井户确认自己的脸，发现戒圆在他脸上画了一个破鞋底。一怒之下狂性大发，将寺庙建筑毁去大半。尽管这个故事并无史实证明，但相传正是此事引发的大火将圓教寺最重要的建筑都烧为灰烬。

<繁体字>**弁慶鏡井戸**

武藏坊弁慶（1155-1189；弁，音同「遍」）是一位僧兵，年輕時曾在圓教寺修行。他以神力和忠誠而聞名，是眾多民間故事、舞台演出以及現代動漫作品中大名鼎鼎的英雄。雖然經常被描繪為勇敢與忠誠的典範，但他的火爆脾氣和暴力傾向也同樣有名。

他性格中不太值得恭維的一面，引發了許多傳奇的故事，其中一個就與鏡井戶有關。據說，一個名叫信濃坊戒圓的小和尚趁弁慶睡覺時用木炭在他臉上塗鴉。弁慶醒後，察覺一群小和尚都在嘲笑他的臉，便跑到鏡井戶確認怎麼回事，結果發現戒圓在他臉上畫了一個破鞋底。一怒之下狂性大發，將寺廟建築毀去大半。儘管這個故事並無史實證明，但相傳正是此事引發的大火將圓教寺最重要的建築都燒為灰燼。

<日本語仮訳>**弁慶鏡井戸**

武藏坊弁慶（1155-1189）は若い頃圓教寺で修行した僧兵である。その超人的な強さと忠誠心で有名な弁慶は、多くの伝説や舞台のほか、現代のアニメやマンガでも英雄的な人物として登場している。彼はしばしば勇気と忠誠の手本として描かれるが、弁慶はまた、短気で暴力的傾向があったことでも知られている。

彼の性格のお世辞にも良いとは言えない側面は、弁慶にまつわるドラマチックな物語を生み出しており、その一つがこの鏡井戸に関係している。物語では、信濃坊戒円という若い僧侶が炭を使って、弁慶が寝ている間に顔にいたずら書きをした。弁慶が目を覚ましたとき、若い僧侶たちが彼のことをあざけり笑っている姿を目にした。弁慶はこの井戸に走っていき水に映った自分の顔を見た。戒円が弁慶の顔に古い下駄の裏を書いたことに激怒した弁慶は、寺院の建物の大部分を激しく破壊し始めた。この話を裏付ける信頼できる歴史的証拠はないが、この事件は圓教寺の最も重要な建物が灰燼に帰した大火の原因になったと言われている。

【タイトル】 白山権現

【想定媒体】 看板

<簡体字>**白山权现**

这座神社供奉的是山神“白山权现”，神社所建之处早在圆教寺创建前数百年就备受尊崇。据 8 世纪成书的日本创世神话《古事记》记载，素戔鸣尊因为不尊重姐姐天照大神被逐出天国，在前往出云的途中曾在这座山上歇脚。天照大神是太阳女神，也是日本皇族血统的祖先。后来，人们将这座山当作素戔鸣尊的居所加以崇拜，早在圆教寺建寺前很久，就常有苦行僧和隐士入山。有人认为，“书写山”(shoshazan)的发音很可能就是从“素戔鸣山”(susa no yama)变化而来。

传说在公元 966 年，创建圆教寺的性空上人(910-1007)到达书写山后不久就开始苦修，最终在此开悟。也正是在这里，性空上人奇迹般地目睹了一位天女现身。受此启发，性空上人雕刻了一尊如意轮观音像，并建立了摩尼殿来保护它。白山权现神社的历史吉兆，以及它与素戔鸣尊和圆教寺创始人的关联，吸引了一代又一代朝圣者前来参拜。

如今，每年 1 月 18 日，圆教寺祈求和平与五谷丰登的法会“修正会”都从这里开始。扮演成圆教寺守护神乙天和若天的表演者们，头戴面具，边挥舞松木火炬，边摇动铃铛，围绕神殿疯狂起舞。

<繁体字>**白山權現**

这座神社供奉的是山神「白山權現」，神社所在的位置早在圓教寺創建前數百年就備受尊崇。據 8 世紀成書的日本創世神話《古事記》記載，素戔鳴尊因為不尊重姐姐天照大神（日本神話的太陽女神，相傳是日本皇族的祖先）被逐出天國，在前往出雲的途中曾在書寫山歇腳。之後人們便將這座山當作素戔鳴尊的居所加以崇拜，早在圓教寺建寺前，就常有苦行僧和隱士入山。有人認為，書寫山（shoshazan）的發音很可能就是從素戔鳴山（susa no yama）變化而來。

傳說在西元 966 年，創建圓教寺的性空上人（910-1007）來到書寫山苦修，最終在此開悟。也正是在此，性空上人目睹了天女現身這一神蹟。受此啟發，性空上人雕刻了一尊如意輪觀音像，又建立了摩尼殿來保護此像。白山權現神社的歷史吉兆，以及它與素戔鳴尊和圓教寺创始人的關聯，吸引了一代又一代朝聖者前來參拜。

如今，每年 1 月 18 日，圓教寺祈禱和平與五穀豐登的法會「修正會」就是從白山權現神社開始的。扮演成圓教寺守護神乙天和若天的表演者們頭戴面具，邊揮舞松木火炬邊搖動鈴鐺，圍繞神殿瘋狂起舞。

<日本語仮訳>

白山権現

山の神である白山権現を祀ったこの神社は、圓教寺が建立される前から何世紀にもわたって崇められてきた場所に建っている。日本の建国を描いた 8 世紀の『古事記』によると、素戔鳴尊は姉の天照大神を軽んじたために天から追放され、出雲に向かう途中、休憩するためにこの山に立ち寄った。天照大神は太陽の女神であり、天皇家の祖先でもある。その後、この山は素戔鳴尊の住まいとして崇拝されるようになり、圓教寺が建立されるずっと以前、山には修験者や仙人が訪れていた。実際、「書寫山」という名前は、「素戔鳴山」（すさのやま）の日本語の発音から発展したものだと考えられる。

966 年に圓教寺開祖である性空上人（910-1007）が書寫山に到着してまもなく、性空上人は修行に没頭したいと願い、そして最終的にこの場所で悟りを開いたと言われている。また、性空上人が天女の姿を奇跡的に目の当たりにして、如意輪観音像を彫り、それを守るために摩尼殿を建てたのもここであったと考えられている。白山権現はその縁起の良い歴史と、素戔鳴尊と圓教寺の開祖両方とのつながりによって、世代を越えて巡礼者が訪れる動機となってきた。

現在、毎年 1 月 18 日に行われている圓教寺の平和と五穀豊穰を願う法要「修正会」にまつわる儀式は、ここからスタートする。圓教寺の守護神である乙天と若天に扮した仮面をつけた演者たちが神社の周りを乱舞し、松明を振りかざし、鈴を鳴らす。

【タイトル】開山堂

【想定媒体】看板

<簡体字>

开山堂

开山堂是圓教寺奥之院中最重要的建筑。该殿始建于1007年，供奉寺院开山祖师性空上人(910-1007)的灵骨。1000多年来，这里每天都会举行佛教仪式。

现今的开山堂建筑历史可以追溯至1673年，它是江户时代(1603-1867)中期自由式寺院建筑的典型代表。支撑屋顶的托架上雕刻着精美的图案，其中包括出自著名雕刻家左甚五郎（活跃于1624-1644年）之手的三尊金刚力士像。相传，最初开山堂的檐下四角各有一位力士共同支撑屋顶，但其中一位因无法承受巨大的重量而逃走，故只留下了如今三位。

开山堂采用了天台宗寺院的经典样式，堂内中央是下沉式的“土间”（夯实的泥土地面），须弥坛上安放了一个带厚重大漆柜门、顶部结构繁复的巨大佛龕。此外，为了凸显性空上人的崇高地位，佛龕正上方的方格天花板高出周边。

佛龕内供奉着一尊性空上人的等身坐像。2008年研究人员对雕像进行了X光拍摄，发现雕像头部之中藏有被推测是性空上人的灵骨。开山堂也是国家指定重要文化财产。

<繁体字>

開山堂

始建於1007年的開山堂是圓教寺奥之院中最重要的建築，供奉著寺院開山祖師性空上人（910-1007）的靈骨。一千多年來，這裡每天都會舉行佛教儀式。

現存的開山堂建築可以追溯至1673年，它是江戶時代（1603-1867）中期自由式寺院建築的典型代表。支撐屋頂的托架雕刻著精美的圖案，包括出自著名雕刻家左甚五郎（活躍於1624-1644年）之手的三尊金剛力士像。相傳，最初開山堂的簷下四角各有一位力士共同支撐屋頂，但其中一位因無法承受巨大的重量而逃走，故只留下了如今三位。

開山堂採用了天台宗寺院的經典樣式，殿內中央是下沉式的「土間」（夯實的泥土地面），須彌壇上安放著一個帶厚重大漆櫃門、頂部結構繁複的巨大佛龕。此外，為了凸顯性空上人的崇高地位，佛龕正上方的方格天花板高出周邊。

佛龕內供奉著一尊性空上人的等身坐像。2008年研究人員對雕像進行了X光拍攝，發現雕像頭部之中有被推測是性空上人的靈骨。開山堂也是國家指定重要文化財產。

<日本語仮訳>

開山堂

開山堂は、奥之院として知られるエリアの中で最も重要な建物である。お堂は開祖性空上人（910-1007）が入寂された 1007 年に、上人の御骨を祀るために建てられた。勤行はここで千年以上に渡って毎日行われている。

1673 年に建立された現在の建物は、江戸時代（1603-1867）半ばの自由な寺院建築の代表的な例である。屋根を支える組み合わせされた腕木は、有名な彫刻家左甚五郎（1624-1644 に活躍）によって彫られた三体の神話上の守護神（金剛力士）を含む、さまざまな精巧な彫刻で飾られている。伝説によると、もともとは建物の四隅のそれぞれにひさしを支える金剛力士がいたが、四体のうちの一体はそのとてつもない重量を支えることができず逃げ出し、三体だけが残っているという。

天台宗の寺院に共通する建築様式に倣い、中央は一段下がった土間になっている。須弥壇は、どっしりとした漆塗りの扉と屋根のような複雑な上部構造を持つ大きな厨子を支えている。お堂の格天井は、厨子の上の部分が高くなっており、性空上人の位の高さを示す象徴的な境界となっている。

厨子には、等身大の性空上人坐像が収められている。2008 年に研究者らが彫像をレントゲン撮影した際、この像の頭部に性空上人自身のものと考えられる遺骨が納められていることが判明した。開山堂は国の重要文化財である。

【タイトル】 不動堂

【想定媒体】 看板

<簡体字>**不动堂**

不动堂位于奥之院入口附近一片稍稍抬高的石基上。这座小佛堂尽管外观非常简朴，但堂内供奉的不动明王在佛教中有着重要的地位，他是五大“智慧之王”之一。不动明王的怒容与露出的獠牙与他拥有无限慈悲的声名形成了鲜明对比。日本的密教天台宗和真言宗对不动明王极为崇拜，传说他是一位通过焚烧业障和污秽来保护信徒的强大神明。右手握刀，左手执羂索（羂，音同“眷”），是不动明王的经典形象。作为佛陀的勇士，不动明王的责任是清除业障，因而常常被塑造成坐在坚硬的岩石上，周身火焰缠绕的形象。

圆教寺的守护神乙天和若天与不动明王有着极为密切的关联。乙天被视作不动明王的化身，他和若天都是寺中每年1月18日举行的祈求和平与五谷丰登的法会“修正会”上不可或缺的角色。不动堂不远处有两座小神社，称作“护法堂”，里面供奉的即是乙天和若天。

不动堂始建于1678年，1967年垮塌，10年后重建时采用了部分初建时的材料。

<繁体字>**不動堂**

不動堂位於奧之院入口附近一片稍微抬高的石基上，始建於1678年。儘管外觀簡樸，但不動堂內供奉著五大「智慧之王」之一的不動明王，祂在佛教世界觀裡有著重要地位。不動明王的怒容和外露的獠牙，與祂無限慈悲的聲望形成了鮮明對比。日本的密教天台宗和真言宗對不動明王極為崇拜，認為祂是一位通過焚燒業障和污穢來保護信徒的強大神明。右手握刀，左手執羂索（羂，音同「眷」），是不動明王的經典形象。作為佛陀的勇士，不動明王的責任是清除業障，因而常常被塑造成坐在堅硬的岩石上，周身被火焰包裹的形象。

圓教寺的守護神乙天和若天與不動明王有著極為密切的關聯。乙天被視作不動明王的化身，祂和若天都是寺中每年1月18日舉行的祈禱和平與五穀豐登的法會「修正會」上不可或缺的角色。與不動堂相距不遠，有兩個被稱作「護法堂」的小神社，裡面供奉的就是乙天和若天。

不動堂於1967年不幸垮塌，10年後採用部分初建時的材料得以重建。

<日本語仮訳>

不動堂

奥之院の入り口近くの小高くなった石の台座の上にある小さな建物が不動堂である。建物の外観は簡素であるが、祀られている不動明王の像は宗教的に非常に重要である。不動明王は5人の「知恵の王」の1人である。不動明王の憤怒の形相と剥き出しになった牙は、無限の思いやりを持つというその評判とは全く対照的な印象を与える。不動明王は日本の密教である天台宗と真言宗の中で深く崇拝されている。彼は、業（カルマ）の妨害と穢れを焼き払うことで信者を守る強い神であると言われている。典型的に、その姿は、右手に直刀を握りしめ、左手に絹索を持っている。仏陀の戦士としてカルマを取り除く役目を負う不動明王は、固い岩の上に座り、炎に包まれた姿で描かれることが多い。

圓教寺は、寺院の守護神である乙天や若天とのつながりを通じて、不動明王と特に強い関連性がある。乙天は不動明王の化身であると考えられており、若天とともに毎年1月18日に行われる平和と五穀豊穡を願う法要「修正会」など、寺院のしきたりに欠かせない存在である。乙天と若天は不動堂に隣接する2つの小さな神社である護法堂に祀られている。

不動堂は元々1678年に建てられたが、1967年に倒壊した。10年後に当時の建材の一部を使って再建されている。

【タイトル】護法堂（乙天社と若天社）

【想定媒体】看板

<簡体字>

护法堂（乙天社与若天社）

奥之院内并排而立的两座神社被称作“护法堂”，里面供奉的是圆教寺的守护神乙天和若天。乙天是智慧之神不动明王的化身，若天是人间财富的守护神毗沙门天的化身，两者都是佛教中的强大守护神。相传，圆教寺开山祖师性空上人(910-1007)于966年在书写山开始修行时得到了他们的帮助，因此，从寺院创建起，两者就被尊为圆教寺的守护神，至今仍在寺院传承和传统中占据着重要地位。圆教寺每年1月18日举行的祈求和平和五谷丰登的法会“修正会”是本寺最重要的活动，届时，表演者会戴上代表绿神乙天和红神若天的面具在寺内挥舞火把，摇晃铃铛，尽情狂舞。

右边的乙天社和左边的若天社内，分别供奉着乙天和若天像。严格地说，这两座神社都属于供奉祭神的本殿（正殿）。通常，本殿前会有“拜殿”与之相连，供参拜者祭拜或进奉供品。但在这里，拜殿被独立分开，与两座神社隔着中庭相望。

两座神社均为国家指定重要文化财产。

<繁体字>

護法堂（乙天社與若天社）

奥之院内並排而立的兩座神社被稱作「護法堂」，供奉的是圓教寺的守護神乙天和若天。乙天是智慧之神不動明王的化身，若天是財富的守護神毗沙門天的化身，兩者都被視為佛教世界中的強大守護神。相傳，圓教寺開山祖師性空上人（910-1007）於966年在書寫山開始修行時曾得到了這兩位明王化身的幫助，因此，從寺院創建起，乙天和若天就被尊為圓教寺的守護神，至今仍在寺中傳說和寺院傳統中佔據著重要地位。在圓教寺一年一度最重要的活動上——即每年1月18日舉行的祈禱和平和五穀豐登的法會「修正會」，表演者會戴上代表綠神乙天和紅神若天的面具在寺內揮舞火把，搖晃鈴鐺，盡情狂舞。

右邊的乙天社和左邊的若天社内，分別供奉著乙天和若天像。嚴格地說，這兩座神社都屬於供奉祭神的本殿（正殿）。通常，本殿前會有「拜殿」與之相連，供參拜者祭拜或進奉供品。但在這裡，拜殿被獨立分開，與兩座神社隔著中庭相望。

兩座神社均被指定為國家重要文化財產。

<日本語仮訳>

護法堂（乙天社と若天社）

奥之院に並ぶ2つの社である護法堂は、圓教寺の守護神である乙天と若天を祀っている。乙天は智慧の神である不動明王の化身であり、若天は地上の財宝の守護神である毘沙門天の化身である。仏教の教えの強力な守護神として知られる乙天と若天は、966年に書寫山で修行を始めた圓教寺の開祖である性空上人（910-1007）を助けたとされる。乙天、若天は創建当時から圓教寺の守護神として、今日に至るまで寺伝やしきたりの中で重要な役割を果たしてきた。圓教寺の年間行事で最も重要なのは、1月18日に行われる平和と五穀豊穡を願う法要「修正会」である。この特別な日には、緑の神である乙天と、赤の神である若天を表す仮面を被った演者たちが境内の中を乱舞し、松明を振って鈴を鳴らす。

乙天、若天はこの2つの社の中に安置されている。右側が乙天社、左側が若天社である。厳密に言えば、これら2つの社は神そのものを祀った「本殿」と見なされる。一般的には本殿の前には付属する「拝殿」があり、参詣者はそこでお供えをしたり、祀られている神に奉納する儀式を行う。しかし、ここでは拝殿は切り離されており、中庭を挟んで2つの社に向かい合って建っている。

この2つの社はいずれも国の重要文化財に指定されている。

【タイトル】護法堂拜殿

【想定媒体】看板

<簡体字>

护法堂拜殿

长方形的拜殿与位于圆教寺奥之院另一侧的护法堂之间隔着中庭，主要用来祭拜护法堂内供奉的两位神灵。不过，此处建筑除了是护法堂两座神社的拜殿之外，也用来举行仪式，或是供前往隔壁开山堂的参拜者使用。

拜殿建于 1589 年，建筑融合了佛寺和神社样式。据寺中传说，12 世纪的传奇僧兵武藏坊弁庆（1155-1189；弁，音同“遍”）曾在此修习。弁庆从 7 岁至 10 岁在书写山上习武，食堂 2 楼有一张桌子相传就是他用过的旧物。

日本的神社通常由正殿和拜殿两栋半相连的建筑物构成，但护法堂却是以两座独立建筑替代了正殿，其内分别供奉着圆教寺的守护神乙天和若天。此外，拜殿的位置不在护法堂前，而是建在中庭对面，完全独立，与常见布局大相径庭。

护法堂拜殿是国家指定重要文化财产。

<繁体字>

護法堂拜殿

長方形的拜殿與奧之院另一側的護法堂之間隔著中庭，主要用來祭拜護法堂內供奉的兩位神靈。不過，這處建築除了是護法堂兩座神社的拜殿之外，也用來舉行儀式，或是供前往隔壁開山堂的參拜者使用。

拜殿建於 1589 年，建築融合了佛寺和神社樣式。據寺中傳說，12 世紀的傳奇僧兵武藏坊弁慶（1155-1189；弁，音同「遍」）7 歲至 10 歲在書寫山上習武時，就曾在這修習。食堂 2 樓有一張桌子相傳就是他用過的舊物。

日本的神社通常由正殿和拜殿兩棟半相連的建築物構成，但護法堂卻是以兩座獨立建築替代了正殿，其內分別供奉著圓教寺的守護神乙天和若天。此外，拜殿的位置不在護法堂前，而是建在中庭對面，完全獨立，與常見布局大相徑庭。

護法堂拜殿被指定為國家重要文化財產。

<日本語仮訳>

護法堂拜殿

この長方形の拝殿は、圓教寺の奥之院の反対側にある、中庭を挟んだ護法堂に祀られている 2 柱の神々と密接に関連している。2 つの社の拝殿としての役割に加え、この建物は儀式や隣接する開山堂を訪れる巡礼者にも利用されている。

1589 年に建てられたこの建物は、寺院と神社の建築様式を融合させたものとなっている。寺伝によると、ここはかつて 12 世紀の伝説的僧兵であり、7 歳から 10 歳まで書寫山で修行を行った武蔵坊弁慶（1155-1189）の学問所であったという。弁慶が使用したとされる実際の机は、食堂の 2 階に展示されている。

日本の神社は、一般的に「本殿」と「拝殿」の 2 つの半独立した建築物で構成されている。護法堂の場合、本殿の代わりに、2 つまとめて護法堂と呼ばれる建物がある。こ 2 つの建物には、圓教寺の守護神である乙天と若天が祀られている。拝殿の場所も一般的なそれとは異なり、中庭の向こう側にあり、護法堂の前面に付属しているのではなく完全に独立している。

護法堂拝殿は国の重要文化財に指定されている。

【タイトル】 伝和泉式部歌塚塔

【想定媒体】 看板

<簡体字>**传和泉式部歌塚塔**

和泉式部（约 976-1036）是平安时代(794-1185)的女官，也是著名文学家，尤擅和歌。和歌是采用五行 5-7-5-7-7 字句、共 31 个音节的日本古典诗歌形式。这座石塔为纪念和泉式部和她的一首名诗而建。据传，1002 年至 1005 年间，和泉式部为了追求精神安宁皈依佛教，并受到圆教寺开山祖师性空上人(910-1007)的指点，这首诗应该就作于同一时期。

路比夜更黑，明月遥遥照山端。

（暗きより暗き道にぞ入りぬべき遥かに照らせ山の端の月）

这首诗用人们熟悉的意象比喻苦难和救赎的关系。“明月”既象征着佛教中的觉悟，也指性空上人。这首和歌收录在当时歌人巅峰作品敕选《拾遗和歌集》中。性空上人被此诗感动，立刻回赠一首：

日落月未出，挂起法灯照暮色。

（日は入りて月はまだ出ぬたそがれに掲げて照らす法の燈）

据寺院文献记载，和泉式部去世后，身披性空上人所赠衣袍下葬。

该冢塔建于 1233 年，是兵库县最古老的文字石碑，不过它的每一寸几乎都在漫长的岁月中历经修复或替换。

<繁体字>**傳和泉式部歌塚塔**

和泉式部（約 976-1036）是平安時代（794-1185）的女官，也是著名文學家，尤擅和歌。所謂的和歌是採用五行 5-7-5-7-7 字句、共 31 個音節的日本古典詩歌形式。這座石塔正是為紀念和泉式部和她的一首名詩而建。據傳，1002 年至 1005 年間，和泉式部為了追求心靈的寧靜而皈依佛教，並受到了圓教寺開山祖師性空上人（910-1007）的指導，這首詩應該就作於同一時期。

路比夜更黑，明月遙遙照山端。

（暗きより暗き道にぞ入りぬべき遥かに照らせ山の端の月）

這首詩以常見的意象比喻苦難和救贖的關係。「明月」既象徵著佛教中的覺悟，也指修行的導師性空上人。這首和歌收錄在當時歌人巔峰作品敕選《拾遺和歌集》中。性空上人被此詩感動，立刻回贈一首：

日落月未出，掛起法燈照暮色。

(日は入りて月はまだ出ぬたそがれに掲げて照らす法の燈)

據寺院文獻記載，和泉式部去世後，身披性空上人所贈衣袍下葬。

該塚塔建於1233年，是兵庫縣最古老的文字石碑，但它的每一寸幾乎都在漫長的歲月中歷經修復或替換。

<日本語仮訳>

伝和泉式部歌塚塔

和泉式部（976-1036年頃）は平安時代（794-1185）の女官であり、有名な文学者であった。和泉式部は特に、5-7-5-7-7の31音節からなる詩である和歌で知られている。この石造りの塔は、和泉式部と、彼女の最も有名な和歌の1つを称えて建立された。1002年から1005年の間に、和泉式部が精神的な安らぎを求めて仏教に帰依し、圓教寺の開祖である性空上人（910-1007）に指南を仰いだとされる。この和歌は、同時期に詠まれたと考えられている。

暗きより暗き道にぞ入りぬべき遥かに照らせ山の端の月

この歌は、おなじみの詩的な比喻を用いて、苦しみと救いの関係を強調している。たとえば「月」は仏教の悟りの象徴であるが、性空上人自身の象徴でもある。この歌は、当時歌人にとって最高の荣誉である勅撰『拾遺和歌集』に収録された。性空上人は和泉式部の歌に感動し、すぐに返歌を返した。

日は入りて月はまだ出ぬたそがれに掲げて照らす法の燈

寺院の記録では、和泉式部が亡くなった際、性空上人から送られた衣をかけて埋葬されたとされる。

1233年に建てられたこの塔は、文字が刻まれている石碑としては兵庫県最古である。しかしながらほとんどの部分は長い年月の間に交換または修復されている。

【タイトル】 金剛堂

【想定媒体】 看板

<簡体字>**金剛堂**

金剛堂所建位置，對於圓教寺的開山祖師性空上人(910-1007)而言格外重要。據說這裡原是普賢院的塔頭（附屬寺院），性空上人在書寫山修行初期就住在此處。彼時，象徵堅定不移追求覺悟的天台宗核心信仰——菩薩金剛薩埵前來拜訪性空上人，並將代表密教修行的根本「形而上界」。

室町時代(1336-1572)，茅葺屋頂的普賢院被遷至此處。為了紀念性空上人的奇遇，院內供奉木雕金剛薩埵像。金剛堂的中心是原本用來安放佛像的金色佛龕。如今，木雕金剛薩埵像在「三之堂」的食堂 2 樓展出。這尊佛像雕刻於 1359 年，出自奈良東大寺的造佛師康俊之手。

1544 年，金剛堂經歷了一次翻新，屋頂改鋪瓦片，屋脊上安置的鯨瓦（虎頭魚身的神獸）據說是日本最古老的式樣。天花板上繪滿了源自亞洲多種宗教的聖物或生物的鮮艷圖案，其中有一幅在佛教中象徵覺悟的雙龍圖，而另一處描繪的是半人半鳥的不死妙音鳥「迦陵頻伽」，她飛翔於高空，用崇高的聲音唱誦着佛法。

金剛堂是國家指定重要文化財產。

<繁体字>**金剛堂**

金剛堂所建位置，對於圓教寺的開山祖師性空上人（910-1007）而言格外重要。據說這裡原是普賢院的塔頭（附屬寺院），性空上人在書寫山修行初期就住在此處。相傳當時象徵堅定不移追求覺悟的天台宗核心信仰——菩薩金剛薩埵前來拜訪性空上人，並將代表密教修行的根本「形而上界」，即金剛界曼荼羅和胎藏界曼荼羅的結印傳授給他。

室町時代（1336-1572），茅葺屋頂的普賢院被遷至此處。為了紀念性空上人的奇遇，於院內供奉木雕金剛薩埵像。金剛堂的中心是原本用來安放佛像的金色佛龕，不過如今木雕金剛薩埵像已被移駕至「三之堂」的食堂 2 樓展出。這尊佛像雕刻於 1359 年，由奈良東大寺的造佛師康俊製作。

1544 年，金剛堂經過翻新，將屋頂改鋪瓦片，屋脊上安置的鯨瓦（虎頭魚身的神獸）據說是日本最古老的式樣。天花板上繪滿了源自亞洲許多宗教的聖物或生物，例如在佛教

中象徴著覺悟的雙龍圖，還有另一處描繪的是在高空飛翔的半人半鳥的不死妙音鳥「迦陵頻伽」，祂用崇高的聲音唱誦著佛法。

金剛堂被指定為國家重要文化財產。

<日本語仮訳>

金剛堂

金剛堂は、圓教寺の開祖性空上人（910-1007）にとって特別に重要な場所に建つ。書寫山で修行を始めたころ、性空上人はかつてこの場所にあった普賢院の塔頭を居所としていたと考えられている。この普賢院に住んでいた際に、菩薩である金剛薩埵が性空上人を訪問された。金剛薩埵は、悟りへの揺るぎない願望を象徴し、天台宗では中心となっている仏である。金剛薩埵は、金剛界曼荼羅と胎藏界曼荼羅を表す神聖な印相を性空上人に伝えたとされる。これら二つの曼荼羅は密教の修行の基本である形而上学的領域を表現している。

室町時代（1336-1572）に、茅葺きの普賢院がこの場所に移され、性空上人との奇跡的な出会いを記念し木造金剛薩埵像が祀られた。建物の内部は、元々その像が安置されていた金色に輝く厨子が中心になっている。木造金剛薩埵像は、現在は「三之堂」の食堂の2階に展示されている。この坐像は、1359年に奈良の東大寺の仏師である康俊によって彫刻されたものである。

1544年に金剛堂は改修され、その当時の屋根は瓦葺で、棟の鯨瓦（虎の頭と魚の体を持つ神兽）は日本最古のデザインといわれている。天井にはさまざまなアジアの宗教的な神聖な事物や生き物が色鮮やかに描写されていた。その中には仏教ではしばしば悟りを表す2つの龍が描かれている。天井の別の箇所には、半分鳥で半分人間の姿をした不死の迦陵頻伽が飛び、崇高な声で仏陀の教えを説いている。

金剛堂は国の重要文化財に指定されている。

【タイトル】 薬師堂

【想定媒体】 看板

<簡体字>

药师堂

药师堂是圆教寺内最古老的建筑。1978 年对建筑物进行大规模修复时，在其内部发现了奈良时代(710-794)的文物。这些文物表明，早在圆教寺开山祖师性空上人(910-1007)于 966 年来到书写山之前，这里就已经是一处宗教场所。数百年来，这里经历了多次改建和增建，已经很难准确追溯该建筑的历史，但其巨大的主柱和富有装饰性的屋梁，属于融合了中国宋代福建的寺院建筑 and 传统日式建筑形制的新建筑样式，称“大佛様”。

顾名思义，药师堂内因供奉健康与治愈之佛药师如来而得名。因为与治病养生有关，药师如来很受日本朝廷推崇，自 6 世纪佛教传入日本后，很快就成为最早受崇拜的佛陀之一。进入 8 世纪后，随着佛教的传播，药师如来信仰扩大至民间，许多寺院都有供奉他的殿堂。药师如来通常被塑造为左手持药瓶的形象。圆教寺药师堂的木雕药师如来坐像制作于室町时代(1336-1573)，现在“三之堂”的“食堂”2 楼展出。

<繁体字>

藥師堂

藥師堂是圓教寺內最古老的建築。1978 年對建築物進行大規模修復時，在其內部發現了奈良時代（710-794）的文物。由此表明，在圓教寺開山祖師性空上人（910-1007）於 966 年來到書寫山之前，這裡就已經是一處宗教場所。由於數百年來藥師堂歷經多次改建和增建，因此無法準確追溯該建築的歷史，但巨大的主柱和富有裝飾性的屋樑，屬於融合了中國福建的宋代寺院建築和傳統日式建築形制的新建築樣式「大佛樣」。

藥師堂內因供奉健康與治癒之佛藥師如來而得名。因為與治病養生有關，藥師如來頗受日本朝廷親睞，自西元 6 世紀佛教傳入日本後，便成為最早受崇拜的佛陀之一。進入 8 世紀後，隨著佛教的傳播，藥師如來信仰擴大至民間，許多寺院都有供奉祂的殿堂。藥師如來通常被塑造為左手持藥瓶的形象。圓教寺藥師堂的木雕藥師如來坐像製作於室町時代（1336-1573），於「三之堂」的「食堂」2 樓展出。

<日本語仮訳>

薬師堂

薬師堂は圓教寺で最も古い建物である。1978年に建物の大規模な改修が行われた際、奈良時代（710-794）の遺物が内部から発見された。これらの遺物の存在は、この場所が圓教寺の開祖である性空上人（910-1007）が966年に書寫山に到着する以前から宗教的な意味を持っていたことを示している。何世紀にもわたって、何度もの改築や増築が行われてきたため、この建物の建築史を正確に追跡することは困難になっている。それでも、大きな主柱と装飾的な屋根の梁は、「大仏様」と呼ばれる中国福建省の宋朝寺院建築の様式と伝統的な「和様」をもとに考案した新しい建築様式に基づいている。

このお堂は癒しの仏あるいは医術の達人として知られる薬師如来を安置していることから名づけられた。薬師如来は健康と癒しの仏として朝廷の人々に人気があり、6世紀に仏教が導入された後、崇拜の対象となった最初の仏の1人であった。薬師如来崇拜は、仏教が一般庶民にも普及し、多くの寺院がその像を祀るようになった8世紀に広まった。ほとんどの場合、薬師如来は薬瓶を左手に持った姿で表現される。ここ圓教寺の薬師堂の木造薬師如来坐像は、室町時代（1336-1573）に製作されたもので、現在は「三之堂」の「食堂」の2階に展示されている。

【タイトル】 十地院（圓教寺塔頭）

【想定媒体】 看板

<簡体字>

十地院（圓教寺塔頭）

十地院原本位于开山堂西侧，占地面积广大。现在它是书写山唯一一处能眺望濑户内海的塔头（附属寺院）。十地院内供奉的是大慈大悲观音菩萨像，所谓“十地”指成为菩萨的 52 个阶段中的最后 10 个阶段。

在拍摄好莱坞大片《最后的武士》（2003 年）期间，这里曾是汤姆·克鲁斯的片场休息所，因此寺院员工亲切地称它为“汤姆之家”。拍摄过程中，汤姆·克鲁斯每天都要从神户的酒店乘私人直升机来圆教寺。

<繁体字>

十地院（圓教寺塔頭）

十地院原本位於開山堂西側，占地面積廣大。目前它是書寫山唯一一處能眺望瀨戶內海的塔頭（附屬寺院）。十地院內供奉的是大慈大悲觀音菩薩像，所謂「十地」指成為菩薩的 52 個階段中的最後 10 個階段。

在拍攝好萊塢鉅片《最後的武士》（2003 年）時，這裡曾是湯姆·克魯斯在拍片現場的休息室，因此被寺院員工暱稱為「湯姆之家」。據傳拍攝期間，湯姆·克魯斯每天都要從神戶的酒店乘私人直升機來到圓教寺。

<日本語仮訳>

十地院（圓教寺塔頭）

十地院は元々開山堂の西側にある広大な敷地を占めていた。現在の場所は、書寫山で唯一瀬戸内海が望める塔頭である。十地院には観音菩薩像が安置されている。その名前の「十地」という言葉は、菩薩になるための 52 段階の最後の 10 段階を指している。

この建物は、大ヒットしたハリウッド映画『ラストサムライ』（2003 年）で、トム・クルーズが撮影の合間の休憩に使用したため、寺の関係者は親しみを込めて「トムの家」と呼んでいる。撮影中、トム・クルーズは毎日、神戸のホテルから自家用ヘリコプターで圓教寺に通っていたという。

【タイトル】 圓教寺鐘樓

【想定媒体】 看板

<簡体字>

圓教寺鐘樓

16 世纪至 19 世纪的近代，钟表在日本尚未普及，寺院钟声作为地区报时工具发挥着重要作用。遵循中国计时习惯，寺院将一天分成 12 个时辰，每 2 小时敲一次钟。此外，逢年过节或是碰上火灾示警时也会敲响钟声。

圓教寺鐘樓坐落在金字塔形的底座上，由於外形輪廓如同一個穿著袴（音同“褲”，日本傳統服飾中遮蓋腰部以下的寬腿褲）的人，這一樣式被稱為“袴造”。基座上方的斗拱可以均勻分散建築重量的受力，並支撐上方的遊廊。在瓦葺屋簷下，也可看到類似的斗拱構造。鐘樓內的青銅梵鐘上以龍和蓮花等佛教象徵物裝飾。雖然沒有銘文，但從風格上看，它應該鑄造於鎌倉時代(1185-1333)，是兵庫縣現存同類型中最早的吊鐘，也是日本最古老的吊鐘之一。這座鐘樓的歷史則可追溯至 1332 年左右，據推測可能是在更古老的建築基礎上進行了復原。圓教寺鐘樓是國家指定重要文化財產，梵鐘則是兵庫縣文化財產。

<繁体字>

圓教寺鐘樓

16 世紀至 19 世紀的近代，由於鐘錶在日本尚未普及，寺院鐘聲便承擔起地區報時工具的功能。日本寺院遵循中國計時習慣，將一天分成 12 個時辰，每 2 小時敲一次鐘。此外，逢年過節或是碰上火災示警時也會敲響鐘聲。

圓教寺鐘樓坐落在金字塔形的底座上，由於外形輪廓如同一個穿著袴（音同「褲」，日本傳統服飾中遮蓋腰部以下的寬腿褲）的人，因此這一樣式便被稱為「袴造」。基座上方的斗拱可以均勻分散建築重量的受力，並支撐上方的遊廊。在瓦葺屋簷下，也可看到類似的斗拱構造。鐘樓內的青銅梵鐘上以龍和蓮花等佛教象徵物裝飾，雖然沒有銘文，但從風格上看，應該鑄造於鎌倉時代（1185-1333），是兵庫縣現存同類型中最早的鐘，也是日本最古老的鐘之一。這座鐘樓的歷史則可追溯至 1332 年左右，據推測可能是在更古老的建築基礎上進行了復原。圓教寺鐘樓是國家指定重要文化財產，梵鐘則是兵庫縣文化財產。

<日本語仮訳>

圓教寺鐘樓

時計が一般的ではなかった近代（16世紀から19世紀）、寺院の鐘は地域に時を告げるものとして重要な役割を果たしていた。1日を12に分割する中国の計時慣行に従って、寺院の鐘は2時間ごとに鳴らされた。また、鐘は新年、お祭りなどの特別な日や、火災の発生など危険を知らせる必要があるときにも鳴らされた。

圓教寺鐘楼は、ピラミッド型の台座の上に建つ。これは、腰から下に履く伝統的な衣装である袴を着用している人のシルエットに似ていることから、「袴造」と呼ばれている。基部のすぐ上にあるかみ合わせ支えの基礎「料拱」は、構造の実質的な重量を均等に分散させ、周囲の露台を支えるように設計されている。瓦葺の屋根の軒下にも同様の組み合わせ支え構造が見られる。内部の青銅製の鐘は、仏教の象徴である龍や蓮の花などで華やかに装飾されている。鐘は銘刻されていないが、その様式から鎌倉時代（1185-1333）の铸造とされ、兵庫県で最も古く、日本最古の鐘の1つに数えられる。鐘楼自体は1332年頃に建てられ、それより以前の構造を復元したものと考えられている。圓教寺鐘楼は国の重要文化財、鐘は兵庫県の文化財である。

【タイトル】 法華堂

【想定媒体】 看板

<簡体字>**法华堂**

法华堂得名于《法华经》，这部大乘佛教的核心经典在整个东亚地区广受推崇。法华堂供奉的本尊是金光闪耀的大行普贤菩萨。堂中普贤菩萨像为常见造型，他端坐于莲花座上，头戴精美青铜冠，手持莲花，呈冥想沉思姿态。基座里有小室，内置一头全身漆黑的大象雕塑，也许是为了摆脱普贤菩萨总是与白象一起出现的常规形象。普贤菩萨背后有光环一般的灿烂背光，象征佛身发出的神圣力量。

普贤菩萨像正上方的方格天花板特别挑高，以强调菩萨的重要地位。天花板上悬挂着金色装饰，上有用印度悉曇文字书写的无量光佛阿弥陀如来的真言。眼前这栋建筑和它供奉的本尊像都出自江户时代(1603-1867)。

<繁体字>**法華堂**

法華堂得名於在整个东亚地区广受推崇的大乘佛教核心經典《法華經》，殿內供奉的本尊是金光閃耀的大行普賢菩薩。堂中普賢菩薩端坐於蓮花座上，頭戴精美青銅冠，手持蓮花，作冥想沉思姿態，為常見造型。基座裡有小室，內置大象雕塑，其身漆黑，顛覆了普賢菩薩總與白象一起出現的常規形象。普賢菩薩背後有光環一般的燦爛背光，象徵佛身發出的神聖力量。

普賢菩薩像正上方的方格天花板特別挑高，以強調菩薩的重要地位。天花板上懸掛著金色裝飾，上有用印度悉曇文字書寫的無量光佛阿彌陀如來的真言。法華堂和本尊像都出自江戶時代（1603-1867）。

<日本語仮訳>**法華堂**

法華堂は、東アジア全域で広く崇拝されている大乘仏教の中心的經典である『法華經』にちなんで名付けられた。本尊は、金色に輝く正しい行いの菩薩である普賢菩薩である。普賢菩薩は蓮華座に座った典型的な瞑想姿で表現され、手に蓮の花を持ち、精巧な青銅の冠をかぶっている。基台の内部には狭い小部屋があり、その中には象の彫刻が置かれている。一般的に白象を伴う普賢菩薩の

典型的な表現からの脱却をねらったのか、この象は黒である。普賢菩薩の背後には光り輝く光背があり、光輪のように神聖な力の発散を象徴している。

堂の格間格子天井は、普賢菩薩の真上の空間が高くなっており、菩薩の重要性を表す象徴的な区分をなしている。天井から吊り下げられた金色の装飾には、無量光仏である阿弥陀如来の真言がインドの悉曇文字で刻まれている。現在の建物と本尊は、江戸時代（1603-1867）のものである。

【タイトル】 本多家廟屋

【想定媒体】 看板

<簡体字>

本多家廟屋

此处是江户时代(1603-1867)书写山圆教寺的资助者本多家族的墓园。1620年，姬路城城主本多忠政(1575-1631)目睹被武将丰臣秀吉(1537-1598)占领后破败不堪的圆教寺，大为痛惜。为了恢复寺院往日的荣光，他开始筹资重建。在其努力之下，圆教寺的众多重要建筑物得以保留至今。此处供奉的是本多忠政和他的父亲本多忠胜(1548-1610)以及他的3位后继者。本多忠胜也是德川幕府开创者德川家康(1543-1616)最信赖的武将之一。

在5座样式相同的方形“庙屋”（祠堂）内，分别有一座五轮石塔，历任本多家族家主就被供奉在石塔里。庙屋为攒尖式瓦屋顶，屋檐微微上翘，圆珠形宝顶。这五座庙屋都是兵库县文化遗产。

园内另两座石塔是本多忠政的儿子本多忠刻(1596-1626)和外孙富坚幸千代的墓。本多忠刻的石塔后面是在他去世后殉死的3位武士的小墓。

<繁体字>

本多家廟屋

此處是江戶時代（1603-1867）書寫山圓教寺的贊助者本多家的墓園。1620年，姬路城城主本多忠政（1575-1631）目睹被豐臣秀吉（1537-1598）佔領後荒廢不堪的圓教寺，大為痛惜。為了恢復寺院往日的榮光，他開始為重建勸募。圓教寺眾多的重要建築物得以保留至今正是得益於本多忠政的努力。此處供奉的是本多忠政和他的父親本多忠勝（1548-1610）以及他的3位後繼者。本多忠勝是德川幕府開創者德川家康（1543-1616）最信賴的武將之一。

在5座樣式相同的方形「廟屋」（祠堂）內，分別有一座五輪石塔，歷任本多家家主就被供奉在石塔裡。廟屋為攢尖式瓦屋頂，屋簷微微上翹，圓珠形寶頂。這五座廟屋都是兵庫縣文化遺產。

園內另兩座石塔是本多忠政的兒子本多忠刻（1596-1626）和外孫富堅幸千代的墓。本多忠刻的石塔後面則是在他去世後殉死的3位武士的小墓。

<日本語仮訳>

本多家廟屋

これは、江戸時代（1603-1867）に書寫山圓教寺を後援した本多一族の墓である。1620年、姫路城城主の本多忠政（1575-1631）は、戦国武将豊臣秀吉（1537-1598）の占領によって荒廃した寺院の様子を見て衝撃を受けた。忠政は寺院のかつての栄光を取り戻すため、再建のための募金活動を開始し、そのおかげで現在も多くの圓教寺の中心的建造物が残っている。ここには忠政の父・忠勝（1548-1610）と、その後継者 3 名が祀られている。忠勝は、徳川幕府を開いた徳川家康（1543-1616）が最も信頼した武将のひとりであった。

本多一族の 5 人の後継者たちはそれぞれ、同じ正方形の廟屋に囲まれた石造りの五輪塔に祀られている。廟屋のピラミッド型の大きなどっしりとした瓦屋根は、緩やかに上に反っていて、球形の頂華がのっている。5 つの廟屋はすべて兵庫県文化財に登録されている。

敷地内にさらに 2 つある石塔は、忠政の息子である本多忠刻（1596-1626）と孫の富樫幸千代の墓である。忠刻の石塔の後ろには、忠刻の死後、殉死した三人の武士の小さな墓がある。

【タイトル】 榊原家廟所

【想定媒体】 看板

<簡体字>**榊原家族庙所**

此处“庙所”（墓园）供奉的是榊原（榊，音同“神”）家族中的两位大名（大领主），他们都曾是江户时代(1603-1867)姬路城的城主。左侧的石塔和石碑供奉的是榊原政房(1641-1667)，他在人生的最后两年中出任姬路藩主。石碑上刻有他的官职和名号“故刑部大辅从四位下源朝臣”。名号中的“源”字说明榊原政房和德川家族有血缘关系，德川家族自称是日本第一位将军源赖朝(1147-1199)的后代。右边的墓地供奉的是榊原政祐(1705-1732)。

两座石碑立于象征努力和勤奋的“龟趺”之上。石碑背后的石塔上都刻有用印度悉曇文字书写的佛教世界观五大要素，从上到下分别是“空”“风”“火”“水”“地”。

两座石碑均建于1734年左右，立碑者是后来的姬路藩主榊原政岑(1715-1743)。榊原政岑挥霍无度，由于花费重金让吉原名妓落籍，不久就被改封到一个小藩国。现在每年6月举行的夏季浴衣祭就是榊原政岑出任姬路藩主时开创的。榊原家族的后人至今仍会在参加祭典后来此扫墓。庙所前的众多灯笼皆为榊原家族的家臣后代前来祭扫时所赠。

<繁体字>**榊原家廟所**

此處「廟所」（墓園）供奉的是榊原（榊，音同「神」）家中的兩位大名（大領主），他們也都是江戶時代（1603-1867）統領姬路城的城主。左側的石塔和石碑供奉的是榊原政房（1641-1667），他在離世前兩年出任姬路藩主。石碑上刻有他的官職和稱號「故刑部大輔從四位下源朝臣」。稱號中的「源」字說明榊原政房和德川家有血緣關係，因為德川家自稱是日本第一位將軍源賴朝（1147-1199）的後代。右邊的墓地供奉的則是榊原政祐（1705-1732）。

兩座石碑立於象徵努力和勤奮的「龜趺」之上。石碑背後的石塔上則刻有以印度悉曇文字書寫的佛教世界觀五大要素，從上到下分別是「空」「風」「火」「水」「地」。

兩座石碑均建於1734年左右，由後來的姬路藩主榊原政岑（1715-1743）所立。榊原政岑當政時揮霍無度，甚至花費重金讓吉原名妓落籍，因此不久就被改封到一個小藩國。現在每年6月舉行的夏季浴衣祭就是榊原政岑在任姬路藩主時開創的。榊原家的後人至今仍會在參加祭典後來此掃墓，而廟所前的眾多燈籠皆為榊原家的家臣後代前來祭掃時所贈。

<日本語仮訳>

榊原家廟所

この廟所では、江戸時代（1603-1867）に姫路城の城主を務めた大名（大領主）榊原家の 2 人を祀っている。左側の石塔と石碑は、その人生最後の 2 年間、姫路藩主を務めた榊原政房（1641-1667）を祀っている。石碑には「故刑部大輔従四位下源朝臣」と、彼の正式な階級と称号が刻まれている。「源」という名前が含まれていることは、政房と徳川家との家系上のつながりを表している。徳川家自体、日本で最初の将軍であった源頼朝（1147-1199）の子孫であると主張していた。右の墓は榊原政祐（1705-1732）を祀っている。

二つの石碑は努力と勤勉さを象徴する亀趺の上に立っている。それぞれの石碑の背後にある石塔には、悉曇文字で書かれた仏教宇宙論の五大要素を表す文字が刻まれている。上から、「空」、「風」、「火」、「水」、「地」と読む。

この二つの石碑は、後の姫路藩主榊原政岑（1715-1743）によって 1734 年頃に建立された。政岑は金遣いが荒いことで知られていた。有名な吉原の遊女を落籍するために大枚をはたいた後、すぐに小さな藩に転封させられた。政岑が姫路の藩主として始めた夏のゆかた祭りは、今も毎年 6 月に開催されている。榊原家の子孫は今もお祭りに参加し、その後墓参りをする。廟所の前を飾る多くの燈籠は、かつて榊原家の家臣であった一族の子孫が、その訪問の際に寄贈したものである。

【タイトル】 松平家廟所

【想定媒体】 看板

<簡体字>

松平家族廟所

这座“庙所”（墓园）供奉的是姬路城名义上的第九代城主松平直基(1604-1648)。他于1648年被任命为姬路藩藩主，但在从远在东北的旧藩山形县前往姬路赴任的途中去世，其子松平直矩(1642-1695)继承了藩位。松平直基起初落葬于神奈川县的最乘寺，虽然任职时间很短，但他仍被视为姬路藩主，1670年由其子松平直矩将墓地迁移至此。

江户时代(1603-1867)，藩主之位由将军任命。幕府为了控制大名（大领主）对领地的影响，防范大名谋逆，在各地间频繁调任藩主。松平直基和直矩父子都曾被迫多次调藩，因而被戏称为“搬家大名”。

石墙合围的庙所中心立着一座宝塔，上面用汉字书写了佛教世界观中的五大元素，由上至下是“空”“风”“火”“水”“地”。最下的“地”字周围，刻有松平直基的戒名和他的各种品级与名号。

周围石墙历经数百年风雨已部分坍塌，只有最前面的高墙还保持着17世纪时的原貌。当初庙所围墙一样高，之后利用原有石料重建的后方墙壁低矮了很多。

<繁体字>

松平家廟所

這座「廟所」（墓園）供奉的是姬路城名義上的第九代城主松平直基（1604-1648）。他在1648年被任命為姬路藩藩主，但不幸在從遠在東北的舊藩山形縣前往姬路的赴任途中去世，其子松平直矩（1642-1695）繼承了藩位。松平直基起初落葬於神奈川縣的最乘寺，儘管他任職時間相當短促，但仍被視為姬路藩主，1670年由其子松平直矩將墓地遷移至此。

江戶時代（1603-1867），藩主之位由將軍任命。幕府為了節制大名（大領主）對領地的影響，防範大名謀逆，在各地間頻繁調任藩主。松平直基和直矩父子都曾被迫多次調藩，因而被戲稱為「搬家大名」。

石牆合圍的廟所中心立著一座寶塔，上面以漢字書寫了佛教世界觀中的五大元素，由上至下分別是「空」「風」「火」「水」「地」。最下的「地」字周圍，刻有松平直基的戒名和他的各種品級與名號。

周圍石牆歷經數百年風雨已部分坍塌，只有最前面的高牆仍保持著17世紀時的原貌。原本廟所圍牆一樣高，之後利用原有石料重建的後方牆壁低矮了許多。

<日本語仮訳>

松平家廟所

この廟所は、姫路城の名目上の第9代城主の松平直基（1604-1648）を祀っている。直基は1648年に姫路藩の藩主に任命されたが、遙か東北の山形県の旧藩から姫路への移動中に亡くなってしまった。家督は息子の直矩（1642-1695）が継いだ。当初直基は神奈川県最乗寺に埋葬されていたが、1670年に短い在任期間ではあったものの、姫路藩主として墓所が直矩によってこの場所に移された。

江戸時代（1603-1867）、藩主は将軍によって決められ、与えられていたが、幕府は大名の地域への影響を制限し、謀反を防ぐために、大名（大領主）を頻繁に入れ替え、異なる地域へ移封させた。直基と直矩はともに何度も藩の変更を余儀なくされたことから、「ひっこし大名」のあだ名をつけられた。

壁に囲まれた中央にある仏塔には、仏教宇宙論の五大要素を表す漢字が刻まれている。上から「空」、「風」、「火」、「水」、「地」と書かれている。一番下の「地」の文字の周りには、直基の戒名と彼のさまざまな称号や階級が刻まれている。

周りの石の壁は何世紀も経て一部が壊れており、最前部のみが17世紀の壁の外観を保っている。廟所の向こう側の壁は、本来は均一な高さであったが、元の石を使用して再建されたため、かなり低くなっている。

【タイトル】十妙院（圓教寺塔頭）

【想定媒体】看板

<簡体字>

十妙院（圓教寺塔頭）

十妙院是大名（大領主）赤松滿祐(1381-1441)為紀念 16 歲早逝的女兒而建造的“塔頭”（附屬寺院）。十妙院供奉的本尊是大慈大悲千手觀音菩薩像。雕像相對較大，可能是赤松滿祐女兒的等身像。寺院中央房間的三扇拉門上，繪有狩野派畫派開創者之孫狩野永納(1631-1697)的水墨畫，保存狀態完好。

這座塔頭寺院的客殿建於 1691 年，包括客殿和“庫裡”（廚房）兩個完全獨立的空間。從寺門起伏的屋簷和設計精巧的“書院造”房間來看，這裡應該是接待貴賓專用設施。

赤松滿祐幼女之死折射出日本中世紀（12-16 世紀）歷史上一段動盪時代。15 世紀上半葉，該地區在獨裁將軍足利義教(1394-1441)的統治之下。因為擔心謀反，足利義教打算暗殺赤松滿祐等數名親信。赤松滿祐的女兒正好寄居在將軍府內，得知陰謀後去信示警父親。但此舉被足利義教知曉，遂將其殺害。幸虧女兒的拼死相救，赤松滿祐才得以先發制人，於 1441 年夏天在京都舉行的慶祝宴會上派人暗殺了暴君足利義教。

十妙院是國家指定重要文化財產。

<繁体字>

十妙院（圓教寺塔頭）

十妙院是大名（大領主）赤松滿祐（1381-1441）為紀念 16 歲早逝的女兒而建造的「塔頭」（附屬寺院）。院內供奉本尊大慈大悲千手觀音菩薩像，像身較一般尺寸稍大，可能是赤松滿祐女兒的等身像。寺院中央房間的三扇拉門繪有狩野派創始人之孫狩野永納（1631-1697）的水墨畫，保存狀態完好。

這座塔頭寺院的客殿建於 1691 年，包括客殿和「庫裡」（廚房）兩個完全獨立的空間。從寺門起伏的屋簷和設計精巧的「書院造」房間推測，此處客殿應是為貴賓而準備的設施。

赤松滿祐幼女之死反映了日本中世紀（12-16 世紀）歷史上一段動盪的時代。15 世紀上半葉，當地正處在獨裁將軍足利義教（1394-1441）的統治之下。因為擔心謀反，足利義教打算暗殺赤松滿祐等數名親信。赤松滿祐的女兒正好寄居在將軍府內，得知陰謀後去信示警父親。但此舉被足利義教知曉，遂將其殺害。幸虧女兒的拼死相救，赤松滿祐才得以先發制人，於 1441 年夏天在京都舉行的慶祝宴會上派人暗殺了暴君足利義教。

十妙院被指定為國家重要文化財產。

<日本語仮訳>

十妙院（圓教寺塔頭）

十妙院は、16歳の若さで亡くなった娘を祀るために、大名（大領主）赤松満祐（1381-1441）が建てた寺院である。十妙院の本尊は、慈悲の菩薩である千手観音像である。像は比較的大きく、満祐の娘の等身大に作られたと考えられている。塔頭寺院の中央の部屋の三枚の襖には、有名な狩野派の創設者の孫である狩野永納（1631-1697）による水墨画が描かれており、その保存状態は良好である。

この塔頭の客殿は1691年に建てられた。その構造は、客殿と台所として機能していた建物である「庫裏」を組み合わせたものだが、2つのエリアは厳密に区分されていた。外門の波打った庇と、書院造の部屋の精緻な意匠から、賓客のためのものであったことが分かる。

満祐の娘の死の物語は、中世（12-16世紀）日本の歴史の激動の時代を物語っている。15世紀の前半、この地域は独裁的な将軍足利義教（1394-1441）によって支配されていた。謀反を恐れた義教は、自分に近かった赤松満祐をはじめとする側近の暗殺を企てた。満祐の娘は将軍の館に居候していた際に陰謀を知り、父親に警戒するよう文を送った。義教は娘の行動を知り、彼女の殺害を命じた。満祐は娘の悲劇的な犠牲のおかげで、先制措置を取ることができた。そして彼は、1441年の夏に京都で行われた祝宴の場で暴君義教を暗殺させたのである。

十妙院は国の重要文化財に指定されている。

【タイトル】 壽量院（圓教寺塔頭）

【想定媒体】 看板

<簡体字>

壽量院（圓教寺塔頭）

壽量院是圓教寺最重要的“塔頭”（附屬寺院）。1174年，退位后的后白河法皇(1127-1192)在圓教寺進行為期一周的禮佛活動時，壽量院有幸成為法皇的客居之地。現在的壽量院建築將古典“寢殿造”和近代“書院造”建築風格完美地融為了一體。典型的“書院造”建築元素有和式壁龕、多寶格櫥架、內拉門和榻榻米。中央佛殿的裝飾複製了當麻曼荼羅中描繪的修成正果後的極樂世界之圖。

玄關和帶有唐破風懸山頂的優雅大門，將壽量院的居住區域和用作廚房的“庫裡”區域分隔開來。其中一間房用來展示各種書寫山最有名的深紅色漆器——“書寫塗”。壽量院現在也可用於舉辦婚禮和其他私人活動。事先預約的客人，還可以品嚐到用“書寫塗”漆器盛裝的精進料理（日式傳統素齋）。

壽量院是國家指定重要文化財產。

<繁体字>

壽量院（圓教寺塔頭）

壽量院是圓教寺最重要的「塔頭」（附屬寺院）。1174年，退位後的後白河法皇（1127-1192）在圓教寺進行為期一周的禮佛活動，壽量院正是當時法皇的客居之地。現存的壽量院建築和諧地融合了古典「寢殿造」和近代「書院造」建築風格。典型的「書院造」建築元素有和式壁龕、多寶格櫥架、內拉門和榻榻米。中央佛殿的裝飾複製了當麻曼荼羅中描繪的悟道後的極樂世界之圖。

玄關和帶有唐破風懸山頂的優雅大門，將壽量院的居住空間和用作廚房的「庫裡」區隔。其中一間房用來展示各種書寫山最有名的深紅色漆器——「書寫塗」。今日的壽量院可舉辦婚禮和其他私人活動。事先預約的客人，還可以品嚐到以「書寫塗」漆器盛裝的精進料理（日式傳統素齋）。

壽量院被指定為國家重要文化財產。

<日本語仮訳>

壽量院（圓教寺塔頭）

壽量院は最も重要な塔頭とされている。1174年に後白河法皇（1127-1192）が圓教寺に1週間にわたって参籠された際、客間として使われたという特別な名誉を誇っている。現在の構造は古典的な寝殿造りと近代の書院造りを調和させた建築様式である。書院造は、床の間、違い棚、内部の襖仕切り、畳の間が典型である。中央の仏殿には、悟りが保証される極楽が描かれた当麻曼荼羅の模写が飾られている。

玄関広間と唐破風を備えた切妻屋根の優雅な門は、壽量院の居住部分と、台所を設けた庫裏の部分とに分けられている。一室には書寫山を代表する鮮やかな朱色の書写塗の漆器の数々が展示されている。現在壽量院は、結婚式やその他のプライベートな行事にも利用されている。予約をすれば、書写塗の漆器に盛られた伝統的な精進料理を楽しむ。

壽量院は国の重要文化財に指定されている。

【タイトル】 仁王門と木造金剛力士像

【想定媒体】 看板

<簡体字>

仁王門与木雕金剛力士像

仁王門是圓教寺的正門，象徵著寺院聖域和俗世的分界，位於書寫山東側一條通往寺廟的主路盡頭。仁王門採用古典建築樣式，寬3間（約5.5米），進深2間（約3.6米）。從外面看，瓦葺屋頂中央只有一條突出的屋脊線，但走到門下，又可以看到隱藏在裡面的兩個三角形屋頂構造，這種獨特的樣式被稱為「三棟造」，通常只在奈良東大寺、法隆寺等日本最古老的寺院中才能見到。

仁王門兩側各有一室，右邊是那羅延金剛像，左邊是密跡金剛像。兩位力士皆肌肉虬結，表情嚴厲，彷彿在用魁偉的身軀和力量維護教義、驅趕無知。這兩座雕像被稱為「阿」和「吽」，分別是梵文字母表的第一個和最後一個字母，它們意味著「開始和結束」，象徵普遍性和全能性。在東亞各地的佛教寺院，經常可以看見這些守護寺廟大門的金剛力士。

<繁体字>

仁王門與木雕金剛力士像

仁王門是圓教寺的正門，位於書寫山東側一條通往寺廟的主路的盡頭，象徵著寺院聖域和俗世的分界。仁王門採用古典建築樣式，寬3間（約5.5公尺），進深2間（約3.6公尺）。從外面看，瓦葺屋頂中央只有一道突出的脊線，但走到門下，又可以看到隱藏在裡面的兩個三角形屋頂構造。這種獨特的樣式被稱為「三棟造」，通常只在奈良東大寺、法隆寺等日本最古老的寺院中才能見到。

仁王門兩側各有一室，右邊是那羅延金剛像，左邊是密跡金剛像。兩位力士皆肌肉發達，表情嚴厲，彷彿在用魁偉的身軀和力量護持教義、驅趕無知。這兩座雕像被稱為「阿」和「吽」，分別是梵文字母表的第一個和最後一個字母，它們意味著「開始和結束」，象徵普遍性和全能性。在東亞各地的佛教寺院，經常可以看見這些守護寺廟大門的金剛力士。

<日本語仮訳>

仁王門と木造金剛力士像

仁王門は圓教寺の正門である。書寫山の東端にあるメインルートの終点に位置し、寺院の神聖な領域と外の俗世の間の象徴的な境界線を示す。仁王門は間口三間（約 5.5 メートル）幅、奥行

き二間（約 3.6メートル）の古典的な建築様式である。外側から眺めると、瓦葺き屋根には中央に一層の棟が見られる。しかし屋根の内側に、2つの三角形の棟が隠れているのを見ることができる。この独特の様式は「三棟造り」と呼ばれ、東大寺や法隆寺など、日本最古の寺院のいくつかにのみ見られる。

門の両側には二つの部屋があり、右に那羅延金剛（ならえんこんごう）像、左に密迹金剛（みつしゃくこんごう）像が安置されている。隆々とした筋肉を持ち、険しい表情をしたこの神々は、その印象的な大きさと力強さを利用して仏教の教えを守り、無知を追い払う。この二体の像は、「阿」と「吽」と呼ばれ、サンスクリット語のアルファベットの最初と最後の文字に由来している。ちょうど古代ギリシャ語のアルファとオメガの概念の如く「始まりと終わり」を意味し、普遍性と全能性を象徴している。また「金剛力士」としても知られ、この神々が東南アジア各地の寺の門を守っている姿はよく見られる。

【タイトル】五重塔跡

【想定媒体】看板

<簡体字>**五重塔遗迹**

圓教寺内曾經矗立著一座五重塔，眼前的這些基石應該是它最後的遺存，現在只能在古畫中才能看到它的身影。據記載，1331年燒毀「三之堂」的那場大火起因是閃電擊中了大講堂附近的一座寶塔。被燒毀的寶塔上刻著5尊金剛界曼荼羅像，據此推測，後來的這座五重塔上應該也刻有5尊胎藏界曼荼羅像。這種布局常見於密教的天台宗和真言宗，而寶塔也是寺中舉辦重要儀式的場所。

在佛教中，佛塔由存放佛陀和歷代聖人靈骨的容器變化而來。這些靈骨被稱為舍利，一般認為是高僧或尼師的遺體火化後留下的晶體狀物質。在不同國家、時代、佛教宗派中，佛塔的樣式各有不同。日本的佛塔一般3~5層，頂部為9層青銅相輪。在某些文化中，佛塔還被視作佛教世界觀中的聖山「須彌山」。

<繁体字>**五重塔遺跡**

圓教寺内曾經矗立著一座五重塔，而眼前的這些基石應該是它最後的遺存，如今只能在古畫中憑弔它的身影。據記載，1331年燒毀「三之堂」的大火起因是閃電擊中了大講堂附近的一座寶塔。被燒毀的寶塔上刻著5尊金剛界曼荼羅像，據此推測，後來的這座五重塔上應該也刻有5尊胎藏界曼荼羅像。這種布局常見於密教的天台宗和真言宗，而寶塔也是寺中舉辦重要儀式的場所。

在佛教中，佛塔由存放佛陀和歷代聖人靈骨的容器變化而來。這些靈骨被稱為舍利，一般認為是高僧或尼師的遺體火化後留下的晶體狀物質。在不同國家、時代、佛教宗派中，佛塔的樣式各有不同。日本的佛塔一般3至5層，頂部為9層青銅相輪。在某些文化中，佛塔還被視作佛教世界觀中的聖山「須彌山」。

<日本語仮訳>**五重塔跡**

これらの礎石は、かつて圓教寺の境内に立っていた五重塔の最後の遺物であると考えられており、歴史絵にも描かれている。記録によると1331年に「三之堂」を焼き尽くした火災は、大講堂の近くの

塔への落雷に起因するという。その塔には、金剛界曼荼羅の 5 つの仏像が刻まれていた。一方こちらの塔には、胎蔵界曼荼羅の 5 つの仏像が刻まれていたと考えられている。この慣習は、密教の天台宗と真言宗では一般的であり、五重塔は重要な儀式の場所としても利用されていた。

仏教においては、塔は仏陀や歴史上の聖人の遺骨を納める舍利容器から派生したものである。そのような遺骨は仏舍利と呼ばれ、高名な僧侶や尼僧の遺体を火葬した後に残るとされる、水晶のようなものである。塔は、国、時代、仏教宗派によってさまざまな形式で建てられているが、日本では一般的に 3～5 層で、塔の上には 9 段の青銅製の相輪が乗っている。一部の文化では、塔は宇宙の中心にある神聖な山である須弥山を象徴していると考えられている。

【タイトル】 文殊堂

【想定媒体】 看板

<簡体字>**文殊堂**

相传，这里是书写山圆教寺的创始人性空上人(910-1007)与大智文殊菩萨的化身奇迹般相遇的地方。根据传说，966年性空上人结束了数十年在九州研习《法华经》的隐居生活，启程前往京都。进入播磨国（今兵库县；“国”是日本古代行政区划，有别于“国家”）后，他看见书写山上飘着一朵神秘的紫云。于是他从书写山的西侧登山，途中遇到了一位白发苍苍的僧人。老僧向他讲述了书写山的起源和历史，并告诉他山上供奉着灵鹫山的土壤。灵鹫山是释迦牟尼在古印度第一次宣讲《法华经》的地方。性空上人向老僧表达了在书写山定居的心愿，老僧告诉他自己是文殊菩萨化身，之后就消失不见了。

之前建于此处的佛堂即以文殊命名，供奉的本尊为文殊菩萨像，可惜毁于一场火灾。眼前这座文殊堂于1987年重建。

堂前除了有一些小佛塔外，还有一些小石雕，其中围着深红色围兜的小和尚形象的雕像是地藏菩萨。地藏像在日本各地随处可见，人们相信他能守护胎死腹中或是早夭孩子的灵魂。地藏菩萨的围兜通常由失去子女的父母捐赠，大多为手工制作。

<繁体字>**文殊堂**

相傳此處是書寫山圓教寺的開山祖師性空上人（910-1007）與大智文殊菩薩的化身奇跡般相遇的地方。根據傳說，966年性空上人結束了數十年在九州研習《法華經》的隱居生活，啟程前往京都。進入播磨國（今兵庫縣，「國」是日本古代行政區劃，有別於「國家」）後，他看見書寫山上飄著一朵神秘的紫雲。於是他從書寫山的西側登山，途中遇到了一位白髮蒼蒼的僧人。老僧向他講述了書寫山的起源和歷史，並告訴他山上供奉著來自靈鷲山（釋迦牟尼在古印度第一次宣講《法華經》的地方）的土壤。性空向老僧表達了在書寫山定居的心願，老僧便告訴他自己是文殊菩薩化身，然後就消失不見了。

之前建於此處的佛堂即以文殊命名，供奉的本尊為文殊菩薩像，可惜毀於一場火災。眼前這座文殊堂於1987年重建。

堂前除了一些小佛塔外，還有一些石雕，其中圍著深紅色圍兜的小和尚相貌的石雕，便是地藏菩薩。地藏像在日本各地隨處可見，人們相信祂能守護胎死腹中或是早夭孩子的靈魂。地藏菩薩的圍兜通常由失去子女的父母捐贈，大多為手工製作。

<日本語仮訳>

文殊堂

ここは、書寫山圓教寺の開祖性空上人（910-1007）と、智慧の神である文殊菩薩の化身との奇跡的な出会いの場とされる場所である。伝説によると 966 年、性空上人は、九州で隠者として暮らし、『法華經』を読誦した数十年後、都のある京都へと旅していた。播磨国（現在の兵庫県、「国」とは古代日本の行政区画、現在の「国」と異なる）に入った後、性空は書寫山の上に浮かぶ神秘的な紫色の雲に気づいた。性空が書寫山の西坂に登っていると、老いた白髪の僧侶と出会う。僧侶は書寫山の起源と歴史について性空に教え、この山は靈鷲山の土を祀っていることを明かした。靈鷲山は古代インドで釈迦牟尼仏が最初に『法華經』を説いた場所である。性空が書寫山に住みたいという願いを伝えると、その老人は文殊菩薩の化身であることを明かし、跡形もなく姿を消した。

もともとこの場所にあったお堂は、文殊にちなんで名づけられたもので、かつては文殊菩薩像が本尊であった。現在の文殊堂は、元の建物が 1987 年に焼失した後に建てられたものである。

お堂の前には小さな石の彫刻や仏塔が集まっている。真紅のよだれかけをした子どもの僧侶のような彫刻は、地蔵菩薩である。日本各地にみられる地蔵像は、生まれる前に亡くなった子どもたちや、幼くして亡くなった子どもたちの魂を守護すると考えられている。地蔵のよだれかけは、子どもを亡くした親によって寄贈されることが多く、手作りの場合が多い。

【タイトル】木造釈迦如来乃両脇侍像

【想定媒体】WEB

<簡体字>

木雕释迦如来乃两脇侍像

大讲堂中央供奉的是木雕释迦如来乃两脇侍像，即释迦三尊像。释迦牟尼佛居中，该像为冥想沉思坐姿，双眼半闭，手结说法印。佛像耳垂细长、肉髻突出、螺髻右旋，在佛教中象征着慈悲、智慧和觉悟。莲花座下的台座则象征佛教世界观与“形而上界”的中心——圣山须弥山。

释迦牟尼佛像左右的脇侍菩萨也同样结说法印，右侧为大智文殊菩萨，左侧为大行普贤菩萨。3尊像身后均有光环一般的金色背光，发射出象征神圣力量的光芒。释迦三尊像居于高处，注视着中庭对面的常行堂舞台。每当寺院举行重大活动时，都会在台上表演舞乐供佛。从大讲堂和常行堂的精准排列中可以看出，三之堂建筑群的布局既巧妙又严谨。

释迦三尊像塑于公元986年前后，出自圆教寺开山祖师性空上人(910-1007)的弟子感阿上人之手。每一尊雕像都由整根日本扁柏精心雕刻而成，再涂上大漆，贴以金箔后完成。大讲堂和释迦三尊像均为国家指定重要文化财产。

<繁体字>

木雕釋迦如來乃兩脅侍像

大講堂中央供奉的是木雕釋迦如來乃兩脅侍像，即釋迦三尊像。釋迦牟尼佛居中，呈冥想沉思狀，雙眼半閉，手結說法印。佛像耳垂細長、肉髻突出和螺髻右旋的形象在佛教中象徵著慈悲、智慧和覺悟。蓮花座下的台座則象徵佛教世界觀與「形而上界」的中心——聖山須彌山。

釋迦牟尼佛像左右的脅侍菩薩分別為大行普賢菩薩和大智文殊菩薩，均結說法印。3尊像身後均有金色背光，散發出象徵神聖力量的光芒。釋迦三尊像居於高處，注視著中庭對面的常行堂舞台。每當寺院舉行重大活動時，都會在台上表演舞樂供佛。從大講堂和常行堂的精准排列可以看出，三之堂建築群的布局既巧妙又嚴謹。

釋迦三尊像塑於西元986年前後，出自圓教寺開山祖師性空上人(910-1007)的弟子感阿上人之手。每一尊雕像都由整根日本檜木精心雕刻而成，再髹漆貼以金箔完成。大講堂和釋迦三尊像均被指定為國家重要文化財產。

<日本語仮訳>

木造釈迦如来乃両脇侍像

大講堂の中央に祀られている木造釈迦如来乃両脇侍像は、「釈迦三尊像」として知られている。中央の像は、釈迦牟尼仏である。釈迦牟尼仏は瞑想姿で坐し、目は半分閉じて、手は教えを示す印相を結んでいる。彫像の細長い耳たぶ、頭頂部の突起した肉髻、右巻きの螺髪は、慈悲、知恵、および悟りを表している。釈迦牟尼仏が座る蓮台の須弥壇は、仏教宇宙論の物理的および形而上学的中心に位置する聖なる山、須弥山を象徴している。

釈迦牟尼仏の左右には、同じように教えの印相を結んでいる両脇侍が配されている。右側には洞察力を備えた文殊菩薩が、左側には正しい行いの神である普賢菩薩が立つ。各像の後ろの金色の光背から放たれている光の矢は、聖なる力の放射を象徴している。三尊像は、その高い位置から、中庭の向こう側にある常行堂の舞台を見据えている。ここでは主要な寺の行事の際に、舞楽が奉納される。これら2つの構造物の正確な配置は、三之堂の構成に対する綿密な計画性を示している。

釈迦三尊像は、986年頃、圓教寺の開祖である性空上人（910-1007）の弟子であった感阿上人によって製作された。それぞれの彫像は、1本の檜から細心の注意を払って彫り出され、漆と金箔で仕上げられている。大講堂と三尊像それぞれはすべて国の重要文化財である。

【タイトル】 木造四天王立像

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

木雕四天王立像

四大天王是大乘佛教中的天神，在亚洲各地广受崇拜。他们身披厚重的盔甲，手持坚固的棍棒和长矛，负责镇守东西南北四方，与佛陀的敌人战斗，因此常被安放在本尊佛像的周围，并置于象征佛教中心的五峰圣山“须弥山”的台座上。木雕四天王立像原本围绕大讲堂中央须弥坛上的释迦三尊像而立，1933年后移入摩尼殿的佛龕中，在相隔约90年后的2023年6月，又被请回了大讲堂。

各雕像都由圆教寺创始人性空上人(910-1007)的弟子感阿上人于10世纪后半期用整棵日本扁柏树雕刻而成。四天王虽然性格迥异，但也有一些共同点，比如都拥有金色的背光和旋涡云造型的底座、脚踩对佛教教义无明的恶魔“天邪鬼”。

木雕四天王立像是国家指定重要文化财产。

<繁体字>

木雕四天王立像

四大天王是大乘佛教中的天神，在亚洲各地广受崇拜。他们身披厚重的盔甲，手持坚固的棍棒和长矛，负责镇守东南西北四方，与佛陀的敌人战斗，因此常被安放在本尊佛像的周围，并置于象征佛教中心的圣山、拥有五峰的须弥山的台座上。木雕四天王立像原本围绕大讲堂中央须弥坛上的释迦三尊像而立，1933年后移入摩尼殿的佛龕中，在相隔约90年后的2023年6月，又被请回了大讲堂。

每尊雕像都是由10世纪后半期圆教寺创始人性空上人(910-1007)的弟子感阿上人用整棵日本檜树雕刻而成。四天王虽然性格迥异，但金色的背光和旋涡云造型的底座、脚踩对佛教教义无明的恶魔「天邪鬼」是它们的共同点。

木雕四天王立像被指定为国家重要文化财产。

<日本語仮訳>

木造四天王立像

四天王は大乘仏教における神であり、アジアの至る所で見られる。重装の鎧に身を包み、頑丈な棒と槍を持ち、仏陀の敵から北、南、東、西を守っている。そのため本尊の周りに配置され、仏教宇宙

論の神聖な五峰の山である須弥山を表す台座に置かれることが多い。この四天王立像は、もともとは大講堂中央の須弥壇の釈迦三尊像を囲むように配置されていたが、1933年以降、摩尼殿の厨子に納められていた。2023年6月に約90年ぶりに大講堂に戻された。

各像は、10世紀後半に圓教寺の開祖性空上人（910-1007）の弟子であった感阿上人によって一本の檜から彫り出されている。四天王はそれぞれ個性的であるが、金色の光背を背に、足元には渦巻く雲のような形をした台、仏教の教えに対する無知を表す、悪魔のような姿の天邪鬼を踏みつけているなど、いくつか共通点がある。

木造四天王立像は国の重要文化財に指定されている。

【タイトル】木造阿弥陀如来坐像

【想定媒体】WEB

<簡体字>

木雕阿弥陀如来坐像

常行堂供奉的主尊是木雕无量光佛阿弥陀如来坐像。此像为经典的冥想沉思姿态，双眼半闭，双手结禅定印。在佛像中，佛陀和菩萨一般都有象征慈悲、智慧和觉悟的“三十二相”中的部分相貌特征，其中包括耳垂细长、肉髻突出、螺髻右旋等特点。而额上的水晶也是佛陀三十二相之一，对应着“眉间白毫相”，代表放出光明照亮三千世界。

此尊阿弥陀如来坐像采用一种被称作“寄木造”的高超工艺制成，需要先拼装、固定好日本扁柏木构件再进行雕刻，然后涂漆、敷上金箔后完成。根据记载，这座雕像成于 1005 年前后，出自圆教寺开山祖师性空上人(910-1007)的弟子、造佛师安镇之手。

阿弥陀如来坐像身后有金色的背光，头后也散发万丈光芒。背光上环绕分布着 3 个梵文字符，称为“种子”，常用于佛像侧面装饰，分别代表阿弥陀佛以及伴随其旁的慈悲、智慧两位胁侍菩萨——文殊菩萨和普贤菩萨。阿弥陀佛坐像的背景板上绘有 25 位菩萨，他们与阿弥陀佛一起乘紫云从极乐净土降临凡间，普度众生。

木雕阿弥陀如来坐像和常行堂都是国家指定重要文化财产。

<繁体字>

木雕阿彌陀如來坐像

常行堂供奉的主尊是木雕無量光佛阿彌陀如來坐像。此像呈典型的冥想沉思狀，雙眼半閉，手結禪定印。在佛像製作中，佛陀和菩薩一般都有象徵慈悲、智慧和覺悟的「三十二相」中的部分相貌特徵，包括耳垂細長、肉髻突出、螺髻右旋等特點。佛像額上的水晶也為佛陀三十二相之一，對應「眉間白毫相」，意味放出光明照亮三千世界。

這座阿彌陀如來坐像採用「寄木造」製成。這種高超的技法需要先拼裝、固定好檜木的構件再進行雕刻，然後塗漆再敷上金箔後完成。根據記載，這座佛像成於 1005 年前後，出自圓教寺開山祖師性空上人（910-1007）的弟子、造佛師安鎮之手。

阿彌陀如來坐像身後有金色的背光，頭後也散發萬丈光芒。背光上環繞分布著 3 個梵文字（稱為「種子」，常用於佛像側面裝飾），分別代表阿彌陀佛以及伴隨其旁慈悲、智慧的兩位脅侍菩薩——文殊菩薩和普賢菩薩。阿彌陀佛坐像背景木板上繪有 25 位菩薩，與阿彌陀佛一道乘紫雲從極樂淨土降臨凡間，普度眾生。

木雕阿彌陀如來坐像和常行堂都被指定為國家重要文化財產。

<日本語仮訳>

木造阿弥陀如来坐像

常行堂の本尊は無量光仏の阿弥陀如来の木造坐像である。阿弥陀如来は古典的な瞑想姿で表現されており、目は半分閉じ、両手は瞑想を意味する定印を結んでいる。仏像では、仏陀と菩薩は多くの場合、慈悲、知恵、および悟りを意味する「三十二相」の一部の特徴をもって描写される。その特徴には細長い耳、頭頂部の隆起（肉髻）、右巻きの髪（螺髪）などがある。額の水晶は仏陀の三十二相の一つ「眉間白毫相」であり、光明を放って三千世界を照らすとされている。

この阿弥陀如来坐像は、事前に檜の部材を固定してから彫る「寄木造」と呼ばれる高度な手法を使って制作されている。彫り終わると漆で覆い、金箔が施された。記録では、圓教寺の開祖性空上人（910–1007）の弟子であった彫師の安鎮によって、1005年頃に制作されたとされる。

阿弥陀如来は、金色の光背と頭の後ろから発する筋光とともに表現される。光背の四方は、阿弥陀やその傍らに配されることが多い慈悲と智慧の象徴である菩薩（文殊菩薩と普賢菩薩）の「種子」である、3つのサンスクリット文字で飾られている。このような飾りは仏像の両脇に描かれることが多い。木でできた背景には、阿弥陀如来が紫雲に乗って極楽浄土から来迎する際、衆生を救済するために阿弥陀に同行する二十五菩薩の姿が描かれている。

木造阿弥陀如来坐像と常行堂はどちらも国の重要文化財である。

【タイトル】 圓教寺開山-木造性空坐像

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

圓教寺開山祖師-木雕性空坐像

圓教寺開山堂的正中央是一個精雕細刻的佛龕，龕內供奉著一尊性空上人(910-1007)的等身坐像。性空上人是圓教寺的開山祖師，於10世紀創建了寺院。根據寺史記載，最初一座雕像在1286年的火災中被毀。但是僅僅2年後造佛師慶快（生卒不詳）就重新製作了一座。2008年對其進行X光檢查時，在佛像頭內發現了一個琉璃壺，裡面裝的應是性空上人的靈骨。這個小琉璃壺在1286年的火災中倖存了下來，被慶快封存到了新雕像中。

2009年，人們在開山堂中央的須彌壇下發現了第二個密室，裡面又有一個骨灰壇和一座小石塔，此外還有許多刻有經文的「經石」。從青銅器上的銘文判斷，骨灰壇中裝的正是性空上人的靈骨。

這尊木雕性空坐像是國家指定重要文化財產，只在特殊場合下才對外公開，平時參拜者可以在食堂2樓看到雕像和琉璃壺的照片以及X光片。

<繁体字>

圓教寺開山祖師-木雕性空坐像

圓教寺開山堂的正中央是一個精雕細刻的佛龕，龕內供奉著一尊性空上人（910-1007）的等身坐像。性空上人是10世紀圓教寺的開山祖師。根據寺史記載，最初的雕像在1286年的火災中被毀。但是在火災後僅僅2年，就由造佛師慶快（生卒不詳）重新製作了一座。2008年對其進行X光檢查時，在佛像頭內發現了一個琉璃壺，裡面裝的應是性空上人的靈骨。在1286年的火災中倖存下來的這個小琉璃壺，被慶快封存到了新雕像中。

2009年，人們在開山堂中央的須彌壇下發現了第二個密室，裡面又有一個骨灰壇和一座小石塔，此外還有許多刻有經文的「經石」。從青銅器上的銘文判斷，骨灰壇中裝的正是性空上人的靈骨。

這尊木雕性空坐像被指定為國家重要文化財產，只在特殊場合下對外公開，平時參拜者可以在食堂2樓看到雕像和琉璃壺的照片以及X光片。

<日本語仮訳>

圓教寺開山-木造性空坐像

圓教寺の開山堂は精巧な装飾が施された厨子が中心になっている。厨子には、10世紀に圓教寺を開山した性空上人（910-1007）の等身大の坐像が納められている。寺院の記録によると、元の像は1286年の火災で焼失した。しかし、わずか2年後に仏師慶快（生没年不明）によって再興された。2008年のレントゲン撮影調査で、頭部内に性空上人のものと考えられる遺骨が納められている瑠璃壺が発見された。この小さな瑠璃壺は、最初の性空上人像が焼失した火災を生き延び、慶快が彫った新しい像に移されたのである。

2009年、開山堂の須弥壇の下から2つ目の部屋が発見された。内部には、別の石櫃と小さな石塔、そのほか多数の仏教の経典を表す文字が刻まれた「経石」が見つかった。青銅の容器の碑文には、性空上人の遺骨であると記されていた。

木造性空坐像は国の重要文化財であり、ごく特別な機会にしか公開されないが、参詣者は食堂の二階に展示されているX線写真をはじめとする彫像や瑠璃箱の写真を見ることができる。

【タイトル】木造金剛薩埵像

【想定媒体】WEB

<簡体字>

木雕金剛薩埵像

金剛薩埵菩薩是宇宙佛大日如來的化身，代表密宗修習者所能達到的終極形態。相傳圓教寺開山祖師性空上人(910-1007)在書寫山修行時曾遇見金剛薩埵，並從這位菩薩那里獲授了密宗教義。

這尊木雕金剛薩埵像頭戴精美的青銅冠，佩戴寶石鑲嵌的花環項鍊。雕像右手所持的五鑽杵，是佛教儀式中使用的一件具有多重象徵意義的法器，如金剛石一般剛硬、如霹靂一般無堅不摧，也是陽剛的標誌；左手所持的五鑽鈴是陰柔的象徵，代表智慧和淨化。這兩件法器正是金剛薩埵菩薩的特徵。此尊木雕金剛薩埵像結跏趺坐於蓮花座上，呈經典的冥想沉思姿態。蓮花座的每一片花瓣都裝飾有佛教三寶“佛法僧”符號。

根據雕像底部的碑文記載，該像創作於1359年，是奈良東大寺的造佛名師、慶派創始人運慶(?-1223)的親傳弟子康俊的作品。雕像採用“寄木造”複雜工藝，先將多塊日本扁柏木拼合固定後再下刀雕刻。雙眼內嵌的是水晶，被稱為“玉眼”。

<繁体字>

木雕金鋼薩埵像

金剛薩埵菩薩是宇宙佛大日如來的化身，代表密宗修習者所能達到的終極形態。相傳圓教寺開山祖師性空上人(910-1007)在書寫山修行時曾遇見金剛薩埵，並獲授了密宗教義。

這尊木雕金剛薩埵像頭戴精美的青銅冠，佩戴寶石鑲嵌的花環項鍊。雕像右手所持的五鑽杵，是佛教儀式中使用的一件具有多種象徵意義的法器，堅硬如金剛石、威力如閃電，也是陽剛的標誌；左手所持的五鑽鈴則代表智慧和淨化，是陰柔的象徵。這兩件法器正是金剛薩埵菩薩的代表性特徵。此尊木雕金剛薩埵菩薩像結跏趺坐於蓮花座上，呈經典的冥想沉思姿態。蓮花座的每一片花瓣都裝飾有佛教三寶「佛法僧」符號。

根據佛像底部的碑文記載，該像創作於1359年，是奈良東大寺的造佛名師、慶派創始人運慶(?-1223)的親傳弟子康俊的作品。雕像採用「寄木造」複雜工藝，需先將多塊檜木拼合固定後再下刀雕刻。佛像雙眼內嵌的是水晶，被稱為「玉眼」。

<日本語仮訳>

木造金剛薩埵像

菩薩である金剛薩埵は宇宙の仏である大日如来の化身であり、密教の修行僧が達成できる究極の姿を表している。圓教寺の開祖性空上人（910-1007）は、書寫山で修行中に金剛薩埵に出会ったとされる。性空上人が密教の教えの影響を受けたのは、この菩薩からであった。

この木像では、金剛薩埵は精巧な青銅の冠を被り、宝石をちりばめた花輪の首飾りを身に着けている。右手には、金剛石のように硬く稲妻のように力のあるさまざまな象徴的な意味を持つ儀式的な武器である五鈷杵（サンスクリット：ヴァジュラ）を持っており、男性の側面も意味している。左手には、女性の側面を意味する知恵と浄化を表す五鈷鈴を持っている。この二つの儀式的な武器を持つことは、金剛薩埵の特徴である。金剛薩埵菩薩は蓮の花の上で結跏趺坐を組んだ古典的な瞑想姿で表現されている。蓮の花びらはそれぞれ、仏教の3宝である仏法僧を表すシンボルで飾られている。

彫像の下側の碑文には、1359年に奈良の東大寺の仏師である有名な慶派の開祖、運慶（?-1223）の直接の弟子であった康俊によって作成されたことが記されている。檜の部材をまとめて固定してから彫る、「寄木造」と呼ばれる高度な手法を使って制作されており、眼には象眼細工の水晶（玉眼）が入っている。

【タイトル】 圓教寺開山-性空上人坐像

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

圓教寺開山祖師-性空上人坐像

開山堂内有一尊圓教寺開山祖師性空上人(910-1007)作冥想沉思态の木雕像。雕像高頗頂，身軀枯瘦，披着寬大的袈裟。雖然手掌部分已經遺失，但從手臂形狀推測，原本應該是雙手合十，或是手捧化緣托鉢。雕像謙卑的面容也可以印證這一推斷，它刻畫的是一位祈禱中的樸素僧侶，而不是氣象凜然的開山祖師。雖然來源不明，但雕像風格和材料成分顯示，它應該是一件 11 世紀早期的作品。此像原本安放在圓教寺 6 座“塔頭”（附屬寺院）之一的仙岳院內。

<繁体字>

圓教寺開山祖師-性空上人坐像

開山堂内供奉著圓教寺開山祖師性空上人（910-1007）の木雕像，呈冥想沉思態。此像高頗頂，身軀枯瘦，披著寬大的袈裟。雖然手掌部分已經佚失，但從手臂形狀推測，原本應該是雙手合十，或是手持托鉢。雕像謙卑的面容也可以印證這一推斷，它刻畫的是一位祈禱中的樸素僧侶，而不是氣象凜然的開山祖師。雖然來源不明，但從雕像風格和材料成分顯示，它應該是一件 11 世紀早期的作品。此像原本安放在圓教寺 6 座「塔頭」（附屬寺院）之一的仙岳院內。

<日本語仮訳>

圓教寺開山-性空上人坐像

開山堂の内部には、圓教寺の開祖性空上人（910-1007）の瞑想姿の木製の彫像が納められている。大きく張った頭頂部を、ゆったりとした僧侶の袈裟で覆われた細い体が支えている。手は失われているが、腕の配置から掌を合わせた姿か、あるいは托鉢用の鉢を持っていたと推察される。この解釈は、開祖の堂々たる姿というよりも、祈りをささげる素朴な僧侶のようなその像の謙虚な表情によって裏付けられている。起源は不明だが、その様式と構成は 11 世紀初頭の作であることを示している。元々は、圓教寺の 6 つの塔頭の 1 つである仙岳院に安置されていた。

【タイトル】 如意輪觀音坐像

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

如意輪觀音坐像

据寺中传说，圆教寺开山祖师性空上人(910-1007)到书写山后不久，就目睹了一位天女绕着樱花树边起舞边诵偈。在吟诵中，天女赞美了化身为樱花树的大慈大悲六臂如意轮观音。

据偈文所说，如意轮观音将护佑众生长寿繁荣，往生极乐净土。受此启发，性空上人将樱花树雕成了一尊如意轮观音像，可惜该像在1492年毁于一场大火。现收藏于摩尼殿中央佛龕内的如意轮观音坐像，据说和原作非常相似。现存雕像为1239年由住持妙觉所作，被视为镰仓时代(1185-1333)早期艺术品佳作。

此尊如意轮观音坐像有六臂，分别象征印度教和佛教世界观中的六道。观音的一只左手持清除烦恼的宝轮，一只右手持达成愿望的宝珠，这两件法器解释了“如意轮”之名的由来，也象征着观音让所有众生脱离苦海的誓愿。雕像还有一只手拿着莲花，莲出淤泥而不染，象征众生通过修行超越自身存在的能力；另有一只右手轻触下巴，作冥想沉思态。

这尊观音坐像头戴锥形宝冠，冠上无量光佛阿弥陀如来的修长佛像。观音坐像的身体和宝冠均髹以黑漆，衣袍上有宝轮和精巧的几何图案装饰。其底座棱角分明，据说是模仿观音道场普陀洛迦（普陀山）裸露的岩石。雕像右膝抬起，右脚置于左脚上，为如意轮观音的独特姿态。

<繁体字>

如意輪觀音坐像

據寺中傳說，圓教寺開山祖師性空上人（910-1007）到書寫山后不久，就目睹了天女繞著櫻花樹起舞誦偈。在吟誦中，天女讚美了化身為櫻花樹的大慈大悲六臂如意輪觀音。

據偈文所說，如意輪觀音將護佑眾生長壽繁榮，往生極樂淨土。性空上人受此啟發，遂將櫻花樹雕成了一尊如意輪觀音像，可惜該像毀於1492年的大火。現收藏於摩尼殿中央佛龕內的如意輪觀音坐像，為1239年由住持妙覺所作，據說和原作非常相似，被視為鎌倉時代（1185-1333）早期藝術品佳作。

此尊如意輪觀音坐像有六臂，分別象徵印度教和佛教世界觀中的六道。觀音的一隻左手持清除煩惱的寶輪，一隻右手持達成願望的寶珠，這兩件法器正是「如意輪」之名的由

來，也象徵著觀音讓所有眾生脫離苦海的誓願。雕像另有一隻手拿著蓮花，蓮出淤泥而不染，象徵眾生通過修行超越自身存在的能力；還有另一隻右手輕觸下巴，作冥想沉思態。

這尊觀音坐像頭戴錐形寶冠，冠上有無量光佛阿彌陀如來修長的佛像。觀音坐像的身體和寶冠均髹以黑漆，衣袍上有寶輪和精巧的幾何圖案裝飾。其底座棱角分明，據說是模仿觀音道場普陀洛迦（普陀山）裸露的岩石。雕像右膝抬起，右腳置於左腳上，為如意輪觀音的獨特姿態。

<日本語仮訳>

如意輪觀音坐像

寺伝によると、書寫山に到着して間もなく、圓教寺の開祖性空上人（910-1007）は、一本の桜の周りを舞い踊りながら神聖な偈文を詠じている天女を目撃した。天女の偈文は、生きている木の姿で、慈悲の菩薩である六臂如意輪觀音を讃えていた。

偈文では、如意輪觀音はすべての衆生に長寿と繁栄をもたらし、いつでも極樂浄土で生まれ変わると約束していた。この光景に触発されて、性空上人は桜の木に如意輪觀音の姿を彫った。この像は1492年に焼失してしまったが、現在の像は摩尼殿の中央櫃に保管されており、元の像に非常に似ていると言われている。1239年に住職妙覺によって彫られたこの後継の像は、鎌倉時代初期（1185-1333）に制作された美術品の中でも特に優れた作品の一つとされている。

如意輪觀音は、ヒンドゥー教と仏教の宇宙論の六つの世界（六道）をそれぞれ表す6本の腕で描かれている。如意輪は「願いを叶える輪」を意味し、如意輪觀音が手にしている2つの対象物にちなんでいる。左手には煩惱を破壊する宝輪を、右手には願いを叶える宝珠を持っている。これらの宝は、すべての衆生を苦しみから解放するという觀音の本願も表している。もう1つの手は蓮華を持っており、これは、泥だらけの池から蓮が成長するように、修行を通じて自分の存在を超越するすべての衆生の能力を象徴している。像の右側の手は、瞑想のポーズで顎にそっと置かれている。

この像は、無量光仏である阿彌陀如來を細身の姿で施した円錐形の宝冠を被っている。胴体と宝冠は黒い漆で仕上げられており、打掛には宝輪と精巧な幾何学模様が裝飾されている。觀音の靈場とされる補陀落山を表すむき出しの岩の形に彫った、角ばった台座の上に座っている。右膝を立て、右足を左足の上に載せる如意輪觀音独特の姿勢を見せている。

【タイトル】 愛宕社本殿

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**愛宕社本殿**

愛宕社（宕，音同“荡”）建在大讲堂北侧的斜坡上，俯瞰着圆教寺“三之堂”。这座神道教神社建造时间不晚于 18 世纪早期，得名自镇火之神“爱宕”，旨在守护三之堂不再遭受如 1331 年那场摧毁全寺的大火之灾。优美的流线型屋顶是爱宕社的特色所在，上万片薄木板铺就的柿葺屋顶优雅地向前方倾斜，形成了上翘的拱形曲线。拱形天顶下悬挂着钟，供参拜者鸣钟向爱宕神示意，祈祷并献上供品。

圆教寺内的一些神社与日本本土的神道教有关。在佛教寺庙内设立神社的情况并不少见，特别是在密宗中通常是“神佛习合”（神道教与佛教融合）。日本在近代以前，佛教和神道教之间并无明显分界，人们经常将两种宗教的神明交融在一起崇拜，爱宕社也是其中一例。

<繁体字>**愛宕社本殿**

愛宕社（宕，音同「蕩」）建在大講堂北側的斜坡上，俯瞰著圓教寺「三之堂」。這座神道教神社建造時間不晚於 18 世紀早期，得名自鎮火之神「愛宕」，意在守護三之堂免再遭受 1331 年大火之災。優美的流線型屋頂是愛宕社的標誌，上萬片薄木板鋪成的柿葺屋頂優雅地向前方傾斜，形成上翹的拱形曲線。拱形天頂下懸掛著鐘，供參拜者鳴鐘向愛宕神告知自己的到來，祈禱並獻上供品。

圓教寺內的一些神社與日本本土的神道教有關。在佛教寺廟內設立神社的情況並不少見，特別是在密宗中通常是「神佛習合」（神道教與佛教融合）。日本在近代以前，佛教和神道教之間並無明顯分界，人們經常將兩種宗教的神明交融在一起崇拜，愛宕社正是其中一例。

<日本語仮訳>**愛宕社本殿**

愛宕社は大講堂の北側の斜面にあり、圓教寺の「三之堂」を見下ろしている。18 世紀初頭以前に建てられたと考えられている。その名は火除けの神とされる愛宕にちなんでおり、1331 年に寺院の

全てを焼き尽くした大火を受け、三之堂を守る役割を果たしている。愛宕社の特徴は、その優雅な流線形の屋根にある。数万の薄いこけら板を葺いた栩葺き屋根で覆われている。屋根は正面に向かって優雅に下がり、上向きのアーチを形作っている。そのアーチの下で、参拝者は愛宕神の注意を引くために鐘を鳴らし、祈り、供物を捧げる。

圓教寺の境内には、日本の土着の信仰である神道に関する複数の神社がある。寺院の境内に神社が存在することは、特に神仏習合を崇める密教では珍しいことではない。日本では近代まで仏教と神道の明確な区別はなく、それぞれの神が融合されることが多かった。愛宕は、2つの宗教的伝統の垣根を越えて崇拝される混合神の一例である。

【タイトル】 圓教寺緣起

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**圓教寺的历史**

圓教寺的开山祖师性空上人(910-1007)从 10 岁开始学习《法华经》，由此开启了求法之路。36 岁时，他出家为僧，前往九州修行了 20 年。966 年，性空上人被一朵神秘的云彩吸引到书写山上。在那里，他目睹了天女绕着樱花树边起舞边诵偈，赞颂如意轮观音。受此启发，性空上人将樱花树雕成一尊如意轮观音像，这尊雕像从此成为圓教寺摩尼殿内供奉的本尊。

性空上人出身贵族橘家族，备受贵族藤原家族和退位的花山法皇(968-1008)的庇护。花山法皇在 10 世纪晚期两次来到书写山，赐寺名圓教寺，并将其定为敕愿寺。从此，寺庙就开始享有特权和经济收益。圓教寺迅速发展为活跃的佛教社区，在性空上人圆寂后依然持续蓬勃发展。

1174 年，圓教寺有幸获得接待后白河法皇(1127-1192)的特权。这位法皇虽已退位，但仍实力不俗。在为期 7 天的礼佛活动中，法皇提出了想要瞻仰建寺 200 年内从未从佛龕中取出的如意轮观音像的要求。摩尼殿的名称也是后白河法皇所赐，意为佛法宝珠。1333 年，后醍醐天皇(1288-1339)从流放地隐岐岛返京途中亦曾在圓教寺的大讲堂下榻。

在漫长的战国时代(1467-1568)，圓教寺开始衰退。1578 年，武将丰臣秀吉（1537-1598，当时名为羽柴秀吉）占领书写山，将此处改建为山城后驻扎了约 2 万大军。在 2 年的占领期间，无聊暴躁的驻军经常恐吓僧侣，破坏寺院建筑。

1603 年德川幕府成立后，圓教寺的命运迎来转机。为修复寺院，姬路城城主本多忠政(1575-1631)在 1620 年发起募资活动。此后圓教寺一直受到松平家族、榊原家族等本地历代藩主的庇护。

江户时代(1603-1867)，随着圣地巡礼的盛行，平民百姓也对书写山产生了兴趣。圓教寺是“西国三十三所”中的一处灵场，这条跨越 5 县 2 府（和歌山县、大阪府、兵库县、京都府、奈良县、滋贺县和岐阜县）、长达 1000 公里的朝圣之路，也是日本最古老的观音巡礼线路。相传完成全部 33 处的朝拜之后，就能获得观音菩萨三十三相的祝福。得益于千余年的悠久历史和传统，至今造访圓教寺的巡礼者依然络绎不绝。

<繁体字>**圓教寺的歷史**

圓教寺の開山祖師性空上人（910-1007）從 10 歲開始修習《法華經》，由此開啟求法之路。他在 36 歲時出家為僧，前往九州修行 20 年。966 年，相傳性空上人被一朵神秘的雲彩吸引到書寫山上。在那裡，他目睹了天女繞著櫻花樹起舞誦偈，讚頌如意輪觀音。受此啟發，性空上人將櫻花樹雕成一尊如意輪觀音像，這尊雕像從此成為圓教寺摩尼殿內供奉的本尊。

性空上人出身貴族橘家，備受貴族藤原家和退位的花山法皇（968-1008）的庇護。花山法皇在 10 世紀晚期兩次來到書寫山，賜寺名圓教寺，並將其定為敕願寺。從此，寺廟就開始享有特權和經濟上的利益，迅速發展為活躍的佛教教團，在性空上人圓寂後也持續蓬勃發展。

1174 年，圓教寺有幸獲得接待後白河法皇（1127-1192）的特權。法皇雖已退位，但仍實權在握。在為期 7 天的禮佛活動中，法皇要求瞻仰建寺 200 年來從未自佛龕中現身的如意輪觀音像，並賜名「摩尼殿」——意為佛法寶珠。1333 年，後醍醐天皇（1288-1339）從流放地隱岐島返京途中亦曾在圓教寺的大講堂下榻。

漫長的戰國時代（1467-1568），圓教寺逐步勢微。1578 年，武將豐臣秀吉（1537-1598，當時名為羽柴秀吉）佔領書寫山，將此處改建為山城後駐紮了約 2 萬大軍。在 2 年的佔領期間，無聊暴躁的駐軍經常恐嚇僧侶，破壞寺院建築。

1603 年德川幕府成立後，圓教寺的命運開始撥雲見日。為修復寺院，姬路城城主本多忠政（1575-1631）在 1620 年發起勸募。此後圓教寺一直受到松平家、榊原家等本地歷代藩主的庇護。

到了江戶時代（1603-1867），隨著聖地巡禮的盛行，平民百姓也對書寫山產生了興趣。圓教寺是「西國三十三所」靈場中的一處，這條跨越 5 縣 2 府（和歌山縣、大阪府、兵庫縣、京都府、奈良縣、滋賀縣和岐阜縣）、長達 1000 公里的朝聖之路，也是日本最古老的觀音巡禮路線。相傳完成全部 33 處朝拜之後，就能獲得觀音菩薩三十三相的祝福。得益於千餘年的悠久歷史和傳統，至今造訪圓教寺的巡禮者依然絡繹不絕。

<日本語仮訳>

圓教寺緣起

圓教寺の開祖性空上人（910-1007）は、『法華經』を学び始めた 10 歳の頃から宗教的な道を歩み始めた。36 歳で僧侶となって九州へと旅立ち、そこで 20 年間修業を続けた。966 年、不思議な雲に誘われて性空上人が書寫山へと向かった。そこで、一本の桜の木の周りで踊りながら、如意輪觀音にまつわる偈文を詠じていた天女を見た。その光景に触発された性空上人は木に如意輪觀音像を彫り、それが圓教寺の摩尼殿の御本尊となった。

貴族階級の橘氏の家に生まれた性空上人は、公家の藤原氏と花山法皇（968-1008）から庇護を受けた。花山法皇は 10 世紀後半に 2 回書寫山を訪れ、圓教寺という名を受け取った。また、法皇は圓教寺を特權と経済的利益が保証された勅願寺であると宣言した。圓教寺は精力的な宗教団体に成長し、性空上人の入寂後も繁栄し続けた。

1174年、圓教寺は当時まだ権力を保っていた後白河法皇（1127-1192）を迎えるという特権を得た。7日間の参籠中、後白河法皇は、完成後200年に渡って櫃から出されることのなかった如意輪観音像の拝観を求めた。摩尼殿は後白河法皇によって、仏教の教えの神髄である珠玉からその名が付けられたのである。1333年には、隠岐島での流刑の後、都に戻る途中の後醍醐天皇（1288-1339）が行幸し、大講堂に滞在した。

圓教寺は、日本の長い戦国時代（1467-1568）に衰退期を迎えた。1578年、武将の豊臣秀吉（1537-1598、当時は羽柴秀吉）が書寫山に侵攻、境内を山城に改造し、約2万の大軍を宿営させた。この2年におよぶ占拠の間に、僧侶と寺院の建物は暇を持て余した粗暴な兵士たちの手によって壊滅的な被害を受けた。

1603年に徳川幕府が成立すると、圓教寺の運命は上向く。姫路城の城主本多忠政（1575-1631）は1620年に寺を修復するための募金活動を始めた。その後、松平家、榊原家などこの地域を治めた歴代の藩主からも庇護を受けた。

江戸時代（1603-1867）に巡礼が盛んになると、庶民が書寫山に集まり始めた。圓教寺は、2府5県（和歌山、大阪、兵庫、京都、奈良、滋賀と岐阜）にまたがっており、1,000kmに及ぶ日本最古の観音巡礼でもある「西国三十三所」に属している。33か所すべてを巡礼すると、観音菩薩の三十三の姿それぞれの靈験を得ることができると言われている。この信仰の人気は、1000年を超える豊かな歴史と伝統に支えられて、今なお圓教寺への巡礼者を魅了し続けている。

【タイトル】 修正会（鬼追い会式）

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

修正会（驱鬼会式）

毎年1月18日，圓教寺都會舉行祈求和平與五穀豐登的法會，即“修正会”，也稱“驅鬼會式”。每到這一天，首先由戴着寺院守護神面具的表演者帶領隊伍在寺院內巡遊，接着在白山權現神社表演淨化的舞蹈，最後在摩尼殿迎來活動的高潮。表演者們扮演的“赤鬼”名為若天，是人間財神毗沙門天的化身；“青鬼”名為乙天，是智慧之神不動明王的化身。相傳，若天和乙天在966年性空上人定居書寫山時曾指引他修行。寺院開山後，他們成為圓教寺的守護神，千餘年來在寺內傳說和傳統中多次登場。法會期間，守護神會出來幫助人們將惡鬼逐出寺院，他們可怕的外表源自於傳統的“驅除惡靈、迎接春天”鬼神。在民間習俗中，這個儀式也被視為對和平與豐收的祈願。

儀式在法會當日下午1點左右開始。赤鬼和青鬼被蒙住眼睛帶到山上的白山權現神社，在這裡分發用椿葉花椒木做成的“鬼箸”，據說這種用符紙包裹的筷子有辟邪的力量。若天一手提鈴鐺，一手持松枝做成的長火把，身背一把繪有燃燒的寶珠圖案的木槌。乙天則揮舞一把黑漆木製太刀。由赤鬼若天打頭陣，二鬼一路用力踩着地面，一邊念着咒語一邊引導隊伍下山。人們相信這一套“鬼舞”可以安撫土地神，避免地震。

到達摩尼殿後，二鬼將更多的筷子分發給觀眾，儀式舞蹈繼續進行。若天一邊搖動鈴鐺，一邊按照劇本帶着乙天進入昏暗的摩尼殿內，圍着本尊來回走動。摩尼殿的本尊如意輪觀音像只在每年這個日子開放供公眾參拜。

本地的梅津家族世代負責操辦這個每年一次的传统儀式，同時享有每年扮演赤鬼和青鬼的特權。從1月上旬開始，他們就要開始準備專供法會的飯菜，排練舞蹈，修補或更換儀式所需服裝、道具和面具。

<繁体字>

修正會（驅鬼會式）

毎年1月18日，圓教寺都會舉行祈求和平與五穀豐登的法會，即「修正會」，也稱「驅鬼會式」。在這一天，戴著寺院守護神面具的表演者會帶領隊伍在聖域內巡遊，然後前往白山權現神社表演淨化的舞蹈，最後在摩尼殿迎來活動的高潮。他們扮演的「赤鬼」名為若天，是人間財神毗沙門天的化身；「青鬼」名為乙天，是智慧之神不動明王的化身。相傳，若天和乙天曾在西元966年性空上人定居書寫山時指引其修行。寺院開山後，若天

和乙天成為圓教寺の守護神，千餘年來在寺內傳說和傳統中多次登場。法會期間，守護神會將惡鬼逐出寺院，他們可怕的外表源自於傳統的「驅除惡靈、迎接春天」鬼神。在民間習俗中，這個儀式也被視為對和平與豐收的祈願。

儀式於法會當日下午 1 點左右開始。赤鬼和青鬼被蒙住眼睛帶到山上的白山權現神社，在這裡分發用椿葉花椒木做成的「鬼箸」，據說這種用符紙包裹的筷子有辟邪的力量。若天一手提鈴嘴，一手持松枝做成的長火把，身背一把繪有燃燒的寶珠圖案的木槌。乙天則揮舞一把黑漆木製太刀。由赤鬼若天打頭陣，二鬼一路用力跺著地面，一邊念著咒語一邊引導隊伍下山。人們相信這一套「鬼舞」可以安撫土地神，避免地震。

到達摩尼殿後，二鬼將更多的筷子分發給觀眾，儀式舞蹈繼續進行。若天一邊搖動鈴嘴，一邊按照劇本帶乙天進入昏暗的摩尼殿內，圍著本尊來回走動。摩尼殿的本尊如意輪觀音像只在每年這個日子開放供大眾參拜。

值得一提的是，這個每年一次的傳統儀式由本地的梅津家世代代負責舉辦，同時這個家族還享有每年扮演赤鬼和青鬼的特權。從 1 月上旬開始，他們就要開始準備專供法會的飯菜，排練舞蹈，修補或更換儀式所需服裝、道具和面具。

<日本語仮訳>

修正会（鬼追い会式）

圓教寺では毎年 1 月 18 日に、「鬼追い会式」とも呼ばれる平和と五穀豊穡を願う法要「修正会」が行われる。この特別な日には、守護神役の仮面をつけた演者が行列を引き連れて境内を巡り、白山権現で祓いの舞いを披露し、最後に摩尼殿で行事のクライマックスを迎える。赤鬼は若天という地上の財福の神である毘沙門天の化身であり、青鬼は乙天という智慧の神である不動明王の化身である。若天と乙天の二人は 966 年に書寫山で修行を始めた性空上人を導いたと伝えられる。開山以来、化身である両名は圓教寺の守護神として、千年以上に渡って寺伝やしきたりに数多く登場している。修正会の期間、彼らは協力して境内から悪霊を追い払う。そのぞっとするような見かけは、伝統的な「悪鬼を追い、春を呼ぶ」鬼神との繋がりに由来している。民間習俗では、この儀式は平和や五穀豊穡を願うものでもあるとされる。

法要の当日は午後 1 時頃に儀式が始まり、赤鬼と青鬼は目隠しされて山上の白山権現へと導かれる。ここではカラスザンショウで作った「鬼の箸」が配られる。護符に包まれた箸は魔除けの力があると考えられている。若天は片手に鈴を持ち、もう一方には松の木を使った長い松明を持っている。背中には燃える宝珠を飾った木槌を背負っている。乙天は黒漆で仕上げられた木製の太刀を振りかざしている。若天を先頭に、二人の鬼は力強く地面を踏みつけ、呪文を唱えながら行列を導き下山する。「鬼踊り」と呼ばれるこの一連の流れは、土地神をなだめ、地震を防ぐと考えられている。

摩尼殿に到着すると、さらに多くの箸が観客に配られ、儀式の踊りが続く。鈴を鳴らしながら、若天は暗い摩尼殿の内部へと台本通りに乙天を導き、両者は本尊の周りを歩き回る。本尊である如意輪観音像は毎年この特別な日にのみ開帳される

地元の梅津一族が代々、毎年恒例のこの法要にまつわるしきたりの調整役を担っており、また、毎

年赤鬼と青鬼の役を演じる特権も持つ。毎年 1 月の初めから、彼らは特別な食事を準備し、振付のリハーサルを行い、儀式の衣装や道具、仮面を修理したり交換したりする。

【タイトル】 節分会・星祭

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**节分会・星祭**

日本各地的寺院和神社都会在 2 月 3 日庆祝“立春”。日本在近代以前使用阴历，这一天相当于新年的开始。圆教寺直接将该法会称为“节分会”，意为季节的分水岭，并举行庄严的庆祝会。下午 1 点，摩尼殿住持开始亲自主持密教护摩焚。这个仪式的目的是为这一年在灾星下出生的人们驱除厄运，祈祷他们健康、长寿、繁荣，由住持将恶星变成善星。对恶星和善星的关注是东亚地区流传很广的传统，从中可以看出圆教寺和负责掌管天界的观音菩萨之间的渊源。因此，这个特别的节日也被称为“星祭”。

下午举行的是纪念智慧之王“不动明王”的密教仪式。不动明王的怒容与他无限的慈悲形成了鲜明对比。该活动的最后一项是在摩尼殿“撒豆”，由 3~4 名本命年的男子在寺院管理者和僧人们的协助下分发装有豆子的小纸袋。人们相信在寺院内撒豆可以消灾除魔，因为日语的“豆”和“魔灭”的发音一样，都是“mame”。为准备这个仪式，寺院先要在摩尼殿的须弥坛上放 8000 袋豆子开光祈福，然后一把一把地扔给群涌而来的参拜者。撒豆活动在其他寺院也有，但圆教寺的豆袋里除了豆子，还有现金、福券、金银观音菩萨像兑换券以及其他奖赏，格外受人欢迎。

不仅是圆教寺，日本家家户户都有向家中装扮成魔鬼的男子扔豆子的节分撒豆习俗。为了让学龄孩童能够参加这项活动，学校这一天还会提前放学。圆教寺举行的节分会被视为每年 1 月 18 日举行的祈求和平与五谷丰登的法会“修正会”的延伸，这两项活动的目的都是驱除邪灵，祈祷来年繁荣昌盛。

<繁体字>**節分會・星祭**

日本各地的寺院和神社都會在 2 月 3 日慶祝「立春」。這是由於日本在近代以前使用陰曆，因此「立春」這一天相當於新年的開始。圓教寺在立春當天舉辦稱為「節分會」的慶祝會，「節分」即季節的分水嶺。當日下午 1 點，摩尼殿住持開始主持密教護摩焚。這個儀式的目的是為這一年在災星下出生的人們驅除厄運，祈禱他們健康、長壽、繁榮，由住持將惡星變成善星。對惡星和善星的關注是東亞地區流傳很廣的傳統，從中可以看出圓教寺和負責掌管天界的觀音菩薩之間的淵源。因此，這個特別的節日也被稱為「星祭」。

下午舉行的是紀念智慧之王「不動明王」的密教儀式。不動明王的怒容與祂無限的慈悲形成了鮮明對比。當日活動的最後一項是在摩尼殿「撒豆」，由3~4名本命年的男子在寺院管理者和僧人們的協助下分發裝有豆子的小紙袋。人們相信在寺院內撒豆可以消災解厄，因為日語的「豆」和「魔滅」的發音一樣為「mame」。在這個儀式開始之前，寺院要先在摩尼殿的須彌壇放 8000 袋豆子以開光祈福，然後一把一把地扔給群湧而來的參拜者。撒豆活動在其他寺院也有，但圓教寺的豆袋裡除了豆子，還有現金、抽獎券、金銀觀音菩薩像兌換券以及其他獎品，格外受人歡迎。

不僅是圓教寺，日本家家戶戶都有類似的節分撒豆習俗，即向家中裝扮成魔鬼的男子扔豆子。為了讓上學的孩子們能夠參加這項活動，學校這一天還會提前放學。圓教寺舉行的節分會被視為每年1月18日舉行的祈禱和平與五穀豐登的法會「修正會」的延伸，這兩項活動的目的都是驅除邪靈，祈求來年繁榮昌盛。

<日本語仮訳>

節分会・星祭

日本各地の寺院や神社では、2月3日に立春を祝う。この日は、近世以前の太陰暦では新年の始まりに相当する。圓教寺では、この祭りを文字通り季節の分かれ目である節分と呼び、祝賀の法会が厳粛に行われる。午後1時に、摩尼殿の住職が行う密教の護摩焚きが始まる。この儀式では、その年の不運な星の下で生まれた人々の厄払いを行う。彼らの健康、長寿、繁栄を祈願することで、住職は悪星を善星に変えるという東アジアに広く伝わる伝統を実践している。こういった悪星や善星への関心は、圓教寺と天を司るとされる観音菩薩の密接な結びつきを示している。この特別な行事は「星祭」としても知られている。

午後には、智慧の王である不動明王を称えるための密教の儀式が行われる。不動明王のいかめしい姿は、その限りない慈悲の心とはまったく対照的である。行事は、3~4人の年男が、寺院の管理者やさまざまな僧侶の助けを借りて豆の入った袋を配る、摩尼殿での「豆撒き」で締めくくられる。この伝統は、「豆（マメ）」が境内から「魔滅（マメ）」を消す」と信じられていたことに由来する。この儀式に備えて、摩尼殿の須弥壇では8,000袋の豆を祈祷する。その豆袋は、集まった参拝者に一握りずつ投げられる。豆撒きは他の寺院でも催されるが、圓教寺では袋に現金、福引券、金と銀の観音菩薩像の引換券、その他の賞品も含まれているため、特に盛り上がる。

鬼の格好をした身内の男性に豆を投げるという豆撒きに似た習慣が伝統的な節分で、圓教寺や全国の家庭で行われる。地元の学校の子供たちが参加できるように、その日の授業は早めに終了する。この圓教寺の節分会は、毎年1月18日に行われる平和と五穀豊穰を願う法要「修正会」の延長とされる。二つの行事の目的は、悪霊を追放し、来る年の繁栄を祈ることである。

【タイトル】 御朱印

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**御朱印**

御朱印是由遍布全日本的寺院和神社发行的精美手写印章。通常会在被称为“御朱印账”的小本子上盖深红色大印章，并用毛笔书写寺庙或神社名称、日期、吉祥语和祈愿文。自古以来，收集各处御朱印是一种带有浓厚宗教色彩的行为，但在今天很多来访者把它当作纪念品收藏。

御朱印起初是寺院或神社赠给朝圣者的凭证，以证明他们已抄写佛经并供奉给了寺社。佛教信徒认为抄写佛经有助于为死后转世积累功德。但并非每一位朝圣者都有能力亲手抄经，也可以付费请寺院代劳，这时御朱印就成为拜托寺院代笔的交易记录。到江户时代(1603-1867)晚期，奉纳经典的行为已日渐稀少，但是收集御朱印却十分盛行。现在，几乎所有的寺院和神社都只要捐赠一定金额就可换取一个或多个御朱印。

在圆教寺内的摩尼殿、食堂、开山堂 3 处，共有 6 种不同的御朱印。摩尼殿发行的御朱印是纪念参拜“西国三十三所”路线上的第 27 处灵场。这条备受推崇的巡礼之路长达 1000 公里，横跨近畿地区的 5 县 2 府（和歌山县、大阪府、兵库县、京都府、奈良县、滋贺县和岐阜县），也是日本最古老的观音巡礼线路。据说，一生参拜过所有 33 处圣地的人，可以积累功德，往生极乐净土。御朱印被视作寺院本尊的分身，应妥善保管。在开山堂可以认捐圆教寺独有的御朱印，上面的经文是由一位曾在印度的西藏侨民区内修行数十年的僧人用藏文书写的。

<繁体字>**御朱印**

御朱印是由遍布全日本的寺院和神社发行的精美手写印章。通常会在被称为「御朱印账」的小册子盖上深红色大印章，并用毛笔书写寺庙或神社名称、日期、吉祥语和祈愿文。自古以来，收集各处御朱印的行为带有浓厚宗教色彩，但在今天却被访客视为纪念品而收藏。

御朱印最初是作为寺院或神社提供给朝圣者的凭证，以证明他们抄写佛经并供奉给了寺社。这是由于佛教信徒认为抄写佛经有助于为死后转世积累功德。但并非每一位朝圣者都有能力亲手抄经，因此可以付费请寺院代劳，这时御朱印就成为拜托寺院代笔的交易记

録。到江戸時代（1603-1867）晩期，奉納經文的行為已日漸稀少，但是收集御朱印卻十分盛行。現在，幾乎所有的寺院和神社都只要捐贈一定金額就可換取一個或多個御朱印。

在圓教寺內的摩尼殿、食堂、開山堂 3 處，共有 6 種不同的御朱印。摩尼殿發行的御朱印是紀念參拜「西國三十三所」路線上的第 27 處靈場。這條備受推崇的巡禮之路長達 1000 公里，橫跨近畿地區的 7 縣 2 府（和歌山縣、大阪府、兵庫縣、京都府、奈良縣、滋賀縣和岐阜縣），也是日本最古老的觀音巡禮路線。據說，一生參拜過所有 33 處聖地的人，可以積累功德，往生極樂淨土。御朱印被視作寺院本尊的分身，應妥善保管。在開山堂可以認捐圓教寺獨有的御朱印，上面的經文是由一位曾在印度的西藏僑民區內修行數十年的僧人用藏文書寫的。

<日本語仮訳>

御朱印

御朱印とは、全国の寺院や神社が発行する緻密な手書きの印章である。大きな朱色の判と毛筆でその寺社の名前、日付、吉祥句や祈願が記されている。御朱印帳に御朱印を収集することは、歴史的には宗教的な意味合いを伴う信仰的行為であるが、今日、多くの参詣者は記念品として収集している。

もともと御朱印は、巡礼者が写経し、それを寺社に奉納したことの記録として付与されていた。仏教では、写経することは、好ましい転生を得るために役立つ功德と見なされている。しかし、すべての巡礼者が自分で経典を写す能力があるわけではない。その代わりに、寺院にお金を納めて自分たちのために写経してもらったのである。この場合、御朱印はやり取りの記録の役目を果たした。経典を奉納することは江戸時代（1603-1867）後期にはあまり一般的ではなくなったが、御朱印を集めることは盛んで、現在でもほとんどの寺社で、あらかじめ決められた少額の寄付と引き換えに御朱印が 1 つ以上発行される。

圓教寺では、境内の摩尼殿、食堂、開山堂の 3 か所で 6 種類の異なる御朱印を発行している。摩尼殿で発行される御朱印は、「西国三十三所」の 27 番札所への参拝を記念するものである。観音菩薩をまつるこの人気の巡礼路は 1,000km に及び、近畿地方の 2 府 7 県（和歌山、大阪、兵庫、京都、奈良、滋賀と岐阜）にまたがっており、日本最古の観音巡礼でもある。一生の間に 33 か所すべてを参拝した人は、極楽浄土に生まれ変わることでできる功德を積んだとされる。開山堂では、圓教寺特有の御朱印を依頼することができる。御朱印は札所本尊の分身のため、大切に持つべきものである。それは、インドのチベット移民のコミュニティインドで何十年も修行を積んだ僧侶によってチベット文字で記される。

【タイトル】 書写塗

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**書写塗**

“書写塗”指書寫山出產的漆器，因其美觀、輕質、耐用而廣受歡迎。它的標誌性特征是在深紅色的光澤漆面下，隱隱露出下層的黑漆。在表層漆中摻入桐油可以達到這種微妙的效果，並且還能令漆面具有獨特的光滑質感。這種黑漆和朱漆分層疊塗的工藝可以追溯到日本的史前時代，但直到日本中世紀（12-16 世紀）才得以完善。確立書写塗工藝的是一批來自和歌山縣中部根來寺的工匠兼僧人，根來寺以製造佛教儀式所用漆器和佛具而聞名。

1585 年，根來寺遭到武將豐臣秀吉（1537-1598，當時名為羽柴秀吉）破壞，部分技藝高超的僧侶工匠逃往圓教寺，在書寫山繼續製作類似漆器。1985 年，寺內發現了數件漆器作品。自那以後，書写塗工藝得到復興，這種獨具特色的工藝品再次進入市場。在圓教寺的「塔頭」（附屬寺院）壽量院，可以參觀並購買書写塗餐具、托盤和廚具。提前預約的客人還可以品嚐到用書写塗漆器盛放的精進料理（日本傳統素齋）。

<繁体字>**書寫塗**

「書寫塗」指書寫山出產的漆器，因其美觀、輕質、耐用而廣受歡迎。深紅色的光澤漆面下，隱隱露出下層的黑漆是書寫塗的特徵。在表層漆中摻入桐油即可獲得這種微妙的效果，同時還可以令漆面具有獨特的光滑質感。這種黑漆和朱漆分層疊塗的工藝可以追溯到日本的史前時代，但直到日本中世紀（12-16 世紀）才趨於完善。確立書寫塗工藝的是一批來自和歌山縣中部根來寺的工匠兼僧人，而根來寺就以製造佛教儀式所用漆器和佛具而聞名。

1585 年，根來寺遭到武將豐臣秀吉（1537-1598，當時名為羽柴秀吉）破壞，部分技藝高超的僧侶工匠逃往圓教寺，在書寫山繼續製作類似漆器。1985 年，寺內發現了數件漆器作品。自那以後，書寫塗工藝得到復興，這種獨具特色的工藝品再次進入市場。在圓教寺的「塔頭」（附屬寺院）壽量院，可以參觀並購買書寫塗餐具、托盤和廚具。提前預約的遊客還可以品嚐到用書寫塗漆器盛放的精進料理（日本傳統素齋）。

<日本語仮訳>

書写塗

書写塗として知られる書寫山で作られる漆器は、その美しさ、軽さ、そして耐久性に定評がある。その特筆すべき特徴は、朱色の光沢のある表面の下から黒漆がわずかに露出していることである。桐油を最上層に混ぜることによってこの特徴と滑らかな肌触りが生み出される。また、黒漆と朱漆を芸術的に重ね合わせるという手法は、日本の先史時代にまで遡る。ただし、この製法の完成は中世（12-16 世紀）になってからだと思われる。完成させたのは、和歌山県の中部にあった根来寺の熟練職人でもあった僧侶である。根来寺は仏教の儀式に用いられる漆器や仏具の製造で有名であった。

1585 年に武将の豊臣秀吉（1537-1598、当時は羽柴秀吉）によって根来寺が破壊されたとき、職人的技術を持つ僧侶の一部が圓教寺に逃げ込んだと伝えられている。僧侶たちは書寫山で同じような漆器を作り続け、1985 年にいくつかの作品が境内で発見された。以来その製造技術が復活し、独特の作品が再び流通し始めたのである。圓教寺の塔頭の 1 つである壽量院で、食器、お盆、調理器具を見て購入できる。予約をすれば、書写塗の漆器で精進料理を頂くこともできる。

【タイトル】 修行体験

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

修行体験

圓教寺提供多項體驗天台宗日常修行的活動，從下午的坐禪、抄經到數日寺廟生活體驗等等，參拜者均可自行選擇。圓教寺接受任何人報名參加體驗，不論年齡和過往經驗，但如需住宿，則需要掌握基本的日語交流能力。

每天下午 2 點，常行堂會舉行 1 小時附帶講解的坐禪體驗。天台宗認為，坐禪需結合其他修行活動才能獲得開悟。參與坐禪體驗需提前 3 日預約，著裝僅需樸素、舒適。

在日本，自 6 世紀晚期佛教傳入後，就一直有抄錄佛經的傳統。在印刷機發明前，複製文本的唯一方法就是手工抄錄。哪怕只是摘抄一部分，也被看作是有利轉世的積德修行。參拜者也可以去「三之堂」的「食堂」在蓮花瓣形狀的紙上抄寫觀音經中一個字。

圓教寺每年都有幾個週末提供為期兩天的體驗活動，其中包括坐禪、抄經、念經、寺院散步和佛教講座等內容。

<繁体字>

修行體驗

圓教寺提供多項體驗天台宗日常修行的活動，從下午的坐禪、抄經到數日寺廟生活體驗等等，參拜者均可自行選擇。圓教寺接受任何人報名參加體驗，不論年齡和過往經驗，但如需住宿，則需要掌握基本的日語交流能力。

每天下午 2 點，常行堂會舉行 1 小時附帶講解的坐禪體驗。天台宗認為，坐禪需結合其他修行活動才能獲得開悟。參與坐禪體驗需提前 3 日預約，著裝僅需樸素、舒適。

在日本，自 6 世紀晚期佛教傳入後，就一直有抄錄佛經的傳統。在印刷機發明前，複製文本的唯一方法就是手工抄錄。哪怕只是摘抄一部分，也被看作是有利轉世的積德修行。參拜者也可以去「三之堂」的「食堂」在蓮花瓣形狀的紙上抄寫觀音經中一個字。

圓教寺每年都有幾個週末提供為期兩天的體驗活動，其中包括坐禪、抄經、念經、寺院散步和佛教講座等內容。

<日本語仮訳>

修行体験

圓教寺では、天台宗の僧侶たちの日常生活を体験したいと考える参拝者に多くのアクティビティを提供している。その範囲は午後の座禅、写経から、数日間滞在してお寺の生活を体験するコースなど多岐に渡る。圓教寺は年齢や経験の有無に関係なく参加者を受け入れているが、宿泊する場合は基本的な日本語のコミュニケーション能力が必要である。

毎日午後 2 時から常行堂で行われる、ガイド付き座禅体験の所要時間は 60 分間である。天台宗では、他の修行と組み合わせて座禅を行うことで悟りを得られるとされる。予約は少なくとも体験の 3 日前に行い、華美でなく動きやすい服装で参加する必要がある。

日本では、写経は仏教が伝来した 6 世紀後半に遡る長い歴史がある。機械印刷の発明まで、経典を複製する唯一の方法は手書きであった。経典の一部を写すことは、好ましい転生につながる功德を積む行為と見なされている。「三之堂」の「食堂」では、参拝者は蓮の花びらの形をした紙に観音経の一文字を写経することができる。

圓教寺が提供する 2 日間の体験は、毎年数週間の週末にのみ開催されている。この 2 日間、参加者は座禅、写経の練習、お経の唱和、境内の散歩、仏教の講義に参加する。

【タイトル】 武蔵坊弁慶

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

武蔵坊弁慶

日本最具传奇色彩的历史人物——武蔵坊弁慶（1155-1189；弁，音同“遍”）少时曾在圓教寺生活并修行。弁慶是一名以神力著称的武僧，也是众多文学和舞台作品里的英雄人物。在这些作品中，弁慶通常是勇敢和忠诚的榜样，但他的急躁和暴力倾向也同样有名。年少之时，弁慶执着认真的学习态度还常常引来其他小和尚的嘲笑。

弁慶在圓教寺时，发生过一件极具戏剧性的事件。据说，一个叫信濃坊戒圓的小和尚乘弁慶睡着时用木炭在他脸上涂鸦。弁慶在小和尚们的哄笑声中醒来，跑去井边察看自己的脸，发现脸上被画了一只破鞋底。一气之下他开始疯狂捣毁寺庙建筑。传说正是这件事引发了大火，让圓教寺最重要的殿宇化为灰烬。虽然这个故事真假难辨，但从摩尼殿通往开山堂的途中可以看见那口弁慶用来照脸的水井。圓教寺保存有许多与弁慶相关的文物，在食堂2楼可以看见他使用过的书桌，还有他练武时用过的一对巨石。

<繁体字>

武蔵坊弁慶

日本最具傳奇色彩的歷史人物——武蔵坊弁慶（1155-1189；弁，音同「遍」），少時曾在圓教寺生活並修行。弁慶是一名以神力著稱的武僧，也是眾多文學和舞台作品裡的英雄人物。在這些作品中，弁慶多被描繪為勇敢和忠誠的象徵，但他的急躁和暴力傾向也同樣有名。年少時，弁慶執著認真的學習態度還常常引來其他小和尚的嘲笑。

弁慶在圓教寺時，曾發生過一件極具戲劇性的事件。據說，一個叫信濃坊戒圓的小和尚趁弁慶睡著時用木炭在他臉上塗鴉。弁慶在小和尚們的哄笑聲中醒來，跑去井邊察看自己的臉，發現臉上被畫了一隻破鞋底。一氣之下，他開始瘋狂搗毀寺中建築。傳說正是這件事引發了大火，讓圓教寺最重要的殿宇化為灰燼。雖然這個故事真假難辨，但從摩尼殿通往開山堂的途中，可以看見傳說中那口弁慶用來照臉的水井。除了水井之外，圓教寺保存有許多與弁慶相關的文物，在食堂2樓可以看見他使用過的書桌，還有他練武時用過的一對巨石。

<日本語仮訳>

武蔵坊弁慶

日本で最も伝説的な歴史上の人物である武蔵坊弁慶（1155-1189）は若い頃圓教寺で暮らし、修行をした。弁慶は超人的な力で有名な僧兵で、多くの文学作品や舞台では英雄的な人物として登場している。弁慶は勇気や忠誠の手本として描かれることが多いが、短気で暴力的な傾向があったことでも知られている。弁慶の学問に対する忠実な姿勢は、他の若い僧侶たちからのからかいの対象にもなった。

圓教寺で起きたと言われる特に印象的な事件がある。話によると、弁慶が眠っている間に、信濃坊戒円という僧侶が炭の塊で弁慶の顔に落書きをしたという。若い僧侶たちが嘲り笑う声で目を覚ました弁慶は、近くの井戸に走り寄り、水に映った自分の顔を見た。顔を古い下駄の底に見立てたその侮辱に激怒した弁慶は、寺の建物を激しく壊し始める。この事件が大火を引き起こし、圓教寺の最も重要な建造物が灰塵に帰したと言われている。真偽のほどは定かではないが、この物語を伝えるものとして、摩尼殿から開山堂に続く道に、弁慶が自分を映すために使用していたとされる井戸が残っている。圓教寺には、弁慶にまつわる品々も数多く保存されており、彼の勉強机は食堂の 2 階に展示されている。また、弁慶が修行に使ったとされる二つの巨石もある。

【タイトル】 三十三所巡り

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**三十三所巡礼**

“西国三十三所”是一条跨越日本中部5县2府（和歌山县、大阪府、兵库县、京都府、奈良县、滋贺县和岐阜县）、总长 1000 公里、连通 33 座寺院的朝圣巡礼线路。它形成于 8 世纪，至今仍是日本国内最受推崇的朝圣之路之一，也是日本最古老的观音巡礼线路。这条线路上的 33 座寺院都供奉有大慈大悲观音菩萨像，据说巡遍所有寺院，可以为转世积累大功德。圆教寺的摩尼殿就是西国三十三所巡礼线路上的第 27 处灵场，殿内供奉着当时的住持妙觉于 1239 年雕刻的六臂如意轮观音像。

在汽车和索道等便利的现代交通工具普及前，朝圣者们只能靠徒步逐一参拜 33 处灵场，途中去世的也不在少数。鉴于走完全程的难度，思想开明的僧人很早就创造了微缩版巡礼线路，他们修建“复刻灵场”，将漫长的旅程压缩到了一处。通往圆教寺摩尼殿的石阶旁就有一个这样的场所——“三十三所堂”，小殿里供奉了 33 尊小型观音像，参拜这一处就相当于走完整条朝圣之路。

<繁体字>**三十三所巡禮**

「西國三十三所」指跨越日本中部 5 縣 2 府（和歌山縣、大阪府、兵庫縣、京都府、奈良縣、滋賀縣和岐阜縣）、總長 1000 公里、連通 33 座寺院的朝聖巡禮路線。它形成於 8 世紀，至今仍是日本國內最受推崇的朝聖之路之一，也是日本最古老的觀音巡禮路線。這條路線上的 33 座寺院都供奉有大慈大悲觀音菩薩像，據說巡遍所有寺院，可以為轉世積累大功德。圓教寺的摩尼殿就是西國三十三所巡禮路線上的第 27 處靈場，殿內供奉著當年的住持妙覺於 1239 年雕刻的六臂如意輪觀音像。

在汽車和索道等便利的現代交通工具普及前，朝聖者們只能徒步參拜 33 處靈場，途中去世的也不在少數。鑒於走完全程的難度，思想開明的僧人很早就創造了縮小版巡禮路線，修建「復刻靈場」，將漫長的旅程壓縮到一處。通往圓教寺摩尼殿的石階旁就有一個這樣的場所——「三十三所堂」，小殿裡供奉了 33 尊小型觀音像，參拜這一處就相當於走完整條朝聖之路。

<日本語仮訳>

三十三所巡り

「西国三十三所」とは、日本の中部 2 府 7 県（和歌山、大阪、兵庫、京都、奈良、滋賀と岐阜）にまたがり、1,000km を超え、33 か所の寺院をめぐる巡礼路のこと。8 世紀に形成されたこの巡礼路は、現在も国内で最も人気のある巡礼路の 1 つであり、日本最古の観音巡礼でもある。巡礼路にある 33 の寺院には、各自の慈悲の仏である観音菩薩像が祀られている。それぞれのお寺を巡ることで、転生に向けて多大な功德を積むことができると言われている。圓教寺の摩尼殿は三十三所の 27 番目の札所であり、中には、1239 年に僧侶の妙覚によって彫られた六臂如意輪観音像が納められている。

車やロープウェイなど現代の便利な交通手段が発達するまで、巡礼者は 33 か所を一つずつ徒歩で訪れていたため、途中で亡くなることも珍しくなかった。巡礼を完全踏破することの難しさを考え、進歩的考えのある僧侶たちは、早い段階からこの巡礼の旅の縮小版を作り、「写し霊場」と呼ばれる一か所で簡単に訪れることができるような方法を考えた。まさにそのような場所が圓教寺の摩尼殿に通じる石段のたもと近くにある。「三十三所堂」と呼ばれるこの小さなお堂には、33 の観音菩薩像すべてのミニチュアが納められているため、1 回の参拝で巡礼路の全行程を完了することができるのである。

【タイトル】 芸能と圓教寺

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

艺术与圆教寺

在日本文学和戏剧中可以看到圆教寺及其僧人，以及到访名人的故事。早期的例子可见寺院开山祖师性空上人(910-1007)的生平。著名和歌诗人、女官和泉式部(976-1030)曾向性空上人寻求精神上的指引，当时她所作和歌中充满了佛教意象，并被收录进在那个年代最负盛名的敕撰《拾遗和歌集》中。和泉式部的纪念石碑矗立在开山堂的正北方。

在最有名的日本中世纪（12-16 世纪）战争故事《太平记》中，有一篇记载了 1333 年后醍醐天皇(1288-1339)到访圆教寺祈求推翻镰仓幕府的故事。此后数世纪中，《太平记》不断被改编并以舞台剧的形式传播，圆教寺的知名度也因此越来越高。

14 世纪晚期，能剧（将舞蹈、音乐和话剧融为一体的日本古典艺术）在上流社会中备受推崇。性空上人是能剧之父世阿弥元清（约 1363-1443）所写的《江口》里的重要角色。剧中一名男子言及性空上人的台词，为主人公（已故的江口之君）可能是普贤菩萨的化身这一剧情埋下了第一个伏笔。2006 年，为纪念性空上人圆寂 1000 周年，在圆教寺常行堂的舞台上演了《江口》。

此外，圆教寺的“三之堂”风景优美，曾出现在汤姆·克鲁斯和渡边谦主演的《最后的武士》（2003 年）等好几部重要的历史影视剧中。

<繁体字>

藝術與圓教寺

在日本文學和戲劇中可以看到圓教寺及其僧人，以及到訪名人的故事。早期的例子如寺院開山祖師性空上人（910-1007）的生平。著名和歌詩人、女官和泉式部後皈依佛門，（976-1030）曾到圓教寺向性空上人尋求精神上的指引。她所作和歌中充滿了佛教意象，並被收錄進在當時最負盛名的敕撰《拾遺和歌集》中。今日，在開山堂的正北方仍矗立著紀念和泉式部的紀念石碑。

最有名的日本中世紀（12-16 世紀）戰爭故事《太平記》中，記載了 1333 年後醍醐天皇（1288-1339）到訪圓教寺祈求推翻鎌倉幕府的故事。在此後數世紀中，《太平記》不斷被改編並以舞台劇的形式傳播，圓教寺的知名度也因此越來越高。

14 世紀晚期，能劇（將舞蹈、音樂和話劇融為一體的日本古典藝術）在上流社會中備受推崇。性空上人是能劇之父世阿彌元清（約 1363-1443）所寫的《江口》裡的重要角色。

劇中一名男子言及性空上人の台詞、為主人公（已故の江口之君）可能是普賢菩薩の化身這一劇情，埋下了第一個伏筆。2006 年，為紀念性空上人圓寂 1000 周年，在圓教寺常行堂の舞台上演了《江口》。

此外，圓教寺の「三之堂」風景優美，曾出現在湯姆・クルーズ和渡邊謙主演の《最後の武士》（2003 年）等數部重要な歴史影視劇中。

<日本語仮訳>

芸能と圓教寺

圓教寺とその僧侶、そして圓教寺を訪問した有名な人々についての物語は、日本文学や演劇の中に織り込まれている。初期の例は、寺院の開祖性空上人（910-1007）の生涯に関するものである。著名な歌人であった女官の和泉式部（976-1030）は、精神的な指導を求めて性空上人に相談した。この時に和泉式部が詠んだ仏教的描写が豊かな和歌は、当時の歌人にとって最高の栄誉である勅撰『拾遺和歌集』に収録された。和泉式部の石碑は、開山堂のすぐ北にある。

日本で最も有名な中世（12-16 世紀）の軍記物語の 1 つである『太平記』の一節では、1333 年に後醍醐天皇（1288-1339）が鎌倉幕府打倒の祈願のために圓教寺を訪問したことが綴られている。太平記が書き直され、その後数世紀にわたって舞台演劇を通して普及するにつれ、圓教寺は広く知られるようになった。

14 世紀後半、上流階級の間で人気が高まるにつれて能（舞と謡と囃子を融合した日本の古典芸能）が注目を集めるようになった。性空上人は、能の父とされる世阿弥元清（1363 頃-1443 頃）によって書かれた能『江口』の中で、重要な役割を演じている。劇中である男が語る性空上人についての話の中に、この劇の主人公である亡くなった江口の君が、普賢菩薩の化身の可能性があると最初のヒントが出てくる。2006 年、性空上人没後 1000 年を記念して、圓教寺常行堂の舞台上で『江口』が上演された。

圓教寺の「三之堂」は絵になる美しい場所であることから、トム・クルーズと渡辺謙主演の『ラストサムライ』（2003 年）など、いくつかの主要な歴史的テレビドラマや映画にも登場している。

地域番号	008	協議会名	石見銀山多言語解説協議会
------	-----	------	--------------

解説文一覧

NO.	スポット名 (タイトル)	中国語文字数	想定媒体
008-001	龍源寺間歩	420	WEB
008-002	清水谷製錬所跡	385	WEB
008-003	高橋家住宅	345	WEB
008-004	豊栄神社	525	WEB
008-005	佐毘売山神社	360	WEB
008-006	大久保長安墓所	400	WEB
008-007	代官所	355	WEB
008-008	温泉津・沖泊道沿いの西田	525	WEB
008-009	温泉津・沖泊道	385	WEB
008-010	鞆ヶ浦道 (山吹城登城口)	565	WEB
008-011	鞆ヶ浦港	435	WEB
008-012	沖泊港	405	WEB
008-013	国選定・大森銀山重要伝統的建造物群保存地区	975	WEB
008-014	大森：熊谷家住宅	545	WEB
008-015	大森：羅漢寺と五百羅漢	510	WEB
008-016	大森：河島家住宅	390	WEB
008-017	国選定・温泉津重要伝統的建造物群保存地区	705	WEB
008-018	温泉津：西念寺	350	WEB
008-019	温泉津：西楽寺と恵瑠寺	395	WEB
008-020	温泉津温泉	490	WEB
008-021	大森：城上神社	285	WEB
008-022	石見銀山とその文化的景観	965	WEB
008-023	石見銀山と海外とのつながり	1105	WEB
008-024	石見銀山世界遺産センター	485	WEB
008-025	大久保間歩	430	WEB
008-026	釜屋間歩とその周辺	570	WEB
008-027	新切間歩	420	WEB
008-028	福神山間歩	515	WEB
008-029	柑子谷地区と永久精錬所	625	WEB
008-030	下河原吹屋跡	450	WEB
008-031	世界遺産センター遊歩道	365	WEB
008-032	本谷集落跡	485	WEB
008-033	坂根口番所跡	320	WEB
008-034	本谷口番所跡	370	WEB
008-035	石銀集落跡	590	WEB
008-036	石銀千畳敷集落跡	385	WEB

008-037	枋畑谷集落跡	410	WEB
008-038	昆布山谷集落跡	585	WEB
008-039	吉岡出雲の墓	580	WEB
008-040	石見銀山大盛祈願道場碑	340	WEB
008-041	清水寺	500	WEB
008-042	妙正寺	270	WEB
008-043	大安寺跡	415	WEB
008-044	西本寺	395	WEB
008-045	渡辺家住宅	385	WEB
008-046	金森家住宅	365	WEB
008-047	宗岡家住宅	580	WEB
008-048	阿部家住宅	540	WEB
008-049	三宅家住宅	610	WEB
008-050	青山家住宅	355	WEB
008-051	金森家住宅	375	WEB
008-052	柳原家住宅	440	WEB
008-053	西性寺	575	WEB
008-054	旧大森区裁判所	610	WEB
008-055	観世音寺	445	WEB
008-056	勝源寺	550	WEB
008-057	山吹城跡	640	WEB
008-058	矢滝城跡	425	WEB
008-059	矢筈城跡	405	WEB
008-060	石見城跡	370	WEB
008-061	金剛院	420	WEB
008-062	龍御前神社	370	WEB
008-063	温泉津港	405	WEB
008-064	辻が花染丁字文道服	450	WEB
008-065	岡家住宅	315	WEB
008-066	栄泉寺	550	WEB
008-067	石見神楽	410	WEB
008-068	石見銀山を巡る戦い	630	WEB

【タイトル】 龍源寺間歩

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**龙源寺间歩**

在石见银山已知的 900 多处矿山坑道中，龙源寺“间歩”（矿坑通道）是最具代表性的一处，也是银矿石产量最高的五大矿道之一。龙源寺间歩全长 600 米，前 273 米是世界遗产“石见银山遗迹及其文化景观”中唯一一条全年对公众开放的坑道。龙源寺间歩于 1715 年开掘，由位于江户（今东京）的德川幕府任命的“代官”（地方最高行政长官）管辖。1603 年至 1867 年，日本处于德川幕府的统治之下，此处所产白银自然也就直接归幕府所有。

沿着银矿矿脉走向，龙源寺间歩的主矿道旁又分出数条副矿道，至今在坑壁上仍可见矿脉痕迹。副矿道明显比主矿道狭窄许多，这是由于主矿道为了便于矿车出入，曾在 19 世纪下半叶运用现代钻井设备拓宽过，而以前的矿道都靠凿子或锤子手工挖掘，极其耗时费力，所以非常狭小，只够一名矿工勉强通过。

1989 年，龙源寺间歩专为参观者开凿了一条出口坑道，里面设有说明板，上面再现了江户时代(1603-1867)为了向幕府官员介绍矿山设施而绘制的图画。

<繁体字>**龍源寺間歩**

龍源寺「間歩」（礦坑通道）是石見銀山已發現的 900 多處礦山坑道中最具代表性的一處，也是銀礦石產量最高的五大礦道之一。此間歩全長 600 公尺，前面 273 公尺是世界遺產「石見銀山遺跡及其文化景觀」中唯一全年對民眾開放的坑道。這條間歩於 1715 年挖掘，直屬德川幕府所任命的「代官」（地方最高行政長官）管轄。位於江戶（今東京）的德川幕府在 1603 年至 1867 年統治日本，所以此地所產白銀也成為了幕府的直接收入來源。

沿著銀礦礦脈走向，從主礦道旁又分出了幾條副井，至今在坑壁上還隨處可見礦脈痕跡。主礦道曾經在 19 世紀下半葉拓寬，以便讓礦車進出。相比之下，沒有拓寬的副井礦道就比主礦道窄了許多。在現代鑽井設備引入之前，礦工只能靠人力挖掘礦道，極其耗時費力，因此礦道非常窄小，只夠一名礦工勉強通過。

1989 年，龍源寺間歩專為遊客開鑿了一條出口通道，通道內設置的說明板上再現了江戶時代（1603-1867）為了向幕府官員介紹礦山設施而繪製的插圖。

<日本語仮訳>

龍源寺間歩

石見銀山では、様々な規模の坑道が900本以上発見されていますが、龍源寺「間歩」（鉦坑）はその中でも最も代表的なものです。また、銀の生産量という点においても、上位5本の坑道に入ります。龍源寺間歩は全長600メートルで、最初の273メートルは世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」の中で唯一、一年を通じて常時公開されています。この坑道は1715年に掘られ、江戸（現在の東京）にある徳川幕府から任命された現地の「代官」（地方行政最高責任者）の管理下に置かれました。このため、龍源寺間歩で採掘された銀は、1603年から1867年まで日本を統治した徳川幕府にとって直接的な収入源でした。

間歩の内部には、主坑道から枝分かれする複数の小さな坑道があります。これらは銀脈をたどるために掘られたもので、その名残は今でも壁のあちこちに見ることができます。副坑道は主坑道よりずっと狭く、それは荷車の出入りを可能にするため、19世紀後半に主坑道が拡張されたからです。近代的な掘削機器が導入される前の坑道は、非常に狭くなっています。ノミや金槌のみを使って坑道を掘るのは大変時間のかかる作業であったため、坑夫がなんとか通り抜けられる程度の幅しかありません。

間歩を観光客に開放するため、1989年に掘られた出口用坑道から出る際には、幕府の役人に鉦山の機能を説明する目的で使われた江戸時代（1603-1867）の絵図を複製した案内板を探してみてください。

【タイトル】 清水谷製錬所跡

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

清水谷制炼所遗址

清水谷制炼所遗址伫立在一座山丘之上，如今唯有一些石头和混凝土地基还在无声地讲述着 19 世纪晚期那段大胆尝试复兴银矿但终究以失败告终的故事，提醒人们这座设施曾经的辉煌。

1886 年，总部位于大阪的藤田组取得了石见银山的开采权，当时这座矿山已经荒置了数十年。藤田组投入巨资，引进了最先进的采矿设备和技术，比如使用炸药拓宽原有矿坑通道，以求开采更多的矿石。在经过一系列的现代化运作后，清水谷制炼所于 1895 年投入使用。该所具备当时最新技术，主要处理藤田组在附近矿坑开采的大量矿石。

然而，经过了长达 350 余年开采之后的石见银山矿床早已枯竭，此时开采的矿石品质已无法达到预期。不仅如此，就连白银的提炼技术也不尽人意。因此仅仅一年半之后，清水谷制炼所便关闭了。为降低损失，藤田组将这里冶炼设备转移到旗下其他矿场使用，其中包括台湾北部的九份矿场。

<繁体字>

清水谷製煉所遺址

清水谷製煉所遺址佇立在一座山丘之上，如今，唯有一些石塊和混凝土地基還在無聲地講述著 19 世紀晚期那段大膽嘗試復興銀礦但終究以失敗告終的故事，提醒人們這座設施昔日的輝煌。

1886 年，總部位於大阪的藤田組取得了荒置數十年的石見銀山開採權，並投入巨資，引進了最先進的採礦設備和技術，包括使用炸藥拓寬原有礦坑通道，以求開採更多的礦石。1895 年，在經過一系列的現代化運營後，清水谷製煉所建立。該所具備當時最新技術，主要處理藤田組在附近礦坑開採的大量礦石。

然而，在長達 350 餘年開採之後的石見銀山礦床早已枯竭，此時開採的礦石品質已無法達到預期。不僅如此，就連白銀的提煉技術也不盡如人意。因此僅僅一年半之後，清水谷製煉所便關閉了。為降低損失，藤田組將這裡冶煉設備轉移到旗下其他礦場使用，其中包括台灣北部的九份礦場。

<日本語仮訳>

清水谷製錬所跡

いまでは丘に静かに佇む石やコンクリートの土台にすぎない清水谷精錬所跡は、19 世紀後半にここで再開されようとしていた、大胆ではあったものの失敗に終わった銀生産の歴史を物語っており、かつてのこの施設の壮大な姿を彷彿とさせます。

1886 年に大阪の藤田組が石見銀山の採掘権を獲得したときには、この鉱山はすでに何十年にもわたって休眠状態となっていました。しかし藤田組は多額の投資を行い、既存の坑道を拡張して大量の鉱石を掘り出すためにダイナマイトを使用するなど、最先端の採掘設備と方法を導入しました。これら近代化の取り組みの末、1895 年に清水谷精錬所が開設される運びとなりました。同精錬所では最新の技術を採用して、藤田組が近くの坑道で採掘した大量の鉱石を処理していました。

しかし、350 年余りにわたって採掘されてきた石見銀山の銀鉱床はすでに枯渇しており、鉱石の質が予想よりも粗悪であることがわかりました。純銀を抽出するために使われた技術も期待を裏切る結果となり、最終的に清水谷精錬所はわずか一年半の操業の後、閉鎖されました。藤田組は、当時の日本の植民地であった台湾の九份など、自社の支配下にあった他の鉱山に精錬設備を移転することで、損失の削減を模索しました。

【タイトル】 高橋家住宅

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**高桥家族住宅**

高桥家族住宅就坐落于通往龙源寺“间步”（矿坑通道）的道路旁，由此可见，此家族在本地矿业中占据着重要的地位。1839年，石见银山的矿主们推举当时的高桥家族家主高桥富三郎担任矿主与本地代官所之间的联络人。代官所是代表江户（今东京）幕府中央政权管理本地事务的地方行政部门，代官主要负责雇佣供应商、发放采矿许可、监督并确保白银平安抵达江户。因此，联络人的角色十分关键，需要在矿主和代官之间调停和沟通。

通过参与矿山管理，高桥家族逐渐积累起了可观的财富，乃至建造了一座本地区最大、最奢华的住宅。此住宅建成于1860年前后，由面向道路的主屋、庭园茶室和后侧的独立小屋组成。住宅目前虽不对外开放，但人们依然可以窥见在石见银山的白银生产开始进入现代的那个时期，富有的本地矿主及其家族的生活面貌。

<繁体字>**高橋家住宅**

高橋家住宅就坐落於通往龍源寺「間步」（礦坑通道）的道路旁，由此可見高橋家在本地礦業中所佔據的地位之重要。1839年，石見銀山的礦主們推舉當時的高橋家家主高橋富三郎擔任礦主與本地代官所之間的聯絡人。代官所是代表江戶（今東京）幕府中央政權管理本地事務的地方行政部門，代官主要負責雇傭供應商、發放採礦許可、監督並確保白銀平安抵達江戶。聯絡人需要在礦主和代官之間調停和溝通，因此地位十分關鍵。

高橋家透過參與礦山管理，逐漸累積了可觀的財富，以至建造了一座本地區最大、最豪華的住宅。此住宅建成於1860年前後，由面向道路的主屋、庭園茶室和後側的獨立小屋組成。住宅目前並不對外開放，但遊客依然可以窺見在石見銀山的白銀生產正邁向近代化的階段，富有的本地礦主及其家族的生活面貌。

<日本語仮訳>**高橋家住宅**

高橋家住宅は、龍源寺「間歩」（鉱坑）と向かう道のすぐ脇にあります。その立地からも、高橋家がこの地域の鉱山社会においていかに重要な役割を果たしていたかが分かります。1839年、石見銀

山の鉱山経営者は、当時高橋家の当主であった富三郎氏を、鉱山事業者と代官所との連絡役として選出しました。代官所とは江戸（現在の東京）にある幕府の代表である現地の政務を取り扱う場所です。連絡役は、業者の採用をはじめ、鉱山での作業に必要な免状の発行や産出された銀の江戸への安全な輸送の監督を任されていた代官と、採掘事業者との仲立ちをする、重要な役職でした。

鉱山の経営に関わりを持っていた高橋家は、やがてこの地域で最大かつ最も豪華な住宅を建てられるほどの財を成しました。1860年頃に完成したこの住宅は、道路に面する母屋、庭の茶室、裏手の離れで構成されています。現在、高橋家住宅は一般公開されていませんが、石見鉱山での銀の産出が近代へと差しかかる時代の裕福な鉱山経営者とその家族の暮らしぶりがうかがえます。

【タイトル】 豊栄神社

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**丰荣神社**

自 1527 年发现矿山直到 17 世纪初期，石见银山始终由本地大领主把持，强大的毛利家族便是其中之一。1561 年，为宣示对矿山的所有权，毛利家族当时的家主毛利元就(1497-1571)在银山川旁的小山坡上修建了一座简朴的寺庙，并将自己的木像安放于寺庙本堂（正殿）内。

随着武将德川家康(1543-1616)征服全日本，并于 1603 年在江户（今东京）建立起德川幕府中央政权后，石见银山由政府接手直接管理。毛利家族的领地大幅缩小，仅剩下本州岛西端的长州一地。在德川幕府统治的两个多世纪里，毛利元就的神社始终静静地守护着石见银山，直到战争再次蔓延到银山。1866 年，幕府军发动了讨伐长州藩的“第二次长州征讨”，但这场战争最终导致了幕府时代的终结。此期间，来自长州藩（今山口县）和萨摩藩（今鹿儿岛县）的军队行经石见银山的这座寺庙，长州士兵惊喜地发现，寺内供奉着一尊他们的传奇主君毛利元就的雕像。

最终，倒幕方取得胜利。为了响应明治新政府通过扶持本土的神道教来传播现代民族主义的方针，长州士兵们在寺庙原址上新建了这座丰荣神社。1943 年，丰荣神社遭遇山体滑坡而部分被毁，但精美的正门、独具特色的本堂以及拜殿都得以幸存，并保留至今。遗憾的是，最初那尊毛利元就像已不复存在。

<繁体字>**豐榮神社**

自 1527 年發現礦山直到 17 世紀初期，石見銀山一直受本地大領主控制，其中就包括強大的毛利家。1561 年，為宣示對礦山的所有權，毛利家家主毛利元就（1497-1571）在銀山川旁的山坡上修建了一座簡樸的寺廟，並將自己的木像安放於寺廟本堂（正殿）內。

隨著德川家康（1543-1616）征服全日本，並於 1603 年在江戶（今東京）建立起德川幕府中央政權後，石見銀山的控制權轉由江戶政府直接管理。毛利家的領地大幅縮小，僅剩本州西端的長州一地。在德川幕府統治的兩個多世紀裡，毛利元就的神社始終靜靜地見證著石見銀山的興衰，直到戰爭再次蔓延到銀山。1866 年，幕府軍隊發動了討伐長州藩的「第二次長州征討」，最終導致了幕府時代的終結。征討期間，來自長州藩（今山口縣）

和薩摩藩（今鹿児島縣）的軍隊行經石見銀山旁的這座寺廟，長州士兵驚喜地發現，寺內供奉著一尊傳奇主君毛利元就的雕像。

最終，倒幕方取得勝利。為了響應明治新政府的方針，即通過扶持本土的神道教來傳播現代民族主義，長州士兵在寺廟原址上新建了這座豐榮神社。1943年，豐榮神社遭遇山體滑坡而部分被毀，但精美的正門、獨具特色的本堂以及拜殿都得以倖存，並保留至今。遺憾的是，最初那尊毛利元就像已不復存在。

<日本語仮訳>

豊栄神社

石見銀山は1527年の発見から17世紀の初めまで、地方の大名によって支配されていました。一時期、石見銀山はこの地域を拠点としていた有力な大名である毛利氏の所領でした。毛利氏の当主であった毛利元就（1497-1571）は、1561年に銀山を手中に収めたことを示すために、銀山川近くの傾斜地に質素な寺院を建て、本堂内に自らの木像を安置しました。

武将の徳川家康が日本全土を征服し、1603年に江戸（現在の東京）に幕府を設立すると、石見銀山を直轄地とします。毛利氏の領地は大幅に削られ、本州の西端にある長州に制限されました。元就が建立したこの寺は、徳川家の支配下で200年以上にもわたり石見銀山地域を静かに見守っていましたが、銀山は再び争いに巻き込まれてしまいます。1866年、幕府が長州藩に対して「第二次長州征討」が行われ、後に幕府の時代に終焉をもたらすことになった。この戦で長州藩（現在の山口県）と九州の薩摩藩（現在の鹿児島県）から進軍してきた軍勢が、たまたまこの寺にたどり着き、長州藩士たちは、寺院の中に伝説の君主の像を発見して歓喜しました。

最終的に反幕府勢力が戦に勝ち、長州藩士たちは同じ場所に今度は神社を建立しました。これは、近代的国家主義の伝達手段として土着の宗教である神道を育むという新政府の方針に従ったものです。1943年に豊栄神社は一部地滑りの被害に遭いましたが、壮麗な門と特徴のある本殿、そして拜殿は今でも残っています。当初の毛利元就像は残念ながら現存しません。

【タイトル】 佐毘売山神社

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

佐毗賣山神社

佐毗賣山神社是日本规模最大的山神社。山神社是矿山特有的神社，专门供奉矿山守护神。佐毗賣山神社坐落于一座小山上，距离石见银山核心观光区之一的龙源寺“间步”（矿坑通道）入口大约 200 米。16 世纪晚期至 17 世纪早期，本地银矿产业繁荣，一座大型矿村占据了整个山腹，佐毗賣山神社便是这个村落的精神与生活中心。

神社建于一条曾经是本地银矿储量最丰的矿脉正上方，供奉神道教中的矿山守护神“金山彦命”。神社周围，人工平整出的阶梯状平地上坐落着矿工及其家人的住宅，村民们每天都会到神社祈祷。虽说屋宅俱已不存，但至今还能看到许多为稳固阶地而修建的石垣。

纵观石见银山的历史，佐毗賣山神社始终是一处重要的宗教场所。神社现存建筑可以追溯至 1819 年，其拜殿大得非同寻常，专为表演献祭神明的神乐而建，而神乐也是石见地区民俗传统的核心。

<繁体字>

佐毗賣山神社

佐毗賣山神社是日本规模最大的山神社。山神社是矿山特有的神社，专门供奉矿山守护神。佐毗賣山神社位于一座小山上，距离石见银山的热门观光区龙源寺「间步」（矿坑通道）的入口仅 200 公尺。16 世纪晚期至 17 世纪早期，本地银矿产业繁荣，形成了庞大的矿村聚落，占据了整个山腹，而佐毗賣山神社便是这个村落的精神与生活中心。

神社建于以往银矿储量最丰的一条矿脉正上方，供奉神道教中的矿山守护神「金山彦命」。神社四周是人工平整出的阶梯状平地，曾经坐落著矿工及其家人的住宅，村民们每天都会到神社祈祷。虽说屋宅俱已不存，但至今还能看到许多为稳固阶地而修建的石垣。

综观石见银山的发展史，佐毗賣山神社始终是一处重要的宗教场所。现存的神社建筑可以追溯至 1819 年，社内有一个大得非同寻常的拜殿，专为表演献祭神明的神乐而建，而神乐也是石见地区民俗传统的核心。

<日本語仮訳>

佐毘売山神社

佐毘売山神社は、日本一の規模の山神社です。「山神社」とは、鉱山特有の神社で鉱山の守り神を祀ります。佐毘売山神社は、石見銀山の中心的観光スポットのひとつである龍源寺「間歩」（鉱坑）の入口から 200 メートルほどの丘に鎮座しています。16 世紀後半から 17 世紀初頭に銀鉱山が栄えた頃は、ここは神社周辺の山腹全体に広がる大規模な鉱山集落にとって、精神的および物理的な拠り所でした。

この神社には鉱山の守り神である金山彦命が祀られており、かつてはこの地域でも有数の豊富な銀鉱脈を誇った場所の真上に建てられています。この神社で毎日祈りを捧げた坑夫とその家族は、人工的に平坦かつ階段状にされた近くの土地に建てられた家に住んでいました。その住居はもう残っていませんが、階段状の土地を補強するために築かれた石垣は、今でも見られます。

佐毘売山神社は、石見銀山の歴史を通じて重要な宗教的施設であり続けました。現在の建物は 1819 年に建てられたもので、非常に大きな拝殿もあります。この大拝殿は、石見地方の民俗的伝統の中核を成す、神道の神々に捧げる神楽を披露するために設計されたものです。

【タイトル】 大久保長安墓所

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

大久保长安墓所

1600年，德川幕府(1603-1867)创立者德川家康(1543-1616)刚刚取得石见银山的控制权，便立刻指派最信任的部下之一大久保长安(1545-1613)接掌矿山地区。大久保长安擅长管理，尤其精通矿山事务。在他的主持下，石见银山开辟了多条银矿资源丰富的“间步”（矿坑通道），其中一条就是冠以其名的“大久保间步”。大久保长安为石见银山进入鼎盛时代奠定了基础，德川家康对其功绩十分满意，令他掌管日本多个储量最丰富的贵金属矿，包括佐渡岛（今新潟县近海地区）和伊豆（今静冈县）的金矿。

大久保长安享年69岁，生前他已为自己修建了好几处豪华的墓地，这些墓地与其说是为了安葬骨骸，更像纪念碑。然而事与愿违，或许出于政治目的，大久保长安在死后被追诉贪污与谋反，他的7个儿子和许多部下因此被迫自杀，所有产业皆被收缴，他的纪念碑或被拆毁，或被荒置。直到1794年，石见银山的人们才重新为他修建墓碑，并留存至今。

<繁体字>

大久保長安墓

1600年，德川幕府（1603-1867）創立者德川家康（1543-1616）剛剛取得石見銀山的控制權，便立刻指派心腹大久保長安（1545-1613）掌管礦山地區。大久保長安精於管理，尤擅礦山事務。在他的任內，石見銀山開闢了多條銀礦資源豐富的「間步」（礦坑通道），其中一條就是以他的姓氏命名的「大久保間步」。大久保長安為石見銀山蒸蒸日上的採礦事業奠定了基礎，德川家康對他的功績十分滿意，於是令其掌管日本多個儲量最豐富的貴金屬礦，包括佐渡島（今新潟縣近海地區）和伊豆（今靜岡縣）的金礦。

大久保長安享年69歲。生前他為自己修建了數處豪華的墓地，與其說是為了安葬骨骸，這些「墓地」更具有紀念碑的意義。然而事與願違，或許出於政治目的，大久保長安在死後被追訴貪污和謀反，他的7個兒子和許多部下因此被迫自殺，所有產業皆被收繳，他的紀念碑或被拆毀，或被荒置。直到1794年，石見銀山的人們才重新為他修建了墓碑，並留存至今。

<日本語仮訳>

大久保長安墓所

徳川幕府（1603-1867）の創始者として知られる武将の徳川家康（1543-1616）は、1600年に石見銀山を直轄とすると、最も信頼できる部下の一人であった大久保長安（1545-1613）を鉱山奉行に任命しました。大久保は有能な奉行として、また鉱山の専門家として知られていました。彼の名を冠した大久保「間歩」（鉱坑）など、銀の産出量が豊富な坑道を複数開拓し、石見銀山最大の繁栄期の基礎を築いたことで高く評価されています。長安の功績に感銘を受けた家康は、後に佐渡島（現在の新潟県沖）や伊豆（現在の静岡県）の金鉱山など、当時の日本で最も豊富な貴金属の産出量を誇っていた鉱山の多くで、彼を奉行として登用しました。

大久保は69歳でこの世を去りましたが、彼は実際に遺骨を納める墳墓というよりは、むしろ記念碑のような立派な墓をすでに複数建てていました。しかし予期せぬことが起こります。大久保は死後、横領と謀反の嫌疑をかけられたのです。7人の息子と家来たちは自害を余儀なくされ、財産はすべて押収されました。この告発は政治的な動機であった可能性があります、いずれにせよ彼の碑は撤去され、あるいは見向きもされなくなりました。1794年になってようやく石見銀山の人々は新しい墓石を立て、それが現在も残されています。

【タイトル】 代官所

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**代官所**

江戸時代(1603-1867)，石見銀山由徳川幕府直接管理。幕府任命的“代官”，即地方最高行政長官，在本地防衛森嚴的“代官所”（幕府在地方的代表處）負責監管礦山及周邊地區。大森町便是圍繞代官所發展起來的市鎮。代官負責稅收、政策法令執行、秩序維護，以及礦山管理等事務。為此，代官所聘任了大量本地官員，其中許多都是精通稅務計算、銀礦開採等不同領域的專家。

時至今日，石見銀山代官所遺址上還保留著 1815 年修建的大門和 1902 年修建的本館。本館如今是一座資料館，主要介紹自日本中世紀（12-16 世紀）到 1923 年礦山關閉期間的石見銀山礦業發展史。館內展出了各個時期的多種採礦設備，同時還生動展現了礦工及其家庭的生活圖景、本地官員的工作情況，以及初到此地的新任代官和其他官員認真閱讀卷軸手冊了解礦山情況的情景。

<繁体字>**代官所**

江戸時代（1603-1867），石見銀山由徳川幕府直接管理。幕府任命的「代官」（即地方最高行政長官），在本地防衛森嚴的「代官所」（幕府在地方的代表處）負責監管銀礦山及周邊地區。大森町便是鄰近代官所發展起來的市鎮。代官需負責稅收、政策法令執行、秩序維護，以及礦山管理等事務。為此，代官所聘任了大量本地官員，其中許多都是擁有一技之長的專業人士，負責承擔稅務計算、銀礦開採等不同領域的工作。

時至今日，石見銀山代官所遺址上還保留著 1815 年修建的大門和 1902 年修建的本館。本館如今是一座資料館，主要介紹自日本中世紀（12-16 世紀）到 1923 年礦山關閉期間的石見銀山礦業發展史。館內展出了各個時期的多種採礦設備，同時，還生動展現了礦工及其家庭的生活圖景、本地官員的工作情況，以及走馬上任的新代官和其他官員認真閱讀卷軸手冊瞭解礦山情況的情景。

<日本語仮訳>**代官所**

江戸時代（1603-1867）、石見銀山は徳川幕府の直轄領でした。幕府の「代官」（地方行政最高責任者）は、厳重な守りが敷かれた「代官所」（地方における幕府の出先機関）から銀鉱山およびその周辺の統治を行い、この代官所を中心に大森町が発展しました。代官は税の徴収、法と秩序の維持、そして鉱山の管理などを担っていました。これらの責務を実行するため、代官所は主に税の計算や銀の採掘など、特定の分野を専門とする地元の役人を数多く雇いました。

現在、石見銀山の代官所があった場所には、1815年に建てられた門と1902年に建てられた本館があります。現在後者は資料館となっており、中世（12世紀～16世紀）から1923年に鉱山が閉鎖されるまでの石見銀山における採掘の歴史が詳しく紹介されています。資料館には、長年にわたるさまざまな採掘用具、坑夫やその家族の暮らしぶり、現地役人の仕事ぶり、さらには日本国内の様々な場所から新たに石見銀山に赴任してきた代官や役人が、マニュアルのような巻物を使って事前に学習していた様子などが展示されています。

【タイトル】 温泉津・沖泊道沿いの西田

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

温泉津・沖泊道旁的西田

如今的西田小镇稻田环绕，风光如画。这个恬静的村落曾是一个重要的宿场町（驿站），坐落在连接石见银山与温泉津港和冲泊港的要道上。虽说只在 16 世纪下半叶的 40 年间有白银经此地运往海岸港口，但直到 19 世纪晚期，它一直都是运输矿山物资的主干道。当年小镇车水马龙，镇上茶室、旅馆和酒馆生意兴隆，定期举办的市集也吸引着周遭村庄的人们集结于此。

本地人都会到位于村庄一角的“上市惠比寿神社”祈福拜神，那里供奉七福神[※]中的商业之神——惠比寿神。人们还向大慈大悲观音菩萨祈祷消除火患，并在沿路安放其他石雕佛像祈求平安。除了这些宗教设施，同样留存至今的还有西田地区独有的“ヨズクハデ”(yozukuhade)风俗。这是一项历史悠久的晒谷技艺，名称源自本地方言里的“ヨズク”(yozuku)，即“猫头鹰”的意思。据说，在晒谷架上挂满稻穗后，看上去与这些夜行鸟类十分相像。这项技艺现已被指定为“应采取记录制作等措施的非物质民俗文化财产”。

※七福神：出自日本、中国、印度宗教的七位神灵，包括大黑天、惠比寿、四大天王之一的毗沙门天、女神弁才天、福祿寿、寿老人、弥勒佛的化身布袋和尚。也有说法认为，福祿寿就是寿老人，故另行加入女神吉祥天。

<繁体字>

溫泉津・沖泊道旁的西田

如今稻田環繞，風光如畫的西田小鎮，過去曾是一個重要的宿場町（驛站），它坐落於連接石見銀山與溫泉津港、沖泊港的公路上。雖說只在 16 世紀下半葉的 40 年間有白銀經此運往海岸港口，但直到 19 世紀晚期，它一直都是運輸礦山物資的主幹道。當年小鎮車水馬龍，鎮上茶室、旅館和酒館生意興隆，定期舉辦的市集也吸引著周遭村民來此趕集。

位於村莊一角的小神社「上市惠比壽神社」是本地人祈福拜神地方，裡面供奉七福神[※]中的商業之神——惠比壽神。人們還向大慈大悲觀音菩薩祈求消除火患，並在沿路安放其他石雕佛像祈求平安。除了這些宗教場所，西田地區獨有的「ヨズクハデ」（yozukuhade）習俗依然保留至今。這是一項歷史悠久的曬穀技術，名稱源自本地方言的「ヨズク」

(yozuku) , 意即「貓頭鷹」, 據說掛滿稻穗的曬穀架, 狀似貓頭鷹之類的夜行鳥類。這項技藝現已被指定為「應採取記錄製作等措施的非物質民俗文化財產」。

※七福神：出自日本、中國、印度宗教的七位神靈, 包括大黒天、恵比壽、四大天王之一的毗沙門天、女神弁才天、福祿壽、壽老人、彌勒佛的化身布袋和尚。也有說法認為, 福祿壽就是壽老人, 故另行加入女神吉祥天。

<日本語仮訳>

温泉津・沖泊道沿いの西田

現在は美しい田んぼに囲まれた静かな集落である西田は、かつては石見銀山と温泉津港および沖泊港を結ぶ街道上の宿場町として、重要な役割を担っていました。銀がこの街道を通過して海岸まで運ばれたのは、16世紀後半の40年間のみでしたが、1800年代後半まで、この街道は鉱山を行き来する主要な物流経路となっていました。多くの人が行き交ったことで、西田の茶屋、宿場、酒場は繁盛し、定期的開催される市には近郊の村に住む人々が多く集まりました。

地元の人々は、七福神[※]のひとりで商売の神であるえびす様を祀った、集落の片隅にある小さな「上市恵比寿神社」で、商売繁盛を祈願しました。火災から身を守るための祈りが、仏教における慈悲の菩薩である観音様に捧げられ、他にも石を彫って作られた安全祈願の仏像が、この道に沿って置かれました。こうした信仰の場は現在も残っており、収穫した稲を天日で乾燥させる昔ながらの「ヨズクハデ」という伝統も同様に受け継がれています。西田ならではのこの風習は、地元の方言で「フクロウ」を意味する「ヨズク」という言葉にちなんで、稲を干すために使われる木杵がいっぱいになるとこの夜行性の鳥に似ていることから名付けられました。なお、西田のヨズクハデ製作技術は「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」に指定されています。

※七福神：日本、中国、インドの様々な神様から成り、大黒天、恵比寿、四天王の毘沙門天、女神の弁財天、福祿寿、寿老人と弥勒菩薩の化身である布袋の総称。また、寿老人は福祿寿の同体異名として、代りに女神の吉祥天を入れることもある。

【タイトル】 温泉津・沖泊道

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

温泉津・沖泊道

这条蜿蜒曲折的道路始于石见银山，一路穿越高山与密林，通往温泉津港、冲泊港这两处日本海港口。道路初建于16世纪后半叶，当时毛利家族已经取得了银矿的控制权。很快，温泉津・冲泊道便成为了出入石见银山的主干道，各种物资由港口经此路源源不断地送入矿山周边的山村。与此同时，在矿山开采并提炼出的白银被装上简单的推车或牛车，从银矿运往港口。

温泉津・冲泊道最初只是一条土路，进入江户时代(1603-1867)后，才有部分路段铺上了石料，使通行更为方便。为了铺路，当年人们就近开采石料，如今还能看到道路沿线的采石场。尽管往海港运输白银只从16世纪60年代持续到了17世纪的最初几年，前后也就40来年，但它作为矿山物资补给的主干道，一直被使用到了19世纪晚期。如今，来访者可以徒步走完从大森到温泉津港、冲泊港的全程14公里的古道，只是部分路段在大雨后会变得很难通行，需要注意。

<繁体字>

溫泉津・沖泊道

這條蜿蜒曲折的道路始於石見銀山，一路穿越高山與密林，通往溫泉津港、沖泊港這兩處日本海港口。道路初建於16世紀後半葉，當時銀礦在毛利家控制之下。很快，溫泉津・沖泊道便成為了出入石見銀山的主幹道，各種物資由港口經此路送入礦山周邊的山村。與此同時，在礦山開採並提煉出的白銀被裝上簡單的推車或牛車，從銀礦運往港口。

溫泉津・沖泊道最初只是一條土路，進入江戶時代（1603-1867）後，部分路段鋪上石料，使通行更為便利。當年鋪路所用之石料，係就近開採，如今還能看到道路沿線的採石場。從1560年代初到1600年代的最初幾年，往海港運輸白銀只持續了大約40年，然而，這條道路直到19世紀晚期都是礦山物資補給的主幹道。如今，遊客可以徒步走完從大森到溫泉津港、沖泊港的全程14公里的古道。部分路段在大雨後會窒礙難行，需要注意。

<日本語仮訳>

温泉津・沖泊道

石見銀山と温泉津港および沖泊港を結ぶ曲がりくねった道は、山々や鬱蒼とした森を通過して日本海へと続きます。16 世紀後半に毛利氏が銀鉱山の支配権を手中に収めた後に整備されたこの道は、まもなく石見銀山の主要な街道となりました。あらゆる種類の物資が港から鉱山周辺の山間の集落に運ばれる一方で、鉱山で採掘・精錬された銀は、簡易な荷車に載せられ、あるいは牛に引かれて港に運ばれました。

温泉津・沖泊道は当初は土の道でしたが、江戸時代（1603-1867）にその一部に石畳が敷かれ、通行がしやすくなりました。その目的のために使われた採石場が、現在でもこの道沿いに残っています。銀がこの道を通って海岸まで運ばれたのは、1560 年代初めから 1600 年代の最初の数年までとわずく 40 年間でしたが、1800 年代後半まで鉱山への主たる物流経路であり続けました。現在も大森から温泉津および沖泊まで、全長 14 キロの道を歩くことができますが、一部区間は大雨の後には通行が困難になることがありますので、ご注意ください。

【タイトル】 鞆ヶ浦道（山吹城登城口）

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

鞆之浦道（山吹城登城口）

鞆之浦道（鞆，音同“丙”）全长 7.5 公里，连接石见银山与鞆之浦港。道路的起点位于一片草木繁茂的山坡上，距离最近的建筑也有些距离，因此如今很难找到。然而，在 16 世纪下半叶时，这里曾是整个银山地区的核心。当时行政机构就坐落在这个名为“山内”的矿村中心，官员们驻扎在此监管矿山，附近坐落着矿工住宅、商店和几座配备公共墓地的寺庙。最先取得银山掌控权的是大内家族，他们修建鞆之浦道，在村外的高台上建起了山吹城。当时，由武将率领的各地方家族时而联盟，时而敌对，形势瞬息万变，这座山城要塞无疑是起到了保护矿山和道路的作用。

1562 年，大内家族失势，银山的控制权最终落在了毛利家族手中。但此后的 40 年间，山吹城和山内矿村依然是这个矿山社区的中心。1600 年，德川家族接掌石见银山。3 年后，全日本归属德川旗下，统治日本至 1867 年的德川幕府就此建立。新的幕府政权舍弃了山内村落，选择在山脚下的大森地区建立“代官所”（幕府在地方的代表处），大森町随之发展起来。矿山出产的白银也不再送往海岸码头，而是经陆路运到尾道，然后再转运至大坂（今大阪）和江户（今东京）。

如今，此处可以远眺日本海的山吹城遗址仅余石基，隐身于大自然中，但鞆之浦道依然可以通行。走在这条道上，不禁令人遥想 400 多年前人们拖着满载的矿石穿行山林的艰辛情景。

<繁体字>

鞆之浦道（山吹城登城口）

鞆之浦道（鞆，音同「丙」）全長 7.5 公里，連接石見銀山與鞆之浦港。這條道路的起點位於一座草木繁茂的山坡上，距離最近的建築仍有一點距離，因此如今這個起點確切的位置很難找到。然而，在 16 世紀下半葉時，這裡曾是整個銀山地區的核心。行政機構就位於名為「山內」的礦村中心，官員們駐紮在此監管礦山，附近坐落著礦工住宅、商店和幾座設有公共墓地的寺廟。大內家在最先取得銀山掌控權後，修建了鞆之浦道，在村外的高台上建起了山吹城。那一時期，由武將率領的各地方家族時而聯盟，時而敵對，形勢瞬息萬變，這座山頂要塞無疑起到了保護礦山和道路的作用。

1562 年，大内家失勢，銀山的控制權落入毛利家手中。但毛利家統治的 40 年間，山吹城和山内礦村依然是這個礦山社區的中心。1600 年，德川家接掌石見銀山。3 年後，全日本納入德川麾下，開啟了統治日本至 1867 年的德川幕府時期。新的幕府政權捨棄了山内村落，選擇在山腳下的大森地區建立「代官所」——幕府在地方的代表處，大森町隨之發展起來。礦山出產的白銀也不再送往海岸碼頭，而是經陸路送往尾道，然後轉運至大坂（今大阪）和江戶（今東京）。

如今，這處可以遠眺日本海的山吹城遺址僅存石基，隱身於大自然中，但鞆ヶ浦道依然可以通行。走在這條道上，不禁令人遙想 400 多年前人們拖著滿載的礦石穿行山林的艱辛情景。

<日本語仮訳>

鞆ヶ浦道（山吹城登城口）

石見銀山と鞆ヶ浦港を結ぶこの 7.5 キロの鞆ヶ浦道の始点は、最も近い建物からいくらか離れた緑が生い茂る丘の中腹にあるため、現在では見つけるのが難しくなっています。しかし 16 世紀後半、この場所は銀山全体の中心地でした。山内集落として知られるこの場所は、鉱山の監督を行う役人が拠点とする管理施設が中心にありました。その近隣には坑夫の住居、商店、墓地のある寺院が建ち並んでいました。この時代の銀山は、初めは大内氏によって支配され、この大内氏が鞆ヶ浦道を整備し、集落のすぐ外側の高地に山吹城を築きました。この丘の上に建つ要塞は、地方の武将が率いる一族の間で絶えず同盟・敵対関係が変化していた時代において、鉱山および鞆ヶ浦道を守る役割を果たしていました。

大内氏は、1562 年に毛利氏の台頭によってこの城、さらに最終的には銀山自体の支配権を失いますが、山吹城と山内集落はその後 40 年間にわたって、鉱山社会の中心的地位を維持しました。しかし、1600 年に石見銀山が徳川氏の手落ちると、その 3 年後には同氏の旗印のもと日本全土の統一が進み、1867 年まで日本を統治することとなる徳川幕府が形成されました。新政府は山内を放棄し、支配の中心地を山の麓にある大森地区に移しました。その後、大森町はこの「代官所」（地方における幕府の出先機関）を中心に発展し、銀の輸送は海を離れ、代わりに陸路で尾道まで運び、そこから大阪や江戶（現在の東京）へと運ばれるようになりました。

現在は、石造りの基礎部分のみが残り、日本海をはるかに見渡すことができる山吹城跡は、自然に覆い尽くされています。しかし、鞆ヶ浦道は今でも歩くことができ、400 年以上前に森の中を歩いて重い鉱石を運ぶのに要した労力の甚大さに思いを馳せることができます。

【タイトル】 鞆ヶ浦港

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**鞆之浦港**

相传，石见银山的银矿是一位名叫神屋寿贞的商人在 1527 年发现的。当时，他正沿着附近的海岸线航行，看见一座山峰在阳光下闪闪发光。神屋寿贞主要在南部城市博多（今福岡）做生意，他将这一发现报告给了当地领主大内家族，大内家族迅速控制了这座“财富之山”。为了将石见银山开采出的银矿石运送到博多，再转运到朝鲜半岛提炼，大内家族在最近且最合适的鞆之浦（鞆，音同“丙”）海湾内建造了一个港口，将日本海汹涌的恶浪和刺骨的北风阻挡在外。同时为了运输沉重的矿石，还在银矿（银山栅内）与港口之间修筑了一条长 7.5 公里的鞆之浦道，并在沿途丘陵地带架设了土桥。鞆之浦道前后共使用了大约 30 年。

1562 年，大内家族失势，石见银山落到敌对的毛利家族之手，鞆之浦港被另一处港口取代，鞆之浦道也随之废弃。本地居民再度回归捕鱼和农耕生活，至今依然有许多人以此为生。现在，曾见证鞆之浦港辉煌的只剩下海岸边突出的岩体，它们由质地偏软的岩石切削而成，供当年出入港口运送银矿石的大内家族船只系舟泊岸。

<繁体字>**鞆之浦港**

1527 年，一位來自南部城市博多（今福岡）、名叫神屋壽貞的商人發現了石見銀山的銀礦。根據傳說，當時他正航行在附近的海岸線，看見一座山峰在陽光下閃閃發光。神屋壽貞隨即將這一發現向當地領主大內家報告，大內家於是迅速控制了這座「財富之山」。為了將石見銀山開採出的銀礦石運送到博多，再轉運到朝鮮半島提煉，大內家在最近且最合適的鞆之浦（鞆，音同「丙」）海灣內建造港口，將日本海洶湧的惡浪和刺骨的北風阻擋在外。同時為了運輸沉重的礦石，還在銀礦（銀山柵內）與港口之間修築了一條長 7.5 公里的鞆之浦道，並在沿途丘陵地帶架設了土橋。鞆之浦道前後共使用了大約 30 年。

1562 年，大內家失勢，石見銀山的經營權落入敵對的毛利家之手，鞆之浦港被另一處港口取代，鞆之浦道也隨之廢棄。本地居民再度回歸捕魚和農耕生活，至今依然有許多人以此為生。時至今日，曾見證鞆之浦港輝煌的只剩下海岸邊突出的岩體，它們由質地偏軟的岩石切削而成，供當年出入港口運送銀礦石的大內家船隻繫舟泊岸。

<日本語仮訳>

鞆ヶ浦港

石見銀山の銀鉱は、1527年に商人の神屋寿貞が付近の沿岸を航行中に陽の光に輝く山の頂に気付き、発見したと伝えられます。博多南部の街（現在の福岡）に本拠を構えていた神屋は、この地を支配していた大内氏にその事実を報告しました。大内氏はすぐさま、この「富の山」を支配下に収めました。石見銀山で採掘された銀鉱石を博多へ運び、さらに朝鮮半島に輸送して精製を行うために、最も近く、適した入り江である鞆ヶ浦に、日本海の荒波や厳しい北風から守る港を建設しました。大内氏は、石見銀山（銀山柵内）からこの港までの間に7.5キロメートルの道を整備し、丘陵地帯を越える土橋を建設し、重い鉱石の運搬に適した道をつくりました。この道が利用されたのは30年ほどの間でした。

1562年、大内氏は敵対する毛利氏によって石見銀山の利権を失い、鞆ヶ浦港も他の港に取って代われ、道も使われなくなりました。現地の住民は、漁業や農業に戻り、今でもこの地では多くの人々がこれらの仕事を生業としています。鞆ヶ浦の最盛期を偲ばせる存在として、海岸沿いに突き出た岩石層があります。これらは柔らかい石を削って作られたもので、かつてこの港から銀鉱石を運んでいた大内氏の船の係留用に利用されていました。

【タイトル】 沖泊港

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**沖泊港**

在石見銀山的歷史上，沖泊港是第二個用於運送白銀的碼頭，銀山產出的白銀經這裡運往日本國內及海外市場。1562年，毛利家族徹底掌控了這一地區，隨即開闢出一條從石見銀山通往日本海的新路。沖泊港就坐落在这條新路的盡頭，扮演著商港和海軍基地的雙重角色。1570年，毛利家族在港口入口處建起一座要塞，保障沖泊港的白銀運輸和連接不遠處溫泉津港的物資運送線路的安全。於是，港口附近沿途出現了一座獨特的長方形村莊。

17世紀早期，石見銀山收歸江戶（今東京）新幕府所有，產出的白銀不再送往出海港口，而是經陸路被送到位於瀨戶內海的尾道，然後轉運至大坂（今大阪）和江戶。沖泊港成為一處恬靜的小漁村，但16世紀的規劃布局依然分毫未變。村內的神社已於近年重建，繼續供人們祈禱海上平安。來到這裡，可以沿著港口岸邊漫步，眺望曾經防衛森嚴的島嶼，看一看至今仍在的60多個突起的岩體——它們使用質地柔軟的岩石切削而成，供當年運銀船停靠時繫舟泊岸。

<繁体字>**沖泊港**

沖泊港是石見銀山的開採歷史上第二個用於運送白銀的碼頭，銀山產出的白銀由此運往日本國內及海外市場。1562年，毛利家取代大內家掌控這一地區後，開闢出了一條從石見銀山通往日本海的新路。沖泊港就位於這條新路的盡頭，扮演著商港和海軍基地的雙重角色。1570年，毛利家在港口入口處建起要塞，保障沖泊港的白銀運輸和連接溫泉津港的物資運送線路的安全。於是，港口附近沿途出現了一座獨特的長方形村莊。

17世紀早期，石見銀山受江戶（今東京）新幕府直接管轄，產出的白銀不再送往出海港口，而是經陸路被送到位於瀨戶內海的尾道，然後轉運至大坂（今大阪）和江戶。沖泊港成為一處恬靜的小漁村，但16世紀的規劃布局依然分毫未變。村內的神社已於近年重建，繼續保佑著往來海上平安。遊客來到這裡，可以沿著港口岸邊漫步，眺望曾經防衛森嚴的島嶼，看一看至今仍在的60多個突起的岩體——這些岩體使用質地柔軟的岩石切削而成，供當年運銀船停靠時繫舟泊岸。

<日本語仮訳>

沖泊港

石見銀山の歴史において沖泊は、銀山から国内外の市場へと銀を出荷するために使われた第二の港でした。1562年に毛利氏がこの地を完全に支配すると、毛利氏は石見銀山から日本海へと新たな道を開きました。この道の終着点であった沖泊は、商業港と水軍基地という2つの機能を果たしました。1570年に港の入口に毛利氏が築いた砦により、沖泊からの銀の輸送と近くの温泉津港までの供給経路の両方が守られ、港近くの道に沿って特徴的な長方形の集落ができました。

17世紀初頭に石見銀山が江戸（現在の東京）を拠点とする新たな幕府の支配下に入ると、銀の流れは海岸から離れ、代わりに陸路で瀬戸内海の尾道へ、そこから大阪へ、さらに江戸へと運ばれるようになりました。沖泊はひっそりと漁村へと姿を変えましたが、16世紀につくられたこの村の区画はそのまま残されており、人々が海上の安全を祈願した神社が近年になって再建されました。沖泊港の端まで歩くと、かつては砦であった島々を見渡すことができます。また、柔らかい石を削って作られた、銀の輸送船の係留装置として用いられていた60個余りの突き出た岩石層も見られます。

【タイトル】 国選定・大森銀山重要伝統的建造物群保存地区

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

国家选定・大森银山重要传统建筑群保护区

自 17 世纪早期开始，大森町便成为了石见银山的行政和商业中心。1603 年，德川家族已消灭了绝大多数对手，创建了后来统治日本直至 1867 年的幕府政权。德川幕府在山脚下建立“代官所”（幕府在地方的代表处），指派“代官”（地方最高行政长官）掌管本地事务。商人和武士纷至沓来，为代官所提供商品和服务。就这样，大森町渐渐发展起来。市镇的发展带来了更多的工作机会，町内人口也不断增长。

丰富多样的街市景观

大森町面积不大却发展迅猛，最终形成了独特的混合型市镇风貌。武士、商人与平民的住宅交错相邻，神社和寺庙杂处其间，这在封建时代的日本实属罕见。那时候，不同社会阶层之间泾渭分明，都生活在各自不同的社区内。虽说町内大部分建筑都在 1800 年毁于一场大火，但这种错落混杂的市镇格局作为大森的鲜明特色依旧被保留了下来。漫步城中会看到商铺和长屋（长条形集合住宅）大多临街而建，但昔日武士宅邸的屋前都带有庭园。在江户时代(1603-1867)，庭园是社会地位的象征，当然，它们也有实际的用途，有些武士会在园中搭建小屋用于出租，从而赚取一些外快。

赤瓦与梅子树

大森町的另一大特色是房舍多用赤瓦。这种瓦片被称为“石州瓦”（“石州”是石见地区的别称），使用本地富含铁质的黏土烧制而成，广泛应用于岛根县所在的整个“中国地方”（日本本州西部地区名，包括鸟取、岛根、冈山、广岛、山口五县）。然而，登高俯瞰就会发现，许多大家宅的屋顶铺的却是灰瓦，它们多半是传统的武士宅邸或行政机构。当时，灰瓦被视为权威的象征，深受武士阶层青睐。梅子树也是大森町引人注目的景观，其中许多树都是在矿业鼎盛时期种下的。矿工们相信，渍梅子中的柠檬酸可以帮助他们在尘土飞扬的矿坑通道中保持清醒，因此，进入矿坑时，他们会把这种果子粘在面罩里面。

造访今日大森

今日的大森町已经被国家选定为重要传统建筑群保护区，不再允许新的开发。不过，部分老建筑依然进行了独具巧思的创新改造。群言堂原本是一座江户时代的农舍，如今集

商店、咖啡馆和画廊于一身，成为了老建筑焕新颜的典范。在这里，来访者可以购买服饰和本地食品，欣赏艺术品，或是坐下来，一边观赏庭园一边享用午餐或小吃。

大森是一个历史悠久的小镇，只要尊重本地居民的隐私和生活方式，非常欢迎游客前来。温馨提醒，如未经允许，请勿随意进入民宅或拍摄居民照片。

<繁体字>

國家選定・大森銀山重要傳統建築群保護區

自 17 世紀早期開始，大森町便成為了石見銀山的行政和商業中心。1603 年，德川家康一統天下，創建了後來統治日本直至 1867 年的幕府政權。德川幕府在山腳下建立「代官所」（幕府在地方的代表處），指派「代官」（地方最高行政長官）掌管本地事務。商人和武士紛至沓來，為代官所提供商品和服務。代官所所在地大森町便逐漸發展成熱鬧的市鎮，市鎮的發展也帶來了更多的工作機會，町內人口隨之不斷增長。

豐富多樣的街市景觀

大森町面積不大卻蓬勃發展，最終形成了獨特的混合型市鎮風貌——武士、商人與平民的住宅交錯相鄰，神社和寺廟雜處其間。要知道封建時期的日本，不同社會階層之間涇渭分明，都生活在各自不同的社區內，因此大森町的混合型市鎮風貌在當時的日本實屬罕見。雖說町內大部分建築都在 1800 年毀於一場大火，但這種錯落混雜的市鎮格局作為大森的鮮明特色依舊被保留了下來。漫步城中會看到許多臨街而建的商鋪和長屋（長條形集合住宅），以及屋前有庭園的武士宅邸。江戶時代（1603-1867）的庭園不僅是社會地位的象徵，也有實際的用途，有些武士會在園中搭建小屋用於出租，賺取額外的收入。

赤瓦與梅子樹

使用赤瓦的房舍是大森町的另一大特色。這種瓦片被稱為「石州瓦」（「石州」是石見地區的別稱），使用本地富含鐵質的黏土燒製而成，大量出現在島根縣所在的整個「中國地方」（日本本州西部地區名，包括鳥取、島根、岡山、廣島、山口五縣）。然而，若登高臨下就會發現，許多如傳統的武士宅邸或行政機構等大建築，鋪的卻是灰瓦，這是由於當時灰瓦被視為權威的象徵，深受武士階層青睞。梅子樹也是大森町另一引人注目的景觀，其中許多樹都栽種於礦業鼎盛時期。礦工們相信，漬梅子中的檸檬酸可以幫助他們在塵土飛揚的礦坑通道中保持清醒，因此，進入礦坑時，他們會把這種果子粘在面罩裡面。

造訪今日大森

今日的大森町已經被國家選定為重要傳統建築群保護區，不再允許新的開發，不過，部分老建築依然進行了獨具巧思的創新改造。群言堂原本是一座江戶時代的農舍，如今集商店、咖啡館和畫廊於一身，成為了老屋翻新的典範。在這裡，遊客可以購買服飾和本地食品，欣賞藝術品，或是坐下來，一邊觀賞庭園，一邊享用午餐或小吃。

大森是一個歷史悠久的小鎮，只要尊重本地居民的隱私和生活方式，居民非常歡迎遊客前來旅遊。溫馨提醒，未經允許，請勿隨意進入民宅或拍攝居民照片。

<日本語仮訳>

国選定・大森銀山重要伝統的建造物群保存地区

大森町は 1600 年代前半から、石見銀山の行政と商業の中心地として機能してきました。1603 年までに敵対する武将たちのほとんどを制圧し、1867 年まで日本を支配することとなる幕府を開いた徳川氏が、山の麓に現地での実務を担当する「代官」（地方行政最高責任者）のための「代官所」（地方における幕府の出先機関）を設立した頃のことです。代官所の商品や奉仕に対する需要を満たすために商人や侍が移住してきたことで、周りに町が誕生しました。これがさらなる雇用の機会を生み、町の人口は増え続けました。

多様な街の景観

大森町は比較的狭いエリアで急激に発達した結果、侍や商人、庶民の家、そして寺社が密集して混在する、特異な都市構造となりました。これは、社会階級ごとに隣接する別のエリアに住むのが常だった封建時代の日本には珍しいことでした。町の大部分は 1800 年の大火で焼失してしまいましたが、このパッチワークのような土地の分布は、他とは違う大森の特徴として残っています。町の中を歩けば、ほとんどの店や長屋（長方形の集合住宅）が大通りに面しているのに対し、かつての武家屋敷には家屋と道路の間に庭があるのを目にするでしょう。江戸時代（1603-1867）、庭は地位の象徴でしたが、実用的な目的でも使われていました。中には、庭の中に小さな建物を建てて貸し出し、収入の足しにしていた侍もいました。

赤瓦と梅の木

大森は町の中の多くの屋根で使われている赤瓦でも有名です。この地域で見つかった鉄分の豊富な粘土で作られる石州瓦（石州は石見地域の別名）は、鳥根県のある中国地方（本州の西部を占める地方で、鳥取、鳥根、岡山、広島、山口の 5 県を含む）のいたる所で一般的に使われています。高い場所から町を見渡せば、比較的大きな建物の多くの屋根が灰色なのに気づくでしょう。そのような建物はたいてい、伝統的な武家屋敷か行政施設です。灰色の瓦は権威の象徴として、武士階級に好まれていました。町の景観のもう一つの特徴は、梅の木です。その多くは、銀山にまだ活気があったころに植えられました。坑夫たちは梅干しの中のクエン酸が、ほこりっぽい坑道の中で意識をしっかりと保つ効果があると信じていました。そのため彼らは坑道に入る時、マスクの中に梅を貼っていたのです。

現代の大森を訪れる

大森町は国に重要伝統的建造物群保存地区に選定されたため、開発から守られています。古い建物の中には革新的な形で使われているものもあります。その良い例が、江戸時代の農家を改装した売店・カフェ・ギャラリーの群言堂です。ここでは衣類や地元の食べ物を購入したり、アート作品を見たり、座って庭を眺めながらランチや軽食を食べることができます。

大森は住民のプライバシーと生活を尊重する限り、喜んで訪問者を迎えてくれる歴史ある町です。
家の敷地内に入ったり、許可なく住民の写真を撮ったりするのはご遠慮ください。

【タイトル】大森：熊谷家住宅

【想定媒体】WEB

<簡体字>

大森：熊谷家族住宅

数世纪以来，熊谷家族始终是大森地区最富裕、最有影响力的家族。17 世纪初，银山及周边土地被收归到统治了日本的德川幕府(1603-1867)辖下，熊谷家族也是从这时开始扩张家族势力。他们最初以从事矿业而积累了财富，后来渐渐将业务拓展到为“代官所”（幕府在地方的代表处）提供财务和契约服务。最晚从 1718 年开始，熊谷家族成员便一直担当“掛屋”的官职。掛屋主要负责称量白银重量、核定纯度，向无法提供达标产品的矿主征收罚款。这是幕府政权税收体系中非常重要的一部分，熊谷家族也因此得到了丰厚的报酬。

此外，熊谷家族的家主也是本地长老会“町年寄”的成员。长老会负责监管大森地区，充当本地居民与“代官”（地方最高行政长官）之间的联系人。町年寄会议常常在熊谷家族住宅举行。1800 年，这栋住宅毁于一场几乎烧毁整个大森町的火灾，但仅时隔一年就重建了一座两层大宅。到 20 世纪末期，这里一直有人居住。之后，整座建筑经历了一次大整修，恢复了其 1868 年最后一座仓库建成时的旧貌。如今，熊谷家族住宅已被指定为国家重要文化财产，为来访者呈现出石见银山鼎盛时期巨商富贾家族的生活面貌。包括招待贵宾的豪华房间在内，住宅的大部分区域开放参观。此外，住宅内还举办体验往昔生活、欣赏四季美景的主题活动。

<繁体字>

大森：熊谷家住宅

數世紀以來，熊谷家一直是大森地區最富裕且最有影響力的家族。17 世紀初，統治了日本的德川幕府（1603-1867）將銀山及其周邊土地收歸了轄下，熊谷家也是從這時開始擴張家族勢力。熊谷家最初從事礦業積累財富，後來漸漸將業務拓展到為「代官所」（幕府在地方的代表處）提供財務和契約服務。最晚從 1718 年開始，名為「掛屋」的官職便一直由熊谷家成員擔當。掛屋主要負責秤量白銀重量、檢測純度，向銀礦低於標準的礦主徵收罰款。由於掛屋在幕府政權稅收體系中非常重要，熊谷家也因此得到了豐厚的報酬。

此外，熊谷家的家主也是本地長老會「町年寄」的成員。長老會負責監管大森地區，充當本地居民與「代官」（地方最高行政長官）之間的中間人。町年寄會議常常在熊谷家住宅舉行。1800 年，這棟住宅毀於一場幾乎燒毀整個大森町的災火，但僅時隔一年就重建了一座兩層大宅。這裡到 20 世紀末期一直用作住宅。後來，整座建築歷經了大整修，恢復

了其 1868 年最後一座倉庫建成時的舊貌。如今，熊谷家住宅已被指定為國家重要文化財產，遊客可以在此一窺石見銀山鼎盛時期鉅賈富賈家族的生活面貌。包括招待貴賓的豪華房間在內，住宅的大部分區域開放參觀。此外，住宅內還舉辦體驗往昔生活、欣賞四季美景的主題活動。

<日本語仮訳>

大森：熊谷家住宅

熊谷家は何世紀もの間、大森でとりわけ裕福で影響力のある一族でした。熊谷家は、1867 年まで日本を支配した徳川幕府により銀山とその周辺の土地が没収された後、1600 年代初頭から権力を拡大し始めました。熊谷家は鉱山業で財を成しましたが、後には「代官所」（地方における幕府の出先機関）の財務や契約業務など幅広く事業を拡大しました。熊谷家は、少なくとも 1718 年から「掛屋」と呼ばれており、銀の重量を量り、純度を測定し、粗悪品を納めた鉱夫から集金を行う役目を負っていました。この役目は幕府の徴税活動の重要な部分であったため、熊谷家はその働きに対しかなりの報酬を得ていました。

また、熊谷家の当主は大森地区を管轄し、「代官」（地方行政最高責任者）と住民との仲介役を担う町年寄を務めていました。この町年寄がしばしば寄合を開いていた熊谷家住宅は、大森町の大部分が火事で焼失した翌年の 1801 年に再建された、二階建ての家屋でした。20 世紀末まで住宅として使用されたのち、最後の蔵が完成した 1868 年当時の外観を復元するために改修された熊谷家住宅は、国の重要文化財に指定されており、石見銀山が栄えた時代の富裕な商家の暮らしぶりを今に伝えています。重要な来客を迎えるための華やかな部屋を含め、ほとんどの部屋が一般に開放されています。熊谷家住宅では昔の暮らし体験や四季を楽しむ催し事も開催されています。

【タイトル】大森：羅漢寺と五百羅漢

【想定媒体】WEB

<簡体字>

大森：罗汉寺与五百罗汉

罗汉寺为纪念石见银山矿难丧生者而建，因为人们相信向罗汉（梵语称“阿罗汉”）祈祷，能够帮助逝者的家人获得安宁。在佛教中，阿罗汉指的是得证涅槃或已开悟的佛教徒。

寺院于1741年动工修建，资助者田安宗武(1716-1771)是幕府将军德川吉宗(1684-1751)的次子，当时代表幕府出任“代官”（地方最高行政长官）。罗汉寺前后耗时25年才最终完工，耗资甚巨，但成果辉煌。在依山开凿出的3个洞窟里，安放著总计500多尊罗汉石像。因每尊的姿态、表情都各不相同，本地人会来到这里寻找与已故家人相似的雕像。其实，最早创作这五百罗汉像的石匠在此前并未见过真正的罗汉像，据说他们为此专程前往江户（今东京）的增上寺，请出了来自中国的秘宝罗汉图参拜观摩，这才回来依样完成雕刻。石像背后刻着捐助者的名字，其中有本地信徒，也有田安家族成员，甚至还有远在江户的幕府将军府女眷。

穿过一座与寺院同样古老的拱形石桥，可进入其中的两个洞窟，每一个洞窟里面都有250尊罗汉像。罗汉寺素以“五百罗汉”著称，不过，这向来都不是确切数字。过去，实际的罗汉像数量远多于此，只是数百年来岁月流逝，多有损毁，最终留下了眼前的这500尊罗汉。

<繁体字>

大森：羅漢寺與五百羅漢

羅漢寺是為紀念石見銀山礦難喪生者而建，因為人們相信向羅漢（梵語稱「阿羅漢」）祈禱能夠幫助逝者的家人獲得安寧。在佛教中，阿羅漢指的是得證涅槃或已開悟的佛教徒。

在田安宗武（1716-1771）的贊助下，寺院於1741年動工修建。田安宗武是幕府將軍德川吉宗（1684-1751）的次子，當時擔任幕府指派的「代官」（地方最高行政長官）一職。羅漢寺前後耗時25年完工，耗資甚巨，但成果輝煌。依山開鑿出的3個洞窟安放著總計500多尊羅漢石像，尊尊姿態不同、表情各異，因此本地人會來此尋找與已故家人相似的雕像。其實，最早創作這五百羅漢像的石匠在此前並未見過真正的羅漢像，據說他們為此專程前往江戶（今東京）的增上寺，請出來自中國的秘寶羅漢圖參拜觀摩，這才回來依樣完成雕刻。石像背後刻著贊助者的名字，其中有本地信徒，也有田安家成員，甚至還有遠在江戶的幕府將軍府女眷。

穿過一座與寺院同様古老的拱形石橋，可進入其中的兩個洞窟，每一個洞窟裡面都有 250 尊羅漢像。羅漢寺素以「五百羅漢」著稱，不過，這向來都不是確切數字。過去，實際的羅漢像數量遠多於此，只是數百年來歲月流逝，難免多有損毀，最終留下了眼前這 500 尊羅漢。

<日本語仮訳>

大森：羅漢寺と五百羅漢

石見銀山の鉱山で亡くなった人々を祀る羅漢寺は、羅漢に祈れば亡くなった鉱夫の家族に平安がもたらされるという信仰に基づいて建てられました。羅漢（梵語：アルハット）とは、涅槃に達した、または悟りに達した仏教信者をいいます。

羅漢寺の創建は、1741 年に、将軍徳川吉宗（1684-1751）の次男で、当時石見銀山で「代官」（地方行政最高責任者）を務めた田安宗武（1716-1771）の庇護を受けて開始されました。羅漢寺の完成には 25 年の歳月と莫大な費用を要しましたが、その結果は見事なものでした。山の中腹に 3 つの洞窟が掘られ、五百体以上の羅漢の石像が安置されました。石像は、それぞれ姿勢や表情が異なるため、参拝者は亡くなった家族に似た石像を探し求めました。実は、初代の石工が五百羅漢を手がけるまで、未だ五百体の羅漢像を見たことはありませんでした。一説には江戸（現在の東京）の増上寺所蔵、中国伝来の秘宝羅漢図を拝んでこれを描写し、帰郷し彫刻に向かったとも言われています。石像の背面には、地元の信徒から田安一族や江戸の将軍家の女性たちに至るまで、寄進者の名前が記されました。

現在、参拝者は寺院創建時からあるアーチ形の石橋を渡り、それぞれ 250 体ずつ像が安置されている 2 つの洞窟に入ることができます。羅漢寺は「五百羅漢」とも呼ばれていますが、これは正確な数字を意味するものではありません。実際の像の数は、かつてはかなり多かったものの、何世紀もの間に多くの被害を受け、現在残っている羅漢は 500 体です。

【タイトル】 大森：河島家住宅

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

大森：河島家族住宅

河島家族は江戸時代(1603-1867)大森地区最興盛の武士家族之一，曾有多名家族成員出任高階官員，負責監管石見銀山の礦工。从 1610 年开始，河島家族就受雇于幕府出任“代官”（地方最高行政长官），直至 1867 年幕府时代结束。1800 年，一场大火几乎将大森町烧成白地，但之后河島家族立即动工兴建豪宅，足可见其影响力和财力。如今的建筑直至 1825 年才完成，期间增建了仓库和其他附属建筑。

河島家族住宅現面向公眾開放，里面陳列着美術品、餐具、廚具以及其他各類物品，展現出 200 年以前河島家族的生活圖景。站在宅邸正面，可以看到兩個出入口：左邊一個小一些，供家人使用；右邊一個較大，通往兩個榻榻米房間。房間正對一個小庭園，只有代官、其他官員和本地長老等重要貴賓到來時房間才會開放。坐在緣側（檐廊）面對庭園，可以想像當初在這裡曾有过怎样重大的会晤与交谈。

<繁体字>

大森：河島家住宅

河島家是江戸時代（1603-1867）大森地區勢力最龐大的武士家族之一，曾有多名家族成員擔任高階官員，負責監管石見銀山の礦工。河島家自 1610 年開始，受雇於幕府出任「代官」（地方最高行政長官），直至 1867 年幕府時代結束。1800 年，一場大火幾乎將大森町付之一炬，也包括河島家的住宅。但火災之後河島家即刻動工重建住宅，足可見其影響力和財力。現存的建築直至 1825 年才完成，修建期間增建了倉庫和其他附屬建築。

河島家住宅對大眾開放，裡面陳列著美術品、餐具、廚具以及其他各類物品，展現出 200 年以前河島家的生活圖景。站在宅邸正面，可以看到兩個出入口：左邊較小的門供家人使用；右邊較大的門通往兩個榻榻米的房間。房間正對一個小庭園，只有代官、其他官員和本地長老等貴賓來時房間才會開放。坐在緣側（簷廊）面對庭園，遊客可以想像當初在這裡曾有過的會晤與交谈。

<日本語仮訳>

大森：河島家住宅

江戸時代（1603-1867）に大森で特に栄えた武家の一つに数えられる河島家の多くの家族は、石見銀山の鉱夫の監督を担当する上級役人でした。この地方で幕府の命を奉じた「代官」（地方行政最高責任者）に雇われた河島家は、1610年から1867年の幕末までこの地位に就いていました。1800年に大森の大部分が火事で焼失した直後に建てられた広大な邸宅は、河島家の影響力と富を示しています。1825年に現在の外観になるまでの間に、蔵や別棟が増築されました。

現在一般に公開されているこの邸宅は、美術品、食器、調理器具その他の品々が飾られており、およそ2世紀前のこの一家の暮らしぶりを伝えています。邸宅の正面に立つと、入口が二つあることがわかります。左側の小さな入口は住人用で、右側の大きな扉は2つの畳の部屋につながっています。部屋は小さな庭に面しており、代官やその他の役人、地元の年寄など、重要な来客を迎える際にしか開かれることはありませんでした。庭に面した縁側に座っていると、かつてここで交わされた厳粛な会話を想像できるでしょう。

【タイトル】 国選定・温泉津重要伝統的建造物群保存地区

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

国家选定・温泉津重要传统建筑群保护区

温泉津最初只是一个不起眼的小渔村，当地温泉也籍籍无名。1561年，毛利家族在狭长河谷的入口处修建了港口和海岸要塞，温泉津也逐步发展成为石见银山的重要物资供应基地。小镇两侧岩石嶙峋的陡峭山壁形成了天然的易守难攻之势，随着食物、燃料、建材、酒类、烟草和其他基础物资源源不断地自港口送入银山矿区，温泉津渐渐繁荣起来。因毛利家族与中国、朝鲜半岛及其他遥远海外地区有商贸往来，更为小镇带来了几分国际化的气息。

进入江户时代(1603-1867)后，温泉津成为北前船的停靠港，愈发繁荣兴盛。北前船沿着日本海海岸线航行，往返于日本北部的北陆地区和濑户内海边的商业城市大坂（今大阪）。北前船航线于1672年正式开通，后来进一步向北延伸到北海道。本地好几个家族纷纷投入到航运贸易中，从而成为了富豪。包括陆路、水路在内的现代温泉津面貌，均可追溯至这一繁荣发展时期。町内现存最古老的建筑是内藤家族住宅，建于1747年那场焚毁全镇的大火之后。内藤家族大名鼎鼎，其家主在1570年被毛利家族任命为温泉津“奉行”（行政官员），负责保护附近冲泊港的白银航运安全。数世纪中，内藤家族一直是本地的名门望族，他们主要经营航运、酿酒、邮政及其他产业。

温泉津现存建筑大多建于大正时代(1912-1926)，虽然没有内藤家族住宅的年代那么久远，但同样散发着古色古香的历史气息。尤其在夜幕降临之后，传统的提灯照亮狭窄的小巷，为整个小镇都笼上了一层古韵。如今的温泉津早已声名远扬，这里还是日本首个被选定为国家重要传统建筑群保护区的温泉街。町内至今仍有两处温泉浴场开放经营，可供来访者尽享泡汤之乐，焕发活力。

<繁体字>

國家選定・溫泉津重要傳統建築群保護區

溫泉津最初僅是小漁村，當地溫泉籍籍無名。1561年，毛利家在狹長河谷的入口處修建了港口和海岸要塞，溫泉津也逐步發展為石見銀山重要的物資供應基地。小鎮兩側岩石嶙峋的陡峭山壁形成了天然的守備，使該地具備易守難攻的優勢。隨著食物、燃料、建材、酒類、煙草和其他基礎物資源源不斷地自港口送入銀山礦區，溫泉津漸漸繁榮起來。因毛

利家與中國、朝鮮半島及其他遙遠海外地區有商貿往來，更為小鎮帶來了幾分國際化的氣息。

進入江戶時代（1603-1867）後，溫泉津成為北前船航線的停靠港，愈發繁榮興盛。北前船沿日本海海岸航行，往返於日本北部的北陸地區和瀨戶內海邊的商業城市大坂（今大阪）。北前船航線於1672年正式開通，後來進一步向北延伸到北海道。本地不少家族紛紛投入航運貿易，從而成為了富豪。包括陸路、水路在內的現代溫泉津面貌，均可追溯至這一繁榮發展時期。町內現存最古老的建築是內藤家住宅，建於1747年焚毀全鎮的大火之後。內藤家大名鼎鼎，其家主在1570年被毛利家任命為溫泉津「奉行」（行政官員），負責附近沖泊港的白銀航運安全。數世紀中，內藤家一直是本地的名門望族，主要經營航運、釀酒、郵政及其他產業。

溫泉津現存建築大多建於大正時代（1912-1926），雖然沒有內藤家住宅的年代那麼久遠，但同樣散發著古色古香的歷史氣息。尤其在夜幕降臨之後，傳統的提燈照亮狹窄的小巷，為整個小鎮都籠上了一層古韻。如今的溫泉津聲名遠揚，是日本首個被選定為國家重要傳統建築群保護區的溫泉街。町內至今仍有兩處溫泉浴場繼續營業，可供遊客盡享泡湯之樂，煥發活力。

<日本語仮訳>

国選定・温泉津重要伝統的建造物群保存地区

かつては地味な漁村であり、あまり知られていない温泉街であった温泉津は、1561年に毛利氏が細長い溪谷の入り口に港と水軍の砦を築いたときから、徐々に石見銀山の重要な供給拠点になりました。町の両側の急勾配で岩だらけの斜面により、敵からの防御が容易であり、温泉津はまもなく、銀山に食料、燃料、建築資材、酒、タバコ、その他の基礎的な物資を供給する主要な港として栄えました。毛利氏は、中国、朝鮮半島その他、遠く離れた国との貿易も行ったため、町に国際的な特色もたらされました。

温泉津は、江戸時代（1603-1867）には瀨戶内海に面する商人の都大阪と北陸を結ぶ日本海沿岸の北前船航路の港として、さらなる繁栄を遂げました。1672年に正式に確立され、後に北海道へと広がった北前船航路により、地元のいくつかの氏族は海運業に参入し、大きな富を築ききっかけを得ました。現代の温泉津の区画は、道路や水路を含め、この豊かな時代にまで遡ります。温泉津に現存する最古の建物は、1747年の火災で町が焼け落ちた後に建てられた内藤家の屋敷です。この屋敷は有名な一族の邸宅であり、その当主は1570年に毛利氏により温泉津の「奉行」（政務を担当し執行する者）に任命され、近くの沖泊港から出港する銀船の守護を担いました。内藤家は、何世紀にもわたり地元の有力な存在となり、海運業、酒造業、郵便業などを営んでいました。

内藤家の屋敷ほど歴史的なものではありませんが、温泉津の他の建造物もそのほとんどがかなり古いものです。大正時代（1912-1926）に建造されたものが多く、昔ながらの提灯が狭い路地を照らす夕暮れ後にはとりわけはっきりと、町にレトロな雰囲気漂います。現代の温泉津も、温泉で有名で

す。温泉街として全国初の国の重要伝統的建造物群保存地区と選定され、現在も営業中の 2 つの温泉浴場では、元気を回復させる湯を体験できます。

【タイトル】 温泉津：西念寺

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

温泉津：西念寺

西念寺耸立于半山腰处，可以想象当年修建这座佛寺时必定耗费了无数心血努力。此处原先并不起眼，曾经坐落着一个禅宗寺庙，但于1561年废弃。同年，当时掌控石见银山及周边地区的毛利家族将这片土地赠与了一支佛教净土宗的信徒组织。在毛利家族成员的帮助下，信徒们跟随一位名叫“然休”的僧人，开山凿石，移除山体，开辟出了大片建造寺庙的土地。

修建连接温泉津和冲泊港的道路，也是这项工程的一环。冲泊港主要被毛利家族用于停靠运银船只。以前这条道路从西念寺正门前通过，当时的西念寺也是一座为需要帮助的往来行人提供庇护的避难所。这条道路至今仍可通行，只是位置被移到了正对1879年重建的寺院本堂（正殿）、终年紧闭的侧门后方。本堂背后的山坡上是一片墓地，比本堂建筑古老得多，其中最早的墓碑可以追溯至17世纪上半叶。

<繁体字>

温泉津：西念寺

西念寺聳立於半山腰處，可以想見當時必定耗費了無數人力物力修建。此處原先並不起眼，曾經坐落著一個禪宗寺廟，於1561年廢棄。同年，當時掌控石見銀山及周邊地區的毛利家將這片土地贈與了一支佛教淨土宗的信徒組織。在一位名叫「然休」的僧人帶領下，這群信徒爭取到了毛利家成員的幫助，開山鑿石，移除山體，開拓出一大片建造寺廟的土地。

這項工程也包含修建連接溫泉津和沖泊港的道路。沖泊港主要為毛利家用於運銀船隻出入。這條道路最初從西念寺正門前經過，當時的寺院也是一座避難所，為需要幫助的往來行人提供庇護。道路至今仍可通行，只是位置被移到了正對1879年重建的寺院本堂（正殿）、終年緊閉的側門後方。本堂背後的山坡上是一片墓地，年代較本堂建築古老，其中最早的墓碑可以追溯至17世紀上半葉。

<日本語仮訳>

温泉津：西念寺

山腹に唐突に姿を見せる西念寺は、建立に大変な労力を必要としたであろうことが想像できます。かつては目立つことのなかったこの場所には禅寺がありましたが、1561年までには使われなくなっていました。この年に、石見銀山やその周辺一帯を当時支配していた毛利氏が、浄土宗の信徒の一派にこの場所を寄進します。然休という僧侶を中心に、この信徒たちは、毛利氏一族の助けを借りて、岩の掘削作業に出向き、山の大きな岩塊を取り除いて、境内を十分な広さにまで拡張しました。

この計画の一環として、温泉津から、毛利氏が主に銀の輸送に用いていた沖泊港までの道を整備する作業も行われました。この道は、保護を必要とする旅人の避難所であったことも知られている西念寺のすぐ前を通っていました。現在もこの道は歩くことができますが、わずかに場所が移動しており、1879年に再建された本堂に面した寺の閉じた門の裏手にあります。本堂裏の山腹にある墓地ははるかに古く、最古の墓石は17世紀前半のものです。

【タイトル】 温泉津：西楽寺と惠珙寺

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

温泉津：西乐寺和惠珙寺

两座佛寺并肩坐落于温泉津与森林之间的一处陡峭悬崖之下。为了扩大公墓，人们在这里劈石开山，因此，西乐寺和惠珙寺（珙，音同“光”）的部分区域都建在破岩后开拓出的土地之上。供奉阿弥陀如来（梵语称“阿弥陀佛”）的西乐寺更古老，原本是一座禅宗寺庙，于 1521 年成为净土真宗圣地，现存建筑建于 1831 年。“圣地”一词在这里包含宗教和字面两层意义。西乐寺自古以来就是所谓的“无缘所”，不受法律制约，也不承担世俗责任，同时还能为需要保护的信徒提供庇护，是超然于世俗红尘之外的“神圣之地”。

惠珙寺是一座日莲宗佛寺，墓地别具特色。墙式结构外加小小的瓦屋顶，组合成独特的“庙式墓地”。这里安葬着自 17 世纪晚期以来的本地船运业者，他们当年曾沿着日本海海岸频繁往返于大坂（今大阪）和北海道之间。墓地最左侧沿崖壁排列的墓碑更为古老，有的甚至可以追溯到江户时代(1603-1867)早期。

<繁体字>

温泉津：西樂寺和惠珙寺

兩座佛寺比鄰位於溫泉津與森林之間的陡峭懸崖之下。為了擴大公墓用地，人們在此劈石開山，因此，西樂寺和惠珙寺（珙，音同「光」）的部分區域都建在破岩後開拓出的土地之上。西樂寺寺內供奉阿彌陀如來（梵語稱「阿彌陀佛」），年代較惠珙寺更久遠，原本是一座禪宗寺廟，在 1521 年改為淨土真宗聖地，現存建築建於 1831 年。「聖地」一詞包含宗教和字面兩層意義。西樂寺自古以來就是所謂的「無緣所」，意即不受法律制約，也不承擔世俗責任，同時還能夠為需要的信徒提供庇護，是超然於世俗紅塵之外的「神聖之地」。

惠珙寺則是一座日蓮宗佛寺，有別具特色的墓地。牆式結構外加小小瓦屋頂，組成獨立的「廟式墓地」。這裡安葬著自 17 世紀晚期以來的本地船運業者，他們當年曾沿著日本海海岸頻繁往返於大坂（今大阪）和北海道之間。墓地最左側沿崖壁排列的墓碑則更為古老，有的甚至可以追溯到江戶時代（1603-1867）早期。

<日本語仮訳>

温泉津：西樂寺と惠珙寺

隣接するこの 2 つの仏教寺院は、温泉津の町と森を隔てる険しい崖のふもとにあります。実際、西楽寺と恵琏寺はいずれも、墓地を拡張するために岩壁の一部を取り除いて得られた土地に建てています。阿弥陀如来（梵語でアミターバ）を本尊とする西楽寺は、恵琏寺よりも古い寺です。西楽寺は、もとは禅寺でしたが、1521 年に浄土真宗の寺（＝聖域）に改められました。現在の建物は 1831 年に建てられたものです。ここでの「聖域」という言葉には、宗教的な意味と文字通りの意味の両方があります。西楽寺は、伝統的にいわゆる「無縁所」であり、ある種の法や義務を免除され、保護を必要とする信者の聖域であったのです。

一方、恵琏寺は日蓮宗の寺であり、興味深い廟式墓地があります。小さな瓦で葺いた屋根のある壁のような構造になっているのが特徴で、17 世紀後半から大阪と北海道を結ぶ日本海沿岸の航路をさかんに行き来し、海運業で生計を立てていた地元の人々の墓が納められています。左側の断崖沿いの墓石はさらに古いもので、江戸時代（1603-1867）初期に遡るものもあります。

【タイトル】 温泉津温泉

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

温泉津的温泉

相传，早在 1300 多年前，人们便在温泉津一带发现了温泉。依照民间故事的说法，最早发现这些疗愈之泉的是一名行脚僧人，他亲眼目睹了一只受了重伤的老狸猫来到泉边，泡进热气腾腾的泉水里疗伤。据说这个故事在平安时代(794-1185)便已广为流传，甚至传到了京都。不过直到 14 世纪，温泉津才渐渐成为热门的疗养地，开始有游客慕名而来。

江户时代(1603-1867)的温泉津港欣欣向荣，人们在这里经营旅馆，为随船泊岸的水手提供食宿。1918 年，火车站投入运营，本地航运业遭受了沉重的打击。1923 年，石见银山银矿的关闭更是雪上加霜，本地经济越发萧条。尽管如此，温泉业一直支持着这座小镇。现在，温泉津是日本首个被选定为“国家重要传统建筑群保护区”的温泉街，至今还有两家温泉浴场仍在开门迎客。“元汤”是两家浴场中历史更长的一家，有两个小汤池，一个池中的泉水被冷却到 42°C，另一个则保持在堪堪可忍的 46°C~47°C。浴场外有一个水龙头，提供“可饮温泉水”。泉水味道可能需要适应一下，但据称只喝一杯的话对健康颇为有益。另一家浴场名为“药师汤”，更适合初试者，这里的屋顶露台可以俯瞰小镇全景。

<繁体字>

溫泉津的溫泉

相傳 1300 多年前，人們便在溫泉津一帶發現了溫泉。依照傳說，一名行腳僧人最早發現了這些具有療愈功效的泉水，他親眼目睹了一隻受了重傷的老狸貓來到泉邊，泡進熱氣騰騰的泉水裡療傷。這個故事據說在平安時代（794-1185）已廣為流傳，甚至傳到了京都。不過直到 14 世紀，溫泉津才漸漸成為熱門的療養地，開始有遊客慕名而來。

江戶時代（1603-1867），溫泉津港欣欣向榮，人們在這裡經營旅館，為隨船泊岸的水手提供食宿。1918 年，本地火車站開始營運，使得航運業遭受了沉重的打擊。1923 年，石見銀山銀礦的關閉更使本地的經濟雪上加霜。儘管如此，溫泉業一直是這座小鎮的重要支柱。如今，溫泉津是日本首個被選定為「國家重要傳統建築群保護區」的溫泉街，至今還有兩家溫泉浴場仍在經營。「元湯」是兩家浴場中歷史更長的一家，它有兩個小湯池，一個池中的泉水被冷卻到 42°C，另一個則保持在人體勉強能忍受的 46°C~47°C。浴場外有一個水龍頭，提供「可飲溫泉水」。初嘗的遊客可能需要適應一下溫泉水味道，不過據

稱只喝一杯的話對健康頗為有益。另一家浴場名為「藥師湯」，更適合初次嘗試泡湯的遊客，這裡的屋頂露台可以俯瞰小鎮全景。

<日本語仮訳>

温泉津温泉

温泉津の温泉は、1,300 年以上前に発見されたと言われています。言い伝えによると、この癒しの湯に最初に気付いたのは、旅をしていた僧侶で、湯気の立つ湯に浸かってひどい傷を癒やしている古狸を目にしたといいます。この話は平安時代（794-1185）には遠く京都まで伝わっていたとされていますが、温泉津の温泉に人々が頻繁に訪れるようになったのは 14 世紀に入ってからで、この時期に温泉津は療養地として有名になりました。

江戸時代（1603-1867）には、盛況な温泉津の港に船を停泊させる船員の宿泊施設として旅館が誕生しました。1918 年の鉄道駅開業により海運業が打撃を受け、1923 年に石見銀山が閉山して地域がさらに衰退してからも、温泉は温泉津の町を支え続けました。現在、温泉津は温泉街として日本初の伝統的建造物群保存地区に選定されており、2 つの温泉浴場が存続しています。元湯は、その 2 つ浴場の中でも歴史が古く、2 つの小さな浴槽が特徴です。1 つは 42°C まで冷められた湯を張った浴槽で、もう 1 つの浴槽はほとんど耐えられないほど熱い 46°C から 47°C のお湯が張られています。浴場の外には、「飲用の温泉水」をかけ流す蛇口があります。慣れが必要な味ですが、コップ一杯に制限して飲む限り、健康に良いとされています。もう一軒の薬師湯は、初めての人にも入りやすく、町を見渡せる屋上テラスもあります。

【タイトル】 大森：城上神社

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

大森：城上神社

城上神社は大森町精神の礎石。神社は、この町の東端、幕府が石見銀山の代表地「代官所」の旧址に僅か数歩の距離に、1577年、この地の毛利家が城上神社の現址に建てた。この神社は、大森町と住民を災厄から守るために今の場所に創建された。この聖域は、大森の他の大部分とともに、1800年の大火により焼失したが、12年後に再建された。現在の建物は、この再建当時のものであり、入母屋造の代表的な屋根をもつ印象的な二階建ての拝殿がある。拝殿の格子天井の一部には、神社に寄進した武士の家紋が飾られているが、中でもとりわけ印象的なのはおそらく天

<繁体字>

大森：城上神社

城上神社は大森町精神の礎石、它位於大森町的東端、距幕府設立在石見銀山的代表處「代官所」舊址僅數步之遙。1577年，掌控此地的毛利家在城上神社現址上建起了這座神社，以期庇佑大森町及本地居民免於災禍。1800年，一場大火焚毀了包括神社在內的大半個大森町。12年後，城上神社重建，現存的神社建築均可追溯到這一時期。這裡有一座頗具氣勢的歇山頂二層拜殿，部分格子天花板上裝飾了捐建神社的武士家族的家紋，但令人印象最深刻的還是天花板中央一條飛舞的「咆哮之龍」。這條飛龍繪製於1818年，由於建築結構帶來了奇妙聲學效果，只要站在天花板正下方拍拍手就能聽到「龍吟」。

<日本語仮訳>

大森：城上神社

城上神社は、大森町の精神的な拠り所と言えます。幕府の出先機関であった旧「代官所」からわずか数歩の場所にある町の東端に位置するこの神社は、1577年に、この地を領有した毛利氏が町と住民を災厄から守るために今の場所に創建しました。この聖域は、大森の他の大部分とともに、1800年の大火により焼失しましたが、12年後に再建されました。現在の建物は、この再建当時のものであり、入母屋造の代表的な屋根をもつ印象的な二階建ての拝殿があります。拝殿の格子天井の一部には、神社に寄進した武士の家紋が飾られていますが、中でもとりわけ印象的なのはおそらく天

井中央の「鳴き竜」でしょう。1818年に制作されたこの天井画は、宙を舞う龍を表現しており、拝殿の音響効果を巧みに利用しているため、真下に立って手を叩くと「鳴き声」が聞こえます。

【タイトル】 石見銀山とその文化的景観

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

石见银山及其文化景观

2007年，石见银山获得联合国教科文组织(UNESCO)认定，被列入世界遗产名录。评定依据主要有三条：银矿在16世纪至17世纪早期对世界经济的影响；矿区内银矿产业的考古证据保存完整性；银矿本身及矿山村落、运输线路、海港码头等相关遗迹的整体性。

石见银与全球贸易

自16世纪中期开始，石见银山的银矿开采便对世界经济产生了重大影响。这一时期，掌控银山的武将家族利用这些白银开展海外贸易。当时，中国明朝的经济刚刚转向银本位制，需要大量的银子来支撑军费开支，抵御西北蒙古部落的进犯。最初，白银直接从日本流入中国，但这种贸易形式很快被欧洲人打破。葡萄牙商人以澳门为基地，从中国购入丝绸换取日本的白银，再卖给明朝政府。新的贸易模式为葡萄牙人带来了巨额财富，他们称日本为“银岛”，来自石见银山的白银很快在他们的航海帝国流通开来。现有统计显示，“石见银”在16世纪晚期的全球白银贸易中至少占据了10%的份额。如此繁荣的白银贸易一直持续到17世纪早期，此后，新成立的幕府政权严格限制了境外往来，同时引入了标准化的白银货币。

传统的银矿生产

石见银山跻身世界遗产名录的第二个理由，是矿区的传统银矿产业实物证据都保存得十分完好。石见银山银矿从1527年被发现起一直运营到1923年关闭，但直到19世纪晚期日本结束闭关锁国后，机械采矿设备和方法才被引入。因此，传统的采矿、熔炼、精炼的考古证据也就在石见银山保存了下来。考古调查现已发掘出部分矿坑通道、生产设备和矿村遗址，可令参观者了解当时采矿、冶炼技术，乃至矿工及其家人的生活。不过，还有更多的遗存深藏在林深草密的仙之山山坡与周围的山谷中尚未发掘。

全景图

港口、道路、城郭与防御工事、行政管理机构、居民区、宗教遗址……这一切都是石见银山的遗迹，与矿山本身浑然相融，宛如一个天然有机体。部分矿坑通道和竖井开放参观，从矿山到日本海的道路也依然可以通行，当年在这里发家致富的商人老宅仍矗立在大森町内，亦可造访参观。所有遗存共同讲述着这个矿业社区从日本中世纪（12-16世纪）

至 20 世纪 20 年代之间的故事，它们告诉来访者：在历史的长河中，石见银山是如何在不同的时期为实现不同的目标而不断扩大进化的；高度专业化的经济形态是如何围绕银矿发展起来的；在银矿开采的近 400 年时光里，矿山的经营管理又是如何演变的。

<繁体字>

石見銀山及其文化景觀

2007 年，石見銀山獲選登入聯合國教科文組織（UNESCO）的世界遺產名錄。評定依據主要有三：銀礦在 16 世紀至 17 世紀早期對世界經濟的影響；整個礦區內保存完好的銀礦開採考古證據；銀礦本身及礦山村落、運輸線路、海港碼頭等相關遺跡的完整性。

石見銀與全球貿易

自 16 世紀中期開始，石見銀山的銀礦開採便對世界經濟產生了重大影響。這一時期，掌控銀山的武將家族利用這些白銀開展海外貿易。當時，中國明朝的經濟剛剛轉向銀本位制，需要大量的白銀來支持軍費開支，抵禦北方蒙古人的進犯。最初，白銀從產地日本直接流入中國，但這種貿易形式很快被歐洲人帶來的新型貿易模式取代。葡萄牙商人以澳門為基地，從中國購入絲綢換取日本的白銀，再將白銀轉賣給明朝政府。新的貿易模式為葡萄牙人帶來了巨額財富，他們將日本稱為「銀島」，來自石見銀山的白銀很快在這個航海帝國裡佔有一席之地。現有統計顯示，「石見銀」在 16 世紀晚期的全球白銀貿易中至少佔據了 10% 的交易量。如此繁榮的白銀貿易一直持續到 17 世紀早期，此後，新成立的幕府政權開始嚴格限制與境外往來，同時採用標準化的白銀貨幣。

傳統的銀礦開採

石見銀山躋身世界遺產名錄的第二個重要的理由，是該礦區的傳統銀礦產業實物證據都保存得十分完好。石見銀山銀礦從 1527 年被發現起一直開採到 1923 年關閉，但直到 19 世紀晚期日本明治維新結束了幕府長達數百年的閉關鎖國後，機械採礦設備和方法才被引入銀礦的開採。因此，傳統的採礦、熔煉、精煉的考古證據在石見銀山被保存得相當完整。考古調查現已發掘出部分礦坑通道、生產設備和礦村遺址，來此參觀的遊客可以瞭解當時的採礦、冶煉技術，乃至礦工及其家人的生活。但還有更多的遺存深藏在林深草密的仙之山山坡與周圍的山谷中，尚未發掘。

全景圖

港口、道路、城郭與防禦工事、行政管理機構、居民區、宗教遺址等等，這些都是石見銀山的遺跡，它們與礦山本身渾然相融，宛如一個天然有機體。部分礦坑通道和豎井開放參觀，從礦山到日本海的道路依然可以通行，當年在這裡發家致富的商人宅邸仍矗立在大森町內，供遊客參觀憑弔。所有遺存共同講述著這個礦業社區從日本中世紀（12-16 世紀）至 1920 年之間的故事，告訴遊客：在歷史的長河中，石見銀山是如何在不同的時期

為實現不同的目標逐漸發展進步的；高度專業化的經濟形態是如何圍繞銀礦發展起來的；在銀礦開採的近 400 年時光裡，礦山的經營管理又是如何演變的。

<日本語仮訳>

石見銀山とその文化的景観

2007 年に石見銀山がユネスコ世界遺産に登録された際、主に 3 つの理由で評価されました。それはすなわち、16 世紀から 17 世紀初頭にかけて同銀山が世界経済に与えた影響、地域一帯に銀生産の考古学的証拠が良好な状態で保存されていること、そして銀山自体と鉱山集落から輸送路、港までのその関連遺構が一体化していることです。

石見の銀と世界貿易

石見銀山での銀の採掘は、1500 年代中盤以降、世界経済に大きな影響を与えました。当時、同銀山を管理していた各大名家は、海外との交易にこの銀を利用します。銀の需要は明朝よりもたらされます。銀本位の経済に移行したばかりだった明朝は、北西より侵略してくるモンゴル軍に対する防衛資金を賄うため、大量の通貨を必要としていました。当初、銀は日本から直接中国に流入していましたが、この貿易の主導権はすぐにヨーロッパ人の手に渡ります。マカオを拠点とするポルトガル商人が中国の絹を買い、それを日本の銀と交換し、その銀を明朝に売っていたのです。この取引パターンは、ポルトガル人に莫大な富をもたらし、ポルトガル人は日本のことを「銀の島国」と呼ぶようになり、石見の銀はポルトガルの海洋帝国全域で流通するようになります。現在では、1500 年代後半に世界中で取引された銀の総量のうち、少なくとも 10% は石見銀山のものであったと推測されています。この取引は、新しくできた徳川幕府が外国との接触を制限し、標準化された銀貨を導入する 1600 年代初頭まで大いに栄えました。

伝統的な銀生産

石見銀山が世界遺産の地位を得た 2 つ目の理由は、同地域で、伝統的な銀生産の物理的な痕跡が良好な状態で保存されているからです。石見銀山は、同地で銀が発見された 1527 年から 1923 年まで稼働していましたが、採掘装置や採掘手法が工業化されたのは、日本の鎖国政策が終了した後の 1800 年代後半になってからのことでした。その結果、石見銀山では、伝統的な採掘、製錬、精錬の考古学的証拠がそのままの状態に残されました。坑道、生産設備、集落の一部では発掘調査が行われ、来訪者は当時採掘、製錬に使用された技術や鉱山労働者とその家族が送った生活の様子を理解することができますが、仙ノ山の森に覆われた斜面や近くの谷には、他にも多くの遺跡がほとんど手付かずの状態に残されています。

全体像

石見銀山とその関連遺跡一港、街道、城その他の要塞、管理施設、居住区域、宗教遺跡一は、有機的統一体としてその姿を残しています。坑道や立坑の一部は中に入ることができ、鉱山から日本

海へと続く街道は歩くことができ、そして大森町ではこの地で財をなした商家の旧宅を訪れることができます。これらの史跡が一体となって、中世（12世紀～16世紀）から1920年代までの鉱山を中心に成立したコミュニティの物語を今に伝えています。これらの史跡は、時間の経過と共に、鉱山がいかに各時代で異なる目標を達成しながら拡大され、変化していったか、鉱山の周りにいかに高度に専門特化した経済が発展していったか、そして石見銀山で銀の採掘が行われた400年間、その運営がいかに進化していったかを明らかにしてくれます。

【タイトル】 石見銀山と海外とのつながり

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

石见银山与海外

400 年间，石见银山的矿业发展经历过两个繁盛的国际贸易时期。第一次是在 1527 年银矿发现后不久，一直延续到 17 世纪早期；另一次则与明治时代(1868-1912)日本的高速现代化发展时期同步。

大航海时代的白银生产与贸易

16 世纪，西班牙和葡萄牙两大王国大肆拓展全球贸易，殖民了从美洲墨西哥到亚洲澳门的许多土地和人民，白银需求量激增，几乎算得上是当时全球最紧俏的商品。由墨西哥的瓜纳华托、玻利维亚的波多西、日本的石见银山等地开采的银矿，成为这些强国的财富之源，也飞速推动了世界经济的车轮前行。石见银山的白银基本把持在葡萄牙人手中，他们用中国丝绸交换日本白银，再将一部分银子卖给中国明朝，剩余部分则在他们的航海帝国里流通。据估算，截至 16 世纪晚期，在全球白银贸易总量中，至少有 10%来自石见银山。而这样的产出能力，得益于另一项国际贸易的成果“灰吹法”。这是一种银矿的精炼技术，于 1533 年自朝鲜半岛传入石见地区，它可以大批量冶炼出高纯度白银。之后，德川家族于 1603 年统一全国，创建幕府政权，统治日本直到 1867 年。然而在此期间，石见银山与世界经济的联系几乎断绝。德川幕府严格限制对外交往，实施闭关锁国政策，直到 19 世纪下半叶才改观。

延伸至海外殖民地的采矿业

1868 年，明治维新开始，以明治天皇(1852-1912)为执政者的新政府建立。之后，日本重新将目光投向了世界。中日甲午战争(1894-1895)后，日本化身殖民国家，占据了包括台湾在内的部分中国领土。这一时期的石见银山为藤田组掌控，后者于 1886 年取得银矿开采权，并在全国经营多处矿场。然而，因为矿山的利润太低，藤田组陷入了财务危机。1896 年，日本政府正热衷于开发新的殖民地，开放了两处前景可观的台湾矿藏的经营权。藤田组抓住机会，获准开采台湾北部九份附近的瑞芳金铜矿山。

石见银山与台湾

藤田组在台湾投下巨资开发矿山，引进了最先进的采掘、冶炼设备与技术，其中部分还是在石见银山研发的。大批经验丰富的工程师和各类专业人员从石见银山被派到瑞芳，

两处矿山人员交流频繁，九份也渐渐发展为一座繁荣的小镇。1923 年，藤田组突然放弃台湾业务，九份经济因此一度陷入困境，但终究还是恢复了活力。同一年，全球铜价下跌，藤田组不得不关闭了石见银山的开采业务。不过日本在九份附近的金瓜石金矿的采矿项目依然延续，及至 20 世纪 30 年代，此处金矿的产量更是达到了巅峰。1935 年，金瓜石已经成为日本所辖同类矿山中产量最高的一处，年产黄金可达 2.6 吨。金矿一直运营到 1987 年才关闭，如今已是历史遗址。遗址上落成的新北市立黄金博物馆，向来访者介绍九份地区的矿业发展历史。

<繁体字>

石見銀山與海外

石見銀山在其 400 年的礦業發展歷程中，經歷過兩個繁盛的國際貿易時期：第一次從 1527 年銀礦發現之後，一直延續到 17 世紀早期；另一次則與明治時代（1868-1912）日本的現代化發展時期同步。

大航海時代的白銀生產與貿易

16 世紀，西班牙和葡萄牙兩大王國大肆拓展全球貿易，殖民了從墨西哥到澳門的廣闊領土，白銀需求量激增，成為當時全球最炙手的商品。墨西哥的瓜納華托、玻利維亞的波多西、日本的石見銀山等地開採的銀礦，成為這些海上霸主的財富之源，也快速推動了世界經濟的車輪前行。石見銀山的白銀貿易基本控制在葡萄牙人手中，他們用中國絲綢交換日本白銀，再將部分銀子賣給明朝政府，剩餘部分則在他們的航海帝國裡流通。據估算，截至 16 世紀晚期，在全球白銀貿易總量中，至少有 10%來自石見銀山。而這樣的開採效能，得益於另一項國際貿易的成果「灰吹法」。所謂的灰吹法係指一種銀礦的精煉技術，於 1533 年自朝鮮半島傳入石見地區，它可以大量冶煉高純度白銀。德川家於 1603 年統一全國，創建幕府政權後，統治日本直到 1867 年。然而德川幕府嚴格限制對外交往，實施閉關鎖國政策，在此期間，石見銀山與世界經濟的聯繫幾乎斷絕，直到 19 世紀下半葉才改觀。

延伸至海外殖民地的採礦業

1868 年，明治維新開始，以明治天皇（1852-1912）為執政者的新政府建立。之後，日本重新將目光投向了世界。中日甲午戰爭（1894-1895）後，日本成為殖民國家，佔據了包括台灣在內的亞洲許多地區。此時的石見銀山為藤田組掌控，後者於 1886 年取得銀礦開採權，並同時在日本全國經營著多處礦場。然而，礦業利潤低，因此藤田組陷入了財務危機。1896 年，正值日本政府熱衷於開發新的殖民地的時期，開放了兩處前景可觀的台灣礦藏的經營權。藤田組抓住機會，獲准開採台灣北部九份附近的瑞芳金銅礦山。

石見銀山與台灣

藤田組在臺灣投下巨資開發礦山，引進了最先進的採掘、冶煉設備與技術，其中部分還是在石見銀山研發的。大批經驗豐富的工程師和各類專業人員從石見銀山被派到瑞芳，兩處礦山人員交流頻繁，九份也漸漸發展為一座繁榮的小鎮。1923 年，藤田組突然放棄台灣業務，九份經濟因此一度陷入困境，但終究還是恢復了活力。同一年，全球銅價下跌，藤田組不得不關閉了石見銀山的開採業務。不過日本在九份附近的金瓜石金礦的採礦項目依然延續，及至 1930 年代，金瓜石金礦的產量達到了巔峰。1935 年，金瓜石已經成為日本轄下同類礦山中產量最高的一處，年產黃金可達 2.6 噸。金礦開採一直持續到 1987 年才關閉，如今已成歷史遺址。遺址上落成的新北市立黃金博物館，向遊客介紹九份地區的礦業興衰。

<日本語仮訳>

石見銀山と海外とのつながり

石見銀山は、その 400 年の歴史の中で、精力的に国際社会への関与を見せた時期が 2 回ありました。最初は、1527 年の鉱山の発見後すぐから 1600 年代初頭まで続く時期で、2 回目は、明治時代（1868-1912）の日本の急速な近代化と軌を一にしています。

大航海時代の銀生産と貿易

スペインとポルトガルの帝国が世界貿易を拡大し、メキシコからマカオまでの土地と人民を植民地化した 1500 年代、銀はおそらく世界で最も需要のある商品となりました。これらの支配的国家的富の源泉、すなわちメキシコのグアナフアト、ポリビアのポトシ、そして石見銀山などの土地で採掘された銀は、世界経済の潤滑油となります。石見の銀は、主にポルトガル人の手で取引され、彼らは中国の絹で銀を購入していました。銀の一部は明朝に売られ、残りはポルトガルの海洋帝国全域で流通することとなります。1500 年代後半に世界中で取引された銀の総量のうち、少なくとも 10% は石見銀山のものではあったと推測されます。これを可能としたのが、国際交易のもう 1 つの産物である灰吹（はいふき）法でした。これは銀の精錬方法の一種で、1533 年に朝鮮半島から伝わり、高純度の銀を大量生産が可能となったのです。ところが、徳川家が日本全国をその旗の下に統一し、1603 年に 1867 年まで国を支配することとなる幕府を樹立した後は、石見銀山と世界経済とのつながりは大きく断絶します。徳川家は外国との接触を制限し、鎖国政策を採用して、これは 1800 年代後半まで続きます。

植民地とのつながり

日本は、1868 年の明治維新以降、再び外の世界に目を向け始め、これが明治天皇（1852-1912）を主権者とする新政府の樹立へとつながります。日清戦争（1894-1895）で勝利した結果、台湾を含む中国の領土を獲得した日本は、植民地保有国となります。当時、石見銀山は藤田組によって管理されていました。藤田組は 1886 年に銀山の採掘権を取得し、国内の他の地域でも複数の鉱山を経営していました。ところが、所有する鉱山は採算性が低く、藤田組はひどい経営難に陥ります。1896 年、新しく獲得した植民地の開発に熱心だった日本政府は、台湾の有望な鉱山 2

か所に対する権利の割り当てを行います。藤田組は、このチャンスに飛びつき、台湾島北部の九份近くにある瑞芳の金銅鉱山を与えられました。

石見銀山と台湾

藤田組は、台湾の保有地に巨額の投資を行い、採掘と精錬のために最先端の機器と技術を導入します。その一部は、石見銀山で開発されたものでした。石見銀山で自らの価値を証明した技師や、その他多くの専門家も瑞芳へと派遣され、2つの鉱山間で積極的な人事交流が行われました。九份は活気あふれる街へと成長し、1923年に藤田組が突如として台湾での操業を停止した際の危機的状況も乗り越えます。その年はまた、世界市場における銅価格の下落により、藤田組が石見銀山の操業停止を余儀なくされた年でもあります。日本人による台湾での鉱山開発は、九份に近い金瓜石の金鉱山で続き、1930年代に最盛期を迎えます。1935年の時点で、金瓜石は、同種の施設としては、大日本帝国内で最も生産性の高い施設であり、年間最大 2.6 トンの金を産出していました。操業は 1987 年まで続き、現在は史跡になっており、ここに建てられた「新北市立黄金博物館」では訪れる人々に九份における鉱山開発の歴史を紹介しています。

【タイトル】 石見銀山世界遺産センター

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

石見銀山世界遺産中心

石見銀山世界遺産中心比鄰世界遺產區，是通往石見銀山的門戶。中心內設一座博物館，綜合介紹本地礦山歷史。來訪者在遊覽銀礦山及周邊地區之前，可以先到這裡全面瞭解一下石見銀山的相關背景及知識，比如本地銀礦資源在1527年被發現的故事、由可批量精煉高純度白銀的革新工藝“灰吹法”帶來的影響、江戶時代(1603-1867)礦工及其家人的生活，以及石見銀山的白銀生產如何影響了日本乃至全世界的經濟。

博物館借助立體實景模型、視頻短片和互動式展覽等方式介紹相關內容，以期為來訪者提供更加物有所值的旅行體驗。此外，中心還設有豐富的體驗項目，例如銀飾製作手工坊、篩沙淘銀體驗教室。如果有興趣，還能深入了解灰吹法的科學原理。

參觀結束後，來訪者可前往諮詢台，獲取根據自身興趣量身定制的觀光建議。世界遺產區占地廣闊，建議提前在中心規劃好參觀路線。景區內停車位有限，自駕出行者需要把車停在世界遺產中心，換乘接駁巴士前往大森町。大森町的銀山公園內有電動自行車出租。來訪者還可以选择沿著中心後方的步道前往風景秀麗的觀景台，然後繼續步行至大森町。諮詢台免費提供該步道及其他步行路線的地圖。

<繁体字>

石見銀山世界遺產中心

石見銀山世界遺產中心比鄰世界遺產區，是通往石見銀山的門戶。中心內設一座博物館，介紹本地礦山歷史。遊客在遊覽銀礦山及周邊地區之前，可以先到中心全面瞭解石見銀山的相關背景及知識，例如本地銀礦資源在1527年被發現的故事、可以大量精煉高純度白銀的革新工藝「灰吹法」的革命性影響、江戶時代（1603-1867）礦工及其家人的生活，以及石見銀山的白銀生產如何影響日本乃至全世界的經濟。

博物館借助立體實景模型、影片和互動式展覽等方式介紹相關內容，以期為遊客提供更完整的旅行體驗。此外，中心還設有豐富的體驗項目，例如銀飾製作手工坊、篩沙淘銀體驗教室。如果有興趣，還能深入了解灰吹法的科學原理。

結束參觀後，遊客可前往服務台，詢問根據自身興趣量身定制的參觀路線建議。因為世界遺產區占地廣闊，建議提前在中心規劃好參觀路線。景區內停車位有限，自駕到此的遊客需把車停在世界遺產中心後，換乘接駁車前往大森町。大森町的銀山公園內有電動腳

踏車出租。遊客還可以選擇沿著中心後方的步道前往風景秀麗的觀景台，然後繼續步行至大森町。服務台免費提供該步道及其他步行路線的地圖。

<日本語仮訳>

石見銀山世界遺産センター

世界遺産区域のすぐ外側に位置する石見銀山世界遺産センターは、石見銀山への入り口です。センターには博物館があり、銀鉱山の歴史を包括的に紹介しています。銀鉱山とその周辺を観光する前に、ここで石見銀山の背景と知識について、学ぶことができます。たとえば、1527年の石見銀山の発見、上質な銀の大量生産を可能にした革新的な精錬技法である「灰吹法」がもたらす影響、江戸時代（1603-1867）の鉱山労働者とその家族の生活、そして石見銀山で生産された銀が世界経済と日本経済に与えた影響など。

展示には、ジオラマ、ビデオ、インタラクティブ展示が含まれ、そこで得られる背景知識は、石見銀山観光をより満足度の高い経験へと変えてくれます。さまざまな参加型プログラムも提供されており、銀アクセサリー作りのワークショップ、砂をふるいにかけて銀の小片を探す体験教室、そして意欲的な来訪者向けには、灰吹法の背後にある科学についての紹介などがあります。

展示を見た後は、インフォメーションデスクで、各自の関心に合わせた形で観光についてのアドバイスを受けることができます。世界遺産区域は広大なエリアに広がっているため、センターで事前にルートを計画することをおすすめします。区域内での駐車は制限されているため、来訪者にはセンターに車を置き、シャトルバスで大森町に向かうようお願いしています。大森町の銀山公園では、電動自転車のレンタルを行っています。また、センター裏から遊歩道を通って展望台まで登り、そこから徒歩で大森町に向かうことも可能です。このルートとその他の徒歩ルートが載った無料の地図は、インフォメーションデスクで入手できます。

【タイトル】 大久保間歩

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

大久保間歩

大久保“間歩”（矿坑通道）是石见银山规模最大的矿道，也是两处定期开放参观的主要坑道之一。它是银矿开发最彻底的区域之一，自 16 世纪晚期一直开采到明治时代(1868-1912)。数百年间，该矿道不断延伸扩大，并以高大的矿坑入口为特色。这条矿坑通道以大久保长安(1545-1613)的姓氏命名，他是德川幕府(1603-1867)任命的首任“石见银山奉行”，即当地最高行政长官，掌管矿山地区事务。

主坑道里有的地方高达 5 米，延伸出多条副矿道，均沿银矿矿脉走向挖掘，至今在坑壁上还随处可见矿脉痕迹。此外，坑道沿线还有一些竖井，有的用于通风透气，有的用于排放地下水。主矿道内部分光滑的壁面，是用凿子和锤子人工开凿而成。明治时代，为方便矿车出入，矿道曾经拓宽，当时采用如炸药爆破等大胆手法开凿的壁面就显得凹凸不平。矿道内的地面上还保留着一些当年铺设矿车轨道的枕木。

现在，大久保间歩在 3~11 月的周六、周日和节假日提供导览游。冬季的矿道是蝙蝠的冬眠地，不过，全年都能看到它们在矿道里飞来飞去。

<繁体字>

大久保間歩

大久保「間歩」（礦坑通道）是石見銀山規模最大的礦道，也是兩處定期開放參觀的主要坑道之一。它是銀礦開發最徹底的區域之一，自 16 世紀晚期一直開採到明治時代（1868-1912）。數百年間，該礦道不斷延伸擴大，以其高大的礦坑入口為特色。這條礦坑通道以大久保長安（1545-1613）的姓氏命名，他是德川幕府（1603-1867）任命的首任「石見銀山奉行」，即當地最高行政長官，掌管礦山地區事務。

主坑道裡有的地方高達 5 公尺，還延伸出數條副井，均沿銀礦礦脈走向挖掘，至今在坑壁上還隨處可見礦脈痕跡。此外，坑道沿線還有一些豎井，有的用於通風透氣，有的用於排放地下水。主礦道內部分光滑的壁面，是用鑿子和錘子人工開鑿而成。明治時代，為方便礦車出入，礦道曾經拓寬，當時採用如炸藥爆破等大膽手法開鑿的壁面就顯得凹凸不平。礦道內的地面上還保留著一些當年鋪設礦車軌道的枕木。

現在，大久保間歩在 3~11 月的週六、週日和節假日提供導覽服務。冬季的礦道是蝙蝠的冬眠地，不過，全年都能看到它們在礦道裡飛竄。

<日本語仮訳>

大久保間歩

大久保「間歩」(鉱坑)は石見銀山最大の坑道で、来訪者に定期的に開放されている2つの主な坑道のうちの1つです。大久保間歩は、同銀山で最も徹底的に掘削が行われた部分の1つで、1500年代後半から明治時代(1868-1912)まで採掘が続けられ、数世紀にわたり繰り返し拡張されていきました。高い入り口が特徴的なこの坑道は、徳川幕府(1603-1867)より石見銀山の監督を任じられた初代「石見銀山奉行」(現地行政最高責任者)・大久保長安(1545-1613)の名を冠しています。

メインの坑道は場所によっては高さ5メートルにも及び、そこからより小さな坑道が複数分岐しています。これらは銀鉱脈に沿って掘られており、今でもその痕跡が壁の至る所に確認できます。また、立坑もあり、一部は換気用、その他は地下水を外に排出するために使用されました。メインの坑道の一部の壁は滑らかで、これはのみと金槌によって形作られたものです。坑道はトロッコが入るように明治時代に広げられたため、その他の壁には、通路を広げるために使用されたダイナマイトを含め、荒々しい掘削技術の痕跡が残されています。この時代のトロッコのレールの枕木は、今も地面上に確認できます。

大久保間歩のガイド付きツアーは現在、3月から11月までの週末と祝日に実施されます。冬季は、坑道がコウモリの冬眠場所となり、坑道内では年間を通してコウモリが飛び回る姿を確認することができます。

【タイトル】釜屋間歩とその周辺

【想定媒体】WEB

<簡体字>

釜屋間歩及周辺

在石见银山的历史上有许多一步登天的传奇，釜屋“间步”（矿坑通道）就是其一。1602年，一位名叫安原传兵卫的探矿者在此挖矿，很快就找到了一条储量丰富的银矿脉，这就是釜屋间步。当时直辖此处矿山的是位于江户（今东京）的德川幕府(1603-1867)，安原传兵卫在他发现矿脉的第二年就为幕府献上了数量惊人的13.5吨白银。他因此得到了幕府将军德川家康(1543-1616)的亲自接见，不但被授予荣誉头衔，更获赐一套华丽的道服（和服的外套）和一把扇子。安原传兵卫将道服赠给了清水寺，据说是因为他在开矿前曾前往该寺祈祷成功。如今，这件道服被指定为国家重要文化财产，原件收藏于京都国立博物馆内，石见银山世界遗产中心展出了一件它的复制品。

釜屋间步周围现已发现了多处出自17世纪早期的银矿开采遗址。这一区域的银矿脉大多十分贴近地表，所以有几处并没有使用地下坑道，矿工们似乎直接在山坡表面就挖到了矿石。崖壁上有许多人工开凿的平地，多用于建造房屋。附近的岩石上也有许多人工挖掘的坑洼，这是为了收集雨水来冲洗矿石，以便有效筛选出含银的碎石。从这些遗迹和本地发现的白银冶炼副产品中可以看出，从安原传兵卫时代一直到明治时代(1868-1912)，以釜屋间步为中心的山谷两侧都进行过大规模开采，而该区域最后一些矿道是在明治时代开凿的。

<繁体字>

釜屋間歩及周邊

在石見銀山的歷史上有過許多一步登天的傳奇，釜屋「間歩」（礦坑通道）就是其一。1602年，一位名叫安原傳兵衛的探礦者在此找到了一條儲量豐富的銀礦脈，這就是釜屋間步的由來。當時直轄這處礦山的是位於江戶（東京）的德川幕府（1603-1867），安原傳兵衛在其發現礦脈的第二年便為幕府獻上驚人的13.5噸白銀。他因此得到了將軍德川家康（1543-1616）的親自接見，不但被授予榮譽頭銜，更獲賜一套華麗的道服（和服的外套）和一把扇子。據說安原傳兵衛在開礦前曾前往清水寺祈願一舉成功，事後他便將幕府將軍賜予的道服轉贈給了清水寺。如今，這件道服被指定為國家重要文化財產，原件收藏於京都國立博物館內，石見銀山世界遺產中心則展出了一件它的複製品。

釜屋間歩周囲現已發現了多處可追溯至 17 世紀早期的銀礦開採遺址。這一區域的銀礦脈大多十分貼近地表，所以有幾處並沒有使用地下坑道，礦工們似乎直接在山坡表面就可以挖到礦石。崖壁上有許多人工開鑿的平地，多用於建造房屋。附近的岩石上也有許多人工挖掘的坑窪，這是為了收集雨水以沖洗礦石，以便有效篩選出含銀的碎石。從這些遺跡和在本地發現的白銀冶煉副產品中可以看出，從安原傳兵衛時代一直到明治時代（1868-1912），以釜屋間歩為中心的山谷兩側都進行過大規模開採，而該區域最後一些礦道是在明治時代開鑿的。

<日本語仮訳>

釜屋間歩とその周辺

釜屋「間歩」（鉞坑）は、石見銀山の歴史上、最高のサクセスストーリーの 1 つが生まれたところ
です。この坑道は、1602 年に安原伝兵衛という名の山師により掘られ、彼はすぐに豊かな銀鉞脈を
発見します。翌年、釜屋では、その数年前に同鉞山に対する直接的な支配権を掌握していた江戸
（現在の東京）の徳川幕府のために、13.5 トンという驚くべき量の銀を産出します。そのため、安原
は将軍・徳川家康（1543-1616）への謁見を許され、称号を与えられた上に、華麗な道服（羽
織）と扇子が贈られました。道服は、安原が銀鉞脈を発見する前に祈願を行ったとされる清水寺に
寄贈され、現在は国の重要文化財に指定されており、実物は京都国立博物館にて保管されていま
す。石見銀山世界遺産センターには、道服の複製品が展示されています。

釜屋間歩の近くでは、1600 年代初頭の採掘跡が複数見つかっています。この地域の銀鉞脈は非
常に地表に近い場所にあることが多いため、場所によっては、鉞夫たちは坑道を使わず、丘の斜面を
直接掘っていたようです。地面を平らにし、建物を建てるためのスペースを作るため、崖も掘削されまし
た。付近では雨水を集めるために岩に穴が掘られましたが、これは鉞石を洗って、銀を含む小片を効
率的に集めるために必要とされたものです。これらの遺構は、ここで見つかった銀精錬の副産物と共に、
安原伝兵衛の時代から、同地域で最後の坑道群が掘られた明治時代（1868-1912）まで、釜
屋間歩を中心とする谷の両側で大規模な採掘が行われたことを示しています。

【タイトル】 新切間歩

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**新切間歩**

在石见银山历史上，矿山排水始终是最大的挑战之一。随着矿坑通道越挖越长、越挖越深，不免会遇到岩层内的积水区而导致地下水泛滥的问题，从而妨碍矿石开采。及至 18 世纪早期，地下水问题已经非常严重，代表江户（今东京）幕府管理银山的“代官所”不得不采取行动来维护矿山。最终的解决方案是在矿区下方另行挖掘两条平行的坑道，让矿道中的水向下流进新坑道，最终排入河中。这项独创性工程要求从靠近山脚处挖通山体，因此被称为“新切”。工程由政府出资，于 18 世纪 20 年代竣工。

新切工程很成功，排水系统不但提高了原有矿道的开采效率，还能为人们寻找新的矿脉提供便利。事实上，在新切“间歩”（矿坑通道）内也确实发现了新矿脉，其中一条得到开采，而另一条则担负起排水和通风功能。其结果，石见银山的银产量在短期内有了大幅度的增长。在之后将近一个世纪的时间里，新切间歩几乎没有任何人工干预，但今天，它依旧在发挥着将地下水引流排入银山川的作用，同时也昭示着当年高超的工程技术水平。

<繁体字>**新切間歩**

礦山排水是石見銀山開採的歷史上最大的挑戰之一。隨著礦坑通道越挖越長、越挖越深，難免會遇到岩層內的含水區而導致地下水氾濫的問題，妨礙礦石的開採。及至 18 世紀早期，地下水的問題已經非常嚴重，代表江戶（今東京）幕府管理銀山的「代官所」不得不尋找對策以因應地下水氾濫的問題。最終提出的解決方案是在礦區下方另行挖掘兩條平行的坑道，如此一來，礦道中的水就可以向下流進新坑道，最終排入河中。這項獨創性工程需要從靠近山腳處挖通山體，因此被稱為「新切」。工程由政府出資，於 1720 年代竣工。

新切工程建設的排水系統不但提高了原有礦道的開採效率，還能夠為日後尋找新的礦脈提供便利。事實上，在新切「間歩」（礦坑通道）內也的確發現了新礦脈，其中一條被開採利用，而另一條則擔負起排水和通風功能。其結果，石見銀山的銀產量在短期內有了大幅成長。在之後近一個世紀的時間裡，新切間歩幾乎沒有任何人工幹預。儘管如此，今天它依舊在發揮著將地下水引流排入銀山川的作用，同時也展示著當年高超的工程技術水準。

<日本語仮訳>

新切間歩

石見銀山の歴史を通じて、鉱夫たちにとっての最大の課題の 1 つが、銀鉱山から水を抜くことでした。坑道が長く深くなるにつれ、岩の中の地下水のたまり場に突き当たって出水が起きることは避けられず、これが鉱石の取り出しを妨げていました。1700 年初頭までに地下水の問題は大変深刻となり、江戸（現在の東京）の幕府の出先機関である現地の「代官所」は、鉱山経営を維持するために行動を起こす必要に迫られました。その解決策となったのが、既存の採掘地よりも低いところに、新たな坑道を平行に 2 つ掘ることでした。水は、互いに接続しているこれらの新しい坑道を通じて流れ落ち、川へと放水されます。新切（「新しく切る」の意。坑道が山麓に水平方向に切り開かれているため。）と呼ばれるこの独創的な事業は、幕府からの貸付によって資金調達され、1720 年代に完了しました。

新切プロジェクトは成功でした。この排水システムにより、新たな銀鉱脈が発見され、既存の坑道でもより効率的な採掘が可能になりました。鉱脈は新切「間歩」（鉱坑）内でも発見され、間歩の 1 つは採鉱が行われるようになり、もう 1 つの間歩は排水と換気の機能を果たすようになります。その結果、限られた期間ではあったものの、石見銀山での銀の生産量は大幅に増加します。新切間歩は、一世紀近くにわたりほぼ手付かずの状態で残されましたが、今でも水を集め、銀山川へと排水しており、建造者たちの優れた土木技術を今に伝えています。

【タイトル】 福神山間歩

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**福神山間歩**

福神山“間歩”（矿坑通道）是石见银山产量最高的矿坑之一。它由三条矿道组成，其中两条相互连通，穿过银山川下方，向银山矿区的中心部仙之山延伸；另一条位于它们的正上方，是通风道。福神山間歩位于通往龙源寺間歩的道路沿线，后者是石见银山唯一全年开放参观的矿坑通道。福神山間歩虽然不能进入，却另有引人注目之处。它的发展历史恰好体现了在 18 世纪银矿产量下降后，本地的矿产所有权和管理模式的变迁过程。

这条矿道是由一位“山师”（探矿者）独立勘探挖掘的。山师选定地点后，从掌管矿山的“代官所”（幕府在地方的代表处）取得开采许可，然后自己投入资金进行开采。只要向地方最高行政长官“代官”证明自己有能力完成规定的银产量，就能获得矿道所有权，这种许可机制在 17 世纪很普遍。由于当时银矿产业蓬勃兴盛，所以即便维护矿道耗资不菲，私人矿主依然能从中获利。然而，进入 18 世纪以后，大部分可开采的银矿资源都已渐渐枯竭，收益大幅下降。于是，代官所拨出公共资金收购包括福神山間歩在内依然具有开采价值的多条矿道，并维持矿道运营。在矿山部分“国有化”的同时，政府还展开了一系列旨在提高银产量的公共工程项目，只是一切努力终究未能重现石见银山往昔的辉煌。

<繁体字>**福神山間歩**

福神山「間歩」（礦坑通道）是石見銀山產量最高的礦坑之一。它由三條礦道組成，其中兩條相互連通，從銀山川下方穿過，向銀山礦區的中心仙之山延伸；另一條通風道則位於它們的正上方。福神山間歩位於通往龍源寺間歩的道路沿線，後者是石見銀山唯一全年開放參觀的礦坑通道。福神山間歩雖然禁止進入，卻另有引人注目之處，它的發展史恰好說明了在 18 世紀銀礦產量下降後，本地礦產的所有權和管理模式的變遷過程。

這條礦道由一位「山師」（探礦者）獨立勘探挖掘，意指山師自己選定地點，向掌管礦山的代官所（幕府在地方的代表處）申請開採許可，投入自有資金開採。只要向地方最高行政長官「代官」證明自己有能力完成規定的銀產量，就能獲得礦道所有權，這種許可機制在 17 世紀很普遍，因為當時銀礦產業蓬勃興盛，即便維護礦道耗資不菲，私人礦主依然能從中獲利。然而，進入 18 世紀以後，大部分可開採的銀礦資源都已漸漸枯竭，收益大幅下降。於是，代官所撥出公款收購包括福神山間歩在內依然具有開採價值的多條礦道，

並維持礦道經營。在礦山部分「國有化」的同時，政府還推出了一系列試圖提高銀產量的公共工程建設，然而一切努力終究未能重現石見銀山往昔的輝煌。

<日本語仮訳>

福神山間歩

福神山「間歩」（鉱坑）は、銀の採掘量に関していえば、石見銀山で最も優秀な坑道の 1 つです。間歩は 3 つの坑道で構成されており、2 本は互いに接続し、銀山川の下を通過して鉱山の中心地である仙ノ山へと続き、そのすぐ上を一本の排気坑が通っています。福神山間歩は、石見銀山で唯一、年間を通して公開されている龍源寺間歩へと至る道路沿いに位置しており、中に入ることはできませんが、別の理由から注目に値します。なぜなら、その歴史は、1700 年代に生産量が減少し始めてから、同銀山における所有と管理のパターンがどのように変化したかを示しているからです。

この坑道は、独立した山師によって掘られました。山師は場所を決め、鉱山を管理する「代官所」（地方における幕府の出先機関）から採掘の許可を得て、プロジェクトの資金調達は自分で行います。地方行政最高責任者の「代官」に対して、求められた量の銀を上納する能力を証明すると、坑道に対する所有権が付与されます。この仕組みは、銀山が繁栄していた 1600 年代においては一般的で、維持に相当な投資が必要であったにもかかわらず、坑道の所有者は利益を上げることができました。ところが、1700 年代までには、到達可能な銀鉱床がほぼ枯渇し、採算性は低下します。福神山間歩を含め、まだ採算性があると考えられた坑道の多くは、公金を使って代官所が取得し、この資金は坑道の経営資金としても使われました。この鉱山の部分的な「国営化」は、銀の生産量増加を目的とするさまざまな工業事業と併せて実施されましたが、結局は石見銀山のかつての繁栄を取り戻すことはできませんでした。

【タイトル】 柑子谷地区と永久精錬所

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

柑子谷地区和永久精炼所

如今的柑子谷已全然一派自然风貌，然而，就在一个世纪以前，这里还是一个繁忙的采矿中心，其核心就是这处“永久坑”。永久坑开凿于 1693 年至 1787 年，原本是地下水排水系统的一部分，用于把高处几个矿坑通道中的积水排入流经山谷底部的柑子谷川。1886 年，总部位于大阪的藤田组取得了石见银山的开采权，而在此之前，永久坑和其他矿址均已闲置了数十年。藤田组为了大量开采矿石，投入巨资引进了前沿的采矿设备和工艺，并且使用炸药拓宽原有矿道和竖井。永久坑也是开采对象，1899 年，其内发现了储量丰富的铜矿脉“内中瀬鉦”。

在这一重大新发现之后，藤田组于 1902 年在柑子谷新建了“永久精炼所”。精炼所采用最先进的技术将铜矿石炼成铜锭，然后送往秋田县北部的小坂进一步提炼加工。整片山坡都被开凿，精炼所周边建起了各种配套设施，包括一个选矿厂和一个火力发电站。鼎盛时期，精炼所雇佣了数百名员工。永久坑矿不断扩大，一直挖到了地下 300 多米深处。直到 1923 年，在全球市场铜价低迷的打击下，藤田组才彻底关闭了柑子谷相关生产设施。

如今，在这处森林覆盖的山谷里已经很难寻觅永久精炼的痕迹。主建筑于 1943 年被泥石流吞没，永久坑的入口也已被 20 世纪 60 年代晚期建造的水坝掩埋。如果仔细寻找，也许还能看到一些残留的砖石与混凝土基础结构，还有为加固选矿厂下方阶地而修建的防护墙。此外，山谷内还有一座 1913 年树立的纪念碑，旨在纪念因工殉职的矿工们。

<繁体字>

柑子谷地區和永久精煉所

一派自然風貌的柑子谷讓人很難想像，就在一個世紀以前，這裡還是一個繁忙的採礦中心，其核心就是這處「永久坑」。永久坑開鑿於 1693 年至 1787 年，原本是地下水排水系統的一部分，用於把高處幾個礦坑通道中的積水排至流經山谷底部的柑子谷川。1886 年，總部位於大阪的藤田組取得石見銀山開採權時，永久坑和周邊的礦山都已閒置了數十年。藤田組投入巨資，引進先進的採礦設備和工藝，使用炸藥拓寬原有礦道和豎井，大量開採礦石。永久礦坑也重新被開採，1899 年，藤田組還在其內發現了儲量豐富的銅礦脈「內中瀬鉦」。

在這一重大新發現後，藤田組於 1902 年在柑子谷新建「永久精煉所」。精煉所採用最先進的技術將銅礦石煉成銅錠，然後送往秋田縣北部的小坂進一步提煉加工。整片山坡都被開鑿，精煉所周邊建起了各種配套設施，包括一個選礦廠和一個火力發電站。鼎盛時期，精煉所雇用員工數百名。永久坑礦不斷擴大，一直向下挖到地下 300 多公尺深處。直到 1923 年，在全球市場銅價低靡的打擊下，藤田組徹底關閉了柑子谷的相關生產設施。

如今，在這處森林覆蓋的山谷裡已經很難尋覓永久精煉的痕跡。主建築於 1943 年被泥石流吞沒，永久礦坑的入口也已被 1960 年代晚期建造的水壩掩埋。然而如果仔細尋找，也許尚能看到一些殘留的磚石與混凝土基礎結構，還有為加固選礦廠下方階地而修建的防護牆。此外，山谷內還有一座 1913 年豎立的紀念碑，以紀念因工殉職的礦工們。

<日本語仮訳>

柑子谷地区と永久精錬所

現在は、ほぼ自然に還ってしまっている柑子谷も、わずか 1 世紀前は集中的な鉱山活動の中心地でした。この鉱山活動の中心となったのが永久坑です。永久坑は元々、1693 年から 1787 年の間に、さらに標高の高い複数の採掘地からの地下水を谷底の柑子谷川へと導く排水坑の一部として掘られたものです。永久坑と残りの鉱山も、1886 年に大阪を拠点とする藤田組が石見銀山の鉱業権を取得するまで、数十年にわたり休眠状態となっていました。藤田組は多額の投資を行い、既存の坑道と立坑を拡張し、大量の鉱石を取り出すためにダイナマイトを使用するなど、最先端の採鉱技術と機器を導入します。永久坑もその対象となり、1899 年には、豊かな銅鉱脈である内中瀬鉦の発見という形で、重要な発見をもたらしました。

この画期的な発見により、藤田組は 1902 年、柑子谷に新たな永久精錬所を開設します。同施設では、最新の技術を導入し、銅を処理してインゴットを作り、さらに精錬するためにそれを秋田県北部の小坂に送っていました。山腹全体が切り開かれ、精錬所の周りには選鉱場 1 か所と石炭火力発電所 1 基を含むさまざまな構造物が立てられ、精錬所で雇われている人数は最盛期には数百人に上りました。永久坑は、深度 300 メートル超に達するまで徐々に拡張されます。柑子谷での藤田組の操業は、長年にわたる世界市場における銅価格の低迷により大打撃を受け、施設を完全に閉鎖することになる 1923 年まで続けられました。

森林に覆われた谷地にある永久精錬所の遺構は、ほんのわずかしが残されていません。主要な建造物は 1943 年の土砂崩れで流され、永久坑の入り口は 1960 年代後半に完成した堰堤によって埋没してしまいました。煉瓦とコンクリートの基礎部分や、選鉱場の下にある段々状の土地を補強するために作られた壁を含め、場所さえ知っていれば今でも見ることができます。また、谷の内側部分には、作業中に命を落とした鉱山労働者たちのために 1913 年に建立された記念碑が建っています。

【タイトル】 下河原吹屋跡

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

下河原吹屋遗址

下河原吹屋遗址位于大森町郊外，是 17 世纪早期本地区最重要的银矿石加工中心之一。这一时期是石见银山银矿产量的巅峰期，在整个矿区的各矿坑附近，遍布着小规模的选矿、熔炼、精炼设施。而下河原吹屋却不一样，这里集中了所有加工冶炼工序，设备比仙之山上矿村里的更加先进。由此可以推测，下河原吹屋应该是由“代官所”直接管理经营的。代官所是中央政权在石见银山的代表处，监管矿山一应事务。

矿石从矿山运到这里，首先要经过粉碎、筛分，从中筛选出含银的碎石。接着，使用灰吹法提取白银。灰吹法于 1533 年自朝鲜半岛引入石见银山，是实现大批量提炼高纯度白银的关键技术。简单说来，就是在含铜的银矿石中加入铅一同冶炼，银与铅互熔形成合金。随后，将得到的合金放在灰床上，加温至 850°C，同时使用风箱来鼓风以确保合金持续氧化。最终，合金中的其他物质全部熔化被灰吸收，留下的便是纯银。在下河原吹屋，提炼纯银的工作周而复始，日夜不停。可以推测，厂房应该有耐火的土墙、高屋顶、多窗户，每个房间都有烟囱用于排放烟雾和硫化气体。

<繁体字>

下河原吹屋遗址

下河原吹屋遗址位于大森町郊外，是 17 世纪早期本地区最重要的银矿石加工中心之一。这一时期是石见银山银矿产量的巅峰期，在整个矿区的各矿坑附近，遍布着小规模的选矿、熔炼、精炼设施。下河原吹屋这里却集中了所有加工冶炼工序，设备比仙之山上矿村里的更加先进。由此可以推测，下河原吹屋应该由「代官所」直接管理经营。德川幕府（1603-1867）时期的代官所是位于江户（东京）的中央政权在石见银山的代表处，监管矿山一应事务。

矿石从矿山运到下河原吹屋，先要经过粉碎、筛分，筛选出含银的碎石。接著，使用灰吹法提取白銀。灰吹法於 1533 年自朝鮮半島引入石見銀山，是能夠大量提煉高純度白銀的關鍵技術。這種工藝技法是在含銅的銀礦石中加入鉛一同冶煉，銀與鉛互熔形成合金。隨後將得到的合金放在灰床上，加溫至 850°C，同時使用風箱來鼓風以確保合金持續氧化。最終，合金中的其他礦物質全部熔化被灰吸收，留下的便是純銀。在下河原吹屋，提煉純

銀的工作周而復始，日夜不停。可以推測，廠房應該有耐火的土牆、高屋頂、多窗戶，每個房間都有煙囪用於排放煙霧和硫化氣體。

<日本語仮訳>

下河原吹屋跡

大森町の郊外にある下河原吹屋跡は、1600年代初頭において、銀鉱石を処理するための最も重要な拠点の1つでした。この時期、すなわち石見銀山における銀生産の最盛期には、この地域全域の採掘地近くで小規模な選鉱、製錬、精錬が行われていましたが、ここではすべての工程が集約され、仙ノ山の山上にある鉱山集落よりも先進的でした。このことは、下河原吹屋が、石見銀山における幕府の出先機関で銀鉱山を監督していた「代官所」により直接経営されていたことを示唆しています。

鉱山からここに持ち込まれた鉱石は、まず粉碎され、その石をふるいにかけて銀を含む小片を分離することで、選鉱が行われます。その後、灰吹法という精錬技法を使って処理されます。この技法は、1533年に朝鮮半島より導入され、上質な銀を大量に生産するための鍵となるものでした。灰吹法とは非常に単純に言えば、銅を含む銀鉱石を鉛を使って製錬する方法です。銀は鉛に結合して、合金を形成します。次に、この合金を灰の上に敷き、850°Cの高温で加熱しつつ、ふいごを使って合金の酸化を促し続けます。合金のその他の成分はやがて溶けて灰に吸収され、純銀だけが残ります。下河原ではこの工程が昼夜を分かたず行われ、建造物の壁は耐火性の高い土でできていたようです。また、建造物は屋根が高く、窓が複数あり、煙と硫黄分を含むガスを逃がすために全ての部屋に煙突が付いていたことが特徴です。

【タイトル】 世界遺産センター遊歩道

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

世界遗产中心游览步道

世界遗产中心的游览步道全长 520 米，起点位于中心后侧，通往仙之山上一个风景优美的观景台。仙之山周边坐落着自 16 世纪中期发展起来的石见银山大小矿山。顺步道上山，途中会经过一个凉亭，徒步者可以在这里稍事休息。继续向左，穿过一片日本扁柏林，最后来到观景台脚下。登上观景平台，可以俯瞰整片山区和一些主要景点，比如大森町、山吹城遗址、日本海沿岸、海拔 1126 米的三瓶山、大山隠岐国立公园内环抱活火山口的六座山峰。从观景台继续攀爬 1.5 公里，便可抵达仙之山峰顶附近的石银。在银山开采的鼎盛时期，石银曾经坐拥一个热闹的大村落。从观景台下山步行 2 公里，即可到达大森町的银山公园。这几条山道与其他小道交错相连，但并非全程都设有清晰的路标指示，如果计划在抵达观景台后继续探访，可以先在世界遗产中心的咨询台领取一份免费地图。

<繁体字>

世界遺產中心遊覽步道

世界遺產中心的遊覽步道全長 520 公尺，起點位於中心後側，通往仙之山風景優美的觀景台。仙之山四周遍布著自 16 世紀中期逐漸發展起來的石見銀山大小礦山。順步道上山，將途經一座涼亭，徒步者可以在此稍事休息。繼續向左，穿過一片檜木林來到觀景台下。登上觀景平台，可以俯瞰整片山區和主要景點，如大森町、山吹城遺址、日本海沿岸、海拔 1126 公尺的三瓶山，以及大山隱岐國立公園內環抱活火山口的六座山峰。從觀景台繼續攀爬 1.5 公里，便可抵達仙之山峰頂附近的石銀。在銀山開採的鼎盛時期，石銀曾經發展出一個人口眾多的大村落。從觀景台下山步行 2 公里，即可到達大森町的銀山公園。這幾條山道與其他小道交錯相連，但並非全程都設有清晰的路標指示牌，如果計劃在抵達觀景台後繼續探訪，可以先在世界遺產中心的服務台領取一份免費地圖。

<日本語仮訳>

世界遺産センター遊歩道

全長 520 メートルの世界遺産センター遊歩道は、センターの裏手から仙ノ山の展望台まで続いています。仙ノ山周辺は、1500 年代中盤以降、石見銀山の鉱山が発展していった場所です。遊歩道

を登っていくと、腰を下ろして一息つける休憩所に直接つながっており、そこから左に折れ、ヒノキの森を抜けると展望台の下に出ます。展望台からは、地域の全体像をつかむことができ、大森町、山吹城跡、日本海の海岸地方、標高 1,126 メートルの三瓶山、大山隠岐国立公園内にある活火山のクレーターを取り囲む 6 つの峰々など、主要な観光地の一部を見ることができます。展望台からは、さらに 1.5 キロメートル歩いて、仙ノ山の頂上付近にある石銀まで登ることができます。石銀は、銀山の最盛期に賑わった大規模な集落跡です。あるいは、2 キロメートル下って、大森町の銀山公園に向かうこともできます。これらの登山道とそれらにつながるその他のコースの一部は、全行程にはっきりと目印が設置されているわけではないため、展望タワーからさらに歩く予定の方は、センターのインフォメーションデスクで無料の地図を入手した方がよいかもしれません。

【タイトル】 本谷集落跡

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**本谷矿村遗址**

本谷（意为“主要山谷”）如今已是草深林密的宁静山野，然而，早在 16 世纪下半叶至 18 世纪晚期时，这里却是石见银山最重要的采矿中心之一。一个颇具规模的村落曾经占据这片山谷，山谷内人工开拓的阶梯式平地上建有加工银矿石的各类工坊兼住宅。石见银山中最大的采矿网大久保“间步”（矿坑通道）便位于此处山谷的入口处附近，此处间步内有为数众多的大小矿道和竖井。从这里往下是全长 800 米的金生坑，它是为大久保间步排水而挖掘的坑道。沿山谷向上，两侧山壁上布满了狭窄的矿道和采矿点遗址。这一带的矿脉十分贴近地表，因此，当年人们可以直接在山壁上开采矿石。这些遗址大多已被草木覆盖，不易找到，但釜屋间步周围的一些矿道现已经考古发掘。釜屋间步曾在 17 世纪早期大放异彩，银矿产量的增长十分惊人。此外，这里还能看到一些为加固阶梯状地面而修筑的石墙。继续往上，便是本间步（意为“主矿坑”）的入口，这条矿道就开在本地储量最丰富的银矿脉之上。从这里开始，山谷逐渐收窄，继续攀爬即可到达仙之山的顶峰和石银。17 世纪，石银也曾是一大主要矿山村落。需要注意，从本间步到石银的道路缺乏维护，可能很难通行。

<繁体字>**本谷礦村遺址**

如今已是一派寧靜山野的本谷（意為「主要山谷」），早在 16 世紀下半葉至 18 世紀晚期時，卻是石見銀山最重要的採礦中心之一。這片山谷過去曾有一處頗具規模的村落，人工開拓的階梯式平地上建有可以加工礦石的各類工坊兼住宅。石見銀山中最大的採礦網大久保「間步」（礦坑通道）便位於這處山谷的入口處附近，此處間步有為數眾多的大小礦道和豎井。從這裡往下是全長 800 公尺的金生坑，它專門用來排出大久保間步的地下水。沿山谷向上，兩側山壁上布滿了狹窄的礦道和採礦點遺址，這一帶的礦脈往往十分貼近地表，因此，當年人們可以直接在山壁上開採礦石。這些遺址大多已被草木覆蓋，難以尋覓，但釜屋間步周圍的一些礦道已進行考古發掘。釜屋間步曾在 17 世紀早期大放異彩，銀礦產量驚人。此外，這裡還能看到一些為加固階梯狀地面而修築的石牆。繼續往上，便是本間步（意為「主礦坑」）的入口，這條礦道就開在石見銀山地區儲量最豐富的銀礦脈之上。從這裡開始，山谷逐漸收窄，繼續往上爬即可到達仙之山的頂峰和石銀。17 世紀，石銀也

曾發展出一個礦山村落。本間歩到石銀的道路缺乏維護，可能難以通行，欲前往的遊客請特別留意。

<日本語仮訳>

本谷集落跡

いまでは木々が生い茂り、静かな場所となっていますが、本谷（「主要な谷」の意）は 16 世紀後半から 18 世紀後期にかけて石見銀山における最も重要な採掘の中心地の 1 つでした。かなり大きな集落が谷の一带に広がっていて、ここでは銀の加工場としての役割も果たした家々が平坦で階段状になった土地の上に建てられていました。谷の入り口付近には数々の坑道と縦坑からなる石見銀山で最も巨大な採掘網である大久保「間歩」（鉱坑）があります。そこからさらに下へ行くと、大久保間歩から出た地下水を排出するために掘られた全長 800 メートルの金生坑があります。谷を登っていくと、両側の斜面に鉱山労働者が崖へと直接掘ったとみられる狭い坑道や遺跡が点在しています。この地域では銀の鉱脈が地表のとても近くにあることが頻繁にあったからです。こうした遺跡のほとんどは自然の草や木に覆われてしまい、見つけるのが難しくなっています。しかし、17 世紀初期に石見銀山の銀の産出量を飛躍的に増加させた釜屋間歩の周囲では、そうした遺跡のいくつかが掘り起こされています。階段状になった土地を補強するために造られた石壁のいくつかもこの場所で見ることができます。さらに上の方へ進んでいくと、地域で最も豊富な銀の鉱脈の上に掘られた本間歩（「主要な坑道」の意）への入口があります。この場所から、仙ノ山の頂上と 17 世紀におけるもう 1 つの主要な集落であった石銀へと上っていくにつれて、谷の幅が狭くなっていきます。本間歩から石銀までの道のりはあまり手入れがされておらず、横断していくのが困難な場合もあるので、訪れる際は注意しましょう。

【タイトル】 坂根口番所跡

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

坂根口番所遗址

位于江户（今东京）的德川幕府(1603-1867)在 17 世纪早期开始直辖石见银山后，银山周围便筑起了栅栏，所有的出入口处也都设立了“番所”（警备所），管控出入栅栏内区域的人和物品。番所卫兵负责对进入银山的货物征税，严防应当送进幕府国库的银子被偷运，同时确保只有获准在栅栏内工作或生活的人员才能进入银山矿区。除了中央矿区周围的 10 个番所之外，在由政府直辖的“银山御料”地区也设置了众多番所，该区域覆盖了周边大约 150 个村庄。

温泉津是矿山物资出入的主要水路中转站，而坂根口则是通往温泉津港道路上的最后一个番所，因此格外重要。如今番所建筑已无从寻觅，倒是通往温泉津的道路依然完好。从坂根口出发，顺道越过一道山口，再穿过西田村最终抵达港口，步行约需 5 小时。

<繁体字>

坂根口番所遗址

位於江戶（今東京）的德川幕府（1603-1867）在 17 世紀早期開始直接統轄石見銀山之後，銀山周圍便築起了柵欄，所有的出入口處都設立「番所」（警備所），控管出入柵內區域的人和物品。番所衛兵負責對進入銀山的貨物徵稅，嚴防不肖份子偷運應上繳幕府國庫的銀子，同時確保只有獲准在柵欄內工作或生活的人員才能進入銀山礦區。除了中央礦區四周的 10 個番所之外，在由中央政府管轄的「銀山御料」地區也設置了眾多番所，該區域覆蓋了周邊大約 150 個村莊。

溫泉津是礦山物資出入的主要水路中轉站，而坂根口則是通往溫泉津港道路上的最後一個番所，因此格外重要。如今番所建築已無從尋覓，倒是通往溫泉津的道路依然完好。遊客若從坂根口出發，途中翻越一道山口，再穿過西田村最終抵達港口，全程步行約需 5 小時。

<日本語仮訳>

坂根口番所跡

江戸（現在の東京）幕府（1603-1867）が石見銀山を17世紀初期に直接管理するようになると、銀鉱山の周りには柵が造られ、すべての出口には番所が建てられました。これは石見銀山を出入りする人や物の流れを管理するためでした。こうした番所にいた衛兵たちは、銀山へと入る品物にかけられた税金が支払われるようにしたり、幕府の財源となる銀が密かに持ち出されないようにしたり、柵で囲まれた場所で働いたり暮らしたりすることを許可された人々のみが入れるようにしたりする任務を担っていました。採掘地の中心付近には10軒の番所がありました。また、政府が直接管理し、150ほどの近隣の村を抱えていた「銀山御料」という地域一帯にはさらに多くの番所がありました。

坂根口は、採掘場を出入りする物を輸送するための主要な水路である温泉津港へと向かう道における最後の番所であったため、特に重要でした。番所があった場所の最寄りには現在家が建っており、番所の跡は一切残っていませんが、温泉津への道のりはいまでもそのまま残っています。峠を越え、西田の村を通り抜ける坂根口から港までの道は、徒歩で5時間かかります。

【タイトル】 本谷口番所跡

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**本谷口番所遗址**

位于江户（今东京）的德川幕府(1603-1867)在 17 世纪早期开始直辖石见银山后，银山周围便筑起了栅栏，所有的出入口处也都设立了“番所”（警备所），管控出入栅内区域的人和物品。番所卫兵负责对进入银山的货物征税，严防应当送进幕府国库的银子被偷运，同时确保只有获准在栅内工作或生活的人员才能进入银山矿区。除了中央矿区周围的 10 个番所之外，在由政府直辖的“银山御料”地区也设置了众多番所，该区域覆盖了周边大约 150 个村庄。

顾名思义，本谷口扼守本谷（意为“主要山谷”）的入口，直至 18 世纪晚期，本谷都是石见银山最重要的矿区之一。本谷拥有几处石见银山内产量最大的矿道与竖井，吸引了大量矿工携家带口来到这里。因此，本谷口和不远处的水落口就成为了维护矿山秩序最重要的两处番所。本谷口番所的建筑如今已荡然无存，不过，路边有一座小土丘标明了它昔日所在的位置。

<繁体字>**本谷口番所遗址**

位於江戶（今東京）的德川幕府（1603-1867）在 17 世紀早期開始直接統轄石見銀山後，銀山周圍便築起了柵欄，所有的出入口處都設立「番所」（警備所），控管出入柵內區域的人和物品。番所衛兵負責對進入銀山的貨物徵稅，嚴防不肖份子偷運應上繳幕府國庫的銀子，同時確保只有獲准在柵欄內工作或生活的人員才能進入銀山礦區。除了中央礦區四周的 10 個番所之外，在由中央政府管轄的「銀山御料」地區也設置了眾多番所，該區域覆蓋了周邊大約 150 個村莊。

顧名思義，本谷口番所據守本谷（意為「主要山谷」）的入口，直至 18 世紀晚期，本谷都是石見銀山最重要的礦區之一。這裡擁有幾處石見銀山內產量最大的礦道與豎井，吸引了大量礦工攜家帶眷來到此處。因此，本谷口和不遠處的水落口就成為了維護礦山秩序最重要的兩處番所。本谷口番所的建筑如今已蕩然無存，路邊的一座小土丘標明了其昔日所在的位置。

<日本語仮訳>

本谷口番所跡

江戸（現在の東京）幕府（1603-1867）が石見銀山を17世紀初期に直接管理するようになると、銀山の周りには柵が造られ、すべての出口には番所が建てられました。これは石見銀山を出入りする人や物の流れを管理するためでした。こうした番所にいた衛兵たちは、銀山へと入る品物にかけられた税金が支払われるようにしたり、幕府の財源となる銀が密かに持ち出されないようにしたり、柵で囲まれた場所で働いたり暮らしたりすることを許可された人々のみがそこに入るようにしたりするよう確実にする任務を担っていました。中心の採掘地域の周りには10の番所がありました。また、政府が直接管理し、150ほどの近隣の村を抱えていた「銀山御料」という地域一帯にはさらに多くの番所がありました。

本谷口では18世紀後期まで石見銀山における主要な採掘場の1つであった本谷（「主要な谷」の意）への入り口を監視していました。石見銀山で最も多く鉱石が取れた坑道や縦坑のいくつかが本谷にあり、非常に多くの鉱山労働者やその家族たちがその地域に暮らしていました。このことにより、本谷口とその近くにある水落口という2つで対となる番所は石見銀山の取り締まりにおいて主要な地点となりました。番所の建物の跡は一切残っていませんが、道端にある小さな土塁がその場所を示しています。

【タイトル】 石銀集落跡

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**石銀矿村遗址**

石見銀山自 16 世紀中期開始逐步擴大在仙之山周邊的開採規模。就在距離仙之山頂峰不遠的地方，有一片長著低矮的綠草、相對平坦寬敞的階梯狀台地，這裡在 17 世紀早期曾出現過一個蓬勃發展的礦山大社區「石銀」。在本地銀礦產業鼎盛時期，有一條幹道順著山坡往下，一直延伸到銀山的另一處重要採礦中心「本谷」。這條道路寬 2 米左右，部分路段現已修復，道路兩旁曾並排坐落了許多房屋。從這裡出土的冶煉坑遺存、碎礦石和其他各類物品推測，當年的礦工和家屬就在家裡分選附近礦坑中開採出的銀礦石，再熔煉、精煉，最後提煉成白銀。由於當時這些房屋既是住宅也是作坊，出於防火考慮，所有房屋都使用粘土築牆，而生活必需的淡水則取自附近的一口井。

一處住宅兼作坊的礦工民居的部分石頭地基現已修復，該民居位處礦村遺址中心附近，正對一條狹窄的礦道。在 20 世紀 90 年代對這處遺址的考古發掘中，出土了石見銀山近代史上最重要的文物：一口 16 世紀運用灰吹法提煉白銀的鐵鍋。灰吹法是提煉高質白銀的關鍵性工藝，於 1533 年自朝鮮半島傳入石見銀山。此前，相關記載僅見於文獻，石銀出土的這口鐵鍋是證明石見銀山應用灰吹法的第一個實物證據。

石銀的考古發掘同樣有助於了解石見銀山的礦工社區結構。當時，採礦、煉銀似乎都以家庭為單位展開。遺址中最令人動容的發現是一枚用婦人頭髮編成的護身符，這應該是妻子送給丈夫的幸運符，為了保佑他在井下平安無事。

<繁体字>**石銀礦村遺址**

石見銀山自 16 世紀中期開始逐步擴大在仙之山周邊的開採規模。就在距離仙之山頂峰不遠的地方，有一片相對平坦寬敞的階梯狀台地，上面長著低矮的綠草。很難想像在 17 世紀早期，這裡曾出現過一個蓬勃發展的礦山大聚落「石銀」。在本地銀礦產業鼎盛時期，有一條幹道順著山坡往下，一直延伸到銀山的另一處重要採礦中心「本谷」。這條道路寬約 2 公尺，部分路段現已修復，道路兩旁過去曾並排著許多房屋。從這裡出土的冶煉坑遺存、碎礦石和其他各類物品推測，當年的礦工及其家眷就在住宅附近分選從礦坑中開採出的銀礦石，再熔煉、精煉、提煉成白銀。由於當時這些房屋既是住宅也是作坊，出於防火考慮，所有房屋都使用粘土築牆，而生活必需的淡水則取自附近的一口井。

一處住宅兼作坊的礦工民居的部分石頭地基現已修復，該民居位於礦村遺址中心附近，正對一條狹窄的礦道。在 1990 年代的考古發掘中，出土了石見銀山近代史上最重要的文物：一口 16 世紀運用灰吹法提煉白銀的鐵鍋。灰吹法是大量提煉高質量純銀的關鍵技術，於 1533 年自朝鮮半島傳入石見銀山。此前，相關記載僅見於文獻，石銀出土的這口鐵鍋是證明石見銀山應用灰吹法的第一個考古證據。

石銀的考古發掘同樣有助於瞭解石見銀山的礦工社區結構。當時，採礦、煉銀似乎都是以家庭為單位展開。遺址中最令人動容的發現是一枚用婦人頭髮編成的護身符，這應該是妻子送給丈夫的幸運符，以祈求他在井下平安無事。

<日本語仮訳>

石銀集落跡

石見銀山では、仙ノ山の周辺の採掘が 16 世紀中頃より拡大していきました。その山の頂上付近には、比較的平坦で、背丈の低い草に覆われた、階段状の広々とした土地があります。ここは 17 世紀初期に鉱山労働者たちによる主要な共同体が栄えた「石銀」という場所です。石見銀山が最も繁栄した時期に、石銀の集落から丘の斜面を下り、もう一つの重要な採掘拠点だった「本谷」へとつながる主要道路がありました。幅が 2 メートルほどあるこの道は、部分的に再建されていて、両側には数々の建物が並んでいます。精錬用の坑道の遺跡や、押しつぶされた鉱石、そして、ここから発掘されたその他の品々からも分かるように、鉱山労働者とその家族たちは、これらの家々の中で、近くの坑道から採り出した銀の鉱石を選鉱し、溶解し、精錬しながら、生活と労働の両方を行っていたのです。これらの家々には火事の防止のために土壁が使われていました。また、このように孤立した場所での生活にとって欠かせない新鮮な水は近くの井戸から運ばれていました。

ある鉱山労働者の家および作業場に使われていた石の基礎が、石銀集落跡の中心地の近く、狭い坑道の前に部分的に復元されています。1990 年代に行われたこの集落跡の発掘では、石見銀山の近代の歴史における最も重要な考古学的発見の 1 つがありました。灰吹法を用いた銀の精錬に利用された 16 世紀の鉄鍋が見つかったのです。当時高品質の銀を生産するための鍵であったこの技術は、1533 年に朝鮮半島から日本に導入されたと歴史的な文書では示唆されていますが、石銀で見つかった鉄鍋は灰吹法と石見銀山とを結び付ける最初の物的証拠でした。

石銀での発掘は石見銀山の鉱山労働者らによる共同体の構造を解明する手助けともなりました。銀の採掘と加工はしばしば家族単位でそれぞれの家族が一緒になって行っていた仕事だったようです。集落跡での感動的な発掘物の 1 つが女性の髪の毛を結んで作ったある種のお守りです。おそらく、妻が採掘場での安全のために夫に渡した幸運のお守りだったのでしょうか。

【タイトル】石銀千疊敷集落跡

【想定媒体】WEB

<簡体字>

石銀千疊敷礦村遺址

17 世纪早期，靠近仙之山峰顶的一处相对平坦的阶梯状大台地上，分布着石银、石银藤田、石银千疊敷等好几个矿村。在石见银山最鼎盛时期，矿村都集中在一条坡道周围。这条坡道通往山下另一个重要的采矿中心“本谷”，宽约 2 米，如今部分路段已经重建。

石银千疊敷位于台地东南侧，20 世纪 90 年代，这里发现了冶炼坑遗存、碎矿石和其他各种文物。从考古物证推测，当年的矿工及其家人就在这里生活和工作，他们从附近矿坑开采银矿石后在此选矿、熔炼、精炼。由于当时都是住宅兼作坊，出于防火考虑，矿工的房子都以粘土筑墙。生活必需的淡水则取自附近的一口井。这里曾经是一个大社区，从它的名字“千疊敷”（意为“一千张榻榻米”）便可知其规模。虽说如今已没有任何建筑遗存，但在山壁上还能看到好几条矿道的入口。这些矿道都是借助凿子和锤子人工开凿的，耗时费力，因此非常狭窄，只够一名矿工勉强通过。

<繁体字>

石銀千疊敷礦村遺址

17 世紀早期，仙之山峰頂附近相對平坦的階梯狀大台地上分布著石銀、石銀藤田、石銀千疊敷等數個礦村。在石見銀山最鼎盛時期，礦村都聚集在通往另一處主要採礦中心「本谷」的道路兩旁。這條沿山坡往下的道路當初寬約 2 公尺，如今部分路段已重建。

石銀千疊敷位於台地東南側，1990 年代在此發現了冶煉坑遺存、碎礦石，並出土不少文物。從中可以推斷，當年的礦工及其家眷就是在此地生活和工作。他們從附近礦坑中開採銀礦石後，在這裡進行選礦、熔煉、精煉。礦工的家同時也是作坊，出於防火考量，房屋使用黏土築牆。民生必需的飲用淡水，則取自附近的一口井中。正如村名「千疊敷」（意為「一千張榻榻米」）所指稱的，過去這裡曾經是一個大型聚落。雖說如今已沒有任何建築遺存，但在山壁上仍可看到數條礦道的入口。這些礦道僅依靠鑿子和錘子等工具人工開鑿而成，耗時費力，因此非常狹窄，只夠一名礦工勉強通過。

<日本語仮訳>

石銀千疊敷集落跡

17 世紀初期に、仙ノ山の山頂近くにあった比較的平坦で、階段状になった広々とした土地には、石銀、石銀藤田、石銀千畳敷などといったいくつかの集落がありました。石見銀山が最も繁栄した時期に、人々が暮らしていたこれらの集落は、もう 1 つの重要な採掘拠点だった本谷への斜面を下る道を中心に広がっていました。幅 2 メートルほどあったこの道は、いまでは部分的に再建されています。

1990 年代にこの台地の南東側、かつて石銀千畳敷だった場所で、精錬用の坑道の遺跡や余った鉱石、そしてその他の考古学的物証からも分かるように、鉱山労働者とその家族たちはこの場所で、近くの坑道から採掘した銀の鉱石を選鉱し、溶解し、精錬しながら、生活と労働の両方を行っていたのです。作業場としての役割も果たしていた彼らの家々には、防火対策として土壁が使われていました。また、生活にとって欠かせない新鮮な水は、近くの井戸から運ばれていました。かつて大きな共同体があった場所には（「千枚の畳」を意味する千畳敷の名前もそのことを示唆しています）建物は一切残っていませんが、丘の斜面沿いにはいくつかの坑道の穴が見られます。坑道はのみと槌だけを使って掘られており、時間と労力をかけて出来上がった穴は鉱山労働者が 1 人なんとか通れるほどの広さとなっています。

【タイトル】 栃畑谷集落跡

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

栃畑谷矿村遗址

栃畑谷（栃畑，音同“历田”）曾是石见银山最古老的一处矿村，历史可以追溯到 16 世纪中期。村落在 16 世纪晚期至 17 世纪早期，随着银矿开采的发展而逐渐繁荣，至少江户时代(1603-1867)中期仍有人在此生活。矿工在山谷内阶梯式的台地上修筑房屋，与家人一同居住。据江户时代有关记载显示，当时可能还有几座佛寺供居民参拜。虽然房舍佛寺皆已不存，加固台阶状地面的石墙残垣却依然可见。此外，在山壁上还能看到好几个矿道的入口。

除了人类居住的悠久历史之外，栃畑谷还有一个特殊之处，它是石见银山中的一处国际化社区。矿村相关记载显示，这里曾经有朝鲜人和中国人居住，他们可能是技术顾问，来日本传授先进的矿石加工技术。灰吹法便是其中之一，这种工艺起源于朝鲜半岛，于 1533 年传入石见银山。这一年也被视为石见银山矿业史上的转折点，正是由于灰吹法的传入，批量提炼高纯度白银才成为了可能，石见银山也才能对 16 世纪中叶以后的全球经济产生重大影响，闻名于世。

<繁体字>

栃畑谷礦村遺址

栃畑谷（栃畑，音同「曆田」）曾是石見銀山年代最古老的礦村，歷史可以追溯到 16 世紀中期。村落在 16 世紀晚期至 17 世紀早期，隨著銀礦開採而逐漸繁榮，至少江戶時代（1603-1867）中期仍有人在此生活。礦工在山谷內階梯式的台地上修築房屋，與家人同住。據江戶時代相關記載顯示，當時栃畑谷周圍可能還有數座佛寺供居民參拜。雖說房舍佛寺皆已不存，加固台階狀地面的石牆殘垣卻仍舊可見。此外，在山壁上還能看到數個礦道的入口。

除了是石見銀山地區最早形成的大型聚落之外，栃畑谷還是一處國際化村莊。礦村相關記載顯示，過去曾經有朝鮮人和中國人居住在此，他們可能是技術顧問，來日本傳授先進的礦石加工技術。起源於朝鮮半島、於 1533 年傳入石見銀山的灰吹法便是其中之一。1533 年這一年也被視為石見銀山礦業史上的轉捩點，正是由於灰吹法的傳入，大量提煉高純度白銀才成為了可能，石見銀山也才能對 16 世紀中葉以後的全球經濟產生重大影響，聞名於世。

<日本語仮訳>

栃畑谷集落跡

栃畑谷は石見銀山で最も古い鉱山労働者たちの共同体の1つがあった場所です。遡ること16世紀の中頃に出来た栃畑谷の集落は、16世紀後期と17世紀初期に銀鉱が栄えるのに伴って拡大し、少なくとも江戸時代（1603–1867）の中頃までは人々が暮らしていました。鉱山労働者とその家族たちは平坦で階段上になった土地の上に建てられた家々に暮らしていて、江戸時代の栃畑谷に関する記述に登場するいくつかの寺を参拝していたと考えられます。家や仏閣は一切残っていませんが、台地を補強するために建てられた石の擁壁は今でも見ることができます。丘の斜面にはいくつかの坑道の入り口も見られます。

早くから人々が定住していただけでなく、栃畑谷は石見銀山においてより国際的な共同体の1つであったことも注目に値します。集落に関する記録に登場する韓国人や中国人の居住者たちは、日本へと高度な鉱石加工技術の知識を伝える手助けをした技術顧問だったかもしれません。こうした技術の1つが、朝鮮半島で発明され、1533年に石見銀山に伝えられた銀を精錬する技法である灰吹法です。この年は石見銀山の歴史におけるターニングポイントとみなされています。石見銀山を有名にし、16世紀中期以降の世界経済へと貢献した、高純度の銀を大量に生産することを可能にしたのが灰吹法だったからです。

【タイトル】 昆布山谷集落跡

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

昆布山谷矿村遗址

昆布山谷距离龙源寺“间步”（矿坑通道）入口只有 200 米，后者是石见银山最重要的景点之一。16 世纪晚期至 17 世纪早期，本地的银矿采掘产业如火如荼，兴建的大型矿村占据了昆布山谷的整片山坡。矿工的住宅和矿石冶炼设施建在平坦的阶梯状台地上，离许多深入岩层里的矿道都不远。昆布山谷矿村在数百年间逐步发展，直至明治时代(1868-1912)依然有人居住。昆布山谷矿村之所以能存续如此长久，这在一定程度上得益于它相对便利的地理位置。矿村靠近仙之山山脚，周围便是银矿。然而，低洼的地势也如同达摩克利斯之剑，昆布山谷常常遭遇洪水袭击，有时会蒙受巨大的损失。

山谷的高处便是新横相间步。这条矿道于江户时代(1603-1867)中期开掘，见证了昆布山谷矿工聪明才智。为了挖到垂直分布的银矿脉，新横相间步的矿道相对山壁呈水平微向上倾斜走向，以便将采矿时渗出的地下水顺势排出坑道。而传统矿道通常都顺着一条或多条矿脉的走向往下挖掘，这样坑道内早晚会被渗出的地下水淹没。除了在矿道挖掘上有突破创新之外，昆布山谷的矿工们还灵活机变，在本地银矿资源耗竭后转而投身铜矿开采。进入明治时代后，这种积极奋进的姿态依然未变。当时藤田组拿到了石见银山的开采权，在这处山谷里建起了现代化的选矿和冶炼设施。19 世纪末 20 世纪初，所有生产转移到相距不远的柑子谷区域，持续采矿近 350 年的昆布山谷终重归宁静。

<繁体字>

昆布山谷礦村遺址

昆布山谷距離龍源寺「間步」（礦坑通道）僅 200 公尺之遙，後者是石見銀山最重要的景點之一。16 世紀晚期至 17 世紀早期，本地的銀礦採掘產業如火如荼，興建的大型礦村佔據了昆布山谷的整片山坡。礦工的住宅和礦石冶煉設施建在平坦的階梯狀台地上，離許多深入岩層裡的礦道都不遠。昆布山谷礦村在數百年間逐步發展，直至明治時代（1868-1912）仍有人居住。昆布山谷礦村之所以能存續如此長久，這在一定程度上得益於它便利的地理位置。礦村靠近仙之山山腳，周圍便是銀礦。然而，低窪的地勢也常常讓昆布山谷因此遭遇洪水襲擊，時而會蒙受巨大的人員及經濟損失。

山谷的高處便是新橫相間步。這條礦道於江戶時代（1603-1867）中期開掘，見證了昆布山谷礦工的聰明才智。為了挖到垂直分布的銀礦脈，新橫相間步的礦道相對山壁呈水

平微向上傾斜走向，這樣就能把採礦時滲出的地下水順勢排出坑道。而傳統礦道通常都順著一或多條礦脈的走向往下挖掘，這樣坑道內早晚會被滲出的地下水淹沒。除了在礦道挖掘上有突破創新之外，昆布山谷的礦工們還隨機應變，在本地的銀礦資源耗竭後轉而投身銅礦開採。進入明治時代後，這種不屈不撓的姿態依然未變。當時藤田組拿到了石見銀山的開採權，在這處山谷裡建起了現代化的選礦和冶煉設施。19 世紀末 20 世紀初，所有生產轉移到相距不遠的柑子谷區域，持續採礦近 350 年的昆布山谷終於重歸寧靜。

<日本語仮訳>

昆布山谷集落跡

石見銀山における中心的な名所の 1 つである龍源寺「間歩」（鉱坑）への入り口から 200 メートルほど離れた所にあるのが昆布山谷です。銀鉱が 16 世紀後期から 17 世紀初期にかけて栄えると、丘の斜面一帯に大きな集落が造られました。岩盤へと掘られた多くの坑道に近接した場所にある、平坦で階段状になった土地の上には、家々や銀を加工するための施設が建設されました。昆布山谷の集落は長きにわたり存続することとなりました。集落は数世紀にもわたって段々と拡大していき、明治時代（1868-1912）までは人々が暮らしていました。集落がこれほど長く存続した理由の 1 つが、石見銀山付近にある仙ノ山の麓に近いという比較的便利な立地でした。しかし、集落が低地にあったことは災いの元ともなりました。昆布山谷はしばしば洪水に見舞われ、時には深刻な被害を受けることがあったのです。

昆布山谷の上側には新横相間歩があります。新横相間歩は江戸時代（1603-1867）中頃に開発されたもので、昆布山谷の鉱山労働者たちの創意工夫の証となっています。垂直に伸びる銀脈に届くように、新横相間歩は山腹に対して水平かつやや上向きの角度で掘られています。こうすることで採掘により出てきた地下水が流れ出すのです。従来の坑道は 1 つ以上の銀脈に対して並行して真っすぐ下向きの角度で掘られていました。しかし、そうした坑道は遅かれ早かれ水でいっぱいになってしまいます。こうした革新的なタイプの坑道を開発したことに加えて、昆布山谷の鉱山労働者たちは、その地域に埋まる銀が掘り尽くされると、銅の採掘を始めました。こうした取り組みは明治時代でも続けられました。明治時代に藤田組という企業が石見銀山の権利を手に入れると、近代的な鉱石の選鉱および精錬施設を昆布山谷に建設したのです。それらの機能は 20 世紀に入る頃に近くにある柑子谷の地域へと移されました。こうして 350 年間近く採掘が行われてきた昆布山谷に静寂が訪れたのです。

【タイトル】 吉岡出雲の墓

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**吉岡出云墓**

在银山川河岸旁一片深林覆盖的高坡上，有一座孤伶伶的坟茔，墓主名叫吉冈隼人，是曾在17世纪早期对日本全国金银矿开采起到过重要推动作用的人物。吉冈隼人出生于和泉国（今大阪府附近；“国”为日本古代行政区划，并非国家），最初为毛利家族服务。从1562年开始，石见银山的银矿资源为毛利家族所掌控，吉冈隼人担任石见银山的矿务官员。此时的吉冈隼人便以高超的经营管理水平和探矿能力闻名。1600年，德川幕府(1603-1867)创立者德川家康(1543-1616)取得了石见银山的控制权，随即便指派心腹大久保长安(1545-1613)监管矿山地区。大久保长安是一名经验丰富的管理者，懂得区分政治与实务，任用专业的人才做专业的事，果断将吉冈隼人招入了麾下。

大久保长安先后将吉冈隼人派往幕府直辖的多处矿山，包括伊豆（今静冈县）的银矿山、佐渡岛（今新潟县）的相川金银矿山等。吉冈隼人不负所望，取得了令人瞩目的成就，也为自己赢得了声望、财富和“出云”这一荣誉称号。这个称号源自石见银山以东的出云国，由幕府将军德川家康赐予，同时赐下的还有一领“辻花染丁字文道服”（辻，音同“十”）。这件道服（和服的外套）已被指定为国家重要文化财产，现藏于京都国立博物馆。1614年，吉冈出云去世，被葬于本地最受尊崇的宗教场所极乐寺。极乐古寺早已不存，但由其后人于1813年重立的吉冈出云墓碑，至今依然矗立在当年寺院墓地的旧址上。

<繁体字>**吉岡出雲墓**

在銀山川河岸旁一片深林覆蓋的山坡上，有一座孤伶伶的墳塋，裡面埋葬了17世紀早期日本開採金銀礦的推手——吉岡隼人。吉岡隼人出生於和泉國（今大阪府附近；「國」為日本古代行政區劃，並非今日所指稱的國家），最初服務於毛利家。自1562年始，石見銀山的銀礦資源為毛利家所掌控，吉岡隼人遂擔任石見銀山的礦務官員。此時的吉岡隼人以高超的經營管理水準和探礦能力聞名。1600年，德川幕府（1603-1867）創立者德川家康（1543-1616）取得了石見銀山的控制權，隨即指派心腹大久保長安（1545-1613）監管礦山地區。大久保長安具有豐富的管理經驗，懂得區分政治與實務，用人唯才，果斷將吉岡隼人納入麾下。

大久保長安先後將吉岡隼人派往幕府管轄的多處礦山，包括伊豆（今靜岡縣）的銀礦山、佐渡島（今新潟縣）的相川金銀礦山等。吉岡隼人不負所望，取得了令人矚目的成就，也為自己贏得了聲望、財富和「出雲」這一尊稱。「出雲」源自石見銀山以東的出雲國，由幕府將軍德川家康賜予。與稱號同時賞賜的還有一領和服的外套——「辻花染丁字文道服」（辻，音同「十」），已被指定為國家重要文化財產，現藏京都國立博物館。1614年，吉岡出雲去世，被葬於本地最受尊崇的宗教場所極樂寺。儘管極樂古寺早已不存，但由其後人在1813年重立的吉岡出雲墓碑，至今依然矗立在當年寺院墓地的舊址上。

<日本語仮訳>

吉岡出雲の墓

銀山川より遥か高い場所にある、木々に覆われた丘の中腹に、17世紀初期に日本中で金銀の採掘を促進するのに重要な役割を担った男の墓がぼつんと建っています。和泉国（現在の大阪の近く、古代日本の行政区画、現在の「国」と異なる）に生まれた吉岡隼人は元々、毛利家が1562年から管理していた石見銀山で採掘に携わる毛利家の役人として働いていました。当時の吉岡はすでに経営技術と銀脈を発見する能力によって評価されていました。徳川幕府（1603-1867）の創設者として知られる徳川家康（1543-1616）が石見銀山の支配権を1600年に得ると、家康は最も信頼する1人であった大久保長安（1545-1613）を鉱山の監視役として任命しました。優れた経営者であった大久保は、政治は政治家に任せ、専門職はこの道のプロに任せると、吉岡を採用したのでした。

大久保は吉岡に任務を与え、幕府が管理していたいくつかの鉱山へと送りました。その鉱山には伊豆（現在の静岡県）の銀鉱山や、佐渡島（新潟県）の相川金銀山が含まれていました。吉岡は素晴らしい成果を上げ、名声、富、そして「出雲」という尊称を手に入れました。出雲という名前は石見銀山の東に位置する国から取ったもので、将軍徳川家康により賜りました。同時に拝領した羽織である「辻が花染丁字文道服」は、国の重要文化財として京都国立博物館に収蔵されています。1614年に死去すると、吉岡出雲はその地域で最も名誉ある寺社の1つであった極楽寺に埋葬されました。極楽寺はずいぶん前に無くなってしまっていますが、1813年に彼の子孫たちによって再び立てられた吉岡出雲の墓石は、かつて寺の墓地があった場所に残されています。

【タイトル】 石見銀山大盛祈願道場碑

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

石见银山大盛祈愿道场碑

当年龙昌寺的所在之地，如今已化为土路尽头一片静谧的小树林。一路行来，只有矗立在路旁的一块石碑，在向来访者诉说着此地往昔的辉煌。碑上刻着“银山大盛祈愿道场碑”的字样，表明龙昌寺是当初举办矿山丰产祈祷仪式的三处宗教场所之一。这项仪式在新年的第 20 日举行，届时，代表幕府管理本地的行政长官“代官”会亲自前往龙昌寺、昆布山谷的佐毗卖山神社和大森町内的观世音寺三处宗教场所参拜祈福。为什么是这三个地方，原因已无法确切考证，但看起来它们都深得“代官所”（幕府在地方的代表处）青睐。此外，龙昌寺属禅宗曹洞宗寺院，佐毗卖山神社是神道教神社，观世音寺则是佛教真言宗寺院，这也折射出石见银山地区宗教的多样性，同时也说明无论是以出身地还是社会背景来看，本地的人口构成都十分多元化。

<繁体字>

石見銀山大盛祈願道場碑

當年龍昌寺的所在之地，如今已化為土路盡頭一片靜謐的小樹林。一路行來，只有一塊矗立在路旁的石碑，在向遊客訴說著此地往昔的輝煌。該碑上刻著「銀山大盛祈願道場碑」，表明龍昌寺是當初舉辦礦山豐產祈禱儀式的三處宗教場所之一。這項儀式於新年的第 20 日舉行，屆時，代表幕府管理石見銀山地區的行政長官「代官」會親自前往龍昌寺、昆布山谷的佐毗賣山神社和大森町內的觀世音寺三處宗教場所參拜祈福。關於為何是在這三處場所祈福的原因尚未查清，估計它們與當時的「代官所」（幕府在地方的代表處）關係密切。此外，龍昌寺屬禪宗曹洞宗寺院，佐毗賣山神社是神道教神社，觀世音寺則是佛教真言宗寺院，這也反映了石見銀山地區宗教的多樣性，同時也說明無論是以出身還是社會背景來看，本地人口組成十分多元。

<日本語仮訳>

石見銀山大盛祈願道場碑

かつて龍昌寺があった場所は、今では舗装されていない道の終わりにある静かな林になっていて、その道の脇にあるたった 1 つの石碑が訪れた人々にその場所の輝かしい過去を思い起こさせるばかりで

す。石碑には「銀山大盛祈願道場碑」と刻まれています。これは、龍昌寺が採掘において実りある 1 年になるようお祈りを捧げる毎年恒例の儀式のために選ばれた 3 つの寺社の 1 つであったことを示しています。儀式は新年の 20 日目に行われ、龍昌寺、昆布山谷の佐毘売山神社、そして大森の町にある観世音寺を訪れてお祈りを行う代官（石見銀山における徳川幕府の代表者）が参加していました。これら 3 つの寺社が選ばれた理由ははっきりしていませんが、いずれも「代官所」（地方における幕府の出先機関）からの勲賞を享受していたようです。曹洞禅寺である龍昌寺、神社である佐毘売山神社、そして真言宗の観世音寺が選ばれたということは、出身地と社会的背景の両方において多様な住民がいた石見銀山の宗教的多様性を反映しているのでしょう。

【タイトル】 清水寺

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**清水寺**

清水寺是一座真言宗寺院，自 16 世纪下半叶开始，便在石见银山的历史上占据着非常重要的位置。寺院最初建于仙之山的半山处，周围遍布银脉，武将家族和平民都对其十分尊崇。1602 年，一位名叫安原传兵卫的探矿人找到了石见银山储量最丰富的一处银矿脉。传说，在发现这条主矿脉之前，安原传兵卫曾经前往清水寺参拜祈福。后来，由于对幕府国库贡献巨大，安原传兵卫得到幕府将军德川家康(1543-1616)嘉奖，受赐一件华美的道服（和服的外套）。作为回报，他将道服捐给了清水寺。如今，这件道服已被指定为国家重要文化财产，仍归清水寺所有，但收藏于京都国立博物馆内。

清水寺于 1878 年迁至现址，将这里原有的一处佛教建筑改建为寺院本堂（正殿）。本堂内供奉一尊贴金的十一面大慈大悲观音像，格子天花板上饰有为寺院捐资的武士及商人家族的家纹。清水寺如今的山门是 1931 年从另一座废弃的寺院移来的，那座寺院曾经管理着石见银山的主神社——佐毗卖山神社。清水寺的山门两旁立有石像护卫，右边是不动明王，他是佛教中的五大明王之一，随时准备向恶魔和其他佛教之敌释放怒火；左边是毗沙门天，他是四天王之首，也是法力高强的守护神。

<繁体字>**清水寺**

清水寺屬真言宗寺院，自 16 世紀下半葉開始，便在石見銀山的歷史上佔據重要的地位。寺院最初建於仙之山的半山處，周圍遍布銀脈，武將家族和平民都對其十分尊崇。據說 1602 年探礦人安原傳兵衛在石見銀山發現了迄今為止儲量最豐富的一處銀礦脈。相傳在發現這條主礦脈之前，安原傳兵衛曾經前往清水寺參拜祈福。後來，由於銀礦脈的發現對幕府國庫貢獻巨大，安原傳兵衛得到德川家康（1543-1616）賞賜的道服（和服的外套）。作為回報，他將道服捐給了清水寺。如今，這件道服被指定為國家重要文化財產，歸清水寺所有，但收藏於京都國立博物館內。

清水寺於 1878 年遷至現址，將這裡原有的一處佛教建築改建為寺院本堂（正殿）。堂內供奉一尊貼金的十一面大慈大悲觀音像，格子天花板上飾有為寺院捐資贊助的武士及商人家族的家紋。清水寺如今的山門是 1931 年從另一座廢棄的寺院移來的，那座寺院曾經管理著石見銀山的主神社——佐毗賣山神社。清水寺的山門兩旁立有石像護衛，右邊是不動

明王，祂是佛教中的五大明王之一，隨時準備向邪魔和其他佛教之敵釋放怒火；左邊則是毗沙門天，祂是四天王之首，也是法力高強的守護神。

<日本語仮訳>

清水寺

清水寺は真言宗の寺であり、遡ること 16 世紀後半より始まった石見銀山の歴史において大いに際立つ存在でした。清水寺は周囲に銀脈の広がる仙ノ山の山腹に元々は位置していて、武将たちからも平民たちからも崇敬の念を集めていました。石見銀山で最も豊かな銀脈の 1 つを発見した探鉱者である安原伝兵衛が、1602 年に主脈にたどり着く前にお祈りをした場所が清水寺であったと言われています。将軍徳川家康（1543–1616）から安原が幕府の財源へと貢献したことへの褒美として受け取った華麗な道服（羽織）は清水寺に寄付されました。国の重要文化財に指定されたこの道服は、いまでも寺の所有物ではありますが、現在は京都国立博物館にて保管されています。

清水寺は 1878 年に現在の位置に移され、元々その敷地内にあった仏閣は清水寺の本堂として新たに使われることとなりました。本堂には 11 の頭を持つ慈悲深い菩薩である十一面観音の金箔像が祀られており、格子状の天井は清水寺に寄進した武士や商人たちの家紋で飾られています。清水寺の現在の正門は 1931 年に付け加えられたもので、廃れてしまった寺から移されたものです。その寺はかつて石見銀山における主要な神社である佐毘売山神社を管理する寺でもありました。正門は一对の石像によって守られています。右側には五大明王の一尊であり、悪魔やその他の仏教の敵へとその怒りをいつでも解き放てるよう用意している不動明王で、左側には四天王の中でも最高位を占め、強力な守護神である毘沙門天が立っています。

【タイトル】 妙正寺

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**妙正寺**

妙正寺是一座日蓮宗佛寺，規模不大，位於銀山川河岸步道邊，俯瞰著下方的銀山町。寺院建於 1514 年，落成後便吸引了周邊地區眾多信徒。日蓮宗教義鼓勵追求現世及來世的物質、精神雙重回報，因此尤其得到了許多石見銀山商人的青睞。妙正寺的香火綿延了數百年，這一點，山坡上的大片墓地便能證明。墓地中最古老的墳塋可以追溯到 16 世紀，最新的則建於 20 世紀。1943 年的一場大洪水和隨之發生的山體滑坡破壞了周圍的環境，寺院和墓地也嚴重受損，好在後來都得到了重建。寺院殿閣前方的小型現代墓地裡只留存了少量墓碑，大多數都被掩埋在了山坡上的樹木和灌木叢之下。

<繁体字>**妙正寺**

妙正寺是一座日蓮宗佛寺，規模不大，位於銀山川河岸步道邊，俯瞰著下方的銀山町。該寺建於 1514 年，建成後便吸引了周邊地區眾多信徒。日蓮宗鼓勵追求現世及來世的物質、精神雙重回報，尤其得到石見銀山商人的青睞。從山坡上大片的墓地便能看出妙正寺的香火綿延了數百年。這片墓地最古老的墳塋可以追溯到 16 世紀，最近期的則建於 20 世紀。1943 年的一場大洪水和隨之發生的山體滑坡破壞了周圍的環境，寺院和墓地也嚴重受損，好在後來都得到了重建。寺院殿閣前方的小型現代墓地裡只存下少量墓碑，大多數都掩埋在了山坡上的樹木和灌木叢之下。

<日本語仮訳>**妙正寺**

妙正寺は日蓮宗の小さなお寺で、銀山町の地域を見下ろす銀山川沿いの歩道に面して建っています。このお寺は 1514 年に建てられ、周辺地域で信仰を集めました。そうした人々の多く、特に石見銀山の商工業者らは、現世と来世における精神的・物質的な救済を求めることを奨励する日蓮宗の教えに惹かれていたのです。妙正寺が数百年もの間人々の信仰を集めたことは、1500 年代から 20 世紀までの日付が刻まれた墓石がある山間の大きな墓地によって裏付けられています。お寺も墓地も、周辺を荒廃させた 1943 年の洪水と度重なる山崩れの甚大な被害を受けましたが、のちに再建され

ました。お寺の建物の前の小さな、現代的な墓地にはごく一部の墓石が残るだけで、そのほとんどは木や斜面の藪の下に埋もれています。

【タイトル】 大安寺跡

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

大安寺遗址

大安寺是一座净土宗佛教寺院，建于 1605 年，原本是为首任“石见银山奉行”（当地最高行政长官）大久保长安(1545-1613)身后长眠而准备的菩提寺（安葬并祭祀祖先的家庙）。他是一名经验丰富的管理者，尤其精通矿业事务。1600 年，德川幕府(1603-1867)创立者德川家康(1543-1616)取得了石见银山的控制权，随即指派大久保长安监管当地的矿山资源。大久保长安为石见银山进入全盛期奠定了基础。他的功绩得到肯定，后来被擢升到更高的职位，掌管幕府旗下多处储量最丰富的贵金属矿资源。

大久保长安享年 69 岁，但他在大安寺的墓地很久以前便已准备就绪。与其说这是埋骨之地，倒更像一座纪念碑。后来，越来越多的本地人选择安葬在这位大名鼎鼎的银山长官旁边，于是这里渐渐形成了一片公墓。1943 年，一场大洪水和随之发生的山体滑坡摧毁了寺院建筑。如今，只有包括大久保长安墓碑在内的部分墓地依然留存。来访者可从银山川的河岸步道沿石阶登山前往。

<繁体字>

大安寺遗址

大安寺屬淨土宗佛教寺院，建於 1605 年，原本是作為首任「石見銀山奉行」（當地最高行政長官）大久保長安（1545-1613）身後長眠而興建的菩提寺（安葬並祭祀祖先的家廟）。大久保長安具有豐富的管理經驗，尤其精通礦業事務。1600 年，德川幕府（1603-1867）創立者德川家康（1543-1616）取得了石見銀山的控制權，隨即指派他監管當地礦山資源。大久保長安為石見銀山進入全盛期奠定了基礎。他的功績得到肯定，後來被擢升到更高的職位，掌管幕府旗下多處儲量最豐富的貴金屬礦資源。

大久保長安享年 69 歲，在他生前，大安寺的墓地便已準備就緒。與其說這是他的長眠之地，倒不如說是一座功勳紀念碑。後來，越來越多的本地人選擇安葬在這位大名鼎鼎的首任石見銀山奉行旁邊，於是這裡漸漸形成了一片公墓。1943 年，一場大洪水和隨之發生的山體滑坡摧毀了寺院建築。如今，只有包括大久保長安墓碑在內的部分墓地依然留存。遊客可從銀山川的河岸步道沿石階登山前往。

<日本語仮訳>

大安寺跡

大安寺は、初代の「石見銀山奉行」（現地行政最高責任者）であった大久保長安（1545-1613）の菩提寺（先祖代々の墓があり、法要を行う寺院）として1605年に建てられた浄土宗のお寺です。有能な官僚であり、鉱山に関する知識に長けていた大久保は、徳川幕府（1603-1867）を開いた将軍、徳川家康（1543-1616）が1600年に石見銀山の支配権を得るとすぐに現地の鉱山の監視役として任命しました。大久保はが石見銀山の全盛を迎えるための基礎を築いたと評されており、のちに貴金属が最も豊富な土地の多くを監督する立場に登用されることになりました。

大安寺にある大久保の墓は、遺骨を埋葬するものというよりも記念碑で、69歳で亡くなるよりずっと以前に用意されたものでした。名高い銀山奉行を祀る土地に埋葬されたいと望む人々が多く、墓地はのちにその墓の周りに広げられました。大安寺は1943年まで残っていましたが、大洪水や度重なる山崩れによって建物が破壊されてしまいました。今では大久保の墓石を含む墓地の一部だけが残り、銀山川の歩道から石段を登って訪れることができます。

【タイトル】 西本寺

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**西本寺**

西本寺与熊谷家族关系密切，数世纪以来，熊谷家族始终是大森町最富有、最有影响力的家族。他们以采矿起家，也在代表幕府管理石见银山地区的“代官所”负责财务、契约和管理等业务。熊谷家族自17世纪初开始逐步扩大势力，几十年后，便将原本位于近邻出云地区的一处净土真宗佛寺搬到了本地，并将寺名改为“西本坊”，最后定名“西本寺”。1867年，寺院本堂（正殿）重建，这是熊谷家族为西本寺做出的最后一项大贡献。但如今提到西本寺，更为人所知的却是它的木制山门。这道山门的历史可以追溯至17世纪初，是本地现存最古老的建筑之一。它原本属于另一座佛教寺院龙昌寺——江户时代(1603-1867)石见银山最有影响力的宗教场所之一。随着1923年银矿关闭，石见银山人口减少，龙昌寺也渐渐没落，到1961年时已彻底荒废。这座历史悠久的珍贵山门随后被移至西本寺。如今，它静静地矗立在这里，无声地诉说着矿山昔日的繁荣。

<繁体字>**西本寺**

西本寺與熊谷家關係密切，數世紀以來，這個家族始終是大森町最富有、最有影響力的地方豪族。他們以採礦起家，也在代表幕府管理石見銀山地區的「代官所」（幕府在地方的代表處）負責財務、契約和管理等業務。熊谷家自17世紀初開始逐步擴大勢力，幾十年後，便將原本位於近鄰出雲地區的一處淨土真宗佛寺遷至大森町，將寺名改為「西本坊」，後定名「西本寺」。1867年，熊谷家最後一次對西本寺進行規模較大的整修，重建了寺院本堂（正殿）。但如今提到西本寺，更為人所知的是它的木製山門。這道山門的歷史可以追溯至17世紀初，是本地現存最古老的建築之一。它原本屬於另一座佛教寺院龍昌寺——江戶時代（1603-1867）石見銀山最有影響力的宗教場所之一。隨著1923年銀礦關閉，石見銀山人口減少，龍昌寺漸漸沒落，到1961年時，已徹底荒廢。這座歷史悠久的珍貴山門隨後被移至西本寺。如今，它靜靜地矗立在這裡，無聲地訴說著礦山昔日的繁榮。

<日本語仮訳>**西本寺**

西本寺は、何世紀もの間大森町で最も財力と影響力を誇っていた熊谷家と関係の深いお寺です。熊谷家は鉱山で財を成しましたが、石見銀山地方における幕府の出先機関「代官所」で財政、契約、管理業務などにも携わりました。熊谷家はその権勢を 1600 年代始めに拡大していき、数十年後に浄土真宗のお寺を近隣の出雲地方から現在の場所へ移築させて寺を西本坊、のちに西本寺へと寺号を改めました。1867 年に再建された本堂は、熊谷家による西本寺への最後の貢献となったもので、現在はその木造の正門がよく知られています。その建立された時代は 1600 年代の始めまで遡り、この地方で最も古い現存する建物の一つということになります。この門はもともと、江戸時代（1603-1867）を通じて石見銀山でもっとも影響力を持っていた寺院のひとつである龍昌寺の境内にあったものです。龍昌寺の繁栄は 1923 年の銀山閉山のあと衰えていき、この地方も人口が減少しました。龍昌寺は 1961 年に廃寺となり、その歴史的価値の高い山門が西本寺に移され、かつての銀山の繁栄を偲ぶものとしてそこに立っています。

【タイトル】 渡辺家住宅

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

渡边家族住宅

渡边家族住宅是银山町内现存唯一一座武士宅邸，江户时代(1603-1867)时位于“银山柵内”（用木柵围绕的石见银山矿区）。此处住宅建于 1811 年，原本是管理银矿事务的中阶官员坂本家族的宅邸，2002 年住宅被指定为国家史迹时，用了当时房主的姓氏“渡边”来命名。坂本家族的第一代家主名叫坂本清左卫门，1604 年被代表江户幕府在当地执政的“代官所”录用，当时，石见银山一应事务均由代官所直接监管。坂本家族世代把持这一职位，后世子孙中也有人经营采矿业务。

此处住宅具备许多武士宅邸的典型特征，比如，威严的大门和围墙、屋前临街的庭园，以及两个不同的出入口——左侧入口较小，供居住者日常使用；右侧的大门连接两间榻榻米房间，只有在特殊场合或接待“奉行”（行政长官）及其他高阶官员等贵宾时才打开。主屋背后还有一座两层楼的仓库和一栋现代建筑。住宅不定期面向公众开放参观。

<繁体字>

渡邊家住宅

渡邊家住宅是銀山町內現存的唯一一座武士宅邸，江戶時代（1603-1867）時位於「銀山柵內」（用柵欄圍繞的石見銀山礦區）。渡邊家住宅建於 1811 年，最初是管理礦山事務的中階官員坂本家的宅第，2002 年住宅被指定為國家史跡時，以當時的屋主姓氏「渡邊」來命名。坂本家的第一代家主名叫坂本清左衛門，他於 1604 年受聘於江戶幕府在當地執政的「代官所」，後者直接監管當時石見銀山相關的各種事務。坂本家世代執掌代官所，後世子孫中也有人經營私人採礦業務。

這處住宅具備許多武士宅第的典型特徵，例如威武的大門和圍牆、屋前臨街的庭園，以及兩個不同的出入口——左側入口較小，供居住者日常使用；右側的大門連接兩間榻榻米房間，只有在特殊場合或接待「奉行」（行政長官）及其他高階官員等貴賓時才打開。主屋背後還有一座兩層樓的倉庫和一棟現代建築。住宅不定期向民眾開放參觀。

<日本語仮訳>

渡辺家住宅

渡辺家住宅は銀山町内で唯一残っている武士の住居で、江戸時代（1603-1867）には「銀山柵内」（木の柵で巡らされた石見銀山）に位置していました。2002年に国指定史跡に指定された時の持ち主の名前「渡辺」からとって命名された住宅は、1811年に坂本家のために建てられました。坂本家は銀山の経営に携わった中級役人で、坂本家の祖、清左衛門は1604年に江戸時代に石見銀山の直接的な統括を行った「代官所」によって雇われました。その役職は子孫によって受け継がれ、子孫の中には鉱山経営を行った者たちもいました。

坂本家の住居には、力強く立派な門と塀、家と外の通りを隔てる庭、2か所にある入口など、武士の居宅として典型的な特徴が多く備わっています。二つの入口のうち、左の小さいほうは住人用、右側の大きいほうは畳敷きの二間に続くもので、特別な時にのみ開かれました。この入口は「奉行」（政務を担当し執行する者）や位の高い役人など重要な客人を迎えるためのものだったのです。母屋の裏には2階建ての蔵とモダンな建物があります。渡辺家住宅は不定期で一般公開されています。

【タイトル】 金森家住宅

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**金森家族住宅**

金森家族住宅以其独特的建筑风貌而闻名，它即便在武士、商人、手工业者的住宅以及神社、佛寺交错相邻的大森町历史建筑群中也十分引人注目。此处宅邸建于1850年，拥有诸多典型的商人住宅特征，如坚固的灰泥墙、装饰着家纹的瓦当、独立的防火仓库等等。不过，它的正门开在房屋侧面的山墙上，这在大森町十分罕见，因为本地绝大多数建筑物的大门都开在朝向街道的长墙面上。此外，金森家族住宅的二楼很高，而且窗户正对街道，这也是本地少有的建筑形式。在江户时代(1603-1867)的大森町，这样的建筑往往招人侧目，因为在当时的观念中，从高处俯视下方路过的高阶官员是十分不妥的行为。不过金森家族住宅高大宽敞的二楼自有它存在的理由，1867年以前，此处建筑一直是官方指定旅馆，为前来大森向幕府在石见银山的代表处“代官所”借钱的贷款者提供住宿。

<繁体字>**金森家住宅**

金森家住宅以其獨特的建築風貌而聞名，即便在眾多武士、商人、手工業者住宅以及神社、佛寺交錯相鄰的大森町歷史建築群中也十分引人注目。這處宅邸建於1850年，擁有諸多典型的商人住宅特徵，如堅固的灰泥牆、裝飾著家紋的瓦當、獨立的防火倉庫等等。令人注目的是，它的正門開在房屋側面的山牆上，這在大森町十分罕見，因為本地絕大多數建築物的大門都開在朝向街道的長牆面上。此外，金森家住宅的二樓很高，而且窗戶正對街道，這也是本地少有的建築形式。在江戶時代（1603-1867）的大森町，這樣不同尋常的建築往往招人側目，因為在當時的觀念中，從高處俯視下方路過的高階官員是十分不妥的行為。不過金森家住宅高大寬敞的二樓自有它存在的理由，1867年以前，這處建築一直是官方指定旅館，為前來大森向幕府在石見銀山的代表處「代官所」借錢的貸款者提供住宿。

<日本語仮訳>**金森家住宅**

その独特の建築で知られている金森家住宅は、武士や職人、商人らの家、神社仏閣などが狭い範囲内で立ち並ぶ大森町にありながら、それら多くの歴史的建築物の中でもひと際目を引きます。1850年に建てられた金森家住宅は、頑丈な漆喰の壁、家紋が施された棧瓦葺、母屋から独立した耐火性の土蔵など、多くの点で典型的な商人の住居と言えます。変わっているのは、切妻の一端に玄関があることです。大森町ではほとんど見かけないものであり、たいていの入口は通りに面した長辺側に位置しています。もう一つ風変りな建築的特徴は、窓が外の通りに面している高さのある2階です。江戸時代（1603-1867）の大森では、そのような住宅には人々は眉をひそめたものでした。なぜなら、お役人が通りかかった時に見下ろしてしまうのは不適切だと考えられたからです。しかし、金森家には広々とした2階が必要でした。この建物は、1867年まで石見銀山における幕府の出先機関「代官所」からお金を借りるために大森を訪れる人々のための宿として機能していたのです。

【タイトル】 宗岡家住宅

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**宗岡家族住宅**

武士家族宗岡家族の成員，在石見銀山礦產業的整個歷史進程中多次扮演重要的角色。其中，最著名的人物便是宗岡彌右衛門，他出生于石見銀山本地，精通各類礦業事務。最初，他隸屬於武將毛利輝元(1553-1625)麾下，直至毛利家族失勢，礦山控制權轉移到德川家族手中。德川家族在 1603 年統一全國，創建了德川幕府，統治日本至 1867 年。德川幕府任命的首任「石見銀山奉行」（當地最高行政長官）大久保長安(1545-1613)不拘一格，依舊起用了宗岡彌右衛門，並先後將他派往多個儲量最豐富的貴金屬礦區，其中包括佐渡島（今新潟縣近海地區）的金、銀礦。1613 年，宗岡彌右衛門在佐渡島去世。此時，他已經獲得了「宗岡佐渡」的尊號，聲名遠揚。

宗岡彌右衛門的子孫繼承了他在石見銀山的工作，任職於「代官所」（幕府在地方的代表處），主要負責稅收和各類行政管理工作，但於 1790 年因政見不合而失勢。1823 年，宗岡家族重返石見銀山，當時的家主被授予「同心」（低階官職，大致相當於現在的派出所所長）之職。不久以後，遠房親戚阿部家族為他們提供了一處住所，這就是如今的宗岡家族住宅。這座氣派的武家大宅建於 19 世紀 30 年代，有一個前庭、一座倉庫，外加一間曾被用作茶室的獨立小屋。原來的外牆和大門均已不存，住宅後側的小庫房是依照原始設計圖重建的。宗岡家族住宅不開放參觀，但可出租住宿。

<繁体字>**宗岡家住宅**

武士家族宗岡家的成員，在石見銀山礦業發展史中多次扮演重要的角色。其中，最著名的人物是宗岡彌右衛門，他出生於石見銀山地區，精通各類礦業事務。最初，他隸屬於武將毛利輝元（1553-1625）麾下，直至毛利家失勢，礦山控制權轉移到德川家手中。德川家在 1603 年統一全國，創建了德川幕府，統治日本至 1867 年。德川幕府任命的首任「石見銀山奉行」（當地最高行政長官）大久保長安（1545-1613）用人唯才，看重宗岡彌右衛門在礦業的專長，先後將他派往多個儲量最豐富的貴金屬礦區，其中包括佐渡島（今新潟縣近海地區）的金、銀礦。1613 年，宗岡彌右衛門在佐渡島去世。去世之前，他已經以「宗岡佐渡」的尊號，聲名遠揚。

宗岡彌右衛門の子孫繼承了他在石見銀山的工作，任職於「代官所」（幕府在地方的代表處），主要負責稅收和各類行政管理工作，但於 1790 年因政見不合而失勢。1823 年，宗岡家重返石見銀山，當時的家主被授予「同心」（低階官職，大致相當於現在的派出所所長）之職。回到石見銀山的宗岡家住在遠房親戚阿部家為他們提供的住所，這就是如今的宗岡家住宅。這座氣派的武家大宅建於 1830 年代，有一個前庭、一座倉庫，外加一間曾被用作茶室的獨立小屋。原來的外牆和大門均已不存，住宅後側的小庫房是依照原始設計圖重建的。宗岡家住宅不開放參觀，但可出租住宿。

<日本語仮訳>

宗岡家住宅

宗岡家は石見銀山の鉱山の歴史を通して多くの重要な役割を担った武家でした。一族の最も知られている人物は宗岡弥右衛門で、石見銀山に生まれ育ち、鉱山の専門家であった人でした。弥右衛門は、毛利家が 1603 年に日本を統一して幕府を開き、1867 年まで国を支配した徳川家によって石見銀山の支配権を失うまで、毛利輝元（1553-1625）に仕えました。徳川家に初めて指名を受けた「石見銀山奉行」（現地行政最高責任者）の大久保長安（1545-1613）が弥右衛門を登用し、弥右衛門は国のいくつもの豊かな貴金属資源に関連する役職を任じられました。このうちのいくつかは、佐渡（現在の新潟県沖）の金銀山で、弥右衛門はその頃までには宗岡佐渡という称号で知られるようになっていましたが、1613 年に死没しました。

弥右衛門の子孫は石見銀山で働き続け、主に「代官所」（地方における幕府の出先機関）の税金の取り立てと行政に関わっていましたが、1790 年になんらかの意見の食い違いで一族はその職を失ってしまいました。宗岡家は 1823 年に石見銀山に戻り、当時の家長が同心——概ね現在の警部に相当する下級役人——として雇われました。その後まもなく、一家は遠縁の親戚、阿部家によって住居を与えられました。1830 年代に建てられたこの住宅が現在の宗岡家住宅で、この武家屋敷は正面に庭があり、蔵とかつて茶屋として使われていた離れもあります。塀と門は失われてしまいましたが、裏手の納屋はオリジナルの設計図に基づいて再建されました。宗岡家住宅は一般開放されていませんが、宿泊のために借りることは可能です。

【タイトル】 阿部家住宅

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**阿部家族住宅**

阿部家族住宅は大森町最大の武家宅邸之一，也是极少数在 1800 年那场几乎摧毁全町的大火中幸存下来的建筑之一。此处宅邸于 1789 年为阿部家族而建，这个家族财力雄厚、富有影响力，自 1601 年起便深度参与银矿的经营管理。这一年，负责管理本地矿山的首任“石见银山奉行”（当地最高行政长官）大久保长安(1545-1613)，从甲斐国（今东京以西，山梨县；“国”为日本古代行政区划，并非国家）请来阿部清兵卫入职大森町代官所（幕府在地方的代表处），让他管理石见银山。阿部清兵卫的后人也一直继任此职，主要负责财会、管理新切“间步”（矿坑通道）等在内的各类事务。新切间步建于 18 世纪 20 年代，是为了解决矿道和竖井地下水积水问题而挖掘的排水坑道。

阿部家族住宅具备一切高阶武士官员宅邸的特征，如前庭、灰瓦（被视为权威的象征，深受武士阶层青睐）、双入口等。住宅左边的出入口较小，供居住者日常使用；右边的大门则直通三个榻榻米房间，只在接待重要贵宾时才会打开。原初的大门以及门后用于出租以换取外快的建筑均已于 1950 拆除。如今的阿部家族住宅是一处日式旅馆，名叫“他乡阿部家”，取中文“他乡遇故知”之意，由群言堂经营。群言堂还在附近一处建于江户时代(1603-1867)的翻新农舍内经营商店、咖啡馆和画廊。

<繁体字>**阿部家住宅**

建於 1789 年的阿部家住宅是大森町最大的武家宅邸之一，也是極少數在 1800 年那場幾乎摧毀全町的大火中倖存下來的建築之一。阿部家財力雄厚、富有影響力，自 1601 年起便持續參與銀礦的經營管理。1601 年，負責管理本地礦山的首任「石見銀山奉行」（當地最高行政長官）大久保長安（1545-1613），從甲斐國（今東京以西，山梨縣；「國」為日本古代行政區劃，並非今日所指稱的國家）移調阿部清兵衛入職大森町「代官所」（幕府在地方的代表處），命其管理石見銀山之庶務。阿部清兵衛的後人克紹箕裘，一直繼任此職，負責財務、管理新切「間步」（礦坑通道）等在內的各類事務。新切間步建於 1720 年代，是為了解決礦坑和豎井內地下水積水問題而挖掘的排水坑道。

阿部家住宅具備一切高階武士官員宅邸的特徵，如前庭、灰瓦（被視為權威的象徵，深受武士階層青睞）、雙入口等。住宅左邊的出入口較小，供居住者日常使用；右邊的大

門則直通三個榻榻米房間，只在接待重要貴賓時才會打開。原始的大門以及門後用於出租以賺取額外收入的建築均已於 1950 年拆除。如今的阿部家住宅是一處名叫「他郷阿部家」的日式旅館，取中文「他郷遇故知」之意，由群言堂經營。除此之外，群言堂還在附近一處建於江戶時代（1603-1867）的翻新農舍內經營商店、咖啡館和畫廊。

<日本語仮訳>

阿部家住宅

阿部家住宅は大森で最も大きな武家屋敷の一つで、1800 年に町の多くを焼失させた火事を逃れた非常にまれな建築物です。1601 年以來銀山の経営に深くかかわり、裕福で影響力の強かった阿部家のために 1789 年に建てられました。その年、最初の「石見銀山奉行」（現地行政最高責任者）となって銀山を監督していた大久保長安（1545-1613）は、甲斐の国（現在の山梨県、東京の西、古代日本の行政区画、現在の「国」と異なる）にいた阿部清兵衛を大森「代官所」（地方における幕府の出先機関）から石見銀山を管理する仕事に招き入れます。清兵衛の子孫はこの役職で働き続け、会計から新切「間歩」（鉱坑）の管理までこなしました。新切間歩は、1720 年代にすでにあった坑道や坑口に地下水が流れ込む問題を解決するため掘られたものです。

阿部家住宅は、前庭、灰色の瓦（権威の象徴として武家に好まれました）、二つの出入り口など、位の高い武士にふさわしい家としての典型的な特徴をすべて備えています。左手にある小さいほうの入口は住人用、右手にある大きいほうの入口は畳敷きの三間に続いており、大事な客人のためだけに開けられました。元々あった門はその後ろの副収入を得るために貸し出され建物とともに、1950 年に取り除かれました。阿部家住宅は現在、近隣にある江戸時代（1603-1867）の農家を改装してショップ、カフェ、ギャラリーを営む群言堂が経営する宿泊施設として使われています。旅館名の「他郷阿部家」の「他郷」とは、中国の言葉「他郷遇故知」に由来しています。

【タイトル】 三宅家住宅

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

三宅家族住宅

在江户时代(1603-1867)，现在的三宅家族住宅为田边家族所有。身为武士家族，自1601年起，田边家族的许多成员都先后在石见银山担任重要的管理职位。同年，负责管理本地矿山的首任“石见银山奉行”（当地最高行政长官）大久保长安(1545-1613)找到田边彦右卫门，聘请他出任“代官所”（幕府在地方的代表处）的矿务官员。几年后，由德川家康(1543-1616)创立的以武家为主导的德川幕府政权，于1603年至1867年间统治着日本。德川家族在得到了石见银山的控制权后，很快组建起一支专家团队出任行政官员，对矿山实施管理，田边彦右卫门便是其中一员。和许多新同僚一样，田边彦右卫门也不是石见本地人，他过去居住在甲斐国（今山梨县；“国”为日本古代行政区划，并非国家）。他的家族成员逐渐都搬迁到石见周边，并都成了管理矿务的专家。最终，田边家族成为了“石见银”的掌印者，负责在开采的白银送往位于江户（今东京）幕府之前封装盖章，这在当时是声望极高的要职。

1800年，一场大火烧毁了大半个大森町，田边家族的宅邸也未能幸免，但它很快便得到重建。如今的“三宅家族”之名取自这座住宅在1974年被指定为国家史迹时的主人的姓氏。宅内建筑经历过大幅翻修，但依然保留了许多19世纪早期武士家族住宅的特征，如面向街道的前庭、高耸的庭园栅栏、装饰着三头巴纹的屋檐瓦当等等。三头巴纹是一种漩涡纹样，由3个代表水滴的逗号状图形组成，通常被认为有助于防火。三宅家族住宅目前不对外开放。

<繁体字>

三宅家住宅

现在的三宅家住宅在江户时代（1603-1867）是田邊家的居所。身為武士家族的田邊家，自1601年起，家族的許多成員先後在石見銀山擔任重要的管理職位。同年，負責管理本地礦山的首任「石見銀山奉行」（當地最高行政長官）大久保長安（1545-1613），聘請田邊彥右衛門出任「代官所」（幕府在地方的代表處）的礦務官員。1603年，由德川家康（1543-1616）創立的以武家為主導的德川幕府政權，持續統治日本直至1867年。德川家在得到了石見銀山的控制權後，很快指派專業人士擔任當地行政官員，以便對礦山實施開採管理，田邊彥右衛門便是這支專業團隊中的一員。和許多新同僚一樣，田邊彥右衛門

並非石見居民，他本來自甲斐國（今山梨縣；「國」為日本古代行政區劃，並非今日所指稱的國家）。他的家族成員隨著他的任命，逐漸遷移到石見周邊，並都成了管理礦務的專家。最終，田邊家成為了「石見銀」的掌印者，負責在開採的白銀送往位於江戶（今東京）幕府之前封裝蓋章，這在當時是聲望極高的要職。

1800年，一場大火燒毀了大半個大森町，田邊家的宅邸也未能倖免，但它很快便得到重建。如今的「三宅家」之名取自這座住宅在1974年被指定為國家史跡時的主人的姓氏。宅內建築經歷過大幅翻修，但依然保留了許多19世紀早期武士家族住宅的特徵，如面向街道的前庭、高聳的庭園柵欄、裝飾著三頭巴紋的屋簷瓦當等等。三頭巴紋是一種漩渦紋樣，由3個代表水滴的逗號狀圖形組成，通常被認為有助於防火。三宅家住宅目前不對外開放。

<日本語仮訳>

三宅家住宅

江戸時代（1603-1867）、三宅家住宅は武家の田邊氏の居宅でした。田邊家は1601年以降、石見銀山の数多くの重要な行政職を担っていました。その年、田邊彦右衛門は最初の「石見銀山奉行」（現地行政最高責任者）となって銀山を監督していた大久保長安（1545-1613）に登用され、「代官所」（地方における幕府の出先機関）の鉱山政務の役人として働くことになりました。1603年に徳川家康（1543-1616）が武士の主導による政府を確立して、徳川家が1867年まで日本を統治しましたが、彦右衛門はこの徳川家に石見銀山の支配権が渡った後に鉱山経営のために雇われた最初の専門家たちの一人でした。彦右衛門の新しい同僚たちの多くと同じように、彦右衛門も石見の出身ではなく、甲斐の国（現在の山梨県、古代日本の行政区画、現在の「国」と異なる）に暮らしていましたが、一族は石見周辺に落ち着き、鉱山管理の専門家となりました。田邊家はのちに、石見の銀が江戸（現在の東京）の幕府に送られる前に押された刻印を管理するまでになり、これは非常に栄誉な仕事でした。

田邊家の居宅は1800年に大森の大部分が焼失した火事で焼け落ちましたが、間もなく再建されました。建物は三宅家住宅として残り、この住宅が1974年に史跡指定された際に持ち主の名前を取って命名されました。建物は大幅に改装されているものの、家と通りの間にある庭、庭を囲む立派な塀、三つ巴（3つのコマのような形から成る渦巻模様で、水を表し、火事から守ってくれると信じられていました）が施された棧瓦葺など、1800年代始めの武家屋敷の特徴を多く保っています。三宅家住宅は現在、一般公開されていません。

【タイトル】 青山家住宅

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**青山家族住宅**

青山家族住宅建于19世纪中叶，无论是两层的主楼还是仓库，都依然保留着最初白色灰泥墙、灰色屋瓦的模样，加上其简洁而细致的木工工艺，十分值得赏览。如今的青山家族住宅曾是当年六大“乡宿”旅馆之一的田仪屋。乡宿是江户时代(1603-1867)的产物，当时，石见银山的矿山资源，包括周边地区的大约150个村庄，都由位于江户（今东京）的幕府所任命的行政长官“代官”管理。代官坐镇的行政管理机构名叫“代官所”，位于大森町，各村居民常常需要到这里来办理事务。于是本地政府在18世纪中叶建立起了“乡宿”系统，将所有村庄分为6组，每组对应一个指定旅馆，村民来到大森町只能入住对应旅馆。代官让富裕的商家来经营这些旅馆，同时旅馆也要负责将代官所颁布的新法规法令传达到各村。如今，青山家族住宅仍是私人宅邸，但有时也会对外开放。

<繁体字>**青山家住宅**

青山家住宅建於19世紀中葉，無論是兩層樓高的主樓還是倉庫，都依然保留著最初白色灰泥牆、灰色屋瓦的模樣，加上其簡潔而細緻的木工工藝，十分值得遊賞。今日的青山家住宅曾是當年六大「鄉宿」旅館之一的田儀屋。所謂「鄉宿」，是江戶時代（1603-1867）與地方管理密不可分的配套措施。當時，石見銀山的礦山資源，包括周邊地區大約150個村莊，都由位於江戶（今東京）的幕府所任命的行政長官「代官」管理。代官駐守的行政管理機構名叫「代官所」，位於大森町，各村居民常常需要到此來辦理事務。於是本地政府在18世紀中葉建立起了「鄉宿」系統，將所有村莊分為6組，每組對應一個指定旅館，村民來到大森町只能入住對應旅館。代官讓富裕的商家來經營這些旅館，同時旅館也要負責將代官所頒布的新法規法令傳達到各村。如今，青山家住宅仍是私人宅邸，但偶爾也會對外開放。

<日本語仮訳>**青山家住宅**

青山家住宅は 1800 年代半ばに建てられ、その 2 階建ての家と蔵はどちらも当時の外見を保っており、白い漆喰の壁といぶし瓦を使った木造のシンプルなディテールは、一見の価値があります。青山家住宅は、6 軒の郷宿の一つである田儀屋でした。江戸（現在の東京）幕府が石見銀山を直接管理に置いて代官に監督させていた江戸時代（1603-1867）、郷宿は社会の一部でした。代官は鉱山そのものだけでなく、150 ほどの村々を含むその周辺の土地も管理していました。こうした村々の住民は、幕府の出先機関である代官所で公務を行うために大森の町へ出かける必要がありました。このため 1700 年代の半ばには政府により郷宿のシステムが確立し、村々は 6 つのグループに分けられました。各グループが一つの郷宿を割り当てられ、村々からやってきた人々が大森に滞在中はそこに宿泊しなければなりません。代官が大森の豪商の一族らにこの業務を請け負わせ、この郷宿は代官所から出された法令等を各村々に伝達する役目も負いました。青山家は現在も個人が所有する住宅ですが、一般公開を行うこともあります。

【タイトル】 金森家住宅

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**金森家族住宅**

江戸時代(1603-1867), 石見銀山の銀礦直接掌控在位於江戸(今東京)的幕府手中, 由幕府任命的行政長官「代官」管理。不過, 代官的管轄範圍並不僅限於礦山本身, 還包括周邊地區大約 150 個村莊的範圍。代官駐守的行政管理機構名叫「代官所」, 位於大森町, 各村居民常常需要到這裡來辦理事務。於是本地政府在 18 世紀中期建立起了「鄉宿」系統進行管理。所有村莊分為 6 組, 每組對應一個指定旅館, 村民來到大森町就只能入住對應旅館。代官讓富裕的商家經營這些旅館, 旅館也要負責將代官所頒布的新法規和法令傳達到各村。金森家住宅正是當年的 6 個「鄉宿」旅館之一。這處住宅建於 1850 年, 其寬敞開闊的二樓十分特別, 足以同時容納數十名住客, 甚至還有一間小茶室。不過這裡的確需要大空間, 因為金森家還經營釀酒工場, 同時也為前來代官所借錢的人們提供住宿。金森家住宅目前不開放參觀。

<繁体字>**金森家住宅**

江戸時代(1603-1867), 石見銀山の銀礦直接掌控在位於江戸(今東京)的幕府手中, 由幕府任命的行政長官「代官」管理。不過, 代官的管轄範圍並不僅限於礦山本身, 還包括周邊地區大約 150 個村莊的範圍。代官駐守的行政管理機構名叫「代官所」, 位於大森町, 各村居民常常需要到這裡來辦理事務。於是本地政府在 18 世紀中期建立起了「鄉宿」系統進行管理。所有村莊分為 6 組, 每組對應一個指定旅館, 村民來到大森町就只能入住對應旅館。代官讓富裕的商家經營這些旅館, 旅館也要負責將代官所頒布的新法規和法令傳達到各村。金森家住宅正是當年的 6 個「鄉宿」旅館之一。這處住宅建於 1850 年, 其寬敞開闊的二樓十分特別, 足以同時容納數十名住客, 甚至還有一間小茶室。不過這裡的確需要大空間, 因為金森家還經營釀酒工場, 同時也為前來代官所借錢的人們提供住宿。金森家住宅目前不開放參觀。

<日本語仮訳>**金森家住宅**

江戸時代（1603-1867）、石見銀山の銀鉱山は江戸（現在の東京）の幕府が直接支配下に置き、「代官」を任命して銀山の監督に当たらせていました。代官は鉱山そのものだけでなく、150ほどの村々を含むその周辺の土地も管理していました。こうした村々の住民は、幕府の出先機関である「代官所」で公務を行うために大森の町へ出かける必要がありました。このため1700年代の半ばには郷宿のシステムが確立し、村々は6つのグループに分けられました。各グループが一つの郷宿を割り当てられ、村々からやってきた人々は大森に滞在中はそこに宿泊しなければなりません。代官が大森の豪商の一族らにこの業務を請け負わせ、この郷宿は代官所から出された法令等を各村々に伝達する役目も負いました。金森家住宅はこの6つの郷宿の一つで、1850年頃に建てられました。この建物は広々とした2階が特徴的で、数十人の客を宿泊させることができるばかりか、小さな茶室までありました。この家は造り酒屋でもあり、また代官所からお金を借りるために大森へやってくる人々の宿としても使われたため、広いスペースが必要とされたのです。金森家は一般公開されていません。

【タイトル】 柳原家住宅

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

柳原家族住宅

柳原家族住宅是大森町内最不起眼的武士宅邸。这栋平房不大，建于1800年那场摧毁了大半个大森町的火灾之后。最初的宅邸主人是一名矿山的低阶官员“同心”，大致相当于今天的派出所所长，负责管理“番所”（警备所）业务。番所是管控矿山中心人、货出入情况的检查站，番所卫兵则负责进入银山地区的货物税款缴纳，严防应当送入幕府国库的白银被偷运，还必须检查往来行人身份，仅允许获准工作或居住的人进入矿区。同心，便是衔接番所与大森“代官所”的窗口，而代官所是幕府任命掌管石见银山的地方最高行政长官“代官”办公的地方。

虽然收入不算高，但代官所是当时石见银山的中心，因此同心依然被视为“中等阶层”，这一点也体现在了柳原家族住宅的建筑上。建筑虽然简朴，却毫不缺失武士阶层所珍视的身份象征，比如，高大的正门、外墙和开阔的庭园。可惜原来的大门、外墙以及庭园中曾用于出租以贴补家用的独立小屋均已不存，前庭从主屋一直扩展到外墙。主屋旁是一个小小的防火仓库，这也是武士宅邸必不可少的组成部分。柳原家族住宅不开放参观。

<繁体字>

柳原家住宅

柳原家住宅是大森町内最不起眼的武士宅邸，建於1800年那場摧毀了大半個大森町的火災之後。最初的宅邸主人是一名礦山的低階官員「同心」，類似今天的派出所所長，負責管理「番所」（警備所）業務。所謂的「番所」是控管礦山內的人員和貨物出入情況的檢查站，而番所衛兵須負責確保進入銀山地區的貨物繳納稅款，嚴防不肖份子偷運應當送入幕府國庫的白銀，還需要檢查往來行人身份，確保只有獲准工作或居住的人進入礦區。同心，便是銜接番所與大森的地方行政中心「代官所」的窗口。代官所則是幕府任命掌管石見銀山的地方最高行政長官「代官」辦公的地方。

雖然同心收入不算高，但由於其服務的對象「代官所」是當時石見銀山的中心，因此同心仍被視為「中產階層」，這一點體現在了柳原家住宅的建築上。建築雖然簡樸，卻體現了武士階層所自豪的身份象徵，如高大的正門、外牆和開闊的庭園。可惜原來的大門、外牆以及庭園中曾用於出租以貼補家用的獨立小屋均已不存，前庭從主屋一直擴展到外牆。

主屋旁是一個小小的防火倉庫，這也是武士宅邸必不可少的組成部分。柳原家住宅不開放參觀。

<日本語仮訳>

柳原家住宅

柳原家住宅は、大森地区の武家屋敷の中で最も質素な屋敷です。この比較的小さな平屋建ての建物は、この地区の大半が火事により焼失した 1800 年以降に建てられました。この家は、鉾山の中心部に出入りする人々や物資の流れを規制する口留番所を監督するために雇われた下級役人、同心（現代の警察の警部に概ね相当）の住宅でした。この口留番所の番人は、鉾山に入った物資の税金が支払われているかどうか、政府の財源となる銀がこっそりと持ち出されていないかどうか、また、鉾区内での労働や、居住を許可された人々だけが入っているかどうかなどを確認する役割を担っていました。同心は、番所と石見鉾山を治めるべく幕府から任命された「代官」（地方行政最高責任者）が勤務していた大森「代官所」を結ぶ連絡窓口としての役割を果たしていました。

同心は特に高給というわけではありませんでしたが、代官所を中心としていた石見鉾山では、「中流階級」とされていました。これは、質素ながらも武士階級に尊重されていた武家ならではのものが多くが柳原家住宅にも反映されており、その中には、残念にも今では失われてしまった堂々とした門と塀や、元々は副収入を得るための賃貸用の建物がかつてあった広い庭が今では家から塀まで広がっています。母屋の隣には耐火性が備わった小さな土蔵があり、これも武家には必須の建物でした。柳原家住宅は一般公開されていません。

【タイトル】 西性寺

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**西性寺**

西性寺是一处日本中世纪（12-16 世纪）的净土真宗佛教圣地，建在大森町中心西侧。寺院内最古老的建筑是规模宏大的本堂（正殿），其历史可追溯至 1739 年。不过，西性寺最负盛名的，还是它独特的藏经阁。阁内收藏着寺院的神圣经卷，墙上装饰着镏绘（镏，音同“漫”）。镏绘即灰泥浮雕，是一种起源于江户时代(1603-1867)中期的装饰工艺，自明治时代(1868-1912)开始至第二次世界大战前的 20 世纪 30 年代期间在石见地区盛行。镏绘常见于佛寺与富裕商家的住宅、仓库等建筑上，多为各种吉祥图案，比如传说中可以规避火患、驱逐恶灵的龙，代表人丁兴旺、生意兴隆的兔子。石见镏绘渐渐声名远播，本地匠人甚至被请到东京、大阪等地，为国会议事堂、东宫御所等重要建筑施加装饰。

西性寺的镏绘出自松浦荣吉(1858-1927)之手，他被认为是镏绘艺术大师之一。该作品创作于 1918 年，当时大师已经年过六旬。画中绘有神鸟、牡丹和菊花等图案，其中，神鸟可能是中国的凤凰；牡丹是中国神话传说中的“百花之王”；菊花更是日本皇室家纹中的重要角色，也是国家的象征，从护照到 50 日元硬币，处处可见。松浦荣吉出生于石见银山附近一座名叫“仁摩町”的海边小镇，毗邻日本海。他一生中到过东京、大阪、福冈，乃至当时还是日本殖民地的数个韩国城市，成就了辉煌的职业生涯。松浦荣吉去世后被埋葬在西性寺的墓地里。

<繁体字>**西性寺**

西性寺是一處日本中世紀（12-16 世紀）的淨土真宗佛教聖地，建在大森町中心西側。寺院內最古老的建築是規模宏大的本堂（正殿），其歷史可追溯至 1739 年。不過，西性寺最負盛名的，是其獨特的藏經閣。閣內收藏著寺院的神聖經卷，牆上裝飾著鎊繪（鎊，音同「漫」）。鎊繪即灰泥浮雕，是一種起源於江戶時代（1603-1867）中期的裝飾工藝，自明治時代（1868-1912）開始至第二次世界大戰前的 1930 年代期間在石見地區十分盛行。鎊繪常見於佛寺與富裕商家的住宅、倉庫等建築上，多為各種吉祥圖案，如可以規避火患、驅逐惡靈的龍，或是代表人丁興旺、生意興隆的兔子。石見鎊繪聲名遠播，本地工匠甚至被請到東京、大阪等地，為國會議事堂、東宮御所等重要建築施加裝飾。

西性寺的鍍繪出自松浦榮吉（1858-1927）之手，他被推崇為鍍繪藝術大師之一。該作品創作於1918年，當時松浦大師已經年過六旬。畫中繪有神鳥、牡丹和菊花等圖案，其中，神鳥可能是中國的鳳凰；牡丹是中國神話傳說中的「百花之王」；菊花更是日本皇室家紋中的重要角色，也是國家的象徵，從護照到50日圓硬幣，處處可見。松浦榮吉出生於石見銀山附近一座名叫「仁摩町」的海邊小鎮，毗鄰日本海。他一生中到過東京、大阪、福岡，乃至當時還是日本殖民地的數個韓國城市，成就了輝煌的職業生涯。松浦榮吉去世後被埋葬在西性寺的墓地裡。

<日本語仮訳>

西性寺

西性寺は、大森町の中心部のちょうど西側に位置する中世（12世紀～16世紀）の浄土真宗の仏教寺院です。大きな本堂は、1739年に建てられたこの境内最古の建物です。しかし、最も有名なのは、寺の特徴的な経蔵です。寺の経典を保存しているこの建物は、明治時代（1868-1912）から第二次世界大戦前の1930年代後半にかけて石見地方で盛んだった芸術のひとつ、鍍絵という漆喰のレリーフ画で装飾されています。江戸時代（1603-1867）中期に始まった鍍絵は、寺院の建築物や豪商の家と蔵の装飾によく使われていました。火事や悪霊を追い払うと信じられていた龍や、豊穡や商売繁盛を象徴した兔など、縁起の良い図柄がよく用いられていました。石見の漆喰細工の人気は東京や大阪にまで及び、石見の職人は、国会議事堂や、東宮御所などの建築物の装飾に雇われました。

西性寺の鍍絵は、鍍絵の名人のひとりとされる松浦榮吉（1858-1927）の作品です。松浦が1918年に60歳になった後に制作されたもので、鳳凰と呼ばれる神話上の鳥、中国神話で「花の王」とされる牡丹、皇室の家紋を飾り、また、日本のパスポートから50円玉までのあらゆるものに描かれた日本の国家の象徴となっている菊の花などが含まれています。松浦は、石見銀山に近い日本海側の町、仁摩町の出身です。彼の輝かしい経歴には、東京、大阪、福岡、そして当時は日本の植民地であった韓国の複数の都市での任務が含まれています。松浦の墓は西性寺墓地内にあります。

【タイトル】 旧大森区裁判所

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

旧大森区裁判所

自17世纪初开始，大森町逐渐成长为石见银山地区的行政与商业中心。本地最高行政长官“代官”作为江户（今东京）德川幕府(1603-1867)的代表，坐镇“代官所”（幕府在地方的代表处），管理石见银山及周边地区。这座市镇就是围绕着代官所发展起来的。1867年，忠于天皇的倒幕势力推翻了幕府，还政明治天皇(1852-1912)。德川幕府的倒台对大森町产生了巨大的影响。在新政权的统治下，它丧失了原本的特殊地位，沦为一个普通的地方行政中心。町内陆续设立警察署、税务署和邮局，在1890年建立立宪政府后，又新增了一个裁判所。

大森区裁判所于1888年竣工，建筑风格受到了19世纪晚期传入日本的西式建筑影响。裁判所管辖大森町和附近的49个村庄，于第二次世界大战结束后关闭。直到20世纪80年代晚期，此处建筑一直是大森町的市民活动中心。随着人们逐渐认识到这座市镇历史风貌的价值，旧裁判所被改造为博物馆，展示本地城市保护的成果。展品主要包括大森町民宅的复原模型和记录复原过程的文献档案等。此外，馆内还再现了一个明治时代(1868-1912)的法庭，加上拟真的人物模型，令人不由得回想起这栋建筑的过去。法庭中央，坐在法官席上的是法官，旁边是一名书记员。法官右手边的空位是留给检察官的，被告和被告辩护人则坐在下方的空桌旁。检察官与法官平起平坐，俯视被告席。在二战结束前，这样的座位安排在日本法庭上很常见。庭内的第三个人物模型则是裁判所的工作人员。

<繁体字>

舊大森區裁判所

自17世紀初開始，大森町逐漸發展為石見銀山地區的行政與商業中心。本地最高行政長官「代官」作為江戶（今東京）德川幕府（1603-1867）的代表，駐守代官所（幕府在地方的代表處），管理石見銀山及周邊地區。大森町就是圍繞著代官所發展起來的。1867年，忠於天皇的倒幕勢力推翻了幕府，還政明治天皇（1852-1912）。德川家族的倒台對大森町產生了巨大的影響，它自此喪失了原本的特殊地位，淪為一個普通的地方行政中心。町內陸續設立員警署、稅務署和郵局，在1890年建立立憲政府後，又新增了一個裁判所。

大森區裁判所建築風格受到了19世紀晚期傳入日本的西式建築影響。1888年竣工後，裁判所主要管轄大森町和附近的49個村莊，於第二次世界大戰結束後關閉。之後這處建築

一直は大森町の市民活動中心直到 1980 年代晚期。隨著市民逐漸認識到大森町城市歷史風貌的價值，舊裁判所被改造為博物館，展示本地城市文化保護的成果。展品主要包括大森町民宅的復原模型和記錄復原過程的文獻檔案等。此外，館內還再現了一個明治時代（1868-1912）的法庭，加上擬真的人物模型，令人不由得回想起這棟建築的過去。法庭中央，坐在法官席上的是法官，旁邊是一名書記員。法官右手邊的空位是留給檢察官的，被告和被告辯護律師則坐在下方的空桌旁。檢察官與法官平起平坐，俯視被告席。在二戰結束前，這樣的座位安排在日本法庭上很常見。庭內的第三個人物模型則是裁判所的工作人員。

<日本語仮訳>

旧大森区裁判所

大森町は、1600 年代初頭以降、石見銀山の行政と商業の中心地として、江戸（現在の東京）の徳川幕府（1603-1867）に代わって、現地行政最高責任者である「代官」が石見銀山とその周辺地域を治めた「代官所」（地方における幕府の出先機関）を中心に発展していました。徳川政権は 1867 年、天皇に忠実な革命軍が政権を倒し、明治天皇（1852-1912）を国家元首に据えたことで終焉しました。この徳川家の敗北により、大森は新体制の下で特別な地位を失うという大きな変化がもたらされ、他の地方と同様に地方行政の中心地となりました。警察署、税務署や郵便局が置かれるようになり、立憲政府が発足した 1890 年には裁判所が設置されました。

19 世紀後半に日本に持ち込まれた西洋建築の影響を受けた大森区裁判所は、1888 年に竣工しました。大森町と、その近隣の 49 の村を管轄し、第二次世界大戦末期まで運用されていました。その後、1980 年代後半までは公民館として利用されていましたが、歴史ある大森の町並みの価値が認識されるようになり、この旧裁判所は、保存の取り組みを紹介するための博物館に改装されました。その展示物には、大森の民家の復元模型や、復元過程を記した資料などが含まれているほか、明治時代（1868-1912）の法廷をマネキンで再現したものもあり、この建物の過去を偲ばせます。中央の裁判官席に座っているのは裁判官で、その傍らには筆記者がいます。裁判官の右の空席は檢察官の席で、下の空席の机には被告人と弁護人が座ったものでした。このように、裁判官と檢察官が隣り合わせに座り、被告人を見下ろすという事実的な対等の立場であることは、第二次世界大戦末期までの日本の裁判では当たり前のことでした。3 体目のマネキンは裁判所の職員です。

【タイトル】 観世音寺

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**观世音寺**

观世音寺是大森町的地标，数百年来，它坐落在一处小山顶的中央，一直护佑着这座城镇。这是一座真言宗寺院，历史可以追溯到日本中世纪（12-16 世纪）。然而，1800 年的一场大火几乎烧毁了大森町，观世音寺原本的建筑物和相关文献记录皆付之一炬，因此，寺院具体的建造时间已不可考。江户时代(1603-1867)，代表幕府管理石见银山地区的地方最高行政长官“代官”，每年都会在正月参拜本地三处宗教场所，祈求新的一年银矿丰产，观世音寺就是其中一处。由此可见，当年的观世音寺深受本地“代官所”（幕府在地方的代表处）青睐，并受其保护。尽管如此，1800 年火灾后的寺院重建还是花费了一段时间。如今的本堂（正殿）建成于 19 世纪下半叶；寺院前醒目的红色山门直到 1878 年才从附近的名刹清水寺移来；分立山门两侧的一对仁王石像则是 1980 年重塑的。一条通往山顶山门的石阶脚下，有一块供奉给医药与疗愈之佛——药师佛的石板，其上还覆有屋顶。人们相信，这块石板有疗愈眼疾的法力。石板背后的高坡上有许多小佛像，庇护着过往行人。

<繁体字>**觀世音寺**

觀世音寺是一座真言宗寺院，其歷史可以追溯到日本中世紀（12-16 世紀）。數百年來，它高居一座小山頂中央，一直護佑著城鎮，是大森町當之不讓的地標。然而，1800 年的大火席捲大森町，觀世音寺原本的建築和相關文獻記錄皆付之一炬，因此，寺院具體的建造時間已不可考。江戶時代（1603-1867），代表幕府管理石見銀山地區的地方最高行政長官「代官」每年都會在正月參拜本地三處宗教場所，祈求新的一年銀礦豐產，觀世音寺就是其中一處。由此可見，當年的觀世音寺與本地「代官所」（幕府在地方的代表處）關係密切，並受其保護。儘管如此，1800 年火災後的寺院重建仍是曠日廢時。現存的本堂（正殿）建成於 19 世紀下半葉；寺院前醒目的紅色山門直到 1878 年才從附近的名刹清水寺移來；分立山門兩側的一對仁王石像則為 1980 年重塑。一條通往山頂的山門石階腳下，有一塊供奉給醫藥與療愈之佛——藥師佛的石板，其上覆有屋頂。人們相信，這塊石板有療愈眼疾的法力。石板背後的高坡上立著許多小佛像，靜靜地庇護著過往行人。

<日本語仮訳>

観世音寺

観世音寺は大森の象徴として、丘の上の中心部から何世紀にもわたって町を見守ってきました。この真言宗寺院の歴史は中世（12世紀～16世紀）にさかのぼりますが、1800年にこの町の大半を焼失させた火事で観世音寺の建物と記録が失われてしまったため、創建年は不詳です。この寺院は、江戸時代（1603-1867）に石見銀山で幕府の代理を務めた大森「代官」が正月になると銀山の繁栄を祈願するために訪れた3箇所の霊場のうちのひとつです。これは、観世音寺が「代官所」（地方における幕府の出先機関）から支持と庇護を受けていたことを示しています。しかし、1800年の火災後の再建には時間がかかり、現在の本堂は1800年代後半に建てられ、また、観世音寺の特徴的な赤い山門が現在の場所に建てられたのは、近くの名刹、清水寺から移築された1878年でした。門の脇には、1980年に再建された一対石の仁王像があります。丘の上の門へと続く階段の下には、医学と治癒の仏、薬師〔如来〕に奉納された、屋根の付いた石板があります。この石には、目の病気を平癒させる力があると信じられています。石板の裏手にある丘をずっと上に登っていくと、道行く人々を見守るように小さな仏像が多数設置されています。

【タイトル】 勝源寺

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**勝源寺**

勝源寺是一座淨土宗佛教寺院，位於舊大森「代官所」（幕府在地方的代表處）以西約 100 公尺左右的山腳下。從寺院位置可以看出，它在江戶時代(1603-1867)與本地地方政府關係密切，是石見銀山作為江戶幕府直屬領地的象徵。勝源寺建於 17 世紀初，大致與德川幕府取得銀山控制權的時期相同。當時，幕府指派一名「代官」（地方最高行政長官）執掌銀山，並建立代官所。商人、武士紛紛聚集而來，為代官所提供物資和各項服務。最終，在代官所周圍形成了後來的大森町。數百年來，各任代官多會前往勝源寺參拜，其中更有 6 人長眠在寺院內。同樣安葬於此的還有許多大森町最富有的商人及其家族成員，這些家族的產業大都與代官所有關。

寺院入口是一座高達 10 米的巍峨山門，建於 1772 年。門上雕刻著一對守護神獅和幾條龍，門背面則有雙頭象，所有惟妙惟肖的雕刻均出自一名本地工匠之手。進入山門，右手邊的石板屋頂下立著一塊墓碑，碑主是第二代石見銀山代官竹村道清(1561-1635)。寺院本堂（正殿）建於 1867 年，殿內供奉阿彌陀佛像，佛像上方的天花板裝飾絢麗多彩。本堂後方的山坡高處矗立著「東照宮」，這無疑又證明了勝源寺與代官所乃至德川幕府息息相關。東照宮內供奉被尊為神道教神明的德川幕府創始人德川家康(1543-1616)，以及其後 11 任幕府將軍的牌位。

<繁体字>**勝源寺**

勝源寺是一座淨土宗佛教寺院，位於舊大森「代官所」（幕府在地方的代表處）以西約 100 公尺左右的山腳下。從寺院位置可以看出，它在江戶時代（1603-1867）與本地地方政府關係密切，是石見銀山作為江戶幕府直屬領地的象徵。勝源寺建於 17 世紀初，大致與德川幕府取得銀山控制權的時期相同。當時，幕府指派一名「代官」（地方最高行政長官）執掌銀山，並建立代官所。商人、武士紛紛聚集而來，為代官所提供物資和各項服務。最終，在代官所周圍形成了後來的大森町。數百年來，各任代官多會前往勝源寺參拜，其中更有 6 人長眠在寺院內。同樣安葬於此的還有許多大森町最富有的商人及其家族成員，這些家族的產業大都與代官所有關。

寺院入口是一座高達 10 公尺的巍峨山門，山門建於 1772 年。門上雕刻著一對守護神獅和數條龍，門的背面則有雙頭象，這些惟妙惟肖的雕刻均出自本地工匠之手。進入山門，右手邊的石板屋頂下立著一塊墓碑，碑主是第二代石見銀山代官竹村道清（1561-1635）。寺院本堂（正殿）建於 1867 年，殿內供奉阿彌陀佛像，佛像上方的天花板裝飾絢麗多彩。本堂後方的山坡高處矗立著「東照宮」，宮內供奉被尊為神道教神明的德川幕府創始人德川家康（1543-1616），及其後 11 任幕府將軍的牌位，再次證明了勝源寺與代官所乃至德川幕府之間的緊密連結。

<日本語仮訳>

勝源寺

勝源寺は、大森「代官所」（地方における幕府の出先機関）がかつてあった場所から 100m ほど西の丘の麓にある浄土宗の寺院です。この場所は、この寺が江戸時代（1603-1867）に石見銀山の地方行政と密接な関係があり、また石見銀山の江戸幕府直轄の領地の象徴として親しまれてきたことを示しています。勝源寺は、1600 年代初頭、徳川幕府が石見銀山の支配権を握った頃に創建されました。幕府が銀山を管理するための「代官」（地方行政最高責任者）を任命した後、大森の町は、代官所を中心として発展し、商人や武士が代官所の商品やサービスの需要を満たすために大森へと移り住みました。長年にわたり、多くの代官が勝源寺に参拝することを選択し、そのうちの 6 人は、代官所のおかげで事業の多くが繁栄した大森の最も裕福な商家の多数の家族とともに、この境内に埋葬されています。

この寺には、地元の職人による精巧な彫刻が施された 1772 年建造の高さ 10 メートルの堂々とした山門から入ります。これらの彫刻の中には、1 対の獅子、龍、そしてその裏側には双頭の象が含まれています。門をくぐってすぐ右側に、石屋根が付いた石見銀山の 2 代目代官、竹村道清（1561-1635）の墓石が建っています。この寺院の本堂は、1867 年に建てられたもので、その中には阿彌陀如来像が色彩豊かに彩られた天井の下に安置されています。本堂の裏の丘をさらに登ると東照宮があり、勝源寺と代官所、ひいては徳川幕府とのつながりを改めて示しています。東照宮には幕府の創立者、徳川家康（1543-1616）が神道の神として祀られており、家康の後継者 11 人の位牌も祀られています。

【タイトル】 山吹城跡

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**山吹城遗址**

自 1527 年发现矿产资源直至 17 世纪初，石见银山就一直被掌控在本地大名（大领主）手中。在此期间，银矿所有权频繁辗转于分分合合的各个武士家族之间，而所有争夺战最重要的舞台，就是山吹城。这座城防工事位于海拔 414 米的要害山山顶，由大内家族于 16 世纪 30 年代早期建造。当时，大内家族推平了狭小的山顶，利用此前已经存在的防御设施，改造出了一个配备塔楼的长方形天守（城郭核心的多重塔楼）。要塞周围开凿了干壕沟，建起阶梯式防御工事，筑高壁垒，设置种种障碍，以防范敌人循着陡峭的山路向天守发起攻击。

山吹城居高临下，将银山矿区、曾经的采矿中心山内矿村、通往日本海海岸港口鞆之浦（鞆，音同“丙”）的道路“鞆之浦道”等山下景象尽收眼底。因此，夺取山吹城就是控制银山的关键。敌对的尼子家族和小笠原家族虽数次入侵城堡，却始终没能在此建立起长久的政权。直到 1562 年，毛利家族夺取了整个石见银山地区的控制权，并进一步加强了山吹城的防御之后，这座城堡就再也没有发生过大型战役。1600 年，德川家族接掌石见银山。三年后，日本全国皆归于德川麾下，德川幕府政权建立，统治日本直至 1867 年。德川幕府选择在大森地区建立地方权力中心，山吹城渐渐荒废。

如今的要害山上，只零星散落着山吹城的部分石基和壁垒残垣，天守旧址上也早已草木森森。但如果在山顶仔细寻觅，还是能看到一些当年的要塞痕迹。山顶视野开阔，可远眺海岸线。从鞆之浦道的起点出发，登上山顶约需花费 1 小时。需要留意的是，途中有几段山道并不好走。

<繁体字>**山吹城遗址**

自 1527 年發現礦產資源直至 17 世紀初，石見銀山一直掌控在本地大名（大領主）手中。在此期間，銀礦所有權頻繁輾轉於合縱連橫的武士家族之間，而山吹城就是所有爭奪戰的舞台。山吹城位於海拔 414 公尺的要害山山頂，由大內家建於 1530 年代早期。大內家推平了狹小的山頂，利用此前已經存在的防禦設施，改造出了一個設有塔樓的長方形天守（城郭核心的多重塔樓）。城防工事周圍還開鑿了壕溝，建起階梯式防禦工事，築高壁壘，設置種種障礙，以防范敵人循著陡峭的山路向天守發起攻擊。

山吹城居高臨下，將銀山礦區、曾經的採礦中心山内礦村、通往日本海海岸港口鞆之浦（鞆，音同「丙」）的道路「鞆之浦道」等山下景象盡收眼底。因此，山吹城為兵家必爭之地，奪取了山吹城就等於掌握了控制銀山的關鍵。敵對的尼子家和小笠原家曾數次入侵城堡，卻始終未能在此建立起長久的統治。直到 1562 年，毛利家奪取了整個石見銀山地區的控制權，並進一步強化了山吹城的防禦之後，這座要塞就再也沒有上演過大型戰役。1600 年，德川家接掌石見銀山。三年後，日本全國皆歸於德川麾下，德川幕府政權建立，統治日本直至 1867 年。德川幕府選擇在大森地區建立地方權力中心，山吹城漸漸荒廢。

如今的要害山上，只零星散落著山吹城的部分石基和壁壘殘垣，天守舊址上也早已草木森森。但如果在山頂上仔細尋覓，還是能看到一些當年的防禦工事留下的痕跡。山頂視野開闊，可遠眺海岸線。從鞆之浦道的起點出發，登上山頂約需花費 1 小時。但欲前往的遊客需要特別留意，途中有部分山道並不便於行走。

<日本語仮訳>

山吹城跡

石見銀山は、1527 年に発見されてから 17 世紀初頭まで、大名（大領主）に支配されていました。銀山は、武家間の同盟や対立が絶え間なく移り変わるこの時代に、何度もその持ち主が変わりました。これらの戦いの中心となったのが、標高 414 メートルの要害山の山頂に建っていた山吹城です。城は大内氏が 1530 年代初頭に築いたもので、非常に狭い頂上を平らにし、既存の要塞を転用して、櫓を備えた長方形の天守（城郭の中枢部に建てられた多層の櫓）を建設しました。城は堀切と階段状になった要塞に囲まれ、天守までの急な小道に沿って攻撃を阻止する高い城壁やその他の障害物がありました。

山吹城からは、銀山と、元々の活動の中心地である山内集落、そして日本海の港、鞆ヶ浦への道を何にも遮られることなく眺めることができました。そのため、山吹城を支配することが銀山支配への鍵となっていました。敵対する尼子氏と小笠原氏が何度か攻城しましたが、1562 年まではいずれも長きにわたる覇権を手にするできませんでした。1562 年には、毛利氏が石見銀山の完全支配を手にし、山吹城をさらに要塞化しました。山吹城では大きな戦いが繰り返されることはなく、1600 年、石見銀山は、その 3 年後にはその旗の下に全国を統一し、1867 年まで日本を支配した幕府を創設した徳川氏に占領されました。新政府は大森地区に支配の中心を置くことにし、山吹城は徐々に廃城となっていきました。

今日では、要害山周辺には石積みの土台と城壁の名残のみが残っています。天守の跡地は自然に戻っていますが、山頂の砦も、探す場所さえわかればそのいくつかを確認することができます。この頂上からは海岸線を望むことができます。鞆ヶ浦道の起点からは、1 時間ほどの登山ですが、登山道の一部区間は登ることが難しいので注意が必要です。

【タイトル】 矢瀧城跡

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**矢瀧城遗址**

16 世纪，为了守卫石见银山到当时的物资供给主要港口——温泉津港之间的交通，本地建起了两座山地要塞，矢瀧城正是其中之一。这座要塞的历史可以追溯到 1528 年，由当时掌控石见银山地区的武将大内义兴(1477-1529)建造。矢瀧城位于道路南侧一座海拔 634 米的山顶高处，占据了整个长条形的山巅，四周筑有石壁、干壕沟等防御设施。圆形天守（城郭核心的多重塔楼）位于山顶北端，可将下方的道路和对面的矢筈城（筈，音同“括”）尽收眼底。

本地武将家族对银矿的争夺贯穿了整个 16 世纪，各方势力合纵连横，征战不休，矢瀧城因此几度易主。直至 17 世纪初，德川幕府(1603-1867)直接掌管石见银山，此处要塞才失去了其军事意义。此后，漫长的和平时代更令矢瀧城和其他日本中世纪（12-16 世纪）要塞日渐荒废。矢瀧城几乎没有留下多少痕迹，部分原因在于第二次世界大战以后，此处山顶在进一步被夷平扩展后建立起了美军雷达站，后又被改建为广播信号传送站。如今依然有山路通往山顶，全程耗时不超过 1 小时。

<繁体字>**矢瀧城遺址**

矢瀧城建於 16 世紀，是當時為了守衛石見銀山到主要港口——溫泉津港的交通所建的兩座山地要塞之一。矢瀧城的歷史可以追溯到 1528 年，由當時掌控石見銀山地區的武將大內義興（1477-1529）建造。要塞位於道路南側一座海拔 634 公尺的山頂高處，佔據了整座細長形的山巔，四周築有石壁、壕溝等防禦設施。圓形天守（城郭核心的多重塔樓）位於山頂北端，可將下方的道路和對面的矢筈城（筈，音同「括」）盡收眼底。

本地武將家族對銀礦的爭奪貫穿了整個 16 世紀，各方勢力合縱連橫，征戰不休，矢瀧城因此幾度易主。直至 17 世紀初，德川幕府（1603-1867）直接掌管石見銀山，這處要塞才失去了往日的軍事意義。此後，漫長的和平時代更令矢瀧城和其他日本中世紀（12-16 世紀）要塞日漸荒廢。今日矢瀧城遺址沒有留下多少昔日的痕跡，部分原因在於第二次世界大戰以後，這處山頂被進一步夷平後改建為了美軍雷達站，後來，雷達站又變成了一個廣播信號傳送站。遊客如欲前往矢瀧城遺址，可循山路通往山頂，全程耗時不超過 1 小時。

<日本語仮訳>

矢滝城跡

矢滝城は、16 世紀に石見銀山と物資の主な供給源であった温泉津港を結ぶ道を防御するために築かれた 2 つの山城のうちの一つです。この山城は、1528 年、当時この地を支配していた戦国大名、大内義興（1477-1529）がこの道の南側の高台に築城したものです。海拔 634 メートルの細長い山頂の全体を占め、その周囲には石垣や堀切などの要塞が築かれていました。頂上の北端に築かれた矢滝城の円形の手守（城郭の中核部に建てられた多層の櫓）からは、道路と、反対側の矢筈城を何にも遮られることなく眺めることができました。

武家間の同盟や対立が絶えなかった 1500 年代には、銀鉾山を巡って戦国大名たちが争ったために何度もその支配者が変わりましたが、1600 年代初頭に石見銀山が徳川幕府（1603-1867）に乗っ取られてからはその重要性がなくなりました。その後長期間続いた平和な時代により、矢滝城をはじめとする中世（12 世紀～16 世紀）城郭が徐々に廃城となっていました。矢滝城の遺構は、第二次世界大戦後、米軍のレーダー基地（後に放送送信施設に置き換わった）用の空間を確保するために山頂の平坦な部分が拡張されたことを理由のひとつとして、現在ではほとんど残っていません。山頂へと続く登山道を登るには 1 時間とかかりません。

【タイトル】 矢筈城跡

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**矢筈城遗址**

16 世纪，为守卫连接石见银山及其主要物资供给港口——温泉津港之间的交通，本地建起了两座山地要塞，矢筈城（筈，音同“括”）就是其中之一。要塞位于道路北侧一座海拔 480 米的山顶高处，大约建造于 16 世纪 20 年代晚期至 30 年代早期，当时本地区的统治者是大内家族。矢筈城虽然规模比它的双子城——矢泷城小得多，但同样充分利用了这处极其狭小的山顶，沿着狭长的山脊修筑起石壁、干壕沟和防护壁垒等设施，并在山峰南侧建造了一座小型的天守（城郭核心的多重塔楼），俯瞰着下方的道路。

本地武将家族对银矿的争夺贯穿了整个 16 世纪，各方势力合纵连横，征战不休，矢筈城因此几度易主。直至 17 世纪初，德川幕府(1603-1867)直接掌管石见银山以后，这处要塞才失去了其军事意义。此后，漫长的和平时代更令矢筈城和其他日本中世纪（12-16 世纪）要塞日渐荒废。如今，此处山顶早已林木森森，只有零星的几段工事遗迹留存至今。有一条小路通往山顶遗址，但部分山路相当难走。

<繁体字>**矢筈城遗址**

矢筈城（筈，音同「括」）建於 16 世紀，是為了守衛石見銀山到主要港口——溫泉津港的交通所建的兩座山地要塞之一。矢筈城位於道路北側一座海拔 480 公尺的山頂高處，建造於 1520 年代晚期至 1530 年代早期，當時統治該地區的是大內家。矢筈城雖然規模比它的雙子城——矢瀧城小，但同樣充分利用了這處極其狹小的山頂，沿著狹長的山脊修築起石壁、壕溝和防護壁壘等設施，並在山峰南側建造了一座「麻雀雖小，五臟俱全」的天守（城郭核心的多重塔樓），俯瞰著下方的道路。

本地武將家族對銀礦的爭奪貫穿了整個 16 世紀，各方勢力合縱連橫，征戰不休，矢筈城因此幾度易主。直至 17 世紀初，在德川幕府（1603-1867）直接掌管了石見銀山以後，這處要塞才失去了往日的軍事意義。此後，漫長的和平時代更令矢筈城和其他日本中世紀（12-16 世紀）要塞日漸荒廢。如今，這處山頂早已林木森森，只有零星的幾段工事殘跡留存至今。有一條小路通往山頂遺址，但需留意，部分山路可能不便於行。

<日本語仮訳>

矢筈城跡

矢筈城は、16 世紀に石見銀山と物資の主な供給源であった温泉津港を結ぶ道を防御するために築かれた2つの山城のうちのひとつです。この城は、道路の北側、海拔480mの高台にあり、おそらく戦国大名の大内氏が支配していた1520年代後半から1530年代前半に築かれたものと考えられます。矢筈城は、その対をなす矢滝城よりもはるかに小さく、非常に狭い山頂の尾根に沿って主に石垣や堀切、土塁が築かれ、その南側には小さな天守（城郭の中核部に建てられた多層の櫓）が道路を見下ろしていました。

武家間の同盟や対立が絶えなかった1500年代には、銀鉾山を巡って戦国大名たちが争ったために何度もその持ち主が変わりましたが、1600年代初頭に石見銀山が徳川幕府（1603-1867）に奪取されてからはその重要性がなくなってしまいました。その後長期間続いた平和な時代により、矢筈城をはじめとする中世（12世紀～16世紀）城郭が徐々に廃城となっていきました。矢筈城がかつてあった頂上は自然に戻り、今日では砦の僅かな部分だけが残っています。城址へと続く登山道がありますが、登ることが非常に難しい場合もあります。

【タイトル】 石見城跡

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**石见城遗址**

石见城是一座 16 世纪的山顶要塞，守卫着石见银山到海滨小镇仁摩町之间的主干道。仁摩町位于银山西北方，是大内家族的据点。自 16 世纪 20 年代晚期开始，为了争夺矿山的掌控权，这个武将家族便与敌对家族之间冲突不断。石见城位于海拔 153 米的龙岩山山顶。这座石山的南面和东面都是悬崖峭壁，俨然一座天然要塞。但为了从这些方位保护矗立于狭窄山巅的天守（城郭核心的多重塔楼），大内家族沿着这两个方向的山脊挖掘出深深的干壕沟，又筑起好几重壁垒，进一步加强了防御。要塞入口设在和缓的北坡一侧，由此可见，石见城主要防范来自南面的攻击，为仁摩町提供保护。17 世纪初，石见银山收归德川幕府(1603-1867)直接掌控，石见城也不再具备其战略意义，渐渐荒废。如今，城堡旧址早已化作一派自然山野景象，有小路从南坡通往山顶。秋天，凌霄花自崖壁蔓延而下，为山坡涂抹上片片绚烂的橙色。

<繁体字>**石見城遺址**

石見城是一座建於 16 世紀的山頂要塞，居高臨下守衛著石見銀山到海濱小鎮仁摩町之間的主幹道。仁摩町位於銀山西北方，是大內家的據點。自 1520 年代晚期開始，為了爭奪礦山的掌控權，大內家便與敵對家族之間衝突不斷。石見城位於海拔 153 公尺的龍岩山山頂，這座石山的南面和東面都是懸崖峭壁，儼然一座天然要塞。但為了從這些方位保護矗立於狹窄山巔的天守（城郭核心的多重塔樓），大內家沿著南面和東面的山脊挖掘出深深的壕溝，再築起數重壁壘，進一步強化防禦。要塞入口設在和緩的北坡，由此可見，石見城主要防範來自南面、向仁摩町的攻擊。17 世紀初，石見銀山收歸德川幕府（1603-1867）直接掌控，石見城就不再具備其戰略意義，漸漸荒廢。如今，城堡舊址早已化作一派自然山野景象，有小路從南坡通往山頂。秋天，凌霄花自崖壁蔓延而下，為山坡塗抹上片片絢爛的橙色。

<日本語仮訳>**石見城跡**

石見城は、1500年代に石見銀山と銀山の北西に位置する海岸の町仁摩との間の街道の防御に使われていた高台の岩でした。仁摩は、1520年代後半から鉱山の支配権を巡って対立する一族と戦ってきた大内家の本拠地でした。石見城は、海拔153mの岩だらけの露頭、龍巖山の頂上に築かれました。この丘は、その南と東の急峻な崖により、天然の要害となっています。これらの方角は、狭い頂にあった天守（城郭の中核部に建てられた多層の櫓）を防御するために尾根に沿って深い堀切を掘り、複数の土塁を築いた大内氏によって補強されていました。傾斜の緩やかな北側に入り口があったため、石見城は、主に南側から接近してくる敵から仁摩町を防御するために建てられたことがわかります。この城は、石見銀山が1600年代初頭に徳川幕府（1603-1867）に占領されてからはその重要性を失いました。今では自然に返っているその城址には、南側からの登山道で登ることができます。秋には崖に沿って蔦を伸ばすノウゼンカズラが丘の中腹の一部を鮮やかなオレンジ色に染める花を咲かせます。

【タイトル】 金剛院

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**金剛院**

金剛院是一座真言宗佛教寺院，它见证了温泉津从一个不起眼的小渔村成为石见银山的物资供应地、最终发展为繁荣港町的整段历程。据寺院记录显示，1337年起金剛院就已存在。那时，温泉津为安置一尊千手大慈大悲观音像而在町内建造了一处圣域。人们认为这尊观音像至少从17世纪开始便作为金剛院的本尊被供奉于此。寺院本堂（正殿）于1760年重建，本堂后方的墓地中还留存着一些本地区最古老的墓碑。1561年，毛利家族在一处狭长山谷的河口修建港口和海岸防御工事，打通了银矿连接此地的道路，这才使得温泉津有机会成为石见银山的主要港口。在金剛院里，还能看到一些来自日本海更北部沿岸、北陆地方（今福井县及周边地区）的石头。由此可以推测，当时日本海沿岸的海上贸易已经十分繁荣，比17世纪晚期温泉津的鼎盛时期早了100多年。墓地入口附近立有一尊地藏菩萨像，三面有石板遮挡，佛像下方石台基的颜色明显深于周围其他石头。山坡高处的圆锥状墓碑下是金剛院历代僧侣的坟墓。

<繁体字>**金剛院**

金剛院屬於真言宗佛教寺院，見證了溫泉津從一個籍籍無名的小漁村逐漸成為石見銀山的物資供應地、最終發展為繁榮港町的整段歷程。據寺院記錄顯示，1337年起金剛院就已矗立於現址上。其時，溫泉津為安置一尊千手大慈大悲觀音像而在町內建造了一處聖域。人們認為這尊觀音像至少從17世紀開始便作為金剛院的本尊被供奉在此。寺院本堂（正殿）於1760年重建，本堂後方的墓地裡還保留著一些本地區最古老的墓碑。1561年，毛利家在一處狹長山谷的河口修建港口和海岸防禦工事，打通了銀礦連接此地的道路，這才使得溫泉津一躍成為石見銀山的主要港口。在金剛院裡，還能看到一些出產於北陸地方（今福井縣及周邊地區）沿岸的石頭。由此可以推測，當時日本海沿岸的海上貿易已經十分繁榮，比17世紀晚期溫泉津的鼎盛時期早了100多年。公墓入口附近立有一尊地藏菩薩像，三面有石板遮擋，佛像下方石台基的顏色明顯深於周圍其他石頭。山坡高處的圓錐狀墓碑下則是金剛院歷代僧侶的墳墓。

<日本語仮訳>

金剛院

金剛院は温泉津にある真言宗のお寺ですが、質素な漁村から石見銀山の物資の供給源となり、港町として栄えた温泉津の変貌を目の当たりにしてきました。寺院の記録によると、千の手を持つ慈悲の菩薩である千手観音菩薩像を安置するための聖域が町のどこかに建てられていた1337年から、温泉津には金剛院があるとされています。観音像は、少なくとも17世紀から現在の場所に本尊として安置されていると考えられ、1760年に再建された本堂の裏手にある墓地には、この地域で最も古い墓石を見ることができます。1561年になると、毛利家が細長い谷の河口に港と沿岸要塞を築き、温泉津が銀鉱山の主要な港になる道を開いています。寺院で使われている石の中には、日本海側の更に北に位置する北陸地方、現在の福井県周辺でしか採取できないものもあり、町が最も豊かだったとされる1600年代後半より1世紀以上も前に、海運業が盛んだったことが伺えます。墓地の入り口付近にあって、石の張り出しに囲まれた地藏菩薩像の下には、周囲の石よりもやや濃い色の石が使われています。丘の中腹のさらに上にある円錐形の墓石は、金剛院の元僧侶の墓です。

【タイトル】 龍御前神社

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**龙御前神社**

龙御前神社是温泉津町的主要神社，供奉的神明均与这座市镇两大繁荣之源——海洋与温泉有关。自古以来，本地人就会来这里祈求好运、出海平安，以及泡汤后的健康效果。虽然神社直到1532年才正式建立，但之前这里就已然是一处祭祀场所。最初，人们崇拜的对象是一块悬崖边的岩石，形似一条咆哮的巨龙，龙头向前探出，正位于神社小本殿（正殿）上方。远古时期，常有石头、树木和各种其他自然造物被尊为神明的载体，受到祭拜，将神明请入建筑物里供奉是后来才流行起来的形式。山崖脚下的拜殿出奇宽大，为的是在这里表演敬献给神明的舞蹈——神乐。石见神乐至今仍是广泛流传于本地区的传统民俗表演形式。每周六晚，龙御前神社的拜殿里都会上演这种祭祀舞蹈，届时，来访者还有机会看到殿中展示的绘有船舶及其他海洋元素图案的“绘马”（日本神社或寺院中绘有马等图案、用于许愿的小木牌）。

<繁体字>**龍御前神社**

龍御前神社是溫泉津町的主要神社，供奉與溫泉津町的兩大繁榮之源——即海洋與溫泉相關的神。自古以來，本地民眾來此祈求好運、出海平安，以及追求泡湯後對身體帶來的健康效果。儘管神社的建築直到1532年才出現，但在此之前這裡就已然是一處祭祀場所。最初，本地民眾崇拜的物件是一塊形似咆哮巨龍的岩石，龍頭自懸崖探出，正位於神社小本殿（正殿）上方。遠古時期，常有石頭、樹木和各種其他自然造物被尊為神明的載體，受到祭拜，將神明請入建築物裡供奉則是較近代才流行起來的形式。山崖腳下的拜殿出奇寬大，其目的是為了在此表演敬獻給神明的舞蹈——神樂。石見神樂至今仍是廣泛流傳於本地的傳統民俗表演形式。每週六晚上，龍御前神社的拜殿都會上演這種祭祀舞蹈，屆時，遊客還有機會看到殿中展示的繪有船舶及其他海洋元素圖案的「繪馬」（日本神社或寺院中繪有馬等圖案、用於許願的小木牌）。

<日本語仮訳>**龍御前神社**

龍御前神社は温泉津町を代表する神社であり、海と温泉という町の二大繁栄の源にゆかりのある神々を祀っています。地元の人たちは、古くから海の安全と幸運を祈願し、そして入浴の健康効果を祈願しに訪れています。神社が正式に創建されたのは 1532 年ですが、実際は、それよりずっと以前から崇拜の場として利用されてきました。崇敬の対象である咆哮する龍を想起させるという巨岩が、小さな本殿のすぐ上の崖から突き出ているのを見ることができます。遠い古代では、岩や木などの自然の造詣が神の住処として崇拜されることが多く、建物の中に神を祀るという考え方が広まったのは後の時代になってからでした。崖のふもとにある拝殿が非常に大きいのは、神々に奉納する神楽を舞うために設計されたものであるためです。石見神楽は、今も地域で親しまれている民俗芸能です。毎週土曜日の夕方には、拝殿で儀式の舞いが演じられ、その際には拝殿内に展示されている船や海にまつわるものをモチーフにした「絵馬」（日本の社寺に祈願の目的で奉納する馬などの絵が描かれた木製の板）を見ることができます。

【タイトル】 温泉津港

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**温泉津港**

温泉津町面对一个小海湾，海湾水深约 20 米，将日本海的恶浪与酷烈的北风阻挡在外。坐拥自然环境之利，这个小镇在日本中世纪（12-16 世纪）时成为了本地区的海上贸易中心，为 16 世纪下半叶进入鼎盛时期奠定了基础。当时，身为一方武将的毛利家族在海湾边修建港口和海岸防御工事，将温泉津打造成了掌握石见银山矿山及周边地区的基地。毛利的计划很成功，温泉津很快繁荣起来，它不仅是石见银山的主要货运港口，也是连接中国、朝鲜半岛和其他遥远地区的远洋贸易枢纽港。

江户时代(1603-1867)，温泉津町成为北前船航线的停靠港，越发繁荣。北前船沿日本海海岸线航行，往来于北海道和濑户内海的商业都会大坂（今大阪）之间。船运贸易吸引了本地几大家族投身航运业，并从中积累起了可观的财富。然而，随着 1918 年铁路开通，本地火车站投入运营，这座港口褪去了繁荣光环，如今就是一座普通的渔港。虽然昔日的昌盛难觅踪影，然而小城外的海湾风光数百年来却几乎不曾改变。

<繁体字>**溫泉津港**

溫泉津町面對一個水深約 20 公尺的小海灣，將日本海的惡浪與酷烈的北風阻擋在外。因其坐擁自然環境之利，溫泉津在中世紀（12-16 世紀）時成為了本地的海上貿易中心，奠定了 16 世紀下半葉進入鼎盛時期的基礎。當時，身為一方武將的毛利家在海灣邊修建港口和海岸防禦工事，將溫泉津打造為掌握石見銀山礦山及周邊地區的基地。由於這個計劃相當成功，溫泉津逐漸繁榮起來，它既是石見銀山的主要貨運港口，又是連接中國、朝鮮半島和其他遙遠地區的遠洋貿易樞紐港。

在江戶時代（1603-1867），溫泉津町成為北前船航線的停靠港，益發繁榮。北前船沿日本海海岸線航行，往來於北海道和瀨戶內海的商業都會大坂（今大阪）之間。船運貿易吸引了本地大家族投身航運業，並從中積累起了可觀的財富。然而，隨著 1918 年鐵路開通，本地火車站正式開始營運，這座港口褪去了昔日的光環，如今就是一座平凡的漁港。雖然昔日的繁華難覓影蹤，然而小城外的海灣風光數百年來卻幾乎不曾改變。

<日本語仮訳>

温泉津港

温泉津町は、日本海の猛烈な波と強烈な北風から守る入り江に面しています。水深約 20m の入江は、自然の地形に恵まれ、中世（12 世紀～16 世紀）には地域の海上交易の中心地となり、1500 年代後半には温泉津は最大の繁栄期を迎えます。それは戦国武将の毛利家が、温泉津を石見銀山とその周辺地域を掌握する拠点とするために、入江に港と海岸の要塞を築いた時期と重なります。毛利の目論見は当たり、温泉津はすぐに銀鉱山の主要港として、また中国や朝鮮半島、その他遠方の国との交易の中心地として栄えました。

江戸時代（1603-1867）には、日本海沿岸の北前船航路の結節点となり、北海道と瀬戸内海の商都大坂（現在の大阪）を結び、さらに繁栄を極めました。北前船貿易は、地元の一族が海運業に参入し、財を蓄えるきっかけとなりました。1918 年に鉄道が開通すると、港の繁栄は衰退し、現在は主に漁港として利用されています。かつての繁栄を示すものはほとんど残っていませんが、湾を挟んだ町の端からの眺めは、何世紀にもわたってほとんど変わっていません。

【タイトル】 辻が花染丁字文道服

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

辻が花染丁字文道服

“道服”是日本传统和服的外套。在 16、17 世纪，富裕强大的领主常常将华丽的道服赐给下属，以示犒赏。这里展出的便是其中一例。这件辻が花染丁字文道服（辻，音同“十”）由黄色丝绸制成，内衬棉布，饰以三道平行的锯齿边红色扎染横条。红色横条内，白底黄绿色的六角四瓣菱形花与桔梗花图案交替出现。黄色部分装饰着紫、白、黄三色大朵丁香纹样。这件衣服的“辻が花染”技术代表了当时手工艺的最高水准，此外，大量丝绸及彩色染料的使用也显示出它价值不菲。

这件道服是德川幕府(1603-1867)创立者德川家康(1543-1616)赏赐给安原传兵卫的礼物。安原传兵卫在石见银山经营一条矿道，仅 1603 年一年内，就为幕府开采出了惊人的 13.5 吨白银。因贡献巨大，他有幸得到了幕府将军的亲自接见，并获得了将军赐予的这件道服。由此可见，银矿对于统治阶层的意义重大，当时幕府的财政直接依赖于石见银山和辖下其他矿区的贵金属产量。这里展出的是道服的复制品，原件已被指定为国家重要文化财产，收藏于京都国立博物馆。

<繁体字>

辻が花染丁字文道服

「道服」是日本傳統和服的外套。在 16、17 世紀，位高權重的領主常常將華麗的道服賜給下屬，以示犒賞。這裡展出的便是其中一例。這件辻が花染丁字文道服（辻，音同「十」）由黃色絲綢製成，內襯棉布，飾以三道平行的鋸齒邊紅色紮染橫條。紅色橫條內，白底黃綠色的六角四瓣菱形花與桔梗花圖案交替出現。黃色部分裝飾著紫、白、黃三色大朵丁香紋樣。此件道服的「辻が花染」技術代表了當時工藝技術的巔峰，此外，大量絲綢及彩色染料的使用更顯出它價值不菲。

這件道服是德川幕府（1603-1867）創立者德川家康（1543-1616）對安原傳兵衛的賞賜。當時，安原傳兵衛在石見銀山經營礦業。1603 年僅一年內，他就為幕府開採出了驚人的 13.5 噸白銀。因貢獻巨大，他有幸得到了幕府將軍的親自接見，並獲得了將軍賜予的這件辻が花染丁字文道服。由此可見，銀礦對於統治階層的意義重大，當時幕府的財政直接依賴於石見銀山和轄下其他礦區的貴金屬產量。這裡展出的是道服的複製品，原件已被指定為國家重要文化財產，收藏於京都國立博物館。

<日本語仮訳>

辻が花染丁字文道服

道服とは、日本伝統的な着物の上に羽織るアウターのこと。16 世紀から 17 世紀にかけて、ここに展示されているような装飾的な道服は、裕福で影響力のある領主から配下に、彼らの奉仕に対する感謝のしるしとしてしばしば贈られました。この辻が花染丁字文道服は、黄色の絹地に木綿の裏地を施し、絞り染めの赤の横線 3 本に鋸歯状の縁取りをあしらっています。赤い線の中で、どちらも白地に黄緑色の六角四弁菱形花の文様が桔梗文様と交互に施されています。黄色の部分には、紫、白、黄色の色合いの大きなクローブ（丁字）の文様が施されています。染色技術は当時の職人技の最高峰であり、絹や染料をふんだんに使用していることから、相当な費用をかけて制作されたことがうかがえます。

この道服は、徳川幕府（1603-1867）の創立者である徳川家康（1543-1616）が、安原伝兵衛という名の鉱山経営者へ贈ったものです。1603 年、石見銀山の安原の坑道から 13.5 トンの銀が産出され、幕府に献上されました。その貢献が大きかったために将軍が謁見し、その際にこの道服が贈られました。この道服は、石見銀山をはじめとする各地の鉱山の貴金属生産量に直接財政が左右されていた政権にとっての、銀鉱山の重要性を思い起こさせてくれます。ここに展示されている道服は複製で、現物は国の重要文化財に指定されており、京都国立博物館が所蔵しています。

【タイトル】 岡家住宅

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

岡家族住宅

岡家族住宅是一处保存完好的武士住宅，在江户时代(1603-1867)，这里是大森“代官”手下中级官员的宅邸，当时的大森代官代表幕府监管银矿事务。

泽井家族和鹿野家族的家主都曾先后入住这处宅邸，他们都在“代官所”（幕府在地方的代表处）负责看管在石见银山开采、提炼出的白银，确保它们在送往江户（今东京）幕府国库前安全无失。这个岗位责任重大，报酬也很丰厚，因此能在稍偏离大森主街、但离代官所不远处建造一座宽敞的宅邸。

“冈家族住宅”之名取自它在 1974 年被指定为国家史迹时的主人的姓氏。整套宅邸包括主屋、前庭、两个出入口（大的一个只为贵宾开放）、洗浴设施齐全的独立小屋、一个防火仓库和一个简易棚屋。冈家族住宅目前不开放参观。

<繁体字>

岡家住宅

岡家住宅是一處保存完好的武士住宅，在江戶時代（1603-1867），這裡是大森「代官」手下中級官員的宅邸。「代官」是指當時代表幕府監管銀礦事務的地方最高行政長官。

澤井家和鹿野家的家主曾先後入住這處宅邸，他們都在「代官所」（幕府在地方的代表處）負責管理銀山開採提炼出的白銀，確保這些白銀在送入位於江戶（今東京）的幕府國庫前安全無恙。由於這個職位責任重大，俸祿也相當豐厚，因此能在稍稍偏離大森主街、卻離代官所不遠的黃金地段建造一座寬敞的宅邸。

「岡家住宅」之名取自 1974 年被指定為國家史跡時的當時屋主的姓氏。整套宅邸包括主屋、前庭、兩個出入口（大的出入口僅為貴賓開放）、入浴設施齊全的獨立小屋、一個防火倉庫和一個簡易棚屋。岡家住宅目前不開放參觀。

<日本語仮訳>

岡家住宅

岡家住宅は、江戸時代（1603-1867）に銀鉱山を統括する幕府の代表である大森代官の下で奉仕する中級役人が住んでいた、保存状態の良い武家屋敷です。

この家に住んでいた沢井家と鹿野家の当主は、石見銀山で採掘・精製された銀が江戸（現在の東京）の政府蔵に出荷されるまで保管する役人職を歴代務めました。その責任の重さを十分に補うように、大森の大通りからは少し離れていますが、「代官所」（地方における幕府の出先機関）からそれほど遠くない場所に広い屋敷を建てることができました。

1974年に史跡に指定された際の所有者の名を冠したこの住宅は、母屋、前庭、2つの出入口（大きい方は要人が訪れた時のみ開放）、入浴施設を備えた小さな離れ、耐火構造の蔵、小屋で構成されています。岡家住宅は一般公開されていません。

【タイトル】 榮泉寺

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**榮泉寺**

榮泉寺是一座曹洞宗禪寺，位於緊鄰大森町主街西側的一座山坡上，可俯瞰中心城區。寺院初建於1596年，根據本地流傳甚廣的傳說，它曾經庇佑石見銀山免於一場大災。1732年，蟲害席卷整個日本西部，饑荒蔓延。當時，德川幕府(1603-1867)派駐石見銀山的“代官”（地方最高行政長官）名叫井戶平左衛門(1672-1733)，他當機立斷，不等上級批复便決定開倉放糧接濟百姓，更下令免除轄區內居民的賦稅——當時賦稅均以糧米形式繳納。而井戶平左衛門最大的作為是引進了一種新的糧食作物，他接受一名行腳僧的建議，在轄區內全面推廣紅薯種植。相傳石見銀山最終因以上種種措施而得救，大災之下無一人死於飢餓。他的政績也因此備受讚頌，廣為流傳。

相傳，那位行腳僧正是在榮泉寺將紅薯推薦給了井戶平左衛門。只是這座古寺也沒能逃過1800年那場幾乎燒毀整個大森町的火災。7年後，寺院本堂（正殿）得以重建，到1853年，又新增了一座高大的山門。不料這座山門卻引發了“代官所”（幕府在地方的代表處）內的爭議，有人認為，它和前幕府將軍德川家光(1604-1651)在栃木縣日光的陵寢大門過於相似，榮泉寺因此被下令拆除山門。但由於寺院住持當時正好外出不在寺院，命令無法得到及時執行而拖延了下來，直至1867年德川幕府倒台。如今，山門依然矗立在寺院的入口處。

<繁体字>**榮泉寺**

榮泉寺是一座曹洞宗禪寺，位於緊鄰大森町主街西側的一座山坡上，可俯瞰中心城區。寺院初建於1596年，根據本地流傳甚廣的傳說，榮泉寺曾經庇佑石見銀山免於一場大災。1732年，蟲害席卷整個日本西部，饑荒蔓延。當時，德川幕府（1603-1867）派駐石見銀山的「代官」（地方最高行政長官）井戶平左衛門（1672-1733）當機立斷，不等上級指示便決定開倉放糧，接濟百姓，更下令免除轄區內居民的賦稅（當時賦稅以糧米繳納）。而井戶平左衛門最大的貢獻是接受行腳僧的建議，引進新的糧食作物「番薯」，並在全區推廣種植。相傳石見銀山因以上種種措施而免於災禍，大災之下無一人因饑餓死亡，他的政績也因此備受讚頌，廣為流傳。

相傳井戸平左衛門正是在榮泉寺內接受了行脚僧的建議。然而這座古寺不幸未能逃過1800年幾乎燒毀整個大森町的火災。7年後，寺院本堂（正殿）得以重建，到1853年，又新增了一座高大的山門。不料這座山門卻引發了「代官所」（幕府在地方的代表處）內部的爭議，反對者認為，山門和前幕府將軍德川家光（1604-1651）在栃木縣日光の陵寢大門過於相似，榮泉寺山門因此被下令拆除。但由於寺院住持當時正好雲遊在外，無法及時執行官府的命令，山門因此暫免被拆除的命運，直至1867年德川幕府倒台。如今，山門依然矗立在寺院的入口處。

<日本語仮訳>

栄泉寺

曹洞宗の禅寺である栄泉寺は、大森町の大通りのすぐ西に位置する丘の中腹から大森町の中心部を見下ろしています。栄泉寺は1596年に建立され、1732年に石見銀山を災害から救ったという地元で有名な伝説が残っています。その年、害虫が西日本各地の農作物を荒廃させ、広範囲にわたり大飢饉を引き起こしました。石見銀山で徳川幕府（1603-1867）を代表していた「代官」（地方行政最高責任者）の井戸平左衛門（1672-1733）は、上官の許可を待たずに彼が自由に使える備蓄米で民衆を救うことにしました。彼はまた、米で納めることになっていた地元の村からの税金の支払いを免除しました。しかし、彼の最大の功績は代替作物を導入したことでした。旅の僧侶が井戸にサツマイモを紹介したところ、代官はサツマイモを自分の管理下の土地全体に植えました。伝説では、井戸の施策で石見銀山では餓死者を一人も出さずにすみ、彼のリーダーシップは広く賞賛されたといわれています。

僧侶が井戸にサツマイモの話を変えたと言われる栄泉寺は、1800年に大森の大部分が焼失した火事で全焼しました。本堂は7年後に再建され、1853年には壮大な山門が建立されました。この山門の構造が、栃木県・日光の将軍徳川家光（1604-1651）の霊廟の門に似ているとの意見があり、「代官所」（地方における幕府の出先機関）で論争を引き起こしました。栄泉寺は門を解体しよう命じられましたが、当時住職が不在であったためすぐには執行できませんでした。そうこうする内に、1867年に徳川幕府が倒れ、現在も山門は寺院の入り口に立っています。

【タイトル】 石見神楽

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

石见神乐

神乐将传统舞蹈与表演融为一体，自古传承至今。它被认为是日本最古老的舞台表演艺术形式，随本土宗教神道教及其众神信仰一同传遍日本。神乐服饰鲜艳，面具表情夸张。根据传统，多在秋收前后演出，旨在感谢众神赐予丰收。数世纪以来，许多地区都保留着自己独特的神乐形式和传说故事。

石见历来是日本神乐最盛行的地区之一，石见神乐也已被登录为日本遗产。石见地区至今仍活跃着 130 余家神乐表演团队，其中许多团体全年都有演出。石见神乐的核心依然是祭祀仪式，但它同时也是一种娱乐性表演，以轻快节奏的音乐和舞步、精美的舞台道具，以及家喻户晓的简短剧情为特色，通常以讲述神明、恶魔和民间故事为主。其中，最受欢迎的剧目是《大蛇》，讲述的是岚之神（风暴之神）须佐之男命大战八头大蛇的故事。另一部经典剧目《尘轮》的主角则是半神话历史中的仲哀天皇，讲述他手持弓箭守护日本，击退一对生有双翼的恶魔的故事。

石见神乐于每周六晚在温泉津的龙御前神社上演。

<繁体字>

石見神樂

自古傳承至今的神樂將傳統舞蹈與表演融為一體，被認為是日本最古老的舞台表演藝術形式，它隨本土宗教神道教及其眾神信仰一起傳遍日本。神樂服飾鮮豔，面具表情誇張。根據傳統，多在秋收前後演出，旨在感謝眾神賜予豐收。數世紀以來，許多地區都保留著自己獨特的神樂形式和傳說故事。

石見歷來是日本神樂最盛行的地區之一，石見神樂也已被登錄為日本遺產。石見地區至今仍有 130 餘家神樂表演團隊，其中許多團體全年都有演出。儘管石見神樂的核心是祭祀儀式，但它同時也是一種娛樂性表演，以輕快節奏的音樂和舞步、精美的舞台道具，以及膾炙人口的簡短劇情為特色，通常以講述神明、惡魔和民間故事為主。其中，最受歡迎的劇碼是《大蛇》，講述的是嵐之神（風暴之神）須佐之男命大戰八頭大蛇的故事。另一部經典劇碼《塵輪》的主角則是半神話歷史中的仲哀天皇，講述他手持弓箭守護日本，擊退一對生有雙翼惡魔的故事。

石見神樂於每週六晚上在溫泉津的龍御前神社上演。

<日本語仮訳>

石見神楽

神楽は、今日まで受け継がれてきた古代の伝統の中で、パフォーマンスと踊りを融合させたものです。日本最古の舞台芸術であるとされ、土着の神道に登場する無数の神々への信仰とともに日本中に広まりました。鮮やかな衣装と表情豊かな面が特徴の神楽は、伝統的に秋の収穫の前後に行われ、豊作を神に感謝するために行われてきました。地域によって、神楽の様式や、何世紀にもわたって語り継がれてきた物語が残っています。

石見は古くから、日本でも有数の神楽が盛んな地域です。石見神楽は、日本遺産にも登録されています。この地域には、130 を超える活発な劇団があり、その多くは年間を通じて公演を行っています。石見神楽は、儀式の本質を残しながらも、テンポの速い音楽や踊り、凝った小道具、神や悪魔、そして民話を簡略化した物語が特徴で、エンターテインメントの一形態でもあります。代表的なものには、嵐の神須佐之男命が八頭蛇と戦う「大蛇」や、半神話の仲哀天皇が弓矢を使って一对の翼のある鬼から日本を守った「塵輪」などがあります。

石見神楽は、毎週土曜日の夜、温泉津の龍御前神社で上演されます。

【タイトル】 石見銀山を巡る戦い

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

石见银山争夺战

石见银山的矿产资源于 1527 年被发现，当时正值日本历史上的大动荡时期——战国时代(1467-1568)，各地武将势力合纵连横，纷争不休。以周防国（今山口县；“国”为日本古代行政区划，并非国家）南部地区为大本营的大内家族最早掌控矿山，随后很快在当地各处修造了一系列城防要塞和军事防御工事，以防备敌对势力的来犯，保护这座财富之山。区域内防御工事总计十几处，包括矿山最重要的要塞山吹城、扼守连接矿山与温泉津港之间道路的双子城——矢泷城和矢筈城（筈，音同“括”）、居高临下守护通往西北方海岸小镇仁摩町要道的石见城。在 16 世纪 30 年代至 40 年代间，这些要塞先后爆发多场恶战，本地武家势力小笠原家族和尼子家族频频来犯，皆被大内家族击退。

进入 16 世纪 50 年代后，随着来自安芸国（今广岛县）的强大武家毛利家族开始向北扩张势力，大内家族渐渐失去了对石见银山的掌控力。1562 年，武将毛利元就(1497-1571)率军夺取并巩固了对石见银山地区的管控。之后，继续在冲泊港外修建海军基地，以保卫该港口的白银运输航线以及通往不远处温泉津港的货运干道。毛利家族掌控银山地区近 40 年，直到 1600 年毛利军及其同盟在关原之战中败给德川军。毛利家族就此退守本州岛西端的长州地区，德川家族接掌石见银山，终结了多年来围绕此地爆发的争夺战。在德川家康(1543-1616)的率领下，德川家族继续征战全国，将各地尽皆纳入麾下，最终在 1603 年统一日本，创建德川幕府政权，从此统治日本直至 1867 年。

<繁体字>

石見銀山爭奪戰

1527 年發現石見銀山的礦產資源時，日本正處在本國歷史上的動盪時期——戰國時代（1467-1568），各地武將勢力合縱連橫，紛爭不休。以周防國（今山口縣；「國」為日本古代行政區劃，並非今日所指稱的國家）南部地區為根據地的大內家最早掌控礦山，隨後便在當地各處修造了一系列的要塞和軍事防禦工事，以遏阻敵對勢力的進犯，保護這座財富之山。區域內軍事重地總計十餘處，包括礦山最重要的要塞山吹城、據守連接礦山與溫泉津港往來道路的雙子城——矢瀧城和矢筈城（筈，音同「括」），以及居高臨下守護通往西北方海岸小鎮仁摩町要道的石見城。在 1530 年代至 1540 年代間，這些要塞先後爆發多場惡戰，本地武家勢力小笠原家和尼子家頻頻來犯，皆被大內家一一擊退。

進入 1550 年代後、隨著來自安芸國（今廣島縣）的強大武家毛利家開始向北擴張勢力，大內家漸漸失去了對石見銀山的掌控力。1562 年，武將毛利元就（1497-1571）率軍奪取並鞏固了對石見銀山地區的掌控，接著就在沖泊港外修建海軍基地，以保衛該港口的白銀運輸航線以及通往溫泉津港的貨運幹道。毛利家掌控銀山地區近 40 年，直到 1600 年毛利軍及其同盟在關原之戰中敗給德川軍。毛利家就此退守本州西端的長州地區，德川家接掌石見銀山，終結了多年來圍繞此地爆發的爭奪戰。在德川家康（1543-1616）的率領下，德川家及其盟友繼續征戰全國，將各地盡皆納入麾下，最終在 1603 年統一日本，創建德川幕府政權，從此統治日本直至 1867 年。

<日本語仮訳>

石見銀山を巡る戦い

石見銀山が発見された 1527 年の日本は大混乱の時代でした。この戦国時代（1467-1568）は、地方の武将たちが同盟や対立を絶え間なく繰り返す動乱の時代でした。周防国（現在の山口県、古代日本の行政区画、現在の「国」と異なる）南部に本拠を置く大内家が最初に鉱山の支配権を握ります。その直後、大内氏は各地に城などの要塞を次々と築き、敵対勢力から富の山を守りました。こうした要塞は、鉱山の主要要塞である山吹城、鉱山と温泉津港の間の道路を守っていた矢滝と矢筈の双子の砦、北西の海岸町仁摩への要路を見下ろす石見城など、十数カ所ありました。これらの拠点は 1530 年代から 1540 年代にかけて多くの激しい戦いの舞台となり、大内氏は侵攻を繰り返す地元の小笠原家や尼子家を撃退しました。

石見銀山に対する大内家の支配は、1550 年代に安芸国（現在の広島県）の強力な毛利家とその影響力を北に広げたときに崩れ始めました。1562 年には毛利元就（1497-1571）率いる軍勢がこの地を完全に支配し、さらに要塞化を進め、沖泊港からの銀の輸送と近くの温泉津への補給路を守るために沖泊港の外に水軍基地を設置しました。1600 年の関ヶ原の戦いで徳川家に敗れるまで、毛利家はほぼ 40 年間銀山を支配していました。その後、毛利家は本州西端の長州に封じ込められ、石見銀山は徳川氏に占領され、銀山をめぐる戦いは終焉を迎えました。その後、徳川家康（1543-1616）はその旗のもとに天下統一を目指し、1603 年には徳川幕府を樹立し、1867 年まで日本を統治しました。